2025年度
他学部公開科目
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2025/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈Ｓ〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A0046】親族法［和田　幹彦］春学期授業/Spring …… 1
【A0047】相続法［和田　幹彦］秋学期授業/Fall …… 3
【A0048】消費者法Ⅰ［大澤　彩］春学期授業/Spring …… 5
【A0049】消費者法Ⅱ［大澤　彩］秋学期授業/Fall …… 7
【A0065】経済法Ⅰ［青柳　由香］春学期授業/Spring …… 8
【A0066】経済法Ⅱ［渡邉　昭成］秋学期授業/Fall …… 10
【A0090】労働法総論・労働契約法［藤木　貴史］春学期授業/Spring …… 12
【A0091】労働基準法［藤木　貴史］秋学期授業/Fall …… 14
【A0092】労働法総論・労働契約法［沼田　雅之］春学期授業/Spring …… 16
【A0093】労働基準法［沼田　雅之］秋学期授業/Fall …… 18
【A0100】教育法Ⅰ［村元　宏行］春学期授業/Spring …… 20
【A0101】教育法Ⅱ［村元　宏行］春学期授業/Spring …… 21
【A0114】法哲学Ⅰ［大野　達司］春学期授業/Spring …… 22
【A0115】法哲学Ⅱ［大野　達司］秋学期授業/Fall …… 23
【A0132】法と遺伝学Ⅰ［和田　幹彦］春学期授業/Spring …… 24
【A0133】法と遺伝学Ⅱ［和田　幹彦］秋学期授業/Fall …… 27
【A0136】法律学特講（日本レコード協会寄付講座）エンタメ産業と法［武生　昌士］秋学期授業/Fall …… 30
【A0249】ジェンダー論Ⅰ［中野　洋恵］春学期授業/Spring …… 31
【A0250】ジェンダー論Ⅱ［梅垣　千尋］秋学期授業/Fall …… 33
【A0276】福祉政策Ⅱ［荒木　千晴］春学期授業/Spring …… 34
【A0354】外国書講読（独語）Ⅰ［上田　知夫］春学期授業/Spring …… 35
【A0355】外国書講読（独語）Ⅱ［上田　知夫］秋学期授業/Fall …… 36
【A0434】ロシア政治史Ⅰ［油本　真理］春学期授業/Spring …… 37
【A0435】ロシア政治史Ⅱ［油本　真理］秋学期授業/Fall …… 38
【A0522】コミュニティ政策（日本）［名和田　是彦］春学期授業/Spring …… 39
【A0523】コミュニティ政策（理論・国際比較）［名和田　是彦］秋学期授業/Fall …… 41
【A0644】外交総合講座［本多　美樹］秋学期授業/Fall …… 43
【A0664】グローバル・ガバナンス［本多　美樹］春学期授業/Spring …… 44
【A0717】国際協力論Ⅰ［志賀　裕朗］春学期授業/Spring …… 46
【A0718】国際協力論Ⅱ［志賀　裕朗］秋学期授業/Fall …… 48
【A0733】平和・軍事研究Ⅱ［権　鎬淵］秋学期授業/Fall …… 50
【A0736】オセアニアの政治と社会Ⅰ［今泉　裕美子］春学期授業/Spring …… 51
【A0737】オセアニアの政治と社会Ⅱ［今泉　裕美子］秋学期授業/Fall …… 53
【A0771】朝鮮半島の政治と社会Ⅰ［権　鎬淵］春学期授業/Spring …… 55
【A0772】朝鮮半島の政治と社会Ⅱ［権　鎬淵］秋学期授業/Fall …… 56
【A0777】平和・軍事研究Ⅰ［権　鎬淵］春学期授業/Spring …… 57
【A0838】外国書講読（仏語）Ⅰ［近江屋　志穂］春学期授業/Spring …… 58
【A0839】外国書講読（仏語）Ⅱ［近江屋　志穂］秋学期授業/Fall …… 59
【A0846】日本の政治と社会Ⅰ［塚本　英樹］秋学期授業/Fall …… 60
【A0898】アメリカ政治史Ⅰ［中野　勝郎］春学期授業/Spring …… 61
【A0899】アメリカ政治史Ⅱ［中野　勝郎］秋学期授業/Fall …… 62
【A0900】協同組合論［杉崎　和久、上山　紀子、小林　幸治］秋学期授業/Fall …… 63
【A0919】政治学特殊講義Ⅰ（近代日本における〈道徳〉と〈政治〉）［金子　元］春学期授業/Spring …… 65
【A0920】政治学特殊講義Ⅱ（近代日本における〈道徳〉と〈政治〉）［金子　元］秋学期授業/Fall …… 66

【A2245】現代思想２（フランスの思想）１［大池　惣太郎］春学期授業/Spring 67
【A2246】現代思想２（フランスの思想）２［大池　惣太郎］秋学期授業/Fall 68
【A2251】宗教学１（伝統宗教）１［松本　力］春学期授業/Spring 69
【A2252】宗教学１（伝統宗教）２［松本　力］秋学期授業/Fall 70
【A2260】日本思想史１［山本　伸裕］春学期授業/Spring 71
【A2268】ラテン語１［金子　佳司］春学期授業/Spring 72
【A2269】ラテン語２［金子　佳司］秋学期授業/Fall 73
【A2270】ギリシア語１［白根　裕里枝］春学期授業/Spring 74
【A2271】ギリシア語２［白根　裕里枝］秋学期授業/Fall 75
【A2553】日本文芸批評史A［伊東　祐吏］春学期授業/Spring 76
【A2555】日本文芸批評史B［伊東　祐吏］秋学期授業/Fall 77
【A2561】中国文芸史A［遠藤　星希］春学期授業/Spring 78
【A2563】中国文芸史B［遠藤　星希］秋学期授業/Fall 79
【A2665】日本文芸研究特講（３）中世A［阿部　真弓］春学期授業/Spring 80
【A2666】日本文芸研究特講（３）中世Ｂ［阿部　真弓］秋学期授業/Fall 81
【A2669】日本文芸研究特講（４）近世Ａ［小林　ふみ子］春学期授業/Spring 82
【A2670】日本文芸研究特講（４）近世Ｂ［齊藤　千恵］秋学期授業/Fall 83
【A2703】日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ａ［スティーヴン ネルソン］春学期授業/Spring 84
【A2704】日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ｂ［スティーヴン ネルソン］秋学期授業/Fall 85
【A2804】英語学概論Ａ［椎名　美智］春学期授業/Spring 86
【A2805】英語学概論Ｂ［福元　広二］秋学期授業/Fall 87
【A2806】言語学概論Ａ［石川　潔］春学期授業/Spring 88
【A2807】言語学概論Ｂ［石井　創］秋学期授業/Fall 89
【A2808】英語・言語学講義Ａ［椎名　美智］秋学期授業/Fall 91
【A2809】英語・言語学講義Ｂ［石川　潔］秋学期授業/Fall 92
【A2810】社会言語学［椎名　美智］春学期授業/Spring 93
【A2811】応用言語学［川﨑　貴子］秋学期授業/Fall 94
【A2824】比較文学Ａ［柳橋　大輔］春学期授業/Spring 95
【A2825】比較文学Ｂ［柳橋　大輔］秋学期授業/Fall 96
【A2905】米文学史Ａ［宮川　雅］春学期授業/Spring 97
【A2906】米文学史Ｂ［宮川　雅］秋学期授業/Fall 98
【A2907】英米文学講義ＩＡ［波戸岡　景太］春学期授業/Spring 99
【A2908】英米文学講義ＩＢ［波戸岡　景太］秋学期授業/Fall 100
【A2909】英米文学講義ⅡＡ［小澤　央］春学期授業/Spring 101
【A2910】英米文学講義ⅡＢ［田中　裕希］秋学期授業/Fall 102
【A2911】英語学講義Ａ［福元　広二］春学期授業/Spring 103
【A2912】英語学講義Ｂ［福元　広二］秋学期授業/Fall 104
【A2913】言語学講義ＩＡ［石川　潔］春学期授業/Spring 105
【A2914】言語学講義ＩＢ［石川　潔］秋学期授業/Fall 106
【A2915】言語学講義ⅡＡ［伊藤　達也］春学期授業/Spring 107
【A2916】言語学講義ⅡＢ［伊藤　達也］秋学期授業/Fall 108
【A2981】比較文化論（１）［波戸岡　景太］秋学期授業/Fall 109
【A2982】英米文化概論A［田中　裕希］春学期授業/Spring 110
【A2983】英米文化概論B［田中　裕希］秋学期授業/Fall 111
【A3113】日本考古学［高橋　健］秋学期授業/Fall 112
【A3116】日本近世史［大橋　幸泰］秋学期授業/Fall 113
【A3152】考古学概論［高橋　健］春学期授業/Spring 114
【A3157】日本史特講Ⅳ［中山　学］秋学期授業/Fall 115
【A3164】東洋史特講Ⅲ［芦沢　知絵］秋学期授業/Fall 116
【A3171】西洋史特講Ⅳ［皆川　卓］春学期授業/Spring 117
【A3172】西洋史特講Ⅴ［皆川　卓］秋学期授業/Fall 119
【A3208】東洋近現代史［芦沢　知絵］春学期授業/Spring 121
【A3214】東洋史序説［山元　貴尚］春学期授業/Spring 122
【A3215】西洋史序説［阿部　衛］春学期授業/Spring 123
【A3216】日本史特講XI［小倉　慈司］秋学期授業/Fall 124
【A3217】東洋史特講Ⅶ［徳留　大輔］春学期授業/Spring 125
【A3218】東洋史特講Ⅷ［松本　隆志］春学期授業/Spring 127

【A3219】西洋史特講Ⅸ ［吉岡　潤］秋学期授業/Fall 128
【A3226】日本史序説［齋藤　智志］春学期授業/Spring 129
【A3227】歴史特講［柏木　一朗、塩沢　裕仁、内田　康太、皆川　卓、高井　康行］秋学期授業/Fall 130
【A3417】自然環境論［福與　直人］春学期授業/Spring 131
【A3482】文化地理学（１）［吉野　裕］春学期授業/Spring 132
【A3483】文化地理学（２）［川添　航］秋学期授業/Fall 133
【A3809】民俗学Ⅰ ［室井　康成］春学期授業/Spring 134
【A3810】民俗学Ⅱ ［室井　康成］秋学期授業/Fall 135
【A3811】イスラム世界論Ⅰ ［松本　隆志］春学期授業/Spring 136
【A3812】イスラム世界論Ⅱ ［松本　隆志］秋学期授業/Fall 137
【A3819】歴史地理学（１）［米家　志乃布］春学期授業/Spring 138
【A3820】歴史地理学（２）［米家　志乃布］秋学期授業/Fall 139
【A3905】社会経済地理学A（1）［小原　丈明］春学期授業/Spring 140
【A3906】社会経済地理学A（2）［小原　丈明］秋学期授業/Fall 141
【A3907】社会経済地理学B（1）［伊藤　達也］春学期授業/Spring 142
【A3908】社会経済地理学B（2）［伊藤　達也］秋学期授業/Fall 143
【A3909】社会経済地理学C（1）［佐々木　達］春学期授業/Spring 144
【A3910】社会経済地理学C（2）［佐々木　達］秋学期授業/Fall 145
経営学科専門科目300番台【A4393】組織経済学［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 146
【A4394】組織経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 147
市場経営学科専門科目200番台【A4465】日本経営論Ⅰ ［金　容度］春学期授業/Spring 148
市場経営学科専門科目200番台【A4466】日本経営論Ⅱ ［金　容度］秋学期授業/Fall 149
市場経営学科専門科目300番台【A4496】広告論［宮井　弘之］秋学期授業/Fall 150
【A7560】日本語コミュニケーションA［副島　健作］春学期授業/Spring 151
【A7561】日本語コミュニケーションB［副島　健作］秋学期授業/Fall 153
【A9026】スポーツメディア論［小池　隆俊］秋学期授業/Fall 155
【A9037】アスリートキャリア論［荒井　弘和］秋学期授業/Fall 157
【A9067】リーダーシップ論［浅井　玲子］春学期授業/Spring 158
【A9068】チームビルディング論［浅井　玲子］秋学期授業/Fall 160
【A9070】スポーツビジネス論［得田　進介］春学期授業/Spring 162
【A9220】アスリートキャリア論［片上　千恵］春学期授業/Spring 164
【A9221】スポーツメディア論［小池　隆俊］秋学期授業/Fall 166
【A9241】リーダーシップ論［浅井　玲子］春学期授業/Spring 168
【A9242】チームビルディング論［浅井　玲子］秋学期授業/Fall 170
【A9243】スポーツビジネス論［得田　進介］春学期授業/Spring 172
建築学科_基盤科目_総合系_情報分野【B1013】認知科学　建築・他学部公開［SEONG YOUNG AH］秋学期授業/Fall 174
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_情報分野【B1034】認知科学　ＳＤ［SEONG YOUNG AH］秋学期授業/Fall 175
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_情報分野【B1034】認知科学　都市［SEONG YOUNG AH］秋学期授業/Fall 176
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 177
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 179
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 181
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】エコノミクス［李　江南］秋学期授業/Fall 183
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】エコノミクス［李　江南］秋学期授業/Fall 185
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】エコノミクス［李　江南］秋学期授業/Fall .. 187
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】現代企業論［境　新一］春学期授業/Spring . 189
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】現代企業論［境　新一］春学期授業/Spring 191
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】現代企業論［境　新一］春学期授業/Spring 193
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 195
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) . 196
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 197
建築学科_専門科目_展開科目【B3011】建築フォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 198

都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3580】サステイナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half)…… 200
建築学科_専門科目_基礎科目【B3580】サステイナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half)…… 201
【B3580】サステナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half) …… 202
建築学科_専門科目_基礎科目【B3580】サステナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half) …… 203
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3580】サステイナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half)…… 204
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3580】サステナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half) 205
【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall …… 206
【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall …… 208
【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall …… 210
【B3590】アントレプレナーシップ［姜　理恵］秋学期前半/Fall(1st half) …… 212
【B3848】公共経営戦略［平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久］秋学期授業/Fall …… 214
【B3848】公共経営戦略［平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久］秋学期授業/Fall …… 215
【B3848】公共経営戦略［平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久］秋学期授業/Fall …… 216
【C0210】統計処理法［吉田　一星］春学期授業/Spring …… 218
【C0213】文化情報学概論［森村　修］春学期授業/Spring …… 219
【C0222】社会と美術［稲垣　立男］春学期授業/Spring …… 221
【C0231】言語文化概論［衣笠　正晃］秋学期授業/Fall …… 224
【C0232】現代思想［森村　修］秋学期授業/Fall…… 225
【C0242】国際文化協力［松本　悟］春学期授業/Spring …… 226
【C0243】平和学［松本　悟］秋学期授業/Fall …… 227
【C0244】宗教と社会［佐々木　一惠］春学期授業/Spring …… 228
【C0300】世界の言語Ⅰ［輿石　哲哉］春学期授業/Spring …… 230
【C0301】世界の言語Ⅱ［内山　政春］春学期授業/Spring …… 232
【C0432】メディア表現法［大嶋　良明］秋学期授業/Fall …… 233
【C0439】メディアアートの世界［大嶋　良明］春学期授業/Spring …… 235
【C0531】英語アプリケーションⅡ［Kregg Johnston］春学期授業/Spring …… 237
【C0532】英語アプリケーションⅢ［ウォルター カズマー］春学期授業/Spring …… 238
【C0533】英語アプリケーションⅣ［ウォルター カズマー］秋学期授業/Fall …… 240
【C0534】英語アプリケーションⅤ［ジョナサン　エイブル］春学期授業/Spring …… 242
【C0536】英語アプリケーションⅦ［ANDREW JONES］秋学期授業/Fall …… 244
【C0537】英語アプリケーションⅧ［DANIEL G DUSZA］秋学期授業/Fall …… 245
【C0539】英語アプリケーションⅩ［ラスカイル　L.ハウザー］秋学期授業/Fall…… 246
【C0595】ドイツ語アプリケーション［林　志津江］春学期授業/Spring…… 247
【C0596】ドイツ語アプリケーション［小川　敦］春学期授業/Spring …… 249
【C0597】ドイツ語アプリケーション［Schmidt Ute］秋学期授業/Fall …… 250
【C0598】ドイツ語アプリケーション［小川　敦］秋学期授業/Fall …… 251
【C0625】フランス語アプリケーション［ル ルー 清野　ブレンダン］春学期授業/Spring …… 252
【C0626】フランス語アプリケーション［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall…… 253
【C0627】フランス語アプリケーション［カレンス　フィリップ］春学期授業/Spring …… 254
【C0628】フランス語アプリケーション［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall…… 255
【C0655】ロシア語アプリケーション［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring …… 256
【C0656】ロシア語アプリケーション［佐藤　千登勢］秋学期授業/Fall…… 257
【C0657】ロシア語アプリケーション［エレーナ　三神］秋学期授業/Fall …… 258
【C0685】中国語アプリケーションⅠ［張　玉萍］秋学期授業/Fall…… 259
【C0686】中国語アプリケーションⅣ［鈴木　靖］秋学期授業/Fall…… 260
【C0687】中国語アプリケーションⅢ［周　重雷］春学期授業/Spring …… 261
【C0688】中国語アプリケーションⅡ［張　勝蘭］秋学期授業/Fall…… 262
【C0754】朝鮮語アプリケーション［李　蕙臣］春学期授業/Spring …… 263
【C0755】朝鮮語アプリケーション［梁　禮先］春学期授業/Spring …… 264
【C0756】朝鮮語アプリケーション［梁　禮先］秋学期授業/Fall…… 265
【C0757】朝鮮語アプリケーション［李　蕙臣］秋学期授業/Fall…… 266
【C0770】文化情報のデザインワークショップ［甲　洋介、松田　美奈子］秋学期授業/Fall…… 267

【C0771】文化情報のためのネットワーク技法［和泉　順子］春学期授業/Spring 268
【C0774】情報アプリケーションⅡ ［大嶋　良明］秋学期授業/Fall 269
【C0802】こころとからだの現象学［森村　修］春学期授業/Spring 270
【C0810】道具のデザイン学［甲　洋介］春学期授業/Spring 272
【C0821】コンピュータ音楽と音声情報処理［大嶋　良明］春学期授業/Spring 273
【C0832】文化情報の哲学［森村　修］春学期授業/Spring 275
【C0850】パフォーマンスの美学［森村　修］春学期授業/Spring 277
【C0852】サブカルチャー論［島田　雅彦］春学期授業/Spring 279
【C0854】現代美術論［稲垣　立男］秋学期授業/Fall 280
【C0860】マルチメディア表現法［大嶋　良明］春学期授業/Spring 283
【C0862】クリエイティブ・ライティング［島田　雅彦］秋学期授業/Fall 285
【C0864】五感共生論［川村　たつる］秋学期授業/Fall 286
【C0870】映像文化論［岡村　民夫］秋学期授業/Fall 287
【C0871】写真論［丹羽　晴美］秋学期授業/Fall 288
【C0872】映像と文学［林　志津江］秋学期授業/Fall 289
【C0880】演劇論［竹内　晶子］秋学期授業/Fall 291
【C0883】空間デザイン論［前田　尚武］秋学期授業/Fall 292
【C0900】世界の中の日本文学［LETIZIA GUARINI］春学期授業/Spring 294
【C0901】世界の中の日本語［大野　ロベルト］秋学期授業/Fall 295
【C0910】中国の文化Ⅰ（現代中国社会）［張　勝蘭］春学期授業/Spring 296
【C0912】中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）［鈴木　靖］春学期授業/Spring 298
【C0913】中国の文化Ⅳ（中国語の構造）［永江　貴子］秋学期授業/Fall 300
【C0915】中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）［野村　英登］秋学期授業/Fall 301
【C0916】中国の文化Ⅶ（近代文学）［桑島　道夫］春学期授業/Spring 302
【C0918】中国の文化Ⅸ（中国俗文学）［鈴木　靖］秋学期授業/Fall 303
【C0919】中国の文化Ⅹ（歴史）［張　玉萍］秋学期授業/Fall 304
【C0920】朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）［神谷　丹路］春学期授業/Spring 305
【C0921】朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）［内山　政春］秋学期授業/Fall 306
【C0931】ロシア・中央アジアの文化［佐藤　大雅］春学期授業/Spring 307
【C0932】ロシア・東欧の文化［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring 309
【C0941】ドイツ語圏の文化Ⅱ ［林　志津江］春学期授業/Spring 311
【C0942】フランス語圏の文化Ⅰ（思想）［大中　一彌］秋学期授業/Fall 312
【C0943】フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）［岡村　民夫］春学期授業/Spring 315
【C0946】スペイン語圏の文化Ⅱ ［佐々木　直美］秋学期授業/Fall 316
【C0947】北米文化論（ケベック講座）［廣松　勲］秋学期授業/Fall 317
【C0950】カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）［DANIEL FORTEA MUNOZ］春学期授業/Spring 318
【C0951】カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）［DANIEL FORTEA MUNOZ］秋学期授業/Fall 320
【C0952】カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）［DANIEL FORTEA MUNOZ］春学期授業/Spring 322
【C0953】カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）［DANIEL FORTEA MUNOZ］秋学期授業/Fall 324
【C0963】英語圏の文化Ⅳ（文学と社会A）［須藤　祐二］秋学期授業/Fall 326
【C0965】英語圏の文化Ⅵ（文学と社会C）［中和　彩子］春学期授業/Spring 327
【C0966】英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）［輿石　哲哉］春学期授業/Spring 328
【C0967】英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）［輿石　哲哉］秋学期授業/Fall 330
【C1000】比較表象文化論［竹内　晶子］秋学期授業/Fall 332
【C1021】日英翻訳論［大野　ロベルト］春学期授業/Spring 333
【C1023】言葉と社会［小川　敦］春学期授業/Spring 334
【C1031】宗教社会論Ⅱ ［佐々木　一惠］秋学期授業/Fall 336
【C1040】国際関係研究Ⅰ ［松本　悟］春学期授業/Spring 338
【C1041】国際関係研究Ⅱ ［松本　悟］秋学期授業/Fall 339
【C1043】人の移動と国際関係Ⅰ ［張　勝蘭］秋学期授業/Fall 340
【C1046】地域協力・統合［大中　一彌］秋学期授業/Fall 342
【C1048】実践国際協力［松本　悟］秋学期授業/Fall 344
【C1052】実践社会調査法［松本　悟］春学期授業/Spring 345
【C1056】国際関係研究Ⅳ ［石森　大知］秋学期授業/Fall 346
【C2004】国際法Ⅰ ［岡松　暁子］春学期授業/Spring 347
【C2005】国際法Ⅱ ［岡松　暁子］秋学期授業/Fall 348
【C2017】国際環境法［岡松　暁子］秋学期授業/Fall 349

【C2112】環境経営論Ⅰ ［金藤　正直］春学期授業/Spring 350
【C2113】環境経営論Ⅱ ［金藤　正直］秋学期授業/Fall 352
【C2120】途上国経済論Ⅰ ［武貞　稔彦］春学期授業/Spring 354
【C2121】途上国経済論Ⅱ ［武貞　稔彦］秋学期授業/Fall 356
【C2217】環境社会論Ⅰ ［藤田　研二郎］春学期授業/Spring 358
【C2218】環境社会論Ⅱ ［藤田　研二郎］秋学期授業/Fall 360
【C2227】災害政策論［中川　和之］春学期授業/Spring 362
【C2241】科学技術社会論Ⅰ ［金光　秀和］春学期授業/Spring 365
【C2242】科学技術社会論Ⅱ ［金光　秀和］秋学期授業/Fall 367
【C2310】環境倫理学Ⅰ ［竹中　真也］秋学期授業/Fall 369
【C2311】環境倫理学Ⅱ ［加藤　壮一郎］秋学期授業/Fall 370
【C2416】環境科学Ⅰ ［藤倉　良］春学期授業/Spring 371
【C2417】環境科学Ⅱ ［藤倉　良］秋学期授業/Fall 372
【C2418】環境科学Ⅲ ［藤倉　良］春学期授業/Spring 373
【C2433】自然環境論Ⅳ ［佐々木　美貴］秋学期授業/Fall 374
【C2500】環境管理論Ⅰ ［大野　香代］春学期授業/Spring 375
【C2501】環境管理論Ⅱ ［大野　香代］春学期授業/Spring 377
【C2503】環境教育論［野田　恵］春学期授業/Spring 379
【C2559】現代思想と人間Ⅰ ［竹本　研史］春学期授業/Spring 381
【C2560】現代思想と人間Ⅱ ［竹本　研史］秋学期授業/Fall 382
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5061】学習の社会史A ［山口　真里］秋学期授業/Fall 383
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5062】学習の社会史B ［寺崎　里水］春学期授業/Spring 384
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5089】アート・マネジメント論［荒川　裕子］春学期授業/Spring 385
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5110】産業・組織心理学Ⅱ ［今城　志保］秋学期授業/Fall 386
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5111】キャリア開発論［武石　恵美子］秋学期授業/Fall 387
関連科目【C5298】就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- ［武石　恵美子、佐藤　厚］秋学期授業/Fall . 388
関連科目【C5299】就業応用力養成Ⅰ ［鈴木　美伸］春学期授業/Spring 390
関連科目【C5300】就業応用力養成Ⅱ ［鈴木　美伸］秋学期授業/Fall 392
学部共通科目【H7042】食品科学［三浦　豊］春学期授業/Spring 394
生命機能学科_学科専門科目【H7572】医用生体工学［林　真人］秋学期授業/Fall 395
【J0551】プログラミング(MATLAB) ［伊藤　克亘］秋学期授業/Fall 396
【J0552】プログラミング演習1(python) ［伊藤　克亘］春学期授業/Spring 398
【J0553】フーリエ級数と変換［秋野　喜彦］春学期授業/Spring 400
【J0563】プログラミング演習1(python) ［伊藤　克亘］春学期授業/Spring 401
【K5359】化学Ａ［山﨑　友紀］春学期授業/Spring 403
【K5360】化学Ｂ［山﨑　友紀］秋学期授業/Fall 404
【K6046】社会経済学応用Ａ［小林　陽介］春学期授業/Spring 405
【K6048】社会経済学応用Ｂ［小林　陽介］秋学期授業/Fall 406
【K6054】日本経済論Ａ［小黒　一正］春学期授業/Spring 407
【K6055】日本経済論Ａ［小﨑　敏男］春学期授業/Spring 408
【K6056】日本経済論Ｂ［小黒　一正］秋学期授業/Fall 409
【K6057】日本経済論Ｂ［小﨑　敏男］秋学期授業/Fall 410
【K6058】国際経済論Ａ［武智　一貴］春学期授業/Spring 411
【K6059】国際経済論Ａ［田村　晶子］春学期授業/Spring 412
【K6060】国際経済論Ｂ［武智　一貴］秋学期授業/Fall 413
【K6061】国際経済論Ｂ［田村　晶子］秋学期授業/Fall 414
【K6062】財政学Ａ［小林　克也］春学期授業/Spring 415
【K6063】財政学Ａ［廣川　みどり］春学期授業/Spring 416
【K6064】財政学Ｂ［小林　克也］秋学期授業/Fall 417
【K6065】財政学Ｂ［廣川　みどり］秋学期授業/Fall 418
【K6066】金融論Ａ［武田　浩一］春学期授業/Spring 419
【K6067】金融論Ａ［高橋　秀朋］春学期授業/Spring 420
【K6068】金融論Ｂ［武田　浩一］秋学期授業/Fall 421
【K6069】金融論Ｂ［高橋　秀朋］秋学期授業/Fall 422
【K6094】計量経済学Ａ［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring 423
【K6095】計量経済学Ｂ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 424
【K6102】企業と経済・応用Ａ［鈴木　豊］春学期授業/Spring 425

【K6103】企業と経済・応用Ｂ［河村　真］秋学期授業/Fall …… 426
【K6108】現代ファイナンス入門Ａ［湯前　祥二］春学期授業/Spring …… 427
【K6109】現代ファイナンス入門Ｂ［湯前　祥二］秋学期授業/Fall …… 428
【K6122】経済データ分析Ａ［明城　聡］春学期授業/Spring …… 429
【K6123】経済データ分析Ｂ［明城　聡］秋学期授業/Fall …… 430
【K6124】経済地理［近藤　章夫］春学期授業/Spring …… 431
【K6125】産業集積論［近藤　章夫］秋学期授業/Fall …… 432
【K6128】コーポレートガバナンス論Ａ［胥　鵬］春学期授業/Spring …… 433
【K6129】コーポレートガバナンス論Ｂ［胥　鵬］秋学期授業/Fall …… 435
【K6132】企業経営史Ａ［飯塚　陽介］春学期授業/Spring …… 436
【K6133】企業経営史Ｂ［飯塚　陽介］秋学期授業/Fall …… 437
【K6136】企業経営論Ａ［内田　彬浩］春学期授業/Spring …… 438
【K6137】企業経営論Ｂ［内田　彬浩］秋学期授業/Fall …… 439
【K6140】企業実務研究Ａ［湯前　祥二］春学期授業/Spring …… 440
【K6141】企業実務研究Ｂ［湯前　祥二］秋学期授業/Fall …… 442
【K6150】国際関係論Ａ［冨永　靖敬］春学期授業/Spring …… 444
【K6151】国際関係論Ｂ［冨永　靖敬］秋学期授業/Fall …… 446
【K6152】経済人類学Ａ［友松　夕香］春学期授業/Spring …… 448
【K6153】経済人類学Ｂ［友松　夕香］秋学期授業/Fall …… 449
【K6154】環境経済論Ａ［松波　淳也］春学期授業/Spring …… 450
【K6155】環境経済論Ａ［松波　淳也］春学期授業/Spring …… 451
【K6156】環境経済論Ｂ［松波　淳也］秋学期授業/Fall …… 452
【K6157】環境経済論Ｂ［松波　淳也］秋学期授業/Fall …… 453
【K6160】経済地理Ａ［近藤　章夫］春学期授業/Spring …… 454
【K6161】経済地理Ｂ［近藤　章夫］秋学期授業/Fall …… 455
【K6162】アメリカ経済論Ａ［加藤　真琴］春学期授業/Spring …… 456
【K6163】アメリカ経済論Ｂ［加藤　真琴］秋学期授業/Fall …… 457
【K6164】ヨーロッパ経済論Ａ［進藤　理香子］春学期授業/Spring …… 458
【K6165】ヨーロッパ経済論Ｂ［進藤　理香子］秋学期授業/Fall …… 459
【K6166】現代アジア経済論Ａ［馬場　敏幸］春学期授業/Spring …… 460
【K6167】現代アジア経済論Ｂ［馬場　敏幸］秋学期授業/Fall …… 461
【K6168】中国経済論Ａ［馬　欣欣］春学期授業/Spring …… 462
【K6169】中国経済論Ｂ［馬　欣欣］秋学期授業/Fall …… 464
【K6180】ドイツ語セミナーＡ［北岡　幸代］春学期授業/Spring …… 466
【K6181】ドイツ語セミナーＢ［北岡　幸代］秋学期授業/Fall …… 467
【K6182】フランス語セミナーＢ［橋本　到］秋学期授業/Fall …… 468
【K6183】フランス語セミナーＡ［橋本　到］春学期授業/Spring …… 469
【K6184】ロシア語セミナーＡ［松澤　暢子］春学期授業/Spring …… 470
【K6185】ロシア語セミナーＢ［松澤　暢子］秋学期授業/Fall …… 471
【K6186】中国語セミナーＡ［石　碩］春学期授業/Spring …… 472
【K6187】中国語セミナーＢ［石　碩］秋学期授業/Fall …… 473
【K6188】スペイン語セミナーＡ［芝田　幸一郎］春学期授業/Spring …… 474
【K6189】スペイン語セミナーＢ［芝田　幸一郎］秋学期授業/Fall …… 475
【K6203】開発経済入門Ａ［池上　宗信］春学期授業/Spring …… 476
【K6204】開発経済入門Ｂ［池上　宗信］秋学期授業/Fall …… 477
【K6209】環境科学Ａ［岡部　雅史］春学期授業/Spring …… 478
【K6210】環境科学Ｂ［岡部　雅史］秋学期授業/Fall …… 479
【K6223】環境政策論Ａ［西澤　栄一郎］春学期授業/Spring …… 480
【K6224】環境政策論Ｂ［西澤　栄一郎］秋学期授業/Fall …… 481
【K6227】社会経済思想史Ａ［後藤　浩子］春学期授業/Spring …… 482
【K6228】社会経済思想史Ｂ［後藤　浩子］秋学期授業/Fall …… 483
【K6229】経済政策論Ａ［小原　拓也］春学期授業/Spring …… 484
【K6230】経済政策論Ｂ［小原　拓也］秋学期授業/Fall …… 485
【K6233】社会政策論Ａ［菅原　琢磨］春学期授業/Spring …… 486
【K6234】社会政策論Ｂ［菅原　琢磨］秋学期授業/Fall …… 487
【K6235】労働経済論Ａ［酒井　正］春学期授業/Spring …… 488
【K6236】労働経済論Ｂ［酒井　正］秋学期授業/Fall …… 489

【K6243】社会保障論Ａ［小黒　一正］春学期授業/Spring 490
【K6244】社会保障論Ｂ［小黒　一正］秋学期授業/Fall 491
【K6314】地球環境論A ［山﨑　友紀］春学期授業/Spring 492
【K6315】地球環境論B ［山﨑　友紀］秋学期授業/Fall 493
【K6337】マクロ経済学Ａ［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring 494
【K6338】マクロ経済学Ｂ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 495
【K6339】ミクロ経済学Ａ［平井　俊行］春学期授業/Spring 496
【K6340】ミクロ経済学Ｂ［平井　俊行］秋学期授業/Fall 497
【K6343】マクロ経済学Ａ［八木橋　毅司］春学期授業/Spring 498
【K6344】マクロ経済学Ｂ［八木橋　毅司］秋学期授業/Fall 499
【K6345】ミクロ経済学Ａ［西村　健］春学期授業/Spring 500
【K6346】ミクロ経済学Ｂ［西村　健］秋学期授業/Fall 501
【K6501】特別講義 （寄付講座　証券市場論）［大和証券（株）］春学期授業/Spring 502
【K6575】特別講義（ビジネス日本語A）［大石　有香］春学期授業/Spring 503
【K6576】特別講義（ビジネス日本語B）［大石　有香］秋学期授業/Fall 504
【K6685】簿記ＩＡ ［古賀　裕也］春学期授業/Spring 505
【K6686】簿記ＩＢ ［古賀　裕也］秋学期授業/Fall 506
【K6705】日本国憲法A ［村元　宏行］春学期授業/Spring 507
【K6706】日本国憲法B ［村元　宏行］秋学期授業/Fall 508
【K6707】民法一部A ［菅　富美枝］春学期授業/Spring 509
【K6708】民法一部B ［菅　富美枝］秋学期授業/Fall 510
【K6711】商法一部A ［笹久保　徹］春学期授業/Spring 511
【K6712】商法一部B ［笹久保　徹］秋学期授業/Fall 512
【K6729】簿記ⅡＡ ［岸　牧人］春学期授業/Spring 513
【K6730】簿記ⅡＢ ［岸　牧人］秋学期授業/Fall 514
【K6733】Academic Research Seminar A ［飯野　厚］春学期授業/Spring 515
【K6734】Academic Research Seminar B ［飯野　厚］秋学期授業/Fall 516
【K6735】Academic Research Seminar A ［伊藤　健彦］春学期授業/Spring 517
【K6736】Academic Research Seminar B ［伊藤　健彦］秋学期授業/Fall 518
【K6749】原価計算Ａ［梅津　亮子］春学期授業/Spring 519
【K6750】原価計算Ｂ［梅津　亮子］秋学期授業/Fall 520
【K6751】会計学入門Ａ［古賀　裕也］春学期授業/Spring 521
【K6752】会計学入門Ｂ［古賀　裕也］秋学期授業/Fall 522
【LA104】中小企業論［糸久　正人］春学期授業/Spring 523
【LA107】産業社会学Ⅰ ［惠羅　さとみ］春学期授業/Spring 525
【LA108】産業社会学Ⅱ ［惠羅　さとみ］秋学期授業/Fall 526
【LA112】金融システム論［松田　岳］春学期授業/Spring 527
【LA202】環境経済学Ⅰ ［明日香　壽川］春学期授業/Spring 529
【LA203】環境経済学Ⅱ ［明日香　壽川］秋学期授業/Fall 530
【LA210】社会保障法Ⅰ ［長沼　建一郎］春学期授業/Spring 531
【LA211】社会保障法Ⅱ ［長沼　建一郎］秋学期授業/Fall 532
【LA212】環境政策論Ⅰ ［髙橋　洋］春学期授業/Spring 533
【LA213】環境政策論Ⅱ ［髙橋　洋］秋学期授業/Fall 534
【LA308】国際協力論［岡野内　正］秋学期授業/Fall 535
【LA309】イスラム社会論［岡野内　正］春学期授業/Spring 536
【LB200】コミュニティ・デザイン論Ⅰ ［樋口　明彦］春学期授業/Spring 537
【LB410】地域研究（中国）［大﨑　雄二］春学期授業/Spring 538
【LD303】社会ネットワーク論Ⅰ ［宇野　斉］春学期授業/Spring 539
【LD304】社会ネットワーク論Ⅱ ［宇野　斉］秋学期授業/Fall 540
専門教育科目_専門基幹科目【M1620】スポーツトレーニング論Ⅰ ［木村　新］春学期授業/Spring 541
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1730】スポーツリスクマネジメント［木下　訓光］秋学期授業/Fall 542
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1750】スポーツビジネス論Ⅰ ［片上　千恵］秋学期授業/Fall 544
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1790】スポーツコーチング論Ａ［苅部　俊二］秋学期授業/Fall 545
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3060】スポーツマーケティング論［井上　尊寛］春学期授業/Spring 546
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3080】スポーツメディア論［片上　千恵］秋学期授業/Fall 547
専門教育科目_専門基幹科目【M3170】スポーツビジネス論Ⅱ ［望月　拓実］春学期授業/Spring 548

専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3230】マーケティングリサーチ実習［山口　和真］春学期授業/Spring 549
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3240】マーケティングリサーチ演習［山口　和真］秋学期授業/Fall 550
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4510】スポーツ戦術論（サッカー）［井上　尊寛、小菅　悠太］秋学期授業/Fall 551
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4710】青少年指導実習（サッカー）［小井土　正亮］秋学期授業/Fall 552
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4790】青少年指導演習（サッカー）［小井土　正亮］秋学期授業/Fall 553
【N0057】ホスピタリティ論［山田　祐子］春学期授業/Spring 554
【N0058】教育学［藤本　典裕］秋学期授業/Fall 555
【N0107】経営学［首藤　聡一朗］サマーセッション/Summer Session 557
【N0112】社会学特講［左古　輝人］春学期授業/Spring 558
【N0117】老年学［新名　正弥］春学期授業/Spring 559
【N1050】福祉国家論［渡辺　寛人］秋学期授業/Fall 560
【N1054】コミュニティビジネス論［土肥　将敦］秋学期授業/Fall 561
【N1055】ローカルイノベーション論［野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦］秋学期授業/Fall 562
【N1106】雇用政策論［渡辺　寛人］秋学期授業/Fall 563
【N1107】都市住宅政策論［水野　雅男］春学期授業/Spring 564
【N1108】地域文化政策論［杉浦　ちなみ］春学期授業/Spring 565
【N1109】環境政策論［藤澤　浩子］春学期授業/Spring 566
【N1111】政策評価論［倉根　明徳］サマーセッション/Summer Session 568
【N1116】国際協力論［小林　尚朗］春学期授業/Spring 569
【N1151】地域経営論［遠藤　聖子］春学期授業/Spring 570
【N1152】ソーシャルイノベーション論［土肥　将敦］春学期授業/Spring 572
【N1153】ソーシャルマネジメント論［樋口　邦史］春学期授業/Spring 573
【N1154】ソーシャルファイナンス論［徳永　洋子］春学期授業/Spring 574
【N1155】NPO論［渡真利　紘一］秋学期授業/Fall 575
【N1158】居住福祉論［大原　一興］春学期授業/Spring 577
【N1159】災害支援論［青木　信夫、正谷　絵美］春学期授業/Spring 578
【N1162】コミュニティアート［吉野　裕之］秋学期授業/Fall 580
【N1164】地域遺産マネジメント論［須田　英一］春学期授業/Spring 581
【N1165】地域ツーリズム［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 582
【N1223】異文化心理学［奥山　今日子］春学期授業/Spring 583
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0501】大学を知ろう　＜法政学＞への招待［小林　ふみ子、金子　匡良］春学期授業/Spring 585
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2321】経済学ＬＡ［中平　千彦］春学期授業/Spring 587
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2322】経済学ＬＢ［中平　千彦］秋学期授業/Fall 589
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2323】経済学ＬＡ［鈴木　誠］春学期授業/Spring 591
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2324】経済学ＬＢ［鈴木　誠］秋学期授業/Fall 593
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2325】経済学ＬＡ［陳　文挙］春学期授業/Spring 595
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2326】経済学ＬＢ［陳　文挙］秋学期授業/Fall 597
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2327】経済学ＬＡ［小峯　敦］春学期授業/Spring 599
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2328】経済学ＬＢ［小峯　敦］秋学期授業/Fall 601
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6101】漢字･漢文学Ａ［加納　留美子］春学期授業/Spring 602
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6102】漢字･漢文学Ｂ［加納　留美子］秋学期授業/Fall 603

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6103】教養ゼミⅠ［藤村　耕治］春学期授業/Spring 604
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6104】教養ゼミⅡ［藤村　耕治］秋学期授業/Fall 606
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6107】日本芸能論Ａ［阿部　真弓］春学期授業/Spring 607
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6108】日本芸能論Ｂ［阿部　真弓］秋学期授業/Fall 608
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6109】身体表現論Ａ［深谷　公宣］春学期授業/Spring 609
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6110】身体表現論Ｂ［深谷　公宣］秋学期授業/Fall 610
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6111】美術論Ａ［稲垣　立男］春学期授業/Spring 611
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6112】美術論Ｂ［稲垣　立男］秋学期授業/Fall . 614
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6113】芸術と人間Ａ［岡村　民夫］春学期授業/Spring 616
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6114】芸術と人間Ｂ［岡村　民夫］秋学期授業/Fall 617
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6115】仏教思想論Ａ［計良　隆世］春学期授業/Spring 618
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6116】仏教思想論Ｂ［計良　隆世］秋学期授業/Fall 620
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6121】中国の民族と文化Ａ［齋藤　勝］春学期授業/Spring 622
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6122】中国の民族と文化Ｂ［齋藤　勝］秋学期授業/Fall 623
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6125】古代日本･中国の法と社会Ａ［岡野　浩二］春学期授業/Spring 624
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6126】古代日本･中国の法と社会Ｂ［岡野　浩二］秋学期授業/Fall 625
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6127】アジア・太平洋島嶼国際関係史Ａ［新崎　盛吾］春学期授業/Spring 626
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6128】アジア・太平洋島嶼国際関係史Ｂ［水谷　明子］秋学期授業/Fall 628
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6129】教養ゼミⅠ［神谷　丹路］春学期授業/Spring 629
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6130】教養ゼミⅡ［神谷　丹路］秋学期授業/Fall 630
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6131】クィア・スタディーズＡ［LETIZIA GUARINI］春学期授業/Spring 631
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6132】クィア・スタディーズＢ［LETIZIA GUARINI］秋学期授業/Fall 633
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6133】キリスト教思想史Ａ［鵜澤　和彦］春学期授業/Spring 635
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6134】キリスト教思想史Ｂ［鵜澤　和彦］秋学期授業/Fall 637
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6137】異文化コミュニケーション論Ａ［山本　そのこ］春学期授業/Spring 639
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6138】異文化コミュニケーション論Ｂ［山本　そのこ］秋学期授業/Fall 641
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6141】教養ゼミⅠ［矢澤　美佐紀］春学期授業/Spring 643
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6142】教養ゼミⅡ［矢澤　美佐紀］秋学期授業/Fall 644
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6143】イギリスと帝国Ａ［大澤　広晃］春学期授業/Spring 645
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6144】イギリスと帝国Ｂ［大澤　広晃］秋学期授業/Fall 646
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6145】教養ゼミⅠ［副島　健作］春学期授業/Spring 647
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6146】教養ゼミⅡ［副島　健作］秋学期授業/Fall 649
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6147】徳と倫理Ａ［内山　真莉子］春学期授業/Spring 651
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6148】徳と倫理Ｂ［内山　真莉子］秋学期授業/Fall 652
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6149】人間存在論Ａ［森村　修］春学期授業/Spring 653
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6150】人間存在論Ｂ［森村　修］秋学期授業/Fall 655
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6201】法哲学Ａ［内藤　淳］春学期授業/Spring 657

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6202】法哲学Ｂ［内藤　淳］秋学期授業/Fall … 659
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6203】教養ゼミⅠ［坂根　徹］春学期授業/Spring 661
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6204】教養ゼミⅡ［坂根　徹］秋学期授業/Fall 662
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6209】人文地理学セミナーＡ［増淵　敏之］春学期授業/Spring … 663
【Q6209】人文地理学セミナーＡ［増淵　敏之］春学期授業/Spring … 665
【Q6210】人文地理学セミナーＢ［増淵　敏之］秋学期授業/Fall … 667
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6210】人文地理学セミナーＢ［増淵　敏之］秋学期授業/Fall … 669
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6211】文化人類学方法論Ａ［菊池　真理］春学期授業/Spring … 671
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6212】文化人類学方法論Ｂ［菊池　真理］秋学期授業/Fall … 673
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6215】人間行動学Ａ［久木田　敦志］春学期授業/Spring … 675
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6216】人間行動学Ｂ［久木田　敦志］秋学期授業/Fall … 676
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6217】教養ゼミⅠ［浅川　希洋志］春学期授業/Spring … 677
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6218】教養ゼミⅡ［浅川　希洋志］秋学期授業/Fall 678
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6219】沖縄を考えるＡ［中野　勝郎、大里　知子］春学期授業/Spring … 679
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6220】沖縄を考えるＢ［中野　勝郎、大里　知子］秋学期授業/Fall … 680
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6225】ヨーロッパ政治経済論Ａ［千葉　千尋］春学期授業/Spring … 681
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6226】ヨーロッパ政治経済論Ｂ［千葉　千尋］秋学期授業/Fall … 682
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6303】数理論理学Ａ［安東　祐希］春学期授業/Spring … 684
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6304】数理論理学Ｂ［安東　祐希］秋学期授業/Fall 685
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6305】計算と言語のしくみ［倉田　俊彦］春学期授業/Spring … 686
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6306】コンピュータと数理の活用［倉田　俊彦］秋学期授業/Fall … 687
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6307】確率の世界Ａ［池田　宏一郎］春学期授業/Spring … 688
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6308】確率の世界Ｂ［池田　宏一郎］秋学期授業/Fall … 689
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6311】相対性理論と宇宙Ａ［石川　壮一］春学期授業/Spring … 690
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6312】相対性理論と宇宙Ｂ［石川　壮一］秋学期授業/Fall … 691
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6313】現代の錬金術Ａ［井坂　政裕］春学期授業/Spring … 692
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6314】現代の錬金術Ｂ［井坂　政裕］秋学期授業/Fall … 693
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6315】原子核と素粒子Ａ［吉田　智］春学期授業/Spring … 694
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6316】原子核と素粒子Ｂ［吉田　智］秋学期授業/Fall … 695
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6317】教養ゼミⅠ［島野　智之］春学期授業/Spring 696
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6318】教養ゼミⅡ［島野　智之］オータムセッション/Autumn Session … 698
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6323】イオンの科学Ａ［向井　知大］春学期授業/Spring … 700

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6324】イオンの科学Ｂ［向井　知大］秋学期授業/Fall 701
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6327】物質の科学Ａ［中田　和秀］春学期授業/Spring 702
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6328】物質の科学Ｂ［中田　和秀］秋学期授業/Fall 703
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6329】ＩＴリテラシー［児玉　靖司］春学期授業/Spring 704
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6330】コンピュ-タ科学［児玉　靖司］秋学期授業/Fall 705
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6335】人間と地球環境［宇野　真介］春学期授業/Spring 706
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6336】Human Impact on the Global Environment［宇野　真介］秋学期授業/Fall 708
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6337】ボルボックス生物論Ａ［植木　紀子］春学期授業/Spring 710
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6338】ボルボックス生物論Ｂ［植木　紀子］秋学期授業/Fall 711
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6339】教養ゼミⅠ［中田　和秀］春学期授業/Spring 712
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6340】教養ゼミⅡ［中田　和秀］秋学期授業/Fall 713
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6341】バイオイメージングの世界Ａ［木原　章］春学期授業/Spring 714
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6342】バイオイメージングの世界Ｂ［木原　章］秋学期授業/Fall 715
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6343】環境の科学Ａ［田中　雅人］春学期授業/Spring 716
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6344】環境の科学Ｂ［田中　雅人］秋学期授業/Fall 717
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6403】Issues in Modern Japanese Society A［LASSEGARD JAMES］春学期授業/Spring 718
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6404】Issues in Modern Japanese Society B［LASSEGARD JAMES］秋学期授業/Fall 719
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6421】第三外国語としてのドイツ語Ａ［林　志津江］春学期授業/Spring 720
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6422】第三外国語としてのドイツ語Ｂ［林　志津江］秋学期授業/Fall 722
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6423】ドイツ語コミュニケーション中級Ａ［Annette Gruber］春学期授業/Spring 723
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6424】ドイツ語コミュニケーション中級Ｂ［Annette Gruber］秋学期授業/Fall 724
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6425】教養ゼミⅠ［上田　知夫］春学期授業/Spring 725
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6426】教養ゼミⅡ［上田　知夫］秋学期授業/Fall 726
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6427】ドイツの思想Ａ［吉田　敬介］春学期授業/Spring 727
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6428】ドイツの思想Ｂ［吉田　敬介］秋学期授業/Fall 728
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6429】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ａ［林　志津江］春学期授業/Spring 729
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6430】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ｂ［林　志津江］秋学期授業/Fall 731
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6431】比較文化Ａ［D. ハイデンライヒ］春学期授業/Spring 733
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6432】比較文化Ｂ［D. ハイデンライヒ］秋学期授業/Fall 734
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6437】ドイツ語圏の公共哲学Ａ［上田　知夫］春学期授業/Spring 735
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6438】ドイツ語圏の公共哲学Ｂ［上田　知夫］秋学期授業/Fall 736

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6439】ドイツ語圏の歴史Ａ［辻　英史］春学期授業/Spring 737
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6440】ドイツ語圏の歴史Ｂ［辻　英史］秋学期授業/Fall 739
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6441】ドイツ語講読Ａ［吉田　敬介］春学期授業/Spring 740
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6442】ドイツ語講読Ｂ［吉田　敬介］秋学期授業/Fall 742
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6501】スポーツ科学Ａ［西村　一帆］春学期授業/Spring 744
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6502】スポーツ科学Ｂ［西村　一帆］秋学期授業/Fall 746
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6505】スポーツ科学Ａ［佐藤　優希］春学期授業/Spring 748
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6506】スポーツ科学Ｂ［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 750
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6507】スポーツ科学Ａ［白井　隆長］春学期授業/Spring 752
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6508】スポーツ科学Ｂ［白井　隆長］秋学期授業/Fall 754
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6509】スポーツ科学Ａ［武井　敦彦］春学期授業/Spring 756
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6510】スポーツ科学Ｂ［武井　敦彦］秋学期授業/Fall 758
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6511】スポーツ科学Ａ［佐藤　優希］春学期授業/Spring 760
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6512】スポーツ科学Ｂ［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 762
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6513】スポーツ科学Ａ［吉田　康伸］春学期授業/Spring 764
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6514】スポーツ科学Ｂ［吉田　康伸］秋学期授業/Fall 765
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6517】スポーツ科学Ａ［中澤　史］春学期授業/Spring 766
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6518】スポーツ科学Ｂ［中澤　史］秋学期授業/Fall 768
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6519】スポーツ科学Ａ［魚住　智広］春学期授業/Spring 770
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6520】スポーツ科学Ｂ［魚住　智広］秋学期授業/Fall 771
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6529】スポーツ科学Ａ［西村　一帆］春学期授業/Spring 772
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6530】スポーツ科学Ｂ［西村　一帆］秋学期授業/Fall 774
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6534】エビデンスから学ぶ健康と身体の変化Ａ［林　容市］春学期授業/Spring 776
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6535】エビデンスから学ぶ健康と身体の変化Ｂ［林　容市］秋学期授業/Fall 778
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6538】スポーツ科学Ａ［朝比奈　茂］春学期授業/Spring 780
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6539】スポーツ科学Ｂ［朝比奈　茂］秋学期授業/Fall 782
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6540】教養ゼミⅡ ［朝比奈　茂］秋学期授業/Fall 784
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6601】第三外国語としてのフランス語Ａ［廣松　勲］春学期授業/Spring 786
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6602】第三外国語としてのフランス語Ｂ［廣松　勲］秋学期授業/Fall 787

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6605】教養ゼミⅠ［大中　一彌］サマーセッション/Summer Session 788
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6606】教養ゼミⅡ［大中　一彌］オータムセッション/Autumn Session 790
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6607】教養ゼミⅠ［ル ルー 清野　ブレンダン］春学期授業/Spring 792
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6608】教養ゼミⅡ［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall 794
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6609】フランス語コミュニケーション(中･上級)Ａ［ル ルー 清野　ブレンダン］春学期授業/Spring 796
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6610】フランス語コミュニケーション(中･上級)Ｂ［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall 798
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6701】第三外国語としてのロシア語Ａ［佐藤　裕子］春学期授業/Spring 800
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6702】第三外国語としてのロシア語Ｂ［佐藤　裕子］秋学期授業/Fall 801
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6703】第三外国語としてのロシア語中級Ａ［エレーナ　三神］春学期授業/Spring 802
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6704】第三外国語としてのロシア語中級Ｂ［エレーナ　三神］秋学期授業/Fall 803
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6705】実用ロシア語Ａ［エレーナ　三神］春学期授業/Spring 804
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6706】実用ロシア語Ｂ［エレーナ　三神］秋学期授業/Fall 805
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6707】ロシア語講読Ａ［木部　敬］春学期授業/Spring 806
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6708】ロシア語講読Ｂ［木部　敬］秋学期授業/Fall 807
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6709】時事ロシア語Ａ［油本　真理］春学期授業/Spring 808
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6710】時事ロシア語Ｂ［油本　真理］秋学期授業/Fall 809
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6801】第三外国語としての中国語Ａ［岩田　和子］春学期授業/Spring 810
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6802】第三外国語としての中国語Ｂ［岩田　和子］秋学期授業/Fall 811
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6803】第三外国語としての中国語中級Ａ［木村　佳代子］春学期授業/Spring 812
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6804】第三外国語としての中国語中級Ｂ［木村　佳代子］秋学期授業/Fall 813
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6805】中国語視聴覚中級Ａ［劉　渇氷］春学期授業/Spring 814
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6806】中国語視聴覚中級Ｂ［劉　渇氷］秋学期授業/Fall 815
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6807】中国語作文中級Ａ［楊　心苗］春学期授業/Spring 816
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6808】中国語作文中級Ｂ［楊　心苗］秋学期授業/Fall 817
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6809】中国語コミュニケーション中級Ａ［周　重雷］春学期授業/Spring 818
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6810】中国語コミュニケーション中級Ｂ［周　重雷］秋学期授業/Fall 819
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6811】中国語翻訳･通訳Ａ［王　安］春学期授業/Spring 820
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6812】中国語翻訳･通訳Ｂ［王　安］秋学期授業/Fall 821
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6817】中国語講読中級Ａ［岩田　和子］春学期授業/Spring 822

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6818】中国語講読中級Ｂ［岩田　和子］秋学期授業/Fall 823
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6821】資格中国語上級Ａ［任　麗潔］春学期授業/Spring 824
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6822】資格中国語上級Ｂ［任　麗潔］秋学期授業/Fall 825
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6823】教養ゼミⅠ［岩田　和子］春学期授業/Spring 826
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6824】教養ゼミⅡ［岩田　和子］秋学期授業/Fall 827
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6901】第三外国語としてのスペイン語Ａ［杉下由紀子］春学期授業/Spring 828
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6902】第三外国語としてのスペイン語Ｂ［杉下由紀子］秋学期授業/Fall 829
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6905】スペイン語上級Ａ［佐々木　直美］春学期授業/Spring 830
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6906】スペイン語上級Ｂ［佐々木　直美］秋学期授業/Fall 831
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6907】スペイン語コミュニケーション中級Ａ［OSNO I DE SASAKUBO H］春学期授業/Spring 832
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6908】スペイン語コミュニケーション中級Ｂ［OSNO I DE SASAKUBO H］秋学期授業/Fall 834
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6909】教養ゼミⅠ［久木　正雄］春学期授業/Spring 836
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6910】教養ゼミⅡ［久木　正雄］秋学期授業/Fall 837
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6911】スペイン語講読Ａ［若林　大我］春学期授業/Spring 838
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6912】スペイン語講読Ｂ［若林　大我］秋学期授業/Fall 839
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R4281】ドイツ語コミュニケーションⅠ［JENS OSTWALD］春学期授業/Spring 840
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R4282】ドイツ語コミュニケーションⅡ［JENS OSTWALD］秋学期授業/Fall 841
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R4283】ドイツ語表現法Ⅰ［Schmidt Ute］春学期授業/Spring 842
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R4284】ドイツ語表現法Ⅱ［Schmidt Ute］秋学期授業/Fall 843
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R4295】ドイツ語の世界ＬＡ［Schmidt Ute］春学期授業/Spring 844
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R4296】ドイツ語の世界ＬＢ［Schmidt Ute］秋学期授業/Fall 845
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R4297】ドイツの文化と社会ＬＡ［小川　敦］春学期授業/Spring 847
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R4298】ドイツの文化と社会ＬＢ［小川　敦］秋学期授業/Fall 848
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5271】フランス語の世界ＬＡ［廣松　勲］春学期授業/Spring 849
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5272】フランス語の世界ＬＢ［廣松　勲］秋学期授業/Fall 851
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5273】フランス語コミュニケーション(初級)Ⅰ［ニコラ　ガイヤール］春学期授業/Spring 853
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5274】フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ［ニコラ　ガイヤール］秋学期授業/Fall 854
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5279】時事フランス語Ⅰ［大中　一彌］春学期授業/Spring 855
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5280】時事フランス語Ⅱ［大中　一彌］秋学期授業/Fall 858
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5291】フランスの文化と社会ＬＡ［鈴木　正道］春学期授業/Spring 861

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5292】フランスの文化と社会ＬＢ［鈴木　正道］秋学期授業/Fall 863
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5295】フランス生活文化論ＬＡ［梶谷　彩子］春学期授業/Spring 865
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5296】フランス生活文化論ＬＢ［梶谷　彩子］秋学期授業/Fall 867
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R6211】ロシア語４Ⅰ［木部　敬］春学期授業/Spring 868
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R6212】ロシア語４Ⅱ［木部　敬］秋学期授業/Fall 869
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R6213】ロシア語４Ⅰ［上野　理恵］春学期授業/Spring 870
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R6214】ロシア語４Ⅱ［上野　理恵］秋学期授業/Fall 871
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R6215】ロシア語５Ⅰ［エレーナ　三神］春学期授業/Spring 872
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R6216】ロシア語５Ⅱ［エレーナ　三神］秋学期授業/Fall 873
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R6241】ロシア語の世界ＬＡ［木部　敬］春学期授業/Spring 874
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R6242】ロシア語の世界ＬＢ［木部　敬］秋学期授業/Fall 875
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R6243】ロシアの文化と社会ＬＡ［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring 877
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R6244】ロシアの文化と社会ＬＢ［佐藤　千登勢］秋学期授業/Fall 879
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R6245】検定のロシア語Ａ［佐藤　裕子］春学期授業/Spring 881
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R6246】検定のロシア語Ｂ［佐藤　裕子］秋学期授業/Fall 882
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7413】中国語コミュニケーション初級Ⅰ［周　重雷］春学期授業/Spring 883
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7414】中国語コミュニケーション初級Ⅱ［周　重雷］秋学期授業/Fall 884
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7437】資格中国語初級Ⅰ［青木　正子］春学期授業/Spring 885
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7438】資格中国語初級Ⅱ［青木　正子］秋学期授業/Fall 886
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7445】中国語の世界ＬＡ［髙柳　浩平］春学期授業/Spring 887
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7446】中国語の世界ＬＢ［髙柳　浩平］秋学期授業/Fall 888
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7447】中国の文化と社会ＬＡ［山本　律］春学期授業/Spring 889
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7448】中国の文化と社会ＬＢ［山本　律］秋学期授業/Fall 890
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7449】中国の文化と社会ＬＣ［陳　瀟瀟］春学期授業/Spring 891
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7450】中国の文化と社会ＬＤ［陳　瀟瀟］秋学期授業/Fall 893
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R8301】スペイン語コミュニケーションⅠ［OSNO I DE SASAKUBO H］春学期授業/Spring 895
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R8302】スペイン語コミュニケーションⅡ［OSNO I DE SASAKUBO H］秋学期授業/Fall 896
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R8303】現代のスペイン語Ⅰ［久木　正雄］春学期授業/Spring 897

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R8304】現代のスペイン語Ⅱ ［久木　正雄］秋学期授業/Fall 898
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R8305】スペイン語の世界ＬＡ［佐々木　直美］春学期授業/Spring 899
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R8306】スペイン語の世界ＬＢ［佐々木　直美］秋学期授業/Fall 900
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R9283】朝鮮語４ＢⅠ（視聴覚）［新谷　あゆり］春学期授業/Spring 901
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択必修］外国語（諸外国語）【R9284】朝鮮語４ＢⅡ（視聴覚）［新谷　あゆり］秋学期授業/Fall 902

LAW300AB（法学 / law 300）

親族法

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この科目は「他学部公開科目」でもあり、どの学部の学生でも3-4年生は履修できます。
●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。
【授業の概要と目的】：
●民法典の「第4編　親族」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を含めた法制度を論じられる能力を身につけます。
●法学部生、他学部生とも、必ず人生で1度は深く考える「婚姻」や「夫婦別氏」、そして日本で比率がどんどん高まっている「離婚」を含む「民法・親族法」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。
●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・親族法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答は一つではない。」
●学生同士のグループディスカッションにより、教科書の論点についての疑問点・解釈の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、親族法およびその中の個別条文・制度・判例・諸学説・新説の理解を深めることも目的です。

【到達目標】
●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。
●また21世紀に民法の第3編「債権法」と第5編「相続法」の大改正が行われました。第1編の「総則」も部分的に改正されています。こうした「民法大改正」のうねりの中で、本授業で扱う第4編「親族法」も去年2024年4月から改正・施行されたのが、≪女性のみの再婚禁止期間をついに撤廃した改正民法≫です。さらに同じ2024年には国会で≪離婚後の嫡出子、そして父に認知された嫡出でない子、双方について：旧来の単独親権に加えて、共同親権も選択肢とする≫民法（親族法）の新改正が行われました（近々、施行されます）。
●こうした親族法の激動の中で、さらにどのような親族法改正が必須かも学び、考えます。本科目では「夫婦別姓」・「同性婚」も含めて、憲法との関連で学生と教員がともに考察を深めます。
以上を含めて、「民法、その中でも『親族編』すなわち親族法の諸問題を、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【成績評価の方法と基準】も参照すること：
●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。
●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。
●学生は、法の解釈を学ぶには、一に適用できる条文の有無の確認、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答は一つではありません。
●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。
●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「親族法」が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・民法立法過程（1）	開講にあたって、シラバスの説明も含めて、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認＆質疑応答
第2回	民法立法過程（2）・家族法概論	現行民法改正過程（主に1946-47年）に関する解説＆ディスカッション
第3回	婚姻法（1）成立要件	民法中の婚姻、特に婚姻の成立要件に関する解説＆ディスカッション
第4回	婚姻法（2）夫婦財産制度	民法中の婚姻、夫婦財産制度に関する解説＆ディスカッション
第5回	離婚法（1）成立要件	民法中の離婚、特に離婚の成立要件に関する解説＆ディスカッション
第6回	離婚法（2）財産分与	民法中の離婚、特に離婚の際の財産分与に関する解説＆ディスカッション
第7回	婚外関係の法的処理	旧くは判例で「内縁」、現在社会では「事実婚」と呼ばれる（法律婚では無い）関係の保護に関する解説＆ディスカッション
第8回	実親子関係の発生（1）：嫡出推定制度	法的夫婦間にできた子どもの法的地位の発生に関する解説＆ディスカッション
第9回	実親子関係の発生（2）：認知制度	法的婚姻関係に無い女性・男性の間の子どもの法的地位の発生に関する解説＆ディスカッション
第10回	実親子関係の発生（3）：人工生殖	不妊治療や、そうではない人工生殖により出生した子の実親子関係の発生に関する解説＆ディスカッション
第11回	養親子関係；子の親権；扶養	養親子関係、特に「特別養子縁組」、および子全般の親権、親子や夫婦の間の扶養に関する解説＆ディスカッション
第12回	親族法中の新たな論点(1)	教科書にもまだ掲載の無い、親族法中の幾つかの新たな問題・論点を考察する解説＆ディスカッション
第13回	親族法中の新たな論点(2)	教科書に掲載の無い、親族法中の民法改正に関する幾つかの新たな問題・論点を考察する解説＆ディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「親族法」の「到達目標」に達したかを、毎回の授業の解説・ディスカッションとその評価を振り返って総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】
教科書は以下を使用する【秋学期の「相続法」でも同一の教科書を使用する】：
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7　親族・相続』第7版 2023年刊 有斐閣アルマ ￥2,500+税

【参考書】
必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

【成績評価の方法と基準】
【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。
［1］平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。
以下の詳細は初回の授業で指示する：
各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（法的課題・論点）について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に充分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。
【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】
各回の授業で：
【例a】評価が高い9点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S
【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-
【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-
【例d】評価が低い5点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D
病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。
［2］期末試験・レポートは無い。その代わりに、［1］の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、単位取得予定者は十分に注意すること。
●春学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：
1）親族法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力
2) 親族法の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力
以上2点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
●質問をしやすい環境をより良く整備します。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
●【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
●時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

【学生が準備すべき機器他】
電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める）。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、日本民法の特徴を踏まえた「親族法」を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
●法学部以外の学生も、3-4年生はどなたでも履修ができます。
　「親族法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
●法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
●法学部政治学科・国際政治学科の学生も、他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「親族法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかり持って下さい。
●全学部生に、秋学期の「相続法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】：To learn the Japanese Family Law, the fourth book of the Japanese Civil Code.
【Learning Objectives】：To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Family Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB（法学 / law 300）

相続法

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この科目は「他学部公開科目」でもあり、どの学部の学生でも3-4年生は履修できます。
●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。
【授業の概要と目的】：
●民法典の「第5編　相続」の法解釈と、法改正を含む法制度論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正を含む法制度論を論じられる能力を身につけます。
●法学部生、他学部生とも、必ず人生で1度は深く考える「相続」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。
●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・相続法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答は一つではない。」
●学生同士のグループディスカッションにより、教科書の論点についての疑問点・解釈の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、相続法およびその中の個別条文・制度・判例・諸学説・新説の理解を深めることも目的です。

【到達目標】
●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考による考察（自分の頭で考えること）」により、相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。
●また21世紀に入って、同じ民法の第3編「債権法」の大改正が、まさに行われました。それに伴い、第1編の「総則」も　部分的に改正されています。並行して、第4編「親族法」でも昨年2024年中には、改正民法が施行され、さらに国会では新たな改正が議決されました（近々、施行されます）。
　こうした「民法大改正」の一環として、第5編「相続法」にも2018年に国会で大きな改正が行われ、すでに施行されていることを学びます。
そこで、どのような相続法改正がなされたかと合わせて、さらに「民法、その中でも『相続編』の諸問題を、独自の思考で考察し（自分の頭で考え）、今後必要となるであろう法改正論も含めて法制度論を論じ、根拠を明示した上で論述する能力」を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【成績評価の方法と基準】も参照すること：
●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。
●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。
●学生は、法の解釈を学ぶには、一に適用できる条文の有無の確認、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答は一つではありません。
●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。
●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「相続法」が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	全体的な授業計画	開講にあたって、シラバスの説明も含めて、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認＆質疑応答
第2回	相続法総論	相続法総則 相続の開始　法定相続と遺言相続　相続回復請求権：相続法改正要点と今後の改正の展望の解説＆ディスカッション
第3回	相続人（1）	１．胎児と相続 ２．相続人の範囲 の解説＆ディスカッション
第4回	相続人（2）	３．相続権の喪失・相続欠格と廃除 ４．同時死亡の推定 の解説＆ディスカッション
第5回	相続の効力(1)	１．相続財産の範囲 ２．法定相続分 の解説＆ディスカッション
第6回	相続の効力（2）	３．指定相続分 ４．具体的相続分・特別受益、寄与分 の解説＆ディスカッション
第7回	遺産分割	１．遺産の共有 ２．分割協議と利益相反 ３．分割の効力 ４．遺産分割の指定または禁止 の解説＆ディスカッション
第8回	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在	１．相続の承認と放棄 ２．相続財産の分離 ３．相続人の不存在 の解説＆ディスカッション
第9回	遺言	１．遺言の要式性 ２．遺言能力 ３．共同遺言の禁止 ４．普通方式遺言と特別方式遺言 の解説＆ディスカッション
第10回	遺言の効力	１．効力発生時期 ２．公序良俗違反の内容を含む遺言の効力 ３．遺贈 ４．遺言の執行 ５．遺言の撤回 ＆質疑応答
第11回	遺留分	１．遺留分制度の趣旨 ２．遺留分権利者の範囲と遺留分の分割 ３．遺留分算定の基礎になる財産 ４．遺留分侵害額請求権 ５．遺留分の放棄 の解説＆ディスカッション

第12回	相続法中の新たな論点(1)	教科書にもまだ掲載の無い、相続法中の幾つかの新たな問題・論点を考察する解説＆ディスカッション
第13回	相続法中の新たな論点(2)	教科書に掲載の無い、相続法中の民法改正に関する幾つかの新たな問題・論点を考察する解説＆ディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、毎回の授業の解説・ディスカッションとその評価を振り返って総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】
教科書は以下を使用する【春学期の「親族法」と同一の教科書を使用する】：
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7　親族・相続』第7版 2023年刊 有斐閣アルマ ￥2,500+税

【参考書】
必要に応じて指示する。【購入は必須ではありません。】

【成績評価の方法と基準】
【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。
［1］平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。
以下の詳細は初回の授業で指示する：
各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（法的課題・論点）について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に充分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。
【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】
各回の授業で：
【例a】評価が高い9点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S
【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-
【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-
【例d】評価が低い5点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D
病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。
［2］期末試験・レポートは無い。その代わりに、［1］の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、端取得予定者は十分に注意すること。
●秋学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：
1）相続法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力
2) 相続法の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力
以上2点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
●質問をしやすい環境をより良く整備します。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
●【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
●時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

【学生が準備すべき機器他】
電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める）。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して財産法とも関連の深い相続法を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
●法学部以外の学生も、3-4年生はどなたでも履修ができます。
　「相続法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
●法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」「親族」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
●法学部政治学科・国際政治学科の学生は、他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「相続法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかり持って下さい。
●全学部生に、春学期の「親族法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】：To learn the Japanese Law of Inheritance (Inheritance Law), the fifth book of the Japanese Civil Code.
【Learning Objectives】：To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Inheritance Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB（法学 / law 300）

消費者法Ⅰ

大澤　彩

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの消費生活では、契約トラブル、悪質商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。
学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。
消費者法Ⅰでは、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。
「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】
民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。
契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者法とは何か①	消費者法とは何か。消費者基本法。教科書Unit1
第2回	消費者法とは何か②	消費者・事業者概念。教科書Unit2
第3回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失。教科書Unit3
第4回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺。教科書Unit4
第5回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法4条など。教科書Unit5
第6回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法4条など。教科書Unit6
第7回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引。教科書Unit7
第8回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その1	民法による不当条項規制、約款論。教科書Unit8
第9回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その2	消費者契約法8条～10条。教科書Unit9
第10回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要。教科書Unit11
第11回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、通信販売規制、過量販売規制など。教科書Unit12
第12回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続。教科書Unit13
第13回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	クレジットカードの不正利用、預金トラブル。教科書Unit14
第14回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法の役割。教科書Unit15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業2日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。
講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。
また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大澤彩『消費者法』（商事法務、2023年）
このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】
中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第5版）』（日本評論社、2022年）
河上正二＝沖野眞巳編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）
松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）
大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】
学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を100％とする。
以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの記述が詳細なので、レジュメの内容や授業ではもう少しかみ砕いた説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】
・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話を聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。
・学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。
・契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。
秋学期に開講される「消費者法Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。
SDG s の観点からも受講することをお勧めする。
学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】
We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law.
Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand tne course content.
Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

消費者法Ⅱ

大澤　彩

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
消費者法Ⅰの理解をもとに、消費者取引における物・サービスの品質・安全に関する法制度を学ぶ。また、消費者取引のうち、特殊な法的問題をはらむ数種の取引類型をとりあげ、民法、特別法が果たす役割を学ぶ。さらに、行政組織、訴訟手続など消費者法を形成している制度についても理解を深める。
「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】
物・サービスの品質、安全についての民事ルール、業法ルールの知識を身につける。
消費者取引のうち、特に問題となることが多い取引類型につき、民法、特別法が果たしている役割を理解する。
消費者問題に関連する行政規制、訴訟法の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者取引の対象①物の品質	民法の規定との関係。教科書Unit16
第2回	消費者取引の対象②物の安全性（1）	製造物責任①。教科書Unit17
第3回	消費者取引の対象③物の安全性（2）	製造物責任法。教科書Unit18
第4回	消費者取引の対象④品質・安全性に関する行政規制	食品表示法などの行政規制。教科書Unit19
第5回	消費者取引の対象⑤サービス契約論	民法の規定・特定商取引法。教科書Unit20
第6回	消費者取引・各論①悪質商法	悪質商法の各類型についての説明。教科書Unit21
第7回	消費者取引・各論②金融商品	金融商品トラブルをめぐる民事判例および特別法。教科書Unit22
第8回	消費者取引・各論③建築取引	建築トラブルをめぐる民事判例。教科書Unit23
第9回	消費者取引・各論④電子商取引	インターネット取引でのトラブル。教科書Unit24
第10回	消費者保護制度論①行政機関の役割	消費者庁、国民生活センターの役割。教科書Unit25
第11回	消費者保護制度論②消費者紛争解決制度その1	ADR制度、消費者団体訴訟。教科書Unit26
第12回	消費者保護制度論③消費者紛争解決制度その2	集団的消費者被害救済について。教科書Unit26
第13回	消費者取引と市場の公正	独禁法と消費者法の関係、景品表示法について。教科書Unit27
第14回	消費者・事業者の活動	消費者団体の役割、公益通報者保護法。教科書Unit28

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業2日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。
講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。
また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大澤彩『消費者法』（商事法務、2023年）
このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】
中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第5版）』（日本評論社、2022年）
河上正二＝沖野眞巳編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）
松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）
大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】
学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を100％とする。
以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの記述が詳細なので、レジュメの内容や授業ではもう少しかみ砕いた説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】
・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話を聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。
・学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。
・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。
SDGｓの観点からも受講することをお勧めする。
学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】
We learn consumer law, especially, the safety and the the quality of the goods and the service. The goals of this course are to comprehend this law.
Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand tne course content.
Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

経済法Ⅰ

青柳　由香

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講学上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。
講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

【到達目標】
独占禁止法の基本概念を習得している。
事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
　経済法Ⅰおよび経済法Ⅱでは、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。
　経済法Ⅰでは、独占禁止法による規制のうち「不当な取引制限」及び「私的独占」について学習する。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。
本講義は教室における対面での開講を原則とする。講義形式でレジュメに沿って授業を進める。受講生の発言を求める場面がある。各回毎に提出される受講生からのリアクションペーパーで寄せられた重要な質問等について回答することでフィードバックを図る。
数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。また、ゲストスピーカーを迎えて授業を行うことも予定している。いずれも、日程や実施方法については授業等で周知する。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。ゲストスピーカー回については、相手方の都合により実現できない可能性もある。何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。
また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課すことを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論(1)	独占禁止法の目的および体系
第2回	独占禁止法の沿革（1）	戦前の経済体制や戦後の独占禁止法の導入
第3回	独占禁止法の沿革（2）	独禁法導入にかかる理論的説明、導入後の運用の状況
第4回	独占禁止法のエンフォースメント（1）	組織・行政手続き
第5回	独占禁止法のエンフォースメント（2）	行政上の効果（排除措置命令・課徴金・リニエンシー制度）
第6回	独占禁止法のエンフォースメント（3）	民事・刑事上の効果、独禁法の実務
第7回	不当な取引制限（1）	概観、事業者概念
第8回	不当な取引制限（2）	行為要件、競争の実質的制限
第9回	不当な取引制限（3）	事例（1）価格カルテルの事例を扱う。
第10回	不当な取引制限（4）	事例（2）入札談合等の事例を扱う。
第11回	私的独占（1）	概観、行為要件
第12回	私的独占（2）	事例（1）支配型私的独占の事例を扱う。
第13回	私的独占（3）	事例（2）排除型私的独占の事例を扱う。
第14回	独禁法の実務	ゲスト講師による実務経験に基づく独禁法運用の実情

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のいずれかを教科書として用意すること。版に注意すること。
①★推奨★岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版補訂、2022年）2970円
または
②白石忠志『独禁法講義』（有斐閣、第11版、2025年3月）2530円

【参考書】
金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第2版）』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験80％、平常点20％。
期末試験は持ち込み不可を予定している（事例問題、論述問題等を予定）。
小さな課題と小テストを課す可能性がある。また毎回の授業ではリアクションペーパーの提出を求める。これらはいずれも平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業のありかたは、おおむね好評だった。ゲストスピーカーによる講義は受講生に好評であるので、継続することとしたい。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料を「学習支援システム」において共有する。また、数回オンライン授業を実施する可能性がある。PC やタブレット等の必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】
独占禁止法の基本的な内容について、経済法Ⅰ（春学期）及び経済法Ⅱ（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。独占禁止法の全範囲について基本的な内容を学習したいと考える学生には、春学期・秋学期あわせて履修することを推奨する。
経済法Ⅲでは、独禁法の先端分野を扱うので、発展的な内容に関心をもつ学生は、さらに継続して履修されたい。また、企業規制の法律学Ⅰでは経済法のうち事業法にあたる分野を中心に扱っている。これも合わせて履修すると経済法全体に対する理解が広がるだろう。

【Outline (in English)】
(1)Course Outline
This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.
(2)Learning Objectives
Acquiring basic concepts of antitrust law.
Understanding sufficiently the mechanism by which competition is restricted in the market due to restrictive competition actions by business operators.
Understanding the nature and necessity of "fair competition" in business activities.
(3)Learning Activities Outside of Classroom
Review the textbook, reference books, and lecture materials after the lecture. Students are expected to obtain information on recent cases from newspapers and other sources. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each class.

(4)Grading Criteria /Policy
70%for the final exam and 30%for others.
In the final exam, students are not allowed to bring in references.
Small assignments and quizzes may be required. In addition, a reaction paper will be required in each class. All of these will be subject to the above "30%".

LAW200AB（法学 / law 200）

経済法Ⅱ

渡邉　昭成

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講学上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。
講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正で自由な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。
　経済法Ⅰおよび経済法Ⅱでは、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。この講義（経済法Ⅱ）では、独占禁止法による規制のうち「不公正な取引方法」について学ぶ。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【到達目標】
独占禁止法の基本概念を習得している。
事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は教室における対面での開講を原則とする。講義形式でレジュメに沿って授業を進める。受講生の発言を求める場面がある。各回毎に提出される受講生からのリアクションペーパーで寄せられた重要な質問等について回答することでフィードバックを図る。
数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。また、ゲストスピーカーを迎えて授業を行うことも予定している。いずれも、日程や実施方法については授業等で周知する。ゲストスピーカー回については、相手方の都合により実現できない可能性もある。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。また何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。
また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課すことを予定している。
本講義では、経済法Ⅰを履修済みで、独占禁止法についてかなりの知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ、不公正な取引方法（1）	不公正な取引方法の概要
第2回	不公正な取引方法（2）	不公正な取引方法の位置づけ
第3回	不公正な取引方法（3）	公正競争阻害性
第4回	不公正な取引方法（4）	取引拒絶の概要
第5回	不公正な取引方法（5）	取引拒絶の事例
第6回	不公正な取引方法（6）	抱合せの概要
第7回	不公正な取引方法（7）	抱合せ行為の事例
第8回	不公正な取引方法（8）	再販売価格維持行為
第9回	不公正な取引方法（9）	再販売価格維持行為の事例
第10回	不公正な取引方法（１０）	再販売価格維持行為の事例
第11回	不公正な取引方法（１１）	優越的地位の濫用
第12回	不公正な取引方法（１２）	優越的地位の濫用
第13回	不公正な取引方法（１３）	日本における実務の状況
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のいずれかを教科書として用意すること。版に注意すること。
①★推奨★岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版補訂、2022年）2970円
または
②白石忠志『独禁法講義』（有斐閣、第 11 版、2025 年 3 月刊行予定）2530 円

【参考書】
金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第2版）』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、平常点 30 %。
期末試験は持ち込み不可を予定している（事例問題、論述問題等を予定）。
小さな課題と小テストを課す可能性がある。また毎回の授業ではリアクションペーパーの提出を求める。これらはいずれも平常点の対象とする。
＊2024年9月19日AM8:50変更
期末試験は、期末試験期間に実施する。

【学生の意見等からの気づき】
授業のありかたに対しては、おおむね好評だったのではないか。継続しつつ、資料や事案の参照などについて、より理解を促進するような内容・形式にバージョンアップを図りたい。ゲストスピーカーは受講生に好評だったので継続することにしている。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料を学習支援システムを通じて共有する。また、数回オンライン授業を実施する可能性がある。PCやタブレット等の必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】
独占禁止法の基本的な内容について、経済法Ⅰ（春学期）及び経済法Ⅱ（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。経済法Ⅱ（秋学期）は、経済法Ⅰ（春学期）の講義内容の学習を通じて独占禁止法について十分な知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【Outline (in English)】
(1)Course Outline
This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.
(2)Learning Objectives
Acquiring basic concepts of antitrust law.

Understanding sufficiently the mechanism by which competition is restricted in the market by restrictive competition actions of business operators.
Understanding the nature and necessity of "fair competition" in business activities.
(3)Learning Activities Outside of Classroom
Review the textbook, reference books, and lecture materials after the lecture. Students are expected to obtain information on recent cases from newspapers and other sources. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each class.
(4)Grading Criteria /Policy
70%for the final exam and 30%for others.
In the final exam, students are not allowed to bring in references.
Small assignments and quizzes may be required. In addition, a reaction paper will be required in each class. All of these will be subject to the above "30%".

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

藤木　貴史

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようにさまざまな規制を行う法分野です。
　労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱います。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、継続して履修することを強く勧めます。
　この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。
〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。
①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる
〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】
①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／労働法と紛争解決
第2回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舎規定
第3回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労働組合・過半数代表者／労働法の法源
第4回	労働契約規制（1）	本体的権利義務／使用者の付随義務
第5回	労働契約規制（2）	労働者の付随義務
第6回	労働契約規制（3）	労働基準法上の規制／国際的労働契約
第7回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定）／試用期間
第8回	労働契約の終了（1）	合意解約と辞職／定年／解雇制限
第9回	労働契約の終了（2）	解雇権濫用法理
第10回	懲戒	懲戒処分の種類／根拠と限界
第11回	労働条件の決定（1）	労働契約・労使慣行／就業規則
第12回	労働条件の決定（2）	就業規則と労働契約法
第13回	労働条件の決定（3）	就業規則の不利益変更
第14回	労働紛争の実態	労働紛争の実態を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］（1時間程度）
・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。
［復習］（3時間程度）
・LMS上の小テストを解きましょう。
・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
・その回で取り扱われた判例について、(i)どういう事件だったか、(ii)裁判所はどういうルールを設定したか、(iii)裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】
藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所　2020年）
大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】
日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2025年版）』
三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】
到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。
［小テスト］3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
［中間テスト］2割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）
［期末テスト］5割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】
授業資料については比較的評価が高かったので継続して利用します。中間テストに対するフィードバックはより素早く行えるように準備します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
［関連科目］
・労働基準法との連続履修を強く勧めます。
・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）
［授業を受ける姿勢］
・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
・六法／法令集も授業に必ず持ってくること。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】
1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.
In this lecture, students learn about the framework of individual labor &employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.
2.Learning Objectives
(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.
(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.
(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.
3.Learning activities outside of classroom
< Before the class> (about 1 hour)
-Print out your resume from the LMS.
-Read the textbook for the part indicated in the resume.
< After the class> (about 3 hours)
-Take the quiz in LMS.
-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.
-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told
4.Grading Criteria /Policy
-Quiz(30%)
-midterm exam(20%)
-final exam(50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

藤木　貴史

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようにさまざまな規制を行う法分野です。
　労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、連続して受講することを強く推奨します。
　この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。
〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。
①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる
〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】
①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働契約法の復習／労働基準法の全体像
第2回	賃金（1）	賃金総論／最低法賃金／賃金支払いの4原則
第3回	賃金（2）	賞与／退職金／休業手当
第4回	賃金（3）	賃金債権の確保／休業手当／解雇と賃金
第5回	労働時間（1）	労働時間の定義／休憩・休日
第6回	労働時間（2）	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第7回	労働時間（3）	弾力的労働時間制度／裁量労働制／労働時間法制の適用除外
第8回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第9回	人事制度（1）	配転／出向、転籍
第10回	人事制度（2）	昇進・降職／昇格・降格／人事考課
第11回	企業組織再編	合併／事業譲渡／企業分割
第12回	労災（1）	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険
第13回	労災（2）	過労死・過労自殺／労災民訴
第14回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］（1時間程度）
・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。
［復習］（3時間程度）
・LMS上の小テストを解きましょう。
・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
・その回で取り扱われた判例について、(i)どういう事件だったか、(ii)裁判所はどういうルールを設定したか、(iii)裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】
藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】
日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2025年版）』
三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】
　到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。
・［小テスト］3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
・［期末テスト］7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】
授業資料についてはおおむね良好な評価を得ているので、引きつづき利用を継続します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
［関連科目］
・労働法総論・労働契約法との連続履修を強く勧めます。
・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）
［授業を受ける姿勢］
・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
・六法／法令集も授業に必ず持ってくること。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】
1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.
In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.
2.Learning Objectives
(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.
(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.
(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.
3.Learning activities outside of classroom
< Before the class> (about 1 hour)
-Print out your resume from the LMS.
-Read the textbook for the part indicated in the resume.
< After the class> (about 3 hours)
-Take the quiz in LMS.
-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.
-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told
4.Grading Criteria /Policy
-Quiz(30%)
-Final exam(70%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

沼田　雅之

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008年3月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。
◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】
１．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
２．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的
な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト
〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題
（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１～３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガル
マインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月8日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法について。労働法の全体像について
第2回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第3回	労働関係のプレイヤー	労働者、使用者について
第4回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第5回	労働契約の終了（1）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について
第6回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について
第7回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第8回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第9回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第10回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第11回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第12回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第13回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について
第14回	紛争解決	労働関係の紛争解決手段について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エ
イデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】
・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【【専門領域と研究業績】】
＜専門領域＞　社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞　非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞
【主な著書】
（編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19　第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法［第3版］」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第３巻　労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）
【主な論文】
「『同一労働同一賃金』と見直しが迫られる『あたりまえ』の処遇」（JP総研Research63号）
「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」（労働法律旬報2035号）

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」（労働法律旬報2026号）
「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」（年金と経済41巻4号）
「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」（季刊労働者の権利349号）
「フランチャイズ店舗加盟店主の労組法上の労働者性」（労働法律旬報2014号）
・「労働契約申込みみなし制度における偽装請負と『免れる目的』」（法律時報94巻9号）
・「プラットフォームワーカーの自由と保障―『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」（世界960号）

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.
The outline is as follows:
－1. A basic principles of labor law;
－2. A Labor Contract Act;
－3. A case law concerning the Labor Contract Act.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
－ B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
－ C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
－ D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－a. Term-end examination: 80%
－b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

沼田　雅之

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法律学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

１．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
２．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的
な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト
〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題
（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１～３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガル
マインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月23日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守らせるための手段について
第2回	労働基準法の労働者・使用者（1）	労働基準法上の「労働者」について
第3回	労働基準法の労働者・使用者（2）	労働基準法上の「使用者」について
第4回	労働者の人権	均等待遇原則、強制労働の禁止について
第5回	賃金（1）	賃金の定義、賃金支払規制について
第6回	賃金（2）	休業手当、最低賃金規制について
第7回	賃金（3）	賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第8回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第9回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第10回	労働時間規制（3）	割増賃金、労働時間規制の適用除外について
第11回	フレキシブルな労働時間制度（1）	変形労働時間制・フレックスタイム制について
第12回	フレキシブルな労働時間制度（2）	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第13回	休暇	年次有給休暇等について
第14回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エ
イデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】

・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

シラバスの内容を変更し、実務家の方による講演を実施することがあります。

【【専門領域と研究業績】】

＜専門領域＞　社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞　非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞
【主な著書】
（編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19　第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法［第3版］」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第３巻　労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）
【主な論文】

「『同一労働同一賃金』と見直しが迫られる『あたりまえ』の処遇」（JP総研Research63号）
「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」（労働法律旬報2035号）
「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」（労働法律旬報2026号）
「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」（年金と経済41巻4号）
「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」（季刊労働者の権利349号）
「フランチャイズ店舗加盟店主の労組法上の労働者性」（労働法律旬報2014号）
・「労働契約申込みみなし制度における偽装請負と『免れる目的』」（法律時報94巻9号）
・「プラットフォームワーカーの自由と保障―『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」（世界960号）

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.
The outline is as follows:
－1. About a Labor Standards Act;
－2. A case law concerning the Labor Standards Act.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
－B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
－C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
－D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－a. Term-end examination: 80%
－b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法Ⅰ

村元　宏行

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育法は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法（労働法中心）コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。
伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。
そのような状況を踏まえて、教育法Ⅰでは教育法の基本原理から、国家による教育統制に関わる問題についてまでを取り上げることとします。

【到達目標】
教育法制についての基礎的理解を深める。国家の教育統制とその限界、教育の自由との関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取りいれていきます。
この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第2回	教育法の基本原理	教育法の歴史、教育法の法源など
第3回	戦前教育の特色	戦前教育法制について
第4回	戦後教育改革	憲法・教育基本法制の生成過程について
第5回	戦後教育政策の展開	国家の教育統制の歴史的流れについて
第6回	新・教育基本法制（旧法）	旧教育基本法について
第7回	新・教育基本法制（新法）	新教育基本法について
第8回	教育三法改正ほか	教育基本法改正後の主要法律の改正について
第9回	教育権―学習指導要領（沿革、学説）	学習指導要領の法的拘束力について沿革、学説を通して考察する。
第10回	教育権―学習指導要領（判例）	学習指導要領の法的拘束力について判例・裁判例を通して考察する。
第11回	教育権―教科書検定（沿革、学説）	家永教科書訴訟について沿革、学説を通して考察する。
第12回	教育権―教科書検定（判例）	家永教科書訴訟について判例・裁判例を通して考察する。
第13回	教育権―学力テスト事件（沿革、学説）	旭川学力テスト事件について沿革、学説を通して考察する。
第14回	教育権―学力テスト事件（判例）	旭川学力テスト事件最高裁判決について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ハンディ教育六法　2025年版』北樹出版、2025年

【参考書】
予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）
授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】
履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and its historical background
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法Ⅱ

村元　宏行

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】

子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。

近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取りいれていきます。

この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第2回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原理について
第3回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第4回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第5回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第6回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第7回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第8回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第9回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第10回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第11回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第12回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第13回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第14回	教育改革と学校参加（今後の課題）、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法　2025年版』北樹出版、2025年

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）
授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

その他履修にあたっての注意事項は開講時に説明するので、初回の授業には出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and student rights.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200AB（法学 / law 200）

法哲学Ⅰ

大野　達司

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見ることができるようになることを本講義の目標とする。
本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】
法哲学は大きく分けて、法が追求するべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。法哲学１では、前者の正義論の基本を理解する。具体的には、社会が追求するべき正義とはなにか、客観的な価値は存在するのか、自由や平等という価値はどのようなものであるのかという諸問題を代表的な法哲学者の議論を通じて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は対面を基本としますが、必要に応じてオンライン（あるいはオンデマンド）の可能性があります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。質問は随時受け付けます。授業内か、必要に応じて学習支援システムで応答します。テキスト各章に上がっている事例について意見交換の時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	古典的正義論	現代正義論以前の正義論を見る
第3回	功利主義	正義とは諸個人の快の総和であるとする功利主義について見る
第4回	ロールズと『正義論』	現代正義論において最も主要な論者であるジョン・ロールズのリベラリズムのうち、前期における議論について見る
第5回	ロールズと『政治的リベラリズム』	後期ロールズの議論を見る
第6回	ロールズとグローバル正義論	ロールズのグローバル正義論を見る
第7回	ロールズに対する批判	功利主義・リバタリアニズム・共同体論などからの問題提起を取り上げる。
第8回	リバタリアニズム	最小国家を超える国家は正当化できないとするリバタリアニズムの議論を見る
第9回	コミュニタリアニズム	正義と人間の生き方を区別するリベラリズムを批判するコミュニタリアニズムの議論を見る
第10回	リベラリズム対コミュニタリアニズム	リベラリズムとコミュニタリアニズムの対立を整理する
第11回	自由	J・S・ミルを中心に自由に関する議論を見る
第12回	平等	正義と平等の関係について見る
第13回	権利	権利の概念・特質について
第14回	自然権と人権	自然権・人権の歴史と現代の状況について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布するレジュメや教科書、下記に挙げる参考書、講義時に記載したノートに基づいて予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)、2,800円＋税

【参考書】
那須耕介・平井亮輔編『レクチャー法哲学』法律文化社、2020年
宇佐美誠／児玉聡／井上彰／松元雅和『正義論』法律文化社、2019年
瀧川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2018年
平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』有斐閣、2002年
住吉雅美『あぶない法哲学』講談社、2020年

【成績評価の方法と基準】
授業全体に関する期末レポート（予定：5000字程度）と各回終了後の内容確認オンライン「クイズ（10問ほど、穴埋め）」による。平常点／クイズ30％、期末レポートを70％とする。（クイズは復習が主なので二週間ほどの期限内、何度でも回答可）

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（レジュメとクイズ）とグーグル・クラスルーム（大きい資料がある場合）を利用する。

【Outline (in English)】
(Course outline) "Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws.
(Learining Objectives) The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws. Themas of "Philosophy of Law 1" are around Theory of Justice, namely Liberty, Equlity, (Human) Rights and so on.
(Learning activities outside of classroom) Before each lesson, participants should read the rellevant chapter.
(Grading Criteria/Policiy) After each lesson, a simple "quiz" to check the contents will be given online(30%), and grades will be evaluated based on the term-end report(70%).

LAW200AB（法学 / law 200）

法哲学Ⅱ

大野　達司

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見ることができるようになることを本講義の目的とする。法哲学Ⅰを受けて、Ⅱでは教科書6章からはじめるが、Ⅰの履修を条件にはしない。
本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】
法哲学は大きく分けて、法が追求するべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。本講義では、後者の法概念論を講義する。具体的には、法を用いるという活動はどのような活動なのか、法と道徳や慣習はどのような相違点を持つのか、裁判官に代表される法律家の営みはどのように理解されるべきかといった諸問題、国際的正義、世代間正義、環境問題、動物の権利、遵法義務と市民的不服従などに関する代表的な法哲学者の議論を理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
受講者が、教科書における指定箇所を読んできていることを前提として講義を行う。基本的には教科書を踏まえて講義するが、教科書では取り上げられていないが担当者が重要と考える法哲学に関するトピックも取り上げる。対面授業の場合、授業内で各章の設例をもとに討論の機会を適宜設けたい。
対面授業ができない場合、音声等のファイルと、レジュメをもとにすすめる。授業時間内・指定した期間に質問を学習支援システムで受け付け、随時応答する。各授業後に、内容確認のため、簡単なクイズをオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	6章正義論の最前線、その1	１節グローバル正義論を中心に
第3回	６章正義論の最前線、その２	２節世代間正義と３節姓名と環境を中心に
第4回	７章ルールとしての法、その１	１節命令としての法、２節命令からルールへを中心に
第5回	７章ルールとしての法、その２	３節法と道徳を中心に
第6回	８章法の価値	自然法論・法の中の道徳、法の底にある善
第7回	９章法の権威	二つの法実証主義、理由・権威・法
第8回	１０章解釈としての法	法の意味論的理論、解釈、規約主義とプラグマティズム、批判と応答
第9回	１１章批判理論	「主流派法学」の批判、CLSの理論と主張、その後の批判理論
第10回	１２章遵法義務、その１	遵法義務という問題、遵法義務の正当化論、
第11回	１２章遵法義務、その２	自然状態と自然義務、悪法と不服従
第12回	エピローグ法哲学の基礎理論、その１	メタ倫理学と価値の多元性
第13回	エピローグ法哲学の基礎理論、その２	法哲学はどのような分野か
第14回	全体のまとめ	後期全体のまとめと相互の関連について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)、2,800円＋税

【参考書】
宇佐美誠／児玉聡／井上彰／松元雅和『正義論』法律文化社、2019年
平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』有斐閣、2002年
瀧川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2016年
那須耕介・平井亮輔編『レクチャー法哲学』法律文化社、2020年
住吉雅美『あぶない法哲学』筑摩書房、2020年

【成績評価の方法と基準】
期末試験、もしくはレポート（オンラインの場合）、各回に簡単なクイズを実施する（オンライン）。それぞれ70％、30％。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ、資料配付、クイズなどにつき授業支援システム。資料が大きい場合、グーグル・クラスルーム。必要に応じてオンライン授業（zoom）となる場合がありうるので、対応できるように。

【その他の重要事項】
法哲学Ⅰの受講が望ましいが、要件ではないので、ご自由に受講して下さい。

【Outline (in English)】
(Course outline) Philosophy of law is an academic discipline that learns the fundamental and background ideas and theories of the positive law. This lecture aims to acquire basic concepts in Philosophy of law and to be able to see the law from various viewpoints."Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws. The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws. (Learning Objectives) Themas of "Philosophy of Law 2" are not only theoretical problems as the concept of law, or theories of legal reasoning, but also, the analyse of actual problems form the perspectives of it, namely "Global Justice", "Justice among different generations", "enviromental justice", "animal rights", "civil disobdience" and so on.
(Learning activities outside of classroom) Before each lesson, participants should read the rellevant chapter
(Grading Criteria/Policy) After each lesson, a simple "quiz" to check the contents will be given online (30%), and grades will be evaluated based on the term-end report(70%).

LAW300AB（法学 / law 300）

法と遺伝学Ⅰ

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この授業は、「他学部公開科目」であり、他学部生も3-4年生ならどなたでも履修できます！
●テーマ：21世紀の遺伝学・医学・細胞学と 法・法学・政策
そこの人！　ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。
【授業の概要】
①デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもって法的・政策的にアリでしょうか？ 2018年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド3人はどうなったのでしょうか？
②同性婚の法制度が議論されています。それとは別に「同性間の実子」つまり女性2人の遺伝子を、あるいは男性2人の遺伝子を継ぐ子どもってありえるのでしょうか？
③イギリスでは2015年に既に「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が法制度上認められました。日本ではどうなっているのでしょうか？
【授業の目的・意義】
以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答は一つではない。世界中で誰もこの3つの問に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」のです。論理的に、法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業「法と遺伝学Ⅰ」の内容は、21世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、遺伝学・医学・細胞学という自然科学の発展を踏まえ、「法と遺伝学」の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。
★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】
●学生は、21世紀の遺伝学・医学・細胞学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策学的・社会的な解決法を、「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」能力を身につけます。
●学生同士のグループディスカッションにより、教材中の論点についての疑問・理解の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、上記の新たな問題について「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、新たな解決策を見いだす能力を身につけることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【成績評価の方法と基準】も参照すること：
●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。
●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い遺伝学・医学・細胞学の分野を、まず解りやすく解説します。
●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●学生は、指定された教材の箇所を、次回の授業までに必ず予習し、後日復習します。
●学生は、法的問題とその解決を学ぶには、教員との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。
●授業の進め方の基本方針：「自分の頭で考える：正しい答は一つではない！」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分から議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教員が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は21世紀を生きていく中で必須です！ これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。
●学生の皆さんが授業で学ぶ「法と遺伝学Ⅰ」の内容が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「法と遺伝学」を学ぶに当たっての「遺伝学入門」	テーマに基づく講義＆質疑応答・ビデオ動画教材による遺伝学入門；および最新遺伝学に基づく過去の遺伝学の誤解と現在の理解；さらに21世紀社会を生き抜く我々にとって、特に法学を学ぶ学生にとって、なぜ「遺伝学の基礎的知識」が必須か、そして「法と遺伝学」の学びが必要か、の解説とディスカッション
第2回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非(1)	2001-02年の国際連合の「ヒトクローン禁止条約」の試みで、デザイナーチャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？ の解説＆ディスカッション
第3回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非(2)	2003-05年の日本で、デザイナー・チャイルド問題はどのように取り上げられていたか？ を解説した上で(場合によの解説＆ディスカッション
第4回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非(3)	2015-17年の中国における研究で、デザイナー・チャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？ そして2018年、ついに中国でも規程違反とされたデザイナー・チャイルドの現実での誕生に世界はどう応じたか？ の解説＆ディスカッション
第5回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの人権・法的権利	2018年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド3人が日本国籍を取得し、日本在住である事例を想定し、子の人権・法的権利、特に「出自を知る権利」、その父・母の「出自を知らせる権利・義務」についての解説＆ディスカッション
第6回	同性間の実子(1)	多くの国で同性婚が立法化され、日本を含む諸国でも立法が検討される中、本授業「法と遺伝学Ⅰ」は近未来のテーマとして≪同性2者から精子と卵子が細胞学により作成可能となり、同性間の実子誕生があり得る場合≫を想定し、法的・倫理的・社会的問題を考察する。関連するビデオ動画教材も見て、ディスカッションを行う。

第7回	同性間の実子(2)	現時点で既に哺乳類で可能となっている≪同性2者から精子と卵子が細胞学により作成され、同性間の実子が誕生している≫マウス(ネズミ)、試行中のサイ(絶滅危惧種)、政府の委員会でも議論中のヒトの現実を解説する。その法的・倫理的・社会的問題の解説＆ディスカッションについてディスカッション
第8回	同性間の実子(3)	法的に同性婚をした2者の≪遺伝子を受け継いだ子の姿をデジタルアーティストがシミュレーション≫した例(動画)を見て、「人工主体」の観点も交えての解説＆ディスカッション
第9回	「人工主体」と「法と遺伝学」	ブレイン・マシン・インターフェース(Brain Machine Interface; BMI)を超えて、自己・各自の脳の記憶が死後も完全に「人工主体」として保存される「新たな遺伝」の可能性を解説し、その法的・倫理的・社会的問題について解説＆ディスカッション
第10回	3人のDNAを受け継ぐ子ども(1)	2015年2月、イギリスで改正されたこの法律が及ぼした波紋の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコほかでも、法改正に先行して「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が出生した正当性と法的・倫理的・社会的諸問題の解説＆ディスカッション。日本政府の対応も検討する。
第11回	3人のDNAを受け継ぐ子ども(2)	2015年2月、イギリスで改正されたこの法律の模範性の評価の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコほかで、法改正に先行して「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が出生した諸問題、および日本政府の対応の適否について解説＆ディスカッション
第12回	「法と遺伝学I」の新たな論点(1)	教材にもまだ掲載の無い、「法と遺伝学I」に直結する幾つかの新たな問題・論点を考察する解説＆ディスカッション
第13回	「法と遺伝学I」の新たな論点(2)	教材にもまだ掲載の無い、「法と遺伝学I」に直結する幾つかの新たな問題・論点、特に新たな【法・法律の構築・法改正】を考察する解説＆ディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「法と遺伝学I」「到達目標」に達したかを、毎回の授業の解説・ディスカッションとその評価を振り返って総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

●【教科書/教材】必須の教材文献を初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上のURLを教示、またはPDF化して学習支援システムの「教材」にアップロード・配布する予定。【教材の例】のPDF配布は以下の通り：

★和田幹彦著『法と遺伝学』2005年より、抜粋した教材。

★和田幹彦著「『デザイナー・ベビー』『同性間の実子』再訪：実現性高まる――『ゲノム編集』『男性iPS細胞からの卵子作製』の新技術と法規制・立法の要否：同性婚認容のアメリカ連邦最高裁判決」2015年

★和田幹彦著「３人のDNAを継ぐ子を認める法改正――英国の新『ヒト受精及び胚研究法』」2015年

★ほかに、2020-2025年の「内閣府生命倫理専門調査会」の最新公表資料など

★経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2021年刊の必要な頁のみ【購入不要】

【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。
［1］平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。
以下の詳細は初回の授業で指示する：
各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（法的課題・論点)について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に充分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。
【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】
各回の授業で：
【例a】評価が高い9点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S
【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-
【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-
【例d】評価が低い5点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D
病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。
［2］期末試験・レポートは無い。その代わりに、［1］の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、単位取得予定者は十分に注意すること。
●春学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：
≪21世紀の遺伝学・医学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策学的・社会的な解決法を、「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える)」能力を身につけた≫かどうかを基準として、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

●質問をしやすい環境をより良く整備します。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
●ビデオ、DVD、ブルーレイ教材を多用する予定です。
●時々、教科書や参考書にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・遺伝子操作・最先端医学・細胞学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【学生が準備すべき機器他】

電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める)。

【その他の重要事項】

●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度・政策・政治が本科目のテーマにどのように対応しているかを、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
●法学部以外の学生でも3-4年生はどなたでも履修ができます。この科目を履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
●法学部法律学科生は、通常の選択必修科目・選択科目を適正に履修していれば、準備は十分です。

●法学部政治学科・国際政治学科生は、他の法律科目履修の必要はありません。本授業で「政策と同時に、法学も学ぶ！」姿勢をしっかり持って下さい。
●全学部生に、同じく私による秋学期の「法と遺伝学II」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】：To learn the new issues of "Law and Genetics" which emerged in our domestic and international society of 21st Century.
【Learning Objectives】：To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the new issues of "Law and Genetics" with the backdrop of most recent developments of genetics, medicine and cytology.
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB（法学 / law 300）

法と遺伝学Ⅱ

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この授業は「他学部公開科目」でもあり、他学部生も3-4年生はどなたでも履修できます！
★そこの人！　ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。
【授業の概要】
人間の法と行動って、どこまで遺伝子・生物進化､そしてその産物である脳・思考の影響があるのでしょう？ 例えば：
　①なぜ民法の「親族法」には、そもそも結婚についての法律があるの？　その根源的な理由って何？　ヒトの進化と関係があるの？（あります！　第8回授業【人類進化でなぜ家族は重要か､そこから｢家族法｣がいかに進化したか】を参照）
　②なぜ民法の「相続法」により相続はできるのか？　その根源的な理由って何？　　ヒトの進化と関係があるの？（あります！　第9回授業【｢家父長制・相続の起源｣｢現代の個人相続｣の解説】を参照）
　③憲法や民法の詳しい法律の根底には、他の生物と共通の「法の根源的基盤」があるのか？（あります！　第5回授業【｢法の進化的基盤｣の解説】を参照）
【授業の目的・意義】
以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答は一つではない。世界中で誰もこの3つの問に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が｢独自の思考で考察する（自分の頭で考える）｣のです。論理的に､法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業｢法と遺伝学Ⅱ｣の内容・到達目標の1つ｢進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか｣は、21世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、自然科学の発展を踏まえ、｢法と遺伝学｣の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。
★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】
【1】学生は、21世紀の遺伝学・進化生物学・文化進化論の発展の基礎を学び、これらの自然科学と連動して、新たに「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合います。そして「正しい答えは一つではない」という大前提の下に､「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより「この問いに『応える』」能力を身につけること。
【2】さらに「生物とヒトとヒトの法がこのように進化した」結果は決して「現代の人間集団と国際社会」を束縛するのではなく、逆に「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」という問いへの考察に繋げること。
【3】学生同士のグループディスカッションにより、教材中の論点についての疑問・理解の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、上記の新たな問いについて「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、新たな解決策を見いだす能力を身につけることも目標です。
以上の【1】【2】【3】がこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、｢DP2｣、｢DP4｣に関連。

【授業の進め方と方法】
【成績評価の方法と基準】も参照すること：
●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い科学の分野を、まず解りやすく解説します：遺伝学・進化生物学・文化進化論の基礎と､さらに法・法学との関係を解説していきます。
●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の｢掲示板｣を用いた学生の自由な発言・質問・投稿を歓迎します。
●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●学生は、指定された教材の箇所を、次回の授業までに必ず予習し、後日復習します。
●授業の進め方の基本方針：「自分の頭で考える：正しい答は一つではない！」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分の心の中で議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教師が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は21世紀を生きていく中で必須です！これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。
●学生の皆さんが授業で学ぶ「法と遺伝学II」の内容が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「法とは何か？」の自然科学による再分析・定義の可能性の解説とディスカッション; 動画教材による人類400万年史の解りやすい紹介【リアクションペーパー全員提出；以下同様】
第2回	法の新たな定義と新たな法源	「法」の再定義に先立つ、遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学の基礎的解説とディスカッション；動画教材の人類400万年史視聴(続き)
第3回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(1)［(2)は第11回］	教科書欄の【教材1】に基づき、ヒト集団・社会に法が進化した｢機能｣｢進化史｣｢しくみ｣｢発達｣の概要解説とディスカッション
第4回	遺伝学モデルに基づく｢文化進化論｣による｢法の進化｣	教科書13章｢ヒトに於ける文化の重要性｣に基く｢文化としての法｣の｢文化進化｣の解説とディスカッション
第5回	「遺伝学」による｢生物進化学｣の解説：｢自然淘汰｣の基礎(1)	教科書1,2,3章+【教材2】に基き｢遺伝学は生物進化に直結する｣ことと｢法の進化的基盤｣の解説；動画教材視聴；テーマの解説＆ディスカッション
第6回	「遺伝学」による｢生物進化学｣の解説：｢自然淘汰｣の基礎(2)	教科書1,2,3章に基き｢生物進化の遺伝学上のしくみ｣の解説；テーマのディスカッション
第7回	ヒト属集団・社会の200万年史における｢法の進化｣	教科書4,5,6章【+河田雅圭・動画教材】に基き｢人類史上の進化の中で法はどのように進化し得たか｣の解説；テーマのディスカッション
第8回	ヒト属集団・社会における｢家族・家族法｣の重要性；及び｢家族以外との協力行動｣としての｢法の進化｣	教科書7, 8, 9章に基き｢人類進化でなぜ家族は重要か､そこから｢家族法｣がいかに進化したか；家族以外との協力行動こそ｢法の進化｣の中核であることの解説；テーマのディスカッション

第9回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「性淘汰」の基礎	教科書10,11章に基き「生物とヒトにおける性淘汰」と性差・「家父長制・相続の起源」「現代の個人相続」の解説；それがジェンダー・性的志向・性自認ほかに基づく「差別の根拠とならない」ことの学び；テーマのディスカッション
第10回	ヒトの心の進化と「法の進化」の結びつき	教科書12章に基き「ヒトの心の進化」が「法の進化」にいかに結びつくかの考察・解説；テーマのディスカッション
第11回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(2)［(1)は第3回］	教科書欄の【教材1】【教材4】に基づき、ヒト集団・社会に法が進化した「機能」「進化史」「しくみ」「発達」「言語進化と法の進化の連動性」の詳細解説とディスカッション
第12回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(3)	新たな「教材」で提示する藤本悠雅博士の研究に基づく、≪言語進化以前のヒト集団・社会における法の進化≫の詳細解説とディスカッション
第13回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(4)	縄文時代の日本において、「認知考古学」という新しい研究方法に基づく ≪言語進化以後の集団・社会規範とそれに基づく法の進化≫の詳細解説とディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「法と遺伝学II」の「到達目標」に達したかを、総括する解説とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●学生は、各回に必ず【教科書】と【教材】の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
●学生は、授業で扱った【教科書】と【教材】の箇所と授業内容を必ず復習すること。
●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】
●【教科書】長谷川寿一・長谷川眞理子・大槻久『進化と人間行動』第2版（2022年）東京大学出版会(2,500円+税）：多用するので、必ず入手すること。
●【教材】追加的に、最新の文献を含めて初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上のURLを教示、またはPDF化して学習支援システムの「教材」にアップロード・配布する予定。
【例】【教材1】和田幹彦(2021年刊)「律する」『進化で゛わかる人間行動の事典』234-238頁.pdf
【教材2】和田幹彦(2023年刊)「『法の進化』研究・素描」.pdf
【教材3】河田雅圭［東北大学教授・進化生物分野］(2021年版；学術的内容)「ヒトはいつ出現し、どう進化をたどってきたのか」
https://note.com/masakadokawata/n/n79991282d860
【教材4】河田雅圭［同上］『多様性と異文化理解』（東北大学出版会/2021年）の第1章「進化的視点からみる人間の『多様性の意味と尊重』」（購入は不要；以下の公式サイトを用いる）
https://note.com/masakadokawata/n/nb758462b63fb
【教材5】経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2021年刊の必要な頁のみ【購入不要】

【参考書】
不要（特に指定しない）。

【成績評価の方法と基準】
【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。
［1］平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。
以下の詳細は初回の授業で指示する：
各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（課題・論点)について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に充分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。
【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】
各回の授業で：
【例a】評価が高い9点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S
【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-
【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-
【例d】評価が低い5点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D
病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。
［2］期末試験・レポートは無い。その代わりに、［1］の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、単位取得予定者は十分に注意すること。
●秋学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：
【1】21世紀の遺伝学・進化生物学・文化進化論の発展の基礎を学び、これらの自然科学と連動して、新たに「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合えたか。そして「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える)」ことにより「この問いに『応える』」能力を身につけられたか。
【2】さらに「生物とヒトとヒトの法がこのように進化した」結果は決して「現代の人間集団と国際社会」を束縛するのではなく、逆に「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」という問いへの考察に繋げることができたか。
【3】学生同士のグループディスカッションにより、教材中の論点についての疑問・理解の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、上記の新たな問いについて「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、新たな解決策を見いだす能力を身につけることができたか。
以上を基準として、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
●質問をしやすい環境をより良く整備します。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
●【動画教材】ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
●時々、【教科書】【教材】【参考書】にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【学生が準備すべき機器他】
電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める)。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度の共通点に着眼し、「法とは何か？」という主題を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
●法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。
　この科目履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
●法学部法律学科の学生は、通常の選択必修科目、選択科目を適正に履修していれば、準備としては十分です。
●法学部政治学科・国際政治学科生は「法学を学際的に学ぶ！」姿勢をしっかり持って下さい。
●全学部生に、同じく私による春学期の「法と遺伝学I」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】: To learn the new issues of "Law, Behavioral Genetics, Evolutionary Biology &Psychology, and Neuroscience".
【Learning Objectives】：To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the evolutionary foundations of law, and law's evolution itself.
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam or paper for 50/100 points.

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（日本レコード協会寄付講座）エンタメ産業と法

武生　昌士

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、音楽・放送・出版・ゲームなどのエンターテインメント産業について、具体的なビジネスの内容やそれらを支える法制度（著作権法等）について、各界の第一線で活躍する方々をゲストスピーカーとしてお招きし、オムニバス講義形式で授業を行います。
各業界の現状・構造がどのようなものか、情報化社会の進展によりそれがどのように変容しているのかを学ぶとともに、将来の進路の選択肢のひとつとしてエンターテインメント産業を意識してもらうことにより、受講生にキャリア形成の幅を広げてもらうことが本授業の目的です。

【到達目標】
受講生が、エンターテインメント産業の現状と今後について、それを支える著作権法などの法制度に関する事柄も含めて、重要な事項や概念を正しく理解し、説明できるようになること。
また、エンターテインメント産業を進路の選択肢のひとつとして意識し、講義内容を自身のキャリア形成に具体的に役立てるとともに、自身が講義から受けた影響を言語化して説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
エンターテインメント産業の第一線で活躍される方々をゲストスピーカーとしてお招きし、オムニバス形式で講義していただく形で授業を進めます。市ヶ谷キャンパスでの対面授業を基本としますが、多摩・小金井の学生にも受講してもらえるよう、オンライン同時配信（ZoomまたはWebex、受講者数により判断）を実施します。（市ヶ谷の学生にもオンライン受講を認める予定ですが、受講者数なども勘案しつつ、開講後に改めて指示します。）
講義終了後、学習支援システムを通じて感想文を提出してもらいます。また、講義後に同じく学習支援システムに公開する小テストにも取り組んでいただく予定です。
以下には2024年度の実績を基に仮の授業計画を示しますが、テーマ・順番共に変更される可能性がありますので、詳細は開講後に学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、エンターテインメント産業と著作権法	講義の概要や成績評価方法の説明、著作権法の概要
第2回	レコード産業の構図と現状	レコード産業の現状と課題、課題への法的対応など
第3回	放送業界	放送業界の現状と課題
第4回	レコード会社のビジネス	レコード会社のビジネスの実情、今後の課題など
第5回	音楽著作物の集中管理	音楽著作物の集中管理の実務と今後の課題
第6回	音楽配信ビジネス	音楽配信ビジネスの現状と展望
第7回	ライブ・コンサートビジネス	ライブ・コンサートビジネスの実情、今後の課題など
第8回	アニメ業界	アニメ業界の現状と課題
第9回	コンテンツをめぐる紛争	コンテンツ制作やコンテンツ利用をめぐる法律紛争について
第10回	アーティストプロモーション	アーティストプロモーションの現状と課題など
第11回	ゲーム業界	ゲーム業界の現状と課題、ゲーム業界の法務
第12回	キャラクタービジネス	キャラクタービジネスの現状・課題・展望
第13回	出版業界	出版業界の実務
第14回	日本のコンテンツビジネス戦略	コンテンツ産業の政策実務

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習については、事前に資料の紹介などがなされた場合、一読してから授業に臨んでください。
授業後、リアクションペーパー（感想文）の提出、及び小テストへの解答を、それぞれ学習支援システムから行ってください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特にありません。（授業の資料は学習支援システムにアップします。）

【参考書】
参考書は、必要に応じて、各回の授業において提示されます。
著作権法を含む知的財産法に関する参考文献として、茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』（有斐閣、2020）、前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂、2021）など。

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回、授業後に、学習支援システムを通じて感想文を提出してもらい、これによって成績評価をする予定です（30％）。
（2）また、同じく授業後に学習支援システムに公開される小テストによっても成績を評価する予定です。（70％）。
※ただし、上記（1）・（2）のいずれも、学習支援システムのリプレイスがもたらす影響次第で見直す可能性もあります。詳細は初回授業及びその後にも随時、改めて指示致します。
以上の基準について、初回の授業でより詳細に説明を致しますので、受講を検討されている方は、できるだけ初回から出席するようにしてください。第2回以降から出席する場合、最低限、初回の講義資料の内容をよく読んで、成績評価の方法をよく理解して出席するようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の方法をよく理解しないまま、漫然と「小テストだけ」・「感想文だけ」提出している受講生が少なからず見受けられるので、初回授業でより丁寧に説明するほか、期中にも定期的に注意喚起を行うようにしたい。（その上で、成績評価は一昨年度・昨年度よりもより厳正に行うこととしたい。）

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This omnibus course covers the entertainment industry and entertainment law in Japan.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to :
— Demonstrate knowledge and understanding of the entertainment industry and entertainment law in Japan.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on:
— online quiz(short test)：70%
— online reaction paper：30%

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ジェンダー論Ⅰ

中野　洋恵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？ 一言でいえば、権威化され、硬直化した既成の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論Ⅰでは、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。いわばジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】
授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来にない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。
(1)ジェンダー概念
本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、そのそしてその要因はどのような政治的、社会的と関わっているのかを理解します。
この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様ざまな社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。
(2)様々な政策からジェンダー問題を理解する
1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2020年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」をもとに様々な分野で推進されている政策を理解することによって．政策決定過程やあらゆるレベルの政策及びシステムをジェンダー平等にするための政策理念「ジェンダー主流化（Gender Mainstreaming）」概念を明確にします。
(3)ジェンダー平等を進めるために
平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。
どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。
授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに，いくつか内容を取り上げ，全体に 対してフィードバックを行います。
レポートの提出は「学習支援システム」通じて行う予定です。
また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。
授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	ジェンダーとは？ ①ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれついて の生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	ジェンダーとは？ ②ジェンダーをめぐる最近の動向について考える	現在ジェンダーをめぐる課題が大きく取り上げられるようになっている。 多様性をどう考えるかLGBTQやパートナーシップ制度等に関する法制度の整備も進んでいる。政策の動向についても考察する。また、各地の裁判所で出された判決についても言及する。
第4回	家族とジェンダー	未婚化、少子化が進んでいる。家族を形成する結婚や子育ての状況が変化している。歴史的な動向を説明すると主に現状の問題を考えるとともに。少子化に対応する子育て支援施策(異次元の少子化対策)についてジェンダーの視点から考える。
第5回	教育とジェンダー①	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。 教育の中に潜むジェンダー問題を明らかにする。
第6回	教育とジェンダー②	「理系は男子が得意で女子は文系が得意」という言説について考える。内在しているアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）を理解する。
第7回	労働とジェンダー①	「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。 女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることとなった。また、「年収の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。

第8回	労働とジェンダー②	男女ともに働きやすい職場環境を作るために「ワーク・ライフ・バランス」の取組が進んでいる。2022年に男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設された。男性が育児に関わることの意味と課題を考える。
第9回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第10回	女性に対するあらゆる暴力の根絶	女性に対する暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を葉来るためのはどうすべきかを考える。改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。
第11回	政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。2018年に施行された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」についても言及する。
第12回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を基に理解する。特に今年の12月には「第6次男女共同参画基本計画」が閣議決定されることが予定されているのでその内容についても説明する。
第13回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。SDGs、GGGI等の国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし。その要因も考える。今年は第4回世界女性会議から30年が経過し、「北京+30」の取組の世界的なレビューが予定されている。国際的にみたジェンダー平等の達成と課題について説明する。
第14回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】
・三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書2023年）
・牧野百恵『ジェンダー格差』（中公新書2023年）
・関口洋平『イクメンを疑え！』
・第5次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト　ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
http://wwwa.cao.go.jp/wlb/index.html
・女性に対する暴力
若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
NWEC実践研究第９号「ジェンダーに基づく暴力」
・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html
・内閣府男女局　理工チャレンジ（リコチャレ）
http://www.gender.go.jp/c-challenge/
・科学技術振興機構　ダイバーシティ推進
http://www.jst.go.jp/diversity/index.html
・初等中等教育における男女共同参画
国立女性教育会館　https://www.nwec.jp/about/publish/kyoin-program.html

【成績評価の方法と基準】
内容ごとの課題レポートの提出（50%）
筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）(50%)

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。ジェンダー平等に向けてどのような社会を構築することが持て目られるのかは様々な意見があります。現状の何が課題となっているのかをデータや理論から丁寧な説明を心がけます。意見交換の場の充実を検討します。

【Outline (in English)】
Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.
Course outline
This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.
Lecture/Exercise（two-credits）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ジェンダー論Ⅱ

梅垣　千尋

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目です。ジェンダーと政治をめぐる問題を、時間的にも空間的にも射程を広げてとらえ返すことを目的とします。具体的には、おもにイギリス近現代史に焦点を当てながら、ジェンダーの視点からみた政治のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

【到達目標】
・現代日本のジェンダーと政治をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。
・ジェンダーの視点から、議会内外の政治のあり方を複眼的にとらえ、政治の多元性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義が中心となりますが、可能なかぎり視聴覚資料を使用して理解を助けます。授業の終わりに小テストを提出してもらい、次回の授業でその内容をいくつか取り上げ、全体にむけてフィードバックを行いながらさらなる議論に活かします。また、前半のテーマと後半のテーマのそれぞれの締め括りの回では、全体でディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	〈ジェンダーと政治〉について考える
第2回	歴史とジェンダー（1）	近世君主制とジェンダー
第3回	歴史とジェンダー（2）	近代君主制とジェンダー
第4回	歴史とジェンダー（3）	現代君主制とジェンダー
第5回	歴史とジェンダー（4）	女性君主をめぐる問題
第6回	歴史とジェンダー（5）	日本における女性天皇の可能性
第7回	女性と政治参加（1）	政治の民主化とフェミニズム
第8回	女性と政治参加（2）	女性参政権運動
第9回	女性と政治参加（3）	政治運動とジェンダー
第10回	女性と政治参加（4）	ウーマンリブ運動
第11回	女性と政治参加（5）	労働運動とジェンダー
第12回	女性と政治参加（6）	女性首相の誕生
第13回	女性と政治参加（7）	政治的リーダーシップとジェンダー
第14回	女性と政治参加（8）	日本におけるクオータ制の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前は、講義予定を勘案しながら、キーワードとなる人物や事柄について調べておくこと。授業後は、講義内容を振り返り、各自の関心に従って参考文献を読み進めること。この講義の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
授業時にその都度、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点85％（小テスト、発言など）
・レポート15％
詳しい評価基準については、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
小テストの記述内容を（匿名で）取り上げて紹介したり、授業中にブレインストーミングの時間をもったりすることで、受講者同士での学び合いを促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
課題の提出は、学習支援システムを利用する予定です。受講にあたっては、学習支援システムを活用できる環境が必要です。

【その他の重要事項】
履修登録期間終了後は、オンライン授業の場合でも原則としてリアルタイム型とし、録画を公開しませんのでご注意ください。

【Outline (in English)】
COURSE OUTLINE
This course explores a range of historical issues relating to gender and politics with a particular focus on modern British history.
LEARNING OBJECTIVES
By the end of the course, students will be able to gain comparative perspectives on issues surrounding gender and politics, both internationally and historically.
LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM
Students are required to complete weekly assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
GRADING CRITERIA
Grading will be decided based on weekly assignments (85%) and a short report (15%).

POL200AC（政治学 / Politics 200）

福祉政策Ⅱ

荒木　千晴

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。
日本の社会福祉制度は、対象者別に発展してきたが、現在「地域共生社会の実現」に向けて、地域を基盤に、社会福祉の各制度を包括化する方向で展開されている。
本授業では福祉政策の展開と論点を理解するとともに、近年の福祉政策を特徴づける包括的支援体制について検討する。また、海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴について理解を深める。

【到達目標】
・福祉政策が求められる背景にある社会問題を理解する。
・現在の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。
・近年における福祉政策の展開を理解する。
・福祉政策の内容と実際について、複数のテーマにおける事例をもとに理解する。
・海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・福祉政策に関する基礎概念、政策、団体、海外の制度等、毎回中核となる主題をとりあげる。また、テーマに即した具体的な事例等を通じて、多角的・実践的な視点から福祉政策の理解をすすめる。
・なお、各回のリアクションを受け止めるため、専用のメールを開設する。このメールに質問、感想などを求め、理解度や疑問に対応しながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法等を説明する。
第2回	福祉政策の展開	日本における福祉政策の歴史的な展開を理解する。
第3回	今日の社会問題と福祉政策	現代における社会問題を概括し、福祉政策に求められている論点について考える。
第4回	所得保障に関する福祉政策	所得保障に関する各制度の概要、生活保護、生活困窮者自立支援事業等の政策動向について理解する。
第5回	高齢者福祉政策	高齢者福祉に関する福祉政策について、介護保険や地域包括ケアシステムの概要・政策動向を理解する。
第6回	障害者福祉政策	障害者福祉政策について、障害者自立支援制度をはじめ制度の概要・地域の支援体制を理解する。
第7回	子ども家庭福祉政策	地域において子どもと家庭を支援する福祉政策について、概要・政策動向を理解する。
第8回	権利擁護に関する福祉政策	地域における権利擁護体制の推進について、成年後見制度の利用促進・意思決定支援等の政策を例に理解する。
第9回	社会的包摂に関する福祉政策	地域共生社会に向け、多文化共生や司法福祉など、社会的包摂の観点が求められる福祉政策の現状について理解する。
第10回	災害と福祉政策	災害時における福祉政策について、事例をもとに検討する。
第11回	地域福祉政策と包括的支援体制	包括的支援体制の構築の基盤となる地域福祉政策の展開、体制および地域福祉計画について、自治体の取組事例をもとに検討する。
第12回	福祉政策を推進する体制	福祉政策を推進するための各機関や人材等について理解し、各機関の連携・協働等今後の体制のあり方を考える。
第13回	海外の福祉政策	海外における福祉政策の展開との比較から、日本の福祉政策の特徴を理解する。
第14回	授業のまとめ、到達度確認（試験）	第13回までの授業を振り返り、授業のまとめを行う。到達度を確認する試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に提供した資料、記録をもとに復習を行うとともに、各回のテーマについて居住する自治体の情報やニュース等、福祉政策の実際に触れ、情報収集を行い、理解を深めることが推奨される。
学習支援システムを通じて教材を事前配布した場合には、授業前に読んで検討しておくことが準備学習として求められる。
本授業の準備学習・復習時間は4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、学習支援システムを通じて教材の配布を行う。

【参考書】
・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「社会福祉の原理と政策」2021年、中央法規出版
・小田 憲三他監修「社会福祉概論 第5版: 社会福祉の原理と政策」2021年、勁草書房
・厚生労働省「地域共生社会のポータルサイト」：
https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/
その他の文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70％）、授業内リアクションペーパー（30％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2024年度には授業内アンケートを受け、関心の高い分野における最新のトピックスを題材として扱うとともに、自治体等における具体的な福祉政策の展開事例を、映像等を用いて紹介を行っている。

【Outline (in English)】
This subject belongs to the "policy-oriented" field within the Department of Political Science courses.
Japanese social welfare system has been developed by the target groups. Currently, however, the system is being developed in the direction of making each social welfare system more inclusive, based on the community, toward the "realization of a regional inclusive society".
In this class, we will understand the development and issues of welfare policy and examine the comprehensive support system that characterizes recent welfare policy. In addition, we will deepen our understanding of the characteristics of Japanese welfare policy by comparing it with welfare policies in other countries.
Students will be Assessed by;
Written Exam 70%, Reaction Paper 30%

POL300AC（政治学 / Politics 300）

外国書講読（独語）Ⅰ

上田　知夫

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハーバマスの『事実性と妥当性』第8章「市民社会および政治的公共圏の役割」から第3節「市民社会のアクター，公共的意見，コミュニケイション的権力」をドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の議論に触れる。

【到達目標】
ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。
政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約2ページ進むことを目指します）。
担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。
また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	第3節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	第3節精読（第2回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	第3節精読（第3回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	第3節精読（第4回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	第3節精読（第5回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	第3節精読（第6回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	第3節精読 （第7回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	第3節精読（第8回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	第3節精読 （第9回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	第3節精読（第10回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	第3節精読（第11回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	第3節精読（第12回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung (Suhrkamp, [1992]/1998), Abs. 8.1.
初回にコピーを配布します。

【参考書】
今回の文献には邦訳がすでにあります。
ユルゲン・ハーバマス（河上倫逸・耳野健二訳）『事実性と妥当性（下）』（未來社、2003年）
こちらを参照するのは自由です。
ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。
独和辞典を所有していない方は、
『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。
文法書を所有していない人は、
中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）
などを持参してください。
その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】
単にテクストを淡々と訳読することはしません。
文法について考えるのみではなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。
文法書または文法教科書も、必ず持ってきてください。
（どちらも平常点の評価ポイントになります。）

【その他の重要事項】
ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。（昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。）

【Outline (in English)】
【Course Outline and Learning Objectives】
This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading Habermas's most recent work.
【Learning activities outside of classroom】
This course requires 2 hours of preparation.
【Grading Criteria /Policy】
Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL300AC（政治学 / Politics 300）

外国書講読（独語）Ⅱ

上田　知夫

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハーバマスの『事実性と妥当性』第8章「市民社会および政治的公共圏の役割」から第3節「市民社会のアクター，公共的意見，コミュニケイション的権力」をドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の議論に触れる。

【到達目標】
ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。
政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約2ページ進むことを目指します）。
担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。
また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	第3節精読（春学期の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	第3節精読（第2回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	第3節精読（第3回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	第3節精読（第4回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	第3節精読（第5回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	第3節精読（第6回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	第3節精読（第7回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	第3節精読（第8回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	第3節精読（第9回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	第3節精読（第10回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	第3節精読（第11回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	第3節精読（第12回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung (Suhrkamp, [1992]/1998), Abs. 8.3.
初回にコピーを配布します。

【参考書】
今回の文献には邦訳がすでにあります。
ユルゲン・ハーバマス(河上倫逸・耳野健二訳)『事実性と妥当性(下)』(未來社、2003 年)
こちらを参照するのは自由です。
ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。
独和辞典を所有していない方は、
『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。
文法書を所有していない人は、
中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）
などを持参してください。
その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】
単にテクストを淡々と訳読することはしません。
文法について考えるのみではなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。
文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。
（どちらも平常点の評価ポイントになります。）

【その他の重要事項】
ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。（昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。）
春学期の続きを読みますが、途中参加も可能です。

【Outline (in English)】
【Course Outline and Learning Objectives】
This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading Habermas's most recent work.
【Learning activities outside of classroom】
This course requires 2 hours of preparation.
【Grading Criteria /Policy】
Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ロシア政治史Ⅰ

油本　真理

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ロシア政治史」では主に20世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史Ⅰ」では、帝政末期からソ連期を経て現在に至るまでの通史を概観する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。

【到達目標】
(1)ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2)政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。質問やコメントは授業の前後およびGoogleフォームで受け付け、次回授業の冒頭でフィードバックする。
※毎回の授業は対面形式で行うが、Zoomによるリアルタイム配信及び録画リンクの共有も実施する予定である。期末試験（授業内試験）は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、本講義の対象地域について
2	帝政期	「大改革」とその後
3	ロシア革命①	帝政の終焉とソ連政権の樹立
4	ロシア革命②	内戦と初期のソ連・ソ連建国
5	ソ連①	スターリン時代
6	ソ連②	大祖国戦争・後期スターリン時代
7	ソ連③	フルシチョフ時代
8	ソ連④	ブレジネフ時代
9	ソ連⑤	ペレストロイカとソ連の解体
10	現代ロシア①	エリツィン時代
11	現代ロシア②	第一次プーチン政権
12	現代ロシア③	「タンデム」期
13	現代ロシア④	第二次プーチン政権
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
油本真理・溝口修平編『現代ロシア政治（地域研究のファーストステップ）』法律文化社、2023年。

【参考書】
栗生沢猛夫『図説ロシアの歴史増補新装版』河出書房新社、2014年。
和田春樹編『ロシア史 (新版 世界各国史)』山川出版社、2002年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業に対するリアクション）（20％）、期末試験（80％）。

【学生の意見等からの気づき】
歴史をより身近に感じられるようにするため、可能な限り写真や映像を用いて授業を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will explore the history and politics of Russia. The first part of the course will be structured in a chronological order. The discussion topics will include causes and consequences of the Russian Revolution, characteristics of Soviet rule, collapse of the Soviet Union, regime change (including transition to market economy), and recent development of authoritarianism under Vladimir Putin. No prior knowledge of Russian history and politics is required.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students will be able to 1) explain Russian history and politics, and 2) apply various theories of political science to analyze the Russian case.
【Learning activities outside of classroom】
Read through the reference materials before class. After the class, review the lecture contents again for a better understanding.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be based on the following:
Term-end examination: 80%, Reflection papers: 20%.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ロシア政治史Ⅱ

油本　真理

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ロシア政治史」では主に20世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史Ⅱ」では、様々なテーマを取り上げ、ソ連・ロシアの事例を他国の経験とも比較しながら検討する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。

【到達目標】
(1)ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2)政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。講義内容へのリアクションおよび質問はGoogleフォームで受け付け、次回授業の冒頭でフィードバックする。
※毎回の授業は対面形式で行うが、Zoomによるリアルタイム配信及び録画リンクの共有も実施する予定である。期末試験（授業内試験）は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、取り上げるテーマについて
2	政治体制①	政治制度
3	政治体制②	政党
4	国家と社会①	選挙
5	国家と社会②	体制と市民
6	様々な政治主体①	宗教と政治
7	様々な政治主体②	軍・治安機関
8	国家と市場①	経済体制
9	国家と市場②	社会政策
10	民族と政治①	連邦制
11	民族と政治②	国民統合
12	ロシアと戦争①	戦争の歴史と記憶
13	ロシアと戦争②	核開発
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
油本真理・溝口修平編『現代ロシア政治（地域研究のファーストステップ）』法律文化社、2023年。

【参考書】
松戸清裕・浅岡善治・池田嘉郎・宇山智彦・中嶋毅・松井康浩編『ロシア革命とソ連の世紀（全5巻）』岩波書店、2017年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業に対するリアクション）（20％）、期末試験（80％）。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへのフィードバックを重視し、双方向的な授業を心がける。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will explore the history and politics of Russia. The second part of the course will be structured according to the relevant topics. The discussion topics will include political regime, state – society relationship, politics and economy, center – periphery relationships, and ethnicity and nationalism. In each class, we will try to focus on the continuity and discontinuity between the Soviet Union and present Russia.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students will be able to 1) explain Russian history and politics, and 2) apply various theories of political science to analyze the Russian case.
【Learning activities outside of classroom】
Read through the reference materials before class. After the class, review the lecture contents again for a better understanding.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be based on the following: Term-end examination: 80%, Reflection papers: 20%.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

コミュニティ政策（日本）

名和田　是彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科の科目の中では行政・地方自治科目群に属します。「コミュニティ」及び「コミュニティ政策」とは何であるか、日本のそれはどういう特徴を持っているかを理解することが、この「コミュニティ政策（日本）」のテーマであり、到達目標です。結論から言うと、日本の「コミュニティ」は、欧米なら地方自治体等として政治制度の中に位置づけられているはずの身近な地域単位です。それが日本では長らく民間サイドに放置されてきました。高度成長期後にこうした「コミュニティ」を再び制度化する政策が試みられ、コミュニティは政治社会の構成要素となっていきました。そして、バブル経済崩壊の1990年代以降の厳しい時代においては独特な役割を期待され、また新たな法制度のもとに展開してきています。自治体内分権とか都市内分権といわれる仕組みがそれです。本講義は、都市内分権制度を中心に、日本特有の身近な地域社会の構造を解明することを目指しています。

【到達目標】
コミュニティ、自治体内分権（都市内分権）、協働といった政策用語が織りなす今日の日本のコミュニティ政策の概要と、その日本的特異性を、理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
コミュニティ政策はある意味で日本に特有なものです。それを理解するためには、日本と異なった構造をもつ国や比較的類似した国との比較の視点をもつことが不可欠です。外国の状況をそれとして扱うのは「コミュニティ政策（理論・国際比較）」の課題とし、本講義では、諸外国との比較を念頭に置きつつ、コミュニティ政策論の基礎理論を端緒的に提示し、それに基づいて日本のコミュニティとコミュニティ政策について概説します。
各回とも事前に講義資料を配付しますので、受講者は予習をして講義に臨んでください。また、講義中に受講者に投げかけをしたり議論をしたりしますので、受講者はそれに呼応して積極的に発言してください。数回程度リアクションペーパーまたは課題を提出していただきますが、それに対しては原則として次の回にコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説　コミュニティ政策というもの、地域的まとまりという発想	「地域的まとまり」の「重層構造」について、受講者の直感的了解を掘り起こし、講義の理論的基礎を獲得する。
第2回	自治会・町内会の構造と特質	自治会・町内会の理解抜きには日本のコミュニティは語れない。日本独自の地域組織とされる自治会・町内会の基本的な性格を、これまでの社会学等の研究に基づいて整理する。
第3回	自治会・町内会の構造と特質　続き	前回に引き続いて、自治会・町内会について整理する。
第4回	地域的まとまりを「運営」するための制度的諸条件	ミルトン・コトラーの考え方に学びながら、地域的まとまりを秩序づけるためには、どのような制度的条件が必要かを考える。そして、日本では、自治会・町内会が民間組織であるにもかかわらず、地域的まとまりを運営できてきたことを解明する。
第5回	コミュニティ政策の開始	昭和の大合併が終わったあと日本は経済の高度成長に入り、都市化の道を歩む。その結果生じた諸矛盾の激発がコミュニティ政策を促した。その最初の時期から１９７０年代の様子を概観する。
第6回	１９８０年代のコミュニティ政策とその転換	１９８０年代のコミュニティ政策はコミュニティ・センター自主管理が主柱であった。これがバブル経済の崩壊とともに変わってくる。この様子を、自治体内分権的な仕組みが登場してくることに即して明らかにすると同時に、地域集会施設の変容についても触れる。
第7回	日本型自治体内分権の成立	１９９０年代からいくつかの自治体で取組まれた新しいコミュニティ政策は、地方自治法に「地域自治区」制度が規定されるあたりからさらに加速してくる。この動きを日本型自治体内分権として捉える。
第8回	日本型自治体内分権と自治会・町内会	自治会・町内会は２０００年前後から特有の弱体化過程に入ったと私は見る。だからこそ自治体内分権という新しいコミュニティ政策が採用されるのであるが、にもかかわらずその制度が主要にあてにしているのは自治会・町内会である。そのため自治体内分権の実践には独特な困難が伴っている。このことをいくつかの実例に則して考察する。
第9回	日本型自治体内分権の類型的特徴	日本型自治体内分権は、参加と協働を基本理念とした、国際比較的に見ても特異な性格のものである。その類型的完成形を高松市の仕組みを分析することによって解明する。
第10回	日本型自治体内分権制度としての地域自治区制度の運用	地方自治法上の地域自治区制度を採用している自治体は多くないが、日本型自治体内分権としての特徴をよく観察できる重要な考察対象である。宮崎市を例にとって、日本型自治体内分権の「限界」について考察する。
第11回	日本型自治体内分権の事例研究	さらに考察材料を増やすために、どちらかといえば「参加」を重視して始まった上越市の地域自治区制度の運用とその変化を扱う。さらに、地域自治区制度ではない、独自の仕組みを設計して自治体内分権制度を行っている自治体の例も取り上げる。
第12回	日本型自治体内分権の限界と可能性	各地の事例を通じて読み取れる、日本型自治体内分権の限界を整理し、現在諸方面で構想されたり試行されたりしている限界突破の構想を吟味する。

第13回	現代日本のコミュニティ政策の総体的動向	以上を総括しつつ、現代日本の政策においてコミュニティがどのように見られ扱われているかを整理する。
第14回	現代コミュニティの展望	財政危機と不況の中で格差が拡大している。この状況のもとでコミュニティはどのような役割を果たせるのか、総務省や日本都市センターなどが行った全国調査をもとに私見を述べ、受講者と意見交換したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料を事前に配布し、これに基づいて講義を行いますので、受講者はこれを予習・復習することが基本です。さらに、講義中に参考文献を紹介しますので、これも読んで学習してください。また、課題を何度か出すことを予定していますので、その際には、単に講義資料の該当箇所を復習するだけではなく、課題を解答するに必要な資料を自ら探して調べることも求められます。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しません。

【参考書】
講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。特に三つ目のものは、一般向けのブックレットですから、入門書として薦められます。
名和田是彦『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）
名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）
名和田是彦『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）

【成績評価の方法と基準】
成績は、何度か（２回または３回を予定）出題する課題と期末の試験によって判定します。課題の採点に当たっては、内容の正しさよりも、課題を受け止めてよく調べよく考えたかどうかを重視して採点します。社会科学においては、正解が複数ある、あるいは正解がはっきりしない、という場合もよくあります。どこかにある「正解」なるものを探す、という学習態度では身につきません。
成績判定に占める比重は、課題が全体で30％、期末の試験が70％と想定しています。

【学生の意見等からの気づき】
コロナ禍の間はほとんどオンライン授業であったため、頻繁に課題を出して、かつこれを採点するのみならず、次回授業で論評するという双方向的なやりとりがあり、私も多くを学ぶことができました。説明の仕方、提示の仕方によって思わぬ誤解が生じたりすることにも気づきました。今年度の講義資料は、これを生かしてブラッシュアップしたいと思います。課題を見ていると、学期中にグッと力をつけてくる受講者が何人かいて、励みになります。

【Outline (in English)】
I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries, especially Germany.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 70%、Short reports : 30%.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

コミュニティ政策（理論・国際比較）

名和田　是彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科の科目の中で、行政・地方自治科目群に属する科目です。コミュニティないしコミュニティ政策は、ある意味で日本特有の現象といえます。諸外国は，日本でコミュニティ政策として処理している課題を、別な形で処理しているからです。この「コミュニティ政策（理論・国際比較）」では、諸外国（特にドイツ）との比較を正面から行なうことによって、日本でコミュニティ政策が必然化してくることを明らかにできる、普遍的な理論枠組を提示したいと思います。

【到達目標】
日本のコミュニティ政策の概略を理解した上で、こうした政策的営みが国際的に見てきわめて特異なものであることを理解し、日本社会の特異な構造の一側面を考えることができるようになること。
具体的には、近代地方自治制度のもとでは、市町村こそがコミュニティを運営する基本的な仕組みであることの理解、市町村合併を経たのちコミュニティにどのような制度的枠組を付与するかで国際比較的な偏差が生ずることの理解、その中で日本はきわめて特異な経過をたどったことの理解、こうした理解を可能にする理論枠組である「地域的まとまり論」の理解、が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式ですが、時折受講者からの発言を求め、受講者の問題意識を共有したり、理解度や知識水準を確認したりして、授業内容を受講者の能力とニーズに合ったものにするように努めます。また、配布資料を充実し、事前事後の学習に役立つようにします。数回程度リアクションペーパーや課題を提出していただきますが、それに対しては原則としてその次の回にコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域的まとまり論の概略と	国民国家の中央政府の機能だけでは、民主的な意思決定とはいえないし、身近な公共サービスもきちんと行なわれない。身近な地域社会（本講義ではこれを「コミュニティ」とよぶ）にも運営組織が必要である。それが市町村であった。その制度的特徴はどこにあるかを考えて導入的序論とする。春学期の「コミュニティ政策(日本)」の復習でもある。
第2回	日本のコミュニティ政策	春学期の「コミュニティ政策(日本)」では扱うことのできなかったコミュニティ政策の分野、特に試飲活動支援、コミュニティセンター自主管理、都市計画分野のコミュニティ分権などについて、概説し、日本のコミュニティ政策の特質を確認する。
第3回	ドイツの政治制度と地域コミュニティ	本講義ではドイツを主要な対象としているので、ドイツの政治制度や地域社会について入門的概説を行う。
第4回	ドイツの都市内分権制度　その1　ブレーメンの戦後史と都市内分権制度の発展	しばらくドイツの都市内分権制度について説明する回が続く。その初回として、ブレーメン市の都市内分権の歴史的経緯を扱う。
第5回	ドイツの都市内分権制度　その2　ブレーメン市の地域評議会制度の実態と仕組み	ブレーメン市の都市内分権制度の実態をまずは入門的に概観し、ついで法令に基づいて制度的仕組みの説明を行う。
第6回	ドイツの都市内分権制度　その3　ブレーメン市の地域評議会制度の仕組み	現行法令に基づき、ブレーメン市の都市内分権制度を、前回に引き続き、説明する。
第7回	ドイツの都市内分権制度　その4　ブレーメン市地域評議会制度の実態分析	制度的な仕組みが理解されたところで、ブレーメン市の都市内分権の実態を細かく分析していく。
第8回	ドイツの都市内分権制度　その5　ノルトライン＝ヴェストファーレン州とハンブルク市	ブレーメン市以外の事例として、ドルトムント市ないしノルトライン＝ヴェストファーレン州及びハンブルク市の仕組みを説明する。
第9回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度　その1　概説	市町村合併を経ても、きめ細かな自治の重層構造をつくり、身近な地域社会を制度化して丁寧に政治に反映させるドイツのやり方は、都市部に限らない。今回は農村部の仕組みを見る。
第10回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度　その2　ニーダーザクセン州の「連合自治体」制度	前回に引き続き、ドイツの農村部の仕組みを見るが、今度はニーダーザクセン州にしぼり、その「連合自治体」制度を詳しく説明する。
第11回	都市内分権制度の法的性格をめぐる憲法裁判から	考察の材料が出そろったところで、理論的考察に入る。まずは、都市内分権制度をめぐって行われたドイツの四つの憲法裁判を手がかりとする。
第12回	ドイツの「協働」政策とボランティア観念	ドイツの都市内分権は基本的に「参加」型で、日本の「協働」型とは好対照であるが、現代ドイツは「協働」的な政策を必要としていないわけではない。ドイツの「市民社会」重視政策を見る。
第13回	ギールケとプロイスの「領域社団」論	本講義が提唱している「地域的まとまり」論は、ドイツのゲルマニスト法学派が提唱した「領域社団」概念を淵源としている。その源流をたどる。
第14回	マックス・ヴェーバーの「領域団体」論と地域的まとまり論の理論構成	ギールケとプロイスによって完成された「領域社団」概念を、社会科学的な分析概念として再構成したマックス・ヴェーバーの理論を説明し、これらの理論史を踏まえ、また自治会・町内会という独自の「領域団体」が展開する日本の現実をも踏まえて、「地域的まとまり論」の基本骨格を提示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回事前に学習支援システムを通じて講義資料を配付します。これの予習・復習が基本です。また講義の中で参考文献や参考資料を提示しますので、それも勉強してください。課題が出された場合には、講義資料の該当箇所を復習することを基本としながらも、自分で資料を探して調べることも必要です。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しません。

【参考書】
講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。
名和田是彦『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）
名和田是彦『コミュニティの法理論』(創文社)
名和田是彦編著『コミュニティの自治』(日本評論社)
特に最後のものは、共同研究者とともに作った本で、欧米やアジアのコミュニティについても論じています。やや高価ですが図書館で読むことができます。

【成績評価の方法と基準】
課題(2回を予定)を出し、それを採点すること、及び期末に試験を行なうことによって、成績評価を行なう予定です。成績評価における比重は、課題が30%、期末試験が70%と予定しています。
上記のように、課題への解答に当たっては、該当する講義資料の箇所を十分に復習することはもちろん、参考として提示した資料や文献、さらには独自に探して調べた資料などをもとに、取り組んでください。「正解」かどうかよりも、各自が主張する結果にどのようにたどり着いたか、その論証過程が主たる評価の対象となります。社会科学においては、「正解」が複数あったり、そもそも「正解」が不分明だったりすることが、よくあります。大切なのは、そうした問題について、各自が十分に調べて考え抜き、説得力ある論証を提示することです。
な

【学生の意見等からの気づき】
コロナ禍のあいだはほぼオンライン授業で、講義資料も充実させ、また頻繁に課題を出して次の回に論評するということをやったので、受講者の反応も比較的よく分かりました。提示の仕方や話す順序によって思わぬ誤解が生ずるなど、気をつけるべき点にも気づきました。今年度も、双方向のコミュニケーションを大切にしたいと思います。また、学期中にグッと力をつけてくるのがわかる受講者も何人かおり、励みになります。

【Outline (in English)】
I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. In this lecture I focus on an international comparison of Japanese community policy with that in European, American and Asian countries, especially Germany so that students can understand the characteristics of the Japanese community policy as well as the Japanese society itself.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 70%、Short reports : 30%.

POL200AD（政治学 / Politics 200）

外交総合講座

本多　美樹

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートとの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本が多様なアクターと協働してどのように取り組んでいるのかについて理解を深めることにある。各回の授業には、政府や国際機関で活躍する実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業やNGOからの有識者に登壇していただき、質疑応答も活発に行うことによって、政府間関係からでは知りえない広義の「外交」への理解を深める。

【到達目標】
・国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に着ける。
・国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。
・日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
政府間関係だけではない広義の「外交」への理解を促すため、ゲストスピーカーの講義の後には毎回、質疑応答の場を設ける。（*ゲストスピーカーの予定と調整を行うため、授業の順序とトピックは変更する可能性がある。）
毎回の授業後には講義への理解を確認するため、Hoppiiを通じて課題の提出を求める。課題に対するフィードバックは個々に行うとともに、必要に応じて次の授業の際にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
2	日本の対アジア太平洋政策	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
3	日本の対ヨーロッパ政策	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
4	日本の対アフリカ外交	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
5	平和維持活動から考える外交	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
6	移民と難民：国際社会と日本	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
7	核と日本の外交	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
8	日本の経済外交	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
9	日本のメディアと外交	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
10	日本企業と国際社会	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
11	日本企業と国際社会	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
12	国際NGO/NPOと日本	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
13	日本と国際人権	ゲストスピーカによる講義と質疑応答
14	まとめ	これまでのゲストスピーカーの講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講義に関連する資料を事前に読んでから授業に臨むこと。授業の予習復習には2時間程度時間を要する。

【テキスト（教科書）】
特になし。関連資料は毎回事前に学習システムで配布する。

【参考書】
関連資料は随時授業時に知らせる。

【成績評価の方法と基準】
授業や質疑応答への活発な参加などの平常点（40%）と課題の提出状況と内容（60%）から総合的に判断する。なお、4回以上課題の提出を怠った学生には単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
受講生は日々のニュースをフォローするなど、国際社会での出来事に関心を寄せること。関連するセミナーやシンポジウムへの参加が望ましい。これについても随時紹介する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究
＜研究テーマ＞
国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
＜主要研究業績＞
主な近著として、「経済制裁は平和のために有効か」石田淳ほか編著『国際平和論―脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）121-141頁；"Japan: COVID-19 and the Vulnerable," M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds,.), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022) pp.136-156；『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）；Miki Honda, "'Smart Sanctions' by the UN and financial sanctions," Sachiko Yoshimura ed., United Nations Financial Sanctions(Routledge, 2021)pp. 18-33；「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」』（明石書店、2016年）などがある。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to learn about the current status and challenges of diplomatic relations between Japan and its major counterparts in the international community, and to deepen understanding of how Japan works with diverse actors to tackle transnational/global issues that the international community faces, such as disarmament, migration, development, and environmental issues. Each class invites a guest speaker from Japanese ministries, international institutions, the media, think tanks, NGOs, and businesses. A Q&A session is held every after each lecture to have a better understanding of"diplomacy"in a broader sense than is possible from an intergovernmental perspective.

POL100AD（政治学 / Politics 100）

グローバル・ガバナンス

本多　美樹

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル・ガバナンスの概念は比較的新しく、その概念をめぐっては議論が続いている。しかし、実際の国際社会では、開発援助の分野においてだけでなく、さまざまな地球規模の問題領域に応用されている概念である。この講義の目的は、グローバル・ガバナンスの基本的な知識を理論と実践の両方において身に付けることにある。まず、グローバル・ガバナンスの概念の登場と発展について整理したのち、グローバル・ガバナンスのおもな担い手である国連による実践例として、人権ガバナンス、地球環境ガバナンス、安全保障におけるガバナンス、ガバナンスを支える規範や価値、視座などを取り上げる。その際、ガバナンスが形成されてきた分野、ガバナンスに参加する行為主体（アクター）、ガバナンスのしくみと実践の手段に注目する。そして、各グローバル・ガバナンスの有効性と限界、課題について考える。

【到達目標】
・理論と実践の両方において、「グローバル・ガバナンス」に関する基本的な知識を身に付ける。
・「グローバル・ガバナンス」の有効性、限界、課題について自分なりの考えをもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義を中心に進める。毎回の授業後に課題の提出を求める。毎回授業の初めに、前回の授業後に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
授業に出席する前に支援システムにアップされたスライドに目を通し、授業後には復習をすること。また、関心を持ったトピックについては、各自で調べ学習をして理解を深めること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、グローバリゼーションとグローバル・ガバナンス	授業の目的と進め方、グローバリゼーションとは？
2	ガバナンスの概念の登場と発展	ガバナンス概念の登場と発展
3	ガバナンス形成に有効な分析概念	国際規範、価値、視座とは？
4	ガバナンスの実践①国際開発援助分野（1）	開発ガバナンスI
5	ガバナンスの実践②国際開発援助分野（2）	開発ガバナンスII
6	ガバナンスの実践③人権分野（1）	人権ガバナンスI
7	ガバナンスの実践④人権分野（2）	人権ガバナンスII
8	ガバナンスの実践⑤地球環境分野（1）	環境ガバナンスI
9	ガバナンスの実践⑥地球環境分野（2）	環境ガバナンスII
10	ガバナンスの実践⑦保健衛生分野	グローバルヘルス/感染症ガバナンス
11	ガバナンスの実践⑧人の移動をめぐるガバナンス	人の移動をめぐるガバナンス
12	ガバナンスの実践⑨安全保障分野（1）	集団安全保障体制
13	ガバナンスの実践⑩安全保障分野（2）	軍縮ガバナンスI（大量破壊兵器）
14	ガバナンスの実践⑪安全保障分野（3）/まとめ	軍縮ガバナンスII（通常兵器）/ガバナンスの有効性、限界、課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々のニュースをフォローするなど国際社会での出来事に関心を寄せること。授業前には配布資料を読み、授業後には復習を行うこと。関連するセミナーなどへの参加も望ましい。授業の準備・復習を2時間程度行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。PPTおよび関連資料は毎回事前に学習支援システムで配布する。

【参考書】
・石田淳ほか編著『国際平和論：脅威の認識と対応の模索』有斐閣、2024年。
・山田哲也『国際機構論入門』（第2版）東京大学出版会、2023年。
・山田満ほか編著『新しい国際協力論－グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）明石書店、2023年。
・内田孟男編著『地球社会の変容とガバナンス』中央大学出版部、2010年。
・村田晃嗣・君塚直孝ほか『国際政治学をつかむ　新版』有斐閣、2015 年。
・世界地図。
・Stiglitz, Josef E. and Mary Kaldor eds., The Quest for Security: Protection without Protectionism and Challenge of Global Governance, Columbia University Press, 2013.
その他、各回の関連文献・資料については、授業の際に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後の課題提出状況と課題の内容40％、期末試験60％のウエイトで成績評価をする。
＊遅刻は20分までとし、それ以降の入室は欠席と見なす。
＊4回以上課題の提出を怠った学生は期末試験を受ける資格を失う。よって単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメと配布資料、パワーポイントや資料映像を使用する。

【その他の重要事項】
日々国際社会で起きる出来事に関心を持ち、関連文献を積極的に読むこと。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究
＜研究テーマ＞
国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
＜主要研究業績＞

主な近著として、「経済制裁は平和のために有効か」石田淳ほか編著『国際平和論―脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）121-141頁；"Japan: COVID-19 and the Vulnerable," M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds,.), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022) pp.136-156；『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）；Miki Honda, "'Smart Sanctions' by the UN and financial sanctions," Sachiko Yoshimura ed., United Nations Financial Sanctions(Routledge, 2021)pp. 18-33；「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」』（明石書店、2016年）などがある。

【Outline (in English)】

The international community faces diversified transnational issues such as poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes, financial crisis and so on. Who can control such global issues? These issues cannot be understood within the nation-centered narratives anymore. This course provides students with opportunities to become acquainted with "global issues" and learn that diversified international actors have made efforts to tackle with these issues. Students are expected to know that states, businesses, NGOs and other entities can make contributions to the settlement of these issues in cooperation with each other, and with regional and international institutions. These efforts and social movements by the diversified actors are called "global governance." Students will understand how the international community tries to formulate, maintain, and manage "global governance" today. Students are expected to know realities of global governance and challenges in the international society.

POL100AD（政治学 / Politics 100）

国際協力論Ⅰ

志賀　裕朗

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウクライナ戦争やトランプ第二次政権の登場は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確実となっている。

こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！ と願う学生の積極的な受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	危機に瀕する国際協力	アメリカをはじめとする先進国における自国第一主義的な行動や排外主義の高まり、大国間競争の激化が国際協力をどのように難しくしているかを検討する。
3	危機に瀕する国際協力②	同上。
4	途上国が直面する課題	途上国が長年直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODAの代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？ 日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学:「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開: 途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。
木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】
授業中に提出を求める課題（40 %）と最終試験（60%）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】
■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。
■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。
■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。
■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。
■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】
How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.
This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD（政治学 / Politics 100）

国際協力論Ⅱ

志賀　裕朗

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたいと願う学生の受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界のHIV-AIDS患者の7割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では30代前半の女性の罹患率が36％という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。
3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。
5	途上国が直面する多様な課題④	1970年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015年に採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000年に策定されたMDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。

11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	第二次大戦における敗北から10年も経っていない1954年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。
12	日本の政府開発援助（ODA）の特徴②	日本のODAは借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
13	日本の政府開発援助（ODA）の特徴③	2015年に日本政府が発表し23年に改訂された「開発協力大綱」を読み、日本がODAを通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA大綱（1992年制定、2003年改訂）」と比較しながら読み解く。
14	授業内容の振り返りと総括	これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー（A4サイズで2枚以内）を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する（シラバス通りとは限らない）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しないが、第一回講義に際しては、事前に講読文献を指定し、その感想を当日講師に直接提出することを求める。これを提出しない学生は、それ以降の受講を一切認めないので留意すること。

【参考書】
近藤康太郎、2020年、『三行で撃つ－< 善く、生きる> ための文章塾』、CCCメディアハウス。
小坂井敏晶、2017年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】
授業で提出を求める課題（60％）およびディスカッションへの積極的参加の度合い（40％）によって成績を評定する予定（最終試験は行わない）であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】
■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。
■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論Ⅰ」を併せて受講することを推奨する。
■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。
■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】
How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

平和・軍事研究Ⅱ

権　鎬淵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の前半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析や解説を行う。授業の後半は、日本をめぐる東アジアの軍事情勢を詳しく分析する。領土問題をはじめ、日本や東アジアの主要な軍事争点を解説する。
これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】
平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。関係する展示会（例えば、国際航空宇宙展など）や記念施設への展覧や感想文を求めることもある。
毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小リポートに対する講評や解説も行う。
授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	終戦の状況と戦後日本のスタート	「過去の大戦」とは何か。戦争終結要因の分析、終戦の状況を解説
第2回	米国の対日占領政策	GHQの非武装政策、平和憲法、領土処理を解説
第3回	自衛隊創設と日本の主権回復	朝鮮戦争、自衛隊創設、サンフランシスコ講和条約、集団的自衛権問題を解説
第4回	日米安保Ⅰ	1951年の旧日米安保条約、日米行政協定を解説
第5回	日米安保Ⅱ	1960年の新日米安保条約を解説。極東条項と核戦争巻き込まれ論など。
第6回	領土問題1	北方四島について
第7回	領土問題Ⅱ	独島・竹島、尖閣諸島、沖縄について
第8回	シビリアンコントロール	天皇統帥権、軍政軍令分離論、シビリアンコントロールの意味
第9回	日本の核政策	非核３原則、核燃料リサイクル政策、T-1政策について
第10回	日本の軍事計画Ⅰ	一次防から「防衛大綱達成(1990年)」まで
第11回	日本の軍事計画	冷戦終結以降の軍事計画について
第12回	中国の軍事政策	中国の核戦力・通常戦力
第13回	北朝鮮の軍事政策	核とミサイル戦力 南の韓国に対する戦略
第14回	韓国の軍事政策	北に対する戦略 通常戦力、兵役制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に提示する。

【参考書】
開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（10～20％）、課題（10～30％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This course will explain and analyze the history of Japan's postwar military policy and the military situation in East-Asia surrounding Japan.
The aim of this course is to help students understand the correlation of war and peace , and the knowledge of Japan's military policy and military situation surrounding Japan.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

オセアニアの政治と社会Ⅰ

今泉　裕美子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**定員制　※詳細は【授業の進め方と方法 / Method(s)】に記載の通り**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアというとオーストラリアやニュージーランドを思い浮かべる人が多いであろう。近年の日本の報道では、「自由で開かれたインド・太平洋」を耳にする機会が増えたが、肝心な「太平洋」を構成する国や地域は、大国間の競合に翻弄される客体として報じられ、情報も圧倒的に少ない。

オセアニアはオーストラリア、ニュージーランド、メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの存在から説明されるが、これらは外来者が区分し、命名したものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験をもち、そこで生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の”遺産”は、今なお島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、島の人びとの心身を傷つけ、難民化を促し、彼らには社会・文化の消滅すら現実的なものとして認識されている。

しかし、こうした状況にあるからこそ、オセアニアの島嶼国・地域はゆるやかな協同を通じて、大国中心の国際関係や平和の問い直しを促し、国際社会に提言してきた。また、植民地化の過程で外来のものの受け入れを強いられ、それと格闘しながら、祖先から引き継いだ知恵をいかし、共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりつつ、課題に取り組んできた。

本授業では、オセアニアの特に島嶼を対象に、政治、社会の特徴、抱える問題を理解するため、オセアニアへの人類の到達から第一次世界大戦までの歴史を学ぶ。「オセアニアの政治と社会Ⅱ」の前提となる授業である。

【到達目標】

１．オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面する問題の独自性を自然環境や歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する問題としても理解することができる。
２．オセアニアの特に島嶼に関する情報の所在を知り、それら情報を学術的な方法によって分析、理解し、自身の認識を再構成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

１．初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及びHoppiiで通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要が生じた場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
２．授業にはレジュメや資料を配布することを原則とする。
３．リアクションペーパーは毎回提出してもらう。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。注目すべきコメントや質問があれば授業で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
４．オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、注意事項の説明。
第2回	「オセアニア」とは？	オセアニア、太平洋に関する呼称、範囲、概念を学ぶ。
第3回	現代日本におけるオセアニア認識	日本社会および受講者のオセアニア認識を明らかにし、本授業のアプローチを確認する。
第4回	オセアニアを島嶼から学ぶ意味①	受講生の関心などを踏まえ、第6回以後の授業につながるトピックスを選ぶ。
第5回	オセアニアを島嶼から学ぶ意味②	受講生の関心などを踏まえ、第6回以後の授業につながるトピックスを選ぶ。
第6回	オセアニアへの人類の進出とくらし①	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする海への認識、航海や漁労を学ぶ。
第7回	オセアニアへの人類の進出とくらし②	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする巨石文化を学ぶ。
第8回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化①	近代国際関係のなかでヨーロッパ人のオセアニア進出、島嶼の人々との「出会い」、これらが双方の社会にもたらした影響を学ぶ。
第9回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化②	近代国際関係のなかで列強による島嶼の植民地化を学び、現在の脱植民地化において直面する課題との関係を考察する。
第10回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化③	列強による島嶼の植民地化を、具体的な事例から学ぶ。
第11回	オセアニアにとっての第一次世界大戦①	ANZACを事例に、オセアニアにとっての第一次世界大戦を学び、その経験を今なお記念する意味を考察する。
第12回	オセアニアにとっての第一次世界大戦②	第一次世界大戦によるオセアニアの再分割を委任統治制度の創設から理解し、現代に続く問題を学ぶ。
第13回	受講生の関心に基づいたテーマ	第6回以後の授業での受講生の関心を踏まえてテーマを選び、学ぶ。
第14回	まとめ	春学期授業の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
２．オセアニア関連のHPなどを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
３．予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000年。
印東道子編『ミクロネシアを知るための58章』明石書店、2005年。
吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009年。
石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための58章』明石書店、2010年。
中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための54章』2012年。
今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第20巻（地域論）』岩波書店、2014年。
今泉裕美子「太平洋分割のなかの日本の南洋群島統治－委任統治と「島民」の創出」中野聡・安村尚己責任編集、棚橋訓編集協力『岩波講座世界歴史19　太平洋海域世界～20世紀』岩波書店、2023年。
石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂、2023年。
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物などを総合したもの（50%）、セメスター末のテスト（50％）。

以上の成績評価をもとに、授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。
・提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情とこれを示す証明資料の提出は定期試験のルールに則る）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
オセアニアに関する基礎知識や関心がなくとも、適切な情報を知ることができ、関心が広がった、あるいは、他の授業との関連づけが出来る、の感想を得ているので、継続して丁寧な情報提供や考察を行う。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】
１．講義内容に関する日本語での研究や情報は必ずしも多くはないため、特に英語の資料を用いる機会が多い。
２．対面で行うが、オンラインで実施する場合はHoppiiで連絡する（第1回目はオンライン）。
３．Hoppiiは自主的にチェックすること。教員への連絡はTAを通じて行う。
４．リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたり、あるいは、前後関係や語句を若干変更して用いたりすることは認めない。
５．沖縄県の県史、市史などの編さん、執筆に関わったり、ミクロネシアの研究者、教育者と交流を続けているので、地域住民の歴史をどう記録し、次世代に継承するか、聞き取りの方法、地域外の研究者として地域にいかに関わるか、の経験に基づいた「地域研究」の方法も紹介する。

【Outline (in English)】
This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.
The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on before World War II. This course is highly recommended for those who are planning to take “Politics and Society of Oceania II”.
【Learning Objectives】
Students will be able to
1.Develop an awareness of the Pacific Islands and their peoples by learning their politics, society, culture and historical experience.
2. Understand the history of imperialism, colonialism and militarism of Pacific islands and struggle against them by Pacific Islanders.
3. Reviewing key concepts and theories of International Studies and structure of international relations based on the history of Pacific Islands.
4.Develop a critical thinking about some issues in contemporary world from the viewpoints of Pacific Islanders.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
2.Term-end Examination or Report（The details will be informed later）:50%

POL300AD（政治学 / Politics 300）

オセアニアの政治と社会Ⅱ

今泉　裕美子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**定員制　※詳細は【授業の進め方と方法 / Method(s)】に記載の通り**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説家・島尾敏雄は太平洋世界のなかで日本を捉えるために、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに着目し、複数の島々からなる日本を「ヤポネシア」と表現した。これら３つの「ネシア」を含むオセアニアの「島」にくらす人びとは、太平洋に生存を委ね、海は人びとを隔てる存在ではなく、つなぐ存在として捉えてきた。日本で生活し、日本を「島国」と表現する私たちに、そのような認識があるだろうか。

オセアニアはオーストラリア、ニュージーランド、メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの存在から説明されるが、これらは外来者が区分し、命名したものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験をもち、そこで生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の”遺産”は、今なお島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、島の人びとの心身を傷つけ、難民化を促し、彼らには社会・文化の消滅すら現実的なものとして認識されている。こうしたオセアニアの植民地支配、軍事占領、そして核実験には、日本も大きく関わってきたことも殆ど知られていない。

本授業ではオセアニアの特に島嶼を対象に、政治、社会の特徴、抱える問題を理解するため、ミクロネシア（旧南洋群島）と日本との関わり合いの歴史を中心に学ぶ。

【到達目標】

１．ミクロネシア（旧南洋群島）と日本との関係史や現状について、研究や情報を適切に選び、批判的に考察するための視点や方法を身に着ける。
２．オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面す問題の独自性を自然環境や歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する問題としても理解することができる。
３．ミクロネシア（旧南洋群島）に関する情報の所在を知り、それら情報を学術的な方法によって分析、理解し、自身の認識を再構成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

１．初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及びHoppiiで通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要が生じた場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
２．授業にはレジュメや資料を配布することを原則とする。
３．リアクションペーパーは毎回提出してもらう。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。注目すべきコメントや質問があれば授業で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
４．オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション－本講義の視点と方法、進め方	授業の進め方、注意事項の説明。「オセアニアの政治と社会Ⅰ」との関連づけ。
第2回	ミクロネシアと日本との現在の交流	ミクロネシアと日本との現在の交流を、日本統治下南洋群島で生活した人びと同士の草の根の交流を中心に戦前、戦後のミクロネシアと日本の関係を学ぶ意義を確認する。
第3回	日本の南洋群島統治を分析する視点	南洋群島統治をめぐる日本政府、研究者の評価を批判的に検討し、本授業のアプローチを学ぶ。
第4回	「南洋群島」時代のミクロネシア①－植民地の法制度から	国際連盟の委任統治制度のもとで行われた日本の南洋群島統治の特徴を、第一次世界大戦後の世界の植民地支配体制の中で、また日本の植民地法制度のなかで学ぶ。
第5回	「南洋群島」時代のミクロネシア②－植民地社会の特徴	現地住民人口の2倍もの日本人が移民し、なかでも沖縄出身者が多かった植民地社会の特徴を学ぶ。
第6回	「南洋群島」時代のミクロネシア③－チャモロとカロリニアンの経験	チャモロとカロリニアンの植民地経験を、日本の教育政策を中心に学ぶ。
第7回	The Typhoon of War－ミクロネシアの第二次世界大戦経験①	沖縄戦に先駆けて地上戦が行われた南洋群島での戦争を、沖縄戦と比較し関係づけながら学び、ミクロネシアにとっての戦争経験を考察する。
第8回	The Typhoon of War－ミクロネシアの第二次世界大戦経験②	南洋群島での戦争を生きのびた人々が戦争経験をどう捉え、若い世代に伝えようとしているか、非体験者として考察する。
第9回	ミクロネシアにみるNuclear Colonialism①	国際連合の戦略的信託統治として行われたアメリカのミクロネシア統治の特徴を、冷戦体制下アメリカの核軍事力を支えたマーシャル諸島での初の核実験を中心に学ぶ。
第10回	ミクロネシアにみるNuclear Colonialism②	米国がビキニ環礁で行った水爆Bravo投下による実験での、住民の核被害の実態、その経験と継承から学び、現代世界の核兵器問題、放射能被害の考察につなげる。
第11回	ミクロネシアにみるNuclear Colonialism③	日本にとっての水爆Bravoの経験、すなわち「ビキニ事件／第五福竜丸事件」を学び、現代世界の核兵器問題、放射能被害の考察につなげる。
第12回	ミクロネアへの日本の再進出	「ミクロネシア協定」から始まる戦後日本とミクロネシアとの関係を学ぶ。
第13回	受講生の関心に基づくトピックス	受講生の関心に基づくトピックスを選び、これまでの学びを深め、発展させる。
第14回	まとめ	授業を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
２．オセアニア関連のHPなどを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
３．予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】
山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000年。
印東道子編『ミクロネシアを知るための58章』明石書店、2005年。
吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009年。
石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための58章』明石書店、2010年。
中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための54章』2012年。
今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第20巻（地域論）』岩波書店、2014年。
今泉裕美子「太平洋分割のなかの日本の南洋群島統治－委任統治と「島民」の創出」中野聡・安村尚己責任編集、棚橋訓編集協力『岩波講座世界歴史19　太平洋海域世界～20世紀』岩波書店、2023年。
石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂、2023年。
その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
・リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物などを総合したもの（50%）、セメスター末のテスト（50％）。以上の成績評価をもとに、授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。
・提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情とこれを示す証明資料の提出は定期試験のルールに則る）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
本授業ではディスカッションは行わないものの、リアクションペーパーの意見や質問を取り上げて紹介し、適切な情報源や情報を紹介したことが、積極的に学ぶ姿勢につながったとの意見が多いため、こうした取り組みを継続する。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】
１．講義内容に関する日本語での研究や情報は必ずしも多くはないため、特に英語の資料を用いる機会が多い。
２．対面で行うが、オンラインで実施する場合はHoppiiで連絡する（第1回目はオンライン）。
３．Hoppiiは自主的にチェックすること。教員への連絡はTAを通じて行う。
４．リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたり、あるいは、前後関係や語句を若干変更して用いたりすることは認めない。
５．沖縄県の県史、市史などの編さん、執筆に関わったり、ミクロネシアの研究者、教育者と交流を続けているので、地域住民の歴史をどう記録し、次世代に継承するか、聞き取りの方法、地域外の研究者として地域にいかに関わるか、の経験に基づいた「地域研究」の方法も紹介する。

【Outline (in English)】
This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.
The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on Micronesia-Japan relations. It is strongly recommended that this course be taken after taking “Politics and Society of Oceania I.”
【Learning Objectives】
Students will be able to
1. Understand the Oceania focused on the historical relationship between Micronesia and Japan with reviewing international relations and Japanese modern and contemporary history.
2. Acquire the fundamental understanding of Micronesia-Japan relations especially about imperialism, colonialism, militarism and decolonization.
3. Develop a critical thinking about the role and responsibilities of Japan/Japanese as a member of Pacific Islands/Pacific Islanders.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
2.Term-end Examination or Report（The details will be informed later）:50%

POL300AD（政治学 / Politics 300）

朝鮮半島の政治と社会Ⅰ

権　鎬淵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は主に1945年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、韓国及び北朝鮮政治に関する基本知識を身につける。

【到達目標】
朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業では、南北分断の背景、朝鮮戦争の状況、冷戦構造の確立、南北それぞれの政治体制・経済体制・国際関係の成立過程、日韓関係の主要争点の概要と歴史を講義する。
授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後東アジアの始り	戦争の終戦状況：中国、ソ連、朝鮮半島
第2回	朝鮮半島の分断	38度線の由来 分断の状況、分断の責任
第3回	南北権力の特徴	李承晩、金日成
第4回	朝鮮戦争	戦争の背景 戦争の展開過程と終わり方
第5回	東アジアの冷戦構造	朝鮮戦争の国際・国内政治構造
第6回	４・１９学生革命と５・１６軍事クーデター	４・１９学生革命と５・１６軍事クーデターを解説
第7回	朴正熙政権とその政策	朴正熙の経歴と政策内容
第8回	日韓国交正常化	その過程、内容と問題点
第9回	全斗煥政権	1979-88年
第10回	民主化運動とその実現	1987年新憲法成立
第11回	金泳三、盧泰愚政権	主な政策を中心に
第12回	金大中、盧武鉉政権	その政策を中心に
第13回	李明博、朴槿恵, 文在寅、尹錫悦政権	その政策を中心に
第14回	対日政策	日本との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に開示する

【参考書】
1.孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年
2.ドン・オーバードーファー、ロバート・カーリン『二つのコリア〔第三版〕—国際政治の中の朝鮮半島　』共同通信社, 2015年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
Projectorを使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】
This course introduces the post-war political histories of Korean peninsular (South Korea and North Korea).
The aim of this course is to help students understand the political system and it situations of South Korea and North Korea, and the relations of them and Japan.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

朝鮮半島の政治と社会Ⅱ

権　鎬淵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は主に1945年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。韓国だけではなく、北朝鮮についても説明する。

【到達目標】
南北朝鮮の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業では、朝鮮半島の経済制度・社会システム・文化を分析する。主に講義による説明によって授業を行うが、映像（Youtube、映画など）や書物の感想文の提出や特定テーマに関する意見交換を行うこともある。
　授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小リポートに対する講評や解説も行う。
　授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	韓国の対北政策	北風政策 vs 太陽政策
第2回	北朝鮮の対南政策	統一戦線戦略、敵対国家論
第3回	北朝鮮の核兵器や弾道ミサイル問題	核兵器、ミサイル能力
第4回	南北の兵役制度	徴兵制の詳細説明
第5回	大統領制度	選挙システム・権限・役割
第6回	国会、憲法裁判所、司法システム	機関の役割
第7回	韓国の経済制度１	財閥、不動産
第8回	韓国の経済制度２	税金、福祉、雇用
第9回	北朝鮮の経済システム	どこが問題か
第10回	教育制度	受験戦争、就職難
第11回	韓国の社会問題１	地域対立、格差問題
第12回	韓国の社会問題２	女性関連
第13回	日韓の主要争点	歴史認識の問題 領土問題、慰安婦問題
第14回	統一の可能性について	吸収合併論、急変事態論、漸進的統一論などを点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】
1.孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年
2.ドン・オーバードーファー、ロバート・カーリン『二つのコリア〔第三版〕—国際政治の中の朝鮮半島　』共同通信社, 2015年

【参考書】
授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（20％）、課題（０～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
Projectorを使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】
This course introduces the economic, social and culture system of post-war Korean peninsular (South Korea and North Korea).
The aim of this course to help students understand Korea's basic system and consider the more desirable relations with Japan and Korea.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

平和・軍事研究Ⅰ

権　鎬淵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同様に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。

この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

世界の基本秩序は軍事力の力関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。

被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第2回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第3回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第4回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第5回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第6回	Middle Powerの核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第7回	冷戦終了後の核兵器状況	2024年の時点で、世界に1万2千発の核兵器が現存
第8回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第9回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。
第10回	日本の冷戦時代の戦略	「非核3原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。
第11回	日本の核能力	核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。
第12回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第13回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第14回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.
It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and nuclear proliferation　issues.
The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

POL300AC（政治学 / Politics 300）

外国書講読（仏語）Ⅰ

近江屋　志穂

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】
　中級レベル以上の読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。
　初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】
文章の訳読をする他、文法の問題を解いたり、文章の音読の練習を行ったりします。
課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	ルイーズ＝ルネ・ルデュック（1）	受動態
3	ルイーズ＝ルネ・ルデュック（2）	直接目的語と過去分詞の性数一致
4	ジョルジュ・サンド	関係代名詞（1）
5	ジョルジュ・サンド（2）	関係代名詞（2）
6	ルイーズ＝ミシェル	疑問代名詞
7	ルイーズ・ミシェル（2）	複合形の疑問代名詞
8	ユベルティーヌ・オークレール	非人称構文
9	ユベルティーヌ・オークレール（2）	強調構文
10	マドレーヌ・ペルティエ	接続法
11	マドレーヌ・ペルティエ（2）	接続法（2）
12	ココ・シャネル	比較級
13	ココ・シャネル（2）	最上級
14	総括	授業内課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業の予習を行うこと。
・文章を音読する練習も行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『フランス史のなかの「異人」たち　2－世界を変えた女性たち』南コニー他著、朝日出版社、2025年（2050円＋税）
◎受講者の習熟度によって教材を変更することもあり得ますので、テキストを購入する前に、授業内で教員の指示を確認してください。

【参考書】
森本英夫・三野博司著『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社、2008年

【成績評価の方法と基準】
平常点 100％

【学生の意見等からの気づき】
テキストを使用しない場合は、早い段階で授業内容の全体像を明確に示すようにします。

【学生が準備すべき機器他】
・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません。）
・文法の知識が定着していない人は、初級のフランス語の授業（「フランス語1」など）で使用した文法の教科書

【その他の重要事項】
・予定している授業内容・授業テキストは「授業計画」・「テキスト（教科書）」に記した通りですが、最終的に受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加してみてください。
・もしテキストを使わない場合は、プリントを配布します。短編と評論の抜粋を交互に読みたいと思います。

【Outline (in English)】
Reading a French text. This course is designed for students who are improving Freanch reading comprehension.
The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL300AC（政治学 / Politics 300）

外国書講読（仏語）Ⅱ

近江屋　志穂

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】
中級レベル以上の読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。
初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】
文章の訳読をする他、文法の問題を解いたり、文章の音読の練習を行ったりします。
課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	ジョセフィン・ベイカー	現在分詞
3	ジョセフィン・ベイカー（2）	ジェロンディフ
4	シモーヌ・ド・ボーヴォワール	条件法
5	シモーヌ・ド・ボーヴォワール（2）	条件法（2）
6	シモーヌ・ヴェイユ	直説法単純未来
7	シモーヌ・ヴェイユ（2）	直説法前未来
8	ブリジット・バルドー	代名動詞
9	ブリジット・バルドー（2）	代名動詞（2）
10	ジェーン・バーキン	中性代名詞
11	ジェーン・バーキン（2）	中性代名詞（2）
12	クララ・ルティアーニ他	不定形容詞
13	クララ・ルティアーニ他（2）	不定代名詞
14	総括	授業内課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業の予習を行うこと。
・文章を音読する練習も行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『フランス史のなかの「異人」たち　２－世界を変えた女性たち』南コニー他著、朝日出版社、2025年（2050円＋税）
◎春学期にこの教科書を採用した場合は、春学期の続きを読みます。秋学期からの受講者は、教員の指示を確認してから教科書を購入してください。

【参考書】
森本英夫・三野博司著『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社、2008年

【成績評価の方法と基準】
平常点100％

【学生の意見等からの気づき】
半年間の授業内容や到達目標が明確に分かるよう、テキストがあった方が良かったと思います。

【学生が準備すべき機器他】
・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません。）
・文法の知識が定着していない人は、初級のフランス語の授業（「フランス語1」など）で使用した文法の教科書

【その他の重要事項】
予定している授業内容・授業テキストは「授業計画」・「テキスト（教科書）」に記した通りですが、春学期に別のテキストを使用する場合は（外国書講読（仏語）Iのシラバス参照）、両方とも変更することになります。その場合はプリントを配布し、短編と評論の抜粋を交互に読みたいと思います。
関心のある方は初回授業に参加してみてください。

【Outline (in English)】
Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.
The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL300AD（政治学 / Politics 300）

日本の政治と社会Ⅰ

塚本　英樹

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
日本近現代史を通じて、政治と社会の関係を歴史的視点から理解することを目指す。現在社会も過去の積み重ねによって成り立っている以上、それを理解するうえで歴史的視点は有効なものである。この授業では内政と外交の相互関係を意識しつつ、政治史・外交史的視点から日本近現代史の概要を示したい。

【授業の目的・意義】
歴史的視点に基づき、現代社会の成り立ちを理解し、相対化する視点を獲得することを目指す。

【到達目標】
日本近現代史を通じて政治と社会の関係を歴史的に理解し、説明することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態　講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何故、歴史を学ぶのか？	ガイダンス
第2回	近世から近代へ（幕末・維新）	身分制社会が解体し、近代国家へと移行する過程について述べる
第3回	近代日本の国内政治①	初期議会期の政治過程を大日本帝国憲法と議会の関係を中心に講義する。
第4回	近代日本の対外関係①	近代日本の対外関係の変容を中国を中心とした朝貢体制から西洋国際法体制への移行という視点から講義する。
第5回	近代日本と国内政治②	近代日本における政治過程を政党政治の成立過程という視点から講義する。
第6回	近代日本の対外関係②	日清・日露戦争、第一次世界大戦に至る対外膨張を講義する。
第7回	近代日本の国内政治③	近代日本の政治過程を政党政治の確立と崩壊という視点から講義する。
第8回	近代日本の対外関係③	第一次世界大戦の惨禍を受けて成立した国際協調体制の意義とその崩壊について講義する。
第9回	近代日本の国内政治④	政党政治崩壊後の国内政治について講義する。
第10回	近現代日本と選挙	近代日本における選挙を制度的変化を意識しつつ解説する
第11回	近代日本の対外関係④	国際協調体制離脱後の対外関係について講義する
第12回	対米開戦と終戦	対米開戦及び終戦への政治過程について講義する。
第13回	戦後史	戦後の政治過程・対外関係について講義する。
第14回	現代史及び総括	高度経済成以降の政治過程及び対外関係について講義したうえで、講義全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で配布するプリント、提示した参考文献の該当ページを読んだうえで、次の授業に臨んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業でプリントを配布する。

【参考書】
北岡伸一『日本政治史 – 外交と権力 増補版』（有斐閣,2017年)
佐々木雄一『近代日本外交史　幕末の開国から太平洋戦争まで』（中公新書,2022年）
季武嘉也『日本近現代史〔新訂〕: 民意と政党』（放送大学教育振興会,2021年）
村井良太『「憲政常道」の近代日本: 戦前の民主化を問う』（NHK出版,2025年）

【成績評価の方法と基準】
リサーチペーパーの提出による平常点20％、学期末提出のレポート80％。

【学生の意見等からの気づき】
リサーチペーパーに記載されたコメントに対して、授業冒頭に適宜対応する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
Through modern and present Japanese history, the course aims and acquires aim to understand the relationship between politics and society from a historical perspective. Since present-day society is also built on the accumulation of the past, a historical perspective is useful for understanding it. In this class, we will provide an overview of modern Japanese history from the perspectives of political history and diplomatic history, while being conscious of the interrelationship between domestic and foreign affairs.
【Learning Objectives】
Based on a historical perspective, the course aims to understand the formation of contemporary society and acquire a perspective that allows us to view it in relative terms.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

アメリカ政治史Ⅰ

中野　勝郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国を理解するための前提について検討します。

【到達目標】
アメリカ合衆国を理解するのに必要な視点を構築することをめざします。
アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思います。
また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。
The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S.has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的には、教室での講義形式の授業をおこないます。
授業にかんする情報も、すべて、HOPPIIにアップします。
受講者は、毎回、質問・コメントなどがあれば、HOPPIIにアップしてください。
（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）
In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「アメリカ」と「合衆国」について考える
第2回	アメリカ史における「時間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第3回	アメリカ史における「時間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第4回	アメリカ史における「時間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第5回	アメリカ史における「空間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第6回	アメリカ史における「空間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第7回	アメリカ史における「空間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第8回	アメリカ史における「空間」4	「空間」という視点からアメリカを考える4
第9回	アメリカ史における「人間」1	「人間」という視点からアメリカを考える1
第10回	アメリカ史における「人間」2	「人間」という視点からアメリカを考える2
第11回	アメリカ史における「人間」3	「人間」という視点からアメリカを考える3
第12回	アメリカ史における「人間」4	「人間」という視点からアメリカを考える4
第13回	アメリカニズム	アメリカのナショナリズムについて考える
第14回	「文脈」的理解	アメリカ現代社会をアメリカ史の「文脈」において捉える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。
授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
齋藤眞『アメリカとはなにか』（平凡社、1995）（旧版、『アメリカ史の文脈』（岩波書店）でも可）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(100％)
Grading will be decided on the term-end examination only.
なお、HOPPIIへのコメントが優れている場合には、期末試験の点数に加点して成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
ノートを取りやすいように心がける。

【Outline (in English)】
This course aims to analyze several hallmarks of politics and society of U.S.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

アメリカ政治史Ⅱ

中野　勝郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。
本学期は、第二次大戦以降現代までのアメリカ政治史がテーマです。

【到達目標】
リベラルな政治体制・政治秩序の確立・発展・崩壊という視点からアメリカ現代史を考察します。
The goal of this course is to elucidate a history of the liberal order since 1945.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的には、教室での講義形式の授業をおこないます。
授業にかんする情報も、すべて、HOPPIIにアップします。
受講者は、毎回、質問・コメントなどがあれば、HOPPIIにアップしてください。
（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）
In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リベラルな体制の胎動１	冷戦の発生
第2回	リベラルな体制の胎動２	ニューディール・コンセンサスの確立
第3回	リベラルな体制への挑戦１	人種問題・対抗文化・反戦運動１
第4回	リベラルな体制への挑戦２	人種問題・対抗文化・反戦運動２
第5回	リベラルな体制の崩壊	「偉大な社会」計画とヴェトナム戦争の遺産
第6回	レーガン保守主義１	さまざまな保守主義
第7回	レーガン保守主義２	レーガン保守革命
第8回	冷戦の終結	冷戦の終結と新世界秩序の模索
第9回	民主党の変容	「第三の道」の模索
第10回	ネオコンの時代	ブッシュ・ジュニア政権時代の内政と外交
第11回	オバマ政権の誕生	「中道」の模索と分断化の進行
第12回	トランプの時代	トランプ政権誕生の背景と権威主義体制化
第13回	バイデン政権と民主党の分裂	リベラルの巻き返し？
第14回	トランプ化した共和党	わわわれはなにを見ているのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。
授業以外の学習時間は各回４時間が標準です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
斎藤眞・古矢旬『アメリカ亜政治外交史[第二版]』（東京大学出版会、2012年）

【参考書】
久保文明・岡山裕『アメリカ政治史講義』（東京大学出版会、2022年）、その他の参考文献については、授業中に適宜紹介します。
資料は、コピーして配布するかHOPPIIにアップします。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(100％)
Grading will be decided on the term-end examination only.
なお、HOPPIIへのコメントが優れている場合には、期末試験の点数に加点して成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】
この授業は、アメリカ政治史Ⅰの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】
American Political History from 1945

POL200AC（政治学 / Politics 200）

協同組合論

杉崎　和久、上山　紀子、小林　幸治

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。

一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合やNPO等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバリズムが加速する中で、貧困根絶や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は2012年を「国際協同組合年」とし、2013年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げ、さらに2025年を2回目の「国際協同組合年」としました。

一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、働く者の数が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化していますが、こうした問題に市場や行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。このような中で2020年12月労働者協同組合法が成立しました。協同組合運動は新しい段階を迎えています。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待がよせられているのか。「もう一つの世界は可能か－協同組合と社会的連帯経済」この点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の学者および実践者による講義を行ないます。

【到達目標】

①　世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。

②　非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。

③　協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は原則「対面」で行う予定であるが、第１回、第２回はオンデマンド教材での実施を予定している、また、講師等の都合によりオンデマンド教材などを併用することがある。

この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心にした日本の協同組合やNPO等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合やNPO等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。

授業中に授業内容に関するコメントを提出する。なお、小レポート等から提出された質問等について、学習支援システムを通じて、適宜回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及び協同組合の動向	協同組合の歴史的経緯、国連・諸外国等の動向、国内の協同組合や生活クラブ及び運動グループによる運動・取組み（FEC-W、ローカルSDGｓ、など）、社会的連帯経済や国際協同組合年の国内での動向などの概要を紹介し、次回以降の講座の道しるべとします。
第2回	非営利活動と協同組合	協同組合法制の概要、NPO法（組織）をはじめとする非営利組織や労働者協同組合の制度や組織、諸外国との違いなどを中心にして「協同」の理念や政策・制度の動向などを紹介します.
第3回	生活クラブの消費材（づくり）と共同購入	生活クラブの運動と事業の根幹をなす「F（フード）自給への挑戦」の取組みの背景（食を取り巻く課題）と現在を、組合員参加のもとにすすめる「消費材づくり」と「共同購入」の仕組みなどを中心に紹介します。
第4回	地球と身体にやさしい食～私の食が世界・地球をつくる～	日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きく、日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をとおした生活提案やまちづくりの取組みなどを紹介します。
第5回	協同（共同）でつなぐ都市農業・福祉・教育	生活クラブは、都市農業の保全、育成、強化を柱の一つとしてきました。2016年度から開始しました、「生活クラブ農園・あきるの野」の実践の意義や成果、都市農業が抱える課題などを紹介します。
第6回	協同でつくるエネルギー～エネルギー共同購入の試み	気候危機が地球規模での課題となっていますが、日本の施策は大幅に遅れています。「再生可能エネルギー」の開発と供給の実践、発電施設地域との交流と社会貢献など、生活クラブのエネルギー自給の取組みや課題、今後の展望などを紹介します。
第7回	協同（共同）ですすめる地域福祉	協同組合型の市民事業として、地域福祉の推進と地域社会づくりをめざす、ACTの活動を中心に、誰もが尊厳をもって、住み慣れた地域で暮らしつづけるための、課題を共有します。また、市民版地域福祉計画を作る中で、地域の仕組みの確立をめざす取り組みを伝えます。
第8回	協同組合と子育て支援	次の時代を担う人を育む子育て支援事業は、サステイナブルな社会を目指す取組みとの一つです。「子育ち・子育て」を社会がどのように支えるのかなど、生活クラブ保育園ぽむと子育て広場ぶらんこの実践をとおして紹介します。
第9回	協同（共同）でつくる地域の場づくり	「個人化」時代の中、生活クラブ及び運動グループが取組む地域活動として、子どもを中心にした多世代の「居場所づくり」と福祉事業・活動とのつながり、促進するための助成のしくみ、実践事例などについて紹介します。

第10回	ワーカーズ・コレクティブと労働者協同組合「協同労働」の実践	地域の社会的なニーズに対応して、市民相互の助け合い・支えあいを基本にした様々な事業活動を展開するワーカーズ・コレクティブとは何か、またその実践事例を紹介します。
第11回	「協同労働」とコミュニティワーク	人々が大事にされる働き方（ディーセントワーク）とデポーワーカーズなどによるコミュニティワークの実践の社会的な意義を紹介し、地域で働く地域（まち）づくりの担い手の取組み、共同・協同の仕組みを紹介します。
第12回	市民・組合員のお金の使い道・使い方	「草の根市民基金・ぐらん」など、資金助成による市民活動への支援や資金循環の流れを紹介します。
第13回	協同の力で自治体政策をつくり・変える	運動グループ政策担当、政策委員会、東京政策推進会議などの取組みから、地域づくりに必要な自治体政策づくりと実現に向けた活動（政策提案運動）を紹介します。
第14回	協同組合で働く	講座全体の振り返りを通じて、非営利・協同組合（セクター）の今日的なミッションと意義につて理解を深めます。また、そのミッションへの取組みとして、生活クラブが多様な働き方を推し進める可能性を紹介しまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。配布資料は、授業前日までに学習支援システムにアップロードしますので、各自対応してください。

【参考書】
適宜、案内します。

【成績評価の方法と基準】
・評価は、「①授業ごとに出題する課題（14回）」の合計（84％）、「②レポート課題」（16％）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②が未提出である場合には成績評価をしない（E評価とする）。
・①は各回講義の最後に講義内容に関するコメントをリアクションペーパーに記入し提出する。
・なお、小レポートの評価は下記とする。
A：授業内容を踏まえて、独自の視点からの意見や考え方が記述されれている。
B：適切な分量（リアクションペーパーの７割以上）を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
D：未記入
なお、授業時間外に提出した場合には理由の如何に関係なく、受理しない。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの質問へは、なるべく早く対応したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
講師によって、パワーポイント、映像を活用します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This lecture will learn about the history, current situation, future prospects and possibilities of cooperatives or nonprofit projects.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A.Learning about the status of activities in Japan and its significance and issues today, based on history of cooperatives and social enterprises around the world.
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
C.Acquiring the basic ability to think about the theory and practice of new public policy in which consumers and citizens are the main actors.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on reports at each class.

POL300AC（政治学 / Politics 300）

政治学特殊講義Ⅰ（近代日本における〈道徳〉と〈政治〉）

金子　元

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：この授業では、「政治」という営みを広く人と人とのつながりと捉えて、政治や倫理について20世紀の思想家たちがどのように捉えてきたのか、そして、彼らが21世紀にどのような問題を投げかけているのか、を明らかにすることを試みる。代表的な思想家として丸山眞男とハンナ・アーレントを取り上げ、ある点で共通しながらある点で対照的な両者の思想を比較して論じる。

授業の目的：授業で取り上げる諸著作の内容を手がかりに、現代における政治の意味について自分なりの考えを組み立てることを目標とする。

【到達目標】
・現代社会の諸問題についての知識を獲得する。
・現代社会の諸問題について自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
・基本的に講義形式で行います。毎回のプリントに加えて、講義に該当する丸山やアーレントの諸著作を示唆しますのでそのうちのどれかに目を通しておいてください。
・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考察を深める材料とします。
・レポート課題はやや早めに出題し、最終日に講評を行う予定です（受講者数によっては全員のレポートについて言及できないことがあります）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。
第2回	かれらの時代／われらの時代	丸山やアーレントが生きた時代の諸問題を確認し、それが現在にどのような意味を持つかを考える。
第3回	思索の原点	丸山の戦前の江戸思想史研究、アーレントのアウグスティヌス研究等を紹介する。
第4回	「全体主義」と「超国家主義」①	アーレントが論じた「全体主義」について考える。
第5回	「全体主義」と「超国家主義」②	丸山眞男が論じた「超国家主義」について考える。
第6回	「革命」と「開国」	アーレントや丸山が時代の変化をどのようにとらえたのかについて考える。
第7回	「活動」と「する」①	アーレントが『人間の条件』で論じた政治のあり方について考える。
第8回	「活動」と「する」②	丸山が『日本の思想』で論じた政治のあり方について考える。
第9回	「観想」と「古層」①	アーレントが西洋哲学の伝統に見出した思考様式について考える。
第10回	「観想」と「古層」②	丸山が日本人の根底にあるとした思考様式について考える。
第11回	「パーリア」と「異端」	アーレントと丸山がマイノリティについてどのように考えたかを検討する。
第12回	「複数性」と「正統」	両者の思想におけるコミュニケーションと秩序形成のあり方について考える。
第13回	「自由」	両者が求めた自由とは何かについて考える。
第14回	まとめとレポート講評	これまでの内容のまとめとレポートの講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で指定・配布する資料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。レジュメ・資料はHoppii等を通じて配布します。

【参考書】
・『ハンナ・アーレント　屹立する思考の全貌』 森分大輔(ちくま新書)2019年
・『丸山眞男　リベラリストの肖像』苅部直（岩波新書）2006年
・『丸山眞男と加藤周一　知識人の自己形成』山辺春彦・鷲巣力（筑摩選書）2023年

【成績評価の方法と基準】
レポート（60％）、リアクションペーパー・授業内発言（40％）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし（教育活動レベルによってweb接続が可能なPCが必要となります）。

【その他の重要事項】
・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
・ヨーロッパ政治思想史Ⅰおよび日本政治思想史Ⅰ・Ⅱの事前あるいは同時履修によってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】
This course aims to broadly understand the endeavor of "politics" as connections among people, exploring how 20th-century thinkers have conceptualized politics and ethics. Additionally, we seek to elucidate the questions these thinkers pose for the 21st century. By focusing on prominent philosophers such as Masao Maruyama and Hannah Arendt, we will compare and discuss their thoughts.
The goal of this course is to construct personal reflections on the meaning of politics in the contemporary context, using the content of the discussed works as a clue.

POL300AC（政治学 / Politics 300）

政治学特殊講義Ⅱ（近代日本における〈道徳〉と〈政治〉）

金子　元

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：この授業では、「政治」という営みを広く人と人とのつながりと捉えて、政治や倫理について20世紀の思想家たちがどのように捉えてきたのか、そして、彼らが21世紀にどのような問題を投げかけているのか、を明らかにしようと試みる。代表的な思想家として和辻哲郎とマルティン・ハイデガーを取り上げ、ある点で共通しながらある点で対照的な両者の思想を比較して論じる。
授業の目的：授業で取り上げる諸著作の内容を手がかりに、現代における政治の意味について自分なりの考えを組み立てることを目的とする。

【到達目標】
・現代社会の諸問題について知識を獲得する。
・現代社会の諸問題について自分なりの見方を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
・基本的に講義形式で行います。毎回のプリントに加えて、和辻やハイデガーのテキストを指定しますので、意欲的な受講者は該当範囲をあらかじめ読んで内容を把握しておくとより深い理解につながるでしょう。
・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考察を深める材料とします。・レポート課題はやや早めに出題し、最終日に講評を行う予定です（受講者数によっては全員のレポートについて言及できないことがあります）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。
第2回	かれらの時代／われらの時代	和辻やハイデガーが生きた時代背景と現在の問題について考える。
第3回	近代批判の端緒	両者のニーチェ論などを手がかりに近代批判の契機を探る。
第4回	古代への沈潜	和辻の日本古代研究、ハイデガーのギリシャ哲学研究の意義を探る。
第5回	考えるためのことば	『言葉についての対話』・「日本語と哲学の問題」を手がかりにハイデガーと和辻における言葉と思想の関係を考察する。
第6回	時間と場所①	『存在と時間』を手がかりにハイデガーの社会思想について考察する。
第7回	時間と場所②	『風土』を手がかりに和辻の社会思想を考察する。
第8回	倫理①	後期ハイデガーの思索を中心にハイデガーの社会理論の展開を考察する。
第9回	倫理②	『倫理学』等を手がかりに和辻の社会理論の展開を考察する。
第10回	時局と思想	ナチズムや軍国主義に対するハイデガーや和辻の姿勢を考察する。
第11回	戦後のとらえ方	戦後の世界を両者がどのようにとらえていたのかを考察する。
第12回	美と技術	両者の美についての議論を社会や政治の問題に絡めて考察する。
第13回	近代と現代	授業内容を踏まえて彼らの思想が現代に投げかけている問題を改めて総括する。
第14回	まとめとレポート講評	授業全体のまとめとレポートの講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業で指定・配布する資料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。
・本授業の準備・復習時間は、該当範囲の予習に3時間、復習に1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要なレジュメ・史資料類は配布します。

【参考書】
・『ハイデガーの哲学　『存在と時間』から後期の思索まで』轟孝夫(講談社現代新書)2023年
・『光の領国　和辻哲郎』苅部直（岩波現代文庫）2010年

【成績評価の方法と基準】
レポート（60％）、リアクションペーパー・授業内発言（40％）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし（教育活動レベルによってweb接続が可能なPCが必要となります）。

【その他の重要事項】
・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
・ヨーロッパ政治思想史および日本政治思想史の事前あるいは同時履修によってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】
This course aims to broadly understand the endeavor of "politics" as connections among people, exploring how 20th-century thinkers have conceptualized politics and ethics. Additionally, we seek to elucidate the questions these thinkers pose for the 21st century. By focusing on prominent philosophers such as Tetsuro Watsuji and Martin Heidegger, we will compare and discuss their thoughts.
The goal of this course is to construct personal reflections on the meaning of politics in the contemporary context, using the content of the discussed works as a clue.

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

現代思想２（フランスの思想）１

大池　惣太郎

授業コード：A2245　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
春学期授業/Spring・２単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジョルジュ・バタイユの思想と東洋哲学（特に禅）の接点について考察します。主に、バタイユの後期の神秘主義関連著作と、鈴木大拙や井筒俊彦といった禅思想家、東洋研究者の著作を、思想史的に交差させながら読み解いていきます。その作業を通じて、バタイユ思想および20世紀フランス思想のいくつかの争点や射程、問題点を学ぶことが授業目的。

【到達目標】
⑴ バタイユの神秘主義思想と東洋哲学の接点について、用語や問いの射程を含めた基本的な理解を得ること。
⑵ また、レポートや発表を通じて、学んだ知見を一定程度の水準で哲学的に考察、議論、論述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・参加者全員が指定されたテクストを読んだ上で授業に参加する。
・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	バタイユの神秘主義と東洋思想の接点について
第2回	「第一の前提」読解	バタイユにおける神秘体験の（無）原則
第3回	「非知」読解	「非-知」について
第4回	「真面目さの彼方」読解１	「到来しないもの」について
第5回	「真面目さの彼方」読解２	言葉の道徳主義とその彼岸について
第6回	「純然たる幸福」読解１	「笑い」について
第7回	「純然たる幸福」読解２	生の意味について
第8回	『意識と本質』講読１	「無」について
第9回	『意識と本質』講読２	井筒俊彦についてのイントロダクション
第10回	『意識と本質』講読３	現象学と仏教思想
第11回	『意識と本質』講読４	「本質」論について
第12回	『意識と本質』講読５	直感知について
第13回	『意識と本質』講読６	已発と未発について
第14回	『意識と本質』講読７	「窮理」と非知について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加すること。
・本授業は準備学習２時間、復習時間２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ジョルジュ・バタイユ『純然たる幸福』（酒井健訳、ちくま学芸文庫、2009年）、井筒俊彦『意識と本質　精神的東洋を索めて』（岩波文庫、1991年）、鈴木大拙『東洋的な見方（新編）』（岩波文庫、1997年）

【参考書】
ジャン=リュック・ナンシー『神的な様々の場』（大西雅一郎訳、松籟社、2001年）、モーリス・ブランショ『終わりなき対話 II 限界-経験: 経験』（湯浅博雄他訳、筑摩書房、2017年）、ロラン・バルト『〈中性〉について　ロラン・バルト講義集成:コレージュ・ド・フランス講義２（1977-1978年度）』（塚本昌則訳、筑摩書房、2006年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への参加度、発表）70%とレポート30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to explore the intersection between Georges Bataille's mystical philosophy and Eastern philosophy, particularly Zen thought. By examining prior research on this topic, the course will primarily focus on Bataille's later mystical works, and engage with the writings of Zen thinkers and Eastern scholars such as Daisetsu Suzuki and Toshihiko Izutsu. Through this, we will analyze these texts from a historical-philosophical perspective, shedding light on the key debates, scope, and issues within 20th-century French thought, offering a fresh perspective on these intellectual developments.
Before each class, students are expected to have read the designated text. This course is designed with a standard of two hours of preparatory study and two hours of review.
Evaluation will be based on class presentations and participation (70%), and the final report (30%).

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

現代思想２（フランスの思想）２

大池　惣太郎

授業コード：A2246　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジョルジュ・バタイユの思想と東洋哲学（特に禅）の接点について考察します。主に、バタイユの後期の神秘主義関連著作と、鈴木大拙や井筒俊彦といった禅思想家、東洋研究者の著作を、思想史的に交差させながら読み解いていきます。その作業を通じて、バタイユ思想および20世紀フランス思想のいくつかの争点や射程、問題点を学ぶことが授業目的。

【到達目標】
⑴ バタイユの神秘主義思想と東洋哲学の接点について、用語や問いの射程を含めた基本的な理解を得ること。
⑵ また、レポートや発表を通じて、学んだ知見を一定程度の水準で哲学的に考察、議論、論述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・参加者全員が指定されたテクストを読んだ上で授業に参加する。
・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	西洋的「無」、東洋的「空」
第2回	『意識と本質』講読８	「本質直感」について／バタイユの直接経験について
第3回	『意識と本質』講読９	禅における言語的意味の問題
第4回	『意識と本質』講読１０	「対話」について（ブランショの観点から）
第5回	『東洋的見方』講読１	「妙」について／狂気と半自然
第6回	『東洋的見方』講読２	「自由」について／実存論の行き詰まり
第7回	『東洋的見方』講読３	「無位の真人」について／バタイユの主権性
第8回	『東洋的見方』講読４	「詩」について（供犠と無意味）
第9回	『東洋的見方』講読５	「宗教的経験」について
第10回	東洋と西洋の主体論	ポスト主体論と東洋哲学
第11回	東洋と西洋の自由論	自由と非従属
第12回	東洋と西洋の言語観	言語論的転回の二側面
第13回	東洋と西洋の知	東洋「哲学」は可能か／バタイユは「哲学者」か
第14回	総括	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加すること。
・本授業は準備学習２時間、復習時間２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ジョルジュ・バタイユ『純然たる幸福』（酒井健訳、ちくま学芸文庫、2009年）、井筒俊彦『意識と本質　精神的東洋を索めて』（岩波文庫、1991年）、鈴木大拙『東洋的な見方（新編）』（岩波文庫、1997年）

【参考書】
ジャン=リュック・ナンシー『神的な様々の場』（大西雅一郎訳、松籟社、2001年）、モーリス・ブランショ『終わりなき対話 II 限界-経験: 経験』（湯浅博雄他訳、筑摩書房、2017年）、ロラン・バルト『〈中性〉について　ロラン・バルト講義集成:コレージュ・ド・フランス講義２（1977-1978年度）』（塚本昌則訳、筑摩書房、2006年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への参加度、発表）70%とレポート30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to explore the intersection between Georges Bataille's mystical philosophy and Eastern philosophy, particularly Zen thought. By examining prior research on this topic, the course will primarily focus on Bataille's later mystical works, and engage with the writings of Zen thinkers and Eastern scholars such as Daisetsu Suzuki and Toshihiko Izutsu. Through this, we will analyze these texts from a historical-philosophical perspective, shedding light on the key debates, scope, and issues within 20th-century French thought, offering a fresh perspective on these intellectual developments.
Before each class, students are expected to have read the designated text. This course is designed with a standard of two hours of preparatory study and two hours of review.
Evaluation will be based on class presentations and participation (70%), and the final report (30%).

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学１（伝統宗教）１

松本　力

授業コード：A2251　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宗教学の準備として、三大宗教（仏教、キリスト教、イスラーム）を学ぶ。

【到達目標】
学生は、この授業を通して、宗教についての基本的な知識を獲得し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。
皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次回の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	宗教学を学ぶために、予備作業としての宗教の知識を獲得する。
第2回	仏教①	仏陀について
第3回	仏教②	仏陀の教えについて
第4回	仏教③	仏教が目指したもの
第5回	キリスト教①	旧約聖書について
第6回	キリスト教②	キリスト教の受容と変化
第7回	キリスト教③	キリスト教の神について
第8回	キリスト教④	イエス・キリストについて
第9回	キリスト教⑤	キリスト教的人間像
第10回	キリスト教⑥	キリスト教の終末観
第11回	イスラーム①	ムハンマドについて
第12回	イスラーム②	クルアーンについて
第13回	イスラーム③	イスラーム共同体について
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は、各4時間を標準とします、

【テキスト（教科書）】
資料を配布して授業を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】
島薗進『宗教学の名著30』、ちくま新書。
渡辺照宏『仏教　第二版』、岩波新書。
エルンスト・ペンツ『キリスト教　その本質とあらわれ』、平凡社。
小杉泰『イスラームとは何か』、講談社現代新書。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業内容についての学生の意見を求める課題（30％）と、授業内容全体についての理解度を確かめる試験（70％）によって、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
最終的には資料の内容について十分に理解できていることが求められます。課題に取り組みながら、資料の内容を読み込んでください。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.
Learning activities outside of classroom
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, Term-end examination: 70%

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学１（伝統宗教）２

松本　力

授業コード：A2252　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宗教学で取り上げられるさまざまな著作について学ぶ。

【到達目標】
学生は、宗教に関するさまざまな著作を読むことで、宗教とは何かを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。
皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次回の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	この授業で紹介する著作についての概容。
第2回	デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』	ヒュームの信仰について。
第3回	フリードリヒ・ニーチェ『反キリスト者』	ニーチェにとってのキリスト教について。
第4回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』①	キリスト教における経済的・社会的要因の考察。
第5回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』②	教会と福音との乖離について。
第6回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』①	ヌミノーゼについて。
第7回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』②	ヌミノーゼの諸要因。
第8回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』①	宗教的経験の特徴。
第9回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』②	トルストイの信仰の考察。
第10回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』①	道徳的責務について。
第11回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』②	動的宗教。
第12回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』①	宗教の次元。
第13回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』②	神について。
第14回	試験	まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
この授業では配布資料を使うため、教科書は使用しません。

【参考書】
島薗進『宗教学の名著30』、ちくま新書。
デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』、岩波文庫。
フリードリヒ・ニーチェ『ニーチェ全集　偶像の黄昏　反キリスト者』、ちくま学芸文庫。
H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』、ヨルダン社。
ルドルフ・オットー『聖なるもの』、岩波文庫。
ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相　下巻』、岩波文庫。
アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉』、ちくま学芸文庫。
ヴィクトール・フランクル、ピンハス・ラピーデ『人生の意味と神　信仰をめぐる対話』、新教出版社。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業内容について学生に意見を求める課題（30％）と、授業全体の内容の理解度を確認する試験（70％）によって、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
資料の内容から、それぞれの著者の考え方について、自分なりに言葉でまとめられるようになることが求められます。課題を通して資料を読み込んでみてください。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.
Learning activities outside of classroom
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

日本思想史１

山本　伸裕

授業コード：A2260　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・２単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本思想史」と銘打たれているが、近代以前の日本においては、思想の歴史的展開を明らかにすることは、ほぼ不可能である。この授業では、日本独自の思想哲学は、日本語の語彙や日本語表現の中に蓄積され、日本語を母国語として生活する人びとの血肉になってきたとする視点に立って、言葉の語源、特にやまと言葉の語源に焦点を当てる。そうした手法は、日本人の心根を明らかにするうえで、最も有効であると考えられる。

【到達目標】
◎古代から培われてきた日本人の思想の基底にある包括的な世界観を知ることができる。
◎日本人の倫理思想の基本構造を、明確に理解することができる。
◎西洋の思想哲学との共通点、相違点について明確に理解できるようになる。
◎現代思想の観点から、日本の思想を再評価する眼を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
◎対面による講義形式で行う。
◎毎回、授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本思想とは何か	ⅰ）思想と哲学 ⅱ）言葉と人間
第2回	やまと言葉で考える	ⅰ）日本語の多重性　ⅱ）「もの」と「こと」　ⅲ）日本人の宗教心　ⅳ）言葉と語り
第3回	日本倫理の基層	ⅰ）意味の顛倒 ⅱ）「あわい（間）」の思想 ⅲ）しなければならぬ　ⅳ）してはならぬ
第4回	日本人の職業倫理	ⅰ）仕事の倫理 ⅱ）「士」の倫理 ⅲ）「農」の倫理 ⅳ）「工」「商」の倫理
第5回	生成する命	ⅰ）「命」の概念 ⅱ）おのずからの命　ⅲ）つくる命、うむ命　ⅳ）命の本源
第6回	連鎖する命	ⅰ）動的平衡 ⅱ）子孫繁栄を願う　ⅲ）食と健康 ⅳ）慎ましく生きる
第7回	「老」に向き合う	ⅰ）老いの苦しみ ⅱ）若さの価値 ⅲ）老いの成熟 ⅳ）老人を敬う
第8回	「病」の諸相	ⅰ）東洋医学の発想　ⅱ）「闇」と「病」　ⅲ）「養生」のすすめ　ⅳ）病に寄り添う
第9回	人生の悲哀	ⅰ）哲学の動機 ⅱ）空虚な現実 ⅲ）世を捨てる ⅳ）振る舞いの優しさ
第10回	感謝と謝罪の倫理	ⅰ）謝意の表明 ⅱ）罪過を認める ⅲ）日本語の謝罪表現　ⅳ）罪障を滅す
第11回	「死」の受容	ⅰ）生死を見つめる　ⅱ）死者の行方 ⅲ）魂の救済 ⅳ）「さよう」の確認
第12回	「死」を弔う	ⅰ）死体の扱い ⅱ）死者を葬る ⅲ）魂の叫び ⅳ）死者の霊を祀る
第13回	まったき人生	ⅰ）粋と野暮 ⅱ）強さと脆さ ⅲ）へこたれない強さ　ⅳ）有終の美を飾る
第14回	授業内テスト	前もって課題を出すので、実質的には授業内レポート。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◎事前：参考文献などに目を通すなどして基本的知識を確認する。
　事前学習時間の目安：約2時間
◎事後：配布されたレジュメに沿って、講義の内容を復習する。
◎事後：単元ごとにリアクションペーパーを作成する。
　事後学習時間の目安：約2時間

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。毎回レジュメを配布する。

【参考書】
竹内整一『やまと言葉の人間学』ぺりかん社、２０２４年
竹内整一『かなしみの哲学』ＮＨＫ出版、2009 年
山本伸裕『日本人のものの見方〜〈やまと言葉〉で考える』青灯社、２０１５年
荒木博之『やまとことばの人類学』朝日選書、1985年
『日本国語大辞典（第二版）』小学館、2000年
増井金典『日本語語源広辞典（初版）』ミネルヴァ書房、2010年　など

【成績評価の方法と基準】
◎期末試験：75％
　※第13回目の講義終了後にテーマを提示するので、あらかじめ考えをまとめて、教室で事業時間内に各自レポートを作成する。持ち込み不可。
◎リアクションペーパー：25％

【学生の意見等からの気づき】
◎毎回授業の初めに前回のリアクションペーパーの中からいくつか学生のコメントをピックアップして紹介する。重要な質問などについてはその場で答える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
　This course deals with Japanese thought before modern times, focusing on Japanese language;"Yamato Kotoba（やまと言葉）".
It also enhances the development of student's skill in Western Philosophy.
【Learnig Objectives】
　At the end of this course, students are expected to acquire basic knowledge in Japanese thought or ethics and to learn how to think for myself.
【Learnig activities outside of classroom】
　Students will be expected to submit a short report after finishing each lecture. Your study time will be more than four hours for writing a paper.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in this class will be calculated according to the following process: Short reports 25%, Term-end report 75%.

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ラテン語１

金子　佳司

授業コード：A2268　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を１年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語１では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。
古典ラテン語は紀元前１世紀から紀元後１世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】
ラテン語１では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、教科書の２〜３課分の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第１課・第２課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第2回	練習問題1,2の解説 第３課〜第５課の説明 引用句1	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用
第3回	練習問題3,5,7の解説 第６課〜第８課の説明 引用句2,3	名詞第二活用(1) 形容詞第一、第二活用(1) 動詞未完了過去形
第4回	練習問題9,11,13の解説 第９課〜第11課の説明 引用句4,5	名詞第二活用(2) 形容詞第一、第二活用(2) 動詞未来形
第5回	練習問題15,17,19の解説 第12課〜第14課の説明 引用句6,7	前置詞、所格(locative)、eoの変化 不定詞、sum,possumの変化 i音幹名詞
第6回	練習問題21,23,25の解説 第15課〜第17課の説明 引用句8,9	i音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第7回	練習問題27,29,31の解説 第18課・第19課の説明 引用句10	黙音幹名詞、混合幹名詞
第8回	練習問題33,35の解説 第20課・第21課の説明 引用句11,12	動詞受動相（受動態） 流音幹鼻音幹名詞
第9回	練習問題37,39の解説 第22課・第23課の説明 引用句13,14	s音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第10回	練習問題41,43の解説 第24課・第25課の説明 引用句15	動詞完了、過去完了、未来完了受動相（受動態） 動詞の主要部分、volo nolo ,maloの変化
第11回	練習問題45,47の解説 第26課・第27課の説明 引用句16	名詞第四、第五活用 能動相（能動態）欠如動詞、fio,feroの変化
第12回	練習問題49,51の解説 第28課・第29課の説明 引用句17,18	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第13回	練習問題53,55の解説 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでみる。
第14回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
また、予習・復習のための教材をHoppii上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】
田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】
入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典〈改訂版〉』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえるようにしたいと思います。

【Outline (in English)】
Course outline ： In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.
Learning Objectives ： The goals of this course are to learn Latin nouns, adjectives, and verbs, and to be able to read simple Latin sentences.
Learning activities outside of classroom ： Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 4 hours for each class.
Grading Criteria ： I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%) .

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ラテン語２

金子　佳司

授業コード：A2269　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を１年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語２では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語２はラテン語１とは独立した科目ですが、ラテン語１で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語２をとる場合は、できる限りラテン語１も受講してください。
古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】
ラテン語２では、ラテン語１で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、教科書の２課分（または１課分）の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の授業の復習 第30課・第31課の説明 引用句19,20	動詞接続法現在形、未完了過去形、目的節で使われる接続法 人称代名詞
第2回	練習問題57,59の解説 第32課・第33課の説明 引用句21	所有形容詞、強意代名詞 動詞接続法完了形、過去完了過去形、間接疑問文で使われる接続法
第3回	練習問題61,63の解説 第34課・第35課の説明 引用句22,23	事実に反する仮定を表す条件文 仮想を表す条件文と予想を表す条件文
第4回	練習問題65,67の解説 第36課・第37課の説明 引用句24	動詞完了不定詞、対格不定詞節 動詞未来不定詞
第5回	練習問題67,69の解説 第38課・第39課の説明	関係代名詞 非人称動詞
第6回	練習問題73,75の解説 第40課・第41課の説明 文例１	動詞現在分詞 動詞完了分詞、未来分詞、状況を表す分詞 パエドルスの寓話「人の欠点」を読む。
第7回	練習問題77,79の解説 第42課・第43課の説明 引用句25,26 文例2	奪格の独立的用法 形容詞の比較級、最上級 パエドルスの寓話「狐と葡萄」を読む。
第8回	練習問題81,83の解説 第44課・第45課の説明	形容詞の不規則な比較級、最上級 数詞
第9回	練習問題85,87の解説 第46課・第47課の説明 引用句27	動名詞 動形容詞
第10回	練習問題89,91の解説 第48課の説明 文例3 文例4	動名詞の代わりに用いられる動形容詞 カエサル『ガリア戦記』を読む。 キケロ『善と悪の究極について』を読む。
第11回	練習問題93,95の解説 第49課・第50課の説明 引用句28	命令法 能動相欠如動詞の命令法、主文における接続法
第12回	練習問題97,99の解説 第51課の説明 引用句29 文例５	目的分詞 デカルト『省察』を読む。
第13回	文例６	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
第14回	理解度の確認	秋学期に学んだ文法事項が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
また、予習・復習のための教材をHoppii上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】
田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】
入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典〈改訂版〉』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえるようにしたいと思います。

【Outline (in English)】
Course outline ： In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.
Learning Objectives ： The goals of this course are to learn the basic Latin grammar, and to be able to read standard Latin sentences.
Learning activities outside of classroom ： Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 4 hours for each class.
Grading Criteria ： I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%) .

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ギリシア語１

白根　裕里枝

授業コード：A2270　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主としてB.C. 5世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字のΣπ γ β θ μ や、時計のΩオメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道999のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】
授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
今年度は授業形態はまだ未定ですが、おそらく、隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。学生の希望に応じて、毎週、対面授業にすることもあり得ます。初回と2回目を対面授業として、相談の上、決めたいと思います。「授業形態」には、その後の対面授業とオンラインを隔週に設定してありますが、参考にしてください。
授業では、下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回１〜２課ずつ進んで、できるだけ多く進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字を知る	1.字母、発音、音韻の分類、気息記号
第2回	文字の読み方	2.音節、アクセント、句読点、語末音
第3回	動詞変化1,名詞変化1	3.動詞現在形
		4.名詞A変化1
第4回	名詞変化2	5.名詞A変化2
第5回	動詞変化2,名詞変化3	6.動詞未来形
		7.名詞A変化3
第6回	名詞変化4	8.名詞A変化4
第7回	動詞変化3	9.動詞、未完了過去
第8回	名詞変化5	10.名詞O変化
第9回	形容詞変化	11.形容詞変化（第一・第二変化）
第10回	前置詞	12.前置詞
第11回	動詞変化4	13.動詞アオリスト
第12回	動詞変化5	14.動詞完了形
第13回	代名詞変化	15.指示代名詞、強意代名詞
第14回	人称語尾1,2	16.本時称の人称語尾
		17.副時称の人称語尾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各３〜４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、岩波書店、2012, ￥2640

【参考書】
『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』堀川宏著、ベレ出版、2021, ￥2750

【成績評価の方法と基準】
平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。出席と課題の提出70％、毎回の解答の出来具合30％。対面授業の場合は、前に出て解答を書いてもらったり、手元を写して解答を発表してもらいます。オンラインでも解答を毎週、期日までに提出すること。練習問題を訳せるように毎回準備して出席し、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインの回は「学習支援」を通じて課題を配布したり、提出してもらったりするので、パソコンで課題を印刷してそれに記入し、写メを撮って提出したり、PDFを添付できたりすることが望ましい。スマートフォンやタブレットだけだと、しっかり取り組めないと感じる。

【その他の重要事項】
ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.
After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.
Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on the following, In-class exercises: 30%, Assignments: 70%.

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ギリシア語２

白根　裕里枝

授業コード：A2271　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン(ソクラテス)の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字のΣπγβθμ や、時計のΩオメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】
授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
今年度は授業形態はまだ未定ですが、おそらく、隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。学生の希望に応じて、毎週、対面授業にすることもあり得ます。初回と２回目の対面授業で相談の上、決めたいと思います。
授業では、下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回１２課ずつ進んで、できるだけ多く進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習	動詞、名詞変化の基本復習
第2回	動詞変化6	18.mi 動詞
第3回	代名詞2	19.疑問代名詞、不定代名詞
第4回	動詞変化7	20.動詞,中動相
第5回	代名詞3,動詞変化8	21.人称代名詞
		22.動詞,中動相２
第6回	代名詞4	23.再帰代名詞その他
第7回	動詞変化9	24.動詞,第２アオリスト
第8回	動詞変化10	25.動詞受動形
第9回	名詞変化6,第三変化	26.第三変化の名詞１
第10回	動詞変化11	27.約音動詞１
第11回	名詞変化7	28.第三変化の名詞２
第12回	動詞変化12	29.約音動詞２
第13回	動詞変化13	30.動詞完了形２、中動相
第14回	第三変化の形容詞	31.第三変化の形容詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各３〜４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、岩波書店、2012, ￥2640

【参考書】
『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』堀川宏著、ベレ出版、2021, ￥2750

【成績評価の方法と基準】
平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席(課題の提出)による、練習問題の解答を重視します。出席と課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %。対面授業の場合は、前に出て解答を書いてもらったり、手元を写して解答を発表してもらいます。オンラインでも解答を毎週、期日までに提出すること。練習問題を訳せるように毎回準備して出席し、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインの回は「学習支援」を通じて課題を配布したり、提出してもらったりするので、パソコンで課題を印刷してそれに記入し、写メを撮って提出したり、PDF を添付できたりすることが望ましい。スマートフォンやタブレットだけだと、しっかり取り組めないと感じる。

【その他の重要事項】
ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.
After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on the following. In-class exercises: 30%, Assignments: 70%.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸批評史Ａ

伊東　祐吏

授業コード：A2553　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】
近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と発表を組みあわせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本の近代文学の概説	前史と西洋近代文学の影響
第2回	批評とは何か	その特徴について
第3回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第4回	尾崎紅葉と幸田露伴	その後の文学の展開
第5回	森鷗外の評論	坪内逍遥との論争
第6回	北村透谷の批評	山路愛山との論争
第7回	高山樗牛の評論	作品と若者への影響について
第8回	斎藤緑雨の箴言	風刺と皮肉の効用
第9回	正岡子規の歌論	短歌・俳句と写生文
第10回	自然主義の誕生	国木田独歩、島崎藤村、田山花袋
第11回	言文一致運動	その過程の論争
第12回	反自然主義	自然主義と違う立場の作家
第13回	平塚雷鳥と与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第14回	大逆事件	石川啄木や徳富蘆花の評論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本近代文学史についての専門的知識は特には必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』［明治・大正篇］および［昭和篇］（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】
必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】
Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.
Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.
Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.
Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.
Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50%for regular work and 50%for presentations (assignments).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸批評史Ｂ

伊東　祐吏

授業コード：A2555　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】
近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と発表を組みあわせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大正・昭和期の文学の概説	20世紀の西洋文学との比較
第2回	夏目漱石の批評	文明批評について
第3回	和歌と漢文	日本人の文化的喪失について
第4回	白樺派	武者小路実篤の作品と批評
第5回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛との論争
第6回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	純文学と通俗小説に関する論争
第7回	プロレタリア文学と新感覚派	関東大震災後の新たな潮流
第8回	小林秀雄の批評	日本における近代文芸批評の確立
第9回	戦時下の文学と言論	日本浪曼派と文学報国会
第10回	敗戦と占領下の批評	終戦直後の状況について
第11回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第12回	「政治と文学」論争	「近代文学」と中野重治の論争
第13回	吉本隆明と江藤淳	戦後を代表する左派と右派の思想
第14回	ポストモダンとその後	柄谷行人と加藤典洋について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本近代文学史についての専門的知識は特には必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』［明治・大正篇］および［昭和篇］（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】
必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】
Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.
Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.
Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.
Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.
Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50%for regular work and 50%for presentations (assignments).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

中国文芸史A

遠藤　星希

授業コード：A2561　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【先秦・漢・魏・晋・南北朝文芸史】
　中国文芸史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白や杜甫、白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、その唐詩を生み出す源泉となった唐より前の時代の文芸がどのようなものであったのかを学ぶ。

【到達目標】
　先秦時代から南北朝時代までの文芸史のアウトラインを理解すること。また、各時代の代表的な文学作品を読解することを通して、中国文芸の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国古典文学についての概説
第2回	中国神話	中国の古代神話とその特徴について
第3回	詩経	中国最古の歌謡集である『詩経』の歌謡を読む
第4回	楚辞	戦国時代の楚の地方で発祥した韻文『楚辞』の諸篇を読む
第5回	諸子百家	戦国時代の諸子百家の思想書を読む
第6回	漢代の楽府	「楽府」と呼ばれる民間歌謡を読む
第7回	漢代の賦と『史記』	漢代に盛行した「賦」と呼ばれる文学ジャンルと司馬遷の『史記』から、漢代の人々の世界観をさぐる
第8回	漢代の古詩	漢代に発祥した五言詩を読む
第9回	西晋の文学（1）	西晋の代表的文人である潘岳の悼亡詩を読む
第10回	西晋の文学（2）	西晋の左思が自分の娘を詠んだ「嬌女の詩」を読む
第11回	六朝志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第12回	六朝志怪小説（2）	志怪小説中に見える異類婚姻譚を読む
第13回	陶淵明の詩賦と南朝の艶詩	東晋の陶淵明の作品と、南朝で流行した「艶詩」と呼ばれるジャンルの詩を読む
第14回	南朝の民歌	南朝の民間歌謡に見える恋の歌を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】
・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
　授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の３分の２以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will focus on the literature and the underlying social background of the most ancient periods, from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese, and in this course we will learn about the characteristics of literature of periods prior to the Tang dynasty, which formed the foundation for the creation of Tang poetry.
Learning Objectives: By the end of the course, students will:
A. understand the outline of the history of literature from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties;
B. have knowledge of the various genres of Chinese literature through reading representative literary works of each period, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture; and
C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC（文学 / Literature 200）

中国文芸史B

遠藤　星希

授業コード：A2563　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【唐代文芸史】
　中国文芸史における時代区分のうち、日本文学への影響力がとりわけ強かった唐代の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白・杜甫・白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、唐代の文芸ジャンルは詩だけではなく、「伝奇」と呼ばれる小説や韓愈・柳宗元らの散文も文芸史上において重要な意義を持っている。本授業では、唐代各期の様々なジャンルの文学作品を読解することを通して、唐代に書かれた詩や小説・散文の多様性、現代にも通じるその芸術性及び現代では理解しがたい特殊性などについて、幅広い知識を習得する。

【到達目標】
　唐代文芸史のアウトラインを理解すること。また、唐詩の形式的特徴（絶句・律詩など）や内容的特徴（辺塞詩・閨怨詩・送別詩など）及び唐代に書かれた小説や散文の特徴について、具体例に即して人に説明できるようになること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（1）	唐代文学についての概説
第2回	ガイダンス（2）	中国古典詩における諸々の規則についての概説
第3回	初唐の詩	初唐の代表的な詩人の作品を読む
第4回	辺塞詩	辺境地帯の風物や出征兵士の嘆きを詠じた「辺塞詩」というジャンルの詩について
第5回	閨怨詩	愛の喪失を嘆く女性の姿を詠じた「閨怨詩」というジャンルの詩について
第6回	盛唐の詩（1）	中国を代表する詩人であり、「詩仙」とも呼ばれる李白の詩を読む
第7回	盛唐の詩（2）	中国を代表する詩人であり、「詩聖」とも呼ばれる杜甫の詩を読む
第8回	唐代伝奇小説（1）	唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短篇小説についての概説
第9回	唐代伝奇小説（2）	中国では散逸し、日本に渡って生き残った伝奇「遊仙窟」を読む
第10回	唐代伝奇小説（3）	中島敦「山月記」の粉本として知られる伝奇「李徴」を読む
第11回	唐代伝奇小説（4）	芥川龍之介による翻案で知られる伝奇「杜子春」を読む
第12回	中唐の詩	中唐の代表的な詩人である韓愈・柳宗元・李賀の詩を読む
第13回	唐代古文運動	中唐期に勃興した古文復興運動について概説し、あわせて韓愈と柳宗元の散文を読む
第14回	晩唐の詩	晩唐期の代表的な詩人である杜牧と李商隠の詩を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】
・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005年）
・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
　授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の３分の２以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will be focus on the literature and the underlying social background during the Tang dynasty, when there was a particularly strong influence on Japanese literature. As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese. Poetry, however, was not the only literary genre of the Tang, and novels called *chuan-qi* as well as the prose of Han Yu and Liu Zongyuan are particularly noteworthy in the history of Chinese literature. In this course, through reading literary works of various genres from each period during the Tang, we will attain broad knowledge of the diversity of poetry, novels and prose written during the Tang dynasty, their artistry that can be appreciated today, as well as peculiarities that are difficult to understand today.
Learning Objectives: By the end of the course, students will:
A. understanding the outline of Tang-Dynasty literary history;
B. understand the form and content of Tang poetry and the characteristics of novels and prose written in the Tang Dynasty; and
C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（３）中世Ａ

阿部　真弓

授業コード：A2665　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立の問題を解説した後、代表的和歌について講義します。
今年度は天皇・上皇の和歌を取り上げ、各歌の解釈のほか、当該歌をめぐる問題や『百人一首』の古注釈ではどのように解釈されているか等について解説します。そして、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】
①和歌の表現に関する知識を身につける。
②古典和歌を解釈する力を養う。
③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。
和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注釈を参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の謎	成立の問題について
第3回	『百人一首』の謎	二条派歌人の動向
第4回	『百人一首』古注釈	中世・近世の古注釈について
第5回	『百人一首』講読	天智天皇「秋の田の」歌（1）解説
第6回	『百人一首』講読	天智天皇「秋の田の」歌（1）古注釈
第7回	『百人一首』講読	持統天皇「春すぎて」歌(2)解説
第8回	『百人一首』講読	持統天皇「春すぎて」歌(2)古注釈
第9回	『百人一首』講読	後鳥羽院「人もをし」歌(99)解説
第10回	『百人一首』講読	藤原定家と後鳥羽院の関係
第11回	『百人一首』講読	後鳥羽院「人もをし」歌(99)古注釈
第12回	『百人一首』解説	順徳院「ももしきや」歌(100)解説
第13回	『百人一首』解説	順徳院「ももしきや」歌(100)古注釈
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
・講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）
・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999年）
・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス　日本の古典　百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010年）
その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（70％）、平常点（30％）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①〜③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).
Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（３）中世Ｂ

阿部　真弓

授業コード：A2666　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：1～4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目では中世日記文学『とはずがたり』をとりあげます。作者は後深草院に仕えた二条という女性です。若く美しい作者は後深草院の寵愛を受けることになりますが、それが彼女の苦悩の始まりでした。
この作品には、両統迭立期の院御所の有様がつぶさに記され、後深草院と亀山院の対立関係、公卿たちの動向、そしてそうした場で繰り広げられる男女の愛憎劇が描写されており、きわめて複雑な作品構造をしていますが、混沌とした中で一つの軸として見えてくるのは作者自身と後深草院の関係性という問題です。
当授業では、作者が後深草院をどのように描写しているか、院と自分との関係をどのように認識し表現しているのかに注目しながら、読解を進めます。表現・人物造型の方法、政治的動向を描く際の手法等を分析しながら、日記文学の特質や面白さ、また文学史的位置づけについて考察していきます。

【到達目標】
①日記文学に関する基本的な知識を習得する。
②中世の歴史的文化的背景を理解した上で作品を解釈する。
③和歌や物語の享受の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使い、講義形式で行います。学習支援システムにアップロードされた質問やコメントに、できるかぎり回答していきながら、授業を進めます。また状況に応じてクリッカーを用い、理解度を確認したり、アンケートをとったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『とはずがたり』概説	作品の概要、研究史など
第3回	『とはずがたり』巻一	後深草院との新枕
第4回	『とはずがたり』巻一	後深草院と「雪の曙」
第5回	『とはずがたり』巻一	東二条院へのとりなし
第6回	『とはずがたり』巻二	粥杖事件
第7回	『とはずがたり』巻二	「有明の月」との関係
第8回	『とはずがたり』巻二	六条院の女楽事件
第9回	『とはずがたり』巻三	「有明の月」への仲介
第10回	『とはずがたり』巻三	院御所からの追放
第11回	『とはずがたり』巻四	伏見での邂逅
第12回	『とはずがたり』巻五	熊野での夢想
第13回	『とはずがたり』巻五	後深草院の葬送
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レポート（70％）、平常点（30％）によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、学習支援システムに毎回提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
現代語訳付きプリントを配布する等、古典文学に苦手意識がある人にも理解しやすい、また復習しやすい教材作りに努めます。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course deals with *The Confessions of Lady Nijō* (とはずがたり *Towazugatari*).
Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of works of courtly literature of the Kamakura period.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（４）近世Ａ

小林　ふみ子

授業コード：A2669　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【近世文学と古典文学】
江戸時代には、出版文化を背景に中世までのさまざまな古典をふまえた作品が作られました。それら現代でいう二次創作の作品は、原作にたいして、ちゃかしたり、オマージュを捧げたり、態度はさまざまですが、それぞれ原作を当世（現代）＝江戸時代化することで成りたっています。『源氏物語』『平家物語』をはじめ、さまざまな古典文学に親しみつつ、江戸時代的特徴を考える一挙両得の講義です。

【到達目標】
1.江戸文芸に表れた近世的特徴を理解する。
2.雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
3.デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
２〜３回で１ジャンルを学ぶ。
提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。
100分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成、作品の作り方を追体験してもらうべく、創作にも挑戦する。
発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入 パロディ文芸のはじまり①	江戸時代の特徴を知る。 江戸時代初期のパロディ文芸のなかから『吉原徒然草』を読む
第2回	パロディ文芸のはじまり②	『吉原徒然草』にならってパロディに挑戦する
第3回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』①	西鶴の『好色一代男』巻一－一の設定から光源氏のやつしとしての世之介を考える
第4回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』②	『好色一代男』巻四－二形見の水櫛において『伊勢物語』『源氏物語』がどう活かされているかを考える
第5回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ①	狂歌というジャンルと江戸狂歌について知る
第6回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ②	歌麿描く江戸狂歌の名作『画本虫撰』を読んで創作にチャレンジする
第7回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ③	狂歌とことば遊びの見立絵本『絵本見立仮譬尽』を読み、創作にチャレンジする
第8回	『平家物語』のストーリーをちゃかす-黄表紙①	「源平の戦いも面倒なので」打たれる真似をして茶番で済ませる!?という設定の恋川春町画作『万歳集著微来歴』前半をよむ
第9回	『平家物語』のストーリーをちゃかす-黄表紙②	『万歳集著微来歴』後半を読む
第10回	『平家物語』を言葉でちゃかす-滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬が『平家物語』敦盛最期をちゃかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む
第11回	『平家物語』を言葉でちゃかす-滑稽本②	『大千世界楽屋探』を分析し、創作にチャレンジする
第12回	『源氏物語』を近世化する-合巻①	黄表紙の後継ジャンルである合巻について学び、『偐紫田舎源氏』の大枠を知る
第13回	『源氏物語』を近世化する-合巻②	『偐紫田舎源氏』の『源氏物語』夕顔巻に該当する部分の前半を読む
第14回	『源氏物語』を近世化する-合巻③ まとめ	『偐紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の後半を読む 最後にこの時代の文芸の特質を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに小課題を出します。
本授業の準備学習は30分・復習時間は平均して3時間程度を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】
各回、資料提供し、参照すべきURLを提示します。

【参考書】
長島弘明編『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019）・小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル［インターナショナル新書］、2019）ほか

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクション・ペーパー（20％）、単元ごとの課題の得点（80％）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解読と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください！

【学生が準備すべき機器他】
デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意すると便利です。図書館のデータベースのうちジャパンナレッジは随時使えるようにしておきましょう。

【Outline (in English)】
Course Outline: Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.
Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.
Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes and　Review for **Course Outline**: Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.
Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.
Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes, review for 2hours for each class. It will be about 4 hours, including the time for writing 4 short reports/semester.
Grading Criteria/Policy: Reaction paper (20%), short reports (80%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（４）近世Ｂ

齊藤　千恵

授業コード：A2670　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「忠臣蔵」とその周辺文化について学ぶ。
赤穂義士の討ち入り事件は広く世に知られ、早くから舞台化も行われた。なかでも大ヒットしたのは、「仮名手本忠臣蔵」である。人形浄瑠璃として作られ、すぐに歌舞伎化されたこの作品は、さまざまなジャンルの「忠臣蔵もの」作品を生み出す母体となった。その流れは今日まで続き、「忠臣蔵」を扱った小説、テレビドラマや映画なども多く作られている。本講義では、「忠臣蔵もの」作品が生まれる母体となった「仮名手本忠臣蔵」と、その派生的作品をいくつか採り上げ、忠臣蔵文化の拡がりを学ぶ。

【到達目標】
①人形浄瑠璃・歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の特色を学び、日本人を魅了し続けた芸能について深く理解する。
②「仮名手本忠臣蔵」から派生した「忠臣蔵もの」の作品を分析できる。
③人形浄瑠璃・歌舞伎・浮世絵・近世小説・落語などに触れ、その楽しみ方、味わい方を身につける。
④現代にも通じる「忠臣蔵」文化の始原のあり様を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とし、質問・意見はリアクション・ペーパーを用いて募る。また、半年間で2回程度、小課題の提出を求める。リアクション・ペーパー及び小課題については、授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・時代背景	物語の生み出された土壌と、史実の赤穂事件について理解を深める。
第2回	人形浄瑠璃と歌舞伎	人形浄瑠璃と歌舞伎の芸能としての特性を理解し、『仮名手本忠臣蔵』が生み出されるまでの流れを知る。
第3回	「仮名手本忠臣蔵」①	判官の無念の死はどのように引き起こされたのか。『仮名手本忠臣蔵』に描かれた事件の真相に迫る。
第4回	「仮名手本忠臣蔵」②	勘平はどのようにして追い詰められ、早すぎた死を選ぶのか。運命に翻弄された男の悲劇を味わう。
第5回	「仮名手本忠臣蔵」③	遊興にふける由良之助の真意はどこにあるのか。それを悟った兄妹の動向を理解する。
第6回	「仮名手本忠臣蔵」④	大星家と加古川家の関係を考える。本蔵の死によってもたらされたものを知る。
第7回	「仮名手本忠臣蔵」⑤	敵討を支える登場人物たちの動きから、上演の問題点を把握する。
第8回	歌舞伎「東海道四谷怪談」①	作品の成り立ちと初演時の上演形態から、「忠臣蔵」との関わりを読み解く。
第9回	歌舞伎「東海道四谷怪談」②	鶴屋南北の表現手法と演出技法に触れ、作品の魅力に迫る。
第10回	「忠臣蔵もの」の浮世絵	「忠臣蔵」を描いたさまざまな浮世絵に触れ、その面白さを知る。
第11回	「忠臣蔵もの」の草双紙	「忠臣蔵」のパロディ絵本を読み解く。
第12回	「忠臣蔵もの」の舌耕文芸	落語『中村仲蔵』『四段目』の面白さを味わう。
第13回	「忠臣蔵もの」の滑稽本と劇書	評論『忠臣蔵偏痴気論』『古今いろは評林』を読む。
第14回	まとめ　「忠臣蔵もの」のゆくえ	「忠臣蔵もの」文芸の特質を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をよく読み、予習・復習に生かすこと。
授業外に提出課題を課すことがある。
本授業の準備時間は1時間程度、復習時間は平均して3時間程度とする。
最近多く配信されている古典芸能の映像を鑑賞したり、ネット公開されている各種関連資料を閲覧してみるなど、積極的に見聞を広めてほしい。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
『仮名手本忠臣蔵を読む』（服部幸雄編、吉川弘文館、2008）
『新潮日本古典集成　浄瑠璃集』（土田衛校注、新潮社）
『新編日本古典文学全集　浄瑠璃集』（鳥越文蔵ほか校注・訳、小学館）
その他、講義中にも参考書・URL等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーへの取り組み）：40％
小課題（×2回）：60％

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚教材を用いて、イメージを捉えやすい講義を行う。
講義で扱う近世文芸の各ジャンルについても、ジャンルの特性に触れられるよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiを活用するため、スマートフォン・タブレット等を用意してほしい（ただし、何らかの事情で利用できない学生にも適宜配慮します）。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは設けないが、質問等は授業後およびリアクションペーパーで受け付ける。
第8回以降で扱う作品は、受講生の状況により変更する可能性もある。

【Outline (in English)】
Course Outline: This lecture course is about *Kanadehon Chūshingura* (*The Treasury of Loyal Retainers*) and derivative works. The historical incident of the revenge of the forty-seven *rōnin* of Akō is widely known, and was adapted for the stage from early on. One of the most successful stage productions was *Kanadehon Chūshingura*. Originally a puppet play (*ningyō jōruri*), it was soon performed on the *kabuki* stage, and many derivative works were born in various other genres. This trend has continued to the present day, and many novels, TV dramas, and movies have been produced on the same theme.
Learning Objectives: At the completion of this course, students will:
1. understand the characteristics of the *ningyō jōruri* and *kabuki* versions of *Kanadehon Chūshingura*;
2. will be able to analyze works derived from *Kanadehon Chūshin- gura*;
3. will have learned how to enjoy and savor *ningyō jōruri*, *kabuki*, *ukiyoe*, early modern novels, *rakugo*, etc.
4. will understand the evolution of *Chūshingura* as a cultural phenomenon, which still retains its relevance today.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students are required to read the handouts and use them for preparation and review. About 2 assignments are to be done outside of class. Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content. The standard learning and review time after each class is 3 hours.
Grading Criteria/Policy: Performance in class (reaction papers): 40% . Short assignments (2): 60％.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ａ

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese*［1894］の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】
・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1〜3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第2回	「（国際）日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第3回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備（続）
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究
第5回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japanの設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イェイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第6回　参考書 pp. 10-17
第7回　参考書 pp. 18-23
第8回　参考書 pp. 64-69、70-77
第14回　参考書 pp. 104-111
その他の回　事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しない。

【参考書】
佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著　ゴンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫832（ISBN4-12-100832-4）
その他、授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー（35％）、プレゼンテーションと議論への参加度（25％）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40％）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】
担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】
Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.
Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.
Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ｂ

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた*The Chrysanthemum and the Sword*（菊と刀、1946）と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】
・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた*The Chrysanthemum and the Sword*の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・12回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず１回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1〜3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保（『「日本文化論」の変容』）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第5章 “Debtor to the Ages and the World”と第6章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー 等の活躍
第7回	60〜70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー 等
第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第7章“The Repayment Hardest to Bear”と第8章“Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保、ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第10章“The Dilemma of Virtue”と第12章“The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第2回　参考書① pp. 182-187
第4回　参考書② pp. 31-55
第6回　参考書① pp. 214-219、266-271
第7回　参考書① pp. 248-253
第11回　参考書① pp. 260-265
その他の回　事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しない。

【参考書】
①佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著　ゴンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫832（ISBN4-12-100832-4）
②青木保『「日本文化論」の変容　戦後日本の文化とアイデンティティー』（中央公論社、1990）中公文庫533、1999（ISBN4-12-203399-3）

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー（35％）、プレゼンテーションと議論への参加度（25％）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40％）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】
担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】
Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict’s *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict’s book, students participate in one of three presentations on Benedict’s discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 &6), *giri* (Chapters 7 &8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.
Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict’s book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.
Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語学概論 A

椎名　美智

授業コード：A2804　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：**他学科生の配当年次は2〜4年です**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいです。

【到達目標】
英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始は4月7日です。テキストはそれまでに自分で生協にて買っておいてください。課題、読んでほしい箇所などの情報はHoppii「学習支援システム」でお知らせします。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれませんが、そうした情報も含め、全て前日までにはHoppiiでお知らせします。なお、Hoppiiから皆さんへは、メールでお知らせがいくようにします。
＊＊＊＊＊＊＊
「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。
*****
リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 毎週、授業日の前日に、必ずHOPPIIを見てください。	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第2回	世界の英語(1)	世界語としての英語について
第3回	世界の英語(2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第4回	形態論(1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第5回	形態論(2)	形態論と形態素
第6回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第7回	意味論(1)	意味論の概説
第8回	意味論(2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第9回	語用論(1)	語用論の概説、言葉の意味について
第10回	語用論(2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第11回	文体論(1)	文体論の概説
第12回	文体論(2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第13回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第14回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、Hoppiiにアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】
内容ごとに参考文献や資料を紹介し、Hoppiiにアップロードします。

【成績評価の方法と基準】
通常の授業では、学期末試験70%、レポート20%、平常点10%で、評価します。変更しなければならない状況になったら、Hoppiiにて連絡をします。

【学生の意見等からの気づき】
初めてのことばかりなので、授業を聞いているだけでは難しいかもしれませんが、授業の前後に予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

【学生が準備すべき機器他】
課題は、基本的に学習支援システムから、添付ファイルの形で提出してもらいます。

【その他の重要事項】
・パワーポイントの資料は、必要な場合には、授業後にHoppiiにアップします。
・オフィスアワーは木曜4限です。事前にメールで予約をしてください。詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics.　The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.
The leaning object of this class is to have an overview of the English linguistics and also become able to locate one's own research interest in the field.
Students need to read the chapter before attending the class and also to review what they have learned in the class after the class.
The grade includes the term end exam (70%), academic essays (20%), and attendance (10%). Any change will be announced in the class or by Hoppii.

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語学概論Ｂ

福元　広二

授業コード：A2805　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究の基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】
この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第２言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第2回	英語学とは	英語学の基本を解説する
第3回	音声・音韻論(1)	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み 音韻論の演習:母音の発音の実践
第4回	音声・音韻論(2)	音声学の概説:子音の仕組み
第5回	音声・音韻論(3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第6回	音声・音韻論(4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第7回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第8回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第9回	言語構造の解析	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第10回	英語の歴史(1)	英語史の概説
第11回	英語の歴史(2)	英語の音韻・統語・形態・意味の変化
第12回	言語習得(1)	言語習得の基礎的概念
第13回	言語習得(２)	言語習得を説明する主な理論
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引きながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』
影山太郎、日比谷潤子、ブレント　デ・シェン　著
くろしお出版

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に示した、その分野の基礎的知識が充分に理解できているかで評価します。
期末試験　６０％
平常点　　４０％

【学生の意見等からの気づき】
教科書の解説も丁寧に行うようにします。

【その他の重要事項】
できれば、1年次に春学期「英語学概論A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論A」と「英語学概論B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合もあります。出席は毎回とります。
４回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】
This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language.Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.
The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English linguistics.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

言語学概論Ａ

石川　潔

授業コード：A2806　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・２単位　｜　配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことを目指します。どの分野を自分が楽しめそうか、楽しめなさそうかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】
-「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きの判断の材料を得る
（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。
基本的には講義です。
リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。
学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入、および「音素」その１（音声学・音韻論）	この授業の紹介、および、*party* はカタカナで何と言うべき？
第2回	「音素」その２（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第3回	「音節」その１（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第4回	「音節」その２（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第5回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第6回	今日の文法理論その１（統語論）	統語論「研究」実体験：日本語を例として
第7回	今日の文法理論その２（統語論）	「５文型」の不適切さ、X-bar Theory
第8回	今日の文法理論その３（統語論）	英語の「動詞句」って何だろう？そんなもの、本当に native speaker の頭の中にあるの？
第9回	今日の文法理論その４（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第10回	今日の文法理論その５（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第11回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	*Without her contributions failed to come in.* ってどういう意味？ ……「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第12回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	実験方法、そして人間の文処理の方式の理由
第13回	言語習得（心理言語学）	言語生得説、そして U-curve development
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】
参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
期末試験、100％。
公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。
但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、一昨年からの改善を志したものの、却って失敗した面があったと自分では思っています。その割には授業改善アンケートでは好意的な反応の方が圧倒的に多く、ありがたかったのですが、特に「文法」関係はもっと丁寧に説明したいと思います。また、実習的な面をもっと増やしたいと思っています。

【その他の重要事項】
この授業は『言語学概論Ｂ』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】
（Course outline）An introduction to linguistic sciences for novice.
（Learning Objectives）To clear up common misconceptions concerning langauge, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted.
（Learning activities outside of classroom）Reaction papers
（Grading Criteria /Policy）Final (100%)

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

言語学概論Ｂ

石井　創

授業コード：A2807　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：1～4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の内容は、「『経験科学』としての言語学入門」です。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】
１．言語学の各分野における基礎知識を理解できる
２．身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
３．科学研究の方法論に対し、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
１．形態
教室での「対面授業」を毎回実施する予定ですが、諸事情により部分的に「オンライン授業」を実施する場合がありえます。
２．進め方
教員による講義形式が基本となりますが、内容理解を助けるために、受講者が授業内や宿題で練習問題を解く機会も適宜設けていきます。
教員は具体的な言語現象とそれにまつわる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑う姿勢を大切にし、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパーで積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。
なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要説明、「言語学って何をするの？」、「語学と違うの？」、「言語学が科学？」
第2回	理論言語学とは？	下位分野とそれぞれで扱われる謎の種類
第3回	言語理論と言語観の変遷１	Saussure ～アメリカ構造主義言語学
第4回	言語理論と言語観の変遷２	Chomsky ～認知言語学
第5回	形態論１	語の内部構造と形態素
第6回	形態論２	語形成（派生と屈折）
第7回	音声学１	音声産出と子音・母音の体系
第8回	音声学２	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第9回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第10回	統語論１	句構造と X-bar Theory
第11回	統語論２	句構造から文構造へ（生成文法における「移動」）
第12回	意味論１	意味の記述と語彙分解
第13回	意味論２	述語のアスペクト
第14回	音韻論	音節とモーラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の準備・復習時間は、各２時間とします。
１．準備
事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。
２．復習（宿題、その他応用学習も含む）
その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいです。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。紙のハンドアウトは教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードします。受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．期末試験：100%
シラバス執筆時点では、(A) 教室内試験、(B) 学習支援システムの「教材」機能を用いたオンライン試験、のどちらになるか未定です。(A) の場合は、最終授業後の定期試験期間に実施します。
２．プラスアルファの加点
上記の通り、本科目の成績は期末試験による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々の加点をいたします。
(a) リアクションペーパー（RP）や質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者（但し、以下の＊の場合には減点の可能性あり）
(b) 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）
＊本授業では出席は取りません。また RP は出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないと減点される」という類のものではありません。よって、出席票を出すノリでいい加減な RP (e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等の一言感想だけのもの) を提出した者は、逆に成績から減点します。

【学生の意見等からの気づき】
１．昨年度は「専門用語が多く、その用語があらわす内容を理解できないまま授業が進んでしまった」という旨の意見が複数見られ（一方で「分かりやすい授業だった」という意見もあり）、その点に対して「用語説明をもっと充実させてほしい」、「既習用語の振り返り確認を授業中にもっと行ってほしい」という要望があった。これらを踏まえ、本年度は「『学生にとっての分かりやすさ』をより意識して説明の仕方を工夫する」、「時間の許す限り、以前の授業内容の振り返りを増やす」、等の改善を行っていきたい。
２．受講生が授業中にスマホや PC から送信したコメントが教室内スクリーン上に匿名で流れるアプリを一昨年度より導入しているが、一昨年度と異なり、昨年度は毎回の授業で受講生からの意見・質問コメントを得られ、またそれに対して「匿名かつ気軽に質問や要望を送れ、それに対応してもらえてありがたかった」という好意的な意見をいただいた。本年度も引き続き本環境を活用し、より積極的にコメントをいただけるように工夫しながら、受講生の自由な意見発信や授業理解度の把握に役立てていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
(a) 双方向通信アプリの Zoom を使用できるデバイス
(b) Zoom によるリアルタイム配信授業の視聴が可能なインターネット回線

【その他の重要事項】
本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

【Outline (in English)】
1. Course outline
This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.
2. Learning objectives
In this course, students are expected:
(a) to acquire the ability to understand basic knowledge in each field of linguistics.
(b) to become sensitive to, and to acquire the ability to give a rudimentary analysis to, facts about languages that are spoken around them.

(c) to gain a correct understanding of a scientific research methodology.
3. Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Before each class meeting, take a look at the handout to be delivered beforehand. In addition, you should also recall the contents of the previous class meeting that are related to the upcoming meeting.
(b) Review
You should reflect on what you have learned in the classroom, and work on the assignment if any. If you encounter a problem, you should first tackle it yourself, and let me know the results, however imperfect they are; I will then give a feedback to your attempt. Furthermore, employ the analysis methods you have learned to solve the problem you encounter in your daily life that is similar to the phenomenon taken up in the class.
4. Grading Criteria /Policy
Term-end examination: 100%

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語・言語学講義 A

椎名　美智

授業コード：A2808　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業形態は基本的には対面ですが、変更するときはHoppiiで連絡します。
互いに日本語で話をしているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとなおさらそうです。原因の多くは「意味論的意味」と「語用論的意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一局面を探ります。
講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一局面を探ります。

【到達目標】
授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書、ハンドアウト、PPTを使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてきてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。
基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までにはHoppiiを見てください。
毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第2回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第3回	第１章：ポライトネスの背景（1）	人間関係に関わる普遍的なルール
第4回	第１章：ポライトネスの背景（2）	ポライトネスについて
第5回	第２章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（1）	効率と配慮について
第6回	第２章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（2）	ポライトネスと言語文化について
第7回	第３章：敬語とポライトネス（1）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第8回	第３章：敬語とポライトネス（2）	敬語と距離感について
第9回	第４章：距離とポライトネス（1）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第10回	第４章：距離とポライトネス（2）	呼称と指示語について
第11回	第５章：ポライトネスのコミュニケーション（1）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第12回	第５章：ポライトネスのコミュニケーション（2）	言語の形式と機能について
第13回	第６章：終助詞の意味とポライトネス	話者が直観的にしていることについて
第14回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。
滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】
椎名美智（2022）『「させていただく」の使い方ー日本語と敬語のゆくえ』（角川新書）
「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は参考になります。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート80%、平常点（提出物/出席）20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使ったPPT資料は、希望があれば、授業後に学習支援システムにアップするので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは木曜日４限です。事前に予約メールをください。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。
「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline (in English)】
This course deals with human communication with politeness on focus.
Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.
The goal of this class is to learn pragmatics and politeness theory and raise the consciousness on one's own communication.
Students need to review what they learn in the class.
The grading includes presentation (20%) and term paper (80%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語・言語学講義 B

石川　潔

授業コード：A2809　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】
現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的なネタを取り上げた講義、および訳や作文の実習。
訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーで重要なものにはコメントを返す予定です。
なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	巷の日本語論の嘘（その1）	うなぎ文（その1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第2回	巷の日本語論の嘘（その2）	うなぎ文（その2）：奥津説、菅井説、そして……
第3回	「訳」についての誤解（その1）	代名詞と「役割語」
第4回	「訳」についての誤解（その2）	意味と文法的手段
第5回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第6回	ハとガ、英語の冠詞（その1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第7回	ハとガ、英語の冠詞（その2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第8回	「黒人」英語（その1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第9回	「黒人」英語（その2）	無意識の規則
第10回	「黒人」英語（その3）	必要な（意味論的）概念の整備
第11回	「黒人」英語（その4）	細かい意味的な区別
第12回	強形・弱形・再強勢形	*do* の3単現（その1）
第13回	音節量	*do* の3単現（その2）
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
リアクションペーパー。また、訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。
なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】
参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。
但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートでの理解度のスコアは、2022年度より2023年度は上がりましたが、2024年度は2022年度よりも下がってしまいました。理解度を2023年度のように上げるべく頑張りたいと思います。

【Outline (in English)】
（Course outline）Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.
（Learning Objectives）To clear up misconception concerning language.
（Learning activities outside of classroom）Translations and compositions; reaction papers.
（Grading Criteria /Policy）Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

社会言語学

椎名　美智

授業コード：A2810　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会言語学は文字通り「社会と言語の関係についての学問」ですが、この授業では、幅広い視野から社会言語学を概観し、言語的側面から歴史、社会、政治、そして日常生活を見直す考え方を身につけることを目標にしています。

【到達目標】
世界中の様々な国に住む、様々な民族の言語状況に目を向け、その背後にある政治的・社会的・歴史的・民族的な要因を考える習慣を身につけてもらいたいと思います。それと同時に、自分の生活環境における言語的実情を自分で調べる「フィールド・ワーク」をする習慣を身につけてもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
初回の授業は4月10日です。
国会では標準語で話しているのに、地元での選挙演説では方言を使う政治家がよくいます。また、電車の中でおしゃべりしている中高校生の語彙やイントネーションが、まるで外国語のように奇妙に聞こえることも、よくあることです。日常生活におけるこうした言語をめぐるおもしろい言語現象をきっかけに、「社会」と「人間」と「言語」の関わりを探っていきます。また、世界における言語状況を自分たちの身近な問題として考えていきます。テキストおよびハンドアウト、PPTを使った講義形式です。なお、各回の内容は、履修学生の興味によって変更する可能性があります。毎時間、リアクションペーパーに講義で学んだこと、考えたことなどを書いて、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会言語学の学問領域の概説と各自の課題設定
第2回	社会言語学の定義	「社会」と「言語」の関係について
第3回	社会言語学の射程	扱う領域について
第4回	多言語社会	世界における民族と言語について
第5回	ダイグロッシア	二言語が使用されている社会について
第6回	ドメイン	言語が使い分けられる領域について
第7回	コードスイッチング	言語が切り替わる状況と要因について
第8回	言語の死	使われなくなっていく少数民族の言語について
第9回	ピジンとクレオール	複数の言語が出会う状況での言語状況について
第10回	方言	地域方言と社会方言
第11回	言語と文脈	言語が使用されるコンテクスト
第12回	敬語とポライトネス	日本語の敬語システムと敬語演習、およびポライトネスという概念
第13回	言語とジェンダー	ジェンダーの差違と言語使用
第14回	ケース・スタディー	『マイフェアレディ』における「方言」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習は２時間必要です。自分の言語環境を、社会言語学的な観点から見直す訓練をします。

【テキスト（教科書）】
田中晴美、田中幸子編著『社会言語学への招待―社会・文化・コミュニケーション』(1996) ミネルヴァ書房

【参考書】
内容ごとに参考文献を紹介し、資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】
レポート８割（フィールド・ワーク重視）、平常点２割（課題も含む）で評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】
例年、配付資料が数多く、授業内で扱いきれないので、厳選して資料を配付します。PPT資料は、授業後に授業支援システムにアップしますので、参考にしてください。授業中はノートをとることよりも、講義の内容に集中し、テーマにそって議論できるように、自ら考えるようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントはリクエストがあれば、授業支援システムにアップします。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to become aware of the use of language in society. By the end of the term, the students will have a fair linguistic sense towards languages in the world.

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

応用言語学

川﨑　貴子

授業コード：A2811　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Applied Linguisticsの分野の中でもLanguage Acquisitionの理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】
こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。授業後にオンラインでいただいたコメント・質問には次の授業冒頭で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の内容説明
第2回	言語知識	子供と大人の言語知識
第3回	第一言語習得1	子供の言語習得
第4回	第一言語習得2	入力の問題点・生得性
第5回	第一言語習得3	臨界期仮説
第6回	第一言語習得4	第一言語習得の研究
第7回	言語教育〜言語習得	第二言語習得の歴史
第8回	第二言語習得1	第二言語習得における入力問題
第9回	第二言語習得2	L1とL2の相違点
第10回	第二言語習得3	言語差と難易度
第11回	SLA研究	実験方法の変遷
第12回	SLA理論1	パラメタと有標性
第13回	SLA理論2	パラメタの習得
第14回	SLA研究の教育への応用	理論と教育、第二言語教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。
授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、プリントを配布します。PDFファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】
Lightbown, Patsy and Nina Spada 2011. How Languages Are Learned. Oxford University Press. [P. ライトバウン &N. スパダ『言語はどのように学ばれるか——外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』白井恭弘＆岡田雅子（訳）2014. 岩波書店]
その他、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験を100％として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
第二言語習得のみならず、扱ったさまざまなことに興味を広げていただいたことがよかったと思います。

【Outline (in English)】
Outline: This course deals with Applied Linguistics, focusing on the theory of Language Acquisition, especially second language acquisition. Through classes and participation in experiments, students will learn what kind of research has been conducted in the field of language acquisition.
Goal: The purpose of this course is to provide students with knowledge about language acquisition and to enable them to think logically about issues related to language acquisition.
Learning activities outside of classroom: The required amount of study time is a minimum of four hours for each meeting of the class.
Grading Criteria:
Final exam: 100%

LIT200BD（文学 / Literature 200）

比較文学 A

柳橋　大輔

授業コード：A2824　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【〈感染〉イメージの変奏】
古来から繰り返し猛威を振るい人々に襲いかかってきた伝染病は、歴史を通じて様々な文学作品や映画作品で主題化され続けてきました。広範囲の人々に襲いかかる〈感染〉のイメージはまた、多くの人々に犠牲を強いる戦争、ひいては文化の伝播や大衆現象などを表す比喩としても用いられてきました。
この授業では、ドイツ・英米・日本など異なる文化圏で生み出された文学および映画のなかで様々に姿を変えて変奏されてきた〈感染〉というモティーフの系譜をたどります。

【到達目標】
文化的・メディア的越境およびモティーフの変奏について、具体例をもとに概略的に説明することができる。
文学・映画などの文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。
英米・ドイツ・日本の各文化圏における文学・映画などの文化やその歴史に関心をもち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境とモティーフの変奏についてお話します（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生のみなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行ないます（演習形式）。
文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の概要と紹介／「比較文学」とは？
第2回	導入：〈感染〉とは何か	伝染病をめぐる医学史と〈感染〉イメージ
第3回	〈ペスト〉の意味論（1）	〈ペスト文学〉の系譜：ボッカチオ、デフォー、カミュ
第4回	〈ペスト〉の意味論（2）	共同体に下される神罰：ゲーテ、映画『フィレンツェのペスト』
第5回	〈ペスト〉の意味論（3）	戦争という不条理：カミュ『ペスト』
第6回	〈吸血鬼〉は何を〈感染〉させるのか？（1）	ストーカーから映画『吸血鬼ノスフェラートゥ』へ
第7回	〈吸血鬼〉は何を〈感染〉させるのか？（2）	〈吸血鬼〉の変容：映画『ドラキュラ』から『トワイライト』へ
第8回	〈ゾンビ〉の意味論（1）	映画『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』からマシスン、映画『アイ・アム・レジェンド』へ
第9回	〈ゾンビ〉の意味論（2）	ゾンビは〈内在化〉する？　新しい〈ゾンビ小説〉・〈ゾンビ映画〉
第10回	〈洗脳〉——思考が〈感染〉する（1）	大衆社会、第一次世界大戦、催眠術
第11回	〈洗脳〉——思考が〈感染〉する（2）	〈私が見ているのは現実？〉：映画『カリガリ博士』と『シャッター アイランド』
第12回	メディアとプロパガンダ（1）	映像は思考をコントロールする？　：初期映画と〈催眠〉言説
第13回	メディアとプロパガンダ（2）	映画がリアリティを動揺させる——〈マインド・ゲーム・フィルム〉
第14回	〈トランスカルチャー〉・〈トランスメディア〉（まとめにかえて）	時代・文化・メディアを超えて行なわれるイメージの変奏

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、それぞれ約２時間を標準とします。
授業であつかう文学作品の該当箇所を日本語（場合によっては英語）で配布する場合があるので、事前に目を通しておいてください。
授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。
なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。その場合は授業ノートを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】
必要なテクスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60％
学期末レポート：40％（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の３分の２以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容に直接関係する感想や意見はリアクションペーパーで、それ以外のご連絡はメールでお寄せください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【学生が準備すべき機器他】
初回授業はオンライン（Zoomをもちいたリアルタイム配信型）で行なう予定です。また、２回目以降は対面授業を想定しているものの、状況によってはオンライン授業に移行する必要が生じることもありえます。Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは火曜18:30〜19:00としますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】
"Variations of the Imagery of 'Contagion'"
In this class, we will analyze the genealogy of the "infection" motif as it has been transformed in literature and film produced in the different cultures of Germany, Britain, the United States, and Japan.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report: 40%,in class contribution: 60%

LIT200BD（文学 / Literature 200）

比較文学Ｂ

柳橋　大輔

授業コード：A2825　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【〈動物と（しての）人間〉をめぐる想像力の歴史】
近代的な人間中心主義が疑問に付されつつあります。テクノロジーの発展により従来の〈人間〉観が拡張されてきただけでなく、気候危機とともに、動物としての人間がその〈他者〉である自然環境に深く依存していることが明らかになっています。人間が動物と見做されうるように、動物にも人間のような権利（アニマル・ライツ）が認められるべき、という主張も高まっています。
　〈他者〉であり〈パートナー〉でもある動物というテーマは、〈ポストヒューマン〉が唱えられる以前から、さまざまなかたちで議論され、文学や映画、アニメなどのなかで描き出されてきました。本授業では、とりわけ英米圏やドイツ語圏、日本語圏に登場した〈動物〉と〈人間〉との関係性をめぐるイメージの系譜をたどります。

【到達目標】
文化的・メディア的越境およびモティーフの変奏について、具体例をもとに概略的に説明することができる。
文学・映画などの文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。
英米・ドイツ・日本の各文化圏における文学・映画などの文化やその歴史に関心をもち、理解を深める。
文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
第10回までの授業で、教員が論及の対象となる文学作品を紹介し、映像作品の抜粋を視聴しながら、その作品が置かれた文化的文脈についてお話しします（講義形式）。
　第11回以降は、〈動物と／しての人間〉モティーフをあつかった作品（映画、アニメ、漫画などポップカルチャーを含む）を受講生のみなさんに自由に選んでもらい、これについてグループ発表を行なってもらいます。その後、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。（演習形式）。
　講義内容や文学作品・映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます（フィードバック）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の振り返り／今学期の講義内容の概要
第2回	導入：〈動物と人間〉、〈動物としての人間〉	西洋文学における〈動物〉モティーフの歴史概観
第3回	〈パートナーとしての動物〉	種の壁を乗り越える愛？　：「蛙の王さま」、映画『プリンセスと魔法のキス』、『崖の上のポニョ』
第4回	〈他者としての動物〉	コミュニケーション不能の怪物？　：メルヴィル、ヘミングウェイ、映画『鳥』、『ジョーズ』
第5回	〈動物化する人間〉１	内なる野獣が露わになるとき：スティーヴンソン、ゾラから映画『動物界』まで
第6回	〈動物化する人間〉２	〈人間園〉で家畜化される？　：『家畜人ヤプー』、映画『マトリックス』、『動物化するポストモダン』
第7回	〈動物化する人間〉３	本源的なるものへの回帰：裸体文化運動から映画『ファイト・クラブ』、『おおかみこどもの雨と雪』へ
第8回	〈動物化する人間〉４	スーパーヒーローはパラサイト？　：映画『スパイダーマン』、『ヴェノム』、漫画『寄生獣』
第9回	〈人間化する動物〉１	動物もまた〈人間〉である？　：ロンドン、カフカ、シートン
第10回	〈人間化する動物〉２	人間の〈鏡〉としての動物：『動物農場』、映画『猿の惑星』、『ズートピア』
第11回	〈パートナー／他者としての動物〉表象分析	受講生によるグループ発表と議論
第12回	〈動物化する人間〉表象分析	受講生によるグループ発表と議論
第13回	〈人間化する動物〉表象分析	受講生によるグループ発表と議論
第14回	カルチュラル・アニマル・スタディーズと比較文学（まとめにかえて）	発表の講評／レポート執筆に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、それぞれ約２時間を標準とします。
授業であつかう文学作品の該当箇所を日本語（場合によっては英語）で配布する場合があるので、事前に目を通しておいてください。
授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。
なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。その場合には授業ノートを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】
必要なテクスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60％
学期末レポート：40％（提出しない場合は単位の認定ができません）
――なお、授業回数の３分の２以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容に直接関係する感想や意見はリアクションペーパーで、それ以外のご連絡はメールでお寄せください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【学生が準備すべき機器他】
初回授業はオンライン（Zoomをもちいたリアルタイム配信型）で行なう予定です。また、２回目以降は対面授業を想定しているものの、状況によってはオンライン授業に移行する必要が生じることもありえます。Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは火曜18:30〜19:00としますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】
"Histories of Imagination about Humans and/as Animals"
In this course we will reflect on the images of the relationship between 'animals' and 'humans' as they have been transformed in literature and film produced in the different cultures of Britain, the United States, Germany, and Japan.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report: 40%,in class contribution: 60%

LIT200BD（文学 / Literature 200）

米文学史Ａ

宮川　雅

授業コード：A2905　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
春学期授業/Spring・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。
春学期Ａは、植民地時代の文学から19世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティヴ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。
目的は、
(1)アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
(2)積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティヴを得ることである。

【到達目標】
(1)英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(2)アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
(3)アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
(4)文学作品の鑑賞方法を身につける。
(5)アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
(6)アメリカ文学について人に語れる。
(7)好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。
前期のＡでは17世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。
講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。
今年は、昨年度と同様、（１）なんでもいいから米文学史の本を各自１冊読むこと（ただしボルヘスの注釈付きアメリカ文学史を参考文献として「教材」にいれます）、（２）レポートは３作品、３本とします。
提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。米文学史読書案内ふう作家作品リストを配布し、レポート課題を説明する。
第2回	植民地時代の文学Ⅰ	ピューリタニズム (Puritanism) とタイポロジー (typology) の想像力。
第3回	植民地時代の文学Ⅱ	エレジー (elegy) と名前の重要性。
第4回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理神論(Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。
第5回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス (gothic romance)。
第6回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales"とウェスタン的ヒーロー像。フロンティア(frontier)と文学的想像力。
第7回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカ的ユーモア(American humor)。アメリカの短篇小説の特徴。
第8回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカ的ロマン主義(American romanticism)と自己信頼。ソローとホイットマン。
第9回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第10回	ホーソーンとロマンス	ホーソーンの小説論。ノヴェル対ロマンス(2)。
第11回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。
第12回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第13回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第14回	南北戦争その他	19世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを示したりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】
現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義　アメリカ文学史 [全４巻]』（研究社、2007, 2010）であろう。文学的洞察として（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社, 2010）……絶版のようだが図書館等にある。英語で書かれたもので、（まだ「文学史」が成立していた頃の本として）すぐれたものは、だいぶ古いが、英国の学者による（すなわち他者視点による）Marcus Cunliffe, *Literature of the Unites States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。
さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。第二次大戦後の研究書の古典中の古典を２冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソーン学者 Randall Stewartの、*American Literature and Christian Doctrine* (1958)（邦訳『アメリカ文学とキリスト教』）、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス=ノヴェルとしたRichard Chaseの、*The American Novel and Its Tradition* (1958)（邦訳『アメリカ小説とその伝統』）。

【成績評価の方法と基準】
(1)授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20％）、(2)３作品を読んでのレポート（40％）、(3)期末試験（40％）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】
むつかしくなりすぎないようにやさしく語ること。やさしくなりすぎないように論理を構築すること。

【その他の重要事項】
後期（秋学期）の「米文学史Ｂ」との継続履修が望ましい。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."
[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours
respectively to understand the course content.
[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:
1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD（文学 / Literature 200）

米文学史Ｂ

宮川　雅

授業コード：A2906　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学の「アメリカンネス」（ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。
秋学期Ｂは、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後20世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて1960年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】
(1)英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(2)アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
(3)アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
(4)文学作品の鑑賞方法を身につける。
(5)アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
(6)アメリカ文学について人に語れる。
(7)好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。
後期のＢでは南北戦争から現代までを扱う予定。
ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。
Ａと同様、本年度は、（１）なんでもいいから米文学史の本を各自１冊読むこと（ただし、ホルヘ・ルイス・ボルヘスの文学史を電子化して英語原書＋注釈書として配布)、（２）レポートは３作品、３本とすること、とします。
提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第2回	ルイーザ・メイ・オールコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第3回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第4回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点（point of view）の問題。
第5回	フランク・ノリス、スティーヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第6回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第7回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第8回	ＳＦと探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第9回	Ｔ・Ｓ・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第10回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーグ、ゲーリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。
第11回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。
第12回	トマス・ピンチョンとジョン・バース	ポスト=モダンな意識とは何か。
第13回	アメリカン・ドラマ	演劇とミュージカル。
第14回	同時代作家たち	アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間はそれぞれ２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】
渡辺利雄『講義　アメリカ文学史 [全４巻]』（研究社、2007, 2010）
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社, 2010)
Marcus Cunliffe, *Literature of the Unites States* (1964; rpt. Pelican Books)
Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)
Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)
亀井俊介『アメリカ文学史講義[全３巻]』（南雲堂、1997-2000）
竹内理矢・山本洋平編『深まりゆくアメリカ文学――――源流と展開』（ミネルヴァ書房、2021）
諏訪部浩一編『アメリカ文学入門[新版]』（三修社、2023）

【成績評価の方法と基準】
(1)授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20％）、(2)作品３冊を読んでのレポート（40％）、(3)期末試験（40％）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】
やさしさを心がける。

【その他の重要事項】
前期（春学期）の「米文学史Ａ」からの継続履修がかなり絶対的に近いくらい望ましい。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."
[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours
respectively to understand the course content.
[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:
1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義ＩＡ

波戸岡　景太

授業コード：A2907　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしうるかを学びます。

【到達目標】
(1)現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
(2)ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
(3)英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代文学とカルチャー
第2回	第二次世界大戦の記憶	ホロコースト以後の文学
第3回	体制とカルチャー	1950年代の若者たち
第4回	超大国の挫折	1960-70年代のアメリカ（教科書1-1）
第5回	スター・ウォーズの時代	「帝国」への抵抗（教科書1-2）
第6回	経済成長の限界	ノスタルジア・ブーム　（教科書1-3）
第7回	「るつぼ」の先へ	移民とフェミニズム　（教科書1-4）
第8回	ファンタジーランド	陰謀論の台頭（教科書1-5）
第9回	暴力の表象	ダークな想像力（教科書1-6）
第10回	新しいファシズム	ナチス表象の再来
第11回	表象と倫理	ソンタグの批評を読む
第12回	1980年代を考える	大統領と文学　（教科書2-1）
第13回	ノスタルジア再び	再男性化するヒーロー像（教科書2-2）
第14回	まとめ／期末試験	ポストモダン文学の可能性／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】
丸山俊一他『世界サブカルチャー史　欲望の系譜　アメリカ70〜90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）

【参考書】
Pynchon, Thomas. *Gravity's Rainbow*. Viking, 1973.
–. *Slow Learner*. Brown, Little, 1984.
Sontag, Susan. *Against Interpretation*. Picador, 2001.
–. *Under the Sign of Saturn: Essays*. Farrar Straus &Giroux, 1980.
–. *Illness as Metaphor and Aids and Its Metaphors*. Picador, 2001.
Vonnegut, Kurt. *Slaughterhouse-Five*. Delacorte, 1969.

【成績評価の方法と基準】
授業内小テストの結果（50％）、最終回に実施する期末試験（50％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
文学が現代の諸問題にいかに真摯に向き合ってきたかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったので、今年度はより具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】
This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.
There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:
1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義ＩＢ

波戸岡　景太

授業コード：A2908　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしうるかを学びます。

【到達目標】
(1)現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
(2)ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
(3)英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	嘘とフィクションの違い
第2回	文学における「若さ」	ビート世代からZ世代まで
第3回	1980年代のマイノリティ	文化の盗用について（教科書2-3）
第4回	ニュー・ロストジェネレーション	ハイパー資本主義（教科書2-4）
第5回	ポスト冷戦	新しいヒーロー像（教科書3-1）
第6回	ジェネレーションX	クープランド作品を読む（教科書3-2）
第7回	マトリックスの時代	情報化社会の文芸（教科書3-3）
第8回	大きな物語の終焉	パルプ・フィクションの新しさ（教科書3-4）
第9回	9・11と文学	フォアとピンチョン
第10回	デリーロの新しさ	ホワイト・ノイズ再読
第11回	ハルキの文学	日本とアメリカの「戦後」（教科書第4-1）
第12回	記憶と文学	ディックの予見（教科書4-2）
第13回	非暴力の力	ソローからバトラーへ
第14回	まとめ／期末試験	世界的課題と文学の役割について／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】
丸山俊一他『世界サブカルチャー史　欲望の系譜　アメリカ70～90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）

【参考書】
Butler, Judith. *The Force of Nonviolence: An Ethico-Political Bind*. Verso Books, 2020.
Davis, Lydia. *Almost No Memory*. Picador, 2001.
DeLillo, Don. *White Noise*. Viking, 1985.
–. *Point Omega*. Scribner, 2010.
Foer, Jonathan Safran. *Extremely Loud and Incredibly Close*. Penguin, 2006.
Haraway, Donna. *Simians, Cyborgs and Women: the Reinvention of Nature*. Routledge, 1991.
–. *Companion Species Manifesto: Dogs, People, and Significant Otherness*. Prickly Paradigm. 2003.
Kakutani, Michiko. *The Death of Truth: Notes on Falsehood in the Age of Trump*. William Collins, 2018.
Pynchon, Thomas. *Vineland*. Little, Brown, 1990.
–. *Bleeding Edge*. Penguin, 2013.
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内小テストの結果（50％）、最終回に実施する期末試験（50％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
文学が現代の諸問題にいかに真摯に向き合ってきたかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったので、今年度はより具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】
This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.
There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:
1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義Ⅱ A

小澤　央

授業コード：A2909　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英米文学、特にイギリス文学を理解するうえで前提となるイギリス文化の基本的概念を紹介する。シェイクスピア、紅茶、湖水地方、探偵、階級、ユーモアなど、イギリス文化を特徴づけるキーワードに注目し、映像資料も交えながら解説する。
イギリス文化の入門的知識を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】
・代表的なイギリス文化について自分の言葉で説明できる
・辞書や和訳を参照しながらも、イギリス文化を紹介する文章やイギリス文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	イギリス（文化）とは何か
第2回	文学、劇場、シェイクスピア(1)	時代背景など
第3回	文学、劇場、シェイクスピア(2)	シェイクスピアの生涯
第4回	紅茶、砂糖、奴隷貿易(1)	時代背景など
第5回	紅茶、砂糖、奴隷貿易(2)	ウィリアム・ウィルバーフォースの生涯
第6回	前半の講義のまとめ	総括と補足
第7回	ナショナル・トラスト、湖水地方、女性の権利	ビアトリクス・ポターの生涯
第8回	探偵、スコットランド、植民地	コナン・ドイルとシャーロック・ホームズ
第9回	階級、王室、カントリー・ハウス(1)	時代背景など
第10回	階級、王室、カントリー・ハウス(2)	使用人の世界
第11回	ユーモア、風刺、戦争(1)	時代背景など
第12回	ユーモア、風刺、戦争(2)	チャールズ・チャップリン『独裁者』
第13回	後半の講義のまとめ	総括と補足
第14回	期末試験と今学期のまとめ	今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回予め指示された資料（レジュメなど）を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。
予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業のレジュメ

【参考書】
・レジュメで紹介する資料
・板倉厳一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子著、『映画でわかるイギリス文化入門』、松柏社、2008年
・木下卓、窪田憲子、久守和子編著、『イギリス文化55のキーワード』、ミネルヴァ書房、2009年

【成績評価の方法と基準】
・リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】
授業中の正当な理由なき入退室や私語は、ほかの学生の迷惑となるので、厳しく対処していきたい。

【Outline (in English)】
This course introduces the basics of British culture, such as Shakespeare, tea, the Lake District, detectives, the class system and humour. The goals of this course are to survey the history of British culture and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義Ⅱ B

田中　裕希

授業コード：A2910　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語圏の詩を精読し、翻訳することで、英詩の特徴と伝統を概観する。また授業では学生の翻訳を合評する機会を設け、英詩を現代の日本語に訳す方法を模索する。人称やリズム、文化的背景など、翻訳されることで失われるニュアンスをどう伝えるか。

【到達目標】
英語圏の詩を精読し、英詩の特徴を学ぶ。また英詩を和訳することで、能動的に詩を理解し、総合的な英語力また日本語力を伸ばす。言葉の意味や音楽性に敏感になり、英語文学の読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。　授業内でのフィードバックをもとに訳文を練り直す。コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	英詩の特徴
第2回	英詩のリズム	韻律について
第3回	翻訳ワークショップ（1）	リズムをどう訳すか
第4回	"I"をどう訳すか	英語の“I”と日本語の「私」
第5回	翻訳ワークショップ（2）	人称代名詞をどう訳すか
第6回	英詩の形式	Form とは
第7回	翻訳ワークショップ（3）	詩型をどう訳すか
第8回	英詩の「声」	Voice とは
第9回	翻訳ワークショップ（4）	口調をどう訳すか
第10回	英詩の多様性	英詩の中の非英語
第11回	翻訳ワークショップ（5）	異文化をどう訳すか
第12回	英詩の読者	歴史的背景と詩
第13回	翻訳ワークショップ（6）	歴史をどう訳すか
第14回	期末試験とまとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
詩を翻訳し、お互いの訳文を読み批評する。また配布されたプリントを読む。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムを通じて配布。

【参考書】
阿部公彦『英詩のわかり方』 (研究社)

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度５０％（リアクションペーパー、翻訳など）
期末レポート５０％
原則、未提出の課題・リアクションペーパーが計４つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
In this course, we will read English-language poetry. The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be determined based on weekly responses and assignments (50%) and the final paper (50%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語学講義 A

福元　広二

授業コード：A2911　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】
英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。また、英語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、パワーポイント使って講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第2回	英文法の問題	実際に英語の問題を解いてみよう
第3回	品詞	英語の品詞について
第4回	英語の文型	5文型の分析
第5回	自動詞と他動詞	他動性について
第6回	意味役割	意味役割とは何か
第7回	テンス（1）	現在時制
第8回	テンス（2）	過去時制と未来表現
第9回	アスペクト（1）	進行相
第10回	アスペクト（2）	完了相
第11回	モダリティ（1）	法助動詞
第12回	モダリティ（2）	準助動詞
第13回	態	受動態
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
畠山雄二『大学で教える英文法』くろしお出版

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験と平常点で、総合的に判断します。
期末試験６０％、平常点４０％

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

【その他の重要事項】
授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。
４回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】
This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.
The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語学講義Ｂ

福元　広二

授業コード：A2912　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】
英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語学講義Ｂの授業では、認知言語学や英語の代表的な構文についての知識を持てるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、パワーポイントを用いて講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
　授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容についての概説
第2回	日英語比較	事態把握
第3回	認知言語学（1）	メタファー
第4回	認知言語学（2）	メトニミーとシネクドキ
第5回	認知言語学（3）	文法化
第6回	談話標識	談話標識の分析
第7回	不定詞（1）	不定詞節
第8回	不定詞（2）	繰り上げ動詞とコントロール動詞
第9回	動名詞	名詞的動名詞と動詞的動名詞
第10回	不定詞と動名詞	不定詞と動名詞の意味
第11回	There構文	There構文の特徴
第12回	二重目的語構文	与格交替について
第13回	関係代名詞	関係代名詞の制約
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
畠山雄二　『大学で教える英文法』くろしお出版

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験と平常点で、総合的に判断します。
期末試験６０％、平常点４０％

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていきます。
４回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】
This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures. The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義ＩＡ

石川　潔

授業コード：A2913　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（英語学習者または英語教師になる人のための）音声知覚、単語の聞き取りや文理解に関する心理言語学の入門

【到達目標】
（英語学習／教育にも役立つはずの）人間の言語情報処理に関する入門レベルの知識の習得
言語研究にも役立つけど、**社会人一般にも役立つ**、データ分析の基礎< /li >

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　基本的には講義ですが、実習（やグループ・ディスカッション？）を行う回もある予定です。
　リアクションペーパーには、オンライン配信または口頭で、フィードバックを行う予定です（フィードバック方法は内容／文量によります）。
　学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業全体の説明
第2回	*Olympic* を片仮名表記するとしたら、「オリ**ン**ピック」と「オリ**ム**ピック」の、どっちにすべき？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その１）
第3回	*rice* と *rise*、語尾に母音を入れないで発音できる？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その２）
第4回	「しおり」は可愛い……のかな？　比較対象は？	実験と統計分析の必要性：統制条件、仮説と予測
第5回	強形と弱形	syllable の概念が必要な理由、英語の stress の物理的実体
第6回	英語のリズム	知識を得た上で、聞き取り実習
第7回	英語のLとR、聞き分けられる？	フォルマント（遷移）の概念
第8回	英語その他での「有声・無声」の違い	VOT の概念
第9回	音響情報のままには聞き取らない場合	語彙効果など
第10回	「発音できたら聞き取れるようになる」って本当？	Motor Theory が解決してくれる／くれないこと
第11回	その単語、どういう意味？（その１）	意味プライミング（その１）：単語検索
第12回	その単語、どういう意味？（その２）	意味プライミング（その２）：ambiguity resolution
第13回	単語が聞き取れない!!	単語認識の諸モデル
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業で学んだ話に基づいて、テレビやネットの報道や広告を批判的に眺め直してみてください。
　また、英語で歌う機会も設けてください（理由は授業を受ければわかる……はず）。
　なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにて資料配布。

【参考書】
適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30％、期末試験 70 ％。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】
2023年度に比べて2024年度の方が理解度の数値が上がりました。2024年度に心がけた構造化の効果が出たものと思います。それでも、まだ理解度の数値は充分ではないように思うので、まずは用語の説明をもっと丁寧にしたいと思います。

【その他の重要事項】
原則「言語学講義ＩＢ」と連続履修すること。

【Outline (in English)】
（Course outline）An introduction to psycholinguistic studies of speech perception, auditory word recognition and sentence processing (for English learners as well as prospective teachers of English).
（Learning Objectives）To grasp experimental methods on the one hand, and an introductory knowledge of human language processing on the other.
（Learning activities outside of classroom）Critically examine advertisements etc. encountered on the net etc. Furthermore, sing in English! (Why sing? Well, join the class to find out!)
（Grading Criteria /Policy）Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義ＩＢ

石川　潔

授業コード：A2914　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語と日本語を「文法」の面から比較します。

【到達目標】
・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　主として講義の予定です。
　リアクションペーパーには、オンラインまたは口頭でのフィードバックを行う予定です。
　学生の理解度や要望などに応じて、計画は柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英語の「助動詞」って何なのか、改めて考える	統語論的な規則性と意味的な「直感」とのズレ
第2回	英語の「主語」、日本語の「主語」	「主語」は、「行為をする人」という意味では、ないです。
第3回	英語の時制とアスペクト１	述語の２分類
第4回	英語の時制とアスペクト２	英語の進行形の基本
第5回	英語の時制とアスペクト３	英語の進行形の応用
第6回	英語の時制とアスペクト４	英語に「未来形」ってあるのか？
第7回	英語の時制とアスペクト５	英語の完了形の基本
第8回	英語の時制とアスペクト６	英語の完了形の応用
第9回	日本語の時制とアスペクト１	日本語に「現在形・過去形」はない？
第10回	日本語の時制とアスペクト２	telicity
第11回	日本語の時制とアスペクト３	主観 対 客観
第12回	日本語の時制とアスペクト４	絶対テンス 対 相対テンス
第13回	日本語の時制とアスペクト５	テイルの意味（基本編）
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日英語の文法比較のうち授業でカバーできるのは、ごく一部だけですが、授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、見つけてください（きっと見つかるはず）。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれれば、平常点に大幅加点となります）。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにて教材配信。

【参考書】
教材に記載。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30％、期末試験 70％。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】
2023年度に比べて2024年度の方が理解度の数値が下がってしまいました。内容をもっと整理して構造化の度合いを上げると同時に、各回の最後の「まとめ」をもっと充実したいと思います。

【その他の重要事項】
原則「言語学講義ＩA」と連続履修すること。

【Outline (in English)】
（Course outline）Comparisons of English and Japanese "grammars."
（Learning Objectives）To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills.
（Learning activities outside of classroom）To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom.
（Grading Criteria /Policy）Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義Ⅱ A

伊藤　達也

授業コード：A2915　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：3・4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。春学期はとくに形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学を概観します。

【到達目標】
言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	形態論(1)	形態素の種類
第3回	形態論(2)	派生と語の内部構造
第4回	形態論(3)	造語
第5回	統語論(1)	文の構成素分析
第6回	統語論(2)	句構造規則で文を作る
第7回	統語論(3)	変形規則で文を変える
第8回	意味論 (1)	語、句、文の意味
第9回	意味論 (2)	直喩、隠喩、換喩
第10回	語用論(1)	協調の原理と会話の公理
第11回	語用論(2)	発話行為、ポライトネス
第12回	社会言語学(1)	地域や人種による言語の変異
第13回	社会言語学(2)	ジェンダーと言語
第14回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んできてください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】
こちらでプリントを用意します。

【参考書】
『フロムキンの言語学』、ビー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】
期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】
This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language.Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義Ⅱ B

伊藤　達也

授業コード：A2916　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：3・4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。秋学期はとくに音声学、音韻論、歴史言語学、心理言語学を概観します。

【到達目標】
言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	音声学(1)	母音、子音
第3回	音声学(2)	自然類
第4回	音韻論(1)	弁別素性
第5回	音韻論(2)	音素と異音
第6回	音韻論(3)	音韻規則
第7回	音韻論(4)	強勢
第8回	歴史言語学(1)	イギリス史、語彙変化
第9回	歴史言語学(2)	音声変化、統語変化、意味変化
第10回	歴史言語学(3)	言語の系統
第11回	心理言語学 (1)	文の解析
第12回	心理言語学 (2)	言語習得
第13回	機能主義	機能主義的な文法現象の説明
第14回	秋学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んできてください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】
こちらでプリントを用意します。

【参考書】
『フロムキンの言語学』、ビー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】
期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】
This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language.Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

ARS200BD

比較文化論（１）

波戸岡　景太

授業コード：A2981　｜　曜日・時限：水1/Wed.1
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国の暮らしのなかでも、特に「食」に注目し、日本の食文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】
１）英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
２）アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
３）英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
４）多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
５）以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカ合衆国との比較を念頭に置きながら、「食」を中心とした様々な文化的事象を学ぶ。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。実施されたプレゼンテーションについては、授業参加者全体でフィードバックを行い、最後に担当教員から総評を伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび授業の導入	履修者の自己紹介、日米の食文化史を学ぶ上での見取り図を提示する
第2回	ワークショップ①「身近な食文化の発見」	比較文化を学ぶ前提として、自分たちのこれまでの食生活と食文化を振り返る
第3回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング①	第2回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第4回	アメリカの「食」における非西洋の伝統	アメリカの国民食ができるまでの歴史を概観する
第5回	「食」の土着化と独立革命の影響	アメリカ食文化における地域的多様性を学ぶ
第6回	産業社会への移行と食の変革	移民の流入とファストフードの文化を考察する
第7回	ワークショップ②「食文化のローカルとインターナショナルを考える」	ガラパゴス化する日本の食文化を分析する
第8回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング②	第7回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第9回	有機農業と自然食品	カウンターカルチャーが食文化にもたらした影響を考察する
第10回	食文化革命の到達点	エスニックフード、スローフード、ビーガン料理など「食」の現在を概観する
第11回	日米における「食」の生産・流通・消費	食文化をビジネスとツーリズムの側面から考察する
第12回	ワークショップ③「未来の食文化を考える」	オーガニック食材、ハラールフード、コーシャフードを知る
第13回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング③	第12回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第14回	まとめと期末試験	食文化の教授法を考える／授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2時間）
・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1時間）
・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1時間）

【テキスト（教科書）】
教員が作成したプリントを授業開始時に配付します。

【参考書】
ジョナサン・サフラン・フォア『イーティング・アニマル：アメリカ工場式畜産の難題』（黒川由美訳、東洋書林、2011年）
鈴木透『食の実験場アメリカ：ファーストフード帝国のゆくえ』（中央公論社、2019年）

【成績評価の方法と基準】
授業内ワークショップ・プレゼンテーション：50％
授業内期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
ゲーム・エクササイズをとりいれた留学生とのアクティブ・ラーニングが好評だったため、今学期も参加型の授業を実施します。

【その他の重要事項】
定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。
履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】
This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American food culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.
Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.
Grades will be determined based on the following:
1) Participation and in-class assignments (50%)
2) Final exam (50%)

ARS200BD

英米文化概論Ａ

田中　裕希

授業コード：A2982　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1～4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「帝国」をテーマに、19世紀末から20世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】
歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	帝国主義とは
第2回	Joseph Conrad, *Heart of Darkness*	啓蒙思想と帝国
第3回	*Heart of Darkness*	語りの構造
第4回	*Heart of Darkness*	『闇の奥』批判
第5回	戦争詩人	第一次世界大戦
第6回	*The King's Speech*	第二次世界大戦
第7回	*The King's Speech*	人間としての王
第8回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第9回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第10回	Yeats, "Easter, 1916"	イースター蜂起
第11回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第12回	*My Beautiful Laundrette*	ポストコロニアリズムとは
第13回	*My Beautiful Laundrette*	現代イギリスと移民
第14回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『闇の奥』(光文社古典新訳文庫)　ジョゼフ コンラッド (著), 黒原 敏行 (翻訳)
必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】
D・ボードウェル, K・トンプソン『フィルム・アート―映画芸術入門―』(名古屋大学出版会)

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー 30％
期末テスト 70％
原則、未提出のリアクションペーパーが４つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムHoppiiを使用する。

【Outline (in English)】
This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

英米文化概論B

田中　裕希

授業コード：A2983　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：1～4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くのこるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】
歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第2回	Walt Whitman, *Song of Myself*	建国の理念と叙事詩
第3回	*Red River*	民主主義の夢
第4回	*Red River*	西部劇と民主主義
第5回	F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby*	語りの構造
第6回	*The Great Gatsby*	情景描写と文明批判
第7回	*The Great Gatsby*	幻想としてのアメリカンドリーム
第8回	Langston Hughes	人種と夢
第9回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第10回	*Easy Rider*	60年代のアメリカ
第11回	*Easy Rider*	New Hollywoodとは
第12回	*Moonlight*	マイノリティーの夢
第13回	*Moonlight*	成長物語
第14回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『グレート・ギャツビー』(新潮文庫) フィツジェラルド (著), 野崎 孝 (翻訳)
必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】
D・ボードウェル, K・トンプソン『フィルム・アート―映画芸術入門―』(名古屋大学出版会)
Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー 30％
期末テスト 70％
原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムHoppiiを使用する。

【Outline (in English)】
In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres.Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本考古学

高橋　健

授業コード：A3113　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：**他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島の旧石器時代から古墳時代にかけての歴史展開において、物質文化にもとづいて講義する。
社会を支える食料の獲得・生産の方法が時代によってどのように変化したのかを学ぶ。

【到達目標】
日本列島の環境に適応したそれぞれの時代の生業とその特徴について説明することができる。また、考古資料から生業にアプローチする方法とその有効性について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人間の生活のもっとも基礎となる食料の獲得・生産・加工の方法がどのように変化したのかを、考古資料にもとづいて探る。各回の授業でトピックを設定して行う予定である。
授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の方法・評価基準　この授業で扱う時代の概説
第2回	旧石器時代の環境	遊動的な生活
第3回	旧石器時代の生活	洞穴遺跡の生業
第4回	縄文時代の環境	時期と地域による環境の変化
第5回	縄文時代の生業①	貝塚と動物質食料
第6回	縄文時代の生業②	植物質食料を探る
第7回	縄文時代の生業③	理化学的分析など
第8回	縄文時代の調理	土器を使った料理
第9回	弥生時代の生業①	穀物栽培の開始
第10回	弥生時代の生業②	農耕民による狩猟と漁労
第11回	弥生・古墳時代の調理	コメ調理方法の変化
第12回	北方地域の生業①	稲作を行わなかった文化：続縄文文化・擦文文化
第13回	北方地域の生業②	外来の文化：オホーツク文化
第14回	総括	考古学からみた生業の変遷

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等をよく読み、時代ごとの特徴を理解するとともに、環境と生業についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
西本豊弘・新美倫子編2010『事典人と動物の考古学』吉川弘文館
工藤雄一郎他編2013『ここまでわかった! 縄文人の植物利用』新泉社
横浜市歴史博物館編2019『おにぎりの文化史』河出書房新社
その他の参考書は、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績の70％は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は30％とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class will cover the historical development of Japan from the Paleolithic to the Kofun period, based on material culture.
（Learning Objectives）
Students learn how the methods of acquiring and producing food have changed over time.
（Learning activities outside of classroom）
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the characteristics of each eras and deepen their knowledge of the environment and subsistence.
（Grading Criteria /Policy）
Submit a reaction paper for each class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end report (70%) and in class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本近世史

大橋　幸泰

授業コード：A3116　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、日本列島に生活した過去の人々の営為のうち、おもに近世人(江戸時代に生きた人々)の生活を材料に、歴史を学ぶことの意味を考えようとするものである。近世は前近代的な要素と近代的な要素の両方の性格が混在していた時代である。この時代を通じて、前近代の秩序が変化し、近代の秩序が準備されたと言い換えることもできる。しかし、近世が、前近代から近代への単なる過渡期だったとはいえない。近世にはその時代固有の常識や価値観が存在したことも事実であるからだ。この講義では、近世日本の政治・経済・文化の諸相から、近代・現代の秩序とは異なる近世独自の秩序を見いだし、その特徴について考えるための材料を提供しよう。

【到達目標】
歴史学は過去の人々の営為を時系列的に理解し、人々を取り巻く秩序がどのように変化してきたかを考える学問である。私たち現代人が常識だと思い込んでいることは、実は過去の人々にとっても常識であったとは限らない。過去の人々は現代人とは異なる常識や価値観のなかで生きていた。私たちが目にする現代の諸問題には、現代人が自分の常識や価値観を疑わないために生じていることも少なくない。私たちの常識や価値観は歴史的産物であることを知って初めて私たちはそれらを相対化することができ、そこに内在する問題に向き合うことが可能となる。本講義で扱う近世日本の政治・経済・文化の諸相は、そのための材料である。したがって、この講義の到達目標は、近世日本の秩序が近代・現代の秩序とはどのように異なっているかを理解し、現代人の常識や価値観のどこにどのような問題が内在しているかを知ることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義を基本とするが、受講生には毎回200〜400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。第7回と第13回では、講義内容をめぐってディスカッションする時間を設ける。また、講義の予習として、教科書として指定した牧原成征編『日本史の現在4 近世』の該当箇所を熟読してくることを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／歴史的存在としての私たち—日常生活のサイクル	本講義の目的と概要について説明するとともに、前近代と近現代との差異について、日常生活のサイクルを材料に講義する。
2	幕藩体制の成立と幕府政治	「1天下人による列島統合」「5泰平の世の幕府政治」について扱う。
3	17世紀の朝廷と幕府	「2近世前期の朝廷と文化」「3近世前期の政治と外交」について扱う。
4	身分とジェンダー	「4身分社会の見方」「18近世社会におけるジェンダー」について扱う。
5	藩世界の秩序	「6藩から江戸時代を見直す」「11大名屋敷と江戸の都市社会」について扱う。
6	民衆の生活と政治意識	「7環境と生業」「8民衆思想と民衆運動」について扱う。
7	中間小活	近世秩序の成立と展開について議論する。
8	琉球と蝦夷地	「9近世日本と清・琉球」「16列島北方の社会と交流」について扱う。
9	商業活動と出版文化	「10商人の活動と交通」「13知と書物の広がり」について扱う。
10	災害と病	「12近世の大火・水害・地震」「17医療をめぐる社会と文化」について扱う。
11	地域社会と民衆文化	「14土豪・豪農と地域社会」「15歌舞伎・浄瑠璃にみる民衆文化」について扱う。
12	19世紀の政治と対外関係	「19大御所時代」「20世界の中の幕末日本」について扱う。
13	総括	近世秩序の変容と崩壊について議論する。
14	総復習	試験を含む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の予習として、教科書として指定した牧原成征編『日本史の現在4 近世』の該当箇所(各回内容の番号は同書の章番号)を熟読してくることを求める。授業後は、講義中に紹介した参考文献の他、関連する研究文献を自分で探して知見を広げてほしい。事前・事後の学習はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
牧原成征編『日本史の現在4 近世』(山川出版社、2024年)【要購入】

【参考書】
深谷克己著『日本の歴史6 江戸時代』(岩波ジュニア新書、2000年)
その他、適宜必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験60％／日本近世史の基本的な概念が理解できているかが試される。
レポート30％／学期末までに、講義に関する文献を論評するレポートを求める。
平常点評価10％／毎回、200〜400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。
その他／レポートを提出した者が試験の受験資格を有する。平常点が0点である場合、単位の取得は困難であることを付記する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

【Outline (in English)】
This lecture aims to consider the meaning of studying history by examining the activities of people who lived in the Japanese archipelago in the past, primarily those who lived in the early modern period (those who lived during the Edo period). The early modern period was a time when both pre-modern and modern elements coexisted. It can also be said that throughout this period, the pre-modern order changed and the modern order was prepared. However, the early modern period cannot be said to have been a simple transitional period from pre-modern to modern. This is because it is also true that the early modern period contained common sense and values unique to that time. In this lecture, we will look at various aspects of early modern Japan's politics, economy, and culture to discover the unique order of the early modern period, which differed from modern and contemporary orders, and provide material for thinking about its characteristics. Grades will be assessed based on 60%exams, 30%short reports, and 10%daily class performance.

HIS200BE（史学 / History 200）

考古学概論

高橋　健

授業コード：A3152　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：**他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を理解し、歴史学・考古学の研究を行う上で不可欠な歴史的事実の解釈方法を身につけることを目標とする。

【到達目標】
考古学的な成果に基づいて、各時代における文化的な特色、人々の自然環境・社会環境への対応、人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広がった弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が発達した古墳時代までの展開について、考古資料を中心として学ぶ。また稲作導入後に異なる歴史をたどった北海道島についても扱う。
授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要と方法・評価基準
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の展開
第4回	縄文時代の概要	地域的・時期的な多様性と共通性
第5回	縄文時代の生業	狩猟・漁労と採集・栽培
第6回	縄文時代の社会	集落と墓からみる社会構造
第7回	縄文から弥生へ	稲作の伝来と社会の変化
第8回	弥生のムラの姿	環濠集落と集団関係
第9回	青銅器と貝製品	遠くに運ばれる儀礼の道具
第10回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第11回	続縄文文化	稲作を行わなかった地域
第12回	前方後円墳の成立と波及	古墳の成立と社会
第13回	古墳文化の変容と終焉	技術革新と古代国家への道
第14回	擦文文化とオホーツク文化	アイヌ文化の祖先

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。このほかの文献については授業内で紹介する。
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ
佐藤宏之（2019）『旧石器時代　日本文化のはじまり』敬文舎
今村啓爾（2017）『縄文文化　考古調査ハンドブック17』ニューサイエンス社
石川日出志（2010）『農耕社会の成立　シリーズ日本古代史1』岩波新書
白石太一郎（2001）『古墳とその時代　日本史リブレット4』山川出版

【成績評価の方法と基準】
期末に論述式の筆記試験を行う（ノート持ち込み可）。試験は成績評価の70％とする。平常点は成績評価の30％とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will learn an overview of the Japanese archipelago from the Paleolithic period to the Kofun period.
（Learning Objectives）
The purpose of this course is to understand the trends of primitive and ancient human groups, which form the basis of Japanese history, and to learn how to interpret historical facts, which are essential for conducting historical and archeological research.
（Learning activities outside of classroom）
Students should read related literature and deepen their understanding of the period from the Paleolithic period to the Kofun period. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Submit a reaction paper for each class.
Grading will be decided based on %)%), term end examination (70%) and in class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅳ

中山　学

授業コード：A3157　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目では、江戸幕府第８代の将軍、徳川吉宗の活動に注目します。この人物は、次期将軍に内定してから間もない正徳６年（1716）６月３日における「御代々の御書物目録」の閲覧を手始めとして、在職中は一貫して徳川将軍家伝世の諸書物の校合、校勘に注力しました。具体的には、自らも武家方や堂上方の儀礼の成り立ちに関して示唆的な書物の「御見合」、「御引合」を行いつつ、御書物奉行や幕府内外の諸学者にも命じて諸書物のテキストを点検、精査させました。当科目では、その事業過程における吉宗本人の活動を復元的に考察するところから、こうした作業がいったい何のために実施されたものか検討します。歴史的なテキストそれ自体に権威を付与、温存させしてゆく中心化のあり方にも注意を払いながら、現代を生きる私たちとの連関についても考えたいと思っています。

【到達目標】
史料に基づき、徳川吉宗が実施した伝世書物の「御見合」の目的とその歴史的意義を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
史料を読み解きながら講義を実施します。また、学習内容の整理と理解確認のために授業実施期間中にリポート作成を２回課し、それへのフィードバックによって理解を助けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに（ガイダンス）	当科目の目的、進め方、成績評価の方法等
第2回	吉宗と書物(1)	正史中の逸話
第3回	吉宗と書物(2)	逸話が示す吉宗の視界
第4回	吉宗と将軍家「御文庫」(1)	「御文庫」の機能、性格
第5回	吉宗と将軍家「御文庫」(2)	先行研究にみる吉宗の実績、目録への関心
第6回	将軍襲職内定後の初動(1)	書物目録の請求
第7回	将軍襲職内定後の初動(2)	初の請求書物、その後の継続閲覧
第8回	旧家家伝書への関心(1)	幕臣小笠原常春、小笠原持廣との接触
第9回	旧家家伝書への関心(2)	幕臣伊勢貞益との接触
第10回	旧家家伝書への関心(3)	「犬追物類聚」、「流鏑馬類聚」の成立
第11回	書物「御見合」とその意義(1)	『寛政重修諸家譜』所載の小笠原持廣の経歴にみる吉宗の活動
第12回	書物「御見合」とその意義(2)	『略譜』所載の小笠原持廣の経歴にみる吉宗の活動
第13回	書物「御見合」とその意義(3)	『寛政重修諸家譜』の作為
第14回	おわりに	歴史的テキスト、権力、伝統の創出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①本授業の準備学習・復習：各2時間
②授業実施期間中のリポート作成2回：各4時間程度
③フィールドワーク（史料保存機関の見学及び史料の原本実見）：教員引率１時間程度（ただし授業時間外で実施、参加任意）

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。史料を配付します。

【参考書】
辻　達也『徳川吉宗公伝』東照宮（1962年）
福井　保『江戸幕府の参考図書館　紅葉山文庫』郷学舎(1980年)
辻　達也『徳川吉宗』吉川弘文館(1985年)
吉岡　孝「吉宗政権における古式復興と儀礼」『国史學』第200号所収（2010年）
小川剛生『日本史リブレット78　中世の書物と学問』山川出版社(2013年3刷)

【成績評価の方法と基準】
授業実施期間中リポート２回（50％）、期末リポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
講義編制を見直し、学生が史料の読解、内容消化の時間を確保できるように工夫しました。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（リポート提出等に学習支援システムを使用するのため）
ノート１冊（講義メモ用）
ファイルまたはフォルダ（配布史料の保管と毎回授業への持参のため）

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course, we will focus on the activities of Tokugawa Yoshimune, the eighth shogun of the Edo shogunate.During his time as a shogun, this person focused on proofreading books collected by successive shoguns since Tokugawa Ieyasu.He himself proofread the texts of historical books originating from ancient or medieval times that teach the origins of the rituals of court nobles and samurai families, while also ordering book magistrates and scholars to inspect and scrutinize the texts of books in various fields.
In this course, we will examine Tokugawa Yoshimune's own activities in the course of his business from a reconstructive perspective. Then, consider why such work was carried out.While paying attention to the centralization that gives and preserves authority to historical texts themselves, I would also like to think about how they relate to us.
As a side note, the lecture will proceed while reading early modern Japanese historical materials related to this theme.
(Learning activities outside of classroom)
1.Preparatory study/review: 2 hours each
2.Report creation 2 times during the course: approximately 4 hours each
3.In addition, tours of historical materials preservation facilities and viewing of original historical materials: Approximately 2 to 3 hours led by a teacher (separate guidance will be provided during the class period)
(Grading Criteria /Policy)
Several reports submitted during the course:50%
Course-end report:50%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅲ

芦沢　知絵

授業コード：A3164　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。
中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。
本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】
近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、本授業ではやや専門的な内容を扱うため、中国近現代史の概略については、各自である程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会，2013年.（第4・5章）
久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会，2016年.
丸川知雄『現代中国経済 新版』有斐閣，2021年.

【成績評価の方法と基準】
①　平常点　30％
主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
②　期末レポート　70％
授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
中国経済の動向に合わせて、授業計画を一部変更する場合がある（授業内で通知）。

【Outline (in English)】
This course introduces the history of the modern Chinese economy. The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.
After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on term-end report (70%) and in-class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅳ

皆川　卓

授業コード：A3171　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世から近代までの歴史を通してヨーロッパの「国家的アイデンティティ」（national identity）を学びます。最初に近代の「ナショナリズム」の構造を紹介し、近代人の中にも無限に多様な「ナショナリズム」があること、しかしそれにも拘わらず何らかの歴史的事情によって一定の地域毎に統合されていることを確認します。そののちそれぞれタイプの異なるフランス、ブリテン（イギリス）およびドイツ（旧神聖ローマ帝国）の状況を概観し、何がそれぞれをまとめるのかを学びます。

【到達目標】
「ナショナリズム」が近代主権国家の諸条件のもとで成立すること、その方向性が各国の近世の歴史的発展に依拠することを学ぶとともに、そこで創られたさまざまなコンセプトが、どのようなメカニズムのもとで国への感情的執着に発展するのかを、それぞれタイプの違う近世史を抱えるヨーロッパ三か国の例から理解し、歴史的観点から合理的・客観的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「国家的アイデンティティ」(national identity)とは何か	受講者が日々触れる現代生活における文化と情念の関係を分析しながら、社会秩序や社会的価値への愛情が成立・発展する心的条件を論じます。
第2回	ナショナリズムの光と影	ナショナリズムの出発点となる情念が社会価値化するメカニズムを解析し、ナショナリズムの多義性と多様性を各国近世・近代史の特徴的な出来事から明らかにします。
第3回	近代以前に国民主義は存在するか（1）	ナショナリズム現象とされる活動を歴史の諸例から取り上げ、ゲルナー、ホブズボーム、アンダーソン、スミスなど近年の諸説に照らしながら、その類型を提示します。
第4回	近代以前に国民主義は存在するか（2）	前近代史の中に、近代になって初めてナショナリズムの神話形成に用いられるトピックが多数あることを確認します。
第5回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（1）	現代ヨーロッパにおける遺伝子ビッグデータの成果などから、「民族」が文化的集団であることを確認し、その基準であるエスニシティとは何かを、機能的な側面から分析します。
第6回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（2）	エスニシティを分析するには、その歴史的文脈、特に集団同士の関係に注目することがポイントであることを実証的に紹介します。
第7回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み—「王国」のフランス（1）	君主の身体と血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながらそのメカニズムを解き明かします。
第8回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み—「王国」のフランス（2）	君主の血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながら、普遍的な性格を持つ新しいエスニシティを発見する過程を分析します。
第9回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み—「帝国」のブリテン（1）	「議会の中の王」「幸いなる島国」「反カトリシズム」「商業国家」など多様なエスニック要素を組み合わせて小国を束ね、大国化したブリテン（イギリスの）例を紹介します。
第10回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み—「帝国」のブリテン（2）	ブリテンに束ねられたスコットランド、アイルランドなどの小国の視点とそれらのリアクション形成、そしてそこから生じる垂直的・水平的なアイデンティティの多元性を論じます。
第11回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み—「民族」のドイツ（1）	統一的な主権国家とは異なり、新旧の要素が同居する多元的な秩序を生み出した神聖ローマ帝国の特徴と、それをサポートするものとして生み出された「ドイツ」の観念の起こりを紹介します。
第12回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み—「民族」のドイツ（2）	神聖ローマ帝国の国家連合化によるアイデンティティの空白を埋める目的で「ドイツ」が文化的共同体に発展する過程を論じます。
第13回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み—「民族」のドイツ（3）	「ドイツ」アイデンティティが他国との関係に対する優越的価値「民族」となり、秩序も個人もそれに支配されていく過程を分析します。
第14回	総合評価とまとめ－「愛国」のカルテ	近世ヨーロッパ各国の国家的アイデンティティを構成する要素とその組み合わせのタイプを振り返り、それらとの比較から歴史的な「愛国」とは何かを、「少数民族」の観点も展望しながら相対化し、批判的にまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

【参考書】
E. ホブズボウム／T. レンジャー『創られた伝統』紀伊国屋書店 1992
E. ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店 2000
B. アンダーソン『想像の共同体』NTT出版 1997
A.D. スミス『ネイションとエスニシティー歴史社会的考察』名古屋大学出版会 1999
F. ブローデル『フランスのアイデンティティ』（第1篇・第2編）論創社 2015
H. トーマス『中世の「ドイツ」－カール大帝からルターまで』創文社 2005
松本彰・立石博高『国民国家と帝国』山川出版社 2005
谷川稔『国民国家とナショナリズム』山川出版社 1999
指昭博編『王はいかに受け入れられたか—政治文化のイギリス史』刀水書房 2008
岩井淳・指昭博編『イギリス史の新潮流—修正主義の近世史』彩流社 2000
その他教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
・ナショナリズムを含む国家的アイデンティティの歴史的変遷を知識として正確に把握できているか【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、各時代の国家的アイデンティティを歴史学の方法に従って経験科学的・論理的に分析し、説明できるか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】、が基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
・欠席者がついて行けなくなる事態を防ぐため、最初に15〜20分程度、前回の内容の復習時間を取ることにします。
・小テストの回答はある程度時間を取っていますが（2週間程度）、事情により遅れても提出できるようにします（ただしやむを得ない事情以外、期日を守っている受講生との公平性を考慮し、一定の減点をします）。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】：We learn about Europe's "national identity" throughout history, from the Middle Ages to modern times. First, I will introduce the structure of modern "nationalism" and confirm that there is an infinite variety of "nationalism" among modern people, but that it is nevertheless integrated in a certain region due to some historical circumstances. You will then get an overview of the different types of France, Britain (Great Britain) and Germany (formerly the Holy Roman Empire) and learn what brings them together.
【到達目標（Learning Objectives）】：We come to understand that "nationalism" is established under the conditions of modern sovereign states and that its direction depends on the historical development of each country in the early modern period, and that the various concepts created there will develop into emotional attachment to their countries by understanding the mechanisms by which they develop into emotional attachment to their countries from the examples of three European countries with different types of early modern histories, and to explain rationally and objectively from a historical perspective.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
・Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general contents in mind (1 hour each time).
・Before class, you will look up all the words you know for the first time or words you only know by name through reference books and the Internet, and make notes on printouts (1 hour each time).
・After the class, you will do your own research or ask questions to the instructor about points that you did not understand during the class (1 hour each time).
・Take notes on what you thought after listening to the class and prepare for writing a final report (1 hour each time)
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】：・The evaluation will be based on a combination of normal scores (20%), quizzes for each unit (30%), and final reports (50%).
・The criteria are whether the student has an accurate grasp of the historical transition of national identity, including nationalism as knowledge [1st evaluation process: in light of 30%of the quiz for each unit], and whether the national identity of each era can be analyzed and explained empirically and logically according to the method of historiography [2nd evaluation process: corresponding to 50%of the final report].

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅴ

皆川　卓

授業コード：A3172　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世ヨーロッパにおきる社会的流動性（social mobility：地位、身分、職業や職場、信仰、居住地などの変更）が、人や人の集団同士の生活やアイデンティティ、仕組みに与えた影響かについて、近年の研究成果を紹介します。受講者はそこから、社会的流動性が歴史の発展に深くかかわっていることを学ぶとともに、さまざまな成長期の社会に生きる人々が、いかにして社会に前向きに関われるかを省察します。

【到達目標】
近世ヨーロッパの人々は、現代から見れば経済成長率が極端に低い中にあっても、自ら身分や地位、職業や活動地域の変更を求め、異なる環境の衝撃に耐えて自らを活かす可能性を拓くばかりでなく、自分の求めた自分を実現する社会的枠組みをも形成していった。この近世ヨーロッパ「社会」の動的側面の実相と、それが近代の形成に果たした役割を多角的に学び、社会的流動性が持つ可能性を客観的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会的流動性とは何か（1）	社会的流動性（社会移動）は人間生活の活力を左右する基礎的条件ですが、それが分析の対象となることは多くありません。身近な生活を例に、社会的流動性とは何かを簡単に紹介します。
第2回	社会的流動性とは何か（2）	社会的流動性を歴史的に見ると、どのようなことが分かってくるかを、高校までの既習知識の中にある事例から指摘し、それが過去の社会の分析に有効であることを論じます。
第3回	中世ヨーロッパの社会的流動性（1）	中世ヨーロッパの厳格な身分が、権力者に強制された制度ではなく、むしろ職業教育の未発達やコミュニケーションの未熟な中、人々自身から作られたものであることを論じます。
第4回	中世ヨーロッパの社会的流動性（2）	中世後期に徐々に活発化する社会的流動性が、人々の認識の変化を促し、それが社会の集団意識に逆反射して、仕組みや制度をも徐々に変えていく実態を紹介します。
第5回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（1）	近世ヨーロッパの人々に自分の生活環境を変えるチャンスとなった様々な場の中で、キリスト教の教会組織と信仰によるネットワークが大きな影響を及ぼしたことを論じます。
第6回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（2）	教会組織や信仰のネットワークにおける社会的流動性が、次第に既存の組織の持つバイアスを変化させ、教会の改革や信仰の自由に導いていく展開を説明します。
第7回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（1）	近世の厳格な身分の壁を超える場の一つに、権力者が営む宮廷と軍隊がありました。そのうち宮廷に注目し、どのような人材がそれを利用して流動性の波に乗れたのかを詳しく論じます。
第8回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（2）	前回に続いて軍隊に注目し、そこでどのような能力が評価されたのか、またそこにはどのような限界があり、結果として軍隊の流動性はどのようなものになったのかを分析します。
第9回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（1）	近世ヨーロッパの都市は、ビジネスを通じてそれまで閉じ込められていた境遇から自分を解放し、流動性の波に乗る重要な場でした。そこではどのような可能性があったのかを概観します。
第10回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（2）	都市とビジネスの流動性は、そこで動く人々の内面をも変化させました。それがどのようなものであり、彼らはより望ましい場の実現を求めてどのような社会を促したのかを論じます。
第11回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（1）	近世ヨーロッパでは、様々な教育の場が、本来の目的であった宗教や職業を超えて生活に広く役立てられました。そこから生まれた流動性の特徴を、いくつかの事例に即して検討します。
第12回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（2）	近世ヨーロッパの流動性の特徴として、メディアによる流動性があります。直接地位や居住地を変えなくても、認識を共有した集団の中から生み出されたコミュニケーションと価値に注目します。
第13回	社会的流動性の変質と「社会」の誕生	近世ヨーロッパの流動性は、身分や資産の上下に留まらず、好み（ハビトゥス）や人生観、知性など精神面の発展も促しました。それが自由な個人の支える社会という発想を生み出すまでを論じます。
第14回	総合評価とまとめ	近世ヨーロッパの流動性が、単なる地位や富の上下を超え、多様性を承認する「市民」という新たな秩序の枠組みを創造しえたのはなぜなのか、これまでの授業を振り返りながらまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。（レジュメがテキストの機能を担います）

【参考書】
清水廣一郎『中世イタリアの都市と商人』講談社 2021
成瀬治『近代ヨーロッパへの道』講談社 2011
高澤紀恵／G・カレ『「身分」を交差させる―日本とフランスの近世』東京大学出版会 2023
L・ストーン（佐田玄治訳）『エリートの攻防―イギリス教育革命史』お茶の水書房 1985
角山栄他『生活の世界歴史(10)産業革命と民衆』河出書房新社 1992
Ch・ハルツィヒ他（大井由紀訳）『移民の歴史』筑摩書房 2023

【成績評価の方法と基準】
・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
・ヨーロッパ近世史の中に展開される社会的流動性の概要を理解することができ【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、そこから歴史のマクロ的な動きを読み取り、受講者の活きる現代社会と比較・相対化することで、歴史を客観的に論じるための俯瞰的な視点をどれだけ達成しているか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】をみとります。

【学生の意見等からの気づき】
・様々な研究対象を持つ受講生の理解のために、現代社会や他の時代・地域との比較を交えながら論じます。
・受講生が欠席のため授業内容について行けなくなる事態を抑制するため、授業の最初に15〜20分の復習を行います。そのため進度は多少変動します。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】：The lecturer introduces the results of recent research on the impact of social mobility (changes in status, status, occupation, workplace, religion, place of residence, etc.) in early modern Europe on the lives, identities, and structures of people and groups of people. From there, students will learn that social mobility is deeply involved in the development of history, and reflect on how people living in various growing societies can be positively involved in society.

【到達目標（Learning Objectives）】：Even in the midst of extremely low economic growth rates from the perspective of modern times, the people of early modern Europe sought to change their status, status, occupation, and area of activity, and not only opened up the possibility of making the most of themselves by withstanding the impact of different environments, but also formed a social framework to realize the self they wanted. we learn from various perspectives the reality of the dynamic aspects of early modern European "society" and the role it played in the formation of modernity, and objectively understand the potential of social mobility.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
・Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general contents in mind (1 hour each time).
・Before class, you will look up all the words you know for the first time or words you only know by name through reference books and the Internet, and make notes on printouts (1 hour each time).
・After the class, you will do your own research or ask questions to the instructor about points that you did not understand during the class (1 hour each time).
・Take notes on what you thought after listening to the class and prepare for writing a final report (1 hour each time)
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】：・The evaluation will be based on a combination of normal scores (20%), quizzes for each unit (30%), and final reports (50%).
- Students will be able to understand the outline of social mobility that unfolds in the history of early modern Europe [1st Evaluation Process: Corresponding to 30%of the quiz for each unit], and from there, by reading the macro movements of history and comparing and relativizing it with the current society in which the participants are active, they will be able to see how well they have achieved a bird's-eye view for objectively discussing history [2nd Evaluation Process: Corresponding to 50%of the final report].

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋近現代史

芦沢　知絵

授業コード：A3208　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「党と国家からみる中国近現代史」をテーマとする。
清朝の崩壊後、中国の政治体制は帝制から共和制へと大きく転換した。しかし、広大な領域と多様な民族を統治するには、西洋近代的な議会政治は必ずしも適合しなかったといえる。中華民国の政権を担った中国国民党は、一党独裁に基づく「党国体制」によって、急速な「国民国家」建設を目指した。それは、長らく対立した中国共産党にも継承され、現在の中華人民共和国の政治・社会体制を規定する重要な要素となっている。こうした党と国家の関係は、なぜ・どのように形成されたのか？
本授業では、中国国民党と中国共産党という2つの党の成立から国家建設への過程を交差的にたどることで、中国近現代史の全体像を概観し、現代中国の政治・社会のあり方について共に考えていきたい。

【到達目標】
中国国民党と中国共産党の成立から国家建設への過程をたどり、中国近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現代中国の政治・社会体制にみられる特徴や問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国近現代史入門	中国近現代史を学ぶ意義・方法
第2回	帝制から共和制へ	清朝の崩壊と中華民国の成立
第3回	中国国民党の成立	孫文と革命運動
第4回	中国共産党の成立	『新青年』とコミンテルン
第5回	第1次国共合作	北伐と上海クーデター
第6回	中国国民党の国家建設	南京国民政府の訓政体制
第7回	農村の中国共産党	毛沢東の台頭と革命根拠地
第8回	第2次国共合作	日中戦争下の「一致抗日」
第9回	国共内戦	中華人民共和国の成立
第10回	中国共産党の国家建設	社会主義体制の確立と急進化
第11回	中国共産党の混乱と変革	文化大革命から改革開放へ
第12回	台湾の中国国民党	蔣介石の独裁と白色テロ
第13回	変わりゆく2つの党	大国化する中国の行方
第14回	現代中国の党と国家	政治・社会体制をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、現在の中国に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史——両岸三地100年の歩み（第2版）』東京大学出版会，2019年.
吉澤誠一郎他『中国近現代史①〜⑥』岩波書店（岩波新書），2010〜17年.
岩谷將『民主と独裁の相克——中国国民党の党治による民主化の蹉跌』千倉書房，2024年.
高橋伸夫『中国共産党の歴史』慶應義塾大学出版会，2021年.

【成績評価の方法と基準】
①　平常点　30％
主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
②　期末試験　70％
授業内容に関する論述問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
This course introduces the history of modern China focusing on relationship between the state and the two parties: Chinese Nationalist Party (KMT) and Communist Party of China (CPC).
The goal of this course is to understand the historical process and current political/social issues about modern China.
After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

HIS100BE（史学 / History 100）

東洋史序説

山元　貴尚

授業コード：A3214　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前近代の中国は東アジア世界の中心として周辺地域に多くの影響を及ぼしてきた。その影響は現在の東アジア各地の政治・社会・文化にも根強く残り、現代の複雑な東アジア情勢にも垣間見える。そこで、本講義では前近代の中国における政治・社会・文化の基礎的な部分を概観し、歴史的観点から現代の東アジア情勢に関する理解を深める。

【到達目標】
東アジア世界を歴史的に概観し、客観的な視点からその政治・社会・文化の多様性について理解を深める。また、単に歴史的な出来事の知識のみを知るのではなく、歴史的事実の原因と経過、そして結果や影響についてノートにまとめ、自らの意見を持つことができるようにする。さらに、歴史という過去のデータから、現代の東アジア世界にどう活用すべきかを考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業はPowerPointを用いて講義形式で行います
各回、一つの時代を取り上げて政治・社会・文化を学習する。学生からの質問については授業前後や授業中にも随時受け付け、学習内容についてフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業を受けるにあたって	注意事項等のガイダンス
第2回	甲骨文字の世界	殷王朝の歴史と甲骨文字
第3回	理想の国家とその統治	周王朝・春秋戦国時代
第4回	中国の「一統」と始皇帝の支配	秦王朝の天下一統とその統治
第5回	漢字文化圏の成立	漢帝国の成立とその歴史
第6回	儒教国家の成立	新・後漢王朝
第7回	魏・呉・蜀の興亡と中華世界の再統一	三国・晋時代の歴史
第8回	貴族制社会と南北交通	南北朝・隋王朝の統治
第9回	東アジア世界帝国の成立	唐帝国の歴史
第10回	農耕民族と遊牧民族との攻防	宋王朝と北方遊牧民族
第11回	モンゴル＝ウルス体制とユーラシア支配	モンゴル・元王朝の歴史
第12回	海禁と朝貢―東アジア世界の構造―	明王朝における海禁＝朝貢システム・南船北馬・北虜南倭
第13回	前近代最後の皇帝支配	清王朝の歴史
第14回	学習の総括	中国の歴史のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中ノートに取った内容を授業後に確認し、年表・地図・ポイント等をノートにまとめる。興味関心を抱いた内容はインターネットではなく図書館に足を運んで書籍から調べて知識を身に付ける。また、事前に学習する時代について調べておく。本授業の準備で2時間程度、授業後の復習時間2時間程度とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しませんが、随時資料を配布します。

【参考書】
岩波新書　シリーズ　中国の歴史①～⑤　2019年11月～2020年7月
愛宕元・冨谷至著『新版　中国の歴史』上下巻、昭和堂、2009年4月(同じく昭和堂の冨谷至・森田憲司編『概説中国史』上下も可)
講談社学術文庫　中国の歴史　全12巻　2020年10月～2021年6月
その他必要と思われる参考書は講義で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、期末試験70％の配分で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
幅広い知識を得るためにわかりやすい説明になるよう心掛けます。
多くの歴史的事象に興味関心を高め、その原因・結果について検討・考察できるようになってほしい。また、講義内容をノートにまとめられるようになることを期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
履修者はノートを用意して授業内容を取るようにしてください。ノートは期末試験に持ち込みができます。

【その他の重要事項】
ビデオ撮影・スマートフォンでの動画・写真の撮影および録音を禁止します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Pre-modern China had a significant influence on East Asia, shaping politics, society, and culture. This course explores the basics of pre-modern Chinese history to better understand contemporary East Asian affairs.
【Learning Objectives】
This course covers East Asian history to understand its political, social, and cultural diversity. Students will analyze historical events and their impacts to form their own opinions and apply these insights to contemporary East Asian issues.
【Learning activities outside of classroom】
Students will review and organize notes after class, use the library for research, and prepare for upcoming lessons. Preparation and review time is about two hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation will be based on regular participation (30%) and the final exam (70%).

HIS100BE（史学 / History 100）

西洋史序説

阿部　衛

授業コード：A3215　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界史のなかでも、とりわけ西洋史に焦点をあて、古代から現代に至るまでの重要な事象について通史的に講義する。授業では、適宜史料が提示され、その史料からいかなる解釈が引き出され、今日の歴史像の形成にいたったのかを考える。歴史的に重要な事象を単に記憶することではなく、その経緯や背景を理解することを重視している。

【到達目標】
この授業では以下の三点を到達目標に設定している。
(1) 古代から現代までの西洋の歴史を体系的に理解できる
(2) 史料の可能性と限界を理解できる。
(3) 現代的価値観にとらわれず、相対的に事象を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。
毎回事前に講義の資料を学習支援システムを通して配布するので、各自ダウンロードないしは印刷して授業に臨んでもらう。
毎回の授業の最後に400字程度のリアクションペーパーを提出してもらう。
毎回の授業の冒頭で、前回の授業の復習とリアクションペーパーに対するフィードバックの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と目標について確認する。
第2回	古代1：古代ギリシア	古代ギリシア文明の誕生と発展、そして衰退について考える。
第3回	古代2：ローマ（王政～共和政）	ローマが都市国家からいかにして帝国へと発展していったのかを考える。
第4回	古代3：ローマ（帝政前期）	ローマ帝国はいかにして共和政から帝政へと移行したのか、そしてその後も共和政に戻ることはなく、帝政が維持されたのかを考える。
第5回	古代4：ローマ（帝政後期）	帝国を取り巻く環境にいかなる変化が生じたのか、そして帝国の人々はそれにどのように対応したのかを考える。
第6回	中世1：中世ヨーロッパ世界の成立	古代から中世へとヨーロッパがいかにして移行していったのかを考える。
第7回	中世2：中世ヨーロッパ世界の成熟	教皇と皇帝の関係性はいかにして変化していったのかを考える。
第8回	中世3：中世ヨーロッパ世界の変貌	黒死病や戦争そして飢饉をいかにしてヨーロッパ社会が超克し、その結果、何がもたらされたのかを考える。
第9回	近世：主権国家体制の成立	ヨーロッパにおける主権国家体制の成立について戦争との関係に注目しながら考える。
第10回	近代1：近代の幕開け	産業革命やフランス革命はいかなる社会的背景から生じることとなったのかを考える。
第11回	近代2：「国民国家」への歩みと帝国主義	「国民国家」がいかなる社会的状況を背景に形成され、その後の世界に何をもたらしたのかを考える。
第12回	現代1：二つの大戦	二つの世界大戦はいかなる社会的背景から勃発し、その後いかにして解決が図られたのかを考える。
第13回	現代2：東西冷戦とその後の世界	米ソの対立構造はいかにして形成され、世界にいかなる影響を与えたのかを考える。
第14回	まとめ	これまでの授業を振り返り、整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で配布されるプリントを参考に予習と復習をすること（各2時間）。適宜参考文献を読み、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
1. 服部良久、南川高志、山辺規子編、『大学で学ぶ世界史［古代・中世］』、ミネルヴァ書房、2006年
2. 山川哲、上垣豊、山田史郎編、『大学で学ぶ世界史［近現代］』、ミネルヴァ書房、2011年
3. 中井義明ほか著、『教養のための西洋史入門』、ミネルヴァ書房、2007年

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパー）…60％
学期末の期末試験ないしレポート…40％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布や課題提出に学習支援システムを用いるため、パソコンやタブレット端末などの持参を推奨する。

【その他の重要事項】
授業計画はあくまで目安であり、受講者の理解度に応じて適宜変更される。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Within world history, we will focus on Western history, giving comprehensive lectures on important events from ancient times to the present day. In class, historical materials are presented as appropriate, and students consider what interpretations can be derived from the materials that led to the formation of today's historical image. Rather than simply remembering historically important events, we place emphasis on understanding their history and background.
【Learning Objectives】
In this class, we have set the following three goals.
(1) Be able to systematically understand Western history from ancient times to the present day
(2) Be able to understand the possibilities and limitations of historical materials.
(3) Be able to evaluate events relatively without being bound by modern values.
【Learning activities outside of classroom】
Prepare and review using the handouts distributed in each class (2 hours each). Read the references as appropriate to deepen your understanding.
【Grading Criteria /Policy】
Reaction paper …60%
Final exam or report at the end of the semester…40%

HIS200BE （史学 / History 200）

日本史特講XI

小倉　慈司

授業コード：A3216　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、日本古代の史書について、特に「六国史」と呼ばれた「正史」のうちの『続日本紀』を中心に、その基礎的な知識や調査・研究の方法を習得することを目的とする。古代の人々はどのようにして歴史を記録し、編纂したのか、そしてそのようにして完成した史書はどのように受け継がれて現在まで伝来してきたのか。史書に記された具体的な記事も読解しつつ、古代史研究の基礎を身につける。

【到達目標】
１古代史史料に関する基礎知識を身につける。２古代史の文献史料を読解する力を身につける。３史料批判の能力を養い、論理的思考力を鍛える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式（対面授業）で進めます。実際に史料を読んでもらったり、アンケート・小テストを実施することもあります。主体的かつ問題意識をもって授業に取り組むことを望みます。アンケートや小テストの結果については、次回以降の授業のなかで紹介したり、授業内容に反映させていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「正史」の始まり	ガイダンス、古代中国における史書編纂
第2回	続日本紀の編纂	奈良時代の修史事業
第3回	続日本紀のテキスト・注釈	新訂増補国史大系、朝日新聞社本、新日本古典文学大系
第4回	平城京と聖武天皇の即位	長屋王の変と光明立后
第5回	風土記の編纂(1)	風土記の記事の特徴
第6回	風土記の編纂(2)	風土記の記事内容
第7回	東大寺大仏と光明皇后、孝謙天皇	8世紀半ばの政治情勢と続日本紀
第8回	続日本紀に見える祥瑞	祥瑞出現記事の検討
第9回	淳仁天皇と藤原仲麻呂の乱	淳仁朝の政治情勢と続日本紀
第10回	称徳天皇から光仁天皇へ	道鏡関係記事と続日本紀
第11回	桓武天皇の修史事業	皇位継承、早良親王事件
第12回	日本後紀の編纂	編纂過程について
第13回	日本後紀の散逸とその復元	日本紀略・類聚国史について
第14回	日本後紀の薨卒伝	官人の伝記と史書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料は事前に読んでおいてください。この講義の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業に必要な史料は配布します。必ず持参してください。

【参考書】
遠藤慶太『六国史』（中公新書、2016年）
新日本古典文学大系『続日本紀』１〜５（岩波書店、1989〜1998年）
早川庄八『続日本紀』（岩波書店、1993年）
ほか、授業中に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業参加への積極性・小テスト・アンケートへの回答（20％）、レポート課題（80％）を総合しておこないます。

【学生の意見等からの気づき】
日本古代史を学ぶ上での基礎的知識の確認を度々おこなっていくようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
This course aims to teach students basic knowledge and research methods about the Japanese classical history book, " Rikkokushi"(Six National Histories of Japan chronicling the history of Japan from the earliest times to 887). At the end of the course, students are expected to be able to read Japanese classical records and investigate them.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course contents.
The overall class grade will be determined by the following criteria: Quizzes and Reports: 80%, Contribution during class: 20%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅶ

徳留　大輔

授業コード：A3217　｜　曜日・時限：月5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】東アジア陶磁史――中国陶磁史を中心に
【目的・意義】東アジアの陶磁史は悠久の歴史を有する。その陶磁器の生産は素材である粘土の採取をはじめ、それぞれの地域・窯が所在する自然地理的環境に大きな影響を受ける。そのためそれぞれに独自の陶磁器文化を生み出してきた。その一方で、国・地域を超えて人々の交流が密になるなかで、陶磁器の造形や意匠、様式にも交流の結果による変化や新しい陶磁器文化を生み出した。本講義では考古学・美術史・歴史学的研究成果をもとに「人」「交流」をキーワードに東アジアの陶磁史を学ぶ。

【到達目標】
陶磁器を「考古学」「美術史」「歴史学」という様々な研究方法から学ぶことで、それぞれの研究のアプローチの方法を修得することができる。また国・地域を超えた相互の交流によって生み出される文化・芸術を学ぶことで、「国際性」を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心としながら、授業内での発表、リアクションペーパーの提出、2〜3回程度課題を出し、それに対するフィードバックを行う。また少なくとも1回は博物館・美術館で陶磁関係の展覧会の見学を予定している（なお交通費は各自負担）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	第1回目は「陶磁器（やきもの）」とはいったいどのような物質なのか。やきものは何のために、なぜ生まれたのか？ まずは皆で考えてみるとともに、陶磁器を通してどのようなことが分かるのか、どのような魅力があるのか体験してみる。
第2回	土器を知る！	東アジアの中でも古くから様々な種類の土器を生み出した、中国新石器時代の土器、なかでも彩陶、黒陶を中心にその機能や社会的意味を考える。
第3回	陶磁器の分類・枠組	イントロダクションで触れた陶磁器の概要をもとに土器・陶器・炻器・磁器、白磁・青磁・青花・黒釉・五彩（色絵）など、陶磁器の分類・枠組を理解する
第4回	東西交流のはじまり	いまから2000年前。アジアの西と東で交流が密になる中で、工芸品の分野では青銅器、ガラス製品だけでなく、陶磁器が交流の表舞台に現れる。シルクロード、海の道を介して本格化する東西交流のはじまりと陶磁器を介して探る。
第5回	チャイナインパクト―世界に影響を与えた中国陶磁器①	8世紀後半から中国の陶磁器は貿易品として本格的に中国国外へ輸出される。晩唐・五代、宋時代における中国陶磁器の特徴を理解する。
第6回	チャイナインパクト―世界に影響を与えた中国陶磁器②	晩唐から宋時代における中国陶磁器の輸出先と貿易港をとりあげ、この時期の東西交流の様子を紐解く。
第7回	「青花」の誕生	14世紀前半、突如として流行する青花磁器。白磁の上にコバルトを用いて筆書きにより表された意匠は、西アジアの人々を魅了した中国陶磁であった。またあわせて中国国内、東南アジアでも広く受容された。その青花が誕生し、流行した背景について西アジアの工芸品も含めながら、考察していく。
第8回	明清陶磁の展開と官窯	明清時代には景徳鎮にて官窯が設置され、皇帝・宮廷用の陶磁器と民間用の陶磁器生産体制ならびに様式・質にも大きな違い生まれる。とくに明時代に着目しながら、官窯製品の特徴、また時期により異なる官民の製品の影響関係について理解を深める。
第9回	大航海時代と陶磁器	大航海時代には中国・日本の陶磁器が欧州をはじめ世界へ広がる。東アジアの陶磁器はなぜ世界を魅了したのか。明清時代の陶磁器、そして日本の古伊万里、柿右衛門を取り上げる。
第10回	唐物茶碗と茶の湯	茶の湯で用いられる茶碗には多くの唐物（中国陶磁器など）がある。それらは時代により流行する陶磁器が異なる。それはなぜなのか。陶磁器の受容という視点からその背景を探る。
第11回	日本における陶磁器鑑賞の歴史	日本では古くより寺社仏閣、茶の湯や華道など様々な分野で陶磁器を用いてきた。一方で、近代に入り欧州から新しい価値感をもとに陶磁器を使用するのではなく、鑑賞することに主眼をおく見方が生まれる。それによりそれまで顧みられることがなかった、あるいは見過ごされてきた陶磁器が注目をうけることになる。その鑑賞の歴史を学ぶ。
第12回	日本における近現代陶芸の世界	明治維新後、日本の陶芸の世界は新しい時代を迎える。それまでの窯や産地を中心する陶磁器だけでなく、個人作家が生まれる。ここでは近現代陶芸のパイオニアである板谷波山を中心に欧州の芸術様式の影響、中国や日本の古陶磁や工芸品が作家の作品づくりにどのような影響を与えたのか見ていく。
第13回	博物館見学	実際に陶磁器作品を見て、立体造形の陶磁器の魅力を体感する
第14回	まとめ	本講義で学んだことの復習。陶磁器の魅力について感想を求めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
講義の際にレジュメの配布ならびに内容にあわせて参考文献を紹介します。授業の前・後に読んで要点をまとめて授業に臨んでください。また授業では課題を出しますので、次回の講義時に提出してください。

【テキスト（教科書）】
講義では教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。ただし、【参考書】に関してはぜひ一読してください。

【参考書】
葉喆民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019年
徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗　唐物茶碗』淡交社、2021年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート60％、各講義時に課す課題（宿題）20％、平常点20％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
本講義の担当者は美術館に勤務する学芸員であり、陶芸を中心とする工芸分野を担当しています。可能な限り、実物作品の実見や資料などの観察の方法のレクチャーや資料にふれる機会を設けるようにします。

【教員の専門領域など】
＜専門領域＞考古学・東洋陶磁史
＜研究テーマ＞中国初期王朝形成過程の考古学的研究、中国陶磁史
＜主要研究業績＞
徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗　第一巻　唐物茶碗』淡交社、2021年
葉喆民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019年
徳留大輔編集『宋磁－神秘のやきもの』（展覧会・図録）、出光美術館、2018年

【Outline (in English)】
【Outline】The history of ceramics in East Asia focuses on the history of Chinese ceramics.
【Purpose and Significance】 The history of ceramics in East Asia has a long history. The production of ceramics is greatly influenced by the natural geographical environment of each region and kiln, including the extraction of clay, which is the raw material for ceramics. This is why each region and kiln has developed its own unique ceramic culture. On the other hand, as people interacted more closely with each other across countries and regions, the shapes, designs, and styles of ceramics also changed and new ceramic cultures emerged as a result of these interactions. In this lecture, we will study the history of ceramics in East Asia with the keywords "people" and "exchange" based on the results of archaeological, art historical, and historical studies.

【Learning activities outside of the classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination（report）：60%、Short reports：20%、in class contribution: 20%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅷ

松本　隆志

授業コード：A3218　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】
この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は講師による講義と受講生による課題の作成・提出で構成されます。課題は毎回の授業内容に関する論述です。提出された課題については次回の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第2回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第3回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第4回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第5回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代〜第一次内乱に至る出来事について。
第6回	統一の崩壊と再生	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第7回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第8回	ウマイヤ朝の限界	ウマイヤ朝最盛期の歴史的位置付けと問題点について。
第9回	ウマイヤ朝の衰退、アッバース朝の誕生	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第10回	アッバース朝カリフ権力の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第11回	革命をもう一度	アミーンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第12回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第13回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。
追加文献に目を通したり、提出した課題を再検討することが復習になります。
また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べることが予習になります。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。
毎回授業資料を配布します。

【参考書】
・概説書
小杉泰, 『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）, 講談社, 2016年.
菊地達也編著, 『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年.
・工具書
大塚和夫ほか編, 『岩波イスラーム辞典』, 岩波書店, 2002年.
その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出の課題（50％）、期末レポート（50％）
課題については毎回素点をつけ、その累積を成績評価の５０％に換算します。期末レポートについては、レポート作成要領を5月中に配布するので、それに基づいて計画的にレポート作成に取り組んでください。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価します。レポートの点数を成績評価の５０％に換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容についての改善の指摘は特になかった。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course,we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".
【Learning Objectives】
At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.
【Learning activities outside of classroom】
Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policies】
Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)
The papers will be graded based on the cumulative score.
The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅸ

吉岡　潤

授業コード：A3219　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国境線を通して見た20世紀の国際関係史を、中・東欧諸国、特にポーランドの事例を中心に検討する。
現代は国民国家というあり方が世界中を覆い、ほぼすべての陸地が国境線で区切られ、ほぼすべての人間がどこか一つの国家に所属することになった時代である。戦争が繰り返され、国境線が引き直され、それに伴い難民や移民、強制移住やジェノサイドといった問題が深刻化した時代でもある。そしてこれらの問題が凝縮して現れた地域が中・東欧、とりわけ国家の消滅と復活を繰り返し、その度に国境線と住民構成を大きく変化させてきたポーランドである。本講義では、そのポーランドが歴史の節目節目でどのような国境線を持とうとし、そして実際に持つことになったのか（あるいは、持たされることになったのか）を概観する。今日のポーランドの国家的存在を基礎づけた第一次世界大戦後の独立に際しての国境線画定と、今日のポーランド国家の国境線を実質的に定めた第二次世界大戦後の国境線変更について検討し、中・東欧における地域秩序の形成およびその変動の国際関係史的意味を考察する。

【到達目標】
今ある国際関係の歴史的背景を知ること。
国際秩序や地域秩序の変動を歴史的に考察する手がかりを得ること。
現代の国際関係において国境線が持つ機能と意味を、現場の地域性と歴史性を踏まえて分析できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進める。授業回ごとにコメントシートを提出してもらい、そこで出された質問やコメントに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	国境線を通して見る国際関係史、20世紀の国際秩序と国境線
第2回	前提	国境線を通して見るポーランド近現代史
第3回	第一次世界大戦と国境線（1）	第一次世界大戦とポーランド
第4回	第一次世界大戦と国境線（2）	第一次世界大戦の戦後処理
第5回	第一次世界大戦と国境線（3）	第一次世界大戦後のポーランドの国境画定
第6回	両大戦間期の国際関係と国境線（1）	中・東欧諸国の国境線と民族問題
第7回	両大戦間期の国際関係と国境線（2）	ナチ・ドイツと中・東欧諸国
第8回	第二次世界大戦と国境線（1）	独ソによる秩序変更
第9回	第二次世界大戦と国境線（2）	戦時国際関係とポーランド問題
第10回	第二次世界大戦と国境線（3）	第二次世界大戦の戦後処理
第11回	戦後国際秩序と国境線（1）	第二次世界大戦後のポーランドの国境画定
第12回	戦後国際秩序と国境線（2）	冷戦とポーランドの国境線
第13回	戦後国際秩序と国境線（3）	冷戦終結後の国際秩序と国境線
第14回	まとめ	国境線を通して見た20世紀国際関係史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業中に紹介した参考文献を読むなど、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
コメントシートの提出など平常点と、期末課題とによる評価。評価における両者間の配分は、＜平常点のパーセンテージ：期末課題のパーセンテージ＞でおよそ40：60とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
This course deals with border issues in Central and Eastern Europe, especially in Poland, after World War I. Students are expected to learn about such topics as the problems of international relations in Central and Eastern Europe, the process of demarcation of Poland's borders after the First and Second World Wars, and shifting policies of the Great Powers towards Poland during the 20th century. Before and/or after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

HIS100BE（史学 / History 100）

日本史序説

齋藤　智志

授業コード：A3226　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1年
備考（履修条件等）：**史学科の2022年度以前入学生は「日本史序説Ⅱ（A3213）」を履修する**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代に対する社会的イメージがどのように形成・利用されてきたかという問題も考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識と多角的な見方を身につけることを目的とします。

【到達目標】
日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。
史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業（第2回～第12回）は前半・後半に分かれています。前半は、講義形式でそれぞれの時代の概観を行います。後半は、①各時代がどのようにイメージされてきたか・いるかをその社会的背景とともに考える回と、②史料を読んで自ら時代像を捉える回とがあり、これらを通じて、歴史の多角的な見方を学んでいきます。
レジュメとスライドを用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する小課題（史料読解など）にも取り組んでもらいます。
毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業や学習支援システムなどで共有する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概論	・授業方針について ・歴史と史料／歴史を学ぶ意味
第2回	文化の黎明と国家形成	・時代の概観1 日本列島における文化の黎明 ・日本の黎明の描かれ方：神話的古代史像からサブカルチャーとしての縄文・古墳まで
第3回	古代の国家と社会	・時代の概観2 律令国家の成立と変容 ・古代遺跡の復元を考える：武蔵国府・国分寺付近を事例として
第4回	中世社会の成立	・時代の概観3 院政から武家政権へ ・絵巻物から見る中世社会：『一遍聖絵』を読む
第5回	中世社会の諸相	・時代の概観4 室町・戦国時代の動乱 ・戦乱の時代の英雄像と庶民像
第6回	幕藩体制の成立	・時代の概観5 江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 ・「江戸ブーム」の歴史と現在
第7回	幕藩体制の動揺	・時代の概観6 社会の変動と幕政改革 ・村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む
第8回	近代国家の形成	・時代の概観7 明治維新と立憲国家の成立 ・変遷する「明治」イメージ
第9回	近代国家の展開	・時代の概観8 デモクラシーと帝国主義 ・帝国を見せる：第五回内国勧業博覧会
第10回	近代の社会と文化	・時代の概観9 明治・大正期の文化変容と工業化 ・伝統文化の発見：文化財保護前史
第11回	第二次世界大戦と日本	・時代の概観10 軍部の台頭と総力戦 ・戦時下の雑誌を読む：『少年倶楽部』と『写真週報』
第12回	戦後日本の歩み	・時代の概観11 戦後改革と高度経済成長 ・昭和ノスタルジーを考える
第13回	歴史意識の歴史と現在	・授業全体のまとめ ・近現代の歴史学と歴史意識
第14回	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業で用いるレジュメ等の資料は、原則として一週間前に学習支援システムで配布するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。
授業終了後はレジュメ等の資料を読み返して復習し、内容の理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。配布資料を用いて授業を行います。

【参考書】
佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000年
『大学の日本史：教養から考える日本史へ』（全4巻）山川出版社、2016年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017年

【成績評価の方法と基準】
平常点40％（リアクションペーパーや授業内小課題への取り組みなどを含みます）
期末レポート30％
期末試験30％
※期末レポートの提出、期末試験の受験は、いずれも必須とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業内課題を通じて、他の学生の意見を知れるのが興味深かったという趣旨の意見が多く見られました。そうした課題を積極的に授業に取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業中、学習支援システム（WebClass）の機能を用いることがあります。学習支援システムにログインできる機器（ノートＰＣ、タブレット、スマートフォンなど。いずれか）を持参してください。なお、特にノートPCかタブレットの持参を推奨する回があるので、その都度お知らせします。

【その他の重要事項】
毎回の授業前後の時間に質問を受け付けます。
また、授業期間中、学習支援システムおよびメールで常時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%, Short reports: 30%、in class contribution: 40%

HIS200BE（史学 / History 200）

歴史特講

柏木　一朗、塩沢　裕仁、内田　康太、皆川　卓、高井　康行

授業コード：A3227　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の歴史学界では、対象とする地域により日本史、東洋史、西洋史の３分野に分かれ、それぞれの内部で独自の問題意識に基づき研究が行われてきた。その一方で、各分野に共通するテーマや複数の地域にまたがる問題もあり、それらをさまざまな角度から考察してみることで、新たな歴史の見方や描き方を学べるのではないか。そのような機会を提供するのが、本授業の目的である。
今年度の主題は、「帝国」である。時代と地域を越えた帝国の在り方について、帝国の果たした役割と影響（たとえば交流による共通化、民族のナショナリズム形成）やその歴史的意義などを考える。授業では時代も地域もさまざまな帝国についてみていく。

【到達目標】
・諸地域に現れた帝国の特徴とその歴史的意義を理解する。
・複数の地域の事例を比較検討したり、それらの相互関係を把握したりすることを通じて、歴史を複眼的・総体的に考える力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、複数の教員が交代で授業を担当するオムニバス形式（講義）で行う。各回の授業は原則として講義だが、資料に基づくディスカッションの機会も設けたい。質問や課題については、授業内で回答・コメントをするか、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで次の授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。 担当：塩沢
第2回	帝国について：概要と論点	帝国と世界の一体化について考える。 担当：塩沢
第3回	ローマ帝国１	ローマ帝国の概要について学ぶ 担当：内田
第4回	ローマ帝国２	ローマ帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：内田
第5回	秦漢帝国	東アジア最初の帝国について学ぶ 担当：塩沢
第6回	隋唐帝国	隋唐帝国の国際性について学ぶ 担当：塩沢
第7回	神聖ローマ帝国１	神聖ローマ帝国の概要について学ぶ 担当：皆川
第8回	神聖ローマ帝国２	神聖ローマ帝国の世界性について学ぶ 担当：皆川
第9回	征服王朝１	征服王朝の概要について学ぶ 担当：高井
第10回	征服王朝２	征服王朝と東アジア世界について学ぶ 担当：高井
第11回	大日本帝国１	大日本帝国の概要について学ぶ 担当：柏木
第12回	大日本帝国２	大日本帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：柏木
第13回	まとめ	授業の内容を総括する。 担当：塩沢
第14回	授業内試験	期末試験とまとめ 担当：塩沢

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業内容を復習するとともに、授業で示す参考文献を読み、自主的に理解を深めること。また、各講師の指示にしたがうこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業でのプリント配付、あるいは学習支援システムからダウンロードする（各講師の指示にしたがうこと）。

【参考書】
山本有造編著『帝国の研究—原理・類型・関係』名古屋大学出版会、2003年
岡本隆司編著『宗主権の世界史—東西アジアの近代と翻訳概念』名古屋大学出版会、2014年
南塚信吾編著『国際関係史から世界史へ』ミネルヴァ書房、2020年
鈴木董編著『帝国の崩壊』（上下巻）山川出版社、2022年
その他、各講師が随時指示をする。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50％
・期末試験：50％
【重要】10分以上の遅刻は欠席とし、入室を認めない（遅延証明書持参のものは入室可）。授業中のPC使用を禁止する。写真撮影、録音、録画も禁止する。違反するものは退室させる。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい授業を心掛ける。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course aims to explore history of empires in comparative perspectives. < Learning objectives >
1) Students are able to acquire basic knowledge about empires in history.
2) Students are able to analyze history in comparative perspectives.
< Learning activities outside of classroom >
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy >
Class participation and assignments: 50%Final examination: 50%

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

自然環境論

福與　直人

授業コード：A3417　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模および地域的な環境変動に焦点を当て、自然環境に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とします。過去の環境変動から現代の環境問題までを縛らずに抽出し、持続可能な未来に向けた課題を考察します。これにより、現代社会における環境問題を多角的に理解する能力を養います。

【到達目標】
過去の地球環境変動についての基礎知識を理解できる。
現代の環境問題とその背景を説明できる。
持続可能な社会に向けた課題について論述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進め、毎回スライドを投影します。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
2	地球環境変動の基礎	地球環境の変動要因とその影響について概説する。
3	地球の物質循環	地球環境における物質循環について概説する。
4	過去の環境変動の復元方法	過去の地球環境をどのように復元するのか学ぶ。
5	世界の環境変動(1)	陸域を中心とした過去の地球環境の変動について学ぶ。
6	世界の環境変動(2)	海域を中心とした過去の地球環境の変動について学ぶ。
7	日本列島の環境変動	日本列島における過去の環境変動について学ぶ。
8	環境変動と人類社会(1)	環境変動と人類社会との関わりについて、世界史的な観点から学ぶ。
9	環境変動と人類社会(2)	環境変動と人類社会との関わりについて、日本史的な観点から学ぶ。
10	人的要因による環境変動	近代以降の事例を中心に、人為的に引き起こされた環境変動について学ぶ。
11	現代の環境変動	現在も進行している環境変動について学ぶ。
12	地球環境の将来予測と対策	地球温暖化を中心に、環境変動の将来予測とその対策について学ぶ。
13	人新世とはなにか	「人新世」と呼ばれる時代区分について概観する。
14	最終試験とまとめ	最終試験を行い、授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの授業内容を復習し、授業で習った内容に関連することを自ら図書館やインターネットで自分なりに調べて、理解を深める努力が必要です。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
以下の項目に従い、評価を行います。
平常点：10％
毎回のリフレクションペーパーによる評価：40%
期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
文系理系問わず、また高校時代に地理や地学を履修していない学生も歓迎します。

【Outline (in English)】
Course Outline
This course focuses on global and regional environmental changes, providing students with foundational knowledge about the natural environment. By examining past environmental changes and modern environmental issues, students will develop a multifaceted understanding of current environmental challenges and explore pathways toward a sustainable future.
Learning Objectives
By the end of this course, students should be able to:
Understand the fundamental knowledge of past global environmental changes.
Explain the background and causes of current environmental problems.
Critically analyze and discuss challenges for achieving a sustainable society.
Learning Activities Outside of Classroom
Before and after each class, students are expected to review the course materials and independently research topics related to the lecture content using library resources or the internet. Students should dedicate at least 2 hours of preparation and review for each class.
Grading Criteria/Policy
The final grade will be calculated as follows:
Class participation: 10%
Reflection papers: 40%
Final examination: 50%

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

文化地理学（１）

吉野　裕

授業コード：A3482　｜　曜日・時限：火1/Tue.1
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は地理学分野のひとつである「文化地理学」をテーマにしています。文化地理学の研究対象は、たとえば、都市や集落の景観、言語、宗教、衣食住、社会集団、世界観（人々の空間のとらえ方）など非常に多様です。この授業では文化地理学の学問上の位置づけや、これがどのようなテーマで研究されてきたか、研究史にもふれながら紹介していきます。その際に、文化地理学の研究がいかなる方法・資料を用いて行われてきたかについても具体的に説明します。みなさんはこの科目を履修することにより、文化地理学の研究上の視野が極めて広く、なおかつ、その研究手法が非常に多様であることを深く理解するでしょう。

【到達目標】
①文化地理学の学問上の位置づけとその研究史について説明できる。
②文化地理学の視点でなされた研究の特徴、ならびに、その研究方法について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業形態：講義。
・毎回、リアクションペーパー（成績評価に使用します）に授業に関する質問・意見を記載し、これを提出していただきます。
　※質問・意見に関するフィードバックを次の授業で行います。
・毎回、資料を配付します。インターネットを通じての配布・配信はいたしませんのでご注意下さい（欠席された場合は、翌週、お声がけ下さい）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講上の注意事項と文化地理学の学問上の位置づけを確認しよう
第2回	文化地理学の歴史①	環境論とは何か？
第3回	文化地理学の歴史②	多様化する研究の視点
第4回	文化地理学の研究とその方法とは？	海外でのフィールドワークの紹介
第5回	「地域のとらえ方」について学ぼう①	等質地域と機能地域から地域構造を把握しよう
第6回	「地域のとらえ方」について学ぼう②	「農作物の世界的な旅」から分布が形成される仕組みを把握しよう
第7回	「地域のとらえ方」について学ぼう③	メンタルマップ・知覚と行動
第8回	「地域のとらえ方」について学ぼう④	好きな空間と嫌いな空間
第9回	文化地理学の研究の紹介①	言語
第10回	文化地理学の研究の紹介②	風土に根ざした生業・生活文化
第11回	文化地理学の研究の紹介③	宗教と人口
第12回	文化地理学の研究の紹介④	民俗
第13回	文化地理学の研究の紹介⑤	ジェンダー
第14回	試験・総括	試験の実施と授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業で学修した専門用語の定義を地理学の事典などで調べる。
②授業内容に関する図書などを探し、これらを読んで知識を獲得する。
毎回、授業の前後に上記①・②の準備学習・復習を行って下さい（合計4時間を毎回の標準とします）。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
・森　正人・中川　正『文化地理学ガイダンス　改訂版』ナカニシヤ出版、2022年（第1版）。
・高橋伸夫・田林　明・小野寺　淳・中川　正『文化地理学入門』東洋書林、1995年 （第1版）。
・千葉徳爾『文化地理入門』大明堂、1991年（第2版）。

【成績評価の方法と基準】
①授業内テスト:第14回の授業時に試験を実施します(70%)。
②授業参画度:毎回、リアクションペーパーに授業に関する質問・意見などを記載して提出していただきます。その内容をもとに授業の理解度を評価します(30%)。
上記の①・②をもとに、成績を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーに記載いただいたご質問・ご意見をふまえて授業を進めて参ります。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
①非常勤講師につき、オフィスアワーの設定はありません。授業の前後に質問や書類へのサイン・受け取りなどに対応しますので、お声がけ下さい。
②やむを得ない事情で授業形式を変更したり、休講したりする場合、大学LMSの「文化地理学（１）」のページを通じてお知らせいたします。重要な情報を見逃さないようにご確認下さい。

【Outline (in English)】
・Course outline: The objective of this course is to understand the methods of study on cultural geography, and to obtain wide knowledge of it.
・Grading Criteria /Policy: By the end of this semester, students will be able to explain the methods of study on cultural geography, and regional characteristics originated in nature, culture, economy, population, and so on.
・Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books and dictionaries. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
・Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, reaction papers: 30%

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

文化地理学（２）

川添　航

授業コード：A3483　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化地理学の対象と手法をさまざまなトピックから学ぶ．受講生が文化地理学を身近なものに結び付けて考察できるようになることを目的とする．

【到達目標】
文化地理学のさまざまな知識や概念，方法を学び，文化地理学の深層を理解できるようになることが目標である．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
文化地理学に関連する教科書をもとに，文化地理学のさまざまなトピックを学ぶ．授業末にコメントシートの作成を指示することがあるため，必要に応じて作成・提出すること（次回以降の授業時にフィードバックを行うことがある）．高等学校等で使用していた地図帳を持参することがのぞましい．あわせて，授業ノートを準備すること．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：地理学における「文化」	文化地理学とは？
第2回	文化地理学の展開①：環境と景観	環境決定論と環境可能論
第3回	文化地理学の展開②：自然環境の変化と人間活動	自然環境の変化と人間活動の影響
第4回	文化地理学の展開③：文化と地域	「地域」という考え方と人間活動
第5回	文化地理学の展開④：人間の知覚とメンタルマップ	メンタルマップが示すもの
第6回	文化地理学の展開⑤：文化と都市・農村関係	都市と農村における文化とその結びつき
第7回	文化地理学の展開⑥：文化の政治学（ポリティクス）	政治と環境・地域・景観
第8回	文化地理学の展開⑦：文化地理学の調査手法	文化地理学に関連する地域調査の方法
第9回	都市の文化地理：都市構造の転換と祭礼	都市と環境・地域・景観
第10回	ものづくりの文化地理：伝統的工芸品の流通と消費	伝統工芸と環境・地域・景観
第11回	観光の文化地理①：観光と環境・地域・景観	観光と環境・地域・景観
第12回	観光の文化地理②：観光資源としての文化	観光資源の創出と環境・地域・景観
第13回	宗教の文化地理①：宗教と環境・地域・景観	宗教現象と環境・地域・景観
第14回	宗教の文化地理②：現代社会と宗教の変化	現代社会と宗教との結びつき

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストとともに各回授業では参考文献を提示するので，そこに示された著書や論文に目を通したうえで準備学習・復習等に臨んでほしい．また，受講時に作成したノートや授業動画を見直し，講義の内容について復習すること．本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない．参考文献については授業内で適宜指示する．

【参考書】
森　正人・中川　正(2022)：『文化地理学ガイダンス［改訂版］』（ナカニシヤ出版）￥2,400
中俣均編(2011)：『空間の文化地理』(朝倉書店)￥4,180
竹中克行・大城直樹・梶田　真・山村亜希編（2009）:『人文地理学』（ミネルヴァ書房）￥3,000
高橋伸夫・田林　明・小野寺　淳・中川　正（1995）:『文化地理学入門』（東洋書林）￥2,500

【成績評価の方法と基準】
平常点（コメントシートなどの内容，参加態度で評価）（20%），期末レポート（80%）で成績評価を行う．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
可能な限り文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい．授業の進み具合や受講者数により授業計画を変更する可能性があります．

【Outline (in English)】
This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need 2hours. Final grade will be decided based on the exam and class participations. Grading will be based on regular points (based on the contents of comment sheets, etc., and participation attitude) (20%), and the final report (80%).

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学Ⅰ

室井　康成

授業コード：A3809　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：**他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3859）で履修する。**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本民俗学の創始者・柳田国男（1875 − 1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】
「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第2回	DVD『柳田国男―民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第3回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第4回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第5回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第6回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第7回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。
第8回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第9回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第10回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第11回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第12回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第13回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
福田アジオ『種明かししない柳田国男－日本民俗学のために』（2023年，吉川弘文館）
室井康成『柳田国男の民俗学構想』（2010年，森話社）
室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（2019年，中央公論新社）
室井康成『政治風土のフォークロア－文明・選挙・韓国』（2023年，七月社）
岩本通弥他偏『民俗学の思考法－〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』（2021年，慶応義塾大学出版会）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の３〜４回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特にありませんが、近現代の日本および東アジアの歴史に興味がないと、退屈な時間を過ごさざるを得なくなります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.
【Learning Objectives】
Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore.
【Learning activities outside of classroom】
Reading the bibliography.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination;100%

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学Ⅱ

室井　康成

授業コード：A3810　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：**他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3860）で履修する。**

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「レジャー」が一般化した高度経済成長期において、人々の観光への意欲を掻き立てる重要なツールとなったのがテレビの紀行番組である。だが、映像を含むあらゆる視覚資料には製作者の恣意が反映されているものであり、紀行番組もまた然りである。本講義では、そこに描かれた風景や製作意図、その時代的意味合いについての理解に努める。

【到達目標】
戦後の高度経済成長に歩調を合わせる形で放送され、その後の紀行番組に大きな影響を与えたNHKの『新日本紀行』を事例として、その時代に求められた風景や、そこから除外された問題を同時代史の文脈から読み解き、あわせて民俗学的観点から映像作品と同時代性を理解する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	ガイダンス	講義全体の概要を説明します。履修希望者は必ず出席して下さい。
講義	「新日本紀行」の時代背景と政治性―高度経済成長期の求められた風景と現実（1）	放送当時の時代背景を講義します。
講義	「新日本紀行」の時代背景と政治性―高度経済成長期の求められた風景と現実（2）	「新日本紀行」の撮影・編集など制作手法の特徴や傾向について講義します。
講義	テレビ時代到来の意味	NHKドキュメント映像『山の分校の記録』を視聴し、解説します。
講義	隠蔽された公害	「新日本紀行」の『歌が生まれて、そして』（長崎県奈留島）の回を視聴し、解説します。
講義	「観光化」の光と影	「新日本紀行」の『湘南・電車通り』（神奈川県鎌倉）の回を視聴し、解説します。
講義	北海道開拓―世たちの心象風景	「新日本紀行」の『十津川物語』（北海道・奈良県）の回を視聴し、解説します。
講義	日本復帰前の「南島」への視線	「新日本紀行」の『沖縄本島』（沖縄県沖縄本島）の回を視聴し、解説します。
講義	変わりゆく瀬戸内海の島暮らし	「新日本紀行」の『塩飽衆昨今』（香川県・岡山県）の回を視聴し、解説します。
講義	夢を追う人々と都市の活気	「新日本紀行」の『太秦映画村』（京都府太秦）の回を視聴し、解説します。
講義	首都にきらめく江戸言葉と在来知	「新日本紀行」の『江戸の残る町』（東京都神田）の回を視聴し、解説します。
講義	「日本のふるさと」という幻想	「新日本紀行」の『新・遠野物語』（岩手県遠野）の回を視聴し、解説します。
講義	「新日本紀行」が描いた「日本」	高度経済成長期に求められた「日本」像について、これまで視聴した『新日本紀行』を振り返りながら講義します。
講義	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
講義時に配布するレジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の３〜４回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特にありませんが、戦後日本の生活史・文化史・経済史などに興味がないと、受講中とても退屈な時間を過ごさなくてはなりません。

【Outline (in English)】
Because the period of high economic growth when "leisure" became popular, television travel programs have become an important tool in stimulating demand for tourism. However, all visual media, including video, reflect the producers' arbitrary interests, and this applies no less to travel programs. This course aims for students to understand the landscape depicted, the producer's intention and the historical implications.

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論Ⅰ

松本　隆志

授業コード：A3811　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラーム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラーム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラームという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】
この授業は、イスラームという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラームという宗教、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を歴史的見地から主体的に考えるための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせない、イスラーム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラームの基礎的知識について、後半部では、そのイスラームが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて解説していく。
この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生の課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「イスラーム世界」とは何か？
第2回	聖典『クルアーン』の世界	イスラームにおける『クルアーン』の内容とその重要性について
第3回	イスラームの教義	六信五行などイスラームの基本的な教義について
第4回	イスラームの世界観	一神教に共通する世界観とイスラーム固有の世界観について
第5回	イスラームの誕生と共同体の成立	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラーム共同体の拡大過程について
第6回	イスラーム共同体の分裂	第一次内乱から世襲王朝ウマイヤ朝成立に至る過程と歴史的意義について
第7回	第二次内乱と神のカリフ	ウマイヤ朝半ばに生じたカリフのあり方をめぐる争いについて
第8回	アッバース朝とカリフ権力	アッバース朝初期におけるカリフ権力確立の模索について
第9回	イスラーム法とスーフィズム	アッバース朝半ばにおけるイスラーム法とスーフィズムの確立・展開について
第10回	西方のイスラーム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラーム諸王朝について
第11回	イスラームとキリスト教世界	地中海を介した交易や十字軍における中東・ヨーロッパ世界の接触について
第12回	モンゴルとイスラーム	アッバース朝滅亡後の歴史的展開について
第13回	イスラーム世界と第一次世界大戦	オスマン帝国と第1次世界大戦後の国際社会について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では西アジアだけではなく、ヨーロッパや、時に中央アジア・南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みることが復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
菊地達也編著『図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017
佐藤次高『イスラーム世界の興隆』中公文庫、2008
佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラーム』講談社現代新書、1993
鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40％）で評価する。
授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。
レポート作成要領を5月中に配布するので、そちらに基づいて計画的にレポート作成に取り組むこと。
毎回提出される課題に素点を付し、学期終了時に課題合計点を成績評価の４０％に換算する。
また、学期末のレポートの点数を成績評価の６０％に換算する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容についての改善の指摘は特になかった。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.
【Learning Objectives】
Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.
【Learning activities outside of classroom】
The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)
Students are allowed to look at the materials in the exam.
The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論Ⅱ

松本　隆志

授業コード：A3812　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「イスラム世界論I」では、イスラーム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラーム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラーム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラームをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もなお進行中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラームの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラーム認識を相対化する視座を提供することを目指す。

【到達目標】
この授業は、イスラーム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラーム、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせないイスラーム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。
授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20〜30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第2回	イスラームの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンについて
第3回	イスラームの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラーム的な慣習について
第4回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネスについて
第5回	イスラームにおける女性	イスラームにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観との関係について
第6回	日本におけるイスラーム	在日・滞日ムスリムコミュニティの歴史と現状について
第7回	イスラーム法学	イスラーム法学の歴史的背景と現代での役割について
第8回	スーフィズム	スーフィズム（イスラーム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割について
第9回	スンナ派とシーア派	イスラームの二大派閥の概要と歴史的背景について
第10回	イスラームにおける奴隷	前近代イスラーム社会における「奴隷」のあり方について
第11回	イスラームの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラーム特有の経済倫理について
第12回	イスラーム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状について
第13回	現代の中東情勢	近現代中東史の文脈における「イスラム国」の経緯について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回授業資料をHoppiiにて配布します。

【参考書】
小杉泰, 江川ひかり編,『イスラーム：社会生活・思想・歴史』, 新曜社, 2006年.
小杉泰ほか編,『大学生・社会人のためのイスラーム講座』, ナカニシヤ出版, 2018年.
菊地達也編著,『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年.
その他、授業中に各テーマに適した参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40 %）で評価します。毎回提出の課題に素点を付け、学期終了時に合計点を成績評価の４０%に換算します。
レポートについては、詳細を記した作成要領を10月中にHoppiiで配布予定です。授業で学習した内容を出発点とし、参考文献等の情報を加え、論理的に私見を述べられていることを評価します。レポートの点数を成績評価の６０%に換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容についての改善の指摘は特になかった。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (= westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.
【Learning Objectives】
This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.
【Learning activities outside of classroom】
The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Termend examination: 60%、 Short reports : 40%

HUG200BA（人文地理学 / Human geography 200）

歴史地理学（１）

米家　志乃布

授業コード：A3819　｜　曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・２単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：・「歴史地理学Ｉ」を修得済みの場合は履修不可。
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世〜近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
１．日本・世界における「遺産」の歴史地理学について説明します。２．日本における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。３．日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。１〜３について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。
大学の方針で、対面授業を基本としますが、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします。授業の効率化のため紙での配布しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明，成績評価の基準など
第2回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第3回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に，日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第4回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第5回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第6回	奈良の歴史地理	奈良市内の歴史遺産，特に，平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第7回	京都の歴史地理①	都城の歴史，平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第8回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造，江戸時代の京都の名所、近代・現代の歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第9回	伏見の歴史地理	豊臣秀吉による近世城下町プラン，城下町の復元研究について学ぶ
第10回	江戸東京の歴史地理①	江戸の都市構造、江戸の名所について学ぶ
第11回	江戸東京の歴史地理②	東京の都市構造、東京の名所、人々の観光行動の変化について学ぶ
第12回	大阪の歴史地理①	石山本願寺，豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備，徳川時代へ
第13回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義，大阪のまちづくり
第14回	歴史観光都市・観光地の取り組み	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験50％、平常点50％で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので，他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。ビデオなど映像教材も活用します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで資料配信します(紙での配布はしません)。随時確認することができるように、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.
【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and
practice about historical geography of heritage and tourism.
【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria】 Term-end examination:50%
and in class contribution:50％

HUG200BA（人文地理学 / Human geography 200）

歴史地理学（2）

米家　志乃布

授業コード：A3820　｜　曜日・時限：水1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：**・「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可。**
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理
　本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して，受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
1．蝦夷地・北海道について，歴史地理学的方法を通して学びます。2．北方領土問題について学びます。3．近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。
大学の方針により、対面授業とします。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します。授業の効率化のため、紙での配布はありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明，成績評価基準について
第2回	画像資料を通して地理的認識をめぐる歴史地理学	画像資料の利用方法を中心に、新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について，歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHKスペシャルを鑑賞する
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係，北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）・樺太（サハリン）の歴史地理	千島列島・樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	現代に生きるアイヌ民族の若者たち	NHKスペシャルを鑑賞する
第14回	日本におけるアイヌ民族の法的地位と文化振興	日本における先住民族政策史をおさえ，日本のアイヌ民族に関する歴史的状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】
米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局を使います。授業に持参してください。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】
適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート50％、平常点50％で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので，他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】
基本的に教科書の記述をもとにパワーポイントで捕捉しながら説明するか、学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】
【Course outline】　This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.
【Learning Objectives】The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.
【Learning activities outside of classroom】Your study time will be more than 4 hours for a class.
【Grading Criteria】 Term-end examination: 50%
　and in class contribution:50%

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ａ（1）

小原　丈明

授業コード：A3905　｜　曜日・時限：**火3/Tue.3**
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：**2〜4年**
備考（履修条件等）：**地理学科の2022年度以前入学生は受講不可**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は地理学（主として都市地理学，経済地理学，社会地理学）の立場を中心に関係する他分野も踏まえつつ，都市開発について学ぶものです。都市開発がどのような事象に関わって展開されているのか，都市開発にはどのような利点や問題点があるのかなど，都市開発の諸側面について考えていきます。

【到達目標】
本科目を通じて，都市開発に関わる諸事象を題材にして，地理学，とりわけ都市地理学の見方・考え方を修得することを目標とします。また，都市開発を考えるには都市地理学の見方・考え方のみでは不十分であることから，隣接学問分野の考え方や見方も含めて身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は講義形式で行います。まず，都市開発との概念や種類など基本事項の理解に努めます。それを踏まえ，土地利用や土地所有，地価・地代，立地，デベロッパーなど都市開発に関わるさまざまな側面について学び，その上で都市開発の功罪（利点や問題点）などについて考えていきます。
本科目では，授業で扱う内容について受講生自身が考えることを求めます。それゆえ，適宜，授業内課題（小レポート課題）や授業外課題を課すことになるので，積極的に取り組むことを期待します。それら課題のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／都市開発の概要	講義の進め方／都市開発の基本概念・種類
第2回	土地利用①	都市の水平的拡大／都市的土地利用
第3回	土地利用②	都市の垂直的拡大／高度化・高密度化
第4回	土地所有①	土地所有の変遷
第5回	土地所有②	土地所有者の意思決定
第6回	地価・地代	地価の変遷／都市開発と地価の関係性
第7回	立地と開発①	住宅地の立地・開発
第8回	立地と開発②	マンションの立地・開発
第9回	立地と開発③	業務施設（オフィス）の立地・開発
第10回	立地と開発④	商業施設の立地・開発
第11回	都市再開発①	都市再開発の法制度
第12回	都市再開発②	都市再開発の歴史的展開
第13回	都市再開発③	アクターからみた都市再開発
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また，授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお，本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】
・橘川武郎・粕谷　誠編（2007）:『日本不動産業史』名古屋大学出版会.
・實　清隆（2008）:『都市における地価と土地利用変動』古今書院.
・全国市街地再開発協会編（1991）：『日本の都市再開発史』同協会.
・堤　純（2009）:『土地利用変化のメカニズム』古今書院.
・松原　宏（1988）:『不動産資本と都市開発』ミネルヴァ書房.
・渡辺尚志・五味文彦編（2002）：『土地所有史』山川出版.
・その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％，期末試験（持ち込み不可）：70％。授業で扱う内容を正しく理解した上で，それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが，多くの資料・データを提示することで，受講生自身が考察を行った上で，講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline (in English)】
This course introduces urban developments, especially the advantages and problems of the phenomena from the point of view of geography to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of urban developments and to acquire the way of geographical thinking.
Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70％) and short reports (30％).

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ａ（2）

小原　丈明

授業コード：A3906　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：**地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（1）（A3426)」として履修する**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では，農業や工業，商業，サービス産業，オフィスといった各種産業における立地について学び，考えていきます。各種産業の立地の実態を把握するだけでなく，それぞれの理論についての理解も深めていきます。具体的には，理論についてはチューネンやウェーバー，クリスタラー，マーシャル，スコット，ポーター，クルーグマンなどの理論それぞれについて学ぶだけでなく，各理論間の関係性についても考えていきます。また，具体的な事例を通じて，各種産業の立地や集積の実態についても考えていきます。

【到達目標】
本科目を通じて，各種理論のメカニズムや問題点などについて理解できるようになるだけでなく，各産業における立地や集積の実態について理解が深まるようになることを目標とします。また，各種理論や各産業における立地・集積の実態の問題点について批判的に捉え，自身の意見を提示することができるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は講義形式で授業を行うので，基本的には授業担当者からの話題提供が中心となります。授業のコンテンツはパワーポイントによるスライドの内容，配布資料（レジュメ，図表等資料），口頭説明からなります。なお，特定の教科書は使用しません。授業においては，適宜，授業内小レポート課題や授業外レポート課題を出します。それらレポート課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／概念整理	授業の狙い・進め方／概念・用語・事象の整理／産業立地論を学ぶ意味
第2回	立地・集積の理論について考える①：チューネンの農業立地論	農業に関する立地・集積の理論
第3回	立地・集積の理論について考える②：ウェーバーの工業立地論1	工業に関する立地・集積の理論／輸送費指向論と労働費指向論
第4回	立地・集積の理論について考える③：ウェーバーの工業立地論2	工業に関する立地・集積の理論／ウェーバーの工業立地論と現代の事象
第5回	立地・集積の理論について考える④：クリスタラーの中心地理論	都市の立地に関する理論／クリスタラーの中心地理論
第6回	立地・集積の理論について考える⑤：レッシュの中心地理論	都市の立地に関する理論／レッシュの中心地理論
第7回	立地・集積の理論について考える⑥：古典的な集積論	マーシャルの集積論／ウェーバーの集積論
第8回	立地・集積の理論について考える⑦：新しい集積論1	スコットの新産業空間論
第9回	立地・集積の理論について考える⑧：新しい集積論2	ポーターの産業クラスター論
第10回	工業立地の実態を考える①：伝統産業	伝統産業の立地の実態
第11回	工業立地の実態を考える②：コンテンツ産業	コンテンツ産業の立地動向・政策の展開・実態（ソフトウェア産業・ゲーム産業・アニメーション産業）
第12回	商業立地の実態を考える	商業（特にチェーンストア）の立地のメカニズム
第13回	オフィス（業務施設）立地の実態を考える	オフィス（業務施設）の立地のメカニズム
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また，授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお，本科目の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。授業資料（レジュメ，配布資料等）は授業内で配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％，期末試験（持ち込み不可）：70％。授業で扱う内容を正しく理解した上で，それぞれの理論や事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の理解度の状況に合わせて授業を進めていきます。

【Outline (in English)】
This course introduces various location theories about agriculture, industry and service industry, and relationship between theories and realities to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of mechanism about various location theories.
Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70％) and short reports (30％).

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ｂ（1）

伊藤　達也

授業コード：A3907　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（2）（A3427)」として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
授業ではわが国の水問題を全般的に学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】
授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	講義概要と目的の説明をします。
第2回	環境問題を考える	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します。
第3回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します。
第4回	水資源利用の変遷	水資源利用の変遷について説明します。
第5回	水資源開発の論理	ダム・河口堰による水資源開発の方法について説明します。
第6回	ダム・河口堰による環境問題の発生	ダム・河口堰による水資源開発に伴う環境コストについて説明します。
第7回	ダム・河口堰をめぐる全国の動き	ダム・河口堰をめぐる全国の動きについて説明します。
第8回	公共事業をめぐる状況と住民運動	ダム・河口堰を中心とする公共事業のあり方について説明します。
第9回	「日本は水資源が豊かか？」	建設省（現国交省）の日本の水資源理解について考えます。
第10回	「日本は水資源が豊かか？」の答え	建設省（現国交省）の日本の水資源理解について解説します。
第11回	利根川の水問題と八ッ場ダム（1）	利根川の水資源問題について説明します。
第12回	利根川の水問題と八ッ場ダム（2）	利根川の水資源問題、特に八ッ場ダム問題について検討します。
第13回	水資源政策を展望する（1）	わが国の水資源問題の解決策について説明します。
第14回	水資源政策を展望する（2）	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
授業の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
なし。

【参考書】
蔵治光一郎編『長良川のアユと河口堰』農文協　2024年
伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房　2023年
伊藤達也・梶原健嗣『長良川河口堰と八ッ場ダムを歩く』成文堂　2023年

【成績評価の方法と基準】
期末試験70％、平常点30％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】
Course outline
The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general.
Learning Objectives
The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture.
Learning activities outside of classroom
Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each.
Grading Criteria /Policy
The final exam is 70%and the normal score is 30%.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ｂ（2）

伊藤　達也

授業コード：A3908　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：**地理学科の2022年度以前入学生は受講不可**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業ではわが国の水問題を中心に個別事例について学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】
授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロー水資源問題の様々（地域性）ー	講義概要と目的の説明をします。水資源問題の地域性について考えます。
第2回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します。
第3回	山村地域への還元策	水源地域への還元策（水源税等）について説明します。
第4回	脱ダム下における五木村の地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します。
第5回	脱ダムにかけた五木村村民の意識	熊本県五木村村民が脱ダムの状況の中でどのような意識にあったかを解説します。
第6回	ダムと環境保全について考える。	2020年の球磨川水害に伴って再燃した川辺川ダム計画について説明します。
第7回	長良川河口堰問題の現在石木ダム問題	長良川河口堰問題の推移と現状を説明します。
第8回	韓国の水辺環境改変事業	韓国のダム・堰問題について説明します。
第9回	石木ダム問題	石木ダム問題について説明します。
第10回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します。
第11回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（1）	地域社会とカッパの歴史的関係について説明します。
第12回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（2）	現代の地域社会に占めるカッパの果たす役割について説明します。
第13回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（3）	カッパによる水辺環境保全、地域振興について説明します。
第14回	水資源問題を解決する	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
蔵治光一郎編『長良川のアユと河口堰』農文協、2024年
伊藤達也・梶原健嗣『長良川河口堰と八ッ場ダムを歩く』成文堂、2023年
伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房、2023年

【成績評価の方法と基準】
期末試験70％、平常点30％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容が自らに関係するものであることに気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】
Course outline

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in
regionally.
Learning Objectives
The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture.
Learning activities outside of classroom
Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each.
Grading Criteria /Policy
The final exam is 70%and the normal score is 30%.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ｃ（1）

佐々木　達

授業コード：A3909　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済現象は地域性をどのように作り出すかという経済地理学のオーソドックスな枠組みに基づいて，地域社会や地域経済の変容メカニズムについて企保的な方法論を学習することを狙いとする。

【到達目標】
到達目標①：経済地理学の学問的性格を理解する。
到達目標②：地域（社会・経済）の変容メカニズムについて説明できること
到達目標③：産業立地の基本的枠組みを説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域的特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、経済地理学の枠組みから地理的見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらす産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。
授業開始時には，前回のリアクションペーパーに基づいて，講義内容に関する質問や感想について答える。また，講義内容に関する理解度を推し量るために，小問題を課し，回答をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済現象の地域性の解明とは？	経済地理学の基本的な枠組みについて解説する。
第2回	社会科学としての地理学	社会を科学するとは？
第3回	社会的分業と地域の形成①	地域は最初からあるものではなく，作られるものである。
第4回	社会的分業と地域の形成②	資本主義社会の元での地域
第5回	産業立地と地域経済の発展	立地論と地域経済の理論について解説する。
第6回	農業立地論と日本の農業地域	チューネンの農業立地論
第7回	食料供給の地理学	これからも腹いっぱい食べることができるか？
第8回	食のグローバル化はどう進んだか？	グローバル商品としての「醤油」を事例に
第9回	工業立地論と日本の工業地域	ウェーバーの工業立地論
第10回	工業の地方分散と農村工業化	立地論の適用事例
第11回	中心地理論とコンビニの立地戦略	同じ店名のコンビニストアはなぜ向かい側に立地するのか？
第12回	立地競争と日本の商業環境	均衡立地と最適立地
第13回	土地利用を読み解く地図学習の方法	仙台市の交通渋滞の原因は伊達政宗にある！？
第14回	試験とまとめ	試験を実施し，まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から日本経済新聞等に目を通して，社会や経済に関心をもってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】
中澤高志『経済地理学とは何か』，旬報社，2021年
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著『経済地理学への招待』，ミネルヴァ書房，2020年
竹中克行編著『人文地理学への招待』，ミネルヴァ書房，2015年
竹内敦彦・小田宏信編著『日本経済地理読本　第9版』，東洋経済新報社，2014年
松原宏編著『地域経済論』，古今書院，2014年
川端基夫『改訂版立地ウォーズ』，新評論，2013年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（50％），期末試験（50％）に基づいて総合的に成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic framework of economic geography.
【Learning Objectives】There are three viewpoints of learning objectives.
1. Understanding the basic characteristics of economic geography.
2. Understanding the mechanisms of regional socio-economic transformation.
3. Understanding the explanation of industrial location theory.
【Learning activities outside of classroom】Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ｃ（2）

佐々木　達

授業コード：A3910　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：**地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（３）（A3428)」として履修する**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，日本経済の地域構造の再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから，日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】
授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌
到達目標①：日本経済の変化とそのもとでの国土空間の利用の特徴を理解すること
到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること
到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は２部構成をとる。第１部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか，その地理的特徴について説明する．第２部は，日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて，現在，日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。
また，上記の方法を確認するために，双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生産構造と国土利用	近代的産業，植民地，地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反50年，食料消費の多様化，食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】
長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』，大明堂，1978年
石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』，古今書院，1986年
生源寺真一『日本農業の真実』，ちくま新書，2011年
吉川洋『高度成長』，中公文庫，2012年
増田寛也編著『地方消滅』，中公新書，2014年
中澤高志『住まいと仕事の地理学』，旬報社，2019年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（50％），試験（50％）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.
【Learning Objectives】There are three viewpoints of learning objectives.
1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use
2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.
3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy
【Learning activities outside of classroom】Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy）】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学

奥西　好夫

経営学科専門科目300番台経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的な手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】
・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第3回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン（1）	・組織構造
第10回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】
・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。
・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】
・学期中に1回課題提出を行い、それらと期末試験の合計得点（ウェイトは50：50）で成績を評価する。
・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】
・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。
・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】
・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】
・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.
・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.
・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently.
・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・The final grade depends on the total points of the assignment and the final exam (the weights are 50:50).

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）

奥西　好夫

経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的な手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】
・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第3回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン（1）	・組織構造
第10回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】
・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。
・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】
・学期中に1回、課題提出を行い、それらと期末試験の合計（ウェイトは50:50）で成績を評価する。
・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】
・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。
・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】
・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】
・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.
・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.
・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・The final grade depends on the total points of the assignments and the final exam (the weights are 50:50).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

日本経営論Ⅰ

金　容度

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】
この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
第2回	日本の企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などの特徴を概観する。
第3回	日本企業のトップマネジメント	戦後日本の経営者の属性とキャリアパス、経営上の特性、経営者報酬などについて講義する。
第4回	トップマネジメントの日米比較	20世紀の日米企業の経営者にどのような共通点と相違点があるかを講義する。
第5回	日本のコーポレートガバナンス	日本企業のコーポレートガバナンス(企業統治)の特徴を検討する。
第6回	日本のコーポレートガバナンスの変化	1990年代以降、日本のコーポレートガバナンスはどのように変化しているかを講義する。
第7回	コーポレートガバナンスの日独比較	日本とドイツのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第8回	コーポレートガバナンスの日米比較	日本とアメリカのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第9回	日本企業の研究開発	戦後日本企業の研究開発活動の特徴を講義する。
第10回	労使関係・人的資源管理の日米比較①	日本的経営の「3種の神器」といわれるのがすべて労使関係及び人的資源管理と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係・人的資源管理の共通点について講義する。
第11回	労使関係・人的資源管理の日米比較②	内部労働市場が形成された戦後日米企業で、70年代まで、労使関係・人的資源管理上にどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第12回	労使関係・人的資源管理の日米比較③	1980年代以降最近まで、日米企業の労使関係・人的資源管理においてどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第13回	日本企業の資金調達	戦後日本企業の資金調達行動を時期別に分析、講義する。
第14回	日本の企業経営の展望	今後の日本の企業経営の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は毎週授業支援システムに掲載する。

【参考書】
①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直(2018)『現代日本経済第4版』有斐閣
②金容度(2021)『日本の企業間取引』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準は、期末試験（70％）、授業中の小試験（30％）である。授業中の小試験は3回行われる。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文（1回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】
授業中の私語は絶対禁ずる。

【Outline (in English)】
【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A　on business management in Japan. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on Japanese management by lecture, discussion and Q&A.
【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.
【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the calss.It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.
【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

日本経営論Ⅱ

金　容度

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係の現状と歴史を講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。具体的に、メインバンクシステム、企業間の取引のケースが取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。それによって、日本の企業間関係についての理解を深めると共に、企業間関係の諸現象を論理的に考える能力を高めることが本授業の目的である。

【到達目標】
この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業間関係の特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業間関係における組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業間関係の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッ
ション時の発言者には加算点が与えられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
第2回	日本の企業間関係の特徴と日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
第3回	メインバンクシステム1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
第4回	メインバンクシステム2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
第5回	メインバンクシステム3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
第6回	メインバンクシステム4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
第7回	自動車部品の企業間取引1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
第8回	自動車部品の企業間取引2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900年代～1910年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第9回	自動車部品の企業間取引3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920年代～40年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第10回	自動車部品の企業間取引4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
第11回	鉄鋼の企業間関係1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
第12回	鉄鋼の企業間関係2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
第13回	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、その企業間取引を検討する。
第14回	日本の企業間関係の展望	今後の日本の企業間関係の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援
システムに掲載する。

【参考書】
①金容度(2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
② Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
③金容度(2006)『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験70％、授業中の小テスト30％(1回10％×3回)。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文（1回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】
授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】
授業中の私語を禁じる

【Outline (in English)】
【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A on the inter-firm relationships. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on the inter-firm relationships by lecture, discussion and Q&A.
【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand the inter-firm relationships in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.
【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the class. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.
【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN300FD（経営学 / Management 300）

広告論

宮井　弘之

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

【到達目標】
広告とはどういった活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる。
学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる。
広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる。
広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
教室による対面での授業を前提とする。ただし、ゲストスピーカーをお呼びする場合はキャンパスまで来ていただくのが難しいことがある。その場合ZOOMとなる可能性が高い。
数回グループワークを行う。授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。
広告業界に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく。
また、実務家からいただいた講話に関して質問を行ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介 授業の進め方と評価方法 広告とはなにか
第2回	マーケティング計画と広告	マーケティングの中の広告 マーケティング・コミュニケーションとは
第3回	広告業界に関わる様々な業種	広告会社とは 広告主とは 【講話】大手広告代理店　営業部長
第4回	広告計画の流れ	広告業務の流れ 広告のための様々な調査 広告以外の手法との統合
第5回	広告戦略の立案	広告戦略とは 広告目標の設定 セグメンテーションとターゲット設定
第6回	広告予算の決定方法	世界や日本の広告費の規模 広告予算の設定方法 【講話】広告制作会社　プランナー
第7回	広告と心理学	広告コミュニケーション過程とは 広告効果測定方法
第8回	広告表現計画	広告表現の意味 広告表現制作プロセス 【講話】大手広告代理店　クリエイティブ・ディレクター（録画を利用）
第9回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴 媒体計画立案過程 【講話】大手メディアレップ　テレビ担当（録画を利用）
第10回	インターネット広告（1）	インターネット広告とは インターネット広告の種類 【講話】若手デジタルマーケティングプランナー（録画を利用）
第11回	インターネット広告（2）	インターネット広告の実例紹介
第12回	ブランド広告	ブランド構築における広告の役割 企業広告の実例
第13回	広告効果測定と法務	広告測定の様々な手法 グローバル広告の可能性と実例 広告規制と法務
第14回	これまでの総まとめ	これまでの総まとめ（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、具体的な広告事例を収集してもらう準備学習を課す。また、復習においては習得した知識や理論で現実の広告活動を分析するよう促す。予習復習の時間は毎授業あたり4時間を想定する。

【テキスト（教科書）】
「現代広告論 第３版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
期末試験は行わない
１）授業毎のグループワーク等を通じた、リアクションペーパーの内容（60%）
２）最終回におけるレポート課題　（40%）
授業中は私語は一切禁止するので、静かに聴講できない生徒は受講しないこと。特に入学以来オンライン講義が多い世代はグループディスカッションの経験が少ないため、授業内にグループワークを取り込む。グループワークに参加できないものには単位を与えないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
就職活動など将来の進路に悩む学生も多く、実務家の講話が極めて有効であることがわかったため、本年も実務家の講話は継続する

【学生が準備すべき機器他】
実務家の講話は、ZOOMで実施になるので、視聴できる機器等を準備すること。

【その他の重要事項】
現役の実務家として博報堂で働いている経験は必要に応じて伝えていく。また広告業界の仕事は多岐にわたり様々な職種があるため、そのような実務家をなるべく多く授業に招いて講話をしてもらう予定である。広告業界に対する正しい理解を基に、興味をもった生徒は就職活動でぜひ広告業界を対象にしてほしい。

【関連科目】
マーケティング論

【Outline (in English)】
【Outline】In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.
【Goal】
1. understand and explain what advertising is and how it is useful in management.
2. understand and explain basic concepts in academic advertising theory.
3. understand and explain advertising strategies and procedures for planning and implementing advertising
4. understand and explain the types of companies involved in the advertising business and the types of people who work there.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
As a preparatory study, students will be asked to collect specific advertising case studies. Students are expected to analyze real-life advertising activities based on the knowledge and theories they have acquired. Students are expected to spend about 4 hours per class for preparation and review.
【Grading criteria】
No final exam will be given.
1. reaction paper through group work in each class (60%)
2.final report assignment (40%)
No private conversation is allowed during class, so students who cannot listen quietly should not take this course.
Group work will be incorporated into the class. No credit will be given to students who cannot participate in group work.

LHNj300LA

日本語コミュニケーションA

副島　健作

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水2**/Wed.2　｜　キャンパス：**市ヶ谷**
備考（履修条件等）：**定員制（30名）／2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一般の日本人母語話者（日本人）は「日本語」が話せるので，ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。しかし，「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら，コミュニケーションは相互行為であり，そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションが成り立たなかったとしても，一方だけに責任があるというわけではない。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合，コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。
　日本語コミュニケーションをスムーズに行うため，身近な日本語がどのように成り立っているかを分析し，無意識に使っている日本語の奥にひそむ法則性を見つけ出す。日本語に関する知識の形成，日本語学習者の母語など他の言語との相違，コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】
1.言語資料から言語的事象を取り出す方法を身につける。
2.広く相対的な観点から日本語を捉える方法を身につける。
3.相手の感情を害する誤用とはどういうものか，発話スタイルなど，誤用以外にも相手の感情に影響するものがあるか，考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I 」「DP-III」「DP-IV」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo

【授業の進め方と方法】
おもに，身近な日本語，不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。
　必要に応じて，フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の基本的な姿勢，自分で考え，自分の考えをほかの人に積極的に伝え，ほかの人に意見を聞いてさらに考えを深めようという姿勢について概観します
2	「ことばの意味」について	分析の材料として「ことばの意味」を取り上げます
3	「和語・漢語・外来語」について	分析の材料として「和語・漢語・外来語」を取り上げます
4	「会話の失敗」について	分析の材料として「会話の失敗」を取り上げます
5	「ことば遊び」について	分析の材料として「ことば遊び」を取り上げます
6	「話しことばと書きことば」について	分析の材料として「話しことばと書きことば」を取り上げます
7	「あいまい文」について	分析の材料として「あいまい文」を取り上げます
8	「マンガのことば」について	分析の材料として「マンガのことば」を取り上げます
9	「方言」について	分析の材料として「方言」を取り上げます
10	「漫才とことば」について	分析の材料として「漫才とことば」を取り上げます
11	「非母語話者の日本語」について	分析の材料として「非母語話者の日本語」について取り上げます
12	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表1	これまで学んできた内容をふまえて，受講生が気になる日本語の現象について議論します。受講生の半分が発表します。
13	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表2	これまで学んできた内容をふまえて，受講生が気になる日本語の現象について議論します。前回発表しなかった受講生が発表します。
14	授業内試験	以上13回分の内容についての理解度を確認するとともに，到達目標がどのくらい達成されたかを測ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各トピックについての日本語の現象について，身近な例をたくさん集め，意識的に観察し，自分なりに真剣に考えてみてください。
　本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
野田尚史・野田晴美（2017）『日本語を分析するレッスン』大修館書店

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介しますが，まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】
課題: 20%
平常点: 20%
発表: 20%
試験の得点: 40%
合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
日本語コミュニケーションの体現者として，また討論への参加者として，留学生と日本人学生両方の履修を期待します。
ESOP生（交換留学生）は，日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします（希望者が多い場合は選考します）。
ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】
【Course outline】
Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn how to extract linguistic events from linguistic materials.
2. To learn how to understand the Japanese language from a broad and relative perspective.
3. To think about what kinds of misuse of Japanese language are harmful to others' feelings, and whether there are other things that affect others' feelings besides misuse, such as speech style.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to collect many familiar examples of Japanese phenomena on each topic, observe them consciously, and think seriously about them in your own way. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Presentation performance: 20%, Assignments : 20%, in class contribution: 20%

LHNj300LA

日本語コミュニケーションB

副島　健作

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**2/Wed.2　｜　キャンパス：**市ヶ谷**
備考（履修条件等）：**定員制（30名）／2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一般の日本人母語話者(日本人)は「日本語」が話せるので，ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。しかし，「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら，コミュニケーションは相互行為であり，そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。現実のことばは「非流ちょう」であるが，母語話者のことばと非母語話者のことばには「規則性」において大きな違いがある。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合，コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。
　日本語コミュニケーションをスムーズに行うため，母語話者の非流ちょうな日本語，とくに文節単位のコマ切れ発話を分析し，どのような規則性があるかを見つけ出す。日本語に関する知識の形成，日本語学習者の母語など他の言語との相違，コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】
1. 現実の発話の姿について理解し，コミュニケーションを成立させる能力を培うこと。
2. コミュニケーションが成立しないときには，相手との協力のもと，関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I」「DP-III」「DP-IV」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo

【授業の進め方と方法】
おもに，身近な日本語，不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。
　また，必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「ことば」について	一般に「ことば」について解説します
2	「きもちの文法」について	「きもちの文法」について解説します
3	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係について概観します
4	「きもちの文法」の先行研究	「きもちの文法」の先行研究について概観します
5	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について　i：付属語だけの発話と従属節の発話	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います ・付属語だけの発話 ・従属節の発話
6	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について　ii: 文節の発話と語の発話	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います ・文節の発話 ・語の発話
7	「非流ちょう性」について　i：ことばの量の不具合とことばの質の不具合	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの量の不具合 ・ことばの質の不具合
8	「非流ちょう性」について　ii：・ことばの処理サイズの縮小とことばが出てこず発話が停滞	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの処理サイズの縮小 ・ことばが出てこず発話が停滞
9	「こま切れの文法」の定義	「文節単位のこま切れ発話」とはなにかについて解説します
10	「文節単位のこま切れ発話」について　i：語順，イントネーション，判定詞の表れ	「文節単位のこま切れ発話」の特徴について解説します ・語順 ・イントネーション ・判定詞の表れ
11	「文節単位のこま切れ発話」について　ii: 終助詞の表れと【跳躍的上昇】の現れ	「文節単位のこま切れ発話」の特徴について解説します ・終助詞の表れ ・【跳躍的上昇】の現れ
12	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 1	これまで学んできた内容をふまえて，受講生が気になる日本語の現象について議論します。受講生の半分が発表します。
13	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 2	これまで学んできた内容をふまえて，受講生が気になる日本語の現象について議論します。前回発表しなかった受講生が発表します。
14	最終試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「コミュニケーション」における日本語という言語について，日本での言語生活を反省して，誤解した，誤解された等の具体例を意識的に観察し，その原因・理由について自分なりに真剣に考えてみてください。
　本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは指定しません。

【参考書】
定延利之 (2019) 『文節の文法』大修館書店
『コミュニケーション事典』平凡社
　その他，必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題: 20%
平常点: 20%
発表: 20%
試験の得点: 40%,
合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
日本語コミュニケーションの体現者として，また討論への参加者として，留学生と日本人学生両方の履修を期待します。
ESOP生（交換留学生）は，日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします（希望者が多い場合は選考します）。
ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】
【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to understand what speech looks like in real life, and to develop the ability to establish communication.
2. to acquire the knowledge and ability to reflect on speech when communication is not successful, and to revise expressions to avoid misunderstanding.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to reflect on your linguistic life in Japan, and consciously observe specific examples of misunderstandings and misinterpretations, and think seriously about the causes and reasons for these misunderstandings. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Presentation performance: 20%, Assignments : 20%, in class contribution: 20%

HSS100LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツメディア論

小池　隆俊

配当年次／単位：**1～4年年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　キャンパス：**市ヶ谷**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メデイアには新聞・雑誌や放送などの既存メデイアと近年急速に発達したインターネットメデイアがある。それぞれがスポーツをどう捉え、どのような形で情報を発信してきたのかの実態を深く知ることを目的とする。メデイアが歴史的にどう発生し、どんな変化を遂げてきたのか。その軌跡と現状を把握しながら、今後予想されるスポーツメディアの世界を読み解く能力を身に着けることを目指す。

【到達目標】
放送、インターネット、新聞・雑誌、それぞれのメディアの特徴が何かを説明することができる。スポーツメディアの変化について、自分なりに分析する力を身に付けることができる。判断する力、自分の考えを構築する力を養い、それを言語化し表現する力を持つことをゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】
対面の講義形式で行う。ニュース記事やテレビ番組、ネット動画などを随時取り上げ理解の促進材料とする。学習支援システムを用い、授業ごとに数問の選択式小テストを行い理解度を確認し、その内容について次回にフィードバックする。講師自身がスポーツ放送に携わっていることから、現場体験も伝える。スポーツの注目すべき出来事が起きた場合は授業の内容や順番を変更することもある。また、コロナやインフレエンザの状況などによりオンデマンドに変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス	講師の自己紹介、授業のオリエンテーション。受講生がおもにどのメディアでスポーツ観戦し、情報を得ているのかなどのアンケートを行う。
2回	オリンピックとメディア	パリオリンピックでの報道の特徴を探るとともに、平和の祭典という意義を踏みにじられてきた歴史を番組視聴を通じて考察する。
3回	スポーツメディアのさきがけ新聞・雑誌	スポーツを伝えるメデイアの中で歴史が最も長い活字メデイア。始まりとともにスポーツに関心を寄せ、報道するだけではなくスポーツの主催者ともなり深くかかわってきた。新聞・雑誌といった活字メデイアの歩みを追う。
4回	放送メディアの誕生と発展	ラジオの誕生はスポーツ報道に劇的な変化を生む。それはＬＩＶＥ（同時性）を手に入れたことによる。さらに映像を加えたテレビは大衆を虜にした。オリンピックを節目に技術を進化させスポーツメデイアの中核となっていった放送メデイアの歴史を見る。
5回	スポーツの商業化によるアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化・商業化を促し、一方で近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。この過程を追うことはスポーツの発祥と発展の歩みを知ることにつながる。
6回	テレビによるスポーツ支配	スポーツ組織、スポンサー企業そしてメディア企業、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げてきた。その過程で競技日程の変更や競技ルール変更などテレビによるスポーツ支配とも呼ばれる状況が生じた。
7回	放映権料の高騰とOTTの登場	1984年のロサンゼルスオリンピックは商業化路線の始まりとして広く認知されている。その後、衛星放送やペイテレビの普及とも相まって放映権料は高騰が続く。そしてOTTの登場によりさらに激化の様相を呈している。
8回	スポーツ中継	スポーツ報道には、ニュース、中継、ドキュメンタリー、スタジオ番組などあるが、なかでも高視聴率をマークし長時間視聴者を釘付けにするのがナマ中継。その中継現場に身を置く経験からスポーツナマ中継の仕組みや演出についての考え方などを解説する。
9回	スポーツドキュメンタリーのさきがけ	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経たのかを解き明かす手法は、受け手に驚きと納得感を与える。先駆けとなった作品を見ながらテレビスポーツドキュメンタリーを紐解く。
10回	スポーツドキュメンタリーの進化	テレビのスポーツドキュメンタリーはカメラの小型化により長期密着取材が可能になり、CG技術などの発達で証言をデータで実証できるようにもなっている。証言・実証・密着といった要素を組み合わせて進化する番組の姿を最近の秀作から探る。
11回	スポーツイノベーション	スポーツ競技をとらえるカメラの高度化、解析システムの発達、CG技術の進化などはスポーツの見方を変え、競技力の向上や戦略にも多大な変化をもたらしている。変化の真っただ中にある現状を洞察する。

12回	誰もがメディアになる時代	ＳＮＳで選手が情報発信することは日常的になっている。マスメディアに頼らず自己プロデュースする動きも盛んに行われている。具体的事例を見ながら、そこに潜む問題点にも目を向ける。
13回	スポーツメディアの近未来	インターネットがメディアの中心となりつつある中、既存メディアのネット展開も急速に進展し、大融合時代を迎えている。また５Ｇの実用化で新たな映像技術が次々に開発され、その進歩は目覚ましい。メディアのこれからを探る。
14回	授業全体まとめとレポート提出	これまでの授業で取り上げてきた内容・用語を整理し再確認する。課題として提示したリポートの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テレビ、インターネット、新聞・雑誌によるスポーツ報道に日々目を配り、目にとまった出来事をメモに留めておきたい。それぞれの報道を鵜呑みにせず、自身の経験や他人の意見も取り込みながら、自分なりの考えを構築してみることが重要。準備学習・復習時間合わせて4時間以上をとりながら授業に向かおう。

【テキスト（教科書）】
特に使用せず

【参考書】
「21世紀スポーツ大辞典」中村敏雄ほか編集主幹　大修館書店
「日本スポーツ放送史」橋本一夫　大修館書店
「よくわかるスポーツ文化論」　井上俊　菊幸一編著　ミネルヴァ書房
「スポーツ好きは甲子園とオリンピックから始まった 」佐塚元章　文芸社
「情報爆発時代のスポーツメディア」滝口隆司　創文企画
「現代スポーツ評論２２・４１」　清水諭責任編集　創文企画

【成績評価の方法と基準】
各授業内での小テストもしくはレポート50％。
学期末レポート課題50％。両方の内容を総合的に判断して評価する。レポートは記述のオリジナリティ、論理構成、表現方法を重点に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容に則した写真や映像資料が大変好評であった。今年度も授業の理解促進に役立つものを随時提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用するため、スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかを持参すること。

【その他の重要事項】
講師の40年以上にわたるスポーツの取材活動、番組制作活動をもとにスポーツメディアを論じる講義。

【Outline (in English)】
【Course outline】ThereThere has been a variety of sports media such as long-standing newspapers, broadcasts, and modern internet-oriented media. The objectives of this course are to develop a vast knowledge on how these media have been approaching and reporting the sporting news.
【Learning Objectives】This course is designed to help students learn to become able to:1.Explain the characteristics of each media such as broadcasting, the Internet, and newspapers.2.Analyze the ever-changing media situation in one's own way.
【Learning activities outside of classroom】Keep an eye on sporting events in daily basis and take a note of the events that caught your attention.Summarize your own thoughts on the events that you found interesting.At least 4 hours of preparation and review.
【Grading Criteria/Policy】Submission of assignments after each class 50%. Submission of a term paper 50%. Students will be evaluated based on the total score of the class assignments and the term paper.

HSS100LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

アスリートキャリア論

荒井　弘和

配当年次／単位：1～4年年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　キャンパス：市ヶ谷

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アスリートの多様なキャリアに触れて学び、自らのキャリアについて考える。

【到達目標】
①アスリートである前に一人の人間（社会人）であることを認識し、自分の言葉で説明することができる。
②自らの手でキャリアをつくり上げようとするキャリアオーナーシップを身につけ、発揮することができる。
③文武不岐に根差したデュアルキャリアの考え方に基づいてキャリア形成（自己実現）を図ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】
本学体育会の出身者をはじめ、学生時代に競技活動に励み、現在は社会で活躍している方（ゲストスピーカー）を招いて講義を行います。そこで得られるさまざまな情報や学びを基に自分なりに考察して各種レポートを作成することで、アスリートと自らのキャリアを考える機会にします。その際、リアクションペーパーなどから寄せられた示唆に富むコメントを授業内で紹介し、議論や理解を深めることに活かせるよう支援します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要を解説し、単位認定の基準や受講にあたっての心得などを伝達する。
第2回	招聘講義：元アスリート①	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第3回	招聘講義：報道①	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第4回	招聘講義：コーチ①	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第5回	招聘講義：教育①	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第6回	招聘講義：元アスリート②	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第7回	招聘講義：コーチ②	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第8回	招聘講義：教育②	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第9回	招聘講義：元アスリート③	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第10回	招聘講義：報道②	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第11回	招聘講義：元アスリート④	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第12回	招聘講義：コーチ③	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第13回	招聘講義：教育③	講師（ゲストスピーカー）の講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
第14回	まとめ	この科目で学んだ内容を総括して、期末レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマについて事前に調べ、論点を考えた上で授業に臨んでください。また、授業で学んだことを自分なりに調べ、考えることで学びを深めてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ありません。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
2/3以上の出席を前提条件として、「毎回の授業レポート」を70％、「期末レポート」を30％の割合で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「毎週さまざまなゲストスピーカーをお招きしていただき、貴重な経験談を聞く機会を得る…自分自身の考えや価値観を考え直す機会にもなり、とても素敵な授業でした」といった感想をいただきました。今後も、魅力的なゲストスピーカーを招聘できるよう力を尽くします。

【その他の重要事項】
ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になることがあります。その場合は、学習支援システムを用いて伝達します。
授業中の呼称について、希望があれば担当教員に申し出てください。担当教員に申告しにくい事柄がある場合、学内の施設（学生相談室やDEIセンター等）を遠慮なく利用してください。

【Outline (in English)】
This course focuses on learning about athletes' careers. The goal of this course is to design and build my own career systematically. Students will be expected to spend four hours understanding the course content for the next class. Grading will be decided based on discussion reports (70%) and the class's quality of the term-end report (30%).

HSS100LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

リーダーシップ論

浅井　玲子

配当年次／単位：**1～4年年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　キャンパス：**市ヶ谷**
備考（履修条件等）：**2023年度までに「リーダーシップ論Ⅰ」を修得済の場合、履修不可**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：リーダーシップに関わる理論を学び「リーダー」とはどのような存在かを考える
本授業ではスポーツに関わる視点を中心にリーダーシップに関する理論を学び、それを踏まえて自分自身の理想のリーダーシップについての考えを深める機会とします。
リーダーシップに関する知識習得と合わせて、それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」について考える礎となることを期待します。

【到達目標】
・リーダーシップを自分自身の問題として捉える
・リーダーシップに関する理論や背景となる知識を習得する
・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
・自分らしいリーダーシップのスタイルについてのビジョンを獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】
講義形式の学習と合わせて、自己分析やグループワークなどを通じて「自分の影響力」や「自分なりのリーダーシップ」について振り返りを実施し、授業内での課題やリアクションペーパーの提出を行います。
課題はHoppiiを通じて提出、採点を行い、各履修生へ適宜返却をします。
情勢を鑑みて可能であれば、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・リーダーシップとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・リーダーシップとは
2	リーダーシップに関する理論①	・リーダーシップの概念とは
3	リーダーシップに関する理論②	・リーダーシップ研究の主な流れ
4	リーダーシップに関する理論③	・リーダーシップとフォロワーシップ
5	リーダーシップを学び、育てるために必要なこと	・リーダーシップ開発に必要な視点 ・経験学習のモデル
6	リーダーシップと自己概念	・カール・ロジャーズの理論 ・ジョハリの窓
7	リーダーシップに関する行動	・フィードバックの視点
8	【特別講義】リーダーシップの実際	・スポーツチームにおけるリーダーシップの実際（外部講師招聘予定）
9	リーダーシップとコミュニケーション①	・コミュニケーションに関する視点
10	リーダーシップとコミュニケーション②	・コミュニケーションにおける自己のスタイルの理解（グループワーク）
11	リーダーシップとチームビルディング①	・チームとは何か ・集団規範 ・場の理論
12	リーダーシップとチームビルディング②	・タックマンモデル ・心理的安全性
13	総括	リーダーシップを活用するための展望
14	授業内試験	習熟度確認のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前準備として、「リーダー」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
以下の通りの基準で総合的に成績評価を行います。
A.毎回の課題…各10点とし、提出回数および内容によって評価します。
B.最終授業におけるレポート…100点満点で評価します。
A.とB.をそれぞれ50％ずつ成績評価に反映します。
提出回数や提出物の内容が評価の基準を満たさない場合には、単位が取得できないので、注意してください。各回の課題では、体験を踏まえたあなた自身の意見が求められます。授業内容をもとに、自身の体験を活かし持論が展開されているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内での自己分析や、他の履修生の意見を取り入れることによって気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるように工夫いたします。
また、所属が異なる履修生との意見交換によって視野が広がる有益な機会を得たという感想が多くありましたので、可能な限りそのような機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出はHoppiiを通じて行う予定です。パソコン、スマートフォン、タブレットなどのHoppiiにアクセスできる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。
公欠届など、欠席に関する届け出はHoppiiの所定のフォルダのみで受理します。初回ガイダンスの内容を十分に理解して履修してください。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of theories on leadership,and also consider about ideal leadership in your team.The work of the course is done via lecture and group works.
【Goal】
The goals of this course are to
・Obtain basic knowledge about the theories on leadership
・Discover individual ideal leadership style
【Grading criteria】
Your final grade will be calculated according to the following process:
・Class attendance and attitude in class,　contribution to group work: 50%

・Term-end examination: 50%
This course will be taught in Japanese.
【Learning Activities Outside of Classroom】
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours . As a preparation, please get into the habit of checking current events related to "leader" and "leadership" by yourself. You may be asked to speak up in class, so come to class with the image of a leader who will serve as your own model.

HSS200LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

チームビルディング論

浅井　玲子

配当年次／単位：**1～4年年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　キャンパス：**市ヶ谷**
備考（履修条件等）：**2023年度までに「リーダーシップ論Ⅱ」を修得済の場合、履修不可**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：チームビルディングに関わる理論を学び、チームにおいて自分自身を活かし、実践できることを目指す
本授業ではスポーツに関わる視点を中心チームビルディングに関する理論を学び、優れたリーダーシップを発揮するための持論構築に寄与することを目指します。「シェアードリーダーシップ」の観点から「個々の持ち味を活かしたチームビルディング」について考える礎となることを期待します。

【到達目標】
・チームビルディングに関する理論や背景となる知識を習得する
・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
・チームにおけるリーダーシップを自分自身の問題として捉える
・自分らしいリーダーシップのスタイルについて実践、検証する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】
講義形式の学習と合わせて、自己分析やグループワークなどを通じて「自分の影響力」や「自分が所属したことのあるチーム」について振り返りを実施し、授業内での課題やリアクションペーパーの提出を行います。
課題はHoppiiを通じて提出、採点を行い、各履修生へ適宜返却をします。
情勢を鑑みて可能であれば、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・チームビルディングととは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・チームビルディングとは
2	チームビルディングに関する理論① 「チームとは何か」	・チームビルディング研究の主な流れ ・交流分析
3	チームビルディングに関する理論② 「効果的なチームとは」	・チームビルディング研究の主な流れ ・アドラーの理論
4	チームビルディングに関する理論③ 「チームビルディングにおけるふりかえり」	・コッターの理論 ・カーネギーの理論
5	チームビルでイング実習① 「チームをつくる」	・グループワーク
6	チームビルディングに関する理論④ 「チームのバランス」	・PMリーダーシップ理論
7	中間まとめ	・前半のふりかえり
8	チームの評価 「変化について」	・チームワーキング ・グループワーク
9	チームの評価 「変化に適応する」	・レジリエンス ・価値観 ・グループワーク
10	コミュニケーションの分析 「自己理解と他者理解」	・アタッチメント ・内的作業モデル ・グループワーク
11	チームビルディング実習②	・グループワーク
12	リーダーシップとチームビルディング② 【特別講義】 チームビルディングの実際	・スポーツチームにおけるチームビルディングの実際（外部講師招聘予定）
13	総括	授業のまとめ
14	授業内試験	習熟度確認のための試験（レポート形式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前準備として、「チーム」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるチーム像やリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
以下の通りの基準で総合的に成績評価を行います。
A.毎回の課題…各10点とし、提出回数および内容によって評価します。
B.最終授業におけるレポート…100点満点で評価します。
A.とB.をそれぞれ50％ずつ成績評価に反映します。
提出回数や提出物の内容が評価の基準を満たさない場合には、単位が取得できないので、注意してください。各回の課題では、体験を踏まえたあなた自身の意見が求められます。授業内容をもとに、自身の体験を活かし持論が展開されているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内での自己分析や、他の履修生の意見を取り入れることによって気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるように工夫いたします。
また、所属が異なる履修生との意見交換によって視野が広がる有益な機会を得たという感想が多くありましたので、可能な限りそのような機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出はHoppiiを通じて行う予定です。パソコン、スマートフォン、タブレットなどのHoppiiにアクセスできる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
・　外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。
★ 公欠届など欠席に関する資料はHoppii の所定のフォルダのみで受理します。初回ガイダンスの内容を十分に理解して履修してください。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of theories on team building and also consider about ideal leadership in your team.The work of the course is done via lecture and group works.
【Goal】

The goals of this course are to
・Obtain basic knowledge about the theories on team building
・Discover individual ideal leadership style
【Grading criteria】
Your final grade will be calculated according to the following process:
・Class attendance and attitude in class,contribution to group work: 50%
・Term-end examination: 50%
This course will be taught in Japanese.
【Learning Activities Outside of Classroom】
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours . As a preparation, please get into the habit of checking current events related to "leader" and "leadership" by yourself. You may be asked to speak up in class, so come to class with the image of a leader who will serve as your own model.

HSS200LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツビジネス論

得田　進介

配当年次／単位：**1～4年年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　キャンパス：**市ヶ谷**
備考（履修条件等）：**2023年度までに「スポーツビジネス論Ⅰ」を修得済の場合、履修不可**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。
本講義では経営管理強化の具体的な事例を解説し、日本のスポーツ産業の発展に寄与するための基礎知識およびビジネスにおいて最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】
・マネジメント人材として、組織経営に必要な専門知識を習得する
・組織で生じている課題に対して対応策を立案することができる
・自分の考えを伝えて他者を巻き込んでいけるリーダーシップを備えている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】
授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業は作成資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについてリアクションペーパーを提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	日本のスポーツ産業の現状（市場規模や課題など）を理解する。
2	マネジメント	マネジメントとは何か、マネジメントの必要性を知る。 組織におけるマネジメントを学ぶ。
3	ガバナンス	ガバナンスとは何か、ガバナンスの必要性を知る。 組織のガバナンス体制を整備するために何が必要であるか、どのような対応策を講じるべきかを理解する。
4	コンプライアンス	コンプライアンスとは何か、コンプライアンスの必要性を知る。 コンプライアンスを守ることの重要性、守らなかったときの影響、コンプライアンスを強化するための対応策を理解する。
5	アカウンタビリティー①	アカウンタビリティーとは何か、アカウンタビリティーの必要性を知る。 スポーツチームにおいて最低限必要な報告水準を理解する。
6	アカウンタビリティー② 資産管理	スポーツチームにはどのような収入と支出があるのかを理解する。 入出金の一般的な管理方法を理解する。 組織にある資産（現金、在庫など）の管理方法を理解する。
7	予算統制①	予算とは何か、予算を作成する必要性を知る。 予算の作成方法を理解する。
8	予算統制②	予算と実績の差を分析（予実分析）する必要性を知る。 予実分析の方法について理解する。
9	スポーツチームのビジネスモデル	スポーツチームがどのように運営されているか、主な収益と費用について理解する。
10	スポーツの価値	スポーツの価値とは何か。 スポーツの価値を具体的に可視化する必要性を理解する。
11	スポーツの経済的価値と社会的価値	スポーツにおける経済的価値と社会的価値を理解する。
12	スポーツチームの露出効果と限界	スポンサーシップの変遷、スポンサーの権利、スポンサーアクティベーションを理解する。
13	これからのスポンサーシップ	スポンサーシップの最新事例、今後のスポンサーシップの姿について理解する。
14	講義まとめ	講義内容についての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
「スポーツチーム経営の教科書」有限責任 あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁
「社会的インパクト評価の手法を用いたスタジアム・アリーナ効果検証モデル報告書」株式会社日本経済研究所

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界における課題と対応策について自らの意見を述べることができるか、で評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー：50%、期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公認会計士としてスポーツチームの運営や組織体制強化、スタジアム・アリーナ開発に携わっている経験を踏まえて、スポーツ界で必要とされている人材や知識について実例を基に講義していきます。スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめることと伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The class will explain specific examples of strengthening business management, and will aim at acquiring the basic knowledge and the minimum necessary professional skills in business to contribute to the development of the sports industry in Japan.
【Learning Objectives】
・To acquire the expertise necessary to manage an organization as a management personnel.

・To be able to plan countermeasures against problems that arise in organizations.
・To be equipped with leadership skills to convey one's own ideas and to involve others in the process.
【Learning activities outside of classroom】
After attending the class, please review for about four hours to make sure you understand the contents of the class, using related articles and other materials introduced in the class.
【Grading Criteria /Policy】
Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%.

HSS100LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

アスリートキャリア論

片上　千恵

配当年次／単位：1～4年年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　キャンパス：多摩
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
招聘講師のスポーツにまつわる多様なキャリアに関する講義を聞き、受講者が自身のキャリア形成というテーマのもと、大学での学びをいかに仕事につなげていくか、その手掛かりとなるキャリアプランについて考える。また、日本のスポーツのしくみや現状を理解し、スポーツキャリアの可能性を知ることを目的とする。

【到達目標】
日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わるキャリアについて知る。
講義を通じて、自分のキャリアをイメージし、キャリアプランを立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】
学生時代に競技活動に励み、現在は社会で活躍している方(ゲストスピーカー)を招いて講義を行う。そこで得られるさまざまな情報や学びを基に自分なりに考察して各種レポートを作成することで、自らのキャリアを考えていく。授業の講義、課題を通して自身のキャリア形成プランニングを行い、キャリア形成に必要なスキルとは何か、スキルを高めるにはどうしたらよいかを学んでいく。授業で記入してもらったリアクションペーパーはゲストにも共有し、いただいたフィードバックは次の授業内、もしくは「学習支援システム」を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション： 授業の概要の説明（全体）	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。
2	招聘講義: 広告代理店	講師(ゲストスピーカー)の広告代理店の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
3	招聘講義: サービス	講師(ゲストスピーカー)のサービス業の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
4	招聘講義: 審判員	講師(ゲストスピーカー)の審判員の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
5	招聘講義: 通訳	講師(ゲストスピーカー)の通訳の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
6	招聘講義: スポーツ組織①	講師(ゲストスピーカー)のスポーツ組織における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
7	招聘講義: スポーツ組織②	講師(ゲストスピーカー)のスポーツ組織における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
8	招聘講義: メディア	講師(ゲストスピーカー)のメディアにおける仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
9	招聘講義: スポーツ広報	講師(ゲストスピーカー)のスポーツ広報における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
10	招聘講義: 商社	講師(ゲストスピーカー)の商社における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
11	招聘講義: 研究	講師(ゲストスピーカー)の研究に関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようになる。
12	招聘講義:メーカー	講師(ゲストスピーカー)のメーカーに関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようになる。
13	招聘講義: 起業家	講師(ゲストスピーカー)の起業家に関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようになる。
14	総括	講義のまとめ：この授業を通して学んだこと、これからのキャリアプランにどのように生かしていきたいかを期末レポートとしてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で学んだこと、感じたことを復習してください。予習として、次回の講師の仕事や経歴について調べておくようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
その都度授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①毎回の授業レポート（講義の感想並びに自身の意見をまとめる。）70%
②最終レポート 30%
合計：100%

【学生の意見等からの気づき】
受講者が少しでもアスリートや自らのキャリアに興味をもち、これからのキャリア形成を計画的に進めるための有意義な機会となるように努める。講義内では、学生が自由に質問しやすいようアプリを導入するなどしてゲストと学生間の双方向性を高める。

【学生が準備すべき機器他】
授業を通して、講義を聞くだけではなく、自ら発言し、自己表現の場を多くつくることで、社会生活において必要なコミュニケーション能力を高める。

【その他の重要事項】
ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になることがある。

【Outline (in English)】
Learning Objectives

Athletes will be invited to give lectures on their diverse careers to help students understand the current state of the Japanese sports world. Students will be trained to create a career plan based on what they learn during their university years and how they will connect what they learn to their careers after graduation.
Learning activities outside of classroom
Review what you have learned in each lecture. As a preparation, try to find out about the career and backgrounds of the next lecturers.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on
① Every class report (summarize your impressions of the lecture and your own opinions) 70%
②Final report 30%
Total: 100%

HSS100LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツメディア論

小池　隆俊

配当年次／単位：**1～4年年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　キャンパス：**多摩**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メデイアには新聞・雑誌や放送などの既存メデイアと近年急速に発達したインターネットメデイアがある。それぞれがスポーツをどう捉え、どのような形で情報を発信してきたのかの実態を深く知ることを目的とする。メデイアが歴史的にどう発生し、どんな変化を遂げてきたのか。その軌跡と現状を把握しながら、今後予想されるスポーツメディアの世界を読み解く能力を身に着けることを目指す。

【到達目標】
放送、インターネット、新聞・雑誌、それぞれのメディアの特徴が何かを説明することができる。スポーツメディアの変化について、自分なりに分析する力を身に付けることができる。判断する力、自分の考えを構築する力を養い、それを言語化し表現する力を持つことをゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】
対面の講義形式で行う。ニュース記事やテレビ番組、ネット動画などを随時取り上げ理解の促進材料とする。学習支援システムを用い、授業ごとに数問の選択式小テストを行い理解度を確認し、その内容について次回にフィードバックする。講師自身がスポーツ放送に携わっていることから、現場体験も伝える。スポーツの注目すべき出来事が起きた場合は授業の内容や順番を変更することもある。また、コロナやインフルエンザなどの状況によりオンデマンドに変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス	講師の自己紹介、授業のオリエンテーション。受講生がおもにどのメディアでスポーツ観戦し、情報を得ているのかのアンケートを行う。
2回	オリンピックとメディア	パリオリンピックでの報道の特徴を探るとともに、平和の祭典という意義を踏みにじられてきた歴史を番組視聴を通じて考察する。
3回	スポーツメディアのさきがけ新聞・雑誌	スポーツを伝えるメデイアの中で歴史が最も長い活字メデイア。始まりとともにスポーツに関心を寄せ、報道するだけではなくスポーツの主催者ともなり深くかかわってきた。新聞・雑誌といった活字メデイアの歩みを追う。
4回	放送メディアの誕生と発展	ラジオの誕生はスポーツ報道に劇的な変化を生む。それはＬＩＶＥ（同時性）を手に入れたことによる。さらに映像を加えたテレビは大衆を虜にした。オリンピックを節目に技術を進化させスポーツメデイアの中核となっていった放送メデイアの歴史を見る。
5回	スポーツの商業化によるアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化・商業化を促し、一方で近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。この過程を追うことはスポーツの発祥と発展の歩みを知ることにつながる。
6回	テレビによるスポーツ支配	スポーツ組織、スポンサー企業そしてメディア企業、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げてきた。その過程で競技日程の変更や競技ルール変更などテレビによるスポーツ支配とも呼ばれる状況が生じた。
7回	放映権料の高騰とOTTの登場	1984年のロサンゼルスオリンピックは商業化路線の始まりとして広く認知されている。その後、衛星放送やペイテレビの普及とも相まって放映権料は高騰が続く。そしてOTTの登場によりさらに激化の様相を呈している。
8回	スポーツ中継	スポーツ報道には、ニュース、中継、ドキュメンタリー、スタジオ番組などあるが、なかでも高視聴率をマークし長時間視聴者を釘付けにするのがナマ中継。その中継現場に身を置く経験からスポーツナマ中継の仕組みや演出についての考え方などを解説する。
9回	スポーツドキュメンタリーのさきがけ	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経たのかを解き明かす手法は、受け手に驚きと納得感を与える。先駆けとなった作品を見ながらテレビスポーツドキュメンタリーを紐解く。
10回	スポーツドキュメンタリーの進化	テレビのスポーツドキュメンタリーはカメラの小型化により長期密着取材が可能になり、CG技術などの発達で証言をデータで実証できるようにもなっている。証言・実証・密着といった要素を組み合わせて進化する番組の姿を最近の秀作から探る。
11回	スポーツイノベーション	スポーツ競技をとらえるカメラの高度化、解析システムの発達、CG技術の進化などはスポーツの見方を変え、競技力の向上や戦略にも多大な変化をもたらしている。変化の真っただ中にある現状を洞察する。

12回	誰もがメディアになる時代	ＳＮＳで選手が情報発信することは日常的になっている。マスメディアに頼らず自己プロデュースする動きも盛んに行われている。具体的事例を見ながら、そこに潜む問題点にも目を向ける。
13回	スポーツメディアの近未来	インターネットがメディアの中心となりつつある中、既存メディアのネット展開も急速に進展し、大融合時代を迎えている。また５Ｇの実用化で新たな映像技術が次々に開発され、その進歩は目覚ましい。メディアのこれからを探る。
14回	授業全体のまとめとレポート提出	これまでの授業で取り上げてきた内容・用語を整理し再確認する。課題として提示したリポートの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テレビ、インターネット、新聞・雑誌によるスポーツ報道に日々目を配り、目にとまった出来事をメモに留めておきたい。それぞれの報道を鵜呑みにせず、自身の経験や他人の意見も取り込みながら、自分なりの考えを構築してみることが重要。準備学習・復習時間合わせて4時間以上をとりながら授業に向かおう。

【テキスト（教科書）】
特に使用せず

【参考書】
「21世紀スポーツ大辞典」中村敏雄ほか編集主幹　大修館書店
「日本スポーツ放送史」橋本一夫　大修館書店
「よくわかるスポーツ文化論」　井上俊　菊幸一編著　ミネルヴァ書房
「スポーツ好きは甲子園とオリンピックから始まった 」佐塚元章　文芸社
「情報爆発時代のスポーツメディア」滝口隆司　創文企画
「現代スポーツ評論２２・４１」　清水諭責任編集　創文企画

【成績評価の方法と基準】
各授業内での小テストもしくはレポート50％。
学期末レポート課題50％。両方の内容を総合的に判断して評価する。レポートは記述のオリジナリティ、論理構成、表現方法を重点に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容に則した写真や映像資料が大変好評であった。今年度も授業の理解促進に役立つものを随時提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用するため、スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかを持参すること。

【その他の重要事項】
講師の40年以上にわたるスポーツの取材活動、番組制作活動をもとにスポーツメディアを論じる講義。

【Outline (in English)】
【Course outline】ThereThere has been a variety of sports media such as long-standing newspapers, broadcasts, and modern internet-oriented media. The objectives of this course are to develop a vast knowledge on how these media have been approaching and reporting the sporting news.
【Learning Objectives】This course is designed to help students learn to become able to:1.Explain the characteristics of each media such as broadcasting, the Internet, and newspapers.2.Analyze the ever-changing media situation in one's own way.
【Learning activities outside of classroom】Keep an eye on sporting events in daily basis and take a note of the events that caught your attention.Summarize your own thoughts on the events that you found interesting.At least 4 hours of preparation and review.
【Grading Criteria/Policy】Submission of assignments after each class 50%. Submission of a term paper 50%. Students will be evaluated based on the total score of the class assignments and the term paper.

HSS100LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

リーダーシップ論

浅井　玲子

配当年次／単位：1～4年年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　キャンパス：多摩
備考（履修条件等）：2023年度までに「リーダーシップ論Ⅰ」を修得済の場合、履修不可
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：リーダーシップに関わる理論を学び「リーダー」とはどのような存在かを考える
本授業ではスポーツに関わる視点を中心にリーダーシップに関する理論を学び、それを踏まえて自分自身の理想のリーダーシップについての考えを深める機会とします。
リーダーシップに関する知識習得と合わせて、それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」について考える礎となることを期待します。

【到達目標】
・リーダーシップを自分自身の問題として捉える
・リーダーシップに関する理論や背景となる知識を習得する
・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
・自分らしいリーダーシップのスタイルについてのビジョンを獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】
講義形式の学習と合わせて、自己分析やグループワークなどを通じて「自分の影響力」や「自分なりのリーダーシップ」について振り返りを実施し、授業内での課題やリアクションペーパーの提出を行います。
課題は学習支援システムを通じて提出、採点を行い、各履修生へ適宜返却をします。
情勢を鑑みて可能であれば、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・リーダーシップとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・リーダーシップとは
2	リーダーシップに関する理論①	・リーダーシップの概念とは
3	リーダーシップに関する理論②	・リーダーシップ研究の主な流れ
4	リーダーシップに関する理論③	・リーダーシップとフォロワーシップ
5	リーダーシップを学び、育てるために必要なこと	・リーダーシップ開発に必要な視点 ・経験学習のモデル
6	リーダーシップと自己概念	・カール・ロジャーズの理論 ・ジョハリの窓
7	リーダーシップに関する行動	・フィードバックの視点
8	【特別講義】リーダーシップの実際	・スポーツチームにおけるリーダーシップの実際（外部講師招聘予定）
9	リーダーシップとコミュニケーション①	・コミュニケーションに関する視点
10	リーダーシップとコミュニケーション②	・コミュニケーションにおける自己のスタイルの理解（グループワーク）
11	リーダーシップとチームビルディング①	・チームとは何か ・集団規範 ・場の理論
12	リーダーシップとチームビルディング②	・タックマンモデル ・心理的安全性
13	総括	リーダーシップを活用するための展望
14	授業内試験	習熟度確認のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前準備として、「リーダー」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
以下の通りの基準で総合的に成績評価を行います。
A.毎回の課題…各10点とし、提出回数および内容によって評価します。
B.最終授業におけるレポート…100点満点で評価します。
A.とB.をそれぞれ50％ずつ成績評価に反映します。
提出回数や提出物の内容が評価の基準を満たさない場合には、単位が取得できないので、注意してください。各回の課題では、体験を踏まえたあなた自身の意見が求められます。授業内容をもとに、自身の体験を活かし持論が展開されているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内での自己分析や、他の履修生の意見を取り入れることによって気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるように工夫いたします。
また、所属が異なる履修生との意見交換によって視野が広がる有益な機会を得たという感想が多くありましたので、可能な限りそのような機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出は学習支援システムを通じて行う予定です。パソコン、スマートフォン、タブレットなどの学習支援システムにアクセスできる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。
公欠届など、欠席に関する届け出は学習支援システムの所定のフォルダのみで受理します。初回ガイダンスの内容を十分に理解して履修してください。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of theories on leadership,and also consider about ideal leadership in your team.The work of the course is done via lecture and group works.
【Goal】
The goals of this course are to
・Obtain basic knowledge about the theories on leadership
・Discover individual ideal leadership style
【Grading criteria】
Your final grade will be calculated according to the following process:
・Class attendance and attitude in class,　contribution to group work: 50%

・Term-end examination: 50%
This course will be taught in Japanese.
【Learning Activities Outside of Classroom】
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours . As a preparation, please get into the habit of checking current events related to "leader" and "leadership" by yourself. You may be asked to speak up in class, so come to class with the image of a leader who will serve as your own model.

HSS200LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

チームビルディング論

浅井　玲子

配当年次／単位：**1～4年年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　キャンパス：**多摩**
備考（履修条件等）：**2023年度までに「リーダーシップ論Ⅱ」を修得済の場合、履修不可**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：チームビルディングに関わる理論を学び、チームにおいて自分自身を活かし、実践できることを目指す
本授業ではスポーツに関わる視点を中心チームビルディングに関する理論を学び、優れたリーダーシップを発揮するための持論構築に寄与することを目指します。「シェアードリーダーシップ」の観点から「個々の持ち味を活かしたチームビルディング」について考える礎となることを期待します。

【到達目標】
・チームビルディングに関する理論や背景となる知識を習得する
・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
・チームにおけるリーダーシップを自分自身の問題として捉える
・自分らしいリーダーシップのスタイルについて実践、検証する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】
講義形式の学習と合わせて、自己分析やグループワークなどを通じて「自分の影響力」や「自分が所属したことのあるチーム」について振り返りを実施し、授業内での課題やリアクションペーパーの提出を行います。
課題は学習支援システムを通じて提出、採点を行い、各履修生へ適宜返却をします。
情勢を鑑みて可能であれば、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・チームビルディングととは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・チームビルディングとは
2	チームビルディングに関する理論① 「チームとは何か」	・チームビルディング研究の主な流れ ・交流分析
3	チームビルディングに関する理論② 「効果的なチームとは」	・チームビルディング研究の主な流れ ・アドラーの理論
4	チームビルディングに関する理論③ 「チームビルディングにおけるふりかえり」	・コッターの理論 ・カーネギーの理論
5	チームビルでイング実習① 「チームをつくる」	・グループワーク
6	チームビルディングに関する理論④ 「チームのバランス」	・PMリーダーシップ理論
7	中間まとめ	・前半のふりかえり
8	チームの評価 「変化について」	・チームワーキング ・グループワーク
9	チームの評価 「変化に適応する」	・レジリエンス ・価値観 ・グループワーク
10	コミュニケーションの分析 「自己理解と他者理解」	・アタッチメント ・内的作業モデル ・グループワーク
11	チームビルディング実習②	・グループワーク
12	リーダーシップとチームビルディング② 【特別講義】 チームビルディングの実際	・スポーツチームにおけるチームビルディングの実際（外部講師招聘予定）
13	総括	授業のまとめ
14	授業内試験	習熟度確認のための試験（レポート形式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前準備として、「チーム」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求めることがありますので、「自分自身のモデル」となるチーム像やリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
以下の通りの基準で総合的に成績評価を行います。
A.毎回の課題…各10点とし、提出回数および内容によって評価します。
B.最終授業におけるレポート…100点満点で評価します。
A.とB.をそれぞれ50％ずつ成績評価に反映します。
提出回数や提出物の内容が評価の基準を満たさない場合には、単位が取得できないので、注意してください。各回の課題では、体験を踏まえたあなた自身の意見が求められます。授業内容をもとに、自身の体験を活かし持論が展開されているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内での自己分析や、他の履修生の意見を取り入れることによって気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるように工夫いたします。
また、所属が異なる履修生との意見交換によって視野が広がる有益な機会を得たという感想が多くありましたので、可能な限りそのような機会を設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出は学習支援システムを通じて行う予定です。パソコン、スマートフォン、タブレットなどの学習支援システムにアクセスできる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
・　外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。
★ 公欠届など欠席に関する資料は学習支援システムの所定のフォルダのみで受理します。初回ガイダンスの内容を十分に理解して履修してください。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of theories on team building and also consider about ideal leadership in your team.The work of the course is done via lecture and group works.
【Goal】

The goals of this course are to
・Obtain basic knowledge about the theories on team building
・Discover individual ideal leadership style
【Grading criteria】
Your final grade will be calculated according to the following process:
・Class attendance and attitude in class,contribution to group work: 50%
・Term-end examination: 50%
This course will be taught in Japanese.
【Learning Activities Outside of Classroom】
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours . As a preparation, please get into the habit of checking current events related to "leader" and "leadership" by yourself. You may be asked to speak up in class, so come to class with the image of a leader who will serve as your own model.

HSS200LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツビジネス論

得田　進介

配当年次／単位：**1～4年年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　キャンパス：**多摩**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。
本講義では経営管理強化の具体的な事例を解説し、日本のスポーツ産業の発展に寄与するための基礎知識およびビジネスにおいて最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】
・マネジメント人材として、組織経営に必要な専門知識を習得する
・組織で生じている課題に対して対応策を立案することができる
・自分の考えを伝えて他者を巻き込んでいけるリーダーシップを備えている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】
授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業は作成資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについてリアクションペーパーを提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	日本のスポーツ産業の現状（市場規模や課題など）を理解する。
2	マネジメント	マネジメントとは何か、マネジメントの必要性を知る。 組織におけるマネジメントを学ぶ。
3	ガバナンス	ガバナンスとは何か、ガバナンスの必要性を知る。 組織のガバナンス体制を整備するために何が必要であるか、どのような対応策を講じるべきかを理解する。
4	コンプライアンス	コンプライアンスとは何か、コンプライアンスの必要性を知る。 コンプライアンスを守ることの重要性、守らなかったときの影響、コンプライアンスを強化するための対応策を理解する。
5	アカウンタビリティー①	アカウンタビリティーとは何か、アカウンタビリティーの必要性を知る。 スポーツチームにおいて最低限必要な報告水準を理解する。
6	アカウンタビリティー② 資産管理	スポーツチームにはどのような収入と支出があるのかを理解する。 入出金の一般的な管理方法を理解する。 組織にある資産（現金、在庫など）の管理方法を理解する。
7	予算統制①	予算とは何か、予算を作成する必要性を知る。 予算の作成方法を理解する。
8	予算統制②	予算と実績の差を分析（予実分析）する必要性を知る。 予実分析の方法について理解する。
9	スポーツチームのビジネスモデル	スポーツチームがどのように運営されているか、主な収益と費用について理解する。
10	スポーツの価値	スポーツの価値とは何か。 スポーツの価値を具体的に可視化する必要性を理解する。
11	スポーツの経済的価値と社会的価値	スポーツにおける経済的価値と社会的価値を理解する。
12	スポーツチームの露出効果と限界	スポンサーシップの変遷、スポンサーの権利、スポンサーアクティベーションを理解する。
13	これからのスポンサーシップ	スポンサーシップの最新事例、今後のスポンサーシップの姿について理解する。
14	講義まとめ	講義内容についての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
「スポーツチーム経営の教科書」有限責任 あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁
「社会的インパクト評価の手法を用いたスタジアム・アリーナ効果検証モデル報告書」株式会社日本経済研究所

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界における課題と対応策について自らの意見を述べることができるか、で評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー：50%、期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公認会計士としてスポーツチームの運営や組織体制強化、スタジアム・アリーナ開発に携わっている経験を踏まえて、スポーツ界で必要とされている人材や知識について実例を基に講義していきます。スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The class will explain specific examples of strengthening business management, and will aim at acquiring the basic knowledge and the minimum necessary professional skills in business to contribute to the development of the sports industry in Japan.
【Learning Objectives】
・To acquire the expertise necessary to manage an organization as a management personnel.

・To be able to plan countermeasures against problems that arise in organizations.
・To be equipped with leadership skills to convey one's own ideas and to involve others in the process.
【Learning activities outside of classroom】
After attending the class, please review for about four hours to make sure you understand the contents of the class, using related articles and other materials introduced in the class.
【Grading Criteria /Policy】
Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%.

HUI100NA（人間情報学 / Human informatics 100）

認知科学　建築・他学部公開

SEONG YOUNG AH

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の‘こころ’と脳の仕組みや働き、関係性を科学的に理解すること。認知科学的視点から人を観察することを学ぶ。

【到達目標】
人の認知のメカニズムや現象を科学的にとらえるようになることを目標とする。感覚、知覚、認知とは何か、人を生体と心理、社会との関係からとらえる。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
認知科学は‘こころ’を主たる学問領域とし、知覚、記憶、思考、創造性といった、‘こころ’に影響を与えると考えられる脳の働きおよび両者の関係を解明する学問である。本講義では、様々な認知科学に関する実験結果とその考察を紹介しながら授業を行う。これらの知見について理解を深め、日常生活に活用していく方法について学ぶ。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：	授業内容の説明、認知科学の歴史と応用
2	感覚：	味覚、嗅覚、聴覚、視覚、触覚
3	知覚・認知：	トップダウン、ゲシュタルト、形状知覚、空間知覚、認知地図
4	錯覚：	錯視、錯覚、クロスモーダル
5	脳と認知：	脳の構造と特性、BCI
6	記憶：	記憶の種類と特徴
7	注意：	注意資源、注意のモデル、選択的注意
8	思考：	知識、概念とカテゴリー、問題解決
9	情動：	二重課程理論、感情の分類、感情センシング方法
10	社会的認知：	表情、対人認知、顔、態度、集団
11	コミュニケーション：	言語、説得的コミュニケーション、ネットコミュニケーション
12	選択と誘導：	物理的環境、デフォルト効果、選択と誘導
13	身体と自己：	身体所有感、自己
14	認知と表現：	環世界、認知世界、表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回毎の授業の復習。レポートがある場合は、期限内に自分で資料等を調べて整理して、ポイントを押さえて、分かりやすい構成と文章で仕上げること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストの指定はない

【参考書】
講義資料を作成する際に参考にしている本をご紹介します。下記の本に限らず、webやyoutubeの情報を合わせて紹介します。
イラストで学ぶ認知科学
認知科学講座１　心と身体
認知科学講座２　心と脳
認知科学講座３　心と社会
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ１　はじめての認知科学
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ５　表現する認知科学
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ６　感じる認知科学
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ１０　選択と誘導の認知科学
認知心理学　知のアーキテクチャを探る
認知心理学への招待

【成績評価の方法と基準】
授業の最後に小テストまたはレポート課題が与えられる。
小テスト50%、レポート課題40%、平常点10%の合計で評価する。
平常点は、必要に応じて受講態度を参考に加点・減点する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で扱うテーマについて、補足説明等でシラバスから飛躍した話しの内容になる可能性もあるが、シラバスに書かれた内容を重点的に説明するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
講義内態度が特に優れている・問題がある場合は平常点として成績に加点・減点する場合がある。
基本対面での授業になるが、受講者数が多いため、講義室の環境状況などを考慮し、「オンライン」と表記されている回はオンデマンド配信になる可能性が高い。具体的には前の週の講義で告知する。

【Outline (in English)】
In this course students will learn how to scientifically comprehend the organization, processes and relations of human feelings and the brain, and observe humans from the perspective of cognitive science. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short tests : 50%、Reports : 40%、in class contribution: 10%

HUI100NA（人間情報学 / Human informatics 100）

認知科学　ＳＤ

SEONG YOUNG AH

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の‘こころ’と脳の仕組みや働き、関係性を科学的に理解すること。認知科学的視点から人を観察することを学ぶ。

【到達目標】
人の認知のメカニズムや現象を科学的にとらえるようになることを目標とする。感覚、知覚、認知とは何か、人を生体と心理、社会との関係からとらえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
認知科学は‘こころ’を主たる学問領域とし、知覚、記憶、思考、創造性といった、‘こころ’に影響を与えると考えられる脳の働きおよび両者の関係を解明する学問である。本講義では、様々な認知科学に関する実験結果とその考察を紹介しながら授業を行う。これらの知見について理解を深め、日常生活に活用していく方法について学ぶ。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：	授業内容の説明、認知科学の歴史と応用
2	感覚：	味覚、嗅覚、聴覚、視覚、触覚
3	知覚・認知：	トップダウン、ゲシュタルト、形状知覚、空間知覚、認知地図
4	錯覚：	錯視、錯覚、クロスモーダル
5	脳と認知：	脳の構造と特性、BCI
6	記憶：	記憶の種類と特徴
7	注意：	注意資源、注意のモデル、選択的注意
8	思考：	知識、概念とカテゴリー、問題解決
9	情報：	二重課程理論、感情の分類、感情センシング方法
10	社会的認知：	表情、対人認知、顔、態度、集団
11	コミュニケーション：	言語、説得的コミュニケーション、ネットコミュニケーション
12	選択と誘導：	物理的環境、デフォルト効果、選択と誘導
13	身体と自己：	身体所有感、自己
14	認知と表現：	環世界、認知世界、表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回毎の授業の復習。レポートがある場合は、期限内に自分で資料等を調べて整理して、ポイントを押さえて、分かりやすい構成と文章で仕上げること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストの指定はない

【参考書】
講義資料を作成する際に参考にしている本をご紹介します。下記の本に限らず、webやyoutubeの情報を合わせて紹介します。
イラストで学ぶ認知科学
認知科学講座１　心と身体
認知科学講座２　心と脳
認知科学講座３　心と社会
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ１　はじめての認知科学
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ５　表現する認知科学
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ６　感じる認知科学
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ１０　選択と誘導の認知科学
認知心理学　知のアーキテクチャを探る
認知心理学への招待

【成績評価の方法と基準】
授業の最後に小テストまたはレポート課題が与えられる。
小テスト50%、レポート課題40%、平常点10%の合計で評価する。
平常点は、必要に応じて受講態度を参考に加点・減点する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で扱うテーマについて、補足説明等でシラバスから飛躍した話しの内容になる可能性もあるが、シラバスに書かれた内容を重点的に説明するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
講義内態度が特に優れている・問題がある場合は平常点として成績に加点・減点する場合がある。
基本対面での授業になるが、受講者数が多いため、講義室の環境状況などを考慮し、「オンライン」と表記されている回はオンデマンド配信になる可能性が高い。具体的には前の週の講義で告知する。

【Outline (in English)】
In this course students will learn how to scientifically comprehend the organization, processes and relations of human feelings and the brain, and observe humans from the perspective of cognitive science. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short tests : 50%、Reports : 40%、in class contribution: 10%

HUI100NA（人間情報学 / Human informatics 100）

認知科学　都市

SEONG YOUNG AH

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の‘こころ’と脳の仕組みや働き、関係性を科学的に理解すること。認知科学的視点から人を観察することを学ぶ。

【到達目標】
人の認知のメカニズムや現象を科学的にとらえるようになることを目標とする。感覚、知覚、認知とは何か、人を生体と心理、社会との関係からとらえる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　45%
（B）技術者倫理　30%
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
認知科学は‘こころ’を主たる学問領域とし、知覚、記憶、思考、創造性といった、‘こころ’に影響を与えると考えられる脳の働きおよび両者の関係を解明する学問である。本講義では、様々な認知科学に関する実験結果とその考察を紹介しながら授業を行う。これらの知見について理解を深め、日常生活に活用していく方法について学ぶ。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：	授業内容の説明、認知科学の歴史と応用
2	感覚：	味覚、嗅覚、聴覚、視覚、触覚
3	知覚・認知：	トップダウン、ゲシュタルト、形状知覚、空間知覚、認知地図
4	錯覚：	錯視、錯覚、クロスモーダル
5	脳と認知	脳の構造と特性、BCI
6	記憶：	記憶の種類と特徴
7	注意：	注意資源、注意のモデル、選択的注意
8	思考：	知識、概念とカテゴリー、問題解決
9	情動：	二重課程理論、感情の分類、感情センシング方法
10	社会的認知：	表情、対人認知、顔、態度、集団
11	コミュニケーション：	言語、説得的コミュニケーション、ネットコミュニケーション
12	選択と誘導：	物理的環境、デフォルト効果、選択と誘導
13	身体と自己：	身体所有感、自己
14	認知と表現：	環世界、認知世界、表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回毎の授業の復習。レポートがある場合は、期限内に自分で資料等を調べて整理して、ポイントを押さえて、分かりやすい構成と文章で仕上げること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストの指定はない

【参考書】
講義資料を作成する際に参考にしている本をご紹介します。下記の本に限らず、webやyoutubeの情報を合わせて紹介します。
イラストで学ぶ認知科学
認知科学講座１　心と身体
認知科学講座２　心と脳
認知科学講座３　心と社会
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ１　はじめての認知科学
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ５　表現する認知科学
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ６　感じる認知科学
日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ１０　選択と誘導の認知科学
認知心理学　知のアーキテクチャを探る
認知心理学への招待

【成績評価の方法と基準】
授業の最後に小テストまたはレポート課題が与えられる。
小テスト50%、レポート課題40%、平常点10%の合計で評価する。
平常点は、必要に応じて受講態度を参考に加点・減点する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で扱うテーマについて、補足説明等でシラバスから飛躍した話しの内容になる可能性もあるが、シラバスに書かれた内容を重点的に説明するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
講義内態度が特に優れている・問題がある場合は平常点として成績に加点・減点する場合がある。
基本対面での授業になるが、受講者数が多いため、講義室の環境状況などを考慮し、「オンライン」と表記されている回はオンデマンド配信になる可能性が高い。具体的には前の週の講義で告知する。

【Outline (in English)】
In this course students will learn how to scientifically comprehend the organization, processes and relations of human feelings and the brain, and observe humans from the perspective of cognitive science. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 50%、Reports : 40%, in class contribution: 10%

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。
＊課題研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ.Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
２．言語：日本語
３．提出する際のファイルの種類：PDF
４．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
５．提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
６．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
７．留意事項
（1）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（2）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（3）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（4）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（5）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（6）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（7）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（8）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
（9）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞
意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoom を使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90%for report submission, 10%for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。
＊課題研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ.Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
２．言語：日本語
３．提出する際のファイルの種類：PDF
４．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
５．提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
６．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
７．留意事項
（１）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（２）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（３）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（４）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（５）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（６）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（７）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（８）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
（９）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞
意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoom を使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90%for report submission, 10%for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力　25%
（H）継続的学習能力　25%
（I）業務遂行能力　25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。
＊課題研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ.Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
２．言語：日本語
３．提出する際のファイルの種類：PDF
４．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
５．提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
６．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
７．留意事項
（１）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（２）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（３）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（４）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（５）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（６）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（７）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（８）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
（９）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞
意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90%for report submission, 10%for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

エコノミクス

李　江南

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解し、効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。具体的にゲーム理論に焦点を当て、ゲーム理論の研究手法を学ぶことを通じて、今後の人生や仕事に役立てたいと思います。 授業内容は授業で使用した資料をもとに、講義を進めます。 試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分け、基準としています。

【到達目標】
本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の２点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
　そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　45%
（B）技術者倫理　30%
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。 2回の課題を課し、期末試験は選択式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します
7	繰り返しゲーム	複数回ゲームする場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用１ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用２ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎１	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎２	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル１	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル２	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習することです。課題の問題を解決するためには、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】
なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】
特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】
出席評価：40％
課題２回：20％
期末試験：40％
合計：100％

【学生の意見等からの気づき】
時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点を記載することが望ましいです。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】
2025年度の授業も秋学期になりました。
シラバスの内容や講義の順番を変更する場合もあります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。
授業終了後に教室で質問を受け付け，または随時，電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.
[Learning Objectives]
Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.
[Grading Criteria /Policy]
The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.
Attendance evaluation: 40%
Two homework assignments: 20%.
Final exam: 40%.
Total: 100%.

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

エコノミクス

李　江南

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解し、効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。具体的にゲーム理論に焦点を当て、ゲーム理論の研究手法を学ぶことを通じて、今後の人生や仕事に役立てたいと思います。 授業内容は授業で使用した資料をもとに、講義を進めます。 試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分け、基準としています。

【到達目標】
本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の２点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
　そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎			◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。 2回の課題を課し、期末試験は選択式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します
7	繰り返しゲーム	複数回ゲームする場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用１ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用２ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎１	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎２	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル１	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル２	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習することです。課題の問題を解決するためには、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】
なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】
特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】
出席評価：40％
課題２回：20％
期末試験：40％
合計：100％

【学生の意見等からの気づき】
時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点を記載することが望ましいです。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】
2025年度の授業も秋学期になりました。

シラバスの内容や講義の順番を変更する場合もあります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。
授業終了後に教室で質問を受け付け，または随時，電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.
[Learning Objectives]
Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.
[Grading Criteria /Policy]
The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.
Attendance evaluation: 40%
Two homework assignments: 20%.
Final exam: 40%.
Total: 100%.

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

エコノミクス

李　江南

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解し、効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。具体的にゲーム理論に焦点を当て、ゲーム理論の研究手法を学ぶことを通じて、今後の人生や仕事に役立てたいと思います。 授業内容は授業で使用した資料をもとに、講義を進めます。 試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分け、基準としています。

【到達目標】
本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の２点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
　そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。 2回の課題を課し、期末試験は選択式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します
7	繰り返しゲーム	複数回ゲームする場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用１ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用２ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎１	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎２	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル１	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル２	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習することです。課題の問題を解決するためには、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】
なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】
特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】
出席評価：40％
課題２回：20％
期末試験：40％
合計：100％

【学生の意見等からの気づき】
時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点を記載することが望ましいです。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】
2025年度の授業も秋学期になりました。
シラバスの内容や講義の順番を変更する場合もあります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。
授業終了後に教室で質問を受け付け，または随時，電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.
[Learning Objectives]
Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.
[Grading Criteria /Policy]
The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.
Attendance evaluation: 40%
Two homework assignments: 20%.
Final exam: 40%.
Total: 100%.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境　新一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界は2020年以来，未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超えるなかで，大転換，新たな社会観と事業，価値創造の手法が模索されています。本講義は，企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず，経営学の基礎理論について，周辺領域（経済学，社会学，法学など）との関係に言及し，企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に，経営の個別テーマを経営資源（人，物，金，情報，技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ，創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して，起業を前提とした事業計画書の作成，新たな事業創造，その基盤となる新たな価値創造の技法，発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】
本講義では，学生諸君が現代企業を総合的に理解し，経営者，起業家，クリエーター，職人などによる価値創造の技法を修得し，受講生自身の知の技法を育むことにより，思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
パンデミック／コロナ禍ならびに気候変動のなかで，新たな価値創造が模索されるなかで，本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために，経営学を中心に経済学，社会学，法学との関係に言及します。次に，経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて，アート，ビジネスの世界における経営者，クリエーター，プロデューサー，デザイナー，アーティストなどの専門分野と技法，ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り，かつ，変えていく行為と作品，能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として，先端の情報技術産業，人文・社会科学の複合領域，美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野，生活産業やエンタテインメント産業，展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み，商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材，録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに，パンデミック／コロナ禍，気候変動の影響，現代企業の要件	現代企業の役割，経営学と周辺領域，社会的責任／CSR・公益の実現，企業・事業・経営の一体的理解，プロデュース＆マネジメントの役割，アートとデザインの関係，新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携，総合産業	農商工連携，６次産業化，総合産業，生活産業とエンタテインメント産業，世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順，企業・事業・経営の一体理解，経営と理念，CSR，ビジョナリ―カンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA，評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略，人材育成，マーケティング	経営戦略，人材育成，マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務１	財務諸表の相互関係，貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務２	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション，IoT，ICT，AIの役割，ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律，知財	ビジネス法務，知的財産，地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決，アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係，アート・プロデュース，デザイン思考，作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画，物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築，新事業創造と事業計画，6W2Hの内容，社会ネットワークの活用，ビジネスモデル，素人発想・玄人実行，発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造　演習１，ブレインマップを活用した素人発想	経営者，起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造　演習２，ブレインマップを活用した玄人実行	クリエーター，プロデューサー，職人（匠）による商品・サービスの開発，アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦，企業および事業の価値，価値算定，EVA／MVA，リスクマネジメント，発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とも教科書，資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解，事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については，以下のとおりです。
（1）パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
（2）農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
（3）企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
（4）PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
（5）経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
（6）経営と財務１について教科書・資料での予習（90分）。
（7）経営と財務２について教科書・資料での予習（90分）。
（8）経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
（9）経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
（10）アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
（11）新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。

（12）価値創造　事例１について教科書・資料での予習（90分）。
（13）価値創造　事例２について教科書・資料での予習（90分）。
（14）まとめ　教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】
境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合　第２刷』中央経済社，2021年。

【参考書】
境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第５版）』文眞堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂，2022年。
境新一（編著）、齋藤 保男 、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平，臼井 真美 (著)
『アグリ・アート　感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。
『日経　業界地図２０２５年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】
講義に対する参加度（演習を含む）２０％　期中レポート４０％　期末試験または期末レポート４０％　の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの７、８回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】
講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。
講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題２回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンローまたは印刷して講義に臨んでください。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境　新一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界は2020年以来，未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで，のなかで，大転換，新たな社会観と事業，価値創造の手法が模索されています。本講義は，企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず，経営学の基礎理論について，周辺領域（経済学，社会学，法学など）との関係に言及し，企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に，経営の個別テーマを経営資源（人，物，金，情報，技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ，創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して，起業を前提とした事業計画書の作成，新たな事業創造，その基盤となる新たな価値創造の技法，発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】
本講義では，学生諸君が現代企業を総合的に理解し，経営者，起業家，クリエーター，職人などによる価値創造の技法を修得し，受講生自身の知の技法を育むことにより，思考力と実践力を獲得できます。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
パンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで新たな価値創造が模索されるなかで，本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために，経営学を中心に経済学，社会学，法学との関係に言及します。次に，経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて，アート，ビジネスの世界における経営者，クリエーター，プロデューサー，デザイナー，アーティストなどの専門分野と技法，ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り，かつ，変えていく行為と作品，能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として，先端の情報技術産業，人文・社会科学の複合領域，美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野，生活産業やエンタテインメント産業，展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み，商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材，録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに，パンデミック／コロナ禍，気候変動の影響，現代企業の要件	現代企業の役割，経営学と周辺領域，社会的責任／CSR・公益の実現，企業・事業・経営の一体的理解，プロデュース&マネジメントの役割，アートとデザインの関係，新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携，総合産業	農商工連携，６次産業化，総合産業，生活産業とエンタテインメント産業，世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順，企業・事業・経営の一体理解，経営と理念，CSR，ビジョナリ―カンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA，評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略，人材育成，マーケティング	経営戦略，人材育成，マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務１	財務諸表の相互関係，貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務２	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション，IoT，ICT，AIの役割，ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律，知財	ビジネス法務，知的財産，地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決，アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係，アート・プロデュース，デザイン思考，作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画，物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築，新事業創造と事業計画，6W2Hの内容，社会ネットワークの活用，ビジネスモデル，素人発想・玄人実行，発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造　演習１，ブレインマップを活用した素人発想	経営者，起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造　演習２，ブレインマップを活用した玄人実行	クリエーター，プロデューサー，職人（匠）による商品・サービスの開発，アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦，企業および事業の価値，価値算定，EVA／MVA，リスクマネジメント，発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とも教科書，資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解，事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については，以下のとおりです。
（1）パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
（2）農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
（3）企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
（4）PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
（5）経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
（6）経営と財務１について教科書・資料での予習（90分）。
（7）経営と財務２について教科書・資料での予習（90分）。

（８）経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
（９）経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
（10）アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
（11）新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
（12）価値創造　事例１について教科書・資料での予習（90分）。
（13）価値創造　事例２について教科書・資料での予習（90分）。
（14）まとめ　教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】
境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合　第２刷』中央経済社，2021年。

【参考書】
境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第５版）』文眞堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂，2022年。
境新一（編著）、齋藤 保男 、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平，臼井 真美 (著)
『アグリ・アート　感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。
『日経　業界地図２０２５年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】
講義に対する参加度（演習を含む）２０％　期中レポート４０％　期末試験または期末レポート４０％　の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの７、８回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】
講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。
講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題２回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンローまたは印刷して講義に臨んでください。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境　新一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界は2020年以来，未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで，大転換，新たな社会観と事業，価値創造の手法が模索されています。本講義は，企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず，経営学の基礎理論について，周辺領域（経済学，社会学，法学など）との関係に言及し，企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に，経営の個別テーマを経営資源（人，物，金，情報，技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ，創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して，起業を前提とした事業計画書の作成，新たな事業創造，その基盤となる新たな価値創造の技法，発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】
本講義では，学生諸君が現代企業を総合的に理解し，経営者，起業家，クリエーター，職人などによる価値創造の技法を修得し，受講生自身の知の技法を育むことにより，思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
パンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで，新たな価値創造が模索されるなかで，本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために，経営学を中心に経済学，社会学，法学との関係に言及します。次に，経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて，アート，ビジネスの世界における経営者，クリエーター，プロデューサー，デザイナー，アーティストなどの専門分野と技法，ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り，かつ，変えていく行為と作品，能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として，先端の情報技術産業，人文・社会科学の複合領域，美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野，生活産業やエンタテインメント産業，展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み，商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材，録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに，パンデミック／コロナ禍、気候変動の影響，現代企業の要件	現代企業の役割，経営学と周辺領域，社会的責任／CSR・公益の実現，企業・事業・経営の一体的理解，プロデュース＆マネジメントの役割，アートとデザインの関係，新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携，総合産業	農商工連携，６次産業化，総合産業，生活産業とエンタテインメント産業，世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順，企業・事業・経営の一体理解，経営と理念，CSR，ビジョナリ―カンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA，評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略，人材育成，マーケティング	経営戦略，人材育成，マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務１	財務諸表の相互関係，貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務２	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション，IoT，ICT，AIの役割，ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律，知財	ビジネス法務，知的財産，地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決，アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係，アート・プロデュース，デザイン思考，作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画，物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築，新事業創造と事業計画，6W2Hの内容，社会ネットワークの活用，ビジネスモデル，素人発想・玄人実行，発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造　演習１，ブレインマップを活用した素人発想	経営者，起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造　演習２，ブレインマップを活用した玄人実行	クリエーター，プロデューサー，職人（匠）による商品・サービスの開発，アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦，企業および事業の価値，価値算定，EVA／MVA，リスクマネジメント，発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とも教科書，資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解，事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については，以下のとおりです。
（1）パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
（2）農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
（3）企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
（4）PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
（5）経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
（6）経営と財務１について教科書・資料での予習（90分）。
（7）経営と財務２について教科書・資料での予習（90分）。
（8）経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
（9）経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
（10）アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
（11）新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。

（12）価値創造　事例１について教科書・資料での予習（90分）。
（13）価値創造　事例２について教科書・資料での予習（90分）。
（14）まとめ　教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】
境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合　第２刷』中央経済社，2021年。

【参考書】
境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第５版）』文眞堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂，2022年。
境新一（編著）、齋藤 保男 、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平，臼井 真美 (著)
『アグリ・アート　感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。
『日経　業界地図２０２５年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】
講義に対する参加度（演習を含む）２０％　期中レポート４０％　期末試験または期末レポート４０％　の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの７、８回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】
講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。
講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題２回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンローまたは印刷して講義に臨んでください。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	◎					

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　40%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築フォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を７回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で７回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と７回のレポート（講演メモ＋講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステイナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステイナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	○	◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステイナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、
学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
６－７回のレポート（講演メモ+講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90％）となる。質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価（10％）として加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と7回のレポート（講演メモ＋講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]
In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を７回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で７回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と７回のレポート（講演メモ＋講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

MAN200ND（経営学 / Management 200）

アントレプレナーシップ

姜　理恵

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アントレプレナーシップ（起業家精神）の基礎理論を学んだのち、大学生に向けたアントレプレナーシップ教育プログラム案をグループで作り、教育会社に向けてプレゼンし、フィードバックをもらうことを通じて、知識の定着と理解を深める。
ここでいうアントレプレナーシップ（起業家精神）とは、企業を自分で起こすことに限定しない。イノベーションを産むすべての活動に必要な精神を指す。これを学び、実践し、身につけることは、コロナ禍を経て不確実化を増す現代社会に対応できるようになることでもある。
いつか自分で会社を設立したい方、変化の速いスタートアップの世界で働きたい方、企業の中から行動を起こしたい方など、その立場を問わず歓迎する。この科目では機会を特定し、行動を起こすための方法を扱う。この科目は座学やディスカッション、プレゼンテーションだけにとどまらず、実際に自分が行動することを通して学んだり、チームと協力して深刻な問題を特定し、革新的なソリューションを開発することに挑戦する。
これを通して、科学としてのアントレプレナーシップに対する知識を高めると同時に、マインドセットの成長を目指す。この科目を通じて行動と内省を繰り返すことで、アントレプレナーシップが自分のキャリア形成にどのように影響するか、強い確信を得ることを期待する。

【到達目標】
社会に新しい価値をもたらすというアントレプレナーシップの本質を、現在の自分自身に照らし合わせて理解することを目的とする。
「大学生向けの起業家精神教育プラン」を作ることで、自分ごととして、起業家精神を考えることができる。
それにより、今後のキャリアプランと併せて考えられるようになり、さまざまな企業の新規事業や起業家の活動を、起業家精神の視点から観察し、議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、演習、実習、発表などを組み合わせて授業を進める。科目の特性上、通常の科目よりも更に積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション　ビジネスゲーム1	授業の進め方　商才とは何か　いかに意思決定を行うか
2	ビジネスゲーム2　姜とゲームで対決する	ビジネスでのリスクをいかに取るかをゲーム上で再現する
3	起業家の特性、天才研究、創造性	起業家は天才か？ 後から起業家になれるのか？ 創造性は先天的か後天的か？
4	発想のプロセス　発想の元となるアイデアの源泉、その育て方	良い発想はどうやって生まれるのか？　アイデアを取捨選択する方法
5	発想ワークショップ	良いアイデアを生み出すワークを実践してみる
6	起業家マインドセット　何があっても折れない心　はがねのメンタル	起業家の強いメンタルはいかにして成立するか
7	起業家的になれない人々　リスクが取れない　安定を選ぶ心理	創造性も、強いメンタルも持てない人々は、どうしたらいいのか
8	起業家の弱点	起業家の弱みを探る　それをいかに克服するか理論と事例
9	起業家精神を教える、学ぶ、教えながら自分も育つ	姜研究室が実践している子どもや女性に起業家精神やベンチャーを教えている事例を紹介　カリキュラムの構成を学ぶ
10	教育プログラムの開発1	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
11	教育プログラムの開発2	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
12	教育プログラムの発表	開発したプログラムを研修会社や大学教員などに発表　フィードバック
13	起業家精神を学んだ人々の成長　授業のまとめ	起業家精神を学んだこども、女性、学生の学びのプロセス、実体験を整理
14	期末試験	持ち込み可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前・事後の配布資料リーディング、課題などを授業内で指示。
本授業の準備学習・課題への対応時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
Neck, H. M., Neck, C. P., &Murray, E. L. (2024). Entrepreneurship: The practice and mindset. Sage publications.
洋書なので英語が得意な人はチャレンジしてみてください

【成績評価の方法と基準】
1.平常点（出席、コミットメント）　50%
2.期末テスト（持ち込み可、理解と思考を問う）　50%

【学生の意見等からの気づき】
フィードバックの機会を複数設け、授業の進め方や内容の参考にする。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC持参のこと

【Outline (in English)】
In this course, you will develop an entrepreneurial mindset through the creation of an entrepreneurial program for undergraduate students. You will learn, practice, and acquire entrepreneurial skills to create and discover solutions to an increasingly complex and uncertain post-Corona society. You will learn how to identify opportunities and take action, whether you want to start your own business one day, work in the fast-paced startup world, or work within a company. This course is not limited to classroom lectures, discussions, and presentations. It also includes learning by doing and the challenge of working with a team to identify a serious problem and develop an innovative solution. The goal is to increase the knowledge of entrepreneurship as a science and at the same time to grow in the mindset of entrepreneurship. Through repeated action and reflection, you are expected to develop a strong belief in how entrepreneurship can impact your career development. Students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

公共経営戦略

平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会インフラに関する様々な政策やその進め方を実例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】
社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・公共政策とは？ ・講師陣の自己紹介・経験談 ・生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般 （新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します）	・インフラストラクチャー計画のアウトライン ・社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・需要予測・経済評価・財務評価 ・事業スキーム・財源の調達 （講義＆グループディスカッション）
第3回	インフラストラクチャー事業の構想 （どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところです）	・インフラストラクチャー構想の動機 ・構想実現の推進 ・構想の挫折 （講義＆グループディスカッション）
第4回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用 （これからはインフラの運営・維持管理の時代です）	・インフラストラクチャー施設の維持管理 ・維持更新投資 ・インフラストラクチャー事業の運営 ・更新と除却 （講義＆グループディスカッション）
第5回	インフラストラクチャー事業の海外展開 （インフラによる海外への貢献について解説します）	・途上国への開発援助 ・海外インフラストラクチャービジネス ・課題解決先進国・日本としての貢献 （講義＆グループディスカッション）
第6回	公共事業評価	・公共事業評価の現状 ・費用便益分析の基礎
第7回	海外プロジェクト	・海外プロジェクトの種類 ・事例紹介
第8回	集客事業	・集客事業における行政の関わり方 ・具体的な事例（遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等） ・集客事業の来場者予測、経済波及効果算出（簡易な方法）
第9回	国土計画の形成	・国土計画とは？ ・国土計画の歴史と変遷 ・現代の国土計画
第10回	スマートシティ	・スマートシティの考え方 ・スマートシティの事例 ・スマートシティの実装
第11回	公共施設マネジメント	・公共施設のマネジメント計画 ・公共施設の統合・再配置計画
第12回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習①）
第13回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習②）
第14回	i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント	・建設分野へのICT、DX導入政策 ・インフラ老朽化対策、国際規格 （講義＆事例紹介） ・国際規格への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】
無し

【参考書】
無し

【成績評価の方法と基準】
最終レポート：80％、講義への積極的参加度：20％
※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】
社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.
Grade evaluation: Reports 80%+ Activities 20%= 100%.
Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

公共経営戦略

平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会インフラに関する様々な政策やその進め方を実例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】
社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・公共政策とは？ ・講師陣の自己紹介・経験談 ・生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般 （新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します）	・インフラストラクチャー計画のアウトライン ・社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・需要予測・経済評価・財務評価 ・事業スキーム・財源の調達 （講義＆グループディスカッション）
第3回	インフラストラクチャー事業の構想 （どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところです）	・インフラストラクチャー構想の動機 ・構想実現の推進 ・構想の挫折 （講義＆グループディスカッション）
第4回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用 （これからはインフラの運営・維持管理の時代です）	・インフラストラクチャー施設の維持管理 ・維持更新投資 ・インフラストラクチャー事業の運営 ・更新と除却 （講義＆グループディスカッション）
第5回	インフラストラクチャー事業の海外展開 （インフラによる海外への貢献について解説します）	・途上国への開発援助 ・海外インフラストラクチャービジネス ・課題解決先進国・日本としての貢献 （講義＆グループディスカッション）
第6回	公共事業評価	・公共事業評価の現状 ・費用便益分析の基礎
第7回	海外プロジェクト	・海外プロジェクトの種類 ・事例紹介
第8回	集客事業	・集客事業における行政の関わり方 ・具体的な事例（遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等） ・集客事業の来場者予測、経済波及効果算出（簡易な方法）
第9回	国土計画の形成	・国土計画とは？ ・国土計画の歴史と変遷 ・現代の国土計画
第10回	スマートシティ	・スマートシティの考え方 ・スマートシティの事例 ・スマートシティの実装
第11回	公共施設マネジメント	・公共施設のマネジメント計画 ・公共施設の統合・再配置計画
第12回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習①）
第13回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習②）
第14回	i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント	・建設分野へのICT、DX導入政策 ・インフラ老朽化対策、国際規格 （講義＆事例紹介） ・国際規格への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】
無し

【参考書】
無し

【成績評価の方法と基準】
最終レポート：80％、講義への積極的参加度：20％
※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】
社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.
Grade evaluation: Reports 80%+ Activities 20%= 100%.
Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

公共経営戦略

平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会インフラに関する様々な政策やその進め方を実例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】
社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　45%
（B）技術者倫理　30%
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・公共政策とは？ ・講師陣の自己紹介・経験談 ・生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般 （新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します）	・インフラストラクチャー計画のアウトライン ・社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・需要予測・経済評価・財務評価 ・事業スキーム・財源の調達 （講義＆グループディスカッション）
第3回	インフラストラクチャー事業の構想 （どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところです）	・インフラストラクチャー構想の動機 ・構想実現の推進 ・構想の挫折 （講義＆グループディスカッション）
第4回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用 （これからはインフラの運営・維持管理の時代です）	・インフラストラクチャー施設の維持管理 ・維持更新投資 ・インフラストラクチャー事業の運営 ・更新と除却 （講義＆グループディスカッション）
第5回	インフラストラクチャー事業の海外展開 （インフラによる海外への貢献について解説します）	・途上国への開発援助 ・海外インフラストラクチャービジネス ・課題解決先進国・日本としての貢献 （講義＆グループディスカッション）
第6回	公共事業評価	・公共事業評価の現状 ・費用便益分析の基礎
第7回	海外プロジェクト	・海外プロジェクトの種類 ・事例紹介
第8回	集客事業	・集客事業における行政の関わり方 ・具体的な事例（遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等） ・集客事業の来場者予測、経済波及効果算出（簡易な方法）
第9回	国土計画の形成	・国土計画とは？ ・国土計画の歴史と変遷 ・現代の国土計画
第10回	スマートシティ	・スマートシティの考え方 ・スマートシティの事例 ・スマートシティの実装
第11回	公共施設マネジメント	・公共施設のマネジメント計画 ・公共施設の統合・再配置計画
第12回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習①）
第13回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習②）
第14回	i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント	・建設分野へのICT、DX導入政策 ・インフラ老朽化対策、国際規格 （講義＆事例紹介） ・国際規格への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】
無し

【参考書】
無し

【成績評価の方法と基準】
最終レポート：80％、講義への積極的参加度：20％
※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】
社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.
Grade evaluation: Reports 80%+ Activities 20%= 100%.
Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

PRI200GA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

統計処理法

吉田　一星

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることはけっして容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。
また、自然言語処理技術の研究開発の実務に携わっている講師が、現在ブームとなっている生成AIに使われている確率統計の考え方を紹介したいと思います。
例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLM を理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLM の中で使われている確率統計の考え方を学び、LLM にできることとそうでないことを理解します。

【到達目標】
・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
・データを解釈する方法を身につける
・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
・確率の計算方法を理解し、具体的な計算を実施できる
・確率分布の概念と、その実世界への応用の方法を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
　授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するための、最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。
　数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。
　授業は講義と演習から成ります。学んだ内容を具体的な問題に適用して解く計算の時間が、ほぼ毎回あります。授業の終わりには、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価の対象ではありませんが、次の回以降の授業は宿題の理解を前提として進めますので、次の回までに必ず自分で解いてみて下さい。
中間試験・期末試験とその他の課題のフィードバックは、主に学習支援システムを通して行います。また、みなさんからの質問・コメントに対する解説・補足を授業内で随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとデータの理解方法1	授業の進め方についての説明・数値データの可視化・度数分布表とヒストグラム
第2回	データの理解方法2	データの代表値とその性質
第3回	データの理解方法3	散布図と相関係数
第4回	データの理解方法4	回帰分析
第5回	確率1	確率の定義
第6回	確率2	確率の様々な計算方法
第7回	中間試験	中間試験
	確率3	条件つき確率
第8回	確率4	条件つき確率 ベイズの定理
第9回	確率分布1	確率変数と確率分布
第10回	確率分布2	期待値と分散
第11回	確率分布3	二項分布
第12回	確率分布4	連続型確率変数と正規分布
第13回	確率分布5	確率分布の応用
第14回	期末試験	期末試験
	AIへの確率分布の応用	大規模言語モデルの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価には使用しませんが、本授業のそれぞれの回は前回までの宿題の内容の理解を前提として進めますので、自分の理解度に応じて必ず自習して下さい。また、わからない点をそのままにせず、自分で調べても不明な場合は教員に積極的に質問して下さい。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しません。講師が作成した資料を使って授業を行います。

【参考書】
以下の参考書をお勧めします。
"経営・商学のための統計学入門　直感的な例題で学ぶ", 竹内広宜著, 講談社, 2021.

この他に参考となる資料は、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う中間試験と期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、中間試験30%、期末試験70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
その授業で学んだ内容に関連する現実世界のトピックを紹介する「コラム」が毎回好評ですので、到達目標のための学習時間を確保しながらできるだけコラムを継続したいと思います。
また、授業で扱う数式の練習量が従来の宿題では足りないというアンケートの声を受けて、今年は宿題の練習問題の量を増やします。ただし宿題は成績評価には使用しませんので、自分の理解度に応じて必要なものに取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】
講義時間で演習を行います。電卓がないと計算できないような問題は演習内では扱いませんが、授業に電卓などの情報機器を持ち込んでも構いません。ただし試験（中間試験・期末試験）での情報機器の持ち込みは不可です。

【その他の重要事項】
担当教員は、情報科学技術、とくに人工知能（Artificial Intelligence; AI）の研究開発を行う企業に所属しており、自然言語処理・機械学習分野に関して新技術の開発や製品化の実務経験を有しています。
例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLM を理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLM の中で使われている確率統計の考え方を学び、LLM にできることとそうでないことを理解します。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In our daily life, we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.
[Learning Objectives]
Students should be able to do the followings at the end of this course:
- Master basics of data visualization (graphs)
- Understand some ways of interpreting results of data analytics
- Understand basic statistical values (mean, variance, correlation coefficient, etc.)
- Understand basic knowledge of combinatorics and probability, and apply it to concrete calculation
- Understand the notion of probability distribution and its application to real world problems
The lecturer has practical experience in research and development of generative AI, especially large language models (LLMs). He will introduce how probability and statistics are used in LLMs to generate natural language responses to queries by a human user.
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to complete homework after each class meeting. A typical time for the homework and to understand the course content after a class meeting is two hours.
[Grading Criteria/Policies]
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%) and Term-end examination (70%).

FRI200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

文化情報学概論

森村　修

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：**情報倫理学**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
《授業の概要》
本科目は、**国際文化学部が提唱する「文化情報学」という学問の「入門（introduction）」にあたる科目**です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

2025年度の本授業では、「〈ヴァーチャル社会〉の文化哲学」というテーマで、現在の情報社会を〈ヴァーチャル社会〉として位置づけ、そこで生ずるさまざまな文化事象について哲学的に考察することから「文化情報学」にアプローチしていきます。

本授業で取り上げる〈ヴァーチャル社会〉は、哲学者・大黒岳彦氏（明治大学教授,1961-）の著書によって主題化されており、そこでは「ヴァーチャリティ（Virtuality）」をめぐって具体的なテーマが取り上げられています。例えば、「モード」、VR（Virtual Reality）、監視社会、メタヴァース、生成AIなどです。本授業では、これらに加えて、メタヴァースの議論から派生した「VTuber学」や「VTuberの哲学」まで視野に入れて〈ヴァーチャル社会〉の文化哲学を考えていきます。

《授業の目的》
本科目では、「〈ヴァーチャル社会〉の文化哲学」に関する大黒氏のテキストを読むことを通じて、現在の情報社会で生じている文化事象について考えていきます。

【授業の意義】
本科目の意義は、「文化情報学」を構築するにあたって、私たちが、「いかにして〈ヴァーチャリティ社会〉を行き抜くか〉という実践的な問いについて、各自が自らの生き方を反省的に考察することにあります。

【到達目標】
(1) 本科目の到達目標は、現代社会を〈ヴァーチャル社会〉として捉えることによって、現代の情報文化の中で、私たちがどのように〈ヴァーチャリティ〉と関わっていくかを考えるを身につけることを目指します。
(2) 情報哲学のテキストを哲学的に読むことができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は、基本的に講義形式で行います。
(1) テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みます。
(2) 受講生各自の授業内容に関する理解を確認するために、リアクションペーパーを用います。
(3) リアクションペーパーの内容について、ディスカッションすることも考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第2回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(1)	0. はじめに a. 情報社会とは何か b. ヴァーチャル社会の変容
第3回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(2)	1. アマゾン・ロジスティックス革命と「物流」の終焉 a. アマゾンは何を変えたか b.「流通」の社会哲学
第4回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(3)	2.「モード」の終焉と記号の変容 a. モードの歴史的展開 b. モードから記号へ
第5回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(4)	3. 情報社会の〈こころ〉 a.「引きこもり」から「コミュ障」へ b.「社会幻想」と情報社会の〈こころ〉
第6回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(5)	4. 身体データとコントロール社会 a. 情報社会と監視 b. 身体と監視 c. 監視社会からコントロール社会へ
第7回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(6)	5. VR革命とリアリティの転換 a. VRの技術的次元 b. VRの社会的次元 C. VRの思想的次元
第8回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(1)	6.〈情報的世界観〉とは何か
第9回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(2)	7. ウェーバー社会理論の深層構造と社会の〈自己記述〉 a.　ウェーバー社会理論とは何か b.　ウェーバーの社会構成プログラム
第10回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(3)	8. アクターネットワーク理論と社会システム論 ・ラトゥールのアクターネットワーク理論とは何か
第11回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(4)	9.　メタヴァースと〈ヴァーチャル社会〉① a. メタヴァースとは何か b.〈ヴァーチャル社会〉とは何か
第12回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(5)	10. メタヴァースとヴァーチャル社会② a. VTuber学とは何か b. VTuberの哲学
第13回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解」(6)	11. 生成AIによる〈情報的世界観〉の開示 a. 生成AIの社会的本質 b.〈情報的世界観〉
第14回	まとめ	これまでの授業の総括――〈ヴァーチャル社会〉を生きるとはどういうことか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
① 大黒岳彦『ヴァーチャル社会の〈哲学〉――ビットコイン・VR・ポストトゥルース』、青土社、2018年
② 大黒岳彦『〈情報的世界観〉の哲学――量子コンピュータ・メタヴァース・生成AI』、青土社、2023年

【参考書】
① 金光秀和／吉永明弘編『3STEPシリーズ7 技術哲学』、昭和堂、2024年
② 岡本健　他編『VTuber学』、岩波書店、2024年
③ 山野弘樹『VTuberの哲学』、春秋社、2024年

【成績評価の方法と基準】
(1) テキストの読解などを行うことで授業の理解度を確認する。
(2) 学期末に試験（レポート）を課すことで、授業における達成度を測る。
(3) リアクションペーパーによって、授業に対する姿勢を問う。
※ 両者の結果から総合的に判断する。
三者の配分は、下記の通り。
(1) 小テスト・リアクションペーパーによる平常点（30％）
(2) 期末試験（70％）
※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータやタブレット（可能な限りスマートフォン）は、授業時間中に授業担当者が許可しない限り、原則として使用不可です。
・情報哲学を学ぶこと、情報機器を用いることは異なります。大学で学ぶために必要なのは五感と〈ひらめき〉(=直感・直観）であり、情報機器は「道具」（紙と筆記用具）の延長に過ぎません。

【その他の重要事項】
【注意点】
(1)「文化情報学」とは、**狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。**。
・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、**「文化情報」の「学」**を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。
(2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、**動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります**。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】
・概論としては内容も含めて授業は極めて難しいです。それゆえ、大人数にはならないとは思いますが、今流行りのVtuberなどに言及するからと言って、興味本位だけの人は、なるべく参加をご遠慮ください。
・**受講生数が多い場合は、教室のキャパシティーとは無関係に初回に選抜テストを実施します**。受講希望者は、初回の授業に必ず出席してください。
・議論は大いに推奨しますが、仲間同士の「私語」は厳禁です。居眠りは「受講拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】
【Outline and objectivies】

This course is an “introduction” to the study of “Informatics of culture” proposed by the Faculty of Intercultural communication. "Informatics of Culture" is the study of various cultural phenomena as cultural information.

In the 2025 academic year, under the theme of “Cultural Philosophy of Virtual Society,” we will position the current information society as a “virtual society” and approach “Informatics of Culture” by philosophically examining the various cultural phenomena that arise in this society.

The “virtual society” discussed in this class is the subject of a book written by philosopher Takehiko Daikoku (Professor at Meiji University, 1961-), in which he discusses specific themes related to “virtuality”. For example, “mode,” VR, surveillance society, metaverse, generative AI, and so on.

In this class, in addition to these, we will consider the cultural philosophy of “virtual society” with a view to “Theory of Vtubers” and “Philosophy of Vturber,” which are derived from the discussion of metaverse.

【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to examine a theory of visual culture.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

社会と美術

稲垣　立男

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、普段接する機会の少ない、先進的な表現領域に対する理解を深めるための入門的な授業です。この講義では、特に21世紀以降に関心を集めている社会と芸術との関係に焦点を当て、パフォーミング・アーツ、音楽、建築などの表象の世界の様々な事例を参照し、社会と芸術の接点や関係性について探求します。
本授業は、「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」という2つのテーマで構成されており、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。
第一部　「近現代の芸術史と理論」では、18世紀以降から21世紀までの美術史と理論を包括的に学び、芸術表現の変遷とその背後にある思想や理論を探求します。
第二部　「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】
近現代の美術史と現代社会と美術に関する課題の事例を紹介していきます。近現代美術史の基本を理解すること、各時代の社会的課題と芸術との関連を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式により授業を行います。
授業当日の流れ（重要）
1.　指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2.　資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3.　サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4.　授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。
授業の方法
　授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40－60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題
　受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
　一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近代美術の誕生 古典主義、ロマン派、写実主義、印象派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派などの芸術運動は、単なる美的表現にとどまらず、社会の変動や文化の転換を反映し、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では、これらの芸術運動を通して、近代社会の多様性や複雑性に迫り、芸術が社会と相互の作用について学んでいきます。
第3回	アバンギャルドの時代Ⅰ フォービズム、表現主義、キュビズム	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイディアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第4回	アバンギャルドの時代Ⅱ 未来派、ダダイズム シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて、またロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて学びます。この時代登場した芸術運動は、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような新しいアイディアが登場します。
第5回	ワークショップ1 単元の復習とワークショップ	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代Ⅰ、アバンギャルドの時代Ⅱの復習及びワークショップを行います。

第6回	第二次世界大戦と戦後アメリカ美術 抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート	第二次世界大戦により、ヨーロッパ各地は大きなダメージを受け、芸術の中心地としての地位をアメリカに譲ることとなりました。アメリカではその経済力を背景に、現代芸術の躍動的な拠点となり、さまざまな芸術運動が登場します。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。
第7回	1960年代の市民運動と新しい動向 フルクサス、ハプニング、ビデオアートミニマリズム、コンセプチュアルアート、ランド・アート、アルテ・ポーヴェラ	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。1960年代の芸術シーンでは、伝統的な絵画や彫刻に留まらず、さまざまな新しい表現手法が登場しました。物質生よりも思想や概念に焦点を当てたミニマルアートやコンセプチュアルアート、ハプニングやパフォーマンスアートは身体や行為を介して会への関与をするなど、新しい芸術の動向が登場します。
第8回	多文化の時代 ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術 、ソーシャリー・エンゲージドアート	1989年にベルリンの壁が崩壊して東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、1980年代以降アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャリズムにより生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント、ヤング・ブリティッシュ・アーティスト」（YBA）とリレーショナルアートについての理解を深めます。21世紀に入り、芸術はますます社会に関与する方向へと進化しています。ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスといった社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
第9回	ワークショップ2 ・単元の復習とワークショップ	戦後アメリカ美術、1960年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。
第10回	政治とアート 退廃芸術展と大ドイツ展、戦争画、東日本大震災とアート、表現の不自由展	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることになります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争、文化政策の変化など、政治とアートについてプロパガンダ、社会主義リアリズム、ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻、表現の不自由展などの具体的な事例を通じて、アートが政治的な状況にどのように対応し、影響を与えてきたのかについて理解します。
第11回	ジェンダーとアート	社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会的な枠組みを拡大し、偏見や差別に対抗するための意識を喚起する役割を担い、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
第12回	環境とアート	私たちは古くから自然を観察し、芸術作品の主題としてきました。自然が提供する様々な風景や生態系は、画家や彫刻家などのアーティストにとって永遠のインスピレーション源となっています。また、19世紀の自然主義の考え方や、近年のランドアートの試みなど、自然は芸術において重要な役割を果たしてきました。しかし、近年では地球規模での環境問題が深刻化し、私たちは自然との関係性を再評価せざるを得なくなっています。地球の温暖化、生態系の破壊、資源の枯渇など、環境問題は私たちの生活に直接関わるものとして認識されるようになりました。地球温暖と関連するエネルギー問題は、世界の大きな課題となっており、日本においては東日本大震災をきっかけとした自然災害と原発問題が今でも続いています。 アートの世界では環境問題への関心を高め、作品を通じて社会に対話を呼びかけます。アートを通じた環境問題へのアプローチは、単なる美的な観点だけでなく、社会的な意識を喚起し、持続可能な社会を喚起します。
第13回	感染症の時代	2020年以降、私たちは新型コロナウィルス感染症の拡大という未曾有の状況に直面しました。現在では、私たちにとってパンデミックはすでに少し以前にあった出来事のように感じています。過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症が引き起こす社会的課題は、その時代背景や科学技術の進歩によって異なる側面を持ちます。アートはその時代の複雑な感情や社会的な変化を反映してきました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。
第14回	ワークショップ3 単元の復習、ワークショップ	14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.
1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.
2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.
Learning Objectives
Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60%or more of the achievement target of this class will be accepted.

LIT200GA（文学 / Literature 200）

言語文化概論

衣笠　正晃

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、20世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】
1）テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
2）言語（ことば）と文化・社会との密接なかかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
3）学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
各回とも、出席者がテキストおよび事前配付資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。
授業形式は講義が中心となります。皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、原則として毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。リアクションペーパーのコメントや質問については次回授業で取り上げてフィードバックをおこないます。また復習を兼ねたミニレポートを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／イントロダクション	授業計画の説明＋4つの「ポスト状況」と現代思想の問い（テキスト第1章）（リアルタイムオンラインで実施）
2	19世紀から20世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
3	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第2章）
4	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第4章）
5	ことばとしての文化	構造主義革命と一般記号学（テキスト第5章）
6	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第7章）
7	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第8章）
8	メディア・テクノロジーと文化産業(1)	マクルーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第9章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業(2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第10章）
10	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第13章
11	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第14章
12	「人文知」のあり方の転換(1)	20世紀思想の問題圏（テキスト第15章）
13	「人文知」のあり方の転換(2)	ポスト・ヒューマニズムをめぐって
14	学期授業の総括	学期末試験・振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも教員の指示に従ってテキストや事前配付資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までに作成し提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・石田英敬『現代思想の教科書――世界を考える知の地平15章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010年）
※上記テキスト以外にも随時プリントを配付・使用します。

【参考書】
・岡本裕一朗『フランス現代思想史――構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015年）
・石田英敬『記号論講義――日常生活批判のためのレッスン』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2020年）
※その他、授業で随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末試験（50％）をあわせて評価します。評価にあたっては以下の4点の達成度にもとづいて判断します。
1）テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
2）思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
3）授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもてているか。
4）授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。
※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
履修者による自発的・主体的な問題発見や取り組みをさらに促すように努めたい。またクラス規模を考慮したうえで、出席者による議論や意見交換の機会を取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業資料の配付や提出物の回収、授業に関する連絡など、学期を通じて学習支援システムを利用します。小テスト等で利用することがありますので、指示があった場合は授業にデバイス端末（PCやタブレットなど）を持参してください。

【その他の重要事項】
・初回授業はリアルタイムオンラインで実施します（詳細は秋学期開始時に学習支援システムに掲示します）。万一受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題にもとづき選抜をおこないます。
・履修者数などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。

【Outline (in English)】
This course outlines the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called “linguistic turn" on the humanities. The goals of this course are to obtain basic knowledge of 20th-century cultural and social theories and theorists, to understand the inextricable relationship between language and culture, and to have a critical awareness toward the issues of the contemporary world. Students are expected to come to class well prepared by completing the required assignments; the required study time is more than four hours per class. The overall grade will be decided based on class participation (50%) and the final examination (50%).

PHL200GA（哲学 / Philosophy 200）

現代思想

森村　修

サブタイトル：**「生まれてこない方がよかった」とはどういうことか？ ——反出生主義入門**
配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】
本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。
2025年度は、**デイヴィッド・ベネター（1966-）**　の**『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』（2006/邦訳新訂版2024）**を通じて、世界中にさまざまな影響を与えた思想としての「反出生主義」について哲学的に考察する。その際に、ベネターのテキストを十分に理解するために、ベネターのテキストを翻訳した小島和男氏（学習院大学教授）の『反出生主義入門——「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか』（2024）を用いて授業を進める。

【到達目標】
（1）「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができようになる。
（2）本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
基本的には講義形式で授業を行いながら、必要に応じて、学生との議論を行う。その際にテキストを読みながら、テキストの理解を深める。また、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション—	・授業の概要説明 ・デヴィッド・ベネターとは誰か？
2	『反出生主義入門』①	Ⅰ. 反出生主義にふみ込む前に① 1. なぜ倫理の問題を考えなければならないのか？ 2. 中絶は不道徳か否か？
3	『反出生主義入門』②	Ⅰ. 反出生主義にふみ込む前に② 3. 未来への責任はあるか？
4	『反出生主義入門』③	Ⅱ.「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ① 1.『生まれてこないほうが良かった』全体の構成 2. 可能的存在についての価値判断
5	『反出生主義入門』④	Ⅱ.「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ② 3. 基本的非対称性とその説明力
6	『反出生主義入門』⑤	Ⅱ.「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ③ 4. 快が苦を打ち消せば良いのではないかという反論
7	『反出生主義入門』⑥	Ⅱ.「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ④ 5. 人生の質の評価と世界における苦痛
8	『反出生主義入門』⑦	Ⅱ.「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ⑤ 6. 子どもを作る権利について 7. 妊娠中絶賛成派
9	『反出生主義入門』⑧	Ⅱ.「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ⑥ 8. 段階的絶滅 9. 子どもを持たないことへの偏見とベネターの思い
10	『反出生主義入門』⑨	Ⅲ. 反出生主義について考えるうえで重要なこと① 1.『生まれてこないほうが良かった』がミソジニーである理由
11	『反出生主義入門』⑩	Ⅲ. 反出生主義について考えるうえで重要なこと② 2. 自殺について
12	『反出生主義入門』⑪	Ⅲ. 反出生主義について考えるうえで重要なこと③ 3. 親を責めても良いのか？
13	『反出生主義入門』⑫	Ⅲ. 反出生主義について考えるうえで重要なこと④ 4. 子どもを作っては絶対にいけないのか？ 5.「始める価値」と「続ける価値」の違いをベネターが強調しない理由
14	反出生主義とは何だったのか——総括	Ⅲ. 反出生主義について考えるうえで重要なこと⑤ 6. パズル解きか実存的な自分の問題か？ 7. 反出生主義と教育、それと養子について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
(1) デイヴィッド・ベネター『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』、すずさわ書店、2024年
(2) 小島和男『反出生主義入門——「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか、青土社、2024年

【参考書】
(1) David Benatar, *Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence*,Harvard University Press, 2006.
(2)
※ テキスト以外の参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
①期末試験・レポート（30％）、授業内レポート・レジュメ（30％）、平常点（40％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
※ 成績評価の方法と基準については、あくまで対面式授業の場合であり、リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法ならびに基準が変更されるので注意が必要。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
※ リアルタイム・オンライン授業に際しては、インターネット環境が整っていること、そのための機材が用意されていることが必須である。

【その他の重要事項】
1. 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
2. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
3. テキストの選定や興味については学生の要望に応えることもありうるので、第1回目の授業には必ず参加すること。

【Outline (in English)】
The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about origin and essence of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the thought of modern trends. The purpose of this class is to philosophically examine “anti-natalism” through David Benatar’s (1966-) “Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence” (2006/New Revised Japanese Edition 2024).
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to think philosophically.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%,in class contribution: 30%.

HUM200GA（その他の人文学 / humanities 200）

国際文化協力

松本　悟

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**100名前後が望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、１、２年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】
（1）国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
（2）国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
（3）「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマついて説明できる。
（4）基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施するが、学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション―国際文化協力とは―	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力―期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後課題は、法政大学の図書館HPのデーターベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標４に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力―イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】
毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%
・授業後課題は設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）
・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けている。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・毎回グループ討議と発表を取り入れ、教員がフィードバックをする。学生から学びが大きいと好評。

【学生が準備すべき機器他】
・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】
NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to;
1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA（政治学 / Politics 200）

平和学

松本　悟

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】
（1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って実例を説明できる。
（2）国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
（3）基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務などでやむを得ない場合はオンデマンド授業を行う場合もある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高
めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとすることについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	２つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後課題は、法政大学の図書館HPのデーターベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内討論への参加度、授業後課題）50%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・学生から学びが大きいというフィードバックが多いので、毎回グループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・国際開発協力ＮＧＯやＮＨＫ記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA（社会学 / Sociology 200）

宗教と社会

佐々木　一惠

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**150名（超えた場合は、選抜の可能性あり）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】
１．宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
２．宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、２週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月10日（木）までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日（木）に学習支援システムからアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月12日（土）の午前10時です。4月13日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
●歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。
●毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。
●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。
4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連していいるのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・ 紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。
なお、本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
○井上順孝『宗教社会学を学ぶ人のために』（ミネルヴァ書房、2016年）。
○伊藤雅之『現代スピリチュアリティ文化論：ヨーガ、マインドフルネスからポジティブ心理学まで』（明石書店、2021年）。
○櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教社会学』（ミネルヴァ書房、2007年）。
○ロバート・D.・パットナム、デイヴィッド・E.・キャンベル『アメリカの恩寵ー宗教はいかに社会を分かち、むすびつけるか』（柏書房、2019年）。
○石井研士『メディアと宗教』（弘文堂、2024年）。

○望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009年）。
○諸岡了介『世俗化論の生成：宗教という問いのゆくえ』（ミネルヴァ書房、2023年）。
○棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
○島薗進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
○田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
○タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）。
○ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）。
○ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）。
○中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
○磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代的カテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
○『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。
○『諸宗教の倫理学（全5巻）』（九州大学出版会、1992～2006年）。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー　40　％
期末試験　　60 ％
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器。

【その他の重要事項】
●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。
●受講を希望する人は4月10日（木）までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日（木）に学習支援システムからアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月12日（土）の午前10時です。4月13日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。
●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】
The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.
Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.
The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

LIN300GA（言語学 / Linguistics 300）

世界の言語Ⅰ

輿石　哲哉

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の数多くの言語のうち，この授業では，インド・ヨーロッパ語族（印欧語族）の言語について考察していきます．この語族の言語は世界中に広がっていて，今では全ての大陸で話されています．この語族がどのようにしてできたのか，どのようにこの語族の言語が変化してきたのか，特徴はどのようなものか，世界の言語の中でどのような位置にあるのかについて知ることが，本科目のテーマです．

【到達目標】
具体的には，以下の５つです．
1）インド・ヨーロッパ語族の言語について，その全体像を把握すること．
2）インド・ヨーロッパ語族について，その歴史を知ること．
3）インド・ヨーロッパ語族の言語の研究の方法や背景について知ること．
4）他の語族とインド・ヨーロッパ語族の関係について知ること．
5）一般的に，言語の歴史・構造について，知識を得ること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業は，基本的にシラバスに基づき，対面の講義形式で進めていきます．履修者数，履修者の知識等により，内容には修正を加えることがあることを予めご了解ください．
・授業は全て事前に用意したスライドを用いたプレゼン形式で行います．同スライドは予めダウンロード可能です．さらに，背景が白いものを事前に用意しそれを事前にプリントアウトした上で授業に持参して書き込みを作れば，自分だけのノートとしての機能をもたせることも可能です．
・「学習支援システム」を多用し，事前，事後の学習も可能な限り支援していきます．
・課題等に対するフィードバックは，基本的に「学習支援システム」を用いますが，状況に応じて，個人メール等で行うこともあります．
・各回に可能な限り前回のフィードバックを行い，さらに最終回では，それまでの授業のまとめ，復習を行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・はじめに ・ヨーロッパとは？ ・最近のヨーロッパの傾向 ・比較の視点	授業のやり方について，概略を説明し，ヨーロッパについて学び，比較することの意味について学びます．
2	・地球単位で言語を考える ・英語で-aで終わる語 ・ある童話から ・欧米と日本	地球単位で言語を考えることを実際の例をいくつか見ながら考えます．
3	・Parallel textの意味	言語を比較する際の材料として，parallel textと呼ばれるものを使用することがあります．様々な例を使い，実際に言語の比較を行っていきます．
4	・印欧学の発達 ・印欧祖語 ・歴史的な背景	印欧学という学問がどのように発達してきたか，歴史的な背景を見ながら考えていきます．
5	・言語間の類似 ・音対応 ・貨幣と切手 ・個々の語派	言語観の類似をどのように説明するか考えていきます．印欧語族の語派について見ていきます．初回は，Indo-Iranian, Armenian, Albanianについてお話します．
6	・個々の語派（続き）	印欧語族の個々の語派について，引き続き見ていきます．今回は，Baltic, Slavic, Hittite, Tocharian, Hellenic, Italicの各語派についてお話します．
7	・英語へのラテン語の影響 ・個々の語派（続き） ・非印欧諸語 ・Grimm's Law	最初，英語へのラテン語の影響を見た後，語派の話を続けます．今回はCeltic, Germanicについて見ます．さらに，印欧語族でない言語についても学びます．その後，Grimm's Lawについて話し始めます．
8	・Grimm's Law（続き） ・Verner's Law ・Centum vs. Satem ・音対応と言語再建	Grimm's LawとVerner's Lawについて学び，さらに印欧語族を2分すると言われるCentum-Satem Splitについてお話します．それから音対応と言語再建について学びます．
9	・言語の語彙 ・歯擦音化 ・The letter C in English	言語の語彙の成り立ちについて見た後，自然な音変化の例として歯擦音化について考察します．英語のCという文字の歴史を例に取り，歯擦音化を例証します．
10	・ヨーロッパの地勢 ・印欧祖語はいつ話されていたか？	印欧語族の発達に，ヨーロッパの地勢が及ぼした影響について考察し，その後，印欧祖語の「いつ」問題について考察します．
11	・印欧祖語はどこで話されていたか？	印欧祖語の「どこ」問題について，最近の印欧学の成果を解説しながら考察します．
12	・印欧祖語はどこで話されていたか？（続き） ・印欧祖語の史的発達	前回に引き続き，印欧祖語の「どこ」問題について，最近の印欧学の成果を解説しながら考察しますその後，印欧祖語の発達の経緯を見ていきます．
13	・印欧祖語の史的発達（続き） ヨーロッパ早わかり 現在の欧州言語事情	印欧祖語がどのように発達を遂げたか，引き続きお話します．ヨーロッパの言語文化事情をまとめ，最後に現在の欧州言語事情に触れます．
14	・まとめ	最新の業績について少しだけ触れ，これまでの授業を総括します．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，前回の内容を復習しながら，新しい内容に進みます．基本的な用語を習得し，方法論を理解しながら，参考文献等を読んで授業に臨んでください．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものを考えてはいません．適宜，プリントなどを配布，提供いたします．

【参考書】
授業中，随時指定いたしますが，とりあえず以下のものを挙げておきます．
泉井久之助 (1968).『ヨーロッパの言語』．東京：岩波書店.［古いですがよい本です．基本的にこの本の内容は，かなり本科目の内容と重なります．］
風間喜代三 (1978).『言語学の誕生』．東京：岩波書店.
マルティネ，アンドレ，神山孝夫訳 (2003).『「印欧人」のことば誌—比較言語学概説—』．東京：ひつじ書房.
Chapters 1 &2 from Denning, K, B. Kessler, and William R. Leben (2007). *English Vocabulary Elements*. Oxford: Oxford University Press.
Chapters 2 &3 from Stockwell, Robert &Donka Minkova (2001). *English Words: History and Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
Diamond, Jared (1997). *Guns, Germs and Steel*. London: Caggo & Windus.

【成績評価の方法と基準】
試験の結果(100%)に基づき成績を出します．人数が多すぎる場合，授業への参加度をみることは現実的ではないため，現段階では平常点は設定していませんが，人数を見て場合によっては平常点を加味します．この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
隔年開講のため，特にありません．

【学生が準備すべき機器他】
パソコン，スクリーン等を用います．

【その他の重要事項】
高校の時に用いた，いわゆる学習者用英和辞書ではなく，語源欄が充実している英語の辞書を用意して，関連の語などについて調べるようにしてください．授業でもお話ししますが，英語は西欧の諸言語を知る上で，非常に重要な言語ですので，何かと授業でも話す機会が多くなります．

【カリキュラム上の位置づけ】
本科目は，学部専門教育科目の（4）言語科目に属し，ことばを成り立たせているさまざまな要素について学ぶものです．「世界の言語Ⅱ」と交替で隔年開講され，2年生以上が履修できます．

【Outline (in English)】
【Course Outline）】【Learning Objectives】
The objective of this course is to get a general idea of Indo-European languages.Specifically, by the end of the course, you should:
- become acquainted with the European languages in general,
- have enough knowledge about the their historical background,
- become acquainted with the basic knowledge about Indo-European studies and the backdrops of its development.
- have general knowledge about the relationship between Indo-European languages and other language families.
- begin to develop a general knowledge of linguistic history and structure.
【Learning Activities Outside of Classroom】

Each class session starts by reviewing the previous class session before new contents are introduced. Try to understand the basic facts and concepts before coming Tao the the class session.
【Grading Criteria /Policy】
Grades are given according to the result of the one big final exam.

LIN300GA（言語学 / Linguistics 300）

世界の言語Ⅱ

内山　政春

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・この授業は「世界の言語Ⅰ」と交替で隔年開講されています（ただし今年度は両者を同時に開講します）.「世界の言語Ⅰ」がヨーロッパ諸言語に関する内容であるのに対して，この授業ではアジアの言語，特に東アジア漢字文化圏各国（日本，南北朝鮮，中国，台湾，ベトナム）の言語を中心に取り上げたいと思います．しかしそれに限らず，言語をとりまくさまざまな現象に関して言及しながら，みなさんの学習言語が何語であれ，その学習に少しでも役立つような話をしたいと思っています．人工言語として知られるエスペラントについても取り上げる予定です.

【到達目標】
・言語について公平な視点をもてるようになること（一例をあげれば「日本語は非論理的，英語は論理的」のような俗説に惑わされないようになること）．そして学習言語と日本語をさまざまな側面から対照できる力をつけること．以上のことを目標にして履修してください.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・基本的には講義形式で行ないますが，ＳＡ先の言語に関して言及するときは，該当する学生に質問することもあるでしょう．毎回のみなさんの感想や質問は，次回の授業で言及する予定です.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	言語と方言―ひとつの「ことば」とは―	・世界の国家数と言語数 ・言語と方言 ・日本の言語
2	言語の分類―やさしい言語と難しい言語―	・やさしい言語と難しい言語 ・系統論による分類 ・類型論による分類 ・外国語の難しさと文法
3	音声と音素―同じ「音」と異なる「音」―	・日本語のローマ字表記 ・音声と音素 ・ローマ字表記と音素 ・外国語学習と音
4	言語と文字―文字は「音」をあらわすものか―	・言語数と文字数 ・文字の系統と分類 ・ローマ字の広がり ・文字の目的
5	漢字と漢字文化圏	・言語としての漢字文化圏 ・中国語と漢字 ・漢字の伝播 ・表音文字の発達 ・漢字のしくみ ・形を失った漢字 ・漢字圏での固有名詞の読み方
6	中国語とその周辺１	・「中国語」とは？ ・「中国語」の表記
7	中国語とその周辺２	・「中国語」の用いられる地域 ・「中国語」は存在するか？
8	中国語とその周辺３	・中国語を用いる２つの国家
9	台湾の言語１	・台湾の中国語
10	台湾の言語２	・「多言語国家」としての台湾
11	朝鮮語とその周辺１	・朝鮮語の使用領域 ・言語と文字の名称 ・歴史と系統 ・朝鮮語の表記
12	朝鮮語とその周辺２	・ハングルの出現 ・近代の朝鮮語 ・戦後の朝鮮語 ・ハングルの海外「進出」 ・南北の朝鮮語のちがい ・語彙と文法
13	ヨーロッパの諸言語と文法カテゴリー	・ヨーロッパ諸言語の系統 ・ヨーロッパ諸言語の話者数 ・ヨーロッパ主要言語の語彙 ・語彙の借用 ・文法カテゴリー
14	エスペラント	・人工言語の試みとエスペラント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・ＳＡ先の言語はもちろん，その他の外国語にも，そして日本語にも，ことばと名のつくものに広く関心を持ってください．関連する本を積極的に読んでください.
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・特にありません.

【参考書】
・特に指定はしませんが，各項目に関して興味のある人は『言語学大辞典』（三省堂）を参照してください.

【成績評価の方法と基準】
・従来の対面授業では，毎回の授業の終わりに講義に関する感想や質問を書いてもらっていましたが，今回は授業では出席確認のみにし，感想や質問はHoppiiで提出してもらうことにしようと思います．その方が時間の余裕をもってまとまったことを書けると思うからです．リアクションペーパーの内容は最低字数を定め（200字），毎回の内容を総合して評価します（100%）．100点満点で60点以上を合格とします.
・あまりにも出席が少ない場合，リアクションペーパーの内容があまりにもいいかげんな場合には，毎回の提出評価の対象から外すこともあります.

【学生の意見等からの気づき】
・授業が始まっているのに遅刻者が教室にゾロゾロ入ってくると，他の学生の迷惑にもなり，授業の進行も遅れがちになります．授業開始の時点で学生が着席しているのは「あたりまえ」のことです．それが守れない人，また私語をする人は，他の学生に迷惑となりますので，受講しないでください.

【学生が準備すべき機器他】
・教員が準備した映像資料を見てもらいながら話を進めます.

【その他の重要事項】
・順序と内容に若干の変更がある可能性があります.

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire general knowledge about languages in Asia, especially East Asia, including Japan, Korea, China, Taiwan and Vietnam.
This course will also deals with so-called constructed language "Esperanto".
< Learning Objectives >
The goal of this course is to acquire a fair perspective on language.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to submit a reaction paper after class.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in the class will be desided based on your reaction papers.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

メディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Photoshopの応用テクニックをいろいろ学ぼう
PCを使ってのマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshopを基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつもの課題制作に取り組む。見やすい作品つくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Webやパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】
Photoshopの応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、ディジタルマルチメディアの特性を活かした**中級以上の作品制作**ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室において講義と実習を行う。
●作品制作の理論と技法(講義と実習)
・デザインの基礎とPhotoshopの応用技法
- 画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用
- レイヤー、マスク、フィルタの技法
- コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realisticな作品作りに必要な写真理論
- DTPに向けてのスキャナ、プリンタの利用法
●クリティーク（合評）と制作メモの提出
各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・デジタル写真のリタッチ
・ポスター作り（Photoshop＋大判プリンタ・Web）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・自由なテーマによる最終課題（Photoshop＋大判プリンタ・Web）
●大事にしたいこと
・誰もが自分だけのsomethingを持っている。みんなで学ぼう。
・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。
・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。
・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。
なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAPの原理(近接、反復、整列、コントラスト)を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前２回の講義内容と既存のPhotoshopの基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。
5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop CC）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Webのためのディジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Webアルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	第9回に引き続き、制作実習の後半。
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB, CMYKなどカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoToneなどの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディアPCを活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。
自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでディジタルカメラやスマートフォンを携行し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）：Adobe Photoshop5.5 and Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）：Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499
制作テキスト(CMYK変換、色域外警告について参照)：Adobe Photoshop Classroom in a Book (2022 release): ISBN-13: 978-0137621101
デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、
ISBN 4895630072

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「第三版 入門マルチメディア　ITで変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8を挙げておく。撮影技法については、キット　タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社(2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業参加の積極性,30%)、クリティーク(課題作品の相互批評,15%)、課題ならびにマルチメディア作品制作(35%)、ePortfolio(個人の作品集づくり,20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。2023年度は印刷出力に関し色域外警告の取り扱いとCMYKへの変換について説明内容を増補充実させた。また2022年度より継続的にPC実習機の問題解消に努めている。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。
素材撮影のためにデジタルカメラが必要、光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるディジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。

制作のためのフォトプリント用紙など課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。
提出作品はePortfolioにて保存公開する。

【その他の重要事項】
受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。
情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。
【資格を目指す人のために】本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。
写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshopの応用技法については本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」など。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野の研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Critique and review: 15%
Homework and in-class assignment: 35%
Individual e-Portfolio: 20%
You must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

メディアアートの世界

大嶋　良明

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう
本講義では芸術表現のためのプログラミング言語Processingのプログラム（スケッチ）基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつあるp5.js環境でのProessing流プログラムのWeb環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】
メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processingの制作環境での描画や対話機能を身に着け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。
IoTやMakerムーブメントなどWebと現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室において講義と実習を行う。
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
Processingプログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
なお，毎回の授業で小テストを実施し，質問を受け付ける．次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：Processing入門	Processingとは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processingの基礎（1）：簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題からProcessingプログラミングの基礎を習得する。
3	Processingの基礎（2）：基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processingの基礎（3）：変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース【制作課題１】	マウス追従、キーボード入力などユーザのGUI操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。【課題１】習得した技法を総合して写真コンテンツのWebを制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出【制作課題2：学習成果のまとめとWeb化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。【課題】学習成果を活用してProcessing作品を制作する。p5.jsによるWeb化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。
10	オブジェクト【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。【課題】学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON形式の外部データ、API経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。【課題】制作物の実装方法の構想発表。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduinoマイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるので、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアをProessing作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「Processingをはじめよう 第2版 (Make: PROJECTS)」、オライリージャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】
【Processing】
Daniel Shiffman (著), 尼岡 利崇 (翻訳)、「初めてのProcessing」、オライリージャパン(2018)、ISBN-13： 978-4873118611
【p5.jsプログラミング】
Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津貴之 (監修)「Generative Design with p5.js―ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ビー・エヌ・エヌ新社(2018)、ISBN-13: 978-4802510974
【メディアアートのためのプログラミング】
Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design ― Processingで切り拓く、デザインの新たな地平」、ビー・エヌ・エヌ新社(2016)、ISBN:978-4802510134
【ジェネラティブ・アート】
マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修), 沖 啓介 (翻訳)、「[普及版]ジェネラティブ・アート―Processingによる実践ガイド」、ビー・エヌ・エヌ新社(2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業参加の積極性,20%)、中間課題(30%)、最終課題(40%)、相互批評（10%）を目安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定しProcessingの可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できるPCとWeb環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。メディアアートの動向にも触れる機会としたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室において授業を行う。各自のPCや携帯端末を実習の検証に活用する。
ePortfolio(HOPS)に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】
自分でさまざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。
情報系教員によるクラス授業であり、Webを基盤とするICTの活用実習、ならびに発見型学習を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援する。**

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。
関連科目：「ディジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【実務経験のある教員による授業】
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in
contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 20%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 40%
Critique: 10%

Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

LANe300GA（英語 / English language education 300）

英語アプリケーションⅡ

Kregg Johnston

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course aims to help students accomplish the following: 1) develop their knowledge of key vocabulary and concepts of economic theory with particular emphasis on microeconomics, 2) understand and be able to explain microeconomic models both verbally and graphically, and 3) analyze how changes in economic factors can affect individuals and entities within the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
1. Students read individual chapters in the book.
2. A teacher-led discussion on the material from each chapter is held.
3. Student-led discussions in small groups covering self-check questions, review questions, and critical thinking questions are held.
4. End of chapter quizzes are taken.
5. Short writing assignments on topics covered in class (though not for every chapter) are given.
6. Student presentations on topics covered in chapters (schedule and class size permitting) are assigned and given.
Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Welcome to Economics: Why Economics is Important/ Macroeconomics & Microeconomics	English reading and lecture and on why it is important for everyone to be able to understand Economics.
Week 3	Welcome to Economics: Economic Theories &Models/ Economic Systems	English reading, discussion and written assignment on economic systems.
Week 4	Choice in a World of Scarcity: Choice & Budget Constraints/ Production Possibilities Frontier	English reading and lecture on the concepts of scarcity and the choices people and companies must make because of limited budgets.
Week 5	Choice in a World of Scarcity: Social Choices &Objections to the Economic Approach	English reading, discussion and written assignment on economic &social choices.
Week 6	Demand &Supply: Demand, Supply, & Equilibrium/Changes to Equilibrium	English reading and lecture on the concepts of supply and demand.
Week 7	Demand &Supply: Student Presentations	Students make presentations on real world experiences with demand &supply using vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	Elasticity: Price Elasticity of Demand	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of demand.
Week 9	Elasticity: Price Elasticity of Supply	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of supply.
Week 10	Cost &Industry Structure: Explicit & Implicit Costs/ Accounting & Economic Profit	English reading and lecture on the concepts of cost, revenue, and profit.
Week 11	Cost &Industry Structure : The Structure of Costs in the Short Run &Long Run	English reading, discussion and written assignment on short & long run costs.
Week 12	Perfect Competition: Perfect Competition & Firm Output Decisions	English reading and lecture on the concepts of market competition.
Week 13	Perfect Competition: Entry &Exit Decisions in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on why companies open or close.
Week 14	Examination/ Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. Read the assigned chapters in the book.
2. Complete the assigned self-check &review questions at the end of each chapter.
3. Prepare for regular quizzes after finishing each chapter.
4. Come to class ready to participate actively in each class by reading the material, completing the homework assignments, and ask questions or offer own opinions in English on topics covered in class.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
OpenStax, Principles of Microeconomics. OpenStax. 19 March 2014. < http://cnx.org/content/col11627/latest/> .

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
· Quizzes 50%
· Participation 20%
· Homework 15%
· Written Assignments 15%
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
More practice on using economic terminology and expressing own opinions on economic topics.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a digital device to class, such as a computer or ipad so that they can view the material in the textbook, or print out each unit and bring it to class. The textbook should be downloaded so that it can be viewed or accessed easily during class.

【その他の重要事項】
Class size is limited to 24 students. If the number of students exceeds the number of seats available, students will be screened based on the level check given in the first class. Students hoping to take the class must attend the first class in order to ensure that they can get a seat. Students who don't attend the 2nd class after attending the 1st will be assumed to have dropped the course. Regular attendance is required to pass the class!

LANe300GA（英語 / English language education 300）

英語アプリケーションⅢ

ウォルター カズマー

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to talk about their experiences abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Youth Culture: Examining aspects of youth trends such as tattoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.	English lecture, and reading on trends in youth culture such as tattoos, piercings, selfies, and various type of social media. Followed by question and answer session, and small group discussions on these trends.
Week 3	Youth Employment: Where does the money go? Youth shopping trends for services and products	English lecture, and reading on youth trends in working styles, and new ways to shop and spend money. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 4	Elderly Trends: Shopping for health, plastic surgery and Internet dating	English lecture, and reading on trends among older people including plastic surgery and internet dating. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 5	Careers and Employment: Working life What is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Research Habits: Conducting group research-different sharing tips	English lecture, reading and small group discussions on new trends in working and career styles. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.
Week 6	Alternative Career Tracks: Unusual fields for employment Outlining of Presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions on alternative forms of employment. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Medical Advances: How medical technology is shaping our world of diseases &viruses Presentation Tip— Explanation of Structure: Introduction/Body/ Conclusion	English lecture, reading and group discussion on the effects of new medical technologies. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Medical Research: Big pharma and how medicine changes our reality Presentation Tip— Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on the implications of large-scale for profit medical research. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do when making a presentation.
Week 9	Health Issues: Diet considerations for life stages Presentation Tip— Use of Slides: Slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how people diets change at different times during a person's life. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Mental Health Considerations: Overworking, group and relationship stresses Presentation Tip— Group Work: Making sure group members pull their weigh and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on stresses caused by relationship at work. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentation.
Week 11	Technology in Our Blood: Technology changes Uber/Lyft, Yelp/ Square, Meet up Presentation Tip— Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions on new technologies creating the sharing society. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	Youth Trend Presentations: Presentations and discussions of youth trend themes	Student Group Presentations on youth trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	Elderly Presentations: Presentations and discussions of elderly trend themes	Student Group Presentations on elderly trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course Overview Discussions: Discussion of life themes used in the semester	Recap lecture and group discussion of the social and technological themes cover in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework, blog work, some presentation preparation.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
75%Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25%Short Presentations

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
More pre-discussion work would be useful.

【学生が準備すべき機器他】
paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】
Contact
kasmersensei@gmail.com

LANe300GA（英語 / English language education 300）

英語アプリケーションⅣ

ウォルター カズマー

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：**〇**
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Describing Your Life: Language activities centering around student life	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing student centered life experiences.
Week 3	Describing Other Lives: Language activities centering around family and acquaintance routines	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing the daily routines and life experiences of other people.
Week 4	Explaining Customs in Your Country: Holidays, national/ regional habits	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on Japanese customs, holidays, and regional or national habits.
Week 5	Explaining Customs in Selected Asian Countries: Holidays, national/regional habits Research habits: Conducting group research—different sharing tips	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on different Asian customs, holidays, and regional or national habits. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.
Week 6	Explaining Customs in Selected Western European Countries: Holidays, national/ regional habits Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions of some Western European holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Discussion of Asian and Western National Differences: National holidays, national/ regional habits Presentation Tip—Explanation of Structure: Introduction/Body/ Conclusion	English lecture, reading and group discussion of difference between Asian and Western holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Discussion of South American Customs in Selected Countries: Discussing cultural difference Presentation Tip—Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on some South American customs. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do and not do when making a presentation.
Week 9	Discussing Food Habits: Diet and how it affects customs Presentation Tip—Use of Slides: Slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how customs are affected by people's diets and food supplies. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Habits of Selected Parts of Africa: National holidays, national/regional habits Presentation Tip—Group Work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on some African national holidays and habits. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentations.
Week 11	Examination of Sports by Continent in Selected Countries: Sports comparison by types, number of players Presentation tip—Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions of sports in some countries and they can differ. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	African Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What would you do? — Culture clash examples	Student Group Presentations on African cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	South American Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What are the rules? — Relook at sports, but ones with unusual rules	Student Group Presentations on South American cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course Overview Discussion of Contrasting Presentation Themes: Discussion of cultural contrasts from country to country and region to region	Recap lecture and group discussion of the cultural and regional themes covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework, blog work, some presentation preparation.　The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
75%Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25%Short Presentations
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
More pre-discussion work.

【学生が準備すべき機器他】
paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】
Contact email
kasmersensei@gmail.com

LANe300GA（英語 / English language education 300）

英語アプリケーションⅤ

ジョナサン　エイブル

配当年次／単位：**3～4年／２単位**
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The aim of this application course is to acquaint students with certain social /global topics and for the students to communicate their thoughts on the topics with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pair work and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pair work practice of a preassigned conversation, (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic, (d) a news item pair work reading and listening, and (e) a task-based pair work activity. Students' progress in pair work activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20%of the students' final grade will be based on active class participation. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'What personality type are you?' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #1 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Money &Shopping' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #1
Week 3	Topic: 'Single Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Some artists are misunderstood!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #2 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Single Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #2
Week 4	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'History is my best subject!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #3 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Age and Youth' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #3
Week 5	Topic: 'What if…?'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I'm against animal testing!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #4 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'What if…?' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #4
Week 6	Topic: 'Children'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #5 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Children' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #5
Week 7	Topic: 'Cities'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'The 60s counterculture!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #6 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Cities' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #6
Week 8	Topic: 'University Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'After all, it's only a game!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #7 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'University Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #7
Week 9	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #8 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Cellphones' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #8
Week 10	Topic: 'Travel'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Does capital punishment work?' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #9 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Travel' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #9

Week 11	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'My Cat is Cool!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #10 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Teenagers' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #10
Week 12	Topic: 'Home'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Staying Fit' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #11 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Home' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #11
Week 13	Topic: 'Time'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #12 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Time' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Examination/ Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
・Final Exam – 30%
・Weekly Conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests – 40%
・Class Participation – 20%
・Word-up Tests – 10%
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

LANe300GA（英語 / English language education 300）

英語アプリケーションⅦ

ANDREW JONES

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：**〇**
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s and continuing into the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The Italian Renaissance - The Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Italian Renaissance - The High Renaissance: Michelangelo, Leonardo	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 4	Presentation style - Presentation structure, posture, eye contact, gestures	English reading, and class discussion on good presentation style.
Week 5	The Italian Renaissance - Research presentation topic, draft scripts	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 6	The Italian Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 7	The Italian Renaissance - Student presentations	Students make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 9	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: Historical context	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 10	Presentation style - Creating effective visuals and presenting them effectively	English reading, and class discussion on effective presentation of visual aids.
Week 11	The Netherlandish Renaissance - Research presentation topic, draft script	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 12	The Netherlandish Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 13	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	First half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 14	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	Second half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide course material.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
60%Presentations, students will give two presentations during the course (2 x 30%).
20%Course participation, enthusiasm and willingness to speak English in class.
20%Portfolio of notes taken during lectures.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

LANe300GA（英語 / English language education 300）

英語アプリケーションⅧ

DANIEL G DUSZA

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse using a variety of communication methods related to presentations and discussions of both Japanese and foreign cultural topics. Students will discuss and present from a selection of topics provided in each class. Following each presentation, there will be a brief lecture and Q&A session. Students will then write a reflection, which will be submitted as homework.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is to discuss, research, present, and report cultural topics of interest at a level for academic writing or presentation. Students will have opportunities to practice and improve these skills in each class. Cultural issues will be drawn predominantly from news and advertising media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
第2回	Presentation Introduction: How to format and deliver an academic presentation	Introduction to key vocabulary in presentations: cohesive devices, transition statements, and signposting.
第3回	Traditional Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind Acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第4回	Contemporary Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第5回	Future Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind Acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第6回	Present Theme of Choice	Student skills will be assessed by delivering two presentation summaries in class. The first will be chosen from one of their previous works, and the second will be from a unique set of themes.
第7回	National Festivals and Events (Descriptive)	Students prepare a descriptive presentation of a chosen national event, depending on their nationality, present it to the group, and fill out a reflection of what they have learned from their peers.
第8回	International Festivals and Events (Comparative)	Students prepare a comparative presentation of a favorite national event, depending on their nationality, present it to the group, and fill out a reflection of what they have learned from their peers. This presentation has a research component.
第9回	National and International Customs (Process)	Students prepare a presentation or essay explaining two kinds of processes (i.e., directional and informational). At the end of the class, students reflect and summarize what they learned from their peers.
第10回	Introduction to Debating and Arguing: Traditional Cultural Themes	Students learn a framework for preparing a single-sided argument. A debate topic will be chosen from a list and will prepare their single-sided argument manuscript or presentation.
第11回	Practicing Debate and Argument: Contemporary Cultural Themes	Students use the single-sided argument framework to present or write about a contemporary issue of their choice.
第12回	Introduction to Presenting a Two-sided Argument: Contemporary Global Themes	Students learn a framework for preparing a two-sided argument on a topic related to "Making a Better Future for Humanity." Students will choose their topic (e.g., cultural, economic, political, and environmental) and provide a summary of what they would like to discuss. Students will then develop support for their two-sided argument essay/ presentation/speech/poster presentation.
第13回	Delivering a Two-sided Argument	Students will continue developing their two-sided argument by adding opposing evidence from interviews, web searches, AI interactions, and research. Referencing, cohesive devices, and formatting will be discussed. Students will then have one week to complete their artifact for final assessment.
第14回	Comments/ Summaries/ Conclusions	Students will receive detailed feedback and comments regarding their achievements and how to continue to improve their academic communication skills in the future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading and research on assigned topics.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Material will be sourced online or provided in class.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
Weinschenk, S. (2012). 100 things every presenter needs to know about people. New Riders.

【成績評価の方法と基準】
30%Class Participation (Miscellaneous)
30%Written Assignments (Summaries)
40%Presentation(s) (Speech, Presentation, Poster, Essay)
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable.

LANe300GA（英語 / English language education 300）

英語アプリケーションX

ラスカイル　L.ハウザー

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：英語アプリケーション
旧科目との重複履修：〇
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this particular course is to: 1) teach students the difference between domestic Japanese business presentation practices, and international business presentation style, and 2) prepare students to function effectively in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: The Principles of International Presentation The differences between Japanese and International business presentation styles	Brief English lecture and reading on the differences between Japanese and International business presentation styles. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	Presenting with Yourself Confidence: The keys to presenting yourself as a confident professional	Brief English lecture on the main ways a presenter can show professional confidence. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Three Critical Questions: The three questions you have to answer BEFORE you do anything else.	Brief English lecture, reading and question and answer session on the three questions a presenter needs to ask before beginning to prepare a presentation. Followed by small group discussions of topics and a written assignment.
Week 4	Creating a Powerful and Persuasive Message: Developing the one point you want your audience to hear and remember	Brief English lecture, reading and question and answer session on what every presenter needs to do: Create a powerful and persuasive message. Followed by small group discussions of the main point for the audience and a written assignment.
Week 5	The Structure of a Presentation: How to build an effective presentation	Brief English lecture on effective presentation structure. Followed by small group discussions and a written assignment on outlining a presentation.
Week 6	Mid-term Presentation Preparation: Students work on their mid-term presentations	Students discuss and edit their presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 7	Mid-term Presentations	Individual Student Presentations to the class
Week 8	The Principles of Effective Visual Presentation: How to present visually	Brief English lecture on the principles of making effective visual presentations. Students take notes, followed by class discussion, and question and answer session.
Week 9	Designing PowerPoint 1 - Working with the Software	Reading, question and answer session, and actual practice working with the standard business presentation software PowerPoint.
Week 10	Designing PowerPoint 2 - Text, Color and Composition	Instructor lead discussion, and actual practice working with PowerPoint. Observing both the effective and ineffective use of text, color and composition.
Week 11	Using Logic and Emotion to Persuade: The elements of persuading others	Brief English lecture on the concepts of using logic and emotion to persuade others. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 12	Group presentation skills	Brief English lecture on the keys to making effective group presentations. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 13	Developing Your Group Presentation	Students discuss and edit their group presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 14	Final Group Presentations: Evaluation and Feedback	Group Student Presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for student presentations.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
20%Homework
20%In Class Work
30%Midterm Presentation
30%Final Presentation
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students. Based on feedback from past students, we will be studying more real-world examples of business presentations.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

林　志津江

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SAプログラムや派遣留学などを通じて獲得したドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わってください。

【到達目標】
1）A2 B1レベルのドイツ語テクストを独和辞典を用いて読解し、その表現を用いて自らもドイツ語で説明することができる。
2）ドイツ語で読んだテクストを関連付け、ドイツ語圏の生活、文化、社会など各種トピックについての理解を深めることができる。
3）特定のテーマについてドイツ語で意見を述べたり聞き取ったり、平易なレベルの議論を行うことができる。
4）まとまった分量の作文をドイツ語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・各回のテーマはドイツ語圏それぞれに共通する話題、異なる話題のバリエーションです。各参加者のドイツ語学習経験、ドイツ語圏滞在体験に配慮しつつ、テクストの理解を深めていきます。
・各回、指定されたドイツ語テクストを前もって読んでおきます（予習）
・授業は各回、前半はテクストの文の構造分析が中心です。テクストの内容と重要概念（語彙）を確認した後、後半部分で読解で確認した構文を使った作文練習をします。
・ペアワーク、グループワークと並行して、学期中に各参加者は１回のプレゼンテーションを行います。
・プレゼンテーション課題の詳細と担当割り振りは授業第１回目に説明・確認します。
・LMSとして、Google Classroomを使用します。連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物等のフィードバックは適宜、全体と個別に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などを確認します。
2	Moderne Geschichte: Vom Reich zur Republik	ドイツ近代の歴史：ドイツ帝国の成立 ー 激動の19世紀、そして第１次世界大戦
3	Der Anfang vom Ende - Die Weimarer Republik	ヴァイマール共和国 ー 黄金の20年代・終わりの始まり
4	Terror und Vernichtung - Der Dritte Reich	第３帝国下のドイツ ー 恐怖政治と絶滅政策
5	Politik und Parteien ／プレゼンテーション（１）	選挙には行きますか？
6	Krisen und Konflikte (I)	ドイツにはどんな社会問題が？？！
7	Krisen und Konflikte (II) プレゼンテーション（２）	ドイツにはどんな社会問題が？？！
8	Beginn der Moderne: Vom Mittelalter zur Romantik	近代の始まり ー 中世からロマン派の時代
9	Bildung als Lebenssinn／プレゼンテーション（３）	人生の意義としての教養・ウィーンと音楽
10	Das Paradigma der Moderne - Bis heute	学問と表現の自由 ー 科学の発展と表現主義、バウハウス
11	Kunst und Wissenschaft (I) プレゼンテーション（４）	「芸術」の様式とは？！
12	Kunst und Wissenschaft (II)	「芸術」の様式とは？！
13	Im Nordwesten von Deutschland(I) プレゼンテーション（５）	ドイツ北西部とはどんなところ？
14	Im Nordwesten von Deutschland(II)	リューネブルクってどんなところ？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各１時間以上を標準とします。
・授業ごと所定の予習・復習課題を行い提出します。授業時間外の課題（プレゼンテーションの分担）については別途指示します。
・インターネットやSNS等も使ってドイツ語圏のメディアに積極的にアクセスしてみましょう。新聞（日刊紙）などのニュース記事にチャレンジできればなお良しです。

【テキスト（教科書）】
„ Dreimal Deutsch“（Klett）（2024年度「ドイツ語７」使用教科書）
ISBN: 978-3-12-675237-4

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と貢献：50%、プレゼンテーションおよび提出課題：50％を合わせ、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典および１〜２年次で使用したドイツ語文法の教科書は必携です。

【その他の重要事項】
・この授業はドイツ語圏滞在経験者や、ドイツ語圏の留学・SA参加予定学生、滞在予定者、派遣留学を目指す学生を対象とします。目安としては４セメスター以上のドイツ語学習経験があることです。
・授業内容（テーマ）と順序等はクラスの状況によって変更されることがあります。
・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受検を推奨します。以上の受験結果については、2025年7月25日（予定）までに担当者に通知されたもののみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します。
・質問・相談などは担当者宛にメールで、あるいは授業の前後にも受け付けます。

【Outline (in English)】
This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking societies. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.
【Learning Objectives】
· To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
· To be able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
· To be able to write texts of a certain length in German.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
· There are prescribed preparation and review tasks.
· Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
· In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of some ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50%of the others (presentations, submitted assignments).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60%of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

小川　敦

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Gymnasium等、ドイツ語圏の中等教育（中学校・高校）で用いられる地理や歴史、公民の教科書を、辞書や文法書を用いながらじっくり読むことでこれまでに身につけたドイツ語力をさらに高めます。

【到達目標】
語彙や文法の複雑なドイツ語テキストにじっくり向き合うことでレベルの高いドイツ語を読めるようになる。ドイツ語圏に生きる人々の意識を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
グループまたは個人で一文ずつ文を解析し、内容を吟味しながらテクストを読
んでいきます。また、学生と教員、学生同士で解釈に違いが出た場合はじっ
くり議論し解決していきます。
試験の返却の際に間違えやすいポイントを解説します。
受講生の関心や授業の進度に応じて、内容をある程度柔軟に修正・変更する
こともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教材や授業の進め方の確認
2	ドイツ語圏の教科書を読む・その１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。関係代名詞に注意して読みます。
3	ドイツ語圏の教科書を読む・その２	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き関係代名詞に注意して読みます。
4	ドイツ語圏の教科書を読む・その３	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。書き言葉としての受動態に注意して読みます。
5	ドイツ語圏の教科書を読む・その４	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き書き言葉としての受動態に注意して読みます。
6	ドイツ語圏の教科書を読む・その５	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。zu不定詞句の使い方に注意して読みます。
7	ドイツ語圏の教科書を読む・その６	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いてzu不定詞句の使い方に注意して読みます。
8	中間のまとめ、および読解の続き	前半で扱ってきたことのまとめを行います。
9	ドイツ語圏の教科書を読む・その７	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。属格に注意して読みます。
10	ドイツ語圏の教科書を読む・その８	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に続いて属格に注意して読みます。
11	ドイツ語圏の教科書を読む・その９	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。英語にはない修飾語句に注意して読みます。
12	ドイツ語圏の教科書を読む・その１０	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いて英語にはない修飾語句に注意して読みます。
13	ドイツ語圏の教科書を読む・その１１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。ざっと読んで内容を把握する練習をします。
14	授業の最終的なまとめ	学期後半で学んだことを中心に、授業で扱ったまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の教材や資料は、学習支援システムで配布します。適宜予習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は用いません。地理、歴史、政治をテーマとした教材をこちらで用意します。
辞書（独和辞典）は必須です。紙媒体でもアプリ（有料のものに限る）でも構いません。

【参考書】
・1回生で用いたドイツ語文法を扱った教科書
・中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加40％、中間試験30％、期末試験30％とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】
教材は基本的に電子データでの配布となります。授業にはスマートフォンではなくタブレットまたはPCを持参してください。

【その他の重要事項】
内容は決して難しいものではありませんし、扱うテキストの性格上、機械翻訳を用いればほとんどの日本語訳はできてしまうでしょうが、授業ではドイツ語の文そのものを文法的に解析する力や多様な語彙力を身につけるようにしてください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Students further develop their German language skills through close reading of geography and history textbooks used in secondary education in German-speaking countries, using dictionaries and grammar books.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students learn to read German texts with complex vocabulary and grammar at a high level. Students will also gain an insight into the attitudes of people living in German-speaking countries.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 40%
Midterm examination 30%
Final examination 30%

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

Schmidt Ute

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Alltagskultur im deutschen Sprachraum
ドイツ語圏の日常文化:日本と比較してみましょう。
この授業では身近なテーマから時事問題までドイツ語圏のいろいろなトピックにスポットを当てたいと思います。受講者はそれを理解し、自分または日本の実情と比較し、各テーマについて意見交換をします。簡単なディスカッションも試みたいです。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。Goethe-Institut等のドイツ語検定試験の準備として役に立つと思います。

【到達目標】
１）中級以上のテキストを理解できる。
２）様々な領域の語彙を習得する。
３）基本的な文法事項を復習し、中級以上の文法事項を習得する。
４）幅広いテーマについて、明確に意見を述べ、時事的な問題への見解を表明し、
　長所、短所を挙げることができる。
５）簡単なコメントやショートエッセイが書ける。
６）簡単なプレゼンテーションを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
中級レベルの教科書のテキスト、新聞や雑誌の記事、音楽、テレビなどを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。課題等の提出・フィードバックは授業中または「学習支援システム」を通じて行う予定です。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介	Einstufung Selbstvorstellung
第2回	Stadt oder Land	Vorteile und Nachteile vergleichen und vorstellen
第3回	Männer und Frauen	Über Klischees sprechen Statistiken und Grafiken beschreiben
第4回	Hast du Netz ?	Mediensprache
第5回	Tiere	Die Tierliebe der Deutschen Adjektive Wiederholung
第6回	Reparieren und Selbermachen	Etwas reklamieren Passiv Wiederholung
第7回	Musik	Festivalsommer Deutschsprachige Hits Liedtexte verstehen
第8回	Filme	Mein Lieblingsfilm Filme vorstellen
第9回	Regional - global	Eine Region vorstellen
第10回	Lebensträume	Glück als Schulfach
第11回	Klima und Umwelt	Nachrichten verstehen Widersprüche, Bedingungen und Konsequenzen ausdrücken
第12回	Ein Blick in die Zukunft	Prognosen
第13回	Wie peinlich!	Knigge interkulturell
第14回	Präsentation	Vortrag und Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
予習はテキストを事前に読むと、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】
教材は学習支援システムで配布します。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での発言（30％)、宿題提出（30％）、プレゼンテーション　(40%)）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
In this class we will focus on different cultural or social topics in German speaking countries. The students will have to learn the related vocabulary to describe the situation in their own country and compare with the situation in Japan. They will learn how to express their own point of view in German and to take part in small discussions.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.
Grading will be decided based on class participation（30 ％）、homework (30 ％）and presentation (40%)

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

小川　敦

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語で書かれた言語社会学（広く言語と社会、教育と社会、多言語主義等）に関する大学生向けのテキストを読みます。ドイツ語のテクストを通じて当該分野の理論的背景を学びます。

【到達目標】
語彙や文法の複雑なドイツ語テキストにじっくり向き合うことでレベルの高いドイツ語を読めるようになる。高等教育レベルの学術的な文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、に関連。

【授業の進め方と方法】
グループまたは個人で一文ずつ文を解析し、内容を吟味しながらテクストを読んでいきます。また、学生と教員、学生同士で解釈に違いが出た場合はじっくり議論し解決していきます。
試験の返却の際に間違えやすいポイントを解説します。
受講生の関心や授業の進度に応じて、内容をある程度柔軟に修正・変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教材や授業の進め方の確認
2	多言語主義・その１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
3	多言語主義・その２	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
4	多言語主義・その３	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
5	教育と格差・その１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
6	教育と格差・その２	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
7	教育と格差・その３	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
8	中間のまとめ、および読解の続き	前半で扱ってきたことのまとめを行います。
9	言語教育・その１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
10	言語教育・その２	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
11	移民社会と言語・その１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
12	移民社会と言語・その２	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
13	移民社会と言語・その３	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
14	授業の最終的なまとめ	学期後半で学んだことを中心に、授業で扱ったまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の教材や資料は、学習支援システムで配布します。適宜予習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は用いません。当該テーマの教材をこちらで用意します。
辞書（独和辞典）は必須です。紙媒体でもアプリでも構いません。オンラインの無料のものはまだ使い物になりませんので有料のものを用意してください。

【参考書】
・１回生で用いたドイツ語文法を扱った教科書
・中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加40％、中間試験30％、期末試験30％とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】
教材は基本的に電子データでの配布となります。授業にはスマートフォンではなくタブレットまたはPCを持参してください。

【その他の重要事項】
扱うテキストの性格上、機械翻訳を用いればほとんどの日本語訳はできてしまうと思いますが、授業ではドイツ語の文そのものを文法的に解析する力や多様な語彙力を身につけ、表面的な翻訳にとどまらず、内容を理解することに力を注いでください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Through close reading of German-language texts on the sociology of language, students not only refine their German proficiency but also gain a deeper understanding of the field's theories and their background through the German language.
【到達目標（Learning Objectives）】
Close reading of German texts with complex vocabulary and grammar enables students to comprehend academic texts at the higher education level.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 40%
Midterm examination 30%
Final examination 30%

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野　ブレンダン

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que le concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.
Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では，作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので，そのつもりで参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation des participants Organisation et calendrier des activités
2	La beauté pour tous	Une nouvelle référence de beauté?
3	DELF B1	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°1)
4	Vidéo ①	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
5	Lecture extensive ①	Présentation du premier livre lu
6	Vidéo ②	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
7	Description physique et caractère	Un discours Choisir un collaborateur
8	DELF B1	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°2)
9	Lecture extensive ②	Présentation du 2e livre lu
10	Vidéo ③	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ③
11	Caricatures ①	"Le Canard enchaîné" ①
12	DELF B1	Entraînement: compréhension orale
13	Lecture extensive ③	Présentation du 3e livre lu
14	Caricatures ②	"Le Canard enchaîné" ②: présentations des étudiants

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので，法政大学学則（「1回の授業につき4時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur LMS ou Google Classroom.

【参考書】
Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，クラス内業務、その他の小テスト:約 35 %
・リーディングマラソン(フランス語多読):約 25 %
・作文:約 25 %
・出席点:約 15%。 尚，出席点に関しては減点方式をとり，4回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，特に工夫する必要のある点がないように思いました。改善を全くしない，という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).
En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.35 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
・Essays: app.25 %
・Attendance: app.15%。

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野　ブレンダン

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que du concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.
Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような 課題も課せられますので、そのつもりで参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Présentation du cours Auto-évaluation des étudiants	Organisation et calendrier de la classe TCF en ligne
2	Tourisme et voyages	Tourisme créatif Organiser un voyage
3	DELF B1 (ou B2)	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°1)
4	Projet	Réaliser une carte postale sonore
5	Lecture extensive ①	Présentation du premier livre lu
6	Environnement ①	Les distributeurs de boissons au Japon
7	Vidéo ①	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	DELF B1 (ou B2)	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°2)
9	Lecture extensive ②	Présentation du 2e livre lu
10	Vie de famille	Les liens de famille Le plus-que-parfait
11	Vidéo ②	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
12	DELF B2	Entraînement: compréhension orale (urbanisation)
13	Lecture extensive ③	Présentation du 3e livre lu
14	CBC/Radio Canada	Compréhension orale

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は２単位科目なので，法政大学学則（「1 回の授業につき4 時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur LMS ou Google Classroom.

【参考書】
Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，クラス内業務、その他の小テスト:約 35 %
・リーディングマラソン(フランス語多読):約 25 %
・作文:約 25 %
・平常点（授業への参加状況）:約 15%。 尚、平常点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み、工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).
En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.
Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.35 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
・Essays: app.25 %
・Class participation: app.15%

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

カレンス　フィリップ

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2年間学んだフランス語の知識（語彙や文法など）を生かして、フランス語のコミュニケーション能力を高める授業です。日常の場面に応じて、フランス語で様々な練習問題を行い、フランス語を話す力を強めます。文法を復習しながら、新しい語彙や表現を覚えながら、フランスとフランスの文化についてももっと詳しく学びます。

【到達目標】
授業の目標はコミュニケーションの力を上げることです。
次の三つのポイントに重点を置きます。
1．フランス語の日常会話をもっと聞き取れるようにする。
2．フランス語の文法の知識を高め、色々な練習に通じて強化する。
3．フランス語の語彙や言い方を増やして、使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行することがあったら、お知らせします。学生からの質問には授業時間内、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。
授業の内容に関しては、まず、テキストを見ずに対話を聞き、理解し、少しずつ繰り返し音読します。その後、テキストを見ながら再び音読します。さらに、内容と関連がある練習問題を行います。最後に学んだものをもう一度使い、ロールプレーをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications du programme L1 p10 Chez le traiteur la quantité　encore/ne …plus) pronom “en”	自己紹介 プログラムの説明 1課　素材屋で 部分冠詞 量の表現 “en”代名詞
②	L2 p14,15 Commander un repas souhait conditionnel	2課 食事の注文 願う
③	L3 p18 A la boutique de bijoux pronoms démonstratifs	3課 宝石のブチックで 指示代名詞
④	L5 p22 Modifier une réservation (table ou chambre) verbe conjugués +verbe infinitif	5課 予約の変更 レストラン／ホテル 動詞＋不定詞
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom: ”de”	6課 銀行で 名詞補語　”de”
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	7課 交換する 返済してもらう 時間の表現＋複合過去
⑦	Révisions Test de mi-trimestre	復習 中間テスト
⑧	L9 p32 Faire des comparaisons verbes construits sur des adjectifs, comparatif superlatif	9課 比較する 比較法 最上級
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	10課 問い合わせする 間接法
⑩	L11 p40 Localiser prépositions/adverbes de lieu	11課 位置、 場所を突き止める 場所の前置詞と副詞
⑪	L12 p44 A l’agence immobilière Subjonctif/indicatif	12課 不動産屋で 接続法か直接法
⑫	L13 p50 Résilier un contrat Comparaison Expression du futur	13課 賃貸契約を取り消す　未来形
⑬	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	15課 窃盗の被害届　される 受動態
⑭	Révisions Test final	復習 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題（宿題）を出すので、よく復習してください。
本授業の宿題・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l’élève + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【成績評価の方法と基準】
1. 中間テスト・期末試験:60 %
2. 課題:30%
3. 積極性:5 %
4. 平常点:5 %

【学生の意見等からの気づき】
より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。
さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【その他の重要事項】
On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c636353133363635363838343439 35.pdf

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panels of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture.
Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following:
Mid-term and Term end examination: 60 %, Assignments: 30 %, and in class contribution 10 %.

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野　ブレンダン

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire (B1/B2). A travers différents types d'activités, les étudiants pourront développer et renforcer leurs compétences de compréhension et de production à l'oral ainsi qu'à l'écrit. Ils pourront aussi, à travers les thèmes étudiés, compléter et élargir leurs connaissances sur les cultures francophones, et réfléchir à certains problèmes environnementaux.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage: enrichissement du vocabulaire, développement des capacités d'écoute et d'expression orale et écrite. En lien avec les autres cours de フランス語アプリケーション, il permet la préparation des examens du DELF (niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Les étudiants réaliseront diverses activités à partir d'extraits de trois bandes dessinées francophones récentes traitant de divers problèmes environnementaux. Ces activités leur permettront de travailler à la fois la compréhension orale, l'expression orale, mais aussi l'expression écrite.
Il s'agit d'un cours de type "Contents based learning".
En fonction du nombre d'étudiants, nous réfléchirons à la possibilité de participer à la "Journée de découverte de la Francophonie" organisée en décembre par la SJDF et l'Institut français, afin d'y présenter un travail oral sur la francophonie au Japon.
Le programme proposé ci-dessous est donc susceptible d'être modifié en fonction de la situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Introduction	Présentation du cours (programme, activités...) et des participants
②	Comment les riches ravagent la planète (2024)	Présentation de la BD
③	Comment les riches ravagent la planète	Partie 1: Jour de fête, jours de chauffe
④	Comment les riches ravagent la planète	Partie 2: Qui cause la catastrophe? Comment l'ostentation ravage la planète
⑤	Comment les riches ravagent la planète	Présentations des étudiants
⑥	Ressources : Un défi pour l'humanité (2024)	Présentation de la BD
⑦	Ressources : Un défi pour l'humanité	Partie 1: Les Cornucopiens, L'exponentielle,Les ressources
⑧	Ressources : Un défi pour l'humanité	Partie 2: De Gaïa à Thanatia, Le recyclage, Une civilisation techniquement soutenable
⑨	Ressources : Un défi pour l'humanité	Présentations des étudiants
⑩	Le Monde Sans Fin (2021)	Présentation de la BD
⑪	Le Monde Sans Fin	Partie 1: L'énergie
⑫	Le Monde Sans Fin	Partie 2: Le climat
⑬	Le Monde Sans Fin	Présentations des étudiants
⑭	Discussion finale	Que retenir de ces trois BD?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, en cours ou pour le cours suivant (lire les pages suivantes, réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は２単位科目なので，法政大学学則（「1回の授業につき4時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Documents préparés et distribués en cours ou sur le LMS par l'enseignant.

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé, et au minimum un dictionnaire français-japonais /japonais-français. (Pas de FAUX dictionnaire en ligne!!!)

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，その他の小テストや課題:約 40 %
・リーディングマラソン (フランス語多読):約 20 %
・作文:約 20 %
・平常点（授業への参加状況）:約 20%。 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。10 分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【Prerequisite】
Avoir fait deux ans de français, ou justifier d'un bon niveau A2 au minimum.

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of communication skills (oral and written) in French for intermediate level (B1/B2).
Through different kinds of activities mainly based on comic books (ask and answer questions, reading, writing, etc.),students will strengthen their comprehension and production capacities in order to develop both oral and writing expression.
Through the selected themes (mainly environmental problems), students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.40 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
・Essays: app.20 %
・Class participation: app.20%。

LANr300GA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語アプリケーション

佐藤　千登勢

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで培ってきたロシア語の運用能力をさらに伸ばし、維持することを第一の目的とします。ロシア語の動画を視聴してロシアやエストニアの文化や社会に触れ、ロシア語の文法力とリスニングの力を高めると同時に慣用表現、決まった口語表現を覚えて使えるようにします。

【到達目標】
ロシア語能力検定試験３級程度、またロシア語検定試験（ＴＰＫИ）基礎レベル（A2）から第1レベル（B1）のロシア語運用能力（聴解と文法）を身につけること、その能力の維持を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ロシア語の動画を視聴して質疑応答に答えたり、穴埋め問題を解いたりしながら、文法とリスニングの力がつくように進めます。映像や説明文を通して、ロシアやエストニアの文化や慣習を楽しみながら知ることも可能となります。小テストのフィードバックは翌週の教場で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。使用教材、視聴覚資料の確認。
第2回	Ｌегенды Старого Таллинна 1	タリン旧市街のシンボルにまつわる伝説について。リスニングと質疑応答。
第3回	Ｌегенды Старого Таллинна 2	タリン旧市街の建築物にまつわる伝説について。リスニングと質疑応答。
第4回	Ｌегенды Старого Таллинна 3	タリン旧市街の防壁にまつわる伝説について。リスニングと質疑応答。
第5回	Таллинн, Эстония.Старый город.1	ロシア語ガイドによるタリンの名所案内。リスニングと質疑応答。
第6回	Таллинн, Эстония.Старый город.2	ロシア語ガイドによるタリンの名所案内。穴埋め問題と文法概説。
第7回	Таллинн, Эстония.Старый город.3	テキスト全体の確認と重要フレーズの暗記。
第8回	Таллинн, Эстония.Старый город.4	ロシア語ガイドによるタリンの歴史概説。リスニングと質疑応答。
第9回	Таллинн, Эстония.Старый город.5	ロシア語ガイドによるタリンの歴史概説。穴埋め問題と文法概説。
第10回	Таллинн, Эстония.Старый город.6	テキスト全体の確認と重要フレーズの暗記。
第11回	Таллинн, Эстония.Старый город.7	タリンの現況について。リスニングと質疑応答。
第12回	Таллинн, Эстония.Старый город.8	タリンの現況について。穴埋め問題と文法概説。
第13回	Таллинн, Эстония.Старый город.9	テキスト全体の確認と重要フレーズの暗記。
第14回	これまでのまとめと試験	これまで培ってきたロシア語の表現を確認する試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で視聴した動画内容の習得のために、１回につき1.5時間程度の復習が必要となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場で配付もしはくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点80％、小テスト20％とし、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
みなさん一人ひとりのロシア語運用能力に合わせたテクスト選びを心がけます。

【Outline (in English)】
●Course outline
The aim of this course is to maintain and improve Russian grammar and listening skills. We would like to share the pleasure of learning about the culture and customs of Russia and Estonia through the short movies in Russian.
●Learning Objectives
The purpose is to further develop and maintain the Russian language proficiency that has been cultivated so far(A2 to B1 in the CEFR）.
●Learning activities outside of classroom
It takes about 1.5 hours for class review.
●Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80％) and quizzes(20％). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr300GA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語アプリケーション

佐藤　千登勢

配当年次／単位：**3〜4年／２単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア映画を３編とりあげ、それぞれの作品に関する解説文をロシア語で読み、これを確認するかたちで映画作品を部分的に鑑賞します。ロシア語の読解力と聴解力を身につけること、維持することが目的となります。読解についてはＴＰＫИ第１レベル程度の力をつけることが可能となり、ロシアの日常や慣習、世相について知識を得ることができるでしょう。

【到達目標】
読解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めるために、ロシア映画の解説文・作品論をロシア語で読み、これを確認するかたちでロシア映画の珠玉に触れます。そうすることで、ＴＰＫИ第１レベルの読解力、文法力を身につけると同時に、ロシアの文化や世相に関する知識を獲得できるでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ロシア映画の３つの作品に関する資料を講読します。みなさんの予習に基づいて進め、文法事項や文章の構造の説明をおこないます。作品に関する情報を把握した後、これを確認するために実際の映画作品を部分的に鑑賞します。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。ロシア映画『サリュート７号』は、冷戦末期、ソ連の宇宙ステーション事故をめぐる人間ドラマの珠玉。『エレナの惑い』（2011）は現代ロシアの世相を浮き彫りにした心理ドラマ。『夏の終止符』（2010）はソ連時代を象徴する上司と新生ロシアを象徴する実習生の青年、ただ二人によって展開される驚くべき心理劇です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。資料配付。
第2回	映画 Ｃａлют-7 について１	Ｃａлют-7　の内容について読解。映画の一部を鑑賞。
第3回	映画Ｃａлют-7 について２	Ｃａлют-7 の内容と反響について読解。映画の続きを鑑賞。
第4回	映画Ｃａлют-7 について３	Ｃａлют-7 の内容と反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第5回	映画Ｃａлют-7 について４	Ｃａлют-7 の反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第6回	映画　Ｅлена について１	Ｅлена　の内容、鑑賞ポイントについて読解。映画の一部を鑑賞。
第7回	映画　Ｅлена について２	Ｅлена　の内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第8回	映画　Ｅлена について３	Ｅлена　の反響について読解。映画の続きを鑑賞。
第9回	映画　Ｅлена について４	Ｅлена　の反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第10回	映画　Как я провёл этим летом. について１	Как я провёл этим летом.　の内容について読解。映画の一部を鑑賞。
第11回	映画　Как я провёл этим летом. について２	Как я провёл этим летом.　の内容、鑑賞ポイントについて読解。映画の続きを鑑賞。
第12回	映画　Как я провёл этим летом. について３	Как я провёл этим летом.　の鑑賞ポイントと反響について読解。映画の続きを鑑賞。
第13回	映画　Как я провёл этим летом. について４	Как я провёл этим летом.　の反響について読解。映画の続きを鑑賞。
第14回	テストとまとめ	テストと解説（フィードバック）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシア映画の作品に関するテクスト読解の予習に、１回につき２時間程度が必要となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場で配付、もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点80％、小テスト20％とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ロシア語の読解力向上とロシア映画鑑賞、双方への希望があったので、これに応じるような授業を組みました。

【Outline (in English)】
●Course outline
We will pick up some Russian film works, read the texts about them in Russian, and watch some scenes from the films while checking the texts. You will acquire reading comprehension and listening comprehension skills. You will be able to gain knowledge about Russian daily life, customs and social conditions.
●Learning Objectives
Students will acquire the level of CEFR B1 of reading comprehension and grammar, as well as knowledge of Russian culture and social conditions.
●Learning activities outside of classroom
It takes about 1.5 hours to prepare for reading comprehension of texts about the Russian movies.
●Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80％)　and quizzes(20％).
To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr300GA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語アプリケーション

エレーナ　三神

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで培ってきたロシア語の運用能力をさらに伸ばし維持することを第一の目的とします。ロシア語ネイティブ講師との会話、リスニング練習、簡単な作文課題によりロシア語のコミュニケーション力を楽しくのびましょう。以前ロシア語短期語学研修に参加した学生は、培ったロシア語運用能力の維持のため履修を勧めます。

【到達目標】
ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ＴＰＫИ）の基本レベル(CEFR A2)又は第１レベル（CEFR B1）のロシア語運用能力（聴解と会話）を身につけるべく頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。教材データは授業支援システム経由でダウンロードができます。
課題などに対する教員のフィードバックは、提出した課題に関するコメントなどの方法で行います。教員のフィードバックは課題内容によって授業時または学習支援支システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介（復習）	インテラクティブな教材を使って初めて会った学生同士のスモールトークを練習する。
第2回	友達を作る	挨拶や簡単なフレーズを使って相手と自分について話す。使える表現幅を拡大する。
第3回	大学での勉強	学習を表す動詞を使い分けて勉強などについて話す。聴解、会話練習。
第4回	移動動詞の復習	移動を表す動詞を使って行ったや行きたいところについて話す。聴解、会話練習。
第5回	会話のエチケット	ロシア語の会話エチケットについて学ぶ。読解、会話練習。
第6回	海外旅行− 1	移動の動詞を使って旅行のルートについて話す。聴解、会話練習。
第7回	海外旅行− 2	移動の動詞を使い分けて移動手段について話す。聴解、会話練習。
第8回	海外旅行− 3	接頭辞のある移動の動詞を使って細かく移動を説明する。聴解、会話練習。
第9回	交通案内	接頭辞のある移動動詞を使って交通機関の使い方などについて話す。聴解、会話練習。
第10回	海外から来たお客の出迎え	位置と行き方について話す。聴解、会話練習。
第11回	待ち合わせ	時間表現を使い分けて「時間」と「期間」について話す。聴解、会話練習。
第12回	友達のところで− 1	所有表現を使って友達との会話をすすめる。聴解、会話練習。
第13回	友達のところで− 2	お客としてロシアの家を訪ねる。聴解、会話練習。
第14回	これまでのまとめと試験	これまで培ってきた会話表現を確認する試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に扱った単語の復習、作文又は聴解宿題があります。
授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】
宿題30%、授業への取り組み30%、期末試験40%とし、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
初めて担当する科目であるため、フィードバックできません。

【Outline (in English)】
●Course outline
The aim of this course is to further develop and maintain the Russian language skills.Through conversation and listening practice with a native Russian-speaking instructor, students will enjoy improving their Russian communication skills. Students who participated in a Russian language program abroad are encouraged to take this course to improve their Russian language skills.
●Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test ＴＰＫИ A2-B1.
●Learning activities outside of classroom
As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for some lessons to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
●Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination 40%、in class contribution 30% homework 30%
To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANc300GA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語アプリケーションⅠ

張　玉萍

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。本授業では特に「読む」能力を重点的に育成する。

【到達目標】
本授業の到達目標は、これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。具体的には、中国の報道記事や評論文を辞書やネットを使用しながら十分に読めるレベルを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
新華社のニュースサイトや中央電視台ニュースアプリなど各種サイトが提供する報道記事を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。
課題等へのフィードバックはHoppiiの掲示板や授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、論説文の基礎①	授業の進め方の説明、教材配布。『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第1課
第2回	論説文の基礎②	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第2課、第3課
第3回	論説文の基礎③	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第4課、第5課
第4回	論説文の基礎④	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第6課、第7課
第5回	プリント1①	政治・経済関係の記事を読み、日本語に訳す。
第6回	プリント1②	翻訳と講読を続ける。
第7回	プリント1③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第8回	プリント2①	社会関係の記事を読み、日本語に訳す。
第9回	プリント2②	翻訳と講読を続ける。
第10回	プリント2③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第11回	プリント3①	文化関係の記事を読み、日本語に訳す。
第12回	プリント3②	翻訳と講読を続ける。
第13回	プリント3③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第14回	読解力テストと講評	読解力テストの実施とテスト後の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
三潴正道『論説体中国語読解力養成講座』の第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題を各自で翻訳し、第2回から第4回までの授業に備える、また、プリント教材（報道記事など）を読み、翻訳し、第5回から第13回までの授業に備えておく。本授業の準備・復習時間は、各1～2時間程度。

【テキスト（教科書）】
プリント教材。

【参考書】
三潴正道『論説体中国語読解力養成講座－新聞・雑誌からインターネットまで』東方書店2010年

【成績評価の方法と基準】
第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題の翻訳（20％）と学期末に実施する読解力テスト（80％）で達成度を判定する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】
中国語そのものだけでなく、記事内容の背景についても十分に説明するよう心がけたい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Chinese Application Ⅰ～Ⅳ are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application Ⅰ～Ⅳ is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the reading skill.
We will mainly read the news or critique in Chinese newspapers or magazines.
【Learning Objectives】
At the end of the course, participants should be able to efficiently read news articles and critiques using dictionaries and the Internet.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, participants will be expected to translate exercises for reading comprehension (in the 2nd to 4th classes)、to read and translate specified news articles （in the 5th to 13th classes）. Your study time will be one or two hours.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Translation of basic exercises (20%) and reading comprehension test conducted at the end of the semester (80%).

LANc300GA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語アプリケーションⅣ

鈴木　靖

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。
中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主にe-Learningを利用した「聞く」力と「読む」力を重点的に育成する。

【到達目標】
HSK4・5級の高スコア取得に必要な「聴力」（リスニング力）と「閲読」（リーディング力）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はe-Learningや過去問による事前学習と教室での発音練習や解説を組み合わせて行う。
授業の具体的な進め方は、次のとおり。
〔授業前の事前学習〕
授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSKの「聴力」問題の指定範囲のディクテーションと「閲読」問題の予習を行う
〔授業の進め方と方法〕
①「聴力」問題の発音練習と解説
②「閲読」問題の解答と解説
〔課題等に対するフィードバックの方法〕
課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加するLINEのグループを用意し、これを通じて全員または個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明した後、事前学習に使用するe-Learning教材の利用方法を解説する
第2回	HSK4級対策①	・聴力問題第一部分 ・閲読問題第一部分
第3回	HSK4級対策②	・聴力問題第二部分（上） ・閲読問題第二部分
第4回	HSK4級対策③	・聴力問題第二部分（下） ・閲読問題第三部分（上）
第5回	HSK4級対策④	・聴力問題第三部分（上） ・閲読問題第三部分（中）
第6回	HSK4級対策⑤	・聴力問題第三部分（下） ・閲読問題第三部分（下）
第7回	HSK4級模擬試験	HSK4級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う
第8回	HSK5級対策①	・聴力問題第一部分（上） ・閲読問題第一部分
第9回	HSK5級対策②	・聴力問題第二部分（下） ・閲読問題第二部分（上）
第10回	HSK5級対策③	・聴力問題第二部分（上） ・閲読問題第二部分（下）
第11回	HSK5級対策④	・聴力問題第二部分（中） ・閲読問題第三部分（上）4
第12回	HSK5級対策⑤	・聴力問題第二部分（下） ・閲読問題第三部分（中）
第13回	HSK5級対策⑥	・書写 ・閲読問題第三部分（下）
第14回	HSK5級模擬試験	HSK5級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に下記の事前学習を行うこと。
①教材ページ上に用意されたe-Learning教材を使い、HSKの「聴力」問題の中から毎回指定された範囲のディクテーションを行う
②教材ページ上に用意された問題冊子を使い、HSKの「閲読」問題の中から毎回指定された範囲の予習を行う

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、教材用ページに用意したe-Learning教材やHSKの問題冊子などを利用する。教材用ページのURLと利用方法については、第一回のガイダンス時に説明する

【参考書】
・劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）
・中国教育部中外語言交流合作中心著・株式会社スプリックス編『中国語検定HSK公式過去問集4級 2021年度版』（スプリックス、2021年）
・中国教育部中外語言交流合作中心著・株式会社スプリックス編『中国語検定HSK公式過去問集5級 2021年度版』（スプリックス、2021年）

【成績評価の方法と基準】
①事前学習（ディクテーション・リーディング）の実施状況（60％）
③HSK模擬試験の成績（40％）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
HSKの必修単語を覚えるのが難しいという声が多く寄せられたので、単語やフレーズを復習するe-Learningを用意した。

【学生が準備すべき機器他】
e-Learningによる事前学習にはパソコンが必要となる。

【Outline (in English)】
〔Course outline〕
Chinese Application Ⅰ～Ⅳ are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application Ⅰ～Ⅳ is to maintain and improve Chinese communication skills which were acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four language skills, of listening, speaking, reading and writing.
This course will focus mainly upon improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams.
Chinese Application Ⅳ is a Chinese course designed specifically for the students who want to prepare for the HSK, Chinese proficiency test, level 4 and 5. This course will focus upon expanding vocabulary and improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams. Students will also do mock examinations of the HSK through the use of a test simulator to help students prepare for the HSK tests.
〔Learning Objectives〕
The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use Chinese language at a level required of the HSK6.
〔Learning activities outside of classroom〕
Students will be expected to have completed the required assignments before each class. These assignments are expected to require four or more hours for students to complete.
〔Grading Criteria /Policy〕
Grading will be decided based on assignments(80%) and mock examinations(20%).

LANc300GA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語アプリケーションⅢ

周　重雷

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベル中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞くと、話す」という四技能をバランス良く育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである：
１、正確な発音で中国語を話す。
２、日常会話を流暢に話す。
３、留学や就職などのために高度の会話能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
１、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
２、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
３、受講者がそれぞれのパターンを使って授業内発表をする。
４、総括する。
課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	１、シラバスの配布 ２、中国語による自己紹介
第2回	文章の読解・日常用語（1）	１、短い文章を読み、文法の基本を確認する ２、簡単な日常会話を練習する
第3回	文章の読解・日常用語（2）	１、会話文を朗読し、発音をチェックする ２、言い回しを使って日常会話を練習する
第4回	文章の読解・日常会話（3）	１、文章を読み、文法の基本を確認する ２、簡単な日常会話を練習する
第5回	授業内発表（1）	教師と一対一で会話する、もしくはグループでシミュレーションをする
第6回	文章の読解・日常用語（4）	１、文章を朗読し、発音をチェックする ２、日常会話を練習する
第7回	授業内発表（2）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで発表する
第8回	実力テスト	HSK問題を解く
第9回	解説	HSK問題の解説を行う
第10回	文章の読解・日常会話（5）	１、文章の読解をする ２、日常会話の練習をする
第11回	授業内発表（3）	先生と一対一で面接のシミュレーションをする
第12回	文章の読解・日常会話（6）	１、長文を読む ２、日常会話をする
第13回	授業内発表（4）	スピーチの個人発表をする
第14回	試験・まとめ	試験および各会話パターンの復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマをよく確認し、流暢に発表できるように準備する。本授業の準備時間は２時間を標準とします。
また作文の課題も２回ほど課される。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布

【参考書】
劉月華　他『実用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館
日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト：60％
発表：40％

【学生の意見等からの気づき】
要望に応じて会話パターンの変更も可能。
基本は対面授業。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンは必須

【その他の重要事項】
HSKや中国語検定の受験を推奨される。
留学生の受講を歓迎する。

【Outline (in English)】
Chinese Application Ⅰ～Ⅳ are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA(Study Abroad) program.the aim of Chinese Application is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program.To achieve this aim,it is important to develop the four skills of listening,speaking,reading and writing. In the course, we will mainly improve to speaking skill.
We should achieve to these levels:
Talk by accurate pronunciation.
Talk the daily conversation well.
Achieve to the high-level that we can use the language for study-abroad or working.
We should prepare and review about two hours a week.
We maybe do the task of writing about two times.
Term-end test:60%
presentation:40%

LANc300GA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語アプリケーションⅡ

張　勝蘭

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。具体的には、作文や翻訳を行う際に注意すべきことをルール化して編纂されたテキストを用い、そこに提示されたルールを講師が解説し、そのルールを応用した各種の練習問題に取り組むことで作文力の育成を図る。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
（1）テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
（2）日文中訳や並べ替え問題等の練習を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバス及び授業概要の確認（本授業の意義と目的、授業概要、授業計画、成績評価方法など）
2	第1課、第2課	中国語作文をする際に必要となる基本的文法事項の確認
3	第3課、第4課	所在・存在の表現、程度副詞“很”の機能、“吗”の使用条件、日中両言語の勧誘表現、「何か／どこか／だれか」の訳し方
4	第5課、第6課	疑問詞＋名詞の用法、疑問詞呼応構文、動詞の省略可能性、適切な動詞を補う必要性
5	第7課、第8課	多用される“来”と“去”、「動目」構造の語の特徴、「思う」を表す語の種類、動詞の重ね型
6	第9課、第10課	文脈に隠れた代名詞、“这么／那么”が必要な場合、副詞“就”の用法、副詞“才”の用法
7	第11課、第12課	副詞“都”の用法、副詞“只”の用法、副詞“也”の用法、副詞“再／又／还”の用法、副詞“再”の用法
8	第13課、第14課	「…から」と“从…”の対応関係、「…まで」と“…到”の対応関係、動詞後の“…到”、日中両言語のコピュラ文、“是…的”構文
9	第15課、第16課	「で／に／から／と／まで」を表す中国語の介詞、介詞句を含む文の否定、「…について」の表し方、「ちょっと・少し」の表し方、形容詞の動詞化および命令化
10	第17課、第18課	量詞の出現情況、数量の位置、形容詞を用いた過去事態の表現法、結果状態を表す“了”、過去の習慣的動作と“了”
11	第19課、第20課	補語の使用における動詞の重要性、日本語の観点からは訳出しにくい補語、“要”の使用条件、可能性を表す“会”、可能を表す“能”“会”“可以”
12	第21課、第22課	“被”構文の諸特徴、日本語の受身表現と“被”構文の対応関係、日本語の自動詞受身文の中国語での表現法、“把”構文の使用条件、“把”構文の使用制限
13	第23課、第24課	授受表現の特徴、目的表現の後置、将然表現、主体表現としての“人”、道具・手段や原因を表す「で」、否定と肯定の入れ替え、逆転の発想
14	全体のまとめ	試験とその解説、学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業開始後は、テキストの復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
相原茂（著）2006『作文ルール66　日中翻訳技法』朝日出版社（2,300円＋税）

【参考書】
・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書　新訂版』東京：同学社
・木村英樹2017『中国語はじめの一歩〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
・三宅登之2012『中級中国語　読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】
・平常点を50%、期末試験を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】
・本授業は、原則として日本語母語話者向けの授業である。そのため、中国語母語話者（留学生等）の受講は推奨しない。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。
・適宜、補足資料を配付することもあるが、指定したテキストは必ず購入の上、毎回持参すること。
・授業の進み具合により、授業内容を調整することがありますが、必ず事前に周知する。

【Outline (in English)】
【Outline】
Chinese Application I～IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I～IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, students will mainly improve their writing skills. We use the textbook which shows various Japanese-Chinese translation rules and do a lot of composition exercises.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) To understand the Chinese grammar through reading explanations shown in the textbook.
(2) To be able to appropriately compose complicated Chinese sentences through exercises such as Japanese-Chinese translation, word order, etc.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・After every class, students are required to review the textbook.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria】
・Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end test (50%).

LANk300GA（朝鮮語 / Korean language education 300）

朝鮮語アプリケーション

李　蕙臣

配当年次／単位：**3～4年／２単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ＳＡ韓国」から帰国した学生をはじめ、朝鮮語中上級向けのクラスである。
朝鮮語のニュース内容の理解と共に語彙力と文法能力を強化する。ニュースの主題や内容に関して様々な意見を発表出来る。

【到達目標】
身近な内容を扱ってる韓国のニュースを学習することで、朝鮮語の聴解力と読解力を身に着ける。中級レベルの語彙や表現を復習しながらより高いレベルの新しい言葉や文法も習得出来る。同時に、ニュース内容に関する関連事項を調べ、より深い理解へとつながるような探求心を養成する。内容について、クラスの仲間と朝鮮語で意見交換などできる力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ニュースのトピックスに関する簡単な質疑応答を通してウォーミングアップをしる。繰り返して聴きながら内容を全体的に把握する。ニュースに出る語彙や表現について理解を深める。細かい部分まで把握できるようにリスニング練習と本文の読解練習を行う。ニュースの主題に関して積極的に自分の意見を話す、書く練習を行う。類似ニュースについて調べて朝鮮語で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	ニュース①経済	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
3	ニュース②社会(1)	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
4	ニュース③社会(2)	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
5	ニュース④社会(3)	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
6	ニュース⑤文化(1)	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
7	ニュース⑥文化(2)	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
8	ニュース⑦文化(3)	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
9	ニュース⑧文化(4)	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
10	ニュース⑨健康(1)	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
11	ニュース⑩健康(2)	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
12	ニュース⑪天気(1)	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
13	ニュース⑫天気(2)	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
14	まとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、ニュースの記事を読み、新出語彙や表現を調べる予習が必要です。本授業の準備、復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参与度70％、プレゼンテーション30％。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
住所の内容は多少変更になる場合もあります。

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course deals with Korean intermediate level.
< Learning Objectives>
At the end of the course, students are expected to enhance the development of the skill in reading, writing, listening and talking.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Presentation ： 30%,in class contribution:70％.

LANk300GA（朝鮮語 / Korean language education 300）

朝鮮語アプリケーション

梁　禮先

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既に持っている朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できることを目標にします。韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、テキストには出てない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現を学んで自ら表現できることを目指します。授業は朝鮮語で進めていきます。

【到達目標】
朝鮮語のニュースや韓国の番組を字幕なしで理解できることを到達目標とします。また、自分の意見を自信をもって積極的に話したり、討論に積極的に参加できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通した話す力を定着していきます。
授業は、朝鮮語で進めていきます。
課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明と復習	春学期の授業の進め方について説明します。
第2回	韓国語の随筆を読む	内容を読んで意見を話し合います。
第3回	韓国の新聞を読む	韓国の最新記事を読んで新しい単語を勉強します。
第4回	韓国の映像を見る	韓国の映像を見て、内容を把握します。
第5回	韓国語の随筆を読む	韓国の随筆を読みます。
第6回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話します
第7回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第8回	韓国の映像を見る	韓国の話題の映像を見て内容を把握します。
第9回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます
第10回	韓国の映像を見る	韓国の映像を見ます。
第11回	韓国語で発表する	発表内容を聞く。
第12回	韓国語で発表する	発表内容を話し合う。
第13回	韓国語で発表する	討論をする。
第14回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
韓国のコンテンツを利用したり、新聞、小説などを読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント、インターネットなど。

【参考書】
韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】
積極的に意見を話したり、討論に参加することです。
発表・レポート・平常点を総合して(50%)と、 期末レポート(50%)と、これらの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
多様な主題を活用すべきことなど。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。

【Outline (in English)】
< Course outline > We aim to utilize knowledge of Korean language that we already have and to absorb knowledge more comprehensively. Using Korea newspapers, magazines, and videos, we aim to be able to express ourselves by learning how to use natural Korean language, various expressions, and newly built language. This course will be mainly conducted in the Korean.
< Learning Objectives >
The goal is to speak your opinion with confidence. Please actively participate in the discussion.
< Learning activities outside of classroom >
I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on.The students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Term-end examination (100%)

LANk300GA（朝鮮語 / Korean language education 300）

朝鮮語アプリケーション

梁　禮先

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一定のテーマを決めてディスカッションを実施したり、韓国の文学作品を読んで、韓国の伝統・習慣・文学表現を習い、朝鮮語のレベルアップをはかります。朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。

【到達目標】
積極的に韓国語によるディスカッションに参加したり、韓国の文学作品も読めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
色々なテーマに沿ったディスカッションをやったり、韓国の近代小説にもチャレンジして、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えたり学ぶことができます。
映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。
課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と復習	授業の進め方についての説明をします。
第2回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第3回	話題のテーマについて	意見交換する
第4回	韓国の文学を読む	問題点や意見交換をする
第5回	韓国の伝統や日本の伝統の比較	日韓伝統の意見交換をする
第6回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第7回	韓国の文学を読む	問題点や感想などを述べる
第8回	日韓伝統・習慣について	意見交換をする
第9回	韓国の映像を見る	映像を見て、自由討論
第10回	話題のテーマについて	ディスカッションをする
第11回	個別プレゼンテーション	意見交換をする
第12回	個別プレゼンテーション	グループワーク
第13回	個別プレゼンテーション	討論をする
第14回	総合ディスカッション	授業の問題点や感想などの意見交換をしたり、討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテーマの内容やそれぞれの文学作品を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で説明します。

【参考書】
韓国の近代文学作品
湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】
積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。
発表・レポート・平常点を総合して(50%)、期末レポート(50%)、など、これらの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
文学作品だけではなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】
< Course outline > To improve your level of Korean language, we will choose a topic and discuss, read Korea literature works, and learn Korea traditions, customs, and literary expressions. The aim of this class is to build comprehensive Korean language skills.
< Learning Objectives >
Please actively participate in the discussion in Korean.
The goal is to be able to read Korean literary works as well.
< Learning activities outside of classroom >
Check out the content of the theme.The students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Term-end examination (100%)

LANk300GA（朝鮮語 / Korean language education 300）

朝鮮語アプリケーション

李　蕙臣

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語中上級向けのクラスである。朝鮮語・韓国語の文学作品を読み進めることで、朝鮮語の世界の広がりを体験する。韓国人の情緒が込められている文学作品の学習をと通じて文化への理解も深めることを目指す。作品の内容について朝鮮語で自分の感想を発表したり、類似ジャンルの作品について調べて朝鮮語で発表したりする。これまで学習してきた「話す力」「書く力」などの定着を図り、自らの力で、朝鮮語の世界を渡り歩いていける力を身に着ける。

【到達目標】
韓国の文学作品を読むことで、朝鮮語の易しい長文を読み進める力を身に着ける。中級レベルの語彙や表現を復習しながらより高いレベルの新しい言葉や文法も習得出来る。韓国の文学作品を朝鮮語で読むことで文化への理解度も高める。作品の内容について、クラスの仲間に朝鮮語で質問できる、朝鮮語で意見交換できるなどの力を身に着ける。類似なジャンルの文学について調べて朝鮮語で発表出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
作品のテーマやジャンルについで簡単なウォーミングアップをしたのち、テキトに沿ってリーディング、語彙や表現を学習することで朝鮮語をそのまま理解する練習を行う。内容を確認する問題を解く練習を行う。自分の感想を書いたり話したりする。類似ジャンルの作品について朝鮮語でプレゼンテーションをすることにも挑戦する（期末プレゼンテーション1回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 韓国の随筆を読む①	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	韓国の随筆を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
3	韓国の随筆を読む③	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
4	韓国の小説を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
5	韓国の小説を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
6	韓国の小説を読む③	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
7	韓国の古典小説を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
8	韓国の古典小説を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
9	韓国の古典小説を読む③	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
10	韓国の神話を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
11	韓国の神話を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
12	韓国の映画評論を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
13	韓国の映画評論を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
14	まとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、作品を読み、新出語彙や表現を調べる予習が必要です。本授業の準備、復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参与度70％、プレゼンテーション30％。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course deals with Korean intermediate level.
< Learning Objectives >
At the end of the course, students are expected to enhance the development of the skill in reading, writing, listening and talking.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Presentation ： 30%,in class contribution:70％.

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

文化情報のデザインワークショップ

甲　洋介、松田　美奈子

サブタイトル：**ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ**
配当年次／単位：**1～4年／２単位**
旧科目名：**情報コミュニケーションI**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**受講状況により選抜することがあります**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ユーザーの体験をデザインする『面白さ』と『奥深さ』を、実践的に学ぶ科目
私たちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。
　このワークショップでは、「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という２つのテーマに取り組む。　道具をデザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバランスよく配置して、実践的に学べる科目である。
●　**ユーザー調査を行い、特性を理解し、道具を使いやすくデザインする**
講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。
　私たちの日常を様々な側面で支えてくれる道具たちを、使いやすく魅力あるのにするにはどうすればよいか？　その鍵は、ユーザの特性と、ユーザに起こっている出来事の的確な理解にある。　道具のデザインを改良する具体的な方法論を、実習を通じて学ぶ。
●　**新しい、近未来の道具をデザインする**
講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。
　まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいのか？
　その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。　利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】
「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」、この２つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。
●　２つのテーマは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え方、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、実践できるようになる。
●　グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の工夫を学び、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この２つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。
●　前半では、身近で気になる道具を１つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。
●　後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を１つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。
●　各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイディアを深められるように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン
2	道具の使いやすさ（理論編）	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ
3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすくする改良事例を互いに学ぶ
9	「未来のモノのデザイン」の考え方	未来に向けたデザインとHCD（人間中心設計）プロセス
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイディア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】
・「人間計測ハンドブック」第3章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.
・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）

【参考書】
・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
・「デザイン思考が世界を変える〔アップデート版〕」(ティム・ブラウン著、早川書房) 2019
・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA編、ワークスコーポレーション）2014.
他については適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
・レスポンスシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合い (50％)
・課題レポート、プロトタイプなど制作物 (50％)
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義と実習を効果的に組み合わせ、理解がより深まるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。
「文化情報学の実践」科目群〔共通のテーマ〕
「文化情報学の実践」科目群では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告などを実践的に学ぶ。
実務経験のある教員による授業
教員は一般企業で製品/サービスのデザインに関わる業務に20年以上従事。ビジネスの現場でも幅広く活用できる実践的なデザインアプローチを学ぶ。

【前提科目と関連科目】
・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。
・「文化情報学の実践」科目群の姉妹科目と合わせて履修する事で多面的な学習効果が得られるよう工夫されている。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
情報実習室で開講する場合は、ＰＣおよび、ＤＶＤデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を使用する。

【Outline (in English)】
This class provides you with an unique "Design Workshop". This class allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User Experience (UX) Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

文化情報のためのネットワーク技法

和泉　順子

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：**情報コミュニケーションⅡ**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**実習設備の許容人数を超えた場合に行う**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化研究と成果発表の方法を身に着ける（旧科目：情報コミュニケーションII）
【旧科目：情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ共通テーマ】
文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法論的訓練を行う。
【本科目の学習の目的】
本講義の前半において、Study Abroad環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと、研究倫理・データ倫理に基づいた問題解決の方法を学ぶ。本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。GAS（Google Apps Script）を使ったGoogle Workspaceの統合・自動化の実習を例に、SA等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】
SAや卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に着ける。インターネット環境を十全に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
前半に在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学び、その上で情報機器を用いた文化研究成果の発信と共有を試すことになる。全体を通してSA等で収集したデータや研究成果の取りまとめを念頭に、何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させることを目指す。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れる。
課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更や それにともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体）インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体）インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IPアドレス枯渇とその対応技術、無線LANの利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IPアドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の対応を考える。また大学VPN環境を確認する。
4	情報活用のための実践知識（2）	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、問題点を整理・理解する。
5	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
6	文化研究にむけての準備	質的研究と量的研究の違いを学び、取り組みたい研究課題とその手法の計画を立てる。
7	研究倫理・データ倫理	大学の研究倫理規定を参照し、研究倫理やデータ倫理の意味や目的、あるいはその手続きを確認する。
8	研究課題の計画	各々の研究課題に沿った調査計画とその中間報告を行う。
9	研究調査成果の蓄積・共有方法の検討	GoogleフォームやGoogleドライブを用い、研究調査や情報共有を確認・実践する。
10	蓄積した情報の統合・自動化	GAS（Google Apps Script）を用いてGoogleフォームやメールなどの統合・自動化を学ぶ。
11	情報公開の手法	調査研究の結果の公開対象や手法を検討し、準備する。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。進捗と問題点を報告する。
13	研究計画の確認と成果の公開	調査研究成果をGoogleサイトを用いて限定公開し、互いに議論する準備を行う。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前の研究計画を基に研究の進め方や問題を振り返り、SA研究計画との接続を図る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には以下のような課題を通して、適宜学習することが求められる。
1. (SA準備として)個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
2. 学外、学内でのインターネット接続、Webアクセス
3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
4. 個人研究テーマの検討
5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
6. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
佐藤郁哉、「フィールドワーク―書を持って街へ出よう」、新曜社; 増訂版 (2006/12/20) ISBN 978-4788510302
水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版（1996）、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業参加（20%）、コンテンツ作成（40%）、実習課題（30%）、発表（10%）を目安とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
情報機器やネットワーク環境など、実際の在外学習環境は年々変化する。
これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室での実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、学習支援システムで公開する資料等を教室PCあるいは持ち込みPCで確認しながら使用して進める。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、PCを用いて大学のGoogle Workspaceを利用して作業することを前提とする。
最終課題となる発表や授業の補足はZoomあるいはWebexを用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
したがって、授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
SAをはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。
Webを基盤とする高度なICTの活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、**本科目では学生の就業力育成を支援します。**

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
SA環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を前提、あるいは並行履修すること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The first half of the course reviews practical techniques of digital network communication, research and data ethics.
In the second half, students learn how to use GAS and other tools for editing cultural information.
（Learning Objectives）
- To acquire a methodology for research and study of cultural information.
- To make full use of the internet environment to publish and accumulate the results of their studies.
（Learning activities outside of classroom）
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on the practical assignments (20%), in-class contribution(30%), and term-end presentation (10%) and content creation(40%).

COT300GA（計算基盤 / Computing technologies 300）

情報アプリケーションⅡ

大嶋　良明

配当年次／単位：**3～4年／２単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
誰でも参加できる自由なモノづくりの世界的潮流、Makerムーブメントについて親しむ。実習形式でオリジナル電子楽器の製作を学ぶ。光、温度、圧力などの変化を検知してスピーカー、ディスプレイ、モーターなどの反応を制御する方法（意外と簡単！）やマイコン上のAI技術の活用法、スマホ、インターネットと連携したIoTの構築などを学び、自分のアイデアを作品として実現させる。

【到達目標】
Makerムーブメントの背景と現状について理解する。
楽器音の基本的理解にもとづく電子楽器の構成法を知る。
Arduinoマイコンによるセンサー入力の処理方法が理解できる。オーディオ信号を中心とした出力の制御方法が理解できる。
課題実習と作品制作を通じて、アイデアを成果物に実現する方法を構想できる。作りながら考える、考えながら作る自由闊達なモノづくりの精神を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した講義および実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法で進めます。実習の内容はPBLの考え方にもとづき、ワークショップ形式でのモノづくりを体験します。**作りながら考える、考えながら作る**をモットーにワークショップを運営します。マイコン、配線材など必要な実習機材は用意します。ほかに各自の作品構想に必要となる部品は、既製品を分解する、100均で手に入れる、自作する…などの方法でクリエイティブな試行錯誤を楽しみながら調達しましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：Arduino入門	授業内容の説明と導入、Makerムーブメントとは何か、モノづくりの実例に学ぶ。 開発環境Arduino IDEの使い方とTinkercadを併用した学習環境を学ぶ。
2	初歩の実習：LEDの点滅実験（Lチカ）	Arduinoを用いたLEDの点滅実験（Lチカ）をする。ブレッドボードでの配線を学ぶ。
3	光らせてみよう：LEDの点滅、明暗、色の表現	スイッチ、抵抗、可変抵抗、LEDの回路構成と配線方法を学美、Arduinoでの制御方法を学ぶ。
4	ディスプレイを作ろう：表示の高機能化、文字やグラフィックスの電光表示	LCD、LED、OLEDディスプレイの活用とArduinoでの実現方法を学ぶ。
5	いろいろ測ってみよう：各種センサーの活用	温度センサー、圧電センサー、距離センサー、人感センサー、加速度センサーなど外界の状態を入力する方法を学ぶ。
6	音を出してみよう、メロディを演奏しよう：ブザー音や音階の出力	圧電ブザーやスピーカーから音階を出力する方法、メロディの演奏をArduinoでの実現する方法を学ぶ。
7	演奏を自動化しよう：シークエンサーの製作	自動演奏の仕組みを理解する。インターフェースを追加し演奏機能を拡張する。自動演奏の実行を視覚化する方法を学ぶ。楽器として完成させる。
8	人間の動作を取り込もう：ゲームパッド、ジョイスティックの利用	タッチスイッチ、ゲームパッド、ジョイスティックなどインタラクティブな操作情報を利用する方法を学ぶ。
9	IoTを実現しよう（１）：センサー情報の取得	IoTマイコンを使って各種センサー情報を取得、蓄積し送信する。
10	IoTを実現しよう（２）	IoTマイコンを使って送信したセンサー情報をスマホ、インターネットと連携させる。
11	身近なAI（１）：顔認識による人物検出	AIマイコン上でニューラルネットTensorFlow Liteを使った顔認識による人物検出を稼働させる。
12	身近なAI（２）：音声認識によるコマンド	AIマイコンで登録済み音声による起動ワード認識を稼働させる。
13	身近なAI（３）：手指のジェスチャー認識	AIマイコンのセンサーでジグザグ、円環、斜線など簡単な空間描画を認識させる。
14	ハード、ソフトの相互接続：MIDIとOSC	MIDIやOSCによるコンピュータ、楽器、電子装置の相互接続と制御の仕組みを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【手を動かすことを大事にしよう】
Arduinoマイコンの開発環境はフリーソフトでWindows、 Mac、 Linuxいずれの環境でも利用可能です。また実習で使うArduinoは互換機であれば安価に入手できます。興味のある人はどんどん使って応用力を身につけてください。
【感性を磨こう】
「Make:」の関連書籍は図書館にも整備されつつあります。また作品発表の多くはオンラインでも閲覧可能なので、授業内でも折に触れてご紹介します。ぜひそれらの作品にふれることでアタマを柔らかくしてモノづくりの豊かな楽しさを感じ取ってください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義中に紹介します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。Makerムーブメント（モノづくりの世界）を楽しく学べる２冊と電子楽器の自作やプロトタイピングについての参考書を以下に紹介します。ぜひチェックしてください。
【何か作りたい！ でも何を作ろう…？】
Karen Wilkinson(著), Mike Petrich(著), 金井哲夫(訳)、「ティンカリングをはじめよう ―アート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ」、オライリージャパン(2015)、ISBN:978-4873117263
【Arduino＋音楽】
中西宜人、「Arduinoではじめる手作り電子楽器」、工学社(2015)、ISBN: ISBN978-4-7775-1916-3
【モノづくり＋デバイスアート】
青木 直史(著)、「ArduinoとProcessingではじめるプロトタイピング入門」、講談社(2017)、ISBN: 978-4061565692
小林茂(著)、「Prototyping Lab 第2版 ―「作りながら考える」ためのArduino実践レシピ」、オライリージャパン(2017)、ISBN:978-4873117898

【成績評価の方法と基準】
平常点(30%)、課題(30%)、学期末に提出する作品発表(30%)、合評(10%)により評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生に興味を持ってもらえるよう、単元や実習内容にいろいろ工夫を盛り込みました。受講者のスキルやモノづくりへの好みの違いをお互いの刺激として各自が成長できるよう、課題演習や理解度チェックのバリエーションを用意しました。2020年度からは実機のArduinoとクラウド上のシミュレータTinkercadを併用することで自宅での学習環境も整備されています。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を使用し、実習に必要なPC、Arduinoなど共通の電子部品と配線材は用意します。
課題作成時および提出時には貸与PCまたは個人PCが必要になります。

【その他の重要事項】
情報アプリケーション科目は情報学の総合力を育む科目であり、本科目ではモノづくりのための発想、知識、スキルの全てを身につけることを目指して欲しい。
受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This course deals with the creative development of original digital gadgets such as electronic percussion and sensory lights, gesture detection, wake word speech recognition, IoT applications by using various sensor devices, interactive human interface devices and display devices enabled by Arduino and RP2040-based micro-controllers. Students will become well familiar with the Arduino IDE (Integrated Development Environment) in a small classroom workshop environment.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 30%
Critique: 10%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

PHL300GA（哲学 / Philosophy 300）

こころとからだの現象学

森村　修

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
こころとからだの関係を考える

あなたたちには「**こころ**」が「**あります**」か? 多くの人が「こころが**ある**」と答えると思います。それでは、次の質問です。「それでは、あなたが言うように「**こころがある**」ならば、それは「**どこにあります**」か?」。ほとんどの人が「頭にある」、より正確には「**脳にある**」と答えるかもしれません。それでは、「こころが頭（脳）にある」ならば、**こころと脳とは、どのように関係していますか?**」。「こころがある」と答えた人に質問します。それでは、「こころは見えたり触れたり、知覚できたりしますか?」。もしも「こころ」が見えたり触れたりできないのに、あなたはどうして「ある」と言えるのでしょうか? あなたは「自分で体験しているから」と答えるかもしれません。それでは、「自分で体験するから、「こころはある」のですか? それでは尋ねますが、「あなたの体験は、あなたの「どこで」するのでしょうか? こころで体験するのですか? からだで体験するのですか?

私たちは、「こころがからだにある」とか「こころを持っている」と日常生活の中で疑問を持たずに漠然と信じています。ただ、哲学はこうした常識を徹底的に疑います。何も前提にしないこと、それが哲学的立場としての「現象学」のモットーです。そこで「こころとからだの現象学」という本科目は、「こころとからだ」を考え、それらがどのように結びついているのか（結びついていないのか）について徹底的に追求していきます。

現代において、〈こころ〉とは何か？

2025年度は、〈こころの哲学史〉を学ぶことを通して、古今東西で「こころとは何か」あるいは「こころとからだの関係はどうなっているのか」という問いを哲学的に考察します。　21世紀を生きる私たちにとって、古くて新しい問題としての〈こころ〉という謎を哲学的に考えていきます。

【到達目標】
・〈こころの哲学史〉を学ぶことによって、哲学的に「こころ」とは何かを考察することができる。そうすることで、「こころ」を研究テーマとする心理学や脳科学などの周辺諸科学との差異を認識することができるようになる。
・「こころとは何か」を問うことによって、自分にとって自明であることにも、何もわかっていなかったことがあることを気づくことができる。つまり、哲学的に問い直すことによって、「無知の知」（ソクラテス）に気づくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
本科目は、原則的には講義形式で行いますが、人数が多くない場合は演習形式も取り入れていきます。必要に応じて受講生たちから積極的に意見を聞くなどして、受講生1人ひとりが自分の「こころとは何か」と自覚的になるように、授業を進めます。というのも、**現象学という哲学の立場は、主観的体験を重視し、自らの体験に基づいて哲学的な問いを立てていく哲学の立場**だからです。
【授業の方法】
授業は、基本的には、『心の哲学史』を参照しながら授業する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義の概略と進め方
2	『心の哲学史』解説①	第一章　心の哲学史の始まり① 1. ヴント 2. ブレンターノ 3. フッサール
3	『心の哲学史』解説②	第一章　心の哲学史の始まり② 3. エーレンフェルスからゲシュタルト心理学へ 4. 意志と行為の構造化
4	『心の哲学史』解説③	第二章　心の科学・心の哲学・身体の現象学① 1. 内観主義 2. 行動主義・同一説・機能主義
5	『心の哲学史』解説④	第二章　心の科学・心の哲学・身体の現象学② 3. 現象学と認知科学 4. 方法としての内観あるいは一人称報告
6	『心の哲学史』解説⑤	第三章　認知システムと発達の理論展開① 1. 視線・羞恥・超越性・対他存在 2. 対象としての他者という誤り 3. ミラーシステムと身体化されたシミュレーション
7	『心の哲学史』解説⑥	第三章　認知システムと発達の理論展開② 4.「視線」の発達心理学 5. 発達理論としてのアフォーダンス 6. 心の理論パラダイムと発達研究
8	『心の哲学史』解説⑦	第四章　心理学の哲学の基礎づけ① 1. 心理学と現象学の認識論的解釈 2. 質的心理学 3. 現象学と現象学的心理学
9	『心の哲学史』解説⑧	第四章　心理学の哲学の基礎づけ② 4. 心理学は自然科学へ解消するか 5. 心の科学の過去・現在・未来 6 現象学的精神医学の興隆と衰退
10	『心の哲学史』解説⑨	第五章　認知神経科学と現象学① 1. 脳と身体の関係をどう考えるか——現象学と心身問題 2. 道具を使って身体は拡張する——現象学的身体論入門
11	『心の哲学史』解説⑩	第五章　認知神経科学と現象学② 3. 脳と機械を結ぶ——主体感の現象学 4.「私の身体」を操作する——所有感の現象学
12	『心の哲学史』解説⑪	第五章　認知神経科学と現象学③ 5.「身体化された自己」の現象学
13	『心の哲学史』解説⑫	第六章　心理的なるものを超えた心理学① 1. デカルト的心理学の道とアニマシー心理学の道 2. 身体性認知科学への転回 3. アニマシー心理学の構想 4. 無神経な生物たちの心のはたらき
14	・『心の哲学史』解説⑬ ・まとめ	第六章　心理的なるものを超えた心理学② 5. 歩く・座る・つかむ・投げる・食べる・眠るの心理学 ・〈こころの哲学史〉の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・資料として提示しているテキストを事前に読んでおいてください。
・レジュメの形式などについての諸注意は、最初の回にアナウンスします。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
村田純一・渡辺恒夫編『心の哲学史』、講談社、2024年
★　本書は大部で高価なため、必要に応じてこちらでコピーを配布する場合がある。

【参考書】
参考文献については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
・討議への参加（30%）・期末課題レポート(70%)。
以上を総合的に評価し、評定を決める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
※ リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準に変更がある。

【学生の意見等からの気づき】
「こころとからだ」の関係について考えることは、簡単なようでとても難しいので、なるべく具体的な経験をもとに議論を進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用することがある。授業前後に確認すること。

【関連科目】
・甲先生の「こころの科学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。履修については、どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる。
・授業担当者（森村）の他の授業「文化情報概論」や「文化情報の哲学」などと基本的なモチーフは共有しているので、これらとともに受講することが望ましいです。「概論」では、情報社会における〈こころ〉の問題とコミュニケーションの関係を取り上げる予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】**What is the "mind"?**

In 2025, we will philosophically consider the questions ‘What is the mind?’ and ‘What is the relationship between the mind and the body?’ through studying the ‘History of the Philosophy of the Mind’.

Through the study of the history of philosophy of mind, we will philosophically consider the mind as an old and new problem for those of us living in the 21st century.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

道具のデザイン学

甲　洋介

サブタイトル：**魅力的な体験をデザインする、という考え方**
配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：**ヒューマンインターフェイス論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい< br /> 旧：ヒューマンイタンーフェイス論の修得者は履修不可**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●　デザイナーだけではない。利用者の視点がデザインに役立つ！
日常生活はたくさんの道具やサービスであふれている。日常生活で出会う道具にはコンタクトレンズのような小さなモノから建築物やアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。
　利用者としてのあなたの体験に目を向けよう。お気に入りの道具を楽しむこともあれば、面倒な操作で不快になった体験もあるだろう。

●　デザインすると、暮らしはもっと快適になる
暮らしの道具やサービスを使いやすく魅力的にデザインすることは、その道具の利用者の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結している。道具のデザインは重要である。そのデザインに、ユーザからの視点が非常に役立つことが分かってきた。

●　ユーザの体験（エクスペリエンス）をデザインする、という考え方
ではどうデザインするか。本講義では、利用者にとって使いやすく、魅力的なものをデザインすることを目指す方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。
「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。
　文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会に重要な、人と人工物が共生する社会について考える際の基礎となる。

【到達目標】
UXデザインの基礎が身につく
・使いやすく魅力的な道具やサービスをデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方を説明できるようになる。
・デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。
・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス(experience=体験)の観点からデザインし、企画を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」を、基本から実践までを体系的に学ぶことができる。
●各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。受講生どうしの討議・意見交換の機会を適宜促すとともに解説を行う。改良アイディアがさらに得られるように工夫する。
●「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する
特に後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。講義での説明に基づいて、各自が練習課題に取り組む。その成果を蓄積していくとレポートが仕上がるように工夫されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
2	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
3	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えない動物である
6	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
7	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」① *User Experience (UX) Design*	ユーザの特性を理解し、体験*(experience)*をデザインする、という考え方
8	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」②理論	*UX Design*の考え方の基礎と基本原則を学ぶ
9	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」③手順	デザインの流れと、具体的な手順
10	道具のデザイン実習①商品の企画	魅力ある商品の企画書を作るために
11	道具のデザイン実習②ユーザー分析	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③デザインプロセス	ユーザの快適な体験*(experience)*をデザインする
13	道具のデザイン実習④評価技法の例	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を兼ねて、課題練習を少しづつ積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・「誰のためのデザイン」（D.A.ノーマン、新曜社）2015
・「人間計測ハンドブック」（甲ほか、朝川書店）2013
他については適宜指示する。

【参考書】
・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
・「ユーザビリティエンジニアリング」（樽本徹也、オーム社)2014
・「UXデザインの教科書」（安藤昌也著、丸善出版）2016
・NPO人間中心設計推進機構：　http://www.hcdnet.org/

【成績評価の方法と基準】
・レスポンスシート、授業・討議における積極性な貢献度合い(50％)
・発表とレポート(50％)
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

【履修条件】
・国際文化学部生は「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。
・他学部生（国際文化学部生以外）は初回の授業に出席し必ず先生に履修の許可について相談すること。

【関連科目】
・姉妹科目の「文化情報のデザインワークショップ」は、ユーザーエクスペリエンス・デザイン手法の実践ワークショップになっている。これと併行履修することで知識と実践の相乗効果が得られる。
・「こころの科学」「道具による感覚・体験のデザイン」「システム論」と組み合わせて受講すると、知識が関連し合って面白くなる仕組みになっている。
・本科目の主題は、「文化情報空間論」においてさらに発展される。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline (in English)】
This class allows you to learn the "User Experience (UX) Design". By the end of the course, student understands the basic principles of the "UX Design" and should be able to understand how to apply some basic methods.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT300GA（計算基盤 / Computing technologies 300）

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋　良明

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PCでシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。 本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語であるPure Data(Pd)を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時にMIDIやOSCによる他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoTなど現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】
コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd)に習熟しビジュアルプログラミングの考え方とコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしてのPdの利点を認識し、Windows、 MacなどOSや機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
ビジュアルプログラミング言語Pdを使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスタ内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pdによる音響モデリングの先端的な実現例をAndy Farnellのサンプルプログラムから学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびPureData(Pd)の概要	【講義と実習】PureData(Pd)とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】DTMFトーン（プッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pdの基礎	【講義と実習】パッチ（Pdのプログラム）を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音をPdで使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。
7	リズムマシン (2)	【講義と実習】リズムマシン基本形を発展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】人間の歌声のモデル化を学ぶ。
8	シンセサイザーとMIDI(1)	【講義と実習】波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDIによる電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】ロボット（スターウォーズR2D2）の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーとMIDI(2)	【講義と実習】シンセサイザーの出力音にポルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。MIDI信号による制御を付加する。
10	音響効果の実装：リバーブ、ディレイ、フランジャー	【講義と実習】ディレイ音と直接音からなる音声再生と聴感上の効果の関係理解し、空間系エフェクトの実装に組み込む。 【課題制作】課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。Webカメラから信号をPdで加工する方法やPdで映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
12	ネットワーク環境への拡張	【講義と実習】OSCプロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数のPdパッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【講義と実習】Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motionなどフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。PduinoによるPdとArduinoの連携方法を学ぶ。
14	まとめ	学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
情報リテラシー、メディア情報基礎、ディジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。PdはオープンソースのソフトウェアでありWindowsでもMacでもフリーで配布されており、情報カフェテリアのPCにもインストールされている。スマホ用にもPdの実行環境は提供されている。授業時間外でのPdの実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】
参考書・参考資料等
【Pure Data】
美山千香士、『Pure Data チュートリアル＆リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424
松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Dataではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エヌ・エヌ新社(2012) ISBN: 978-4861007804
中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821
【音響モデリング】
Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】
平常点（30％）、課題（30％）、最終課題の評点（40％）で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人のPCを利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。またWeb公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。
期中アンケートにおいて音楽知識に関する意見を貰ったので改めて明記するが、普通科での音楽の知識や簡単なポピュラー音楽用語のみで受講には十分であり、高度な楽典知識は前提としていない。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のデスクトップPCを使用する。Pdはフリーにダウンロードできるので個人PC（Mac版、Linux版もある）にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】
受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。
実務経験のある教員による授業：
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のディジタル信号処理（特にディジタル音響、音声合成、統計モデルによる音声認識）、マルチメディア処理（音楽音響、電子透かし）分野の経験がある。

【Outline (in English)】
This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI /OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

FRI200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

文化情報の哲学

森村　修

サブタイトル：
配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
《授業の概要》
本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問を哲学的に基礎づけるための科目です。そもそも「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問として新しく構築するために考案された学問です。この学問では、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、「文化情報」として編集しなおして解釈し、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したり、さらにそれらの〈意味〉や〈価値〉を付加して新しく発信することを目指します。

そこで、本授業では、テクノロジーの進歩が私たちの生活のみならず社会構造を大きく変えていく現状を、「テクノロジーの哲学」の観点から考察していきます。特に、私たちの社会とテクノロジーとの関係を中心に、哲学理論研究から実際のテクノロジーの進歩がどのように社会を変えてきているか、また私たちの意識や心までも変化させているかを哲学的に考えていきます。
【授業の目的】
そこで、本授業では、**マーク・クーケルバーク（Mark Coeckelbargh, 1975-）の「テクノロジーの哲学」**を取り上げ、テクノロジーの進歩と社会との関係、さらには私たちの心や意識の問題から道徳や倫理、社会制度の問題にまで、テクノロジーが関わっていることを考察します。クーケルバーグは、日本語翻訳が次々と出版されており、「テクノロジーの哲学」研究の分野では大いに議論されているベルギーの哲学者です。

【到達目標】
（1）21世紀を生きる私たちにとって、テクノロジーを「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
（2）哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
講義形式で行う。その際に、必要に応じてテキストの読解を行う。また、テキストについて教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ・「テクノロジーの哲学」講義①	・本科目の意図の説明など 第Ⅰ部「テクノロジーの哲学」とは何か？ 第1章「テクノロジーを考える」とは？
2	「テクノロジーの哲学」講義②	第2章　「テクノロジーの哲学」の歴史と背景 1.テクノロジーの哲学の成り立ち 2.テクノロジーの哲学の背景
3	「テクノロジーの哲学」講義③	第Ⅱ部　理論からテクノロジーを考える 第3章　現象学と解釈学 1.ハイデガーの「テクノロジーへの問い」 2.マクルーハンのメディア論 2.テクノロジーの現象学
4	「テクノロジーの哲学」講義④	第4章　ポスト現象学・物質的解釈学・媒介理論 1.ドン・アイディのポスト現象学 2.フェルベークのポスト現象学 3.物質的道徳性
5	「テクノロジーの哲学」講義⑤	第5章　批判理論とフェミニズム 1.マルクスとテクノロジー 2.テクノロジーをめぐるフェミニズムの思考 3.フェミニズムの「テクノロジーの哲学」
6	「テクノロジーの哲学」講義⑥	第6章　プラグマティズム、分析的アプローチ、異文化間・文化横断的な「テクノロジーの哲学」 1.プラグマティズム 2.間文化的な「テクノロジーの哲学」
7	「テクノロジーの哲学」講義⑦	第Ⅲ部　具体的な技術から考える 第7章　情報テクノロジーから哲学、そして情報倫理へ 1.フロリディの情報哲学・情報倫理 2.フェイクニュースとインターネット
8	「テクノロジーの哲学」講義⑧	第8章　ロボット工学とAIから道徳的地位と人間関係をめぐる考察 1.モラル・マシーン 2.道徳的被行為者性 3.セックスロボットと人間関係
9	「テクノロジーの哲学」講義⑨	第9章　遺伝子工学とサイボーグからトランスヒューマニズムとポストヒューマニズム 1.トランスヒューマニズムとヒューマン・エンハンスメント 2.ポストヒューマニズムとサイボーグ
10	「テクノロジーの哲学」講義⑩	第10章　気候変動とジオエンジニアリングから「自然」への問いと「人新世」の考察 1.「自然」の問題 2.人新世——哲学からの応答
11	「テクノロジーの哲学」講義⑪	第11章　テクノロジーの哲学を超えてテクノロジーを考える 1.ソーシャルメディアと道徳哲学 2.哲学的人間学 3.言語の考察とテクノロジーの考察
12	「テクノロジーの哲学」講義⑫	第12章　テクノロジーの哲学とその他の学問 1.ロボット工学 2.社会科学 3.人文学
13	「テクノロジーの哲学」講義⑬	第13章　テクノロジーの哲学とアカデミア外の実践 1.イノベーション、政策 2.芸術
14	「テクノロジーの哲学」講義——総括	・「テクノロジーの哲学」研究の未来と教育への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・必要に応じて配布された資料に基づいて、レジュメを作成する。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
M・クーケルバーク『技術哲学講義』直江清隆・久木田水生監訳、丸善出版、2023

【参考書】
① M・クーケルバーク『AIの倫理学』直江清隆他訳、丸善出版、2020年
② M・クーケルバーク『AIの政治哲学』直江清隆他訳、丸善出版、2023年
③ M・クーケルバーク『デジタルテクノロジーと時間の哲学』直江清隆他訳、丸善出版、2024年
④ M・クーケルバーク『ロボット倫理学——ソーシャルロボットから軍事ドローンまで』田畑暁生訳、青土社、2024年

【成績評価の方法と基準】
・期末テスト（70％）、授業内（30％）
※ この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする
※要注意【変更】
リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・テクノロジーを哲学的に考察するためには、皆さんの頭脳と身体があれば十分です。したがって、授業担当者が

【その他の重要事項】
・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩ですので、考えることを実践してみましょう。
・授業担当者（森村）の他の科目との関連が極めて強いので、他の科目も併せて受講することをお勧めします。
1.「文化情報学概論」は、科目名からも近しいように、「文化情報学」の基礎を学ぶ科目です。そこでは、テクノロジーが情報社会と密接に関わっている点を、〈ヴァーチャル社会〉という観点から哲学的に捉えていきます。
2.「こころとからだの現象学」では、私たちの「こころ」がどのように、私たちの〈外〉にある〈ヴァーチャル社会〉から影響されているかを哲学的に考えていきます。

3.「現代思想」では、「生まれてこないほうがよかった」という反出生主義を哲学的に考えていきます。そこでは、人工妊娠中絶などテクノロジーが関わる医療問題を取り上げていきます。
4.ILAC科目「倫理学」では、ロボットを使用する際の倫理問題や、テクノロジーによる自動運転の行為者責任などについて、倫理学・道徳哲学からアプローチするための、基礎的な倫理学的思考を学びます。
5.ILAC科目「倫理学Ｌ」では、「ケアの倫理学」という観点から、テクノロジー機器による介護・看護の問題から、「ケアする」側は、なぜ「人間」でなければならないのか、また介護ロボットの倫理的問題などについても考察していきます。

【哲学することの姿勢について】
・本授業は、テクストを一文一文読解していく原書講読のスタイルをとる哲学の授業である。
・哲学の鍛錬で最も重要なことは、第一にテクストを正確に読めること、第二に、正確なテクスト理解の上に、自らの解釈を組み立てること、第三に、自らの解釈が何を根拠にしているかを明らかにできること、である。

【Outline (in English)】
【Couse outline】
This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".
In this class, based on the perspective of “philosophy of technology,” we will examine the current situation in which technological progress is drastically changing not only our lives but also the social structure.
In particular, we will focus on the relationship between our society and technology, and philosophically consider how actual technological advances are changing our society and even our consciousness and minds.
【Objective of the class】
This class will therefore focus on Mark Coeckelbargh’s (1975-) “Philosophy of Technology” to examine the relationship between technological progress and society, and how technology is involved in issues ranging from our minds and consciousness to morality, ethics, and social institutions. Coeckelbargh is a Belgian philosopher whose work has been published in a series of Japanese translations and is much discussed in Philosophy of Technology.
【Leaning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. to learn how important it is for us to philosophize.
-B. to learn to think philosophically.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria /Policies】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

パフォーマンスの美学

森村　修

サブタイトル：**＜からだ＞＜音＞＜色彩＞―身体表現の可能性**
配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：**パフォーマンス・スタディーズ**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり・選抜試験**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】
本科目「パフォーマンスの美学」では、いわゆる「身体表現」だけでなく、思考を表現した作品・対象（=オブジェ, objet)も、何らかの「実演＝パフォーマンス」として捉え、そこに内在する学（aesthetics）を考察することを目的とする。それゆえ、いわゆる芸術表現としての「パフォーマンス・アート」には一般的には属さない「ファイン・アート」や、デザイン、詩などの文藝作品も、何らかの実演された表現として捉え、そこに見出せる「美」や「美意識」について哲学的に考察する。また、いわゆる「前衛芸術」や「実験芸術」など、政治的・イデオロギー的・宗教的な理由などで従来の学校教育では取り上げることがないアート運動や表現活動も「パフォーマンス」として含めて考察する。
2025年度は、ニューヨーク大学シェクナー教授で有名になった「パフォーマンス・スタディーズ（Performance Studies）」に基づいて、日本の前衛芸術家・劇作家の寺山修司（1935-83）の活動を取り上げる。
【授業の意義】
「パフォーマンス・スタディーズ」の手法を用いて、寺山修司の文学作品、映画作品、演劇作品を通じて、彼の思想とその表現を分析する。その際に、「パフォーマンスの美学」という観点から、現代の美意識や美の価値観ではなかなか捉えにくい寺山ワールドのもつ、パフォーマンスの可能性を探ることが、本授業の意義である。

【到達目標】
（1）既成の価値観・マスメディアの流す価値観に対する、批判的視点を身につけることができる。
（2）自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
（3）高校までの芸術教育や制度的なアート認識を新たに問い直し、自らの視点でアートについての鑑賞方法や参加方法について、説明できる。
（4）アートの領域の内部で生じた、20世紀以降のさまざまな変遷を辿ることで、「前衛芸術」のあり方について、現在のアートのあり方を予測することができる
（5）「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の概要】
寺山修司は前衛演劇集団「天井桟敷」の主宰者として、日本国内だけでなく、海外でも高い評価を受けている。また最近では「国際寺山修司学会」も設立され、寺山の特異で多方面の活動を再考する機会も増えてきた。青森県三沢市には「三沢市寺山修司記念館」も建設され、地域の観光名所にもなっていることも、現在における寺山の重要性の証左となっている。
本講義では、「パフォーマンスの美学」の観点から、寺山の活動を捉え直すと同時に、21世紀初頭という現在の状況の中で、寺山の前衛演劇の思想を再考することで、新しい「アート」概念と表現手段について受講生とともに考えていくことがめざされている。
【授業の方法】
①基本的には、授業は「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行う。特に文学（俳句・短歌・詩）作品については、教員による解釈を提示しながら、受講生の感想・解釈を積極的に取り入れていく。
②代表的な映像作品（実験映像・映画・演劇の記録など）を上映する。そこで、諸作品について、さまざまな解釈をしながら、授業参加者と討議していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・寺山修司の略歴紹介 ・講義の目的と概要についての解説を行う。
2	パフォーマンス・スタディーズの基礎①	・パフォーマンス・スタディーズの歴史について概観する。
3	パフォーマンス・スタディーズの基礎②	・パフォーマンス・スタディーズの概念について概観する。
4	パフォーマンス・スタディーズの応用――寺山修司の演劇的解釈①	・寺山の批評を行う評論家・高取英の演劇作品を上映し、寺山の自伝的背景を検証する。
5	パフォーマンス・スタディーズの応用――寺山修司の演劇的解釈②	・高取英の作品から、前衛演劇の可能性について、説明する。
6	寺山修司の映像作品分析①	・寺山の自伝的作品とも考えられる映画『田園に死す』を上映し、彼の思想の背景について解説する。
7	寺山修司の映像作品分析②	・寺山の『田園に死す』を通じて、同時代の寺山の他の作品との関係について、解説する。
8	寺山修司の映像作品分析③	・『田園に死す』の持つ映像技術や描写の技法を分析し、後の寺山作品との関連性を説明する。
9	寺山修司の映像作品分析④	・寺山の遺作『さらば箱舟』を上映する。そのなかで、寺山の映画作品における表現の変化を分析的に説明する。
10	寺山修司の映像作品分析⑤	・『さらば箱舟』に描かれているさまざまな文化的意匠を分析し、寺山作品の背景と時代性・地域性について考察する。
11	寺山修司の映像作品分析⑥	・『田園に死す』と『さらば箱舟』との時代的変化、表現技法の変化について、比較研究を行う。
12	寺山修司の映像作品分析⑦	・寺山の作品の基調をなす「エロス」の表現について、異色作『上海異人館チャイナドール』を上映し、「エロス」的表現の思想を考察する。
13	寺山修司の映像作品分析⑧	・『上海異人館チャイナドール』における「エロティシズム」と他の「ポルノグラフィ」作品とを比較し、寺山の「エロス」の映像化の試みを検証する。
14	寺山修司の映像作品分析⑨	・泉鏡花原作の翻案である映画『草迷宮』から、いわゆる異色の「寺山ワールド」と呼ばれる演劇空間の創出について、説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）寺山修司の作品を事前に文庫等で読んでおくことが望ましい。彼の作品は容易に文庫本で入手できる。また、『寺山修司著作集』全五巻も刊行されているので、主要著作や作品を読むことができる。さらに、映像作品や映画や演劇作品も、授業で取り上げるもの以外にもいくつかDVDになっている。授業外に、これらの作品を読んだり観賞したりすることで、「寺山ワールド」を体験することが望ましい。
残念ながら、寺山修司が亡くなって30年近く経ってしまい、彼の演劇作品をナマで体験することはできない。演劇はその場で観客として、体験者として体験することによってこそ、演劇特有の感動がある。ただ、彼の作品はさまざまな演出家や劇団によって再解釈され、再演されている。それゆえ、受講生たちも、そうした機会を利用して、前衛演劇を体験してもらいたい。そうすることで、パフォーマンス・スタディーズの実際を体験することで、自らの文化的偏見の打破を目指してもらいたい。

【テキスト（教科書）】
寺山修司の作品については、教員から資料を配布するので、テキストは特に使用しない。

【参考書】
【寺山修司の概説】
・高取英『寺山修司――過激なる失踪』（平凡社新書、2006年）

・田中未知『寺山修司と生きて』（新書館、2007年）

【成績評価の方法と基準】
【成績評価】
①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（30％）
②期末リポート（70％）
【評価基準】
①作品を読んだり、見たりする際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。
②期末リポートは、あくまで「批評（critique）」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準（criterion）」が前提されている必要がある。寺山修司の生き方や作品について「批評文」を書くためには、次の４点が明確に意識されていることが、本科目の「成績の評価基準」になっている。
（1）寺山作品について、自分自身の「評価規準」が明確であること。
（2）自らの「評価規準」に照らして、自分の意見・主張が明確に述べられていること
（3）自分の意見・主張を読み手に説得的に表現できていること
（4）自分の表現が自分勝手な思い込みによる羅列ではなく、きちんと論理的に組立てられて述べられていること

【学生の意見等からの気づき】
2024年度は授業担当者がサバティカル（国内研究員）だったために、記すことができない。

【学生が準備すべき機器他】
映像作品の上映があるので、各自がPCやタブレットを持参する必要がない。逆に、それらを使用することによって、授業に集中できない可能性もあるため、持参しないでもらいたい。

【その他の重要事項】
・本講義がめざしているのは、受講生の美意識や価値観の問い直しである。そこで、参加者全員に、既成の価値観やマスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められている。それゆえ、本講義では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇気をもつ学生の参加を望む。インターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本講義の真の目的である。
・本科目は「表象文化」の科目群に位置づけられているが、本科目が重視する「現前性（presentation）」は「表象（representation）」概念の批判を含んでいることに注意すべきだろう。「現前性」にとって重要なのは、「「現場性」・「直接性」・「現在性」に特化した「パフォーマンス性（performativity）」であり、「いま・ここ」を最大限重視するアート作品に積極的に関与し、参加する態度であることを明記しておきたい。
・「表象文化概論」（特に、森村担当分「現代視覚文化論」）も合わせて受講することで、「パフォーマンス・スタディーズ」や「パフォーマンスの美学」という考えが、いわゆる視覚重視の「表象文化」を批判する視座をもつことを確認してもらいたい。

【お知らせ】
・「パフォーマンスの美学」という科目は、授業担当者（森村）の他の科目との関連が強くないように思われるかもしれません。しかし、実は深いところで、他の科目と関わっているため、他の科目と併せて受講することをお勧めします。
1.「文化情報学概論」は、科目名からも近しいように、「文化情報学」の基礎を学ぶ科目です。そこでは、テクノロジーが情報社会と密接に関わっている点を、〈ヴァーチャル社会〉という観点から哲学的に捉えていきます。〈ヴァーチャリティ〉と〈リアリティ〉の関係が深く関わっており、身体を媒介する「パフォーマンス」と2Dの世界観がどのように関わるか学ぶことができます。
2.「こころとからだの現象学」では、私たちの「こころ」と「からだ」に着目することによって、私たちの〈外〉にある〈ヴァーチャル社会〉と身体とその表現の問題を哲学的に考えていきます。
3.「現代思想」では、「生まれてこないほうがよかった」という反出生主義を哲学的に考えていきます。そこでは、誕生や死について身体を含めて取り上げていきます。
4.ILAC科目「倫理学」では、身体によるパフォーマンスや言葉によるパフォーマンスが「暴力」として発現する可能性があることを倫理学・道徳哲学からアプローチします。
5.ILAC科目「倫理学Ｌ」では、「ケアの倫理学」という観点から、さまざまなパフォーマンスが「ケア」として倫理的問題を引き起こすことなどについても考察していきます。

【Outline (in English)】
Course Outline

The purpose of this course, "Aesthetics of Performance," is to consider all forms of expression as a kind of "performance" and to philosophically examine the "beauty" inherent in it. Therefore, by expanding the concept of "performance", not only "physical expression", but also works of art and objects (objet) that express thoughts will be considered as a kind of "performance" or "result of performance".
Therefore, "fine art," design, poetry, and other works of literature and art that do not generally belong to the so-called "performance art" as artistic expressions are also regarded as a kind of performed expression, and the "beauty" and "aesthetics" found in them are philosophically discussed.
In addition, art movements and expressive activities such as the so-called "avant-garde art" and "experimental art", which are not covered in conventional school education for political, ideological, or religious reasons, will also be considered as "performance".

In the 2025 academic year, the activities of the Japanese avant-garde artist and playwright Shuji Terayama (1935-83) will be taken up on the basis of the "performance studies" made famous by Professor Schechner at New York University.
Meaning of the class
Using the method of "Performance Studies," we will analyze Shuji Terayama's thought and its expression through his literary, cinematic, and theatrical works. The significance of this class is to explore the possibilities of performance in Terayama's world from the perspective of the "aesthetics of performance," which is difficult to grasp from the perspective of contemporary aesthetics and values of beauty.

ART400GA（芸術学 / Art studies 400）

サブカルチャー論

島田　雅彦

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**教室定員を超過した場合は選抜**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、衣食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。とりわけ、技術論に焦点を当て、文化の様態の変容を時代ごとに考察する。

【到達目標】
イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピーがものをいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。講義内容のまとめや復習は各自が行うが，授業内で行った小レポー ト等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表をも取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論　モダニズムの定義。テクノロジーとの関わり。モダニズム時代の芸術運動の展開とその検証。
2	複製技術	黎明期の映画と産業としての発展の歴史。複製技術の進化とオーラの消滅
3	贋金作り	交換と消費。価値形態論　貨幣論
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。好色一代男に見る江戸風俗。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱。
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	カウンターカルチャー	１９６０年代のアメリカの　カウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
8	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
9	徘徊・巡礼・観光	遊歩の思想。物見遊山の哲学。もてなしの文化。接待の流儀。テーマパークとしての都市、京都、ヴェネチア。
10	都市空間と仮想空間	住まいの変容。空間論。パラレルワールド。生息域（ニッチ）研究。
11	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
12	科学と迷信	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。都市伝説。不老不死。AI。
13	メディアと政治	ポピュリズム　政党政治、代表制のゆくえ。デマ、陰謀説。ナショナリズム　まとめと全テーマに基づく質疑応答
14	授業内試験	学習支援システムを使った選択式試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教室で指示する。

【参考書】
教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価されよう。評価基準は平常点20％、選択式試験の結果80％とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答、討論への積極的参加を促す。

【Outline (in English)】
Subculture is classified as popular culture and popular hobby as an emerging culture epidemic, but it becomes somewhat mainstream culture as sophistication is added by expressers. Crossing all genres across literature, art, music, cartoons, movies, travel,fashion and food culture, politics, and science, we acquire miscellaneous culture that will also serve as the foundation of communication skills through consideration of cultural epidemics in general.Especially focusing on technology theory, we consider the transformation of the form of culture by the age.The goals of this course are to　acquire new awareness of subcultures, comprehensive understanding of subculture genres, and knowledge of historical background.A written test will be given but active participation in the discussion will also be appreciated. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.The evaluation criteria are 20%for normal points and 80%for multiple-choice test. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60%or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

現代美術論

稲垣　立男

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術の分野（美術、建築、音楽、パフォーミングアーツ、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この講義では、現代美術の多様性に焦点を当て、理論と実践の両面から探求します。現代美術のコンテクストを社会学、人類学や科学など他の領域かと対比しながら分析し、その中で多文化主義・関係性・コミュニケーションなどのテーマを読み解いていきます。こうしたアプローチを通じて、現代美術がどのように社会的、文化的な変化と相互作用しているかを深く理解するための基盤について学びます。学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】
講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイディアについての理解を深めます。
みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義映像や資料などの授業コンテンツをGoogle sites全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。
授業当日の流れ（重要）
1.指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2.資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3.Google Classroomに授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4.授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。
授業の方法
授業時間になるとGoogle Classroomを通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40－ 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題
受講後、Google Formで小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
評価
実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。
質問・相談
一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomを使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について	講義内容について 授業の進め方と方法について 評価方法と基準
第2回	メディアとアート 絵画・彫刻・ドローイング、写真・映像・インスタレーション	美術における様々な技法やメディアの探究について、その発展と変遷を詳細に考察します。この授業ではメディアの歴史的変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。美術の歴史的なコンテクストの中で、異なる技法やメディアがどのように位置付けられ、進化してきたのかについて、探究していきます。
第3回	20世紀の美術 未来派・ダダ、シュルレアリスム 、アクション、ハプニング、ポップアート、 コンセプチュアル・ミニマルアート	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。第二次世界大戦で壊滅的なダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。60年代以降には、概念的なアートや、ハプニング、ランドアートのような従来の絵画や彫刻にとらわれない表現様式が多く登場します。これらの表現は、芸術の領域に現代的な多様性をもたらしました。
第4回	21世紀の美術 新表現主義、YBA、関係性の美術 、ソーシャリー・エンゲージドアート	1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメント、「新表現主義」について学びます。新表現主義は、表現主義的なスタイルを追求し、絵画における感情的な表現と物質的な豊かさを再評価しました。また、ミレニアム前夜には、イギリスやフランスを中心に、二つの重要な芸術運動が登場しました。「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）」と呼ばれる運動で、若手アーティストの作品が国際的な注目を集めました。「リレーショナル・アート」は観客との関係性や環境との対話を重視することで、芸術の社会的な役割を再考しました。2010年代には「ソーシャリー・エンゲージド・アート」と「ソーシャル・プラクティス」という、社会的な関与をテーマにした芸術運動が注目を集めています。これらは芸術を社会問題に関与させ、社会的な変化を促すことに焦点を当てています。
第5回	ワークショップ1 単元のまとめ・ワークショップ	メディアとアート、20世紀の美術、21世紀の美術 の講義内容の確認をします。

第6回	現代アートとパフォーマンス1 パフォーマンス・アートの始まり／アクション、ハプニング、インスターション	パフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960年代にアラン・カプローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。
第7回	現代アートとパフォーマンス2 社会と関わるアート／ビデオパフォーマンス、エンデュランスアート、テクノロジーとパフォーマンス、芸術と社会、委託されたパフォーマンス	ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
第8回	身体とパフォーマンス パフォーミング・アーツ、バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、舞踏	パフォーミング・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
第9回	音とパフォーマンス 現代音楽 ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んで行きます。
第10回	言葉とパフォーマンス ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック	シュルレアリスムやコンセプチュアルアートなどのテキストによる美術表現や言葉を使ったパフォーマンスアートと、ポエトリーリーディング/スポークンワードなどの現代詩の世界を比較します。
第11回	ワークショップ2 単元のまとめ・ワークショップ	現代美術とパフォーマンス1、現代美術とパフォーマンス2、身体とパフォーマンス、音とパフォーマンス、言葉とパフォーマンスの講義内容の確認をします。 ワークショップ・パフォーマンス
第12回	アートのある場所 美術館、国際展、アーティスト・イン・レジデンス、アート（アーティスト）・コレクティヴ、オルタナティブスペース	アートの生まれる場所について、美術館・国際展のような公的な場所、そしてアーティスト・イン・レジデンス、アーティスト・コレクティヴやオルタナティブスペースなど。それぞれの場所とそれに関わる人々について学びます。
第13回	批評/キュレーション 批評、モダンアートとコンテンポラリーアート、キュレーション	キュレーターは学術的な専門知識によって美術資料の収集や保管、展覧会の企画や構成、運営などを担当します。また、作品の理解や価値判断に関する美術批評のあり方について学びます。
第14回	ワークショップ3 単元のまとめ・ワークショップ	美術のある場所、批評/キュレーションの授業内容の確認をします。 ワークショップ・スライス・オブ・ライフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020
小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
This course is about contemporary art theory and practice.
Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.
The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.
Learning Objectives
The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird's-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas.
It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60%or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

マルチメディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり（15名）。希望者多数の場合は選抜します。初回授業に出席すること。**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、**少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習**です。
わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Webマルチメディア、DTPなどの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品やDTP作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】
写真表現、ポスター作り、DTP、レーザー加工、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
少人数での演習設備を備えた教室においてワークショップ形式で講義と実習を行う。
●作品制作の理論と技法(講義と実習)
・デザインの基礎
・ポスター作り（Photoshop・Web）
・多様な出力形態（大判ポスター、アクリル板彫刻）
・写真技法：ライティング、構図、光の読み方
・写真表現の作品化（アルバム・Web・アクリルパネル）
・映像制作技法：Jingle、絵コンテ、ショートフィルム
●クリティーク
各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・ポスター作り（Photoshop＋大判プリンタ・Web）
・レーザーカッターによるアクリル板彫刻
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・Jingle (短い15秒程度のCM的映像)
・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。
●大事にしたいこと
・コンピュータ上でのメディアデータの特性とtangibleなモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAPの原則を学ぶ。【写真課題：line、pattern、texture】
2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。クリティーク：line、pattern、texture　各自の写真作品を合評する。【写真課題：モノクロ、ライティング】
3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド　実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。クリティーク：モノクロ、ライティング【写真課題：人物ポートレート、ライティング】
4	コミュニケーションデザインの手法－Web	Webの特性とデザインについて理解する。【写真課題（承前）：人物ポートレート、ライティング】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア（CD, DVDなど）の構成法を理解する。クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Premiereによる短いビデオ【課題：Premiereオンライン教材の学習】【学期末課題：ショートムービー】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース	情報デザインの基本原則を理解する。クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Preziによるオンライン・プレゼンテーション【課題：Web写真アルバム】
7	タイポグラフィの基礎	タイポグラフィの基礎を学ぶ。クリティーク：各自のWebポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。【課題：紙の写真アルバム】
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。クリティーク：Webアルバム【課題：ポスターのデザイン】【学期末課題：企画書・絵コンテ提出】
9	多様な出力形態(1): DTP	印刷についての知識を学、DTP作業のワークフローを理解する。クリティーク：ポスター【課題：広告のデザイン】
10	モノづくりとマルチメディア	Makerムーブメントを題材とするモノづくりとマルチメディアの関係を学ぶ。クリティーク：広告【学期末課題：予告編ジングル仮提出】
11	多様な出力形態(2): レーザー加工	レーザー加工機による【実習】簡単な版下の作成とレーザーカッターによるアクリル板加工【課題】アクリル板切り出しと表面彫刻のためのレーザーカッター版下の作成
12	コンテンツプラットフォームとしてのインターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。【実習】各自デザインによるアクリル板のレーザー加工
13	コンテンツの流通、管理、知的所有権とメディア表現	コンテンツの流通、管理の仕組みとクリエイティブ・コモンズの考え方を学び、オンラインメディアの知的所有権の扱いを理解する。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力やWeb上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するにはDTPやWeb制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。**長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。**本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
【マルチメディア全般】
参考書（1）CG-ARTS協会、「第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8
参考書（2）CG-ARTS協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1

※上記2冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

【デザイン技法】
Robin Williams (著), 吉川 典秀 (翻訳)、「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ (1998)、ISBN-13: 978-4895630078
【写真技法】
キット　タケナガ（著）　東京写真学園（監修）、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社(2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3
【ショートムービー制作】

ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社 (2006)、ISBN:978-4845906956
【DTP、印刷】
松田 哲夫 (著), 内澤 旬子 (イラスト)、「印刷に恋して」、晶文社 (2002)、ISBN: 978-4794965011
【オンライン・プレゼンテーション】
吉藤 智広 (著)、「あなたのプレゼンが劇的に変わる！ Preziデザインブック」、日経BP (2018)、ISBN-13: 978-4822254520

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点(20%)、中間課題(30%)ならびに最終課題(20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
2011年度までは3～4年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、2012年度より2年次より履修可能とした。2017年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
本科目は国際文化学部・情報セミナー室（BT#0704）にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PCを必要とする。
長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびにePortfolioに提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】
学生へのメッセージ：Premiere、Photoshopなどを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PCやソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため20名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。**作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。**
情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、
高度なICTの活用実習、ならびに作品制作を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援します。**
受講希望者は初回授業に出席すること。少人数ワークショップなので受講希望者が受入可能な上限人数を超える場合には抽選を実施することがある。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）
Photoshopの応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【教員の実務経験】
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, laser engraving, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Critique: 20%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 20%
You must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

クリエイティブ・ライティング

島田　雅彦

配当年次／単位：**2～4年／２単位**
旧科目名：**メディア表現ワークショップ２**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。実例を挙げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方ABCを伝授する。メールから企画書、報告 書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力や感動を与える手法に触れ、実作を通じて、文章表現の向上を図る。

【到達目標】
半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方も自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式を取るが、折々の課題に対する講評を交え、履修者との対話形式も随時とる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かずにはいられないのか?
2	日記の書き方	日常の研究
3	物語の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性 奇怪な普通人、気弱な英雄
5	メメント・モリ	死のデザイン 人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか?
6	旅と文学	ロード・ノベル 放蕩息子の帰還
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について
8	語り手は誰か？	私、吾輩、彼、伯爵夫人?
9	お金の話	信用制度、借金、フィクションとしての通貨
10	メタファーの戦略	模倣、置換、象徴、スイートハート
11	小説のトポロジー	現代小説の8割は東京が舞台
12	恋するものの普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩
13	素材の考察	想像力の源泉としてのマテリアル
14	まとめ、質疑応答、レポート提出	学んだことの集大成としての創作の完成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時、テーマに沿った短文を書き、その講評を受ける。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『小説作法ABC』 島田雅彦　新潮選書２００９
『小説作法XYZ』　島田雅彦　　新潮選書　２０２２

【参考書】
『深読み日本文学』　島田雅彦　集英社インターナショナル新書２０１８

【成績評価の方法と基準】
折々のレポートと期末の創作７０％、平常点３０％この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップにふさわしい実践的指導に呼応する履修者の積極参加。より活発な対話を心がける。

【Outline (in English)】
Writing and reading are inseparable, but there are also people who become good readers through training of writing skills. Touching several examples, Students can acquire the ABC of how to write novels, essays etc, from the real author's standpoint. Based on a specific theory which is common to all of the projects, reports, papers, creative writings and e-mails , we will touch on effective methods that give persuasive power and sympathy, and improve the expression of sentences through actual work.The goals of this course are to　learn the basic theory of creation, the mechanism of speech, how to approach various themes of creation, etc.Evaluate active participation in the workshop and each report submission. The evaluation criteria are 20%for normal points and 80%for reports. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60%or more of the achievement target of this class will be accepted.Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

五感共生論

川村　たつる

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**定員35名　定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚という人間の五感の機能と役割を見ていきながら、それらが相互にどのように関係をしているのかを考察し、人は世界をどのように認識しているのかを学んでいきます。

【到達目標】
受講者それぞれが、講義と課題制作を通して、自身の感覚を再認識できることを目指している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■人数制限・選抜
本授業は、受講者により提出された課題の発表を授業内で行う関係上、定員を35名とします。
※定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講を希望される方は、必ず初回授業に出席してください。

■授業の進め方
①授業は、対面の講義形式で行います。
②課題は、「視覚」「聴覚」「触覚」を中心に、それぞれの感覚にかかわる講義や簡単な実験等を通して、受講生各自がその感覚の再確認を行い、用意されたテーマで課題制作を行い、発表をするという流れで行います。
※課題は、身近な材料を使った簡単な工作のようなものをイメージしてください。
※課題制作に関しては、表現技術の出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。
③授業ごとに授業内容に関する授業リアクションの提出を必須とします。
※提出されたリアクションは、全員分の内容を提出者の名前を外して配布し、受講者全員で共有できるようにします。
※オンライン受講、オンデマンド受講について
本授業は対面を基本としていますが、特別な事情で対面で授業が受けられない場合は、オンライン受講、もしくは授業録画を視聴するオンデマンド受講が可能です。
オンライン受講、オンデマンド受講を希望される場合は、必ず事務に相談の上、必要書類を提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	感覚の特性
第2回	視覚１	視覚とは？
第3回	視覚２	視覚に関する事例から考察する
第4回	視覚３	「みる・みえる」を考える
第5回	作品発表会１	課題１で提出された作品の発表と意見交換
第6回	聴覚１	聴覚とは？
第7回	聴覚２	聴覚に関する事例から考察する
第8回	聴覚３	「きく・きこえる」を考える
第9回	作品発表会２	課題２で提出された作品の発表と意見交換
第10回	触覚１	触覚に関する事例から考察する
第11回	触覚２	「さわる・ふれる・ふれている」を考える
第12回	作品発表会３	課題３で提出された作品の発表と意見交換
第13回	嗅覚	嗅覚に関する事例から考察する
第14回	味覚	味覚に関する事例から考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●授業リアクションの提出は、授業内容を振り返り、授業後に授業支援システムで提出を行うこととします。
●課題は、各自が授業外で行うこととします。
●本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
『錯覚の世界』ジャック・ニニオ著（新曜社/2004年）、『顔を科学する』山口直美・柿木隆介編（東京大学出版会/2013年）、『聴覚心理学概論』B.C.J.ムーア著（誠信書房/1994年）、『触覚の世界: 実験現象学の地平』ダーヴィット・カッツ著（新曜社/2003年）、『神経心理学コレクション：タッチ』岩村吉晃著（医学書院/2001年）、『体と手がつくる知覚世界』東山篤規著（勁草書房/2012年）、『味臭覚の科学』斉藤幸子・小早川達著（朝倉書店/2018年）、『「おいしさ」の錯覚』チャールズ・スペンス著（角川亜書店/2018年）等

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、出席率と各授業毎に提出される「授業内容に対するリアクション」から、授業の理解度を平常点として評価（70%）。
また、課題に対して受講者自身がどのようなにアプローチができたかを評価（30%）。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

※成績評価を行うためには、すべての課題提出を必須とします。

【学生の意見等からの気づき】
新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
視覚障害者が関わるNPO法人で実務経験のある教員が、その経験から感覚について講義を行う。

【Outline (in English)】
The course will consider how people perceive things/things by examining the interrelationships among the five senses.
The goal of the class is to enable each participant to reacquaint himself/herself with his/her own senses.
As learning outside of class hours, reactions to the class content will be submitted online after class.
Each student is expected to watch the video materials and complete assignments outside of class.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on 70%regular marks and 30%assignments.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

映像文化論

岡村　民夫

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**定員60名。それを超えたら選抜**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高畑勲・宮崎駿の作品を、欧米や日本のアニメ映画と比較しながら、主に彼らの作品のスタイルや映画史・アニメーション史上の位置を学習します。

【到達目標】
1950年代～1990年代前半の日本のアニメの映画的・アニメ的特徴や制作体制について学び、現代のアニメ状況がどのように生まれたのかを知ることができます。またアニメや映画のスタイルを分析できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達します。
毎週、アニメの制作体制、表現技術、スタッフ、制作体制などについての講義と、実作の抜粋の鑑賞を行います。そして鑑賞した映画について気づいたことを、学習支援システムを通じて書いてもらいます。それらのフィードバックは授業およびhoppiiを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび選抜	授業の内容、進め方について説明後、アニメを15分ほど鑑賞してもらい映像的分析を提出し、それをもとに受講資格者を選抜する。
第2回	古典的アニメーション映画と高畑勲の初監督映画の差異	『ピノキオ』『雪の女王』 『太陽の王子ホルスの大冒険』
第3回	日常生活と心象の表現 海外ロケーション	『アルプスの少女ハイジ』 『赤毛のアン』
第4回	宮崎駿の独立	『未来少年コナン』 『ルパン三世 カリオストロの城』
第5回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えた外国のアニメーション と実写映画	『王と鳥』 『市民ケーン』
第6回	高畑勲・宮崎駿の日本回帰	『じゃりン子チエ』 「さらば愛しきルパンよ」
第7回	スタジオジブリの誕生	『風の谷のナウシカ』 『天空の城ラピュタ』
第8回	東京西郊外	『となりのトトロ』 『平成狸合戦ぽんぽこ』
第9回	聖地巡礼とロケハンアニメ	『耳をすませば』 『パトレイバー the Movie』
第10回	メタモルフォーゼ	『崖の上のポニョ』 『ハウルの動く城』
第11回	戦争・災害の表現	『火垂るの墓』 『風立ちぬ』
第12回	高畑勲の影響	『マイマイ新子と千年の魔法』 『この世界の片隅に』
第13回	宮崎駿の影響	『時をかける少女』 『天気の子』 レポート提出
第14回	まとめ	レポートについての総評 補習：その他関連作品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
授業で部分的に観た映画を、できるかぎり自主的に鑑賞することを望みます。

【テキスト（教科書）】
随時、プリントを配布します。

【参考書】
高畑勲『映画を作りながら考えたこと』岩波文庫
宮崎駿『出発点』徳間書店
叶精二『宮崎駿全書』フィルムアート社
ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト宮崎駿　奇異なもののポエジー』みすず書房
ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト高畑勲　アニメの現代性』みすず書房

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）とレポート（50％）。
平常点は出席だけでなく、コメントを通して評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。
なおコメントシートのフィードバックは、授業支援システムや授業を通じて行います。

【学生の意見等からの気づき】
授業時に積極的に意見を求める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
初回に選抜テストを実施するので、必ず出席し試験を受けること。
講義の重点は映像の形式面にある。

【旧科目との重複履修】
なし。

【Outline (in English)】
In this class, we study Isao Takahata and Hayao Miyazaki's work, through their style and their position in the history of animation and movie.
【Learning Objectives】At the end of course, students are expected to understand the history and style of the Japanese animation from the 50's to 90's.
【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】Term-end report : 50%、in class contribution: 50%

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

写真論

丹羽　晴美

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、デジタルが主体となった写真について19世紀中頃の発明前後の歴史的背景から見直し、人間の知覚を拡げたメディアとして検証する。具体的に作品や作家論にも触れ、写真表現の可能性を考察すると共に、あたりまえになっている「見る」という行為を再考する。

【到達目標】
写真について、メディアと技術の両側面から基礎的な論点を把握し、歴史や他分野との関係について考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
主にプロジェクションによる講義を実施。19世紀から現在まで、発達する写真メディアと他分野へ与えた影響などを個々の状況をみながら考える。実際に展覧会を予習・鑑賞して、レポートを提出する回も設ける。課題に対するフィードバックは講義内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	写真というメディア：写真メディアを見直す	今、あまりにも身近になっている「写真」というメディアを再考する。
第2回	写真誕生前夜：19世紀の状況を見直す	様々なメディアが発明された19世紀を再考し、写真が発明される前の知覚を考える。
第3回	写真誕生：写真発明によって何が変わったか	19世紀半ば、写真発明に伴い何が起こり、社会状況にどのような影響があったかを考察する。
第4回	作家論１：現在と異なる写真技法を使った作家について	19世紀半ば、当時の最先端メディアを使った作品、作家は何を工夫し、何を獲得したか。
第5回	写真メディア史１：写真発達史とその背景	写真の発展に伴い、情報伝達にどのような影響があったか。
第6回	写真メディア史２：写真技術史とその影響	写真技術が発達するとは、社会的にどのようなことなのか。現代への影響も考える。
第7回	写真と絵画：表現としての写真	写真の登場は美術史に多大な影響を与えた。その様子と写真表現を考察する。
第8回	作家論２：写真独自の表現とは何か	表現として独立した写真は何を目指したか、具体的な作品を観て考える。
第9回	ドキュメンタリー１：ドキュメンタリーの中で果たした役割	写真の大きな特性である記録性は歴史の中で大きな役割を果たした。その変遷の考察。
第10回	ドキュメンタリー２：ドキュメンタリー写真の反省点と可能性	撮る者と観る者の意識によっては、写真は功罪となる。その反省点と今後の可能性。
第11回	作家論３：記録と表現の狭間	記録することと、自分の意思を表すことの狭間で作家達が何を表現しているかを考察。
第12回	現代の写真：写真でしかできない表現を目指す現代の写真	写真の特性を生かした様々な表現は、時に特異に見える。その中に隠された意図とは何か。
第13回	見えないもの：『見えるものと見えないもの』	メルロ＝ポンティの視覚論を引用しながら、写真がもたらした知覚を考察。
第14回	写真がもたらした知覚	全講義のまとめ。写真論、作家論、作品論などから様々な視覚効果を考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「作家論」講義には、実際に展覧会を観てレポートをまとめる回が含まれている。講義内に課題展覧会の予習を行い、レポート提出までは約２～３週間の猶予を設ける。「作家論」講義時期は現時点での予定。詳細は講義内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義内に指示

【成績評価の方法と基準】
レポート提出２割、期末試験８割この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
実際に行われている展覧会やイベントなどの情報照会が好評であったため、積極的に講義内で紹介していく予定。

【その他の重要事項】
講義の進行状況により、内容変更あり。

【Outline (in English)】
This course studies how photography widened human perception while rethinking the history of development of the media from the mid-19th century. As we see various photographic works, we examine the way of seeing.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

映像と文学

林　志津江

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！ 私の知ってるアレとは全然違うんですけど！」と感じた経験はありますか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テクスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しうるものについて、自ら考えを深めていきます。あなたのガッカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上」という気持ちの正体に、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。

【到達目標】
・さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。
・「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学やアダプテーションの理論の基本を学ぶこと。この点は読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。
・美的な形式（表象文化）の分析を通じ、古典的なメディア論のテーゼの真意を理解すること。
・「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。
・この授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。
その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しく思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業形式として、初回（授業第１回目）のみ対面授業、２〜１４回目はオンデマンド型オンライン授業で実施します。
・授業ごと、文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返し行いながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれの形式や読み取れるものについて考察します。
・毎授業後に、所定の課題に関する小レポート（日本語）を書いて提出します。
・LMS として、lms2025 および Google Classroom を使用します（予定）。
・提出物のフィードバックは、適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたもの、文学（物語テクスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入
2	J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説1995年、映画2001年）	ファンタジー小説V.S. 映像テクノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写
3	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説1967年、映画1983年）その１	時間芸術と「タイムトラベル」、身体感覚の記憶の表現、人物と背景を構成するためのメディア（１）
4	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説1967年、映画1983年）その２	学校という大切なもの、「ラブシーン」の成立条件、科学と私たちの未来
5	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説2006年、映画2009年）その１	「ステレオタイプ」の使い方、青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）というエンターテインメント
6	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説2006年、映画2009年）その２	友情と恋愛と学校の関係、コンピューターゲームは世界と私たちの視覚／知覚をどう変えたのか
7	S. フィツジェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説1925年、映画1974年）その１	キラーコンテンツとしての「悩める若者たち」、人物と背景を構成するためのメディア（２）
8	S. フィツジェラルド／B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説1925年、映画2013年）その２	「時代を超えた真実」V.S.「現代風にアレンジ」、作品解釈の歴史が映画化に与える影響
9	掘辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その１	「私の想像した自然」を描く、人物と背景を構成するためのメディア（３）
10	掘辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その２	「ない」ものをどうやって視覚で表現するか、個人の運命と戦争に翻弄される人間
11	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説1954/1968年、映画1983年）その１	「私」の記憶と真実の複数性、「西洋V.S. 東洋」という二項対立
12	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説1954/1968年、映画1983年）その２	「もう一人の私」を受け止める、敵/他者を理解したいと思う気持ちの正体
13	W. ヘルンドルフ／F. アキン『14歳、僕らの疾走／50年後のボクたちは』（小説2010年、映画2016年）その１	ミレニアル世代のリアリティ、人物と背景を構成するためのメディア（４）
14	W. ヘルンドルフ／F. アキン『14歳、僕らの疾走／50年後のボクたちは』（小説2010年、映画2016年）その２	ロードムービーの快感、読者・観者に「語りかける」物語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
・授業で扱う文学作品、映像作品をあらかじめ視聴し、授業資料をダウンロードしてください。

・授業資料を手元に置いた状態で、オンデマンド型授業（動画）を視聴してください。
・毎授業終了後、小レポートを作成し提出します。形式は初回授業に周知します。

【テキスト（教科書）】
・授業ごと、担当者から授業資料（１点）と授業動画を配布します。
・授業で扱う文学作品（2～10回授業）のテクスト、映像作品の映像ソフト（民間各社ビデオレンタル／ストリーミングサービスへのアクセス）は、ご自分で用意していただきます。
・映像作品のうち、9、10回授業作品は国内各社ストリーミングにて未扱により、授業開催時限（木3限）に授業教室で視聴できるようにする予定です。

【参考書】
・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（１）（２）』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収）
・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987年
・F・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999年
・J.・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史 ― ビッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017年
・A・バザン（野崎歓ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）2015年
・R・バルト（蓮實重彦ほか訳）『映像の修辞学』（ちくま学芸文庫）2005年
・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990年
・杉野健太郎編著『［映画学叢書］映画のなかの社会／社会のなかの映画』（ミネルヴァ書房）2011年
・杉野健太郎編著『［映画学叢書］交錯する映画 ― アニメ・映画・文学』（ミネルヴァ書房）2013年
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
・毎授業提出する課題（「小レポート」／平常点）合計100%を成績評価の対象とします。
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】
・詳細は授業支援システム上で、秋学期開始前に周知します。
・オンデマンド型オンライン授業で、かつ映画作品を複数扱うので、履修には安定的なインターネット通信環境とPCの準備が不可欠です。また授業で扱う日本語文学作品・翻訳５点（全て文庫で刊行）と映画ソフト８点（レンタルで可／映像サブスクリクションサービスの使用／レンタル）を各自でご準備いただきます。
（以上の条件のクリアが難しい方は履修前に担当者にご相談ください。）

【その他の重要事項】
・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。
・理由なく提出期限（目安は初回授業時に提示）を大幅に過ぎた授業課題や、所定のルート以外の方法で送信されている課題は、原則として受理しません。欠席の代替措置（未提出課題の埋め合わせ）等も特に用意しません。
・部活動の公欠届や、就職活動を理由にした欠席届等の類の提出や通知は不要です。
・第１回目の授業は「対面」で実施予定です。詳細は全てすべて学期開始前（第１回目授業より前）に授業支援システムで通知します。
・授業の進め方や課題に関する詳細は、第１回目の授業で説明します。質問や疑問のある方はできるだけ第１回目の授業に参加してください。

【Outline (in English)】
Why are we sometimes disappointed in movies that are made from literature or would feel disappointed about film adaptation or film as derivative work? This course introduces the fundamentals of reception theory/reader response literary theory as well as the very basis of film studies. It includes theories of derivative work as a film-making concept. For that purposes, the course deals with several combinations of literary works and its filming examples that are made from original literary works.
【Learning Objectives】
・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
・To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above, especially about literature, films and its adaptation.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
・There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on 100%of ordinary marks (submitted assignments /report) as a result of active participation.
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60%of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

演劇論

竹内　晶子

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミュージカルも、テレビドラマも、映画も、オペラも、人形劇も、能も、歌舞伎も、宝塚も、演劇の一つです。音楽・美術・文学・舞踏を含む総合メディアである演劇は、古今東西の人間達の娯楽の中心に常にありました。
この授業では日本の古典演劇と近代西洋演劇との比較を軸に、演劇を構成する様々な要素、演劇を取り巻く様々な問題について考察します。その中で世界の演劇の多様なあり方や、基本的な演劇理論の応用を学ぶことにもなるでしょう。「なぜ我々／自分は演劇を見るのか」。様々な切り口から演劇を分析しながら、学生の一人一人がこの問への答えを探っていくことになります。

【到達目標】
・近代西洋演劇と対比した、日本古典演劇の特徴を理解する。
・基本的な演劇理論を理解し、実作品の分析に応用できるようになる。
・時代や文化、ジャンルを異にする多様な演劇作品の比較分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
(a)様々な演劇形態の説明、(b)基本的演劇理論の解説、(c)台本読解やDVD鑑賞とその分析、を交互に行っていきます。自分の頭で分析しながら観る・読む・聞く態度が、受講者には求められますので、毎週の課題(SQ)を期日までに提出することが必須です。単にDVDを漫然と観て講義を聞くだけの授業ではありません。
授業では皆さんの課題への回答を紹介し、様々な視点を共有していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業説明
第二回	演出が可能にすることI：ゼッフィレッリ版、映画版演の「蝶々夫人」	鑑賞と分析
第三回	演出が可能にすることII：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	鑑賞
第四回	演出が可能にすること III：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	議論、分析
第五回	演出が可能にすること IV：モンティ版、ウィルソン版の「蝶々夫人」	鑑賞、議論、分析
第六回	日本の古典演劇I	文楽、歌舞伎の歴史、
第七回	日本の古典演劇II	能の歴史、二層のコミュニケーション
第八回	日本の古典演劇III	能、文楽、歌舞伎の「所作」
第九回	日本の古典演劇とモダニズム	イエイツ、ブレヒト
第十回	異性装I	シェークスピア他、西洋演劇史における異性装
第十一回	異性装II	歌舞伎など、日本芸能史にみる異性装
第十二回	異性装III	宝塚の「男役」が可能にするもの
第十三回	古典演劇と現代の舞台	『王女メディア』『ク・ナウカで夢幻能なオセロー』他
第十四回	学生発表	新作能・新作歌舞伎・新作宝塚

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週のSQ（Study Questions）への回答を、期限内に提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料を用いる。

【参考書】
毛利三彌『演劇の詩学　劇上演の構造分析』相田書房、2007年。

【成績評価の方法と基準】
・課題（ＳＱ）：50%。締切厳守。
・積極的な授業参加：20%
・期末試験　30%
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・4回以上欠席した場合は、単位修得の権利を失います。

【学生の意見等からの気づき】
学生の課題への回答を授業で紹介します。

【その他の重要事項】
・必ず初回授業に参加すること。履修を希望する学生が極端に多い場合には、選抜を実施します。

【Outline (in English)】
【Course Outline and Learning Objectives】 Students will learn some basic theater theories and analyze Japanese traditional theater in comparison with modern Western theater.【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are required to submit weekly assignments.【Grading Criteria/Policy】weekly assignment (50%), active participation in class discussion (20%), final exam (30%)

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

空間デザイン論

前田　尚武

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜　定員 20 名**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「空間」は、都市、建築、アート、グラフィック、映像などさまざまなデザイン手法が駆使されたメディアである。各々の領域で論じられている「空間」を講義と体験を通して多角的に理解し、空間デザインを表現・伝達する理論的かつ実践的な方法論を学ぶ。

【到達目標】
本講座は、デザインの制作技術を習得するのではなく、空間デザインを操るリテラシーを高めるとともに、空間が背負う社会的・文化的背景や文脈を理解する力を養うことが目標である。講義を通して理論を学び、フィールドワークでは講師とともに建築を巡り、空間を読み解き、その魅力を感じ取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講座は、一級建築士であり学芸員である講師がこれまで企画、設計、デザインを手がけた都市開発、建築、展覧会等を主たる題材に、舞台裏での経験と実例を基に空間デザインの理論と実務を講義する。また、講義に連動してフィールドワークを積極的に実施。訪問先との調整を行った上で下記各講座を再編し、日時、場所を決定し事前に周知する。講義の進行状況、登録人数等により、講義内容、フィールドワーク先、日程等は変更になる可能性があり、オンラインで実施することもある。授業の初めに、前回授業で提出されたリアクションペーパーからのコメントを紹介し、受講者に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義 ガイダンス	講義全体のガイダンス。テーマ、目標、スケジュールなど。
第2回	講義 アートと空間：美術館・博物館空間論	いま、美術館に求められる空間とは何か。企画、展示、運営など多角的な視点から美術館・博物館を考察するとともに、現代美術における空間表現：インスタレーション作品の制作過程から様々な展覧会での空間構成や照明デザインまで舞台裏を解説。
第3回	フィールドワーク アート・都市・空間：六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	講師が設計を担当した六本木ヒルズを巡り、都市の成り立ちや空間構成、都市とアートの関係を学ぶ。
第4回	フィールドワーク アート・都市・空間：六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	第２回で学んだ美術館の展示空間を美術館で観察し、現代美術の展示手法、展示空間のデザインなどの理解を深める。
第5回	講義 都市と空間：都市デザインの萌芽から未来へ	戦後復興都市計画から、建築運動メタボリズム、70 年大阪万博、六本木ヒルズなど現代日本の都市デザインの実験的試みを俯瞰し、都市空間の将来像を考える。
第6回	講義 アートと空間：エリアマネジメントとアート	近現代における環境芸術としてのアートが都市において果たしてきた役割といま求められているものは何かを解説。
第7回	講義＆フィールドワーク アートと空間：京都市京セラ美術館	国内最古の美術館建築で、2020年にリニューアル開館した京都市京セラ美術館。改修から現在まで携わっている講師が対面とオンラインのハイブリッドでその革新的なリノベーションについて解説。
第8回	講義＆フィールドワーク アートと空間：京都市京セラ美術館	京都市京セラ美術館の空間を対面とオンラインのハイブリッドでツアーを実施し、第２回で学んだ理論を実践しているアートのための空間を観察する。
第9回	フィールドワーク 建築鑑賞：上野公園	重要文化財や世界遺産など明治から現代に至る数多くの大規模建築が集積する上野公園を講師の解説で巡り、日本の近現代建築史を実空間で体感し、理解を深める。
第10回	フィールドワーク 建築鑑賞：新橋・銀座	戦前のモダン建築からメタボリズム建築、ハイブランドの現代建築まで世界的建築家が競演する新橋・銀座エリアの建築を講師の解説で巡り、日本の近現代建築史を実空間で体感し、理解を深める。
第11回	講義 伝統と空間：日本建築の発見	日本建築の魅力を再発見し、国際的に伝えようとした明治の建築家・建築史家の軌跡を紹介し、伝統継承の問題を考える。
第12回	講義 伝統と空間：日本建築のグローバリズムと多様性	日本建築の影響がみられる国内外の近現代の建築作品の数々を読み解き、木組の構成美、民家、茶室まで多様な日本建築の特質を継承している現代建築を紹介し、空間デザインの未来を考える。
第13回	フィールドワーク 建築鑑賞：江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。
第14回	フィールドワーク 建築鑑賞：江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としてフィールドワークの訪問先について、事前に公式HP等で十分に理解しておくこと。また、復習として各回コメントシートを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・『モダン建築の京都 100』石田潤一郎・前田尚武編著　発行：Echelle-1 2021年
・その他必要に応じて授業時に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加、コメント・シートの記述内容）と、レポートの合計。講義期間中の講義およびフィールドワークを通してテーマを設定し、レポートを提出する。評価基準は平常点50 %、レポート50 %とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
フィールドワーク先の美術館、博物館等の入館料が必要。

【その他の重要事項】
◉講義日程
土曜日３-４限2コマ連続開講（原則隔週）を予定。詳細日程は、2025年夏に、学習支援システムで周知する。
◉講師略歴
前田尚武（まえだ なおたけ）
一級建築士／学芸員。１９９４年、早稲田大学大学院修了。２００３年から１５年間、森美術館に在籍し、「メタボリズムの未来年展」（２０１１年）、「建築の日本展」（２０１８年）など建築展を企画。現在、京都市京セラ美術館企画推進ディレクター、「モダン建築の京都」（２０２１年）を企画。国内外の美術館・博物館の建築設計、展示企画やデザインに携わっている。一連の建築展企画で２０１９年度日本建築学会文化賞ほか受賞多数。２０２２年より建築公開イベント「京都モダン建築祭」実行委員を務める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
“Space” is a media in which various design methods such as city, architecture, art, graphic, image etc. are utilized.
Understand the meaning of “Space” discussed diversely in each area through lectures and experiences and learn the theoretical and practical methodology of how to present and transmit space design.
【Learning Objectives】
The goal of this course is not to master design production techniques, but to enhance literacy in manipulating spatial design and to develop the ability to understand the social and cultural background and context that a space bears. Students will learn theory through lectures, and in fieldwork, they will tour architecture with the instructor to acquire the ability to read spaces and sense their appeal.
【Learning activities outside of classroom】

As preparatory study, students are required to fully understand the fieldwork destinations in advance through official websites, etc. In addition, students are required to submit a comment sheet for each session as a review. The standard preparation and review time for this class is about 1 hour each.

【Grading Criteria /Policy】

The sum of regular marks (active participation in class, written comments and sheets) and reports. Students will be required to submit a report on a theme developed through lectures and fieldwork during the lecture period. Evaluation will be based on 50%of regular points and 50%of reports. Based on this grading system, students who have achieved at least 60%of the achievement objectives of this class will be considered to have passed the course.

LIT300GA（文学 / Literature 300）

世界の中の日本文学

LETIZIA GUARINI

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、一つの国、一つの言語、一つの文化に限定されない国境を越えた文学について学びます。さまざまな作家・作品を読みながら、日本文学における世界/世界文学における日本について考えます。また、現代小説を分析しながら世界における日本文学の位置付けについて考え、現代社会を考察するための視座を身につけます。

【到達目標】
1）現代日本文学についての基礎的な知識を身につける。
2）日本文学のテクストを分析できるようになる。
3）文学と社会の関連性について学び、世界から見た日本/日本から見た世界について自分の考えをまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。
フィード゛バックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で゛回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。
第2回	移動する文学	バイリンガルな文学について考える。
第3回	バイリンガルな文学：多和田葉子	多和田葉子の作品を取り上げる。
第4回	バイリンガルな文学：水村美苗	水村美苗の作品を取り上げる。
第5回	移動する女性作家たち	須賀敦子や李良枝の作品を取り上げる。
第6回	温又柔を読む	温又柔の作品を読んで、ディスカッションを行う。
第7回	文学における震災	震災文学論について考える。
第8回	多和田葉子と川上弘美の震災文学	多和田葉子、川上弘美の作品を取り上げる。
第9回	川上未映子の震災文学	川上未映子の作品を読んで、ディスカッションを行う。
第10回	中間試験	第9回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第11回	世界における日本文学（1）：村上春樹と川上未映子	村上春樹と川上未映子の小説の翻訳やその受容について考える。
第12回	世界における日本文学（2）：村田沙耶香	『コンビニ人間』をはじめとして、村田沙耶香の小説の翻訳やその受容について考える。
第13回	世界における日本文学（3）：松田青子	『おばちゃんたちのいるところ』をはじめとして松田青子の小説の翻訳やその受容について考える。
第14回	総括	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてPDFでテキストを配布します。

【参考書】
郭南燕（編）『バイリンガルな日本語文学―多言語多文化のあいだ』（三元社、2013年）
山出裕子『移動する女性たちの文学―多文化時代のジェンダーとエスニシティ』（御茶の水書房、2010年）
木村朗子『震災後文学論 ―あたらしい日本文学のために』（青土社、2013年）
木村朗子『その後の震災後文学論』（青土社、2018年）
木村朗子、アンヌ・バヤール＝坂井（編）『世界文学としての〈震災後文学〉』（明石書店、2021年）
新・フェミニズム批評の会（編）『現代女性文学論』（翰林書房、2024年）
高橋源一郎、斎藤美奈子『この３０年の小説、ぜんぶ―読んでしゃべって社会が見えた』（河出新書、2021年）

【成績評価の方法と基準】
グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー：20%
中間試験：40%
期末レポート（具体的な文学テクストを取り上げたレポート）：40%
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の理解を深めるためにグループディスカッションが効果的だという意見が多かったため、引き続きグループで作品分析の時間を儲けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レポート作成のためのパソコン。

【その他の重要事項】
基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' understanding of contemporary society through literature. In this class, we will learn about literature that transcends national borders and is not limited to one country, one language, or one culture. While reading various authors and their works, we will consider the world in Japanese literature and Japanese literature in the world.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the following:
a) Have basic knowledge of contemporary Japanese literature.
b) Analyze texts of Japanese literature.
c) Understand the relationship between literature and society.
Learning activities outside of the classroom:
Students are required to read the reference material by the next session and submit comments sheets (one to three hours for every session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%
Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.
Midterm exam: 40%
Final paper (2000-3000 words): 40%

LANj300GA（日本語 / Japanese language education 300）

世界の中の日本語

大野　ロベルト

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**受講は先着500名までとする。**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
外国語を学んだつもりがど忘れし、海外の文化に触れたつもりですっぽ抜ける。現代社会でおなじみのこの悲喜劇の一因は、そもそも日本語と日本文化に対する理解の浅さに起因するのではないか。言葉や文化はどのように出来上がり、どのように相関するのか。この授業では幕末から二十世紀末までの日本語を、近代文学を素材として、主に海外との応答関係のなかで見つめてみたい。原典のみならず英訳されたテクストにも目を向け、必要に応じて外国文学との比較にも供してみる。また、古典文学との比較などを行いながら、日本の近代性についても検討する。講義は春学期に開講される「日英翻訳論」と響き合う内容となっている。

【到達目標】
比較的な視点に立つことで、自国の言語や文化を海外のそれと横並びに眺めたうえで、客観的な評価を加え、それを言語化できるようになる。文学作品を深く読み解く技術が身につき、英語のテクストに触れることで、語学的な運用能力も向上する。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、随時リアクションペーパー提出を奨励している。これらについては学習支援システムを通じてフィードバックを行い、必要に応じて講義内でも紹介する。成績判断の主な材料としては、中間レポートと期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、日本語の特徴について考える（日本語はどのような言語なのか）。
2	日本語らしさ	「月がきれいですね」を出発点に、日本語にまつわる神話を解体する（日本語は愛せない言語である）。
3	外国語と日本語１	夏目漱石の活動を中心にとりあげ、明治時代の日本語を考える（日本語は借りものの言語である）。
4	外国語と日本語２	中原中也を中心にとりあげ、近代日本の詩歌について考える（日本語は創造的な言語である）。
5	日本語を書く	永井荷風を中心にとりあげ、日本語における書記行為を考える（日本語は組み合わせ自由な言語である）。
6	日本語を聞く	泉鏡花を中心にとりあげ、日本語における「声」について考える（日本語は多声的な言語である）。
7	日本語と影	谷崎潤一郎を中心にとりあげ、日本語の美意識について考える（日本語は光と影のある言語である）。
8	日本語と音	宮沢賢治を中心に、擬態語や擬声語について考える（日本語は音楽的な言語である）。
9	日本語と私	太宰治を中心に、私小説の問題をとりあげる（日本語は私を語る言語である）。
10	世界と日本語１	川端康成を中心に、日本語における伝統への意識を考える（日本語は美しい言語である）。
11	世界と日本語２	三島由紀夫を中心に、世界文学としての日本文学のあり方を考える（日本語は世界的な言語である）。
12	世界と日本語３	大江健三郎を中心に、「個人的」なものとしての日本文学を考える（日本語はあいまいな言語である）。
13	日本語の消失	野口米次郎、牧野信一などをとりあげ、言葉の「息苦しさ」を考える（日本語は寂しい言語である）。
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、「未来の日本語」について想像してみる（日本語は楽しみな言語である）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義のテーマとなるテクストについては事前に丁寧に読み込み、時代背景なども調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】
授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
小森陽一『〈ゆらぎ〉の日本文学』NHKブックス、1998

【成績評価の方法と基準】
平常点10％、中間レポート40％、期末レポート50％
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義で取り扱う作品やテーマが多岐にわたるので、情報過多にならぬよう、無駄を削ぎ落とすことを心がけたい。

【Outline (in English)】
One cannot fathom the qualities of foreign language and culture without the set of skills nurtured through learning one's native language and culture. In this course, students will read works of literature produced from the late 19th century to the late 20th century while paying attention to how they contribute to the overall uniqueness of the Japanese language. To survey different works spanning across decades of modern Japan, and to demonstrate the findings in forms of written assignments and final paper, will be the objective of this course. The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.
The grading criteria is as follows: 10%participation, 40%mid-term paper, and 50%final paper. Students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

ARSe200GA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化Ⅰ（現代中国社会）

張　勝蘭

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、現代中国社会に関する基礎知識を習得し、歴史・政治・経済・民族・文化などの側面から現代中国を総合的に理解することを目的とする。現代中国の社会と文化の多様性、日本を中心とする東アジアとの繋がりについて、多角的視点から思考を深めることを重視する。具体的には社会の各側面・文化に焦点を当てながら、その背景となる歴史・政治・経済・日中関係について説明する。トピックを重視し、等身大の中国について紹介する。

【到達目標】
①現代中国社会に関する基礎知識を習得する。
②現代中国社会に関する重要な事柄について、多角的視点から根拠に基づき自らの見解を論理的に説明することができるようになる。
③等身大の中国を知り、中国に関するマスメディアの情報を客観的・多角的に捉えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この講義では歴史・政治・民族・経済・社会構造・教育・環境・文化・日本と中国の順で、現代中国社会の現状と変化を概観する。一般民衆の暮らしの次元から社会の変容、価値観の変化を考察する。質問の受付や課題へのフィードバックは授業内、学習支援システム及びメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	現代中国社会のアウトラインを説明し、行政区分・地域区分とその特徴、多民族の状況などの予備知識を紹介する。授業の進め方、シラバスの使い方、成績評価についても説明する。
第2回	歴史： 中華人民共和国の成立とその後の道のり	現代中国社会を理解するために、まず中国とは何か、その歴史的背景に触れた上で、中華人民共和国成立の経緯、及び成立後から現在に至るまでの歴史を概観する。
第3回	政治： 多民族国家―中国	多民族国家である中国の社会を理解するために、国家統合においてきわめて重要な民族問題について知っておく必要がある。「民族識別」工作、「民族区域自治」制度から、「優遇政策」から見る民族間関係について説明する。
第4回	民族①： マジョリティーの漢族について－少数民族社会との関わりから	現代中国社会を理解するには、まず中国全人口の九割以上を占める漢族を理解する必要がある。中国社会における漢族とは何かについて説明する。漢族のサブグループとされる客家人を事例に、少数民族社会との関わりも検討する。
第5回	民族②： 漢族の伝統文化と多様な地域性	漢族の主な伝統文化、衣食住から見る多様な地域性について講義する。
第6回	経済： 改革開放と経済格差	中国経済の大転換である改革開放政策の実施、それに伴う内陸部・沿岸部、都市部・農村部の経済格差の拡大について講義する。三農問題・出稼ぎ者・留守児童・ポイント制度などにフォーカスして考察する。
第7回	社会構造： 拡大する「中間層」の実態	経済発展と共に形成されてきた「中間層」（中等収入者）の実態、そして、彼らは海外との接触などにより、人権意識をはじめとする社会的政治的意識の変化について講義する。
第8回	教育： 超学歴社会と教育格差	現代中国は熾烈な学歴社会となり、教育の格差が拡大しつつある状況にある。進学をめぐる競争、若者の就職難などの問題を通してその背景と実態について講義する。
第9回	環境 ：南・北の違いと「南水北調」	多様な風土から中国社会を考え、経済発展と共に喫緊の課題となった「水問題」について、「南水北調」プロジェクトを通して考察する。
第10回	文化①：「80後」・「90後」・「00後」の「新人類」文化から見る日中交流	80年代、90年代、00年代生まれのいわゆる「新人類」の文化に注目し、特にアニメ・コスプレなどのサブカルチャーを通して見た中国と日本の新たな交流について講義する。
第11回	文化②：中国の言語文化	漢語から少数民族の言語まで中国における多様な言語文化を概観する。また現代の世相を反映する「新語」などについて講義する。
第12回	日本と中国①： 近代の日中関係	「開国」した日本は「和魂洋才」を目指し、和製漢語で西洋文化を吸収していった。「開港」した中国は「中体西用」を基本方針とし、西洋文化と距離を置いた。西洋をめぐる新たな国際環境の中で日本と中国の間に様々な対立が生じたが、多くの協力もあった。中国社会の近代化における日本の影響を考察する。
第13回	日本と中国② 戦争から国交正常化・日中協力へ	日中戦争を経て、日中関係が凍結したが、1972年に国交正常化した。1978年から中国経済の大転換である「改革開放」が実施され、日本の全面的支援を受けた。戦争の記憶を含め、この時期の日中関係が中国社会に与えた影響を講義する。

第14回	日本と中国③ 戦略的互恵関係	改革開放を経て、世界第二の経済大国に成長した中国は、日本の最大貿易相手国となった。また日本も中国にとって大変重要な貿易相手国である。両国は様々な問題を抱えながらも戦略的互恵関係を模索している。民間交流に注目し、現在における日中関係と中国社会について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppiiにアップロードされた講義資料を参考に、シラバスに記載された参考書及び毎回の追加参考文献の関連部分を読み、授業内容への理解を深める。受講者は各2時間を使い、事前・事後に関連知識の予習、授業の振り返りを行い、理解を深めることに努める。疑問点を整理し、まとめる。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。毎回、事前に講義資料をHoppiiにアップロードする。

【参考書】
中国研究所編『中国年鑑』（2019年版）明石書店、2019年
エズラ・F・ヴォーゲル/益尾知佐子訳『日中関係史―1500年の交流から読むアジアの未来』、2019年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
富坂聡『中国の論点』角川oneテーマ21、2014 年
毛里和子/園田茂人編『中国問題―キーワードで読み解く』東京大学出版社、2012年
家近亮子・唐亮・松田康博編著『5分野から読み解く現代中国―歴史・政治・経済・社会・外交』（改訂版）晃洋書店、2009年
興梠一郎『中国激流―13億のゆくえ』岩波書店、2005年
また授業時に各テーマについての参考文献を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①現代中国社会に関する基礎知識が習得できている。
②授業で扱った重要な現代中国社会の問題、文化事象を理解し、根拠に基づき論理的に説明できる。
以上の2点に着目し、期末レポート（60％）、リアクションペーパー（20％）、受講態度（授業中の発言・質問）（20％）を用いてその到達度を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
授業の理解度を高めるために、音声・映像などのコンテンツを活用する。私語などを注意し、授業に集中しやすい環境づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course introduces the changing values and lifestyle of Chinese people from viewpoints of politics, nation, economy, social structure, education, environment, culture, Japan-China relations to students taking this course.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to comprehensively understand the real China.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, participants will be expected to read the relevant chapter(s) from the text and write the reaction paper. Your required study time is two hours for each class meeting.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: term-end report（60％), reaction paper（20％）, and in-class contribution（20％）.

HIS200GA（史学 / History 200）

中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）

鈴木　靖

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
二千年以上に及ぶ交流の中で、中国の人々は日本にどのようなイメージを持ってきたのか。各種文献や映像資料を通じて、古代から現在までの対日イメージの変遷を概観し、そこから何を学ぶことができるか考える。

【到達目標】
中国の人々の対日イメージがどのように変遷してきたのか、また、いかなる要因によって変化したかを歴史的に理解することにより、この隣国の人々とどのようにつきあっていくべきかについて、適切な判断ができる力を身につける。
By the end of the course, students will be able to:
Understand the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are perceived by China and Taiwan from a historical perspective.
Take appropriate actions to build good relations with both China and Taiwan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はスライドを使い、映像資料などを併用して行う。
課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本人とは？	人類史の視点から“人種”、“民族”、そして“日本人”とは何かを考える 【キーワード】 ・分子人類学 ・日本人三重構造説
第2回	（1世紀～6世紀）日本語文化圏“倭”の登場	縄文文化や弥生文化、古墳文化を築いた人々は、遺伝的にはアジア各地にルーツを持つ多様な集団であった。 彼らはやがて日本語を共通言語とする独自の文化圏「倭」を形成し、中国大陸や朝鮮半島との交流を開始する。 【キーワード】 ・漢委奴国王金印 ・稲荷山古墳出土金錯銘鉄剣 ・江田船山古墳出土銀象嵌銘大刀 ・南朝梁蕭繹「職貢図」
第3回	（6世紀末）朝貢から外交へ	東海に浮かぶ一朝貢国に過ぎなかった倭は、隋がおよそ二百七十年ぶりに中国全土を統一したのを機に、使節を送り、対等な外交関係を求める。 【キーワード】 ・遣隋使 ・渡来人
第4回	（7世紀～9世紀）遣唐使の時代	日本は中国の先進的な制度や文化を学ぶため、多くの優れた学生や学僧を中国に派遣する。彼らの勤勉で礼儀正しい行動は、中国の対日イメージを大きく変えていく。 【キーワード】 ・遣唐使 ・阿倍仲麻呂 ・鑑真
第5回	（9世紀～13世紀）民間交流の時代へ	唐の衰退により遣唐使の派遣を停止した日本は、やがて独自の文化や技術を生み出していく。民間交流を通じて中国に輸出された日本の製品は、中国で高い評価を受ける。 【キーワード】 ・菅原道真 ・仮名文字 ・扇子
第6回	（13世紀～14世紀）元寇	唐王朝の滅亡後、東アジアは征服王朝の時代を迎える。モンゴルがユーラシア大陸を席捲する中、日本も白村江の戦い以来の大規模な対外戦争＝元寇に襲われる。 【キーワード】 ・征服王朝
第7回	（15世紀～16世紀）倭寇と遣明使	南北朝の争乱に始まった室町時代、日本を拠点する武装集団が朝鮮半島や中国沿海部を襲うようになる。東アジアの人々の対日イメージを180度変える最初の原因となった倭寇である。モンゴルを駆逐して漢民族王朝を復興した明は、倭寇対策のため民間貿易を禁じ、朝貢貿易への一本化を行う。 【キーワード】 ・「倭寇図巻」（東大史料編纂所所蔵） ・「明人抗倭図巻」（中国国家博物館所蔵）
第8回	（16世紀末）豊臣秀吉の朝鮮出兵	朝鮮半島や中国沿海部を襲った倭寇に続き、1592年から前後7年に及んだ豊臣秀吉の朝鮮出兵は、東アジアの人々に日本に対する負の記憶を刻み込む。朝鮮出兵の際、日本へ拉致された被虜人（捕虜）を通じて、朱子学が伝えられると、江戸幕府はこれを武士の正学と定め、平和で秩序ある社会を再構築した。また被虜人となった朝鮮の陶工たちは日本に磁器の生産技術を伝えた。
第9回	（20世紀初）魯迅と藤野先生	近代中国を代表する作家・魯迅が日本留学時代の恩師の思い出を書いた小説「藤野先生」。中国ではいまも中学校用教科書に収録され、毎年1600万以上の中学生がこの作品を通じて日中友好の大切さを学んでいる。 【キーワード】 ・藤野厳九郎 ・魯迅
第10回	（1920～30年代）霧社事件	日清戦争の勝利により最初の植民地・台湾を獲得した日本。漢民族の抵抗運動を鎮圧し、植民地経営も軌道に乗ったと思われた1930年、山地に住む先住民が突如叛旗を翻した。「霧社事件」と呼ばれるこの戦いは、テレビドラマや映画を通じて、いまも台湾の人々に語りつがれている。 【キーワード】 ・ドラマ「風中緋桜」 ・映画「セデック・バレ」
第11回	(1930～40年代)李香蘭が見た戦時下のポップカルチャー	1931年、日本軍現地部隊の謀略による満鉄爆破事件(柳条湖事件)を発端として、日中両国は十四年あまりにおよぶ戦争へと突入する。そうした中、旧満州(中国東北部)に生まれ、銀幕とステージを通じて、日中両国民から愛されたスターがいた。山口淑子、芸名・李香蘭である。彼女の眼を通して見た戦時下の日中関係について考える。 【キーワード】 ・李香蘭 ・平頂山事件 ・満州映画協会と中華電影
第12回	留用された日本人たち	終戦後、中国にいた日本の軍人や医療関係者、技術者の多くが、新中国建設のために「留用」された。留用された人々の証言を通じて、いまも中国で高く評価される日本人の事績について考える。 【キーワード】 ・「留用」された日本人

第13回	（1952～72）日中国交正常化と「二分論」	1937年から終戦まで8年に及んだ日中戦争は、戦場となった中国の人々の心に大きな傷を残した。一方、戦後の東西冷戦の中で、日本との早期講和を求めた中国政府は、「二分論」によって国民の理解を求め、72年の国交正常化を実現する。しかし、この「二分論」に対する日中双方の認識の違いが、やがて両国民の間に新たな対立を生じさせることになる。　【キーワード】 ・田中角栄 ・周恩来
第14回	（1972～現在）今日の日中関係	日中両国の関係にいまも影を落とす歴史問題、領土問題、台湾問題という三つを取り上げ、その原因と解決方法について考える。 【キーワード】 ・靖国問題 ・尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題 ・台湾有事

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業の前に教材用ページの資料で事前学習を行う。本授業の準備学習時間は４時間を標準とする。
Students will be required to have completed the given, releavnt assignments before each class. Study and class preperation will amount to at least four hours per class.

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しないが、事前学習の資料として、下記のページに資料を掲載しているので必ず参照すること。
https://hosei-ch.xsrv.jp/wp

【参考書】
①王勇『中国史のなかの日本像』（農山漁村文化協会、2000年）
②王暁秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000年）
③柳本通彦『台湾・霧社に生きる』（現代書館、1996年）
④服部龍二『日中国交正常化 - 田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』(中公新書、2011年)
⑤孫崎享『日本の国境問題』（ちくま新書、2012年）

【成績評価の方法と基準】
成績は以下の２つの基準をもとに評価する。
①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパーの内容（80％）
②期末レポート（20％）
これらの成績をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
Final grade will be calculated according to the following process:
1. Reaction papers(80%)
2. Term-end report (20%)

【学生の意見等からの気づき】
授業の復習に必要との要望があったため、授業用スライドのPDFを配布することにした。

【学生が準備すべき機器他】
fixiを通じて資料の配布を行う。fixiへのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【Outline (in English)】
How does Japan’s self image differ from the ideas and opinions held by the people of China and Taiwan throughout history?
What historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions?
Understanding the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are seen by China and Taiwan through the use of text and visual materials.
By the end of the course, students will be able to:
Understand the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are perceived by China and Taiwan from a historical perspective.
Take appropriate actions to build good relations with both China and Taiwan.
Students will be required to have completed the given, releavnt assignments before each class. Study and class preperation will amount to at least four hours per class.
Final grade will be calculated according to the following process:
1. Reaction papers(80%)
2. Term-end report (20%)

LANc300GA（中国語 / Chinese language education 300）

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

永江　貴子

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点が明確に把握できていないと感じている人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、より発展的な内容を学び、中国語文法の体系的知識を身につけることを目標とする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
(2) 応用的・発展的な文法項目を学び、中国語文法を体系的に理解する。
(3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。
・練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現１	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現２	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現３	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語１	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語２	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語３	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把”構文と“被”構文	「“把”構文（処置文）」、「“被”構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	使役文（兼語文）と連動文	「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	比較文	「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
12	その他の重要表現・構文１	「存現文」、「“是…的”構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
13	その他の重要表現・構文２	「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
14	まとめ	授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】
・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級［改訂版］』東京：東方書店
・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書　新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017『中国語はじめの一歩〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語　読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店
・劉月華 他 2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・朱德熙(著)，杉村博文・木村英樹(訳) 1995『文法講義―朱德熙教授の中国語文法要説―』，東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】
・期末レポートを50%、平常点（練習問題への取り組み状況等）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業では期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
様々な背景を持つ受講生（SA中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）がおり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】
・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・本授業は、中国語という言語を文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
【Outline】
In this course, we will acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reviewing the basic grammar and studying the advanced grammatical rules.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) To review grammatical items learned in Chinese course for beginners.
(2) To learn advanced grammatical items and systematically understand Chinese grammar.
(3) To be able to properly understand and express difficult Chinese sentences.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・After every class, students are required to review the materials.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria】
・Grading will be decided based on term-end report (50%) and in-class contribution (50%).
・No final exam will be held in this course.

LIT300GA（文学 / Literature 300）

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

野村　英登

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら諸子百家の思想はしばしば独立ないし対立するものとして扱われますが、実際には古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。

【到達目標】
＊中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯
＊中国古典を現代語訳で読むときの注意点
＊中国古典の背景となる当時の社会環境
以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』の全体像を説明します。
2	『論語』と孔子	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。
3	『論語』と学び	『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
4	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
5	『易経』の世界観	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。
6	『易経』で易占い	テキストを使って、実際に易占いを行います。
7	『老子』の哲学	老子の“道”（タオ）の思想を儒教の“天”の思想と対比して学びます。
8	『老子』と政治	老子の思想の具体的な展開として、法家の韓非子の思想を学びます。
9	『老子』と健康法	老子の思想の実践性を処世術や健康法の立場から学びます。
10	『荘子』と神話	荘子の神話的な奇想と実践的な哲学の結合を考えてみます。
11	『荘子』の哲学	荘子の“無為自然”の思想が老子とどう異なるか、また後代への影響を学びます。
12	『孫子』の兵法	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
13	『孫子』の哲学	孫子の兵法と老子の思想の関係を学びます。
14	試験とまとめ	論述試験を通して、これまでの授業内容を自分なりにまとめてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ではテキストの要点に絞って講義をするので、授業時間外でテキスト全体を通読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）。
『老子・荘子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）。
『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）。
『孫子・三十六計』（湯浅邦弘、角川ソフィア文庫、2008）。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）40％、期末試験60％で成績を評価します。
なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline
This course introduces the Chinese philosophy in major Chinese classics like Confucius, Tao Te Ching, Zhuanzi, and the Art of War to students taking this course.
Learning Objectives
To be able to deeply understand modern Japanese society by learning the basic knowledge of Chinese philosophy.
Learning activities outside of classroom
Read the parts of the textbooks that were not mentioned in the lesson to supplement the understanding of the lesson contents.　The standard time for preparation and review outside of class is two hours each.
Grading Criteria/Policy
Grades will be evaluated with 40%reaction paper (submitted each time at the end of class) and 60%final exam.
If you are absent 5 times or more, you will not be eligible to take the final exam. Also, if you are late class twice, you will be considered as absent once.

LIT300GA（文学 / Literature 300）

中国の文化Ⅶ（近代文学）

桑島　道夫

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20世紀初め、中国でも言文一致運動（「文学革命」）が提唱され、「近代文学」が誕生します。中国近代文学は、近代以前の文学のあり方をどのように変革しようとしたのでしょうか。またそれは、欧米や日本の近代文学とどのような点で共通し、どのような点で異なっていたのでしょうか。本授業では、そうした問いを通して、中国近代（社会・文化）の歩みを文学の視点から考えます。

【到達目標】
中国近代文学とその歴史的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国近代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。
授業でコメントを求めることがあります。
授業後は、授業での議論と併せてコメントペーパーに記入し提出することになります（毎回というわけではありません）。次回の授業の初めにコメントペーパーをいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。
あるいは、事前に課題（作品の読み込み）に対してコメントペーパーを書いてもらい、授業の解説の際にそのなかからいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	中国「近代文学」の変革を考える前提として、近代以前の中国文学のあり方についてお話します
2	近代文学の誕生１	胡適と陳独秀の言文一致運動
3	近代文学の誕生２	魯迅「狂人日記」
4	近代文学の誕生３	魯迅「阿Q正伝」
5	近代文学の誕生４	周作人と日本
6	新世代の作家たち１	文学研究会
7	新世代の作家たち２	創造社
8	近代中国のモダニズム１	新月社
9	近代中国のモダニズム２	新感覚派
10	1930年代、注目すべき作家と作品１	茅盾「子夜」、巴金「家」ほか
11	1930年代、注目すべき作家と作品２	沈従文「辺城」ほか
12	解放区の「人民文学」	「文芸講話」と趙樹理「 小二黒の結婚」
13	淪陥区の文学	張愛玲「傾城の恋」
14	おわりに	中国近代文学の普遍性と特殊性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして（調べて）もらうことがあります。合わせて２時間程度でしょうか。

【テキスト（教科書）】
随時配布。

【参考書】
『原典で読む：図説中国20世紀文学』（中国文芸研究会、白帝社、1995年）、『中国語圏文学史』（藤井省三著、東京大学出版会、2011年）ほか、随時配布。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート：60%
コメントペーパー・平常点：40%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上に達した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
常々分かりやすく説明したいと心がけていますが、もし分かりにくい場合は随時ご質問ください。質問が問題を掘り下げるいい機会になることはよくあります。

【Outline (in English)】
Course outline
This course introduces modern Chinese literatures through the development of society since the beginning of 20th century.
Learning Objectives
The goal of this course is to understand modern Chinese society and culture.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports /in class contribution: 40%.

LIT300GA（文学 / Literature 300）

中国の文化Ⅸ（中国俗文学）

鈴木　靖

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SAを機会に日本文化について改めて考え直す機会を得た人も多いだろう。しかし、日本文化とは何かを考えるには、古来、日本文化に多大な影響を与えてきた中国文化への理解が不可欠である。
この授業の目的は巨視的・微視的という二つの視点から中国文化史を通観することにある。
巨視的な視点からいえば、中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語（Lingua Franca）を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与え、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。
いっぽう微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学を生み出す契機を与えた。この授業でも取り上げる三国志演義や水滸伝などは、わが国の文学にも多大な影響を与えている。

【到達目標】
中国の古代から近世に至る文化史を理解し、東アジアという広い視野から自文化を考え、説明できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、準備学習と講義、リアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせて行う。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、リアクション・ペーパーを通じて積極的に発言してほしい。
課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の進め方と目的について概説する
第2回	殷代	文字の誕生
第3回	周代	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国時代	儒教経典が伝える民間伝承
第5回	秦代	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢代	紙の誕生
第7回	魏晋南北朝時代	北朝と南朝の民間伝承に描かれた女性像
第8回	隋唐時代	敦煌変文の世界
第9回	五代十国時代	書籍出版のはじまり
第10回	北宋時代	三国志の誕生
第11回	南宋時代	水滸伝の誕生
第12回	元代	演劇の隆盛
第13回	明代	出版文化の隆盛
第14回	清代	民間芸能の隆盛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習の資料を授業用ページを通じて配布するので、授業前に読んでくること。授業後は授業用スライドのPDFファイルを配布するので、これをもとに復習を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は計４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しないが、事前学習の資料と授業で使用するスライドのPDFファイルを教材用ページを通して配付する。

【参考書】
各回の授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次のような基準で行う。
①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパー（80％）
②期末レポート（20％）
これら成績をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使用するスライドをオンライン上でも見ることができるよう、授業用のサイトを開設し、スライドをアップした。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students understand how the Chinese culture influenced the development of Japanese culture. How kanji, Chinese characters, developed and became a Lingua Franca amongst the Asian countries, how Confucianism was founded and provided an ethical and philosophical doctrine regarding human relationships and social structures for the Asian countries. How Buddhism was introduced to China and spread amongst the Asian countries. Students will also need to consider when paper and printing were invented and how they changed the world. How Chinese Popular literature was born and influenced Japanese literature.
〔Learning Objectives〕
The goals of this course are to understand the cultural history of China and rethink our culture from an East Asian perspective.
〔Learning activities outside of the classroom〕
Before each class, students will be expected to have read the relevant article(s). Required study/preparation time will be four, or more, hours per class.
〔Grading Criteria/Policies〕
Grading will be decided based on reflection essays(80%) and an end of term report(20%).

HIS300GA（史学 / History 300）

中国の文化X（歴史）

張　玉萍

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり（50名限定）初回授業の課題提出者から選抜する。**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語・儀礼・服装など日常生活と密接な関係を持つ事柄から始め、近現代中国の世界へと入っていく。日本人にとっては隣国でありながら遠く感じられている中国の存在が、より一層身近になるようにすることが本授業の目的である。中国文化の中から幾つかのトピックを取り上げて、その歴史的な背景・影響を紹介・解説する。

【到達目標】
現在、日中両国民間の信頼関係は十分とは言えない。その原因を追究するには、近現代の日中関係史を避けて通ることはできない。19世紀末に日中両国の地位が逆転してから今日にいたるまでの日中関係が、現状とどのような因果関係にあるのかを、この授業を通じて知ることができる。そのうえで日中間の相互信頼を醸成する可能性を探り、異文化理解の方法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はオンラインの形で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	地域文化へのアプローチ
	中国とは何か（1）	地理——東低西高、南船北馬
第2回	中国とは何か（2）	民族——56民族の由来と特徴、分布
第3回	中国とは何か（3）	言語——普通話と方言
第4回	儒教（1）	中国人の価値観の中核
第5回	儒教（2）	儒教の興隆、衰退、復活
第6回	満族（1）	“入主中原”
第7回	満族（2）	“満” と“漢”
第8回	旗袍（1）	下位文化から上位文化への上昇
第9回	旗袍（2）	上位文化から下位文化への転落および復活
第10回	清末留日学生（1）	史上初の留日ブーム——師弟関係の逆転
第11回	清末留日学生（2）	革命の揺りかご——東京と中華民国の成立
第12回	日中間における人的交流（1）	政治家としての戴季陶と日本
第13回	日中間における人的交流（2）	戴季陶の日本観およびその意義
第14回	全体総括	授業内容に関する理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各課題の内容に関して、興味のある部分をさらに自分なりに調べて、理解を深めていく。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業用資料はオンライン上で公開する。

【参考書】
張玉萍『戴季陶と近代日本』法政大学出版社、2011年。

【成績評価の方法と基準】
最終回に論述テストを行なう。授業で学んだ六つのテーマの中から興味を持ったものを一つ選び、それについて自分でより深く調べてまとめておく。試験では自分で調べたテーマと教員が指定したテーマの計二問について論述する。資料や授業のレジュメの持込を認める。期末テスト（70点）、平常点（授業資料の視聴確認、30点）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
学習効果を考慮して、履修者の人数を50人までに制限します。超過した場合は抽選を行ないます。

【Outline (in English)】
Starting with things that have close relationships with daily living such as language, ceremonies, and clothes, we will enter the world of modern and contemporary China. The purpose of this lesson is to ensure that China, which is often felt far away as a neighbor for the Japanese, becomes more familiar. Some topics taken from Chinese culture will be introduced and explained focusing on their historical background and influence.
At present, the level of trust between Japan and China is far from satisfactory. This lesson will help students to understand the causal relationship between the current situation and Japan-China relations from the reversal of the two countries' positions at the end of the 19th century to the present day. Then, the possibilities of fostering mutual trust between Japan and China will be explored, and the methods of cross-cultural understanding will be learned.
Students are expected to further their own understanding of the content of each assignment by further researching the areas of interest to them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
An essay test will be given in the final session. Students are required to choose one of the six themes studied in class that interests them, research it in depth, and summarize it by themselves. In the examination, students are required to discuss two questions, one on the theme they have researched and one on the theme designated by the instructor. Students are allowed to bring their own materials and handouts from the class.
The final exam (70 points) and the regular exam (30 points for watching the class materials) will be used to evaluate the overall performance of the course.

HIS200GA（史学 / History 200）

朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）

神谷　丹路

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮半島は，日本の隣国、隣人であり、地理的にも歴史的にも、日本と密接な関係のある地域です．この授業では，朝鮮半島の文化や歴史、社会についての基礎事項を学びます.近年、朝鮮半島は、アジアへ、また世界への影響力を増しています。長い歴史の中で、朝鮮半島は、中国の影響を受けつつも、独自の文化・歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきました。朝鮮半島についての基本的な知識を身につけ、あるべきパートナーシップとは何かを探求することを目的とします.

【到達目標】
朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって，日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します.さらに興味のある分野について，自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的な流れは、以下の通りである。
朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し，基礎的な知識を確認する。その上で、朝鮮半島と日本とのあいだの文化的相互作用、共通点などに着目するとともに，一つの事象であっても、日本と朝鮮半島では、とらえかたが相違することもあり、それらを俯瞰的な視点から学ぶ。視覚資料を多く取り入れた授業資料を用い、幅広い、朝鮮半島の文化、歴史、社会の知識を吸収する。小テストを随時実施し、間違いの多かった問題などについては、次の授業時に解説する。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つである.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入／朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の２つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、綱渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百済・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮（王宮の再建から王妃虐殺事件まで） ・徳寿宮（大韓帝国の近代） ・昌徳宮（最後の国王、植物園、動物園）
7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労務動員
8	解放から1950年代	・38度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族
9	1960年代、70年代	・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成
10	1980年代、90年代、2000年代	・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明（歴史の再評価）
11	朝鮮沿岸漁業の百年	・朝鮮の漁業 ・20世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女
12	歴史の和解とは	・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
13	世界のコリアン・韓国の外国人	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
朝鮮語の知識は必要ありません．朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち，関連する本を積極的に読んでください．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業資料を配布します.

【参考書】
参考文献はその都度指示します.
『新訂増補　韓国朝鮮を知る事典』（平凡社）2014年
『日韓でいっしょに読みたい韓国史』（明石書店）2014年
『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史　前近代編下』（青木書店）2006年
『学び、つながる日本と韓国の近現代史』（明石書店）2013年

【成績評価の方法と基準】
授業の理解度を確認するために、随時、課題、小テストを行う。学期末には、学習のまとめとして期末試験を行う。課題および小テスト（30％）、期末試験（70％）で評価する方針である。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
ＳＡ韓国２年生はかならず受講してください．他学部の学生の受講も歓迎します．なお順序と内容に若干の変更がある場合があります.

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, the students will learn the basics of culture, history, and society on the Korean Peninsula.
< Learning Objectives >
The aim of this course is to help to acquire historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, Assignments & little exams：30%.

LANk300GA（朝鮮語 / Korean language education 300）

朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）

内山　政春

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・朝鮮語を音声，文字，語彙，文法などさまざまな面から言語学的に観察することによって，朝鮮語の力を高めるのに（さらに言えば他の外国語を学ぶにあたって）役立つ知識を提供することを目的としています．
・また日頃接する機会の少ない，北朝鮮の言語と，さらに方言と古語についても言及したいと思っています．

【到達目標】
・この授業は，実践的な語学力をある程度もつであろう受講生が，その裏にある文法や語彙などの「ルール」を理解することで，ブロークンではないきちんとした語学力を身につけるのに役立つことを目的としています．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・みなさんには，少なくとも朝鮮語を２年（週３コマとして）学んだ程度の語学力が必要とされます．他学部学生（朝鮮語受講者）の受講も歓迎しますが，ついていくにはかなりの努力を要します．
・毎回課題を出し，受講生の回答に関して解説を加え，内容を共有できるようにします．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	音声と音素	２種類の「音」についての解説を行なう．
2	音素交替①	つづりと発音の「規則的なずれ」についての解説を行なう．
3	音素交替②	つづりと発音の「規則的ではないずれ」についての解説を行なう．
4	語種	おもに漢字ごと外来語についての解説を行なう．
5	体言と格	品詞分類や助詞についての解説を行なう．
6	用言①	用言の語幹と語尾の結合方式についての解説を行なう．
7	用言②	不規則用言についての解説を行なう．
8	ボイス	用言の受身と使役についての解説を行なう．
9	待遇法と敬語	朝鮮語の各種文体，ていねい形と尊敬形の区別などについての解説を行なう．
10	アスペクトと接続形	「～ている」の２つの意味と動詞の性質の関係についての解説を行なう．
11	方言	おもに韓国の方言資料を見ながら標準ごとの違いについての解説を行なう．
12	南北の朝鮮語	北朝鮮の文献資料を見ながら韓国の朝鮮語との違いについての解説を行なう．
13	古語	『訓民正音』を見ながら現代語との違いについての解説を行なう．
14	まとめ	１学期間のまとめを行なう．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「この授業のため」というのではなく，授業外でも朝鮮語に積極的に触れることが大切です．「この授業のため」の準備学習は特に必要ありませんが，毎回課題を出す予定なので，次回の授業までにやってきてください．授業外学習の標準時間は授業１回につき４時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・プリントを配布します．

【参考書】
・授業中に必要に応じて説明します．

【成績評価の方法と基準】
・平常点（100%）によります．平常点は，毎回の授業で課題を出し，その評価によって決定します．あまりにも出席が少ない場合は評価の対象から外すこともあります．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
この授業は朝鮮語の運用能力をある程度持つ学生を対象としているのは上に書いたとおりですが，にもかかわらず，シラバスも読まずにその前提条件を知らずに受講しようとする学生が毎回います．そういう非常識なことはやめてほしいと思います．
韓国人留学生（朝鮮語母語話者）の受講者の受講も歓迎しますが，単に「簡単そうだから」受講するのではなく，「なぜそうなのか」自分の母語を振り返る機会を持とうという意欲のある者に受講してほしいと思います．たとえば授業中に（授業内容とは無関係に）スマホを見てばかりの学生などがいた場合，途中でやめてもらうことになるかもしれません．

【その他の重要事項】
履修者の状況によっては，授業を朝鮮語で行ないます．またおそらく少人数の授業になると思いますので，受講者の希望があれば内容を一部変更することも考えられます．

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire advanced skills and knowledge of the Korean languages by observing linguistically from various aspects such as sounds, letters, vocabulary and grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is for students who have a certain degree of practical language skills to gain a deeper understanding "rules" of Korean grammar and vocabulary.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria /Policy >
Grading will be decided based on assignments (80%) and term-end report (20%).

ARSb300GA（地域研究（ロシア・スラブ地域）/ Area studies(Russia/Slab) 300）

ロシア・中央アジアの文化

佐藤　大雅

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・「ロシア・中央アジアの文化」は、主にロシア・中央アジア・南コーカサスと呼ばれる地域を対象に、旧ソヴィエト連邦構成国の文化を広く取り上げる入門的な授業です。本授業ではソ連時代を中心に、ロシア帝国から現代に至るまでの文化とその背景について学んでいきます。
・ロシアとその「周辺」地域（中央アジア、南コーカサス等）は、歴史・政治・経済的な繋がりを背景に、相互浸透的にその文化を構築してきました。この地域の文化の特殊性は、ある文化的事象をひとつ切り取るだけでは理解することが難しく、常に近隣諸国との関係の中で捉える、広い視座を必要とします。
・この授業では、それぞれの国の政治・経済等の特徴に加え、文学／美術／建築／音楽／映画／思想などの分野における重要な人物や事柄に触れる機会を提供したいと思います。皆さんの興味の引き出しを増やしつつ、文化についての見方や考える力を深めてほしいと思います。

【到達目標】
(1) ロシア・中央アジア・南コーカサスの文化について、その背景と共に理解できるようになる。
(2) ロシア・中央アジア・南コーカサスの文化の重要な事項について、簡単な説明ができるようになる。
(3) 文化の考え方・論じ方について知見を深め、批判的思考ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・基本的には講義形式で授業を行います。加えて、適宜学生との議論や、グループディスカッションの時間を設けることもあります。
・授業毎にコメントシートを作成・提出してもらいます（成績評価の要件）。
・前回授業時のコメントシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法についてのガイダンスを行う。
第2回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：①ロシア	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。①では、この授業で扱う地域の総合的な把握を行うと共に、ロシアの現在の概況について学習する。
第3回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：②中央アジア	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。②では、中央アジア5か国（ウズベキスタン、カザフスタン、クルグズスタン、タジキスタン、トルクメニスタン）の現在の概況について学習する。
第4回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：③南コーカサス	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。③では、南コーカサス3か国（アゼルバイジャン、ジョージア、アルメニア）の現在の概況について学習する。
第5回	国家・民族とは何か	ロシアとその「周辺」地域を理解する上で必要な、国家・民族の概念について学習する。
第6回	帝政期の文化	ロシア帝国時代の文化の展開を幅広く学習する。
第7回	ロシア革命とソヴィエト政権の樹立：ロシア・アヴァンギャルドの時代	ロシア・アヴァンギャルド芸術の展開について学習する。
第8回	スターリン時代：社会主義リアリズムの誕生	スターリン期のソヴィエト文化について学習する。
第9回	「雪どけ」期の文化①：雪どけ期の文化とは何か？	ソ連における「雪どけ」期の文化状況を学習する。
第10回	「雪どけ」期の文化②：ソ連でロック／ジャズは可能だったのか？	「雪どけ」以降の文化の一例として、ソ連の大衆音楽（ロック・ジャズ）の展開について学習する。
第11回	「雪どけ」期の文化③：社会主義リアリズムは芸術の発展を妨げたのか？	「雪どけ」以降の「公式芸術」の展開を見ることで、社会主義リアリズムがソ連の芸術に与えた影響について学習する。
第12回	ソ連の「非公式芸術」	ソ連の「非公式芸術」を学習することで、ソ連における「公式」と「非公式」の間の対立を考える。
第13回	「民族文化」の現在	ソ連崩壊後、それぞれの「民族文化」がどのように展開してきたかについて学習する。
第14回	まとめ・振り返り	本授業で学習した内容を振り返ると共に、文化研究への取り組み方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で提示した参考文献等をもとに、自分なりに興味を抱いた内容について図書館等での文献調査や読書をしてほしいと思います（この作業は、期末レポートの題材選定や執筆の準備を兼ねています）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。授業で使用する資料は、適宜紙媒体または学習支援システム等で配布します。

【参考書】
参考文献は適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、①平常点（授業への取り組み姿勢、および授業後のコメントシート提出）：50％、②期末レポート：50％、に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし（本年度授業担当者変更のため）。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出のために学習支援システム等を利用します。なお、授業時のPC持参は不要です。

【その他の重要事項】
生成AIツール（ChatGPT等）に関する注意事項：本授業では、成績評価対象となる期末レポートの作成に使用することは禁止とします。期末レポートの要件については、別途授業内で詳細に指示しますが、正確な引用注の記載や参考文献の表示等、内容の正確性を検証可能な条件を付けて出題することとします。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course introduces students to the cultural history of Russia, Central Asia, and the South Caucasus, especially in the Soviet period.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to:
(1) Have a basic knowledge of the cultural history of Russia, Central Asia, and the South Caucasus.

(2) Briefly explain the important cultural phenomena of these regions.
(3) Think critically about cultural phenomena.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
· Class Participation /Reaction Paper: 50%
· Final Essay: 50%

ARSb300GA（地域研究（ロシア・スラブ地域）/ Area studies(Russia/Slab) 300）

ロシア・東欧の文化

佐藤　千登勢

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシアといわゆる東欧諸国は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方がEU加盟を果たした東欧諸国。しかしそのなかで経済的には「優等生」と位置付けられてきたハンガリーが政治的にはEUのなかで足並みを揃えない傾向にあります。
なぜでしょうか。
この講義では、ロシアと東欧諸国（おもに、ハンガリー、ポーランド、チェコ）と今では北欧に分類されるエストニアのそれぞれの民族的差異や特殊性を、主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を概観すると同時にナショナリズムの問題を提起していきます。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の民族が共生するとはどういうことかをみなさんに考えてほしいと思います。
本講義は、SAロシアの事前学習科目なのでSAエストニア（SAロシア代替）の２年生は必ず履修してください。

【到達目標】
この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、適切な文章でこれらをまとめる力をコメントシートを通して養うことを目的としています。学生のみなさんは、つねに問題意識をもちながら授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義で扱う「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及）。さらに、北欧に属するエストニアについても講義を行います。これらの国々の歴史や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、美術）、社会情勢を視聴覚資料を通して概観しながら東欧諸国とロシア（ソ連）との関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや現代の社会問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として考えていくようにしましょう。毎回、コメントシートに見解をまとめてもらいますが、そのなかで興味深いコメントを選択し、翌週の授業にてフィードバックしつつ、みなさんと共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと東欧諸国の言語・宗教／日本とポーランドの関係の一断面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、ヨーロッパ・ピクニック事件など。
第3回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉文化について映像をまじえて解説。
第4回	ハンガリー：音楽と映画をめぐって	ロマ楽団からリストやバルトークの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ベーラらの独特な作風の映画を紹介。
第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第6回	ポーランド：街並みと風土、そして歴史からみる音楽と映画	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所について。伝統音楽からショパンの作品を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。アンジェイ・ワイダ作品の一部を鑑賞しながら史実を後世に伝える映画の力について考える。
第7回	ポーランド：社会を反映する映画	ポランスキー、キェシロフスキ、スコリモフスキ、シュモフスカ、パヴリコフスキらの映画を一部鑑賞しつつ、そこに描かれる社会情勢を汲みとる。
第8回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『プラハ！』に描かれるチェコ事件について。
第9回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	プラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいについて。
第10回	チェコ：文学と映画をめぐって	プラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリャ、愛のプラハ』を紹介。
第11回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのパペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品について。
第12回	エストニアの歴史外観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧の歴史からe-Estoniaの社会に至るまでの軌跡。
第13回	エストニア：街並みと風土	首都タリンの旧市街、カドリオルグ宮殿、「歌と踊りの祭典」、世界遺産について。
第14回	エストニア：文学と映画、音楽をめぐって	キヴィラフク、クロス、ヘインサーの文学、映画『ノベンバー』（サルネット監督）／アルボ・ペルトの音楽を通してエストニアの精霊信仰や死生観について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品のDVDソフトは大学のAVライブラリコーナー、もしくは国際文化学部資料室にある場合が多く、文学作品は図書館で借りることができます。予習・復習を行う時間には毎回４時間以上、期末レポートの作成には、１週間以上かけてください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を教場もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教場もしくは学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、コメントシート30％、期末レポート20％に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
静かな環境で講義を進められるよう、配慮しますが、何よりも、皆さんの協力に期待します。

【Outline (in English)】
●Course outline
The course covers the history, culture and art of Russia and Eastern Europe (Hungary, Poland and the Czech Republic), as well as Estonia. In the process, students will understand and appreciate the domination and nationalism of the satellite countries.
●Learning Objectives
While watching videos about Russia,Eastern Europe and Estonia, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.
●Learning activities outside of classroom
Students should have the opportunity to re-watch the films, literary works, and music introduced in class. DVD software for movie works can be found in the AV library of the university or in the library of the Faculty of Intercultural Communication, and literary works can be borrowed at the library.Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.Please take about a week to create the term-end report.
●Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(50 ％),Short reports(30 ％) and term-end reports(20 ％). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSa300GA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

ドイツ語圏の文化Ⅱ

林　志津江

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏の社会と人々の生活ぶりを、おもに18～20世紀に成立した文学テクストや評論、文化現象をひも解きながら、歴史的に概観します。18～20世紀のドイツ語圏の人々のライフスタイルや価値観から、21世紀の日本に住む私たちがどのような示唆に与えることができるのでしょうか。キーワードは ①愛国的ナショナリズム ②ジェンダー規範 ③住まいと身体／病 ④音楽とスポーツ の４点です。

【到達目標】
１）近代ドイツ語圏／ヨーロッパ諸国と日本との歴史的なつながりを理解するとともに、当該地域の歴史的・文化的事象を批判的に読解・検討することができる。
２）他者の声に耳を傾け、自身の思考を他者に伝える意思を持ち、適切な言説・文章（日本語）で表現することができる。
３）自らの外にある国・地域に関する考察の意義を知的に理解し、その営みを、自身の背負う文化の反省へと繋げることができる。
４）近代ヨーロッパに関する知識と理解が、近代の文明社会を問い直す方法、異文化間コミュニケーションの可能性の考察に繋がっていることを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・時系列に沿って、特定の文化現象・文学／評論テクスト、芸術作品等を軸に、授業ごとのテーマに沿って考察と議論を行います。
・授業各回は、資料をスクリーンで投影しながらテーマと内容を確認します。芸術作品（音楽、図像、動画など）は授業中に、テクストの考察も授業内でみなさんと確認しながら進めます。
・授業終了後には小レポートを書き、自分の考えを言語化してまとめ提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・前史	この授業について、「ドイツ語圏」ってどこ？ 何で「ドイツ」って言うの？
2	「女がコーヒーを飲むとはけしからん！」？	公共圏の生成と「コーヒーハウス」（W. A. モーツァルト『トルコ行進曲』／J. S. バッハ『コーヒーカンタータ』）
3	「音楽が流れる素敵な家庭」？	革命と国歌のための学校、音楽ってお金になるの？ 楽器とジェンダーの関係
4	「普通」「一般」「人間」って誰？	大学の建立・「若者」の夢見る世界（カント『啓蒙とは何か』など）
5	「体育」って何のため？	ポストナポレオン時代の軍隊制度・「カッコイイ兵士」と産む性の関係（ヤーン『ドイツ体操術』など）
6	私って「ドイツ人」だったの？	「母語」と「母国語」って違うの？（A. ドーデー『最後の授業』）
7	観光業と出稼ぎ（する女）の関係？	日光浴とサナトリウムと菜食主義者たちの世界（J. シュピリ『アルプスの少女ハイジ』など）
8	「清潔な水」？	大都市の発展と工業化の影で（森鴎外『舞姫』『独逸日記』・フォンターネ『迷誤あれば』）
9	「音楽で一体感」？	レコードとラジオの時代・「ヴァンダーフォーゲル」で発散させる反抗期
10	「第一次世界大戦でガラガラポン」？	「拡大路線」の終焉・第一次世界大戦下の食糧計画と「カブラの冬」
11	「OL」の誕生？	タイプライターと電話が変えたもの・「女子のための」商業教育コース（M. カレコ「月曜日にはちっぽけな勤め人」など）
12	「アメリカ」よりアメリカらしい？	ハイパーインフレと大不況、食品工業の興隆とエンターテイメント化するレストラン（I. コイン『人工シルクの女の子』その１）
13	法の庇護・「女の子」の真実？	性の解放と純愛の理想（I. コイン『人工シルクの女の子』その２／V. バウム『ホテルの人々』）
14	コーヒーの記憶ふたたび？	寒さと飢えとコーヒーの記憶・農芸化学産業の果てに（E. ケストナー『戦争日記』／H. ファラダ『ベルリンに一人死す』／I. コイン『この夜を超えて』）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
・毎授業ごと、自分の考えをまとめた小レポートを作成・提出します（提出課題）。
・授業内に配布されたプリント資料に再度目を通す。
・資料に記載の参考文献を読み、次授業に備え準備する。

【テキスト（教科書）】
・授業ごと、担当者から資料を配布します。

【参考書】
・臼井隆一郎『コーヒーが巡り世界史が巡る 近代市民社会の黒い血液』（中央公論新社）1992年
・木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
・F. ホフマン（阪井葉子、玉川裕子訳）『楽器と身体 ― 市民社会における女性の音楽活動』（春秋社）2004年
・川越修・辻英史（編）『社会国家を生きる： 20世紀ドイツにおける国家・共同性・個人』（法政大学出版局）2008年
・渡辺裕『歌う国民 ― 唱歌・校歌・うたごえ』（中央公論新社）2010年
・美留町義雄『鴎外のベルリン ― 交通・衛生・メディア』（水声社）2010年
・藤原辰史『ナチスのキッチン「食べる」ことの環境史』（水声社）2012年
・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
・弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史 家庭史からグローバルヒストリーまで』（山川出版社）2021年
・D. ランゲヴィーシェ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民 ― もう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加と貢献（議論）・小レポート（提出課題）（70%）
・学期末レポート（30%）
以上の合計で総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・筆記用具およびWiFiの受信可能なデジタルガジェット

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテクストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces cultural phenomena of german-speaking world, especially Germany in 19. and 20. century. The course deals with some cultural scene exclusively life and culture in modern German-speaking area and countries, especially Prussia with focusing on the way of living and Gender norms - for examples health care and body consciousness, infection and biomedicine, modern western music and sports and that all related with in the era of modernism. Students would understand meaning and points of topics and analyze handled issues through discussions, as thinking about its impact on our present-day society.
【Learning Objectives】
To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 70%of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 30%of submitted assignments as prescribed review tasks.

PHL200GA（哲学 / Philosophy 200）

フランス語圏の文化Ⅰ（思想）

大中　一彌

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
［授業の目的］この授業では、17世紀を中心とするフランスの思想や文化をめぐり、いくつかの作品を概観します。この時代は、その後、グローバルに広がっていく近代社会の基本的な枠組が ― よくも悪くも ― 西ヨーロッパにおいて形づくられた時代です。この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱いている価値観を、より奥行きのある、洗練されたものにしていくのに役立ちます。
［授業の概要］
※世界史を大学受験のさいに選ばなかった人を念頭に置きつつ、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下に記述します。
●デュビィ&マンドルー『フランス文化史』Ⅱによれば、17世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16世紀に探検した北アメリカの土地へは、17世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。
●同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスにも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲惨な宗教戦争を、ナントの勅令（1598年）により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ４世である。これに続く17世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。
●同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みに囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。
●同じく17世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の葦に過ぎない、だがそれは考える葦である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい肉体の弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性がもつ尊厳のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。
●17世紀から18世紀前半にまたがるルイ14世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。
●ナントの勅令の廃止（1685年）によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント（オランダ）を屈服させようとしたルイ14世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ（約2000万人）にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちがつみあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。
●また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ14世という君主の栄光を讃美する（現代でいう）プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような対外的影響力も実際に有していた。
●イギリスやオランダとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地であったこの時代のフランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ14世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。

【到達目標】
１．人が学び、成長し、より洗練された文化がかたちづくられていく際に、「古典」が果たしうる役割について、大学生にふさわしい建設的な意見を述べることができる。
２．「オリエンタリズム」や「ヨーロッパ中心主義」のような、基本的にはヨーロッパの外側からする定型的な批判にとどまることなく、異文化としての17世紀フランスを、ある程度内側から見る、個別の作品に即した理解をもったうえで、みずからの考えをまとめることができる。
３．ヨーロッパの近世芸術におけるギリシア・ローマの神々のモチーフの重要性や、モンテーニュやデカルトに見られる、旅行を通じ、みずからが生まれ育った文化（「自文化」）を相対化する視点に着目しながら、17世紀フランスにおける、さまざまな宗教や宗教批判のあり方について、「一神教は不寛容」「多神教は寛容」といったステレオタイプに陥らずに、論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・この授業は基本的に「対面」です。
・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行いますが、学習支援システムやGoogle Classroomを利用する場合があります。
・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱い切れなかった内容を補足する動画を、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	シラバスと毎回進行表の説明	この授業での学び：古典と「古典主義」。チャールズ英国王のフランス語スピーチ
第2回	フランスにおけるルネサンス	16世紀：お手本としてのイタリアの芸術
第3回	国民性としての「古典主義」というストーリー	「フランス精神」の理想は、明晰（めいせき）・判明なデカルト的合理主義、と伝統的に主張されてきた。古典主義と合理主義の結びつきに関するフーコーとデリダの対比
第4回	デカルトと「悪しき霊」	私や世界は実在すると、ほんとうに言えるのか？　あなたは悪しき霊（an evil genius）にだまされて、夢やまぼろしを現実と取り違えているだけではないのか？
第5回	遠近法と劇のなかの劇	デカルトは『屈折光学』で動物実験から網膜には我々が見る対象と似た「絵」（画像）が観察されると確認していた。フランス式の庭園とは、「光学とだまし絵の新しい法則」が活かされる、スペクタクルの空間である。
第6回	コルネイユ『舞台は夢』	原題はイリュージョン・コミック。全ては幻影なのか、それともむしろ、フィクションこそが人生の学校なのか？
第7回	絵画における古典主義	ワインと血、ダンスにあふれる若きプッサンの絵画。晩年のプッサンの作品《春》で神はどちらを向いていたか？
第8回	《王は踊る》	沼地に囲まれた小さな城館に過ぎなかったヴェルサイユが、ダンス好きの君主ルイ14世により、権力と芸術のための一大装置と化しました。

第9回	宮廷社会の成立	日本にも「すまじきものは宮仕え」という表現がありますが、王様の恩顧を得ようと競うフランスの宮廷社会でも、洗練された貴族の作法を身につけていないと生き残れなかったようです。
第10回	ヴァニタスと神の恩寵	シャンペーニュの絵画《ヴァニテ、あるいは人生の寓意》では、生命を象徴する赤い花のとなりに頭蓋骨と砂時計が置かれます。その意味とは？
第11回	モラリストと仮面	モラリストの「寓話」や「箴言（しんげん）」はしばしば挫折の経験を昇華したもの。子ども向けの寓話だからと、あなどるなかれ。
第12回	幾何学的な無限と「考える葦」	デカルトと並び、17世紀フランスを代表する思想家のパスカル。今でもヘクトパスカル（hPa）などの物理分野の単位に名を残しています。
第13回	パスカルの賭け	「私たちには、神が何であるかも、果たして存在するかどうかも、知ることができない…だが賭けなければならない」。あなたなら、神の存在、神の不在、どちらに賭けますか？
第14回	サン・テグジュペリ『人間の大地』（1939年）	「１人の痩せたパスカルを生み出すことは、金回りの良い月並みな人間を数名誕生させることよりよほど大事なことだ。」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（ア）毎回、授業にたいするコメントの執筆をお願いいたします。
（イ）（ア）以外で、希望する受講者が授業内容にかんする話題提供を行った場合、積極的な参加態度として加点いたします。指定するLMS（学習支援システム-Hoppiiの掲示板かGoogle Classroomのストリーム＞コメント）に、文章やリンクを貼り付けてください。
（ウ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、提示された資料や映像を検討したり、上記（ア）（イ）を行ったりするのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
・教科書を買う必要はありません。
・シラバスの【授業計画】に示されている内容にかんする資料を毎回配布します。
・なお【授業計画】のより詳しい説明を、次のリンク先に置いてあります（Excelファイル）https://x.gd/nmWv1

【参考書】
参考となる映像作品：
パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994年。
ジェラール・コルビオ監督『王は踊る』2000年。
エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969年。
ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973年。
参考となる音楽作品：
夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】
（ア）期末試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）コメントシートの提出の有無および質（80%）
※各回10点満点、学習支援システム> テスト/アンケート機能から同じ週の土曜日午前09時00分00秒までに提出
（エ）平常点（20%）
※授業参加者数によるが、座席表に記入してもらうといった形を想定している。
（オ）その他（学生による話題提供、授業運営への協力、講師のミスの指摘を想定）
※（ウ）と（エ）の合計100%の枠外で5～20%の加点を行う。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・問い合わせ先や、この授業で扱う範囲（17世紀のヨーロッパ）に関係する画像たちを、次のリンク先に置いておきましたので、ぜひご覧ください（Wordファイル） https://x.gd/cnNQC

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布や学生側からの情報の提示など、さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii等）で行ないます。そのため、スマートフォンやタブレット、できればノートパソコンのような、情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
※国際文化学部をはじめとする法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。
※千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
※この「フランス語圏の文化Ⅰ（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語の学習を主な目的とする科目に「時事フランス語Ⅰ」（ https://x.gd/pdJmh ）「時事フランス語Ⅱ」（ https://x.gd/Eqqfz ）があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。
※現代のヨーロッパ、特にその移民社会としての側面に、興味・関心のある方は、サマーセッションで開講される「教養ゼミⅠ『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～（８月上旬）」（ https://x.gd/bp4JW ）やオータムセッションで開講される「教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）」（ https://x.gd/benIb ）をぜひ履修しましょう。人物や映像作品を軸に、各学部・学科の専門課程で学ぶのとは異なる視点から、いわゆる社会人の教養として求められる、現代の政治・社会・文化にかんする学びを、初学者が体験できるコースになっています。
※国際文化学部の学生で、ヨーロッパの文化的な側面に関心がある方は、大学院国際文化研究科で水２限に開講されている「多言語社会論A」（ https://x.gd/RI11D ）「多言語社会論B」（ https://x.gd/IYbfj ）を履修できます。2025年度は「青の政治学」がテーマです。「青」という色を導きの糸として、言語だけでなく、美術やファッションをふくめた、ヨーロッパ地域における文化と社会のかかわりについて見ていきます。

【Outline (in English)】
[Course outline]

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral participations in Japanese will be required.
[Learning Objectives]
1. Gain an overview of representative works of French thought and culture of the 16th and 17th centuries through the reading of the texts in each session.
2. Foster the ability to identify, without stereotyping, the themes contained in the characters and works of each text.
3. Develop each student's own ideas about the relationship between power and justice, and between religious fanaticism and violence.
[Learning activities outside of classroom]
(a) No preparation is required.
(b) Students may be asked to write comments on the class.
(c) Students who wish to contribute topics related to the class content other than (b) will receive points for their active participation. Please paste the text or link to the designated LMS (Learning Support System-Hoppii's Discussion Board or Google Classroom's Stream > Comments).
(d) The study time required for preparation and review of this class will be the time needed to study the materials and videos presented and to do (b) and (c) above. Since this is a class for diverse students with different proficiency levels in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be specified, but in accordance with the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each 2 credit lecture and seminar should be at least 4 hours per session.
［Grading Criteria］
(a) Final Examination: Not conducted (0%)
(b) Final Report: Not conducted (0%)
(c) Submission and Quality of Comment Sheets (80%)
Each submission is graded on a 10-point scale per session. Comment sheets must be submitted via the Learning Support System > Test/Survey function by 9:00 a.m. on the Saturday of the same week.
(d) Class Participation (20%)
The evaluation method may vary depending on the number of participants. For example, students may be asked to fill in a seating chart.
(e) Others (e.g., student-led topic presentations, cooperation in class management, pointing out instructor's errors)
An additional 5－20%may be awarded beyond the combined total of (c) and (d), which accounts for 100%of the base grade.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）

岡村　民夫

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代フランスの絵画・写真・映画の歴史を概観し、芸術的・社会的な意義を学びます。

【到達目標】
エポック・メイキンギな芸術家や流派、作品の名前などを覚え、その歴史的意義や社会背景を説明できるようになります。鑑賞力もアップします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義と関連作品の鑑賞・分析を交互に行います。
コメントシートに関するフィードバックは授業内やhoppiiで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義のオリエンテーション
第2回	フランス古典主義	ヴェルサイユ宮殿 ロラン プッサン
第3回	新古典主義とロマン主義	ダヴィッド、アングル ドラクロワ
第4回	近代絵画のはじまり	写真の普及 写実主義 マネとボードレール
第5回	印象主義	モネ、ルノワール、ロダン
第6回	ポスト印象主義	スーラ、ゴーギャン、ゴッホ、セザンヌ
第7回	映画の誕生	リュミエール兄弟、メリエス
第8回	アヴァンギャルド１ （キュビスム、フォーヴィスム、機能主義）	-ピカソとマチス -ドローネーの抽象絵画 -ル・コルビュジエの建築
第9回	アヴァンギャルド２ （ダダイスム、シュルレアリスム）	-デュシャン -エルンスト、ダリ
第10回	エコール・ド・パリと詩的レアリスム	-ユトリロ、藤田 -カルネ、ジャン・ルノワール
第11回	パリ写真	-アジェ、ブラッサイ、カルチエ=ブレッソン
第12回	ヌーヴェル・ヴァーグ	-トリュフォー、ゴダール
第13回	補遺	これまで取り上げられなかった重要芸術家 期末試験の説明
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布される資料を授業後によく読み復習すること。講義対象になった映画を自分で鑑賞することが望ましい。途中で、国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課します。
本授業の復習時間は１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントで代用します。

【参考書】
中条省平『フランス映画史の誘惑』集英社新書
そのほかは随時挙げます。

【成績評価の方法と基準】
コメントシートやミニ・レポートによる平常点（50％）＋期末試験（50％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。

【Outline (in English)】
【Course outline】We take a general view of history of French fine art, photography and movie.
【Leaning Objectives】The aim of this course are to know the outline of history of Morden French Arts, and to have an appreciation of great works.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Term-end examination(50%), In-class contribution (50%)

ARSd300GA（地域研究（中・南アメリカ）/ Area studies(Middle and South America) 300）

スペイン語圏の文化Ⅱ

佐々木　直美

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：**スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**人数枠を30名とし、それを超えた場合は抽選とする**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、南北アメリカ大陸とカリブ海におけるスペイン語圏諸国・諸地域（アメリカ合衆国を含む）の、歴史・文化・社会の諸相について学ぶ。ラテンアメリカと総称されるこれらの地域は、極めて広大かつ多様性（あるいは不均衡）に満ちている。本授業では、特にインカ帝国が栄えたペルーの歴史や文化を中心的なテーマに据えながらも、個々の地域またはトピックへの理解と関心を深めることを通じて、可能な限りの全体像を掴むことを目的とする。

【到達目標】
ラテンアメリカの歴史・文化・社会に関する基本的な理解を得る。
各自の問題関心を深め、それらをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
　受講生の中から予め定めた担当者が各回のテーマに関するプレゼンテーションを行う。担当以外の受講生もあらかじめ指定された図書や資料に目を通し、授業内でおこなわれたプレゼンテーションの内容を踏まえて、議論に参加する。
　また、授業に関係する映画や展覧会、講演などの文化イベントへの積極的な参加を促す。
　受講生は毎回リアクションペーパーを提出し、それに対する教員からのフィードバックは授業内もしくは学習支援システムを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有し、プレゼンテーションの担当を決定する。
2	ペルーの伝統芸能	教員の研究テーマであるペルーの「ハサミ踊り」について取りあげ、その解釈と芸能の伝承について考察する。
3	ペルーの歴史 先スペイン期	インカについてその文明や歴史について、最新の研究成果を踏まえて学ぶ。
4	メキシコの歴史 先スペイン期	マヤ・アステカについてその文明や歴史、そして最新の研究成果も踏まえてまなぶ。
5	ラテンアメリカの女性たち（1） フリーダ・カーロ	映画「フリーダ」を資料に用いつつ、フリーダ・カーロを切り口に、歴史と社会的背景について学ぶ。
6	ラテンアメリカの女性たち（2） リゴベルタ・メンチュウ	リゴベルタ・メンチュウとグァテマラの歴史について学ぶ。
7	ラテンアメリカの女性たち（3） エバ・ペロン	エバ・ペロンとアルゼンチンの歴史について学ぶ。
8	ラテンアメリカの芸術	ラテンアメリカの画家とその作品を通して歴史と文化を学ぶ。
9	南米の食文化	ペルーやその他の南米の食文化について知る。
10	中米・カリブ地域の食文化	食の歴史をたどりながら、中米やカリブ海地域の多様性について学ぶ。
11	ラテンアメリカの音楽	ラテンアメリカの音楽について、音源や映像を活用しながら学ぶ。
12	日本とラテンアメリカ	日系移民と南米からの日本への移民について、その社会的背景と歴史を学ぶ。
13	ラテンアメリカに関する映画	映画を題材に、ラテンアメリカの人々や社会的背景について学ぶ。
14	ペルーの世界遺産	ナスカの地上絵やそのほかのペルーに登録されている世界遺産について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、事前に指示する資料を読んだり鑑賞したりすること。
また、自分がプレゼンを担当する内容については、最低5冊以上の参考文献をもとにプレゼン資料を準備すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
購入が必要な教科書はありません。課題図書や映像資料は授業内で適宜指示するので、図書館や大学のＡＶライブラリーなどを上手に活用すること。

【参考書】
- 寺尾隆吉『ラテンアメリカ文学入門 - ボルヘス、ガルシア・マルケスから新世代の旗手まで』中公新書、2016年。
- 高橋均、網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』（世界の歴史、18）、中公文庫、2009年。

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題：60％、授業への貢献とプレゼンテーション：40％.

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーション担当の回は、発表者がPCを準備すること。

【その他の重要事項】
受講生と相談しながら、授業計画にあるプレゼンのテーマや内容の順番を入れ替える可能性もある。
この授業は定員を設けているため、定員以上の受講希望者がいる場合は1回目授業に選抜を行う。したがって受講を強く希望する人は必ず1回目から参加すること。
受講者はスペイン語既修者に限らない。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Latin America and the Caribbean: histories, societies and cultures.
＜Learning Objectives＞
By the end of this course, students are expected to gain a basic understanding of Latin American history, culture and society.
You will be able to deepen your interest in problems and translate them into presentations and reports.
＜Learning activities＞
Your study time will be more than two hours for a class.
＜ Grading Criteria/Policy＞
Short reports : 60%、in class contribution: 40%.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松　勲

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。
本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。
なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の通りである。
①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。
具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。
なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション：フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第13回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第14回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。
・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】
・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための56章【第2版】』エリアスタディーズ・72巻，明石書店，2023年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40％
②期末レポート：60％
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。
・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】
・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。
・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。

【Outline (in English)】
This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of Quebec.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings: in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

LANs300GA（スペイン語 / Spanish language education 300）

カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「バルセロナ」「ガウディ」「ダリ」「バルサ」「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

その魅力はカタルーニャ語なしでは本格的に味わえないことは言うまでもなく、カタルーニャ文化・社会の大部分に触れることもできません。そこで、この授業はカタルーニャ語の基礎をしっかり身につけることはもとより、カタルーニャの世界に関心を持つ機会をつくることも目的とします。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）」もあるので、関心を持った学生はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）」および「カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

① 基礎カタルーニャ語の能力を確実に習得すること（ヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル相当）。
② カタルーニャ語とカタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

① 小テスト：定期的に行う15分程度の筆記・リスニングのテストです。
② 態度：授業の内容を理解したり深めたりすること、授業に貢献すること、カタルーニャ語圏の社会・文化を触れようとすること等を示す態度です。
③ 自己紹介の発表：自己紹介の短い個人発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、挨拶などの日常表現	—Com anem? —Molt bé, gràcies. I tu?
2	アルファベット、発音、二重母音、強勢の位置、主格人称代名詞、人称冠詞、動詞ser、疑問文、否定文	—Ets de Barcelona, oi? —No, jo soc de Girona.
3	名詞と形容詞の性数、冠詞、動詞estar、動詞tenir、疑問詞	—Com és en Pol? —Té 20 anys i és molt simpàtic.
4	位置と存在の動詞	El Museu Picasso és al centre de Barcelona. A Barcelona hi ha molts museus!
5	指示詞、所有詞	Aquests són els meus pares i aquest és el meu gos.
6	動詞ser, estar, haver-hi, tenirの比較、位置の表現	L'Anna és molt activa, però ara està força cansada i té son.
7	現在の規則動詞・不規則動詞、時間の表現	Jo visc a Mallorca, estudio a la universitat i treballo en un restaurant italià.
8	動詞conèixer, saber, poderの比較、前置詞、つなぎ言葉	La Laia vol venir amb nosaltres a la platja, però avui no pot.
9	直接・間接目的格弱勢代名詞	Vull aquest videojoc, però els pares no me'l compren pas.
10	動詞agradarと同型の動詞、動詞句と他の便利な表現	A mi m'agrada molt el cafè, però avui m'estimo més un te.
11	量詞、不定語	—Vols veure alguna pel·lícula? —No, no en vull veure cap.
12	再帰代名詞を使う動詞	Nosaltres normalment ens aixequem a les set.
13	自己紹介の発表	自己紹介の短い個人発表を行います。
14	映画鑑賞＆ディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、グループでディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に大事です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

配布資料（文法・練習・語彙を含みます）。

【参考書】

教場では細かい参考書リストを提供します。
田澤耕（2002）『カタルーニャ語辞典』大学書林。
———（2007）『日本語カタルーニャ語辞典』大学書林。
———（2013）『カタルーニャ語小辞典』大学書林。
———（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。
Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, *Catalan: An Essential Grammar*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

① 小テスト〔50%〕
② 態度〔30%〕
③ 自己紹介の発表〔20%〕
成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院（Institut Ramon Llull）の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
"Barcelona", "Gaudí", "Dalí", "Barça", "human towers" … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.
Obviously, one cannot really appreciate Catalonia's fascinating world without its own language, Catalan. But not only that, since approaching its culture and society also requires it most of the times. Because of this, the main goals of this class are to acquire a basic knowledge of Catalan, and also to create opportunities to enhance interest in Catalonia's world.

Finally, this class is followed by “Catalan Culture II (Language B)”, so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture III (History and Society A)” and “Catalan Culture IV (History and Society B)” as well.

【Learning Objectives】

1. Acquire a basic knowledge of Catalan language (CEFR A1 level).
2. Find motivation so as to continue having interest in Catalan and Catalonia’s history, culture and society.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria /Policy】

1. Minitests (50%)
2. Attitude (30%)
3. Self-presentation speech (20%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

LANs300GA（スペイン語 / Spanish language education 300）

カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「バルセロナ」、「ガウディ」、「ダリ」、「バルサ」、「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

その魅力はカタルーニャ語なしでは本格的に味わえないことは言うまでもなく、カタルーニャ文化・社会の大部分に触れることもできません。そこで、この授業はカタルーニャ語の初中級をしっかり身につけることはもとより、カタルーニャの世界に関心を持つ機会をつくることも目的とします。

最後に、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）」および「カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

① 初中級カタルーニャ語の能力を確実に習得すること（ヨーロッパ言語共通参照枠A2〜B1レベル相当）。
② カタルーニャ語とカタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

① 小テスト：定期的に行う15分程度の筆記・リスニングのテストです。
② 態度：授業の内容を理解したり深めたりすること、授業に貢献すること、カタルーニャ語圏の社会・文化を触れようとすること等を示す態度です。
③ 映画分析の発表：映画分析の個人発表とディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、総復習	Quant de temps!
2	比較級、最上級	El Mont Fuji és més alt que la Pica d'Estats.
3	点過去、現在完了、線過去	Aquest matí quan m'he aixecat tenia molta gana.
4	過去完了、過去時制の使い分け	Quan vaig arribar a l'estadi, el partit ja havia començat.
5	未来, 命令	Vine a la festa, que t'ho passaràs molt bé!
6	現在分詞	En Miquel sempre està fent bromes als seus amics.
7	間接話法	El meu fill diu que vol ser astronauta.
8	無人称性を表す構文	Es pot visitar la Casa Milà a la nit?
9	過去未来	Et convindria no menjar tants dolços.
10	関係詞節	Tinc un amic que parla set llengües.
11	接続法	Espero que guanyeu el partit!
12	〈続〉接続法	Necessito un llibre que expliqui bé el subjuntiu.
13	映画分析の発表	映画分析の個人発表とディスカッションを行います。
14	映画分析の発表	映画分析の個人発表とディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に大事です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

配布資料（文法・練習・語彙を含みます）。

【参考書】

教場では細かい参考書リストを提供予定します。
田澤耕（2002）『カタルーニャ語辞典』大学書林。
———（2007）『日本語カタルーニャ語辞典』大学書林。
———（2013）『カタルーニャ語小辞典』大学書林。
———（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。
Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, *Catalan: An Essential Grammar*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

① 小テスト〔50%〕
② 態度〔30%〕
② 映画分析の発表〔20%〕
成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院（Institut Ramon Llull）の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
"Barcelona", "Gaudí", "Dalí", "Barça", "human towers" … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.
Obviously, one cannot really appreciate Catalonia's fascinating world without its own language, Catalan. But not only that, since approaching its culture and society also requires it most of the times. Because of this, the main goals of this class are to acquire an elementary knowledge of Catalan, and also to create opportunities to enhance interest in Catalonia's world.
Finally, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take "Catalan Culture III (History and Society A" and "Catalan Culture IV (History and Society B" as well.
【Learning Objectives】
1. Acquire a pre-intermediate knowledge of Catalan language (CEFR A2-B1 level).
2. Find motivation so as to continue having interest in Catalan and Catalonia's history, culture and society.
【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.
【Grading Criteria /Policy】
1. Minitests (50%)
2. Attitude (30%)
3. Film analysis speech (20%)
100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

HIS300GA（史学 / History 300）

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「バルセロナ」、「ガウディ」、「ダリ」、「バルサ」、「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

この授業は、カタルーニャの歴史・文化・社会を知るための入門であると同時に、批判的な観点を培いつつ、世界の事情とのつながりを探求することも目的とします。スペインにありながらスペインではないという曖昧な状況を体現するカタルーニャには、例のない独特な文化のみならず、今日のグローバル化社会を理解するための矛盾＝ヒントも多く見出されます。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化IV（歴史・社会B）」もあるので、関心を持った人はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャの世界に本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）」および「カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

① カタルーニャの歴史・文化・社会に関する一般的な知識を身につけること。
② カタルーニャと世界とのつながりを先鋭に研究・論述・議論を行うこと。
③ カタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

① アクティブラーニング：学生が選んだ、日本居住のカタルーニャ人と交流し、その経験をレポートで紹介する。
② 授業態度：授業の内容を理解したり深めたりすること、授業に貢献すること、カタルーニャ語圏の社会・文化を触れようとすること等を示す態度です。
③ 自習ファイル：カタルーニャの歴史・文化・社会に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方の説明。
2.	先史・古代史	10世紀まで。
3.	中世史	10〜15世紀。
4.	近代史	16〜19世紀。
5.	現代史	19世紀〜現在。
6.	バルセロナの都市空間史	都市空間を分析する妥当性、歴史的な変貌、大型イベント、現代のジェントリフィケーションなど。
7.	言語	カタルーニャ語の形成過程、各地域の特徴、スペイン語との共存、現状況など。
8.	民俗文化	行事、祝日、祭りや習俗、民俗芸能など。
9.	芸術	ロマネスク、ガウディ、ピカソ、ミロ、ダリなど。
10.	音楽	クラシック音楽、ノバ・カンソー、現代音楽など。
11.	食文化	伝統的な料理や行事食、現代の超創作料理など。
12.	スポーツ	巡検運動、人民オリンピック、バルセロナオリンピック、FCバルセロナの特性、スポーツと政治の関係など。
13.	映画鑑賞＆ディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、グループでディスカッションを行います。
14.	アクティブラーニングの成果共有	自らのカタルーニャ人との交流を簡単に紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に大事です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

教場では細かい参考書リストを提供します。
田澤耕（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。
———（2019）『物語　カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。
立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための50章』明石書店。
Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell &Brewer.
Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

① アクティブラーニング（50%）
② 授業態度（30%）
③ 自習ファイル（20%）
成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院（Institut Ramon Llull）の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
“Barcelona”, “Gaudí”, “Dalí”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.
This class is not only meant as an introduction to Catalonia’s history, culture and society, but also aims to cultivate critical thinking and search connections to world affairs. Being in Spain, but at the same time not being Spain proper, Catalonia incarnates an ambivalent situation. However, it is precisely within this complexity that one can find not only the uniqueness of its culture, but also numerous contradictions which become hints for understanding today’s global society.

Finally, this class is followed by “Catalan Culture IV (History and Society B)”, so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture I (Language A)” and “Catalan Culture II (Language B)” as well.

【Learning Objectives】

1. Acquire a general knowledge about Catalonia’s history, culture and society.
2. Research, communicate and discuss critically on Catalonia and its linkage to the world.
3. Find motivation so as to continue having interest in Catalonia’s history, culture and society.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria /Policy】

1. Active learning: cultural exchange with a Catalan resident in Japan and written presentation of the experience (50%)
2. Class attitude (30%)
3. Self-study file (20%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

HIS300GA（史学 / History 300）

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「バルセロナ」、「ガウディ」、「ダリ」、「バルサ」、「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

この授業は、カタルーニャの歴史・文化・社会を知るための入門であると同時に、批判的な観点を培いつつ、世界の事情とのつながりを探求することも目的とします。スペインにありながらスペインではないという曖昧な状況を体現するカタルーニャには、例のない独特な文化のみならず、今日のグローバル化社会を理解するための矛盾＝ヒントも多く見出されます。

最後に、カタルーニャの世界を本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）」および「カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

① カタルーニャの歴史・文化・社会に関する一般的な知識を身につけること。
② カタルーニャと世界とのつながりを先鋭に研究・論述・議論を行うこと。
③ カタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

① アクティブラーニング：学生が選んだカタルーニャに関するテーマの個人的な発表です。
② 授業態度：授業の内容を理解したり深めたりすること、授業に貢献すること、カタルーニャ語圏の社会・文化を触れようとすること等を示す態度です。
③ 自習ファイル：カタルーニャの歴史・文化・社会に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方の説明。
2.	産業革命に対する社会的闘争	19世紀から20世紀当初まで。
3.	独裁制に対する社会的闘争	1930年代から1970年代まで。
4.	グローバル化社会に対する社会的闘争	1970年代から現在まで。
5.	政治	自治復活、カタルーニャ自治憲章、現代の諸政党など。
6.	独立運動	独立運動の歴史、現在の独立運動の特徴、各社会行為者による立場と理由づけ、今後の独立実現の可能性など。
7.	経済	カタルーニャ独自の産業革命の特徴、内戦中のアナキスト革命による経済、スペイン国家内の自治州としてのカタルーニャの経済など。
8.	移民とアイデンティティ	移民の動向、移民受け入れ政策の変遷、カタルーニャ人性の定義、多文化共生の諸相など。
9.	カタルーニャ語の現在と未来	カタルーニャ語の使用の動向、公教育をめぐる論争、グローバル化社会が伴う諸挑戦など。
10.	ジェンダー	フェミニズムとLGTBI+の運動と制度の歴史、法律の詳細、現代の論争など。
11.	映画	バルセロナ映画派、クリエイティブ・ドキュメンタリー、近年の国際化など。
12.	学生の発表	アクティブラーニング
13.	〔続〕学生の発表	アクティブラーニング
14.	映画鑑賞＆ディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、グループでディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に大事です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

配布資料。

【参考書】

教場では細かい参考書リストを提供します。
田澤耕（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。
———（2019）『物語　カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。
立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための50章』明石書店。
Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell &Brewer.
Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

① アクティブラーニング〔50%〕
② 授業態度〔30%〕
③ 自習ファイル〔20%〕
成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院（Institut Ramon Llull）の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
“Barcelona”, “Gaudí”, “Dalí”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.
This class is not only meant as an introduction to Catalonia’s history, culture and society, but also aims to cultivate critical thinking and search connections to world affairs. Being in Spain, but at the same time not being Spain proper, Catalonia incarnates an ambivalent situation. However, it is precisely within this complexity that one can find not only the uniqueness of its culture, but also numerous contradictions which become hints for understanding today’s global society.

Finally, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture I (Language A)” and “Catalan Culture II (Language B)” as well.

【Learning Objectives】

1. Acquire a general knowledge about Catalonia’s history, culture and society.
2. Research, communicate and discuss critically on Catalonia and its linkage to the world.
3. Find motivation so as to continue having interest in Catalonia’s history, culture and society.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria /Policy】

1. Active learning (50%)
2. Class participation (30%)
3. Self-study file (20%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

LIT300GA（文学 / Literature 300）

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会A）

須藤　祐二

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写から読み取れるアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、絵画、映画、音楽などとどのような影響を相互に及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】
受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。
第1回授業で、いくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマから、アメリカの文学が文化や社会環境とどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察するというプロセスが繰り返されるだろう。時間的な制約から、時系列に沿ったアメリカ史全体の説明はできない。受講生はアメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。
最終授業でそれまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、それまでに回答した質問等についてもフィードバックとしてもう一度解説をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第2回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第3回	怖いものはなにか	アメリカのゴシック小説の特徴をヨーロッパのゴシック小説と比較して、前者における恐怖の描き方から「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第4回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第5回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19世紀から20世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第6回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品が当時のアメリカの拡大志向やエスニシティへの意識をどのように反映しているのかを考察する。
第7回	時間、都市、産業化	19世紀後半以降のアメリカの都市化や産業化の進展、そして、社会における時間表象や都市表象がどのように変化したのかを紹介し、それらがモダニズムの文学作品にどのように反映されているのかを考察する。
第8回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのように表象されているのかを考察する。
第9回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのように変容しているのかを、文学作品との比較から考える。
第10回	観念としての「黒人」は誰のものか	20世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのように位置づけようと苦闘してきたかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。
第11回	メディアと消費文化の拡張	アメリカ文学が消費文化をどのように表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。
第12回	アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル	第11回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのように描いているかを検討する。
第13回	ジェンダー観の変容	アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する、併せて、彼女たちの作品と20世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。
第14回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で資料を配布するため、授業後に復習としても読み込むこと。
また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習が重要である。

【テキスト（教科書）】
授業で使用する資料は配布する。

【参考書】
有賀夏紀 (編) 油井大三郎 (編)『アメリカの歴史――テーマで読む多文化社会の夢と現実』 有斐閣アルマ, 2003年
亀井俊介 (編)『アメリカ文化史入門――植民地時代から現代まで』昭和堂, 2006年
板橋好枝、高田賢一 『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房, 1991年
鈴木透『実験国家アメリカの履歴書――社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡（第2版）』慶應義塾大学出版会, 2016年

【成績評価の方法と基準】
学期末レポートを70％、中間レポートを30％とする。
両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
例年、視覚資料が理解に役立ったという感想があるため、今年度も積極的に使用するつもりである。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course is designed to introduce students to the history of American literature and, through it, provide insight into various aspects of American culture and society. Students will not only explore the critical perspectives of authors as expressed in their works but also examine how American society during different historical periods is reflected in the underlying themes of these writings.
Additionally, the course aims to deepen students' appreciation of American literature by examining its influence on visual arts, film, and music across different eras.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students should be able to explain key characteristics of American literature and its cultural significance.
【Learning Activities Outside the Classroom】
Students are expected to spend approximately two hours before or after each class reviewing and engaging with the course materials to fully grasp the content.
【Grading Criteria】
First Report: 30%, Second Report: 70%

LIT300GA（文学 / Literature 300）

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会C）

中和　彩子

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**人数制限・選抜あり**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
名誉革命後の18世紀イギリスで発展した小説という文学ジャンルは、進歩と科学の世紀でもあった19世紀、とりわけヴィクトリア時代(1837-1901)の間に作品も媒体も、そして読者も多様化し、影響力のある一大文化産業となる。この授業では、19世紀末のイギリス小説に焦点を当て、さまざまな不安――ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖――を描いた代表的な作品を読むことを通じて、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】
イギリス小説の代表的な作品を読み、テクスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。
作品と作者の文学史における位置づけを理解する。
イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
受講者が、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートに沿って準備学習をしていることを前提として授業を進める。グループ・ディスカッションを行ったあと、講師がディスカッションの結果を整理し解説を加えるというのが授業の基本的な進め方であるが、講義を中心とする回もある。
各授業の終わりには、理解の確認のためのリフレクションペーパーを課す。
提出されたワークシートやリフレクションペーパーへのフィードバックは、翌週の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス イントロダクション(1) イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18～20世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	イントロダクション（2）19世紀後半のイギリス文学・文化	授業で扱う作品、作家、その背景についての概説
3	ロバート・ルイス・スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説前半	演習（小説前半の分析）
4	『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説後半	演習（小説後半の分析）
5	『ジキル博士とハイド氏』（1886年）全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
6	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』(1890年）小説前半	演習（小説前半の分析）
7	『四つの署名』小説後半	演習（小説後半の分析）
8	『四つの署名』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
9	H.G. ウェルズ『タイム・マシン』(1895年）	演習（原文抜粋の分析）・講義
10	H.G. ウェルズ　『モロー博士の島』(1896年）	演習（原文抜粋の分析）・講義
11	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』（1902年）小説前半	演習（小説前半の分析）
12	『闇の奥』小説後半	演習（小説後半の分析）
13	『闇の奥』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
14	まとめ	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の準備学習として、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートの問題に解答し、提出すること。
本授業の準備・復習時間は計４時間を標準とする。なるべく準備学習に重点を置くことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
(1) ３作品については、次の邦訳を使用する。受講許可を受けたあと、授業の予習に間に合うように大学生協等で購入すること。
①スティーヴンスン、村上博基訳『ジーキル博士とハイド氏』 光文社古典新訳文庫, 2009.
②アーサー・コナン・ドイル、日暮雅通訳『四つの署名』 新訳シャーロック・ホームズ全集，光文社文庫，2007.
③コンラッド、黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫, 2009.
(2)その他の作品については抜粋を配布する。

【参考書】
石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社，2014.
※そのほか随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（ワークシート50%、リフレクションペーパー10%）と、試験の成績（40%）の総合評価。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
・互いのワークシートの内容を共有することで、より多角的にテキストを理解できるので、グループワークの時間を長めにとる。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の授業内で、学習支援システムを利用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC等の端末（デバイス）を持参してください。

【その他の重要事項】
・授業に関する連絡は、学習支援システムを通じておこないます。
・初回授業について
受講希望者多数の場合、授業の最後に作成・提出してもらうペーパーをもとに、選抜をおこないます。初回授業をやむを得ず欠席した受講希望者（仮登録者）は、当日中に学習支援システムを通じて仮登録者宛に出される「メッセージ」の指示にしたがってください。

【Outline (in English)】
Course Outline: “Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)” aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will analytically and critically read some representative British literary works, published around the turn of the 20th century, that are obsessed with Victorian fin-de-siècle anxieties, and be introduced to their social and cultural contexts.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following: 1) understand the details of each novella/novel, and its cultural and historical context. 2) understand these works and their authors in the context of British literary history. 3) read and understand parts of each work, in English.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to come to each class meeting well prepared by reading the assigned part of the text and doing the worksheet, given online, in advance. The required study time is about 4 hours per class.
Grading Policies: Grading will be decided based on worksheets (50%), reflection papers (10%), and the end-term examination (40%)

LANe300GA（英語 / English language education 300）

英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）

輿石　哲哉

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，学生が現代英語の構造について，様々な面から考察するを目標にするものです．良きにつけ悪しきにつけ国際語になっている英語は，どのような言語であるのか，学生は，担当者とともに，授業を通じて考察していきます．

【到達目標】
１．学生が英語の音声面，文法面等の構造について，知識を得られること．
２．学生が英語の構造についての研究の仕方について，ある程度の知識を得られること．
３．学生が英語という言語に関しての様々な問に対して，答えるべき道筋をつけられること．
４．併せて，学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること．
なお，上記の１，２で述べた知識ですが，ヤマとなる点は以下の通りです．
a) 音声器官，発音記号．
b) 音素の考え方（構造主義）．
c) 言語の知識を構成する各部門の考え方．
d) 記述上のさまざまな単位．
e) 統語範疇（品詞論）．
f) 直接構成素分析，句構造．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
現時点で考えていることは以下の2点です．
１．当面の間は学習支援システムを用いて学習に必要な資料を配布していきますが，質問、コメント等を受け付けることによって可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思います．
２．何をトピックにするか明確にし，履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います．
課題等のフィードバックについては，「学習支援システム」や，個人メール等により行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション，英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方，教材について説明します．後半は，英語という言語について，どこでどのように話されているかなどを見た上で，英語史について簡単に触れます．
2	英語の音声について（1）	英語の音声について，その特徴を学んでいきます．言語音声に関する初回になりますので，音声研究において必要な調音器官などの用語，発声の原理について学びます．
3	英語の音声について（2）	英語の音声について，その特徴を学んでいきます．今回は，英語を離れ，一般的に単音の記述について見た後，子音・母音の分類原理について学習します．
4	英語の音声について（3）	英語の音声について学ぶ3回目です．英語の母音について，その分類を学んだ後，各母音について見ていきます．
5	英語の音声について（4）	英語の音声について学ぶ4回目です．二重母音，弱母音等について触れ，その後，フォニックスについて学習します．
6	英語の音声について（5）	英語の音声について学ぶ5回目です．母音についてまとめ，英語の子音を見ていきます．
7	英語の音声について（6）	英語の音声について学ぶ6回目です．子音についてまとめた後，音節，音結合について触れます．最後に，かぶせ音素（アクセント，リズム，イントネーション等）について解説します．
8	英語の文法について（1）	英語の文法について学ぶ1回目です．初回ですので，文法という用語の伝統的な意味と，新しい意味，生成文法の考え方等について学びます．
9	英語の文法について（2）	英語の文法について学ぶ2回目です．日英の語順の相違について概観した後，形態素，語，語彙素といった基本的な用語について学びます．
10	英語の文法について（3）	英語の文法について学ぶ3回目です．統語範疇という概念について概観します．具体的に，形容詞を例にとって，いかに統語範疇が規定されるか，検討します．
11	英語の文法について（4）	英語の文法について学ぶ4回目です．形容詞についての話をまとめ，他の統語範疇と形容詞の関係について学びます．英語の辞書の記述についても，検討します．
12	英語の文法について（5）	英語の文法について学ぶ5回目です．構成素という概念（おおまかな説明：語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか）について学びます．そして，不連続構成素をどのように扱うかについての話をします．
13	英語の文法について（6）	英語の文法について学ぶ最後の回です．この回は，SVO+不定詞という構文を例にとり，それがどのように分析されるか，検討します．
14	まとめ～今後につなげて	これまでの授業を総括し，その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか，授業で学んでいきます．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，前回の内容を復習しながら，新しい内容に進みますので，学生は，基本的な用語を習得し，方法論を理解しながら，参考文献等を読んで授業に臨んでください．重要なのは，授業において，何らかの「引っ掛かり」を覚え，それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて，定着させていくことです．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものを考えてはいません．適宜，プリントなどを配布，提供いたします．

【参考書】
授業中，随時指定いたしますが，とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます．
・加島祥造 (1976).『英語の辞書の話』．東京：講談社[のちに講談社学術文庫に収載．]
・加島祥造 (1983).『新・英語の辞書の話』．東京：講談社[のちに講談社学術文庫に収載．]
・竹林滋・斉藤弘子 (1998).『改訂新版　英語音声学入門』．東京：大修館書店.
・中島文雄 (1991).『英語学とは何か』．東京：講談社[講談社学術文庫].
・田中菊雄 (1992).『英語研究者のために』．東京：講談社[講談社学術文庫].
・竹林滋 (1991).『英語発音に強くなる』．東京：岩波書店[岩波ジュニア新書].

【成績評価の方法と基準】
試験での成績を第一条件にして，平常点を加味します．言うまでもないことですが，出席することはすべての前提です．欠席は基本的に認めません．（やむを得ない場合に限り，欠席3で-10%（大体のところ評価にして１段階下がる），5で失格，というのを一応の目安とします．）
基本的に，最終試験で評価をいたします．その他のプロジェクト等を課す際には事前に周知します．）
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により，特にありません．

【学生が準備すべき機器他】
パソコンはあると便利ですし，発音記号のフォント，樹形図の書き方等に慣れることが可能になります．さらに，いろいろ興味深いサイトもありますので，授業や「授業支援システム」等を通じて，幅広く勉強ができます．

【その他の重要事項】
１．具体的なことは履修者の数，知識のレベルなどを加味して決めます．
２．本科目はグローバル・オープン科目のStructure of Englishと内容が同一ですので，重複履修はできません．
３．初回授業に必ず参加してください．
４．かなり速いペースで進みますので，真面目な態度で出席しないと履修は困難です．
●　授業形態については，「対面」となっていますが，可能であれば周知の上，「オンライン」も採り入れていきたいと思います．したがって，その点を考慮の上，履修をお願いします．

【カリキュラム上の位置づけ】
本科目は，言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です．（科目の性質上，SA英語圏の履修者が多いことが予想されます．）英語の構造をひと通り駆け足で学び，言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です．半期ですので，かなり駆け足で勉強することになりますが，英語の構造について，基本的な知識は網羅するように心がけます．履修者は，自分なりに興味があるトピックを見つけ，方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language.Towards the end of the course, students will able to:
1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English should be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)
【到達目標（Learning Objectives）】
The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:
a) articulatory organs and phonetic symbols,
b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
c) modular approach to linguistics,
d) various units in linguistic description,
e) syntactic categories (parts of speech),
f) immediate constituent analysis, phrase structural analysis.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (about 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:
- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the LMS site, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.
Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10%on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.
Any modification to the above shall be known to you by using LMS
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LANe300GA（英語 / English language education 300）

英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）

輿石　哲哉

配当年次／単位：**3～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の歴史は，ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります．本授業では，担当者とともに，学生は，本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから，どのような変化を遂げて，21世紀の今のような国際的な言語となっていったか学んでいきます．

【到達目標】
１．学生が英語の歴史について，ひと通りの知識を得ること．
２．学生が英語の歴史に興味を持ち，現代英語の様々な事象について，歴史的な説明を試みること．
３．学生が言語の歴史研究について，その大まかな方法論を知ること．
４．学生が英語の運用力をつけること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
本授業では，担当者が授業用に用意したスライドを用いて講義型の授業をします．受講生は，講義に出席しつつ，併せて教材（以下の教科書）を各自読みすすめてください．読みやすい教材ですので，基本的な事柄の把握に重点をおきつつ読んでいってください．
各授業のフィードバックについては，「学習支援システム」にて詳細に行いますので，そちらを読んで内容の把握に努めてください．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション，英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説. - 現代英語の状況，話者数，分布等. - 英語史上の時代区分.
2	EARLY HISTORY 1	- IE studies &comparative linguistics - Proto-Indo-European
3	EARLY HISTORY 2	- Proto-Indo-European (cont'd) - Celts - Romans
4	OLD ENGLISH 1	- Latin influence on English - Anglo-Saxon invasion - Germanic languages sub-divisions
5	OLD ENGLISH 2	- Place name studies - *Angli* vs *wealas* - Christianisation - Viking raids - King Alfred's reign - OE runic inscriptions - Undley Bracteate and Franks Casket - OE pronunciation - 'Back to front' movements of OE pronunciation
6	OLD ENGLISH 3	- OE documents and poems (Law of Æthelberht, Gospels, *Beowulf*) - Oral tradition, alliteration, and OE compounding
7	OLD ENGLISH 4	- OE poems and alliteration - Norman Conquest - Social bilingualism in England
8	OLD ENGLISH 5	- ME: social bilingualism - English started to be spoken! - ME grammar, lexis - OE and ME dialects - Word order
9	MIDDLE ENGLISH 1	- ME documents (*Sumer Is Icumen In*, *The Canterbury Tales*, *Piers Plowman*) - Social changes - Great Vowel Shift
10	MIDDLE ENGLISH 2	- Great Vowel Shift (cont'd) - English becoming commoner! - Borrowed words - Shakespeare and the King James Bible
11	MIDDLE ENGLISH 3	- Biblical parallel text for comparison of OE, ME, and ModE - Shakespeare in original pronunciation - Spelling innovations
12	MODERN ENGLISH 1	- The first dictionaries (*A Table Alphabeticall*, Johnson's dictionary) - Linguistic prescriptivism - New words - *The Oxford English Dictionary*
13	MODERN ENGLISH 2	The Oxford English Dictionary (cont'd) - Received pronunciation and General American - Regional varieties
14	MODERN ENGLISH 3	- Regional varieties (cont'd) - Jargon and slang - The future of English

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，まず，テキストを読んでくることから始めてください．この際，批判的に読むこと（書かれていることに疑問はないか，曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと），出てくる用語等を資料，ネット等を用いて調べること，を意識的に行うことが重要です．授業後，復習をして固めれば，理解力が高まります．重要なのは，授業において，何らかの「引っ掛かり」を覚え，それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて，定着させていくことです．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Viney, Brigit (2008). The History of the English Language. Oxford University Press.

【参考書】
授業中，随時指定しますが，とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます．
・北村達三 (1980).『英語を学ぶ人のための英語史』．東京：桐原書店．（内容として一番標準的ですが，最近の英語についての記述が少々足りません．）
・寺沢盾 (2008).『英語の歴史　過去から未来への物語』．東京：中央公論新社[中公新書].
・中尾俊夫，寺島廸子 (1988).『図説　英語史入門』．東京：大修館書店．
・ブラッドリ，H. 寺澤芳男訳 (1982).『英語発達小史』．東京：岩波書店[岩波文庫].

【成績評価の方法と基準】
試験での成績を第一条件にして，平常点を加味します．言うまでもないことですが，出席することはすべての前提です．欠席は基本的に認めません．（やむを得ない場合に限り，欠席3で-10%（大体のところ評価にして１段階下がる），5で失格，というのを一応の目安とします．）
基本的に，最終試験で評価をいたします．その他のプロジェクト等を課す際には事前に周知します．）
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
昨年度休講のため，特にありません．

【学生が準備すべき機器他】
パソコンはあると便利ですし，発音記号のフォント，樹形図の書き方等に慣れることが可能になります．さらに，いろいろ興味深いサイトもありますので，授業や「授業支援システム」等を通じて，幅広く勉強ができます．

【その他の重要事項】
１．具体的なことは履修者の数，知識のレベルなどを加味して決めます．
２．本科目はグローバル・オープン科目のHistory of Englishと内容が同一ですので，重複履修はできません．
３．今年度はテキストを読んでいくことを中心にした授業構成に変えました．
４．「英語史」と「英国史」とは異なります．ことばに焦点を当てる授業です．
５．初回授業に必ず参加してください．

【カリキュラム上の位置づけ】
本科目は，言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です．（科目の性質上，SA英語圏の履修者が多いことが予想されます．）英語の歴史をひと通り駆け足で学び，言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です．半期のため，かなり駆け足で勉強することになりますが，英語の歴史の基本的な知識は網羅できると思います．履修者は，自分なりに興味があるトピックを見つけ，方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
Towards the end of this course, students will be able to:
1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and

2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.
【到達目標（Learning Objectives）】
The following are the concrete goals of this course:
1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Students are expected to visit the relevant LMS site and get as much information as needed.
Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested on the LMS site posted immediately after each class session by the instructor.Approximately two hours of preparation and reviewing are necessary for this course.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10%on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.
Any modification to the above shall be known to you by using LMS
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

比較表象文化論

竹内　晶子

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】
・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身に着ける。
・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。
毎回、課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ（Study Questions）への答えを提出してから授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズムI	オペラ『蝶々夫人』台本分析
3	オリエンタリズムII	オペラ『蝶々夫人』演出分析
4	オリエンタリズムIII	映画『ラスト・サムライ』鑑賞
5	オリエンタリズムIV	映画『ラスト・サムライ』分析
6	オリエンタリズムV	映画『ベイマックス』鑑賞
7	オリエンタリズムVI	映画『ベイマックス』分析
8	ジェンダー論I	「シンデレラ」コンプレックス
9	ジェンダー論II	アニメ『シンデレラ』鑑賞
10	ジェンダー論III	アニメ『シンデレラ』分析
11	ジェンダー論IV	映画『エバーアフター』鑑賞
12	ジェンダー論V	映画『エバーアフター』分析
13	ジェンダー論VI	バレエ「シンデレラ」分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、定められた期限までに学習支援システムに課題(SQ)へのレスポンスを提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・課題(Study Question):　50％
・積極的な授業参加（ディスカッション）：20%
・期末レポート：30%
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・4回以上欠席した場合は、単位修得の権利を失います。

【学生の意見等からの気づき】
学生の回答を授業内で多く紹介します。

【その他の重要事項】
履修希望者の数によっては初回の課題をもとに選抜を行いますので、必ず初回授業後、定められた締切日までに課題を提出してください。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).
【Learning Objectives】
Students will learn how to compare and analyze films and theatrical performances while taking into consideration their sociohistorical contexts.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.
【Grading Criteria/Policy】
Assignments: 50%
Active Participation in class discussion: 20%
term paper: 30%

LIT300GA（文学 / Literature 300）

日英翻訳論

大野　ロベルト

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**受講は先着500名までとする。**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英訳を通して日本語に触れることは、ときに日本語のみを媒介とするよりも明瞭に、日本語の実像を描き出してくれる。その果てに見えてくるのは日本語に特有のもの、すなわち日本語のエッセンスであるから、実はこの授業のタイトルは「日英翻訳不可能論」とすべきである。この授業では、とくに「裸」の状態に近い日本語に触れるために、古典の英訳を中心にとりあげる。講義は秋学期に開講される「世界の中の日本語」と響き合う内容となっている。

【到達目標】
英語の運用能力が向上すると共に、受験勉強の「負の遺産」をなげうち、自由なアプローチで古典本来の味わいを楽しめるようになる。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、随時リアクションペーパー提出を奨励している。これらについては学習支援システムを通じてフィードバックを行い、必要に応じて講義内でも紹介する。成績判断の主な材料としては、中間レポートと期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、翻訳とは何かについて考える。
2	日本的なるもの	「もののあはれ」の概念を素材に、前回に引き続き翻訳について考える。
3	詩歌を翻訳する１	俳句の翻訳について考える。
4	詩歌を翻訳する２	和歌の翻訳について考える。
5	日本語の淵源１	『古今和歌集』の序文を参考に、日本における詩歌の位置について考える。
6	日本語の淵源２	『万葉集』などを材料に、日本語の「成立」について考える。
7	物語の誕生１	『伊勢物語』をとりあげ、物語と文化の関係について考える。
8	物語の誕生２	『土佐日記』をとりあげ、母国語と外国語の関係について考える。
9	私を書く１	『枕草子』を素材に、言語と自我の関係について考える。
10	私を書く２	『徒然草』を素材に、自己と他者の関係について考える。
11	社会を描く１	『方丈記』をとりあげ、現実とフィクションの問題について考える。
12	社会を描く２	『無名草子』をとりあげ、言語とジェンダーについて考える。
13	日本語的なるもの	古典と向き合った翻訳者たちの姿から、彼らの見た「日本像」を探る。
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、近現代の日本語に起こった変化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義のテーマとなるテクストについては、日本語の原典と英訳を事前に丁寧に読み比べ、単語の意味などについては事前に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】
授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
クリステワ『心づくしの日本語』ちくま新書、2011

【成績評価の方法と基準】
平常点10％、中間レポート40％、期末レポート50％
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンド授業の特性を活かしつつ、対面と比較して遜色のない、臨場感ある講義を心がけたい。

【Outline (in English)】
This course invites the students to survey the essence of the Japanese language by reading classical texts translated into English. In order to truly discover Japan, it is essential to look for things that are left untranslated.
To appreciate various works spanning across centuries of Japanese classical period, and to demonstrate the findings in forms of written assignments and final paper, will be the objective of this course.
The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.
The grading criteria is as follows: 10%participation, 40%mid-term paper, and 50%final paper. Students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LIN200GA（言語学 / Linguistics 200）

言葉と社会

小川　敦

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「言葉と社会」「多言語社会」「言語政策」をテーマに、言語と社会がどのように関わっているのか、社会において言語はどのような役割を果たしているのかなどについて考えていきます。
「言語と方言」「二言語併存」などの基本的な概念について解説し考察した上で、歴史的な経緯でいくつもの言語が用いられる社会、移民が多く住む社会での言語問題について多く取り上げます。

【到達目標】
・社会的なコンテクストで言語がどのような役割を担っているかを理解する。
・それぞれの社会において言語の持つ役割や重要性が異なっていることを理解する。
・言語に対する価値観は人によって異なることを理解し、相対化して考えるべきことを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式ですが、できるだけ授業中にも学生同士で話し合うようにします。授業の最後にかならずリアクションペーパーを書いてもらいます。
授業の最初にリアクションペーパーに対してこちらからコメントをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：言語と国家	言語についている名前と国家の名前が必ずしも一致しないことや、「〇〇人なら〇〇語を話す（べき）」といった言説が自明ではないことを理解し、これからの授業につなげていきます。
第2回	言語と変種（標準語と方言）	日常的に「標準語」「方言」と呼んでいるものの実態について扱い、さらに社会集団語などのさまざまな言語変種について扱います。
第3回	国家と言語、標準語と方言の関係	前回に引き続き、何が変種を「方言」「言語」たらしめるのかについて、社会や国家との関係から考えます。
第4回	方言のイメージ	地域変種（「方言」）に対して抱くイメージがどのように形成されてきたのかを考えます。また、「方言コスプレ」と呼ばれる現象について、「役割語」の視点も踏まえて見ていきます。
第5回	言語とジェンダー	これまでのテーマと関連付けて、言語をジェンダーの視点から考えます。
第6回	危機言語	アイヌ語や琉球諸語から、危機に瀕する言語について考えます。
第7回	少数言語・言語権	少数言語の定義を見た上で、言語に対する権利や法律上の位置づけなどについて考えます。
第8回	移民社会としての日本と言語	日本では移民背景を持つ人がますます増えています。日本社会の対等な一員とするための言語的な配慮や権利について考えます。「やさしい日本語」についても扱います。
第9回	言語景観と言語サービス	前回の授業を踏まえて、多民族化・多言語化する日本社会における「言語景観」について考えます。何気なく通り過ぎていた標示について、この授業を機に気をつけるようにしてください。
第10回	ケーススタディ：フランス・アルザスの言語教育とアイデンティティ	フランスの東部、ドイツに接するアルザス地方の言語の歴史を見た上で、今日のフランス語とドイツ語の二言語教育、そしてアルザス人の言語アイデンティティについて考えます。
第11回	ケーススタディ：イタリア・南チロルの言語問題	イタリアの最北端に位置する南チロル地方（アルト・アディジェ）ではドイツ語系住民とイタリア語系住民が長年対立と和解を繰り返してきました。複数の言語集団の共存について、言語教育の点から考えます。
第12回	ケーススタディ：「方言」から「言語」を創り出した国家、ルクセンブルク	フランス語、ドイツ語、民衆の言語であるルクセンブルク語を公用語とする、多言語社会であるルクセンブルクを扱います。複数の言語を使えることを標榜しながら、アイデンティティの象徴として独自の言語を創り出してきた歴史を見ていきます。
第13回	ケーススタディ：「移民国家」としてのルクセンブルク	前回に続いてルクセンブルクを扱います。ルクセンブルクは人口の半数近くが外国籍であり、言語教育の面で課題に向き合っています。最近の事例を紹介しながら、ルクセンブルクでの課題と日本社会への示唆について考えます。
第14回	本講義のまとめ	講義でこれまでに扱ってきたテーマについて、総括します。また、本講義で扱えなかった社会言語学のテーマについていくつかピックアップし、今後の学習につなげます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の書籍を購入する必要はありません。
こちらに紹介した文献や授業中に紹介した文献について、できるだけ図書館やインターネットで探して勉強してください。
配布資料はLMS等でダウンロードして参照できるようにします。

【参考書】
平高・木村（編）『多言語主義社会に向けて』くろしお出版
真田信治（編）『社会言語学の展望』くろしお出版
田中・木村・宮里（編）『移民時代の言語教育—言語政策のフロンティア(1)』ココ出版
言語権研究会（編）『ことばへの権利』三元社
そのほか、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート60％、コメントペーパーを含めた授業への参加40％とします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンだけでなくPCやタブレット端末を準備すると受講しやすいです。

【その他の重要事項】
受講生の関心にあわせて、授業内容を柔軟に変更・修正することもありますので、ご承知おきください。
教員の専門の関係もあり、事例紹介ではヨーロッパ、とりわけドイツ語圏の話題が多くなりがちですが、受講生は必ずしも英語以外にドイツ語や他のヨーロッパ語を学んでいる必要はありません。言語と社会の関係に関心がある人、多言語社会や言語政策に関心がある人を歓迎します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this course, we will explore the relationship between language and society. After introducing key concepts, we will examine language-related issues in multilingual societies shaped by historical circumstances, as well as in societies with large immigrant populations.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students will gain an understanding of the role of language in social contexts. They will also recognize that people hold diverse values regarding language and develop the ability to think critically and comparatively.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 40%
Final report 60%

HIS300GA（史学 / History 300）

宗教社会論Ⅱ

佐々木　一惠

配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：**宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は１９世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】
１．近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
２．宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
３．キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
●各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
●各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて提出してもらいます。
●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19世紀半ばから20世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪悪とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
6	社会的福音運動とリベラル神学	19世紀末から20世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的ゴスペル運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。
7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	キリスト教とセクシュアリティ	キリスト教とセクシュアリティの 係を歴史的に概 したのち、昨今のクィア神学の取り組みについて議 する。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の復習をしっかり行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
○岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995年。
○田村秀夫『千年王国論―イギリス革命思想の源流』研究社、2000年。
○森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年。
○小檜山ルイ『帝国の福音ールーシー・ピーボディとアメリカの海外伝道』東京大学出版会、2019年。
○グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000年。
○土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004年。

○アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009年。
○Motoe Sasaki, Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century (Cornell University Press, 2016).
○ミラ・ゾンターク『＜グローバル・ヒストリー＞の中のキリスト教―近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』新教出版社、2019年。
○パトリック・S・チェン（工藤万里江訳）『ラディカル・ラブークィア神学入門』新教出版社、2014年。

【成績評価の方法と基準】
1. リアクションペーパー（30％）
2. 期末試験（70％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【Outline (in English)】
The course provides historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important in examining the relationship between social movements and Christianity, 2) analyze the relationship between religion and social movements from the perspective of historical consciousness, and 3) conduct a basic historical analysis of social movements based on the ideas of Christianity.
Students will be expected to review each class to: 1) understand the important concepts, theories, and characteristics of social movements, and 2) be able to use the concepts and theories as tools for analysis. In each reaction paper, students may be required to analyze the connection between the movements and the theories that were covered in previous classes.
Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments.
The final grade will be decided by reaction paper (30%) and the final assignment (70%).

POL200GA（政治学 / Politics 200）

国際関係研究Ⅰ

松本　悟

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：**国際関係研究Ⅰ（アクターに着目した理論の捉え方）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にＮＧＯや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】
（１）授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
（２）「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
（３）関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係で、オンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業内討論：毎回グループ討議・発表を行い、教員がフィードバックする。また、数回は演習型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム（アプローチ）であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	ＮＧＯとは何か	ＮＧＯの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのＮＧＯ	国際社会におけるＮＧＯの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	ＮＧＯは国家を補完しているのか、国家を「脱している」（trans）のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにＮＧＯが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のＮＧＯ活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。
14	まとめ（プライベートレジーム）	「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
【期末レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編（2013）『NGOから見た世界銀行―市民社会と国際機構のはざま―』ミネルヴァ書房。

【参考書】
毛利聡子（2011）『NGOから見る国際関係：グローバル市民社会への視座』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内討論への参加度、授業後課題）50%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・特になし。なお、2021～22年度は学部長職にあったため兼任講師に代講をお願いしていたので、その頃に履修した先輩の助言はあまり参考にならないので注意して欲しい。

【その他の重要事項】
・長年ＮＧＯとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくＮＧＯの現状を交えて講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) explaining the influences exerted by non-state actors in "international relations".
2) explaining the incidents or problems relevant to "international relations" from theoretical viewpoints.
3) being able to read the relevant literatures critically and analytically.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ARSf200GA（地域研究（東南アジア）/ Area studies(Southeast Asia) 200）

国際関係研究Ⅱ

松本　悟

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：**国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では東南アジア半島部のメコン地域／メコン河流域国／大メコン圏という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】
（1）「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
（2）メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
（3）演習型（ゼミ形式）の反転学習を通して、「地域」を分析するための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■発表とグループ討議：演習スタイルで授業を運営する。履修者は必ず1回発表を担当する。第3回授業以降は、課題文献を読んできていることを前提にした発表とグループ討議及び教員の補足授業という構成で行う。分析的な文献講読、討議、発表といったアカデミックスキルを高めることを目的としている。詳細は第1回授業で説明する。
■発表担当者：履修人数にもよるが1人もしくは複数の履修者で毎回担当する。事前にレジュメを準備し共同で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方を説明する。グループと発表者を決める。
2	「地域」とは何か（メコン全体）	メコン地域、メコン河流域国、大メコン圏などの用語をもとに、国際文化学部で学ぶ「地域」の射程について考える。
3	越境環境問題（中国、ラオス、タイ）	国を越える環境問題をどう考えるのか、因果関係やレジューム論などを参照軸に議論する。
4	小さな村から見えるもの（ラオス、タイ）	ラオスの小さな村の30年間の歩みから「開発と環境」を捉えるマクロな視点とミクロな視点について議論する。
5	森林「減少」と森林「破壊」（メコン全体）	環境問題が抱える広義の政治性について、ポリティカルエコロジーの視点を参照軸に議論する。
6	影響予測の人文学（タイ、ラオス）	開発の社会・環境影響を調査すればいいという問題解決策について、国際文化や地域研究の視点から議論する。
7	資金から見た人権・環境問題（ミャンマー）	環境破壊や人権侵害につながりやすい開発を進める資金源について議論する。
8	財と資源（カンボジア）	カンボジアのトンレサップ湖の漁業を事例に、財として見た魚について議論する。
9	洪水と水害（カンボジア、ベトナム）	メコンデルタの洪水を事例に、「水が溢れる」という現象について、国際文化の視点から議論する。
10	人身取引（タイ、ミャンマー）	不法滞在者への人権侵害を通じて、法律では解決できない問題を国際文化の視点から議論する。
11	境界（メコン全体）	メコン地域の呼び方は、政治的な背景によって異なる。何かに境界線を引くことの意味と危うさを議論する。
12	重複の機能（メコン全体）	メコン地域を含む国際協力の枠組みは複数存在し、一見すると重複している。そこから重複することの働きについて国際文化の視点から議論する。
13	歴史から考えるメコン開発（メコン全体）	ここまで取り上げた事例を解釈学、系譜学、考古学の視点から振り返り、歴史「から」ではなく歴史「を」学ぶ意義について議論する。
14	開発と責任（メコン全体）	開発が環境破壊や人権侵害に繋がる時、その「責任」を問いたくなるが、責任とは何だろうか。この授業全体を「責任」から問い直し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当にあたっていない場合でも、必ず事前課題を行ってくること。反転学習なのでそうでないと授業についていけない。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点20%、発表20%、グループ討議への貢献度20%、期末レポート40%。期末レポートでは、授業で取り上げた概念、理論、事象を繋げて論理的な文章を書くことを求める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。なお、2021～22年度は学部長職に就いていたため、兼任講師に代講を依頼していたので、その頃に受講した先輩の助言は参考にならない点を注意して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
課題文献や授業後課題があるので、授業コードを使って必ず学習支援システム（Hoppii）に自己登録すること。

【その他の重要事項】
■第1回授業授業後に発表担当者とグループを決めるので、履修を検討している学生は必ず第1回授業に出席すること。どうしても出席できない場合は、事前に履修の意思を担当教員にメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。
■学部や学年を超えて演習スタイルの授業を行うので、通常の授業だけでなく、演習（ゼミ）とも異なる学びがある。
■メコン河流域国で30年以上にわたってNGO活動に従事してきた実務家教員が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on "Mekong region" or "Mekong basin countries" or "Greater Mekong Subregion" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) taking reflective views of area studies, in particular implications of society-natural environment nexus in the Mekong region.
2) explaining the relations between the social environmental issues in the Mekong region and Japan.
3) understanding multi-disciplinary approach for analyzing "area" through flipped classroom method.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation: 10%, group discussion: 20%, in-class contribution: 30%, term-end report : 40%.

ARSk300GA（地域研究（地域間比較）/ Area studies(Interregional comparison) 300）

人の移動と国際関係Ⅰ

張　勝蘭

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：**人の移動と国際関係Ⅰ（華僑・華人社会）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人々の頻繁な越境的大移動がグローバリゼーションの象徴と言える。現在、四大移民集団の一つである中国系移民の人口は6000万人余りで、198か国・地域に分布していると言われている。これらの中国系移民が現地社会やエスニックコミュニティにどのような影響をもたらしているのか。本講義では、中国系移民（華僑：中国国籍保有者、華人：現地国籍保有者）について、移住と定着の歴史、チャイナタウン、経済、社会・教育、生活・文化などの側面から概観する。特に日本における華僑・華人の歴史と社会の特徴を理解し、日本社会との関わり及びそこから見える多様性について考えを深めることを目的とする。

【到達目標】
中国系移民に関する基礎知識を習得し、「人の国際移動」を理解する。華僑・華人問題を通して日本や国際社会における多文化共生について考える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
前半の講義では、世界に広がる華僑・華人の歴史と現状について概観する。後半の講義では、日本における華僑・華人にフォーカスしてその歴史と社会の特徴を具体的に紹介し、考察する。質問の受付や課題へのフィードバックは授業内、学習支援システム及びメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	人の移動と国際関係Ⅰのアウトラインを説明し、中国系移民（華僑・華人）の予備知識を紹介する。授業の進め方、シラバスの使い方、成績評価についても説明する。
第2回	華僑・華人の歴史	中国人の海外移住と定着の歴史について、西欧の植民地化以前から中華人民共和国成立後まで概観する。
第3回	チャイナタウン	チャイナタウンの形成と変貌について、主に東南アジア、アメリカを事例に講義する。
第4回	華僑・華人の経済	華僑・華人経済の伝統的特色、華人財閥、華人企業の戦略などについて説明する。
第5回	華僑・華人の社会・教育	華僑・華人社会の伝統的組織、華字報、華文教育などについて講義する。
第6回	華僑・華人の生活・文化	食文化をはじめとする華僑・華人の生活を紹介し、宗教にも触れる。
第7回	日本の華僑・華人の歴史と社会①	長崎、唐人貿易、唐人屋敷、唐通事をキーワードに、江戸時代の華僑・華人を見ていく。
第8回	日本の華僑・華人の歴史と社会②	三把刀、中華会館を中心に、明治から昭和までの華僑・華人について説明する。
第9回	日本の華僑・華人の歴史と社会③	戦前から戦後、そして現在に至るまでの華僑・華人社会について、華僑総会、新移民に焦点を当てて考察する。
第10回	日本の華僑・華人の生活空間	「横浜中華街」、「池袋中華街」を中心に日本の華僑・華人の重要な生活空間－中華街の実像を考察する。
第11回	日本の華僑・華人の教育	「僑校」（中華学校）は華僑の「三宝」の一つである。日本「僑校」の特徴や学校を取り巻く環境について講義する。
第12回	日本の華僑・華人の信仰と習俗	先祖供養である普度勝会と冠婚葬祭から日本の華僑・華人の信仰と風習を説明する。
第13回	日本の華僑・華人の文化創生	春節やランタン祭りを中心に日本の華僑・華人の文化を理解し、その変遷から地元との共生について考察する。
第14回	新華僑について	1980年代、中国の改革開放に伴い、来日した中国人「就学生」・「留学生」たちが急増し、いわゆる「新華僑」になっていく。この「新華僑」について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムにアップロードされた講義資料を参考に、シラバスに記載された参考書及び毎回の追加参考文献の関連部分を読み、授業内容への理解を深める。受講者は各2時間を使い、事前・事後に関連知識の予習、授業の振り返りを行い、理解を深めることに努める。疑問点を整理し、まとめる。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。毎回、事前に講義資料を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】
山下清海編『華僑・華人社会を知るための52章』明石書店、2023年
曽士才・王維編『日本華僑社会の歴史と文化―地域の視点から』明石書店、2020年
華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』丸善出版、2017年
山下清海編著『華人社会をわかる本－中国から世界へ広がるネットワークの歴史、社会、文化』明石書店、2005年
可児弘明・斯波義信・游仲勲編『華僑・華人事典』弘文堂、2002年
また授業時に各テーマについての参考文献を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①中国系移民（華僑・華人）に関する基礎知識が習得できている。
②中国系移民を通して「人の国際移動」を理解し、特に日本の華僑・華人の諸問題について根拠に基づき論理的に説明できる。
以上の2点に着目し、期末レポート（60％）、リアクションペーパー（20％）、受講態度（授業中の発言・質問）（20％）を用いてその到達度を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
授業の理解度を高めるために、音声・映像などのコンテンツを活用する。私語などを注意し、授業に集中しやすい環境づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
This course deals with the migration and settlement, Chinatowns, economy, social structure, education, custom and lifestyle of overseas Chinese in the world, especially focusing on overseas Chinese in Japan. At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about overseas Chinese, and also to be able to evaluate ethnic diversities in Japan.

Your required study time is two hours for each class meeting.

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 400）

地域協力・統合

大中　一彌

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介するショート動画をご覧ください https://youtube.com/shorts/iaK97j-Q6ss 学内には他にもヨーロッパ関連の科目がありますが、これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】
①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・この科目「地域協力・統合」は、前年度までの一部学生の要望を受け、2025年度は全面オンラインで実施します。
・授業時間（100分）の前半80分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（50-60分）にあてています。
・授業時間（100分）の後半20分程度を、グループディスカッションにあてています。
・毎回の授業資料はGoogle Classroomや学習支援システム-Hoppiiをつうじて事前に配布しています。
・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
2. 本学学則基準によると、講義や演習で２単位を得るのに必要な予習・復習の時間は１回につき４時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】
教科書を買う必要はありません。学習支援システム-Hoppii や Google Classroom上でPDFファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
●１．期末テストは行いません　0%
●２．出席はとりません　0%
●３．小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※１）】61%
●４．グループ・ディスカッション＆学生間の共働【グループ・ディスカッションへの参加や、提出する文章の内容のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等（※２）】25%
●５．この科目を履修している学生や履修を検討している学生に対する、この科目の授業内容に関連した動画の提供やプレゼンテーション【あくまで希望者のみ提出です】14%
●６．運営への協力【協力してくれた方に加点しています；たとえば配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象】（※３）
（※１）小テストは授業の復習であり、授業で配るスライドやプリントをみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
（※２）グループ・ディスカッションは、参加者数によりますが、このシラバスを執筆している時点では、Zoomを用いておこなうことを想定しています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループが提出した成果物に記載されていれば、確実に加点されます。小テストの得点に上乗せしたい、単位がどうしても必要という学生さんは、ぜひグループ・ディスカッションに継続的に参加しましょう。
（※３）６．は、１．～５．の合計100%には含めず、その外枠で5%程度まで加算する。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。

・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください（Wordファイル）https://x.gd/vqmNu

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
6) Argueing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60%of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).
1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

実践国際協力

松本　悟

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考える。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】
（1）国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
（2）国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
（3）実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。
■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに短く書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース１　保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース１を受けたグループ発表・討議	ケース１に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース２　少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース２を受けたグループ発表・討議	ケース２に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース３　参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース３を受けたグループ発表・討議	ケース３に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース４　緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース４を受けたグループ発表・討議	ケース４に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。通学電車の中でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】
W.エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後課題20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度40%、授業内試験40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、授業内試験は紙媒体のものは全て持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】
■100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、初めのうちは、1つのケースに授業2回分を充てる。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム（Hoppii）を使う。

【その他の重要事項】
■国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。
■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、必ず出席すること。
■グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第2回授業日前日までに履修の意思を担当教員までメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.
【Learning activities outside of classroom】
-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.
-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
-Totally, your study time will be at least four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

SOC300GA（社会学 / Sociology 300）

実践社会調査法

松本　悟

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的社会調査の実践と量的社会調査のリテラシーを学ぶことで、卒業研究などで活かせるような研究方法を身に着けることを目指す。なお、量的社会調査についてはリテラシーを学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】
（1）統計的な社会調査データの読み取りができる。
（2）質的調査（ドキュメント調査、ライフストーリーインタビュー調査）を実践できる。
（3）卒業研究などに必要な、問いの構想、妥当な調査、収集したデータを適切に使った論文を執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業の方法：①事前課題をもとに議論と講義を行う反転授業、②学生が提出した原稿などを全員で事前に読んできてコメントし合う方法、③教員が用意した課題をもとにしたグループ討議・発表などアクティブラーニングをフルに導入する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、履修希望者が40人を超える場合は選抜のための課題に取り組む。
2	社会調査とは何か？	事前課題文献を読んだ上で、今まで思っていた社会調査との違いを議論する。
3	問いについて考える	社会調査はただ何かを調べることではない。必ず問いが必要である。調査をする際のよい問いとは何かを議論する。
4	ライフストーリーインタビュー調査の問いと構想	ライフストーリーインタビュー調査で明らかにする問いの発表とグループ討議。ライフストーリーインタビュー調査の方法と研究倫理に関する講義。
5	ドキュメント調査の問いと構想	ドキュメント調査で明らかにする問いの発表とグループ討議。ドキュメント調査の方法に関する講義。
6	プレゼンテーション	調査結果をどのように発表すると効果的かを演習形式で考える。
7	ライフストーリーインタビュー調査結果の口頭発表	ライフストーリーインタビュー調査の結果を口頭発表し議論する。
8	ドキュメント調査結果の口頭発表	ドキュメント調査の結果を口頭発表し議論する。
9	論文作法	これから執筆する論文の技法について講義と実習を行う。
10	執筆	ライフストーリーインタビュー調査もしくはドキュメント調査の結果を論文にする。
11	ライフストーリーインタビュー調査論文初稿	ライフストーリーインタビュー調査を選択した履修者の論文を事前に読んできて、グループでコメントし合う。
12	ドキュメント調査論文初稿	ドキュメント調査を選択した履修者の論文を事前に読んできて、グループでコメントし合う。
13	量的調査のリテラシー	数量化された量的調査の読み取り方を演習形式で学ぶ。
14	国際文化学部生にとっての社会調査法	授業で学んだことをＫＪ法を用いて整理する。論文の最終稿提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題は多いが、その分まちがいなく実践的な力が身につく。履修人数によって時間配分はシラバスと異なる可能性がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特にない

【参考書】
大谷他（2005）『社会調査へのアプローチ―論理と方法［第2版］』ミネルヴァ書房。
鹿島茂（2003）『勝つための論文の書き方』文春新書。
その他適宜授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】
ライフストーリーインタビュー調査論文もしくはドキュメント調査論文の最終稿が50%、口頭発表が30%、平常点が20%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文を書く意思のある2～4年生を主な対象とした授業であり、履修者は確実にその力がついている。一方で学生の負担が大きいようなので、2025年度は、口頭発表まではライフストーリーインタビュー調査とドキュメント調査の両方を習得するが、執筆するのはライフストーリーインタビュー調査論文かドキュメント調査論文のどちらか1本とする。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること。

【その他の重要事項】
1．調査のハウツーを学ぶ授業ではない。論文を目的とした調査法の授業である。
2．履修の意思があるものの初回授業に出席できない場合は、必ず初回授業より前に担当教員にその旨を伝えること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。
3．事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。
4．課題は比較的多いが、その分学びも大きい。
5．遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること。
6．担当教員は社会調査士の資格を持ち、海外での質的社会調査を実践してきた。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course contains lecture /practice of qualitative research, and literacy of quantitative research, but not includes practice of quantitative research. It enable students to apply the qualitative research methodologies such as life-story interview and document analysis and to use quantitative data for their graduation dissertations in proper manners.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) develop their literacy skills to understand the quantitative data.
2) practice the qualitative research (life-story interview and/or document analysis).
3) acquire the academic skills to develop a research question, an appropriate research method and write a short paper in academic manner.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the assigned book chapter, to write a draft paper or to have completed the required assignments and so on.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
one research paper: 60%, oral presentation on the other research: 40%

CUA200GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

国際関係研究Ⅳ

石森　大知

サブタイトル：**家族と結婚の人類学**
配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：**国際関係研究Ⅶ**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は、誕生から死ぬまでの間、つねに他者との関係を持ち続ける。あるいは、誕生前の生殖過程および死後の世界においても、人間は人びとを結ぶ関係の網の目に生きているといっても過言ではない。本授業では、とくに家族と結婚をキーワードとして、このような人と人をつなぎ合わせる社会関係およびそれを支える制度や組織について文化人類学的に考察する。

【到達目標】
・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	家族と親族①	核家族普遍説を問う
第3回	家族と親族②	キンドレッドと出自集団
第4回	家族と親族③	母系社会の暮らし
第5回	親子と結婚①	現代における結婚の諸相
第6回	親子と結婚②	親子の絆とは何か
第7回	生殖医療①	生殖技術と現代社会
第8回	生殖医療②	新しい家族の行方
第9回	結婚と社会関係①	インセストタブーの解釈
第10回	結婚と社会関係②	『親族の基本構造』を学ぶ
第11回	ライフサイクル①	子どもから大人へ
第12回	ライフサイクル②	老いることの意味
第13回	ライフサイクル③	この世からあの世へ
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で紹介する文化人類学や社会人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン―フィールドからの出発』学陽書房、2017年。
波平恵美子編『文化人類学－カレッジ版（第３版）』医学書院、2011年。
クロード・レヴィ=ストロース『親族の基本構造』福井和美訳、青弓社、2000年。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】
文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】
・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）や学期末レポートの提出を課しますが、生成AIツールは使用しないでください。
・学期末レポートにおいては、出典の明示を徹底してください（詳細についてはレポート作成要領において説明しますが、出典が明示されていない場合は評価対象外となることがあります）。
・本学では成績評価におけるSの割合を受講者の20％以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。
・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、国家と民族について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course covers the basics of social and cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We especially focus on the parent-child relations, kinship and marriage to understand social relations which connect people in everyday life.
[Learning Objectives]
The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from anthropological perspective.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法Ⅰ

岡松　暁子

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：グ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】
国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに 国際法の構造	本講義の対象範囲 国際法の概念、近代国際法の特色
第2回	法源	条約、国際慣習法、法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第3回	条約法	締結手続、留保、効力、無効、改正と終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第6回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第10回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第11回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第12回	国家責任法（1）	国家責任の観念、国際違法行為責任の基本構造
第13回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岩沢雄司『国際法［第2版］』東京大学出版会、2023年。4,840円。
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2025年。（旧版でも可）

【参考書】
森川幸一他編『国際法判例百選［第3版］』有斐閣、2021年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部壌・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）
期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】
特にコメントはありません。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society.
By the end of this course, students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.
Students are required to study at least 2 hours before or after the class.
The course grade will be based on final paper(100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法Ⅱ

岡松　暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
備考（履修条件等）：環ｺｱ：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。
第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】
国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底
第4回	南極、空域、宇宙	国際化地域、国際航空法、宇宙空間
第5回	個人	国籍、外国人の地位、難民
第6回	国際人権法（1）	人権保障の歴史、条約による人権保障
第7回	国際人権法（2）	国際組織による人権保障、履行確保、人道的介入
第8回	国際刑事法	国際犯罪、国際刑事裁判所
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続、裁判的手続
第11回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第12回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第13回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岩沢雄司『国際法［第2版］東京大学出版会、2022年。
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2025年。（旧版も可）

【参考書】
森川幸一他編『国際法判例百選［第3版］』有斐閣、2021年。

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%。
期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.
Students are required to study at least 2 hours before or after the class.
The course grade will be based on final paper (100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際環境法

岡松　暁子

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：環ｺｱ：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】
国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成（1）	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成（2）	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質（1）	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質（2）	世代間衡平、予防的アプローチ、共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第8回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第9回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第10回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第11回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第12回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第13回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2025年。（旧版も可）
その他、授業内に指示する。

【参考書】
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。2,800円。
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）。
期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】
旧科目名称「国際環境法Ｉ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.
Students are required to study at least 2 hours before or after the class.
The course grade will be based on final paper (100%).

MAN300HA（経営学 / Management 300）

環境経営論Ⅰ

金藤　正直

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業や自治体などの組織は、地球環境の保全、地域の経済環境の変革、組織内の労働環境改善のための戦略あるいは政策を策定し、また、それを実現するための組織を編成し、管理していく経営を行っている。このような経営を「環境経営」と定義づけ、本講義では、企業の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】
本講義では、企業の環境経営における理論的な内容だけではなく、実践的取り組みにも触れながら、企業が環境問題や社会課題の解決を通じて持続的に経済的価値を維持・向上させていく方針（戦略）をどのように立て、それを実現するためにどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本（本質）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・本講義は対面、参加型（双方向型）で実施する。
・本講義では、企業で実践されている環境経営のための戦略、組織、管理の特徴について、著書や論文、また企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。さらに、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事や映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取り組みへの理解をさらに深める。
・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 環境経営とは何か	講義の内容・進め方と、企業における環境経営の目的や意義を説明する。
第2回	環境経営の現状	海外や国内の企業で行われている環境経営の現状を説明する。
第3回	環境経営の全体像	海外や国内の企業の実践例をもとに、環境経営の全体像を説明する。
第4回	経営戦略①	企業の経営戦略やその実践例をもとに、環境経営のための戦略の理論的特徴を説明する。
第5回	経営戦略②	CSRやSDGsなどへの関心の高まりにより、企業が今後策定すべき環境経営戦略を説明する。
第6回	経営組織①	企業の経営組織やその実践例をもとに、第4回で触れた経営戦略を実現していく経営組織の理論的特徴を説明する。
第7回	経営組織②	第5回で触れた経営戦略を実現していくために編成すべき経営組織（企業間関係や組織間関係）を説明する。
第8回	経営管理①	企業の経営管理の基礎構造を説明し、その後環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを取り上げる。
第9回	経営管理②	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステム（サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第10回	環境経営とマーケティング	環境経営におけるマーケティングの理論と実践例について説明する。
第11回	環境経営と会計	環境経営を支援する会計システムを説明する。
第12回	ケーススタディ	企業の実践的取組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。またこの検討内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第13回	新たな環境経営	現在注目されている新たな環境経営（例えば、再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、地域循環共生圏、地域再生、ソーシャル・ビジネスなど）を説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は、印刷物（配布資料）を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動や企業分析など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】
講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は以下の２点に基づいて評価します。
①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】
学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭またはグーグルフォームで説明（回答）してもらう場合があります。

【その他の重要事項】
・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this lecture is to systematically learn the management method for solving environmental and social issues in companies.

②Learning Objectives
Thought this lecture, students are able to logically understand the basis of environmental and social management system in companies.
③Learning Activities outside of Classroom
Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
④Grading Criteria /Policy
The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.
1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
2) Final report: 50%

MAN300HA（経営学 / Management 300）

環境経営論Ⅱ

金藤　正直

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、環境経営論Ⅰの内容を踏まえて、国内の企業や地域で注目されている新たな環境経営の取組事例（地域循環共生圏、地方創生、地域経営、再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、人的資本経営、ソーシャル・ビジネスなど）を取り上げ、その考察をもとに新たなビジネスモデルを検討していくことを目的とする。

【到達目標】
本講義では、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的また実践的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・本講義は対面、参加型（双方向型）で実施する。
・本講義では、講義内容に関連する著書や論文、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指す。
・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 新たな環境経営の視点	講義の内容・進め方と、海外や国内の企業や地域で実践されている新たな環境経営の取組事例を分析するための視点を説明する。
第2回	新たな環境経営と意義と方法①	企業の社会的責任（CSR）、共有価値（CSV）、包括的成長（IG）、持続可能な開発目標（SDGs）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、新たな環境経営の意味と意義を説明する。
第3回	新たな環境経営と意義と方法②	第2回で説明した各種概念に基づいて、企業間の環境経営の実現方法（アライアンス、サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第4回	フードロス・マネジメント	農林水産省、消費者庁、環境省で公表されているフードロス対策の現状を紹介しつつ、国内のフードロス削減への実践例（フードドライブ、バイオマス利用、サルベージ・パーティ、3010運動など）とその特徴を説明する。
第5回	サステナブルファッション	環境省の政策的特徴とともに、企業の調査結果や実践例をもとに、サステナブルファッションの実態を説明する。
第6回	新たな環境経営と意義と方法③	第3回で説明した各種概念に基づいて、組織間の環境経営の実現方法（産業クラスター・マネジメント（ICM）、エコシステム）を説明する。
第7回	再生可能エネルギー事業	経済産業省または資源エネルギー庁によるカーボンニュートラルなどの関連政策や事業計画をもとに、再生可能エネルギーの現状と事業化の意義を説明する。また、第5回や第6回の講義内容も加味しながら、海外や国内の企業や地域で実施されている先進事例とその特徴を説明する。
第8回	地域循環共生圏-地方創生も考慮に入れて-	内閣府・内閣官房の地方創生の取り組みを紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。
第9回	地域経営	第7回と第8回の講義内容を加味しながら、地域の特徴的な事業とその評価方法を説明する。
第10回	ソーシャル・ビジネス	途上国で展開されているソーシャル・ビジネス（例えば、ボーダレスジャパンの取り組み）やBOP（Base of the Pyramid）の実践例やその課題を説明する。
第11回	健康経営	経済産業省や厚生労働省の政策的取り組みや現状調査の結果、また、企業の調査結果をもとに、健康経営の取組状況や意義を説明する。
第12回	人的資本経営	健康経営とともに、日本企業（大企業、中小企業）の動向や、先進事例とその特徴も説明する。
第13回	企業/地域の持続的成長のためのビジネスデザイン	第12回までの講義をもとに、企業や地域が持続可能性を高めるための新たなビジネスモデルを説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は、印刷物（配布資料）を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動や企業分析など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】
講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は以下の２点に基づいて評価します。
①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】
学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭またはグーグルフォームで説明（回答）してもらう場合があります。

【その他の重要事項】
・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】
①Course Outline
The purpose of this lecture is to learn new methods for improving environmental and social values in companies and regions.
②Learning Objectives
Thought this lecture, students are able to logically understand a new environmental and social management system in companies and regions.
③Learning Activities outside of Classroom
Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
④Grading Criteria /Policy
The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.
1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
2) Final report: 50%

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論Ⅰ

武貞　稔彦

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業/Spring**　｜　曜日・時限：**金4/Fri.4**
備考（履修条件等）：**環コア：経, グ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】
本講義においては、ア）途上国経済の分析枠組み、特徴、イ）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
途上国経済論Ⅰにおいては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。
学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。
また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？　：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚しい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚しい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくならないのか（第２版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験
80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).
[Learning Objectives]
The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.
It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%
.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論Ⅱ

武貞　稔彦

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金4/Fri.4**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：経, グ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】
本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し　ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。
学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。
また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：途上国経済を見る目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め,「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：中国（1）社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：中国（2）持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：インド－目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚しい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（5）：タイ－東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでもNIESに続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（6）：ベトナム－戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを挙げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（7）：ブラジル－南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済（8）：南アフリカ－アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済（9）：ボツワナ－資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第13回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第14回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくならないのか（第２版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験
80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).
[Learning Objectives]
The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.
It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%
.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

環境社会論Ⅰ

藤田　研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：環コア：ロ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を紹介する。環境社会学では、「地域住民や市民がどう環境問題の解決にかかわるか」ということが、重要な論点の一つとなってきた。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、解決のために必要な行動について学ぶ。

【到達目標】
日本の環境問題・環境政策の歴史を説明できるようになる。環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴を指摘できるようになる。解決のために必要な行動を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の歴史を、産業公害期（～1970年代）、都市・生活型公害期（1970年代～1980年代）、地球環境問題期（1990年代～）に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義とタイプ、環境社会学のアプローチ、住民・市民のかかわりについて学ぶ。
第2回	産業公害期①	戦後から1970年代までの産業公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	産業公害期②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造論について学ぶ。
第4回	産業公害期③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏論について学ぶ。
第5回	都市・生活型公害期①	1970年代から80年代までの都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第6回	都市・生活型公害期②	自動車排気ガス規制と技術革新を事例に、生産の踏み車論とエコロジー的近代化論について学ぶ。
第7回	都市・生活型公害期③	自然資源管理を事例に、コモンズの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。
第8回	都市・生活型公害期④	森は海の恋人運動を事例に、集合行為、環境運動について学ぶ。
第9回	地球環境問題期①	1990年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第10回	地球環境問題期②	市民風車の取組みを事例に、環境NGO・NPOの役割と課題を学ぶ。
第11回	地球環境問題期③	外来種問題を事例に、環境問題の構築主義について学ぶ。
第12回	地球環境問題期④	長良川河口堰問題を事例に、河川政策の展開について学ぶ。
第13回	地球環境問題期⑤	河川法改正を事例に、住民参加の意義、ローカルな知の役割について学ぶ。
第14回	地球環境問題期⑥／まとめ	自然再生事業を事例に、順応的ガバナンスについて学ぶ。 環境問題解決への住民・市民のかかわりという観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】
各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。
平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】
春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】
履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This class will introduce the theories of environmental sociology, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on how residents and citizens are engaged in the process of environmental problems, which is one of the most important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and actions for solving them based on the theories of environmental sociology.
(Learning Objectives)
Students should be able to do the followings:
- To explain the history of environmental problems and policies in Japan.
- To point out the characteristics of environmental problems based on the theories of environmental sociology.
- To propose actions for solving environmental problems.
(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (30%) + Final Examination (70%).
Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

環境社会論Ⅱ

藤田　研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火2/Tue.2**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：ロ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】
現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直と新規就農支援について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。
第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボアンティア、寄付の理論と実態、フーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。 環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】
各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編，2017,『よくわかる環境社会学　第2版』ミネルヴァ書房.
坂本治也編，2017,『市民社会論』法律文化社.

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。
平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】
春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】
履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is not the government nor business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.
(Learning Objectives)
Students should be able to do the followings:
- To explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.
- To propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Activities Outside of Classroom)
Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Regular Work (30%) + Final Examination (70%).
Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SSS300HA（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

災害政策論

中川　和之

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**5/Thu.5
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：ロ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、法制度以前の自然環境を利用するための約束事や、災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。
そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】
①災害とは何かを、実例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③非日常を前提には生きていない人々の暮らしと、今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回短いレポートとしてWebClassで提出する。次の授業の冒頭にレポート内容を振り返り、問題意識を共有して進める。1回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。課題提出後の授業、またはWebClassで提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？　災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。
第2回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科１	地球の46億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを、具体的な地震の事例などを元に押さえる。授業中に、学生の出身地や身近な場所についての簡単なワークシートに記入する。
第3回	身近な景観と災害＝理科２	前回の授業課題で作成したワークシートを元に、学生同士で相互プレゼンを行い、グループで語りあうことから始める。授業では、さまざまなWebGISの地図から、どのようなことが読み解けるかを知る。ＧＷ期間中に取り組む、地元の土地の成り立ちを知るレポートの課題についての説明も行う。この課題は、最後のレポートにも必須となる。
第4回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	歴史時代以前からの人類と災害の付き合いから、江戸時代、明治時代、大正昭和と日本列島の災害史とともに、対策について振り返る。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と1995年の阪神大震災の直前までを取り上げる。
第5回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。
第6回	３つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。
第7回	東日本大震災後の災害政策の今＝これからの備え＝「己」がどこまで分かった政策なのかを考える	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。

第8回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第9回	近年の地震災害から、課題を考える	2024年能登半島地震、令和4年福島県沖の地震、2019年山形県沖地震、2018年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016年熊本地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2度の震度7に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に具体的に考える。
第10回	近年の風水害から、課題を考える	地震の後の豪雨という複合災害となった奥能登、令和4年台風第8号、令和2年7月豪雨、2020年7月豪雨や台風10号、2019年台風15号や19号(東日本台風)、2018年西日本豪雨や台風21号、2017年九州北部豪雨や2016年台風10号、2015年9月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第11回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNSなどの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。最終講義での試験に必要な「地域防災計画の課題発見」レポートについても説明を行う。
第12回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。
第13回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ることで、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第14回	試験レポート	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホやPC、何でも持ち込んでもＯＫ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、WebClassも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。

【テキスト（教科書）】
授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、WebClassに掲載する。

【参考書】
授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。

【成績評価の方法と基準】
平常評価（WebClassでのテスト・アンケートを使った小レポートで授業内容の理解を評価）40％、授業中の課題ワークシート・レポート評価20％、期末試験（試験レポート）評価40％。

【学生の意見等からの気づき】
災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、学生同士でのディスカッションの時間を持ちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。

【学生が準備すべき機器他】
WebClassの利用は必須。講義室でPCやスマホを使って、その場でWebClassからの小リポートの提出を求める。試験課題などもWebClassを利用する。

【その他の重要事項】
試験レポートの作成時には、時間内であればどういう資料を参考に書いても良い。

【実務経験のある教員による授業】
通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。2005年から2011年まで主に自治体の防災施策を支援するメディアの「防災リスクマネジメントWeb」編集長。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与した以降、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組む。現在は内閣府の「TEAM防災ジャパン」のアドバイザー。子どもたちと地震や火山を学ぶワークキャンプを、地震学会として20世紀から実践。災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.
3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.
【Learning Objectives】
1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.
2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.
To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.
4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.
【Grading Criteria /Policy】
Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

SHS300HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300）

科学技術社会論Ⅰ

金光　秀和

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学技術と社会は相互に複雑に作用し、その相互作用からさまざまな社会問題が生じています。本講義では、そうした問題が生じる背景や原因について、具体例を取り上げながら、専門家と市民の両方の観点から考察できるようになることを目指します。それを通して、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方の基礎づくりを行います。
なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。
【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】
①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン
【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】
①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】
本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。
・科学技術がもたらす社会問題について、具体例を挙げながら説明できる。
・科学技術がもたらす社会問題について、専門家および市民の立場から考察できる。
・科学技術がもたらしうる社会問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッション（ケースメソッド学習）を行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	ケースメソッド授業①	事例を通して、専門家としての意思決定を疑似体験し、そのあり方を考察します。
第3回	巨大技術システムがもたらす問題	スペースシャトル・チャレンジャー号事故を取り上げて、巨大技術システムがもたらす問題について説明します。
第4回	ケースメソッド学習②	事例を通して、先端技術がもたらす可能性のある問題について考察します。
第5回	ケースメソッド学習③	先端技術がもたらす可能性がある問題について、専門家の立場から考察します。
第6回	ケースメソッド学習④	先端技術がもたらす可能性がある問題について、市民の立場から考察します。
第7回	科学技術社会における専門家の役割	専門家のあり方について、具体例を取り上げながら考察します。
第8回	科学技術とリスク	具体例を取り上げながら、科学技術とリスクの問題について説明します。
第9回	科学技術社会における市民の役割	科学技術の発展と市民の役割について、具体例を取り上げながら考察します。
第10回	ケースメソッド学習⑤	事例を通して、企業が直面する可能性のある問題について考察します。
第11回	ケースメソッド学習⑥	企業が直面する可能性がある問題について、専門家の立場から考察します。
第12回	ケースメソッド学習⑦	企業が直面する可能性がある問題について、市民の立場から考察します。
第13回	これからの科学技術と私たち	これからの科学技術について専門家と市民の協働の観点から考察します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
金沢工業大学・科学技術応用倫理研究所編『科学技術者倫理：本質から考え行動する』白桃書房、2017年
札野順編著『新しい時代の技術者倫理』放送大学教育振興会、2015年
小林傳司『誰が科学技術について考えるのか：コンセンサス会議という実験』名古屋大学出版会、2004年
金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】
本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します（60％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（20％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】
本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】
Course Outline
Technology and society interact with each other in a complex manner, and various social issues arise from this interaction. The aim of this course is to enable students to consider the background and causes of such issues from the perspectives of both experts and citizens, taking up specific examples. By doing so, students will build a foundation for thinking about how to deal with future social issues related to technology.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:

− Explain the social issues brought about by technology, giving specific examples.
− Examine social issues brought about by technology from the perspective of experts and citizens.
− Think critically about the social issues that technology can bring about.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (20%), and in class contribution (60%).

SHS300HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300）

科学技術社会論Ⅱ

金光　秀和

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木1/Thu.1**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会を生きる上で科学技術は不可欠の存在です。しかし、科学技術は常に新しい事態をもたらし、時にそれを振興すべきか規制すべきかといった意思決定を迫ります。本授業では、科学技術をめぐる社会的決定に参加する一市民あるいは専門家として、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方、態度、行動について具体例を通して学びます。
なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。
【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】
①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン
【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】
①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】
本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。
・科学技術がもたらす光と影について、具体例を挙げながら説明できる。
・科学技術がもたらす新しい事態について、批判的に思考できる。
・本授業で扱う事例について、自らの意思決定を他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	科学技術と社会をめぐる諸理論	パラダイム論、社会構成主義、モード論などについて説明します。
第3回	「公害」から学ぶ	公害を取り上げながら、科学および科学者の役割などを考察します。
第4回	「遺伝子組み換え作物」から学ぶ	遺伝子組み換え作物を取り上げながら、フレーミングの問題などを考察します。
第5回	「BSE問題」から学ぶ	BSE問題を取り上げながら、専門家と市民の協働などを考察します。
第6回	「Winny事件」から学ぶ	Winny事件を取り上げながら、最先端技術と法の関係について考察します。
第7回	「地球温暖化」から学ぶ	地球温暖化を取り上げながら、通訳不可能性や合理性などについて考察します。
第8回	「動物実験」から学ぶ	動物実験を取り上げながら、二重基準や自然さからの議論などについて考察します。
第9回	「チャレンジャー号事故」から学ぶ	チャレンジャー号事故を取り上げながら、巨大技術システムの問題を考察します。
第10回	「モーゼスの橋」から学ぶ	モーゼスの橋の事例を取り上げながら、技術の政治性の問題を考察します。
第11回	事例分析に向けて	各自で実施する事例分析について、方法論やアプローチの仕方を説明します。
第12回	プレゼンテーション「事例分析」	各自で実施した事例分析について、クラス内で発表・議論します。
第13回	これからの科学技術と私たち	こらからの科学技術にどのようにかかわるのかについて考察します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東京大学出版会、2005年
伊勢田哲治 [ほか] 編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013年
藤垣裕子責任編集『科学技術社会論とは何か』（科学技術社会論の挑戦1）東京大学出版会、2020年
平川秀幸『科学は誰のものか：社会の側から問い直す』（生活人新書）日本放送出版協会、2010年
金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】
本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します（60％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（20％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】
本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】
Course Outline
Technology is an essential part of living in modern society. However, technology always bring new situations and sometimes force us to make decisions about whether to promote or regulate them. In this course, we will learn how to deal with future social problems related to science and technology as a citizen or an expert who participates in social decisions about science and technology through specific examples.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:

− Explain the light and shade brought about by technology, giving specific examples.
− Think critically about new situations brought about by technology.
− Explain your own decision-making to others regarding the cases covered in this course.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (20%), and in class contribution (60%).

PHL200HA（哲学 / Philosophy 200）

環境倫理学Ⅰ

竹中　真也

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**月2/Mon.2**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：文**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義では環境倫理学の全体像とともに、各分野を概観する。受講者はそれを通して倫理学的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】
環境倫理学の多様な主題、具体的中身を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	人新世と環境倫理学	現在の時代状況とともに、環境倫理学を概観する。
対面	功利主義	功利主義の基本的な用語、発想をおさえる。
対面	義務論	義務論の基本的な用語と、発想をおさえる
対面	徳倫理	徳倫理の基本的な用語と発想を押さえる
対面	世代間倫理	世代間倫理がいかなるものかを知り、問題を考える。
対面	環境正義	環境正義の由来、その意味を理解し、現実の問題に取り組む。
対面	気候正義	気候正義の問題から、温暖化の問題について考える。
対面	人口と環境	人口増大から生じる、経済格差と平等の問題を考える。
対面	風景	空間でなく、場所がもつ意味、風土とのかかわりを概観する。
対面	食農倫理	食農において何が問題になっているかを押さえ、その取り組みを知る。
対面	土地倫理	土地倫理がいかなるもので、その由来がどこにあるかを知る。
対面	都市の環境倫理	都市と自然の関係を再考する。
対面	エコツーリズムと環境倫理	観光と自然環境と文化の関係について考察する。
対面	全体の総括	これまでの議論を整理し、綜合的な視点でとらえかえす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学　3STEPシリーズ』昭和堂、2020年

【参考書】
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年
その他の参考書は、そのつど授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の課題）３０％と、学期末の課題７０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォンなど情報電子機器。

【その他の重要事項】
ディスカッションの時間を設けるので、積極的に議論に参加してください。

【Outline (in English)】
This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, Usual performance score: 30%, term-end examination:70%.

PHL300HA（哲学 / Philosophy 300）

環境倫理学Ⅱ

加藤　壮一郎

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
備考（履修条件等）：環ｺｱ：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「都市の環境倫理」について学ぶ。特に、近代から現代にかけての都市環境つくりに注目して都市論、場所論、まちづくり論などを学ぶ。あわせて、SDGｓ de 地方創生カードゲームの実施や、アメニティマップの作成などを通じて、各人が自分にとって良好な都市や環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】
「良い都市・環境とは何か」について自分なりの答えが見つけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市・環境・まちづくり・倫理学	本講義のテーマとなる都市環境問題に注目した思想・まちづくりへのアプローチについて説明する。
2	都市論①　産業社会における都市問題と都市思想	ヨーロッパを中心とした産業革命後の都市問題、都市思想について紹介する。
3	都市論②　近代都市計画の思想	ル・コルビジェを中心とした近代都市計画思想を紹介する。
4	都市論③　現代都市計画の思想	ジェーン・ジェイコブスを中心とした現代都市計画思想を紹介する。
5	場所論　場所の感覚	古代の都市の誕生から現代の地球環境問題にいたる人々の「場所の感覚（センス・オブ・プレイス）」について考察する。
6	SDGｓ①　SDGｓとは	国連が掲げる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」について学ぶ。
7	SDGｓ②　SDGｓ de 地方創生　カードゲーム	SDGｓ de　地方創生　カードゲームを通して、持続可能な地域つくりを疑似体験する。
8	SDGｓ③　カードゲーム講評　中間レポート講評	カードゲームの講評を通して連関する社会課題の全体像について理解し、議論する。中間レポートの講評。
9	アメニティマップについて	過去のアメニティマップを紹介しながら、作り方を説明する。
10	まちづくり論①　北欧都市の挑戦	デンマークの都市環境つくりを通して、現代における先進的取組を紹介する。
11	まちづくり論②　日本のまちづくり	日本のまちづくりの事例について紹介し、その特性について議論する。
12	アメニティマップの発表（1）	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
13	アメニティマップの発表（2）	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
14	アメニティマップ講評とまとめ	アメニティマップについての講評と本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日端康雄『都市計画の世界史』講談社現代新書、2008年

【参考書】
吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマ―新書、2021年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年
S・E・ラスムッセン（横山正訳）『都市と建築』東京大学出版会、1993年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（中間レポート・最終レポート）（50％）とマップ作成（50％）。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間を設けます。

【Outline (in English)】
We learn about "urban environmental ethics." In particular, we will study urban theory, place theory, and town development theory, focusing on urban environment creation from modern times to the present. In addition, we will play the Card Game "SDGs de Regional Revitalization" and make an amenity map, with the goal of deepening each person's understanding of what a good city or environment is for us.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅰ

藤倉　良

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

・大気汚染（ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
・上下水道の構造と処理のプロセス
・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
・土壌汚染（原因、対策技術）
・廃棄物（法律上の定義と現状）
・リサイクル（意義と現状）
・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）
・環境アセスメント（法制度、具体例）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その１（第1章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第3回	大気汚染・その２（第1章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道（第2章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽（第2章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁（第3章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染（第3章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭（第4章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音（第4章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その１（第5章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その２（第5章）	産業廃棄物
第12回	リサイクル・（第5章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク、基準の決め方（第6章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第14回	環境アセスメント（第12章）	法制度、手続き、事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。
授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？　人間環境論集，第１６巻，第１号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30％、授業の最終回に行う期末試験70％です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this lecture, students will acquire the basic engineering knowledge of mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances (this is learning objectives). Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅱ

藤倉　良

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土1/Sat.1**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：サ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。
・人口増加のパターンと要因
・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
・気候変動をめぐる社会と政策
・プラスチックごみ対策
・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際環境政策の難しさ、条約と議定書
第2回	人口	人口増加のメカニズム、都市人口
第3回	オゾン層・1（第7章）	紫外線、フロンガス
第4回	オゾン層・2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第5回	気候変動・1（第8章）	ＩＰＣＣ、気候変動の科学
第6回	気候変動・2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第7回	気候変動・3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第8回	気候変動・4（第8章）	エネルギー資源
第9回	気候変動・5（第8章）	緩和策
第10回	気候変動・6（第8章）	適応策
第11回	気候変動・7（第8章）	気候安全保障
第12回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第13回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】
講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業後の小テストによる出席(30%)と授業内に実施する期末試験（70%)で行います。

【学生の意見等からの気づき】
中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, and acid rain. Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time and attendance will be taken after the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅲ

藤倉　良

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：土1/Sat.1
備考（履修条件等）：環ｺｱ：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。
・資源の意味
・淡水
・エネルギー
・土壌とリン、窒素
・遺伝資源
・金属資源

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回Hoppiiで配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】
毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30％、授業内に実施する期末試験70％です。

【学生の意見等からの気づき】
図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関わりました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】
This course includes an explanation of the importance of resources, freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, base metals and rare earths. Students will acquire basic knowledge about the importance of resources, the scientific nature of resources, and the prospects for their use. Major topics include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals. Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken when the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

DES300HA（デザイン学 / Design science 300）

自然環境論Ⅳ

佐々木　美貴

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
備考（履修条件等）：環ｺｱ：グサ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境と人間活動との持続的な調和を探求するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、私たちの身近な自然環境である「湿地（Wetlands）」とそこに生息・生育する動植物への理解、ラムサール条約や生物多様性条約などで議論されている世界的な動き、生態系サービスと湿地とのかかわり、湿地と人間活動との共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】
以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①世界及び日本の湿地タイプ別の生態系と野生生物の特徴
②世界的な湿地の現況と課題
③生態系サービスと湿地
④湿地と人間活動との共生の可能性

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス、序論	授業の内容､ねらい、進め方､成績評価基準など､湿地の概要
第2回	湿地タイプ別の生態系及び野生生物の特徴①	世界の湿地及び野生生物の特徴
第3回	湿地タイプ別の生態系及び野生生物の特徴②	日本の湿地及び野生生物の特徴
第4回	ラムサール条約と生物多様性条約	ラムサール条約と生物多様性条約の特徴と自然環境
第5回	世界的な湿地の現状と課題①	世界的な湿地の現状と傾向
第6回	世界的な湿地の現状と課題②	湿地の変化の要因
第7回	世界的な湿地の現状と課題③	湿地の変化への対応策と課題
第8回	生態系サービスと湿地①	湿地にかかわる供給サービス及び調整サービスと人間活動
第9回	生態系サービスと湿地②	湿地にかかわる文化的サービス、基盤サービスと人間活動
第10回	湿地と人間活動との共生の可能性（保全・再生）	湿地と人間活動との共生について、保全・再生の視点から考える
第11回	湿地と人間活動との共生の可能性（ワイズユース1）	湿地と人間活動との共生について、農業・漁業の視点から考える
第12回	湿地と人間活動との共生の可能性（ワイズユース2）	湿地と人間活動との共生について、観光業の視点から考える
第13回	湿地と人間活動との共生の可能性（CEPA）	湿地と人間活動との共生について、CEPA（交流・力量形成・教育・参加・気づき）の視点から考える
第14回	まとめ	今後の人と自然との望ましい関係について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは授業内か学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーでの質問などについて、次回以降の授業等で伝えるようします。具体的な事例や映像を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【実務経験のある教員による授業】
担当する講師は、湿地の調査や保全にかかわるNPO法人に勤務しています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In order to seek a sustainable harmony between the natural environment and human activities, it is essential to understand the natural environment from a wide-ranging perspective, from the global scale to our immediate surroundings. In this course, you will learn about wetlands, a natural environment that is close to us, and the flora and fauna that live there, the global trends being discussed in the Ramsar Convention and the Convention on Biological Diversity, the relationship between ecosystem services and wetlands, and the possibility of coexistence between wetlands and human activities.
【Learning Objectives】
The goal is to deepen knowledge and understanding of the following four points and be able to explain the key points.
1. Characteristics of ecosystems and wildlife by wetland type in the world and Japan
2. Current status and issues of wetlands worldwide
3. Ecosystem services and wetlands
4. Possibility of coexistence between wetlands and human activities
【Learning activities outside of classroom】
Students will be required to prepare and review the materials introduced in each lecture. Students will prepare for each lecture by studying basic knowledge related to the theme of each lecture, and will resolve any questions they may have during the lecture through self-study after each lecture. Students will also strive to pay attention to topics related to the natural environment in the media they come into contact with on a daily basis, and to the creatures they see around them. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The evaluation will be based on the reaction paper (50%) and the final exam (50%) that you will submit every time. Details will be provided in class or on the learning support system.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論Ⅰ

大野　香代

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、PFAS（ペルフルオロアルキル化合物）に代表される残留性有機化合物やマイクロプラスチックによる水質汚染が国際的に注目されている。気候変動による豪雨や淡水の枯渇により利用できる水が減少しており、水危機の時代ともいわれている。人間は水が無いと生きていけないが、我々が日々安全で安心な水を利用するためには水源である河川や地下水を汚染しないことが重要である。日本は1960年代に水俣病に代表されるような甚大な産業公害を経験し、現在は水質保全のための法律が整備され、工場による法順守が徹底されることで公害防止が行われている。本講座では水質保全のために企業が行うべき水環境管理について学ぶ。具体的には、水質汚濁防止に関する法律、水質汚染の現状と発生源、水質汚染機構と健康影響、水の浄化技術と水質測定について学ぶ。

【到達目標】
水質汚濁防止に関連する法律や工場内における公害防止管理者の役割について理解する。工場から排出される汚染物質の種類とその処理方法について理解する。具体的には水質を管理するための指標となるＢＯＤ、ＣＯＤ、ＳＳ等の専門用語、凝集沈殿処理、活性汚泥法等の水処理の基本的技術の概要を理解する。実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルを養う。公害防止管理者国家試験の問題を解く訓練を行い、授業終段階では、水質概論及び汚水処理特論の問題を6割程度正解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
公害防止管理者試験水質１種及び2種に出題される問題が解けるレベルの水質概論、汚水処理技術及び質測定の知識を効率的に取得するため、毎回、講師の作成したパワーポイントを用いて要点を絞った講義を行う。講義内で公害防止管理者国家試験の過去問題に挑戦することで、出題傾向を知り、解答テクニックを取得する。
授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	公害の歴史と公害防止管理者の役割	日本の環境問題の変遷と公害防止管理者法について学ぶ。
2	水質汚濁の発生源、汚濁機構、環境影響	水質汚濁の発生源と富栄養化、赤潮発生、生物濃縮、地下水汚染等の環境影響について学ぶ。
3	水質汚濁に関連する法律	環境基本法及び水質汚濁防止法について学ぶ。
4	演習１公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（水質概論の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
5	汚水処理を学ぶための基礎知識	BOD、COD等の用語定義を学び、溶解度、酸とアルカリ、酸化還元、化学反応、錯体とキレート等の化学の基礎を復習する。
6	汚水処理１　排水処理計画、沈降分離	工場における水利用の考え方について学ぶ、排水の基本処理である沈殿分離にすいて理解する。
7	汚水処理2　凝集分離と浮上分離	凝集分離及び浮上分離の原理と装置構成を学ぶ。
8	汚水処理3　ろ過分離、化学処理	砂ろ過の機構、中和、酸化還元、活性炭吸着等の各種物理・化学処理について学ぶ。
9	汚水処理4　生物処理法（活性汚泥法）	生物処理法の概要、活性汚泥法の原理や装置について学ぶ。
10	汚水処理5　生物処理法（嫌気処理法）	嫌気処理法の原理や装置について学ぶ。
11	汚水処理6　窒素及びりんの処理、汚泥の脱水	生物処理による脱硝脱窒方法およびりん除去技術、汚泥の脱水技術について学ぶ。
12	演習２　公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（汚水処理技術の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
13	水質測定	公害防止管理者試験に出題される、BOD及びCOD等の水質測定項目に的を絞り学ぶ。
14	期末テスト	本講座で学んだ、法律および排水処理、水質測定に関連する問題に関する理解度を確認するテストを行う。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義で配布するパワーポイントを講義前に学習支援システムにアップするので、ダウンロードして予習する。「新・公害防止技術と法規（水質編）」のテキストで講義に関連する箇所を予習、復習する。授業の予習は１時間、復習も2時間程度行うこと。

【テキスト（教科書）】
基本的に講義毎にパワーポイントの資料を配布する。

【参考書】
新・公害防止の技術と法規（水質編）　（一社）産業環境管理協会出版

【成績評価の方法と基準】
２回の演習の講義で小テストを行う。その点数を各20点満点とする。期末テストは60点満点とする。課題と期末テストの合計（100点満点）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
排水処理技術は化学式や計算が多く出てくるため、ゼロベースの学生にも分かりやすく、基礎から教えるよう心掛ける。講義内で化学の基礎知識についても適宜、復習する。文系の学生にも興味を持ってもらえるよう、近年の水質汚染が社会に与える影響なども交えて講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
講師は中国及びタイ、カンボジア、ミャンマー、カンボジア等の東南アジアにおいて、公害防止管理者制度及び公害防止技術の移転事業に18年携わっており、さらに、水質測定の日本産業標準規格（JIS）及びISO（国際標準化機構）におて水質測定関連の規格開発を長年行っている。これらの経験を活かし、学生には、国内だけでなく、国際的視点で水質汚濁問題をとらえるような講義を行う。関連資格は公害防止管理者資格（水質）、関連する科目は環境法規、環境ビジネスなどである。

【Outline (in English)】

In recent years, water pollution by persistent organic compounds represented such as PFAS (perfluoroalkyl compounds) and microplastics has attracted international attention. Heavy rainfall and the depletion of fresh water due to climate change have reduced the amount of available water, and we are said to be in an era of water crisis. Humans cannot live without water, but in order for us to use safe and secure water on a daily basis, it is important not to pollute rivers and groundwater, which are the sources of water. Japan experienced enormous industrial pollution in the 1960s, as exemplified by Minamata disease, and now laws have been established to protect water quality, and pollution is being prevented through thorough compliance with the law by factories. In this course, students learn about water environment management that companies should implement to protect water quality. Specifically, students learn about laws related to water pollution control, the current status and sources of water pollution, water pollution mechanisms and health effects, water purification techniques, and water quality measurement.

The evaluation for this course is as follows: Students should perform 2 kinds of report assignments. Submission of the assignment can be worth a maximum of 20 points per assignment. If they submit the assignment reports twice, they will be worth a maximum of 40 points. The final exam is worth a maximum of 60 points. The grade will be based on the sum of the assignments and the final exam.You should spend about one hour preparing for class and two hours reviewing.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論Ⅱ

大野　香代

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：環コア：経, サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を抑制、
管理するための関連法令や技術について学びます。国際的に脱炭素社会への変換が進む中、企業のESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。企業は大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。
　本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。大気関連の法律体系や行政施策及び、硫黄酸化物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄等、企業における環境管理の基礎的知識を学びます。
公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】
近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物物質の処理方法及び測定方法につて理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史ついて学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題（その１）	気候変動への国際的な取組やその他の大気環境問題について学ぶ。
第3回	近年の大気環境問題（その２）	国内の大気の状況について、環境基準の達成率やPM2.5及び光化学オキシダント生成、水銀排出等の問題について学ぶ。
第4回	大気保全のための各種法律	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第5回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。
第6回	アクティブラーニング 課題１	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDGｓの17のゴールとの関連についても考察する。
第7回	燃焼管理技術	カーボンユートラル達成のための新技術について触れながら、日本のエネルギー事情について学ぶ。また、燃料の種類や効率的な燃焼管理及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第8回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物及びその他の有害物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第10回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第11回	アクティブラーニング 課題２	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第12回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第13回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第14回	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習は事前に配布された資料を読み、分からない用語等は事前に調べ勉強する。復習は講義で勉強した内容を講義資料を中心に復習し、分からなかった部分については、インターネットや関連文献を調査し、理解するようにする。さらに、興味のもったテーマについて、自分なりに調べ、より深く理解するように努める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
新・公害防止の技術と法規　（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【参考書】
新・公害防止の技術と法規　（大気編）　発行所　（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】
レポート2回の評価　各２０(%)×２　期末テスト６０（%）

【学生の意見等からの気づき】
化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるよう、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で配布した資料

【その他の重要事項】
担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】
Course outline：

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities.The transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives：

-To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.

-To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.

-To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.

-To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom：

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy：

Each Report ：　20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

SEE300HA（科学教育・（教育工学）/ Science education/ Educational technology 300）

環境教育論

野田　恵

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育）について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。
今年度は特に「気候変動」「子どもの権利」がテーマです。

【到達目標】
環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点をもち、自分なりの考えを持てるようになる。
また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業形態は、講義のほか参加型（グループワークなど）を行う。詳細は、授業支援システムで連絡する。
リアクションペーパーや提出された課題に対しては、代表的なものをいくつか授業内で取り上げコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育とは？（講義）	環境教育について、講義形式で概説します。
第3回	環境教育とは？（具体例）	地球温暖化・気候変動を考える教材を使ってグループワークを行い環境教育とは何か、さらに考えます。
第4回	なぜ環境教育を学ぶのか？（ワークショップ形式）	ファッションをテーマにしたワークショップを通じて、環境教育の役割など発展的な内容を理解します。
第5回	環境教育の歴史	主に日本の環境教育の歴史について講義します。環境教育の歴史と自分史を重ねて考えや理解を深めます。
第6回	持続可能な開発と環境教育：ＥＳＤ，ＳＤＧｓ	持続可能な開発とは何か、SDGｓとESDについて理解する
第7回	環境教育・ESDのキー概念：人権	環境教育・ESDにおいて重要な概念をテーマにした講義とワークで理解を深めます。
第8回	ゲストスピーク	地域での環境問題に取り組む実践事例を取り上げます
第9回	環境教育とソーシャルアクション	環境問題を解決する様々なアクションについて考えます。気候訴訟についても触れます。
第10回	自然とかかわる環境教育	自然保護教育、自然体験やもりの幼稚園など自然とかかわる多様な境教育ついて扱います。
第11回	地域に根差した環境教育の実践事例	地域に根差した環境教育の意義や可能性を学びます。ゲ
第12回	環境教育と子どもの権利	環境問題が子どもの健康被害や生活に被害を及ぼしてきたことを学び、今日的な課題について理解を深めます
第13回	環境教育と子どもの参画	参加・参画をテーマに、様々な環境教育の実践についてさらに理解を深めます。
第14回	まとめ	これまでの学習をふりかえり、まとめにかえます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。
環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『子ども白書２０２４』、日本子どもを守る会編、かもがわ出版

【参考書】
『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協
『知る・わかる・伝えるSDGs I』、阿部治・野田恵編著、学文社
『知る・わかる・伝えるSDGs Ⅱ』阿部治、二ノ宮リムさち編著、学文社

【成績評価の方法と基準】
詳細はガイダンスおよび授業内で指示します。
・平常点：授業参加度、学習状況、授業内小テスト（50％）
・レポート：複数回、テキストや授業内容に基づくレポートを提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】
環境教育の歴史や事例を学ぶだけではなく、学生同士のディスカッションが理解を深めることにつながった、という意見から、授業内での意見交換やアウトプットの機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。
資料やお知らせは、WebClass経由で配布します。授業時間中にアクセスできるようにパソコンやスマホ・タブレットなども機器を準備してください。

【その他の重要事項】
受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course deals with the Environmental Education, and Education for Sustainable Development(ESD). you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.
【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to explain the role and examples of Environmental Education and ESD.
【Learning activities outside of classroom Before/after】each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Policies】 Final grade will be calculated according to the following report (30%),Final test (30%), and in-class contribution and quizzes(30%).

PHL200HA（哲学 / Philosophy 200）

現代思想と人間Ⅰ

竹本　研史

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業/Spring**　｜　曜日・時限：**金3/Fri.3**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：文**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：現代社会哲学・思想（個人の自由と反差別）
私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。
そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。
今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに20世紀の思想を扱います。

【到達目標】
さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシヴな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。
そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑＋次回授業での応答など、インタラクティヴな授業になるように心がけます。
単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	個人の自由と反植民地主義（1）	実存と自由の問題――ジャン=ポール・サルトル『存在と無』を中心に（1）ジャン=ポール・サルトルの思想（2）――『弁証法的理性批判』を中心に
第3回	個人の自由と反植民地主義（2）	実存と人種差別・植民地主義の問題（1）――ジャン=ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（1）
第4回	個人の自由と反植民地主義（3）	実存と人種差別・植民地主義の問題（2）――ジャン=ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（2）
第5回	個人の自由と反植民地主義（4）	ライシテとフランス現代社会
第6回	個人の自由と反植民地主義（5）	実存と人種差別・植民地主義の問題（3）――フランツ・ファノン『地に呪われたる者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に（2）
第7回	実存とフェミニズム	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『第二の性』
第8回	実存と老いの問題	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『おだやかな死』、『老い』
第9回	全体主義批判と人間性の問題（1）	フランク・バヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第10回	全体主義批判と人間性の問題（3）	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』を中心に
第11回	全体主義批判と人間性の問題（3）	・ハンナ・アーレント『全体主義の起源』 ・クロード・ランズマン・『ショア』 を中心に
第12回	全体主義批判と人間性の問題（4）	・ハンナ・アーレント『エルサレムのアイヒマン』 ・ロニー・ブローマン／エイアル・シヴァン『スペシャリスト』 を中心に
第13回	全体主義批判と人間性の問題（5）	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』を中心に
第14回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教場でプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【その他の重要事項】
2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅰ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70 %
Short reports : 30 %

PHL300HA（哲学 / Philosophy 300）

現代思想と人間Ⅱ

竹本　研史

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金3/Fri.3**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：文**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：近現代社会哲学・思想（個人の自由・所有・権力・社会の関係）
私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。
そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。
今学期は、近現代ヨーロッパ社会哲学・思想を紐解きながら、個人の自由・所有・権力・社会について考えます。

【到達目標】
さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシヴな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。
そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑＋次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティヴな授業になるようにいたします。
思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	自由・所有・契約（1）	社会契約論者たちの考えた自由（1）
第3回	自由・所有・契約（2）	社会契約論者たちの考えた自由（2）
第4回	功利主義の罠	功利主義者たちの考える「効用」
第6回	古典派経済学の誕生	アダム・スミスの道徳感情論と労働価値説
第7回	産業社会の夢	初期社会主義者と「産業社会」
第7回	労働と疎外（1）	カール・マルクス『ドイツ・イデオロギー』、『共産主義者宣言』、『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』など
第8回	労働と疎外（2）	カール・マルクス『資本論』
第9回	勤勉さと資本主義	マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
第10回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第11回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に
第12回	可視化されない労働	イヴァン・イリイチ『シャドウ・ワーク』
第13回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバールの市民権論
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教場でプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
進度と学生の理解度、双方を勘案して、シラバスの授業計画通りに進められるようにする。

【その他の重要事項】
2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70 %
Short reports : 30 %

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学習の社会史Ａ

展開科目

山口　真里

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
曜日・時限：**水**2/Wed.2　｜　配当年次：**2～4年**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、歴史的にどのような「学び」を経験してきたのでしょうか。また、現在の「教育」や「学習」のありかたは、どのような経緯で形作られてきたのでしょうか。
この授業では、おもに西洋における「学び」の展開を時代背景や地域的な事情に照らしながら辿り、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。また、現代の「教育」や「学校」が直面する多くの問題が、それらの歴史とどのように関わっているのかを掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることにより、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】
・西洋における学びや教育の変遷を、背景にある歴史事象と共に理解する。
・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・対面授業が中心ですが、必要に応じてオンラインで授業を行います。
・授業資料を提示しながら授業を進めます。
・授業内容の理解を深めるため、リアクションペーパーを実施します。提出されたリアクションペーパーは、次の授業で適宜コメントし、フィードバックします。
・講義中心ですが、授業に関わるテーマをグループでディスカッションし、他の受講生がどのように考察したのかを共有する機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第2回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第3回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第4回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第5回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第6回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第7回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけと教育の変容
第8回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第9回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第10回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第11回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第12回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第13回	現代の子どもの学びと諸問題	多様化する家族と学校 子どもの学習における諸問題
第14回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・提示資料を用いて授業を復習し、知識の定着を図ります。
・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
・本授業の学習準備・復習時間は各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、適宜、授業資料を提示します。

【参考書】
適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題60％、リアクションペーパー30％、授業への意欲・貢献・平常点10％を基準に総合的に評価します。
なお、総授業回数の2/3以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からのフィードバックを重視し、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom使用）を受講するためのパソコン等、情報機器を準備してください。
・オンラインの授業およびグループ・ディスカッションは、カメラおよびマイクをONにできる環境で受講してください。
・授業についてのお知らせや資料配布・課題提出等に、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
In this course, we will trace the development of "learning" mainly in the West in the light of historical backgrounds and regional circumstances, and examine how schools as institutions for children's learning were established and developed.
In addition, we will delve into the many issues facing "education" and "schools" today and consider how these issues relate to history.
And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.
After each class, students will be expected to have completed the reaction paper. Your study time will be about four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Reports: 60%, Reaction papers: 30%, in class contribution: 10%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学習の社会史Ｂ

展開科目

寺崎　里水

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
曜日・時限：**水**2/Wed.2　｜　配当年次：**2〜4年**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。

【到達目標】
授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史の基礎的な知識をベースとし、現代の教育問題と関連付けて考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドで資料を提示し、それ以外は板書する形で授業を行う。必要な資料は事前に学習支援システムで配布するが、板書内容やスライドファイルの配布は行わない。履修者は筆記用具を用意し、適宜ノートをとること。
授業内で課題提出を課すことがある。また、知識の定着を促すため、中間まとめの小テストを二度、課す。
課題提出は授業支援システムを通じて行う。課題や小テストに対するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。（オンデマンド）
第2回	教育制度と学歴	近・現代社会における教育の役割について、教育制度と学歴という観点から考える。 古代、中世、近世における諸制度と教育機関について振り返る。
第3回	学歴主義の誕生	立身出世主義、受験生をキーワードに、近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第4回	教育制度の成立過程と学校間格差	学校間の威信の格差について、学校教育制度の成立過程から考える。
第5回	中間まとめ①教育制度と学歴主義	小テストを実施し、その後、教育生徒と学歴主義に関する内容を復習する。
第6回	学校という場の権力性	学校が持つ規律訓練の力について考える。
第7回	試験と競争	学力や学歴をめぐる競争の仕組みの誕生について、試験制度を切り口に学ぶ。
第8回	学校の教育と村の教育	学校の教育と村の教育は何が異なっていたのか、考える。
第9回	中間まとめ②学校と試験	小テストを実施し、その後、学校と試験に関する内容を復習する。
第10回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第11回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第12回	女性にとっての成功	女性が学歴をめぐる競争にいかに巻き込まれていったのかについて学ぶ。
第13回	女子の身体観をめぐる教育の葛藤	女子の制服と運動用制服の成立過程を通して、女子の身体観をめぐる学校教育の役割について考える。
第14回	まとめと試験	制度の成立は我々の学ぶという行為にどのような影響を及ぼし的たのか、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定文献や配布資料の精読を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題、小テスト40％、課題10％、試験50％

【学生の意見等からの気づき】
学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline (in English)】
Course Outline: This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.
Learning Objectives: To be able to explain historical events using the concepts and theories learned in the class.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: In-class review mini-test and assignment submission 50%, final report 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

アート・マネジメント論　展開科目

荒川　裕子

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
曜日・時限：**火5/Tue.5**　｜　配当年次：**2〜4年**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会のシステムや価値観が大きく変化していきつつある現在、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアート的な要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的にアプローチし、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにし、キャリアデザインに活かす方法を探ります。

【到達目標】
わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「生み出す人」（アーティスト）と、アートを「享受する人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々とを「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域社会や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探り、アートがわたしたちのキャリアデザインにいかに資するのかを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら、アートとはなにか、わたしたちの生活や仕事にどのように活かしていくことができるのか、といったことを探ります。受け身の講義に終始せず、学生自身のアイディアや体験に基づくプレゼンテーションの機会を設け、ディスカッションを通じて理解と考察を深めていきます。ほぼ毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の際にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第2回	学問領域としてのアート	アートに関する専門的な研究領域について概説する。
第3回	「美」とは何か①	古来、人々が「美」をめぐってどのような探究を行ってきたのかを概観する。
第4回	「美」とは何か②	近代以降の「美」の概念の変化について論じる。
第5回	「アート」の誕生	西洋近代にアート（芸術）という領域が成立した背景を探る。
第6回	「アート」の制度化	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第7回	「アート」の伝播	明治以降の日本にアートという概念が導入された経緯をたどる。
第8回	「アート」の変容①	1960年代頃を境にアートの表現が大きく変化していった経緯をたどる。
第9回	「アート」の変容②	20世紀の末以来、アートという領域が著しく拡大した背景を探る。
第10回	生活のなかのアート	わたしたちの暮らしにアートがどのように関わっているのかを考える。
第11回	地域とアート	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第12回	企業とアート	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第13回	アートを支える多様な人材	社会とアートを結びつけるつなぎ手について考える。
第14回	まとめと試験	現代社会におけるアートの役割について、半期の授業を通して得られた知見を振り返り、考察を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりプレゼンテーションを行うことが求められます（フィールド活動の際に、入場料などの費用が若干かかる可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布したり読むべきリンク先を指示したりします。

【参考書】
徳丸吉彦・利光功『芸術文化政策Ⅰ　社会における人間と芸術』日本放送出版協会
川崎賢一・佐々木雅幸・河島伸子『アーツ・マネジメント』日本放送出版協会
※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（課題の成果、ディスカッションへの参加など）：45％
期末レポート：55％

【学生の意見等からの気づき】
学生によるプレゼンテーション／ディスカッションの時間を十分確保するよう心がけたいと思います。

【Outline (in English)】
As social systems and values are undergoing major changes, there is a growing demand for creativity in the way we live, think, and work. Under these circumstances, art, or artistic elements produced based on free ideas and expression, are attracting more attention than ever before. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will take a multifaceted approach to its social and economic value, which has been emphasized in recent years, to clarify the position and significance of art in contemporary society and explore ways to apply it to "Career Design".
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report: 55％, in class contribution: 45％

PSY300MA（心理学 / Psychology 300）

産業・組織心理学Ⅱ　展開科目

今城　志保

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
曜日・時限：**金**1/Fri.1　｜　配当年次：**2025年度以降入学者：3〜42024年度以前入学者：2〜4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の３点です。
（1）産業・組織心理学の主要的な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を考えられるようになること
（2）組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
（3）自らのキャリアを考える上で、学んだ概念を用いることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行われます。授業の中で、オンラインのアンケートフォームを用いて、概念の確認や自分の考えを深めるために、数項目の質問に回答していただきます。回答内容については、適宜次回の授業の中で、フィードバックを行います。また、アンケートフォームでは任意の質問を記入できますので、そこに質問が記入された場合は、翌授業回の冒頭に、全体に対して回答を行います。
7回目か8回目の授業で、グループ課題をおしらせします。グループ課題は、原則授業外の時間を使って進めていただきます。最終日に、グループ課題をまとめたレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	キャリアに関する主な理論を学びます
第3回	キャリアを理解する②	日本企業のホワイトカラーのこれまでの典型的なキャリアと今後の可能性について考えます
第4回	組織風土を理解する①	組織風土と組織文化について紹介します
第5回	組織風土を理解する②	昨今関心が高まる心理的安全性について紹介します
第6回	ダイバーシティ①	ダイバーシティに関する理論や研究知見を紹介します
第7回	ダイバーシティ②	比較文化心理学の知見を用いて、文化の異なる人とともに働くことについて考えます
第8回	ダイバーシティ③	女性のキャリアについて考えます
第9回	ダイバーシティ④	高齢者就労について考えます
第10回	職場の学習・職場以外の学習①	大人の学びについて考えます
第11回	職場の学習・職場以外の学習②	企業における研修や能力開発について、紹介します
第12回	職場の学習・職場以外の学習③	経験学習について考えます
第13回	予備	上記の授業での積み残しや遅れを回収するための時間にあてます
第14回	グループ課題の発表	各グループから口頭で、グループ課題について、報告していただきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません

【参考書】
金井壽宏　働くひとのためのキャリア・デザイン　2002年 PHP新書
守島基博　人材マネジメント入門　2004年　日経文庫
外島　裕・田中　堅一郎　産業・組織心理学エッセンシャルズ　2019　ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業中のアンケートで60％，グループ課題で作成したレポートとその発表の評価を40％とします。なお，グループ課題については，自身と他のメンバーの課題への貢献度合いを申告してもらい，それを加味したうえで、グループ課題の評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】
Students will study major topics in industrial/organizational psychology. Psychology II will focus specifically on career-related areas and human resource management.
The three objectives of this class are as follows.
(1) To understand the main concepts of industrial/organizational psychology and to be able to think about various organizational problems using these concepts.
(2) To be able to understand the impact of various HR practices on employees.
(3) To be able to use the concepts learned in considering one's own career.
Take an interest in the environment surrounding our careers. Read widely newspaper and magazine articles on careers,"working,"and"human resource management."Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
The evaluation will be based on a questionnaire given in each class (60%) and a report and presentation on a group assignment (40%). For group assignments, I will ask each student to report the degree of their own and
other members' contribution to the assignment, which will be taken into account in the evaluation of the group assignment.

MAN300MA（経営学 / Management 300）

キャリア開発論　展開科目

武石　惠美子

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
曜日・時限：**水2/Wed.2**　｜　配当年次：**2025年度以降入学者：3～42024年度以前入学者：2～4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。
今、社会は大きく変化しています。「人生100年時代」というように長寿化によりキャリアを考える期間は長期化し、同時に、人口構造の変化、デジタル化など社会の変動は大きく予測が難しくなっており、ビジネスキャリアのあり方も変化しています。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえ直す必然性が高まっているといえます。
本授業では、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】
本授業では、①ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識の習得と、②キャリア開発が経済社会および企業の人事管理と関連し変化することの理解を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。
適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。このミニレポートの内容は、次回の授業において、全体に対してフィードバックを行います。
この授業で使用する資料等は、「学習支援システム」において事前に提供します。授業に出席する際には、この資料を準備して出席することが必須要件です。また、欠席した場合などは、必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する。
4	経営環境とキャリア開発の変化	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	キャリア自律	キャリア自律の考え方とキャリア政策の概要
6	ダイバーシティ経営	キャリア開発を取り巻く重要な経営動向であるダイバーシティ・マネジメント
7	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、多元化の動向、勤務地政策の現状
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い、病気治療との両立も含めて議論
12	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題
13	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処のあり方
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では、テキストに加えて、パワーポイント資料を使います。資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ず準備して出席してください。そうしないと授業のスピードについてこられません。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（第2版）』（中央経済社）です。テキストを参照しながら授業を進めます。

【参考書】
それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末試験結果60％と、平常点（授業への参加、ミニレポートの提出やその内容）40％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。また、受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.
【Learning Objectives】 The goal of this course is to acquire basic theories and knowledge about business career development, and to understand how career development changes in relation to economic society and corporate personnel management.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

武石　惠美子、佐藤　厚

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
曜日・時限：**火4**/Tue.4　｜　配当年次：**2〜4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオン(労働組合）リーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。
企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講をしてください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認し、資料を準備して授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】 労働組合とは何か	担当教員から授業の導入を行い、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える〜労働組合の役割と意義〜	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 （2024年度ゲストは教育文化協会）
3	【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。（2024年度ゲストは生保労連）
4	【ケーススタディ②】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらう。（2024度ゲストは自治労）
5	【ケーススタディ③】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聴き、理解してもらう。 （2024年度ゲストはJAM。若手職員含めたグループディスカッションを実施）
6	【ケーススタディ④】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差是正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。（2024年度ゲストは伊藤ハム労働組合）
7	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 （2024年度ゲストはJP労組）
8	【ケーススタディ⑥】 デジタル化の進展に伴う課題と労働組合の役割	AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 （2024年度ゲストはKDDI労働組合）。

9	【課題への対応①】 カスタマー・ハラスメントへの労働組合の対応	顧客からの悪質なクレーム（カスタマー・ハラスメント）が社会課題化する中で、現場の実態と、労働組合の対応について、法制化に向けた流れも含めた取り組みを聴き、理解してもらう。（2024年度ゲストはUAゼンセン）
10	【課題への対応②】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割とワークルールの重要性について理解してもらう。（2024年度ゲストは中央労働相談センター）
11	【課題への対応③】 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。（2024年度ゲストは連合（労働条件・中小地域対策局））
12	【課題への対応④】 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み	働く者を守るために、労働組合は法改正や制度改正にどのように関わっているのか。働く者の健康確保や安全確保の強化や、雇用形態に関わらずすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みを聴き、理解してもらう。（2024年度ゲストは連合（労働法制局））
13	【修了講義】 連合運動の現在と未来 ～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心してくらすことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。（2024年度ゲストは連合事務局）
14	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	担当教員が、ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回授業時に全14回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（コメント内容含む）が50％、レポートが50％。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【その他の重要事項】
授業の予定はゲスト講師との調整により、テーマ内容の変更や順番の入れ替え等が発生する可能性があります。大きな変更は予定していませんが、最初の授業で詳細な予定を提示しますのでご了承ください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.
【Learning Objectives】
Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.
They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.
【Learning activities outside of classroom】
A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
In-class contributions (including comments): 50%
Term-end report: 50%.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成Ⅰ

鈴木　美伸

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
曜日・時限：**水**3/Wed.3　｜　配当年次：**3～4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を確認し、社会への応用力に発展させる時期です。
この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の理解・修得・発揮を目指します。
企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部(発揮）ともいえます。

【到達目標】
修得すべき７つのチカラ
１．社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
　⇒組織を効率よく運営参画するスキル
　⇒社会規範となる倫理観
２．他者を説得できるロジカルシンキング
　⇒データの収集（質問票調査）を行う定量調査スキル
　⇒フィールドワークによる定性調査スキル
　⇒定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
３．他者を動かすコミュニケーション力
　⇒共感・質問・提言する個別対人スキル
　⇒カウンセリング・コーチング・コンサルティング
４．組織を動かすコミュニケーション力
　⇒社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
　⇒チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
５．組織を活性化するリーダーシップ
　⇒モチベーション・マネジメント
　⇒４つの状況対応型リーダーシップ
６．社会で未知の道を拓くチカラ
　⇒キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
　⇒自分自身の２０代のキャリアプランの作成
７．社会を生き抜くための実践知
　⇒暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
　⇒メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（レポート＆プレゼンテーション）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。
＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレーンストーミング
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	ビジネス事例研究－１ 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	ビジネス事例研究－２ 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディ－１ 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用するBtoB技術 知られざる世界一の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディ－２ 20代のキャリア形成 副業・兼業・越境学習 コンサルティング業界とは	新しい就労形態 ・パラレルキャリア ・進路の意志決定 ・大学生活とビジネスの接続
12	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力

13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－３ 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒３０点
・授業期間中レポート　⇒２０点
・期末レポート　⇒２０点
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、学習支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
ＰＣは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】
法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。
＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】
The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.
I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.
・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.
・ It is effective if you have a background in statistics and social research.
* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.
However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grade score
・ Attendance attitude (number of remarks /content of remarks /contribution in group work) ⇒ 30 points
・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
・Report during class period ⇒20 points
・ Term-end report ⇒ 20 points
A passing score of 60 or higher is considered as a pass.
(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)
* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成Ⅱ

鈴木　美伸

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
曜日・時限：**水**3/Wed.3　｜　配当年次：**3〜4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。
未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。
同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。
アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】
どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の８つの力を修得します。
１．事実をベースに語る提言力　（事実と意見を峻別する）
２．３つの分析手法力　（時間・空間・実験分析）
３．知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
４．問題解決の視点力　（What? Why? How?）
５．構造分析の要素考察力
６．マクロとミクロの視点を統合力　（定量と定性調査力）
７．一次情報に触れる取材力　（但、百聞一見を盲信しない）
８．上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション＆レポート）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。
＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	８つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 共感・質問・提案	応談スキル ・カウンセリング ・コーチング ・コンサルティング
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには （ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究－１ 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ ２１世紀の生き方へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	ライフスタイル研究－２ パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート＆プレゼンテーション－１ 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究－３ 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力 （ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	人生の３つのカーブ 文献・統計・フィールドワークのデータ	世代別の課題 ・Ｊ字カーブ（20代） ・M字カーブ（30代） ・Ｘ字カーブ（40代）
13	課題レポート＆プレゼンテーション－２ 法政大学の実践知とは	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評
14	授業総括 課題発表ふりかえり	アカデミックスキル確認 ・受講生講評・プレゼンテーション力 ・課題確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊春学期「就業応用力養成Ｉ」の履修が望ましいですが、

事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒３０点
・グループワークでの貢献度　⇒２０点
・期末レポート　⇒２０点
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、学習支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。
大学用意のＰＣを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】
法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。
＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】
"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.
Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.
I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.
・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.
・ It is effective if you have a background in statistics and social research.
* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.
However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grade score
・Attendance attitude (number of remarks /content of remarks) ⇒ 30 points
・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
・ Contribution in group work ⇒ 20 points
・ Term-end report ⇒ 20 points
A passing score of 60 or higher is considered as a pass.
(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)
* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

AGC300YA（農芸化学 / Agricultural chemistry 300）

食品科学

三浦　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】
日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持てるようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。
課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学１	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学２	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学３	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学４	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学５	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学１	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学２	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】
講義はパワーポイントを用いて行うが、講義資料は学習支援システムを介して配布する。

【参考書】
「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－　小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】
平常点（１０％）、中間テスト（３０％）、期末テスト（６０％）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】
Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.
For this lecture, a work outside of class is not needed particularly, but the content of the lecture may be familiar for you and your daily life. So, the knowledge you will get in the lecture may be anticipated to be applicable for your healthy life.
For grading, your attitude in the class (10%), midterm test (30%), and final test (60%) will be evaluated. Both the midterm test and the final test will assess the level of understanding of the lecture content.

BME300YB（人間医工学 / Biomedical engineering 300）

医用生体工学

林　真人

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体分子、細胞、組織の各レベルにおける実験的再構成法の基礎、及び医療応用の先端研究について学ぶ。

【到達目標】
生体分子、細胞、組織に関する生化学、分子細胞生物学、生物物理学の基礎を学ぶ。生体計測・バイオイメージング技術の原理についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義はスライド映写を中心に行い、問題提示や対話形式での講義を行う。学生自ら各テーマについて調べ、授業内での発表を行う。大学の行動方針レベルに応じてオンライン(Zoom)でも開講し，具体的な方法については学習支援システムで提示する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明・生命の再構成	講義の意義、評価方法について、分子から組織までの階層構造と再構成、生体計測の概論
第2回	顕微鏡と顕微操作	解像度や回折限界、超解像技術、暗視野顕微鏡の原理
第3回	脂質とリポソーム	脂質膜やリポソームの形成法、安定性
第4回	リポソームの応用技術	リポソームを使用した医療技術や最近のトピックス
第5回	細胞の再構築	リポソーム内タンパク質発現や機能性リポソーム
第6回	中間テスト-1	ここまでの理解到達度確認
第7回	中間テストの解説	中間テスト-1の解説と結果に基づいた補足
第8回	微細加工技術	光リソグラフィー、マイクロプリンティング、アガロース微細加工技術
第9回	ES細胞・iPS細胞	ES細胞やiPS細胞をを中心とした幹細胞やMuse細胞などの最新のトピックス
第10回	創薬・薬剤スクリーニング	新薬をつくるプロセス、毒性検査技術
第11回	組織工学	細胞培養、細胞凍結、細胞配置、組織構築
第12回	再生医療	最新の再生医療技術について
第13回	中間テスト-2	中間テスト-1以降の理解到達度確認
第14回	中間テストの解説	中間テスト-2の解説と結果に基づいた補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
講義中の話題に対する予習・復習の必要がある。学生自ら発表する内容について調べパワーポイント等にまとめる必要がある。また、レポート課題に対して数週間以内にまとめて提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞期末試験30％・中間試験(1と2)20％・発表点30％・平常点20％の成績を総合して評価する.

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業内での発表があるので、貸与パソコン等のプレゼンテーションが可能な機器。

【その他の重要事項】
学生との双方向的な授業のため、活発な発言や議論を行います。

【Outline (in English)】
This course deals with a basic research of reconstruction of a cell or tissue, and an advanced research of tissue engineering and regenerative medicine.
The goals of this course are to understand the basics of biochemistry, molecular cell biology, and biophysics.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short presentation (30%), and in class contribution (20%).

COT211KA-CS-205（計算基盤 / Computing technologies 200）

プログラミング(MATLAB)

伊藤　克亘

必選区分：　｜　配当年次／単位：**2〜4年次／4単位**　｜　開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ディジタルメディアの代表的データである画像や音声をコンピュータで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようになることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどういう特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「ディジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。

【到達目標】
3 年次や卒業研究で、ディジタル信号処理が必要になったときに MATLAB で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようになる。
数式やアルゴリズムを示されただけで、どのような結果になるか、想像できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。
課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。
最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。
また、最終課題のレポートに関しては、第1版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/MATLAB 入門	授業の目的の説明、および MATLAB の紹介
2	簡単な音声処理(音声の時間領域処理)	音声データの入出力、重ね合わせ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFT の使用方法と音声の周波数処理
5	フィルタ(音声の時間領域処理)	FIR フィルタ、IIR フィルタ
6	画像の周波数領域処理	FFT を用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性
9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれを用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類
13	音声・画像処理の応用	これまで学んだことを応用してできる処理
14	まとめと最終課題の発表会	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき8時間を標準とする。
準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】
書名: MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門
著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘
出版社: コロナ社
出版年: 2019

【参考書】
書名: ディジタル・サウンド処理入門
著者名: 青木直史
出版社: CQ出版社
出版年: 2006
書名: Digital Signal Processing First, Global Edition
著者名: James H. McClellan, Ronald W. Schafer, Mark A. Yoder
出版社: Prentice Hall
出版年: 2016
書名: はじめての画像処理技術
著者名: 岡崎
出版社: 工業調査会
出版年: 2000

【成績評価の方法と基準】
定期試験(50%)および最終課題(50%)で評価する。ただし、最大20%程度、予習課題や演習課題の取り組み状況および授業での発表などの平常点を加味する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノートPCを利用することを前提とする。演習は貸与PCを利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
FFTの知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学2」を並行して履修することを勧める。
また、受講希望者は、第1回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2023b (もしくは R2024a) をインストールすること。
http://software.k.hosei.ac.jp/others/
https://software.k.hosei.ac.jp/MATLAB_manual.pdf
この授業で必要な Toolbox は、
Image Processing Toolbox
Signal Processing Toolbox
Statistics and Machine Learning Toolbox
である。
本講義の内容は担当教員の通商産業省工業技術員電子技術総合研究所での音声・知能情報処理に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】
In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by ourselves. Most of these methods are based on mathematics. As an introduction, to getting used to programming using mathematical algorithms, this lecture is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing, and speech processing.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours.
Final grade will be calculated according to the following process final project (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

COT211KA-CS-106（計算基盤 / Computing technologies 200）

プログラミング演習1(python)

伊藤　克亘

必選区分：　｜　配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**　｜　開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会の情報化が進んだことによって、様々なデータがファイルやデータベースなどのディジタル形式で入手できるようになってきた。ディジタルデータでは、大規模な分析が容易である。そのような分析に使われる手法としては、最近では、機械学習(いわゆる AI)と呼ばれる手法が主流である。いわゆる AI を用いたシステム(chatGPT など)を使って自動的に分析することも多くなってきている。それらを含めて、そのようなデータ分析の業務も、IT 系でないような分野にも広がってきている。
今回採用した教科書も文系向きというタイトルで、文系読者も想定して書かれており、実際に、経営学、経済学、社会学に関連した事例を取り上げ、と書かれている。それらの分野だけでなく、他の学部の卒業研究でも、ゼミ発表や卒業研究などで扱うデータ(たとえば、アンケートの回答データ、実験／観測などの記録データ、web やインターネット上のテキストデータ、様々な調査統計データ)の分析に、この授業で取り上げる手法が役に立つこともあるだろう。
いわゆる AI を用いたシステム(chatGPT など)を使って自動的な分析を有効に活用するためには、以下のような理解が不可欠である。
1) プログラムをつかって、どんなデータに対して、どんな分析ができるのか?
2) それらの分析手法を用いると、具体的なデータに対して、どのような結果が得られる ようになるのか?
。
本授業では、データの分析のためのプログラミングの基礎を、実際のデータを扱う実践的なプログラミングで習得することが目標である。具体的には、プログラミング言語のPythonを用いて、代表的な分析手法や、その結果の表示、それらに必要なデータの前処理などの加工方法、などを学ぶ。
データの収集、加工、分析などのデータサイエンスプログラミングを自分の目的に応じて利用することができると、必要な作業が効率的に進む。また将来、DX などの仕事の洗練化にも役立つ。

【到達目標】
1. 代表的なデータ分析手法についての知識を身につける
2. Python で、代表的なデータ分析手法を実行できるようになる
3. Python で、データ分析の前処理ができるようになる
4. Python で、分析結果のグラフが作成できるようになる
5. Python によるデータ分析の書籍が読むための基礎知識を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」、「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の例題を予習として事前に動かし、簡単な読解課題を解く。授業では、それらの例題についての補足、および、発展的な演習を行う。
発展的な演習のうち、実践的な演習についてはグループワークで実施する。
最終課題に関しては、定期試験期間に、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/環境整備	授業の進め方と演習で利用する環境の確認、Python の基礎の確認。(教科書1章、2章の一部)
2	Python によるデータ分析の基礎	Python/pandas/polars/numpy の基礎(教科書2章)
3	統計の基礎	平均とヒストグラム(教科書3章)
4	相関と回帰	相関と回帰(教科書4章、5章の一部)
5	実践演習	実際のデータを用いて統計処理を行う(グループワーク)
6	クラスタリング	クラスタリング(教科書6章)
7	決定木	決定木(教科書7章、8,9章の一部)
8	テキスト処理	形態素解析(教科書14章)
9	実践演習	実際のデータの分析を行う(グループワーク)
10	ロジスティック回帰	ロジスティック分析/傾向スコアマッチング(教科書10章)
11	変化のシミュレーション	SIR モデル(教科書12章)
12	アンケートデータの分析	因子分析
13	最終演習	演習のテーマの決定(グループワーク)
14	最終演習	演習テーマのデータ分析(グループワーク)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
書名: 文系のための Python データ分析
著者名: 友原章典
出版社: 有斐閣
出版年: 2024
価格: 2100円
オリジナルオンライン資料

【参考書】
資料名: データサイエンス・スクール 上級者向けテキスト
著者名: 総務省統計局
URL: https://www.stat.go.jp/dss/getting/pdf/upper.pdf
価格: 無料
そのほか必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
最終課題レポートで評価する(80%)。
通常の取り組みに関しては、各回の予習確認テスト(10%)、発展課題(10%)の取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC(受講場所でインターネット接続ができるもの)が望ましいが、タブレットでも、次の条件を満たすものであれば構わない。
授業では、ブラウザ上のクラウドサービスである google colab を使って演習を行うので、それが実行できる環境が必要。

【その他の重要事項】
教科書は、まえがきによると、
「プログラミング経験がまったくないので、不安だ、もしくは Python の入門書を読み始めたけど挫折したという読者が対象です。」

と書かれています。

【Outline (in English)】
In seminars, students in every faculty need to deal with any data, such as survey responses, experimental data, text data, and statistical data. Utilizing data science programming accelerates your learning. Also, the skill helps sophisticate works, e.g., DX.
The objective of this class is to learn the basics of data science programming through exercises that use real-world data. It includes typical statistical or machine learning data analysis, visualization of results, and preprocessing.

MAT247KA-GMP-351（数学 / Mathematics 200）

フーリエ級数と変換

秋野　喜彦

必選区分：　｜　配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**　｜　開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
音声や画像の信号を振動数ごとに分解・再構築する手法の基本となるフーリエ級数やフーリエ変換を学びます．応用上で重要な離散フーリエ変換についても基本を理解します．

【到達目標】
フーリエ級数とフーリエ変換に親しみ，さらに離散フーリエ変換の特徴を理解することを目的とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】
現象を数式を用いて扱う能力を養うため，講義だけでなく自ら問題を解くようにしてもらいます．さらに，毎回課題を解き・提出してもらいます．課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です．また課題や試験問題の中から，理解度や重要性に応じて適宜解説・フィードバックしていきます．
「微積分法の基礎」の単位取得が前提となります．数学の道具立てを使いこなせるようになるため，出される課題に正面から取り組んむことが重要です．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No.1	【周期現象と三角関数】	周期現象を表すための基本である三角関数の性質を復習します．とくにサイン・コサインの直交性と呼ばれる関係が重要です．
No.2	【フーリエ三角級数の定義と基本的な性質】	サインとコサインの重ね合わせで表され周期関数のバラエティに注目します．逆に，周期関数をサインとコサインに展開するフーリエ三角級数を定義します．　サインとコサインを使う意味を考えます．
No.3	【フーリエ三角級数の計算例】	フーリエ三角級数の具体例を見ます．振動数スペクトルについて理解します．
No.4	【複素指数関数と複素フーリエ級数の定義】	複素平面の使いかた，複素指数関数の定義と基本的な性質（直交性，微積分），サイン・コサインとの関係を復習します．フーリエ三角級数と複素フーリエ級数の関係を理解します．
No.5	【複素フーリエ級数の例】	複素フーリエ級数の計算例を見ていきます．
No.6	【複素フーリエ級数の性質】	パーセバルの等式，ギッブス現象，一様収束と平均収束など．
No.7	【フーリエ変換の定義】	周期が無限大の極限でフーリエ係数がどのように変化するかを観察し，フーリエ変換と逆変換を定義します．フーリエ変換の意味を理解します．
No.8	【フーリエ変換の例】	サイン・コサイン，単一パルス，指数関数，ガウス関数のフーリエ変換を計算します．
No.9	【フーリエ変換の性質】	実部と虚部の意味，変数をシフトした影響，導関数のフーリエ変換など．δ関数や階段関数にも注意します．
No.10	【フーリエ変換の応用】	微分方程式の解法と畳み込み積分の計算を学びます．
No.11	【系の応答特性】	線形系と時不変系のインパルス応答と周波数応答
No.12	【離散フーリエ変換の定義】	波形のサンプリングとデータから復元できる波形について学びます．DFTの定義を導入します．
No.13	【離散フーリエ変換の性質】	周期，対称性，直交性など，実際に計算して理解します．
No.14	【離散フーリエ変換とフーリエ変換】	DFTをフーリエ変換によりシミュレートし，DFTについて理解を深めます．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題は，学習支援システムあるいは講義時間中に指示します．
なお，本授業の準備・復習・課題等の授業時間外学習は，各週につき4時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
フーリエ解析（理工系の数学入門）大石進一著　岩波書店
また必要に応じて学習支援システムを通じて資料を配布します．

【参考書】
フーリエ解析に関する一般的な書籍であれば参考になります。入門書の例として以下を挙げておきます。
・　すぐわかるフーリエ解析　石村園子著　東京図書

【成績評価の方法と基準】
課題（15％）・授業内ミニテスト（15％）・中間試験（20％），および期末試験（50％）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
音声・画像処理など情報科学の応用を目指すときに基本となる内容を学びます。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this class, we will study Fourier series and Fourier transform, which are the basis of deconstructing and reconstructing the sounds and image signals. Basics of discrete Fourier transform, which is an important tool for real applications, will also be explained.
【Learning Objectives】
To be familiar with Fourier series, Fourier transform, and discrete Frouier tnasform, and to understand how to use those in real problems.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assingments after each class meeting. Four hours will be your standard study time for this class.
【Grading Criteria/Policies】
Overall grade in this class will be decided based on the followings;
Assingments: 15%, Quizes in each class: 10%,
Mid-term examination: 25%, Final examination: 50%

COT211KA-CS-106（計算基盤 / Computing technologies 200）

プログラミング演習1(python)

伊藤　克亘

必選区分：　｜　配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**　｜　開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会の情報化が進んだことによって、様々なデータがファイルやデータベースなどのディジタル形式で入手できるようになってきた。ディジタルデータでは、大規模な分析が容易である。そのような分析に使われる手法としては、最近では、機械学習(いわゆる AI)と呼ばれる手法が主流である。いわゆる AI を用いたシステム(chatGPT など)を使って自動的に分析することも多くなってきている。それらを含めて、そのようなデータ分析の業務も、IT 系でないような分野にも広がってきている。
今回採用した教科書も文系向きというタイトルで、文系読者も想定して書かれており、実際に、経営学、経済学、社会学に関連した事例を取り上げ、と書かれている。それらの分野だけでなく、他の学部の卒業研究でも、ゼミ発表や卒業研究などで扱うデータ(たとえば、アンケートの回答データ、実験／観測などの記録データ、web やインターネット上のテキストデータ、様々な調査統計データ)の分析に、この授業で取り上げる手法が役に立つこともあるだろう。
いわゆる AI を用いたシステム(chatGPT など)を使って自動的な分析を有効に活用するためには、以下のような理解が不可欠である。
1) プログラムをつかって、どんなデータに対して、どんな分析ができるのか?
2) それらの分析手法を用いると、具体的なデータに対して、どのような結果が得られる ようになるのか?
。
本授業では、データの分析のためのプログラミングの基礎を、実際のデータを扱う実践的なプログラミングで習得することが目標である。具体的には、プログラミング言語のPythonを用いて、代表的な分析手法や、その結果の表示、それらに必要なデータの前処理などの加工方法、などを学ぶ。
データの収集、加工、分析などのデータサイエンスプログラミングを自分の目的に応じて利用することができると、必要な作業が効率的に進む。また将来、DX などの仕事の洗練化にも役立つ。

【到達目標】
1. 代表的なデータ分析手法についての知識を身につける
2. Python で、代表的なデータ分析手法を実行できるようになる
3. Python で、データ分析の前処理ができるようになる
4. Python で、分析結果のグラフが作成できるようになる
5. Python によるデータ分析の書籍が読むための基礎知識を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」、「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の例題を予習として事前に動かし、簡単な読解課題を解く。授業では、それらの例題についての補足、および、発展的な演習を行う。
発展的な演習のうち、実践的な演習についてはグループワークで実施する。
最終課題に関しては、定期試験期間に、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/環境整備	授業の進め方と演習で利用する環境の確認、Python の基礎の確認。(教科書1章、2章の一部)
2	Python によるデータ分析の基礎	Python/pandas/polars/numpy の基礎(教科書2章)
3	統計の基礎	平均とヒストグラム(教科書3章)
4	相関と回帰	相関と回帰(教科書4章、5章の一部)
5	実践演習	実際のデータを用いて統計処理を行う(グループワーク)
6	クラスタリング	クラスタリング(教科書6章)
7	決定木	決定木(教科書7章、8,9章の一部)
8	テキスト処理	形態素解析(教科書14章)
9	実践演習	実際のデータの分析を行う(グループワーク)
10	ロジスティック回帰	ロジスティック分析/傾向スコアマッチング(教科書10章)
11	変化のシミュレーション	SIR モデル(教科書12章)
12	アンケートデータの分析	因子分析
13	最終演習	演習のテーマの決定(グループワーク)
14	最終演習	演習テーマのデータ分析(グループワーク)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
書名: 文系のための Python データ分析
著者名: 友原章典
出版社: 有斐閣
出版年: 2024
価格: 2100円
オリジナルオンライン資料

【参考書】
資料名: データサイエンス・スクール 上級者向けテキスト
著者名: 総務省統計局
URL: https://www.stat.go.jp/dss/getting/pdf/upper.pdf
価格: 無料
そのほか必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
最終課題レポートで評価する(80%)。
通常の取り組みに関しては、各回の予習確認テスト(10%)、発展課題(10%)の取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC(受講場所でインターネット接続ができるもの)が望ましいが、タブレットでも、次の条件を満たすものであれば構わない。
授業では、ブラウザ上のクラウドサービスである google colab を使って演習を行うので、それが実行できる環境が必要。

【その他の重要事項】
教科書は、まえがきによると、
「プログラミング経験がまったくないので、不安だ、もしくは Python の入門書を読み始めたけど挫折したという読者が対象です。」

と書かれています。

【Outline (in English)】
In seminars, students in every faculty need to deal with any data, such as survey responses, experimental data, text data, and statistical data. Utilizing data science programming accelerates your learning. Also, the skill helps sophisticate works, e.g., DX.
The objective of this class is to learn the basics of data science programming through exercises that use real-world data. It includes typical statistical or machine learning data analysis, visualization of results, and preprocessing.

BSC100CA（基礎化学 / Basic chemistry 100）

化学Ａ

山﨑　友紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「化学」の基礎知識は、大学生や市民の皆さんには必須といえます。身のまわりにあるさまざまな自然現象を理解することは、私たちの生活を豊かにするためにとても重要です。この授業では、身近なところにある“物質”や“反応”を題材にします。受講者は、物質によって支えられている私たちの体や地球環境、めまぐるしく発展する科学技術の姿について「化学」を通じて理解を深めます。

【到達目標】
身近なものや現象の中から、その物質の性質や変化について、基礎的で正確な知識の習得を通して「化学」を学ぶ。社会的、文化的、政治的、経済的、および倫理的な絡み合いの中にある「化学」の位置づけを理解し、合理的な判断力を養うこと（科学リテラシーの修得）を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
親しみある身近なトピックスを主体に「化学」の知識と理解を深めていきます。ほぼ毎回課題で理解度チェックを行います。学生へのフィードバックとして代表的なものを授業内でフォローします。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上またはオフィスアワーで解説などの対応をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「化学」の役割	講義のガイダンス。「化学」の必要性を考えます。
第２回	『地球の化学』	元素の種類と性質。小さな粒子の概念（原子、分子、素粒子）
第３回	『水の化学』	化学結合の役割と姿、身近な水を通じたミクロの世界
第４回	『生き物と化学』	私たちの体を作っている物質や化学反応
第５回	『文明と化学』	紙と鉛筆、写真、印刷、絵具の実体
第６回	『調理と空調の化学』	衣食住に関わる熱とエネルギーの化学
第７回	『食品と農業の化学』	栄養、味、発酵、土、食品添加物、香料
第８回	『電気エネルギーの化学』	水溶液、電池、原子力、火力発電
第９回	『おしゃれの化学』	ヘアカラー、パーマ、化粧品、ファッション、宝石
第10回	『キレイの化学』	セッケン、シャンプー・コンディショナー、腐敗、臭い、汚れ、洗濯
第11回	『健康と化学』	免疫、人工骨・人工関節・サプリメント、衛生商品
第12回	『毒の化学』	毒の仕組み、リスク管理
第13回	『環境問題の化学』まとめ、質疑応答含む	大気、地球温暖化、水質、プラスチック、廃棄物、リサイクル
第14回	授業内試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業時に、次回授業の予定を説明するのであらかじめ教科書と資料集に目を通すこと。毎回の授業に演習を授業支援システムを通じて課すので事前登録をしておくこと。高校の化学の図録は資料として役立つので入手しておいてください（出版社は問わない）。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ２時間ずつを標準とします。

【テキスト（教科書）】
山﨑友紀 著『みつけよう化学 －ヒトと地球の12章－』　裳華房　2023年３月刊

【参考書】
１ 日本化学会編『感動する化学』（東京書籍、2010年）。
２ アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS出版、2015年）。
３『三訂版　フォトサイエンス化学図録』(数研出版、2017年)。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を50％、課題（各授業回ごと）や授業中の取組み等の平常点を50％として100点中の60点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な「化学」と「社会」、「文化」等との関わりを理解できるような講義、演習に努める。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
学習支援システムのお知らせや課題は授業の前後に必ずチェックしてください。

【Outline (in English)】
The knowledge of chemistry is important for the students who are learning economics to understand the various natural phenomena around us. In this class, we will use familiar substances and reactions as the main topics of study. Through "chemistry," students will deepen their understanding of our bodies and the global environment, which are supported by materials, as well as the rapid development of science and technology.
The standard preparation and review time for this class is two hours for each.
・Evaluation of class work and assignments (50%)
・Evaluation of examinations related to class content (50%)
Total score will be 100 points.

BSC100CA（基礎化学 / Basic chemistry 100）

化学Ｂ

山﨑　友紀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
化学は自然科学の中心的存在として位置づけられ、自然現象を理解するために重要な学問です。本講義では、観察や実験を多く取り入れ、身近な化学について体験的に学びます。学生たちは実験実習体験を繰り返すことによって、科学的な根拠に基づいた判断力や批判力を身に付けます。

【到達目標】
化学の実験や学習を通じて、身近な自然現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた、判断力、応用力を身につけること（科学リテラシーの取得）を目標とする。
毎回の授業では、予習と下調べ、実験の準備、実験の実施、結果についての考察、片付け、復習を一連の流れの活動ができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な知識内容に加え、演習（実験）を通じて、より発展的な学習を行う。実技を伴う授業を行うために研究実験棟の化学実験室を利用する。毎回の授業で理解度チェックの課題を課す。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上または対面で対応をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと「元素の化学の基礎」	化学の基礎を確認し、2回目以降の準備をする。
第2回	実験器具の取り扱いとその考察	化学実験の器具および設備の扱いを学ぶ。
第3回	実験１	身近な環境水や、水溶液に関する実験
第4回	実験２	身近な食品に関する実験
第5回	実験３	「機器分析」について説明する。また、実際に装置を操作してみる。
第6回	実験４	クロマトグラフィーの原理について説明する。また、実際に薄層クロマトグラフィー（TLC)に関して実験を行う。
第7回	実験５	ゲル、コロイドについて説明する。また、「固体燃料」を作成することで、実際にゲル化を観察する。
第8回	実験６	界面活性剤に関する実験。
第9回	実験７	カフェインやDNAなど食品から抽出できる物質の特徴を学ぶ。
第10回	実験８	結晶や沈殿に関する実験
第11回	実験９	高分子や、色と染料、染色機構について説明する。
第12回	実験１０	自由実験
第13回	成果発表	これまでの実験の総括として各自から成果を発表する。
第14回	予備日	欠席回への対応など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ごとに予習・復習課題を課す。基本的には学習支援システムを利用する。薬品を使用する場合は、その性質について調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間ずつを標準とします。

【テキスト（教科書）】
『三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』(数研出版）を購入すること。
毎回、実験データ記入用のプリントを配布します。

【参考書】
１.山﨑友紀 著『みつけよう化学 －ヒトと地球の12章－』　裳華房　2023年3月刊
２.アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS出版、2015年)。

【成績評価の方法と基準】
毎回の実験の取組みを50％、提出課題を50％として、トータル100点で評価し60点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
実験を多く取り入れる。できるだけ多くの学生さんが理解できるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム、インターネット接続環境

【その他の重要事項】
・この授業では、実験・実習を行いますが、丁寧な指導のために受講人数の上限を定めます（30名以内)。
・受講希望者が多すぎる場合には初回に抽選を行います。
・安全のため、30分以上の遅刻者はその日の授業を受講できません。
・別途、必要な資料は配布します。

【Outline (in English)】
It is important to understand chemistry in modern society.In this course, we learn the basics of chemistry through experiments.Through repeated hands-on laboratory experiences, students will develop the ability to make scientifically based judgments and criticisms.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
・Evaluation of your effort in the experiment (50%)
・Evaluation of each assignment related to the class content (50%)
Total score will be 100 points.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

社会経済学応用 A

小林　陽介

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、資本主義の発展段階論を取り上げます。資本主義は、その発生から今日に至るまで、姿や状態を変えながら発展してきました。資本主義が発展・変化する要因や背景を学ぶことを通じて、資本主義の今後を考察するための枠組みを学生が理解することが目的です。

【到達目標】
①現代に至るまでの資本主義の発展について説明できる。
②資本主義が発展・変化する要因について指摘できる。
③資本主義の今後について説得的に論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はオンデマンド配信形式で実施する予定です。毎回、パワーポイント資料と解説動画に加え参考資料を配信します。それらを受講した後、確認テストに取り組みます。質問や感想を受け付けますので、積極的に授業に参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	資本主義の発展段階論
第2回	市場経済と資本主義	商品経済、資本主義
第3回	重商主義段階の資本主義	重商主義政策、商人資本
第4回	資本主義の確立	資本の原始的蓄積、産業革命
第5回	自由主義段階の資本主義	自由貿易、金本位制
第6回	資本主義の変質	基軸産業、資本輸出
第7回	帝国主義段階の資本主義	金融資本の諸相
第8回	2つの大戦と覇権交代	管理通貨制
第9回	戦後パックスアメリカーナの形成	IMF・GATT体制
第10回	アメリカの持続的成長構造	管理価格体制
第11回	高度成長の終焉とスタグフレーション	ドル危機、スタグフレーション
第12回	日本の躍進とアメリカの苦悩	ME化、レーガノミクス
第13回	構造変化する世界経済	経済のソフト化・サービス化
第14回	試験・まとめ	春学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に実施する確認テストを使って復習してください。参考資料をよく読んで次の授業に臨んでください。1回の授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
自作の資料を使用し、テキストは特に指定しません。

【参考書】
SGCIME編『現代経済の解読』第3版、御茶の水書房、2017年。
飯田隆『図説西洋経済史』日本経済評論社、2005年。
河村哲二『現代アメリカ経済』有斐閣アルマ、2003年。
その他の参考文献は、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の確認テスト（60点）＋期末テスト（40点）
・毎回授業で確認テストに取り組んでもらいます（5点×12回）。ただし、初回と最終回は確認テストを実施しません。
・最終回で期末テストを実施します。

【学生の意見等からの気づき】
色分けや太字などの工夫をして、資料の見やすさ・読みやすさの改善を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
受講用のPCを準備すること。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of stage theory of capitalist development. Students will be expected to deepen the understanding factors and background of capitalism's development.
(Learning Objectives)Firstly, students will be able to explain the development of capitalism up to the present day. Secondary, students will be able to point out the factors that cause capitalism to develop and change. Thirdly, students will be able to discuss the future of capitalism persuasively.
(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process: mini exams(60%), term-end examination(40%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

社会経済学応用Ｂ

小林　陽介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では現代資本主義の最大の特徴であるグローバル化を取り上げます。1990年代以降本格化したグローバル資本主義は、様々な矛盾の累積を受けて今後変容していく可能性があります。グローバル化の利点と問題点を総合的に学ぶことを通じて、学生がグローバル資本主義の今後を考察できるようになることが目的です。

【到達目標】
①資本主義がグローバル化した要因・背景について説明できる。
②グローバル化が資本主義にもたらした影響を指摘できる。
③グローバル資本主義の今後について説得的に論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はオンデマンド配信形式で実施する予定です。毎回、パワーポイント資料と解説動画に加え参考資料を配信します。それらを受講した後、確認テストに取り組みます。質問や感想を受け付けますので、積極的に授業に参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代資本主義とグローバル化
第2回	冷戦体制の終焉とグローバル化	資本主義と社会主義
第3回	発展途上国から新興国へ	輸出指向型工業化
第4回	アメリカの新しい経済成長の仕組み	グローバルシティ
第5回	日本の長期不況および欧州の通貨統合	バブル崩壊、ユーロ
第6回	サブプライム危機とリーマンショック	証券化、リーマンショック
第7回	リーマンショックと欧州ソブリン危機	欧州ソブリン危機
第8回	リーマンショック後のアメリカと長期停滞論	長期停滞論、量的緩和
第9回	移民問題とブレクジット	ブレクジット
第10回	トランプ現象とアメリカの分断	トランプ現象
第11回	ブレクジット後のイギリス経済	コロナ対応、トラスショック
第12回	リーマンショック後の中国経済	一帯一路、中国製造2025
第13回	グローバルサウスの動向	BRICS
第14回	試験・まとめ	秋学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に実施する確認テストを使って復習してください。参考資料をよく読んで次の授業に臨んでください。1回の授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
自作の資料を使用し、テキストは特に指定しません。

【参考書】
SGCIME編『現代経済の解読』第3版、御茶の水書房、2017年。
山本和人・鳥谷一生編著『世界経済論[第2版]変容するグローバリゼーション』ミネルヴァ書房、2023年。
その他の参考文献は、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の確認テスト（60点）＋期末テスト（40点）
・毎回授業で確認テストに取り組んでもらいます（5点×12回）。ただし、初回と最終回は確認テストを実施しません。
・最終回で期末テストを実施します。

【学生の意見等からの気づき】
色分けや太字などの工夫をして、資料の見やすさ・読みやすさの改善を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
受講用のPCを準備すること。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of global capitalism. Students will be expected to deepen the understanding benefits and problems of global capitalism.
(Learning Objectives)Firstly, students will be able to explain the factors and background of the globalization of capitalism. Secondary, students will be able to point to the impact that globalization has had on capitalism. Thirdly, students will be able to discuss the future of global capitalism persuasively.
(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process: mini exams(60%), term-end examination(40%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

日本経済論 A

小黒　一正

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見ていく。

【到達目標】
日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。
【留意事項】
なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第3回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(2)	古典派モデル(1)　基本モデル
第4回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(3)	古典派モデル(2)　拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第5回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(4)	古典派モデル(3)　貨幣数量説、失業と労働市場
第6回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(5)	ケインズ・モデル(1)　所得支出モデル
第7回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(6)	ケインズ・モデル(2)　IS-LMモデルと財政金融政策の効果
第8回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(7)	ケインズ・モデル(3)　IS-MPモデル、開放経済モデル
第9回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(8)	消費関数・投資関数の理論
第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(10)	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】
マンキュー『マンキュー経済学II　マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of macroeconomics, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from a macroeconomics perspective. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

日本経済論 A

小﨑　敏男

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本経済」の変遷を人口・経済成長・金融・財政・労働を中心として講義する。
現在のわが国が置かれている位置を確認して欲しい。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】
日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿して欲しい。課題等に対するフィードバックは、授業中解説し学習支援システムを通して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、わが国の人口減少（1）	わが国の総人口の動向について考察する。
2	わが国の人口減少（2）	わが国の人口を3区分して、その動向を考察する。
3	日本経済の歴史：1960～2018年	名目GDP、実質GDPの動向及び、成長率の概念、成長率と複利の計算
4	高度経済成長：理論（成長会計）	経済成長の理論；生産関数と成長会計に関して考察する。
5	日本経済の失われた30年	1991年のバルブ崩壊から現在まで、5期に分けて考察する。
6	日本経済と国際経済との関係	国際収支と貿易構造、企業の海外進出、アジア経済の拡大と貿易パターンの変化
7	金融政策（1）	日本の金融の足取りの考察。
8	金融政策（2）	伝統的理論と非伝統的理論の考察。
9	財政政策（1）	財政の現状と社会保障に関して考察する。
10	財政政策（2）	MMT理論に関して考察する。
11	労働政策（1）	人口減少と労働政策に関して考察する。
12	労働政策（2）	解雇権・最低賃金に関して考察する。
13	地域政策	人口減少と地域政策
14	小括1	第1回から13回までの講義に関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】
①鶴・前田・村田（2019）『日本経済のマクロ分析』日本経済新聞社。
②小﨑・牧野・吉田（2022）『キャリアと労働の経済学』日本評論社。
③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
など。
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（100％）を課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グラフを読みやすく改善しました。

【その他の重要事項】
現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline (in English)】
Lectures on the transition of the "Japanese economy" focusing on population, economic growth, finance, finance, and labor.
I want you to confirm the current location of Japan. Students should be learning the basics of microeconomics and macroeconomics.
The goal is to understand the current state and future prospects of the Japanese economy, and to acquire basic knowledge to read economic articles in newspapers and news with interest.
Impose a report (100%) and evaluate accordingly.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

日本経済論 B

小黒　一正

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】
日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。
【留意事項】
なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社
配布資料

【参考書】
スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of public economics, including various theories of public finance and tax, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from the perspective of public economics. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

日本経済論Ｂ

小﨑　敏男

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本経済論Ｂは、日本経済論Ａをより深く経済学的に探究する。特に、人口減少と日本経済の関係を深堀する。それにより、現在、日本の置かれて位置関係が理解される。
学生は、この学びにより今、何が日本に求められているのか理解できることとなる。また、その成果として日本経済新聞などの経済記事や週刊誌を体系的に理解できることを目的としている。

【到達目標】
個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容及び課題等に対するフィードバックは、学習支援システムの「掲示板」で返答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要とスケージュル
2	少子化に関する基礎理論（1）	結婚の経済理論、子どもの数の決定理論
3	少子化に関する基礎理論（2）	少子化対策の理論
4	既婚女性の働き方と子どもの数（1）	理論的考察
5	既婚女性の働き方と子どもの数（2）	既婚女性の働き方と出生数の実証的考察
6	超高齢社会への対応策（1）	高齢化のメカニズム、人口高齢化の問題点
7	超高齢社会への対応策（2）	高齢者就業対策
8	労働力不足の労働市場（1）	わが国労働市場の趨勢と現状
9	労働力不足の労働市場（2）	労働力人口の減少と失業率の低下
10	労働力不足と外国人労働（1）	外国人労働受入れの現状
11	労働力不足と外国人労働（2）	外国人労働者受入れの経済学的検討
12	労働力不足と日本的雇用慣行（1）	日本的雇用慣行の理論
13	労働力不足と日本的雇用慣行（2）	労働力不足と日本的雇用慣行
14	労働力不足と技術革新	第４次産業は仕事を奪うのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】
小﨑敏男（2018）『労働力不足の経済学』日本評論社。

【参考書】
関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】
レポート(100%)を課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答の時間を積極的に活用したい。

【Outline (in English)】
Japanese economic theory B explores Japanese economic theory A more deeply and economically. In particular, we will deepen the relationship between population decline and the Japanese economy. By doing so, the positional relationship of Japan is now understood.
Students will be able to understand what is required of Japan now through this learning. In addition, as a result, the purpose is to be able to systematically understand economic articles and weekly magazines such as the Nihon Keizai Shimbun.
The goal is to acquire the basic knowledge necessary to consider the problems faced by the Japanese economy in individual fields, the means to solve them, and, of course, the basic knowledge necessary to understand economic articles in newspapers.
Impose a report (100%) and evaluate accordingly.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

国際経済論 A

武智　一貴

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。貿易利益・貿易政策の効果といったトピックを理解できることを目的とします。

【到達目標】
本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどう決定されるのか、貿易政策の影響はどういったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade? I(Gains from trade)	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
4	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
5	Market Structure and gains from trade I	競争的市場と独占市場
6	Market Structure and gains from trade II	独占市場における貿易の利益
7	Trade Policy	貿易政策とは何か
8	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
9	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
10	What do we trade? (Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	比較優位
11	General equilibrium	一般均衡の考え方
12	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
13	Strategic Trade Policy Analysis I	ゲーム理論の基礎
14	Strategic Trade Policy Analysis II	戦略的貿易政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各４時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
武智、東田、黒田著、トピックで読み解く国際貿易論、ミネルヴァ書房

【参考書】
石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣
ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂
Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】
課題（30%）および期末試験もしくはレポートの結果等(70%)により成績の評価をします.

【学生の意見等からの気づき】
エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する （All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】
This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade. Our learning objective is to understand the basic concepts of international trade. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments (30%) and final exam (or term paper) (70%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

国際経済論 A

田村　晶子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、ＦＴＡやＥＰＡなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】
貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はオンラインで行いますが、期末試験は対面で試験を行う予定です。パワーポイントを用いて講義し、キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	規模の外部経済	生産の国際立地
第8回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第9回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第10回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第11回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第12回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第13回	地域貿易協定の効果	ＦＴＡが与える影響
第14回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
Krugman, Obstfeld &Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023年
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策〔原書第10版〕上:貿易編』丸善出版、2017年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、2013年
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022年

【成績評価の方法と基準】
練習問題(12回を予定)（30％）と、期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】
進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 12 quizzes(30%) and term-end examination (70%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

国際経済論 B

武智　一貴

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

【到達目標】
本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。・課題等の提出やフィードバックについては「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	ISバランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か
5	Current account	経常収支とその分析
6	The relationship between current account and financial account	経常収支と金融収支
7	More on exchange rate	為替レート：平価レート
8	Price and exchange rate	購買力平価
9	PPP violation	なぜ購買力平価は成立しないのか
10	Real exchange rate	実質為替レート
11	An asset approach	アセットアプローチ
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォーワードプレミアムパズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Monetary policy and exchange rate	金融市場と為替レート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各４時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。

【参考書】
Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】
成績は課題（30%)、期末試験もしくはレポート等(70%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する （All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】
This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics. Our learning objective is to understand the basic concepts of international finance. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments (30%) and final exam (or term paper) (70%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

国際経済論 B

田村　晶子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2単位**

※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】
国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はオンラインで行いますが、期末試験は対面で行います。パワーポイントを用いて講義し、キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際収支表	国際収支表の項目
第2回	日本の国際収支	国際収支データの推移
第3回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第4回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第5回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第6回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第7回	金融政策と為替レート	オーバーシューティングモデル
第8回	長期の為替レート決定	購買力平価
第9回	実質為替レート	購買力平価からの乖離
第10回	固定為替レート	外国為替市場介入
第11回	国際通貨制度	通貨トリレンマ
第12回	金融のグローバル化	リスクと銀行危機
第13回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第14回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
Krugman, Obstfeld &Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023年
クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第10版〕下:金融編』丸善出版、2017年
清水順子・大野早苗・松原聖・川﨑健太郎著『徹底解説　国際金融』日本評論社、2016年
高木信二著「入門国際金融（第4版）」日本評論社、2011年

【成績評価の方法と基準】
練習問題（12回を予定）（30％）と期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. At the end of the course, students will comprehend the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. Students also comprehend balance of payments and the relation between current account and domestic economy.　Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 12 quizzes(30%) and term-end examination (70%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

財政学 A

小林　克也

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本では、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨らんでしまった政府債務残高や低成長に対する経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面している問題を理解します。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】
経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学はどのような内容か
2	市場の役割(1)	価格メカニズムの働き
3	市場の役割(2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
4	市場の役割(3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
5	財政の3つの機能(1)	資源配分機能（外部性、公共財）
6	財政の3つの機能(2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
7	財政の3つの機能(3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
8	政府の大きさ(1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
9	政府の大きさ(2) 財政と予算(1)	国民負担率 一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
10	財政と予算(2)	一般会計歳入(租税と公債)
11	財政と予算(3)	一般会計歳出(社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等)、プライマリーバランス
12	財政投融資	財政投融資の仕組み、財政投融資改革と規模の推移
13	予算のしくみと編成(1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
14	予算のしくみと編成(2)	予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。
財政学を通しで学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚(2018)『財政学15講』新世社。
授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムを利用しますので、学生のみなさんは、学習支援システムに確実に登録して下さい。特に、履修変更した方は、自分で学習支援システム上の登録をよく確認して下さい。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】
Course outline:
At present, Japanese government must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the Japanese government is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.
Learning objective:
The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

財政学 A

廣川　みどり

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本では、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨らんでしまった政府債務残高や低成長に対する経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面している問題を理解します。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】
経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第2回	市場の役割(1)	価格メカニズムの働き
第3回	市場の役割(2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
第4回	市場の役割(3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
第5回	財政の3つの機能(1)	資源配分機能（外部性、公共財）
第6回	財政の3つの機能(2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
第7回	財政の3つの機能(3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
第8回	政府の大きさ(1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
第9回	政府の大きさ(2)	国民負担率
	財政と予算(1)	一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
第10回	財政と予算(2)	一般会計歳入（租税と公債）
第11回	財政と予算(3)	一般会計歳出（社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等）、プライマリーバランス
第12回	財政投融資	財政投融資の仕組み、財政投融資改革と規模の推移
第13回	予算のしくみと編成(1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
第14回	予算のしくみと編成(2)	予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な考え方を用いるため、1年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞も使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間を、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。
財政学を通しで学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚(2018)『財政学15講』新世社。
授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんからの質問や提出された課題の採点を通じて、みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムを利用しますので、学生のみなさんは、学習支援システムに確実に登録して下さい。特に、履修変更した方は、自分で学習支援システム上の登録をよく確認して下さい。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】
Course outline:
At present, Japanese government must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the Japanese government is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.
Learning objective:
The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

財政学Ｂ

小林　克也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財政学Aの内容（財政学の考え方や日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】
私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり	財政学A のふりかえり。
	国と地方との関係(1)	地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係(2)	国から地方自治体への移転のつづき。
	租税の転嫁と帰着(1)	税の転嫁と帰着、直接税と間接税。
3	租税の転嫁と帰着(2)	課税の効果、間接税による影響。
4	租税の転嫁と帰着(3)	税の帰着、課税の余剰分析。
5	所得税、一般消費税、個別消費税の比較(1)	所得税と一般消費税の課税の効果。
6	所得税、一般消費税、個別消費税の比較(2)	所得税、一般消費税、個別消費税：3つの税の比較。
	消費税のしくみと制度(1)	日本の消費税の概略、付加価値税。
7	消費税のしくみと制度(2)	日本の消費税の歴史。消費税に関わる制度。
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論(1)	有効需要の原理、消費関数。
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論(2)	政府支出増大と乗数効果。
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論(3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果。
11	IS-LM 分析(1)	財市場の均衡と投資関数。政府支出増大によるISのシフト。
12	IS-LM 分析(2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、その均衡。貨幣供給増大によるLMのシフト。
13	IS-LM 分析(3)	ISとLMの交点。財政政策・金融政策の効果。
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題。MMTの考え方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。
財政学を通しで学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚(2018)『財政学15講』新世社。
授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムを利用しますので、学生のみなさんは、学習支援システムに確実に登録して下さい。特に、履修変更した方は、自分で学習支援システム上の登録をよく確認して下さい。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】
Course outline:
Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.
Learning objective:
The goal of this course is to understand various polices implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

財政学Ｂ

廣川　みどり

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財政学Aの内容（財政学の考え方や日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】
私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり	財政学Ａのふりかえり
	国と地方との関係(1)	地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係(2)	国から地方自治体への移転のつづき
	租税の転嫁と帰着(1)	税の転嫁と帰着、直接税と間接税
3	租税の転嫁と帰着(2)	課税の効果、間接税による影響
4	租税の転嫁と帰着(3)	税の帰着、課税の余剰分析
5	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(1)	所得税と一般消費税の課税の効果
6	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(2)	所得税、一般消費税、個別消費税：3つの税の比較
	消費税のしくみと制度(1)	日本の消費税の概略、付加価値税
7	消費税のしくみと制度(2)	日本の消費税の歴史、消費税に関わる制度
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論(1)	有効需要の原理、消費関数
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論(2)	政府支出増大と乗数効果
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論(3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果
11	IS-LM 分析(1)	財市場の均衡と投資関数 政府支出増大によるISのシフト
12	IS-LM 分析(2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、およびその均衡 貨幣供給増大によるLMのシフト
13	IS-LM 分析(3)	ISとLMの交点 財政政策・金融政策の効果
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題 MMTの考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。
財政学を通しで学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚(2018)『財政学15講』新世社。
授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムを利用しますので、学生のみなさんは、学習支援システムに確実に登録して下さい。特に、履修変更した方は、自分で学習支援システム上の登録をよく確認して下さい。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】
Course outline:
Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.
Learning objective:
The goal of this course is to understand various polices implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

金融論 A

武田　浩一

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，初めて金融を学ぶ人を対象として，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて，まず金融に興味を持ってもらい，さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
今年度の本講義は，原則として対面講義形式で行います。
この講義では，「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように，日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて，少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において，今動いている金融の実態に即したup-to-dateな金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように，金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには，それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。
講義のフィードバックは，授業の際や学習支援システム経由で行うほか，個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション：金融とは	金融とは何か
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第5回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第6回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第7回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第13回	マネーストック	マネーストックとは何か
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学入門などで学ぶ経済学の基礎知識があれば，金融論の理解はより深まります。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣，2011年刊）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。
授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20％）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に出題します。

【学生の意見等からの気づき】
関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】
受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示、フィードバックなどに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.
Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

金融論 A

高橋　秀朋

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、金銭の貸借やそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】
本講義の目標は、金融システムにおける諸問題を経済学的観点から理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようになることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、後半の演習回では課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。また、EXCELを利用したセミナー形式の演習もあわせて行う。本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するための基本的なフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義ではEXCELを利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示しいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	金融の役割	異時点間、異状態間の所得移転
3	貨幣の時間価値1	将来価値、現在価値
4	貨幣の時間価値2	株価、債券価格の計算への応用
5	貨幣の時間価値3	株価、債券価格の計算への応用
6	債券管理	金利リスク
7	リスク評価1	2状態モデルによるリスク評価
8	リスク評価2	複数状態モデルと分散化
9	リスク評価3	複製戦略によるオプション評価
10	リスク評価4	状態価格によるオプション評価
11	演習1	小テスト（将来のCFが確実な証券の価格評価）
12	演習2	小テスト（将来のCFが不確実な証券の価格評価）
13	演習3	EXCELの関数を利用した将来価値、現在価値の計算
14	演習4	リスク資産の収益率の記述統計量（EXCEL利用）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、講義後に取り扱った計算例を復習するとともに、日本経済新聞、ロイター、ＦＴ等に掲載された市場の価格情報を通じて学習した内容がどのように活用されているのかを実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）
※当該テキストのPart 2が学習の対象

【成績評価の方法と基準】
評価は期末試験80％、4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてアップロードしておく。
※昨年度は対面/オンラインのハイブリッド運用

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. This course also shows what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems in the real world from the academic perspective. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be evaluated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

金融論 B

武田　浩一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，金融の基本的な仕組みを紹介し，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は，初めて金融を学ぶ学生に，まず金融の面白さに触れてもらい，さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
今年度の本講義は，原則として対面講義形式で行います。
この講義では，金融市場の動向や金融取引の仕組み，貸出市場とメインバンク，新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は，近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており，従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが，この講義では，金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって，金融市場はどのように機能し，そこで市場参加者はどのように行動しているのか，また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか，などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。
講義のフィードバックは，授業の際や学習支援システム経由で行うほか，個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か
第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とプルーデンス政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第14回	企業金融	企業の資金調達について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学入門などで学ぶ経済学の基礎知識があれば，金融論の理解はより深まります。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣，2011年刊）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。
授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20％）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に出題します。

【学生の意見等からの気づき】
関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】
受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.
Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

金融論Ｂ

高橋　秀朋

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを一通り学習した者を対象として、金融システムの役割や現実の金融における諸問題を分析する力を身につけることにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを、金融論Ａの知識を発展させ、情報の経済学を利用して分析する。

【到達目標】
本講義の目標は、金融論Ａで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、金融取引における情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、後半の演習回に課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。また、EXCELを利用したセミナー形式の演習もあわせて行う。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示しいく。金融論Ｂではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融論Ａの復習	金融の機能
2	リスクと資産評価	債券、株式の評価
3	情報の非対称性１	逆選択問題
4	情報の非対称性２	モラルハザード
5	情報の非対称性３	自己選択、インセンティブメカニズム
6	契約の不完備性	不完備契約における諸問題
7	金融市場と仲介機関	金融市場概観
8	金融市場への応用１	証券の発行市場
9	金融市場への応用２	証券の流通市場
10	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
11	演習１	小テスト（2状態モデルとリスク）
12	演習２	小テスト（逆選択）
13	演習３	小テスト（モラルハザード）
14	演習４	小テスト（契約の不完備性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みているため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、ＦＴ等の経済情報に目を通してその内容を実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】
村瀬英彰『新エコノミクス　金融論　第2版』（日本評論社、2016年）

【参考書】
F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）
※当該テキストのPart 3 およびPart 4が対象。

【成績評価の方法と基準】
評価は期末試験80％、4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてアップロードしておく。
※昨年度は対面/オンラインのハイブリッド運用

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to introduce more sophisticated concepts and frameworks than those students learn in Monetary and Finance A (Kin-yuron A). Students are expected to acquire ablity to analyze real financial activities with knowledge ralated to information economics. In this lecture, employing the information theory and fundamental knowledge of Finance, we apply the theories to analysis of the real world. The goal of this course is to obtain abilities to apply economic tools to the real world. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

計量経済学 A

宮﨑　憲治

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業を受講することによって, 古典的な回帰分析の理論を説明することができ, 一部の実証論文の内容を理解することができ, EXCEL をもちいて実証分析ができるようになり, 現代の社会について主体的に考察できるようになる.

【到達目標】
誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を, テキストにしたがって講義する. データの扱い方, 確率論の復習, 統計学の復習, 単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する. 適宜宿題を課し, 授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストにしたがって, 講義をする. 適宜宿題を課し, 「学習支援システム」を通じて採点する. 授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す. 原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布 2つ以上の事柄の確率変数
6	計量経済学のための確率論	連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは? 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか? 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か?
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている. またレポート課題がある.本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中隆一 (2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】
山本拓・竹内明香 (2013)「入門計量経済学―Excelによる実証分析へのガイド (経済学叢書Introductory)」 新生社
中室牧子・津川友介 (2017)「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社
伊藤公一朗 (2017)「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】
数式をなるべく使わないように心がけたい.

【学生が準備すべき機器他】
大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが, 自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい.

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります.

【Outline (in English)】
（Course outline）
When you take this class, you are able to explain the theory of classical regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using EXCEL.
（Learning Objectives）
Classical regression analysis where the error term follows a normal distribution will be taught according to the text. Review of probability theory, review of statistics, and basics of simple and multiple regression models will be covered.
（Learning activities outside of classroom）
Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy）
Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

計量経済学Ｂ

宮﨑　憲治

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業を受講することによって, 現代的な回帰分析の理論を説明することができ, 一部の実証論文の内容を理解することができ, R をもちいて実証分析ができるようになり, 現代の社会について主体的に考察できるようになる.

【到達目標】
誤差項が正規分布にしたがわないの現代的な回帰分析を, テキストにしたがって講義する. 重回帰モデルの復習, 頑健な標準偏差, 操作変数法, パネル分析などを講義する. 適宜宿題を課し, 授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストにしたがって, 講義をする. 適宜宿題を課し,「学習支援システム」を通じて採点する. 授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す. 原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら? 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている. またレポート課題がある.本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中隆一 (2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】
星野匡郎, 田中久稔 (2016)「Rによる実証分析 ―回帰分析から因果分析へ」オーム社
中室牧子・津川友介 (2017)「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社
伊藤公一朗 (2017)「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】
数式をなるべく使わないように心がけたい.

【学生が準備すべき機器他】
大学のパソコンにも導入されている R を用いますが, 自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい.

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります.

【Outline (in English)】
（Course outline）
When you take this class, you are able to explain the theory of modern regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using R.
（Learning Objectives）
Modern regression analysis where the error term does not follow a normal distribution will be taught according to the text. Review of multiple regression models, robust standard error, instrumental variables regression, panel analysis, etc. will be covered.
（Learning activities outside of classroom）
Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy）
Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）

企業と経済・応用Ａ

鈴木　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期は1年次の「企業と経済・基礎」に続く内容として、「独占・寡占とその応用」「ゲーム理論の基礎」「交渉とオークション」を中心に学習する。受講生は、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を習得し、現実経済（特に企業経済）を考察する力をさらに高めることができる。

【到達目標】
1年次の「企業と経済・基礎」(ミクロ・パート)からの接続を意識し、そこからの積み上げとして、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は授業用のレジュメ、後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論　第2版』を使って授業を進める。講義では、過年度に好評だった「Zoomによる動画配信」のコンテンツも活かしながら、丁寧に進めていきたい。受講生は、リアクションペーパーや課題提出の積み重ねが、最終試験の準備としても重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせて行う。授業形態は対面授業であるが、「Zoom動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	完全競争企業	復習。価格所与の下での利潤最大化行動。
第2回	独占企業①	独占企業の行動原理。最適解(独占価格公式)の導出と図解①
第3回	独占企業②	独占企業の行動原理。最適解(独占価格公式)の導出と図解②
第4回	独占企業③	応用問題：価格差別とその応用。部品の内製ｖｓ外部市場調達など。
第5回	寡占企業①	クールノー競争(数量競争)
第6回	寡占企業②	ベルトラン競争(価格競争)
第7回	寡占企業③	シュタッケルベルク競争(先手・後手の区別) 3つのモデルの比較(余剰分析)
第8回	ゲーム理論の基礎①	ナッシュ均衡
第9回	ゲーム理論の基礎②	サブゲーム完全均衡
第10回	ゲーム理論の基礎③	支配戦略、弱支配戦略、被支配戦略の繰り返し削除など。
第11回	交渉とオークション①	展開型交渉ゲーム
第12回	交渉とオークション②	ナッシュ交渉問題
第13回	交渉とオークション③	オークション①基礎
第14回	交渉とオークション④	オークション②応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書『完全理解　ゲーム理論・契約理論　第2版』勁草書房2021　および　授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）を怠らないこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木豊『完全理解　ゲーム理論・契約理論　第2版』勁草書房2021

【参考書】
1. マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
2. ミルグロム＋ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳)NTT出版
3. アセモグル＋レイブソン＋リスト『ALL ミクロ経済学』（岩本訳）東洋経済
4. 伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社
5. 伊藤元重『ビジネス・エコノミックス　第２版』日本経済新聞出版
6. 梶井・松井『ミクロ経済学　戦略的アプローチ』日本評論社
7. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム上で課された課題提出（2回）、リアクションペーパーの内容、最終試験（教科書・授業ノート参照可）の合計で評価する。評価ウェイトは、課題提出（練習問題への解答）（45％）、リアクションペーパー（５％）、最終試験（50％）の予定である。

【学生の意見等からの気づき】
説明はできるだけ分かりやすく、丁寧に行うよう心がけたい。簡単な数値例や図を使い、レジュメなども配って、直観的理解に訴える工夫を心がける。後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿った形で進め、内容をフォローしやすくする。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。

【Outline (in English)】
In the spring semester, students will focus on "monopoly, oligopoly and their applications," "basics of game theory," and "bargaining and auction" as a content that follows the "Elementary Business Economics" of the first year. Students will be able to acquire more advanced concepts, ideas, and analytical methods of economics related to firms and businesses, and further enhance their ability to analyze the industrial economy. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content. Grading is based on Two Assignments (Problem Sets as Homework)(45%), Reaction Papers (5%), and a Final Exam (50%).

ECN200CD（経済学 / Economics 200）

企業と経済・応用Ｂ

河村　真

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業と経済基礎Ａで均衡GDP（国民所得）の決定の説明（45°線分析）を学習した。その延長線上として、GDP（国民所得）と金利の水準を同時に決定する説明（IS-LM分析）さらに、GDP（国民所得）と物価水準を同時に決定する説明（総需要-総供給分析）を理解することが本講義の目的の一つである。これらの説明に基づき（応用問題として）、財政政策及び金融政策がGDP（国民所得）、金利および物価水準への効果を自分で予測できるようになることが第二の目的である。

【到達目標】
・IS-LM分析に基づくGDP（国民所得）および金利の水準の決定の仕組みを理解する。
・総需要-総供給分析に基づくGDP（国民所得）および物価の水準の決定の仕組みを理解する。
・財政政策及び金融政策が金利およびGDP（国民所得）にあたえる効果を予測できるようになる。（IS-LM分析の仕組みに基づき）
・財政政策及び金融政策が物価水準およびGDP（国民所得）にあたえる効果を予測できるようになる。（総需要-総供給分析の仕組みに基づき）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業により行う。秋学期中に、１回課題を出すので、１週間を目途に授業支援システムの「課題」にその解答をアップしてほしい。締め切り直後に、授業内で正解の解説を行う。後半の５回分は、zoomによる授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学の理論に基づきGDP、金利、物価水準の動きを説明する理由
2	消費関数と貯蓄関数	消費関数の復習とその裏表の関係にある貯蓄関数の説明（限界貯蓄性向）
3	投資関数	投資関数の背後にある投資の水準の決定の考え方（機会費用）
4	IS曲線の導出－財市場の均衡－	貯蓄関数と投資関数を組み合わせ、財市場を均衡させる金利とGDP（国民所得）の組み合わせの導出
5	貨幣供給	中央銀行による貨幣供給の仕組み（マーシャルのkなど）
6	貨幣需要	IS-LM分析における貨幣需要の考え方および貨幣需要関数（取引的動機および投機的動機に基づく）
7	LM曲線の導出－貨幣市場の均衡－	貨幣市場を均衡させる金利とGDP（国民所得）の水準の導出
8	IS-LM分析に基づく均衡GDPおよび金利の水準の決定－財市場および貨幣市場の同時均衡－	IS-LM分析に基づく２つの市場を均衡させるGDP（国民所得）および金利の水準の導出
9	IS-LM分析に基づく財政政策・金融政策の効果	金融政策及び財政政策美変化が金利およびGDP（国民所得）の水準に与える効果の予測（IS-LM分析に基づき）
10	総需要曲線の導出	貨幣市場および財市場を同時に均衡させるGDP（国民所得）と物価水準の導出
11	生産関数および労働需要曲線	国全体の生産と生産要素需要の決定
12	労働市場を均衡させるGDP及び物価水準の関係－総供給曲線の導出－	総供給曲線の導出（労働市場を均衡させる物価水準とGDP（国民所得）の水準の導出
13	総需要-総供給分析に基づく物価水準とGDP（国民所得）の導出	財市場、貨幣市場および労働市場を同時に均衡させるGDP（国民所得）および物価水準の導出
14	総需要ー総供給分析に基づく金融政策、財政政策の効果	金融政策および財政政策の変化がGDP（国民所得）および物価水準に与える効果の予測

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
対面授業の回については、基本的に板書で説明を行う。その際は、授業を録画し、その録画ファイルのzoomでのリンクをお知らせする。オンラインの授業の回については、授業の説明に使った電子ノートのPDFファイルを授業支援システムにアップする。本授業は、主に図による説明により行う。そのため、複雑な図による説明や例題もあるので、録画ファイルまたはPDFファイルでの復習が２時間程度必要と思われる。

【テキスト（教科書）】
特に指示しない。参考書は、要望が多ければ、授業の際に紹介する。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、基本的に、期末試験期間中の授業曜日、授業時限開始時に期末課題を授業支援システムの「課題」にアップします。解答作成し、「解答」を収めたファイルを、授業曜日、授業時限中に、「課題」にアップにより提出してもらいます。その課題解答の素点に関して85%、１回行う学期内での課題提出の状況（提出の有無）に関して15%のウェイトで評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義での板書は、ほぼ図解の説明によるため、図解の中で、書き込みの多いものについては、なるべく大きく示すよう心掛ける。

【Outline (in English)】
The objective to this course is to understand IS-LM model, and AD(Aggregate Demand)-AS(Aggregate Supply) model to determine the levels of interest rate, price level, and GDP in short run. Moreover, The effects of fiscal and monetary policy on GDP, price level and, interest rate could become to be determined, based on IS-LM model, and AD-AS model.
The learning objectives are for students to determine the levels of GDP, interest rate, and overall price, and predict the effects of fiscal/monetary policies on GDP,interest rate, and overall price level correctly, based on IS-LM model and, AS-AD model.
More than 2 hours are required to get the views of many graphical explanations, and follow the logic of these, after each classroom.
Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination: 90%, Mid-term report: 10%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

現代ファイナンス入門A

湯前　祥二

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します．ファイナンスでは，リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて，資産運用にまつわる具体的な問題を扱います．

【到達目標】
株式会社について理解し，株式の理論価格を計算することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち，賢い選択をする」ための道具です．日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で，ポイントは無駄（無駄な手数料，無駄なリスク）を省くことです．
春学期は，株式の理論価格を題材にして，リターンを中心に学びます．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ，製造，販売，決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書，貸借対照表，改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュポン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステイナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「学習支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
井手正介，高橋文郎（2001），証券投資入門，日本経済新聞社．
井手正介，高橋文郎（2005），証券分析入門，日本経済新聞社．
井出正介（2008），株式投資入門，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

【Outline (in English)】
This course is a primer on finance.
It deals with specific issues concerning asset management.
The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

現代ファイナンス入門Ｂ

湯前　祥二

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します．ファイナンスでは，リターンとリスクという２つのキーワードを中心に据えて，資産運用にまつわる具体的な問題を扱います．

【到達目標】
リターンとリスクについて理解し，両者を計算で求め，投資判断に用いることができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち，賢い選択をする」ための道具です．日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で，ポイントは無駄（無駄な手数料，無駄なリスク）を省くことです．
秋学期はリスクを扱います．リスク管理に必要な，リスク指標の計算方法や，リスク分散を学びます．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第２回	インデクス運用	市場ポートフォリオ
第３回	アクティブ運用	成功の条件
第４回	複利	最初の数字の賭け，割り算距離
第５回	複利計算の頻度	半年複利，連続複利
第６回	確定利付証券	元本，クーポン
第７回	金利期間構造	期間構造仮説
第８回	リスク管理	金融工学の機能
第９回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差とVaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「学習支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．本授業の準備学習・復習時間は，各２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
井手正介，高橋文郎（2001），証券投資入門，日本経済新聞社
井手正介，高橋文郎（2005），証券分析入門，日本経済新聞社
井出正介（2008），株式投資入門，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

【Outline (in English)】
This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.
The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

経済データ分析 A

明城　聡

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データサイエンスの一環として統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。EXCELでの演習を通じて基本的なデータ処理の方法も学ぶ。

【到達目標】
統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、PC上でEXCELを使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使ってExcelを用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excelと統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定(1)	・仮説検定と有意水準 ・1つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定(2)	・2つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較(1)	・分散分析 ・1元配置法
12	平均に関する群間比較(2)	・2元配置法 ・相互効果
13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
PCを使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準4時間）

【テキスト（教科書）】
必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】
計量経済学の参考書として以下をオススメします。
・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015
統計学の参考書には以下をあげます。
・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】
宿題(30%)と課題レポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報処理室でPCを利用します。必要に応じてUSBメモリなどを準備して下さい。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
Outline: This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in exercises using PC and statistical software (MS Excel).
Goal: To master basics of statistics and econometrics, and data-analysis skills using MS Excel.
Extracurricular exercise: weekly homework assignments need to be submitted through the online system (4 hours)
Grading: homework(30%) and final report(70%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

経済データ分析Ｂ

明城　聡

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データサイエンスのスキルを身に着けるため、統計パッケージを利用したより高度な経済データの分析手法を学ぶ。

【到達目標】
この統計パッケージRを用いた演習を行います。Rの特徴はExcelよりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学の手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学とRの操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	Rの設定	・Rについて ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	Rの操作とデータ管理(1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	Rの操作とデータ管理(2)	・基本統計量
5	Rの操作とデータ管理(3)	・行列の操作
6	Rの操作とデータ管理(4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰(1)	・クロスセクションデータ ・K変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
8	クロスセクションデータに対する線形回帰(2)	・Rでの回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰(3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習(1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰(1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰(2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman検定
13	演習(2)	・パネルデータを用いた演習
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期の経済データ分析Aに加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。
毎回の講義内容をしっかり復習して下さい（標準4時間）。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてレジメを配布します。

【参考書】
Rの操作やデータ分析については
・「Rによる統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店、2009
・「Rによる計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店、2011
計量経済学については
・山本拓「計量経済学」新世社、1995
・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015
統計学の参考書には以下をあげます。
・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】
宿題(30%)と課題レポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報処理室でPCを使うので、必要に応じてUSBメモリ等を用意して下さい。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
Oulline: Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.
Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).
Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).
Grading: homework assignment (30%), final report (70%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）

経済地理

近藤　章夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、経済地理学のアプローチについて立地論から概説する。産業ごとの立地の違いや現代経済における立地パターンなどを事例にあげて、立地の経済的論理を理解することを目的とする。

【到達目標】
産業立地の理論と実際を学ぶことによって、現代経済における多様な地理景観の形成を経済学のメカニズムから理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では経済立地や産業立地の基礎モデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	立地論の基礎	立地論の基礎概念と系譜
第3回	産業立地の基礎①	農業立地論の基礎と応用
第4回	産業立地の基礎②	工業立地論の基礎と応用
第5回	産業立地の基礎③	中心地理論の基礎と応用
第6回	都市と集積の立地論①	都市内部構造と都市システムの理論
第7回	都市と集積の立地論②	集積と空間経済の理論
第8回	立地論の応用①	現代工業の立地調整と組織的立地論
第9回	立地論の応用②	グローバリゼーションと立地
第10回	立地論の応用③	商業・流通と立地論
第11回	立地論の応用④	創造性と文化産業の立地
第12回	立地論と政策①	国土政策の歩み
第13回	立地論と政策②	都市地域政策の現状と問題点
第14回	まとめ・総括	立地論の課題と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
鈴木洋太郎（2009）『産業立地論』原書房
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】
Course outline:
This lecture will provide an overview of the industrial location theory from the perspective of economic geography. The objective is to understand the economic logic of location, with examples of locational differences in industries and location patterns in the modern economy.
Learning Objectives:
By learning the theory and practice of industrial location, students will understand the formation of diverse geographic landscapes in the modern economy through the mechanisms of economics.
Learning activities outside of classroom：
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CD（経済学 / Economics 200）

産業集積論

近藤　章夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、各産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。

【到達目標】
現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料をもとに行い、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第3回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第4回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第5回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第6回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第7回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第8回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第9回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第10回	自動車大国日本の行方②	日本的生産システムとグローバル戦略
第11回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第12回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第13回	知識経済化とグローカル・マーケティング時代	商品連鎖、クラスター、ネットワーク、イノベーション
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
橘川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
松原　宏編（2018）『地域経済論入門（改訂版）』古今書院

【成績評価の方法と基準】
中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】
Course outline and objectives:
This lecture focuses on the history and geography of industry, and outlines the impact of the modern industry on regional economies, with the aim of cultivating concrete and practical thinking skills about the mechanisms of the rise and fall of industrial regions and industrial agglomerations.
Learning activities outside of classroom：
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

MAN200CA（経営学 / Management 200）

コーポレートガバナンス論Ａ

胥　鵬

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Aのテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使と企業のガバナンスの関連を理解する。

【到達目標】

株式会社は株主によって所有され、株主は株主総会で議決権を行使することで経営の重要事項に自らの意見を反映させる。最近、海外ファンドなどの大株主が反対を表明したため、東芝が提案した会社の２分割計画が臨時株主総会で株主の反対多数で否決されたケースは、コーポレートガバナンスの一例である。コーポレート・ガバナンス論Aの学習目標は、株主総会と議決権行使との関連で、機関投資家などの大株主の議決権行使の個別開示などのスチュワードシップ・コード制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。

インターネットやオンラインデータベースなどをを通じて、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてデータ資料を収集し、グループで議論し、課題解決型学習を行う、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第２回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第３回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第４回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第５回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第６回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第７回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第８回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第９回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第10回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第11回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第12回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第13回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第14回	課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいて課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭［2007］(編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編［2011］『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 白桃書房 2020年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間課題レポート(50%)と学期レポート(50%)。なお、中間課題合格評価は成績評価に必須。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

ＭＢＯ、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn voting rights, the general shareholders' meeting, the roles of the Japan Stewardship Code, and the market for control. The goals of this course are to understand how corporate governance systems mitigate the conflicts between shareholders and management. Before/after each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Midterm assignment (50%) and term report (50%) are both required for grading. Please note that passing the midterm assignment is essential for grade evaluation.

MAN200CA（経営学 / Management 200）

コーポレートガバナンス論Ｂ

胥　鵬

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Ｂのテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

世間で上場企業の社長は偉いと思われているが、実際には社長などのトップ経営者は、株主総会の議決で選任される。社長やCEOは、会社法上の代表取締役や代表執行役である。株主の最も重要な権限は、取締役を選任することである。2021年6月25日、東芝の定時株主総会で計１１人の取締役選任案のうち、取締役会議長ら２人の再任が反対多数で否決されたケースは、コーポレート・ガバナンスの一例である。また、経営者全体の報酬も株主総会の議決で決議されることが多い。この授業の学習目標は、取締役選任や取締役報酬との関連で、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、日本版コーポレート・ガバナンス・コード及びESGなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第2回	取締役会	規模、構成と独立性
第3回	監査役の義務	監査役は目付役
第4回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第5回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第6回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第7回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第8回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第9回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第10回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進
第11回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第12回	1億円以上役員報酬の開示	1億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第13回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第14回	学期課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭［2007］(編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編［2011］『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 白桃書房 2020年
参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間課題レポート(50%)と学期課題レポート(50%)の合格評価はいずれも必須。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

ＭＢＯ、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory B is to learn the board of directors and the roles of the Japan Corporate Governance Code. The goals of this course are to understand how the board of directors works to mitigate the conflicts between shareholders and management. Before each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Passing midterm assignment (50%) and term report (50%) are both required for grading.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

企業経営史 A

飯塚　陽介

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。Aでは、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。

【到達目標】
（1）日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
（2）歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
（3）企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面式の回とオンライン実施の回とがあります（オンライン回を最大3回程度追加する可能性があります）。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経営史学とは何か？	経営史学の歴史とその問題意識
2	「規模の経済」の発見と企業者活動	産業革命期の企業者活動
3	市場経済の中の企業	産業革命期の企業活動
4	在来産業における革新	産業革命期の在来産業における革新
5	産業革命と金融ビジネス	産業革命を支える金融ビジネス
6	大量生産体制への途	製造業における互換性生産
7	見えざる手から見える手へ	アメリカにおける大企業の出現
8	経営階層組織と専門経営者の出現	鉄道業における経営階層組織
9	経営者企業の成立	米国大企業の国際化・多角化
10	ヨーロッパにおける現代企業の登場	ヨーロッパにおける大企業の出現
11	ヨーロッパ大企業の組織と経営者	ヨーロッパ大企業の組織
12	日本における大企業の形成	後発性ゆえの大規模性
13	両大戦間期日本のビジネス	産業構造の変化、財閥のコンツェルン化など
14	前期の振り返り	13回目講義までに終えられなかった内容、前期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）学期末の期末レポートに向けての調査・研究（20時間）
（2）毎回の確認小テスト（各回2時間）。
（3）授業内で紹介した関連文献からの学習（8時間）

【テキスト（教科書）】
関連文献は毎回の講義にて紹介します。

【参考書】
鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。

【成績評価の方法と基準】
（1）授業後の確認小テスト（30％）（到達目標（1）・（2）と関連します）
（2）期末テスト及び研究計画書（70％）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】
特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】
企業経営に関する基礎的な知識があることが望ましい。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to review the course content and answer the quiz after each class meeting. This will take 2 hours for a class. In addition, students will be expected to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. This will take 20 hours.Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

企業経営史Ｂ

飯塚　陽介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。Bでは、日米欧における大企業体制の形成以降の時期を対象とします。

【到達目標】
（１）日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
（２）歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
（３）企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面式の回とオンライン実施の回とがあります（オンライン回を最大7回程度追加する可能性があります）。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前期の振り返り	レポートの総括と前期の振り返り
2	アメリカの大企業体制	大企業体制の成立と「豊かな社会」の出現。
3	「豊かな社会」が生みだしたもの	「豊かな社会」を背景としたビジネスシステム。
4	政府の関与が生みだしたもの	政府の関与による新しい産業の出現。
5	ヨーロッパの大企業	戦後ヨーロッパにおける大企業の出現と「アメリカ化」の限界。
6	戦後改革とその影響	戦後改革の戦後企業システムへの影響。
7	日本のビジネス・システム	企業集団やメインバンク・システムについてのその形成と機能。
8	日本型雇用制度の生成	日本型雇用制度の「三種の神器」の生成。
9	消費の大衆化と企業の対応	大衆消費社会の形成と企業行動。
10	モノ離れの時代と企業行動	サービス業における企業行動。
11	戦後日本の政府・民間関係	戦後日本における産業政策。
12	戦後日本の大企業体制	日本企業の戦略・組織における特色と問題点。
13	大企業体制下の産業集積	大企業体制下の産業集積と金融センターの興亡
14	ポスト大企業体制の時代	経営者企業への進化は必然なのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（１）学期末の期末レポートに向けての調査・研究（20時間）
（２）毎回の確認小テスト（各回2時間）。
（３）授業内で紹介した関連文献からの学習（8時間）

【テキスト（教科書）】
関連文献は毎回の講義にて紹介します。

【参考書】
鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。

【成績評価の方法と基準】
（１）授業後の確認小テスト（30％）（到達目標（1）・（2）と関連します）
（２）期末テスト及び研究計画書（70％）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】
特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】
春学期の「企業経営史A」も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to review the course content and answer the quiz after each class meeting. This will take 2 hours for a class. In addition, students will be expected to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. This will take 20 hours.Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

MAN300CA（経営学 / Management 300）

企業経営論 A

内田　彬浩

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では企業経営を体系的に理解するために、経営学の各分野における基本的な考え方について学ぶ。またその経営学の基本的な考え方に沿って自らのビジネスアイデアを具体化してプレゼンテーションし、クラス全体で議論することを通じて、それらの考え方を実践的に活用できるようになることを目指す。

【到達目標】
(1) 経営学の各分野における基本的な考え方を理解する
(2) 経営学の各分野における基本的な考え方を実際の事例と結び付けて議論できるようになる
(3) 議論・検討した内容を整理して効果的にプレゼンテーションできるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
以下の講義・演習・発表・討議のサイクルにより授業を進める。
(1) 講義：経営学の基本的な考え方について解説する
(2) 演習：グループに分かれてビジネスアイデアを立案し、経営学の基本的な考え方に沿って具体化するための検討を行う
(3) 発表：各グループで検討した結果をプレゼンテーションする
(4) 討議：各グループの発表内容についてクラス全体で質疑・議論する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要および進め方について説明する。また提示された課題に取り組む。
2	ビジネスモデル	前回の講義を踏まえて設定されたグループで課題に取り組む。
3	企業論・経営戦略論1（講義・演習）	会社はどのようにして社会に役立ち、どのような方針で動いているのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
4	企業論・経営戦略論2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
5	企業形態論・経営組織論1（講義・演習）	会社は誰がどんな仕組みで動かしているのか、他の会社とどのように協力しているのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
6	企業形態論・経営組織論2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
7	競争戦略論・マーケティング論1（講義・演習）	会社はどのようにして商品を提供するのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
8	競争戦略論・マーケティング論2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
9	国際経営論・会計制度1（講義・演習）	会社は海外でどのように経営しているのか、会社の利益はどのように測定するのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
10	国際経営論・会計制度2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
11	人的資源管理論・生産管理論1（講義・演習）	会社で働く社員と生産管理について学ぶ。また提示された課題に取り組む。
12	人的資源管理論・生産管理論2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
13	講義のまとめ・最終プレゼンテーション準備	これまでの講義内容について整理し、最終プレゼンテーションにむけた準備を行う。
14	最終プレゼンテーション	講義全体を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「経験から学ぶ経営学入門（第3版）」2024年, 有斐閣ブックス

【参考書】
特に定めない。

【成績評価の方法と基準】
各回の発表内容：60%
クラス全体での議論への貢献：40%

【学生の意見等からの気づき】
理解の促進のため、企業事例の紹介等をより重視する。

【学生が準備すべき機器他】
調査や発表の準備・実施に必要となるため、PCを準備すること。

【その他の重要事項】
履修にあたっては、本講義では筆記試験を行わず、グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションが授業および成績評価の主な要素となることに留意してください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this class, learn basic concepts of business administration to understand business management systematically. The goal is to enable students to put these concepts into practice by presenting and discussing business ideas aligned with basic concepts of business in class.
【到達目標（Learning Objectives）】
(1) Understand the basic concepts of business administration
(2) To be able to discuss practical cases in accordance with the basic concepts of business administration
(3) To be able to organize and effectively present what has been discussed
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
The standard time to prepare and review for this class is four hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Presentations at each class: 60%
Contribution to the class discussion: 40%

MAN300CA（経営学 / Management 300）

企業経営論Ｂ

内田　彬浩

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では企業経営についてより深く理解するために、企業経営における重要な論点であるイノベーションに関する基本的な考え方について学ぶ。またそのイノベーションに関する基本的な考え方を踏まえて実際の企業について調査してプレゼンテーションし、クラス全体で議論することを通じて、それらの考え方を実践的に活用できるようになることを目指す。

【到達目標】
(1) イノベーションに関する基本的な考え方を理解する
(2) イノベーションに関する基本的な考え方を実際の事例と結び付けて議論できるようになる
(3) 議論・検討した内容を整理して効果的にプレゼンテーションできるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
以下の講義・演習・発表・討議のサイクルにより授業を進める。
(1) 講義：イノベーションに関する基本的な考え方について解説する
(2) 演習：グループに分かれてイノベーションの事例を調査し、イノベーションに関する基本的な考え方に沿って検討・整理する
(3) 発表：各グループで検討した結果をプレゼンテーションする
(4) 討議：各グループの発表内容についてクラス全体で質疑・議論する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要および進め方について説明する。また提示された課題に取り組む。
2	イノベーション事例の調査	前回の講義を踏まえて設定されたグループで課題に取り組む。
3	イノベーションの歴史・イノベーションと企業の栄枯盛衰1（講義・演習）	イノベーションの全体像について学ぶ。特にその歴史と企業の栄枯盛衰に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
4	イノベーションの歴史・イノベーションと企業の栄枯盛衰2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
5	産業とイノベーション・イノベーションの測定1（講義・演習）	イノベーションの全体像について学ぶ。特にその産業との関係と測定方法に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
6	産業とイノベーション・イノベーションの測定2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
7	アントレプレナーシップ・資源動員と知識創造・新製品開発1（講義・演習）	イノベーションの創出プロセスについて学ぶ。特にアントレプレナーシップ、資源動員と知識創造、新製品開発マネジメントに焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
8	アントレプレナーシップ・資源動員と知識創造・新製品開発2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
9	イノベーションと企業戦略・イノベーションと企業間システム1（講義・演習）	イノベーションの創出プロセスについて学ぶ。特に企業戦略および企業間システムとの関係に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
10	イノベーションと企業戦略・イノベーションと企業間システム2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
11	イノベーション創出のための知的財産権の制度とマネジメント1（講義・演習）	イノベーションと経済政策の関係について学ぶ。特に知的財産権の制度とマネジメントに焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
12	イノベーション創出のための知的財産権の制度とマネジメント2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
13	講義のまとめ・最終プレゼンテーション準備	これまでの講義内容について整理し、最終プレゼンテーションにむけた準備を行う。
14	最終プレゼンテーション	講義全体を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「マネジメント・テキスト イノベーション・マネジメント入門（新装版）」2022年, 日本経済新聞出版

【参考書】
特に定めない。

【成績評価の方法と基準】
各回の発表内容：60%
クラス全体での議論への貢献：40%

【学生の意見等からの気づき】
理解の促進のため、企業事例の紹介等をより重視する。

【学生が準備すべき機器他】
調査や発表の準備・実施に必要となるため、PCを準備すること。

【その他の重要事項】
履修にあたっては、本講義では筆記試験を行わず、グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションが授業および成績評価の主な要素となることに留意してください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this class, learn basic concepts of innovation, an important topic in business management, to better understand business management.　The goal is to enable students to put these concepts into practice by researching, presenting, and discussing real companies based on the basic concepts of innovation in class.
【到達目標（Learning Objectives）】
(1) Understand the basic concepts of innovation
(2) To be able to discuss practical cases in accordance with the basic concepts of innovation
(3) To be able to organize and effectively present what has been discussed
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
The standard time to prepare and review for this class is four hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Presentations at each class: 60%
Contribution to the class discussion: 40%

CAR200CA（キャリア教育 / Career education 200）

企業実務研究Ａ

湯前　祥二

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ8人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。
講師の話をもとに自らのキャリアプランを描けるようになることが目的である。
本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。
そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】
本講義では、実務現場での実践に関する臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外を含む文化・社会的多様性を伴う環境の下でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようになり、受講者がそれぞれの卒業後の実社会での自己の将来像を具体化してその実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を自覚するための手がかりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として教室での対面講義形式で開講する。
第１回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。学習支援システムで教材としてガイダンス資料を配布する。この講義の履修を検討する学生は，講義に出席してガイダンス資料をよく読んだ上で，履修するかどうかを検討されたい。
第2回以降の講義は，原則として教室での対面講義形式で実施する予定である。教室での講義では，講師と受講生によるクロストークの時間を設け，リアルタイムで教員がフィードバックを行うので、積極的に発言することが求めれらる。
実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、ディスカッションやグループワーク等では設定された状況を認識して達成すべき課題をよく理解するよう努め、教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められる。
講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは，教室またはオンラインのリアルタイム形式の講義の回には毎回の授業の中で行い，オンデマンド形式の講義の回には授業内掲示板を通じて行うほか，個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	企業実務研究Ａ・Ｂの概要とサマーインターンシップ実習について
第2回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情
第3回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第4回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第5回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情
第6回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第7回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第8回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情
第9回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第10回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第11回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第12回	キャリア形成に関する外部講師による指導（１）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第13回	キャリア形成に関する外部講師による指導（２）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第14回	キャリア形成に関する外部講師による指導（３）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各講師が用意するレジュメ

【参考書】
各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価(20%)を加味する。
教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価する。
教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められ，私語するなど授業態度の悪い学生は不可となる。
※企業実務研究A、Bは必ず同年度に登録すること。2単位だけの登録は認められない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第1回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。
多数の外部講師を招いての講義となる。講師の方々へ敬意を持って受講すること。

【Outline (in English)】
This course provides students with the knowledge and skills to understand the global business environment within which Japanese multinational firms operate. It also enhances the development of students' skill in reflecting this understanding in their future career.
The purpose of this course is to be able to draw up one's own career plan based on the lecturer's talks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

CAR200CA（キャリア教育 / Career education 200）

企業実務研究Ｂ

湯前　祥二

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
夏休み期間中に企業（官公庁、NPO等を含む）でインターンシップ実習に参加し、通常の講義だけでは得られない就業体験を通じて現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。
インターンシップの経験や実習報告会での議論を通じて、企業や団体で働くときに求められる仕事への取り組み姿勢やコミュニケーション方法、ビジネスマナーなどの、将来の進路選択を主体的に行うために役に立つ実践的な知識への理解を深めることができる。
講義を通じて自らのキャリアデザインを行えるようになることが目的である。

【到達目標】
インターンシップの経験をより具体的によりわかり易くプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討論することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義は実習形式で行われ，原則として，本年度の経済学部のサマーインターンシップに参加した者しか単位を修得できないので，履修を検討する際には注意されたい。
今年度の講義では，原則として教室での対面講義形式で開講する予定である。講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を随時通知する。
第１回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。この講義の履修を検討する学生は，学習支援システムで本科目に仮登録して，学習支援システム上で通知される講義に関するお知らせを講義前に確認し，第１回講義に出席した上で，履修するかどうかを検討されたい。第１回講義では，履修予定者の希望をきいて各履修者の実習報告の日程などを調整するので，履修者は第１回講義に必ず出席すること。
第２回以降の講義では，サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。
参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討論する。
講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは，毎回の授業の中で行うほか，個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要説明・実習報告スケジュールの説明と調整
第2回	実習報告会の説明と準備	実習報告会の説明と準備および実習報告スケジュールの最終確認
第3回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①
第4回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第5回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第6回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第7回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第8回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第9回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第10回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第11回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第12回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第13回	グループ・ディスカッションの説明と準備	仕事に関するグループ・ディスカッションの説明と準備
第14回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備をしておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000字、A4）（25%）
③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）
派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。
サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。
※企業実務研究A、Bは必ず同年度に履修登録すること。2単位だけの登録は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1回目の講義に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
This course provides students with the summer internship opportunities to gain knowledge and skills from work experiences not available in the classroom setting. It also enhances the development of students' skill in planning and delivering effective presentation on career design development. The purpose of this course is to enable students to design their own careers through lectures.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on workplace competencies evaluated by work-site supervisors (25%), internship report (25%), presentation (25%), and in-class contribution (25%).

POL200CA（政治学 / Politics 200）

国際関係論 A

冨永　靖敬

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
1.国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2.国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3.日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は，コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（またGoogle Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は1本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際関係論の射程	本授業の狙い、授業の概要
第2回	国際システムの構造	主権国家とは，主権国家システム
第3回	伝統的国際関係論の視点 I	リアリズム:国家のパワーゲーム，古典的リアリズム，ネオリアリズム
第4回	伝統的国際関係論の視点 II	勢力均衡と同盟論
第5回	伝統的国際関係論の視点 III	リベラリズム:協力と平和の可能性，国際制度と国際協調
第6回	伝統的国際関係論の視点 IV	構成主義：社会的な意味とアイデンティティ
第7回	理論間の対立	「イズム」の限界
第8回	交渉理論に基づく戦争論	戦争はなぜ起こるのか？，事例：イラク戦争
第9回	交渉理論 I	情報の非対称性
第10回	交渉理論 II	コミットメント問題
第11回	国内政治と戦争	なぜ国内要因が重要なのか
第12回	リーダーと戦争	評判(reputation)と信頼(credibility)，リーダーの個人的性質，結集効果
第13回	今学期のまとめ	春学期の振り返り
第14回	期末試験（オンライン）	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
多湖淳(2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574). 定価880円（本体 800円） ISBN978-4-12-102574-6.

【参考書】
【特に推薦するのは以下の三冊】
1. Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.
2. クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学ー人はなぜ戦うのかー』草思社。定価3,740円（本体 3,400円)ISBN978-4-7942-2662-4
3. Spaniel, William (2023). Formal Models of Crisis Bargaining: Applications in the Politics of Conflict. Cambridge: Cambridge University Press.
【その他】
草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価3,520円（本体 3,200円）ISBN978-4-623-09577-3
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015)『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052円（本体 1,900円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013)『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価2,808円（本体 2,600円）ISBN 978-4-641-14904-5
浅古泰史（2018)『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価2,860円（本体 2,600円）ISBN978-4-641-14928-1
村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015)『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376円（本体 2,200円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005)『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円 （本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】
【成績評価の方法】
本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テスト，期末試験ともに「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】
以下に生成AI使用のルールを明示します。
【ルールの目的】
本授業では，学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが，論述やレポートの文章自体をAI任せにしてしまうと，本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで，生成AIの利用に関しては，以下のルールを設けます。
【生成AIはあくまでリサーチの補助】
・許容される行為例
　・キーワード・用語の検索
　・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限る）
　・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
・禁止される行為例
　・AIに要約や文章を生成させ，そのまま引用・転用すること
　・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
　・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること
【AIが作成した文章の使用禁止】
・論述・レポート
　・AIが作成した文章を，一部でもそのままあるいは表面的な改変（接続語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
　・これはコピペに準ずる行為とみなし，学問的誠実性に反する行為と判断します。
・引用・参考資料
　・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり，正確性や一次性を保証しません。
　・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は，必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。
【チェッカーによる検証と不正行為の判断】
・AIチェッカーの活用

・提出された論述・レポートに対し，複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。
・AI生成の可能性が高いと検知された場合，さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。
・不正が疑われる場合
・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合，剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。
・不正行為と認定された場合は，大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。
【適切なAI利用のすすめ】
・AIはあくまで“補助”です
・上記のようなルールを設けても，「AIを一切使うな」という意味ではありません。実際には，キーワード検索や概要把握，論点の整理など，学習者が合理的にAIを使う方法はあります。ただし，最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。
・情報の真偽は自分で確認する
・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory course that intends to provide students with basic knowledge which is essential to understand the nature of current international relations. This course pays particular attention to security issues exploring causes and consequences of war.
【Learning objectives】
1. To acquire knowledge of theoretical conceptions of international politics
2. To acquire the ability to explain current issues of international politics logically and with evidence
【Learning activities outside of classroom】
Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)
After each class: To review the slide (2 hours)
【Grading Criteria/Policy】
Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)
Term-end exam (70%)

POL200CA（政治学 / Politics 200）

国際関係論Ｂ

冨永　靖敬

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論Aでは，主権国家システム，国内・国際制度，リーダーの性質など，国際政治現象一般を分析する際に必要となる諸モデルを紹介したが，国際関係論Bでは，国家間戦争，内戦やテロリズムといった国家間・国家内で発生する戦争，あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
1.国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2.国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3.日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は，コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（またGoogle Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は１本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第１回	導入	前学期の復習、本授業の概要
第２回	核兵器と軍備管理・抑止論	国際危機外交，安全保障のジレンマ，シグナリング，評判，抑止論とその効果
第３回	テロリズム・非国家主体の暴力	テロリズムの定義、原因、対策
第４回	内戦・国内紛争の国際化	内戦の原因論（民族，貪欲と不満），交渉モデル
第５回	紛争解決：平和への道筋	交渉、仲介、調停など紛争解決の理論と実践
第６回	事例分析	スリランカ内戦・コロンビア内戦・ミャンマー内戦など
第７回	制度と規範：国際社会の秩序形成	国際制度と国際規範が国家の行動をどのように制約し、協力を促進するのか
第８回	国際規範と人権	国際人権規範の発展と課題
第９回	気候変動と国際協力（地球規模の課題への対応）	気候変動が国際社会に与える影響を分析し、気候変動問題への国際的な取り組みを検討する
第10回	サイバーセキュリティと国際関係	新たな脅威の出現，サイバー空間における国家間の競争と協力
第11回	貧困と開発	資源の呪い，国連の持続可能な開発
第12回	貧困と開発の制度的説明	富の独占と政治体制，selectorate theory
第13回	学期のまとめ	秋学期の振り返り
第14回	期末試験（オンライン）	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
多湖淳(2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価880円（本体 800円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】
Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.
草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価3,520円（本体 3,200円）ISBN978-4-623-09577-3
クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学ー人はなぜ戦うのかー』草思社。定価3,740円（本体 3,400円)ISBN978-4-7942-2662-4
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015)『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052円（本体 1,900円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013)『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価2,808円（本体 2,600円）ISBN 978-4-641-14904-5
浅古泰史（2018)『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価2,860円（本体 2,600円）ISBN978-4-641-14928-1
村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015)『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376円（本体 2,200円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005)『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円 （本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3
東大作 (2020)『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価 968 円(本体 880 円)ISBN978-4-12-102576-0

【成績評価の方法と基準】
【成績評価の方法】本授業の評価は、小テスト（30%）と期末テスト（70%）で行う。テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】
以下に生成AI使用のルールを明示します。
【ルールの目的】
本授業では，学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが，論述やレポートの文章自体をAI任せにしてしまうと，本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで，生成AIの利用に関しては，以下のルールを設けます。
【生成AIはあくまでリサーチの補助】
・許容される行為例
　・キーワード・用語の検索
　・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限る）
　・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
・禁止される行為例
　・AIに要約や文章を生成させ，そのまま引用・転用すること
　・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
　・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること
【AIが作成した文章の使用禁止】
・論述・レポート
　・AIが作成した文章を，一部でもそのままあるいは表面的な改変（接続語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
　・これはコピペに準ずる行為とみなし，学問的誠実性に反する行為と判断します。
・引用・参考資料
　・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり，正確性や一次性を保証しません。
　・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は，必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。
【チェッカーによる検証と不正行為の判断】

・AIチェッカーの活用
　・提出された論述・レポートに対し，複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。
　・AI生成の可能性が高いと検知された場合，さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。
・不正が疑われる場合
　・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合，剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。
　・不正行為と認定された場合は，大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。
【適切なAI利用のすすめ】
・AIはあくまで“補助”です
　・上記のようなルールを設けても，「AIを一切使うな」という意味ではありません。実際には，キーワード検索や概要把握，論点の整理など，学習者が合理的にAIを使う方法はあります。ただし，最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。
・情報の真偽は自分で確認する
　・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course intends to provide students with essential knowledge to understand international relations. This course focuses on not just traditional security issues such as nuclear deterrence and balance of power but also non-traditional security issues such as civil war and terrorism.
【Learning objectives】
1. To acquire knowledge of the essential conceptions of international relations
2. To acquire the ability to explain the phenomenon of international relations logically and with evidence
【Learning activities outside of classroom】
Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)
After each class: To review the slide (2 hours)
【Grading Criteria/Policy】
Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)
Term-end exam (70%)

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

経済人類学Ａ

友松　夕香

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
わたしたち人間は、日々じつに多様な経済活動を営んでいます。この経済活動には、かならずしも貨幣が介在しているとはかぎりません。また、「市場経済」をこえた交換、贈与、再分配をおこなっています。経済人類学Ａでは、「経済」をより広い視野で捉え、人類学の理論・概念を用いて考察します。また、グローバル化とデジタル化が引き起こしてきた矛盾や新たな社会現象にも注目し、経済的やりとりがわたしたちをどのように結びつけているのかを分析します。経済を文化的・社会的な観点から再考し、新たな視点を得ることが授業の目的です。

【到達目標】
・経済をめぐる社会現象について、解釈と意味づけから分析できるようになる
・統計やビッグデータ分析だけではわからない因果関係を複合的に探究できるようになる。
・経済問題を人類学的思考で分析し、解決策を考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	経済とは何か	形質主義と実質主義
第２回	経済の３形態	互酬性、再分配、市場交換
第３回	贈与	３つの義務
第４回	再分配	共同体の謎
第５回	道徳と情	非市場経済と社会関係の網
第６回	物々交換	非貨幣経済とデータエコノミー
第７回	宗教と経済	イスラーム金融とハラール食
第８回	市場と商品化	お金で買えるもの、買えないもの
第９回	消費主義①	ポスト産業社会とは何か
第１０回	消費主義②	動物の福祉、環境配慮と倫理的ジレンマ
第１１回	文化の盗用	商品化と創造性をめぐる軋轢
第１２回	経済界の儀礼と神話	金融危機はなぜ起きたのか
第１３回	仕事	労働の価値と尊厳
第１４回	経済人類学の現代的意義	文化的価値と社会関係の探求

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。

【テキスト（教科書）】
なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】
授業内で、参考になる書籍をご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
授業内容を整理・考察するエッセイ15点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500～600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を十分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】
Humans engage in a wide range of economic activities daily, many of which extend beyond the use of currency. Economic Anthropology A explores the concept of "economy" from an anthropological perspective, employing theories and concepts to examine economic practices in diverse cultural contexts. This course also investigates the contradictions and emerging social phenomena that characterize our globalized and digitalized era. Through this exploration, students will develop a deeper understanding of how economic exchanges create connections between individuals and societies. Grades will be based on fifteen one-paragraph essays written in or after class (100%).

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

経済人類学Ｂ

友松　夕香

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界には、農畜産業や漁業、販売業を自ら営み、日々の暮らしを築いている人びとが大勢います。これらの人びとの経済実践を理解するうえで、近代経済学が用いる数式や最適化、効率性、生産性といった概念では十分に捉えきれない側面がしばしば課題となります。そのかわり、人びとが築く社会関係に目を向けることで、従来の経済学では測れない経済の仕組みが浮かび上がってきます。経済人類学Ｂでは、日本を含む世界各地で見られる人びとの生業に焦点を当て、経済的営みの多様性、グローバルなつながり、その変化を探求します。また、政策介入や異文化理解に関する問題にも注目し、現地社会の価値観や現代的な変容を明らかにします。この授業を通じて、経済活動を社会的・文化的な文脈の中で捉える新しい視点を得ることを目指します。

【到達目標】
・統計では捉えられない人びとの間の経済的なやり取りの過程、構造、意味を分析できるようになる。
・ミクロレベルでの観察、解釈と意味づけから理論を導き出す方法を習得する。
・世界の経済と社会関係の多様性を読み解くうえで、フィールドワークの有効性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間の経済	多様性、接続、変容
第2回	狩猟・採集	食物分配と平等主義
第3回	牧畜	家畜の文化的価値
第4回	農耕	社会構造、宗教、環境
第5回	土地	重層的な所有関係の現代的変容
第6回	市場①	農作物の売買交渉と騙し合いの技法
第7回	市場②	魚の売買交渉・規範と共同体
第8回	ジェンダー	性別役割・分業、労働とその変容
第9回	開発	援助と貧困の創造
第10回	グローバリゼーション①	革なめし労働者の営み
第11回	グローバリゼーション②	コーヒー生産者の営み
第12回	グローバリゼーション③	産業廃棄物集積場の営み
第13回	グローバリゼーション④	国際詐欺師の営み
第14回	まとめ	社会に埋め込まれた経済の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。

【テキスト（教科書）】
なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】
授業内で、参考になる書籍をご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
授業内容を整理・考察するエッセイ14点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500～600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を十分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】
Around the world, people earn their livelihoods through activities like farming, raising livestock, fishing, and running small businesses. These practices cannot always be fully explained by the mathematical models or concepts such as efficiency, optimization, and productivity commonly used in modern economics. Instead, by looking at the social relationships people form, we can understand economic systems that traditional economics often overlooks.
Economic Anthropology B explores how people around the world, including in Japan, sustain their livelihoods. It examines the diversity of their economic activities, their global connections, and how these practices are changing. The course also looks at issues like policy interventions and cross-cultural understanding, shedding light on the values and changes shaping local communities today. Grades will be based on fifteen one-paragraph essays written in or after class (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

環境経済論 A

松波　淳也

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，標準的な環境経済学の基本概念，手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
環境経済学にとって最重要であり，かつ，環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性，環境の経済評価，持続可能な発展）に絞って講義する。その際，特に，社会システムと環境の関係についての基本的考え方，および，経済学的方法，政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？　本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ　CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ　TCM，HPM。非需要曲線アプローチ　RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？　環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学，マクロ経済学等，経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末レポート　100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

環境経済論 A

松波　淳也

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，標準的な環境経済学の基本概念，手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
環境経済学にとって最重要であり，かつ，環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性，環境の経済評価，持続可能な発展）に絞って講義する。その際，特に，社会システムと環境の関係についての基本的考え方，および，経済学的方法，政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？　本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ　CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ　TCM，HPM。非需要曲線アプローチ　RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？　環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学，マクロ経済学等，経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末レポート　100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

環境経済論Ｂ

松波　淳也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義では，最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ，標準的な環境経済学の基礎概念，手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクルⅠ- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類.「ごみ」の定義.経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクルⅡ- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ.廃棄物経済学の整備に向けて.最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクルⅢ- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生.廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等.個別リサイクル法.３Ｒの優先順位.２つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化.埋立税・産業廃棄物税，有害物質への税・課徴金.特定製品への税・課徴金.デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	３Ｒ＋適正処理の優先順位に即した政策展開.短期的政策，中長期的政策の位置づけ.地域特性に即したきめ細かい政策.環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済.経済成長と動脈部門・静脈部門.静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業Ⅱ- ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想.逆工場の考え方.「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業Ⅲ- システム，規制の効果-	市場リサイクルの条件.動脈と静脈の相互関係.規制と公共関与.企業のイニシャティブ
第10回	費用支払いと費用負担Ⅰ- PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則PPP.汚染者負担原則.ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担Ⅱ- PPPとEPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済.不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPR Ⅰ- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論.容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPR Ⅱ- E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法.PCリサイクル・システム.携帯電話リサイクル・システム.小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境経済論Ａを既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
細田衛士：『グッズとバッズの経済学　第2版』東洋経済新報社

【参考書】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】
期末レポート：100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

環境経済論Ｂ

松波　淳也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義では，最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ，標準的な環境経済学の基礎概念，手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクルⅠ- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類.「ごみ」の定義.経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクルⅡ- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ.廃棄物経済学の整備に向けて.最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクルⅢ- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生.廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等.個別リサイクル法.３Ｒの優先順位.２つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化.埋立税・産業廃棄物税，有害物質への税・課徴金.特定製品への税・課徴金.デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	３Ｒ＋適正処理の優先順位に即した政策展開.短期的政策，中長期的政策の位置づけ.地域特性に即したきめ細かい政策.環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済.経済成長と動脈部門・静脈部門.静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業Ⅱ- ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想.逆工場の考え方.「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業Ⅲ- システム，規制の効果-	市場リサイクルの条件.動脈と静脈の相互関係.規制と公共関与.企業のイニシャティブ
第10回	費用支払いと費用負担Ⅰ- PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則PPP.汚染者負担原則.ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担Ⅱ- PPPとEPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済.不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPR Ⅰ- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論.容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPR Ⅱ- E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法.PCリサイクル・システム.携帯電話リサイクル・システム.小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境経済論Ａを既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
細田衛士：『グッズとバッズの経済学　第2版』東洋経済新報社

【参考書】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】
期末レポート：100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）

経済地理Ａ

近藤　章夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第２回オンデマンド(以下、OD)①	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
第3回OD②	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
第4回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第5回OD③	産業の立地①	立地論の基礎
第6回OD④	産業の立地②	工業立地論と事例
第7回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第8回OD⑤	経済の空間構造①	都市化と都市構造
第9回OD⑥	経済の空間構造②	都市発展と都市システム
第10回	経済の空間構造③	都市の理論・モデルと実際
第 11 回 OD⑦	国土政策と地域経済①	日本の地域構造と地域間格差
第 12 回 OD⑧	国土政策と地域経済②	国土政策と地域政策の系譜と現状
第 13 回 OD⑨	都市・地域開発と政策	都市・地域問題の現状と新たな政策
第14回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
河野稠果（2000）『世界の人口（第２版）』東京大学出版会
デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第２版）』ピアソン桐原
松原宏編著（2002）『立地論入門』古今書院
山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第３版）』有斐閣
竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第９版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。
詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
Course outline and objectives:
From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.
Learning activities outside of classroom：
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CD（経済学 / Economics 200）

経済地理Ｂ

近藤　章夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回オンデマンド (以下、OD)①	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
第3回OD②	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
第4回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第5回OD③	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
第6回OD④	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
第7回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第8回OD⑤	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第9回OD⑥	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第10回	産業集積のダイナミズム	産業のグローカル化
第 11 回 OD⑦	自動車産業の集積①	系列、近接性、JIT生産システム
第 12 回 OD⑧	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
第 13 回 OD⑨	ハイテク産業の集積	シリコンバレーモデルと産学連携
第14回	講義の小括・まとめ	経済学における集積論の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健兒（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。
詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
Course outline and objectives:
The purpose of this lecture is to explain the achievements and meaning of agglomeration theories in economics, focusing on the geographical economic activities related to productivity and creativity, and to develop concrete and practical thinking skills regarding the rise and fall mechanisms of industrial and urban agglomerations.
Learning activities outside of classroom：
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

アメリカ経済論 A

加藤　真琴

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、まず歴史的な観点からアメリカ経済を概観し、つぎにアメリカ経済を映す鏡としてヴェブレンとガルブレイスという2人の経済学者を紹介する。日本に暮らすわれわれの生活がアメリカ経済からいかなる影響を受けているかを学ぶことを授業のねらいとする。

【到達目標】
（1）地理的条件、環境、人口構成等のアメリカにみられる特殊性を知ることができる。
（2）2025年問題に直面するいま、日本経済の苦境を乗り越えるためのスキルとして授業で得た知識を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、原則として対面で実施する。
（1）授業ごとに配布するレジュメに基づいて進める。
（2）授業の最後にリアクションペーパーを記入し、疑問点を洗い出す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と成績評価について、アメリカ経済論を学ぶ意義を考える
第2回	景気判断の歴史	全米経済研究所（NBER）の設立経緯と景気循環について考える
第3回	アメリカを見る視点	アメリカの地理的・社会的特色を学ぶ
第4回	戦後の好況とアメリカの「ルール」	第1次世界大戦後に迎えるアメリカの「黄金期」と「自由主義経済」について考える
第5回	大不況とニューディール	大不況が起きた原因とその対処法を学ぶ
第6回	第2次世界大戦と供給サイドの変化	ブレトンウッズ体制と世界経済においてアメリカが果たした役割を学ぶ
第7回	ゆたかな社会の確立へ	第2次世界大戦後のアメリカのゆたかさを享受したのはだれだったかを考える
第8回	「ニューフロンティア」とその後	ケネディの「ニューフロンティア」とジョンソンの「偉大な社会」の意味を考える
第9回	規制「撤廃」とアメリカ経済	70年代の経済低迷と打開策を学ぶ
第10回	繁栄が続いた90年代	アメリカのIT産業について考える
第11回	21世紀のアメリカ	住宅ローンと金融危機について考える
第12回	総括とレポート課題の提示	第1回から第11回までの授業を整理したのち、レポート課題を提示する
第13回	アメリカの経済学者の紹介①ヴェブレン	アメリカ経済が大きく変動する19世紀末から20世紀初頭に起きた運動「制度経済学」について考える
第14回	アメリカの経済学者の紹介②ガルブレイス	「ゆたかな社会」というキーワードから豊かさについて考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：2時間　参考文献をよく読む（30分）、ニュースを視聴したり新聞を読み興味のある記事を見つける（1.5時間）
復習：2時間　授業でとりあげたキーワードに関連する文献を調査する（1時間）、キーワードを自分の言葉で40字から200字程度にまとめ説明してみる（1時間）

【テキスト（教科書）】
教科書は用いない。授業内で配布するレジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
（1）『アメリカ経済の歩み』榊原胖夫・加藤一誠（文眞堂）2011年
（2）『植民地から建国へ―19世紀初頭まで』和田光弘（岩波新書）2019年
（3）『南北戦争の時代―19世紀』貴堂嘉之（岩波新書）2019年
（4）『20世紀アメリカの夢―世紀転換期から1970年代』中野耕太郎（岩波新書）2019年
（5）『グローバル時代のアメリカ―冷戦時代から21世紀』古矢旬（岩波新書）2020年

【成績評価の方法と基準】
平常点（30％）と期末レポート（70％）の結果に基づき成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
対面形式を基本にして、学習状況に応じて適宜オンライン授業に変更することもある。

【学生が準備すべき機器他】
事前に配信されたレジュメ、資料等をプリントアウトしておくか、PC等で講義時に見れるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
可能な限り、秋学期のアメリカ経済論Bとあわせて履修すること。

【担当教員の専門分野等】
経済思想史、アメリカ経済

【Outline (in English)】
【Cource Outline】In this class, we will first review the U.S. economy from a historical perspective, and then learn about two economists, Veblen and Galbraith, as reflactions of the U.S. economy. The aim of the class is to learn how our lives in Japan are affected by the U.S. economy. I will hand out the resumes during class instead of using textbooks.
【Learning Objectives】By the end of the course, you will be able to:
(A) Understand the geographical, environmental, and demographic features in the U.S.
(B) Use the knowledge gained in class as a skill to overcome the 2025 problem: the near future of Japan's aging.
【Learning activities outside of classroom】Preparation: Read the books introduced in class (30 minutes), watch news and read newspapers (1.5 hours).
Review: Find some information related to the keywords discussed in class (1 hour), and write a simple explanation about them in your own words (1 hour).
【Grading Criteria】Grading will be based on the results of the regular score (30％) and the final report (70％).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

アメリカ経済論Ｂ

加藤　真琴

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、『入門アメリカ経済Ｑ＆Ａ』坂出健・秋元英一・加藤一誠（中央経済社）2019年を題材にして、2009年以降のアメリカ経済にかんする重大トピックについて議論する。いずれも日本経済の動向を考えるうえで重要なトピックである。

【到達目標】
（1）授業で扱うテーマについて自分の考えをまとめ、述べることができる。
（2）2025年問題に直面するいま、日本経済の苦境を乗り越えるためのスキルとして授業で得た知識を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、原則として対面授業で実施する。
（1）授業ごとに配布するレジュメに基づいて進める。
（2）授業の最後にリアクションペーパーを記入し、疑問点を洗い出す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と成績評価について、アメリカ経済にかんする重要なテーマとしてどのようなものがあるかを考える
第2回	サブプライム問題／リーマン・ショック	サブプライム問題／リーマン・ショックを議論する
第3回	世界金融危機	世界金融危機を議論する
第4回	銃乱射事件	銃乱射事件を議論する
第5回	トランプ・ウォール／ラストベルト	トランプ・ウォール／ラストベルトを議論する
第6回	シリコンバレー／イノベーション	シリコンバレー／イノベーションを議論する
第7回	IT産業／バイオ医薬品産業	IT産業／バイオ医薬品産業を議論する
第8回	自動運転・EVへの対応	自動運転・EVへの対応を議論する
第9回	インフレ目標政策／量的緩和	インフレ目標政策／量的緩和を議論する
第10回	長期停滞／政策金利水準ルール	長期停滞／政策金利水準ルールを議論する
第11回	金融政策の出口問題	金融政策の出口問題を議論する
第12回	総括とレポート課題の提示	第1回から第11回までの授業を整理したのち、レポート課題を提示する
第13回	オバマケア改革／年金	オバマケア改革／年金を議論する
第14回	自由貿易協定／米中貿易摩擦	自由貿易協定／米中貿易摩擦を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習： 2時間 参考文献をよく読む（30分）、ニュースを視聴したり新聞を読み興味のある記事を見つける（1.5時間）
復習： 2時間 授業でとりあげたキーワードに関連する文献を調査する（1時間）、キーワードを自分の言葉で40字から200字程度にまとめ説明してみる（1時間）

【テキスト（教科書）】
教科書は用いない。授業内で配布するレジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
（1）『入門アメリカ経済Ｑ＆Ａ』坂出健・秋元英一・加藤一誠（中央経済社）2019年
（2）『植民地から建国へ―19世紀初頭まで』和田光弘（岩波新書）2019年
（3）『南北戦争の時代―19世紀』貴堂嘉之（岩波新書）2019年
（4）『20世紀アメリカの夢―世紀転換期から1970年代』中野耕太郎（岩波新書）2019年
（5）『グローバル時代のアメリカ―冷戦時代から21世紀』古矢旬（岩波新書）2020年

【成績評価の方法と基準】
平常点（30％）と期末レポート（70％）の結果に基づき成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
対面形式を基本にして、学習状況に応じて適宜オンライン授業に変更することもある。

【学生が準備すべき機器他】
事前に配信されたレジュメ、資料等をプリントアウトしておくか、PC 等で講義時に見れるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
可能な限り、春学期開講のアメリカ経済論Ａとあわせて履修する。

【担当教員の専門分野等】
経済思想史、アメリカ経済

【Outline (in English)】
【Cource Outline】In this class, we will discuss critical topics related to the U.S. economy since 2009 using "Introduction to the U.S. Economy Q&A" by Takeshi Sakade, Eiichi Akimoto, and Kazusei Kato (Chuokeizai-sha, Inc.) 2019. I will hand out the resumes during class instead of using textbooks.
【Learning Objectives】By the end of the course, you will be able to:
(A) Summarize and express your own thoughts on the topics covered in class.
(B) Use the knowledge gained in class as a skill to overcome the 2025 problem: the near future of Japan's aging.
【Learning activities outside of classroom】Preparation: Read the books introduced in class (30 minutes), watch news and read newspapers (1.5 hours).
Review: Find some information related to the keywords discussed in class (1 hour), and write a simple explanation about them in your own words (1 hour).
【Grading Criteria】Grading will be based on the results of the regular score (30％) and the final report (70％).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

ヨーロッパ経済論Ａ

進藤　理香子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は現在のEUにつながる欧州経済統合の礎となる1945年から80年代半ばまでのヨーロッパの社会経済的発展を東西ドイツの軌跡及び冷戦期の国際関係から考察することを目的とする。

【到達目標】
冷戦体制の国際関係と欧州経済統合の歴史的プロセスを理解する。また今日のEUに受け継がれる西ドイツ社会的市場経済概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間にZoomによる講義を行う。授業時間外での閲覧も可能とする。パワーポイント、図表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	春学期の導入	欧州の社会経済的発展をドイツの軌跡を中心に学ぶ意義について。
第2回	第一次大戦後の欧米とドイツ	ヴェルサイユ体制、戦間期の欧米社会と経済について見る。
第3回	第二次大戦と欧州	ドイツによる欧州諸国侵略、占領、戦争経済について見る。
第4回	第二次大戦の終わりとドイツ敗戦	連合国によるドイツ分割統治と占領政策について学ぶ。
第5回	マーシャルプランと西欧の経済復興	アメリカ主導の欧州復興支援、東西陣営の形成について見る。
第6回	ドイツ連邦共和国（西ドイツ）の建国	東西ドイツ問題、通貨改革について学ぶ。
第7回	西ドイツ社会的市場経済	社会的市場経済の理論と政策的実践について学ぶ。
第8回	西ドイツ経済の奇跡	戦後復興から高度経済成長の過程、大衆消費社会と生活水準向上について。
第9回	西欧の協調と市場統合の模索	欧州石炭鉄鋼共同体の形成について見る。
第10回	ドイツ民主共和国（東ドイツ）とベルリンの壁	ソ連占領政策、東ドイツ建国と社会主義の建設について見る。
第11回	西ドイツ・ブラント首相の東方政策とデタント	東西緊張の緩和と全欧安全保障協力会議について見る。
第12回	ヨーロッパ福祉国家の諸モデル	イギリス、スウェーデン、西ドイツの福祉政策について学ぶ。
第13回	ブレトン・ウッズ体制の崩壊とオイルショック	70年代世界経済の停滞、高度経済成長の終焉について学ぶ。
第14回	ケインズ主義から新自由主義へ	80年代の欧米新自由主義的政策について見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の準備・復習時間は一回あたり各2時間の合計4時間を標準とする。また学期中に合計2回のレポート提出が必須となる。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を指示。

【参考書】
猪木武徳『戦後世界経済史:自由と平等の視点から』中央公論新社 2009年
トニー・ジャット『ヨーロッパ戦後史：上巻1945－1971；下巻1971－2005』みすず書房 2008年
藤澤利治/工藤章（編）『ドイツ経済:EU経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019年
古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007

【成績評価の方法と基準】
評価方法は学期中に中間レポートを1回、学期末レポート1回の合計2回の課題を完了した場合にのみ単位評価の対象とする。配点は中間課題50％、学期末課題50％。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
インターネット接続とコンピュータ。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to study the socio-economic and political developments in Europe from 1945 to the mid-1980s, mainly during the Cold War period, in an historical perspective. Particular interest will be paid to the development of Germany which was divided into two states, in the West and in the East, after the country's defeat in World War II.
Learning Objective: The goal of this course is to understand the socio-economic development of Europe since 1945.
Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: a mid-term report (50%) and a term-end report (50%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

ヨーロッパ経済論Ｂ

進藤　理香子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では1980年代後半から現在に至るヨーロッパの社会経済的発展について学ぶ。冷戦の終結、東欧平和革命、ドイツ再統一、ソ連崩壊、欧州連合EUの成立といった流れを把握しつつ、現在に至るEUの発展と諸政策について学ぶ。

【到達目標】
冷戦終結からEU成立、東方拡大への国際政治的流れを理解する。また欧州単一市場形成と通貨統合などEU独自のガバナンス及び域内・域外に対するEUの役割を理解する。さらに直面する現代の危機（英国EU離脱、コロナ危機、ロシアのウクライナ侵攻、移民難民問題）へのEUの対応を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間にZoomによる講義を行う。授業時間外での閲覧も可能とする。パワーポイント、図表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	秋学期の導入	現代ヨーロッパの社会経済を学ぶ意義について。
第2回	ソ連社会主義体制の停滞と改革の限界	ペレストロイカ、グラスノスチ、チェルノブイリ原発事故について見る。
第3回	東欧平和革命とベルリンの壁崩壊	民主化運動と社会主義政権の崩壊について見る。
第4回	ドイツ再統一とソ連崩壊	ドイツ最終規定条約、統一の負担、ソ連崩壊の帰結などについて学ぶ。
第5回	欧州共同体から欧州連合EUへ	マーストリヒト条約単一市場問題について学ぶ。
第6回	経済通貨統合と欧州中央銀行	欧州通貨統合、単一通貨ユーロ導入について学ぶ。
第7回	EUの機構と運営	EUの諸組織とEU独自のガバナンスを学ぶ。
第8回	EU東方拡大とEU諸国の経済・社会構造	EU東方拡大、EU加盟国間の諸特徴と不均衡について見る。
第9回	EUの通商と農業	共通通商政策と共通農業政策について学ぶ。
第10回	欧州と環境問題	環境問題への様々な取り組みについてドイツの事例を見る。
第11回	欧州と移民・難民問題	難民問題へのEUの対応についてドイツの事例を中心に見る。
第12回	イギリスのEU離脱	英国EU離脱の過程と影響について見る。
第13回	ロシアによるウクライナ侵攻と欧州	EUのウクライナ支援、エネルギー危機、安全保障問題などについて見る。
第14回	秋学期のまとめ	今学期の授業の要点を復習し期末レポート対策を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期中2回のレポート提出必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示。

【参考書】
井上淳『はじめて学ぶEU：歴史・制度・政策』法律文化社 2020年
川越修・河合信晴(編)『歴史としての社会主義』ナカニシヤ出版 2016年
工藤章・藤澤利治『ドイツ経済：EU経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019年
田中素香・長部重康ほか『現代ヨーロッパ経済』第6版 有斐閣 2022年
羽場久美子小森田秋夫・田中素香『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店 2006年

【成績評価の方法と基準】
評価方法は学期中に中間レポートを1回、学期末レポート1回の合計2回の課題を完了した場合にのみ単位評価の対象とする。配点は中間課題50％、学期末課題50％。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This course focuses on the socio-economic and political developments in Europe from the end of the Cold War period until today´s European Union. Special consideration will be given to the historical events like the collapse of the Soviet Union, the peaceful revolution of 1989 in Eastern Europe, the reunification of the two German states, and the establishment of the European Union and its enlargement to the east.
Learning Objective: The goal of this course is to understand the development of the EU.
Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: a mid-term report (50%) and a term-end report (50%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

現代アジア経済論Ａ

馬場　敏幸

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジアNIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。この講義受講の意義として、単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学んでほしい。

【到達目標】
アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジアNIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史的経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎の理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半では対象となる対象国・地域の現状について、オンラインデータベースの紹介と実際の使用方法を学習しつつ進めていく。中盤では経済発展のエンジンとなる産業や貿易などの育成とグローバル化に焦点を置く。後半は第二次世界大戦後の経済発展史を学ぶ。授業進展に伴い、理解力などを実施し、適宜フィードバックや講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	アジアNIEsの俯瞰	GDP、一人当たりGDPの理解と所得基準
3	アジア経済の底流１	貧困の悪循環を抜け出せ！
4	アジア経済の底流２	工業化戦略、投資、貿易
5	アジア経済の底流３	為替レートがもたらす構造変化とアジアの発展
6	アジアNIEs1	初期の発展の共通点
7	アジアNIEs2	経済発展モデルと各国の実際
8	アジアの工業技術獲得１	OEM・ODMとスマイルカーブ
9	アジアの工業技術獲得２	OEM・ODMで発展した現地資本メーカー
10	アジアの工業技術獲得３	技術導入経路と学習パターン
11	シンガポール	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
12	韓国	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
13	台湾・香港	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習１時間半・復習時間２時間半を目安とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
馬場敏幸(2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料とURLはURL詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】
講義で理解力テストを課し、点数を100点に案分し評価を行う（100%）。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義スライドの事前配布を望む声があった。本講義ではまず授業時間内にしっかりと講義を聞いてもらい、講義後に配布するスライドを復習として用いてもらう方針なので、なにとぞご理解願いたい。

【学生が準備すべき機器他】
講義はZoom（受講人数が300人を超える場合はWebex）で行い、理解力テストはHoppiiで行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好なWifi環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などはPCの方が行いやすい。PC利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】
本講義とともに現代アジア経済論Ｂ（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、Ａ・Ｂ双方での履修を望む。
Zoom（Webex）による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。またZoom（Webex）講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつかってください。
本講義は受講人数の関係でWebexを用いる可能性がある。WebexについてはHoppiiからのリンクで説明が行われているので事前にご参照願いたい。アドレスが変わっていなければ、Webexマニュアル（https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-enkaku-Webex.html）。

【Outline (in English)】
In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

現代アジア経済論Ｂ

馬場　敏幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ASEANについてASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
アジアで第二次世界大戦後にアジアNIEsに次いで高度経済成長を果たしたASEAN諸国についてASEAN4を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoom（受講人数によってWebex）によるリアルタイムオンラインで講義を行う。授業ではまずASEAN全体について概観したのち、各国ごとに国の地理、特徴、第二次世界大戦後の発展史などについて学ぶ。授業進展に伴い、理解力テストを実施し、適宜フィードバックや講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、 地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN１	ASEANの成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	ASEAN２	経済指標での概観、国の発展戦略
4	タイ１	独立を保てた理由、初期の発展、産業政策、自動車産業、コメ産業など
5	タイ２	軍人政治・文民政治、赤シャツと黄シャツなど
6	タイ３	経済成長、貿易、アジア経済通貨危機、大洪水など
7	マレーシア１	英国からの独立、マハティール、ブミプトラ、ルックイーストなど
8	マレーシア２	貿易、産業政策、自動車産業、ICT産業など
9	インドネシア１	世界最大のイスラム国家、資源大国、オランダからの独立、スカルノ、スハルトなど
10	インドネシア２	貿易、自動車産業、プリブミ、汚職撲滅など
11	フィリピン１	米国からの独立、マルコス、アセアンの優等生から落第生など
12	フィリピン２	ピープルパワー革命、OFW、テロ、スラムなど
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習１時間・復習時間３時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
馬場敏幸(2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料とURL詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】
講義で理解力テストを課し、点数を100点に案分し評価を行う（100%）。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】
Webex については Hoppii からのリンクで説明が行われているので事前にご参照願いたい。アドレスが変わっていなければ、Webex マニュアル（https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-enkaku-Webex.html）。

【学生が準備すべき機器他】
講義はZoom（Webex）で行い、理解力テストはHoppiiで行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好なWifi環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などはPCの方が行いやすい。PC利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】
その他重要事項
本講義とともに現代アジア経済論Ｂ（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、Ａ・Ｂ双方での履修を望む。
Zoom（Webex）による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。またZoom（Webex）講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつかってください。

【Outline (in English)】
In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

中国経済論 A

馬　欣欣

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では歴史的・マクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因を様々な側面（歴史、制度・政策、経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

【到達目標】
中国経済に関しては、マクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済成長のマクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。
The goal is to comprehend the situations and issues in the Chinese economy from a macroeconomic perspective and to develop the academic capability to elucidate the features of the Chinese economy using economic theories and data from the Chinese government's statistical sources, as well as various academic surveys.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。対面実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと世界経済からみた中国経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する
第2回	歴史的視点からみた経済の成長	科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニーダム仮説）とマディソンの長期GDP推計データからみた経済成長の軌跡を理解する
第3回	社会主義時代の経済	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する
第4回	経済改革：社会主義市場経済とは何か	社会主義市場経済の概念、２つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する
第5回	国家資本主義と開発独裁モデル：中国における政府と市場の関係	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する
第6回	人口変動と労働力(1)	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する
第7回	人口変動と労働力(2)	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点ににについて理解する
第8回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する
第9回	経済成長と格差問題(1)	農村部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する
第10回	経済成長と格差問題(2)	所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する
第11回	財政政策と経済成長	地方分権と財政政策、「分税制」の概要と評価、地方財政の実態について理解する
第12回	地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する
第13回	経済成長と環境問題	環境問題の実態、中国環境政策の変遷、地球温暖化問題と国際協定について理解する
第14回	マクロレベル：中国経済の展望と問題点	中国経済の展望と問題点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間(合計4時間）を標準とする。
Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】
1.南亮進・牧野文夫編著(2016)『中国経済入門　第4版』日本評論社。
2.加藤弘之(2016)『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
3.梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
4.中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか―改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
5.加藤弘之・渡邉真理子・大橋英夫（2013）『21世紀の中国経済篇―国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】
１．平常点および宿題（70％）
２．期末試験（30％）
両者の組み合わせ：100％
1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)
Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【専門分野】
中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】
１．所得格差と貧困
２．少子高齢化社会と社会保障

【主要研究業績】

1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3

2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8

3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6

4.Ma, X. (2022) “Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China,” Review of Development Economics. https://doi.org/10.1111/rode.12969

5.Ma, X. (2022) “Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China,” Journal of Asian Economics, 80:101479. https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479

6.Ma, X. (2018) “Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China” China Economic Review, 47, 96 − 115. https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007

【Outline (in English)】

[Course outline]

The lecture introduces the trajectory of China’s economic growth from historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. We will explore the factors behind China’s economic growth from multiple perspectives, including history, economic development, and institutional transitions. Additionally, we will clarify the position of the Chinese economy and the features of Chinese economic growth in comparison with developed countries such as Japan, the United States, and European countries.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy from macroeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the features of Chinese economy based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data source and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total 4 hours).

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

中国経済論 B

馬　欣欣

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義はミクロ経済の視点から中国の経済発展の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、格差問題(例えば、都市と農村間の所得格差と社会保障格差)などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

【到達目標】
中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済発展の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済発展のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。
The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy development from a microeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic development based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。対面実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ミクロ視点からみた中国経済	ミクロ視点から見た中国経済の内容および研究方法を紹介する
第2回	国有企業改革(1)	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する
第3回	国有企業改革(2)	国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する
第4回	世界の工場―中国	対中直接投資の原因と構造変化、FDIと中国経済発展について理解する
第5回	産業構造の転換	産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する
第6回	農村改革(1)	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する
第7回	農村改革(2)	農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する
第8回	出稼ぎ就業と農民工	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎―農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する
第9回	国有銀行と金融改革	金融改革の歴史、現代における金融システムと金融政策、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する
第10回	住宅市場と不動産	土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する
第11回	経済発展と教育	教育制度と改革、人的資本理論と格差問題、「大学統一試験」（「高考」）の変遷、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する
第12回	社会保障政策の改革	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差、社会保障と労働市場について理解する
第13回	労働雇用・賃金政策の改革	計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する
第14回	ミクロレベル：中国経済の展望と問題点	ミクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズム及び問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、産業組織論、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とする。
Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, microeconomics, industrial organization economics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】
1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門　第4版』日本評論社。
2. 加藤弘之　(2016)『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか―改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
5. 加藤弘之・渡邉真理子・大橋英夫（2013）『21世紀の中国経済篇―国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
6. 馬欣欣（2015）『中国の公的医療保険制度の改革』、京都大学学術出版会。
7. 馬欣欣（2011）『中国女性の就業行動―「市場化」と都市労働市場の変容』、慶應義塾大学出版会。
その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】
１．平常点および宿題（70％）
２．定期試験（30％）
両者の組み合わせ：100％
1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)
Combination of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【専門分野】
中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】
1. 所得格差と貧困
2. 少子高齢化と社会保障

【主要研究業績】
1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
4.Ma, X. (2022) “Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China,” Review of Development Economics. https://doi.org/10.1111/rode.12969
5.Ma, X. (2022) “Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China,” Journal of Asian Economics, 80:101479. https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479
6.Ma, X. (2018) “Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China” China Economic Review, 47, 96 − 115. https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007

【Outline (in English)】
[Course outline]
This lecture introduces the determinants of the economic development in China from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., government official statistical data, academic survey data etc.). The topics’ targets focus on individuals, households, firms, and industry sectors. We will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise innovation, industrial structural transformation, inequality issues such as income and social security inequality between rural and urban residents and understand the facts, issues and mechanisms in Chinese economy from a microeconomic perspective.
[Learning Objectives]
The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy development from a microeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic development based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.
[Learning activities outside of classroom]
Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, microeconomics, industrial organization economics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total4 hours).
[Grading Criteria /Policy]
1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)
Combinations of both: 100%

LANd200CA（ドイツ語 / German language education 200）
ドイツ語セミナーA
北岡　幸代
開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、社会背景、人々の考え方を学びます。発音や文法なども受講者の理解度に応じて、確認・復習しながら進めていきます。

【到達目標】
1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に沿った表現・文法などを学びます。提出された課題については、添削や授業内でのフィードバック、「学習支援システム」を通じてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方、勉強方法について
第2回	住まいについて(1)	住まいのつくり
第3回	住まいについて(2)	感想や評価の表現
第4回	住まいについて(3)	賃貸住宅の広告を読む
第5回	お気に入りの街角(1)	街の景色
第6回	お気に入りの街角(2)	私の街の紹介
第7回	お気に入りの街角(3)	好みを伝える表現
第8回	ホテルでのトラブル(1)	ホテルの設備
第9回	ホテルでのトラブル(2)	助けを求める表現
第10回	ホテルでのトラブル(3)	予定を伺うメール 言い訳と謝罪の表現
第11回	夢と計画(1)	将来の夢を語る
第12回	夢と計画(2)	どこで何を学んでいるの？
第13回	夢と計画(3)	創造的に書いてみよう
第14回	授業内試験とまとめ	口頭試験あるいはプレゼンテーションと筆記試験 今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Menschen Kursbuch A1.2 』(Hueber)

【参考書】
参考書等は授業中に適宜紹介し、補助教材・動画教材等は「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
正当な理由のない欠席が全体の4分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
例年少人数編成である利点を生かし、受講者の皆さんの特に学びたいことを授業に反映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】
ドイツ語を1年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。ドイツ語の学習内容やドイツ語圏に関する受講者の興味関心にできるだけ寄り添い、映画や動画教材も積極的に利用します。したがって、シラバスに提示してあるテーマも若干変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, social background and the way people think in German-speaking countries while studying German at the beginner level. Pronunciation and grammar will be checked and reviewed according to the student's level.
【Learning Objectives】 The goals of the course are to
1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to express simple matters in German.
【Learning activities outside of classroom】 The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), an in-class written test (35%), and an in-class oral examination and presentation (35%), with 60%or more of the total passing grade.
If the number of absences without justifiable reason exceeds one-fourth of the total number of absences, the student will be excluded from the grading system.

LANd200CA（ドイツ語 / German language education 200）
ドイツ語セミナーB
北岡　幸代
開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、社会背景、人々の考え方を学びます。発音や文法なども受講者の理解度に応じて、確認・復習しながら進めていきます。

【到達目標】
1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に沿った表現・文法などを学びます。提出された課題については、添削や授業内でのフィードバック、「学習支援システム」を通じてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、勉強方法について
第2回	身体と健康(1)	体調不良をめぐる表現
第3回	身体と健康(2)	命令形の表現
第4回	身体と健康(3)	身体部位と体調をめぐる表現
第5回	人物評(1)	人物の外見について 過去形の表現
第6回	人物評(2)	人物像について 非分離動詞の使い方
第7回	人物評(3)	驚きの表現
第8回	家事とシェアハウス(1)	日記を読む 命令形
第9回	家事とシェアハウス(2)	家事をめぐる表現
第10回	家事とシェアハウス(3)	シェアハウスについて
第11回	服装について(1)	服装に関する表現
第12回	服装について(2)	評価・感想の表現 比較の表現
第13回	服装について(3)	強調する表現
第14回	授業内試験とまとめ	口頭試験あるいはプレゼンテーションと、ヒヤリング・筆記試験 今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Menschen Kursbuch A1.2 (Hueber)

【参考書】
参考書等は授業中に適宜紹介し、補助教材・動画教材は「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
正当な理由のない欠席が全体の4分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
例年少人数編成である利点を生かし、受講者の皆さんの特に学びたいことを授業に反映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】
ドイツ語を1年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。ドイツ語学習内容やドイツ語圏に関する受講者の興味関心にできるだけ寄り添い、映画や動画教材も積極的に利用します。したがって、シラバスに提示してあるテーマも若干変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, social background and the way people think in German-speaking countries while studying German at the beginner level. Pronunciation and grammar will be checked and reviewed according to the student's level.
【Learning Objectives】 The goals of the course are to
1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to express simple matters in German.
【Learning activities outside of classroom】 The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), an in-class written test (35%), and an in-class oral examination and presentation (35%), with 60%or more of the total passing grade.
If the number of absences without justifiable reason exceeds one-fourth of the total number of absences, the student will be excluded from the grading system.

LANf200CA（フランス語 / French language education 200）

フランス語セミナーB

橋本　到

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2単位**

初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】
フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音し、自ら発信する練習を行う。以上を一サイクルとして学習を進める。対面授業を想定しているが、クラスの状況等を見ながら、Zoomを使用することがある。対面であるなしに関係なく、課題の受け渡し等にグーグル・クラスルームを利用する。急遽、やむを得ず、授業形式などを変更する場合、学習支援システム等を通じて連絡する）。授業中に習熟度の確認のため、家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	郵便局の利用、道順-1	郵便に関する語彙、関連する文法の整理（ジェロンディフ）、～に立ち寄る、ロケーション。
第2回	郵便局の利用、道順-2	前回の復習、ジェロンディフの練習、切手を買う
第3回	郵便局の利用、道順-3	前回の復習、荷物を送る、手紙の書き方
第4回	生活と環境（ごみ捨てなど）-1	小テスト、ゴミの種類に小テスト、関する語彙、関連する文法の整理（比較級、受動態）、部屋の説明、アナウンス
第5回	生活と環境（ごみ捨てなど）-2	前回の復習、交通と環境問題、ヴェリブ・オートリブ
第6回	生活と環境（ごみ捨てなど）-3	前回の復習、原子力発電、ゴミの分別、受動態の練習
第7回	家族の形-1	小テスト、家族形態の語彙、関連する文法の整理（指示代名詞、関係代名詞、強調構文）
第8回	家族の形-2	前回の復習、家族の紹介、関係代名詞・強調構文の練習、出生率の変遷-1
第9回	家族の形-3	前回の復習、出生率の変遷-2、パックス
第10回	週末の過ごし方-1	小テスト、関連する文法の整理（疑問代名詞、関係代名詞où, dont）、靴の買い方
第11回	週末の過ごし方-2	前回の復習、服を買う、外出の相談
第12回	週末の過ごし方-3	前回の復習、聴解、読解、レジャーの提案（作文）
第13回	全体のまとめ、進度の調整	小テスト、ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第14回	映像資料視聴	まとめの講評、フランスの文化（ジャポニスム）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計4時間を標準とする。
テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。
そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】
高橋百代他、『場面で学ぶフランス語2（改訂版）』、三修社

【参考書】
初級で使用したフランス語の教科書。
森本英夫ほか『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社
東京外語大　フランス語モジュール　http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr

【成績評価の方法と基準】
三回の小テストの合計65％、レポート5％、平常点30％

【学生の意見等からの気づき】
例年、履修者は少数ながら、ほとんどが意欲的に学習しています。

【学生が準備すべき機器他】
グーグルクラスルームの利用はスマホでも可能だが、画面が小さいので、パソコンやタブレットも活用できることが望ましい。

【その他の重要事項】
本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.
(Learning Objectives)
After taking this course, you will be able to:
- Understand French elementary expressions.
- Understand French daily habits and customs and cultural background.
（Learning activities outside of classroom）
preparation:
- Listen to the CD attached to the textbook and pronounce example sentences (30 minutes).
- Do homework exercises (2 hours).
Review:
- Check the pronunciation rules and repeat the example sentences and exercise sentences (30 minutes).
- Check the answer examples of the exercises, and if there are any wrong questions, review the contents (1 hour).
(Grading criteria)
Your final grade will be calculated according to the following process:
- Usual performance score 30%
- Written examination : 65%
- -Report: 5%

LANf200CA（フランス語 / French language education 200）

フランス語セミナーA

橋本　到

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】
フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音し、自ら発信する練習を行う。以上を一サイクルとして学習を進める。対面授業を想定しているが、クラスの状況等を見ながら、Zoomを使用することがある。対面であるなしに関係なく、課題の受け渡し等にグーグル・クラスルームを利用する。急遽、やむを得ず、授業形式などを変更する場合、学習支援システム等を通じて連絡する）。授業中に習熟度の確認のため、家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	レストランでの会話-1	郷土料理、関連する文法の整理（複合過去の否定、目的補語人称代名詞）オーダー、味の説明、料理名
第2回	レストランでの会話-2	前回の復習、テーブルでの会話（衣服、プレゼントの選択、その理由）
第3回	レストランでの会話-3	前回の復習、テーブルでの会話（招待）、支払いと若干の表現。
第4回	交通機関と旅行-1	小テスト、若干の地理、関連する文法の整理（中性代名詞）乗車券の購入、旅程、所要時間の説明
第5回	交通機関と旅行-2	前回の復習、掲示板（乗車券、発着ホームなど）、聴解練習
第6回	交通機関と旅行-3	前回の復習、ホテルの予約、読解（自動改札機について）
第7回	体と健康-1	小テスト、語彙（体の部位、症状、医療関係）、関連する文法の整理（代名動詞の複合過去、単純未来）、健康に関する表現
第8回	体と健康-2	前回の復習、薬局での会話、体の不調を訴える。
第9回	体と健康-3	前回の復習、体の不調（聴解）、体の部位（語彙・復習）
第10回	ヴァカンス-1	小テスト、語彙（遠出、スポーツ）、関連する文法の整理（半過去、大過去）、過去の継続中の行為
第11回	ヴァカンス-2	前回の復習、自分のヴァカンスの説明、過去の習慣の言い方。
第12回	ヴァカンス-3	前回の復習、事前の情報取得。
第13回	全体のまとめ、進度の調整	小テスト、ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第14回	映像資料視聴	まとめの講評とフランスの社会（移民系住民関連）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計4時間が標準となります。
テキストの会話部分は前もって目を通しておいてください。授業でやった練習問題は後でもう一度見直し、不明な点があれば次週授業で質問してください。
そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】
高橋百代他、『場面で学ぶフランス語2（改訂版）』、三修社

【参考書】
初級で使用したフランス語の教科書。
森本英夫ほか『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社
東京外語大　フランス語モジュール　http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr

【成績評価の方法と基準】
三回の小テストの合計65％、レポート5％、平常点30％

【学生の意見等からの気づき】
例年、履修者は少数ながら、ほとんどが意欲的に学習しています。

【学生が準備すべき機器他】
グーグルクラスルームの利用はスマホでも可能だが、画面が小さいので、パソコンやタブレットも活用できることが望ましい。

【その他の重要事項】
本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.
(Learning Objectives)
After taking this course, you will be able to:
- Understand French elementary expressions.
- Understand French daily habits and customs and cultural background.
（Learning activities outside of classroom）
preparation:
- Listen to the CD attached to the textbook and pronounce example sentences (30 minutes).
- Do homework exercises (2 hours).
Review:
- Check the pronunciation rules and repeat the example sentences and exercise sentences (30 minutes).
- Check the answer examples of the exercises, and if there are any wrong questions, review the contents (1 hour).
(Grading criteria)
Your final grade will be calculated according to the following process:
- Usual performance score 30%
- Written examination : 65%
- -Report: 5%

LANr200CB（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語セミナーA

松澤　暢子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級ロシア語を終え、中級以上を目指す学生のための授業です。基礎文法の習得を完成し、中級文法を学びながら、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語能力を伸ばしていきます。ロシア語圏で通用するロシア語能力の基礎を身につけること、そして、様々なジャンルのテキストや視聴覚教材を通じ、言語だけでなくロシアの生活、文化、歴史への知識を深めることを目的とします。

【到達目標】
１. 基礎文法、基本的な語彙に加え、主に以下の4点を習得することで、ロシア語能力検定試験４級、３級の合格、または同程度のロシア語能力を身につけることを目指す。
・ 辞書を使わずに短いテキストを読解、和訳できる。
・ ゆっくりとしたテンポで読まれたテキスト、簡単な日常会話を聞きとることができる。
・ 発音、アクセント、イントネーションを意識した、滑らかな音読、会話（挨拶や簡単な日常会話）ができる。
・ 基本的な語彙を使い、挨拶や自己紹介などを書くことができる。
２. 中級文法を学習し、辞書を使いながら文学作品を含む様々なジャンルのテキストを読み解く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
対面で行います。基礎文法を総復習し、5月、10月のロシア語能力検定試験（４級、３級）の受験を視野に、文法、露文和訳、和文露訳等の対策問題を解いていきます。基礎文法の復習後は、中級文法を学習し、辞書を使って文学作品を含む幅広いジャンルのテキストの読解にも挑戦します。また、生きたロシア語に触れるため、朗読、映画等の視聴覚教材を使用したリスニングの練習を毎回行います。同様に、発音、アクセント、イントネーションを意識した音読または会話の練習も毎回行います。そのほか、随時、小テストを実施し、課題を出します。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、基礎文法の復習	オリエンテーション（自己紹介）、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策（４級-1）	発音、アクセント、イントネーション、名詞の性別と人称代名詞
第3回	ロシア語能力検定試験対策（４級-2）	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読
第4回	ロシア語能力検定試験対策（４級３級-1）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、不完了体と完了体）
第5回	ロシア語能力検定試験対策（４級３級-2）	副詞、無人称文、疑問詞と返答、命令形
第6回	ロシア語能力検定試験対策（４級３級-3）	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第7回	ロシア語能力検定試験対策（４級３級-4）	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）1
第8回	ロシア語能力検定試験対策（３級-1）	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）2
第9回	ロシア語能力検定試験対策（３級-2）	関係代名詞1
第10回	ロシア語能力検定試験対策（３級-3）とテキスト読解	関係代名詞2 テキスト読解（ロシアの市民生活など）
第11回	ロシア語能力検定試験対策（３級-4）とテキスト読解	数詞（数詞と名詞の変化） テキスト読解（ロシアの市民生活など）
第12回	テキスト読解と朗読1	テキスト読解と音読、朗読練習（ロシアの歴史など）
第13回	テキスト読解と朗読2	テキスト読解と音読、朗読練習（ロシアの歴史など）
第14回	テキスト読解と朗読3	テキスト読解と朗読（学生の要望を反映）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨み、課題は期限までに必ず提出してください。予習・復習を合わせた授業外の学習時間は、毎回4時間程度が目安です。そのほか、NHKラジオ『まいにちロシア語』やインターネットなどを通じ、日頃からロシア語に触れ、知識と興味を深めていきましょう。

【テキスト（教科書）】
テキストは、適時プリントを配布します。
露和辞典（『博友社ロシア語辞典（改訂新版）』［1995年］が望ましい）

【参考書】
『初級ロシア語20課』桑野隆著、白水社、2012年
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年
『大学のロシア語１』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年
『研究社露和辞典』、研究社、1988年
『研究社和露辞典＜改訂版＞』、研究社、2011年

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50％、小テスト・課題の評価（小テストや課題）50％で評価します。課題は、文法の練習問題、露文和訳、和文露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などを行い、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムで確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんからの意見や希望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】
ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。ロシア語能力検定試験４級、３級の合格を目指す学生も受験を予定していない学生も歓迎します。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。授業形態については対面が基本ですが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】
This course is designed for students who have taken beginner Russian and wish to advance to the intermediate level. While completing the acquisition of basic grammar and learning intermediate grammar, students will develop their Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing". The objective is for students to acquire a foundation of Russian language skills that can be used in Russian-speaking countries, and to deepen their knowledge not only of the language but also of Russian life, culture, and history through a variety of texts and audiovisual materials of different genres. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test or acquire the same level of Russian language proficiency. Four hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANr200CB（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語セミナーB

松澤　暢子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2単位**

※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級ロシア語を終え、中級以上を目指す学生のための授業です。基礎文法の習得を完成し、中級文法を学びながら、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語能力を伸ばしていきます。ロシア語圏で通用するロシア語能力の基礎を身につけること、そして、様々なジャンルのテキストや視聴覚教材を通じ、言語だけでなくロシアの生活、文化、歴史への知識を深めることを目的とします。

【到達目標】
１. 基礎文法、基本的な語彙に加え、主に以下の4点を習得することで、ロシア語能力検定試験４級、３級の合格、または同程度のロシア語能力を身につけることを目指す。
・ 辞書を使わずに短いテキストを読解、和訳できる。
・ ゆっくりとしたテンポで読まれたテキスト、簡単な日常会話を聞きとることができる。
・ 発音、アクセント、イントネーションを意識した、滑らかな音読、会話（挨拶や簡単な日常会話）ができる。
・ 基本的な語彙を使い、挨拶や自己紹介などを書くことができる。
２. 中級文法を学習し、辞書を使いながら文学作品を含む様々なジャンルのテキストを読み解く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
対面で行います。基礎文法を総復習し、5月、10月のロシア語能力検定試験（４級、３級）の受験を視野に、文法、露文和訳、和文露訳等の対策問題を解いていきます。基礎文法の復習後は、中級文法を学習し、辞書を使って文学作品を含む幅広いジャンルのテキストの読解にも挑戦します。また、生きたロシア語に触れるため、朗読、映画等の視聴覚教材を使用したリスニングの練習を毎回行います。同様に、発音、アクセント、イントネーションを意識した音読または会話の練習も毎回行います。そのほか、随時、小テストを実施し、課題を出します。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文法の復習と検定試験対策１	動詞の体と時制、命令形 格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第2回	文法の復習と検定試験対策２	形容詞・副詞の比較級
第3回	文法の復習と検定試験対策３	否定生格
第4回	中級文法の学習と検定試験対策４	副動詞1
第5回	中級文法の学習とテキスト読解	副動詞2 テキスト読解（ロシアの文化など）
第6回	中級文法の学習とテキスト読解	能動形動詞1 テキスト読解（ロシアの文化など）
第7回	中級文法の学習とテキスト読解	能動形動詞2 テキスト読解（ロシアの民話など）
第8回	中級文法の学習とテキスト読解	被動形動詞1 テキスト読解（ロシアの民話など）
第9回	中級文法の学習とテキスト読解	被動形動詞2 テキスト読解（文学作品）
第10回	テキスト読解と朗読1	テキスト読解（文学作品）と音読、朗読練習
第11回	テキスト読解と朗読2	テキスト読解（文学作品）と音読、朗読練習
第12回	テキスト読解と朗読3	テキスト読解（文学作品）と音読、朗読練習
第13回	テキスト読解と朗読4	テキスト読解（文学作品）と音読、朗読練習
第14回	テキスト読解と朗読5	テキスト読解と朗読（学生の要望を反映）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨み、課題は期限までに必ず提出してください。予習・復習を合わせた授業外の学習時間は、毎回4時間程度が目安です。そのほか、NHKラジオ『まいにちロシア語』やインターネットなどを通じ、日頃からロシア語に触れ、知識と興味を深めていきましょう。

【テキスト（教科書）】
テキストは、適時プリントを配布します。
露和辞典（『博友社ロシア語辞典（改訂新版）』［1995年］が望ましい）

【参考書】
『初級ロシア語20課』桑野隆著、白水社、2012年
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年
『大学のロシア語１』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年
『研究社露和辞典』、研究社、1988年
『研究社和露辞典＜改訂版＞』、研究社、2011年

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50%、小テスト・課題の評価（小テストや課題）50％で評価します。課題は、文法の練習問題、露文和訳、和文露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などを行い、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムで確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんからの意見や希望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】
ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。ロシア語能力検定試験４級、３級の合格を目指す学生も受験を予定していない学生も歓迎します。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。授業形態については対面が基本ですが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】
This course is designed for students who have taken beginner Russian and wish to advance to the intermediate level. While completing the acquisition of basic grammar and learning intermediate grammar, students will develop their Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing". The objective is for students to acquire a foundation of Russian language skills that can be used in Russian-speaking countries, and to deepen their knowledge not only of the language but also of Russian life, culture, and history through a variety of texts and audiovisual materials of different genres. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test or acquire the same level of Russian language proficiency. Four hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANC200CA

中国語セミナーA

石　碩

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，これまでに学んだ基礎的な知識を活かし，中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し，生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ，中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】
中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら，中級レベルの理解力，読解力，口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。
学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第2回	第1課 （もはや山は高くなく、海は遠くない）	読解
第3回	第2課 （旅のお目当ては博物館）	読解
第4回	１、２課のまとめ、発表	発表
第5回	第3課 （私の青春は私のもの）	読解
第6回	第4課 （東北三省はお笑いの総本山）	読解
第7回	３、４課のまとめ、発表	発表
第8回	第5課 （結婚式はシンプルが一番！）	読解
第9回	第６課 （スーパーやコンビニが農村にオープン）	読解
第10回	５、６課のまとめ、発表	発表
第11回	第７課 （ネット新語との付き合い方）	読解
第12回	第８課 （中国人が日本で「爆買い」から「爆入学」へ）	読解
第13回	７、８課のまとめ、発表	発表
第14回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書を精読し，記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また，関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は4時間程度です。

【テキスト（教科書）】
『時事中国語の教科書　2025年度版』朝日出版社、2025年。

【参考書】
授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、試験70％

【学生の意見等からの気づき】
授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい。

【その他の重要事項】
２年間中国語を学習した人を対象とします。
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業時に面談を行います。

【Outline (in English)】
The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30%regular marks and 70% examinations.

LANC200CA

中国語セミナーB

石　碩

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，これまでに学んだ基礎的な知識を活かし，中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し，生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ，中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】
中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら，中級レベルの理解力，読解力，口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。
学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	前期のまとめ
第2回	第9課 （ローテク、ハイテク、どちらも大事）	読解
第3回	第10課 （中国の麺の都は山西省か、陝西省か）	読解
第4回	９、10課のまとめ、発表	発表
第5回	第11課 （定年後のトレーニングに「年齢制限」）	読解
第6回	第12課 （新技術が切り拓く新世界）	読解
第7回	１１、１２課のまとめ、発表	読解
第8回	第１３課 （消費財の買い替えを国が推進）	読解
第9回	第１４課 （福建と台湾、今昔往来物語）	読解
第10回	第１５課 （東京の中国人書店）	読解
第11回	１３、１４、１５課のまとめ、発表	発表
第12回	補助教材	読解、発表
第13回	補助教材	読解、発表
第14回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書を精読し，記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また，関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は4時間程度です。

【テキスト（教科書）】
『時事中国語の教科書　2025年度版』朝日出版社、2025年。

【参考書】
授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、試験70％

【学生の意見等からの気づき】
授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】
２年間中国語を学習した人を対象とします。
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業に面談を行います。

【Outline (in English)】
The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30%regular marks and 70% examinations.

LANs200CA（スペイン語 / Spanish language education 200）

スペイン語セミナーA

芝田　幸一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代文明、天然資源、三十数年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】
1）ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2）スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週Hoppiiを確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第2回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第3回	復習②と基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第4回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第5回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第6回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第7回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第8回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第9回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第10回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第11回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第12回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第13回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第14回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】
『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)／ペルー国家統計情報局（https://www.inei.gob.pe/）

【成績評価の方法と基準】
平常点（和訳・発表・質疑応答等）90％＋口頭試験10%で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。キャンパス探検会話実習は好評だったため状況次第で実施したい。

【学生が準備すべき機器他】
教員からの連絡や資料配布はHoppii上で行う。

【その他の重要事項】
少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】
[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned part of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentation about relevant topics. Your study time will be four hours for a class. [Grading Criteria /Policy] Grading will be decided based on Term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

LANs200CA（スペイン語 / Spanish language education 200）

スペイン語セミナーB

芝田　幸一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代文明、天然資源、三十数年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】
1）ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2）スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週Hoppiiを確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第2回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第3回	復習②と基礎的知識	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 ラテンアメリカとペルーの概説講義
第4回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第5回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第6回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第7回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第8回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第9回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第10回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第11回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第12回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第13回	復習③	口頭試験の準備
第14回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成、スペイン語作文等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】
『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru（2000）／ペルー国家統計情報局（https://www.inei.gob.pe/）／エル・コメルシオ紙（http://elcomercio.pe/）

【成績評価の方法と基準】
平常点（和訳・発表・質疑応答等）90％＋口頭試験10%で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。

【学生が準備すべき機器他】
教員からの連絡や資料配布はHoppii上で行う。

【その他の重要事項】
少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】
[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned part of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentation about relevant topics. Your study time will be four hours for a class. [Grading Criteria /Policy] Grading will be decided based on Term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

開発経済入門A

池上　宗信

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済成長の理論と実証分析、伝統的な農業から工業への経済発展のプロセスを学びます。また、これらの開発経済学のトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部1年生向けの経済学入門の補足として、労働需要、所得分配、回帰分析を学びます。

【到達目標】
なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、サブサハラアフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょうか？ 経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、2024年度の履修者数に基づいて、教室を割り当てられていない、オンライン授業が確定している科目です。
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。
授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。
各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。
受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。
受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。
授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	高校地歴の教育における本授業の意味、労働需要1	生産関数、等利潤線
第2回	労働需要2	利潤最大化（図による導出）、微分
第3回	労働需要3	利潤最大化（数式による導出）
第4回	労働需要4	労働と資本、所得分配
第5回	経済成長1	対数、成長率、対数、成長率、相関、人口、貧困、国民総生産、購買力平価
第6回	経済成長2	経済成長の記述統計
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	経済成長3	ソロー・モデル
第9回	経済成長4	一人あたり資本の成長率、技術進歩
第10回	経済成長5	因果、疑似相関、回帰
第11回	経済成長6、構造転換1	貯蓄率、労働成長率の変化、条件付き収束 成長会計、構造転換の記述統計
第12回	構造転換2	ルイス・モデル
第13回	構造転換3	ハリス＝トダロ・モデル、トダロの逆説
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。
オンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社
ジェトロ・アジア経済研究所他編（2015）『テキストブック開発経済学 第3版』有斐閣
戸堂康之(2021)『開発経済学入門　第2版』新世社

【成績評価の方法と基準】
中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。
学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】
- Course outline
We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization.
Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand, income allocation, and regression analysis, which are not covered by introductory Economics for 1st year undergraduate students.
- Learning Objectives
Why are the economies of Sub-Saharan African countries small and growing rapidly while Japan's economy is large and growing slowly?
The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.
- Learning activities outside of classroom
Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.
Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
- Grading Criteria, Policies
Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

開発経済入門Ｂ

池上　宗信

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済入門Ａでは、経済成長、産業構造転換という経済発展の過程を学びました。開発経済入門Ｂでは、経済発展の潜在的な要因として、貿易、金融、起業を取り上げます。貿易、金融の利益を示す経済学の理論モデル、実証分析を学びます。

【到達目標】
なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きく、金融の深化も進んでいるのに、サブサハラアフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？
経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、2024年度の履修者数に基づいて、教室を割り当てられていない、オンライン授業となることが確定している科目です。
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。
授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。
各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。
受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。
受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。
授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	貿易1	比較優位、絶対優位
第2回	貿易2	2財1時点モデル
第3回	貿易3	国際価格比と比較優位、貿易政策下の予算制約線
第4回	貿易4、金融1	輸入代替工業化、実証分析、異時点間予算制約線
第5回	金融2	割引現在価値、消費者の異時点間効用最大化
第6回	金融3	企業の利潤最大化、資本制約
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	金融4	1財2期間モデル（消費者かつ生産者）
第9回	金融5	マクドゥーガル=ケンプ・モデル
第10回	金融6、起業1	実証分析、職業選択
第11回	起業2	信用制約
第12回	起業3	貧困の罠、ランダム化比較試験
第13回	起業4	実証分析
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。
各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
澤田康幸（2003）『基礎コース　国際経済学』新世社
高橋基樹、福井清一編(2008)『経済開発論：研究と実践のフロンティア』勁草書房
戸堂康之(2021)『開発経済学入門　第2版』新世社
バ゛ナジ゛ー、デ゛ュフロ(2012)『貧乏人の経済学』みすす゛書房

【成績評価の方法と基準】
中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。
学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を

【Outline (in English)】
- Course outline
In Introductory Development Economics A, we studied economic development as a process.
In Introductory Development Economics B, we will study trade, finance, and entrepreneurship as factors of economic development.
We will review economics models showing benefits of trade and finance and empirical studies.
- Learning Objectives
Why do East Asian countries have large proportions of trade and financial sectors, while Sub-Saharan Africa have smaller proportions?
The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.
- Learning activities outside of classroom
Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.
Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
- Grading Criteria, Policies
Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

SES200CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境科学 A

岡部　雅史

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，環境とはなにか？　私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】
主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は初回のガイダンスからスタートします。
講義概要としては，1－環境を構成する要因，2－環境の変動，3－テクノロジーの進歩と環境に対する影響，4－環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と，その将来。以上の4つのサブテーマから構成され，前半では環境の概念の理解，後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方，環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。
試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境2	上水道と下水道
4	水と環境3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス2	ESCO事業・ISOビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。　総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100％となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】
毎週講義時刻に支援システムにて　その週の教材を配信します。
小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】
Course outline:
This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.
Learning objectives:
The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.
Learning activities outside of classroom:
Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).
Grading criteria:
There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60%or more of the total score. The total score will be 100%of the evaluation criteria allocation.

SES200CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境科学Ｂ

岡部　雅史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと，現在の環境汚染の現状，さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】
主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と，その将来等　以上の4つのサブテーマから構成され，前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解，後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し，環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方，環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。
試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第3回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第4回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第5回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第6回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第8回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第9回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第10回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第11回	環境・エコビジネスA：	ESCO事業1（概念・経済規模）
第12回	環境・エコビジネスB：	ESCO事業2（適用実例）
第13回	環境・エコビジネスC：	エコファンド・土地関連ビジネス
第14回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。　総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100％となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】
毎週講義時刻に支援システムにて　その週の教材を配信します。
小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】
Course outline:
This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.
Learning objectives:
The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.
Learning activities outside of classroom:
Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).
Grading criteria:
There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60%or more of the total score. The total score will be 100%of the evaluation criteria allocation.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

環境政策論 A

西澤　栄一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】
　環境税や排出取引をはじめとする環境政策の諸手段の働きを、グラフを用いて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
　毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。
　なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論Aまたは公共経済論A・Bを履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス＆環境問題を考える
第2回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から20世紀末まで
第3回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第4回	地球温暖化対策①	エネルギー政策、カーボンプライシング
第5回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第6回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第7回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第8回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第9回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第10回	環境税	ピグー税、汚染者負担原則
第11回	排出取引	税との比較、EUの制度
第12回	補助金・デポジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第13回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第14回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】
　栗山・馬奈木(2024)『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣
　一方井誠治(2018)『コア・テキスト環境経済学』新世社
　その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験(70%)と各回の課題(30％)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】
This course outlines environmental policies from the viewpoint of economic theory.
The goals of this course are to graphically comprehend the economic mechanism of environmental conservation measures.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assingnments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

環境政策論Ｂ

西澤　栄一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、環境政策論Ａにつづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】
①日本の環境政策の実態について理解する。
②環境政策の形成過程を理解する。
③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
　毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。
　環境政策論Ａを履修済みであることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	環境政策の諸原則	6つの原則
第２回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第３回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第４回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第５回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第６回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第７回	生物多様性	生態系サービス
第８回	生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第９回	自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第10回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第11回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第12回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第13回	企業と環境問題①	環境マネジメント
第14回	企業と環境問題②	サステナブルファイナンス、ESG投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】
　竹本和彦編(2020)『環境政策論講義』東京大学出版会
　西尾哲茂(2019)『わか～る 環境法 増補改訂版』信山社
　神山智美(2024)『自然環境法を学ぶ 第2版』文眞堂
　その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験(70%)と各回の課題(30％)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】
This course overviews current environmental law, politics, and policy in Japan.
At the end of the course, students are expected to understand environmental policies and their policy process in Japan and to discuss the future direction of environmental policies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assingnments (30%) from each class.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

社会経済思想史 A

後藤　浩子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパにおける重商主義の形成」
本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状況を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランやコルベールの財政政策に支えられたルイ14世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらしうる国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

【到達目標】
学生が、この講義を通して、17世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの見方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じてZoomでのオンライン併用で行います。
毎回の授業で1200～1400字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次回の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に学習支援システムを通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資本主義の誕生とヨーロッパ(1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第1サイクル。以降14回までの本学期の講義内容は、高校世界史A／Bにおける「ヨーロッパの拡大と大西洋世界：16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第2回	資本主義の誕生とヨーロッパ(2)	重商主義の実相
第3回	資本蓄積システムの第２サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第4回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド(1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第5回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド(2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第6回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とペティへの影響
第7回	W・ペティ(1)	経歴とアイルランド測量
第8回	W・ペティ(2)	『租税貢納論』
第9回	W・ペティ(3)	『政治算術』
第10回	Ｊ・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第11回	Ｊ・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第12回	Ｃ・ダヴナント	英国ウィッグ党の経済政策批判
第13回	Ｄ・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第14回	資本蓄積システムの第３サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、毎回の講義の後に、学習支援システムの「課題」欄に提示してある問いに答える形で講義の内容をまとめたレポートを作成し、6日以内にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低4時間です。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として10点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】
イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009年）
ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009年）
米田昇平『欲求と秩序：18世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005年）
※さらに詳しく学びたい人のための文献ですので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義内容をまとめたレポート（40％）と春学期末の授業内試験の成績（60％）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想史的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
"The formation of mercantilism in Europe"
To begin with, this lecture gives students basic knowledge about the economic development of sixteenth-and seventeenth-century Europe as historical context. Then, it introduces major theorists of social and economic thought of that time.
In the seventeenth century England underwent internal and external upheavals such as the Union of the Crowns, the Wars of the Three Kingdoms (the Puritan Revolution), the Restoration and the Glorious Revolution. On the other hand, France established an absolute monarchy under the reign of Louis XIV with the help of Mazarin and Colbert. These two kingdoms were to get into economic and military contest for commercial
supremacy. Against this backdrop, intellectuals discussed questions such as “what is the strength of nation?” and “what regime brings economic prosperity?". In replying to them, mercantilism was to be formed.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand the historical formation of economic perspectives in the political and economic situations of the seventeenth-century England and France and regional characteristics of Europe.
【Learning activities outside of classroom】
After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

社会経済思想史Ｂ

後藤　浩子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「重商主義批判の流れと経済学の形成」
戦費調達の必要に迫られ、17世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17世紀来のコルベール的工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は1720年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沫事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状況の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は『国富論』に結実します。

【到達目標】
学生が、この講義を通して、17世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補完する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じてZoomでのオンライン併用で行います。
毎回の授業で1200～1400字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次回の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降14回までの本学期の講義内容は、高校世界史Ａ／Ｂにおける「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第2回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第3回	ボワギルベール(1)	欲求と富
第4回	ボワギルベール(2)	自然的自由の体制の希求
第5回	Ｊ・Ｆ・ムロン(1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第6回	Ｊ・Ｆ・ムロン(2)	貨幣と信用
第7回	Ｒ・カンティロン(1)	商業の一般法則の分析
第8回	Ｒ・カンティロン(2)	市場価格と貨幣流通
第9回	Ｆ・ケネー(1)	「経済表」：国富の循環の分析
第10回	Ｆ・ケネー(2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第11回	Ａ・スミス(1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第12回	Ａ・スミス(2)	「重商主義体系」批判
第13回	Ａ・スミス(3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第14回	Ａ・スミス(4)	公債批判と国家財政論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、毎回の講義の後に、学習支援システムの「課題」欄に提示してある問いに答える形で講義の内容をまとめたレポートを作成し、6日以内にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低4時間です。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として10点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】
イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009年）
ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009年）
米田昇平『欲求と秩序：18世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005年）
ジャン=フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015年）

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義内容をまとめたレポート（40％）と秋学期末の授業内試験の成績（60％）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想史的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
"Criticism of mercantilism and formation of political economy"
In need of procurement of war expenditure, institutional innovation of public credit occurred in England in the end of the seventeenth century. However, in France, the national debt had expanded due to Colbert's manufacture-oriented policy and increase of financial burden of war since the seventeenth century and absolute monarchy was on the verge of self-bankruptcy. To cope with this quagmire, the Banque royale was established in the beginning of the 18th century, and bank notes were issued, but this so-called "Law system" failed in 1720. At the same time, Britain also experienced the investment boom and its collapse, namely the South Sea Bubble. Amid such historical circumstances, various prescriptions for the ailing economies are made up first in France and then in Britain. Adam Smith examined thoroughly those critical reviews of mercantile policy and gave birth to The Wealth of Nations.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand the formation of the public credit system called the "Financial Revolution", the criticisms of mercantilism and the birth of physiocracy and political economy.
【Learning activities outside of classroom】
After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

経済政策論 A

小原　拓也

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
完全競争市場という理想的な取引環境においては、資源配分の効率性と公平性が実現される。しかし、現実的には市場で解決できない問題（市場の失敗）が存在するため、政府の市場への介入が必要となる。本講義では、様々な市場の失敗に対して政府はどのように政策介入すべきなのか考察する。また、関連する現実の経済問題を紹介することで理解を深める。

【到達目標】
本講義では、歳出（政府の支出）の観点における経済政策の内容を習得することで、政府がどのような目的で現実の経済問題に対処しているのか経済学的に理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、自作のパワーポイント資料（PDFファイル）を用意し，授業の前日までに学習支援システム(Hoppii)にアップロードするので，各自で印刷ないしはPCを持参して講義に出席すること。また毎回ではないが、講義内容を復習するための確認問題を講義資料に掲載する。フィードバック（解答解説等）は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済政策の目的
2	市場と政府(1)	政府の活動、余剰分析
3	市場と政府(2)	完全競争市場とパレート効率性
4	市場と政府(3)	公平性(機会の平等と結果の平等)
5	公共財理論(1)	公共財の定義と分類
6	公共財理論(2)	公共財の最適供給
7	外部性(1)	外部性の定義、金銭的外部性と技術的外部性、外部性における余剰分析
8	外部性(2)	外部性の公的解決と私的解決
9	独占	供給独占、独占における余剰分析
10	自然独占	費用逓減産業、自然独占における余剰分析、価格規制とインセンティブ規制
11	社会保障制度(1)	社会保障制度の概観、年金制度
12	社会保障制度(2)	医療制度、介護制度、生活保護制度、子育て支援策
13	講義総括	春学期の学習内容を総括する
14	試験と解説	春学期の学習内容について期末試験および解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の準備としては、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習を行うこと。
1回の授業につき、準備・復習それぞれ約2時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。自作のパワーポイント資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】
① 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚著『財政学15講』新世社、2018年
② 佐藤主光『公共経済学15講』新世社、2017年
③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年
④ 土居丈朗『入門公共経済学　第2版』日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】
評価は、教室内で実施する試験（100%）によって行う。試験では、経済政策論Aで扱うテーマに関する基本的な計算問題または記述問題を出題し、授業内容の理解度を測る。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【Outline (in English)】
Course Outline
In the ideal trading environment of a perfectly competitive market, efficiency and fairness in resource allocation are achieved. In reality, however, there are problems that cannot be solved by the market (market failures) and require government intervention in the market. In this lecture, we will examine how the government should intervene in response to market failures. It will also deepen understanding by introducing related real-world economic problems.
For lecture preparation, it is important to review Microeconomics AB (allocated for the second year).
For each class, approximately two hours of preparation and two hours of review are recommended.
Evaluation will be conducted through an in-class examination (100%). The exam will include fundamental calculation problems or written questions related to the topics covered in Economic Policy A to assess students' understanding of the course content.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

経済政策論 B

小原　拓也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では経済政策論Aで学習した内容を踏まえて、課税に関して「財源調達手段」としての役割よりも「政策手段」としての役割に焦点を当てて学習する。また、経済の安定化を図るための財政・金融政策についても学習する。

【到達目標】
本講義の目標は、歳入（政府の収入）の一つである租税に注目し、租税には政策上の目的を達成するための政策手段としての側面があることを理解することである。また、経済政策の基本的な内容を習得することで、現実の経済の動きに応じた望ましい財政・金融政策を提示できるようになることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、自作のパワーポイント資料（PDFファイル）を用意し，授業の前日までに学習支援システム(Hoppii)にアップロードするので，各自で印刷ないしはPCを持参して講義に出席すること。また毎回ではないが、講義内容を復習するための確認問題を講義資料に掲載する。フィードバック（解答解説等）は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	我が国の政策目標
2	消費者理論(1)	効用関数、予算制約、効用最大化問題、需要関数
3	消費者理論(2)	代替効果と所得効果
4	税制(1)	税制の設計、税の帰着と転嫁
5	税制(2)	消費税（従量税と従価税）、軽減税率と逆弾力性ルール
6	税制(3)	資本所得税（課税の正当性：アリとキリギリスを例に、異時点間の消費選択への影響）
7	税制(4)	法人税（会計上の利益と税務上の利益の違い、実効税率と名目税率の違い、投資への影響）
8	税制(5)	国際的な資本・労働移動の下での課税
9	税制(6)	所得再分配の根拠と効果、所得の不平等度（ジニ係数とローレンツ曲線）
10	税制(7)	労働所得税(個人課税、世帯課税)、負の所得税、勤労税額控除
11	経済政策(1)	財市場と貨幣市場、IS-LM分析
12	経済政策(2)	裁量的財政政策と問題点
13	講義総括	秋学期の学習内容を総括する
14	試験と解説	秋学期の学習内容について期末試験および解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の準備としては、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習を行うこと。
1回の授業につき、準備・復習それぞれ約2時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。自作のパワーポイント資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】
① 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚著『財政学15講』新世社、2018年
② 佐藤主光『公共経済学15講』新世社、2017年
③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年
④ 土居丈朗『入門公共経済学　第2版』日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】
評価は、教室内で実施する試験（100%）によって行う。試験では、経済政策論Bで扱うテーマに関する基本的な計算問題または記述問題を出題し、授業内容の理解度を測る。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【Outline (in English)】
Course Outline
Building on the content learned in Economic Policy Theory A, this course focuses on the role of the tax system as a “policy instrument” rather than as a “means of raising financial resources. Students will also learn about fiscal and monetary policies to stabilize the economy.
For lecture preparation, review of Microeconomics AB (assigned for the second year) should be conducted.
For each class, approximately two hours of preparation and two hours of review are recommended.
Evaluation will be conducted through an in-class examination (100%). The exam will include fundamental calculation problems or written questions related to the topics covered in Economic Policy B to assess students’ understanding of the course content.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

社会政策論 A

菅原　琢磨

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
・社会保障政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
【本講義はオンデマンド配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。】
社会政策が包摂し対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会政策である。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生起した社会的背景、原因についても概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か－定義と歴史的展開－	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開 少子高齢化社会の動向と社会保障	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
4	老齢年金制度の概要 障害年金・遺族年金の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
5	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的過程と年金改革の概要
6	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
7	診療報酬制度とその課題 わが国の医療提供体制	診療報酬制度の課題 医療提供体制の概要
8	これからの医療と地域政策の展開	地域の変貌とこれからの医療
9	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
10	雇用保険事業の沿革・課題 労働者災害補償保険の概要と課題	雇用保険二事業の概要 労働者災害補償保険の意義と体系
11	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
12	介護保険の沿革と制度改正	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改正による課題対応
13	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
14	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内でも様々な社会（保障）政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、講義内容に該当する部分の参考書に予め目を通しておくこと。日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックスについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に使用しない。独自の講義スライド資料を利用する。

【参考書】
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第21版）』有斐閣、2024年

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点と学期末試験により実施する。
「実施される確認テストの受験状況（25％）と点数（25％）」を併せて平常点（50％）として換算し、「学期末試験の点数」を50％として全体で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
担当者にとって2年ぶりの開講となるため特になし。

【その他の重要事項】
医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員等で社会保障政策の論議に深く関わる担当者が、理論と合わせ当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】The purpose of this lecture is to provide an overview of the social policy issues facing Japan (labor and employment, medical care, pensions, long-term care, public assistance, and welfare for the elderly and children) and their backgrounds, and to provide an overview of the system, basic knowledge of policy trends, and a deeper understanding of institutional responses to these issues.
【Learning activities outside of classroom】
The objectives, history, and background of various social policies and systems will be explained in the lectures, but students are encouraged to read reference books on the topics relevant to the lecture content in advance. It is desirable that students voluntarily take an interest in current topics related to social security that they are exposed to in newspapers, magazines, etc. on a daily basis.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy〉】
Evaluation will be based on the student's regular score and the end-of-term examination.
The "Attempted status (25%) and score (25%) of the confirmation test" will be converted together as the regular score (50%), and the "score of the end-of-term examination" will be 50%for the overall evaluation.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

社会政策論Ｂ

菅原　琢磨

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「社会政策論A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。現実の社会保障上の問題を「材料」として受講者自身で検討、思考する能力の涵養を促すことを講義の目的とする。

【到達目標】
わが国が直面する主要な社会保障政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
【本講義はオンデマンドで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会保障政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義では特に高齢化に対する対応が進む医療制度改革やその政策対応にも触れつつ、進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か 社会保障を巡る今日的状況	社会保障の定義、我が国の現状と将来
2	新型コロナウイルスのパンデミック発生時の政策対応と評価	新型コロナに対する政策対応と今後の課題の検討
3	医療財政と医療政策 「医療保険制度の課題と将来」	給付と負担の見直しに向けた今後の展望
4	高額薬剤など新たなイノベーションに対する対応	高額薬剤の現状と画期的イノベーションを創発する制度設計
5	地域医療連携政策とその理論（Ⅰ）	地域医療連携を進める意義とその理論的背景
6	地域医療連携政策とその理論（Ⅱ）	地域医療連携を進めるうえでの政策的な留意点
7	社会保障政策の政策評価（Ⅰ）	行政評価制度の概要
8	社会保障政策の政策評価（Ⅱ）	政策評価手法：費用便益分析の概要
9	社会保障政策の政策評価（Ⅲ）	政策評価（費用・便益分析）の実際的適用例
10	保健医療福祉政策の視座と国際比較	保健医療福祉政策の目標と各国のアプローチ
11	医療費の増加要因 欧米先進国の医療制度	医療費増加要因、欧州、米国等の医療制度
12	アジア・環太平洋地域の医療制度 主要国における医療制度改革の潮流	オーストラリア、シンガポールの医療制度 各国のこれまでの医療制度改革の鳥瞰
13	国際比較を通じた日本医療の特徴	OECD　Health Statisticsにもとづく、我が国の医療の特徴
14	社会保障制度に対する対応の世界的潮流	これからの社会保障制度と課題対応の考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。各回の講義項目の関連学習時間については、講義前に参考図書を用いて2時間、講義後に講義資料を参考に2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。
講義で必要な資料がある場合は、適宜、学習支援システム上で配布する。

【参考書】
島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011年
小黒一正・菅原琢磨『薬価の経済学』日本経済新聞出版社、2018年

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点と学期末試験により実施する。
「実施される確認テストの受験状況（25％）と点数（25％）」を併せて平常点（50％）として換算し、「学期末試験の点数」を50％として全体で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
担当者にとって2年ぶりの開講となるため特になし。

【その他の重要事項】
医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員などを兼務する担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】Based on the overview of “Social Policy A,” the course will take up noteworthy themes from among actual policy trends and social problems, and provide in-depth discussions and explanations. The purpose of the lecture is to encourage students to develop the ability to examine and think about real-life social security issues on their own as materials.
【Learning activities outside of classroom】
Students should voluntarily take an interest in and read up on current topics related to social security policy that are mentioned in newspapers and magazines on a daily basis. The standard study time for each lecture item is 2 hours before the lecture using reference books and 2 hours after the lecture using the lecture materials as reference.
【Grading Criteria /Policy〉】
Evaluation will be based on the student’s regular score and the end-of-term examination.
The “Attempted status (25%) and score (25%) of the confirmation test” will be converted together as the regular score (50%), and the “score of the end-of-term examination”　will be 50%for the overall evaluation.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

労働経済論 A

酒井　正

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済理論を応用することで，労働市場における諸現象を解釈すると同時に，労働市場に関する統計資料を読み解く．具体的には，「人手不足」,「外国人労働力」,「教育の経済学」といったトピックについて取り上げる．また、「少人数制は生徒の学力を上げるのか？」といったことに関しても，実証分析を基に議論する．

【到達目標】
この労働経済論Aでは，まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する．更に，統計分析の考え方を学んだうえで，働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
対面（教室）での授業を基本とする．
数回の小テストをオンラインでおこなう予定である，
受講者が関心のある労働問題にも触れたいと考えている．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方，労働経済学とは
2	労働市場の概観	データで見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル 等
7	労働市場均衡	競争均衡，買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスとその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル，シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観，グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある．本授業の準備・復習に必要な時間は4時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
特に使用しない．

【参考書】
阿部正浩『基本講義 労働経済学』（新世社、2021年）
清家篤・風神佐知子『労働経済』（東洋経済新報社、2020年）

【成績評価の方法と基準】
2回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する．

【学生の意見等からの気づき】
・受講者が関心のある労働問題のトピックにも触れるように心掛けたい．

【学生が準備すべき機器他】
特になし．

【その他の重要事項】
諸般の事情から，一部の講義をオンラインで実施する場合がある．

【Outline (in English)】
The objective of this course is to learn how to analyze various phenomenon in labor market by applying micro-economic theory with the data. This course covers topics such as labor scarcity, foreign workers and economics of education. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term exam (10%) and term-end exam (90%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

労働経済論 B

酒井　正

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働経済論Aで学んだことを踏まえ，労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する．特に，労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する．（取り上げるトピックの例：「人事の経済学」,「介護離職」,「両立支援策」等）また，労働市場のセーフティーネットについても議論を多く割く予定である．

【到達目標】
働き方を巡る「論点」を知り，それを経済学的に考えることを通じて，労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
対面（教室）での授業を基本とする．
小テストはオンラインを通じておこなう予定である，

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方，労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	失業（1）	日本の失業の概観
5	失業（2）	失業を説明する理論
6	失業保険	失業保険に関する実証分析
7	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
8	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因, 仕事の二極化
9	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
10	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因, 介護離職問題，高齢者の労災
11	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
12	両立支援策	女性の就業と保育サービス
13	労働市場における差別	差別の経済理論, 男女間賃金格差
14	社会保険料事業主負担の帰着問題，その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある．また，指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すことが望ましい．本授業の準備・復習に必要な学習時間は，4時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
特に使用しない．

【参考書】
酒井正『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）
川口大司編『日本の労働市場　経済学者の視点』(有斐閣, 2017年）

【成績評価の方法と基準】
2回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する．

【学生の意見等からの気づき】
・授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける．

【学生が準備すべき機器他】
特になし．

【その他の重要事項】
・「労働経済論A」の履修は必須ではないが，講義は「労働経済論A」の内容を前提として進める．「労働経済論A」を受講しておらず，講義内容を理解できない場合は，各自でその内容を学習する必要がある．
・進捗状況等に応じて，講義で取り上げるトピックの内容や順番を変更することがある．
・諸般の事情から，一部の講義をオンラインで実施する場合がある．

【Outline (in English)】
Based on what students learned in labor economics A, the goal of this course is to analyze more specific topics, especially topics on labor market policy and social policy. Safetynets for workers are also discussed. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term exam (10%) and term-end exam (90%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

社会保障論 A

小黒　一正

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】
社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。
【留意事項】
なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第3回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDPと社会保障給付費、財源
第4回	年金制度１	年金制度の仕組み
第5回	年金制度２	年金制度の問題点
第6回	年金制度３	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第7回	医療保険制度１	医療保険制度の仕組み
第8回	医療保険制度２	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第9回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第10回	生活保護制度１	生活保護制度の仕組みと問題点
第11回	生活保護制度２	諸外国の公的扶助制度
第12回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第13回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
小塩 隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社

【参考書】
厚生労働省『厚生労働白書』各年版
鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
With the declining birthrate and aging population, Japan's social security system is facing a major turning point. Reconsidering the role of the social security system and comparing Japan's system with that of other countries, the goals of this course are to understand the current situation and issues of the Japanese social security system. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

社会保障論 B

小黒　一正

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会保障論A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論Bでは、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】
日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。
【留意事項】
なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第3回	課税の経済分析１	租税の経済への影響
第4回	課税の経済分析２	望ましい租税政策のあり方
第5回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第6回	所得再分配	所得格差の指標
第7回	社会保障の経済分析１	望ましい生活保護制度のあり方
第8回	社会保障の経済分析２	モラルハザード、逆選択
第9回	社会保障の経済分析３	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第10回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第11回	世代間格差	世代会計
第12回	近年の社会保障改革１	年金改革
第13回	近年の社会保障改革２	医療・介護改革、地域包括ケア
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
小塩隆士『コア・テキスト　財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】
阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第2版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説　日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
『図説　日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
To deepen the understanding of “social security theory A” (the Japanese social security system), in this course (social security theory B) we will employ economic analysis to study the fiscal system that supports the social security system. The goals of this course are to understand the roles of the social security system from an economics perspective. Students are expected to learn the basics of microeconomics and public economics. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

地球環境論Ａ

山﨑　友紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解するために、身の回りの自然環境から、地球または宇宙規模での環境について学びます。様々な人間の経済活動と地球環境との相互関係について理解を深めるため、環境保全、資源、エネルギー、生物多様性など多面的な学習を展開します。

【到達目標】
諸資料を活用し、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。さらに、自発的に地球規模での問題に気づき、的確な情報によって批判できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTRなどによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性と意義
14	授業内試験	これまでの学習の理解度を筆記試験でチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
１『地球環境学入門　第３版』山﨑友紀（講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】
１『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
２『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata , Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】
試験（60%）、提出課題と授業への取組の総合点(40%)とし、合計の60％以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】
理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】
学生は授業中にPC、スマートフォン、タブレットを使用しないこと。
「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。
本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないよう配慮します。

【Outline (in English)】
In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading criteria is Assighments(60%), Class Contribution(20%), and
Report or Quiz contribution(20%).

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

地球環境論Ｂ

山﨑　友紀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。様々なエネルギー問題、廃棄物問題、環境保全などについて、正しい情報とともに課題と解決策を見出す力を養う。

【到達目標】
自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の異変	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	授業内試験	理解度を筆記試験で評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1）『地球環境学入門　第３版』　山﨑友紀　（講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】
1）『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2）『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata , Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】
試験（60%）、提出課題と授業への貢献度(40%)とし、合計の60％以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】
理科系科目の苦手な学生も理解できるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】
学生は授業中にPC、タブレット、スマートフォンを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

【Outline (in English)】
The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading criteria is Assighments(60%), Class Contribution(20%), and
Report or Quiz contribution(20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学Ａ

宮﨑　憲治

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基礎知識を講義する

【到達目標】
・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
テキストにしたがって, 講義をする. パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	マクロ経済学とは（1）	マクロ経済学の登場人物
3	マクロ経済学とは（2）	市場均衡
4	マクロ経済を観察する（1）	国内総生産
5	マクロ経済を観察する（2）	名目と実質
6	マクロ経済を観察する（3）	消費者物価指数
7	マクロ経済を観察する（4）	労働に関する統計
8	マクロ経済学を支える金融市場（1）	金融市場の実際
9	マクロ経済学を支える金融市場（2）	金利（利子率）
10	貨幣の機能と中央銀行の役割（1）	貨幣の機能
11	貨幣の機能と中央銀行の役割（2）	中央銀行の役割
12	財政の仕組みと機能（1）	財政の仕組み
13	財政の仕組みと機能（2）	税制と国債
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「マクロ経済学 第3版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2023年

【参考書】
「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年
「マクロ経済学への招待 (ライブラリ経済学への招待 3) 」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】
秋学期の「マクロ経済学Ｂ」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学Ａ」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
To understand how a country’s economy grows and fluctuates, t his class lectures on basic knowledge of macroeconomics.
（Learning Objectives）
When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.
（Learning activities outside of the classroom）
Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy）
Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学Ｂ

宮﨑　憲治

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基本モデルを講義する

【到達目標】
・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
テキストにしたがって, 講義をする. パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	GDPと金利の決まり方（1）	45度分析
3	GDPと金利の決まり方（2）	ISLMモデル
4	総需要・総供給分析（1）	物価とGDPの同時決定
5	総需要・総供給分析（2）	経済政策の限界
6	インフレとデフレ（1）	実質金利と名目金利
7	インフレとデフレ（2）	インフレと失業
8	国際収支・為替レートとマクロ経済（1）	海外との取引を測る
9	国際収支・為替レートとマクロ経済（2）	金利平価
10	経済が成長するメカニズム（1）	ソローモデル
11	経済が成長するメカニズム（2）	経済成長の要因分解
12	資産価格の決まり方（1）	資産価格の決まり方
13	資産価格の決まり方（2）	資産価格バブル
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「マクロ経済学 第3版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2023年

【参考書】
「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年
「マクロ経済学への招待 (ライブラリ経済学への招待 3) 」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】
秋学期の「マクロ経済学Ｂ」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学Ａ」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
To understand how a country's economy grows and fluctuates, this class lectures on basic macroeconomic　models.
（Learning Objectives）
When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.
（Learning activities outside of the classroom）
Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy）
Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学Ａ

平井　俊行

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Ａでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分を中心にに学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学のより専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】
・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
原則的には初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を学習支援システム上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション・数学準備	講義内容の概説と講義の進め方、数学準備
2	部分均衡分析(1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡
3	部分均衡分析(2)	需要・供給の価格弾力性、比較静学
4	部分均衡分析(3)	余剰分析
5	部分均衡分析(4)	課税の帰着
6	消費者行動(1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線による表現、予算制約
7	消費者行動(2)	限界代替率と需要の導出
8	消費者行動(3)	代替財、補完財、標準財、下級財、準線形選好。
9	生産者行動(1)	生産関数・費用最小化と費用関数
10	生産者行動(2)	完全競争市場における供給関数の導出
11	生産者行動(3)	独占市場における生産者の行動。
12	一般均衡分析(1)	契約曲線・パレート効率性・コア
13	一般均衡分析(2)	厚生経済学の基本定理
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで事前に講義スライド(穴埋め式)を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各2時間が標準)

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】
① 林貴志「ミクロ経済学　増補版」2013年、ミネルヴァ書房、4500円+税
② 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014年、日本評論社、3200円+税
③ レヴィット, S.、グールズビー, A.、サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐[監訳]、高遠裕子[訳]「レヴィット　ミクロ経済学　基礎編」2017年、東洋経済新報社、3200円+税

【成績評価の方法と基準】
期末試験80％、平常点20％

【学生の意見等からの気づき】
スライド送りが早くなりすぎないように気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】
科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」や「数学」を履修済み・履修することを推奨する。
講義の進め方および平常点の内容については新年度から新しく導入される学習支援システムの機能によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially focusing on the price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.
Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to think the real-life economic phenomenon by using the idea of microeconomics; C) become able to analyze simple microeconomic models.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.
Grading policy) Final exam 80%; Class participation 20%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学Ｂ

平井　俊行

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Ｂではゲーム理論およびそのミクロ経済学への応用を中心的に学ぶ。現在では、ゲーム理論は多くの分野でミクロ経済的な分析をおこなうための必須ツールになっているので、基礎を確実に身に着ける。

【到達目標】
・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
・実際の経済事象を、そうすることが適切な場合に、ゲーム理論と関連づけて捉えることができる。
・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を授業支援システム上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方、数学準備
2	戦略形ゲーム(1)	戦略形ゲーム、双行列表現
3	戦略形ゲーム(2)	最適反応戦略とナッシュ均衡
4	戦略形ゲーム(3)	(弱)支配戦略、第二価格オークション
5	戦略形ゲーム(4)	混合戦略ナッシュ均衡
6	展開形ゲーム(1)	展開形ゲーム、ゲームの木
7	展開形ゲーム(2)	部分ゲーム完全均衡、後向き帰納法
8	展開形ゲーム(3)	繰返しゲーム
9	不完全競争市場(1)	数量競争市場
10	不完全競争市場(2)	価格競争市場
11	不完全競争市場(3)	カルテルとしての独占の発生
12	公共財供給(1)	公共財供給問題
13	公共財供給(2)	VCGメカニズム
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで事前に講義スライド(穴埋め式)を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各2時間が標準)

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】
① 渡辺隆裕「一歩ずつ学ぶ ゲーム理論 -数理で導く戦略的意思決定」2021年、裳華房、3300円＋税
② レヴィット, S.、グールズビー, A.、サイヴァーソン, C. [著]、安田洋祐[監訳]、高遠裕子[訳]「レヴィット　ミクロ経済学　発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円+税
③ 岡田章「ゲーム理論・入門　－ 人間社会の理解のために-　新版」2014年、有斐閣アルマ、1900円+税

【成績評価の方法と基準】
期末試験80％、平常点20％

【学生の意見等からの気づき】
スライド送りが早くなりすぎないように気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】
科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」、「数学」を履修済み・履修することを推奨する。
講義の進め方および平常点の内容については新年度から新しく導入される学習支援システムの機能によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces elementary game theory and its microeconomic applications.
Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand basic concepts of game theory and become able to explain them; B) become able to capture real-life economic phenomenon by utilizing the game theory when applicable; C) become able to analyze simple games.
Learning activities outside of the classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.
Grading policy: Final exam 80%; Class participation 20%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学Ａ

八木橋　毅司

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】
・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。
各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。
講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第１回の講義前後にアナウンスします。
また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、科学としてのマクロ経済学	オリエンテーション、マクロ経済学概説
第2回	マクロ経済学のデータ	国内総生産、消費者物価指数、失業率
第3回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	生産
第4回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	所得分配
第5回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	支出、財市場の均衡、金融市場の均衡
第6回	開放経済	開放経済モデル
第7回	開放経済	為替レート：名目対実質、為替レートの決定要因
第8回	貨幣システム	定義、銀行の役割、マネーサプライ
第9回	インフレ	貨幣数量説、貨幣発行収入、インフレと利子率、名目利子率と貨幣需要、社会的コスト、ハイパーインフレ
第10回	失業と労働市場	失業率に関するデータ、長期均衡
第11回	失業と労働市場	労働市場と賃金決定メカニズム
第12回	景気変動へのイントロダクション	景気変動に関するデータ,時間的視野（タイム・ホライゾン）、総需要
第13回	景気変動へのイントロダクション	総供給、総需要・総供給モデルを使った短期と長期の分析
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の学習時間は、１回につき４時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
G.マンキュー（著）『マクロ経済学１：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円+税

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験50％、小テスト25％、宿題25%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】
『授業支援システム』で連絡したことは，全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/

【主要業績】
"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.
"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy , 40(10), 2097-2124.
“Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production” (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.
“Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy” (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.
“Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?” (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】
This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Four hours per class
【Grading Criteria/Policy】
Final Exam: 50%, Quiz: 25%、Homeworks: 25%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学Ｂ

八木橋　毅司

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】
・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。
各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。
講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第１回の講義前後にアナウンスします。
また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、総需要１：ＩＳ－ＬＭモデルの構築	オリエンテーション、財市場とIS曲線
第2回	総需要１：ＩＳ－ＬＭモデルの構築	貨幣市場とLM曲線、均衡
第3回	総需要２：ＩＳ－ＬＭモデルの応用	財政、金融政策
第4回	総需要２：ＩＳ－ＬＭモデルの応用	総需要・総供給モデルの短長期分析
第5回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	総供給曲線
第6回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	フィリップス曲線と自然失業率
第7回	経済変動の動学モデル	モテ゛ルの要素および解
第8回	経済変動の動学モデル	動学モテ゛ルを使った政策分析
第9回	政府負債と財政赤字	政府負債と財政赤字
第10回	経済成長	資本の蓄積、定常均衡
第11回	経済成長	貯蓄、資本の黄金律水準
第12回	経済成長	人口成長、経済ショック、技術進歩
第13回	経済成長	実証分析・政策
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の学習時間は、１回につき４時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
G.マンキュー（著）『マクロ経済学１：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円+税
G.マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2024年、3800円+税

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験50％、小テスト25％、宿題25%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】
『授業支援システム』で連絡したことは，全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/

【主要業績】
"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.
"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy , 40(10), 2097-2124.
“Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production” (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.
“Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy” (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.
“Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?” (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】
This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Four hours per class
【Grading Criteria/Policy】
Final Exam: 50%, Quiz: 20%、Homeworks: 20%、Class Participation: 10%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学Ａ

西村　健

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、経済理論分析の基礎であるミクロ経済学について学ぶ。議論の中心となるのは「完全競争市場」である。その市場では、消費者や企業が数多く存在し、各経済主体はモノ・サービスの価格に決定力を持たない。市場において、消費者や企業はどのように行動するか、その結果として資源配分がどのように決まるか、結果的な資源配分は社会的観点からどのような性質を持つかといった点について、数理的に解き明かす。

【到達目標】
・ミクロ経済学における重要な用語および概念を理解し、説明できるようになる。
・ミクロ経済学の標準的手法を用いて、消費や生産などの経済活動がどのようになされるかについて、数理的に分析できるようになる。
・ミクロ経済学的な観点から、現実の経済データについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
・基本的には対面形式で行うが、最大7回（1回目と6回目を含む）まで、動画配信によるオンライン形式にする場合がある。この点については、講義における指示にしたがうこと。
・システム上で講義スライドを配布する。事前にダウンロードまたは印刷して、講義に持参してもらいたい。
・システム上で講義終了後に小テストを出題する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、講義のルール
2	完全競争市場（1）	需要と供給、消費者の需要曲線、市場の需要曲線
3	完全競争市場（2）	企業の供給曲線、市場の供給曲線
4	完全競争市場（3）	市場の均衡、需要曲線と供給曲線のシフト
5	完全競争市場（4）	消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰、効率性
6	経済数学の準備	関数、連立方程式、微分
7	消費者理論（1）	効用関数、無差別曲線、限界代替率
8	消費者理論（2）	予算制約、効用最大化問題、需要関数
9	消費者理論（3）	所得変化による需要の変化、価格変化による需要の変化
10	消費者理論（4）	代替効果と所得効果、需要の交差価格弾力性
11	生産者理論（1）	企業、短期費用関数、短期供給曲線
12	生産者理論（2）	長期生産関数、長期費用関数、長期供給曲線
13	競争均衡	交換経済、競争均衡
14	総復習	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・システム上で事前に講義スライドを配布するので、事前に予習しておくこと。
・講義後、講義の復習および小テストに解答すること。
（予習と復習、各2時間が標準）

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、講義スライドを配布する。

【参考書】
・伊藤秀史 著、『ひたすら読むエコノミクス』、有斐閣
・伊藤元重 著、『ミクロ経済学』、日本評論社
・神取道宏 著、『ミクロ経済学の力』、日本評論社
・柳川隆、町野和夫、吉野一郎 著、『ミクロ経済学・入門―ビジネスと政策を読みとく』、有斐閣

【成績評価の方法と基準】
期末試験80％、小テスト20％とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からのフィードバックおよび授業改善アンケート結果を踏まえて、授業方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】
システムを頻繁に利用するため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】
数学を頻繁に用いるため、「ビジネス数学入門」や「数学」の履修を推奨する。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through prices in competitive markets. Students should surely acquire the contents of this course because microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.
Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to analyze simple microeconomic models.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.
Grading policy: Final exam 80%; Online assignments 20%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学Ｂ

西村　健

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ミクロ経済学の基礎を踏まえ、その発展的内容について学ぶ。具体的には、ゲーム理論、産業組織論、情報の非対称性、マーケットデザインの問題が分析対象となる。競争が不完全なときに企業はどのように振る舞うか、経済主体間で情報の非対称性があるときにどのような非効率性が生じるか、制度設計者は市場をどのように設計すべきかといった点について、数理的に解き明かす。

【到達目標】
・ミクロ経済学とゲーム理論における重要な用語および概念を理解し、説明できるようになる。
・ミクロ経済学とゲーム理論の標準的手法を用いて、産業組織論、情報の非対称性、マーケットデザインの各種の問題を分析できるようになる。
・ミクロ経済学的な観点から、現実の経済データについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
・基本的には対面形式で行うが、最大7回（1回目と13回目を含む）まで、動画配信によるオンライン形式にする場合がある。この点については、講義における指示にしたがうこと。
・システム上で講義スライドを配布する。事前にダウンロードまたは印刷して、講義に持参してもらいたい。
・システム上で講義終了後に小テストを出題する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、前期の復習、講義のルール
2	ゲーム理論（1）	囚人のジレンマ、支配戦略
3	ゲーム理論（2）	合理的なブタ、ナッシュ均衡
4	ゲーム理論（3）	参入ゲーム、部分ゲーム完全均衡
5	産業組織論（1）	独占市場、独占価格、死荷重
6	産業組織論（2）	寡占市場、ベルトラン価格競争
7	産業組織論（3）	寡占市場、クールノー数量競争
8	情報の非対称性（1）	リスクと不確実性、リスク態度
9	情報の非対称性（2）	モラルハザード、アドバースセレクション
10	情報の非対称性（3）	シグナリング理論、完全ベイジアン均衡
11	マーケットデザイン（1）	オークション理論
12	マーケットデザイン（2）	マッチング理論
13	小テスト解説	小テスト解説
14	総復習	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・システム上で事前に講義スライドを配布するので、事前に予習しておくこと。
・講義後、講義の復習および小テストに解答すること。
（予習と復習、各2時間が標準）

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、講義スライドを配布する。

【参考書】
・伊藤秀史 著、『ひたすら読むエコノミクス』、有斐閣
・伊藤元重 著、『ミクロ経済学』、日本評論社
・岡田章 著、『ゲーム理論・入門 新版』、有斐閣
・神取道宏 著、『ミクロ経済学の力』、日本評論社
・坂井豊貴 著、『マーケットデザイン: 最先端の実用的な経済学』、ちくま新書
・柳川隆、町野和夫、吉野一郎 著、『ミクロ経済学・入門―ビジネスと政策を読みとく』、有斐閣

【成績評価の方法と基準】
期末試験80％、小テスト20％とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からのフィードバックおよび授業改善アンケート結果を踏まえて、授業方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】
システムを頻繁に利用するため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】
数学を頻繁に用いるため、「ビジネス数学入門」や「数学」の履修を推奨する。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially industrial organization, asymmetric information, and market design. This course also introduces game theory, which is essential for analyzing these problems.
Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and game theory and become able to explain them; B) become able to analyze simple games.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.
Grading policy: Final exam 80%; Online assignment 20%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

特別講義 （寄付講座　証券市場論）

大和証券（株）

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。
①金融商品市場の機能と役割を理解する。
②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
③M＆Aなど、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】
株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。
At the end of the course, the students are expected to be able to explain the social significance of direct financing using securities such as stocks and bonds, and to explain the characteristics and risks of price movements of these securities under various economic environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえるよう指導いたします。
As a way to proceed, we plan to read the materials carefully and take a small test of about 15 to 20 minutes. As for feedback, we will announce the summary of the quiz results during the next week's lecture, and we will instruct you to recognize the areas where your understanding is low and to focus on studying again.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M＆A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第14回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。
Nothing in particular about preparatory study. Approximately 4 hours of study time.

【テキスト（教科書）】
各回講義用のレジュメを配布する。
Distribute resumes for each lecture.

【参考書】
必要に応じて参考文献を指示する。
Indicate references where necessary.

【成績評価の方法と基準】
毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）
Implementation of a quiz after each lecture to measure the degree of understanding of the lecture content (50%)
Final exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】
アンケート実施なし

【その他の重要事項】
現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline (in English)】
This lecture is an introduction to financial instruments in general. We will examine the future role of financial instruments markets based on the following three points.
1) Understand the functions and roles of financial instruments markets.
(2) Learn about the main products in the financial instruments market (stocks, bonds, and investment trusts) (3) Learn about recent market trends and new trends, such as mergers and acquisitions
The lecturers will be practitioners, and based on a basic understanding of financial markets, the course will go beyond theory to touch on topics that are faced in reality.

LANj300CA（日本語 / Japanese language education 300）

特別講義（ビジネス日本語A）

大石　有香

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
留学生が日本で就職活動を行う上で必要になる知識と日本語力を身につけることを目的とする。日本における就職活動の仕組みや、就職活動の様々なプロセスにおいて必要になる「聞く」「話す」「読む」「書く」能力に関する理解を深め、将来の就職活動に備える。
This course aims to equip international students with the necessary knowledge and Japanese language skills for job hunting in Japan. By understanding the structure of the Japanese job-hunting process and enhancing their listening, speaking, reading, and writing skills required at various stages, students will be better prepared for their future job search.

【到達目標】
次の３つである。
１．日本における就職活動の仕組みとプロセスを理解し、計画的に準備できる。
２．効果的な方法を理解し、適切な表現を用いて自己表現ができる。
３．様々なコミュニケーションの場面に応じて、適切な表現を使い分けることができる。
This course has three goals.
1.Understand the structure and process of job hunting endeavors in Japan and be able to prepare systematically,
2.Understand effective methods and be able to express oneself using appropriate forms.
3.Be able to use expressions appropriately in different communication situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義と実践的演習からなる。実践的演習にはエントリーシートの作成、Eメールの作成、模擬面接などが含まれる。必要に応じてリアクションペーパーの提出が求められる。課題等の提出はGoogle Classroomを通じて、課題のフィードバックは次回授業で行う。
The course consists of lectures and practical exercises. Practical exercises include writing entry sheets, composing emails, and participating in mock interviews. Students may be required to submit reaction papers as needed. Assignments must be submitted via Google Classroom, and feedback on assignments will be provided in the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、日本での就職活動 Guidance, Job Search Process in Japan	授業運営に関する説明、日本における就職活動の特徴とそのプロセス Course Administration, Characteristics and Process of Job Search Process in Japan
2	自己分析 Self-Analysis	自己分析の意味と方法 Significance and Methods of Self-Analysis
3	業界・企業研究 Industry and Company Research	業界・企業研究の方法と実践 Methods and Practice of Industry and Company Research
4	学生時代に力を入れたこと Activities You Were Committed to During Your Student Years	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
5	自己PR Self-Promotion (Self-PR)	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
6	志望動機 Motivation for Applying	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
7	エントリーシート Entry Sheet (ES)	エントリーシートの作成と相互検討 Entry Sheet Writing and Peer Review
8	履歴書 Resume (Rirekisho)	履歴書の作成と相互検討 Resume Writing and Peer Review
9	敬語 Keigo (Honorific Language)	敬語の種類と性質 Types and Characteristics of Keigo (Honorific Language)
10	Eメール Email	Eメールの書き方 How to Write an Email
11	面接 Interview	面接選考の種類と仕組み Types and Structure of Interview Selection
12	模擬面接 Mock Interview	模擬面接の実施・相互評価 Conducting Mock Interviews and Peer Evaluation
13	模擬面接 Mock Interview	模擬面接の実施・相互評価 Conducting Mock Interviews and Peer Evaluation
14	まとめと解説 Summary and Explanation	提出物の再検討 Review of Submitted Materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間である。
予習: 事前課題の実施
復習: 講義内容や活動の振り返り、課題の作成および提出準備
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Preparation: pre-assignment
Review: review of lecture content and activities, preparation of assignments and submissions

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配布する。
Distributed as needed.

【参考書】
『外国人留学生のための就活ガイド2026』日本学生支援機構
Job Hunting Guide for International Students
（https://www.jasso.go.jp/ryugaku/after_study_j/job/guide.html）

【成績評価の方法と基準】
平常点: 30%
課題: 50%（ワークシート、振り返りシート、エントリーシート等）
模擬面接: 20%
Ordinary marks: 30%.
Assignments: 50%(e.g. worksheets, reflection sheets, entry sheets)
Mock interviews: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
就職活動時において必要な日本語運用力も養成できたことはよかったとの声が聞かれたため、就職活動に必要な基本的な知識を学ぶとともに日本語運用力を向上させる課題を取入れる。
There was the feedback that the course helped develop the Japanese language skills necessary for job hunting. Therefore, tasks aimed at improving Japanese proficiency will be incorporated alongside learning the fundamental knowledge required for job hunting.

【学生が準備すべき機器他】
なし
Not applicable

【その他の重要事項】
本科目は日本語非母語話者を対象とする。
This course is designed for non-native speakers of Japanese.

LANj300CA（日本語 / Japanese language education 300）

特別講義（ビジネス日本語B）

大石　有香

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、留学生が日本の企業で働く上で必要となる日本語の知識と、基礎的なコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とする。敬語に関する講義や、仕事場面を想定した実践的な演習を通して、職場での様々な課題に適切に対応できる力を養うことを目指す。
This course aims to equip international students with the necessary Japanese language knowledge and fundamental communication skills for working in Japanese companies. Through lectures on keigo (honorific language) and practical exercises simulating workplace situations, students will develop the ability to respond appropriately to various challenges in a professional environment.

【到達目標】
次の２つである。
１．敬語の性質と使い方を正しく理解し、状況や場面に応じて適切に使用できる。
２．人の紹介、電話応対、Eメールの作成などを含め、日本語で適切にコミュニケーションを取ることができる。
This course has two goals.
1.Understand the nature and use of honorific expressions accurately and be able to use them appropriately according to the occasion and situation.
2.Be able to communicate appropriately in Japanese,including introducing people, answering the telephone and composing emails.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、講師による講義、課題やテーマをめぐる学生同士の話し合い、クラス全体での共有という流れで進める。課題等の提出はGoogle Classroomを通じて、フィードバックは次回授業内で行う。
Each class will follow a structure consisting of a lecture, discussions among students on assigned topics, and a class-wide sharing session. Assignments must be submitted via Google Classroom, and feedback will be provided in the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、尊敬語 Guidance, Sonkeigo (Respectful Language)	授業運営に関する説明、尊敬語の性質と使い方 Course Administration, Characteristics and Usage of Sonkeigo (Respectful Language)
2	謙譲語 Kenjōgo (Humble Language)	謙譲語の性質と使い方 Characteristics and Usage of Kenjōgo (Humble Language)
3	その他の敬語 Other Types of Keigo (Honorific Language)	丁寧語・美化語、うちそとと敬語の使い分け Teineigo and Bikago (Polite and Beautifying Language), and Distinguishing Keigo Usage Based on "Uchi" and "Soto"
4	言語表現の丁寧さ Politeness in Language Expressions	「丁寧さの原理」と表現の使い分け Principle of Politeness and Differentiation in Language Usage
5	敬語のまとめ Summary of Keigo (Honorific Language)	復習、使い分けの練習 Review and Practice of Usage Distinctions
6	敬語テスト、あいさつと紹介 Keigo Test, Greetings and Introductions	復習テストの実施、 表現の検討とロールプレイ Review Test, Expression Analysis and Role-Playing
7	電話を受ける Receiving Phone Calls	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing
8	電話をかける Making Phone Calls	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing
9	訪問 Business Visits	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing
10	ビジネスメール Business Emails	表現の検討、Eメールの作成 Expression Analysis and Email Writing
11	職場でのコミュニケーションのまとめ Summary of Workplace Communication	ロールプレイテストとフィードバック Role-Play Test and Feedback
12	プレゼンテーションの準備 Presentation Preparation	資料と原稿の作成 Preparation of Materials and Script
13	プレゼンテーション Presentation	プレゼンテーションの実施 Conducting the Presentation
14	まとめ Summary	授業全体の振り返りとフィードバック Overall Course Review and Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間である。
予習: 事前課題の実施
復習: 講義内容や活動の振り返り、課題の作成および提出準備
The standard preparation and review time for this lesson is 2 hours each.
Preparation: e.g. preparation of worksheets for the next activity.
Review: e.g. preparation of assignments, quizzes and tests.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料配布する。
Materials will be distributed as needed.

【参考書】
『伸ばす！ 就職能力・ビジネス日本語力：日本で働くための「４つの能力」養成ワークブック』植木香・木下由紀子・小島美智子著、国書刊行会、2018年、1,980円（税込）ISBN 978-4-336-06222-2

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション: 20%
課題: 50%（状況や場面に応じた日本語運用課題）
平常点: 30%
Presentations: 20%,
Assignments: 50%(Japanese language operational tasks appropriate to the situation/occasion),
Ordinary marks: 30%.

【学生の意見等からの気づき】
特に敬語を学びたいとの声があった。令和7年度も不得手な分野を克服できるように進める。
There were requests to focus on learning honorific expressions. In the Reiwa7 academic year, the course will continue to help students overcome their weaker areas.

【学生が準備すべき機器他】
なし
Not applicable

【その他の重要事項】
本科目は日本語非母語話者を対象とする。
This course is designed for non-native speakers of Japanese.

MAN100CA（経営学 / Management 100）

簿記ＩＡ

古賀　裕也

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

※国際経済学科生のみ履修可
※他学部は社会学部のみ履修可

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の目的は、複式簿記の基礎を学ぶことにある。企業会計は、企業の活動を理解うえで有用な情報源であり、それゆえに「事業の言語」とも呼ばれる。企業行動を定量的に把握するためには「事業の言語」の言葉と文法を理解する必要がある。複式簿記は数多くの複雑な企業取引を、数少ない取引要素で分類・整理し、総合的な企業情報を提供する有用な情報システムである。この授業では、「事業の言語」の基礎的な記録システムである複式簿記を学ぶ。

【到達目標】
到達目標は次の通りです。
(1)複式簿記の仕組みを理解し、簿記一巡の手続きを説明できる。
(2)取引の仕訳と転記ができる。
(3)帳簿記入ができる。
(4)財務諸表の作成ができる。
本講義と簿記ＩＢを通じて、日商簿記検定３級の合格水準に達する知識を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
対面実施時：
①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
②問題演習：ワークブックを解いてもらいます。
③アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。
オンライン実施時：
授業の方法：Google classroom に講義動画および講義資料をアップします。
授業の進め方：①講義動画70分、②問題演習等25分、③アンケート５分
※時間配分目安であり講義内容によって変わります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	簿記の意義と仕組み	簿記の基礎、貸借対照表
第２回	財務諸表の概要	損益計算書、財務諸表の作成
第３回	演習（簿記の意義と仕組み）	簿記の意義と仕組みの問題演習
第４回	仕訳と転記	勘定、取引の種類、取引の８要素、仕訳と転記
第５回	演習（仕訳と転記）	仕訳と転記の問題演習
第６回	仕訳帳と元帳	仕訳帳と総勘定元帳への記帳、問題演習
第７回	決算①決算手続きと帳簿の締め切り	決算の意義と手続き・試算表の作成
第８回	決算②精算表と財務諸表	精算表と財務諸表の作成
第９回	演習（決算）	決算に関する問題演習
第10回	現金と預金	現金、現金過不足、当座預金と当座借越
第11回	商品売買①３分法、仕入帳、売上帳	３分法、仕入帳、売上帳
第12回	商品売買②商品有高帳	商品有高帳
第13回	演習（現金と預金、商品売買）	現金と預金、商品売買の問題演習
第14回	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかり予習・復習すること（計４時間以上）。

【テキスト（教科書）】
【テキスト】
渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著「検定簿記講義　３級商業簿記」（中央経済社）
渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著「検定簿記講義ワークブック　３級商業簿記」（中央経済社）
※例年３月に最新版が発売されます。最新版を準備してください。
講義ではテキスト及びワークブックの内容をベースとしたパワーポイントを用いて説明します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）で評価します。また、講義終了後にアンケート（任意提出）を実施し、提出者には各回２点を加点します（合計13回実施。１点×13回＝計13点）。

【学生の意見等からの気づき】
演習・解説の時間を積極的に取り入れる予定である。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12桁表示のものが望ましい）を用意すること（講義時間内の演習時に必要となります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this lecture is to learn the basic knowledge about double-entry bookkeeping. Financial accounting is a useful source of information for understanding the business activities, hence the term "the language of business. Understanding the technical term and grammar of the "language of business" is necessary to quantitatively understand corporate behavior. Double-entry bookkeeping is a useful information system that classifies and organizes numerous complex corporate transactions into a few transaction elements and provides comprehensive corporate information. In this lecture, students will learn about double-entry bookkeeping, a basic recording system in the "language of business".
【Learning Objectives】
Achievement goals of this course are as follows:
(1) Understand the structure of double-entry bookkeeping and be able to explain the procedures of one round of bookkeeping.
(2) To be able to journalize and post transactions.
(3) To be able to make entries in a ledger book.
(4) To be able to prepare financial statements.
Through this course and the Bookkeeping 1B, students are expected to acquire the knowledge necessary to pass the official business skills test in bookkeeping (Nissho bookkeeping test), 3rd grade.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria/Policies】
Grading will be decided based on Final Exam (100％) .In addition, after each online lecture, I will conduct a questionnaire (submission is optional), and those who submit the questionnaire will receive 1 points for each lecture (1 points x 13 lectures = 13 points in total).

MAN100CA（経営学 / Management 100）

簿記ＩＢ

古賀　裕也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

※国際経済学科生のみ履修可
※他学部は社会学部のみ履修可

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の目的は、複式簿記の基礎を学ぶことにある。企業会計は、企業の活動を理解うえで有用な情報源であり、それゆえに「事業の言語」とも呼ばれる。企業行動を定量的に把握するためには「事業の言語」の言葉と文法を理解する必要がある。複式簿記は数多くの複雑な企業取引を、数少ない取引要素で分類・整理し、総合的な企業情報を提供する有用な情報システムである。この授業では、「事業の言語」の基礎的な記録システムである複式簿記を学ぶ。

【到達目標】
到達目標は次の通りです。
(1)複式簿記の仕組みを理解し、簿記一巡の手続きを説明できる。
(2)取引の仕訳と転記ができる。
(3)帳簿記入ができる。
(4)財務諸表の作成ができる。
本講義と簿記ＩＡを通じて、日商簿記検定３級の合格水準に達する知識を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
対面実施時：
①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
②問題演習：ワークブックを解いてもらいます。
③アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。
オンライン実施時：
授業の方法：Google classroom に講義動画および講義資料をアップします。
授業の進め方：①講義動画60分、②問題演習等30分、③アンケート10分

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	売掛金と買掛金	売掛金・買掛金の処理、前払金
第２回	その他の債券と債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金
第３回	その他の債券と債務②	仮払金・仮受金、他店商品券、差入保証金
第４回	受取手形と支払手形	手形取引の処理と補助簿
第５回	有形固定資産①	有形固定資産の取得、減価償却
第６回	有形固定資産②	有形固定資産の売却、問題演習
第７回	貸倒損失と貸倒引当金、資本金	貸倒損失、貸倒引当金 増資、配当
第８回	収益と費用	収益と費用
第９回	税金	租税公課、法人税等、消費税
第10回	伝票会計	伝票会計
第11回	財務諸表の作成①	決算整理仕訳と決算整理後残高試算表の作成
第12回	財務諸表の作成②	精算表の作成、財務諸表の作成
第13回	演習（財務諸表の作成）	財務諸表の作成の問題演習
第14回	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかり予習・復習すること（計４時間以上）。

【テキスト（教科書）】
【テキスト】
渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著「検定簿記講義　３級商業簿記」（中央経済社）
渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著「検定簿記講義ワークブック　３級商業簿記」（中央経済社）
※例年３月に最新版が発売されます。最新版を準備してください。
講義ではテキスト及びワークブックの内容をベースとしたパワーポイントを用いて説明します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）で評価します。また、オンライン講義終了後にアンケート（任意提出）を実施し、提出者には各回１点を加点します（１点×13回＝計13点）。

【学生の意見等からの気づき】
演習・解説の時間を積極的に取り入れる予定である。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12桁表示のものが望ましい）を用意すること（講義時間内の演習時に必要となります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this lecture is to learn the basic knowledge about double-entry bookkeeping. Financial accounting is a useful source of information for understanding the business activities, hence the term "the language of business. Understanding the technical term and grammar of the "language of business" is necessary to quantitatively understand corporate behavior. Double-entry bookkeeping is a useful information system that classifies and organizes numerous complex corporate transactions into a few transaction elements and provides comprehensive corporate information. In this lecture, students will learn about double-entry bookkeeping, a basic recording system in the "language of business".
【Learning Objectives】
Achievement goals of this course are as follows:
(1) Understand the structure of double-entry bookkeeping and be able to explain the procedures of one round of bookkeeping.
(2) To be able to journalize and post transactions.
(3) To be able to make entries in a ledger book.
(4) To be able to prepare financial statements.
Through this course and the Bookkeeping 1A, students are expected to acquire the knowledge necessary to pass the official business skills test in bookkeeping (Nissho bookkeeping test), 3rd grade.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria/Policies】
Grading will be decided based on Final Exam (100％) .In addition, after each online lecture, I will conduct a questionnaire (submission is optional), and those who submit the questionnaire will receive 2 points for each lecture (1 points x 13 lectures = 13 points in total).

LAW200CA（法学 / law 200）

日本国憲法A

村元　宏行

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
皆さんは本学で経済学を学んでいる。経済学にせよ、社会福祉を学ぶにせよ、またその他の分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。
　また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実に生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。
　この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、春期科目として人権を主にとりあげ（秋期科目で統治機構を扱う）、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】
憲法が存在する意義について理解できる。
日本国憲法の構造（人権）について理解できる。
現実に生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取りいれていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講に際しての諸注意など。
第2回	憲法とは何か	立憲主義について学ぶ。
第3回	日本国憲法の誕生	憲法の制定過程について学ぶ。
第4回	国民主権と象徴天皇制	国民主権の意義や象徴天皇制の概要を学ぶ。
第5回	憲法9条と平和主義（その1）	憲法9条制定の背景等を学ぶ。
第6回	憲法9条と平和主義（その2）	憲法9条をめぐる裁判等について学ぶ。
第7回	基本的人権（基本的人権とは）	憲法で基本的人権が保障されている意義について学ぶ。
第8回	基本的人権（基本的人権の類型と人権保障の限界）	自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。
第9回	基本的人権（包括的基本権）	憲法13条の幸福追求権について学ぶ。
第10回	基本的人権（自由権　その1）	精神的自由権について学ぶ。
第11回	基本的人権（自由権　その2）	人身の自由と経済的自由権について学ぶ。
第12回	基本的人権（社会権　その1）	生存権について学ぶ。
第13回	基本的人権（社会権　その2）	教育を受ける権利、勤労の権利について学ぶ。
第14回	基本的人権（参政権）、国民の義務	選挙権などの参政権と、国民の義務について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。
ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】
授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。
小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい板書をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する場合がある。

【なし】
なし

【なし】
なし

【なし】
なし

【なし】
なし

【なし】
なし

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand he fundamental principle of constitutionalism.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200CA（法学 / law 200）

日本国憲法B

村元　宏行

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
皆さんは本学で経済学を学んでいる。経済学にせよ、社会福祉を学ぶにせよ、またその他の分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。
　また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実に生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。
　この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、秋学期授業として統治機構を主にとりあげ（人権は春学期に取り上げる）、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】
憲法が存在する意義について理解できる。
日本国憲法の構造（統治機構）について理解できる。
現実に生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取りいれていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、統治制度と権力分立制	権力分立制の意義について学ぶ。
第2回	立法権（その1）	立法権について概要を学ぶ。
第3回	立法権（その2）	立法権を担う国会の諸問題について学ぶ。
第4回	行政権（その1）	行政権についてその範囲や概要を学ぶ。
第5回	行政権（その2）	行政権を担う内閣や、行政機関をめぐる諸問題について学ぶ。
第6回	司法権（その1）	司法権の独立など、司法権の概要を学ぶ。
第7回	司法権（その2）	司法権を担う裁判所をめぐる諸問題を学ぶ。
第8回	地方自治	地方自治の本旨や、地方自治をめぐる諸問題を学ぶ。
第9回	財政	財政民主主義など、財政規定の概要を学ぶ。
第10回	憲法改正（その1）	憲法改正について、議論の変遷を学ぶ。
第11回	憲法改正（その2）	憲法改正をめぐる現代的争点を学ぶ。
第12回	憲法をめぐる現代的課題（その1）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題を取り上げて学ぶ。
第13回	憲法をめぐる現代的課題（その2）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題をもう一つ取り上げて学ぶ。
第14回	授業のまとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。
ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】
授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。
小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい板書をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する場合がある。

【なし】
なし

【なし】
なし

【なし】
なし

【なし】
なし

【なし】
なし

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand the separation of powers.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200CA（法学 / law 200）

民法一部Ａ

菅　富美枝

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法の中でも、特に、市場におけるあらゆる経済取引に共通する「総則」を中心に学ぶ。また、売買や賃貸借といった契約の効果（所有権や占有権の移転）に関わる「物権」法との連関性に意識が向けられる。

【到達目標】
民法総則(民法典第1編）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行いながら知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	民法概論	民法とは何か
第2回	総則①	契約の成立
第3回	総則②	意思表示（１）心裡留保、虚偽表示
第4回	総則③	意思表示（２）錯誤
第5回	総則④	意思表示（３）詐欺、強迫
第6回	総則⑤	権利の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第7回	総則⑥	代理（１）代理権、代理行為、代理の効果
第8回	総則⑦	代理（２）無権代理
第9回	総則⑧	代理（３）表見代理
第10回	総則⑨	法人制度概論
第11回	総則⑩	法人
第12回	総則⑪	契約の一般的有効要件
第13回	総合①	物権法導入
第14回	総合②	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】
道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】
毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（１５％）と学期末に課される「春学期最終課題」（レポート又は試験）による評価（８５％）

【学生の意見等からの気づき】
黒板の活用（図解）に心掛ける。

【Outline (in English)】
The core of the course involves an understanding of contract law, and examination of personal property law in the context of commercial transactions. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report or examination: 85%)

LAW200CA（法学 / law 200）

民法一部Ｂ

菅　富美枝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】
物権（第２編第１，２，３章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
物権法について、あらかじめ配信されたレジュメの流れに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行い、知識の定着を確実に図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総則1	契約の効力発生時期
第2回	総則2	時効（１）時効制度概論
第3回	総則3	時効（２）効果、援用権者、法律行為論
第4回	物権①	物権制度概論
第5回	物権②	所有権の内容、所有権の効力（１）
第6回	物権③	所有権の効力（２）物権的請求権
第7回	物権④	所有権の取得
第8回	物権⑤	共同所有関係
第9回	物権⑥	占有権（１）
第10回	物権⑦	占有権（２）
第11回	物権⑧	物権変動（１）契約による不動産の物権変動
第12回	物権⑨	物権変動（２）対抗要件主義
第13回	物権⑩	物権変動（３）動産物権変動、公信の原則
第14回	総合	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメは、毎回、学習支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】
道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】
毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（１５％）と学期末に課される「秋学期最終課題」（レポートまたは試験）による評価（８５％）

【学生の意見等からの気づき】
黒板の活用に心掛ける。

【Outline (in English)】
The core of the course involves an examination of property law in the context of commercial transactions. The expected outcomes will be understanding of how property law interrelates with contract law, and understanding of basic concepts of the general civilian idea of ‘contract’ and of the civilian contract of sale in particular. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report or examination: 85%)

（2024 年度以前入学生）LAW200CA ／（2025 年度以降入学生）LAW300CA

商法一部Ａ

笹久保　徹

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】
・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス、総論	ガイダンス、用語の解説
第２回	株式会社の機関　総論	機関の概要に関する解説
第３回	株主総会１	株主総会の権限等の解説
第４回	株主総会２	株主総会の議事等の解説
第５回	株主総会３	株主総会の決議等の解説
第６回	取締役１	取締役の権限等の解説
第７回	取締役２	取締役会の決議等の解説
第８回	取締役３	代表取締役の解説
第９回	取締役４	取締役の義務の解説
第10回	取締役５	取締役の会社に対する責任の解説
第11回	取締役６	責任追及の方法の解説
第12回	取締役７	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第13回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第14回	指名委員会等設置会社等	指名委員会等設置会社等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業１回に付き、学生の予習時間は１時間、復習時間は３時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法〔第２版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】
柴田和史『会社法詳解〔第３版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】
・柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法〔第２版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第４版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
・長谷部由起子ほか編『デイリー六法2025 令和７年版』（三省堂、2024）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80％）及び平常点（20％）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following ： Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

（2024 年度以前入学生）LAW200CA ／（2025 年度以降入学生）LAW300CA

商法一部Ｂ

笹久保　徹

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】
・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス 会社法　総論	ガイダンス、前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第２回	株式会社の設立１	設立の概要に関する解説
第３回	株式会社の設立２	設立手続きの解説
第４回	株式会社の設立３	設立の瑕疵に関する解説
第５回	株式会社の設立４	設立の論点に関する解説
第６回	株式１	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第７回	株式２	株式の内容・種類の解説
第８回	株式３	株主名簿・株券の解説
第９回	株式４	株式譲渡の解説
第10回	株式５	株式併合・分割等の解説
第11回	募集株式１	募集株式の概要の解説
第12回	募集株式２	募集株式の発行等の手続きに関する解説
第13回	募集株式３	募集株式の発行等の瑕疵等の解説
第14回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業１回に付き、学生の予習時間は１時間、復習時間は３時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法〔第２版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】
柴田和史『会社法詳解〔第３版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】
・柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法〔第２版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第４版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
・長谷部由起子ほか編『デイリー六法2025 令和７年版』（三省堂、2024）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80％）及び平常点（20％）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following ： Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

MAN200CA（経営学 / Management 200）

簿記ⅡA

岸　牧人

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記ⅠA,Bの内容の理解を前提として,中級程度の経済取引の会計処理について学習する。

【到達目標】
この講義では以下の諸点を到達目標とする。
(1)非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
(2)株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
(3)上記の(1)，(2)を前提とした決算書の作成について学習する。
(4)全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後，プリントによって補足説明を行い，演習問題に取り組む。演習問題，中間試験，および期末試験の解答と解説はHoppiiにアップする。講義は対面8回，オンデマンド6回で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／商品売買取引	講義計画／分記法，売上原価対立法，三分法による会計処理と決算整理,
第2回	商品の期末評価	棚卸減耗損，商品評価損の会計処理方法と損益計算書における表示方法
第3回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法,銀行勘定調整表の作成方法
第4回	債権・債務	手形の不渡りと更改，クレジット売掛金，電子記録債権債務,債務の保証
第5回	有価証券の種類と取得原価	有価証券の意義と種類，移動平均法，総平均法による購入時の会計処理
第6回	有価証券の売却処理と期末評価	有価証券の売却時の会計処理,期末評価方法
第7回	中間試験および解説	第１回～第６回までの内容に関する中間試験および解説
第8回	有形固定資産の取得,減価償却，売却	有形固定資産の取得，減価償却,売却に関する会計処理
第9回	その他の有形固定資産取引	有形固定資産の割賦購入，建設仮勘定，改良と修繕，除却と廃棄，買い換えに関する会計処理
第10回	リース取引	ファイナンス・リース取引，オペレーティング・リース取引の会計処理
第11回	無形固定資産取引と研究開発費，引当金	特許権，商標権，研究開発費の会計処理，評価性引当金および負債性引当金の会計処理
第12回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算，外貨建取引および為替予約の会計処理
第13回	課税所得の算定と税効果会計	企業会計上の利益と課税所得の相違，永久差異と一時差異，税効果会計の処理方法
第14回	期末試験および解説	第8回から第13回までの内容を中心に期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
TAC出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】
TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】
中間試験40%，期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】
簿記Ⅰと比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12桁を推奨），プリントを綴じるための2穴のファイル

【Outline (in English)】
This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.
At the end of the course, students are expected to be able to convert
corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

MAN200CA（経営学 / Management 200）

簿記ⅡB

岸　牧人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記ⅠA,Bおよび簿記ⅡAの内容の理解を前提として,中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程，作成方法について学習する。

【到達目標】
この講義では以下の諸点を到達目標とする。
(1)非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
(2)株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
(3)上記の(1)，(2)を前提とした決算書の作成について学習する。
(4)全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後，プリントによって補足説明を行い，演習問題に取り組む。プリントの演習問題，および中間試験，期末試験の解答と解説はHoppiiにアップする。講義は対面9回，オンデマンド5回で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス，株式の発行	講義計画／株式会社の純資産構成，株式発行時の会計処理
第2回	剰余金の配当と処分	利益剰余金の配当と処分の会計処理，株主資本等変動計算書の作成方法
第3回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上，サービス業における役務収益と役務原価の計上
第4回	本支店会計の基礎	本支店会計の意義，本支店間取引，本支店会計における決算手続，合併財務諸表の作成方法
第5回	本支店会計演習	未達事項の処理，本支店会計における決算手続，および合併財務諸表作成の反復演習
第6回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併，パーチェス法による合併の会計処理，事業譲渡の会計処理
第7回	中間試験および解説	第１回～第６回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第8回	連結会計(1) 連結会計の基礎	連結財務諸表の意義，親会社説と経済的単一体説，子会社取得時の投資と資本の相殺消去，部分所有の場合の資本連結
第9回	連結会計(2) 連結１年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結１年度における資本連結と期中仕訳，連結財務諸表の作成
第10回	連結会計(3) 連結２年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結２年度における開始仕訳と期中仕訳，連結財務諸表の作成
第11回	連結会計(4) 成果連結① 会社間取引と債権債務の相殺消去	内部取引の相殺消去，貸倒引当金の連結修正処理，アップストリームとダウンストリーム
第12回	連結会計(5) 成果連結② 未実現利益の消去	期末商品，期首商品に含まれる未実現利益の消去方法，その他の会社間取引によって生じる未実現利益の消去方法
第13回	連結会計(6) 連結会計総合演習	連結会計に関する集中的な問題演習
第14回	期末試験および解説	第13回までの内容に関する期末試験および解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
TAC出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】
TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】
中間テスト40%，期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】
検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12桁）、プリントを閉じるための2穴のファイル

【Outline (in English)】
This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.
At the end of the course, students are expected to be able to convert
corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

LANe200CA（英語 / English language education 200）

Academic Research Seminar A

飯野　厚

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学ぶ。まず論文の作りを理解する。そしｈて、テーマ設定、先行研究の選び方とまとめ、リサーチクエスチョンの立て方、データ収集の方法、考察の仕方、まとめ方など一通り理解する。そのうえで、リサーチプロポーザルを提出し、Introduction, Literature review, Method までを執筆する。

【到達目標】
The students will be able to write a research paper in English principally in the filed of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper.
受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation.　Individual feedback will be provided.
(1) Choose a research theme, search the related literature and create research questions.
(2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal
(3) Collect data, and summarize them for analysis

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What is research?	Overview of the works done by former students
2	How to write comprehensible English 1	IMRAD construction, Start searching the topic of your research
3	Briefing of research proposal and finding previous research	Hosei Library Guidance, Making review sheet in Excel as a review format
4	How to write comprehensible English 2+Create research questions	Compile the previous research: list up the findings of studies and categorize them
5	How to write comprehensible English 3+ Write a research proposal in Japanese	Background, What is to be known, Expected results and tentative conclusion
6	How to write comprehensible English 4 +Make a title and write an abstract	Make sure if the proposed plan works
7	How to write a paragraph+ Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation
8	Write Introduction 1	Definition of the terminology and brief introduction of previous research
9	Write Introduction 2	Research issue and the goal of your research
10	Write Literature review	Introducing primary literature and critique
11	Write Research Questions and hypotheses	Squeeze the questions and hypotheses based on literature review
12	Write Method	Participants, materials, and procedure
13	Write hypothetical Results	How to summarize the collected information How to make tables and figures, appendices
14	Write hypothetical Discussion	How to write discussion part, referring the previous research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep on reading and writing: 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Reading Packetを配布する

【参考書】
『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社
『英語科学論文の書き方―IMRaDでわかる科学論文の構造』中山書店
『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房(2012)
『APA論文作成マニュアル　第2版』医学書院（2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】
50%In-class participation in activities
50%Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】
Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【その他の重要事項】
Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline (in English)】
The students will learn how to write quantitative and qualitative research papers.　They will understand the structure of a research paper and then lean how to decide one's theme, to review literature, to create their research questions, to collect data and summarize it.　Once research proposal is accepted, they will write introduction, literature review and mehtod parts.

LANe200CA（英語 / English language education 200） Academic Research Seminar B
飯野　厚
開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する。Introduction, Literature review, Method に続けてResults (Analysis), Discussion, Conclusion, References (APA style)までを執筆し完成する。

【到達目標】
Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.
本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) Briefing the organization of a paper
(2) Write each section of a paper particularly Results and Discussion parts
(3) Give feedback individually and share common mistakes in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper: IMRAD
2	Introduction	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Revising Introduction	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Revising Review of literature	How to cite previous studies
5	Revising Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Revising Method 1	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Revising Method 2	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary: How to make Tables and Figures, Utilizing simple statistics
9	Results 2:	Qualitative data summary: categorization, excerpts, appendices
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables
14	Oral presentation of finalized work	Feedback provided to individual students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep on writing：本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Reading Packetを配布する

【参考書】
『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社
『英語科学論文の書き方―IMRaDでわかる科学論文の構造』中山書店
『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房(2012)
『APA論文作成マニュアル　第2版』医学書院（2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】
20%In-class activities
80%Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】
Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【その他の重要事項】
秋学期から履修する人は、日本語による完成に近い研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階（Method まで）に匹敵する英語論文のを2週目までに準備できることが条件です。

【Outline (in English)】
Following the research proposal, the students will compile the data they collected and continue writing their paper. Concretely following the part of introduction and method, results (analysis), discussion, and conclusion parts will be completed with references organized by APA style.

LANe200CA（英語 / English language education 200） Academic Research Seminar A
伊藤　健彦
開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文の読み方、調査・実験・分析の方法、そして論文の書き方までを一通り学ぶ。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ることで、自分の考えを発信する力をつける。

【到達目標】
1) 論文の構造（序論・方法・結果・考察）が理解出来るようになる。
2) 調査・実験・分析の方法が理解出来るようになる。
3) 論文の書き方が理解出来るようになる。
4) 他の学生と交流し、自分の考えを発信できる力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習をしておく。
2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Structure of Research Paper	研究論文の構成に関する説明
3	How to Write a Paragraph	パラグラフの書き方の説明と実践
4	How to Write Multiple Paragraphs	複数のパラグラフの書き方の説明と実践
5	How to Read a Research Paper	文献の読み方の説明と実践
6	How to Quote a Research Paper	文献の引用方法の説明と実践
7	How to Write Introduction 1	研究テーマの設定に関する説明と実践
8	How to Write Introduction 2	序論の書き方の説明と実践
9	Literature Review &Summary of Introduction	先行研究のレビューと序論に関するまとめ
10	How to Write Method 1	研究方法の書き方の説明と実践
11	How to Write Method 2	データ分析の方法の説明と実践
12	Making an Outline	受講生によるアウトラインの作成
13	Discussion	受講生が考えた論文内容に関する議論
14	Presentation	受講生が考えた論文内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前にテキストを最低2時間予習する。
授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低2時間かける。

【テキスト（教科書）】
『経済学・経営学のための英語論文の書き方』　中谷安男　中央経済社

【参考書】
『英語科学論文の書き方―IMRaDでわかる科学論文の構造】　片山晶子他　中山書店
『APA論文作成マニュアル 第2版』　アメリカ心理学会　医学書院
『Writing Scientific Research Articles Second Edition』　Margaret Cargill他　Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】
授業内課題 40%
宿題 30%
レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】
受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】
授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】
英語セミナーBと関連する授業内容のため、英語セミナーBも履修することを推奨する。

【Outline (in English)】
This course aims to prepare students to understand how to read a research paper, the methods of survey, experiment, and analysis, as well as how to write a research paper. Through discussion and presentation, students are expected to communicate effectively with classmates and develop the skills to present their ideas. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (40%), homework (30%), and writing reports (30%).

LANe200CA（英語 / English language education 200） Academic Research Seminar B
伊藤　健彦
開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語セミナーAに引き続き、論文の読み方、調査・実験・分析の方法、そして論文の書き方までを一通り学ぶ。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ることで、自分の考えを発信する力をつける。

【到達目標】
1) 論文の構造（序論・方法・結果・考察）が理解出来るようになる。
2) 調査・実験・分析の方法が理解出来るようになる。
3) 論文の書き方が理解出来るようになる。
4) 他の学生と交流し、自分の考えを発信できる力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習をしておく。
2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Review of Structure of Research Paper	研究論文の構成のおさらい
3	Review of Reading & Quoting a Research Paper	文献の読み方と引用方法のおさらい
4	Review of Writing Introduction	序論の書き方のおさらい
5	Review of Writing Method	研究方法の書き方のおさらい
6	How to Write Result 1	統計データの書き方の説明と実践
7	How to Write Result 2	図や表の書き方の説明と実践
8	How to Write Discussion 1	仮説検証の書き方の説明と実践
9	How to Write Discussion 2	貢献や今後の課題の書き方の説明と実践
10	How to Write Conclusion	結論の書き方の説明と実践
11	How to Write Abstract	要約の書き方の説明と実践
12	Making a Research Paper	受講生による研究論文の作成
13	Discussion	受講生の研究論文に関する議論
14	Presentation	受講生が作成した研究論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前にテキストを最低2時間予習する。
授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低2時間かける。

【テキスト（教科書）】
『経済学・経営学のための英語論文の書き方』　中谷安男　中央経済社

【参考書】
『英語科学論文の書き方―IMRaDでわかる科学論文の構造』　片山晶子他　中山書店
『APA論文作成マニュアル 第2版』　アメリカ心理学会　医学書院
『Writing Scientific Research Articles Second Edition』　Margaret Cargill他　Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】
授業内課題 40%
宿題 30%
レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】
受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】
授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】
英語セミナーAと関連する授業内容のため、英語セミナーAも履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】
This course aims to prepare students to understand how to read a research paper, the methods of survey, experiment, and analysis, as well as how to write a research paper. Through discussion and presentation, students are expected to communicate effectively with classmates and develop the skills to present their ideas. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (40%), homework (30%), and writing reports (30%).

MAN200CA（経営学 / Management 200）

原価計算 A

梅津　亮子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】
1.原価の諸概念を理解する、2.原価計算システムの理論構造を理解する、3.各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第2回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第3回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第4回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第5回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第6回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第7回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第8回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第9回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第10回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第11回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第12回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第13回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第14回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】
必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小テスト10％、期末試験90％

【学生の意見等からの気づき】
原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】
電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】
(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/ Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA（経営学 / Management 200）

原価計算 B

梅津　亮子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】
1.原価の諸概念を理解する、2.原価計算システムの理論構造を理解する、3.各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第2回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第3回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第4回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第5回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第6回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第7回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第8回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第9回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第10回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第11回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第12回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第13回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第14回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】
必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小テスト10％、期末試験90％

【学生の意見等からの気づき】
原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】
電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】
(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/ Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ａ

古賀　裕也

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務会計は、企業活動を理解するための有用な情報源を提供してます。そのため、事業の言語とも呼ばれます。会計の中でも投資家を中心とする外部の利害関係者に財務情報を報告することを目的とした会計を財務会計といいます。この科目では外部報告目的の財務会計の基礎を包括的に学習します。

【到達目標】
この科目の到達目標は次の通りです。
(1)財務会計の語彙（専門用語）を説明できる
(2)会計処理の理論的背景を説明できる
(3)財務諸表の基礎的な分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
対面実施時
①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。
③講義終了後に小テストに回答してもらいます（google classroomで実施）。
※講義資料はgoogle classroomで講義開始前に配布します。
オンライン実施時：
授業の方法：Google classroomに講義動画および講義資料をアップします。
授業の進め方：①講義動画70分、②問題演習等25分、③アンケート5分
※時間配分目安であり講義内容によって変わります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代の企業会計①	企業会計とは
2	現代の企業会計②	近年の企業会計を巡る動向
3	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計の目的、タイプ、機能
4	会計制度の論理と体系①	基礎概念、制度会計
5	会計制度の論理と体系②	企業会計原則と一般原則
6	企業のディスクロージャー制度	ディスクロージャー制度、インサイダー取引
7	損益計算書の会計①	損益計算書の構造と5つの利益
8	損益計算書の会計②	収益認識、費用収益対応の原則、収益認識基準
9	損益計算書の会計③	収益認識基準、損益計算書の分析
10	損益計算書の分析（反転講義）	損益計算書の分析に関する事前課題のディスカッション
11	キャッシュ・フロー計算書	キャッシュ・フロー計算書
12	貸借対照表の構造	貸借対照表の構成要素
13	キャッシュ・フロー計算書の分析（反転講義）	キャッシュ・フロー計算書の分析に関する事前課題のディスカッション
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかり予習・復習すること（毎回計4時間以上）。

【テキスト（教科書）】
指定はありません。講義資料を配布します。講義資料はgoogle classroomで配布します。

【参考書】
・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2024年4月現在の最新版.
・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2024年4月現在の最新版.
そのほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：50%
反転講義の事前課題提出とディスカッションへの参加：20%
小テストの提出：30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12桁表示のものが望ましい）を用意すること。期末試験では電卓を使用を認めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Financial accounting provides a useful source of information for understanding corporate activities. For this reason, it is also called the language of business. Within accounting, financial accounting refers to accounting that aims to report financial information to external stakeholders, particularly investors. In this subject, you will learn the basics of financial accounting for external reporting purposes in a comprehensive manner.
【Learning Objectives】
The learning objectives for this course are as follows.
(1) Explain the vocabulary (technical terms) of financial accounting
(2) Explain the theoretical background of accounting procedures
(3) Perform basic analysis of financial statements
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to understand the content of previous lectures and are expected to prepare for and review each lecture. (At least 4 hours total each time)
【Grading Criteria/Policies】
Final exam: 50
Submission of pre-class assignments and participation in discussions: 20
Submission of quizzes: 30

MAN200CA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ｂ

古賀　裕也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務会計は、企業活動を理解するための有用な情報源を提供してます。そのため、事業の言語とも呼ばれます。会計の中でも投資家を中心とする外部の利害関係者に財務情報を報告することを目的とした会計を財務会計といいます。この科目では外部報告目的の財務会計の基礎を包括的に学習します。

【到達目標】
この科目の到達目標は次の通りです。
(1)財務会計の語彙（専門用語）を説明できる
(2)会計処理の理論的背景を説明できる
(3)財務諸表の基礎的な分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
対面実施時
①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。
③講義終了後に小テストに回答してもらいます（google classroomで実施）。
※講義資料はgoogle classroomで講義開始前に配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	資産の会計①流動資産の会計	流動資産
2	資産の会計②有形固定資産の会計	有形固定資産の会計
3	資産の会計③無形固定資産の会計	無形固定資産の会計
4	資産の会計④投資・その他の資産、繰延資産の会計	投資・その他の資産、繰延資産の会計
5	減損会計	減損とは
6	負債の会計	流動資産と固定負債
7	純資産の会計	純資産
8	貸借対照表の分析（反転講義）	事前課題についてのディスカッション
9	連結財務諸表①	連結会計の目的、連結範囲の決定、連結財務諸表の基本フォーマット
10	連結財務諸表②	連結貸借対照表の作成、連結損益計算書の作成、包括利益
11	ファンダメンタルズ分析①	財務諸表分析の目的、構成比率法、安全性分析
12	ファンダメンタルズ分析②	収益性分析と効率性分析
13	ファンダメンタルズ分析の実践（反転講義）	事前課題のディスカッション
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかり予習・復習すること（毎回計4時間以上）。

【テキスト（教科書）】
指定はありません。講義資料を配布します。講義資料はgoogle classroomで配布します。

【参考書】
・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2024年4月現在の最新版.
・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2024年4月現在の最新版.
そのほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：50%
反転講義の事前課題提出とディスカッションへの参加：20%
小テストの提出：30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12桁表示のものが望ましい）を用意すること。期末試験では電卓を使用を認めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Financial accounting provides a useful source of information for understanding corporate activities. For this reason, it is also called the language of business. Within accounting, financial accounting refers to accounting that aims to report financial information to external stakeholders, particularly investors. In this subject, you will learn the basics of financial accounting for external reporting purposes in a comprehensive manner.
【Learning Objectives】
The learning objectives for this course are as follows.
(1) Explain the vocabulary (technical terms) of financial accounting
(2) Explain the theoretical background of accounting procedures
(3) Perform basic analysis of financial statements
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to understand the content of previous lectures and are expected to prepare for and review each lecture. (At least 4 hours total each time)
【Grading Criteria/Policies】
Final exam: 50
Submission of pre-class assignments and participation in discussions: 20
Submission of quizzes: 30

MAN200EB（経営学 / Management 200）

中小企業論

糸久　正人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水4**/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、「日本経済の根幹を支える中小企業の可能性と挑戦を学ぶ」ことをテーマに、理論と実践の両面から中小企業の経営戦略を探求します。中小企業は、大企業にはない柔軟性や地域との強い結びつきを活かし、新たな価値を生み出す力を持っています。一方で、限られた経営資源の中で生き残り、成長し続けるために独自の経営手法を採用してきました。
本講義では、従来の研究が提示してきた「資源制約により発展が妨げられる『問題型』の中小企業論」と「小さいからこそ持つ発展性や競争優位性に着目する『貢献型』の中小企業論」の両面を学びながら、中小企業の実態を深く理解していきます。特に、多摩地域で活躍する中小企業の経営者を毎回ゲストスピーカーとして迎え、計8回程度の講演を実施 します。これにより、「リアルな経営の現場」に触れる機会を大幅に増やし、実践的な知識を得ることができます。ゲスト講演では、企業の成長戦略、新規事業の立ち上げ、地域との関わり方、経営者の決断など、教科書では学べない生の経営の知恵を直接聞くことができます。
本講義は、「経営戦略を学びながら、実際の経営者の話を聞ける、まさにビジネスの最前線を体感できる授業」 です。中小企業の可能性や課題を深く理解し、将来のキャリアに活かしたい学生にとって、実りの多い学びの場となるでしょう。

【到達目標】
本講義を通じて、以下の能力を養うことを目標とします。
・中小企業が持つ「問題性」と「発展性・競争優位性」の両面を理解し、企業規模が経営に与える影響を考察する力の習得
・多摩地域の中小企業経営者の実体験を通じて、企業経営の現場に即した実践的な知識を獲得する力の向上
・ベンチャー企業や地域密着型企業の成長戦略を分析し、持続可能な経営モデルについて考える力の育成
・中小企業と地域社会の関係性を理解し、地域経済における中小企業の役割を考察する視点の強化
・講義で学んだ理論と実践を統合し、自らのキャリアやビジネスに応用するための思考力と判断力の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
本講義は、講義形式とゲストスピーカーによる講演を組み合わせた「アクティブ・ラーニング型授業」 です。
前半（1～5回） では、中小企業の基本理論を学び、企業規模の特性や経営戦略の違いを理解します。
後半（6～13回） では、多摩地域で活躍する中小企業経営者をゲストに迎え、リアルな経営の現場について学びます。受講生は、事前にゲスト講演に関連する課題を調査し、講演後にディスカッションやリアクションペーパーを作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の目的・進め方の説明
第2回	中小企業とは？	中小企業の定義と、日本経済における役割を理解
第3回	複眼的視点からの中小企業論	資源制約の中で競争優位を確立する戦略
第4回	イノベーションと中小企業	独自の技術やビジネスモデルを生み出す中小企業を分析
第5回	産業集積と産業クラスター	産業クラスターを活用した中小企業の成長戦略
第6回	多摩地域の中小企業（1）	経営者によるゲスト講演＆ディスカッション
第7回	多摩地域の中小企業（2）	経営者によるゲスト講演＆ディスカッション
第8回	多摩地域の中小企業（3）	経営者によるゲスト講演＆ディスカッション
第9回	多摩地域の中小企業（4）	経営者によるゲスト講演＆ディスカッション
第10回	多摩地域の中小企業（5）	経営者によるゲスト講演＆ディスカッション
第11回	多摩地域の中小企業（6）	経営者によるゲスト講演＆ディスカッション
第12回	多摩地域の中小企業（7）	経営者によるゲスト講演＆ディスカッション
第13回	多摩地域の中小企業（8）	経営者によるゲスト講演＆ディスカッション
第14回	中小企業論のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー提出４０％、期末試験６０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
本講義は、教室での学びに加えて、経営者のリアルな経験を直接聞くことができる貴重な機会 を提供します。授業で得た知識を活かし、実際の経営者に質問することで、より深い学びにつなげることができます。
「将来、経営や起業に関心がある」「企業経営のリアルを知りたい」「中小企業の持つ魅力と可能性を学びたい」という学生にとって、大変有意義な講義です。

【Outline (in English)】
The course "Small and Medium-Sized Enterprise (SME) Management" explores the role, challenges, and growth strategies of SMEs, which are the backbone of the Japanese economy. While SMEs face resource constraints, they also possess unique competitive advantages such as flexibility, innovation, and strong regional ties. This course provides both theoretical insights and practical knowledge, incorporating guest lectures from successful SME entrepreneurs in the Tama region to offer firsthand perspectives on real-world management challenges and strategies. Through these interactions, students will gain a deeper understanding of how SMEs adapt, innovate, and contribute to regional economic development.
By the end of the course, students will be able to understand both the challenges and competitive strengths of SMEs, analyze business strategies for growth and sustainability, evaluate the role of SMEs in regional economies, and integrate theoretical and practical knowledge to formulate management insights applicable to real-world business situations.
Students are expected to actively engage in discussions and prepare for guest lectures by researching the industries and companies in advance. Additionally, they should allocate at least two hours per week for reviewing lecture content and completing assignments.

Grading will be based on reaction papers (40%), assessing students' reflections and questions on guest lectures, and a final exam (60%), evaluating their understanding of SME management theories and practical applications.

SOC200EB, SOC200EC（社会学 / Sociology 200 , 社会学 / Sociology 200）

産業社会学Ⅰ

惠羅　さとみ

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　単位数：**2単位**
曜日・時限：**金**2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。

【到達目標】
「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする 。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1･DP3･DP6･DP7･DP8･DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。
課題等に対するフィードバックは、授業の冒頭や最終回でリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。
授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	産業と社会変動１	仕事とは何か？（工業社会、生業・分業、社会学的視点から働くことを考える）
第3回	産業と社会変動２	技術と近代（テイラーリズム、フォーディズム、ポストフォーディズムなど）
第4回	産業と社会変動３	技術と未来（産業社会・情報社会、自動化と省力化、人工知能、雇用と失業）
第5回	社会関係・制度１	職場組織と人間関係（人間関係論、ホワイトカラー、感情労働における感情の管理）
第6回	社会関係・制度２	労使関係（労使関係論、福祉国家と1980年代以降、日本における労使関係）
第7回	社会関係・制度３	労働組合・労働運動（雇用類似の働き方と労働運動、ドキュメンタリーを観て考える）
第8回	意識・文化１	労働の意味、労働者であること（労働倫理、アイデンティティ、社会化、満足、疎外）
第9回	意識・文化２	今日的な労働の諸側面（官僚制、フレキシビリティと労働者の意識、技能の意味）
第10回	再生産１	労働者になること（労働者文化、社会階層の再生産、名著を読む）
第11回	再生産２	日本における教育と職業（教育の職業的意義、キャリア教育、適応と抵抗）
第12回	持続可能性１	身体と脆弱性（身体イメージ、社会学における身体と社会、仕事の社会学、労働災害）
第13回	持続可能性２	グローバル化と相互依存（移動の拡大と労働移民、アジア、移動をめぐる諸理論）
第14回	まとめ	授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】
授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（50％）
毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）
②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
資料講読や動画視聴などを取り入れつつ、能動的な授業参加を促す工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers in the era of globalization. The issues student will learn in this course cover various topics including social division of labor, industrialization/development and its consequences, human relations in workplace, ideology and alienation related to work, labor movement, labor migration and so on.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting.
Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end paper: 50%、in class contribution: 50%

SOC300EB, SOC300EC（社会学 / Sociology 300 , 社会学 / Sociology 300）

産業社会学Ⅱ

惠羅　さとみ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**金**2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会構造変動の下で、これまでの産業社会が前提としてきた雇用慣行や労働のあり方が問い直しを迫られている。雇用形態の変化、環境問題やリスクの拡大、グローバル化や多様性の包摂など、現在、社会が直面している問題について、身近なテーマや具体的な社会問題を通じて考える。

【到達目標】
産業と労働に関わる諸問題について、①その背景と実態を理解し、②自らに関連するものとして捉え、③問題解決のためにどのような対策・制度・政策が求められているのかについて、他者と議論し、考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1･DP3･DP6･DP7･DP8･DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
・適宜、映像資料等を活用し、グループ・ディスカッションなどを取り入れながら、リアクションとフィードバックを重ねることで、参加者の問題意識の発展を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	雇用を問い直す１	雇用はどう変化しているのか？
第3回	雇用を問い直す２	働き方の曖昧化について考える
第4回	労働時間について１	産業社会と労働時間（『モモ』を読む、グループ・ディスカッション）
第5回	労働時間について２	産業社会と労働時間（『ブルシット・ジョブ』を読む、グループ・ディスカッション）
第6回	労働と環境について１	労災・公害問題を考える（ゲスト講師、アスベスト労災問題を考える）
第7回	労働と環境について２	エッセンシャルワークをめぐる労働環境と処遇について考える
第8回	労働と環境について３	地域における生業と公害問題を考える（『阿賀に生きる』を観る）
第9回	インフラと労働について１	開発主義と労働の戦後史について考える
第10回	インフラと労働について２	開発主義の現在について考える
第11回	越境的な移動について１	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第12回	越境的な移動について２	日本とアジア諸国における越境的労働市場について考える
第13回	越境的な移動について３	移動の拡大と社会統合について考える
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。事前に文献講読が必須なディスカッション回については、時間がかかっても必ず読んで来て参加すること。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】
授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（50 %）
リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など
②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション回はメンバーを固定せず引き続きランダムで座席表を指定することで、多様な意見に触れるようにする。全体討議では黒板を利用して、議論の流れや多様な論点を可視化する。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器（学習支援システムにアクセスできるもの）

【その他の重要事項】
・秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。
・授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. Students will learn various topics such as changing industrial relations, expanding unregular/precarious work, working environments and risks as well as social policy. Student will be expected to actively participate in group discussion on each issue.
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have knowledge and multiple perspectives on various labor issues and
to develop communication skills in discussion.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting.
Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end paper: 50%、in class contribution: 50%

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

金融システム論

松田　岳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火**1/Tue.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融システム論は金融を初めて学ぶ学生に向けて、具体的な金融仕組みを金融理論と結びつけて学ぶ科目です。金融の仕組みと働きの基礎から学修し始め、最新の金融動向やリーマンショック、金融危機後の非伝統的金融政策、フィンテックの発展なども取り上げます。学生が金融に関する幅広い知識と理解を養い、金融システム、金融取引、金融政策、および金融システムの安定性に関する複雑な概念を総合的かつ深いレベルで理解し、説明できるようにすることが本科目の目的です。

【到達目標】
この科目の到達目標は第一に金融システム（資金循環、金融機関、金融市場、新しい金融の仕組み等）を、第二に金融取引（貨幣の時間価値、イールドカーブ、不確実性、情報の非対称性、情報の不完備性、銀行の経済的機能、取引所・格付の機能、公的部門の役割等）を、第三に金融政策と金融システムの安定（貨幣の機能、信用創造、貨幣と物価、金融政策、プルーデンス政策）を理解し、説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
「授業時間外の学修」で指定した方法で学生が準備学修・復習を行うことを前提として、授業は実施されます。授業は教科書のポイント解説を行う「講義」を中心とし、学生から質問が提出された場合は「質疑応答」の時間を設けます。また、教科書の内容の理解度を測定する確認問題を実施し、学生自らが到達目標がどれだけ近づいているかを確認する機会とします。授業の最後に振り返りの機会を設け、理解不足の点が無いか自問自答して頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金融の仕組みと働き	金融システムと金融取引（意義、特徴、情報の非対称性、契約の不完備性）、金融システムの働き（資金移転と取引費用の軽減、流動性の付与、リスク移転、価格メカニズムと情報公示機能）、金融方式と資金の流れ（直接金融と間接金融、多様な資金の流れ）について学修する。
第2回	資金の流れ	最終的な貸し手と借り手の変遷（経済部門別の資金過不足、戦後日本の部門別資金過不足の推移、高度成長期、安定成長期の貸し手と借り手、バブル期・失われた10年の貸し手と借り手、資金の流れの変化と金融システム）、現代日本の資金循環（バランスシートと資金循環統計、資金循環の経路と形態、日本における資金の流れの特徴）、日本の金融機関（民間金融機関と公的金融機関、預金取扱金融機関、その他の金融機関、専門金融機関制度）について学修する。
第3回	銀行	銀行の制度、銀行の活動（銀行の業務、金融自由化と規制緩和）、銀行経営（銀行のバランスシート、銀行の収益構造、収益構造の現状）、主要な経営課題、新規参入銀行について学修する。
第4回	金融市場	日本の金融市場（金融市場の分類、金融市場の担い手）、短期金融市場（インターバンク市場、オープン市場）、株式市場（株式の特徴と種類、株式市場の現状、株式市場間競争と取引所再編）、債券市場（債券の特徴と種類、債券市場の現状、社債市場改革）について学修する。
第5回	金融の新しい仕組み	金融の流動化・証券化（流動化・証券化の仕組みと分類、現状、課題）、投資信託（投資信託の仕組みと分類、現状、課題）、フィンテック（定義、通貨決済、クラウドファンディング、家計資産管理、保険）、ブロックチェーン（貨幣発行自由化論、人工知能）について学修する。
第6回	金融取引と金利	貨幣の時間価値と金利（現在価値と将来価値、さまざまな金利の概念、金利の働き）、満期の長さと金利の関係：金利の期間構造（利回り曲線、長短金利の関係、金利裁定、金利の期間構造の理論、金融政策と金利の期間構造、イールドカーブ・コントロール）について学修する。
第7回	金融取引の特徴と課題	不確実性と金融取引（取引相手をみつける問題、不確実性とリスク負担の問題）、情報の非対称性と金融取引（モラルハザードの問題、逆選択の問題）、契約の不完備性と金融取引（契約の不完備性、契約の不完備性のモデル、中古車市場と保険市場における逆選択とモラルハザード）について学修する。
第8回	中間試験	授業の前半部分の内容（金融システム、金融取引）について理解し、説明できるようになっているかを測定するために中間試験を実施する。試験範囲は第1回目から第7回目の授業内容とし、選択、空欄補充、記述などの形式で出題する。

第9回	銀行の働き	銀行の経済的機能（資産変換機能、情報生産機能）、規模の経済性と範囲の経済性、銀行と企業の取引関係（契約の不完備性と再交渉、日本のメインバンク制、リレーションシップ・バンキング）について学修する。
第10回	金融取引と政府の役割	公的金融の仕組み（金融に政府介入が必要な理由、金融への介入手段、日本の公的金融、平時と危機時）、民間金融機関貸出の信用補完（公的信用保証の仕組み、信用保証制度の機能と弊害、信用保証制度の今後）、金融市場への政府の関与（インフラとしての金融市場、債権の証券化、ベンチャーキャピタル、ファンド）について学修する。
第11回	貨幣の働きとマクロ経済	貨幣の働き（3つの機能、現代の貨幣、マネーストック統計）、決済（決済の仕組み、決済システム）、信用創造（数値例、実際の信用創造、マネーストックと銀行貸出の増減）、貨幣と物価（貨幣数量説、最近の流通速度の働き、マネー・ビュー、クレジット・ビュー）について学修する。
第12回	日本銀行と金融政策	日本銀行と金融政策運営（日本銀行とは、金融政策の目標と手段、金融政策の運営）、金融政策手段と準備預金の需給、金融政策の効果、金融政策をめぐる近年の議論（量的緩和とその効果、金融政策の新しい試みと課題、マイナス金利政策、中央銀行の破綻）について学修する。
第13回	金融危機とプルーデンス政策	金融危機の背景（マクロ経済の環境、金融機関のリスク管理）、プルーデンス政策の手段（事前的措置と事後的措置、中央銀行の最後の貸し手機能、公的資金の注入）、プルーデンス政策の将来像について学修する。
第14回	授業内試験	全ての授業内容について理解し、説明できるようになっているかを測定するために試験を実施する。選択、空欄補充、記述などの形式で出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡村秀夫, 田中敦, 野間敏克, 播磨谷浩三, 藤原賢哉. 金融の仕組みと働き. (有斐閣ブックス ; 477). 有斐閣. 2017.9. ISBN 978-4-641-18437-4. 定価 2,420円(本体 2,200円).

【参考書】
参考書を指定しません。

【成績評価の方法と基準】
(1) 金融システムについて理解し、説明できるようになること。38.5%
(2) 金融取引について理解し、説明できるようになること。38.5%
(3) 金融政策と金融システムの安定について理解し、説明できるようになること。23％

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業進行を求める声がありました。この意見に応え、今年度からは授業内容に関する質問を学修支援システムを通じて収集し、翌週にフィードバックをお返しすることとします。

【学生が準備すべき機器他】
1)学修支援システム等を利用できる環境を整えていてください。2)学修支援システムの情報を授業前に確認しておいてください。3)大学のメールアドレスとパスワード、QRコードを読み取るためのスマートフォン等を必ず携帯してください。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学、マクロ経済学の単位を事前に修得しておくと、本科目の理解が深まると考えます。本科目と関連する科目としては、国際経済論I、国際経済論II、社会・イノベーション論II、社会保障法I、社会保障法IIが挙げられます。

【Outline (in English)】
Course outline
Financial System Theory is a course for students new to finance to learn about specific financial systems in the context of financial theory. Starting with the basics of how finance works and functions, the course also covers recent financial trends, the Lehman shock, non-traditional monetary policy after the financial crisis, and the development of FinTech. This course aims to help students develop a broad knowledge and understanding of finance so that they can understand and explain complex concepts related to the financial system, financial transactions, monetary policy, and financial stability at a comprehensive and in-depth level.
Learning Objectives
The objectives of this course are, first, to understand and explain the financial system (the flow of funds, financial institutions, financial markets, new financial structures, etc.), second, financial transactions (time value of money, yield curves, uncertainty, information asymmetry, information incompleteness, economic functions of banks, functions of exchanges and ratings, role of public sector, etc.), third, monetary policy and financial system stability (the function of money, credit creation, money and prices, monetary policy, prudential policy) should be understood and explained.
Learning activities outside of classroom
The required home study hours outside of class are 4 hours per week (6 hours per week if the student is absent). The required study hours may be longer if the student lacks academic ability or basic knowledge of economics and finance. In terms of preparation, please read through the relevant sections of the textbook three times and summarize the essential points of the textbook in your notebook. If you have any questions, please submit them before class. For post-lesson study, re-read your notes to consolidate your understanding of the class content. If you fail to answer correctly on the in-class confirmation test, review the corresponding section of the textbook. If possible, try the practice questions in the textbook.
Grading Criteria /Policy
Evaluation Percentage by Achievement Goals
(1) To be able to understand and explain the financial system. 38.5%
(2) To be able to understand and explain financial transactions. 38.5%
(3) To understand and be able to explain monetary policy and financial system stability. 23%.

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境経済学Ⅰ

明日香　壽川

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境に関わる問題、特にエネルギー問題や気候変動問題について、経済学の側面だでなく、科学技術、政治、哲学の側面からも議論して、現状および今後の課題について深く理解してもらいます。

【到達目標】
気候変動問題の科学技術的な部分を最初の方で講義します。まずそれを理解してもらい、その上で、具体的な国内外での対策に関して、経済だけでなく、政治や哲学の側面から、何をなすべきか、何が難しいのか、なぜ難しいのか、などについて、世界と日本の両方に関して、講師（外部からのゲスト講師を含む）および学生同士の議論を通して理解してもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
講義形式ですが、映像ビデオなどは活用します。また、学生をグループ分けして、それぞれで議論するような仕組みも取り入れます。エネルギーや温暖化問題に実際に仕事として取り組んでいる人や団体の関係者を呼んで話を聞いたりもします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	INTRODUCTION	授業の進め方について述べたあとに、地球環境問題とは何かについて議論する
第2回	気候変動問題の重要性さと複雑さと面白さ	ビデオを鑑賞して、内容について議論する
第3回	気候変動問題の科学1	気候変動問題の仕組みを理解する
第4回	気候変動問題の科学2	気候変動問題に対する懐疑論およびそれに対する反論を理解する
第5回	気候変動対策としてのエネルギー問題	どのようなエネルギーミックスがオプションとしてあるかを理解する
第6回	再エネ・省エネ・原発の位置付け1	再エネ・省エネ・原発の現状と課題について理解する
第7回	再エネ・省エネ・原発の位置付け2	再エネ・省エネ・原発の現状と課題について理解する
第8回	日本のエネルギー温暖化政策1	公害問題との共通点を考えながら、日本のエネルギー政策を考える。
第9回	日本のエネルギー温暖化政策2	これまでを日本のエネルギー政策を振り返りつつ、現状と課題を明らかにする。
第10回	気候変動問題の国際交渉	気候変動枠組条約締約国会議（COP）などでの議論を理解する
第11回	気候変動アクティビストとは？	Fridays for Futureなどの活動に関わっている若者の話を聞く
第12回	エネルギーや気候変動問題に仕事として関わるとは？	再エネ事業などで関わっている人の話を聞く
第13回	まとめ1	グループ発表
第14回	まとめ2	グループ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いません。参考文献はその都度指示します。

【参考書】
主な参考文献は
明日香壽川『グリーンニューディール：世界を変えるガバニング・アジェンダ』（岩波新書、2021年）

【成績評価の方法と基準】
70%期末試験、グループ発表30%の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生間および学生と教員との間のディスカッションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】
可能であればパソコンを持ってきてください。

【その他の重要事項】
。

【Outline (in English)】
Discussing issues related to the global environment, especially energy and climate change issues from scientific and technological as well as political, economic, and philosophical perspectives. The participants will gain an understanding of the current situation and future challenges.

SES300EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

環境経済学Ⅱ

明日香　壽川

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界および日本における気候変動問題およびエネルギー問題に関して、担当教員を含む専門家や関係者の話を聞きながら、グループ発表を通して現状や課題を知る。それによって、国レベル、地域レベル、企業レベル、個人レベルでの具体的な対策や必要とされるアクションについて理解を深める。

【到達目標】
気候変動およびエネルギー問題に関連した仕事やビジネスに直接的に関わっているさまざまな人の話を聞き、机上の議論ではなく、現場の生の声を知ることで、問題をより深く理解できるようになる。同時に、グループ毎に自分達で決めた課題に関するプレゼンテーションを行うことによって、プレゼン能力が高まると同時に、自分の言葉で気候変動やエネルギー問題を議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
講義（教員および外部講師）とグループごとのプレゼンテーションの二つが主になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ：気候変動問題とは	ビデオを鑑賞しつつ、授業の進め方について説明する。
2	気候変動NGO（特に気候正義）	気候変動の国際NGOに関わっている人を講師に呼んで、実際の活動や課題について理解する。
3	グループ発表	前の週の話を踏まえてグループごとに発表する。
4	再エネ事業	日本で再エネ事業にビジネスとして関わっている人の話を聞く。
5	グループ発表	前の週の話を踏まえてグループごとに発表する。
6	原発	日本で原発に関する市民団体に関わっている人の話を聞く
7	グループ発表	前の週の話を踏まえてグループごとに発表する。
8	国際協力	日本で気候変動分野の国際協力に関わっている人の話を聞く。
9	グループ発表	前の週の話を踏まえてグループごとに発表する。
10	メディア	気候変動のメディアなどでの報道のされ方の課題について専門家の話を聞く。
11	グループ発表	前の週の話を踏まえてグループごとに発表する。
12	グループ発表	2学期を通して学んだ様々な論点に関してグループごとに発表する。
13	グループ発表	2学期を通して学んだ様々な論点に関してグループごとに発表する。
14	まとめ	まとめ及びディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
主な参考書は、
明日香壽川著(2021)『グリーン・ニューディール』、岩波新書.

【成績評価の方法と基準】
50％期末の試験、グループ発表50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
映像や見たり、外部講師の話を聞いたりすることで、エネルギー・気候変動問題に強い興味をもってもらう。

【学生が準備すべき機器他】
可能であればパソコンを持参してください。

【Outline (in English)】
Learn about the current situation and issues related to climate change and energy in Japan and around the world through group presentations and by listening to experts and other concerned parties, including faculty members in charge of the course. Through these presentations and discussions, participants will deepen their understanding of specific measures and actions needed at the national, regional, corporate, and individual levels.

LAW200EB（法学 / law 200）

社会保障法Ⅰ

長沼　建一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らないと損をする」）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】
自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。
さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。
質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。
講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険、金融業界と保険会社
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	雇用保険①	失業したらどうするか
5	雇用保険②	育児休業や介護休業、再就職のための給付
6	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
7	労災保険②補説	過労死・過労自殺と労災認定
8	労働保険・補説	前半部分の補説、まとめ
9	医療保険①	病気になったらどうするか
10	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
11	医療保険③	どういう医療を受けられるのか、高齢者医療
12	介護保険①	（親が）寝たきりや認知症になったら
13	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。

【参考書】
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】
テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】
授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（一部を秋学期の社会保障法Ⅱに回すこともあり得ます。）
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】
This course deals with social security law.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

LAW300EB（法学 / law 300）

社会保障法Ⅱ

長沼　建一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らないと損をする」）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】
自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。
さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。
質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。
講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか――全国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか――サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか（iDeCo等）
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	どういうときに支給されるのか、保護の補足性、稼働能力の要件
10	生活保護②	いくら支給されるのか、基準及び程度の原則
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、ひとり親家庭への手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。

【参考書】
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】
テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】
授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（春学期の社会保障法Ⅰの内容の一部を扱うこともあり得ます。）
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】
This course deals with social security law.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論Ⅰ

髙橋　洋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**3/Wed.3

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、環境問題の構図を理解し、それへの公的対処行動である環境政策を学ぶことにある。現代において環境問題は、景観など身近な問題から地球規模の気候変動問題まで多様であるが、政府による環境政策は一般に十分と言えない場合が多い。学際的な観点から、そのような政策課題にアプローチし、環境政策のあり方を考えていく。

環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅰの後にⅡを履修することを強くお勧めする。

【到達目標】

１：環境問題の構図や背景を理解する
２：環境問題に対する公共政策の基礎概念を習得する
３：環境問題への具体的な対処策を考察し、提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の２日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを記すことをお勧めする。

講師は授業中に様々な質問をする。いくつかの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくること。受講生は積極的に発言することが求められ、こちらから指名することもある。授業で扱う様々な課題に関心を持ち、自主的に調べることも重要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明、自由討論
第2回	環境問題の定義と分類	環境と環境問題の定義、環境問題の分類
第3回	環境問題の歴史的変遷	産業公害型環境問題、都市生活型環境問題、地球環境問題
第4回	公共政策の基礎概念	公共政策の定義、公共政策論の基礎概念、政策分析論と政策過程論
第5回	「市場の失敗」から考える環境問題	公共財・コモンプール財・自由財、負の外部性と外部費用
第6回	エコロジーと持続可能性の概念	エコロジー、定常経済論、持続可能性
第7回	環境政策の原則	未然防止原則と予防原則、汚染者負担原則と拡大生産者責任原則
第8回	環境政策の手法	規制的手法と経済的手法、合意的手法、情報的手法
第9回	環境政策の主体	環境省、経済産業省、環境NGO、地方自治体
第10回	環境法の体系と環境訴訟	環境基本法、環境権、国際環境法、環境訴訟
第11回	国際経済における環境問題	多国籍企業と汚染逃避仮説、公害輸出、自由貿易と環境保護
第12回	グループ討論	特定のテーマについてグループ単位で討論
第13回	環境政策の展望	21世紀の環境問題と環境政策
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回参照する教科書は特にない。講義用スライドは、学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】

・大塚直他『18歳からはじめる環境法 第２版』(法律文化社、2018年)
・環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』（有斐閣、2006年）
・環境省編『環境・循環型社会・生物多様性白書』各年版
・倉阪秀史『環境政策論 第3版』(信山社、2015年)
・デイリー、H.『持続可能な発展の経済学』（みすず書房、2005年）
・松下和夫『環境政策学のすすめ』（丸善出版、2007年）
・森晶寿他『環境政策論』(ミネルヴァ書房、2014年)

【成績評価の方法と基準】

以下の３つの要素から100点満点で評価する。
１：授業貢献点＝24点（授業での発言、質問等）
２：リアクションペーパー＝16点＝8点×2回（A4・1枚程度）
３：期末試験＝60点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】

授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、関連資料をダウンロードする。

【その他の重要事項】

担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経済産業省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】

This course teaches basic understandings of environmental problems and environmental policies to solve them. You will be able to understand mechanism and background of environmental problems, master concepts of environmental policies, and propose concrete solutions. You will be graded by such criteria as class participation, two reaction papers, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論Ⅱ

髙橋　洋

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**3/Wed.3

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、環境政策論Ⅰを踏まえ、様々な環境問題の事例を取り上げ、それへの政策的対処策を考察することにある。高度経済成長時代の公害問題、廃棄物問題、気候変動問題などを取り上げ、それぞれの環境問題の構図を理解するとともに、その政策過程を踏まえ、対処策を実践的に議論していく。

環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、それを前提に環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅱを履修する前にⅠを履修することを強く勧める。

【到達目標】

１：代表的な環境問題の事例について、理論を踏まえつつ実践的に理解する
２：気候変動問題などに対して、具体的な対処策を提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の２日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを記すことをお勧めする。

教員は授業中に様々な質問をする。多くの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくること。受講生は積極的に発言することが求められ、こちらから指名することもある。第12回授業では、エネルギー・気候変動をテーマにしたグループ討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明：授業の内容、進め方、評価方法
第2回	公害問題としての水俣病	公害の定義、水俣病の被害、水俣病訴訟
第3回	公害問題の構図と環境基準	環境基準、水質汚濁防止法、大気汚染防止法、経済調和条項
第4回	環境庁設置の政治過程	省際紛争と総合調整、革新自治体と公害防止条例、公害国会
第5回	自然環境保護と生物多様性	自然公園制度、自然の権利、生物多様性条約
第6回	廃棄物問題と循環型社会	産業廃棄物と一般廃棄物、循環型社会と3R、産廃処理事業と豊島事件
第7回	都市における環境問題	都市計画、都市緑化、交通環境政策、モーダルシフト
第8回	気候変動問題と気候変動枠組み条約	気候変動の被害、温室効果ガスと化石燃料、パリ協定、気候変動訴訟
第9回	エネルギー転換と脱炭素	カーボンプライシング、グリーン成長、デカップリング、脱炭素宣言
第10回	原子力発電と東京電力福島第一原発事故	国策民営と立地交付金、放射能汚染と避難、事故責任と損害賠償
第11回	再生可能エネルギーと地域社会	再エネと地域経済、メガソーラーの景観破壊問題、営農型太陽光発電
第12回	グループ討論	エネルギー・気候変動問題に関するテーマを取り上げ、グループ別に討論
第13回	環境政策の展望	グループ討論のまとめ、21世紀の環境問題
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回参照する教科書は特にない。講義用スライドは学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】

・大沼あゆみ・岸本充生『汚染とリスクを制御する』（岩波書店、2015年）
・亀山康子『新・地球環境政策』（昭和堂、2010年）
・環境省編『環境白書』各年版
・倉阪秀史『環境政策論 第3版』(信山社、2015年)
・高橋洋『エネルギー政策論』（岩波書店、2017年）
・新澤秀則・高村ゆかり『気候変動政策のダイナミズム』（岩波書店、2015年）
・政野淳子『四大公害病』（中公新書、2013年）
・森晶寿他『環境政策論』(ミネルヴァ書房、2014年)
・鷲田豊明・笹尾俊明編『循環型社会をつくる』（岩波書店、2015年）

【成績評価の方法と基準】

以下の３つの要素から100点満点で評価する。
１：授業貢献点＝26点（授業での発言、質問等）
２：リアクションペーパー＝16点＝8点×2件（A4・1枚程度）
３：期末試験＝56点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】

授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。24年度は授業の最後に時間が足りなくなりがちな点を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、資料をダウンロードする。

【その他の重要事項】

担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経産省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】

This course discusses cases of environmental problems and related policies based on Environmental Policy 1. You will be able to understand mechanism and background of various cases of environmental problems, such as environmental pollutions and climate change, and propose concrete solutions to them practically. You will be graded by such criteria as class participation, two reaction papers, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SOC200EB, SOC200EC（社会学 / Sociology 200 , 社会学 / Sociology 200）

国際協力論

岡野内　正

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまの問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】
①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、、④みんなで話し合ってみたいこと、を含むこと。授業前半ではZOOMのブレークアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換―コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦―サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編―ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発―ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理―ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連SDGsの論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。

【参考書】
阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力　中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。
岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】
A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内　正

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】
①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1･DP3･DP6･DP7･DP8･DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してくることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていことになる。それがこの授業の狙いである。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト――民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民、およびロジャヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ―新自由主義・親イスラーム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラーム統治体制の現状	受講生報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を巡る迷路」	受講生報告と教員を交えた議論
13	ヨルダン――紛争との共生	受講生報告と教員を交えた議論
14	中東・イスラーム研究の課題	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円+税。
岡野内正「アラブの春は西クルディスタンで花開いたか？ ――シリア内戦におけるロジャヴァ革命研究のために」『アジア・アフリカ研究』61（2）2021年4月に所収。（岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる。）

【参考書】
阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力　中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。
長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。
岡野内　正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline (in English)】
A kind of seminar class on contemporary Muslin society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

SOC100EB, SOC100EC（社会学 / Sociology 100 , 社会学 / Sociology 100）

コミュニティ・デザイン論Ⅰ

樋口　明彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**5/Wed.5

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、コミュニティという言葉が注目されている。かつては、「ご近所さん」のように、地域性が重要な意味を持っていた。ところが、現在では、NPOやネット・コミュニティのように、伝統的な地域性にとらわれない、新たな共同性の形が出現している。現代社会において、なぜコミュニティは争点になるのか。様々な領域のケース・スタディを通じて、その理由を探る。

【到達目標】
①ケース・スタディを通じて、コミュニティが果たす役割の初歩的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1･DP3･DP6･DP7･DP8･DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
講義。授業内でゲスト講義を1回行う予定。また、多摩におけるまちづくりの実践を紹介するため、ソーシャル・イノベーション・センター（SIC）と共同した講義を行う予定。そのため、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	社会と世間のはざま
2	理論的考察①	地域性と共同性の乖離
3	理論的考察②	「離脱・発言・忠誠」というオプション
4	ケース・スタディ①	相互扶助と社会保障の相克
5	ケース・スタディ②	町内会・自治会とNPO
6	ケース・スタディ③	商人とまちづくり
7	ケース・スタディ④	防犯という戦略
8	ケース・スタディ⑤	アートという新たなメディア
9	ケース・スタディ⑥	孤独をめぐる闘い
10	ケース・スタディ⑦	親密性と公共性
11	ケース・スタディ⑧	移住と二拠点生活
12	将来展望の検討①	サード・セクターの役割
13	将来展望の検討②	社会的包摂という政策フレーム
14	ゲスト講義	（詳細未定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。授業で用いる教材は、講義前日、学習支援システムにアップロードするので、事前にダウンロードすること。

【参考書】
各回の講義にて指示する。

【成績評価の方法と基準】
①期末試験（90％）
②ゲスト講義へのリアクションペーパー（10％）

【学生の意見等からの気づき】
新しい講義テーマの導入、パワーポイントの見やすさの改善

【Outline (in English)】
This lecture is about community development. The goal is to acquire basic knowledge of it. Your study time will be more than two hours for a class. Grading will be decided based on Term-end exam (90%), and the short report for a guest lecture (10%).

ARSe200EC（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

地域研究（中国）

大﨑　雄二

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古来、独自の文化的秩序観による一個の「世界」を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバリゼーションが進展する現代国際社会の中で、その特徴をさまざまな具体的事例で検証、分析、考察します。

【到達目標】
現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえる練習を重ね、現在の中国共産党と中華人民共和国の諸政策を的確に分析していく視座を形成します。
脅威論や仮想敵国論ばかりが跋扈するこの国のメディアの報道も分析対象とします。一緒に学んだ後、そうしたニュースについて、不足している観点や記者の不勉強や取材不足をきちんと指摘できるmedia literacyも身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP8・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
前半は教員による概説と問題提起、グループ討論の形とします。後半はテーマ別に個人や小グループでの発表、議論など少し規模の大きなゼミのような形に展開できればと考えています。そのために学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時空としたいと思います。
コロナ前までは隔週でやりとりする「交換日記」を実施してきましたが、コロナ後は、ハイフレックス方式をとっていることもあり、学習支援システムを利用し、応答しています。
課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有します。
授業計画は、実際の展開によって若干の変更をすることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中国とは？	中国的（中華）世界秩序
2	近現代史(1)	屈辱の近代(1)
3	近現代史(2)	屈辱の近代(2)
4	近現代史(3)	中華人民共和国(1)
5	近現代史(4)	中華人民共和国(2)
6	近現代史(5)	「改革・開放」
7	近現代史(6)	香港、台湾
8	近現代史(7)	日・中関係
9	事例研究(1)	「課題１」の検討
10	事例研究(2)	内政(1)
11	事例研究(3)	内政(2)
12	事例研究(4)	外交(1)
13	事例研究(5)	外交(2)
14	事例研究(6)	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の「教科書」はありません。毎回プリントを配布します。

【参考書】
関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介します。

【成績評価の方法と基準】
(1)「課題１」　関連する新聞記事を3本とりあげ、重要語句などに脚注をつけ、コメントをしてください。
(2)「課題２」　指定するいくつかのテーマの中から1つ選び、小論文を作成してください。
(3)参加　「交換日記」＋ 授業内発表
(1) 35％ ＋ (2) 45％ ＋ (3) 20％で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時空としたいと思います。グループ討論による相互学習等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきます。「交換日記」等で意見や質問や連絡など、遠慮なくどうぞ。

【その他の重要事項】
北京駐在記者としての取材、報道の経験を踏まえ、現代中国に関する情報収集や分析のliteracyを具体的に伝え、メディアの伝える「中国像」の歪みと実像とを比較考量したいと考えています。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the knowleage and new point of view to contemporary China.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Final grade will be calculated according to the following process mid-term report (30%), term-end report (40%), and in-class contribution (30%).

FRI200EB, FRI200ED（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200 , 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

社会ネットワーク論Ⅰ

宇野　斉

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**木**1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な社会状況を社会ネットワークとして捉え理解するプロセスを、社会ネットワークのシステム的な見方とともに、学びます。

【到達目標】
１社会現象のネットワーク的な見方の理解 ２企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解 ３スモールワールドの理解 ４社会のシステム的な見方とネットワークの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
　講義を中心として演習問題、実験、いくつかの課題によって進めます。
　毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	授業内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会におけるネットワーク現象(1)	社会現象のネットワーク的分析を紹介します。
03	社会におけるネットワーク現象(2)	社会現象を起こすネットワークの振る舞いを考察します。
04	ネットワーク、システム上の主体と関係	システム論的見方を提示し、ネットワークの主体の役割と相互関係を考察します。
05	企業のネットワーク(1)	企業内の制度におけるネットワークを考察します。
06	企業のネットワーク(2)	企業内の制度外のネットワークを考察します。
07	地域のネットワーク(1)	地域を成立させているネットワークを考察します。
08	地域のネットワーク(2)	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
09	スモールワールドの理論	スモールワールドの理論分析モデルを学びます。
10	スモールワールドの実験	スモールワールドの分析を感じる実験を行います。
11	スモールワールドの実験と理論	実験結果を分析し理論との接合を考察します。
12	ネットワークの中に生じる認知組織	ネットワーク内に認知される組織を論じます。
13	社会、コミュニティ、組織、個人	社会における多段階のネットワーク関係をシステム的に考察します。
14	まとめと質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで提示します。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点等30％、レポート30％、期末試験40％（受験しないと評価対象になりません）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。大学付与メールアドレスを利用設定、メールチェックしてください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを授業内でも利用します。

【その他の重要事項】
　授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する回に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。
期末試験はレポートで代替する可能性があります。
　なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will learn the process of viewing and understanding various social situations as social networks, along with the systemic view of social networks.
【Learning Objectives】
1 Understanding the network view of social phenomena
2 Understanding the validity of viewing companies and regions as social networks
3 Understanding the small world
4 Understanding the systemic view of society and networks
【Learning activities outside of classroom】
Presented in the class support system.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
30%of regular scores and exercises during lectures, 30%of report(s), and 40%of final exams(Students must take the exam to be eligible for evaluation).

FRI200EB, FRI200ED（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200 , 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

社会ネットワーク論Ⅱ

宇野　斉

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**木1**/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に組織内ネットワークの分析を、社会ネットワークの観点から分析できる理論と方法を学びます。

【到達目標】
1 ネットワーク分析が自分で出来る技法の習得
2 ネットワーク分析手法による組織分析方法の習得
3 組織の社会ネットワーク的な意味と振舞いの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
講義を中心として演習問題、実験、いくつかの課題によって進めます。
個人間関係を基礎としミクロなネットワークで、誰がどのような役割を果たすかを分析する理論と手法の理解について、実験を行います。組織内のネットワークをどのように捉え、どう行動すべきかを扱います。
毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	概観内容を説明し、学生と教員間で確認します。
02	ネットワーク分析のための理論提示	この授業でのネットワーク分析の理論と背景を提示します。
03	ネットワークの理論的分析	実験モデル状況の理論分析を行います。
04	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得ます。
05	実験結果の分析	データを理論との対比で分析します。
06	ネットワーク分析の代表値	ネットワーク分析における一般的な指標を説明します。
07	組織内公式関係分析	分析方法とケースで公式的関係状況の分析を考察します。
08	組織内非公式関係分析	同ケースで非公式な関係状況の分析を考察します。
09	組織内関係総合的分析	同ケースで公式と非公式の関係の同時状況分析を考察します。
10	組織内リンク追加の効果１	モデルでの関係追加の組織全体への効果を考察します。
11	組織内リンク追加の効果２	モデルでの関係追加の個人への効果を考察します。
12	組織内リンク追加の効果３	モデルでの関係追加の個人と組織への効果の差異を考察します。
13	クラスター、ネットワーク、組織、個人	４つの段階の様相相互の関係を考察します。
14	まとめと、質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで提示じます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
必要に応じて紹介し、授業支援システム等で提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点等30％、レポート30％、期末試験40％（受験しないと評価対象になりません）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。大学付与メールアドレスを利用設定、メールチェックしてください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを授業内でも利用します。

【その他の重要事項】
授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。
対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。
なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will learn theories and methods that allow them to analyze networks within an organization, primarily from the perspective of social networks.
【Learning Objectives】
1 Acquiring techniques to perform network analysis on one's own
2 Acquiring methods of analyzing an organization using network analysis methods
3 Understand the meaning and behavior of an organization's social network
【Learning activities outside of classroom】
Presented in the class support system.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
【Grading Criteria /Policy】
30%of regular scores and exercises during lectures, 30%of report(s), and 40%of final exams(Students must take the exam to be eligible for evaluation).

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツトレーニング論Ⅰ

木村　新

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1年次／2単位**
曜日・時限：**金**3/Fri.3
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
トレーニング科学を理解する上で必要な基礎的知識(バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等)を学び、適切なトレーニング計画をデザインするための基礎を習得する。

【到達目標】
・トレーニング科学を学ぶ上で必要な基礎的知識(バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等)を理解する。
・各種トレーニング(レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等)の内容と方法および、トレーニング実践での留意点についての科学的知見を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントやVTR等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	トレーニング科学の対象、位置づけ、方法とは何かを説明した後に、今後の講義の流れについて確認する。
第2回	トレーニング指導者論	トレーニング指導者としての役割や実務、またトレーニングに関するデータの測定・分析・評価・活用の方法について概説する。
第3回	トレーニング方法の基礎	トレーニング方法の種類 (レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等) を解説し、トレーニングを計画する際の注意点について確認する。加えて、トレーニング方法の種類に応じた負荷のかけ方や相互関係について説明する。
第4回	骨格筋の科学①	骨格筋の生理学的な側面について説明する。
第5回	骨格筋の科学②	骨格筋と腱の力学特性について説明する。
第6回	トレーニング動作のバイオメカニクス	トレーニング動作をバイオメカニクス的な観点から評価できるようになることを目指す。
第7回	生体エネルギー論	運動様式に応じたエネルギー供給機構を説明する。
第8回	レジスタンストレーニング①	レジスタンストレーニングにおける頻度や強度の標準的な組み方を説明する。
第9回	レジスタンストレーニング②	レジスタンストレーニングの各種エクササイズを概説し、各種エクササイズをバイオメカニクス的な観点から説明する。
第10回	持久性トレーニング①	持久性トレーニングに伴う身体内部の変化について説明する。
第11回	持久性トレーニング②	持久性トレーニングの標準的な組み方について説明する。
第12回	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクストレーニングとは何かを説明し、プライオメトリクストレーニングの各種エクササイズとそれらのバイオメカニクスについて概説する。
第13回	リカバリー方法	リカバリーの各種技法の紹介、効果のメカニズムを解説する。
第14回	期末試験	1～13回目までの内容について、修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし（各授業回、資料を作成して学習支援システム「教材」にアップロードする）

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
スポーツトレーニング論Ⅱの内容と合わせて理解するとトレーニングに関する見解が深まると思われるので、スポーツトレーニング論Ⅱの受講を勧める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
To learn the basic knowledge required to understand training science (biomechanics, physiology, neuroscience, etc.).
To learn the fundamentals for designing training plans.
【Learning Objectives】
Objectives are to understand findings in the training science and to use them in the application of training.
【Learning activities outside of classroom】
Students try to apply their understanding to sports fields. The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.
【Grading criteria/Policy】
Test: 100%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツリスクマネジメント

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**備考参照年次／2単位**
曜日・時限：**月**1/Mon.1
備考（履修条件等）：**2024年度以降入学者は1年次から履修可能。2023年度以前入学者は2年次から履修可能。**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じうる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】
学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、重大外傷、熱中症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。さらに発展させて、あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。今年度も引き続き新型コロナウィルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、社会的危機に直面した時に、これを科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
⑤ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	パンデミックから学ぶリスクマネジメント	新型コロナウィルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」―スポーツ現場におけるヒューマンエラー―	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	「アスリートが命を落とすとき」―突然死の機序とスポーツ現場における実態―	人が死ぬときに何が起きているのか？ なぜ運動中に命を落とすのか？若年アスリートスポーツ中の内因性突然死、中高年者の運動中の突然死について講義する。
4	心肺蘇生（成人と小児のBLS）―スポーツ現場でHands Only CPR―	成人の一次救命処置（BLS）と小児の救命処置（PBLS）の理論的基礎と適切に行うために必要な技術的ポイントについて学習する。またスポーツ現場におけるHands Only CPRの役割について学ぶ。
5	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
6	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
7	「なぜスポーツしてはいけないのか？」―競技スポーツ参加の可否判断―	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
8	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastorophic injury）、すなわち致死的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
9	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
10	環境とスポーツ―熱中症と落雷―	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。またスポーツ現場における落雷対策について学ぶ。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。
14	スポーツイベントのリスクマネジメント―EAPとAED―	（mass gatheringとしての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。Emergency Action Plan (EAP) およびAED（自動体外式除細動器）の役割について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
④ 下記【参考書】欄に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
第1回：
『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）**※資料室収蔵**
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）**※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可**
『臨床雑誌 内科：特集：感染症2020：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020年125巻1号）**（医書jpよりアクセスすることで全文ダウンロード可）**
第2回：
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）.（特に第1章～第6章）
『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤真理子、エネルギーフォーラム、2018）**※多摩図書館収蔵**
第3回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』. 2009年26巻11号.（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第4回：
『BLSプロバイダーマニュアル AHAガイドライン2020準拠』（2022年、シナジー）**※資料室収蔵**
第5回：
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）**※資料室収蔵**
第6回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック－心臓突然死を未然に防ぐために－．pp.570-573）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック－その有用性と限界－．pp.153-162.）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第7回：
木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題．1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
（http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf）
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）**※資料室収蔵**
第8回：
『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）
『柔道の安全指導』　（全日本柔道連盟、2015年第4版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）**※資料室収蔵**
第9回：
『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）**※資料室収蔵**
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）**※資料室収蔵**
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか，スポーツ頭部外傷：“頭部外傷10か条の提言”から考える』（2016年33巻7号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第10回：
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症review：Q&Aでわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
（https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能）
『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuou/index/saigai/rakurai.pdf）
『サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針』（日本サッカー協会　https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20060413_17_01.pdf）
『落雷事故の防止について』（文部科学省　https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm）
第11回：
木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－．（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf から参照）
木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害．臨床スポーツ医学．2014;31(9):858-867.
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第12回：
『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学．http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html）
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省，2013）（http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm）
『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』
（https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947）
第13回：
日本アンチ・ドーピング機構website（http://www.playtruejapan.org/）．ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。**同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。**
『マンガで学ぶスポーツ倫理』（林 芳紀ほか、化学同人）**※資料室収蔵**
『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス7冠の真実』[DVD]。**資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には３部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）**
『アンチ・ドーピング徹底解説! スポーツ医薬: 服薬指導とその根拠』（鈴木秀典ほか編、中山書店、2020年）**※多摩図書館収蔵**
『ドーピングの歴史: なぜ終わらないのか、どうすればなくせるのか』（エイプリル・ヘニングほか、青土社、2023年）**※多摩図書館収蔵**
第14回：
『マラソン・ロードレース 救護・医療体制 整備指針: フルマラソンから小規模レースまで―安全に運営するために』（野口 宏（編）, 山澤文裕（監修）、真興交易医書出版部、2020年）**※多摩図書館収蔵**
『人を助ける心』（高木 修、サイエンス社、1998年）．（特に第1章、第2章、第4章）**※研究室収蔵**
木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』．2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
その他に下記の書籍などを追加的に参考にするとよい。
・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) **※研究室収蔵**
・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
・入澤 充．『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）　**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題などを課す。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】
授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドを含め関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.
[Learning objectives] The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). A quiz (mini test) will be provided in the classroom. The score of the quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

ECN100IA（経済学 / Economics 100）

スポーツビジネス論Ⅰ

片上　千恵

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1年次／2単位**
曜日・時限：**月**2/Mon.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】
本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。毎回授業内容をまとめたリアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション　スポーツ産業の発展とスポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化
2	スポーツマーケティングの考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケットセグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーションシップマーケティング
4	マーケティング戦略の考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマネジメント（プロ・スポーツ）	Ｊリーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマネジメント（スポーツ消費者行動）	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマネジメント（ブランディング）	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマネジメント（マーケティング戦略）	フランチャイズ、リーグマネジメント、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（市場動向）	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（コミュニケーション戦略）	スポーツブランドのコーポレートブランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題(CSRおよびソーシャルマーケティング)	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成(1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 4時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017年

【参考書】
特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(80%)および授業内レポートの評価(20%)から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の感想や気付き、質問を記入してもらいう。その内容をもとに次の授業冒頭でフィードバックを行う。

【Outline (in English)】
(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. (Learning Objectives) This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 80%、Short reports : 20%.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツコーチング論 A

苅部　俊二

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1年次／2単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ競技者育成のためのスポーツコーチング、また生涯スポーツのためのコーチングについてその本質と理論を理解する。新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である。これを実践するために、コーチングの理念・哲学、対自分力と対他者力、現場のマネジメントを学ぶ。

【到達目標】
効果的なスポーツコーチングに必要な専門的知識を習得し、応用する能力を養う。様々な競技スポーツやレクリエーションスポーツなどに関するコーチングの本質と理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、毎時限課題の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方のガイダンス	モデルコアカリキュラムとの関連性 実践におけるコーチ役の使命と職務
第2回	スポーツの意義と価値	スポーツの文化的特性・スポーツ精神 スポーツ基本法とスポーツ基本計画
第3回	日本のコーチングの今	グッドコーチに向けた「7つの提言」 スポーツインティグリティ
第4回	多様なコーチング文脈	種類別コーチに求められるもの 参加型スポーツのコーチング パフォーマンススポーツのコーチング
第5回	コーチに求められるもの	コーチの主な機能（職務）
第6回	コーチの学び	コーチが学ぶための方法論 省察の流れ
第7回	コーチのセルフコントロール	自分の心理的、行動的な特徴 セルフコントロールの技法の理解
第8回	コーチのコミュニケーションスキル	コミュニケーション プレゼンテーション ファシリテーション
第9回	コーチングとリーダーシップ	集団、チーム リーダーシップ理論の流れ リーダーの成長を促す経験
第10回	多様な思考法に基づくコーチング	理論的思考法 分析的思考法 創造的思考法 判的思考法
第11回	発育発達と女性アスリートのコーチング	成長期の子どものコーチングの特徴 女性アスリートのコーチングの特徴
第12回	障がいのある人のコーチング	アダプテッドスポーツ インクルーシブスポーツ 障がいのある人のコーチングの特徴
第13回	リスクマネージメント	暴力的指導のリスクマネージメント スポーツ事故のリスクマネージメント
第14回	試験・まとめと解説	授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に課題を与えることはしないが、参考書に目を通しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕睦、荒井弘和共編、培風館
「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken
「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業状況（20％）および授業内に行う課題レポート（30％）、学期末試験（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進行が速かったので、丁寧に授業を進行するよう努力します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purposes of this class are to learn the philosophy, attitude and action on the sport coaching and to learn coaching skill.
【Learning Objectives】
Objectives are to understand the philosophy, attitude and action on the sport coaching.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports(30%), Term-end examination(50%) and usual performance score (20%).

ECN200IA（経済学 / Economics 200）

スポーツマーケティング論

井上　尊寛

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2～4年次／2単位**
曜日・時限：**木**2/Thu.2

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、スポーツマーケティングに関する理解を深め、重要な概念や関連する理論についても学習することを目的とする。

【到達目標】
スポーツに関連する組織において、顧客の維持・拡大は重要な課題であり、マーケティング的な視点は必須である。しかしながら、スポーツ消費者は余暇時間の価値を高めるためにスポーツを消費するため、消費者の理解や市場を捉えることがとても困難であると言える。
本講義では、スポーツマーケティングの基本的な考え方やスポーツサービスの特徴などの理解を深めるだけではなく、組織や市場に適したマーケティング戦略について検討しうる能力を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこない、プロジェクターを使用します。
本講義は、パワーポイントを用いた講義部分と、個人もしくはグループ単位でマーケティング戦略を検討し、発表するプレゼンテーションで構成されるため、講義外での作業や準備が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要について解説し、スポーツが社会に果たす役割や機能について解説する
2	スポーツマーケティングとは	スポーツをビジネスの視点でとらえ、その存在意義や社会における役割について解説する
3	スポーツビジネスの考え方	マーケティング志向、交換、商品特性
4	消費者構造とマーケティングセグメンテーション	市場の細分化、マーケティングの変遷
5	スポーツマーケターの業務	スポーツクラブの組織の在り方について理解を深め、具体的な業務内容について解説する
6	スポーツマーケティングの特性	スポーツサービスの特異性について理解を深める
7	スポーツ市場の理解	スポーツビジネスの市場規模と我が国の特徴について理解する
8	リスクマネジメント	スポーツクラブ運営に関するリスクの存在について説明する
9	ブランドについて	スポーツクラブにおけるブランドについて説明する
10	CSR	スポーツクラブの社会的責任とガバナンスについて説明する
11	コミュニケーション戦略	ステークホルダーとの良好な関係構築のためのコミュニケーション戦略について解説する
12	スポーツマーケティングの実際（国内の事例）	国内のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
13	スポーツマーケティングの実際（国外の事例）	国外のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
14	総括	本講義のまとめおよびプレゼンをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は1回の授業につき，準備・復習時間を合わせて4時間以上（準備・復習時間の配分は均等でなくても可）とします。

【テキスト（教科書）】
『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017年

【参考書】
特に設けない

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(60%)および授業内レポート(40%)の評価から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
専門性の高さを維持しながら、他のコースを選択している学生にも理解しやすいような内容にしていくとともに、参考となる配布資料の改善もおこなう

【Outline (in English)】
(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments.（Learning Objectives）This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport management.（Learning activities outside of classroom）Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.（Grading Criteria）Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%、Short reports : 40%.

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

スポーツメディア論

片上　千恵

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1～4年次／2単位**
曜日・時限：**木**3/Thu.3
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テレビの進化はスポーツ中継の進化と言われるほどスポーツはテレビ技術の発展とともに繁栄してきた。衛星放送が可能になったことで世界中のスポーツ競技がリアルタイムに視聴できるようになり、スポーツの高度化と大衆化に貢献してきた。一方で、テレビ視聴に適したルール変更が行われ、スポーツ競技自体がオウンドメディアを所有するなど、メディアとスポーツの関係は時代とともに変化し続けている。本講義では、スポーツとメディアの変遷を辿り、メディアがスポーツに与えた影響と今後の関係性を考察する。更にSNSの出現以降、アスリートはメディアを介さず、自らが情報発信できるようになった。スポーツの価値を高める情報発信をサポートするメディアトレーニングについても学ぶ。

【到達目標】
・スポーツとメディアの関係性を歴史的、社会的な視点から理解できる。
・スポーツにおけるメディアトレーニングの機能を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを活用した講義形式。毎授業の冒頭に、履修者からスポーツに関するトピックを提供してもらいディスカッションする時間を設ける。学期後半ではグループに分かれ、模擬記者会見を通してメディアトレーニングを実践的に学ぶ。中間テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明。メディアスポーツとは何か？
2	活字メディア（雑誌・新聞）	メディアの成り立ちと宗教の関係。グーテンベルグによる印刷革命から新聞・雑誌メディアが誕生する過程でスポーツはどのように扱われてきたか。
3	ラジオ①	電波メディアの誕生。1920年アメリカのKDKAにおける世界最初のラジオ放送とスポーツ中継の始まり。ラジオが生んだ日本独自のスポーツ文化であるラジオ体操と高校野球について考える。
4	ラジオ②	ラジオが伝えたオリンピックについて。「実感放送」やオリンピックが生んだスポーツ実況スタイルを事例に時代ごとにメディア技術の発達とスポーツが社会に与えた影響について考える。
5	映画	1936年ナチス政権下で行われたベルリンオリンピックで製作された記録映画はプロパガンダの様相を帯びているとされる。その他にも社会の常識やルールに変革をもたらしたスポーツ映画を題材にスポーツの歴史を振り返る。
6	テレビ	戦後の経済発展とともにテレビはスポーツを大衆化した。「メディアスポーツ」の概念を理解し、「メディアイベント」としての箱根駅伝や高校野球を例にスポーツとメディアの関係を考察する。
7	ニューメディア①	SNSをはじめとするインターネットメディアの出現により、情報発信の仕方が大きく変化した。スポーツ取材現場の変化とともにインターネットメディアの功罪を考える。
8	ニューメディア②	テクノロジーの進化に伴い、従来のメディア企業はビジネスモデルの変革時期に直面している。特にスポーツエンターテインメントの分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）がもたらす変化は目覚ましい。スポーツ界におけるDX化事例から未来のスポーツとメディアの関係について考える。
9	放映権	放映権の高騰はスポーツのルールにまで影響を及ぼした。オリンピックとサッカーW杯を事例に放映権ビジネスについて学ぶ。
10	中間テスト	これまでの授業のまとめ
11	メディアトレーニング	スポーツにおけるメディアトレーニングとは何か？ 日本や世界における歴史と現状を把握し、その機能を理解する。
12	危機管理対応	スポーツを取り囲む様々なリスクを整理し、過去の様々な事例から、状況に応じたリスクマネジメントとメディア対応を考える。
13	模擬記者会見 ゲスト招聘（PRコンサルタント）	スポーツ組織における不祥事案件を想定した模擬記者会見を実施。グループに分かれて適切な対応を議論し、想定問答の作成から記者会見の対応までを体験する。
14	総括	模擬記者会見の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。日頃のスポーツニュースをチェックする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内レポート（30％）、授業内発表（20％）、期末テスト(50％)の評価から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
好評だった模擬記者会見において、入念に事前準備ができるよう資料を充実させ、学生がリアリティを持ってより多くの学びを得られるような仕様にブラッシュアップさせる。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will track the evolution of sports and media, examine the impact of media on sports, and consider future relationships. We will also learn about media training to support information dissemination that enhances the value of sports.
【Learning Objectives】
The goals of this course are:
A) To understand the relationship between sports and media from historical and societal perspectives.
B) To be able to explain the function of media training in sports.
【Learning activities outside of classroom】
Review what you have learned in each lecture. Checking sports news regularly. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy〉】
Midterm exam (50%), in-class reports (20%), and in-class presentations (30%).

ECN200IA（経済学 / Economics 200）

スポーツビジネス論Ⅱ

望月　拓実

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2年次／2単位**
曜日・時限：**水**2/Wed.2
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではスポーツビジネスを推進していくうえで必要となる多様な領域のマネジメントを解説する。具体的には、新たに登場したIT分野に関連するマネジメントや施設運営・管理に関するマネジメント、行動経済学的視点から見たスポーツマネジメントや財務に関するマネジメントを理解する。

【到達目標】
１：スポーツビジネスを推進するうえで必要となる要素を説明できる
２：スポーツファシリティマネジメントの概要を説明し、課題と解決策を提示できる
３：行動経済学からみたスポーツビジネスの特徴を説明できる
４：スポーツファイナンスの概要を説明し、課題と解決策を提示できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では各回で設定された課題に対するグループワークを行い、自ら意見・アイディアを発信する。その後座学形式による講義を行ったうえで、その内容をふまえた問いに対する意見(リアクションペーパー)を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容、講義の流れ、グループワークの解説、成績評価の解説
第2回	ニュースポーツにおけるビジネス実態と課題	eスポーツ、エクストリームスポーツの特徴と課題
第3回	スポーツテクノロジーにおけるビジネス実態と課題	VAR,ホークアイがもたらすスポーツへの影響、VR観戦の可能性
第4回	スポーツファシリティマネジメント１	スポーツファシリティの歴史的発展、指定管理者制度
第5回	スポーツファシリティマネジメント２	スポーツファシリティとスポーツ政策、運営組織論
第6回	スポーツファシリティマネジメント３	スポーツファシリティの組織間連携、ホスピタリティマネジメント
第7回	スポーツファシリティマネジメント４	スポーツファシリティの建設プロジェクト、管理業務と事業計画
第8回	中間まとめと小テスト	これまでの学習内容をふりかえったうえで、その内容をふまえての穴埋め小テスト
第9回	行動経済学とスポーツ１	顧客ロイヤリティ、感情一致効果、フレーミング効果、ヒューリスティック
第10回	行動経済学とスポーツ２	マーケターの落とし穴、マーケティングリサーチの実際、イノベーションのジレンマ
第11回	スポーツファイナンスの基礎	ファイナンスとは何か、スポーツファイナンスの特徴、固有性
第12回	クラブファイナンス１	法人格、財務諸表、資金繰り、スポーツ組織の「価値」構造について
第13回	クラブファイナンス２	資本金、株式上場、プロスポーツの企業価値計算、情報開示
第14回	学習の総括	学習の総括(第9回～第13回)とレポート課題の解説(テーマ設定、文字数、引用方法の種類と方法)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う内容に関連する参考書および関連文献を授業前に熟読し，授業時に発言，またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業資料等の配布は学習支援システムを使用する。

【参考書】
授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度(リアクションペーパー、グループワークへの参加、講義内での発言等)：30％
講義内小テスト：20％
最終レポート課題：50％

【学生の意見等からの気づき】
グループワークメンバーの定期的な入れ替えを導入しました。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】
グループワークはオンラインツールを用いて行うため、原則パソコンを持参すること。所有していない場合はタブレットなど一定以上の画面サイズがある電子端末でも可とする。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this lecture, we will explain the various areas of management that are necessary to promote sports business. Specifically, students will understand management related to the newly emerging IT field, management related to facility operation and management, sports management from a behavioral economics perspective, and management related to finance.
【Learning Objectives】1：To be able to explain the elements necessary to promote sports business　2：To be able to give an overview of sports facility management and present challenges and solutions　3：To be able to explain the characteristics of sports business from the perspective of behavioral economics　4：To be able to give an overview of sports finance and present issues and solutions
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to read carefully the reference books and related literature related to the contents of the class before the class, and to be able to reflect them in their comments and reaction papers.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Class participation (reaction papers, participation in group work, speaking in class, etc.): 30%.
In-class quiz: 20%.
Final report assignment: 50%.

MAN300IA（経営学 / Management 300）

マーケティングリサーチ実習

山口　和真

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4年次／1単位**
曜日・時限：**火**3/Tue.3
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマーケティング調査の基礎を学び、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる。
・課題に対して、仮説を立てることができる。
・仮説を調査票にすることができる。
・回答しやすい調査票作成ができる。
・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法を理解し、統計解析ソフトspssを利用することができる。
・実務へのインプリケーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、調査の事例についての解説や実際の調査を行うことによって理論的・技術的な理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点や調査をする上での心構えを学ぶ。
第2回	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ。
第3回	調査課題の立て方	調査課題とは何かを複数の例に基づいて考える。
第4回	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる。
第5回	調査課題の立て方に関するまとめ	第４回でまとめた調査課題について発表し、ブラッシュアップする。
第6回	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ。
第7回	調査の種類を学ぶ	定量調査や定性調査の研究を学ぶ。
第8回	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ。
第9回	定量調査の調査票作成	第５回でまとめた調査課題についての簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップを図る。
第10回	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成を学ぶ。
第11回	定性調査の調査票作成	第５回と第９回の結果を踏まえて定性調査の調査票を作成する。
第12回	定量調査の実践	第９回の調査票について実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する。
第13回	定性調査の実践準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作成する。
第14回	定性調査の実践	インタビュー調査を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要があれば指定します。

【参考書】
授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】
調査票(50%)、分析・レポート(50%)などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で利用する資料について、わかりやすく提示するよう心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】
履修者が上限(52名)を超えた場合には、受講者選抜を実施します。受講者は、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目の履修を条件とします。

【Outline (in English)】
(Course outline and Learning Objectives)
This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and use analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss.
(Learning activities outside of classroom)
The standard time for preparation and review for this class is 2hours each.
(Grading Criteria /Policy)
The grade is comprehensively evaluated by questionnaires(50%), analysis /reports(50%).

MAN300IA（経営学 / Management 300）

マーケティングリサーチ演習

山口　和真

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4年次／2単位**
曜日・時限：**火**3/Tue.3
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際にリサーチデザインを行い、定量調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる。
・課題に対して、仮説を立てることができる。
・仮説を調査票にすることができる。
・回答しやすい調査票作成ができる。
・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法を理解し、統計解析ソフトspssを利用することができる。
・実務へのインプリケーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義の具体的な内容は、マーケティング・リサーチの実際の把握、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる。
第2回	スポーツに関する調査概要	調査に関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える。
第3回	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する。
第4回	調査課題の仮説の設定	結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する。
第5回	事前調査の実施	事前調査を実施し、課題の妥当性や仮説の方向性をまとめる。
第6回	事前調査結果の発表	第５回で得られた結果を発表し、ブラッシュアップを図る。
第7回	定量調査の調査票設計	課題解決や仮説検証のための調査票設計を行う。
第8回	定量調査の調査票の妥当性の確認	定量調査票設計についての妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップを図る。
第9回	定量調査の事前確認	定量調査の実施に向けた、調査時の事前確認および調査方法のシミュレーションを行う。
第10回	定量調査の実施	定量調査を実施する。
第11回	定量調査のデータ分析	定量調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ。
第12回	調査の集計、分析、仮説検証	調査の分析を実施し、仮説を検証する。
第13回	調査の集計、分析結果の考察	第12回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う。
第14回	総括	調査結果および分析内容についてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要があれば指定します。

【参考書】
授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】
調査票(50%)、分析・レポート(50%)などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で利用する資料について、わかりやすく提示するよう心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】
履修者が上限(52名)を超えた場合には、受講者選抜を実施します。受講者は、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目の履修を条件とします。

【Outline (in English)】
(Course outline and Learning Objectives)
This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and use analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss.
(Learning activities outside of classroom)
The standard time for preparation and review for this class is 2hours each.
(Grading Criteria /Policy)
The grade is comprehensively evaluated by questionnaires(50%), analysis /reports(50%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ戦術論（サッカー）

井上　尊寛、小菅　悠太

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2～4年次／2単位**
曜日・時限：**木**4/Thu.4
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技力向上ならびに普及、育成を目指した実践現場・指導現場において、自身が戦術を科学的に理解・実践できる競技者になるため、また、戦術を科学的に観察・分析でき合理的に指導できる指導者になるための基礎知識を身につける。

【到達目標】
サッカーにおける様々な戦術を多角的に理解し、さらに競技者・指導者としてもいかせる分析方法、指導方法も習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーに関する戦術を講義・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（授業の進め方など）	講義の進め方・聴講に際して留意すべき点・評価の方法を確認する
第2回	戦術とは何か	戦術の語源・サッカー戦術に関する用語等の理解
第3回	サッカーとは何か①	サッカーの歴史について学ぶ
第4回	サッカーとは何か②	サッカーの競技特性について学ぶ
第5回	サッカーにおける戦術とは何か①	サッカーにおける戦術の考えかたを理解する
第6回	サッカーにおける戦術とは何か②	サッカーにおける戦術の考えかたについて、辞令を用い、より理解を深める
第7回	サッカーにおける個人・グループ戦術（攻撃）	サッカーにおける個人グループ戦術のうち攻撃について理解する
第8回	サッカーにおける個人・グループ戦術（守備）	サッカーにおける個人グループ戦術のうち守備について理解する
第9回	サッカーにおけるチーム戦術①	サッカーにおけるチーム戦術について理解する
第10回	サッカーにおけるチーム戦術②	サッカーにおけるチーム戦術について、事例を用いより理解を深める
第11回	サッカー戦術の実践現場・指導現場での活用方法①	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（チームづくり）を学ぶ
第12回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法②	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（トレーニング）を学ぶ
第13回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法③	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（映像編集、ミーティング）を学ぶ
第14回	まとめ	本講義に関する総括・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカー戦術に関し、異なるレベルや年齢や性別、国内外のサッカー事情を含め情報を収集しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する。

【参考書】
特定の参考書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業内容に関するリアクションペーパー80％、学期末レポートまたは課題20％で評価する
全講義における出席（リアクションペーパーの提出）が70％以上の者を成績評価対象者とする

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The objective of this class is to know about the practice and theory and to improve the performance in football.
【到達目標（Learning Objectives）】
Understand various tactics in soccer from various angles, and also learn analysis methods and teaching methods that can be used as athletes and instructors.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
It is desirable to collect information on soccer tactics, including different levels, ages, genders, and domestic and international soccer situations. The standard preparatory study and review time for this class is one hour each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Evaluate with 80%of each lesson content report, end-of-term report or test 20%
However, those who attend 70%or more (submit a class report each time) are eligible for grade evaluation.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

青少年指導実習（サッカー）

小井土　正亮

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4年次／1単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
備考（履修条件等）：**2023年度以前入学者対象**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本サッカー協会公認C級コーチライセンス講習会のカリキュラムに準拠し、サッカー指導者としての基礎的な能力を身につける。

【到達目標】
サッカー指導者としての初歩として、指導に必要な基本的な知識、スキルを身につけ、育成年代の選手に対する指導が適切に行えるようにする。
日本サッカー協会公認C級コーチライセンスを取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導に関し、講義・ディスカッション・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方、受講に際し留意すべき点、評価の方法の確認
第2回	発育発達と一貫指導 サッカーの競技精神	発育による心と身体の変化を知る。 プレーする心がまえについて理解を深める。
第3回	チームマネジメント メディカル	チーム運営の方法を学ぶ。 医学的な理解を深める。
第4回	ゲーム	ゲームから課題を見つける。受講生同士でディスカッションを行い、観る眼を養う。
第5回	テクニック	サッカーにおけるテクニックについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第6回	戦術	サッカーにおける戦術についての講義から実際に指導実践に取り組む。
第7回	ゴールキーパー	サッカーにおけるゴールキーパーについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第8回	プランニング	トレーニングのプランニングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第9回	コーチング	コーチングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第10回	指導実践①	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第1グループ1回目。
第11回	指導実践②	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第2グループ1回目。
第12回	指導実践③	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第1グループ2回目。
第13回	指導実践④	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第2グループ2回目。
第14回	筆記試験	本講義全体を通した内容についての試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身が青少年期に経験してきたサッカー指導方法等を振り返り多角的に分析しておく。1回につき4時間以上が望ましい。

【テキスト（教科書）】
JFAサッカー指導教本
公益財団法人日本サッカー協会

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
日本サッカー協会公認C級コーチライセンス講習会の基準に基づき採点をする
指導実践評価（90％）
筆記テスト（本授業に関する内容に関する小テストを行う）（10％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
本授業は集中形式（2026年1または2月を予定）で行う
受講人数を制限して行うため、受講者選抜を後期開始時に行う
必要に応じてオンラインによる講義を実施する可能性がある
指導実践ならびにに実技実践を伴うため、そうした活動ができる学生に限る
This class is basically conducted in an intensive format (scheduled for January 2025).
Guidance and online lectures (during the second semester) will be given in advance for the 2nd and 3rd lectures.
Since the number of participants is limited, student selection will be conducted at the beginning of the second semester.
Limited to students who can perform such activities because it involves teaching practice and practical skill practice.

【Outline (in English)】
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
It is desirable to look back on the soccer coaching methods that you have experienced in your youth and analyze them from various angles.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Normal score 90%, post-class report 10%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

青少年指導演習（サッカー）

小井土　正亮

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2～4年次／2単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
備考（履修条件等）：**2024年度以降入学者対象**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本サッカー協会公認C級コーチライセンス講習会のカリキュラムに準拠し、サッカー指導者としての基礎的な能力を身につける。

【到達目標】
サッカー指導者としての初歩として、指導に必要な基本的な知識、スキルを身につけ、育成年代の選手に対する指導が適切に行えるようにする。
日本サッカー協会公認C級コーチライセンスを取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導に関し、講義・ディスカッション・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方、受講に際し留意すべき点、評価の方法の確認
第2回	発育発達と一貫指導 サッカーの競技精神	発育による心と身体の変化を知る。 プレーする心がまえについて理解を深める。
第3回	チームマネジメント メディカル	チーム運営の方法を学ぶ。 医学的な理解を深める。
第4回	ゲーム	ゲームから課題を見つける。受講生同士でディスカッションを行い、観る眼を養う。
第5回	テクニック	サッカーにおけるテクニックについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第6回	戦術	サッカーにおける戦術についての講義から実際に指導実践に取り組む。
第7回	ゴールキーパー	サッカーにおけるゴールキーパーについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第8回	プランニング	トレーニングのプランニングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第9回	コーチング	コーチングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第10回	指導実践①	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第1グループ1回目。
第11回	指導実践②	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第2グループ1回目。
第12回	指導実践③	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第1グループ2回目。
第13回	指導実践④	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第2グループ2回目。
第14回	筆記試験	本講義全体を通した内容についての試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身が青少年期に経験してきたサッカー指導方法等を振り返り多角的に分析しておく。1回につき4時間以上が望ましい。

【テキスト（教科書）】
JFAサッカー指導教本
公益財団法人日本サッカー協会

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
日本サッカー協会公認C級コーチライセンス講習会の基準に基づき採点をする
指導実践評価（90％）
筆記テスト（本授業に関する内容に関する小テストを行う）（10％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
本授業は集中形式（2026年1または2月を予定）で行う
受講人数を制限して行うため、受講者選抜を後期開始時に行う
必要に応じてオンラインによる講義を実施する可能性がある
指導実践ならびにに実技実践を伴うため、そうした活動ができる学生に限る
This class is basically conducted in an intensive format (scheduled for January 2025).
Guidance and online lectures (during the second semester) will be given in advance for the 2nd and 3rd lectures.
Since the number of participants is limited, student selection will be conducted at the beginning of the second semester.
Limited to students who can perform such activities because it involves teaching practice and practical skill practice.

【Outline (in English)】
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
It is desirable to look back on the soccer coaching methods that you have experienced in your youth and analyze them from various angles.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Normal score 90%, post-class report 10%

TRS100JA（観光学 / Tourism Studies 100）

ホスピタリティ論

山田　祐子

配当年次／単位数：1～4年次／２単位

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座は、講師のホテル業やサービスに関するリサーチやコンサルティング経験をもとに、ホスピタリティの基本概念を学んだ後、いくつかのケース・スタディを通じて課題や現状を学ぶ。本講座の目的は、受講生が、表象的なホスピタリティだけではなく、サービス産業の経営戦略にホスピタリティの概念が用いられている重要性を理解できるようになることである。

【到達目標】
1. ホスピタリティの基本的な概念や本質を理解できるようになる。
2. サービス産業の構造を理解し、ホスピタリティの位置づけを説明することができる。
3. 授業の一環で行う小テストやケース・スタディの学修によって情報収集力や課題発見力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で進められる。受講生は、講義期間中の小テストを受け、ケース・スタディへのリアクションを提出することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ホスピタリティの概念	授業の進め方や注意点を説明。ホスピタリティの概念を解説する。
第2回	ホスピタリティの実践	ホスピタリティの実践に有効な思考法を解説する。
第3回	ホスピタリティと産業	ホスピタリティと産業界の関係を解説する。
第4回	ホスピタリティとマナー	ホスピタリティの実践に有効な言葉遣いや態度などを解説する。
第5回	ホスピタリティと感情労働	感情労働やクレーム対応を解説する。
第6回	ホスピタリティと顧客満足	ホスピタリティと顧客満足度の関係を解説する。
第7回	ホスピタリティと従業員満足	ホスピタリティと従業員満足度の関係を解説する。
第8回	ケース・スタディ① 宿泊業(1)	ホテル旅館業がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第9回	ケース・スタディ② 宿泊業(2)	ホテルコンシェルジュがホスピタリティを実践する事例を紹介する。
第10回	ケース・スタディ③ 鉄道業	観光列車や鉄道の清掃会社がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第11回	ケース・スタディ④ テーマ・パーク業	テーマ・パーク業がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第12回	ケース・スタディ⑤ 医療機関	医療機関がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第13回	ケース・スタディ⑥ 学習支援機関	学習支援機関がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第14回	ホスピタリティの展望、講座の総括	全授業内容の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前週に翌週の受講に必要な情報収集や小テストの範囲を連絡するので予習（２時間）をして授業に臨む。また、小テストの結果とリアクションの内容を講師の解説をもとに復習(２時間)しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は無し。講義資料は映写し、授業後、学習支援システム上に格納する。

【参考書】
1. 社会人ホスピタリティ 要点チェック&確認問題
2. 新版　社会人ホスピタリティ　要点チェック＆確認問題

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 30％（授業参加度）
2. 小テスト 40％（10点×4回）
3. リアクション 30%（ケース・スタディに対して）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、講義中に資料閲覧や小テスト受験のために学習支援システムを使用する。システムが利用できる電子機器類の持参が求められる。

【その他の重要事項】
1. 出欠席や遅刻の扱い
第１回目の授業で説明する。
2. 授業進行や評価方法の変更
極端に履修者数が多い場合や少ない場合には、授業の進行方法や評価方法を変更する場合がある。その際には、授業中の告知と学習支援システムにより周知する。
3. 実務経験の有無
宿泊業（ホテル）の業務経験、宿泊業や地域活性化のコンサルティング業務経験

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the concept of hospitality, its necessity and characteristics in today's society to students taking this course.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to explain basic concepts of hospitality, explain the position of hospitality in the Service industry. At the end of the course, students are expected to consider the challenges of hospitality in the Service industry.
【Learning activities outside of classroom】
The instructor will provide information needed for the following week's class and the scope of the examination the previous week, so students are expected to prepare (2 hours) for the class. Additionally, students should review (2 hours) the examination results and the content of their reflection writing based on the instructor's explanation.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on in-class contribution(30%), multiple midterm examination(40%) , reflection writing on the case study (30%),

EDU100JA（教育学 / Education 100）

教育学

藤本　典裕

配当年次／単位数：**1～4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**他学部SSI生は授業コード「N5058」を選択すること。**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。
（授業の目的）１．日常的な経験を通じて教育に関する基礎概念を検討する。人類はなぜ、どのように教育を基礎的な社会機能として維持してきたのかを学ぶ。
２．教育に関する思想の概要を学ぶ。３．学校制度の機能を学ぶ。
４．教育に関する権利と義務、誰が権利主体なのか、なぜそうなのか、教育を保障するのは誰かを学ぶ。
（授業時間外の学習）提示する資料を読み、次回授業までに課題に応えること。授業後、その内容についてミニ・レポートを作成すること（詳細は授業時に指示する）。
（成績評価の基準）学期末レポート（60％）及びミニ・レポート（40％
9を総合的に評価する。

【到達目標】
下記の諸点を本講の到達目標に設定する。
１．教育に関する諸概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
２．近代の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
３．学校制度の役割、問題点について自分の考えを整理して述べることができる。
４．教育を受ける権利とその保障に付いて理解し、その問題点を指摘し、それについての見解を整理して述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。
学期末にレポートの提出を求めるが、学期中に小レポートの提出も求める。
下記に授業計画を示しるが、授業の進行状況に応じて変更を行うこともありえる。変更の場合はその都度連絡する。学習支援システムに講義資料などを提示するので確認して受講すること。その他、必要な連絡も基本的には学習支援システムを通じて行うので注意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか（講義概要の説明など）
第2回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第3回	「教育」という営みの特性	「教育」が他の活動と区別される特性を検討する。
第4回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第5回	子ども観・子育て観	子どもや子育てがどのように理解され実践されてきたのか、現代において子ども・子育てはどのようなものとなっているのかを検討する。
第6回	近代の教育思想	ルソーの教育についての考察を素材として、近代的教育思想の特徴を整理する。
第7回	学校の誕生と発展	教育機関としての学校が誕生する経緯とその後の発展について概観する。
第8回	戦前・戦中の教育と教師（1）	日本における学校教育制度の誕生と期待された機能について検討する。
第9回	戦前・戦中の教育と教師（2）	「教育勅語」を中心に、戦前・戦中の教育を支配した理念について検討する。
第10回	戦後教育改革と教育理念	戦後（現行）教育制度がめざした教育のあり方について、教育の権利・義務の視点から整理・考察する。
第11回	教育を受けること・学校に通うこと	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第12回	教育を受ける権利の保障	教育を受ける権利を保障するための制度の概要を整理・検討する。
第13回	教育費負担と教育機会	教育費負担のあり方と実態、それが子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響ついて検討する。
第14回	人間にとって教育とは何であるのか	講義全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の終わりに次回の内容を予告し、準備学習について指示するので、その内容に従って準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】
堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989年
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997年
勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990年
ルソー『エミール』岩波文庫、1994年
橋木俊詔『日本の教育格差』岩波新書、2010年
藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験またはレポート（60％）、小レポート（40％）を総合的に評価する（配点は目安）。

【学生の意見等からの気づき】
科目の性格上、教育に関する多くの事象を取り上げることを主目的としている。このため、さまざまな事項について深く検討することは困難であるが、参考文献の紹介などで補足したい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
We will learn about "education" as a necessary social function for human-being, the meaning of education for human-being, the basic thoughts of contemporary education and educational system and the problems concerning contemporary education.
【Learning Objectives】
At first, basic educational concepts will be discussed through daily- life experiences. We will learn how and why we human-being have kept "education" as a basic social function.
Second, we will learn about the thoughts on education.
Third, we will learn about the functions of schooling system.

Fourth, we will learn about the rights and duties on "education", who have the rights to education, why so, and who guarantee the rights.
【Learning activities outside of classroom】
I will show you about the contents of next lesson and the activities you must do. So after each lesson, by reading the materials（I present on web-site）, review the contents of the lesson and make a short report（I will show you the detail at each lesson）by the next lesson.
【Grading Criteria】
Grading will be decided by term-ending report and short reports held in lessons.（Term-ending report:60%、Short reports:40%）

MAN100JA（経営学 / Management 100）

経営学

首藤　聡一朗

配当年次／単位数：1～4年次／２単位
備考（履修条件等）：2025年度の授業実施日は、8月4日（月）・5日（火）・6日（水）。
他学部SSI生は授業コード「N5107」を選択すること。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学は狭義の企業経営だけでなく、非営利組織や公的機関など幅広い分野に応用されるようになっている。そのため、受講生が将来的にどのような進路を選択するとしても、経営学の基本的な考え方を理解できるような授業を目的とする。

【到達目標】
1. 受講生が企業経営に関するニュースを理解できるようになる。
2. 受講生がマネジメントについて考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。
講義前に教科書を読み、経営学の全体像について把握したうえで授業に参加してもらう必要がある。
授業中は、それぞれの回の内容について講師から解説した後、小グループに分かれて課題に取り組んでもらい、プレゼンテーションしてもらう。質疑応答の後、講師からフィードバックを行い、その回の内容について補足説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、テキスト、成績評価方法について理解する。 また、マネジメントについての概要を理解する。
第2回	イノベーション	イノベーションについて理解する。
第3回	ビジネスモデル	ビジネスモデルについて理解する。
第4回	セグメンテーションとターゲティング	セグメンテーションとターゲティングについて理解する。
第5回	マーケティングの4Pと収益モデル	マーケティングの4Pと収益モデルについて理解する。
第6回	サプライチェーンと補完財	サプライチェーンと補完財について理解する。
第7回	経営資源	経営資源について理解する。
第8回	外部の脅威と機会	外部の脅威と機会について理解する。
第9回	財務・会計	事業をめぐるお金の流れとそのルールについて理解する。
第10回	モチベーションのマネジメント	モチベーションとそのマネジメントについて理解する。
第11回	リーダーシップ	リーダーシップについて理解する。
第12回	階層組織とマネジメントコントロール	階層組織とマネジメントコントロールについて理解する。
第13回	組織デザイン	組織デザインについて理解する。
第14回	フラットな組織と組織学習	フラットな組織と組織学習について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的に企業活動に関するニュースに積極的に触れることが必要である。
この授業の準備学習・復習時間は各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中川功一・佐々木将人・服部康宏（2021）『考える経営学』有斐閣、2,000円＋消費税。

【参考書】
講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション40％
期末レポート60%
具体的な講義方法と基準等は、ガイダンスで説明する。

【学生の意見等からの気づき】
身近な例で考えてもらうと理解とモチベーションの両面で有用であることに改めて気付かされた．できるだけ身近な例を盛り込んでいるつもりではあるが，さらにその方向性で工夫していきたい．

【学生が準備すべき機器他】
この授業では教室で行われる授業の中でグループワークや課題に取り組んでもらう時間をとる。それらの活動のアウトプットを作成して学習支援システム経由で提出するため、パソコンやスマートフォン等の情報機器とhosei-wifi等のインターネットへの接続環境が必要である。なお、パワーポイントファイルでの提出を求める場合もあり、それらの課題のアウトプットの作成を考えると、スマートフォンではなく、パソコンが望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Business administration has come to be applied not only to corporate management, but also to a wide range of fields such as non-profit organizations and public institutions.
Therefore, the purpose of this course is to enable students to understand the basic concepts of business administration, no matter what career path they choose in the future.
【Learning Objectives】
1. Students will be able to understand the news about business management.
2. Students will be able to think about the management.
【Learningactivities outside of classroom】
It is necessary to be actively exposed to news about business and management.
The standard preparation and review time for this class is two hours each, for a total of four hours.
【Grading Criteria /Policy】
Presentation 40%
Final Report 60%

SOC100JA（社会学 / Sociology 100）

社会学特講

左古　輝人

配当年次／単位数：2～4年次／２単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の構造、その過去、現在、未来。

【到達目標】
社会学の基本的なキータームを用いて現代社会の諸現象を考察できる能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式。学習支援システムを用いた質問・感想を歓迎する。優れた質問・感想については、可能な限り詳細な解説をおこなう。
授業を対面でおこなうか、オンラインでおこなうかについては、大学の判断に基づき、国や都の動向を考慮に入れ、その都度担当教員が判断し、学習支援システムを通して告知する。
不測の事態によって各回の授業計画を変更する必要が生じた場合には、学習支援システムでその都度告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の概要と進め方を説明する
第2回	産業社会の構造	産業を軸に構成された近代社会の構造を概観する
第3回	産業社会の形成	18・19世紀における産業社会の歴史的形成を概観する
第4回	社会問題の発生	産業化にともなって現れた諸問題を概観する
第5回	社会学という欲望	社会学と産業化の関係を概観する
第6回	群衆とマスメディア	産業化にともなって出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第7回	大量生産システムの完成	産業社会の転換点となった20世紀初頭を概観する
第8回	消費化社会の構造	20世紀の産業社会を特徴付けた消費化の構造を概観する
第9回	消費化社会の展開	消費化社会の歴史的形成を概観する
第10回	新中間層の登場	消費化とともに出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第11回	社会問題の変容	消費化とともに現れた新しい社会問題を概観する
第12回	脱工業化の進行	1970年代以降、こんにちまで続く、産業社会の新しい傾向を概観する
第13回	新中間層の解体	脱工業化とともに進行した新中間層の解体を概観する
第14回	今後について	今後の産業社会の行方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、事前にテキストの該当箇所を読了しておくことが、講義への理解を容易にする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
左古輝人『畏怖する近代』法大出版２００６年。
佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書１９９２年。
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書１９９８年。
早川洋行ほか『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房２０１１年。

【参考書】
適宜紹介する。ウェブリソースとしては「現代ビジネス」「東洋経済オンライン」「荒木優太(youtube)」「信州読書会(youtube)を毎週巡回してほしい。

【成績評価の方法と基準】
期末試験７０％、平常点３０％。

【学生の意見等からの気づき】
授業運営の適切さを改めて確認できた。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは設定していない。必要があれば電子メールで問い合わせること。

【Outline (in English)】
The course overviews the history and the structure of modern society as a whole. 【Learning Objectives】 The students learn the powerful thoretical tools to understand and describe the characteristics of modern society including comtemporary Japan. 【Learning activities outside of classroom】 1) The students need to read a small piece of text before each lecture (about 120 minutes). 2) The students need to write a small report after each lecture (about 200 words). 【Grading Criteria /Policy】 Term-end exam (70%), Class particiaption (30%).

SOC100JA（社会学 / Sociology 100）

老年学

新名　正弥

配当年次／単位数：**1～4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**現代福祉学部以外のSSI生は授業コード「N5117」を選択すること。**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】
老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックはLMS等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係
第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末の課題
第14回	高齢社会の構造（グローバリゼーション、老いを取り巻く社会構造の変化）	少子高齢社会の展開と政策課題について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業前に資料を配付する。

【参考書】
国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）
高齢社会白書（厚生労働省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーによる各回の振り返り、クイズ、レスポンスペーパー（40％）、期末レポート（60％）によって総合的に判定する。

【学生の意見等からの気づき】
領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】
老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度を理解するための基盤となる科目なので、高齢者や高齢社会に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline (in English)】
Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the aging of humans and society surrounding the elderly. The lecture aims to comprehensively describe the biological, psychological, social-psychological, and sociological perspectives of gerontology and explain the themes, especially in social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding aging and its policy response.
By the end of the course, students are expected to understand the basic terms and theories concerning aging.
Before the lecture, students must tackle assignments (about 2 hours). After the class, students are asked to answer quizzes (about 2 hours).
The course's grading will be based on quizzes/assignments (40%) and term-reports (60%).

SOW200JB（社会福祉学 / Social Welfare 200）

福祉国家論

渡辺　寛人

配当年次／単位数：2～4年次／２単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、資本主義システムのなかで福祉国家が成立していく歴史的プロセスに焦点を当てる。イギリス、アメリカ、スウェーデン、日本の歴史を取り上げ、福祉国家の現代的な意義と限界を検討する。

【到達目標】
１）福祉国家が成立した歴史的背景を理解する
２）福祉国家をめぐる基礎的な理論を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行なう。講義ごとにリアクションペーパーの提出を求め、毎回の講義のはじめにフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と、福祉国家についての概説
第2回	福祉国家の理論	商品化／脱商品化と社会政策
第3回	福祉国家の前史①救貧法体制	貧困問題の発生と救貧法の成立過程
第4回	福祉国家の前史②近代家族の形成	近代家族の形成プロセスについて
第5回	福祉国家の前史③チャリティー	COSおよびセツルメントの広がり
第6回	イギリスの福祉国家：貧困の発見	ブース、ラウントリーによる貧困の発見と絶対的貧困の歴史的背景
第7回	イギリスの福祉国家：ベヴァリッジ報告と「貧困の再発見」	福祉国家の設計図とされているベヴァリッジ報告の検討、相対的貧困概念の発明
第8回	アメリカの福祉国家：ニューディール政策	ニューディール政策の内容とその背景について
第9回	アメリカの福祉国家：福祉権運動	福祉権運動の展開と背景について
第10回	スウェーデンの福祉国家：優生思想	スウェーデンの福祉国家における優生思想について
第11回	日本の社会福祉（戦前）	明治維新以後の日本の貧困対策について
第12回	日本の社会福祉（戦後）	「日本型福祉社会」論について検討する
第13回	世界の福祉国家	世界の福祉国家を概観する
第14回	講義まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎講義のリアクションペーパーの提出（30%）と期末レポート（70%）によって評価します。期末レポートの内容については授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布およびリアクションペーパー、レポートの提出については学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture focuses on the historical process of the establishment of the welfare state within the capitalist system. The history of the UK, USA, Sweden and Japan will be discussed, and the contemporary significance and limitations of the welfare state will be examined.
【Learning Objectives】
1) Understand the historical background to the establishment of the welfare state
2) Understand the basic theories surrounding the welfare state.
【Learning activities outside of classroom】
A total of four hours of preparatory study and review time for this class is standard.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation is based on the submission of a reaction paper for each lecture (30%) and a final report (70%). The content of the final report will be given in class.

MAN200JB（経営学 / Management 200）

コミュニティビジネス論

土肥　将敦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域における経済的・社会的問題の解決を求めて、革新的なアイデアを持つ社会的企業者が地域の資源を生かして活動する事業体＝コミュニティ・ビジネスが求められている。政府・行政の活動、大企業の活動からは漏れ落ちるような地域の多様で個別的なニーズや価値に柔軟に応えようとするコミュニティ・ビジネスは、コミュニティの再生という目的と事業活動をつなげていく社会的企業者たちによって担われるものであり、ソーシャル・ビジネスの一部分とみなすことができる。本講義では、こうしたコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの意義や経営課題を、国内外の事例やゲストスピーカーとの対話を通して明らかにする。

【到達目標】
①コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの定義や要件を理解する。
②コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの意義や経営課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は対面授業による講義形式である。毎回講義内でのディスカッションやミニレポートの提出を求める。 各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、テキストの紹介、成績評価方法について。
第2回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か①	「コミュニティ・ビジネス」とは何かを理解する。
第3回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か②	「ソーシャル・ビジネス」とは何かを理解する。
第4回	事業型NPOによる取り組み①	病児保育の事例を通して理解する。
第5回	事業型NPOによる取り組み②	病児保育事業の取り組みを通して理解する。
第6回	事業型NPOによる取り組み③	貧困問題と健康問題の事例を通して理解する。
第7回	事業型NPOによる取り組み④	貧困問題と健康問題を解決する事業活動事例を通して理解する。
第8回	事業型NPOによる取り組み⑤	アメリカの事業型NPOの事例を通じて理解する。
第9回	株式会社による取り組み①	女性起業家の事例を通して理解する。
第10回	株式会社による取り組み②	女性起業家の事例を通して理解する。
第11回	株式会社による取り組み③	大企業とコミュニティの関係を理解する。
第12回	株式会社による取り組み④	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(1)。
第13回	株式会社による取り組み⑤	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(2)。
第14回	講義全体のまとめ	これまでの講義を通して得られた知見を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞・雑誌・書籍などを通じて、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
土肥将敦（2022）『社会的企業者ーCSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房
谷本寛治編（2015）『ソーシャル・ビジネス・ケース：少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』中央経済社

【参考書】
講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
講義内でのミニレポートとプレゼンテーション 70％、期末レポート 30％。
具体的な講義方法と基準等は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく多くのゲストスピーカーをお招きし、彼らとの対話を通してダイナミックな講義を目指す。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to develop students' business skills and knowledge in problem solving, community business, social business and for-profit/non-profit organizations. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(70%), term-end report(30%).

ARSx200JB（地域研究（その他）/ Area studies(Others) 200）

ローカルイノベーション論

野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6055 地域の歴史と文化」を受講すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】
ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
教員４名（水野・図司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。１地域を２回の講義で構成し、１回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。２回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第2回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第5回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①（水野）	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第9回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括（水野・図司・土肥・野田）	６事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
講義を担当する４名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

雇用政策論

渡辺　寛人

配当年次／単位数：2～4年次／２単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本型雇用の成り立ちおよび諸特徴を踏まえ、外国人や高齢者、障害者、LGBTなど近年の多様化の流れと雇用政策について検討していく。雇用政策を理解することで、私たちの社会がどのように成り立っているのかを理解することを目的とする。

【到達目標】
（１）雇用について基本的な内容を理解する。
（２）日本型雇用の成り立ちと特徴を理解する。
（３）近年の多様化の流れと雇用政策との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行なう。講義ごとにリアクションペーパーの提出を求め、毎回の講義の始めにフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学生にとって身近な「アルバイト」を取り上げ、「雇用」について考える
2	現代の労働問題	「ブラック企業」問題をはじめ、現代の労働問題を学ぶ
3	日本型雇用①採用と職業紹介制度	採用と職業紹介制度について理解する
4	日本型雇用②配置・技能形成	配置・技能形成のしくみについて理解する
5	日本型雇用③人事評価制度	人事評価制度のしくみと潜在的能力主義について理解する
6	日本型雇用④退職・解雇	退職・解雇について理解する
7	正社員雇用制度改革	成果主義人事やジョブ型雇用について理解する
8	非正規雇用①パート・有期雇用	パート・有期雇用について理解する
9	非正規雇用②労働者派遣制度	労働者派遣制度について理解する
10	ジェンダーと雇用政策	ジェンダーの観点から雇用政策について理解する
11	高齢者と雇用政策	高齢者の就労問題と雇用政策について理解する
12	障害者と雇用政策	障害者の雇用関係について理解する
13	プラットフォームワークと雇用政策	近年広がるプラットフォームワークと雇用政策について理解する
14	全体まとめ	全体の振り返りを行なう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は計４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎講義のリアクションペーパーの提出（30％）と期末試験（70%）によって評価を行なう。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布およびリアクションペーパーの提出については学習支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
Based on the origins and various characteristics of Japanese-style employment, this lecture will examine employment policies and the recent trend of diversification, including foreigners, the elderly, people with disabilities and LGBT. The aim is to understand how our society is structured by understanding employment policies.
【Learning Objectives】
(1) Understand the basic content of employment.
(2) Understand the origins and characteristics of Japanese-style employment.
(3) Understand the relationship between recent diversification trends and employment policies.
【Learning activities outside of class】
A total of four hours of preparation and review time for this class is standard.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation is based on the submission of a reaction paper for each lecture (30%) and a final examination (70%).

ENG300JB（その他の工学 / Engineering 300）

都市住宅政策論

水野　雅男

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】
都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。
講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第2回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第3回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第4回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第5回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第6回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第7回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第8回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第9回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第10回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第11回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とNPO
第12回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第13回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第14回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】
「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014年
「欧米の住宅政策―イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK出版、2011年

【成績評価の方法と基準】
①平常点　70％　②レポート　30％　①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、NPO法人金澤町家研究会、NPO法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
① Normal score 70%② Report 30%Evaluate ① and ② comprehensively.

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域文化政策論

杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：2～4年次／２単位
備考（履修条件等）：**旧「地域文化政策」を修得した者は履修不可**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域の文化をつくり、支える制度と人はどのようなものか。その歴史と現状について、日本の歴史やいくつかの地域に即して学んでいく。さらには地域の文化活動をどう支援するかについて、現代的課題と可能性についても考える。

【到達目標】
地域文化を支える教育・文化政策の歴史と現状についての基本的な理解を得る。また、地域文化の継承や創造に直接・間接的に関わることの意味、具体的な職業などについても学ぶことで、日々の生活の中で文化を身近に感じ、自分自身もその作り手として意識し行動できるような関心を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式によるが、適宜ディスカッションを交えながら進める。可能であれば、ゲストスピーカーによる講義も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第2回	地域文化の継承と創造(1)	鹿児島県奄美群島の島唄文化
第3回	地域文化の継承と創造(2)	東日本大震災後の東北地方での継承活動
第4回	地域文化とはなにか	私達の身の回りにある文化に目を向ける
第5回	地域文化を支える政策(1)	公教育の原理と理念
第6回	地域文化を支える政策(2)	社会教育・生涯学習
第7回	地域文化を支える政策(3)	文化行政(文化財保護を含む)
第8回	地域文化をつくる場所(1)	地域の中の学校、文化の中の学校
第9回	地域文化をつくる場所(２)	公民館・図書館・博物館・公共ホール
第10回	地域文化を支える人(1)	福祉と生涯学習の接点から
第11回	地域文化を支える人(２)	社会教育職員、文化行政職員
第12回	地域文化を学ぶ(1)	生涯学習の実際
第13回	地域文化を学ぶ(2)	暮らしのなかの表現空間
第14回	まとめ	授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献や小さな課題をその都度提示するので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、地域文化に関連する報道や博物館展示等に関心を持ち、身近な事例や展示などに積極的に足を運んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
山﨑功・新藤浩伸・田所祐史・飯塚哲子編『地域文化の再創造ー暮らしのなかの表現空間』水曜社、2024
佐藤一子『地域文化が若者を育てるー民俗・芸能・食文化のまちづくり』農山漁村文化協会、2016
ほか適宜示す。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー、小レポートを含む平常点50％、最終レポート50%

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】
上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course discusses the history and current state of Japan's policies related to regional culture. It also addresses contemporary challenges and prospects in supporting local cultural activities.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to gain a basic understanding of the history and current status of educational and cultural policies that support local culture.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to be interested in news reports and museum exhibitions related to local culture, and to actively visit there. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following:
short report and in-class contribution (50%), term-end report (50%)

ENV300JB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境政策論

藤澤　浩子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】
学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めていこうとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
環境政策はＰＤＣＡサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション１ 講義の進め方等の確認とミニフィールドワーク（FW）	ガイダンス及び環境学習経験の確認、キャンパス周辺を歩き、身近な自然的・歴史的環境にふれる。宿題：FW後、フィールドノートを作成提出する。
第2回	オリエンテーション２ 身近な環境に関するイメージの共有	フィールドノート及び「人間をとりまく環境のイメージ」を共有する
第3回	SDGsについて	SDGs関連情報（国際的取組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）の解説及び関心共有ワーク
第4回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなものか、環境問題への取組みの歴史的経緯等を踏まえて解説する
第5回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る上で必要な、地球に関する基礎知識と問題となっている諸テーマについて概説する
第6回	環境問題を知る１	温暖化、エネルギー問題
第7回	環境問題を知る２	生物多様性、地球環境問題
第8回	環境問題を知る３	循環型社会、地域環境問題
第9回	環境問題を知る４	化学物質、震災関連の問題等
第10回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環境アセスメント等に関する概説
第11回	各主体の役割・活動１	各主体の役割、参加・協働の手法、国際機関・政府セクターの取組み、企業の取組み
第12回	各主体の役割・活動２	市民（個人、NPO等）の取組み、身近な環境に関する市民の取組み事例（DVD視聴等）
第13回	身近な環境保全の取組み実践体験　全体ワーク１	かるた制作（読み札づくり）
第14回	身近な環境保全の取組み実践体験　全体ワーク２	かるた制作（絵札づくり）と試用（場合によっては、読書レポート発表会）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。
関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
東京商工会議所（2023）『環境社会検定試験eco検定公式テキスト改訂９版』。
その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】
倉阪秀史(2014)『環境政策論（第3版）』信山社、竹本和彦編（2020）『環境政策論講義：SDGs達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編(2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著（2011）『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1.出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2.試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3.採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等で把握する平常点70％、提出課題（フィールドノート、読書レポート）30％とします。

【学生の意見等からの気づき】
過去11年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループやクラス単位でのワークショップを行ってきました。全回オンライン形式となった2020年度以外、全体ワークで、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でのアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】
受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。
質問等については、リアクションペーパーで受け付ける他、必要に応じ、授業終了後に教室で、または電子メールで受け付けます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces basic knowledge of the environment /environmental problem and policy to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the knowledge necessary for solving familiar environmental problems. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-understand the importance of each citizen's efforts.
-understand the significance of actually touching and feeling the environment around us.
-get the right information, make wise decision, and tell others, listen and share with others.
-willing to do good activities for the familiar/global environment.

【Learning activities outside of classroom】
1.Find out about environmental issues of your interest.
2.Try participating in environmental activities, if possible.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
・Normal point 70%: Preparations, reaction papers, approaches, contribution to group work
・Report (Field-note, Mid-term, Final) 30%

POL300JB（政治学 / Politics 300）

政策評価論

倉根　明徳

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2025年度の授業実施日は、8月6日（水）・7日（木）・8日（金）。

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策評価の理論だけではなく、政策立案や評価プロセスの実例を学ぶことで、行政経営や政策の意義について理解することを目的とする。

【到達目標】
日本に政策評価が導入された背景や政策評価の理論と手法、政策立案のプロセスを把握した上で、政策評価が政策のマネジメントサイクルの中で果たす役割について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は３日間の集中講義となります。政策評価と政策立案の理論を学んだ上で、ワークシート等を使った演習を行いながら理解を深めます。最終日には各自またはグループで政策の立案と評価指標の設定をしていただき、発表とディスカッションを行います。
また、授業の初めに、前日の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
各回のテーマに応じて適宜資料を提供しながら講義を進めますが、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、短期間で理解できる内容にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体概要、講義の進め方について
2	政策評価の概要	政策評価導入の背景や評価の類型等について
3	政策評価の手法①	事業評価方式、実績評価方式、総合評価方式の概要と評価手順について
4	政策評価の手法②	実際に行われている政策評価について（ケーススタディ）
5	政策立案の手法①	目標設定から政策立案の流れについて
6	政策立案の手法②	2018年度以降、主流になりつつあるEBPM（エビデンスに基づく政策立案）について
7	政策立案の手法③	海外との比較について（NZの震災復興計画等を事例に）
8	政策立案と評価の実例①	政策・評価の実例紹介（健康福祉政策）
9	政策立案と評価の実例②	政策・評価の実例紹介（まちづくり政策）
10	政策立案と評価の実例③	政策・評価の実例紹介（官民連携政策）
11	政策立案と評価の実践①（演習）	各自（またはグループ）で政策の立案と評価指標設定を実施
12	政策立案と評価の実践②	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション
13	政策立案と評価の実践③	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション
14	講義のまとめ	全体の振り返りと修得内容の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。関心のあるテーマに関わる施策について国や地方自治体のHPなどを調べてみてください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【参考書】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、演習及びディスカッション50％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
令和４年度の学生から「講師や学生同士でのディスカッションが良かった」と意見をいただいたため、令和５年度はディスカッションの時間を増やすように改善しました。結果、受講した全学生から肯定的な感想をもらうことができたことから、令和７年度も引き続きディスカッションの時間を十分確保します。また、令和６年度の学生からは「理論を学んだあとにミニ演習があると良い」という意見をいただいたことから、令和７年度については、理論＋ミニ演習で理解を深めてもらいたいと思います。

【その他の重要事項】
県庁で約20年間の実務経験があり、特にまちづくり分野に関わる政策立案や評価を数多く担当してきました。学生が利用する公共施設（公園や図書館など）がどのような背景でつくられ、評価され、運営されているかなど、具体的な事例を参考にしながら、政策評価や政策のマネジメントを学びます。特に行政職員を目指している学生の受講を奨励します。

【Outline (in English)】
This course introduces students to policy evaluation, policy making, and public management. The objective of this course is the role of policy evaluation. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content.
Your overall grade in the course will be based on the following
Class participation: 50%, Exercises and Discussions: 50%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

国際協力論

小林　尚朗

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界経済の現状やグローバルな開発目標（持続可能な開発目標：SDGs）などを把握したうえで、国際協力の理論および実践を学ぶ。

【到達目標】
「自国第一」の風潮が強まるなかで、なぜ国際協力が必要なのか、またなぜ国際協力への反動が起こっているのか、地球市民として、また将来国際社会に関わろうとしている学生として、必要な基礎知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式での授業が中心になります。初めてこの授業を担当するので、履修者の状況や人数がよくわからないのですが、適正規模の場合はディスカッションなども行います。
毎時間とは限りませんが、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーに書かれた意見や質問については、原則として次の時間に全体に対してフィードバックを行います。
本講義の授業計画のお知らせや教材の提示は、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の概要、ポイントを紹介
第2回	世界の現状とグローバルサウス	世界の現状とグローバルサウスの概念について
第3回	SDGs時代の国際社会	国連でSDGsが採択された背景とその意義
第4回	トランプ政権の衝撃と国際協力	自国ファーストの世界を考える
第5回	なぜ遠くの誰かを助けるのか？	国際協力の理念
第6回	国際機関と国際協力	国際機関と国際協力について
第7回	日本のODA	その変遷と意義
第8回	JICA海外協力隊	その現状と意義
第9回	プラント輸出と経済開発	インフラ整備と国際協力
第10回	移民・外国人労働者と国際協力	日本の外国人労働力政策の現状
第11回	フェアトレードの可能性①	アンフェアトレードの持続不可能性
第12回	フェアトレードの可能性②	エシカル消費を通じた国際協力
第13回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
外務省『開発協力白書』。
妹尾裕彦・田中綾一・田島陽一『地球経済入門－人新世時代の世界をとらえる』（法律文化社、2021年）
長坂寿彦編著『フェアトレードビジネスモデルの新たな展開－SDGs時代に向けて 第２版』（明石書店、2023年）。
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの提出（平常点）：50％、課題提出（発表も予定）：50%

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合があります。

【担当教員の専門分野】
世界経済論、アジア経済論、貿易政策論、フェアトレード。

【Outline (in English)】
【Course Outline】The aim of this course is to help students acquire basic theories, practices, and important findings on international cooperation and development.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to gain a foundational understanding of international cooperation and development.
【Learning activities outside of classroom】Before and after each class, students are expected to spend 2 hours each to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be determined based on reaction papers (50%) and report and presentation (50%).

MAN300JB（経営学 / Management 300）

地域経営論

遠藤　聖子

配当年次／単位数：2～4年次／２単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6151」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、人口減少に直面した我が国では、地域でその社会的課題に対し様々な手法で解決に取り組んでいます。本講義では、この取り組みを「地域経営＝地域のまちづくり」と捉え、誰が、何を、どのようにマネジメントして、持続可能な地域づくり・まちづくりを行なっているか事例を中心に学びます。そして、地域で起きている課題を自分ごととして考え、地域のあり方、まちづくりにおける市民・行政・企業・大学などの役割と協働のあり方について考察します。

【到達目標】
次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とします。
・地域経営に関する基本的な枠組み、法制度及び諸制度、考え方
・地域経営に関する国と地方の関係、地方分権と自治
・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
・地域経営の手法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体、またはグループ討議等のミニワークショップ」により進めます。受講生が、地域経営、地域づくり、まちづくりについて具体的なイメージを持って思考できるよう事例紹介を中心に進めます。各回講義のに対するリアクションペーパーで示された問いやつぶやきを講義の中で紹介し、双方向のやりとりをしながら受講者全体の理解が深まるよう進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営とは	・講義ガイダンス ・「地域経営」の全体像とまちづくり ・視点の整理 ・各回講義の要点解説
第2回	地方分権と地方自治、その系譜	・「地方分権」「地方自治」の系譜 ・今日的課題
第3回	地域経営における行政の役割とは	・行政が取り組む事例の紹介
第4回	住民参加とまちづくり①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の役割 ・まちづくり条例の系譜 ・まちづくり協議会
第5回	住民参加とまちづくり②	・まちづくりセンター ・まちづくりにおける紛争とその歴史 ・住民参加の意義 ・地域経営における合意形成の方法とあり方の考察
第6回	官民産学連携のまちづくり	各地の ・エリアマネジメント ・アーバンデザインセンター等、果たす役割と取り組み
第7回	地域のストックを活かすまちづくり①	・風景づくり ・歴史、文化を活かす ・リノベーション　等、 まちづくりの取り組みと課題
第8回	地域のストックを活かすまちづくり②	・公共施設、公共空間の更新と魅力化 ・空き家、空き地の活用　等、 各地の取り組みと課題
第9回	商業地・中心市街地のまちづくり①	・商業地、中心市街地の現状と課題 ・まちなか再生の動き　等、 各地の取り組みと課題
第10回	商業地・中心市街地のまちづくり②	・まちづくり会社（TMO） ・まちなか観光（DMO） 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第11回	郊外住宅地のまちづくり	・戸建て住宅地の管理 ・ニュータウン、郊外住宅地の取り組み ・団地、マンション管理組合と自治会 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第12回	災害とまちづくり	・大規模災害、大規模震災にみる地域、まちづくりの課題と取り組みの系譜 ・これからの課題
第13回	講義の総括①	・レポートの課題の解説 ・個別相談
第14回	講義の総括②	・受講生の感想 ・講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・少子高齢化、人口減少社会における地域経営、地域づくり、まちづくりに関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦めます。本講義の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】
講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦めます。
・「平成都市計画史ー転換期の30年間が残したもの・受け継ぐもの」饗庭 伸 著（共栄書房/2021年）
・「アーバンデザイン講座」前田 英寿 等　著（彰国社/2018年）

【成績評価の方法と基準】
①講義とその後の全体討議・ミニワークショップ等を踏まえたリアクションペーパー50％
②レポート50％（レポート課題は６月前半に提示）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Faced with a declining birthrate, an aging population, and a shrinking population, Japan's local communities are using a variety of methods to address social issues. In this lecture, this approach will be considered as "regional management = regional community development. You will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. The course will also consider local issues as if they were their own, and examine the roles of citizens, government, business, and universities in community development and how they should work together. In Japan, facing declining birthrates, an aging population, and a shrinking population, local communities are working to solve social issues using a variety of methods. In this lecture, we will consider these efforts as "regional management = regional community development. We will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. We will also consider issues that arise in the community as if they were our own, and discuss how the community should be, and the roles and collaboration of citizens, government, businesses, and universities in community development.

【Learning Objectives】

The objective of the course is to provide participants with a basic understanding of the following issues, and to raise their awareness of the issues and policies related to each theme.

・Basic framework, legal system, and various systems and ideas related to regional management

・Relationship between the national and local governments, decentralization, and self-governance related to regional management

・Collaboration, cooperation, and sharing of responsibilities among citizens (residents), businesses, and governments related to regional management

・Methods of regional management

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

(1) Reaction paper based on the lecture and subsequent plenary discussions, mini-workshops, etc.: 50%

(2) Report: 50%(report assignment will be presented in the first half of June)

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルイノベーション論

土肥　将敦

配当年次／単位数：2～4年次／２単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが2000年代以降世界的に広まってきた。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれる。また近年では、従業員や地域社会、環境へ配慮した事業活動を行なっている企業に与えられる国際的なB Corp認証も増加してきている。本講義では、こうした事業やビジネスモデルがなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどこが革新的でどのようなインパクトがもたらされるのかについて、国内外の事例をもとに検討する（なお、過去数年は、数多くの社会的企業者やB Corp認証企業の実務家にゲスト講師としてお越しいただいている）。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSRの枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】
本講義では、以下の3点を履修者の到達目標とする。
①グローバル/ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業者によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③企業のCSR活動の本質を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業者にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。今年度はB Corp認証を取得している国内外のゲストスピーカーも招聘する予定である。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第2回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3つの要件、活動する事業領域を理解する。
第3回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第4回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第5回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタープライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第6回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第7回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第8回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第9回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第10回	大企業におけるCSR①	企業と社会の関係を理解する。
第11回	大企業におけるCSR②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第12回	B Corporationについて理解する①	各種事例を通してB Corpについて理解する（A事例）。
第13回	B Corporationについて理解する②	各種事例を通してB Corpについて理解する（B事例）。
第14回	B Corporationについて理解する③	各種事例を通してB Corpについて理解する（C事例）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトに目を通し、講義中のディスカッションや掲示板へのコメント記入に備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。特に、毎回の講義後に掲示板などへのコメントの書き込みが必須となり、これが成績評価の基準となる予定ですので注意してください。

【テキスト（教科書）】
講義中に指示します。

【参考書】
土肥将敦（2022）「社会的企業者ーCSIの推進プロセスにおける正統性」千倉書房
Marquis, C（2020）Better Business, Yale University Press（土肥将敦監訳・保科京子訳（2022）『ビジネスの新形態 B Corp入門』ニュートンプレス）
鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT出版

【成績評価の方法と基準】
講義掲示板へのコメント入力課題及びショートプレゼンテーション課題（60％）、平常点（40％）を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義はオンラインで展開し、履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。市ヶ谷キャンパスや小金井キャンパスからの受講生は、キャンパスごとに時間割が異なっているため、各学部が定めるルールや時間割を必ず確認した上で履修するようにしてほしい。

【Outline (in English)】
This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business.The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(60%), in class contribution(40%).

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルマネジメント論

樋口　邦史

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】
本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。事前課題に対する議論とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。対面での開講を前提とするが、ゲストセッションや、社会状況によってはオンラインでの双方向型講義となる場合もある。それにともなう各回の講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、本講義の開始日や授業の方法なども、学習支援システムで随時提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要を紹介
2	CSR経営における SDGsの主流化	企業CSR経営を起点としたソーシャルマネジメントとSDGsの位置づけについて議論
3	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術①	企業組織におけるコミュニケーションとその活性化について議論
4	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術②	企業組織において「相手」に届くコミュニケーションとプレゼンテーションを実践
5	企業におけるプロジェクト活動	プロジェクト型マネジメントを知る
6	行政とコミュニティ組織	行政組織の特色とコミュニティの役割を知る
7	今年度の地域活性化プロジェクト先の選定とグルーピング	学生に身近な地域の選定とプロジェクトの進め方に関する議論
8	事例研究①官民連携	特定地域の官民連携事例について議論
9	事例研究②企業組織の光と陰	企業の不正（不正開示不正会計）はなぜ起きてしまうのかについて議論
10	演習①	ローカルなフィールドでのプロジェクトの進め方を議論
11	演習②	同フィールドでのマネジメントを進める
12	演習③	特定地域での活性化企画の立案
13	演習④	特定地域での活性化計画の設計
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では、全5回の事前課題レポート（A4 1枚以内）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
遠野みらい創りカレッジ編著「SDGsの主流化と実践による地域創生」水曜社；まち創り叢書

【参考書】
講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】
課題レポート10点×5回、最終レポート50点で評価し、グループワークでの貢献度によって加点する（最高10点）。オンラインでのセッションとなった場合でも、評価方法や基準は変更しない。より具体的な方法と基準は、講義開始日に案内する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の講義参加者からの要望に基づき、学生にとって身近な地域を選んだ演習を実施します。今年度も、2年生から4年生まで「学部横断型」の多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に「実践型」の講義を実施します。経済学部、社会学部からの参加者も期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course,the students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it’s a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.
【Learning Objectives】The goals of this course are to undustand logic and process of Social Management. Indeed, at the end of the course, students are expected to identfy social responsiblity of te company organization and the meaning of the mainstream for SDGs.
【Learning activities outside of classroom】Before the every session, students will be expected to have read the relevnat case study on web site or news paper. And some text will be intoroduced in the session for refarence of group discussion.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end report (50%), and additional point by in-class contribution and leader-ship on work shop.

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルファイナンス論

徳永　洋子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】
非営利団体の活動資金の調達について具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドを用いた講義形式。スライドは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には毎授業提出してもらうリアクションペーパーを活用し、各授業の初めにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	本講の概要、目的
第2回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第3回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代の事例
第4回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第5回	ドナージャーニー	寄付者の心理と行動
第6回	ドナーピラミッド	団体の寄付者の構造的把握
第7回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第8回	遺贈寄付	その定義と実態
第9回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第10回	会員拡大	新規会員拡大と継続率向上
第11回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第12回	助成金	助成金の獲得方法と活用
第13回	事業収益	非営利団体らしい事業収益の上げ方
第14回	エピローグ	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題はありませんが、授業に関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
「改訂新版　非営利団体の資金調達ハンドブック」　徳永洋子著　時事通信社
https://www.amazon.co.jp/dp/4788718820/

【成績評価の方法と基準】
平常点（20％）、期末テスト（80％）※期末テストはマークシート形式。資料持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】
卒業後に、社会福祉法人などのソーシャルセクターに就職するとは限らないことから、本講座の共感を軸とした資金調達の学びを、一般企業に就職した際にも役立てられるようにします。

【Outline (in English)】
1) Course Outline
In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues. In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.
In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.
2) Learning Objectives
The goals of this course is to know how to fundraise.
3) Learning activities outside of class room
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by checking relevant contents from newspapers, TV news, online materials, etc.
4) Grading Criteria/Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following.Term-end examination: 80%In class contribution: 20%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論

渡真利　紘一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6155」を選択すること。旧「非営利組織の運営」修得者は不可。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】
・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ
NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。
各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景と社会的意義	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係について把握する。
第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	コミュニティ・オーガナイジングや協力のテクノロジー等の理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題発表会１	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第13回	期末課題発表会２	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の振り返りの時間を大切にしてください。
また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。
授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（出席・リアクション）50点、（2）中間課題（NPO活動計画書）10点、（3）期末課題（発表、レポート）40点。
平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。
なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか
（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。
（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】
・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】
NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.
The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

居住福祉論

大原　一興

配当年次／単位数：**2～4年次／２単位**
備考（履修条件等）：**隔週開講。4・5限連続受講が必須のため注意すること。**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】
居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。
国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定３～２級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。実例調査レポートの作成。
基本的に隔週でおこなう。第２回目以降から第４，５時限の２時限続きでおこない、初回と最終回は第４時限のみとする。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。
第１回　　：４月８日　4時限
第２・３回：４月２２日　4・5時限
第４・５回：５月１３日　4・5時限
第６・７回：５月２７日　4・5時限
第８・９回：６月１０日　4・5時限
第10・11回：６月２４日　4・5時限
第12・13回：７月　８日　4・5時限
第14回　　：７月２２日　4時限　基本的に対面授業での開講となる。それにともなう各回の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。オンライン授業の必要性がある場合は、基本的にオンデマンド型で一部双方向を用いながら行う。資料等は学習支援システムで提示する。
課題に対するフィードバックとしては、授業中に発表をした学生に対しては講評し、他の学生に対しては提出物について適宜コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第2回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第3回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第4回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第5回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみたICFの考え方
第6回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第7回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第8回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第9回	ハウスアダプテーション・住宅改造福祉機器の活用	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第10回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第11回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第12回	コハウジング　共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第13回	コハウジング　共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第14回	くらしの先進国に学ぶ レポート提出・発表	北欧社会における福祉居住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付資料や参考資料の予習
常日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。
レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基本的に授業の際に学習支援システムにて資料を配付するので、必要に応じて各自ダウンロードしてほしい。特定の教科書は使用しない。

【参考書】
野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣
東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定１，２，３級公式テキスト』東京商工会議所
住総研高齢期居住委員会 編『住みつなぎのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】
平常点と毎回の小レポート（リフレクションシート）（70％）、レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
2時間続きの授業のため、講義のみ続けて行うと疲れてしまうので、適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。毎回の資料は学習支援システムから各自ダウンロードしてほしい。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students learn the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system
Learning Objectives
The aim of this course is to help students acquire the theory and the practice for living environment and well-being.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 30%、in class contribution and short report at each class: 70%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

災害支援論

青木　信夫、正谷　絵美

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探求していく。

【到達目標】
被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。
・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。
・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に３次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充満させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	防災講話 ・地域防災（自助、共助、公助）	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び発災時の行動について考える。
4	ロープワーク ・結びの基本と応用	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。
5	災害の種類と災害心理	・地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。
6	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問にYESまたはNOで答え、自分ならどのように対応するかを考える。
7	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫／AED操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫とAED操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	避難計画、避難行動	・避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
9	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
10	避難所HUG	・避難所の開設、運営を模擬的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	防災グッズの作成	・災害時に身の回りにあるものを利用して避難生活などに役立つ防災グッズを作成する。
12	国の支援構造	・災害時、有事の際、国がどのように行動し、どのように支援するかその構造を学ぶ。
13	図上演習DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】
授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期定期試験50%、平常点40%、レポート10%
演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline (in English)】
[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.
—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.
—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.
[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 40%, report 10%
Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

CMF300JB（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300）

コミュニティアート

吉野　裕之

配当年次／単位数：2～4年次／２単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6162」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】
まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。
方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意義	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	市民主体のまちづくりの事例（１）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第4回	市民主体のまちづくりの事例（２）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第5回	生活の現場としてのまちをめぐる考察	実体験に基づくまちをめぐる考察とＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第6回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第7回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。
第9回	コミュニティアートの事例（１）	コミュニティアートの事例（基本的な考え方を理解するための事例）の紹介と解説。
第10回	コミュニティアートの事例（２）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（３）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（４）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（５）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーなど）：30点　期末レポート：70点
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度について確認する。
期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】
(Course outline)
We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students will be able to do the followings:
－ Analysis and evaluation of cases about community art
－ Planning of community art
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
－ Reviewing the class meeting
－ Reading literature related to the class meeting
－ Participating in events related to community design and art
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process.
Short reports : 30%、Term-end report : 70%

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域遺産マネジメント論

須田　英一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめNPOなどが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福なくらし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。近年の文化政策の展開も視野に入れながら、文化財の保存と活用についての知識と、実務に展開可能な適応力を身に着ける講義を展開します。

【到達目標】

さまざま地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第2回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第3回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第4回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第5回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第6回	地域遺産保護と専門家(1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第7回	地域遺産保護と専門家(2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割、さまざまな地域遺産
第8回	世界遺産条約	世界遺産の成り立ちとしくみ
第9回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第10回	地域遺産の再生と活用(1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第11回	地域遺産の再生と活用(2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第12回	地域遺産の再生と活用(3)	地域遺産としての名勝・天然記念物・食文化
第13回	地域遺産の再生と活用（4）	地域遺産としての伝統的建造物群
第14回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きっとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に選定しません。資料を毎授業時に配布します。

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

・試験方法：期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点（リアクションペーパー）40%、課題レポート60％により総合的に評価します。課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。地方自治体勤務を希望している学生においては、自治体の仕事の進め方などを理解するうえで、参考になると考えます。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area.The goals of this course are to acquire the ability to utilize regional heritage and build regional networks.Students will try to find a community heritage　that is related to our lives in their area.　Students should also visit museums and museum exhibitions.　Your study time will be more than four hours for class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report,　term-end report（70%）,and in-class contoribution（30％）.

TRS300JB（観光学 / Tourism Studies 300）

地域ツーリズム

野田　岳仁

配当年次／単位数：2～4年次／２単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6165」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、”水辺空間の観光化”、”伝統文化の観光化”、”生活空間の観光化”の３つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】
大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では”いくら儲かるか”、”いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメント・リアクションペーパー（10%）、期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies.【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination（90%).

PSY300JB,PSY300JC（心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300）

異文化心理学

奥山　今日子

配当年次／単位数：2～4年次／２単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するように、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々とものごとを経験をしていますが、そのような経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。
私たちが持って生まれた資質と私たちのこれまでの諸経験の相互作用の結果が、いまの私たちの感じ方、知り方、解釈の仕方を規定しているとも言えるでしょう。
私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なもの/異文化/他者が私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知る機会になればと考えています。
授業内で映画を視聴し、私が提示するテーマについて、グループディスカッションを行うことを通じで、異質なもの/異文化/他者に触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

【到達目標】
この講義を通じて、受講生のみなさんに目指していただきたいのは、①自分自身の経験に気づき、②それを他者に伝えることができるようになり、③自分の経験について自分自身がより考えられるようになり、④他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面で行います。講義では刺激素材として主に映画を上映します。その際、みなさんはそれらの映画をどのように経験しているかに注意を払いながら視聴します。まずは、みなさんそれぞれが感じたり想ったり思ったり考えたことを可能な限り言語化し、その上で、グループディスカッションを通じて、異質なものに触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。
受講者の反応に従って、視聴するDVD素材の内容・順序を変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第2回	アサーション・トレーニング（1）	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第3回	アサーション・トレーニング（2）	さらにアサーティブ・コミュニケーションを学ぶ
第4回	映画視聴（1）とディスカッション	家族関係について
第5回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	家族関係について更に学ぶ
第6回	映画視聴（2)とディスカッション	心理的な成長や発達とは何か
第7回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長や発達とは何かについて更に学ぶ
第8回	映画視聴（3）とディスカッション	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まり
第9回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まりについて更に学ぶ
第10回	映画視聴（4）とディスカッション	人生に登場する壁のような存在について
第11回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	人生に登場する壁のような存在について更に学ぶ
第12回	映画視聴（5）とディスカッション	夢と現実、無意識とは
第13回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	夢と現実、無意識について更に学ぶ
第14回	映画視聴(6)	ある人生を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
『こころの処方箋』　河合隼雄　新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパー・授業への能動的参加）40％
期末レポート60％

【学生の意見等からの気づき】
発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

【Outline (in English)】
The definition of "culture" varies. In this lecture, the interaction between all individuals is considered as cross-cultural exchange to contribute to the lives of the students. We experience things from time to time, and many of those experiences are shaped in ways we don't realize.
It can be said that the result of the interplay between our qualities and our previous experiences defines the way we feel, know and interpret now.
I hope this lecture will be an opportunity for you to see that the alien /different culture /others that we unknowingly exclude have the potential to make us richer.
The students will be exposed to the alien /different culture /others through watching several movies and holding group discussions on the themes I will present. I will introduce a psychoanalytic point of view.
【Goal】
Through this course, I would like to encourage students to (1) become aware of their own experiences, (2) become able to communicate them to others, (3) become more self-reflective about their own experiences, and (4) acquire skills that can enrich themselves through interaction with others.
【Methods】
In the lecture, movies are mainly shown as stimulus materials. You watch these movies paying attention to how you experience them. First, you
will try to put what you feel, imagine, reflect and think into words as much as possible, and then touch on the alien / different culture /others through group discussions. I will introduce a psychoanalytic point of view.
I will change the contents to be viewed according to the student's response. We have a hybrid of face-to-face and online classes. The learning support system will show you which way the next class will be. Feedback on assignments, etc. is given sequentially and comprehensively in class. If you personally wish to receive feedback, please let us know by email.
【Work to be done outside of class】

Pay attention to what and how you are experiencing — what you feel, what you imagine, reflect, think, and do.
【Grading criteria 】
Normal point (reaction paper, active participation in class) 40%
Year-end Report 60%

IDN100LA（アイデンティティー教育 / Identity studies 100）

大学を知ろう　＜法政学＞への招待

2017年度以降入学者

小林　ふみ子、金子　匡良

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
2018年度までに「法政学への招待」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ようこそ法政大学へ！　みなさんのこの大学や学部がいつどのように、どうして作られたのか知ってみたくはありませんか？
この授業では、創立から144年めとなる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。【なお多くの学生さんに愛されてきたこの科目ですが、残念ながら2025年度をもって閉講の余儀なきに至りそうです。法政大学について学んでおきたい方は本年度中に履修してください】

【到達目標】
・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
・〈法政大学らしさ〉を考え、ここで学ぶ自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、科目責任者2名のコーディネートのもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。
講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回の学習支援システムのコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「山の手」の市ヶ谷キャンパス～法政大学と地域社会	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介する。（小倉淳一）
2	市民社会の開明とノンエリートの夢～法政大学と日本近現代史①	創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。（科目責任者＝金子匡良）
3	ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②	開学後約30年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。（岡孝）
4	リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。（衣笠正晃）
5	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。（古俣達郎）
6	アジアからみつめる～法政大学と国際社会	20世紀初頭の清国留学生受け入れに始まる本学の国際関係を、近隣のアジア諸国を中心に概観する。（髙柳俊男）
7	校歌「よき師よき友つどひ結べり」	成立背景や作詞・作曲者、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながらアカデミー合唱団のみなさんより歌唱指導を受ける予定。（児美川孝一郎）
8	大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。（横内正雄）
9	先輩からのエール	社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。今年度は留学経験を経て日本酒の魅力に目覚め、あえて酒蔵の経営に乗りだした先輩をお呼びしています。
10	ユニークな研究所	多数の研究所のうち他大に類例がなく、研究実績で世に知られる能楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。
11	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤	本学が大きく変貌した90年代以降の改革と、市ヶ谷に設置された国際文化・人間環境学部について学ぶ。(職員・各学部教員)
12	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑥、そして未来へ	前回に引き続き2000年代に市ヶ谷に設置されたキャリアデザイン学部・GIS（グローバル教養学部）について学ぶ
13	「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える	法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり返りつつ「法政大学らしさ」を考える。（科目責任者＝小林ふみ子）
14	まとめのワーク	「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。本学の教学担当理事の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。（ダイアナ・コー総長、科目責任者＝小林）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。
オープン５周年を迎えるHOSEIミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！　デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。
その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
写真でみせる『法政大学1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。さらに充実したバージョンはテキストとして生協で販売します。

【参考書】
毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】
毎回の学習支援システムのコメントにみえる取り組み70％、期末レポート30％で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
開設15年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】
配付資料類は、学習支援システムを通じても配付します。

【その他の重要事項】
・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう1年次での履修を推奨します。2年生以上の受講ももちろん歓迎します。
・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline (in English)】
（Course outline）Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?
We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.
(Learning activities outside of classroom） Students will be expected to study for four hours before and after each class.
（Grading Policies） The final grade will be calculated based on the small report submitted in each class (70%) and the final report (30%).

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ**

中平　千彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**2/Fri.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、春学期開講『経済学LA』(担当:中平)です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学LB』(担当:中平)に接続されます。
春学期開講『経済学LA』では、大学基礎レベルの「ミクロ(マイクロ)経済学」と「マクロ経済学」を担当教員がコンパクトに解説し、受講生にそれらを速習してもらうことを目指します。
受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？ 経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

【到達目標】
・ミクロ(マイクロ)経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。
・ミクロ(マイクロ)経済学とマクロ経済学に関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
経済理論を大別すると、「ミクロ(マイクロ)経済学」と「マクロ経済学」の2つになります。「ミクロ(マイクロ)経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得分配の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつかの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの2分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「ミクロ(マイクロ)経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済にいかなる影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のミクロ(マイクロ)的基礎」は不可欠な要素となっています。
この講義では「ミクロ(マイクロ)経済学」と「マクロ経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「ミクロ(マイクロ)経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のミクロ(マイクロ)的基礎などのトピックも採り入れたいと思っています。
我々には、講義回数14回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よくミクロ(マイクロ)経済学とマクロ経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力します。また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	経済学の基本問題と経済システム	経済学の基本問題と市場の仕組み、経済システム
第02回	消費者と生産者の行動(Ⅰ)	選好と効用関数、需要関数
第03回	消費者と生産者の行動(Ⅱ)	生産技術と費用関数(1)
第04回	消費者と生産者の行動(Ⅲ)	生産技術と費用関数(2)、供給関数
第05回	市場均衡(Ⅰ)	完全競争市場と調整過程、余剰と比較静学
第06回	市場均衡(Ⅱ)	部分均衡と一般均衡、独占市場と独占的競争市場
第07回	経済厚生	市場の失敗、パレート効率性、厚生経済学の基本定理
第08回	国民所得分析の基礎	SNA、マクロ経済指標
第09回	消費関数	消費と消費関数
第10回	投資関数	投資と投資関数
第11回	有効需要と乗数理論	有効需要の原理、乗数効果
第12回	IS・LM曲線と総需要曲線・総供給曲線	IS曲線・LM曲線および総需要曲線・総供給曲線による経済分析
第13回	インフレ需要曲線	インフレ需要曲線による経済分析
第14回	インフレ供給曲線	インフレ供給曲線による経済分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・受講後に講義ノートとテキストによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】
・塩澤修平(著) (2011)『基礎コース 経済学(第2版)』新世社.

【参考書】
・浅田統一郎(著) (2022)『マクロ経済学基礎講義(第4版)』中央経済社.
・浅田統一郎(著) (2017)『ミクロ経済学の基礎(第2版)』中央経済社.
・アセモグル, ダロン／レイブソン, デヴィッド／リスト, ジョン(著), 岩本康志(監訳), 岩本千晴(訳) (2020)『入門経済学』東洋経済新報社.
・井堀利宏(著) (2021)『入門経済学(第4版)』新世社.
・スティグリッツ，ジョセフ・E．/ウォルシュ，カール・E．(著),薮下史郎/秋山太郎/蟻川靖浩/大阿久博/木立力/宮田亮/清野一治(訳) (2012)『スティグリッツ入門経済学(第4版)』東洋経済新報社.
・福岡正夫(著) (2008)『ゼミナール経済学入門(第4版)』日本経済新聞出版社.
・マンキュー，N．グレゴリー(著),足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬宏之/柳川隆(訳) (2019)『マンキュー入門経済学(第3版)』東洋経済新報社.
・Bade, Robin and Michael Parkin (2022) *Foundation of Economics* (9th ed.)(global edition, pap.), Pearson.
・Hirshleifer, Jack, Amihai Glazer and David Hirshleifer (2005) *Price Theory and Applications: Decisions, Markets, and Information* (7th ed.)(pap.), Cambridge Univ. Press.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien (2018) *Essentials of Economics* (6th ed.), Pearson.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien (2022) *Economics* (8th ed., Global Edition), Pearson.
・Krugman, Paul and Robin Wells (2023) *Essentials of Economics* (6th ed., International Edition), Macmillan Learning.
・Landsburg, Steven E (2024) *Price Theory and Applications* (10th ed.)(pap.), World Scientific Publishing.
・Sloman, John and Dean Garratt (2023) *Essentials of Economics* (9th ed.)(pap), Pearson Education Limited.

【成績評価の方法と基準】
・[定期試験点(90％)＋平常点(10％)＝総合点(100％)] の評点配分で成績が決定されます。
・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】
・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】
・出席確認を行いますので注意してください。
・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。
・本講義の趣旨は、アカデミックな経済学の基礎理論を平易に解説することですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種資格・就職試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

【オフィス・アワー】
・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】
・秋学期のリベラルアーツ科目『経済学LB』(担当：中平)、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】
【Course outline】
＊ This course is designed to provide the student with an opportunity to understand the basic theory of microeconomics and macroeconomics. Generally, economic theory broadly divided into two parts - microeconomics and macroeconomics. Microeconomics focuses on decision making at the individual level, while macroeconomics studies the economy as a whole.
＊ This course is a comprehensive guide on how to get started with microeconomics and macroeconomics.
【Learning Objectives】
＊ Through this course, the students will be able to:
－ explain the basic theories of microeconomics and macroeconomics;
－ think and express basic issues of economics from the aspect of social science.
【Learning activities outside of classroom】
＊ Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

＊Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.
【Grading Criteria/Policy】
*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100％).
*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.
*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**観光経済学の基礎を学ぶ**

中平　千彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**2/Fri.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。

観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ(マイクロ)経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。

【到達目標】

・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。
・観光経済学に関する基本的問題をミクロ(マイクロ)・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

観光経済学は、経済学理論に基づき、また、経済学の関連領域に属する学問を包含し、広義の観光活動を分析する、応用経済学の一種と位置付けられるものです。さらに、現代における広義の観光経済学は、観光客の支出決定、観光市場の構造、観光行動における意思決定、観光企業間の連携、観光による外貨発生の効果と範囲、観光資源の貢献可能性、観光政策などを包括的に研究する分野となっています。

本講義では、観光の現状と課題、観光統計、投資理論、消費理論、消費者行動と観光、観光需要、観光サービス供給、観光市場の機能、観光市場の失敗、経済成長と観光、世界遺産と観光、我が国の観光と課題などの項目を学びます。なお、必要に応じて、公共経済学などの知識を補充し、学習内容の拡充を試みます。

我々には、講義回数14回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よく観光経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力します。また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	観光の現状と課題、SNAと観光統計(1)	観光のもたらす課題、SNAの概念と観光統計
第02回	SNAと観光統計(2)	SNAの基本構造、サテライト勘定の意義と分類
第03回	観光市場の機能	市場需要曲線と市場供給曲線、市場均衡と市場調整、観光財・サービスの価格決定メカニズム
第04回	消費理論と観光(1)	消費と消費関数、消費関数における短期と長期
第05回	消費理論と観光(2)	消費決定の仮説、観光消費の性質
第06回	投資理論と観光(1)	投資と投資の決定要因、限界効率と投資判断
第07回	投資理論と観光(2)	投資の限界効率表と投資量の決定
第08回	消費者行動と観光(1)	消費者行動と需要曲線、観光サービスの対象と選択
第09回	消費者行動と観光(2), 観光需要	観光需要と弾力性、観光需要の実際
第10回	観光サービス供給	観光サービス供給、観光市場の構造
第11回	観光市場の失敗	市場の失敗と観光分析
第12回	公共財とコモンプール財	公共財、コモンプール財と資源の過剰利用
第13回	観光成長と観光	インバウンド市場とアウトバウンド市場、観光発展の将来
第14回	世界遺産とエコツーリズム, 観光の課題と将来	世界遺産の基礎知識、エコツーリズムの事例と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・受講後に講義ノートとテキストによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

・中平千彦／薮田雅弘(編著)『観光経済学の基礎講義』九州大学出版会, 2017年.

【参考書】

・M.T.シンクレア／M.スタブラー(著), 小沢健市(監訳) (2001)『観光の経済学』学文社.
・ジェームズ・マック(著), 瀧口／藤井(監訳) (2005)『観光経済学入門』日本評論社.
・スティーブン・J. ページ(著), 木谷／松下／図師(訳) (2001)『交通と観光の経済学』日本経済評論社.
・A.ブル(著), 諸江／吉岡／菊池／小沢／原田／池田／和久井(訳) (1998)『旅行・観光の経済学』文化書房博文社.
・山内／山本／山崎／川口(編) (2022)『観光経済学：理論とデータで学ぶ』有斐閣.
・Bull, Adrian (1995) *The Economics of Travel and Tourism* (2nd revised ed.), Longman.
・Dwyer, Larry, Forsyth, Peter, and Wayne Dwyer (2020) *Tourism Economics and Policy* (2nd ed.), Channel View Books.
・Hall, C. Michael and Allan M. Williams (2019) *Tourism and Innovation* (2nd ed.), Routledge.
・Stabler, Mike J., Papatheodorou, Andreas., and M. Thea Sinclair (2009), *The Economics of Tourism* (2nd ed.), Routledge.
・Sullivan, Charlotte (ed.)(2016) *Leisure and Tourism Economics*, Willford Press.
・Tribe, John (2020) *The Economics of Recreation, Leisure and Tourism* (6th ed.), Routledge.
・Vanhove, Norbert (2022) *The Economics of Tourism Destinations* (4th ed.), Routledge.
・Chen, Yong (2021) *Economics of Tourism and Hospitality : A Micro Approach*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

・[定期試験点(90％)＋平常点(10％)＝総合点(100％)] の評点配分で成績が決定されます。
・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

・出席確認を行いますので注意してください。
・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】

・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】

・春学期のリベラルアーツ科目『経済学LA』(担当：中平)、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】
【Course outline】

*The aim of the course is to provide students with an opportunity to gain and enhance the knowledge of tourism economics. Namely, this course is designed to provide a basic understanding of the scientific approaches to economics of tourism, particularly in the field of economic theory.

*In this course, you will learn how the microeconomics and macroeconomics are applied to the analysis of tourism.

【Learning Objectives】
＊Through this course, the students will be able to:
－ explain the fundamental problems of tourism economics;
－ think and express basic issues of tourism economics from the aspect of microeconomics and macroeconomics.
【Learning activities outside of classroom】
＊Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.
＊Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.
【Grading Criteria/Policy】
*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100％).
*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.
*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木　誠

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は金融をこれまで学んだことのない学生向けに、経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。春学期の授業では、経済学における金融の意味と金融で利用される言葉やその意味、さらに計算方法などを身に着け、生活の上で、金融のリテラシーを身に着けることを目指す。

【到達目標】
この授業では、金融リテラシーを身に着けるために、1、歴史的な金融の発展、2．身近な金融活動の発見、3．金融の意義と意味、4．自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいるだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにでも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。春学期の目標は、一般の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事が読んで、理解できる水準への到達である。いわばリテラシーを高めることを目標とする。金融についてさらに、一歩踏み出した議論は、秋学期に行いたいと考えているので、履修する学生には春と秋の履修を勧めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
対面による授業として実施します。ただし、履修生の皆さんには資料を配信し、各自で理解を深めてもらうように配慮する。なお、配布する資料は教科書と合致しない部分も一部あります。理解する目的は同じであっても、履修する皆さんにとって理解のしやすい方法で、あるいは、理解できる段階から説明することを心掛けて作成しているためです。
大学で初めて学習する内容となるはずなので、継続した授業への出席が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業内容の紹介、歴史的な経済活動の発展	本授業の進め方、評価についての解説、人類の経済活動の発展と経済行動における工夫や発明を映像資料を見て動機付けを行う
2	身近にみる金融商品や金融活動	日ごろの生活で利用される金融商品や金融活動について詳しく学ぶ
3	金融取引と必要な知識	銀行における取引について考える、また、その際に必要とされる知識について学ぶ
4	評価する、価値を測る（第1章、第2章）	金融活動において、将来の価値や現在の価値を測ることが重要となる。その方法を学ぶ
5	企業における金融取引、債券と株式の発行と投資	企業が発行する債券と株式について学ぶ。特にその違いについて理解を深める。
6	債券の評価（第3章）	債券の価格をどのように求めるか、その方法を学ぶ
7	債券投資の理論（第10章）	債券を運用する際の基礎となるデュレーションについて意味と計算方法を学ぶ。
8	債券投資の理論（第10章）続き	債券ポートフォリオのデュレーションとイミュニゼーションについて学ぶ
9	中間テスト	第1講から第8講までの内容の理解を確認する。
10	確率変数の基礎知識（第11章）とポートフォリオ理論（第12章）	期待値や標準偏差など統計値の計算方法を確認する。ポート不フォリオ理論の導入を図る。
11	投資理論（第12章と第13章）	2資産からなる危険資産によるポートフォリオを構築する。ポートフォリオ理論を発展させCAPMについて学習する
12	コーポレートファイナンス①（第7章）	企業の資金調達について検討する。
13	コーポレートファイナンス②（第7章）	企業の資金調達におけるモジリアニ＝ミラーの定理（MM理論）を学習する。
14	期末試験	これまで学習した全範囲の試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
特に力を入れてほしいのは、復習と日ごろの生活での習慣である。復習はしっかりと自分の頭で考えたり、計算をしてほしい。目で見て理解しただけでは利用することはできない。日々の生活では、ニュースを見る、新聞を読む、30分でも日々の生活で経済事象を知ることは、授業を受ける上で大きなきっかけとなる。

【テキスト（教科書）】
手嶋宜之著「基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門」ダイヤモンド社
ISBN:978-4-478-01630-5

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次の３つの項目に基づいて行う。１、各回の授業に付随するクイズ（20％）、２、第8回に実施する中間テスト（40％）、３．第15回に実施する期末テスト（40％）である。
中間試験と期末試験は授業期間内で行う。また、各回のクイズはHoppi上で提示される。なお、クイズは毎回実施するとは限らない。成績評価は以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね90％以上、A:優れた成績であるもの、概ね80％以上、B:秀でた成績である者、概ね70％以上、C:平均的な水準である者、概ね60％以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】
質問のあった個所については、授業でも取り上げて参加者全員の理解を図るようにする。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間と期末試験の際にはスマホの計算機能は利用できないので注意。

【その他の重要事項】
新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることが望ましい。
なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算20余年有している。うち、10年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了（MBA）している。また、経済金融教育アドバイザーでもある。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】
This class focuses on finance in economics for students who have never studied finance before. As a university student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time without touching finance. In the spring semester class, students will learn the meaning of finance in economics, the words used in finance, their meanings, and calculation methods, and aim to acquire financial literacy in their daily lives.
A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.
Grading for students will consist of two parts: 80%will be based on mid-term and final exams. 80%will be based on mid-term and final exams, and 20%will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90%or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80%or more, "B" is given to students who have achieved 70%or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木　誠

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**1/Tue.1
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は既に金融の「入門レベル（経済学LA)」を学んだ学生向けに、広く、深く金融を学習することを目的としている。したがって、金融システム、金融制度など幅広く経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。しっかりと金融知識を身に着けてほしい。

【到達目標】
　この授業では、経済学LAに始まる金融リテラシーを身に着けるために、１、歴史的な金融の発展、２．身近な金融活動の発見、3.金融の意義と意味、４．自ら金融取引を確認する、ことを継続して学ぶ。
　秋学期の経済学LBの目標は、経済専門の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事を読んで内容が概ね理解できることを目標としたい。通常、経済専門紙の記事を完璧に理解できる水準は金融業界に身を置かない限り、困難である。本講座は、入門レベル（経済学LA)を経て、金融基礎知識を固める初級から中級レベルの水準に達することを目標に掲げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
対面で授業を実施する。経済学LAと同じである。
授業はテキストと配布資料に基づいて行われる。適宜、履修者の理解の定着を図る目的でクイズやテキスト章末問題を課題とすることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	利子率、将来価値、現在価値（第1章）	単利と複利、現在価値・将来価値を計算する、複利利回りの種類を知る。今学期から参加した学生にも理解しやすいように経済学LAの内容を一部復習する。
2	債券入門（第2章)、債券分析の基礎（第3章）①	最終利回り、債券投資のリスクについて学ぶ。（経済学LAの復習、一部あり）
3	債券分析の基礎（第3章）②	デュレーション分析、イールドカーブ分析、債券の投資方法について学習する。
4	ポートフォリオ理論入門①（第8章）	経済学LAにおいてファイナンスで利用する基礎統計学は学習しているので、その前提で2つの危険資産によるポートフォリオを作成する。
5	ポートフォリオ理論入門②（第8章）	安全資産を組み入れた場合のドミナントな組み合わせを考える。CAPMの導出を行う。（一部経済学LAの復習あり）
6	株式入門（第4章）①	株式とは、株式発行市場、流通市場、配当割引モデルの紹介
7	株式入門（第4章）②	配当割引モデル応用、株価評価の指標、
8	中間試験	これまでに学習した内容をテストする。60分間。
9	デリバティブズ	先渡し取引、先物取引の市場、取引の仕組み、価格の計算方法と利用について学習する
10	リーマンショックを考える	リーマンショックの原因はなんであったか、動画を視聴して考えたい。
11	オプション入門①（第6章）	オプションの基本的な仕組みと性質の紹介、オプション市場、オプション取引の仕組みを学習する。
12	オプション入門②（第6章）	オプションを用いた投資戦略、バイノミアル（二項価格評価）モデルによるオプション価値の推定する。
13	効率的市場仮説（第11章）	市場モデルとCAPMの類似点と相違点を整理する。 市場の効率性について学習する。
14	期末試験	学習した範囲（第1回から第13回まで）の試験を行う。授業内で実施する。60分間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
春学期より少しだけレベルが上がった内容となるので、授業の資料を読む前に関連する該当箇所を読んでおくと、理解の助けとなる。さらに、授業後に、もう一度同じ個所を読み直すと理解が深まる。また、必要な計算は必ず手を動かしてやってほしい。資料やテキストを読んでいても、自分の力にはならない。また、日常的に新聞やニュースに触れて、金融に関する言葉を利用する場面を知ってほしい。

【テキスト（教科書)】
岸本直樹、池田正幸「入門・証券投資論」有斐閣ブックス、ISBN:978-4-641-18447-3

【参考書】
手嶋宣之「ファイナンス入門」ダイヤモンド社、ISBN:978-4-478-01630-5
大村敬一・俊野雅司「証券論」有斐閣、ISBN:978-4-461-16427-7

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次の３つの項目に基づいて行う。
１、授業における貢献などの平常点と授業に関連したクイズ（試験ではない）（20 %)、
２、第 8 回に実施する中間テスト（40 %)、
３、第 15 回に実施する期末テスト（40 %）である。
中間試験と期末試験は 原則教室で実施する予定であるが、感染状況によりHoppi上で行う場合もある。実施予告の指示に従って受験してほしい。
成績評価は法政大学の基準に従って行う。概ね、以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね 90 %以上、A:優れた成績であるもの、概ね 80 %以上、B:秀でた成績である者、概ね 70 %以上、C:平均的な水準である者、概ね 60 %以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】
経済学LB(秋学期)は経済学LA同様、対面授業の予定となっている。対面授業ではあるが、スライドで利用する資料等はHoppii上に掲示（授業開始から１週間のみダウンロード可）する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間・期末試験いおいてスマホの計算機能を利用することはできないので、留意してほしい。

【その他の重要事項】
配布する資料は指定した教科書を理解しやすくするために作成したものである。資料だけでは、教科書の内容を理解することは不可能であるので、必ず、指定した教科書を用意してほしい。ただし、参考図書はその限りではない。また、新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることがファイナンスの理解の早道でもある。なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算20余年有している。うち、10年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了（MBA)している。金融経済教育アドバイザーでもある。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to provide a broad and deep study of finance for students who have studied finance at an introductory level (Economics LA). Therefore, the class will focus on finance in economics, including financial systems and financial institutions. As a undergraduate student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time to finance. I would recomend you to acquire a financial literacy for your life.
A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.
Grading for students will consist of two parts: 80%will be based on mid-term and final exams. 80%will be based on mid-term and final exams, and 20%will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90%or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80%or more, "B" is given to students who have achieved 70%or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**東アジア経済論**

陳　文挙

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２１世紀はアジアの時代であり、中国やアジア新興国の台頭によって東アジア地域の存在感は増している。東アジア経済の動向は世界政治経済、安全保障、資源エネルギー等に大きな影響を与えている。本講義は東アジア経済の発展に焦点を合わせ、経済発展の歴史、過程、経験と教訓等について経済学の基礎原理やリベラルアーツの視点から研究する。また、新型コロナウイルス感染症の拡大によって東アジア地域経済、そして世界経済が一変しており、東アジア経済を分析することを通じて学生諸君の地域的突発問題や危機管理に対する分析力を向上させる。

【到達目標】
現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察する力が必要になる。当該授業を聴講して、学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。特に、トランプ米大統領の再登場による世界の地政学は新しい局面を迎え、混沌化が増す世界、そして東アジア地域に関するリスクのヘッジ方、危機対応型思考力を鍛える学習ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
１，大学の授業計画に従って対面式で開講するが、事情によってまたデジタル社会適合のためオンライン（Zoom方式）の開講もある。但し、オンライン授業の場合は事前に学習支援システムを通じて知らせする。
２，一回の講義で基本的に１つの話題を中心に議論、展開、解明、まとめる。
３，情報化時代のニーズに応えるために図表や統計資料、事例学習も多用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	東アジア経済入門基礎、講義概要、成績評価等説明
2	現代経済社会の仕組み	家計、企業、政府；資本、労働、技術進歩；市場の原理；経済成長と経済発展の原動力分析
3	東アジア経済近代化の始まり	商業とシルクロード、産業革命、国際貿易と殖民地の歴史、アヘン戦争
4	日中近代工業化の歴史比較研究	清王朝近代化の失敗と日本明治維新ならびに日本近代化成功の比較分析
5	国際貿易とグローバリゼーションの形成	アダム・スミスの絶対優位性仮説とリカードの比較優位性仮説の検証
6	農業の発展と人口問題	マルサスの人口論と「マルサスの罠」
7	中間進捗状況確認	前半復習、「機会費用」と人口問題の両面性
8	農業の発展と様々な制約	「豊作貧乏」現象と需要の価格弾力性
9	東アジア地域の工業化と労働移動	都市化とインフォーマル部門、スラム街の形成
10	東アジア地域の工業化と国際化	「輸入代替」政策の失敗から「輸出振興」政策の成功まで
11	東アジア地域の産業移転	ペティ・クラークの法則と「雁行形態」、「産業移転」、「世界の工場」の背景と実態
12	経済成長と所得格差	クズネッツの「逆U字仮説」から「エレファントカーブ」まで
13	さまざまな格差と計測	ジニ係数の計算を通じて地域間経済格差を考える
14	まとめ：東アジア地域経済統合の行方は	半期の復習、まとめ、期末レポート作成要領説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて宿題として課題レポートを完成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
『アジア経済とは何か―躍進のダイナミズムと日本の活路』、後藤健太（著）、中公新書。
『アジア経済論』、小林尚朗,山本博史,矢野修一,春日尚雄（著, 編集）、文眞堂。
『東アジアの論理―日中韓の歴史から読み解く』、岡本隆司（著）、中公新書。

【成績評価の方法と基準】
１、授業参加（出席）状況（30％）
２、リアクションペーパーや課題の提出状況（30％）
３、期末レポートの完成状況（40％）
などによって総合的に評価する。
ただし、各項目の配分など詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】
１、学生皆さんの関心事、質問等についてよく聞く、確認する。
２、課題や質問に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。
ただし、学習支援システムの活用、オンライン（Zoom方式）学習環境の確保などを事前にしておく。

【その他の重要事項】
秋期『経済学LB：中国経済入門』の継続履修を勧める。

【Outline (in English)】
The 21st century is said to be the age of Asia. The rapid growth of China and some other developing countries of Asia has increased the presence of the East-Asia in the world. The economy of East-Asia has been greatly affecting the world's politics and economy, security, and resources energy for these years.
This lecture focuses on the development of East-Asia economy, aims at studying the history, process, experiences and teachings of the economic development in this region from the viewpoints of basic theory of economics and Liberal Arts.
【Learning Objectives】
This lecture will help to improve students' ability of analyzing regional economy about its variability and complexity in east-Asia from various viewpoints.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/reviewing to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
You overall grade in the class will be decided based on the following:
1, in-class contribution（30%）

2, Reaction paper or homework（40%）
3, Term-end report（30%）

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**中国経済論**

陳　文挙

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の経済規模は2010年に日本に追い付き、追い越し、アメリカに次ぐ世界第２位に上り詰めた。2022年に中国のGDPは日本の約4倍に拡大し、アメリカの5分の4までに迫っていた。本講義では前期授業で学習した東アジア経済発展の基礎を元に、計画経済期から市場経済移行期まで中国経済の発展を研究し、失敗の教訓と成功の要因を明らかにする。その上、「新常態」（ニューノーマル）にある現在の中国経済について事例研究等を通じて考察し、中国経済発展の未来像について考える。

【到達目標】
現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について、特に世界第２位の経済規模を持つ中国の経済動向について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
１，大学の授業計画に従って対面式で開講するが、事情によってまたデジタル社会適合のためオンライン（Zoom方式）の開講もある。但し、オンライン授業の場合は事前に学習支援システムを通じて知らせする。
２，一回の講義で基本的に１つの話題を中心に議論、展開、解明、まとめる。
３，情報化時代のニーズに応えるために図表や統計資料、事例学習も多用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	中国経済の基礎、講義概要、中国最新経済情報、成績評価等
2	中国近代史①	アヘン戦争から太平天国、日清戦争、辛亥革命、日中戦争、国共内戦
3	中国近代史②	中国共産党の誕生、武力闘争から政権の奪取、中国人民共和国の樹立
4	朝鮮戦争と社会主義国家建設	戦後処理と冷戦、朝鮮戦争と日中両国に与える影響：ソ連の対中経済援助と日本の「朝鮮特需」
5	計画経済期の中国経済と政治	社会主義経済大実験：大躍進、人民公社と文化大革命
6	計画経済の行き詰まりと改革開放の始まり	貧しい農民たちの「下剋上」と郷鎮企業の発展：「世界の工場」礎の形成
7	労働移動と「世界の工場」	中国の経済格差の実態と労働移動の事例研究
8	中間進捗状況確認	前半の復習：「効率」か「平等」か ＝ 日本と中国のどっちが「社会主義」か？
9	企業改革と工業の発展	世界最大白物家電メーカーハイアール（Haier）社の事例研究
10	対外開放：外資の積極的導入と国際貿易の拡大	日本の対中経済支援と日本企業の中国進出
11	中国の技術革新とニュービジネスの拡大	ネット通販、QRコードとキャッシュレス、EVシフトとドローン、AI開発など
12	中国の不動産バブルの崩壊と「新常態」	中国経済も「失われた30年」に突入するのか？
13	中国経済展望	米中「貿易戦争」、世界のデカップリング、トランプ2.0などによって中国経済の先行きを予測する
14	復習とまとめ	期末レポート作成要領、成績評価再確認など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて課題、宿題もあり、期末にはレポートの提出がある。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
『現代中国経済』（新版）、丸川知雄、有斐閣アルマ。
『幸福な監視国家・中国』、梶谷懐・高口康太、NHK出版新書。
『中国S級B級論 ―発展途上と最先端が混在する国』、高口康太・伊藤亜聖他著、さくら舎。

【成績評価の方法と基準】
１，授業参加（出席）状況（30％）
２，リアクションペーパーや課題の提出状況（30％）
３，期末レポートの完成状況（40％）
などによって総合的に評価する。
ただし、各項目の配分など詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】
１、学生皆さんの関心事、意見などをよく聞く、確認する。
２、課題や質問等に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。
ただし、学習支援システムの活用、オンライン（Zoom方式）学習環境の確保などを事前にしておく。

【その他の重要事項】
１，前期の『経済学LA：東アジア経済論』とセットにして履修してもらいたいですが、必要条件ではありません。
２，中国経済の話題が中心だが、政治、歴史、文化、社会、企業経営等の話もあり、興味があればぜひ履修していただきたい。

【Outline (in English)】
This lecture aims at clearing up the success factors and lessons of failure by studying the development of China economy of the period transforming from the planned economy to the market economy, based on the basic knowledge about the development of the East-Asia economy, which students learned in the first semester. Furthermore, this lecture will examine the current China economy, so-called new-normal economy through case-study and consider the future image of China economy.
【Learning Objectives)】
This lecture will help to improve students' ability of analyzing China economy about its variability and complexity from various viewpoints.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/reviewing to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
You overall grade in the class will be decided based on the following:

1, in-class contribution（30%）
2, Reaction paper or homework（40%）
3, Term-end report（30%）

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**福祉の経済思想家たち**

小峯　敦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学Ｌでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。前期LAでは「福祉という観点から経済思想を振り返る」を取り上げます。過去から現在にかけて、世の中には貧困や格差など、福祉に直結する経済問題が溢れています。意外にも、経済学者は単にカネの亡者や利己的な人間像ではなく、社会全体の幸福（＝福祉）について多くの見解を示してきたのです。この授業では、経済学の立場や経済の観点から、格差や貧困、個人と国家などがどのように考えられてきたか／考えるべきかを学ぶたいと思います。

【到達目標】
「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「福祉という観点から経済思想を振り返る」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度の理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めたいと思います。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（LGBTQ、アメリカ大統領選、イギリスのEU離脱など）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。学生の希望があれば、グループ討議や発表タイムを混ぜても良いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介
2	全体の概観～経済学の歴史から現代の経済問題を扱う	なぜ経済問題の把握に、経済学の歴史が必要か（参考書・第１章、教科書第１章）
3	経済の発見～古代から中世へ	プラトン、アリストテレス、トマス・アクイナス、利子と利潤（参考書・第２章）
4	近代とは何か～民主主義から資本主義へ	社会契約説の三巨人、ホッブズ、ロック、ルソー（参考書・第３章）
5	経済学の生誕～スミスの登場	共感、利己心、そしてアダム・スミス、見えざる手（教科書・第３章）
6	安全で幸福な社会、経済論争～ベンサム	功利主義、安全、食糧安保、関税（教科書・第４章～第５章）
7	社会改良と経済学～ミルの苦悩と挑戦	古典派経済学の完成と現実、ジェンダー、植民地（教科書・第６章）
8	社会主義の勃興～マルクスとエンゲルス	経済学批判、唯物史観、疎外、剰余価値（教科書・第７章）
9	マーシャル～労働者階級の向上	生活基準、安楽規準、経済騎士道（教科書第11章）
10	ピグーとホブソン～正統と異端の福祉思想	厚生経済学、人間の福祉（教科書第12章・第13章）
11	ウェッブ夫妻、ホブハウス～	自由党／自由主義の改革、国民最低限保障（教科書第14章）
12	ケインズとベヴァリッジ～現代福祉国家へ	福祉国家の合意、完全雇用と社会保障（教科書第17章）
13	２人のノーベル経済学賞～ミュルダールとハイエク	北欧型福祉国家と、アメリカ型国家（教科書第21章～第22章）
14	この授業のまとめ理解度小テスト	振り返り；チェックテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】
・小峯敦編（2024）『福祉の経済思想家たち【第三版】』ナカニシヤ出版。
ISBN 978-4-7795-1831-7
（以下は増補改訂版の情報）
https://www.nakanishiya.co.jp/book/b134734.html

【参考書】
・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。
https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html
・小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』晃洋書房。
https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html

【成績評価の方法と基準】
（１）平常点：40％
（２）理解度小テスト：60％
（１）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の提出回数、その他授業への参加度合い等によって定めます。
（２）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンス（択一式）８割、記述式２割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ１枚）が持ち込み可能です。
（３）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】
資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】
「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を目指す学生や教職課程の学生にも有用です。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】
In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thought?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy. In the second semester, we will take up "Economic Thought from the Perspective of Welfare." From the past to the present, the world is full of economic problems directly linked to welfare, such as poverty and inequality. Surprisingly, economists have not just been money-hungry or selfish but have also expressed many views on society's happiness (i.e., welfare). In this class, we will learn how inequality, poverty, individuals, and the state have been thought about/should be thought about from the perspective of economics and the standpoint of economics.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**戦争と平和の経済思想**

小峯　敦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学Ｌでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。後期LBでは「戦争と平和の経済思想」を取り上げます。過去から現在にかけて、世の中には戦争・紛争が溢れています。同時に、その原因や解決策を模索する学問的営みも多いのです。この授業では、経済学の立場や経済の観点から、この問題をどのように考えられてきたか／考えるべきかを学びます。

【到達目標】
「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「戦争と平和」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度の理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めたいと思います。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（露ウ戦争、パレスチナ紛争）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。学生の希望があれば、グループ討議や発表タイムを混ぜても良いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介
2	全体の概観～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・序章）
3	近代国家と戦争	重商主義、主権国家、経済学の生成（教科書・第１章）
4	アダム・スミスにおける国防と経済	『国富論』、商業の発展、自由の確立（教科書・第２章）
5	古典派経済学と戦争～リカード、マルサス、ミル	平和的な分業（比較生産費説）、植民地経営（人口問題）、黒人問題
6	エッジワースの契約モデルと戦争	限界革命による経済学の左心、価格交渉（教科書・第３章）
7	ヴェブレンの平和連盟構想	アメリカ異端派の現状分析、国際連盟の誕生（教科書・第４章）
8	戦後構想における経済助言者の役割（１）	ケインズ～ベヴァリッジ体制とは何か、伝記的アプローチ（教科書・第５章）
9	戦後構想における経済助言者の役割（２）	福祉国家の誕生、連邦主義、国際連合の誕生（教科書・第５章）
10	ミュルダールにおける戦争と平和（１）	福祉国家から福祉社会へ、累積的因果関係、南北問題（教科書・第６章）
11	ミュルダールにおける戦争と平和（２）	スウェーデンモデルとは何か、国際平和研究所（教科書・第６章）
12	冷戦期以降の戦争と経済思想	シューマッハー、ガルブレイス、ボールディング（教科書・第７章）
13	帝國主義・総力戦と日本の経済学者	石橋湛山、新渡戸稲造（教科書・第８章）
14	全体のまとめ～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・終章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】
小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』晃洋書房。
https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html

【参考書】
・小峯敦編（2024）『福祉の経済思想家たち【三版】』ナカニシヤ出版。
https://www.nakanishiya.co.jp/book/b134734.html
・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。
https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html

【成績評価の方法と基準】
（１）平常点：40％
（２）理解度小テスト：60％
（１）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の提出回数、その他授業への参加度合い等によって定めます。
（２）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンス（択一式）８割、記述式２割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ１枚）が持ち込み可能です。
（３）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】
資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】
「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を受ける学生や教職課程の学生にも有用なはずです。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】
In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thought?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy. In the second semester, we will take up "War and Peace in the History of Economic Thought". From the past to the present, the world is full of wars and conflicts. At the same time, there are many academic endeavors that search for their causes and solutions. In this class, students will learn how this issue has been/should be considered from the standpoint of economics and the economy.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

漢字･漢文学Ａ

2017年度以降入学者

加納　留美子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。
中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。
学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】
１．作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
２．作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
３．特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
４．作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。配布資料をもとに進行する。
授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。
フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第2回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介
第3回	権力者と文字による予言	・予言の種類 ・歴史書に見える予言 ・「拆字」の紹介
第4回	文字が左右した運命①	・「志怪」と「伝奇」 ・文字が動かした寿命 ・読めない文字
第5回	文字が左右した運命②	・三つの予言 ・詩を用いた予言
第6回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・近代諸国での流行 ・中国の「扶鸞」信仰
第7回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・「扶鸞」の方法と来歴 ・「扶鸞」の流行と評価
第8回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・宋代知識人の体験 ・明代のオカルト趣味 ・近代中国と「扶鸞」信仰
第9回	恋愛作品と文字	・『詩経』と「楽府」 ・恋のうたと言葉遊び
第10回	知識人の頓智と奇想	・外交における機知 ・知識人の応酬
第11回	伝統的「姓名」観	・避諱の制 ・姓名が左右した運命
第12回	創作活動と文字①	・「推敲」 ・現実と表現の衝突
第13回	創作活動と文字②	・詩が招いた幸運と悲運 ・「詩讖」の説
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。
本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】
参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価＞
平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）４０％、期末の試験またはレポート６０％。
＜基準＞
・授業における取り組み（態度・意見）
・指示された課題に対応する能力
・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】
毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.
From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ； they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easiliy find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.
Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.
[Learning Objectives]
1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.
[Learning activities outside of classroom]
Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

漢字･漢文学Ｂ

2017年度以降入学者

加納　留美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**2/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。
学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】
１．作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
２．作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
３．特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
４．作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。配布資料をもとに進行する。
授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。
フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第2回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第3回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第4回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第5回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第6回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第7回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第8回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第9回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み
第10回	夢と恋愛文学	・夢での逢瀬 ・恋愛成就の神 ・夫婦の別離と再会
第11回	夢の世界の冒険	・怪異との接触 ・儚い栄達 ・動物への変身
第12回	他人と共有された夢	・「二人同夢」 ・危機の通達 ・夢での邂逅
第13回	日本における夢	・他人が見る夢 ・日本文学における夢
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。
本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】
参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価＞
平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）４０％、期末の試験またはレポート６０％。
＜基準＞
・授業における取り組み（態度・意見）
・指示された課題に対応する能力
・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】
毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】
The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.
Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.
In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.
[Learning Objectives]
1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.
[Learning activities outside of classroom]
Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

藤村　耕治

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティヴ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デティール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今セメスターで書いた作品は、秋セメスターで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今セメスターにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今セメスターにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多の受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出50％、授業内討議への積極的な参加30％、期末に課す課題（自分の作品のブラッシュアップ）20％。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline/Leaning Objectives
Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.
By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".
Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.
Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.
Grading Criteria/Policy
50%submission of the work, 30％　active participation in the discussion, 20%of the semester-end assignment.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

藤村　耕治

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デティール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今セメスターでは、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多の受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出35％、授業内討議および編集作業への積極的な参加35％、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品［三作以上］への批評文）30％。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline/Leaning Objectives

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

35%submission of the work, 35%cooperation in participation in discussions and editing work, 30%of semester-end assignment.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

日本芸能論Ａ

2017年度以降入学者

阿部　真弓

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。
なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】
①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。
その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループ（3人まで）で、関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。
授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。
〔参考〕これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。
「歌舞伎舞台の変遷」「香道について」「寄席の歴史」「日本における『第九』の受容と定着について」「マク゛ロの解体ショー」「青森ねふ゛た祭り 芸術を作る」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	雅楽について
第5回	伝統芸能概説(2)	伎楽について
第6回	伝統芸能概説(3)	能について
第7回	伝統芸能概説(4)	狂言について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。
発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容70％（①②③）またはレポート70％（①②④）※、平常点および討論への参加状況30％（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。
その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。
※春学期「日本芸能論Ａ」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。秋学期「日本芸能論Ｂ」も続けて履修し、そちらで発表する予定の人は、春学期「日本芸能論Ａ」については、発表の代わりにレポートにすることができます。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に学習支援システムに提出されたコメントは、教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】
当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。
秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に行いますので、秋学期の受講希望者も、春学期「日本芸能論A」の学習支援システム上で行う連絡を必ず確認してください。

【Outline (in English)】
This course deals with the Japanese performing arts.
The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

日本芸能論Ｂ

2017年度以降入学者

阿部　真弓

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。
なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】
①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。
その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。
授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。
〔参考〕これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。
「薪能」「文楽の歴史と現在」「茶道の歴史」「落語の演技」「石見神楽の現在に至るまでの変化」「アイヌ文化と芸能の歴史」「新たな芸能の形としての2.5次元ミュージカル」「書道パフォーマンス～表現形態の変遷～」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	人形浄瑠璃の成立について
第5回	伝統芸能概説(2)	人形浄瑠璃の様相について
第6回	伝統芸能概説(3)	歌舞伎の成立について
第7回	伝統芸能概説(4)	歌舞伎の様相について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。
発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容70％（①②③）またはレポート70％（①②④）※、平常点および討論への参加状況30％（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。
その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。
※秋学期「日本芸能論Ｂ」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。春学期「日本芸能論Ａ」から続けて履修し、そちらですでに発表した人は、秋学期「日本芸能論Ｂ」については、発表の代わりにレポートにすることができます。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】
当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。
秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に行いますので、当科目の受講を希望する人は、「日本芸能論A」の学習支援システム上で行う連絡を確認してください。
なお、秋学期「日本芸能論B」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論A」の受講を強くおすすめします。

【Outline (in English)】
This course deals with the Japanese performing arts.
The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

身体表現論 A

2017年度以降入学者

深谷　公宣

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋舞踊の文化史について講義する。舞踊は最も古い芸術形式であるが、それがどのように生まれ、発展してきたかについて概観する。また、時代ごとに異なる舞踊のスタイルを紹介し、それがどのように文化や社会を反映しているのかについても検討する。舞踊のテクニックについての講義ではないので、注意すること。

【到達目標】
・西洋舞踊の文化史について考察し、叙述できる。
・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
・舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～先史時代の舞踊	授業に必要な概念・用語の説明～舞踊の発生と種類
2	古代文明の舞踊	古代エジプト、古代ギリシア、古代ローマの舞踊
3	中世～ルネサンスの舞踊	中世の社会階層、コメディア・デラルテ、宗教・祭祀と舞踊、死の舞踏、世俗の舞踊
4	ルネサンスの舞踊～宮廷舞踊（16～17世紀）	宮廷舞踊、宮廷バレエの種類（バレエ・コミック、他）、仮面劇、仮面舞踏会
5	宮廷舞踊から劇場へ（18～19世紀）	カマルゴとサレ、ノヴェールのバレエ・ダクシオン、メヌエット、オペラとバレエ
6	ロマンティック・バレエ（19世紀）	タリオーニ、グリジ、エルスラー、ワルツの登場、『ラ・シルフィード』と『ジゼル』
7	クラシック・バレエ（19世紀）	『コッペリア』、プティパとイワノフ、『眠れる森の美女』、『くるみ割り人形』
8	クラシック・バレエからバレエ・リュスへ（19～20世紀）	『白鳥の湖』、フォーキン、ディアギレフのバレエ・リュス
9	19世紀アメリカの舞台芸術	ミンストレル・ショー、フリーク・ショー、ヴァラエティ・ショー、ヴォードヴィル・ショー
10	アメリカのダンスの誕生	社交ダンス、ジャズ・ダンス
11	アメリカのダンスの成熟	モダン・ダンス～アメリカン・バレエ～ディスコ、ストリート・ダンス
12	ポストモダン・ダンス（1）	モーリス・ベジャール、ピナ・バウシュ
13	ポストモダン・ダンス（2）	ウィリアム・フォーサイス、ローザス
14	講義のまとめ	講義の補足とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
Gayle Kassing. History of Dance. Second Edition. Human Kinetics. Kindle.
クルト・ザックス『世界舞踊史』
邦正美『舞踊の文化史』

【成績評価の方法と基準】
平常点50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
期末レポート50％：舞踊の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
・Course Outline: An introduction to the history of western dance culture. Dance is the most ancient form of art. This course will survey the origin and development of dance as an art, and present dance styles of various ages. The class will focus on how these dance styles reflect culture and society of a specific age. Be sure that this course will not teach the technique of dance, but the culture of dance.
・Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to
(1) analyze and describe the history of western dance culture, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of dance critically and aesthetically.
・Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.
・Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

身体表現論 B

2017年度以降入学者

深谷　公宣

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、演劇はその時代の文化と社会を反映している。各時代の文化や社会が、身体表現にどのように影響を及ぼしているかを検討する。

【到達目標】
・西洋演劇の歴史について考察し、叙述できる。
・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
・演劇作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇（1）	原始社会から古代文明における演劇の発生、アイスキュロス、ソフォクレスについて
3	古代ギリシア演劇（2）	劇場の構造、ソフォクレス（続）、エウリピデスについて
4	中世演劇～エリザベス時代演劇（1）	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の演劇への影響から、エリザベス時代演劇への歴史的展開について
5	エリザベス時代演劇（2）	シェイクスピアの喜劇について
6	エリザベス時代演劇（3）	シェイクスピアの悲劇について
7	フランス古典主義演劇	コルネイユとル・シッド論争、モリエールについて
8	風俗喜劇、オペレッタ	イギリスの風俗喜劇、オッフェンバックのオペレッタについて
9	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
10	近代演劇（1）	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	近代演劇（2）	ヨーロッパ近代演劇、特に、バーナード・ショー、オスカー・ワイルドについて
12	現代演劇（1）	１９世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
13	現代演劇（2）	アメリカのリアリズム演劇について
14	講義のまとめ	秋学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・プレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）

【成績評価の方法と基準】
平常点50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
期末レポート50％：演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
・Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body which is anchored in everyday life and reveals the possibility of a new movement of the body. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. Theatre is always a reflection of culture and society. The class will focus on examining how culture and society of a particular age have influenced the movement of the human body.
・Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to
(1) analyze and describe the history of western drama, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre critically and aesthetically.
・Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.
・Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

美術論Ａ

2017年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2024年度の美術論Aでは、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。
特に
・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）
について段階的に幅広い視点で学んでいきます。
以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）
・古代美術、中世美術、近世美術
・近代美術
・現代美術
また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】
西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、具体的な作品や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの実践的なチャレンジに取り組みます。美術の理論と実践の密接な結びつきを理解し、創造的なアプローチを身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウィルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。
資料
授業前にGoogle sitesで資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。
課題
受講後Google Formsで課題とレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/9	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
4/16	古代美術 原始美術/先史美術、メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ美術、ギリシャ美術、ローマ美術	文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。原始・先史美術からメソポタミア、エジプト、ギリシア、ローマまでの古代美術について扱います。かなり広範囲になります。歴史を学ぶことはその広がりを考えると果てがありませんが、まずは大きな流れを捕まえておくことが大切だと思います。
4/23	中世美術 初期キリスト美術、ビザンティン美術、初期中世美術、ロマネスク美術、ゴシック美術	ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。ローマ時代からルネサンス以前までのキリスト教と関連した美術の流れについて学びます。この後出てくるルネサンスの美術と比較して、シンプルでわかりやすい装飾的な図像という印象です。悪くいうと形骸化しているとも言えますが、キリスト教の拡大のために必要であったと想像できます。 それぞれの美術が展開した場所と時期は以下のようになっています。 初期キリスト教美術（西ヨーロッパ）（2〜7世紀） ビザンティン美術（東ヨーロッパ）（4〜15世紀） 初期中世美術（ドイツ、フランス、アイスランド）（5〜10世紀頃） ロマネスク美術（西ヨーロッパ）（11 12世紀） ゴシック美術（西ヨーロッパ）（12 15世紀）
5/7	近世美術 ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術	ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。
5/14	ワークショップ1単元の復習 ・古代美術、中世美術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵から文字へ	これまで学んだ時代の文化を違うベクトルから見てみましょう。この時代は文字の発達した時代でもあり、情報を残し、伝えるために絵を描くことの発見、それらが発展（もしくは変化）して現在の文字の発明につながっていきました。ギリシア時代には現在使われているアルファベットとほとんど同じものが使われていました。 絵画や文字が発明されたことで、人間は様々な過去の事柄を記録することができるようになり、これらはコミュニケーションの手段の一つとなって、メディアが登場します。芸術の分野でも近代になってコンセプチュアル・アートのような概念的な表現が多くなり、文字は中心的な存在となります。

5/21	近代美術1 新古典主義　ロマン主義　写実主義　バルビゾン派　ラファエル前派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典（ルネサンス）への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義、ありのままの自然を描こうとするバルビゾン派、芸術を通じて道徳や真実を探求するラファエル前派について学びます。
5/28	近代美術2 印象派 、新印象派、ポスト印象派 ナビ派　世紀末芸術　象徴主義（ロシア象徴主義）　素朴派　アーツアンドクラフツ運動　アール・ヌーヴォー　分離派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派 、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。 19世紀のフランスを中心としたヨーロッパでは、印象派を軸として次々と新しい芸術運動が現れてきます。アーツ・アンド・クラフツ運動やアール・ヌーボーなど、生活と結びついた芸術運動も生まれてきました。今回の授業ではそうした様々な動向について扱いますが、見るものをどのように解釈するのか、心の中で感じ取ったものをどのように表現するのかといった写真が発明された以降の課題（そっくりそのまま写しと売るのではなく、絵画独自の特徴を追求する）について、様々な取り組みや実験がスタートします。
6/4	ワークショップ2 単元の復習・近代美術1、近代美術2 ワークショップ・デッサンの手法	中世、近世、近代美術の復習とワークショップをします。ワークショップでは、絵画を違う観点から考えてみましょう。絵画の目的は現実の世界を平たい神やキャンバスに定着させることにありますが、歴史の中で様々なテクニックが生まれました。色をだんだん薄くしてみる、前後のものを重ねてみる、近いものを下、遠いものを上の方に描いてみるなどで、奥行きは表現できます。私たちの学んだ中世、近世から近代美術にかけて最も進化したのは線遠近法と呼ばれる方法です。今日は遠近法について理解を深めましょう。
6/11	近代美術3 野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派 、世紀末芸術 、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー	ポスト印象派以降の絵画の新しい試みに関しての講義です。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。後期印象派という言葉は1906年に美術批評家ロジャー・フライが最初に使い、また1910年にロンドンのグラフトン・ギャラリーで彼は「マネと後期印象派の作家たち」という展覧会を企画し、そのタイトルで正式にこの言葉をいました。 ゴーギャンやゴッホの大胆な色彩や画家の内面性を追求する姿勢は印象派にはなかったもので、またセザンヌは形態の解釈にエネルギーを注ぎました。これらの発想は、フランスを中心としたフォービスムやキュビスム、ドイツを中心とした表現主義の芸術運動に大きな影響を与えました。
6/18	近代美術4 未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・スティル、バウハウス 、ロシア構成主義	1914年から起きた第一次世界大戦は、ドイツ・オーストリア・イタリアが中心の同盟国とロシア・フランス・イギリスの連合国との戦いでした。また、1917年のロシア革命を発端としてソビエト連邦ができました。 この講義では、ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。また、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような作品が登場します。
6/25	ワークショップ3 ワークショップ・単元の復習　近代美術3 、近代美術4	今日は「表現の生まれる場所」というテーマで表現の原理原則のような出来事を体験するワークショップをしましょう。 特に以下のキーワドについて考えていきます。 ・テキスト ・音 ・身体
7/2	現代美術1 アンフォルメル　抽象表現主義ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラ	第二次世界大戦前後の芸術運動についてお話をします。大戦を挟んでアートの現場がヨーロッパからアメリカに移行します。第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義などアメリカを中心として登場した芸術運動、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。

7/9	現代美術2 ネオダダ、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート　新表現主義	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1970年代の嵐のようなカウンターカルチャーの時代が過ぎ去り1980年代に入り登場したアメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義についても学びます。
7/16	現代美術3 YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート ワークショップ4単元の復習・現代美術1 、現代美術2 ワークショップ「テキストとアート」	1989年にベルリンの壁が崩壊し東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。 そして、東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャリズムを一つのきっかけとして生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜に起こったイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist、リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google siteで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google siteを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
参考書
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、201
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
初回授業はオンラインで実施します。
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird’s eye viewpoint and practical perspective.
* Art history and art theory which is the basis for understanding art
* Work production including more practical content ・ Planning of art exhibitions ・ Art criticism.
We will learn about these in a step-by-step manner.
Learning Objectives
Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60%or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

美術論 B

2017年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2025年度の美術論Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。
・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
これらについて段階的に幅広く学んでいきます。
以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）
・原始・古代美術
・中世美術、近世美術
・近代美術
・現代美術
さらに、各単元ごとにワークショップを実施し、実践的な美術活動を通じて学びを深めていきます。

【到達目標】
日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。
ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業を予定していますが、状況によりオンラインで行う場合もあります。
対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。
まずはシラバスで授業の内容を確認してください。
資料
授業前にGoogle sitesで資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。
課題
受講後、Google Formsで課題と簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9/24	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
10/1	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術 について学びます。縄文時代は約1万年前から約3千年前までの時代であり、人々は主に狩猟採集生活を営み、豊かな自然環境と共存しながら、土器や土偶などの芸術作品を生み出しました。紀元前3世紀から紀元3世紀ごろまでの弥生時代には、農耕や稲作が発展し、集落が形成されました。弥生時代の終わりから紀元7世紀頃までの古墳時代には、各地に巨大な古墳が築かれ、そこからは豪華な副葬品や装飾品が発見されています。
10/8	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代	仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代 について学びます。6世紀後半から7世紀前半にかけての飛鳥・白鳳時代には、仏教が伝来して社会や文化に大きな影響を与えました。8世紀から9世紀にかけての奈良時代には、律令制度が確立し国家の行政や法制度が整備されました。9世紀後半から12世紀半ばまでの平安時代には、貴族文化が隆盛し、平安時代の文学や芸術が栄えました。
10/15	ワークショップ（1） 単元の復習・原始美術、古代美術 プレゼンテーションとディスカッション	原始美術、古代美術に関する単元の復習と、縄文時代以前の道具に関するワークショップを行います。
10/22	中世美術 鎌倉・室町時代	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。12世紀末から14世紀半ばまでの鎌倉時代は、武士の政権が台頭しました。禅宗や浄土宗などの新興宗教が台頭しました。室町時代は、14世紀後半から16世紀前半までの時代であり、禅宗美術が更なる発展を遂げ、水墨画が盛んになりました。
10/29	近世美術 桃山・江戸時代	支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。16世紀後半から17世紀初頭にかけての桃山時代は、戦国時代の混乱から徳川家康による統一を経た時代です。この時代には茶道、茶室建築が隆盛し、また絵画や彫刻、陶芸など、豊かな文化が花開きました。17世紀初頭から19世紀末までの江戸時代には、風俗や歌舞伎、日常生活の情景を描いた浮世絵が大衆の間で広く愛されました。また、琳派や俳句、狂言など様々な文化が栄えました。
11/5	ワークショップ（2） 単元の復習・中世美術、近世美術 プレゼンテーションとディスカッション	中世美術、近世美術に関する単元の復習と「異文化交流」と「身の回りにある江戸時代」に関するワークショップを行います。

11/12	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化制作により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画 が描かれます。
11/19	戦後美術 アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房	第二次世界大戦後の1950年代には実験工房、具体美術協会が結成され、従来の美術の枠を超えた実験的なアプローチや表現が試みられました。続いて1960年代にはアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンターなど新しい芸術運動が始まります。これらの芸術運動は、戦後の日本の芸術に新たな風を吹き込み、アーティストの多様な表現を促進しました。
11/26	ワークショップ（3） 単元の復習・近代美術のはじまり、戦後美術 プレゼンテーションとディスカッション	近代美術のはじまり、戦後美術に関する単元の復習と、教室内の人と人との関係性に関するワークショップを行います。
12/3	1960-1970年代 もの派ともの派以降、新しい表現	1960年代から1970年代の美術に大きな影響力を持ったもの派ともの派以降の美術やアーティストについて学びます。
12/10	新しい表現 パフォーマンス、ビデオアート、インスタレーション	1980年代には若いアーティストたちは、前衛的な動きを引き継ぎながら、新たな表現手法に挑戦しました。特にビデオアート、インスタレーション・パフォーマンスなどが注目されました。
12/17	1990-2020年代 1990年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010年以降	1990年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
1/14	ワークショップ（4） 単元の復習・1960-1980 年代、1990-2020年代 プレゼンテーションとディスカッション	1960-1980 年代、1990-2020年代に関する単元の復習と、授業全体のまとめのワークショプを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
初回授業はオンラインで実施します。
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.
1.　Art history and art theory which is the basis for understanding art
2.　Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism
I will learn a wide range of them step by step.
Learning Objectives
We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60%or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

芸術と人間Ａ

2017年度以降入学者

岡村　民夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（50）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画的表現を学ぶ。

【到達目標】
空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、hoppiiを通して感想を書いてもらったりすることになる。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行う。
初回に選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、これに出席する必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	-ジョン・フォード -宮崎駿
3	地を走る	-チャールズ・チャップリン -バスター・キートン
4	地で踊る	-フレッド・アステア -ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	-S・エイゼンシュテイン -アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	-キング・ヴィダー -ニコラス・レイ
7	馬に乗る	-ジョン・フォード -黒沢明
8	列車に乗る2	-アルフレッド・ヒッチコック -黒沢明
9	自動車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	-エルンスト・ルビッチ -ジャック・タチ
11	壁の向うを聴く	-フリッツ・ラング -ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	-アルフレッド・ヒッチコック -宮崎駿
13	鏡を見る	-オーソン・ウェルズ -吉田喜重
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの再読や、映画館やDVDでの作品鑑賞等。本授業の復習時間は１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布する。

【参考書】
『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
平常点50％＋レポート50％（ただしレポートを提出しなければE評価とする）。
平常点は単に出席したことではなく、毎回のコメントシートをカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
初回に出席すること。５０名以上受講希望者がいる場合、初回（対面式なので注意）に選抜試験を実践し、受講資格を得た学生が受講できる。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価になる。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this class. we study the space structure of classical films.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.
【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

芸術と人間Ｂ

2017年度以降入学者

岡村　民夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（50）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もっとも具体的に検討してきた表現領域です。本講義は「芸術と人間A」の発展形にあたり、より大きな空間的スケールで映画表現を学びます。主に古典的作品を通し、都市や自然の表現が問題となります。

【到達目標】
空間という角度から映画を捉えなおすことで、鑑賞力を深めることができます。表現技法や映画史の基本知識も身につきます、自分の観る映画のジャンル・年代・地域を拡げことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、毎回、hoppiiを通して感想を書いてもらいます毎回提出してもらう。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。
初回（対面式）に、「芸術と人間A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行いますので注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと選抜	-授業の概要の説明 -「芸術と人間A」を受講していない学生に対する選抜試験
2	高層都市	-キング・ヴィダー -フリッツ・ラング
3	迷宮都市	-ジャック・タチ -ホセ・ルイス・ゲリン
4	記憶都市	-アルフレッド・ヒッチコック -黒沢清
5	日本家屋	-成瀬巳喜男 -小津安二郎
6	水と船	-溝口健二 -ジャン・ヴィゴ
7	雨	-山中貞雄 -宮崎駿
8	水の宇宙	-アンドレイ・タルコフスキー -ユーリー・ノルシュテイン
9	風	-ジャン・エプスタン -グル・ダッド
10	動物１	-ハワード・ホークス -濱口竜介
11	動物２	-本多猪四郎 -円谷英二
12	外国人監督による東京１	-クリス・マルケル -ヴィム・ヴェンダース
13	外国人監督による東京２	-ジャン=ピエール・リモザン -ホウ・シャオシェン
14	まとめ	補遺 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの再読や、宿題、映画館やDVDでの映画観賞等。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布します。

【参考書】
『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫
その他、随時提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％＋レポート50％（ただしレポートを提出しなければE評価）。
平常点は単に出席したことではなく、毎回のコメントシートをカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
レポートを早めに返却します。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
「芸術と人間A」（春学期）未受講者は選抜試験をするので必ず初回に出席すること。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this class. we study the space structure of classical films.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.
【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

仏教思想論Ａ

2017年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**4/Thu.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド初期仏教思想・仏教史
釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。
この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。
（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。）

【到達目標】
・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。
・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされうるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5回実施予定)。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法（説法法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第5回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第6回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 四つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』
第7回	仏教の基本思想（3）	仏陀のさとり得た真理とその特徴 『梵天勧請』 『縁』経，他 比較思想的考察
第8回	仏教の基本思想（4）	「諸法無我」 人無我と法無我 ミリンダ王経
第9回	仏教教団と教団運営	律蔵文献 戒・波羅提木叉
第10回	初期仏典講読（1）	『ダンマパダ』
第11回	初期仏典講読（2）	『スッタニパータ』 「慈しみ」他
第12回	初期仏典講読（3）	『スッタニパータ』 「田を耕すバーラドヴァージャ」他
第13回	初期仏典講読（4）	『スッタニパータ』 真理についての争い
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習と復習時間は、各２時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】
佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK出版新書、２０１３年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の授業内筆記試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。
学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。
試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】
仏陀自身のことば・思想を、先入見を持たずに、正しく真直ぐに捉え、深く理解することに努めてください。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
仏教思想の本質、特に仏教の人生観・世界観の理解のためには、春学期の「仏教思想論A」だけでは不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】
This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.
The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

仏教思想論Ｂ

2017年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**4/Thu.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド初期・部派仏教から大乗仏教への展開：世界観・人生観の変遷
インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乗仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乗仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。
（本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論A」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】
・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乗仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
・仏教思想はどうして多様化したのか、その理由を理解する。
・初期・部派仏教から大乗仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
・大乗仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います (３～４回実施予定)。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について インド仏教思想展開史概説
第2回	部派仏教の成立	仏教思想の多様性・多様化 諸部派成立から大乗仏教へ
第3回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第4回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第5回	仏教の世界観	『倶舎論』が説く世界観 大乗仏教の世界観
第6回	大乗仏教（1）	大乗仏教の教理的特徴
第7回	大乗仏教（2）	大乗諸経典 『般若経』 『阿閦仏国経』 『維摩経』
第8回	大乗仏教（3）	ナーガールジュナ 思想史上の位置づけ 二真理説、空、中道
第9回	大乗仏教（4）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲芋経』
第10回	大乗仏教（5）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲芋経』・『稲芋経註』
第11回	大乗仏教（6）	大乗仏教の人生観（1） 到達目標・理想的境地・中道
第12回	大乗仏教（7）	大乗仏教の人生観（2） 『維摩経』
第13回	大乗仏教（8）	大乗仏教の人生観（3） 仏教論理学派と後期中観思想： 仏陀・経典の権威について
第14回	まとめ・授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】
佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか　アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin選書、２０１３年
桜部健・上山春平著『仏教の思想２　存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、１９９６年
計良龍成著『中道を生きる：中観』、春秋社、２０２３年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の授業内筆記試験の成績（６０％）と授業内容確認小テストの成績（３０％）と平常点（１０％）により評価します。
学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。
試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】
東アジアには殆ど伝わらなかった後期中観思想を含め、インド本来の大乗仏教思想を初めて学ぶことで、その人生観等の思想に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、わかりやすい丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
授業内容の深い理解のために、春学期の「仏教思想論A」から履修することを強く推奨します。

【Outline (in English)】
This is a course to learn Indian Hinayana (Shrâvakayâna) Buddhism and Mahayana (Bodhisattvayâna) Buddhism.
The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. Sarvâstivâdin's interpretation of impermanence, i.e., momentaliness of conditioned dharmas.
2. Later Madhyamaka philosophy consisting of the ideas of dependent origination, emptiness, middle way and non-abiding nirvana.
3. Dharmakîrti's and later Mâdhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

HIS300LA（史学 / History 300）

中国の民族と文化A

2017年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】
漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。
なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。
あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】
原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】
試験100％
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学 / History 300）

中国の民族と文化Ｂ

2017年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】
漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。
なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。
あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】
原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Ｚ会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】
試験100％
試験は漢文の読解力のみで評価します。
なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とすると全くできないと思いますので、ご留意ください。

【学生の意見等からの気づき】
「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学 / History 300）

古代日本･中国の法と社会Ａ

2017年度以降入学者

岡野　浩二

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】
日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。 2回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。 リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。 課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舎利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
岡野浩二『日本史特講（日本仏教史）』（法政大学通信教育部、2023年）
末木文美士編『新アジア仏教史　11日本1　日本仏教の礎』（佼成出版社、2010年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）
藤善眞澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（最終回に実施）50％、毎回の出席確認の小テスト50％をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの2段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
(1)この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。（２）疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.
（Learning Objectives）
By the end of course,students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Yuor study time will be more than four hours for a class.
（Granding Criteria/Policies）
Yuor overall grade in the class will be decided based on the following.Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA（史学 / History 300）

古代日本･中国の法と社会Ｂ

2017年度以降入学者

岡野　浩二

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代の日本は、中国から多くの文明・文物を移入した。その重要な役割を担ったのが入唐僧である。ここでは9世紀の円珍の関係史料を主な素材として、入唐僧の実情を探る。その前提として7・8世紀の入唐僧について概観する。9世紀には、円仁が『入唐求法巡礼行記』、円珍が『行歴抄』という旅行記を残しており、円珍関係の古文書も園城寺に現存する。それらの記事から、日本・唐の宗教・政治・社会を比較研究する。

【到達目標】
円珍の旅行記『行歴抄』、円珍の伝記『天台宗延暦寺座主円珍伝』、円珍関係の古文書『園城寺文書』の主要な記事を読解する。それらを素材として、日本・唐の宗教・政治・社会の相違点や特質を把握する。そして、その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	道昭・玄昉・鑑真	７・８世紀の入唐交流を概観する
3	最澄・空海・円仁	９世紀の入唐僧を概観する
4	円珍の入唐と身分証	僧侶・俗人の身分証について日唐を比較する
5	円珍の通行許可証	唐の交通路と許可証を考察する
6	円珍がみた天台山	会昌の廃仏とその影響を概観する
7	円珍と円載	入唐僧どうしの交流と確執を読み取る
8	円珍がみた長安・洛陽	唐の寺院・施設・人物を概観する
9	円珍がみた唐の文物	仏教行事や風俗を日唐で比較する
10	円珍の帰国	仏典の保管、天皇・貴族との交流を概観する
11	後続の入唐僧	宗叡・高丘親王らの入唐と円珍との関係を探る
12	円珍と唐の僧侶・商人	帰国後の円珍と天台山・長安の僧侶や貿易商との交流を概観する
13	日本と唐の関係・比較	入唐僧の活動から日本と唐の関係を考察する
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
佐伯有清『円珍』（吉川弘文館、1990年）
佐伯有清『智証大師伝の研究』（吉川弘文館、1989年）
小野勝年『入唐求法行歴の研究』上下（法蔵館、1982・83年）
園城寺編『園城寺文書　第一巻』（講談社、1998年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
道端良秀『中国仏教史全集　第一巻　中国仏教通史』（書苑、1985年）
鎌田茂雄『中国仏教史　第三巻　南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
鎌田茂雄『中国仏教史　第五巻　隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
藤善眞澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）

【成績評価の方法と基準】
①最終回の試験（50％）、②途中で実施する確認試験（30％）、③予習事項の紙面での提出（20％）。以上の３者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。（２）疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。（３）①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の４者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Enchin’s historical materials .
（Learning Objectives）
By the end of course,students should be to understand the followings: Through the travelogues written by monks who visited China from Japan, what is the religious, political, and social differences between ancient Japan and China.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Yuor study time will be more than four hours for a class.
（Granding Criteria/Policies）
Yuor overall grade in the class will be decided based on the following.Term-end examination :50 %, Short examination:50％.

HIS300LA（史学 / History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史Ａ　2017年度以降入学者

新崎　盛吾

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との国際関係、太平洋の島々との関わり、辺野古の新基地建設に反対する民意形勢の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の４人に１人が犠牲になる最も過酷な被害を受け、１９７２年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。日本政府は米軍基地の縮小に取り組むことを約束しましたが、米国のアジア戦略や米中関係が変化する中で基地が沖縄に集中する状況は変わらず、台湾有事への備えという名目で自衛隊の配備も進んでいます。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

【到達目標】
・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争後の米国施政下から現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教室でリアルタイムに受講する形式を基本とします。市ケ谷キャンパス以外の学生の履修や、部活・就活による欠席者らに配慮し、「Ｚｏｏｍ」で撮影した授業内容の映像を可能な限り後日配信します。毎回の授業後、感想や質問をリアクションペーパーで提出してもらい、次の授業に活用します。リアルタイムで受講できなかった学生がリアクションペーパーを提出した場合は、出席扱いとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史（1）	ドキュメンタリー動画などを参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史（2）	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、政府の対応に変化
6	１９９５年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑
7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の１５年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民党政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日本政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の４人に１人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化と日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史（1）	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	朝鮮半島の戦後史（2）	北朝鮮とはどのような国か。現地の映像を参考にして考察。
14	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・『いま沖縄をどう語るか～ジャーナリズムの現場から』　高文研、２０２４年

【参考書】
・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、２０１６年
・『観光コースでない沖縄・第５版』　高文研、２０２３年

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの提出、授業への参加度（５０％）
期末レポート（５０％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の６０％以上を達成した者を合格とする。
指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
共同通信の社会部系記者として約３０年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点から、日本の政治や国際情勢を巡る日々のニュースの見方なども示したいと考えています。
２０１４年から１６年まで、「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、今もメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んでいます。共同通信社に勤務する一方で、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に２回）や、出版社の「週刊金曜日」と連携して学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）なども主宰しています。
【その他の注意事項】
①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史Ｂ」の前提となるため、Ｂを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Through the current situation and history of Okinawa, which still hosts many U.S. military bases, students will learn about Japan's security policy, international relations with China and the Korean Peninsula, relations with the Pacific islands, and the process of forming public opinion against the construction of a new base in Henoko. Okinawa suffered the most severe damage during the Pacific War, with one in four prefecture residents killed, and was under U.S. administration until it was returned to Japan in 1972. The Japanese government has promised to work on reducing U.S. military bases, but the situation of bases concentrated in Okinawa remains unchanged despite changes in the U.S. Asia strategy and U.S.-China relations, and the deployment of the Self-Defense Forces is also progressing under the pretext of preparing for a Taiwan emergency. Learning about Okinawa should also be useful in understanding Japan's modern history and international relations with Asian countries.

HIS300LA（史学 / History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史Ｂ　2017年度以降入学者

水谷　明子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジア・太平洋地域には多くの島嶼および島嶼国家があります。この授業では、その中で特に、沖縄に注目します。沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

【到達目標】
「琉球処分」以降の沖縄近現代史を確認し、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、受講生それぞれの関心あるテーマについて、資料を通じて調査し、議論する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第2回	「琉球処分」ー東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」について内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第3回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティーの模索と思想・文化について考えます。
第4回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。
第5回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。
第6回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗う民衆運動の展開について確認します。
第7回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第8回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題についてリサーチテーマを検討します。
第9回	沖縄の課題（１）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第10回	現代沖縄の課題（２）：アジア・太平洋島嶼の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第11回	現代沖縄の課題（３）：アジア・太平洋島嶼の自然と環境	アジア・太平洋島嶼の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第12回	現代沖縄の課題（４）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第13回	現代沖縄の課題（５）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第14回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書く。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】
宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。
田仲康博『風景の裂け目―沖縄、占領の今―』せりか書房、2010年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。
屋嘉比収『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす－記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】
コメントシート（４０％）
レポート中間発表（３０％）
リサーチレポート（３０％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の ６０％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの文字数、枚数は、受講生の専門やリサーチテーマによって図表を用いるなどの場合を踏まえて、検討します。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic knowledge on the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879, and the ways to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific region, to the students taking this course. At the end of the course, students are expected to research and discuss some issues for their own interests. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time for students taking this course will be more than two hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end research report: 30％、Short presentation for the research report: 30％、comments to fill in every class: 40％

HIS300LA（史学 / History 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】
文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業の基本的な流れは、以下の通りである。
　ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために,随時,映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明、映像
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン、映像
3	1）「口絵・プロローグ」	学生によるテキストの報告、討論.
4	2）映像①	関連映像視聴、討論.
5	3）「密航1946年関釜の間の海～」	学生によるテキストの報告、討論.
6	4）映像②	関連映像視聴、討論.
7	5）「第1章植民地の子ども１朝鮮 1911-24　鯨の町長生浦～」	学生によるテキストの報告、討論.
8	6）映像③	関連映像視聴、討論.
9	7）「第1章植民地の子ども２日本 1924-44　関東大震災の横浜で～」	学生によるテキストの報告、討論.
10	8）映像④	関連映像視聴、討論.
11	9）「第1章植民地のこども３朝鮮 1944-46　朝鮮に逃げる～」	学生によるテキストの報告、討論.
12	10）「送還1946　失敗した密航～」	学生によるテキストの報告、討論.
13	資料館見学	資料館見学
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房　1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】
水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書　990円。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的な参加など授業への貢献度50％、プレゼンテーション・期末レポート50％。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】
秋学期に開講される教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.
< Learning Objectives>
The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report&Presentation : 50%,in-class contribution:50％.

HIS300LA（史学 / History 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】
文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために,随時,映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・在日コリアン概説	自己紹介、授業計画の説明、在日コリアン概説、映像。
2	1）「第2章洗濯屋の家族1尹紫遠（1）密航のち18年の人生～163Pまで）	戦後の在日コリアンの歴史。学生によるテキストの報告、映像、討論。
3	2）映像⑤	関連映像視聴、討論。
4	3）「第2章洗濯屋の家族1尹紫遠（2）横浜の検閲生活～（164P～）」	学生によるテキストの報告、討論。
5	4）映像⑥	関連映像視聴、討論。
6	5）「第2章2大津登志子 満州から38度線へ～」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	6）映像⑦	関連映像視聴、討論。
8	7）「第2章泰玄 money,money,money～」	学生によるテキストの報告、討論。
9	8）映像⑧	関連映像視聴、討論。
10	9）「第2章逸己　歴史を準備する人～」	学生によるテキストの報告、討論。
11	10）映像⑨	関連映像視聴、討論。
12	12）「エピローグ、補遺密航の時代」	学生によるテキストの報告、討論。
13	13）資料館見学	資料館見学
14	14）まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房　1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】
水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書　990円。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的な参加など授業への貢献度50％、プレゼンテーション・期末レポート50％。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】
春学期に開講された教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.
< Learning Objectives>
The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report&Presentation : 50%,in-class contribution:50％.

GDR300LA（ジェンダー / Gender 300）

クィア・スタディーズA

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**5/Thu.5
単位数：**2単位**
定員制（100）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。
私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動とLGBTQ＋運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】
１）クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
２）ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。
フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第2回	クィア・スタディーズとは何か？	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第3回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第4回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、#MeToo運動	90年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第5回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	LGBTQ運動の歴史を振り返る。
第6回	日本におけるLGBTQ運動	「府中青年の家」裁判について講義する。
第7回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	ダイバーシティについて考える	現代社会における多様性について考える。
第10回	インターセクショナリティ	インターセクショナリティとトランスジェンダー問題について考える。
第11回	カミングアウトとアウティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウティングについて考える。
第12回	クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第13回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー、レポート）対応など、準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
岩渕功一（編）『多様性との対話―ダイバーシティ推進が見えなくするもの』（青弓社年、2021年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 1』（晃洋書房、2019 年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 2』（晃洋書房、2022 年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 3』（晃洋書房、2023 年）
清水晶子『フェミニズムってなんですか?』（文春新書、2022 年）
周司あきら、高井ゆと里『トランスジェンダー入門』（集英社新書、2023年）
新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022 年）
森山至貴『ＬＧＢＴを読みとくークィア・スタディーズ入門ー』（ちくま新書、2017年）
トッド・マシュー『ヴィジュアル版　ＬＧＢＴＱ運動の歴史』（原書房、2022年）

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション：20%
中間試験：40%
学期末レポート：40％ (2,000文字程度)
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】
レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】
基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。
講義内容にセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.
We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.
In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ+ movements in Japan and around the world.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the following:
a) Have basic knowledge of queer studies.
b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:
Students are required to read the reference material by the next session and submit comment sheets (one to three hours for every session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%
Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.
Midterm exam: 40%
Final essay (1000-1500 characters): 40%

GDR300LA（ジェンダー / Gender 300）

クィア・スタディーズB

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**5/Thu.5
単位数：**2単位**
定員制（100）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】
1）フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
2）クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。
フィード゛バックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内て゛回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について講義する。
第2回	フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第3回	性暴力と文学	#MeToo運動と文学の関係について講義する。
第4回	文学とミソジニー	川上未映子「恥」や松田青子『おばちゃんたちのいるところ』を取り上げる。
第5回	トランスジェンダーの過去と現在	トランスジェンダーの歴史について講義する。
第6回	トランスジェンダー問題	トランスジェンダーの表象について考える。
第7回	ゲイ解放運動	映画におけるLGBT運動の表象について考える。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	アートと身体	アート作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第10回	ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ！』を取り上げる。
第11回	日本におけるレズビアンの歴史	レズビアンの可視性やその表象について講義する。
第12回	表象分析実践	『きのう何食べた？』（漫画と映画）と『作りたい女と食べたい女』（漫画とドラマ）についてグループでディスカッションを行う。
第13回	カミングアウトとアウティング	映像作品におけるカミングアウトとアウティングについて考える。
第14回	期末試験	第13回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー、レポート）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』（晃洋書房、2021年）
黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉？』（晃洋書房、2016年）
新ヶ江章友『クィア・アクティビズム　はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022年）
平林美都子『女同士の絆　レズビアン文学の行方』（彩流社、2020年）
森山至貴『LGBTを読みとく　クィア・スタディーズ入門』（筑摩書房、2017年）
マシュー・トッド『[ヴィジュアル版]LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）
Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション 20%
中間試験：40%
期末試験：40%
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】
授業内試験のためノートパソコンを用意してください。

【その他の重要事項】
基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。
講義内容や鑑賞作品などにセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】
In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, comics, etc.
Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the following:
a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.
b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.
Learning activities outside of the classroom:
Students must read the reference material by the next session and submit comment sheets (one to three hours for every session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%
Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.
Midterm exam: 40%
Final exam: 40%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

キリスト教思想史Ａ

2017年度以降入学者

鵜澤　和彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。春期授業（キリスト教思想史A）は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】
①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4回から5回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出でもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第2回	第1章　ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第3回	第2章　ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第4回	グループワークと質疑応答	第1章と第2章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第5回	第3章　教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第6回	第4章　アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。
第7回	第5章　中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。
第8回	第6章　中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。
第9回	グループワークと質疑応答	第3章から第6章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第10回	第7章　トマス・アクィナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恩恵と自由意志などについて学びます。
第11回	第8章　後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第12回	第9章　神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナールの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第13回	第10章　ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトラルカなどついて学びます。
第14回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】
金子 晴勇 (著)『ヨーロッパ思想史 ―理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、ISBN-13 : 978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】
若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13 : 978-4163909455、2019年、1850円

【成績評価の方法と基準】
①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】
病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】
その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】
What kind of beings are we as human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage that explores these fundamental questions of existence. This course examines this heritage from the perspectives of faith (believing) and reason (knowing). The course aims to:(1) Deepen students' understanding of Christian doctrine and its historical development. (2) Enhance comprehension of philosophical concepts closely related to Christianity. (3)

Explore Christianity's influence on politics, economics, society, and culture (including art and the liberal arts). Grading Criteria: (1) Evaluation of assignments submitted after each class. (2) Final report at the end of the semester. Each component (1) and (2) will account for 50%of the final grade, and students' overall performance will be assessed comprehensively. Preparation: Students should read the relevant sections of the textbook in advance. Additionally, they should use reference books to understand technical terms and key concepts (2 hours). Review: Students should go through the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). After each session, they must complete the assigned tasks using the class support system. Furthermore, they should summarize their thoughts on the topic, incorporating insights from discussions with other students (2 hours).

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

キリスト教思想史Ｂ

2017年度以降入学者

鵜澤　和彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業（キリスト教思想史B）は、ルネサンスと宗教改革から近代ヨーロッパ文学の人間観までを学びます。

【到達目標】
①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、3回から4回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次回の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第2回	第10章　ダンテと中世文学の思想	中世文学の歴史的展開、ダンテの『新生』『神曲』、ペトラルカの文学を学びます。
第3回	第11章　キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシリウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』を解説します。
第4回	グループワークと質疑応答	第10章と第11章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第5回	第12章　ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルターの信仰特質およびキリスト教的霊性の定義などについて説明します。
第6回	第13章　宗教改革から近代思想へ	プロテスタンティズムの歴史的な成果と残された問題などについて学びます。
第7回	第14章　近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第8回	第14章続き　パスカルと信仰	パスカルの生涯、決定的回心（メモリアル）、イエズス会との論争について学びます。
第9回	グループワークと質疑応答	第12章から第14章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第10回	第15章　啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライアマッハーの宗教論について解説します。
第11回	第16章　ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第12回	第17章　ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第13回	第18章　近代ヨーロッパ文学の人間観	中世から近代への歴史的変遷、近代ヨーロッパ文化および文学について学習します。
第14回	秋期授業のまとめと質疑応答	秋期授業の内容を振り帰った後で、第15章から第18章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】
金子 晴勇 (著)『ヨーロッパ思想史 ―理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、2021年、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】
若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、2019年、ISBN-13：978-4163909455、1850円

【成績評価の方法と基準】
①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】
病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】
その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】
This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. Scope of autumn classes: students will study everything from the Renaissance and Reformation to modern European literature's view of the human person.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).
Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

LIN300LA（言語学 / Linguistics 300）

異文化コミュニケーション論Ａ　2017年度以降入学者

山本　そのこ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。
この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】
①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
②自分が今まで意識していなかった文化（主に日本文化）を意識化、また相対化する。
③グローバル社会、多文化共生などについて、日本と他国の現状を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・第1～3回目は、講義形式。第14回目は期末試験を行う。
・第4～13回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
・Google Classroom を使って授業を行う。
連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主にGoogle Classroomを使い、Hoppiiは補助的な位置づけとなるので、履修が決定したらGoogle Classroomに登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ステレオタイプ①定義・要因・具体例	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート ・ステレオタイプとは
第2回	ステレオタイプ②メディア・個人的／社会的影響	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響 ・「差別」と「自己規制」 ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ③「日本人」についてのステレオタイプ	・日本と日本人のイメージ ・集団主義、年功序列、本音と建て前、男尊女卑など
第4回	異なる基準	・「美しさ」の基準 ・「恥ずかしさ」の基準
第5回	文化によって異なる色彩認識	・虹の色、太陽の色
第6回	カテゴリー分類	・「北京ダック」はアヒルかカモか？
第7回	日本語の諸問題①	・文法：統語法、品詞、人称、指示詞、感情表現
第8回	日本語の諸問題②表記	・ラジオ型言語とテレビ型言語 ・文字言語としての日本語と他言語との比較。 ・音声言語としての日本語と他言語との比較
第9回	言語とアイデンティティ	・母語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育
第10回	宗教観	・日本人の宗教観 ・無神論・一神論・多神論 ・新しい外来宗教との折り合い
第11回	住居と自然	・自然との闘い／自然との共存 ・日本住宅の特徴 ・都市計画、インフラ
第12回	日本の「文化多様性」	・マイノリティ問題（過去から現在まで）
第13回	世界の「文化多様性」	・グローバル化と固有文化の維持 ・世界の動向
第14回	期末試験	・第1～14回のまとめ試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでおくこと。
・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は5時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は60分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配付する。

【参考書】
今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書
鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
G.ドイッチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
R.E.ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度	15%
リアクションペーパー	15%
クイズ	10%
発表	20%
期末試験	40%

・4回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
・インターネット接続可能な機器：ＰＣ、タブレット端末、スマートフォン。
・期末試験時にはＰＣまたはタブレット端末
★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。
https://classroom.google.com/c/NzM3NTYxMzU4OTY1?cjc=zk5hfer
授業コード：zk5hfer

【その他の重要事項】
★受講希望者数によっては、第1回目（4月7日）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第1回目に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
(Outline)

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.
(Learning Objectives)
At the end of this course, students will be expected to realize how human recognition will be affected by languages and cultures, and to have better understanding of relativity of the cultures.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 40%
Presentation 20%
Reaction Paper Writing 15%
in class contribution 15%
Quiz 10%
＊Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA（言語学 / Linguistics 300）

異文化コミュニケーション論Ｂ　2017年度以降入学者

山本　そのこ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化してもいる。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。
この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。
★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】
①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
②異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・第1・2回目は講義と教室内活動中心。
・第3～13回は、指定の内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文化とコミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・文化モデルと主なコミュニケーション・モデル
第2回	非言語コミュニケーションとは	・非言語コミュニケーションの種類 対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	コミュニケーション・スタイル①　コンテキスト	・高コンテキスト文化と低コンテキスト文化 （学生発表と質疑応答。以下13回まで）
第4回	コミュニケーション・スタイル②　ターンテ-キングとパラ言語	・会話場面における」発話のターンの取り方の違い、文化差や特徴。 ・イントネーション、リズム、ポーズ、声質など、周辺言語の基本的知識と文化的な特徴
第5回	言語コミュニケーション①　褒め方・叱り方・謝り方	文化によって異なる「ほめ方・しかり方・謝り方」 ・ポライトネス理論の基本的概念
第6回	言語コミュニケーション②　誘い方と断り方	・「誘い方・断り方」に見られる文化差
第7回	言語コミュニケーション③　自己紹介と自己開示	・「自己紹介」の仕方と好まれる話題や態度。 ・「自己開示」の深さ、広さなどがコミュニケーションや対人関係に及ぼす影響と、文化的特徴。
第8回	非言語コミュニケーション①　表情・アイコンタクト	・人類共通の本能的、基本的な表情分析と、文化に依存する表情表現。 ・視線によるコミュニケーション、いわゆるアイコンタクトに見られる文化差。
第9回	非言語コミュニケーション②　しぐさとジェスチャー・タッチング	・異なる文化圏で見られる様々なしぐさやジェスチャー ・危険なしぐさ、あるいはコミュニケーションを円滑にするジェスチャーなどの具体例。 ・タッチングの文化差や性別、年令、人間関係による変化。
第10回	非言語コミュニケーション③　空間と対人距離、時間感覚	・ソーシャル・ディスタンスやパーソナルスペースなど、空間の扱いに見られる文化差。 ・対人距離がコミュニケーションに与える影響。 ・時間感覚の地域、時代、個人による差異。 ・ＭタイムとＰタイム
第11回	価値観	・基本的価値志向 ・ホフステードの6次元モデル ・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第12回	ジェンダーとLGBTQ	・偏見・差別と逆差別 ・幼少者への対応 ・日本と世界の動向
第13回	ポリティカル・コレクトネス	・メディア、行政、または個人による配慮とその影響 ・「多文化共生社会」におけるコミュニケーション
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配付する。

【参考書】
R.E.ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子　E.M.クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子　他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏　他『異文化コミュニケ－ションキーワード』有斐閣
E.ホール　『沈黙のことば－文化・行動・思考』南雲堂

宮津多美子『異文化コミュニケーション入門　ことばと文化の共感力』勁草書房
八島智子／久保田真弓『異文化コミュニケーション論　グローバル・マインドとローカル・アフェクト』松柏社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 15％
リアクションペーパー 15％
クイズ　10%
発表　20%
期末試験　40％

【学生の意見等からの気づき】
・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
・インターネット接続可能な機器：ＰＣ、タブレット端末、スマートフォン。
・期末試験時にはＰＣまたはタブレット端末
★授業の運営は、初回アンケートを含めてグーグルクラスルームで行うので、事前にグーグルクラスルームへの登録を行うこと。
https://classroom.google.com/c/NzQ5NTM0MDk1NjQ0?cjc=a5if4dd
授業コード：a5if4dd

【その他の重要事項】
・受講希望者数によっては、第1回目(9/22）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
・法政のメールアカウントをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】
(Outline)
This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.
(Learning Objectives)
At the end of this course, students will be expected to have knowledge of the basic terms, concepts and to be able to apply them for their real lives in the multicultural society.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 40%
Presentation　20%
Reaction Paper Writing 15%
in class contribution 15%
Quiz　10%
*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

矢澤　美佐紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**4/Thu.4
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、マンガや小説を通じて、主に女性作家が愛や性といった＜家族＞にまつわるジェンダーの問題や、労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の実相を考察することにあります。それは、社会における＜居場所さがし＞の軌跡に迫ることでもあり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。

受講人数によりますが、可能な限りグループワークを取り入れます。また、各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った女性史の内側や、文学史の外部を参照しながら、抑圧される側にとっての「書くこと」の意味を追求します。適宜、映画・ドラマなどの映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。受講人数によりますが対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

＊校外学習の日程に関しては、学生の予定を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業の目的、授業の進め方、成績のつけ方について
対面授業	池田理代子『ベルサイユのばら』	＜男装＞による居場所の追求 ・グループワークと意見交換
対面授業	手塚治虫『リボンの騎士』	＜男装＞の系譜を探る ・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『大奥』	男女逆転劇の真相を考察する ・グループワークと意見交換
対面授業	萩尾望都『あそび玉』	管理社会における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	小川洋子『密やかな結晶』	管理社会における居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	桐野夏生『日没』	管理社会における居場所さがし③ ・グループワークによる意見交換
対面授業	大島弓子『ロングロングケーキ』	＜病＞における居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	グループ発表のための準備	・作品を選んでグループワーク ・レジュメの作成
対面授業	グループ発表①	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表②	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表③	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	一葉記念館か自由学園へ校外学習	作品の時代的背景を学習する
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在ー貧困・労働・格差』（２０１６・４、菁柿堂）、『〔新編〕日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、２０２０・３、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む　愛・性・家族』（２００６・１０，東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史　現代編』（２００５・５、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（１９８７・８，吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表等の平常点が50％、期末レポートが50％とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料はできるだけ早めに配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline ： Considering modern Japanese sexual issues through women’s literature and comic.
Learning Objectives ： Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.
Learning activities outside of classroom ： Take two hours for review and preparation.
Grading Criteria /Policy ： Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

矢澤　美佐紀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**4/Thu.4
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、マンガや小説を通じて、主に女性作家が愛や性といった＜家族＞にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、社会における＜居場所さがし＞の軌跡に迫ることでもあり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。
　歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。
　各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】
ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。
　現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った経緯を女性史の内側や文学史の外部を参照しながら追求し、抑圧される側にとっての「書くこと」の意味を考えます。
　適宜、映画・ドラマ等の映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめた簡単なレジュメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するよう努めます。
＊校外学習の日程に関しては、学生の予定等を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業方法、成績のつけ方について／春学の振り返り／発表の分担を決める
対面授業	吉本ばなな『キッチン』	性の多様化における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	江國香織『きらきらひかる』	性の多様化における居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『きのう何食べた？』	性の多様化における居場所さがし③ ・グループワークと意見交換
対面授業	須藤佑実『夢の端々』	性の多様化における居場所さがし④ ・グループワークと意見交換
対面授業	津村記久子『ポトスライムの舟』	職場における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	小山田浩子『工場』	職場における居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	益田ミリ『すーちゃん』、『ツユクサナツコの一生』	職場における居場所さがし③ ・グループワークと意見交換
対面授業	村田沙耶香「無」（『絶縁』）	コロナ禍における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	川上未映子『春のこわいもの』	コロナ禍における居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	個人発表①	報告者による報告と討議
対面授業	個人発表②	報告者による報告と討議
対面授業	一葉記念館か自由学園を見学する	作品の背景を学習する
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 春秋学期を通じた振り返り 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
【予習】報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジュメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

【テキスト（教科書）】
取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】
矢澤美佐紀『女性文学の現在ー貧困・労働・格差』（２０１６・４、菁柿堂）、『［新編］日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、２０２０・３、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む　愛・性・家族』（２００６・１０，東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史　現代編』（２００５・５、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（１９８７・８，吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度とグループ発表の平常点が50％、期末レポートが50％とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業資料は事前にできるだけ早く配布します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】
Course outline ： Considering modern Japanese sexual issues through women’s literature and comic.
Learning Objectives ： Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.
Learning activities outside of classroom ： Take two hours for review and preparation.
Grading Criteria /Policy ： Normal score is 50%, term-end report is 50%.

HIS300LA（史学 / History 300）

イギリスと帝国Ａ

2017年度以降入学者

大澤　広晃

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**1/Wed.1
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
18世紀から20世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。イギリスの海外進出は、国内はもとより、世界各地にさまざまな影響を及ぼした。本授業では、18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史を考えてみたい。

【到達目標】
・18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史的特徴を理解する。
・帝国支配がイギリス国内と世界各地に与えた多様な影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	近世のイギリス帝国概観：アメリカ植民地の独立まで	18世紀末までのイギリス帝国の動向を概観する。
第3回	革命の時代の帝国	フランス革命の時代のイギリスと帝国について学ぶ。
第4回	奴隷制と奴隷貿易	19世紀初頭までの帝国を支えていた奴隷制と奴隷貿易について学ぶ。
第5回	奴隷貿易・奴隷制への反対運動	奴隷貿易と奴隷制への反対運動とその同時代的意義を学ぶ。
第6回	帝国の拡大と植民地自治	19世紀前半の帝国の拡大と植民地自治の発展について学ぶ。
第7回	インド	帝国の要であったインドとその支配について学ぶ。
第8回	非公式帝国	帝国を理解するうえで重要な非公式帝国という概念とその問題点を学ぶ。
第9回	帝国の支配者たち	帝国を支配した人々とその役割について学ぶ。
第10回	帝国の経済	帝国の経済構造について学ぶ。
第11回	支配の文化、文化の支配	帝国支配を文化の観点から学ぶ。
第12回	帝国とジェンダー	帝国支配をジェンダーの視点から学ぶ。
第13回	帝国主義の時代	帝国主義の時代におけるイギリスと帝国のありようを学び、授業内容を総括する。
第14回	授業内試験とまとめ	期末試験とまとめ及び解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】
川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年
秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012年

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50％
・期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the early 20th century. It analyzes the empire's entanglement with British domestic affairs as well as its impact on other parts of the world.
< Learning objectives >
1) Students are able to acquire basic knowledge about early modern and modern British imperial history.
2) Students are able to assess varied impact that the empire had on Britain and wider world.
< Learning activities outside of classroom >
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy >
Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

HIS300LA（史学 / History 300）

イギリスと帝国Ｂ

2017年度以降入学者

大澤　広晃

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**1/Wed.1
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近現代のイギリス帝国は、世界史の動向を大きく規定した。20世紀後半に帝国は崩壊したが、植民地支配の過去は現在の世界にも影響を及ぼし続けている。本授業では20世紀のイギリス帝国に焦点をあて、その歴史的意義を考えてみたい。

【到達目標】
・20世紀のイギリス帝国の特徴を理解する。
・現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。春学期に開講する「イギリスと帝国A」と内容面で連続性があるので、当該授業を履修したうえで登録することを強く勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	世紀転換期までのイギリス帝国	19～20世紀転換期までのイギリスと帝国についての概要を学ぶ。
第3回	南アフリカ戦争の時代①：イギリス国内への影響	南アフリカ戦争がイギリス国内に与えたインパクトを学ぶ。
第4回	南アフリカ戦争の時代②：帝国・国際関係の視点から	南アフリカ戦争をイギリス帝国と国際関係の視点から学ぶ。
第5回	第一次世界大戦とイギリス帝国	第一次世界大戦への植民地のかかわりを学ぶ。
第6回	植民地ナショナリズム	植民地支配に抵抗するナショナリズムの諸特徴を学ぶ。
第7回	中東のイギリス帝国	戦間期の中東地域におけるイギリスの支配について学ぶ。
第8回	イギリス帝国と日本	第二次世界大戦までのイギリス帝国と日本の関係について学ぶ。
第9回	コモンウェルスの形成	コモンウェルスの形成過程を学ぶ。
第10回	第二次世界大戦とイギリス帝国	第二次世界大戦期のイギリス帝国について学ぶ。
第11回	帝国＝コモンウェルス体制の変容と脱植民地化	脱植民地化とコモンウェルスの変容について学ぶ。
第12回	帝国のほころび	20世紀後半における帝国の崩壊について学ぶ。
第13回	帝国支配の過去と現在	帝国支配の過去が現在のイギリスと旧植民地にどのような影響を及ぼしているかを学び、授業内容を総括する。
第14回	授業内試験とまとめ	期末試験とまとめ及び解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】
川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年
小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012年

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50％
・期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course explores the history of the British empire in the 20th century. It analyzes the empire's structures, decline, and continued impact on the contemporary world.
< Learning objectives >
1) Students are able acquire basic knowledge about modern and contemporary British imperial history.
2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British empire.
< Learning activities outside of classroom >
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy >
Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

LANj300LA（日本語 / Japanese language education 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

副島　健作

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**1/Tue.1
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り，全体を概観する。
・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ，何をどう教えるかを考える。
・自分自身が身につけている言語観，教育観，学習スタイルをふりかえり，時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて，よりよい教育方法について考察する。

【到達目標】
(1)日本語教育とはどのような分野であるのか理解し，具体的にイメージできる。
(2)日本語や日本社会を日本語教育の視点で，客観的に捉えることができる。
(3)日本語教育の意義，社会における役割について理解し，自分のことばで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し，クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。
　課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本語教育の特色	社会における日本語教育の意義・役割について考える。
第2回	日本語教育を取り巻く社会情勢	世界の日本語教育事情と日本の留学生政策について概観する。
第3回	母語の学習と外国語学習	第二言語習得と第一言語習得の違いについて理解する。
第4回	日本語の音の特徴とその指導	音声学と音韻論について概観し，日本語の音の特徴について理解する。
第5回	日本語の文字・語彙とその指導	文字・語彙論について概観し，日本語の音の特徴について理解する。
第6回	動詞の活用と初級文型	日本語の動詞の活用の説明について，国語文法と日本語教育でどう違うかを理解する。
第7回	初級の文型の導入とドリル	初修学習者に日本語を教える場合，どんな文型をどんな順序で教えるかを考える。
第8回	シラバスとコースデザイン	シラバスの種類を知るとともに，コースがどうやってデザインされるかを理解する。
第9回	教授法について	どんな教授法があるかや，歴史的変遷や理論，特色ある指導法などについて学ぶ。
第10回	教室活動と授業計画の立て方	現場でどのような教室活動が行われているか，また，1つ1つの授業がどのように計画されるのかを学ぶ。
第11回	各国の日本語教育についての発表-東アジア・東南アジア	東アジア・東南アジアの国・地域の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第12回	各国の日本語教育についての発表-オセアニア・南米	オセアニア・南米の国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第13回	各国の日本語教育についての発表-ヨーロッパ・アメリカ	ヨーロッパ・アメリカの国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第14回	討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
設定されたテーマに関して，自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】
田中望(1988)『日本語教育の方法―コース・デザインの実際―』大修館書店
縫部義憲（1991）『日本語教育学入門』創拓社
石田敏子(1998)『日本語教授法』大修館書店
高見澤孟(2004)『新・はじめての日本語教育２・日本語教授法入門』アスク
川口義一・横溝紳一郎（2005）『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】
期末試験（40％）
発表のパフォーマンス（25％）
受講態度 (議論への積極的参加など)（20％）
課題提出（15％）
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】
日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば，積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで，授業内容がより深く理解でき，更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.
　It also provides an opportunity for students to reflect on their own views of language, education, and learning styles, and to consider better teaching methods based on the current state of Japanese language education, which has changed in response to the needs of the times.
【Learning Objectives】
After completing this course, students will be able to:
(1) understand what kind of field Japanese language education is and to be able to visualize it concretely.
(2) see Japanese language and Japanese society objectively from the perspective of Japanese language education.
(3) understand the significance of Japanese language teaching and its role in society, and explain it in one's own words.
【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final examination (40%)

Presentation performance (25%)

Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)

Submission of assignments (15%)

Based on this grading system, students who have achieved at least 60%of the course objectives will be considered to have passed the course.

LANj300LA（日本語 / Japanese language education 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

副島　健作

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**1/Tue.1
単位数：**2単位**
定員制
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り，全体を概観する。
・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ，何をどう教えるかを考える。
・学習者主体の授業とはどういうものかを検討し，時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて，具体的に日本語の教材作成や授業実践について考える。

【到達目標】
(1)外国語としての日本語を教えるにはどのような教室運営がなされ，そこではどのような教材が望ましいかを理解できる。
(2)学習者に合ったカリキュラム設定を行い，具体的な授業計画を立て，教材選定，教材作成ができる。
(3)日本語の授業で，文法の導入・説明を適切に行い，定着を図るタスクを効果的にできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し，クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。
　課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本語教育の歴史	日本語教育の歴史について概観する。
第2回	学習者中心の指導法	学習者中心の指導法とはどういうものかについて考える。
第3回	教材・教具	日本語を教える際に使用される教材や教具の特徴について理解する。
第4回	直接法による教え方	日本語を日本で直接教える方法とはどういうものか理解する。
第5回	タスク中心の指導法	実際に教える時に使われるタスクにはどのようなものがあるか概観するとともに，タスク中心の指導法について理解する。
第6回	初級と中・上級	学習者のレベルによって教え方がどう違うかを考える。
第7回	作文指導	作文，ライティング能力の向上のためにどんな指導法があるかをみて，効果的な方法を考える。
第8回	読解指導	読解力向上のためのどんな指導法があるかをみて，効果的な方法を考える。
第9回	会話の指導	会話やスピーチ能力の向上のためのどんな指導法があるかをみて，効果的な方法を考える。
第10回	スピーチの指導	コミュニケーションの4つの要素について考え，授業内での活動を実際のコミュニケーションにできるだけ近づける工夫をする。
第11回	視聴覚教材の使い方	視聴覚教材の効果的な使い方について考える。
第12回	教材作成の実践	教材の自作方法の基本を知り，受講生自ら教材を作成してみる。
第13回	作成教材を用いた模擬授業	受講生が自ら作成した教材を使って，実際に日本語を教えてみる。
第14回	討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
設定されたテーマに関して，自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】
田中望(1988)『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店
縫部義憲（1991）『日本語教育学入門』創拓社
石田敏子(1998)『日本語教授法』大修館書店
高見澤孟(2004)『新・はじめての日本語教育２・日本語教授法入門』アスク
川口義一・横溝紳一郎（2005）『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】
期末試験（40％）
発表のパフォーマンス（25％）
受講態度 (議論への積極的参加など)（20％）
課題提出（15％）
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば，積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで，授業内容がより深く理解でき，更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.
　It also provides an opportunity for students to examine what learner-centered classrooms are, and to consider the creation of Japanese language teaching materials and class practices based on the current state of Japanese language education, which has been changing in accordance with the needs of the times.
【Learning Objectives】
(1) understand what kind of classroom management and what kind of teaching materials are desirable for teaching Japanese as a foreign language.
(2) set up a curriculum suited to the learners, make concrete lesson plans, select teaching materials, and create teaching materials.
(3) to introduce and explain grammar appropriately in Japanese classes and effectively perform tasks to ensure retention.

【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.
　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Final examination (40%)
Presentation performance (25%)
Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)
Submission of assignments (15%)
Based on this grading system, students who have achieved at least 60%of the course objectives will be considered to have passed the course.

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

徳と倫理Ａ

2017年度以降入学者

内山　真莉子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**5/Fri.5
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。
西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。春学期はその中でも古代・中世に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていく。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】
・古代・中世における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	倫理学とは
第2回	ソクラテスとプラトン①	徳と知
第3回	ソクラテスとプラトン②	善とイデア
第4回	アリストテレス①	徳と善と幸福
第5回	アリストテレス②	善と社会
第6回	エピクロス	快と幸福
第7回	ストア派	自然本性と懐疑
第8回	アウグスティヌス①	善く生きること
第9回	アウグスティヌス②	罪と自由
第10回	トマス・アクィナス①	徳と神と愛
第11回	トマス・アクィナス②	善と幸福
第12回	救済論	徳と死生観
第13回	スコトゥス／オッカム	理性と信仰
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】
『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編、ミネルヴァ書房、1996年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標に即して、以下の２項目にて評価する。
①授業最終回の論述試験：60％
②リアクションペーパーの内容：40％

【学生の意見等からの気づき】
板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concepts to focus on are "virtue" and "goodness."
【Learning Objectives】
This course aims to deepen your understanding of ethical thought in ancient and medieval times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.
You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%,　Reaction papers: 40%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

徳と倫理Ｂ

2017年度以降入学者

内山　真莉子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**5/Fri.5
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。
西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。秋学期はその中でも近世～現代に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていくのだが、とりわけ「徳倫理学」について重点的に扱う。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】
・近世～現代における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	徳倫理学とは
第2回	ルターと信仰	自由意志と奴隷的意志
第3回	ヒュームと徳	人間本性と道徳原理
第4回	義務倫理	カントの自律
第5回	功利主義	幸福と利益
第6回	ムーアとメタ倫理学	自然主義的誤謬
第7回	エイヤーと倫理的判断	情緒主義
第8回	アンスコムと徳①	道徳哲学の有益性について
第9回	アンスコムと徳②	行為と意図
第10回	マッキンタイアと徳	倫理思想の歴史
第11回	ロールズと正義	善と正
第12回	共同体主義と徳	個人は共同体に先立つか
第13回	現代の徳倫理学	アリストテレスへの回帰
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】
『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
ダニエル・C・ラッセル編『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』立花幸司監訳、春秋社、2015年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標に即して、以下の２項目にて評価する。
①授業最終回の論述試験：60％
②リアクションペーパーの内容：40％

【学生の意見等からの気づき】
板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concept to focus on is virtue ethics.
【Learning Objectives】
This course aims to deepen your understanding of ethical thought from early modern to modern times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.
You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%,　Reaction papers: 40%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

人間存在論Ａ

2017年度以降入学者

森村　修

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】
本科目「人間存在論Ａ」〔哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ａ」では、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。
第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心にして考察する。
おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラー、スラヴォイ・ジジェク、カトリーヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理学的に考察する。

【到達目標】
①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・基本的には、講義形式で行う。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	構造主義とポスト構造主義①	第一章　構造主義を振り返る① 1.サルトルと実存主義
3	構造主義とポスト構造主義②	第一章　構造主義を振り返る② 2.レヴィ=ストロースと構造主義の登場
4	構造主義とポスト構造主義③	第一章　構造主義を振り返る③ 3.ジャック・ラカンと精神分析
5	構造主義とポスト構造主義④	第一章　構造主義を振り返る④ 4.ルイ・アルチュセールとマルクス主義哲学
6	構造主義とポスト構造主義⑤	第二章　構造主義からポスト構造主義へ① 1.「ポスト構造主義」の誕生
7	構造主義とポスト構造主義⑥	第二章　構造主義からポスト構造主義へ② 2.ロラン・バルト——現代の神話とテクスト理論
8	構造主義とポスト構造主義⑦	第二章　構造主義からポスト構造主義へ③ 3.フーコーと「知の考古学」
9	構造主義とポスト構造主義⑧	第二章　構造主義からポスト構造主義へ④ 4.フーコーの権力論
10	構造主義とポスト構造主義⑨	第二章　構造主義からポスト構造主義へ⑤ 5.デリダの脱構築論
11	構造主義とポスト構造主義⑩	第二章　構造主義からポスト構造主義へ⑥ 6.デリダの「倫理的転回」
12	構造主義とポスト構造主義⑪	第二章　構造主義からポスト構造主義へ⑦ 7.ドゥルーズの「差異の哲学」
13	構造主義とポスト構造主義⑫	第二章　構造主義からポスト構造主義へ⑧ 8.ドゥルーズの生成の哲学
14	ポスト構造主義とは何だったのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）としては使わないが、授業に際して主に参照する書籍
① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
② 岡本裕一朗『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】
①船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
②船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
③川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年
④鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年（これは、あくまで参考書）

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
（2）期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・秋学期科目「人間存在論Ｂ」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ｂ）」と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。
・また**「受講上の注意」**として、**秋学期科目「人間存在論Ｂ」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ｂ」については、選抜試験で「人間存在論Ａ」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ａ」の受講許可のある学生のみが登録・履修できる**ことに注意してもらいたい

【受講上の注意】
・本授業は、**定員（30名）**が決められている。**初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。**
・初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】

In this course "Human Ontology A" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) A"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Ž i ž ek, Catherine Marabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

人間存在論Ｂ

2017年度以降入学者

森村　修

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】
本科目「人間存在論Ｂ」〔哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ｂ」は、春学期科目「人間存在論Ａ」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ａ」との連続性がある科目である。「人間存在論Ａ」と同様に、いわゆる**「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する**。
第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心にして考察する。
おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラー、スラヴォイ・ジジェク、カトリーヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理学的に考察する。

【到達目標】
①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・基本的には、講義形式と演習形式の双方で行うことを考えている。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	転換点としての80年代①	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か① 1.リオタールとポストモダン
3	転換点としての80年代②	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か② 2.リオタールの哲学
4	転換点としての80年代③	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か③ 3.ボードリヤールとシミュレーション
5	転換点としての80年代④	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か④ 4.ボードリヤールの「象徴交換と死」
6	転換点としての80年代⑤	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か⑤ 5.ドゥルーズ&ガタリの「アンチ・オイディプス」
7	転換点としての80年代⑥	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か⑥ 6.ドゥルーズ&ガタリの「ミル・プラトー」①
8	転換点としての80年代⑦	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か⑦ 3.フーコーの生権力論
9	変容する社会①	第四章　ジェンダー／フェミニズム思想① 1.ボーヴォワールとフェミニズム 2.イリガライの性的差異の倫理
10	変容する社会②	第四章　ジェンダー／フェミニズム思想② 3.シクスーとエクリチュール・フェミニン 4.クリステヴァと母性の思想
11	変容する社会③	第四章　ジェンダー／フェミニズム思想③ 5.マラブーと社会的トラウマ 6.プレシアドの自然的な性の批判
12	哲学の最前線？ ①	哲学研究の継承と刷新① 1.メイヤスーと思弁的実在論 2.グレアム・ハーマンのオブジェクト指向存在論
13	哲学の最前線？ ②	哲学研究の継承と刷新② 3.バディウと数学的存在論——60年代の回帰
14	哲学に最先端はあるのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）としては使わないが、授業に際して主に参照する書籍
① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
② 岡本裕一朗『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】
①船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
②船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
③川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年
④鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年（これは、あくまで参考書）

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
（2）期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・秋学期科目「人間存在論Ａ」（哲学科専門科目「人間学**5**（人間存在論）Ａ）」と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。
・また「**受講上の注意**」として、**春学期科目「人間存在論Ａ」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ａ」を受講・登録していない学生で、春学期最初の授業で選抜試験を受けておらず、授業担当者から受講許可がない場合は、当該科目「人間存在論Ｂ」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ｂ」の受講登録・履修できない**ので、注意してもらいたい。

【受講上の注意】
・本授業は、**定員（30名）**が決められている。**「人間存在論Ａ」の初回の授業で、選抜試験を合格し、授業担当者から受講許可がある学生のみが受講登録できる。**
・春学期「人間存在論Ａ」の試験を未受験の人は、受講登録できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this course "Human Ontology B" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) B"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.
【Course Objectives】
Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.
We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Ž i ž ek, Catherine Marabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

LAW300LA（法学 / law 300）

法哲学 A

2017年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。
主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。
秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】
①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
②現代社会の具体的課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。
授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法哲学を学ぶにあたって	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何か
第3回	格差問題のポイント	現代日本の格差の概況とその論点について
第4回	法哲学の基本的視点（1）	自由主義と平等主義の関係について
第5回	法哲学の基本的視点（2）	格差問題に関する法哲学的考察について
第6回	ドーピングは禁止すべきか？（1）	ドーピングをめぐる現状について
第7回	ドーピングは禁止すべきか？（2）	ドーピングを禁止する根拠の検討について
第8回	ドーピングは禁止すべきか？（3）	ドーピングと個人の自由について
第9回	ドーピングは禁止すべきか？（4）	卓越主義と中立性原理について
第10回	臓器売買は許されるべきか？（1）	臓器売買規制の現状について
第11回	臓器売買は許されるべきか？（2）	臓器売買反対論の検討について
第12回	臓器売買は許されるべきか？（3）	臓器売買容認論について
第13回	臓器売買は許されるべきか？（4）	自分の身体に対する所有権について
第14回	臓器売買は許されるべきか？（5）	自己所有権の限界について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト（教科書）】
瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

【参考書】
深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）
宇佐美誠・児玉聡：井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）
森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）
森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年）
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80％、コメント等：20％の予定。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】
履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。
秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学A」受講者には、秋学期の「法哲学B」の履修を優先的に認める。）
あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.
（Learning Objectives）
The goals of this course are is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, studenats are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

LAW300LA（法学 / law 300）

法哲学 B

2017年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。
主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。
春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」とあわせて履修すること。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】
①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
②現代社会の具体的課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。
授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	裁判員制度は廃止すべきか？（1）	裁判員制度の現状について
第3回	裁判員制度は廃止すべきか？（2）	裁判員制度への批判について
第4回	裁判員制度は廃止すべきか？（3）	裁判員の負担について
第5回	裁判員制度は廃止すべきか？（4）	刑事裁判の量刑の公平性について
第6回	裁判員制度は廃止すべきか？（5）	裁判員制度と死刑の関係について
第7回	裁判員制度は廃止すべきか？（6）	裁判員制度の正当化根拠について
第8回	児童手当は独身者差別か？（1）	子育て支援の現状について
第9回	児童手当は独身者差別か？（2）	児童手当の法哲学的問題点について
第10回	児童手当は独身者差別か？（3）	子育て支援制度の根拠について
第11回	児童手当は独身者差別か？（4）	ロールズの正義論について
第12回	児童手当は独身者差別か？（5）	ロールズの正義論の問題点について
第13回	児童手当は独身者差別か？（6）	リベラリズムとリバタリアニズムと功利主義の対比について
第14回	論点の総括	課題・提出物についての全体的フォローアップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト（教科書）】
瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

【参考書】
深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）
宇佐美誠・児玉聡：井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）
森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）
森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年）
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80％、コメント等：20％の予定。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】
履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。
春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」をあわせて履修すること。（履修者の選抜・決定にあたっては、春学期の「法哲学A」を受講済みの学生を優先する。）
あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.
（Learning Objectives）
The goals of this course are is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, studenats are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

POL300LA（政治学 / Politics 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

坂根　徹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火5**/Tue.5
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本教養ゼミⅠ（囲碁で培う戦略的思考）では、囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を学び、対局の流れを理解する。そして、このように囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を身に着けることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】
囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を理解し、初学者用の碁盤での対局ができるようになることや、それらを通して、戦略的な思考力を身に着けること、及び、囲碁の歴史や現在の囲碁事情を理解することや、それらの学習成果を確認し学期末に行う各自の関心に基づく関係の発表が実施できることなどが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ガイダンスで本ゼミの説明（及び教養ゼミⅠの履修がない秋学期からの新規履修希望者多数の場合は選考又はその準備など）を実施した後、受講者を確定させる。その後囲碁の基本ルールを学び、初学者用の碁盤での対局の流れと基本的戦略（初歩的技術）等を学ぶ。最後に、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表を実施する。なお、発表に対しては授業内で検討・議論・講評等を行う。
以下の計画は、実際のゼミの進度や履修者数をはじめとした諸状況により修正・変更されることがありえる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本ゼミの説明（及び新規履修希望者多数の場合は選考又はその準備）
第2回	囲碁の歴史	囲碁の歴史についての概説
第3回	テキストの概説と効果的な時間外学習方法の紹介	テキストの概要の説明と効果的な時間外学習方法の紹介
第4回	囲碁の基本ルールと6路盤による学習の基本１	囲碁の基本ルールの解説と6路盤による学習の基本についての解説の開始
第5回	6路盤による学習の基本２	6路盤による学習の基本についての解説の継続
第6回	6路盤による学習・実践等	6路盤による学習・実践等
第7回	9路盤による学習の基本	9路盤による学習の基本についての解説
第8回	9路盤による学習・実践等１	9路盤による学習・実践の開始
第9回	9路盤による学習・実践等２	9路盤による学習・実践の継続
第10回	9路盤による学習・実践等３	9路盤による学習・実践の継続とまとめ
第11回	期末プレゼンテーションに向けた検討	9路盤による学習・実践等を踏まえた期末プレゼンテーションに向けた進捗状況や課題の検討
第12回	期末プレゼンテーション１	期末プレゼンテーションの開始
第13回	期末プレゼンテーション２	期末プレゼンテーションの継続
第14回	期末プレゼンテーション３	期末プレゼンテーションの継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
出された課題の準備・実施や教科書などによる学習をはじめとした時間外の学習が求められる。本演習の準備・復習に要する時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
石倉昇,梅沢由香里,黒瀧正憲,兵頭俊夫『東大教養囲碁講座―ゼロからわかりやすく』光文社, 2007年.

【参考書】
日本棋院『実践囲碁総合演習―入門その後に完全対応』日本棋院, 2014年.
藁科満治『囲碁文化の魅力と効用』日本評論社, 2008年.

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況や参加度などの平常点（60%）と期末プレゼンテーション（40%）.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
囲碁を学んだことがない又は学び始めて間もないなどの初学者が対象になる。履修を検討する者は、初回のガイダンスに必ず出席して説明を受け、履修希望の是非を決める。
本科目の定員は20名である。履修希望者多数の場合は、初回のガイダンスを含めて選考が実施され、第２回目までに履修者が確定される。本科目の履修登録は、履修者として確定してから実施されたい。

【Outline (in English)】
Main theme of this course is to learn the rules and basic strategies of Igo. By taking this course, students are expected to acquire strategic thinking. In addition, students are also expected to nourish presentation skills.
In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.
Grading will be decided based on in-class performance and contribution (60%) and final presentations (40%).

POL300LA（政治学 / Politics 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

坂根　徹

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**5/Tue.5
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本教養ゼミⅡ（囲碁で培う戦略的思考）では、春学期の教養ゼミⅠに続き、19路盤で学習・実践していくこと等を通して、布石を含めて春学期よりも発展的な囲碁の基本的戦略等への理解を深めていく。そして、このように囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を更に身に着けることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】
理解した囲碁のルールを用いて先学期よりも発展した学習・実践を通して、戦略的な思考力を身に着けることや、それらの学習成果を確認し学期末に行う各自の関心に基づく関係の発表が実施できることなどが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ガイダンスで本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備など）を実施した後、受講者を確定させる。その後19路盤による対局の流れと基本的及び発展的戦略等を学ぶ。最後に、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表を実施する。なお、発表に対しては授業内で検討・議論・講評等を行う。
以下の計画は、実際のゼミの進度や履修者数をはじめとした諸状況により修正・変更されることがありえる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備）
第2回	19路盤による学習の基礎的解説	19路盤による学習の基礎的学習の解説
第3回	19路盤による基礎的学習・実践等	19路盤による基礎的学習・実践
第4回	19路盤による学習の解説	基礎的学習・実践等を踏まえた19路盤による学習の解説
第5回	19路盤による学習・実践等１	19路盤による学習の解説を踏まえた19路盤による学習・実践の開始
第6回	19路盤による学習・実践等２	19路盤による学習の解説を踏まえた19路盤による学習・実践の継続
第7回	19路盤による学習の発展的解説	19路盤による学習の発展的解説
第8回	19路盤による発展的学習・実践等１	19路盤による発展的学習・実践の開始
第9回	19路盤による発展的学習・実践等２	19路盤による発展的学習・実践の継続
第10回	期末プレゼンテーションに向けた検討	19路盤による学習・実践等を踏まえた期末プレゼンテーションに向けた進捗状況や課題の検討
第11回	19路盤による発展的学習・実践等３	19路盤による発展的学習・実践の継続とまとめ
第12回	期末プレゼンテーション１	期末プレゼンテーションの開始
第13回	期末プレゼンテーション２	期末プレゼンテーションの継続
第14回	期末プレゼンテーション３	期末プレゼンテーションの継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
出された課題の準備・実施や教科書などによる学習をはじめとした時間外の学習が求められる。本演習の準備・復習に要する時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
石倉昇,梅沢由香里,黒瀧正憲,兵頭俊夫『東大教養囲碁講座―ゼロからわかりやすく』光文社, 2007年.

【参考書】
日本棋院『実践囲碁総合演習―入門その後に完全対応』日本棋院, 2014年.
藁科満治『囲碁文化の魅力と効用』日本評論社, 2008年.

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況や参加度などの平常点（60%）と期末プレゼンテーション（40%）.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
原則として、春学期に実施された本科目のⅠを履修した学生による継続履修が想定されている。Ⅰを履修していない学生の場合、囲碁の基本的なルールを理解し、19路盤での学習ができる、囲碁の初学者に限り、定員の20名に余裕があれば、これを受け入れることはありうる。

【Outline (in English)】
Main theme of this course is to learn advanced basic strategies of Igo based on study during spring semester. By taking this course, students are expected to acquire strategic thinking. In addition, students are also expected to nourish presentation skills.
In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.
Grading will be decided based on in-class performance and contribution (60%) and final presentations (40%).

HUG300LA（人文地理学 / Human geography 300）

人文地理学セミナーA

2017年度以降入学者

増淵　敏之

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的にいえば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】
到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。
The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。
We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/Guidance.	ガイダンス/Guidance.
第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.
第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面/Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/RyotaroShiba and ShoheiFujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata.	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出/Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象/The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」「First love 初恋」/Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介/Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考/Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興/"Girls &Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！ サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る/Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。
Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。
The class will focus on the resume.

【参考書】
「物語を旅するひとびと」増淵敏之,彩流社
「物語を旅するひとびと2」増淵敏之,彩流社
"People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha
"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％
30%for regular classes, 70%for reports

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。
There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】
映像を使用することもある。
Sometimes video is used.

【その他の重要事項】
基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16－18時。
Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞＜研究テーマ＞＜主要研究業績＞

【文化地理学】
・『路地裏が文化を生む!: 細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】
・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

【地域振興】
・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】
・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】
Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA（人文地理学 / Human geography 300）

人文地理学セミナーA

増淵　敏之

授業コード：Q6209　｜　曜日・時限：**月3/Mon.3**
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：**地理学科2～4年年**
備考（履修条件等）：**地理学科生は選択科目として履修する**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的にいえば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】
到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。
The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。
We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/Guidance.	ガイダンス/Guidance.
第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.
第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面/Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/RyotaroShiba and ShoheiFujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata.	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出/Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象/The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」「First love 初恋」/Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介/Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考/Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興/"Girls &Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！ サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る/Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。
Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。
The class will focus on the resume.

【参考書】
「物語を旅するひとびと」増淵敏之,彩流社
「物語を旅するひとびと2」増淵敏之,彩流社
"People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha
"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％
30%for regular classes, 70%for reports

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。
There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】
映像を使用することもある。
Sometimes video is used.

【その他の重要事項】
基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16－18時。
Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞＜研究テーマ＞＜主要研究業績＞

【文化地理学】
・『路地裏が文化を生む!: 細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】
・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

【地域振興】
・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】
・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】
Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA（人文地理学 / Human geography 300）

人文地理学セミナーB

増淵　敏之

授業コード：Q6210　｜　曜日・時限：**月3/Mon.3**
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：**地理学科2～4年年**
備考（履修条件等）：**地理学科生は選択科目として履修する**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにしすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用の方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】
・セミナーAの発展的授業です。
・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
・This is an advanced seminarA class.
・Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
・Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
・We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。
Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/guidance	授業の概要/Class outline
第2回	取り巻く環境の変化/Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済，社会状況の変化についての説明/Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content
第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象/Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ/Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ/Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化/Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介/Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Uonuma, Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来）/Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習、復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。
Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】
特にありません。PP（授業資料）を配布します。
Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】
増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社
増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社
Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。
Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】
前年度アンケートを授業に反映させていく。
The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。
Nothing in particular.

【その他の重要事項】
・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
・オフィスアワー月曜日16－18時
・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
・We recommend taking Seminar A before taking this class.
・Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
・As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞＜研究テーマ＞＜主要研究業績＞

【文化地理学】
・『路地裏が文化を生む!: 細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】
・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

【地域振興】
・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】
・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】
The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

HUG300LA（人文地理学 / Human geography 300）

人文地理学セミナーB

2017年度以降入学者

増淵　敏之

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにしすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用の方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】
・セミナーAの発展的授業です。
・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
・This is an advanced seminarA class.
・Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
・Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
・We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。
Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/guidance	授業の概要/Class outline
第2回	取り巻く環境の変化/Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済，社会状況の変化についての説明/Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content
第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象/Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ/Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ/Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化/Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介/Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Uonuma, Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来）/Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習、復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。
Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】
特にありません。PP（授業資料）を配布します。
Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】
増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社
増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社
Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。
Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】
前年度アンケートを授業に反映させていく。
The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。
Nothing in particular.

【その他の重要事項】
・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
・オフィスアワー月曜日16－18時
・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
・We recommend taking Seminar A before taking this class.
・Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
・As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞＜研究テーマ＞＜主要研究業績＞

【文化地理学】
・『路地裏が文化を生む!: 細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】
・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

【地域振興】
・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】
・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】
The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

CUA300LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

文化人類学方法論 A

2017年度以降入学者

菊池　真理

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、私たちの日常生活の場における、他者や自然や世界についての別様の「しり方」とその表現を学ぶ。自らに対する感受性を麻痺させること（自分に対する抑圧者になること）と、様々な形の暴力の問題（植民主義／開発や自然環境破壊など）との結びつきについて学ぶ。日々の暮らしの中で自分自身への感性を取り戻すことで、他者への感受性や想像力を育むことはますます重要になっている。国内外の様々な文芸作品や映像などに触れながら、自分や世界に対する感性の回復を試み、それを足場にして自他を理解する人類学の可能性を探る。思考や分析によってのみならず、感じることや「他者」に圧倒されること、自己変容することを通じて、他者や世界、そして自分を「しる」方法を学ぶ。

【到達目標】
・自然と人間との関わり方について、異なる文化や社会の人々の視点や、環境破壊の現場を生きる人々の思想から理解できる。
・自分に対する感性の摩耗と、植民主義／開発や自然環境破壊とが地続きであることが理解できる。
・自然とのつながりの回復を通じて、自分自身とのつながりを取り戻すという経験について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッションの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	アラスカ先住民の世界①	・アラスカ先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第3回	アラスカ先住民の世界②	・写真家・星野道夫の作品を朗読 ・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション
第4回	アラスカ先住民の世界③	・写真家・星野道夫の作品を朗読 ・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション
第5回	北米先住民と植物の世界①	・北米先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第6回	北米先住民と植物の世界②わたしたちが享受するもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第7回	北米先住民と植物の世界③わたしたちがお返しするもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第8回	水俣病の思想 ①	・水俣病についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第9回	水俣病の思想②近代とシステム社会、「加害者」／「被害者」	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてデスカッション
第10回	水俣病の思想 ③ 魂のゆくえと救済、命のふるさと／おのれに還る	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてデスカッション
第11回	自然と自分に対する感性を取り戻す①	・文献発表、ディスカッション ・R. カーソン『沈黙の春』
第12回	自然と自分に対する感性を取り戻す②	・R. カーソン『センス・オブ・ワンダー』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第13回	自然と自分に対する感性を取り戻す③	・映像鑑賞とディスカッション
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表、朗読に使用する文献やテキストの予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず熟読）。
・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
・本授業の準備学修・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・緒方正人. 2020『チッソは私であった 水俣病の思想』河出書房新社.
・キマラー, R. W. 2018『植物と叡智の守り人:ネイティブアメリカンの植物学者が語る科学・癒やし・伝承』三木直子訳 築地書館.
・星野道夫.
1998『イニュニック』新潮社.
2000『ノーザンライツ』新潮社.
・Carson, R.
1962 Silent Spring, Houghton Mifflin. (『沈黙の春』渡辺政隆訳 光文社)
1965 The Sense of Wonder: A Celebration of Nature for Parents and Children, Harper &Row.（『センス・オブ・ワンダー』新潮社 上遠恵子訳）
（その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

【参考書】
・落合一泰. 1997「東方の驚異、ワイルド・マン、インディアン、グリーザー:
近代西欧＜民族人類学＞によるアメリカ大陸の＜占有＞―」青木保ほか編『岩波講座　文化人類学　第1巻　新たな人間の発見』岩波書店 pp. 141-80.
・松村圭一郎. 2020『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版.
・松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社.
（その他、必要に応じて紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
・発表と討論の内容、毎回のリアクション・ペーパー、授業への参加態度など平常点（40％）
・学期末レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】
受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもある。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】
・The aim of this course deals with other ways of “knowing” others, nature, and the world in our daily lives. The goal of this course is to learn the relationship between numbing one’s sensitivity to oneself (becoming one’s own oppressor) and various forms of violence (colonialism/development, destruction of the natural environment, etc.). It is becoming increasingly important to nurture sensitivity and imagination toward others by regaining sensitivity to oneself in daily life. Through various literary works and videos from Japan and abroad, students will attempt to regain sensitivity to themselves and the world, and explore the possibilities of anthropology in understanding the self and others. Students will learn ways to "know" others, the world, and themselves, not only through thinking and analysis, but also through feeling, being overwhelmed by the "other," and self-transformation.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report (60%) and in class contribution including presentation and reaction paper (40%).

CUA300LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

文化人類学方法論 B

2017年度以降入学者

菊池　真理

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、これまでの文化人類学的研究における議論や実践を踏まえて、他者と自分を別様に理解し、表現する方法について学ぶ。1）理性や客観的分析による理解を見直し、身体的な経験の次元から他者や社会を捉えなおそうとする人類学の情動論、2）儀礼とパフォーマンスの人類学とにおける議論や実践、3）文化人類学の新しい民族誌の可能性を拓いている作品に触れることを通じて学ぶ。「わからないまま」他者に圧倒され、他者との新たな関係性に自分を見いだすという、他者と自分を理解することの可能性を学ぶ。また、戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ことや新たに創造（表現）するということについて学ぶ。

【到達目標】
・人類学の情動論、儀礼とパフォーマンスの人類学的研究における議論を理解できる。
・民族誌や映像の読解だけでなく、それに揺さぶられる経験や、それを通じて他者と自分を「しる」という実践から、自他を別様に理解する方法を身につける。
・戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ことや新たに創造（表現）する方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッション、ドラマリーディングの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	情動の人類学①	情動の人類学的研究の紹介
第3回	情動の人類学②	文献発表とディスカッション
第4回	別様の「しり方」と表現①	スリランカ、内戦についての概説
第5回	別様の「しり方」と表現②	映像鑑賞
第6回	別様の「しり方」と表現③	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第7回	別様の「しり方」と表現④	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第8回	他者の傷みの「しり方」	・スリランカ内戦にまつわる憑依儀礼に関する民族誌的研究の紹介 ・ディスカッション
第9回	儀礼とパフォーマンスの人類学①	儀礼・パフォーマンス研究についての講義
第10回	儀礼とパフォーマンスの人類学②	文献発表とディスカッション
第11回	儀礼とパフォーマンスの人類学③	文献発表とディスカッション
第12回	ドラマリーディング①他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第13回	ドラマリーディング②他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表、ディスカッション、朗読、ドラマリーディングに使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
・発表のための資料作成やプレゼンテーション、朗読、ドラマリーディングの練習を行う。
・本授業の準備学修・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・シェークナー，R. 1998『パフォーマンス研究：演劇と文化人類学の出会うところ』高橋雄一郎訳 人文書院
・ターナー，V. 1996『儀礼の過程』新思索社.
・初見かおり 2001『ハレルヤ村の漁師たち：スリランカ・タミルの村 内戦と信仰のエスノグラフィー』左右社.
（その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

【参考書】
・小栗宏太 2022「情動の人類学：感情史との対話」『文化人類学』87(1): 94-105.
・西井涼子 2013『情動のエスノグラフィー：南タイの村で感じる・つながる・生きる』京都大学学術出版会.
・西井涼子・箭内匡編 2020『アフェクトクス（情動）：生の外側に触れる』京都大学学術出版会.
・Das, V. 2015. What does Ordinary Ethics Look Like. In M. Lambek, V. Das, D. Fassin, and W. Keane (eds) Four Lectures on Ethics: Anthropological Perspectives, pp. 53-117. The University of Chicago Press.
・Lawrence, P. 1997. Work of Oracles, Silence of Terror: Notes on the Injury of War in Eastern Sri Lanka. unpublished Ph.D. thesis submitted to the Faculty of the Graduate School of the University of Colorado.
———. 2000. Violence, Suffering, Amman: The Work of Oracles in Sri Lanka's Eastern War Zone. In Veena Das et al. (eds) Violence and Subjectivity, pp.171-204. Oxford University Press.
（以上の他、授業時に適宜紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
・発表内容、リアクション・ペーパー、演劇、授業への参加態度など平常点（40％）
・映像鑑賞文（10％）
・学期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用。

【その他の重要事項】
・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。

・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students learn theoretical discussion on anthropology of affect and anthropology of performance, and feeling and performing ethnography to explore possibilities of anthropology. The goals of this course are to understand different ways of understanding and expressing others and oneself. In addition, through performing a play, students will learn about what it means to "become" others, to "know" oneself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report(50%), briefing paper on short film(10%) and in class contribution including presentation and reaction paper(40%).

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）

人間行動学 A

2017年度以降入学者

久木田　敦志

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多彩な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学A・Bでは同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理的本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】
人間行動学A（春学期）ではミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』を読み解きます。「最適経験」とも形容されるフロー現象。スポーツ等の文脈では「ゾーンに入る」と表現されることもあります。我を忘れるほどの没入感を伴って眼前の課題にのめり込む心理現象であるフロー状態を様々な角度から考察し、心理学的理論に照らしながらその心の働きと行動への影響について具体的な理解を深めつつ、実践的視点から日常の経験を振り返ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で実施します。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。基本構成として、課題図書を毎週一章読み進め、授業前にその考察及びディスカッションで取り上げたい質問等を提出していただきます。それを元に授業はディスカッション主体の進行となりますが、必要に応じて章の補足・解説等も行います。その他の詳細は第1回時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第2回	発表・討論	第1章「幸福の再来」
第3回	発表・討論	第2章「意識の分析」
第4回	発表・討論	第3章「楽しさと生活の質」
第5回	発表・討論	第4章「フローの条件」
第6回	発表・討論	フローの計測
第7回	発表・討論	経験抽出法（ESM）
第8回	発表・討論	第5章「身体のフロー」
第9回	発表・討論	第6章「思考のフロー」
第10回	発表・討論	第7章「フローとしての仕事」
第11回	発表・討論	第8章「孤独と人間関係の楽しさ」
第12回	発表・討論	第9章「カオスへの対応」
第13回	発表・討論	第10章「意味の構成」
第14回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』（世界思想社、1996年）

【参考書】
教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】
報告・発表およびディスカッション（討論）での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。内訳（配分）は、考察・ディスカッション準備課題（40％）、ディスカッション参加（40％）、学期末レポート（20％）です。成績評価項目の詳細は第1回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の受講生のみなさんから、クラス全体でのディスカッションを中心にした授業形態が新鮮だった、積極的に発言する学生が多く普段できない踏み込んだ議論が楽しかった、自分で考えることを大切にできて学びが深まった、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して議論を交わすことのできるディスカッション環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

【Outline (in English)】
Course Outline: Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.
Learning Objectives: In Human Behavioral Science A, "Flow — The Psychology of Optimal Experience" by Mihaly Csikszentmihalyi will be thoroughly covered. The phenomenon called flow, also expressed as optimal experience, or "being in the zone" in sports contexts, entails a state of complete absorption into a task at hand, so deep that even the sense of self is pushed out of consciousness. By acquiring a tangible understanding of the psychological workings behind flow and its behavioral consequences from multiple perspectives, students will also reflect on their daily lives for its applicability.
Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.
Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Final grades are based on the following: reading and discussion prep assignments (40%), participation and engagement in class discussions (40%), and the final paper (20%). Details are provided during the first meeting. No exams are given.

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）

人間行動学Ｂ

2017年度以降入学者

久木田　敦志

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多彩な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学Ａ・Ｂでは同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理的本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】
人間行動学Ｂ（秋学期）ではクリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門: 「よい生き方」を科学的に考える方法』を精読し、ウェルビーイングについての科学的研究を多角的に学びます。「幸せ」の多元的側面に触れ、その心理学研究の展開を追うことで、よりよく生きるための方途を模索し、その過程にある人間の心理と行動への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で実施します。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。基本構成として、課題図書を毎週一章読み進め、授業前にその考察及びディスカッションで取り上げたい質問等を提出していただきます。それを元に授業はディスカッション主体の進行となりますが、必要に応じて章の補足・解説等も行います。その他の詳細は第1回時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第2回	発表・討論	第1章「ポジティブ心理学とは何か？」
第3回	発表・討論	第2章「ポジティブ心理学について学ぶとは」
第4回	発表・討論	第3章「気持ちよさとポジティブな経験」
第5回	発表・討論	第4章「幸せ」
第6回	発表・討論	第5章「ポジティブ思考」
第7回	発表・討論	第6章「強みとしての徳性」
第8回	発表・討論	第7章「価値観」
第9回	発表・討論	第8章「興味、能力、達成」
第10回	発表・討論	第9章「ウェルネス」
第11回	発表・討論	第10章「ポジティブな対人関係」
第12回	発表・討論	第11章「よい制度」
第13回	発表・討論	第12章「ポジティブ心理学の未来」
第14回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
クリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門: 「よい生き方」を科学的に考える方法』（春秋社、2012年）

【参考書】
教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】
報告・発表およびディスカッション（討論）での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。内訳（配分）は、考察・ディスカッション準備課題（40％）、ディスカッション参加（40％）、学期末レポート（20％）です。成績評価項目の詳細は第1回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の受講生のみなさんから、クラス全体でのディスカッションを中心にした授業形態が新鮮だった、積極的に発言する学生が多く普段できない踏み込んだ議論が楽しかった、自分で考えることを大切にできて学びが深まった、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して議論を交わすことのできるディスカッション環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

【Outline (in English)】
Course Outline: Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.
Learning Objectives: In Human Behavioral Science B, "A Primer in Positive Psychology" by Christopher Peterson will be used as the main text to examine a wide range of scientific studies on well-being. Through exposure to multidimensional definitions of "happiness" and following the course of psychological investigations on the topic, students will reflect on their personal endeavors for a good life while deepening their understanding of human psychology and the behavior involved in the process.
Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.
Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Final grades are based on the following: reading and discussion prep assignments (40%), participation and engagement in class discussions (40%), and the final paper (20%). Details are provided during the first meeting. No exams are given.

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

浅川　希洋志

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**2/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、臨床心理学（カウンセリング）に関する文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考える。

【到達目標】
臨床心理学（カウンセリング）の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につける。また、本授業がめざす目標をさらに深化させるために、教養ゼミII「心理的ウェルビーイングを考えるB」を連続履修することを期待する。
最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はゼミ形式（学生発表と討論）で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。
受講希望者が多い場合は、第1回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う（定員30名）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第2回	試験の解説および今後の予定について。	第１回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第3回	『カウンセリングを考える・上』第１章「現代社会とカウンセリング」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・過渡期の日本社会：欧米文化の流入と日本人のこころ。
第4回	『カウンセリングを考える・上』第２章「カウンセリングにおける家族の問題」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・以心伝心からコミュニケーションの時代へ。
第5回	『カウンセリングを考える・上』第３章「不登校カウンセリング」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・自分を生きることの難しい日本。
第6回	『カウンセリングを考える・上』第４章「いじめとカウンセリング」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・母性社会日本の持つ圧力。
第7回	『カウンセリングを考える・上』第５章「事例研究の大切さ」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・事例研究が人間に対する知識を深化させる。
第8回	『カウンセリングを考える・上』第６章「カウンセラーの資格と責任」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・カウンセラーに資格はいるのか、カウンセラーにどこまで責任があるのか。
第9回	『カウンセリングを考える・下』第１章「新しい家族関係」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・欧米化の中で日本の家族はどのように変わってきたか、変わっていくべきか。
第10回	『カウンセリングを考える・下』第２章「ユング心理学から見た禅体験」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・禅体験はユング心理学によってどう説明できるか。
第11回	『カウンセリングを考える・下』第３章「カウンセリングにおける男性と女性」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・男性の女性性、女性の男性性（アニマ、アニムスの問題）。
第12回	『カウンセリングを考える・下』第４章「カウンセラーのための児童文学」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・児童文学を通して生き生きとした人間の姿、あり方を考える。
第13回	『カウンセリングを考える・下』第５章「『生きる』ということ」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・人間が生きるとはどういうことなのか。
第14回	授業の総括。	学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備をしておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常を生きること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
河合隼雄著『カウンセリングを考える・上・下』（創元社、1996年／創元こころの文庫、2015年）。また、発表担当者の作成するレジュメを使用する。テキストはできる限りPDF化し、授業支援システムにアップする。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
下記の配分で評価する。
授業への取り組み（50%）＋　期末レポート（50%）
レポートの字数はクラスで発表した学生は2,000字以上、発表しなかった学生は3,500字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline (in English)】
Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well.　It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society.　In this seminar, students will read books and articles about counselling and discuss issues about children's refusal to go to schools, domestic abuse and violence, bulling (called "Ijime"), etc., which have been witnessed in recent Japanese society. Through such readings and discussions, students will learn what psychological well-being means and how we can attain it.

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

浅川　希洋志

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**2/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、文化心理学、ポジティブ心理学の文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考える。

【到達目標】
文化心理学、ポジティブ心理学の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につける。特に、文化心理学の観点からは心の働きと文化の関係について学ぶ。また、ポジティブ心理学の分野で注目されるフロー理論、ポジティブ感情の拡張―形成理論を紹介しながら、人間の最適な発達、精神的健康、充実した人生といったことについても考える。
本授業がめざす目標を深化させるために、教養ゼミⅠ「心理的ウェルビーイングを考えるA」からの連続履修を期待する。
最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はゼミ形式（学生発表と討論）で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。
受講希望者が多い場合は、第1回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う（定員30名）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第2回	試験の解説および今後の予定について。	第１回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第3回	『日本人のしつけと教育』第１章「意欲の構造」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人とアメリカ人の意欲構造の違いについて。
第4回	『日本人のしつけと教育』第２章「役割社会と受容的勤勉性」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人に見られる受容的勤勉性はどのようにして培われたのか。
第5回	『日本人のしつけと教育』第３章「内在モデルとしてのいい子」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人とアメリカ人のいい子像とは。
第6回	『日本人のしつけと教育』第４章「『気持ち』への関心」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・なぜ日本人は人の気持ちに敏感なのか。
第7回	『日本人のしつけと教育』第５章「滲み込み型のしつけと教育」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本型の滲み込み教育とアメリカ型の教え込み教育。
第8回	『日本人のしつけと教育』第６章「道徳意識と道徳判断」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人の道徳意識と道徳判断に影響を与えるものは：他者の目と神の目。
第9回	『日本文化のゆくえ』第１章「『私』さがし」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・「私」さがし：自分の外に向かうのか自分の内に向かうのか。
第10回	『日本文化のゆくえ』第７章「異文化体験の軌跡」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・内なる異文化に気づくこと。
第11回	『ひきこもり文化論』第４章「『甘え文化』と『ひきこもり』―比較文化的考察」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・「ひきこもり」をつくりだす日本の社会、文化。
第12回	ポジティブ感情の機能に関する文献を読む。	・担当者の発表と議論。 ・ポジティブな感情には人を成長させる機能がある。
第13回	フロー理論に関する文献を読む。	・担当者の発表と議論。 ・充実感、没入感覚を伴う楽しい経験としてのフローとそれを通しての人間の成長。
第14回	授業の総括。	学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備をしておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常を生きること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
①東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、②河合隼雄著『日本文化のゆくえ』（岩波現代文庫、2013年）、③斎藤環著『ひきこもり文化論』（ちくま学芸文庫、2016年）。また、ポジティブ心理学に関する文献および授業で使用するテキストはできる限りPDF化し、授業支援システムにアップする。
授業では、発表担当者の作成するレジュメを使用する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
下記の配分で評価する。
授業への取り組み（50%）＋　期末レポート（50%）
レポートの字数はクラスで発表した学生は2,000字以上、発表しなかった学生は3,500字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline (in English)】
This is a continuation of the seminar from the spring semester. Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well.　It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society. In this autumn seminar, students will read books and articles about cultural and positive psychologies and discuss how we can attain psychological well-being from different psychological perspectives from those we discuss in the spring term. Through these learning experiences, this course hopes students to obtain abilities to capture human beings from different perspectives and angles.

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 300）

沖縄を考えるA

2017年度以降入学者

中野　勝郎、大里　知子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】
毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていないため、シラバスの内容は暫定的です。
初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。
授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄を知るための基礎知識①	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②	沖縄の歴史と地理に関する概説
4	琉球沖縄の歴史①	考古学からみた琉球沖縄（先史時代）
5	琉球沖縄の歴史②	「古琉球」時代
6	琉球沖縄の歴史③	「近世琉球」時代
7	琉球沖縄の歴史④	「近代沖縄」
8	琉球沖縄の歴史⑤	「沖縄戦」
9	琉球沖縄の歴史⑥	「戦後沖縄」
10	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の言語
11	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の文学
12	琉球沖縄の文化③	琉球沖縄の芸能①
13	琉球沖縄の文化④	琉球沖縄の芸能②
14	春学期のまとめ	琉球沖縄を再考する視点をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1.図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2.毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3.本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】
なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（100点満点）と出席票（リアクションペーパー付き）（13回×7.7点≒ 100点満点）をかけ合わせた値の平方根によって成績評価をします。　学期末レポートの作成の仕方については、追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
この春学期の授業の前半は基礎的な内容に重点を置いており、秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 300）

沖縄を考えるB

2017年度以降入学者

中野　勝郎、大里　知子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】
毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていないため、シラバスの内容は暫定的です。
初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。
授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄の政治①	沖縄の政治問題
3	沖縄の政治②	日本の中の沖縄
4	沖縄の社会①	沖縄の経済
5	沖縄の社会②	沖縄のジェンダー問題
6	琉球沖縄の芸術①	琉球沖縄の美術工芸
7	琉球沖縄の芸術②	琉球沖縄の音楽
8	平和を考える①	沖縄の視点から平和を考える①
9	平和を考える②	沖縄の視点から平和を考える②
10	沖縄の自然環境①	沖縄の自然
11	沖縄の自然環境②	沖縄の環境問題
12	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の食文化
13	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の祭祀
14	秋学期のまとめ	「万国津梁」と沖縄

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1.図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2.毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3.本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】
なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（100点満点）と出席票（リアクションペーパー付き）（13回×7.7点≒ 100点満点）をかけ合わせた値の平方根によって成績評価をします。　学期末レポートの作成の仕方については、追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
この春学期の授業の前半は基礎的な内容に重点を置いており、秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ECN300LA（経済学 / Economics 300）

ヨーロッパ政治経済論Ａ

2017年度以降入学者

千葉　千尋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨーロッパ政治経済論Ａでは、国際政治経済学の基礎理論を学んだ上で、国際体制の基本構造とその体制の中で主軸となってきたヨーロッパの歴史的展開を、EUの経済政治統合（EU統合）の歩みとともに学んでいきます。そしてグローバル市場化の進行による国際体制の構造的変容の中でのEUの新たな立ち位置を踏まえて、世界が直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対し考察出来るベースを身に着けていくことを目指します。

【到達目標】
・政治経済学的アプローチを身に着けられる。
・世界動向への基盤となる基礎知識を体系的に身に着けられる。
・米中だけでなく、もう1つの主軸であるヨーロッパを知ることで、国際社会の変容と直面する問題を体系的に把握し、それらを解釈、論議していける力を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とします。
必要に応じて英語での解説も加えます。
後半にグループディスカッションが入ります。
最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 国際体制の変容の理論	政治と経済 政治経済学とは？ 学際的アプローチとしての国際政治経済学
2	国際政治経済学基礎理論１	国際秩序と国際ガバナンス構造を巡る体制論 （理念、思想としてのリアリズム、リベラリズム、マルクス主義）
3	国際政治経済学基礎理論２	新たな学際アプローチへの基礎理論 （重商主義、バランスオブパワーの基礎理論としての古典派経済学（アダム・スミス、リカード、J.Bセイ）
4	国際政治経済学基礎理論３	「埋め込まれた自由主義」と国際協調への理論基礎 （ケインズ経済学の思想と理論）
5	19世紀ガバナンス体制	19世紀ガバナンス体制の成立と行き詰まり
6	ブレトンウッズ体制	戦後ブレトンウッズ体制の成立と展開
7	欧州統合の展開１	ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての欧州統合の展開
8	欧州統合の展開２	ECからEUへ 統合深化と拡大の歩み 欧州連合の成立とユーロの誕生
9	グローバル市場化の進行と国際ガバナンスの分断	グローバル化の進行 グローバル化の暴走と世界金融危機 （リーマンショックの展開と衝撃）
10	グローバル市場化と国際ガバナンスの分断	欧州国家債務危機 ＥＵソブリン危機の波及と帰結
11	反グローバリズムの台頭とＥＵの分断危機	世界格差の進行と反グローバリズムの台頭 閉じる帝国化とレジリエンス 歴史的危機の位相
12	反グローバリズムの波及と反統合、EU民主主義の危機	反グローバリズムの世界的台頭と極右反欧州主義勢力の台頭 政治分断化とEU民主主義の危機
13	EUの東欧拡大とウクライナ戦争	EU統合拡大の文脈から見たウクライナ戦争
14	期末試験およびまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、各回の準備学習１時間、復習時間３時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験＝80％
課題およびディスカッション評価：20%

【学生の意見等からの気づき】
世界で起こっている様々な問題をより深く理解できるようになった、ヨーロッパの現状について理解が深まったなど、感想をいただきました。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
「ヨーロッパ政治経済論B」では、直面する問題とEUの新たな役割、日本への示唆へと発展的に学びを進めるので、合わせて受講することをお勧めします。

【Prerequisite】
None.

【Outline (in English)】
This course provides a comprehensive overview to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as case studies to provide further understanding on world issues.
At the end of the course, students
・ Should have gained a good grasp of the fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
・ Should have comprehensive knowledge about EU and its relation in the world.
・Should have acquired a firm base for pursuing further studies in political economy as well as ongoing crisis in the world.
Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.
Your overall grade will be decided 80%on Term-end examination and 20 %on reports as well as contribution in discussions.

ECN300LA（経済学 / Economics 300）

ヨーロッパ政治経済論Ｂ

2017年度以降入学者

千葉　千尋

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨーロッパ政治経済論Ｂでは、ヨーロッパ政治経済論Ａで学んだ内容を掘り下げ、世界経済のグローバル統合の進行に伴う国際社会の構造変化、国際ガバナンス構造の変容が生起した問題、課題への学習を進めます。具体的には、グローバル市場化と国際経済構造の変容、グローバル市場化の暴走と社会の分断、EUの分断化と政治危機、市場と国家の力学構造の変質等を取り上げ、EUが地域統合の発展過程で培ってきた多様性の中での統合の知見とソフトパワーの活用を含め、変容する国際社会の中で、現在直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対するＥＵの新たな立ち位置と役割を考察していきます。欧州の歴史上の展開と国際ガバナンス体制の変容の実態を深く理解することで、グローバルな視点から日本への示唆を考察していく知識と力も同時に身に着けていくことを目指します。

【到達目標】
・政治経済学的アプローチを通じて世界を理解出来るようになる。
・国際社会の実態と問題、課題の把握に不可欠なヨーロッパについて、専門基礎のレベルで体系的に知識を身に着け、国際的な視座から直面する問題、課題を把握し、論じていける知識基盤と力を身につけていける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義を中心とします。
必要に応じて英語での解説を加えます。
授業後半にグループディスカッションを行います。
最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ政治経済論Aのレビュー	政治経済学とは ヨーロッパとは
2	国際政治経済学専門基礎理論	国際ガバナンスへの学際アプローチの思想と理論 （体制思想としてのリベラリズム、リアリズム、マルキシズム、学際アプローチに向けたバランスオブパワーの理論ベースとしての古典派経済学、埋め込まれた自由主義と国際協調体制への理論、ケインズ経済学）
3	国際システムとガバナンス体制	国際システムとガバナンス体制 （市場経済と統治、史的推移5つのフェーズ）
4	戦後の米ドル、ブレトンウッズ体制の成立と欧州共同体（EC）の形成	戦間期からECSC、EC形成への目的と意義 ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての位置づけと限界 通貨統合計画の挫折と統合の行き詰まり
5	市場統合計画の推進と統合拡大を経て欧州連合への基盤形成	経済統合の深化、拡大とEC機構の整備拡充 欧州の戦後体制の終焉、その実態と意義
6	市場統合の深化と通貨統合の実現、EU連合の成立からリスボン条約へ	通貨統合の意義 条約としながら欧州憲法の中身をもつリスボン条約 政治体制としての欧州連合の位置づけ
7	グローバル市場化の進行と国際経済構造の変容	情報ネットワーク化と規制緩和が決定づけたグローバル市場化の光と影
8	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断１	リーマンショック ギリシャ危機とユーロクライシス、EU国家債務危機
9	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断２	ポピュリズムと自国ファースト、極右の台頭とＥＵ内部分断の政治危機
10	統合への疑念と分断、英国のＥＵ脱退（BREXIT）	英国と大陸欧州 参加の損益と機能的統合（英国）vs 理念と制度的統合の根源的相違 防衛・安全保障では存在大きい英国とのねじれの関係
11	市場と国家の力学構造の変質	情報プラットフォーム革命 グローバル経済統合の進行が国家と市場の力学構造を変える 同時に国家間の分断と相互の力学関係を変え、中国の台頭に伴う覇権国家構図と国際関係の変容を含め、国際ガバナンス構造の変容を生起
12	グローバル化の進行と地域統合、EU の果たす役割と日本への示唆	ハードパワーとソフトパワー 多様性の中の統合で積み上げたノウハウと企画政治力としてのソフトパワー グリーンディール、SDG s における主導的役割 ＥＵの立ち位置と日本への示唆
13	ウクライナ戦争 新たな欧州新秩序への模索	EUの対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中での対ソ依存からのシフト
14	期末試験とまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、各回の準備学習１時間、復習時間３時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験＝80%
課題およびディスカッションへの参加＝20%

【学生の意見等からの気づき】
国際社会が直面する様々な問題、特にロシア・ウクライナ問題に対するEUの立ち位置が理解できた、また変容するグローバル社会におけるEUの役割を理解できた、などの感想をいただきました。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
本講義は、基礎となる「ヨーロッパ政治経済論A」をあらかじめ受講しておくことをお勧めします。

【Prerequisite】
None.

【Outline (in English)】
This course provides a further understanding to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as analysis and case studies to provide further understanding on Europe and related world issues.
At the end of the course, students
・Should have the ability to use fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
・ Should have improved her/his skills in analyzing important political events around Europe and across the globe.
・ Should have acquired a firm base for pursuing further research in the European Union and elsewhere in the world.
Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.
Your overall grade will be decided 80%on Term-end examination and 20 %on reports as well as contribution in discussions.

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

数理論理学 A

2017年度以降入学者

安東　祐希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理とは何か　～～～　まずは最小限の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること（理論が複数あるという事実とは別のこと）を知るための第一歩として、どの論理にも共通する最小論理について学ぶ。それは後に論理を広げて次のような例を考えるときの準備となる。
～～～
ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた（あるいは、いる）ことが、**論理的に証明**できる。（クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。）
～～～
クシャミ大王の存在証明が可能な論理をつくるためには、この授業で扱う最小論理に何らかのものを付け加える必要がある。最小論理を直観主義論（人の論理）、さらには古典論理（神の論理）まで広げるのである。その付加するものの役割を理解するため、まずは論理の共通部分とは何かについて学んでゆく。

【到達目標】
最小論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クシャミ大王	授業概要の説明
第2回	「かつ」を壊す	連言の除去
第3回	「かつ」を作る	連言の導入
第4回	「または」を壊す	選言の除去
第5回	「または」を作る	選言の導入
第6回	「ならば」を壊す	含意の除去
第7回	「ならば」を作る	含意の導入
第8回	「でない」を壊す	否定の除去
第9回	「でない」を作る	否定の導入
第10回	「すべて」を壊す	全称量化の除去
第11回	「すべて」を作る	全称量化の導入
第12回	「ある」を壊す	存在量化の除去
第13回	「ある」を作る	存在量化の導入
第14回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
前原昭二『記号論理入門［新装版］』（日本評論社）2005年（初版1967）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】
（1）秋期科目「数理論理学Ｂ」の予備知識となる内容を含む。
（2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理２（数理論理学）Ａ」。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in minimal logic.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in minimal logic.
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria/Policies]
Final grade will be calculated according to the following process:
Term-end examination (60%) and quizes in class (40%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

数理論理学Ｂ

2017年度以降入学者

安東　祐希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**1/Tue.1
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理とは何か　～～～　人の論理、さらには神の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること（理論が複数あるという事実とは別のこと）を知り、その中でも古典論理（神の論理）と直観主義論理（人の論理）について学ぶ。次のような例を考えると、二つの論理に違いが現れてくる。～～～

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた（あるいは、いる）ことが、**論理的に証明**できる。（クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。）～～～

ここでいう論理的な証明は、「神の論理」における証明である。われわれは実は何の疑問もなく「神の論理」を用いることがある。一方、「神の論理」の無制限な使用を自省することにより得られた「人の論理」においては、クシャミ大王の存在を一般には示すことができない。春期授業の最小論理に何を加えるとこれらの論理ができるのかについて学んでゆく。

【到達目標】
直観主義論理および古典論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今できること	最小論理
第2回	万能薬	量化子の順序
第3回	矛盾がどうした	否定と含意
第4回	矛盾が生み出す	矛盾の推論
第5回	人の論理	直観主義論理
第6回	どちらかだ	排中律
第7回	神の論理	古典論理
第8回	クシャミ大王再考	古典論理の応用
第9回	別の顔	背理法
第10回	得意分野	古典論理の表現
第11回	真か偽か	古典論理の意味論
第12回	まだわからない	可能世界
第13回	人の論理とは	直観主義の意味論
第14回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
前原昭二『記号論理入門［新装版］』（日本評論社）2005年（初版1967）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】
（１）春期科目「数理論理学Ａ」で扱う内容を既知として授業を進める。
（２）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理２（数理論理学）Ｂ」。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in intuitionistic and classical logic.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in intuitionistic and classical logic.
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria/Policies]
Final grade will be calculated according to the following process:
Term-end examination (60%) and quizes in class (40%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

計算と言語のしくみ

2017年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで，コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され，我々の生活に深く関わっている．その一方で，多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり，その動作原理に触れる機会が十分あるとは思われない．こうした背景の下で，魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組に焦点を当て，「コンピュータの箱の中がどのようになっているか？」「そうした機械仕掛けの上で，言語に関する様々な処理ができるのは何故なのか？」などの疑問に対して解説・実験する．

【到達目標】
本講義では「コンピュータの仕組を理解すること」を目標としている．（例えば，電卓とPCの違いを尋ねられた時，皆さんは説明できるでしょうか？）また，「コンピュータでの言語処理に関する幾つかの活用法を体験して，その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている．（例えば，コンピュータに大量の文章データを機械学習させると，各単語を数値データとして捉えるようになり「東京−日本＋フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります．同様に「法政大学− 東京＋大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるでしょうか？ 実験してみれば簡単に確認できます．）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
進度や難易度等は受講生の様子なども考慮して対応する．学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり，詳細は学習支援システムに提示する．課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は，直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	PCが動作する様子とその特徴を紹介する．
第02回	計算機の歴史	コンピュータ開発の歴史を解説する．
第03回	計算できる言語(1)	電卓的な機械の仕組みについて解説する．
第04回	計算できる言語(2)	電卓的な仕組みで計算できる言語について紹介する．
第05回	計算できる言語(3)	そのような言語の計算を日常文書の編集に活用する例を学ぶ．
第06回	計算できる言語(4)	そのような言語の計算を表計算に活用する例を学ぶ．
第07回	計算機のしくみ(1)	汎用コンピュータの理論的な仕組みについて紹介する．
第08回	計算機のしくみ(2)	現代的なコンピュータの仕組みについて説明する．
第09回	計算機のしくみ(3)	コンピュータにおける文字・数値の表現を確認する．
第10回	自然言語とAI(1)	Web上でプログラムを動かす方法を確認する．
第11回	自然言語とAI(2)	日本語の文章を品詞に分解する方法を学ぶ．
第12回	自然言語とAI(3)	「吾輩は猫である」の全文を機械学習させてみる．
第13回	自然言語とAI(4)	学習済みAIを用いて法政大学のシラバス文章を分析する．
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ，課題に関する総括を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある．本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない．

【参考書】
テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である．

【成績評価の方法と基準】
授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)，計算機を使う小課題(50%)を行い，平常点(10%)と共に取り組みを評価する．

【学生の意見等からの気づき】
普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて，少しずつ内容・難易度の調整（例えば，機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど）に反映している．

【その他の重要事項】
受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない．（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の体験ができれば十分と思っています．実験についても，特別な電算環境は必要なく，Webが普通に使えれば十分（このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫）です．課題などは，自由に相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います．）

【Outline (in English)】
We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.
To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting.
Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

コンピュータと数理の活用

2017年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学で勉強する様々な計算方法は理にかなったものであるが，それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い．（平均値を計算する方法自体は分かっていても，実際に1000人分のデータの平均値を手で計算する人はいない．）一方で，身の回りにある問題はむしろ大規模になりがちであり，大きな問題こそ答を知りたいという現状がある．こうしたジレンマに対して，コンピュータによって人間の計算力不足を補い，実生活で直面するような大規模な問題の答を求める経験は重要となる．そこで，講義では，様々な分野の中で「数学の計算方法」と「コンピュータの計算力」を組合せて活用する事例を体験することを主な目的としている．

【到達目標】
講義では「プログラムを自分で設計・作成すること」までは想定せず，あくまでも用意したプログラムを活用して「コンピュータと数理を組み合わせることの良さを体験し（場合によっては自分好みに調整して）活用の勘を養うこと」を目標としている．（各々の事例で扱う数学の内容は独立していて，1つの課題が理解できなくても，次の課題に影響を与えることが少ないことになります．）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
進度や難易度等は受講生の様子なども考慮して対応する．学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり，詳細は学習支援システムに提示する．課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は，直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決の流れを確認する．
第02回	コンピュータで数学(1)	Web上でプログラムを実行する方法について説明する．
第03回	コンピュータで数学(2)	大政奉還があった日は何曜日か計算してみる．
第04回	コンピュータで数学(3)	SymPyと呼ばれる関数電卓機能を統計に活用してみる．
第05回	平方根の計算(1)	開平法と呼ばれる筆算で平方根を計算してみる．
第06回	平方根の計算(2)	より効率的な方法で平方根を限りなく正確に計算してみる．
第07回	行列の応用(1)	数学の知識として，行列の掛算について学ぶ．
第08回	行列の応用(1)	行列の掛算を行うプログラムを紹介する．
第09回	行列の応用(3)	今後100年間の日本の世代人口の推移を予測する．
第10回	経営計画への応用(1)	上手な経営計画を立てるための数学分野を紹介する．
第11回	経営計画への応用(2)	上手な経営計画を立てるプログラムを紹介する．
第12回	経営計画への応用(3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行ってみる．
第13回	機械学習への応用	機械学習を行うプログラムを紹介する．
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ，課題に関する総括を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある．本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない．

【参考書】
テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である．

【成績評価の方法と基準】
授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)，計算機を使う小課題(50%)を行い，平常点(10%)と共に取り組みを評価する．

【学生の意見等からの気づき】
普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて，少しずつ内容・難易度の調整に反映している．

【その他の重要事項】
受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない．（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の体験ができれば十分と思っています．実験についても，特別な電算環境は必要なく，Webが普通に使えれば十分（このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫）です．課題などは，自由に相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います．）

【Outline (in English)】
We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.
To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting.
Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

確率の世界 A

2017年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**4/Thu.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】
春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し，代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	確率の基礎１	確率とは
第3回	確率の基礎２	確率の性質
第4回	確率の基礎３	確率空間とは
第5回	確率の基礎４	事象の独立性
第6回	確率の基礎５	確率変数の使い方
第7回	確率の基礎６	期待値とは
第8回	確率の基礎７	期待値の性質
第9回	確率の基礎８	分散とは
第10回	確率分布１	分散の性質
第11回	確率分布２	二項分布とは
第12回	確率分布３	二項分布の性質
第13回	確率分布４	二項分布の期待値と分散
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
This course deals with basic concepts and methods in probability. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%、Short reports 20%.

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

確率の世界Ｂ

2017年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**4/Thu.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】
秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	様々な分布１	離散分布とは
第3回	様々な分布２	ポアソン分布とは
第4回	様々な分布３	ポアソン分布の性質
第5回	様々な分布４	ポアソン分布と二項分布
第6回	様々な分布５	正規分布とは
第7回	様々な分布６	正規分布の性質
第8回	様々な分布７	正規分布と二項分布
第9回	推定と検定１	標本の定義
第10回	推定と検定２	標本平均と標本分散
第11回	推定と検定３	点推定
第12回	推定と検定４	区間推定
第13回	推定と検定５	仮説と棄却
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、「確率の世界A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】
This course deals with basic concepts and methods in statistics. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%、Short reports 20%.

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

相対性理論と宇宙 A

2017年度以降入学者

石川　壮一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。
　相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起こっているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】
・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験をを通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起こっている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について学ぶ。
[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。
[11]	核融合反応	太陽の中で起こっている核融合反応について学ぶ。
[12]	ミューオン	ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
[13]	反物質	相対論により存在が予言された反粒子について学ぶ、
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし（毎回学習支援システムにより資料を配布する）

【参考書】
一般向けの相対性理論の解説書として：
・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか /福江純著
　(ブルーバックス ; B-2087)、（講談社、2019.2）
・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論
　(ニュートン別冊)、（ニュートンプレス、2019.2）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.
The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

相対性理論と宇宙Ｂ

2017年度以降入学者

石川　壮一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**4/Wed.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。
　相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】
・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリンゴと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がりの理解	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっていくのか考える。
[12]	ブラックホール（１）	ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
[13]	ブラックホール（２）	銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
[14]	重力波	重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】
一般向けの相対性理論の解説書として：
・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか /福江純著
　(ブルーバックス ; B-2087)、（講談社、2019.2）
・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論
　(ニュートン別冊)、（ニュートンプレス、2019.2）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.
The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

現代の錬金術Ａ

2017年度以降入学者

井坂　政裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。
本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行う。
春学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第１３回授業においてその講評や解説を行う。
講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	原子は存在するのか？（１）―化学反応の基本法則	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第3回	原子は存在するのか？（２）―気体の法則	気体の法則と分子運動論について
第4回	原子は存在するのか？（３）―気体の分子運動論	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第5回	原子は構造を持つのか？（１）―元素の周期律	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第6回	原子は構造を持つのか？（２）―電気分解や原子が出す光	第５回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第7回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第8回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第9回	原子構造（１）―電子配置からわかること	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第10回	原子構造（２）―量子力学の世界	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第11回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第12回	原子核と放射線	放射性同位体や半減期に特に注目しながら、原子核がどのようなものかを解説する
第13回	春学期のまとめ（１）と関連する話題	春学期中に実施した小テストの解説を通して授業内容を振り返るとともに、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第14回	春学期のまとめ（２）と試験	春学期の授業内容のまとめを行うとともに、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績(70％)と平常点(30％)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、春学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:
・Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
・ Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
・ Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
・Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
・Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

現代の錬金術Ｂ

2017年度以降入学者

井坂　政裕

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金(元素)を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。
本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行う。
秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第１３回授業においてその講評や解説を行う。
講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	20世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第2回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第3回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第4回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第5回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第6回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第7回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する
第8回	標準模型	第７回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第9回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第10回	宇宙における元素合成（１）―ビッグバン	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第11回	宇宙における元素合成（２）―恒星内での元素合成	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第12回	宇宙における元素合成（３）―恒星の最期と超新星爆発	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第13回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する。また、秋学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。
第14回	まとめと試験	秋学期授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績(70％)と平常点(30％)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:
・Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
・Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
・Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
・Describe the importance of accelerators in the modern physics
・Explain the origin of matters in the universe
・Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

原子核と素粒子 A

2017年度以降入学者

吉田　智

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 4/Tue.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号113番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】
この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体的な紹介する。
第2回	元素の周期表	元素周期表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第3回	元素の存在比（地球）	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第4回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第5回	結晶構造	物体は3次元的に規則正しい立体構造をもっている。そのいくつかの例を紹介する。
第6回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について紹介する。
第7回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出される仕組みについて解説する。
第8回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。
第9回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について紹介する。
第10回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について紹介する。
第11回	原子の構造（電子配置）	第5回の内容に関して、物体が立体構造をもつ仕組みについて紹介する。
第12回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について紹介する。
第13回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第14回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】
This course introduces the atom and nucleus. In particular, it is introduced that the abundance ratio of elements not only on the earth but also in the universe, and the structure of atom and nucleus. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

原子核と素粒子Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　智

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】
この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体の説明と共に、20世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第2回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第3回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて紹介する。
第4回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第5回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉の構造などについて紹介する。
第6回	核融合反応の応用	熱核融合炉などの核融合反応の応用について紹介する。
第7回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第8回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第9回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデなどで行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第10回	素粒子（クオークとレプトン）	現時点でのこの宇宙における万物の基となる素粒子などについて紹介する。
第11回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。
第12回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	宇宙論などの最新の研究について紹介する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】
This course introduces the nucleus and elementary particle. In particular, it is introduced that the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

島野　智之

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最終的には，自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である．生物としての人間を知るために，地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）．
用いる教科書は内容的に難しく感じるが，これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する．
生物学の観点から生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える．
また，現在，生物進化の結果，維持されている生態系と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついていることについても考える．
オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．

【到達目標】
生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること．年度の最後に，種々の資料や調査を付き合わせて，各自の成果を発表にまとめる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から，生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し，レポートをまとめ，討議してもらう．
オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．事後には討議，ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス．進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて；調査の進め方；自然発生説；ダーウインの自然選択説；DNAの変異
第2回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か；43億年前に海が形成された証拠；熱水噴出孔での化学進化，など．
第3回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生；高熱性アーキアと高熱性細菌；超高熱性菌のDNA2本鎖が解離しない仕組み
第4回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成；好気性生物の出現；シアノバクテリアの光合成，など．
第5回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現；真核生物がアーキアに由来する証拠；真核生物の起源となった原核生物，など．
第6回	多細胞かと有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物；多細胞生物の出現；有性生殖のはじまり，など．
第7回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖；有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した；遺伝子ファミリーの形成，など．
第8回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた；脊椎動物の出現；エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発，など．
第9回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源；コケ植物が先か；前維管束植物が先か，など．
第10回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出；哺乳類の出現；鳥類の出現，など
第11回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる；ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ；タンパク質は自律的に細胞を形成する，など．
第12回	エボデボー体制の進化ー	ダーウインフィンチの嘴の進化；節足動物の付属肢の進化；鳥エンハンサーが鳥類を進化させた，など
第13回	エボデボー特異体制の進化ー	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構；フグの特異な形態をつくるしくみ，など．
第14回	まとめ．重要用語の振り返り．博物学について，生物の名前の付け方．	まとめと振り返り．ホモサピエンスの7万年前の大発明；博物学について；生物の名前の付け方．など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
疑問などはそのままにせず，まず自分で解決するよう努力して下さい．事前につたえるので，討議に必要な事前の調査，あるいは，授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）．
また，レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy &pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように．
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
更科 功 (著)2025
「世界一シンプルな進化論講義 生命・ヒト・生物――進化をめぐる6つの問い」 (ブルーバックス B 2282)
講談社 ISBN 978-4065382929

【参考書】
必要に応じて，その都度指示する．

【成績評価の方法と基準】
毎回行う授業内の小レポート（60%）および，授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(40%)も加え，総合的に評価する．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
積極的に疑問点などについては，自分で調べることが大切である．

【学生が準備すべき機器他】
適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう．適宜パソコンを使用できるようにしておくこと．

【その他の重要事項】
1) 現地調査（フィールドワーク）のための，交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料，ガイド料，交通費など，金額は前後することがあります.）．ガイダンスに必ず出席して下さい．
2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また，受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度，選抜を行います．

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミII」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方．教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミII「自然史」を両方とも履修すること．
※どちらか一方だけの授業は履修できません．
4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学４（自然史)」として履修する方．年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での，フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと．
5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。
6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に，東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】
Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.
The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.
From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.
We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.
In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60%of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

島野　智之

開講時期：**オータムセッション**/Autumn Session ｜ 曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2単位**
定員制（20）
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡでは，オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，現地調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．

最終的には，自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である．生物としての人間を知るために，地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）．

生物学の観点から生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える．

また，現在，生物進化の結果，維持されている生態系と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついていることについても考える．

【到達目標】

生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること．年度の最後に，種々の資料や調査を付き合わせて，各自の成果を発表にまとめる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では．生物学の観点から，生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう．

つぎに，春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．事後には討議，ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる．命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークⅠ（1）.	博物館学と博物学．博物館フィールドワークについて【講義】
第2回	フィールドワークⅠ（2）	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第3回	フィールドワークⅡ（1）【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する（1）
第4回	フィールドワークⅡ（2）【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する（2）
第5回	フィールドワークⅡ（3）【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する（3）
第6回	フィールドワークⅡ（4）【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する（4）
第7回	フィールドワークⅢ（1）【現地フィールドワーク：神奈川県立・生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第8回	フィールドワークⅢ（2）【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第9回	フィールドワークⅢ（3）【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（3）
第10回	フィールドワークⅣ（1）【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第11回	フィールドワークⅣ（1）【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第12回	フィールドワークⅤ（1）【現地フィールドワーク：国立科学博物館，付属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し，園の展示の工夫を調査する（1）
第13回	フィールドワークⅤ（2）【現地フィールドワーク：国立科学博物館，付属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し，園の展示の工夫を調査する（2）
第14回	フィールドワークⅥ 討議・まとめ	各自で作成したレポートについて発表と討議をおこなう．フィールドワークのまとめ．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず，まず自分で解決するよう努力して下さい．事前につたえるので，討議に必要な事前の調査，あるいは，授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）．
また，レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy &pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように．
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

進化生物学 －ゲノミクスが解き明かす進化－，赤坂甲治（著），裳華房，2021年出版，定価3520円（本体3200円＋税10％）

【参考書】

必要に応じて，その都度指示する．

【成績評価の方法と基準】

毎回行うフィールドワーク後のレポート（60%）および，授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(40%)も加え，総合的に評価する．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては，自分で調べることが大切である．

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう．適宜パソコンを使用できるようにしておくこと．

【その他の重要事項】

1) 現地調査（フィールドワーク）のための，交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料，ガイド料，交通費など，金額は前後することがあります.）．ガイダンスに必ず出席して下さい.

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また，受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度，選抜を行います.

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミII」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方．教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミII「自然史」を両方とも履修すること.

※どちらか一方だけの授業は履修できません.

4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学４（自然史)」として履修する方．年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月11日～9月17日）での，フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと.

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月11日～9月17日）に，東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60%of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

イオンの科学 A

2017年度以降入学者

向井　知大

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】
イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明。
第2回	原子の構造	原子の構造と性質について。
第3回	砂糖と塩	有機化合物と無機イオンの違いについて。
第4回	金属の酸化とイオンの還元	金属を溶かしたり、鏡を作る実験。
第5回	炎色反応	花火の原理についての学習と炎色反応の実験。
第6回	化学発光	ルミノール発光やサイリウムの原理とその実験。
第7回	ホウ砂球反応	イオンの状態変化による色変化を利用したガラス玉を作る実験。
第8回	酸と塩基	酸塩基の定義の種類について。
第9回	色素の色変化	物質の色変化に及ぼすイオンの働きについて。
第10回	金属イオンの沈殿反応	イオンの組み合わせによる溶解度の違いについて。
第11回	金属イオンの分離1	様々なイオンが溶けた水溶液から特定のイオンを分離する実験。
第12回	金属イオンの分離2	様々なイオンが溶けた水溶液から分離したイオンを同定する実験。
第13回	金属イオンの定性分析	未知試料にどのイオンが含まれているかを検査する実験。
第14回	まとめ	これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
毎回実験を行い、その結果のまとめを平常点(配分80%)として評価し、学期末の試験(配分20%)とあわせて評価します。実験結果のまとめは、その授業時間内に提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるような配分にしています。

【その他の重要事項】
この授業はボアソナードタワー10階のサイエンスルームで行われます。
受講希望者数が過剰な場合、抽選を行う場合があります。
過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamental principles of ions.
The goal of the course is to improve your science literacy.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

イオンの科学Ｂ

2017年度以降入学者

向井　知大

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】
イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第2回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数の数え方について。
第3回	中和反応とpHの変化	中性のpHが7の理由と、中和反応におけるpH変化の測定。
第4回	弱酸と解離定数	重曹が洗剤、料理、消火剤に使われる原理について。
第5回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて。
第6回	ボルタの電池	電池における電解質の役割について。
第7回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験。
第8回	亜鉛めっきと合金	金属でできた銅製品を銀色にしたり、金色に変える実験。
第9回	自己触媒型無電解めっき	電気を使わないめっきの原理とその実験。
第10回	フォトレジスト	光化学反応を利用して金属表面に保護膜で模様を作る実験。
第11回	エッチング	ガラスにめっきされたニッケル薄膜を溶かして目的の模様を作る実験。
第12回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止する方法について。
第13回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について。
第14回	まとめ	これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
毎回の小レポートを平常点(配分80%)とし、学期末試験(配分20%)とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるよう時間配分に気をつけています。

【その他の重要事項】
この授業はボアソナードタワー10階のサイエンスルームで行われます。
受講希望者数が過剰な場合、第1回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。
過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamental principles of ions.
The goal of the course is to improve your science literacy.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

物質の科学Ａ

2017年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。本授業は基本的には対面授業によって行われますが、講義や演習を行う場合にはオンライン形式で授業を行うこともあります。実験日には、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。提出していただいた課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	化学実験入門(1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義します。
第3回	化学実験入門(2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習します。
第4回	レジンアートの解説	レジンアートに関連する化学について学習し、実際の作成に備えます。
第5回	ドライフラワーの作成	シリカゲルを使用してドライフラワーを作成し、シリカゲルの構造や性質について理解します。
第6回	シリコン樹脂の合成	二液混合型の透明シリコン樹脂を合成します。その際、第５回で作成したドライフラワーの入った型に樹脂を流し込み、レジンアートを作成します。
第7回	化学基本事項の説明(1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第8回	化学基本事項の説明(2)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習します。
第9回	化学基本事項の説明(3)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第10回	化学基本事項の説明(4)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第11回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習します。
第12回	香料(ラベンダー)の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつぼみから精油を取り出します。
第13回	香料(ラベンダー)の分析(1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。
第14回	香料(ラベンダー)の分析(2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。なお、残ったラベンダー精油は、物質の科学Ｂ（秋学期開講）で合成する石鹸の香料として使用します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】
授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験は実施しません。成績は、出席（25 %）、各テーマ毎に提出するレポート（25 %）、および、平常点（50 %）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】
PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
秋学期に開講される「物質の科学Ｂ」を引き続き受講してください。受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生はオンラインで開講される第１回目の授業に必ず出席してください。また、本授業の直後、すなわち、水曜日４時限に「教養ゼミⅠ・Ⅱ」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline (in English)】
Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports that should be submitted through HOPPII (https://hoppii.hosei.ac.jp). Overall grade in the class will be decided based on the following; attendance: 25%、assignments and lab reports: 25%、in class contribution: 50%.

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

物質の科学Ｂ

2017年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。本授業は基本的には対面授業によって行われますが、講義や演習を行う場合にはオンライン形式で授業を行うこともあります。実験日には、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。提出していただいた課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	水の硬度	石けんの泡立ちに関係する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第3回	定量分析(1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第4回	定量分析(2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第5回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。
第6回	けん化価(1)	油脂の性質を表し石けんを合成する際にも重要な指標となるけん化価について学習します。
第7回	けん化価の測定(1)	中和滴定によりけん化価を測定します。２回にわたって測定し精度を確保します。（第１回）
第8回	けん化価の測定(2)	中和滴定によりけん化価を測定します。２回にわたって測定し精度を確保します。（第２回）
第9回	けん化価(2)	測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。
第10回	オリーブ油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。
第11回	やし油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。
第12回	透明石けんの合成	測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。
第13回	蒸留・比重	蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。
第14回	アルコール濃度の測定	蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】
授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験は実施しません。成績は、出席（25 %）、各テーマ毎に提出するレポート（25 %）、および、平常点（50 %）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】
PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
春学期に開講される「物質の科学Ａ」から連続して受講してください。受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は春学期の「物質の科学Ａ」の第１回目の授業に必ず出席してください。
また、本授業の直後、すなわち、水曜日４時限に「教養ゼミⅠ・Ⅱ」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline (in English)】
Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports that should be submitted through HOPPII (https://hoppii.hosei.ac.jp). Overall grade in the class will be decided based on the following; attendance: 25%、assignments and lab reports: 25%、in class contribution: 50%.

PRI300LA（情報学基礎 / Principles of informatics 300）

ＩＴリテラシー

2017年度以降入学者

児玉　靖司

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**1/Fri.1
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】
講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、ITリテラシーに関する話題について学ぶ。
毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2進数、8進数、16進数（1）	2進数について基礎的な概念を学び、応用である8進数、16進数について学ぶ。
第4回	2進数、8進数、16進数（2）	2進数の計算から、8進数、16進数の計算について学ぶ。
第5回	2進数、8進数、16進数（3）	2進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム（1）	CMS（Contents Management System）を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム（2）	LMS、SNSを中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ（1）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第10回	情報セキュリティ（2）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】
春学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroomを活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40%and attendance score of 60%.

PRI300LA（情報学基礎 / Principles of informatics 300）

コンピュータ科学

2017年度以降入学者

児玉　靖司

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**1/Fri.1
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】
講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。 具体的には、システム開発における要求分析（ソフトウェア工学）、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。
毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第3回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第4回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第5回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第6回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第7回	データベース	データベースについて学ぶ。
第8回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第9回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第10回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第11回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第12回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第13回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】
秋学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroomを活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40%and attendance score of 60%.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワードに人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を得る機会を提供します。

【到達目標】
本授業では以下の３点を最終的到達目標とします。１）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。２）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。３）各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各講義へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第3回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第4回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。
第5回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に注目し、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第6回	生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第7回	演習１：持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決への応用を目的としたグループワークを行います。
第8回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第9回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第10回	開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第11回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第12回	演習２：多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第13回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第14回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標１、２）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標３）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】
映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種Hoppiiの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【その他の重要事項】
30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

【Outline (in English)】
[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.
[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental problems; to understand related social problems; and to develop a personal opinion about various problems the human species faces with a holistic understanding of the human impact on the global environment.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/ in-class contribution (20%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

Human Impact on the Global Environment

2017年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】
This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will submit their opinions about/reactions to the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions, as needed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	As an essential matter for sustaining life and ecosystem, the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems.
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】
None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】
To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】
Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】
Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved to be effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to have access to Hosei's e-learning system (WebClass). Online format may be used, as needed, and students are expected to prepare necessary devices in such a case.

【その他の重要事項】
There is an enrollment limit of 30 students. There will be selection, if the limit is exceeded, and, to be included in the selection, you will be required to pre-register for the course a few days before the semester begins. Additional information will be provided through the e-learning system, as needed.

【Outline (in English)】
[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.
[Learning objectives] The course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.
[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論 A

2017年度以降入学者

植木　紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物への進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】
各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・授業のはじめにその回のテーマについての講義と実験・観察方法の説明を行います。その後、グループごとに実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題を用意します。期限内に提出してください。
・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	ボルボックスの観察①	レーウェンフックの顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第3回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野法や暗視野法によって生物を観察します。
第4回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、その周りの水の流れを観察します。
第5回	淡水産プランクトン①	池や川の水の採集方法や観察方法を学び、どのような生き物がいるかを調べます。
第6回	淡水産プランクトン②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察し、その変化について考察します。
第7回	淡水産プランクトン③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。
第8回	プラナリア①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。
第9回	プラナリア②	切断したプラナリアが一週間後にどのように再生しているかを観察します。
第10回	プラナリア③	プラナリアの採餌行動を観察し、からだの作りと機能を学びます。
第11回	走光性①	ボルボックスが環境の光を感知して遊泳方向を変える「走光性」を観察します。
第12回	走光性②	細胞から生える「鞭毛/繊毛」が生み出す水流が、光によってどのように変化するかを調べます。
第13回	走光性③	光を感知する構造「眼点」を観察し、ボルボックスの走光性のしくみを考察します。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】
参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　30%
・授業後の練習問題および授業ノート　70%（提出状況・理解度等を評価します）
・期末試験は行いません。
・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】
授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知れてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】
・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
The green alga Volvox is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using Volvox and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論Ｂ

2017年度以降入学者

植木　紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物への進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】
各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・授業のはじめにその回のテーマについての講義と実験・観察方法の説明を行います。その後、グループごとに実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題を用意します。期限内に提出してください。
・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの無性生殖個体を観察しながら顕微鏡の扱いに慣れましょう。
第3回	有性生殖とその進化②	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第4回	有性生殖とその進化③	異なる種の有性生殖様式を比較し、性の進化について考察します。
第5回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌（変形菌）の探餌行動を調べる実験を行います。
第6回	粘菌の行動②	粘菌内部の原形質が往復流動するようすを顕微鏡で観察・撮影します。
第7回	粘菌の行動③	粘菌が基質の上を移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。
第8回	生活環と形態形成①	ボルボックスの美しい球形を生み出す過程である「インバージョン」について学びます。
第9回	生活環と形態形成②	40分程度かかるインバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第10回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみとその進化について考えます。
第11回	鞭毛・繊毛の生理学①	ボルボックスの遊泳や光行動の観察を通して、真核生物が普遍的に持つ鞭毛・繊毛について学びます。
第12回	鞭毛・繊毛の生理学②	細胞膜を取り除いて死んでしまった細胞の運動を復活させる「ゾンビ・クラミドモナス実験」を行います。
第13回	鞭毛・繊毛の生理学③	鞭毛・繊毛がATPのエネルギーで動きカルシウムイオンで調節されることを実験を通して学びます。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】
参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　30%
・授業後の練習問題および授業ノート　70%（提出状況・理解度等を評価します）
・期末試験は行いません。
・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】
授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知れてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】
・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
The green alga Volvox is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using Volvox and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】
持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための概念を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業までに、あらかじめ教科書の割り当て部分を各自で読み、学習します。さらに、内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、それらをレジュメにまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに学習支援システムに課題欄から提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後、質疑応答を行います。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行い、理解を深めます。化学を履修していない学生にも理解できるように配慮いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	第１章_序論	教科書の目的や内容について概要を把握する。
第3回	第２章_産業革命およびそれ以降における石炭の歴史	産業革命およびそれ以降における石炭の歴史について学習する。
第4回	第３章_石油と天然ガスの歴史	石油と天然ガスの歴史について学習する。
第5回	第４章_化石燃料資源とその利用(1)	石炭の性質とその利用方法について学習する。
第6回	第４章_化石燃料資源とその利用(2)	石油の性質とその利用方法について学習する。
第7回	第４章_化石燃料資源とその利用(3)	天然ガスの性質とその利用方法について学習する。
第8回	第５章_減少する石油と天然ガス資源	石油と天然ガス資源の枯渇について学習する。
第9回	第６章_炭素燃料、炭化水素およびその製品の継続的必要性	化石燃料の燃料、及び原料としての有用性を学習する。
第10回	第７章_化石燃料と気候変動	化石燃料と気候変動について学習する。
第11回	第８章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(1)	太陽を起源とする再生可能エネルギーについて学習する。
第12回	第８章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(2)	地熱を起源とする再生可能エネルギーについて学習する。
第13回	第８章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(3)	潮汐を起源とする再生可能エネルギーについて学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用する予定です。（購入は不要です。）
書籍名：メタノールエコノミー -- CO2をエネルギーに変える逆転の発想
著者名：G. A. オラー、A. ゲッペールト、G. K. S. プラカーシュ
訳者名：小林四郎、齋藤彰久、西村晃尚
出版社：化学同人

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度（50%）、ディスカッションへの参加（50%）を総合的に考慮した平常点によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】
PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミII」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選をおこないますので、第1回授業に必ず参加してください。
本授業は、基本的に対面形式により行われます。
教科書は図書館で利用できますので購入する必要はありません。
本授業に関する質問等は、学習支援システムを通して受付ます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、学習支援システムによって指示いたします。

【Outline (in English)】
Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as row materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, students will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry. Students will be expected to have completed short reports before each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on short reports (50%) and in-class contribution (50%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】
持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための概念を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業までに、あらかじめ教科書の割り当て部分を各自で読み、学習します。さらに、内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、それらをレジュメにまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに学習支援システムに課題欄から提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後、質疑応答を行います。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行い、理解を深めます。化学を履修していない学生にも理解できるように配慮いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。
第2回	第８章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(4)	原子力エネルギーについて学習する。
第3回	第９章_「水素経済社会」とその限界(1)	水素の物性について学習する。
第4回	第９章_「水素経済社会」とその限界(2)	水素の製造方法について学習する。
第5回	第９章_「水素経済社会」とその限界(3)	水素の安全性について学習する。
第6回	第９章_「水素経済社会」とその限界(4)	燃料電池について学習する。
第7回	第１０章_「メタノールエコノミー」：総論	「メタノールエコノミー」についてて概要を把握する。
第8回	第１１章_燃料とエネルギー媒体としてのMeOHとDME(1)	燃料とエネルギー媒体としてのメタノールについて学習する。
第9回	第１１章_燃料とエネルギー媒体としてのMeOHとDME(2)	燃料とエネルギー媒体としてのジメチルエーテルについて学習する。
第10回	第１２章_メタノールの製造(1)	化石燃料からメタノールを合成する方法を学習する。
第11回	第１２章_メタノールの製造(2)	バイオマスからメタノールを合成する方法について学習する。
第12回	第１２章_メタノールの製造(3)	二酸化炭素のメタノールへのケミカルリサイクリングについて学習する。
第13回	第１３章_メタノールに由来する化学品、合成炭化水素および化学原料	メタノールから合成できる化学物質について種類や合成法を学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用する予定です。（購入は不要です。）
書籍名：メタノールエコノミー ―― CO2をエネルギーに変える逆転の発想
著者名：G. A. オラー、A. ゲッペールト、G. K. S. プラカーシュ
訳者名：小林四郎、齋藤彰久、西村晃尚
出版社：化学同人

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度（50%）、ディスカッションへの参加（50%）を総合的に考慮した平常点によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】
PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミII」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選をおこないますので、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）の第1回授業に必ず参加してください。本授業は、基本的に対面形式により行われます。教科書は図書館で利用できますので購入する必要はありません。本授業に関する質問等は、学習支援システムを通して受付ます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、学習支援システムによって指示いたします。

【Outline (in English)】
Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as row materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, students will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry. Students will be expected to have completed short reports before each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on short reports (50%) and in-class contribution (50%).

BAB300LA（基礎生物学 / Basic biology 300）

バイオイメージングの世界Ａ

2017年度以降入学者

木原　章

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**2/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】
そのために、本授業ではデジカメを使って生物が生きる様子を記録し、その記録画像を動画として編集したり、画像解析ソフトで数値解析する事で生きる謎の解明に挑戦します。その過程で、生き物について学び、新しい発見をする喜びを体験して頂く事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員の怪我に伴い、4月の授業はオンラインで行います。
5月以降は、実験室で以下のような方式で行う予定です。
先ず入門編として、ソバの発芽について学びます。種を植えれば芽が出てくると言う、一見当たり前の事も、その過程を映像として再現するためには様々な工夫が必要です。インターバル撮影を使うと、アサガオが花芽をつけて花を咲かせるまでの過程も映像化できるようなります。
　プラナリアは、半分に切っても、また再生して2つの個体になります。この再生過程についても映像として記録します。
　カイコでは、まゆ作りの過程を記録します。
　アリについては、巣作りの様子や、6本脚歩行の様子の記録・解析を行います。
　粘菌では、迷路のような成長過程を、画像解析で調べます。
　これらの活動を通じて、生き物の映像を記録し解析するための基本的な手法を学ぶ事になります。なを、扱う生物材料は、その時の生き物の成育状況によって変わることが有ります。
受講生は、授業で行ったことを発表するポスターを製作します。
　なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については，次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメージングの基礎	授業の概略を説明します。
②	映像の研究	生き物の様々な映像を見ながら、その撮影法やそれによって分かることを解説します。
③	映像の歴史	デジカメがない時代にどんな苦労があったのか、科学史的な視点でバイオイメージングを振り返ります。
④	種々の長時間記録法	インターバル撮影の応用法について学びます。
⑤	拡大撮影法・プラナリア走性の観察	小さい生き物の撮影法を学びます。
⑥	画像解析法・粘菌の移動速度の測定	動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	画像の整理法・根の成長の観察	様々な条件で撮影した画像の整理方法を学びます。
⑧	スタジオ撮影手法・芽生えの回転運動	撮影環境の設定法について学びます。
⑨	ストロボ撮影手法・種子の回転運動	ストロボによって動きを止めて撮影する方法を学びます。
⑩	ハイスピード撮影技法・カイコの飛翔	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	ハイスピード撮影技・アリの歩行	アリの６本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	データ整理法・芽生えの記録１	様々な種子の芽生えを記録した後、そのデータを整理して比較する方法を学びます。
⑬	動画編集手法・芽生えの記録２	様々な種子の芽生えを記録した後、動画として編集する手法を学びます。
⑭	春学期データ整理	春学期のデータについて、ノート上で整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して週４時間以上の学習を行って頂きます。

【テキスト（教科書）】
テキストは有りません。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
最終プレゼンを30％、授業中の活動を70％として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合が有ります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】
教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】
上記のリストに嫌いな生き物がいる場合は、活動の観察者として直接生き物とかかわらないように配慮しますので、事前に申告して下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.
【Learning Objectives】
The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on the required presentations(30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

BAB300LA（基礎生物学 / Basic biology 300）

バイオイメージングの世界Ｂ　2017年度以降入学者

木原　章

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】
春学期の「バイオイメージングの世界A」で学んだ技術を利用して、各班ごとに、独自のテーマ設定をして生命活動のしくみを画像記録して、その解明を行います。これらの活動を通じて、班ごとのプロジェクト遂行能力を身につけて頂くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、春学期の「バイオイメージングの世界A」で学んだ技術を利用して、特定の生き物に的を絞って、より高度な記録に挑戦します。そのために、それぞれの生き物の特徴を理解し、何を調べたら良いかを考えます。例えば、春学期に学んだソバの発芽過程で、光の方向を変えるとどうなるでしょう？ プラナリアを10等分したらどうなるでしょう？ そんな問題点を設定し、その解決法を探って行きます。
　班別に決めたテーマについての活動は、班ごとのプロジェクトとして進行し、最終的にプレゼンテーションとしてまとめて頂きます。これまでのテーマには「アリの６足歩行」「様々な種子のと栄養貯蔵と発芽速度の関係」「女王アリの産卵行動」「プラナリアの再生」等でした。（ＢＴ０９００教室の前に掲示中です）
　授業では、実際に自分で機材の使い方を学ぶ実習的な要素が強くなりますので、出席が単位取得の前提となります。
　なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については，次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメージングの基礎	授業の概略を説明します。
②	秋学期プロジェクト計画	プロジェクト計画作成法
③	秋学期プロジェクト計画	班別にプロジェクト計画を作成します
④	秋学期プロジェクト計画発表会	班ごとにプロジェクト計画を発表します。
⑤	秋学期プロジェクト開始	班別作業
⑥	秋学期プロジェクト第2回	班別作業
⑦	秋学期プロジェクト第３回	班別作業。
⑧	秋学期プロジェクト・中間発表	各班のプロジェクト進行状況を報告します。
⑨	秋学期プロジェクト第４回	班別作業
⑩	秋学期プロジェクト第５回	班別作業
⑪	秋学期プロジェクト第６回	班別作業
⑫	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業１	データ整理、表・グラフ作成などポスターのコンテンツを作ります
⑬	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業２	プロジェクトの活動報告ポスターを作成します。
⑭	ポスターコンテスト	班毎に10分程度(質疑応答を含む) のポスターの発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して、週4時間以上の学習を行って下さい。

【テキスト（教科書）】
テキストは有りません。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
最終プレゼンを30％、授業中の活動を70％として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合が有ります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】
教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】
必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas.Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.
【Learning Objectives】
The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on the required presentations (30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

環境の科学 A

2017年度以降入学者

田中　雅人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】
環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次回の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	分析化学の基礎 (1)	有効数字など分析データの取り扱いについて解説します。
第3回	分析化学の基礎 (2)	酸化剤(還元剤)の濃度を分析する酸化還元滴定を行います。
第4回	分析化学の基礎 (3)	金属濃度を分析するキレート滴定を行います。
第5回	環境中の物質循環	地球上の水などの物質の循環について解説します。
第6回	大気環境の科学 (1)	地球大気の構造とオゾン層について解説します。
第7回	大気環境の科学 (2)	温室効果ガスについて解説します。
第8回	大気環境の科学 (3)	大気汚染物質について解説します。
第9回	水環境の科学	水環境や水質基準について解説します。
第10回	水試料の分析[春学期](1)	環境水試料を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[春学期](2)	環境水試料[春学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。
第12回	水試料の分析[春学期](3)	環境水試料[春学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[春学期](4)	環境水試料[春学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】
成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末試験（30%）により取組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】
この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
required assignments: 70%, Term-end examination: 30%

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

環境の科学Ｂ

2017年度以降入学者

田中　雅人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】
環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次回の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	土壌環境の科学	土壌の構成物質、土壌の機能、土壌汚染などについて解説します。
第3回	土壌試料の分析(1)	土壌試料の土壌pH、土壌溶液などを調べます。
第4回	土壌試料の分析(2)	土壌試料の陰イオン吸着能を調べます。
第5回	土壌試料の分析(3)	土壌試料の陽イオン吸着能を調べます。
第6回	土壌試料の分析(4)	土壌試料の分析結果について考察します。
第7回	化学物質と環境	化学物質による環境影響について解説します。
第8回	水中の金属分析(1)	水道水やミネラルウォーターの硬度を調べます。
第9回	水中の金属分析(2)	水試料の電気伝導度や重金属濃度を調べます。
第10回	水試料の分析[秋学期](1)	環境水試料[秋学期]を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[秋学期](2)	環境水試料[秋学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。
第12回	水試料の分析[秋学期](3)	環境水試料[秋学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[秋学期](4)	環境水試料[秋学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】
成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末試験（30%）により取組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】
この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。
環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
required assignments: 70%, Term-end examination: 30%

LANe300LA（英語 / English language education 300）

Issues in Modern Japanese Society A

2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
レベル3〜4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）
定員制（15）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy,immigration, minorities, etc.) using mostly materials (news items) written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to examine and think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】
This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan,engage in discussion, and express their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates, and a final presentation by students. Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading,discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate
8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues:Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion &debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】
No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】
Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.
Class Participation: 30%
Midterm essay and Final report: 60%
Presentation: 10%
Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

【学生の意見等からの気づき】
Students should have some prior experience writing essays and /or reports in English, Students will be do short debates in groups.

【学生が準備すべき機器他】
Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

【その他の重要事項】
Students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor.
International Students are very welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

【Outline (in English)】
Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics in society interest them the most.

LANe300LA（英語 / English language education 300）

Issues in Modern Japanese Society B

2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
レベル3〜4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）
定員制（15）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This intermediate to advanced level course examines various aspects of Japanese society (education, economy, gender, etc.) using authentic materials. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics related to society that they would like to investigate and discuss during the semester.

【到達目標】
Students will be able to improve their academic speaking (discussion, debate) and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
This course is conducted in English. English readings (newspaper articles, etc) will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members. Course feedback will be provided in class and on written assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with implementation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading,discussion, debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion &debate
6	The declining bithrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due
7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spiritulity and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion &debate
12	Various topics	Students'individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers (reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to have some experience writing a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this course. The instructor will provide reading materials each week.

【参考書】
Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class every week.

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.
Class Participation: 30%
Midterm and Final Papers: 60%
Presentation: 10%
Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities, depending on the number of students enrolled.

【学生が準備すべき機器他】
Student should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping and organizing class handouts and readings.

【その他の重要事項】
Attendance is very important. Students who have more than three unexcused absences may not receive credit for this course. Students should have some experience in writing essays or reports in English. Students may enroll in this course only for one semester if they wish. International students are very welcome to enroll in this course. Students wishing to audit the course may do so only with the permission of the instructor.

【Outline (in English)】
This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語Ａ　2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。発音の規則を習得するとともに、平易なドイツ語で書かれた文章の読解や会話練習を通じて、ドイツ語文法の基礎を学びます。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけます。

【到達目標】
１）ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解すること。具体的には、ドイツ語技能検定試験（独検）の4級～5級合格レベル到達を目指します。
２）ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを実感できること。
３）ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。
・LMSとして、Google Classroomを使用します。
・連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／Lektion1：発音の規則（1）、あいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベートと発音の規則1、あいさつの表現１
2	Lektion1：発音の規則（2）、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ ふたつの二人称
3	Lektion1＆Lektion2：発音の規則（3）、動詞の不定詞と現在人称変化（1）、並列の接続詞	自己紹介１：人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（1）、平叙文と定動詞第2位の原則
4	Lektion2：動詞の現在人称変化（2）	人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（2）、自己紹介２、さまざまな疑問文のパターン
5	Lektion3：名詞の性と格（1）	名詞の格（1）、定冠詞と不定冠詞（1）
6	Lektion3：名詞の性と格（2）	名詞の格、定冠詞と不定冠詞、否定冠詞keinと否定文
7	Lektion4：名詞の複数形・人称	「品詞」について今一度理解度を確認する（1）、人称代名詞と所有冠詞をしっかり区別する
8	Lektion5：不定冠詞類・定冠詞類	「品詞」について今一度理解度を確認する（2）、人称代名詞と所有冠詞をしっかり区別する
9	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（1）	動詞の現在人称変化（3）
10	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（2）	動詞の現在人称変化（4）
11	Lektion7：、命令法と態（Modus）	２人称と依頼の表現、ドイツ語の日常的なモノと人の感覚について
12	Lektion7：話法の助動詞（1）	「話法の助動詞」の構文、枠構造の意味
13	Lektion7：話法の助動詞（2）	話法の助動詞を使うそのココロを理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（￥2,200）
・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（５０％）および学期末試験（５０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい（辞書類については第一回授業時に説明をします）
・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】
・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2025年7月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.
【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50%of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語Ｂ　2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。（春学期開講の「第三外国語としてのドイツ語A」に引き続き）初級文法の基礎を学びます。簡単なドイツ語を読み、書き、話すためのトレーニングとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。

【到達目標】
１）ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解すること。具体的には、ドイツ語技能検定試験（独検）の4級～5級合格レベル到達を目指します。
２）ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを実感できること。
３）ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や自分の文法理解を確認します。
・LMSとして、Google Classroomを使用します。
・連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	動詞の現在人称変化、名詞の格変化（冠詞）と人称の格変化、話法の助動詞
2	Lektion8：再帰代名詞・再帰動詞	他動詞の再帰表現、再帰代名詞を用いた表現
3	Lektion9：分離動詞・非分離動詞	動詞の前綴りの話、複合動詞のいろいろ、前つづりと定動詞・枠構造の関連を理解する
4	Lektion9：zu不定詞	不定詞とzu不定詞およびその用法、zu不定詞句を使った表現
5	Lektion9：従属の接続詞	従属接続詞と副文の作り方、主文と副文の違いを理解する
6	Lektion10：動詞の３基本形（I）（１）・現在完了形	現在完了形を使うそのココロとは？
7	Lektion10：動詞の３基本形（I）（２）・過去時制	過去時制と過去人称変化、現在完了形と過去時制の違いとは？
8	Lektion11：動詞の３基本形（II）・受動態	なんで受動態にしなきゃいけないワケ？　受動の助動詞２種類（行為受動、状態受動）
9	Lektion12：形容詞（１）・形容詞の格変化	形容詞の用法と形容詞の格変化
10	Lektion12：形容詞（２）・比較表現	並列の接続詞、従属の接続詞、形容詞の用法、付加語的用法と格変化
11	Lektion12：関係代名詞（１）	定関係代名詞・指示代名詞の格変化、関係代名詞（副文）
12	Lektion12：関係代名詞（２）	関係副詞・不定関係代名詞
13	補足：接続法	接続法第I式および第II式について
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（￥2,200）
・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（５０％）および学期末試験（５０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい。
・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】
・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2025年7月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.
【Grading Criteria /Policy】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50%of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語コミュニケーション中級A

2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the couse, students will be able to master simple every day situations in a German context.

【到達目標】
当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。
課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteie
8	Beschreiben, wo/ wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholug des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】
プリント配付。

【参考書】
自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】
After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.
Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.
Make sure to always arrive on time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】
In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.
Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語コミュニケーション中級B

2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】
当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。
課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】
プリント配付。

【参考書】
自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】
There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.
Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.
Make sure that you arrive in time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】
In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.
Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.
Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
皆さんが大学で出会う教員は皆，仕事として学問をしています．学問を単なる勉強でなく，仕事とすることとはどういうことなのか不思議に思ったことはありませんか．そしてそもそも仕事とは何だろうと思ったことはありませんか．この授業ではこの問題について，ヴェーバーの「仕事としての学問」を翻訳でゆっくりと読みながら議論することを目的とします．
さらに社会学や哲学の基本文献であるヴェーバーの議論に触れることになります．とっつきにくいように思われる本でも読み方さえマスターできれば読めるということを理解します．
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【到達目標】
講義で言及されたりして，聞いたことはあるけれど，どこから取り掛かっていいかわからない気がする文献へのとっかかりを手に入れることができます．
レジュメの書き方，他の人の意見への適切な質問の仕方などを学ぶことができます．
大学の「ゼミ」ってどういう雰囲気なのだろうかということを味わうことができます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ごく短いテクスト範囲（長くて2ページ程度）について，毎回レポーターを決めて，その人の作成した資料（レジュメでもパワーポイントスライドでも形式は自由）をもとにみんなで意見を話し合います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	扱う文献やヴェーバーについてのイントロダクションと担当決め
第2回	「仕事としての学問」精読	レポーターのまとめを聞いて議論する
第3回	「仕事としての学問」精読（第2回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第4回	「仕事としての学問」精読（第3回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第5回	「仕事としての学問」精読（第4回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第6回	「仕事としての学問」精読（第5回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第7回	「仕事としての学問」精読（第6回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第8回	「仕事としての学問」精読（第7回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第9回	「仕事としての学問」精読（第8回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第10回	「仕事としての学問」精読（第9回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第11回	「仕事としての学問」精読（第10回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第12回	「仕事としての学問」精読（第11回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第13回	「仕事としての学問」精読（第12回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第14回	まとめ	学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の後に質問を2つ考えてリアクションペーパーとして提出してください．
次回の範囲を読んできてください．担当者は，レジュメを切ります．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
マックス・ウェーバー．野口雅弘（訳）．『仕事としての学問　仕事としての政治』（講談社学術文庫，2018年）

【参考書】
野口雅弘．『マックス・ウェーバー：近代と格闘した思想家』（中公新書，2020年）．

【成績評価の方法と基準】
平常点（レポーターとしての貢献度および授業への参加度）：100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】
In this course, we read a seminal work of Weber "Wissenschaft als Beruf" (on request, English translation or German original will be provided).
This course aims that students learn how to (intensively) work on a classic work for social sciences and/or philosophy.
【Learning activities outside of classroom】
You are expected to prepare the text in advance and to submit two questions from the discussions from the last session.
【Grading Criteria /Policy】
Participation: 100%

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代では政治家の多くが，職業政治家です．しかし政治を仕事とすることとはどういうことなのか不思議に思ったことはありませんか．そしてそもそも仕事とは何だろうと思ったことはありませんか．この授業ではこの問題について，ヴェーバーの「仕事としての政治」を翻訳でゆっくりと読みながら議論することを目的とします．
さらに社会学や哲学の基本文献であるヴェーバーの議論に触れることになります．とっつきにくいように思われる本でも読み方さえマスターできれば読めるということを理解します．
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【到達目標】
講義で言及されたりして，聞いたことはあるけれど，どこから取り掛かっていいかわからない気がする文献へのとっかかりを手に入れることができます．
レジュメの書き方，他の人の意見への適切な質問の仕方などを学ぶことができます．
大学の「ゼミ」ってどういう雰囲気なのだろうかということを味わうことができます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ごく短いテクスト範囲（長くて2ページ程度）について，毎回レポーターを決めて，その人の作成した資料（レジュメでもパワーポイントスライドでも形式は自由）をもとにみんなで意見を話し合います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	文献の紹介と担当決め
第2回	「仕事としての政治」精読	レポーターのまとめを聞いて議論する
第3回	「仕事としての政治」精読（第2回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第4回	「仕事としての政治」精読（第3回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第5回	「仕事としての政治」精読（第4回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第6回	「仕事としての政治」精読（第5回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第7回	「仕事としての政治」精読（第6回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第8回	「仕事としての政治」精読（第7回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第9回	「仕事としての政治」精読（第8回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第10回	「仕事としての政治」精読（第9回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第11回	「仕事としての政治」精読（第10回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第12回	「仕事としての政治」精読（第11回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第13回	「仕事としての政治」精読（第12回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第14回	まとめ	今学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の後に質問を2つ考えてリアクションペーパーとして提出してください．
次回の範囲を読んできてください．担当者は，レジュメを切ります．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
マックス・ウェーバー．野口雅弘（訳）．『仕事としての学問　仕事としての政治』（講談社学術文庫，2018年）
* 春学期と同じ書籍です。

【参考書】
野口雅弘．『マックス・ウェーバー：近代と格闘した思想家』（中公新書，2020年）．

【成績評価の方法と基準】
毎回質問を2つリアクションペーパーにまとめてもらいます．それを匿名化して，次の授業の最初に議論したいと思います．
平常点（レポーターとしての貢献度，授業への参加度およびリアクションペーパーでの質問の提出）：100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません．

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】
In this course, we read a seminal work of Weber "Politik als Beruf" (on request, English translation or German original will be provided).
This course aims that students learn how to (intensively) work on a classic work for social sciences and/or philosophy.
【Learning activities outside of classroom】
You are expected to prepare the text in advance and to submit two questions from the discussions from the last session.
【Grading Criteria /Policy】
Participation: 100%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツの思想Ａ

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀前半という「危機」の時代のドイツ語圏の哲学を、とりわけ実存哲学と批判理論に着目しながら、概観します。

20世紀前半のドイツ語圏では、観念論（理想主義）への幻滅とともに、文明や学問が「危機」に陥っているという意識が強まりました。その危機意識に対応するように、一方ではヤスパースやハイデッガーらの「実存哲学」、また他方ではホルクハイマーやアドルノらの「批判理論」（あるいは「フランクフルト学派」）といった思想潮流が展開されました。授業においては、こうした歴史的・社会的な文脈を踏まえつつ、様々な哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

（Ａ）20世紀前半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
（Ｂ）扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
（Ｃ）扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	そもそも「ドイツ哲学」とは？	「ドイツ哲学」の定義づけの困難と可能性
第3回	19世紀のドイツ哲学（1）	ドイツ観念論とその挫折
第4回	19世紀のドイツ哲学（2）	キルケゴール、マルクス、ニーチェの思想とその影響
第5回	20世紀前半の思想的状況（1）	ヨーロッパのニヒリズムと『西洋の没落』
第6回	20世紀前半の思想的状況（2）	時代の「危機」意識と現象学
第7回	実存哲学の生成と展開（1）	ヤスパース『時代の精神的状況』と実存哲学
第8回	実存哲学の生成と展開（2）	ハイデッガー『存在と時間』の存在論
第9回	実存哲学の生成と展開（3）	ナチス政権下の哲学者たち 政治的決断主義
第10回	批判理論の生成と展開（1）	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」
第11回	批判理論の生成と展開（2）	ベンヤミン『歴史哲学テーゼ』と「進歩」への問い
第12回	批判理論の生成と展開（3）	ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』と近代的理性の自己省察
第13回	「危機」の時代のドイツの思想	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
・『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社
・『哲学の歴史 第10巻 危機の時代の哲学【20世紀I】』中央公論新社
・フッサール／ハイデッガー／ホルクハイマー『30年代の危機と哲学』清水多吉／手川誠士郎（訳）、平凡社〔平凡社ライブラリー〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。成績評価に際しては、【到達目標】（Ａ）～（Ｃ）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the first half of the 20th century (especially existential philosophy and Critical Theory).
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the first half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツの思想Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀後半のドイツ語圏の哲学を、歴史的・社会的諸問題との関連から概観します。

20世紀中盤から後半にかけてのドイツ語圏の哲学は、幾つかの重要な実際的問題と対峙しなければなりませんでした。ホロコーストを含む第三帝国の過去の「克服」、東西ドイツの分裂とその再統一、ヨーロッパへの統合と国際社会との関わり、そしてそれらに通底する「ドイツ」のアイデンティティをめぐる問い、といった諸問題です。授業においては、これらの歴史的・社会的諸問題に関するコンテクストを踏まえながら、哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

（A）20 世紀後半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
（B）扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
（C）扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	「危機」の時代から戦後へ	20世紀前半のドイツの哲学と戦後の課題
第3回	哲学者たちと「過去の克服」（1）	ニュルンベルク裁判と「過去の忘却」
第4回	哲学者たちと「過去の克服」（2）	ヤスパースの戦争責任論
第5回	哲学者たちと「過去の克服」（3）	亡命知識人たちの帰還とファシズムへの問い
第6回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学（1）	アウシュヴィッツ裁判と1968年運動
第7回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学（2）	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」の文化への問い
第8回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い（1）	ハーバーマスと「公共性」の思想
第9回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い（2）	1980年代の歴史修正主義と「歴史家論争」
第10回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い（3）	ナショナリズムと憲法パトリオティズム
第11回	ヨーロッパの中のドイツ（1）	東西ドイツの再統一とヨーロッパ統合
第12回	ヨーロッパの中のドイツ（2）	デリダとハーバーマスのヨーロッパ論
第13回	過去の克服と「ドイツ」のアイデンティティ再考	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
・三島憲一『戦後ドイツ その知的歴史』『現代ドイツ 統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
・ヤスパース『われわれの戦争責任について』橋本文夫（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕2015年
・ハーバーマス『近代 未完のプロジェクト』三島憲一（訳）、岩波書店〔岩波現代文庫〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the second half of the 20th century.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the second half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIT300LA（文学 / Literature 300）

カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ａ

2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
2021年度までに「ドイツ語圏の文学Ａ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【大人と子ども・学校とわたし】
20世紀初頭のドイツやフランスの人文学に理論的源流を持ち、20世紀後半の英国で広がりを見せた「カルチュラル・スタディーズ」（文化学）は、日常生活に偏在する支配関係に注目することで、新たな表象分析の道を切り拓きました。この授業で注目するのは「ふつうの人々」の日常にひそむ権力関係、特に「子どもの目から見た大人の世界」です。20世紀前半～現代のドイツに生きた／生きる子どもたちの眼差しを通して、現代を生きる私たちの「文化」と「日常」の諸問題に迫ります。

【到達目標】
１）読解能力と反省的思考能力の獲得
言語テクストを読み、語と文の意味を理解しながら、「自分が何かを考えている」という意識を持てているでしょうか。
２）自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得
意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化した社会のニーズであるばかりでなく、あなたが社会の不正や自己疎外と向かい合う手立てにもなってくれます。
３）社会に対する批判的な眼差し、遠く離れた場所の出来事を理解しようとする知性の獲得
近現代のドイツ語圏の物語が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
近現代ドイツ語圏文学のうち、児童文学・ジュヴナイル小説として知られる作品３点を、時系列に沿って扱います。
・毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要の説明を行ったあと、テクストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。文学作品のアダプテーション（映画）を扱う際は、映像の抜粋も確認します。
・授業後、次回授業までに、所定の研究課題（study question）として日本語の小レポートを執筆し提出します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション（1）	ドイツ語圏？ カルチュラル・スタディーズ（文化学）？？
2	導入・オリエンテーション（2）	「記号論」「受容理論」「メディア論」の基礎
3	「自然」と「文明／教育」の交差	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その１
4	「自然の中でのびのび生き生きと育つ子ども」？	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その２
5	子どもの成長・共同体との和解	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その３
6	信仰の力、あるいは善良に生きる価値？	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881、スイス）その４／TVアニメーションシリーズ『アルプスの少女ハイジ』（1974、ズイヨーエンタープライズ／日本）より
7	地下鉄の走る街・映画の時代	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その１／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
8	お母さんに心配をかけたくない	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その２／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
9	子どもこそ聡明な存在	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その３
10	「大人顔負けの子どもたち」という国家批判の言説	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その４
11	自分も親も初恋も全部イケてない	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その１
12	ちっぽけな自分と世界の大きさを知る	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その２
13	自分と世界を直視する勇気	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その３
14	忘れられない日々の物語	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その４／映画『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
・授業資料に再度目を通すこと。
・あらゆる活字に触れる作業は全て、この授業にとって意味のある予習・復習です。
・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

【テキスト（教科書）】
・授業ごと担当者から資料を配布します。
・『ハイジ』と『エーミールと探偵たち』（日本語訳）の２点を各自ご用意ください。図書館で借りるのでも構いません。
『ハイジ（全2冊）』（岩波書店、2003年）／『ハイジ（全2冊）』（福音館書店、1974年）／『アルプスの少女ハイジ』（角川書店、2021年）など
『エーミールと探偵たち』（岩波書店、2000年）

【参考書】
・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）
・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）
・D. ランゲヴィーシェ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民 ー もう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年
・小倉孝誠（編）『批評理論を学ぶ人のために』（世界思想社）2023年
その他は講義内資料を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）
・授業後の提出課題（50%）
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・筆記用具（紙媒体で使用可のもの）を必ず用意してください。

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識は必須ではありません。
・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Cultural Studies, which had its theoretical origins in the German and French humanities of the early 20th century and spread in the UK in the latter half of the 20th century, has paved the way for alternatives of representation analysis by focusing on the ruler and ruled relationships that are ubiquitous in everyday life. In this class, we will focus on the power relations hidden in the daily lives of “ordinary people,” especially “the adult world as seen through the eyes of children,” and through the eyes of children who lived in Germany from the early 20th century to the present, we will explore various issues of “culture” and “everyday life” in our modern age.
【Learning Objectives】
To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50%of submitted assignments as prescribed review tasks.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ｂ

2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
2021年度までに「ドイツ語圏の文学Ｂ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【「モダンガール」の系譜・多様化するフェミニズム】
この授業で着目するのは、大都市に生きる女性とジェンダー規範に関わる文学・文化現象です。20世紀以降のフェミニズム／ジェンダー批評は、あらゆる美的言説の中に、社会が約束事として作り上げた「男らしさ」「女らしさ」がひそむ現実を暴露することで、アイデンティティや主体性の問題を前傾化させてきました。この授業では、ドイツの首都ベルリンを舞台にした19～20世紀ドイツ語圏文学を例に、都市の匿名性や経済格差がいかに固定的性差と結びつけられ理解されてきたか、言語化されたジェンダー規範がどのように現実生活と通底しているか、考察を深めていきます。

【到達目標】
１）読解能力と反省的思考能力の獲得
言語テクストを読み、語と文の意味を理解しながら、「自分が何かを考えている」という意識を持てているでしょうか。
２）自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得
意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化した社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正や自己疎外と向かい合う手立てにもなってくれます。
３）社会に対する批判的な眼差し、遠く離れた場所の出来事を理解しようとする知性の獲得
19～21世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
19世紀～20世紀のドイツ語圏で書かれたドイツ語による文学作品（日本語訳）を、時系列に沿って扱います。
・毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要の説明を行ったあと、テクストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。映画を扱う際はその抜粋も確認します。
・授業後、次回授業までに、所定の研究課題（study question）として日本語の小レポートを執筆し提出します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏？ カルチュラル・スタディーズ？？ ジェンダー批評？？？
2	身分違いの恋ってわかってるけど…	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その１
3	オワコン下級貴族の本音？	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その２
4	「秩序」と人間、私的な人間関係	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その３
5	「オリエンタリズム」への逆襲？	森鴎外『舞姫』（1890年）その１
6	都市の相貌・心の迷い	森鴎外『舞姫』（1890年）その２
7	都会の「キラメキ」に憧れて	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その１
8	大都会の真実、男と女の真実	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その２／映画『狂乱のモンテカルロ』（1931年、ドイツ）
9	「とてつもなく、幸せになりたいの」	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その３／映画『会議は踊る』（1931年、ドイツ）
10	現実の、未完成の私を好きになってほしい	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その４
11	「それぞれの人生模様」？	ヴィッキィ・バウム『ホテルの人々』（1929年）／映画『グランド・ホテル』（1932年、米国）
12	忌まわしいはずの記憶が美化される条件	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾンネンアレーの短い方の端で）』（1999 年）その１
13	「世界で一番可愛い女の子」と「肝っ玉母さん」	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾンネンアレーの短い方の端で）』（1999 年）その２
14	「ちょっと抜けてる男たち」？	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾンネンアレーの短い方の端で）』（1999 年）その３／映画『ゾンネンアレー』（1999年、ドイツ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
・授業資料に再度目を通すこと。
・あらゆる活字に触れる作業は全て、この授業にとって意味のある予習・復習です。
・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

【テキスト（教科書）】
・授業ごと担当者から資料を配布します。
・授業第５、６回目は、各自で『舞姫』（森鴎外著）をご用意ください。どの版でも、図書館で借りるので問題ありません。

【参考書】
・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）
・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
・E. ショウォールター編（青山誠子訳）『新フェミニズム批評 女性・文学・理論』（岩波書店）1999年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）
・弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史 家庭史からグローバルヒストリーまで』（山川出版社）2021年
・田中東子『ガールズ・メディア・スタディーズ』（北樹出版）2021年
・林香里・田中東子『ジェンダーで学ぶメディア論』（世界思想社）2023年
・D. ランゲヴィーシェ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民 ー もう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年
・小倉孝誠（編）『批評理論を学ぶ人のために』（世界思想社）2023年
その他は講義内資料を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）
・授業後の提出課題（50%）
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・筆記用具（紙媒体で使用可のもの）を必ず用意してください。

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識は必須ではありません。
・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
This class focus on women in the metropolis and the literary and cultural phenomena related to gender norms. Feminism and gender critique since the 20th century have brought forward issues of identity and subjectivity by exposing the reality of “masculinity” and “femininity” that society has created as promises in all aesthetic discourses. In this class, we will deal with literary works from 19th and 20th century Germany as examples to examine how urban anonymity and economic disparity have been linked to and understood as fixed gender inequality, and how verbalized gender norms are connected to real life. The lecture will use examples from 19th- and 20th-century German literary works to deepen the discussion.
【Learning Objectives】
To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50%of submitted assignments as prescribed review tasks.

ARSk300LA（地域研究（地域間比較）/ Area studies(Interregional comparison) 300）

比較文化Ａ

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食、メディアと現代文化
「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】
◦自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する能力を培うこと。
◦固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
◦海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	TVの料理ドックメンタリー（1）	テレビの料理ドックメンタリーの比較から偏見を見直す。
③	TVの料理ドックメンタリー（2）	課題、ディスカッション
④	TVのCooking Show（1）	TVのCooking Showの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑤	TVのCooking Show（2）	課題、ディスカッション
⑥	TVの食品調査番組（1）	日本には存在していない食品調査番組の紹介で文化の違いを学ぶ。
⑦	TVの食品調査番組（2）	課題、ディスカッション
⑧	Youtubeの料理チャネル（1）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑨	Youtubeの料理チャネル（2）	課題、ディスカッション
⑩	Webの料理検索・レシピサイト（1）	Webの料理検索・レシピサイトを比較する。
⑪	Webの料理検索・レシピサイト（2）	課題、ディスカッション
⑫	Foodfilm（1）	フードフィルムの分析を学ぶ。
⑬	Foodfilm（2）	課題、ディスカッション
⑭	まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のためにHoppii学習支援システムにUPされた作品全体を観て比較する必要があります。
「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて４時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】
教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】
出席及び授業内の課題達成度：７０％
授業への参加態度など平常点：３０％
欠席が全体の３分の１を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、WIFIを利用して下さい。

【その他の重要事項】
定員は30人名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。

【Outline (in English)】
Food, Media and Contemporary Culture
Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly japanese and european representations of food in various visual and printed media.
—
◦ To deepen understanding of different cultures and own culture.
◦ Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
◦ Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).
—
Preparation and review.
The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.
—
Attendance and achievement of in-class assignments: 70%
Normal points such as participation attitude in class: 30%
If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

ARSk300LA（地域研究（地域間比較）/ Area studies(Interregional comparison) 300）

比較文化Ｂ

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**4/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、
この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボル的意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

【到達目標】
◦人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
◦固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
◦海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	狐（１）	童話におけるキツネの性格を比較する。
③	狐（２）	課題、ディスカッション
④	ロバと馬（１）	映画の中のロバと馬を比較する。
⑤	ロバと馬（２）	課題、ディスカッション
⑥	白鳥（１）	オペラとバレーを比較する。
⑦	白鳥（２）	課題、ディスカッション
⑧	禿鷹（１）	カフカの寓話『禿鷹』を読む。
⑨	禿鷹（２）	課題、ディスカッション
⑩	蛙（１）	現代ドイツ文学における蛙について
⑪	蛙（２）	課題、ディスカッション
⑫	人魚（１）	日本人と西洋人の「人魚」像の比較
⑬	人魚（２）	課題、ディスカッション
⑭	まとめ	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のためにHoppii学習支援システムにUPされた作品全体を観て比較する必要があります。
「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】
教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】
出席及び授業内の課題達成度：７０％
授業への参加態度など平常点：３０％
欠席が全体の３分の１を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、WIFIを利用して下さい。

【Outline (in English)】
What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.
——
◦ Deepening cross-cultural understanding of human-animal relationships.
◦ Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
◦ Acquire the ability to effectively utilize overseas media
——
Preparation and review.
The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.
——
Attendance and achievement of in-class assignments: 70%
Normal points such as participation attitude in class: 30%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツ語圏の公共哲学Ａ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（60）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民主主義ってどういう仕組みで成り立っているのだろうか。そもそも私たちの考えることは本当に反映しているのだろうか。皆さんは投票に出かけたり、選挙特番をご覧になるときに、そう思ったことはありませんか。このことを考えるヒントを、ドイツ語圏の哲学者たち（例えば、カントやアーレントやハーバマス）により展開された公共哲学の議論の展開を検討しながら、探すことがこの授業の目的です。
その際に、現代のドイツ語圏の政治・社会事情を例に取ります。ドイツ語圏の諸国では、議会制民主主義が根付いていると考えられています。一方で、新聞の国際面などを見れば、ドイツ語圏の各国の政治状況は大きく動いていることも感じられます。ドイツ語圏は、一体どうなっているんだろうか。この授業はそんな問いに答えるヒントも探したいと思います。
つまり、哲学的な思考法を身につけるだけではなく、それらの考え方を用いて実際の政治的な事例について考えることができるようになることが目的なのです。

【到達目標】
公共哲学についての基本的な概念とそれぞれの概念が持つ問題意識を理解する。
ドイツ語圏の政治に関わる話題ににについて基礎的な理解を得る。
哲学的な思考に基づいて、レポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます。この質問を匿名化の上、次の回の導入で一緒に検討します。
学期末にレポートを書いていただきます。
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	なぜ公共哲学は重要なのかについてのイントロダクション
第2回	なぜ公共的意見は重要なのか	・ 公共性とは何ではないのか ・ 公共性と公開性の関係 ・ 歴史的出来事を題材に哲学することについて ・ 民主主義国家の正統性について
第3回	なぜ公共的意見は重要なのか（続き）	前回の続き
第4回	なぜ公共的意見は重要なのか（続き）	前回の続き
第5回	公共性と「公的なもの」	・ 行為調整の面から見た公共性と共同体の違い ・ 相互行為の合理的な調整方法としての討議 ・ 国家の役割の変容と公共性の変化
第6回	公共性と「公的なもの」（続き）	前回の続き
第7回	公共性と「公的なもの」（続き）	前回の続き
第8回	公共性と私（秘）性	・ 公私の区別を自由の観点から検討する ・ 親密さについて小家族を例に考える ・ 家父長制における親密さの持つ問題を捉える ・ その問題の背景にある構造的な問題について考える
第9回	公共性と私（秘）性（続き）	前回の続き
第10回	公共性と私（秘）性（続き）	前回の続き
第11回	公共の意見形成	・ 後期資本主義に変容するメディアの役割についてのハーバマスの悲観 的見方 ・ 第2 次世界大戦後のドイツのメディアをめぐる状況 ・ 熟議民主主義論の2 回路 ・ 対抗し合う公共圏の中でメディアの果たす役割
第12回	公共の意見形成（続き）	前回の続き
第13回	公共の意見形成（続き）	前回の続き
第14回	春学期のまとめ	春学期に扱ったテーマの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布される授業をよく復習して次回の授業に臨んでください。
学期末にレポートを書いていただきます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回、資料をHoppiiで配布しますので、そちらをダウンロードしてお持ちください。

【参考書】
毎回の授業ごとに資料内に掲示しますので、そちらをご参照ください。

【成績評価の方法と基準】
毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます (50%)。こちらを平常点として評価します。また授業中の積極的な発言はこちらで加味します。
学期末にレポートを執筆していただきます (50%)。こちらは、資料内で提示した参考文献の一部を読んで、要約することを含みます。

【学生の意見等からの気づき】
入り口の興味が、ドイツ語圏の事情・政治学・哲学のどれであっても理解しやすくできるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、資料をHoppiiを通じて配布しますので、教室でそれらが閲覧できるようにタブレットないしパソコンを準備してきてください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を分割して履修することもできますが、連続履修をお勧めします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide philosophical discussions on the public sphere and to apply philosophical concepts to social/political issues in the German-speaking region.
【Learning Objectives】
In this course, students will learn how to deal with philosophical concepts and apply them to actual political issues.
【Learning activities outside of classroom】
Students have to learn at least 2 hour outside of class each week.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and homework (50%) + term paper (50%)

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツ語圏の公共哲学Ｂ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（60）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民主主義ってどういう仕組みで成り立っているのだろうか。そもそも私たちの考えることは本当に反映しているのだろうか。皆さんは投票に出かけたり、選挙特番をご覧になるときに、そう思ったことはありませんか。このことを考えるヒントを、ドイツ語圏の哲学者たち（例えば、カントやアーレントやハーバマス）により展開された公共哲学の議論の展開を検討しながら、探すことがこの授業の目的です。
その際に、現代のドイツ語圏の政治・社会事情を例に取ります。ドイツ語圏の諸国では、議会制民主主義が根付いていると考えられています。一方で、新聞の国際面などを見れば、ドイツ語圏の各国の政治状況は大きく動いていることも感じられます。ドイツ語圏は、一体どうなっているんだろうか。この授業はそんな問いに答えるヒントも探したいと思います。
つまり、哲学的な思考法を身につけるだけではなく、それらの考え方を用いて実際の政治的な事例について考えることができるようになることが目的なのです。

【到達目標】
公共哲学についての基本的な概念とそれぞれの概念が持つ問題意識を理解する。
ドイツ語圏の政治に関わる話題ににについて基礎的な理解を得る。
哲学的な思考に基づいて、レポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます。この質問を匿名化の上、次の回の導入で一緒に検討します。
学期末にレポートを書いていただきます。
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	春学期の簡単な振り返りと、秋学期のテーマのイントロダクション。
第2回	熟議民主主義と公共性	・熟議民主主義論における政治システムの理論的な役割 ・東ドイツの崩壊と公共性 ・アソシエーションの公共性
第3回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第4回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第5回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第6回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	・政治システムとしてのドイツ語圏の政党制度 ・熟議民主主義の対抗説としての闘技民主主義
第7回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き
第8回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き
第9回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き
第10回	多元主義と公共性	・社会が多元的であることをどのように理解するか ・形而上学的思考とその世俗化 ・ドイツ語圏における宗教に関わる状況 ・ポスト世俗化論とは何か
第11回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第12回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第13回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第14回	まとめ	1年間の講義を振り返ってまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布される授業をよく復習して次回の授業に臨んでください。
学期末にレポートを書いていただきます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回、資料をHoppiiで配布しますので、そちらをダウンロードしてお持ちください。

【参考書】
毎回の授業ごとに資料内に掲示しますので、そちらをご参照ください。

【成績評価の方法と基準】
毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます (50%)。こちらを平常点として評価します。また授業中の積極的な発言はこちらで加味します。
学期末にレポートを執筆していただきます (50%)。こちらは、資料内で提示した参考文献の一部を読んで、要約することを含みます。

【学生の意見等からの気づき】
入り口の興味が、ドイツ語圏の事情・政治学・哲学のどれであっても理解しやすくできるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、資料をHoppiiを通じて配布しますので、教室でそれらが閲覧できるようにタブレットないしパソコンを準備してきてください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を分割して履修することもできます。春学期を履修していなくてもついて来れるようには工夫いたします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide philosophical discussions on the public sphere and to apply philosophical concepts to social/political issues in the German-speaking region.
【Learning Objectives】
In this course, students will learn how to deal with philosophical concepts and apply them to actual political issues.
【Learning activities outside of classroom】
Students have to learn at least 2 hour outside of class each week.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and homework (50%) + term paper (50%)

HIS300LA（史学 / History 300）

ドイツ語圏の歴史A

2017年度以降入学者

辻　英史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏の社会文化史
　中・近世から20世紀にいたる時期のドイツ語圏を中心にしたヨーロッパの歴史を、とくに社会の変化と芸術・文化の発展に焦点を当てて学ぶ。

【到達目標】
　中・近世のドイツ語圏は、政治的には多数の地方権力に分裂していた。19世紀に入り、それらの勢力は次第に整理・統合され、最終的にはドイツ帝国やオーストリア帝国、スイス連邦といった近代国家として統一されていく。このような歴史的経緯から、現代に至るまでドイツ語圏は全体としてある程度の共通性を保ちつつ、地域ごとに非常に変化に富む社会である。そこから文化・芸術の領域において貴重な遺産の数々が作り出されてきた。
　この授業では、こうした地域差と多様性を有するドイツ語圏の社会が、ヨーロッパの他の地域と交流しながら、いかに独自の文化を生み出し、それと同時に優れた芸術作品を作り出していったかを学ぶ。
　なお、20世紀以降の時代については秋学期開講の「ドイツ語圏の歴史B」で扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
　ドイツ語圏の歴史のなかでもとくに重要ないくつかの時期や事件をとりあげて、当時の社会がどのようなものであったかを解説し、またそうした時代背景のもとでどのような文化現象や芸術作品が生み出されたのかを説明する。さまざまな映像・画像・テキストなどの資料により作品の解説を行う。
　授業は時代順に以下の5つのパートに分かれる：
①中世編　フランク王国から宗教改革（16世紀前半）まで
②近世編　16世紀後半から18世紀後半まで
③初期近代編　18世紀末から19世紀前半まで
④近代編　19世紀半ばから19世紀末まで
⑤世紀転換期編　19世紀末から20世紀初頭まで
　参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも日本語または英語の翻訳を用意する。
　参加者は毎回リアクションペーパーを提出する。毎回の授業冒頭に前回のリアクションペーパーのフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツ語圏の社会と文化の特徴とは？
第2回	中世編①　中世社会とキリスト教	教会建築を手がかりに、中世のキリスト教が社会に与えた影響を考える。
第3回	中世編②　中世の都市文化	中世都市の発展と社会構造の関係を、ルネサンス期の絵画芸術を例として考える。
第4回	中世編③　宗教改革と文化	中世社会の経済的発展がローマ・カトリック宗教改革期の社会と芸術の関係について。
第5回	近世編①　宮廷社会とバロック芸術	近世の宮廷では、強力な君主権力のもと各種のバロック芸術が花開いた。その例として建築、絵画、音楽などの作品を取り上げる。
第6回	近世編②　民衆のバロック	近世では、主としてプロテスタント圏において都市の経済力を原動力として新たな芸術活動が展開された。バッハの音楽芸術はその典型である。
第7回	近世編③　啓蒙主義の出現	近世における経済発展は、哲学や思想上の革新をもたらした。その頂点に位置するのが啓蒙主義思想である。その思想内容は同時代の芸術作品にも影響を与えている。
第8回	初期近代編①　近代国家と古典主義	ドイツ語圏では啓蒙主義派君主権力と結びつき、国家や社会の近代化の動きをもたらした。古典主義の芸術は新しい国家と社会の象徴でもあった。
第9回	初期近代編②　市民社会の出現とロマン主義	18世紀の末になると、国家の保護をうけて商工業は活発化し、市民層と呼ばれる商工業に従事する中間層が台頭する。彼らはロマン主義の芸術に深く傾倒していく。
第10回	近代編①　ナポレオン戦争とナショナリズム	フランス革命とそれに続くナポレオンによる侵略は、それまで分裂していたドイツを統一しようとするナショナリズムを高揚させることになった。
第11回	近代編②　工業化と市民層の文化	19世紀の半ばから後半にかけての工業化の進展は、市民層の地位をさらに高め、芸術の担い手としての活動を可能にした。
第12回	近代編③　社会主義労働運動の展開	19世紀後半、低賃金と過酷な労働・生活環境に苦しめられた工業労働者たちは社会主義思想のもと団結し、ひとつの階級を形成し始めた。
第13回	世紀転換期編①　19世紀末の社会と芸術	ウィーンを例に、いわゆる世紀末文化の特徴と、ユーゲントシュティルの芸術の隆盛を説明する。
第14回	世紀転換期②　20世紀初頭の生活改革運動と表現主義	19世紀末から20世紀初めに出現した改革運動の数々と、同時代の新しい芸術潮流との関係について扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、期末レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
In this class, students will study the history of Europe, especially the German-speaking countries, from the Middle Ages and early modern period to the 20th century, focusing especially on social changes and the development of art and culture.
Students are required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

HIS300LA（史学 / History 300）

ドイツ語圏の歴史Ｂ

2017年度以降入学者

辻　英史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ナチズムを中心に20世紀のドイツ語圏の歴史を扱う。ナチスとその支配をドイツ＝ヨーロッパ史の文脈のなかに位置づけ、その特質を理解することを目的とする。

【到達目標】
20世紀の前半のドイツを中心とするヨーロッパの状況について学ぶ。とくに、歴史上例のない破壊と犯罪行為をおこなったナチ政権の成立に至る過程とその支配のイデオロギーや構造、およびナチ政権の下での「普通の人びと」の日常生活について理解する。ナチスの引き起こした第二次世界大戦とユダヤ人迫害（ホロコースト）を、そのヨーロッパワイドな広がりという文脈において理解する。さらに、大戦後から現代に至るまでのナチスをめぐる歴史認識についても考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は以下の3つのパートからなる。
①概説：政治・経済を中心に、時代の流れを説明する。
②論点：経済・社会・文化を中心に、その時代の重要な特徴をいくつか抜き出し、解説する。
③演習：それまでに得た知見を踏まえ、同時代史料（文書、画像、映像、芸術作品など）を読解し、解釈する。史料は日本語のものを用意する。
参加者は毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。提出課題はフィードバックのうえ返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの近現代史における特殊性と他地域との共通性について知る。
第2回	近現代ドイツ史の歩みとナショナリズム	ナポレオン戦争からドイツ帝国創建にいたるドイツのナショナリズムの発展を概観する。
第3回	第一次世界大戦とその帰結	ヴェルサイユ体制と敗戦国ドイツの処遇について学ぶ。
第4回	ヴァイマール共和国の誕生	ドイツ革命、ヴァイマール共和国の成立から1920年代半ばの相対的安定期までを扱う。
第5回	ヴァイマール共和国の崩壊	世界大恐慌から、ナチ党の台頭過程を経てその権力掌握に至るまでを明らかにする。
第6回	ナチ独裁支配の確立	全権委任法や「グライヒシャルトゥンク」と呼ばれる国内支配体制の足固め、「経済の奇跡」を達成するまでを概観する。
第7回	ナチ体制への国民統合	ドイツ国民の「民族共同体」への統合と、「共同体異分子」と呼ばれた人びとの排除について扱う。
第8回	ナチ・ドイツと国際社会	ヨーロッパ・グローバルな視点から1930年代の国際情勢を明らかにする。
第9回	「電撃戦」から「総力戦」へ	第二次世界大戦の開戦の経緯とドイツの戦争遂行体制の内実について知る。
第10回	ヨーロッパ・ユダヤ人の「絶滅計画」	大量虐殺に至るユダヤ人迫害の累進的急進化のプロセスについて学ぶ。
第11回	支配と協力のあいだで	ナチ支配体制に対するヨーロッパ各国の協働と抵抗について知る。
第12回	第二次世界大戦後のドイツ（1）	「崩壊社会」と呼ばれた敗戦後の混乱から、東西ドイツの建国にいたる時期を扱う。
第13回	第二次世界大戦後のドイツ（2）	戦後の東西ドイツにおける「過去の克服」の状況、とくに戦争犯罪人の訴追の問題を扱う。
第14回	再統一後のドイツと「記憶の文化」	統一ドイツにおけるナチズムの過去に関する「記憶の文化」の形成について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。
芝健介『ホロコ-スト―ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中公新書、2008年。
石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社現代新書、2015年。
芝健介『ヒトラー―虚像の独裁者』岩波新書、2021年。
ウルリヒ・ヘルベルト(小野寺拓也訳)『第三帝国―ある独裁の歴史』角川新書、2021年。
小野寺拓也／田野大輔『検証ナチスは「良いこと」もしたのか？』岩波ブックレット、2023年。
原田昌博『ナチズム前夜』集英社新書、2024年。
ほか、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
This course covers the history of the German-speaking world in the 20th century, with a focus on National Socialism. The aim is to place the Nazis and their rule in the context of German-European history and to understand its particularities.
Students will pay close attention to the process led to the establishment of the Nazi regime, which committed destruction and criminality unprecedented in history, the ideology and structure of its rule, and the daily lives of "ordinary people" under the Nazi regime. The course will also provide students with an understanding of the role of the Nazi regime in the Second World War and the persecution of the Jews (the Holocaust) in the context of its Europe-wide spread. The course will also examine historical perceptions of the Nazis from the end of the war to the present day.
Students are required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語講読 A

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。

『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テクストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。

授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテクストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。春学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の序説を講読する予定です。

【到達目標】

（A）辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテクストを読解できる。
（B）ニーチェの思想を、テクストに即して精確に理解できる。
（C）理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめにニーチェの生涯や思想、著作について導入をした後、『ツァラトゥストラはこう語った』（*Also sprach Zarathustra*）のドイツ語原文を輪読形式で講読します。

講読に際しては、受講者全員が事前にテクストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テクストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。受講者には積極的な参加が望まれます。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テクストについて導入	授業の進め方の確認 ニーチェの生涯や思想、著作の背景について導入
第2回	*Also sprach Zarathustra* 講読（1）	7頁の精読、検討
第3回	*Also sprach Zarathustra* 講読（2）	7-8頁の精読、検討
第4回	*Also sprach Zarathustra* 講読（3）	8-9頁の精読、検討
第5回	*Also sprach Zarathustra* 講読（4）	10-11頁の精読、検討
第6回	*Also sprach Zarathustra* 講読（5）	11-12頁の精読、検討
第7回	*Also sprach Zarathustra* 講読（6）	12-14頁の精読、検討
第8回	*Also sprach Zarathustra* 講読（7）	14-15頁の精読、検討
第9回	*Also sprach Zarathustra* 講読（8）	15-16頁の精読、検討
第10回	*Also sprach Zarathustra* 講読（9）	17-19頁の精読、検討
第11回	*Also sprach Zarathustra* 講読（10）	19-21頁の精読、検討
第12回	*Also sprach Zarathustra* 講読（11）	21-22頁の精読、検討
第13回	*Also sprach Zarathustra* 講読（12）	23頁の精読、検討
第14回	春学期のまとめ	春学期の講読内容の整理・検討 議論と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テクストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam
※テクストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】

・独和辞典（必須）
・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社
・『ニーチェ全集9・10　ツァラトゥストラ　上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕
・須藤訓任「ニーチェ」（『哲学の歴史　第9巻　反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁）
・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（講読時のテクスト理解、議論への参加、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60％、発表への取り組み40％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新設科目のため昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。
・オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。

・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれません。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことの方が大切です。
・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and in-class presentations (40%).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語講読Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。

『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テクストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。

授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテクストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。秋学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の幾つかの説話を講読する予定です。

【到達目標】

（A）辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテクストを読解できる。
（B）ニーチェの思想を、テクストに即して精確に理解できる。
（C）理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめに序説の内容や論点を確認した後、春学期に引き続き、『ツァラトゥストラはこう語った』（*Also sprach Zarathustra*）のドイツ語原文を輪読形式で講読します。

講読に際しては、受講者全員が事前にテクストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テクストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。受講者には積極的な参加が望まれます。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 序説の振り返り	授業の進め方の確認 *Also sprach Zarathustra*, 7-23頁の内容・論点の確認
第2回	*Also sprach Zarathustra* 講読（1）	24-26頁の精読、検討
第3回	*Also sprach Zarathustra* 講読（2）	26-27頁の精読、検討
第4回	*Also sprach Zarathustra* 講読（3）	27-29頁の精読、検討
第5回	*Also sprach Zarathustra* 講読（4）	29-31頁の精読、検討
第6回	*Also sprach Zarathustra* 講読（5）	31-32頁の精読、検討
第7回	*Also sprach Zarathustra* 講読（6）	32-33頁の精読、検討
第8回	*Also sprach Zarathustra* 講読（7）	33-34頁の精読、検討
第9回	*Also sprach Zarathustra* 講読（8）	34-36頁の精読、検討
第10回	*Also sprach Zarathustra* 講読（9）	36-37頁の精読、検討
第11回	*Also sprach Zarathustra* 講読（10）	38-39頁の精読、検討
第12回	*Also sprach Zarathustra* 講読（11）	39-41頁の精読、検討
第13回	*Also sprach Zarathustra* 講読（12）	41-44頁の精読、検討
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の講読内容の整理・検討 議論と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テクストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam
※テクストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】

・独和辞典（必須）
・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社
・『ニーチェ全集9・10　ツァラトゥストラ　上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕
・須藤訓任「ニーチェ」（『哲学の歴史　第9巻　反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁）
・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（講読時のテクスト理解、議論への参加、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60％、発表への取り組み40％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新設科目のため昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。
・オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。

・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれません。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことの方が大切です。
・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and in-class presentations (40%).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％、期末レポート20％、授業への参画状況20％の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標（Learning Objectives）】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム(Hoppii)を通して告知する。 体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。 毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る (講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う (講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える (講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う (講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策 (講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る (講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。 また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60 %、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が 授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標(Learning Objectives)】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
【授業の概要と目的(何を学ぶか)】
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準(Grading Criteria /Policy)】Assignments
(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はグループワークおよび講義、実習から構成され，様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワーク「他己紹介」を通じたアイスブレイク。（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	運動の心理的効果 バドミントン	運動の心理的効果について、気分調査尺度を用いて検証する。（講義及び実習）
5	運動の身体的効果 バドミントン	運動の身体的効果について学ぶ（講義及び実習）
6	技術を高める効果的な練習法：注意の焦点 バスケットボール(+派生バスケ)	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として注意の焦点を学ぶ。（講義および実習）
7	技術を高める効果的な練習法：フィードバック法 ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてフィードバック法を学ぶ（講義および実習）
8	技術を高める効果的な練習法：運動イメージ ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として運動イメージを学ぶ（講義および実習）
9	技術を高める効果的な練習法：ブロック・ランダム法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてブロック・ランダム法を学ぶ（講義および実習）
10	技術を高める効果的な練習法：観察学習法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として観察学習法を学ぶ（講義および実習）
11	効果的な練習方法の探索 卓球	グループワークを通じて、効果的に運動を学習するための方法について探索する（講義及びグループワーク）
12	効果的な練習方法の実践 ユニホック	「効果的な運動学習法の探索」での結果を踏まえて、効果的に運動を学習するための方法を実践する（講義および実習）
13	Tea(お茶)とスポーツボッチャ	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。
ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】
1.学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】
With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.
The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はグループワークおよび講義、実習から構成され，様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。（講義）
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワークを通じたアイスブレイク。実技種目はドッジビーを用いる（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	プレッシャーとスポーツ：実践 バスケットボール(+派生バスケ)	スポーツの場面ではしばしば緊張が高まる場面でのプレーが求められる。バスケットボールのフリースローを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）
5	プレッシャーとスポーツ：基礎理論 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ：実践」での結果を踏まえてプレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
6	プレッシャーとスポーツ：あがりへの対処 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ」での結果と基礎理論を踏まえて、プレッシャーがかかる場面でも実力発揮をするための方法とあがりへの対処法を学ぶ（講義および実習）
7	スポーツの価値 卓球	これまでに五輪スポーツから地域レベルでのレクリエーションスポーツまで数多のスポーツ種目が生み出されてきた。既存のスポーツ種目を概観すると共にスポーツの本質的価値を学ぶ（講義および実習）
8	Tea(お茶)とスポーツ 卓球	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
9	運動の功と罪 卓球	運動による健康効果についてはよく知られている。一方で、運動が心身に及ぼす負の影響についてはあまり知られていない。運動の功と罪について学ぶ（講義および実習）
10	ニュースポーツと地域活性 ネオテニス	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義および実習）
11	スポーツ栄養 ネオテニス	食の欧米化と多様化により、様々な健康リスクが増加した。近年、危惧されている超加工食品の摂取と健康リスクの関連について学ぶ（講義および実習）
12	睡眠の効果 ボッチャ	睡眠は健康に大きな影響を及ぼす。睡眠の効果について学ぶ（講義および実習）
13	スポーツとコーピング ユニホック	社会生活を営む中で、様々な心理的ストレスを受ける。ストレスに対処する方法を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括およびレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。
ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】
1.学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】
With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.
The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

白井　隆長

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年におけるテクノロジーの著しい発展に伴い、スポーツサイエンスの分野においても顕著な進化が見られ、スポーツをより効果的かつ効率的に、そして安全に実践するための多様な方法が提案されている。本講義では、ゴール型競技、ネット型競技、対人型競技など、異なる競技特性を有するスポーツを対象とし、最新のスポーツ科学に関する理解を深めることを目的とする。また、各競技における技術の習得および向上を目指し、理論的知識と実践的スキルの双方を習得することに重点を置く。さらに、身体活動の意義や役割について包括的に理解を深めるとともに、生涯を通じた身体的・精神的・社会的健康の維持・向上に寄与する基礎的な知識の修得を促進し、自己管理能力の涵養を図る。本講義では、これらの知識や態度を、講義と実習を通じて総合的に育成することを目標とする。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について スポーツ科学の視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 人体のしくみを理解することで自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 健康に関する情報の取捨選択ができるようになるために、科学的根拠を踏まえた健康リテラシーを醸成する。
⑤ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して 、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑥ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る 。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
　この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいてレポート選抜で履修可能者をする。
　授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技＆講義 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操(フィットネス) バスケットボールの基本的技術とルール
3	実技＆講義 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操(フィットネス)・レクリエーション、バスケットボールの応用的技術と戦術理解
4	実技＆講義 ：バレーボール①	ストレッチ・体操(フィットネス)・レクリエーション、バレーボールの基本的技術とルール
5	スポーツ科学とは？（講義）	スポーツ科学とは トップアスリートの特徴 サイエンスの活用
6	運動と代謝（講義）	代謝とそのメカニズム 運動が健康に与える影響
7	実技＆講義 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
8	実技＆講義 ：卓球②	ストレッチ・体操(フィットネス) ダブルスの応用的技術とルール
9	実技＆講義 ：バドミントン①	ストレッチ・体操(フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール、試合形式のゲーム
10	実技＆講義 ：バドミントン②	ストレッチ・体操(フィットネス) バドミントンのダブルスの応用的技術とルール、試合形式のゲーム
11	実技＆講義 :バレーボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの応用的技術とルール
12	実技 ＆講義 :その他の種目	ストレッチ・体操(フィットネス) ドッヂボール、フリスビー、ユニホック、ホッケーの基本技術とルール
13	サクセスフルエイジングの達成（講義）	エイジング 老化と加齢 エクササイズの効能
14	授業の総括、簡易テスト	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
　本授業は、講義および実習を通じて、スポーツ活動が身体的および精神的健康の維持・増進に寄与し、さらに良好な対人関係の構築を促進することについて理解を深めることを目的としている。その一環として、日常生活における身体活動に費やした時間、食事内容、睡眠時間などの生活習慣を記録し、それらを振り返ることで、身体活動がもたらす効果を評価するとともに、今後の課題を明確にすることが求められる。また、テレビ、新聞、Webメディアなどを通じて発信される多様なスポーツ関連情報に注意を向け、それらを積極的に収集・分析する習慣を身につけることも推奨される。これらの取り組みにより、本授業で扱う内容への理解が一層深まり、スポーツ活動の意義についての認識を高めることが期待される。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート40％の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で論理的かつ適切な記述がされているかについて評価する。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5.原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
本授業では、スポーツ競技の優れた技術をマスターすることを目的としていないため、初心者でもスポーツに親しめるよう授業の難易度を低く設定しています。そのため、競技に不安のある方でも楽しく参加できるよう配慮しております。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1.原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2.授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4.本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline (in English)】

【Course outline】With the development of technology in recent years, sports science has evolved in various ways, and many methods have been proposed to make sports more effective, efficient, and safe. In this lecture, we will deepen our understanding of the latest sports science using sports with various characteristics such as goal-based, net-based, and opponent-based, and aim to acquire and improve skills in each sport. This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from sports science perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. To develop basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through an understanding of how the human body works..
4. To foster health literacy based on scientific evidence in order to be able to discern information about health.
5. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
6. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

白井　隆長

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、「運動・栄養・休養」という三つの観点から、自身および集団の健康に関する科学的理解を深めることを目的とする。特に、現代日本が直面する少子高齢化、ライフスタイルの変容、生活習慣病の増加などの社会的課題に焦点を当て、それらの背景や疾病の原因を多角的に考察する。さらに、スポーツ科学に関する理論的知識の習得にとどまらず、実践的アプローチとしてエクササイズやメンタルトレーニングを取り入れ、自己の健康を維持・向上させるためのセルフコントロール技法を身につけることを重視する。受講生は、科学的根拠に基づいた運動の効果や心理的アプローチを理解し、それを日常生活に応用することで、生涯にわたる健康管理能力を養うことができる。本講義ではより個人の健康管理に重点を置き、実践的なセルフマネジメント手法を修得することを特徴とする。健康維持・増進のための理論と実践を統合し、科学的な視点に基づいた健康習慣の確立を目指す。単なる知識の習得にとどまらず、個々のライフスタイルに適した運動やメンタルトレーニングの活用方法を探究し、自らの健康を主体的に管理する能力を培うことで、より質の高い生活を実現するための知識と実践力を養う。本講義を通じて、スポーツ科学の知見を活かし、健康的な生活を実現するための具体的な方法を学び、スポーツを通じた生涯健康管理の実践者となることを目指す。

【到達目標】
① スポーツの三要素「運動、栄養、休養」について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を送るために、スポーツ実習を通して自身に合ったコンディショニング法を身につける。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る 。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
　この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については 、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者をする。
　授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験 や レポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
　授業は対面による実技と講義で実施する。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技＆講義 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
3	実技＆講義 ：バドミントン②	ストレッチ・体操(フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
4	実技＆講義 ：フットサル①	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） フットサルの基本的技術とルール
5	健康とは?（講義）	WHOの健康の概念（Health Tips） JAMA 身体の健康を維持するしくみ
6	生活習慣病とスポーツ医学（講義）	生活習慣病とは（発症とそのメカニズム） スポーツ医学とその応用 運動が疾病を抑制するメカニズム
7	実技＆講義 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
8	実技＆講義 ：卓球②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
9	実技＆講義 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの基本的技術と戦術
10	実技＆講義 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの応用的技術と戦術 3vs3
11	実技＆講義 ：フットサル②	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） フットサルの応用的技術とルール
12	実技＆講義 ：ニュースポーツ	ストレッチ・体操（フィットネス） ユニホック・インディアカの基本的技術とルール
13	骨格筋の構造と特性を活かしたコンディショニング（講義）	骨格筋の量・質的変化 トレーニング適応 コンディショニング 遺伝とスポーツパフォーマンス
14	授業の総括・簡易テスト	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、講義および実習を通じて、スポーツ活動が身体的・精神的健康の維持・向上に寄与し、さらに良好な対人関係の構築を促進する役割を担うことについて理解を深めることを目的とする。そのため、日々の身体活動に費やした時間や睡眠時間などの生活習慣を記録し、その内容を振り返ることで、スポーツ活動が自身の健康に与える影響を評価し、今後の課題を明確化することが求められる。また、テレビ・新聞・Webメディアなどを通じて発信される多様なスポーツ関連情報に積極的に触れ、最新の知見や社会的動向を把握する習慣を養うことも重要である。これらの実践的取り組みを通じて、本授業で学ぶ内容への理解が一層深まり、スポーツ活動の意義に関する科学的かつ実践的な洞察を得ることが期待される。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート40％の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。

7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ科学に関するエビデンスをもとにした講義や実習を通してスポーツの楽しさを学びます。運動によって身体が変化していくメカニズムを理解し、自身のライフスタイルに適切な運動・栄養・休養のコンディショニング法を紹介します。スポーツ科学A同様に、競技スポーツの習熟を狙いとしていない授業のため、スポーツ科学に親しんでみたい生徒の受講を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
　実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
　オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】
1.原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2.授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。
4.本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understood health from the three perspectives of exercise, nutrition, and rest, as well as a multifaceted understanding of the various problems facing Japan (declining birthrate and aging population, changing lifestyles, lifestyle-related diseases, etc.) and the causes of disease. The goal of this course is to learn how to maintain and improve health by practicing exercises and mental training for self-control methods to maintain one's own health.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Deepen understanding of the three elements of sports: exercise, nutrition, and rest, from various perspectives.
2. Acquire conditioning methods suited to themselves through sports and physical activity, to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

武井　敦彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや日常活動において、身体のパフォーマンスを向上させるための基礎的～発展的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体機能について様々な視点から理解を深める。
2. トレーニング要素(筋力トレーニング、有酸素運動、無酸素運動、柔軟など)を各種スポーツやトレーニングジムでの活動を通じて身に付ける。
3. 各種競技のパフォーマンス向上を図る。
4. スポーツ傷害と予防方法について知識を深める。
5. 自己管理に資する基礎～発展的な知識の習得や態度の育成を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、プレゼンテーション（1回目）の実施（講義及び実習）
2	体力測定1	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	体力測定2	体力測定のフィードバック及びレポート作成(講義)
4	個人スポーツ1	卓球を通じた身体機能を学ぶ(講義及び実習)
5	個人スポーツ2	卓球を通じた身体の使い方を学ぶ (講義及び実習)
6	トレーニング理論と実践1	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ(講義及び実習)
7	健康とトレーニング	正しい身体機能を知る事により「QOL向上」を行う（講義及び実習）
8	スポーツ傷害	スポーツ傷害の理解と予防 (講義及び実習)
9	個人スポーツ3	バドミントンを通じたパフォーマンスエンハンスメント（講義及び実習）
10	個人スポーツ4	バドミントンを通じた傷害予防を学ぶ (講義及び実習)
11	ウォームアップ	球技系種目を通じた効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
12	チームスポーツ	フットサルを通じたパフォーマンスエンハンスメント(講義及び実習)
13	トレーニング理論と実践2	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ、プレゼンテーション（2回目）の実施(講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じて身体機能、各種トレーニング、そしてスポーツ傷害の知識を学び、スポーツや日常活動において身体のパフォーマンスを向上させることを目的としています。そのため、日々のトレーニングやリカバリーなどを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ医科学関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
広瀬統一・泉重樹・福田崇・稲見崇孝. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社、2023

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・プレゼンテーション・リアクションペーパー60％、2）課題レポート40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席3回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
身体機能、各種トレーニング要素、スポーツ傷害の予防をより理解するために、多様な体験型学習を取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire basic to advanced knowledge and develop the attitudes required to improve physical performance in sports and daily activities through lectures and practical training.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. Deepen understanding of physical functions from various perspectives.

2. Acquire training elements (strength training, aerobic exercise, anaerobic exercise, flexibility, etc.) through various sports and activities at training gyms.
3. Improve performance in various sports.
4. Deepen knowledge of sports injuries and prevention methods.
5. Acquire basic to advanced knowledge and develop attitudes contributing to self-management.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. This class aims to learn about physical functions, various training methods, and sports injuries through lectures and practical training, as well as to improve physical performance in sports and daily activities. Therefore, please record your daily training and recovery, reflect on the content, and record the effects and future challenges. Also, please get into the habit of paying attention to various sports medicine-related information from TV, newspapers, the Internet, etc. This will deepen your understanding of the content of this class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1. Participation status for activities during class /Presentation /Reaction paper 60%,
2. Assignments /Reports 40%.
In principle, this grade evaluation method is used, and students with difficulty in regular activities will be treated and evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

武井　敦彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや日常活動において、身体のパフォーマンスを向上させるための基礎的～発展的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体機能について様々な視点から理解を深める。
2. トレーニング要素(筋力トレーニング、有酸素運動、無酸素運動、柔軟など)を各種スポーツやトレーニングジムでの活動を通じて身に付ける。
3. 各種競技のパフォーマンス向上を図る。
4. スポーツ傷害と予防方法について知識を深める。
5. 自己管理に資する基礎～発展的な知識の習得や態度の育成を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。なお、最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、プレゼンテーション（1回目）の実施（講義及び実習）
2	体力測定1	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	体力測定2	体力測定のフィードバック及びレポート作成(講義)
4	個人スポーツ1	卓球を通じた身体機能を学ぶ（講義及び実習）
5	個人スポーツ2	卓球を通じた身体の使い方を学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングの理論と実践1	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ(講義及び実習)
7	健康とトレーニング	正しい身体機能を知る事により「QOL向上」を行う（講義及び実習）
8	スポーツ傷害	スポーツ傷害の理解と予防 (講義及び実習)
9	個人スポーツ3	バドミントンを通じたパフォーマンスエンハンスメント（講義及び実習）
10	個人スポーツ4	バドミントンを通じた傷害予防を学ぶ（講義及び実習）
11	ウォームアップ	球技系種目を通じた効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
12	チームスポーツ	フットサルを通じたパフォーマンスエンハンスメント(講義及び実習)
13	トレーニングの理論と実践2	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ、プレゼンテーション（2回目）の実施(講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じて身体機能、各種トレーニング、そしてスポーツ傷害の知識を学び、スポーツや日常活動において身体のパフォーマンスを向上させることを目的としています。そのため、日々のトレーニングやリカバリーなどを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ医科学関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
広瀬統一・泉重樹・福田崇・稲見崇孝. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社、2023

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・プレゼンテーション・リアクションペーパー60％、2）課題レポート40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席3回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
身体機能、各種トレーニング要素、スポーツ傷害の予防をより理解するために、多様な体験型学習を取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire basic to advanced knowledge and develop the attitudes required to improve physical performance in sports and daily activities through lectures and practical training.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. Deepen understanding of physical functions from various perspectives.

2. Acquire training elements (strength training, aerobic exercise, anaerobic exercise, flexibility, etc.) through various sports and activities at training gyms.
3. Improve performance in various sports.
4. Deepen knowledge of sports injuries and prevention methods.
5. Acquire basic to advanced knowledge and develop attitudes contributing to self-management.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. This class aims to learn about physical functions, various training methods, and sports injuries through lectures and practical training, as well as to improve physical performance in sports and daily activities. Therefore, please record your daily training and recovery, reflect on the content, and record the effects and future challenges. Also, please get into the habit of paying attention to various sports medicine-related information from TV, newspapers, the Internet, etc. This will deepen your understanding of the content of this class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1. Participation status for activities during class /Presentation /Reaction paper 60%,
2. Assignments /Reports 40%.
In principle, this grade evaluation method is used, and students with difficulty in regular activities will be treated and evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**1/Thu.1
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され，バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア＆ヘアピン、ドロップ＆ロビング、プッシュ＆レシーブ、スマッシュ＆レシーブについて学ぶ（講義及び実習）
6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える(コンディショニング)ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**1/Thu.1
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され，バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア＆ヘアピン、ドロップ＆ロビング、プッシュ＆レシーブ、スマッシュ＆レシーブについて学ぶ（講義及び実習）
6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える(コンディショニング)ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】
①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。
なお、本授業は2年生以上を対象としており、A・B連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。
授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、バレーボールのルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	コートの位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第8回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	集団的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第10回	集団的技術（レシーブのフォーメーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レシーブのフォーメーション）を立ててゲームを行う。
第11回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。
第12回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第13回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第14回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（60％）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】
・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.
[Learning Objectives]
1.Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.
[Learning activities outside of classroom]
Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/policy]
The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】
①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。
なお、本授業（スポーツ科学B）は2年生以上を対象としており、スポーツ科学Aを受講した学生の連続受講が望ましい。
また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及びビーチバレーのルールについて（講義）	授業のガイダンスを行い、ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第2回	基本的な動きとボールに慣れる（実習＆講義）	スポーツ科学Bからの受講者のため各技術の基本を説明する。
第3回	基本技術の復習（実習＆講義）	スポーツ科学Aで行った基本技術を復習する。
第4回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第5回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第6回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第7回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第9回	集団的技術（トスアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（トスアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	集団的技術（総合的）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い等を理解し、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】
・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.
[Learning Objectives]
1.Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.
[Learning activities outside of classroom]
Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/policy]
The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

中澤　史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】
1.トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2.目標達成に寄与する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3.トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する知識を習得する。
4.トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と方法について学ぶ。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深める。本授業における主な取り組みは次の通りである。①授業から得た知識や気づきなどをリアクションペーパーにまとめる。②各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をレポートにまとめる。③トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する文献を講読する。④最終授業時に授業内で行ったリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定を行う（講義）
2	安全講習	安全講習及び各種機器の使用方法を学ぶ（講義及び実習）
3	目標設定	体組成の測定及びトレーニング目標の設定を行う（講義及び実習）
4	グループワーク１	描画法を用いたグループワークに取り組む（講義）
5	グループワーク２	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
6	トレーニングの理論	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義）
7	トレーニングの理論と実習１	サプリメントとその摂取方法について学ぶ（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習２	栄養不足が招く悪影響について学ぶ（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習３	スポーツ現場での栄養指導について学ぶ（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習４	栄養摂取のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習５	アミノ酸の役割について学ぶ（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習６	脂質の役割について学ぶ（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習７	糖質の役割について学ぶ（講義及び実習）
14	総括	体組成の測定及びレポートの作成、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。
1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。
・授業への参画状況およびリアクションペーパー等の提出物：80％
・レポート課題：20％
1.原則として出席回数が授業実施回数の 2/3（10回出席）以上に満たない場合はE評価となります。
2.授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
3.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我、冠婚葬祭等による欠席を指します。
4.急遽、病気、怪我、冠婚葬祭等により欠席することになった場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告するとともに、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。
5.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
7.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事など）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1.トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2.学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
1.初回授業時に受講者（30名程度）を決定します。本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2.授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学Ａ・Ｂの通年履修が理想的です。
3.初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館5階の予定です。
4.原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5.授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】

In this class, students learn the basic theory and methods of physical training that contribute to the achievement of own goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

1.to learn the basic theory and methods of training.

2.to devise and implement original training program that contributes to the achievement of own goals.

3.to acquire knowledge of nutrition and supplements to promote the effects of training.

4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1.to practice systematic training.

2.to record your meals and sleeping hours.

3.to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.

2.Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

中澤　史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ科学Ａでの学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】
1.実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2.目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3.トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する知識を習得する。
4.トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について学ぶ。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学Ａにおいて考案したトレーニングプログラムを発展させる。本授業における主な取り組みは次の通りである。①授業から得た知識や気づきなどをリアクションペーパーにまとめる。②各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をレポートにまとめる。③トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する文献を講読する。④最終授業時に授業内で行ったリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明及び受講者の決定を行う（講義）
2	安全講習	安全講習及び各種機器の使用方法を学ぶ（講義及び実習）
3	目標設定	体組成の測定及びトレーニング目標の設定を行う（講義及び実習）
4	トレーニングに関する教養教育１	スポーツ傷害に関する予備知識を習得する（講義）
5	トレーニングに関する教養教育２	トレーニング効果を高める予備知識を習得する（講義）
6	トレーニングに関する教養教育３	栄養、発汗、睡眠に関する予備知識を習得する（講義）
7	トレーニングの理論と実習１	睡眠の質について学ぶ（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習２	睡眠時間と就寝法について学ぶ（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習３	リカバリーとトレーニングの関係について学ぶ（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習４	生体リズムと体内時計について学ぶ（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習５	最終目標から逆算した栄養戦略について学ぶ（講義及び実習））
12	トレーニングの理論と実習６	減量のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習７	増量のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	体組成の測定及びレポートの作成、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。
1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。
・授業への参画状況およびリアクションペーパー等の提出物：80％
・レポート課題：20％
1.原則として出席回数が授業実施回数の 2/3（10回出席）以上に満たない場合はＥ評価となります。
2.授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻３回で欠席１回の扱いとします。
3.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我、冠婚葬祭等による欠席を指します。
4.急遽、病気、怪我、冠婚葬祭等により欠席することになった場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告するとともに、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。
5.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
7.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事など）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はＥ評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
・新規的人間関係の構築を目的とした体験型学習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1.トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2.学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
1.初回授業時に受講者（30名程度）を決定するため、本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学Ｂの履修者は春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2.初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3.原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4.授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.
【Learning Objectives】
1.to acquire practical training theory and methods
2.to devise and implement effective and practical training program that contribute to the achievement of own goals.
3.to acquire knowledge of recovery, nutrition and sleep methods that promote the effects of training.
4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health, but also to psychological and social health.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.
1.to practice systematic training.
2.to record your meals and sleeping hours.
3.to read material on training, nutrition and sleep.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2.Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

魚住　智広

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。バドミントンと卓球を主な競技として、道具を用いた運動を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生の受講も十分に可能です。

【到達目標】
1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 現代社会におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を提出する必要があります。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	（講義）授業概要、目的、成績評価、安全上の注意事項
2	バドミントン①	ラケット操作
3	バドミントン②	フットワーク
4	バドミントン③	基礎動作
5	卓球①	ラケット操作（バドミントンとの違い）
6	卓球②	基礎動作（バドミントンとの違い）
7	バドミントン④	ダブルスルール・ゲーム
8	バドミントン⑤	サーブ
9	教育とスポーツ	（講義）体育とスポーツの違い、体罰、やりがい搾取
10	科学とは何か	（講義）スポーツを科学するとは
11	レクリエーションとは何か	（講義）労働と余暇、スポーツを消費することの是非
12	バドミントン⑥	シングルスゲーム
13	卓球③	ダブルスルール・ゲーム（バドミントンとの違い）
14	テクノロジーとスポーツ	（講義）テクノロジー介入の争点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】
授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】
1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
・課題の内容を理解したものであるか
・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
・レポートの体裁をなしたものであるか
・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】
スポーツに関する最新の人文社会科学の研究を取り入れながら、授業内容を随時更新しています。

【学生が準備すべき機器他】
課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】
この授業は定員制です。履修希望者は履修登録をした上で、初回ガイダンスに必ず出席してください。履修希望者が定員を超えていた場合、以下の優先順位をもとに抽選と受講許可をおこないます。
①履修登録者かつ初回ガイダンス出席者
②初回ガイダンス出席者
③履修登録者かつ初回ガイダンス欠席者
④履修登録者かつ第2回授業の出席者（欠員補充の場合）
なお教場の都合により授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This course aims to acquire the knowledge and skills to exercise with others through habitual physical activity. Students will deepen their understanding of the significance of recreation in daily life while exercising with equipment, with badminton and table tennis as the main sports. The exercise load involved in this class is not heavy, so students who do not have an exercise habit can take this course.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. to acquire knowledge of safe exercise through physical activity.
2. to acquire the skills to exercise with others according to individual abilities.
3. to recognize changes in one's body and physical condition while engaging in sports.
4. to understand the significance and issues of recreation in modern society.
Students are expected to complete assigned tasks after some sessions, with a recommended study time of at least four hours per class. The final grade will be determined through the evaluation of goal achievement(68%)and these assigned tasks(32%).
This course has a limited enrollment. Students who wish to take the course must complete course registration and attend the first guidance session.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

魚住　智広

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。バドミントン、ネオテニス、卓球を主な競技として、道具を用いた運動を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生の受講も十分に可能です。

【到達目標】
1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 現代社会におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を提出する必要があります。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	（講義）授業概要、目的、成績評価、安全上の注意事項
2	バドミントン①	ラケット操作
3	バドミントン②	フットワーク
4	バドミントン③	基礎動作
5	ネオテニス①	ラケット操作
6	ネオテニス②	フォアハンド
7	ネオテニス③	サーブ
8	ネオテニス④	ダブルスルール・ゲーム
9	多様な性とスポーツ	（講義）性別二元制、性別役割分業、スポーツ界の課題
10	メガスポーツイベント	（講義）メガイベントの定義、レガシー、ナショナリズム
11	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、ショックドクトリン、ツーリズム
12	卓球①	ラケット操作（バドミントンとの違い）
13	卓球②	基礎動作（バドミントンとの違い）
14	暴力・差別とスポーツ	（講義）定義、構造的差別、「中立性」の政治性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】
授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】
1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
・課題の内容を理解したものであるか
・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
・レポートの体裁をなしたものであるか
・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】
スポーツに関する最新の人文社会科学の研究を取り入れながら、授業内容を随時更新しています。

【学生が準備すべき機器他】
課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】
この授業は定員制です。履修希望者は開講曜日の春学期初回授業日までに履修登録を完了してください。履修登録者が定員を超えていた場合、春学期1週目に抽選を実施します。抽選の結果は、春学期1週目に学習支援システムに掲示します。
受講許可者となった場合は、秋学期の初回ガイダンスに必ず出席してください。また秋学期が始まるまで、履修登録を外さないでください。初回ガイダンスを無断欠席した場合や、初回授業時点で履修登録が外れていた場合は、優先的な受講を取り消す場合があります。
詳しい日程は学習支援システムから確認してください。
なお教場の都合により授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This course aims to acquire the knowledge and skills to exercise with others through habitual physical activity. Students will deepen their understanding of the significance of recreation in daily life while exercising with equipment, with badminton, neo-tennis and table tennis as the main sports. The exercise load involved in this class is not heavy, so students who do not have an exercise habit can take this course.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. to acquire knowledge of safe exercise through physical activity.
2. to acquire the skills to exercise with others according to individual abilities.
3. to recognize changes in one's body and physical condition while engaging in sports.
4. to understand the significance and issues of recreation in modern society.
Students are expected to complete assigned tasks after some sessions, with a recommended study time of at least four hours per class. The final grade will be determined through the evaluation of goal achievement(68%)and these assigned tasks(32%).
This course has a limited enrollment. Students who wish to take this course must complete their registration by the first class of the spring semester. If the number of applicants exceeds the limit, a lottery will be conducted in the first week of the spring semester.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％、期末レポート20％、授業への参画状況20％の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ　教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標（Learning Objectives）】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム(Hoppii)を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る (講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う (講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える (講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う (講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策 (講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る (講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が 授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ　教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標(Learning Objectives)】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
【授業の概要と目的(何を学ぶか)】
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準(Grading Criteria /Policy)】Assignments
(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A

2017年度以降入学者

林　容市

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では「生理学的変化（特に体脂肪・体組成を対象）に貢献する諸要因の理解」,「健康関連指標（特に体脂肪・体組成）の測定と評価」,「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めて行きます。

【到達目標】
・身体活動による生理的および心理的効果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ。
・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業の目的の達成には，いかにその課題を解決するかを「考え，実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ，身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。
その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し，授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また，授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお，身体活動の実践に向けた計画や，個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め，評価の一部とします。
また，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認，身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第2回	身体活動によって変化する生理的要因1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第3回	身体活動によって変化する生理的要因2	身体組成（体脂肪量・骨格筋）について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第4回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価1	身体組成のうち，特に体脂肪について実際に複数の方法で測定し結果を比較・検討する（演習）
第5回	身体活動によって変化する生理的要因3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第6回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ
第7回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案1	学んだ知識や情報に基づき，グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する（プレゼンテーション）
第8回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて，グループで改善・修正案を検討する（演習）
第9回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて，仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する（演習）
第10回	身体活動によって変化する生理的要因4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第11回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実際について学ぶ（演習）
第12回	身体活動によって変化する生理的要因5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第13回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚的運動強度について学ぶ（演習）
第14回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき，グループで脂肪量減少や身体組成（骨格筋の増減など）に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として，シラバスに記載されている授業内容に関し，事前に情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で，毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また，授業ごとに内容を復習し，個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。これらの予習・復習のために要する時間は，それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 /金芳堂 /2006）

【成績評価の方法と基準】
1）授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：80%，2）各回のプレゼンテーションの内容：20%，の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため,「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目のため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので，必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には，事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】
本授業は，授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため，履修者の上限を原則20名とします。第1回目の授業時において履修希望者が20名を超えた場合には，履修人数の制限を行う予定です。そのため，第1回目の授業には必ず出席してください。体調不良等でどうしても出席できない場合には，事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。
また，本授業では，演習を行う回がありますが，単に履修者が運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。
なお，履修者数によって，シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.
【Learning activities outside of the classroom】Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化B

2017年度以降入学者

林　容市

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は，目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少，骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく，健康やQoLの本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき，他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び，それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。また，文章の執筆，図表の作成，量的・質的分析について発展的な手法を学び，最終的に授業内で調べた内容について簡易論文としてまとめます。

【到達目標】
・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
・適切な分析方法や用いて，過去のエビデンスを取りまとめることができる。
・身体活動に関するエビデンスに基づき，適切な記述方法でレポート・論文として報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は，講義，受講者間のディスカッション，探求テーマに対しての情報の集約や量的な分析・取りまとめ，さらにそれらを考察して文章としてまとめる作業から構成されます。授業目的の達成には，いかにその課題を解決するかを「考え，実践すること」が重要となります。そのため，授業後半においては，受講者自身が定めた探求テーマに基づいて情報を取りまとめて検討し，最終的に簡易な論文の提出を求めます。
なお，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認，情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第2回	健康づくりに関する探求テーマの検討(1)	探求するテーマについて，個人またはグループ単位で検討する
第3回	健康づくりに関する探求テーマの検討(2)	前回に引き続き，探求するテーマについて，個人またはグループ単位でその詳細を検討する
第4回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法（1）	身体活動や食事などの健康づくりについて，関連した論文等を調べる手法を学ぶ
第5回	健康づくりに関する探求テーマの検討(3)	論文等を調べた結果に基づき，探求するテーマについて，個人またはグループ単位でその詳細を再度検討し，調べるテーマを確定する
第6回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法（2）	身体活動や食事などの健康づくりについて，その効果に関する種々の情報を集約して分析する手法（レビュー，メタアナリシス）を学ぶ
第7回	探求テーマに対する情報の集約と論議（1）	探求するテーマについて論文やデータを調べて集約し，個人またはグループでその解釈について論議する
第8回	探求テーマに対する情報の集約と論議（2）	前回の論議に基づいて，探求するテーマについて論文やデータを調べて集約し，個人またはグループでその解釈について論議する
第9回	探求テーマに対する情報の集約と論議（3）	探求テーマについて，関連する情報をまとめ，個人またはグループで論文の形式に添って「方法」部分を記述する
第10回	探求テーマに関する情報の分析	探求テーマについて調べた情報を，適切な方法を用いて分析し，得られた結果について個人またはグループで検討する
第11回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法（3）	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報の「表現・表記方法」を学ぶ
第12回	探求テーマに関する結果の記述	分析の結果に基づき，個人またはグループで論文の形式に添って「結果」部分を記述する
第13回	探求テーマに関する結果解釈	分析の結果に基づき，個人またはグループで論文の形式に添って「考察」部分を記述する
第14回	探求テーマに関する分析結果の発表	個人またはグループで，探求したテーマに関する研究結果を報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として，シラバスに記載されている授業内容に関し，事前に情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で，毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また，第11～13回においては，各自の探求テーマに沿って文献等の検索や取りまとめた結果を用いた論議を行いますので，これらの回の時間外学習では，求められた情報やデータをまとめる作業を行ってください。なお，これらの予習・復習のために要する時間は，それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 /金芳堂 /2006）

【成績評価の方法と基準】
各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを100点満点で評価した上で合計し，それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。
評価得点＝【すべての課題の「得点」の総和】/【すべての課題で「獲得可能な最高点」（課題数×100）】×100
※欠席・遅刻をした場合は授業内学習の時間を減じることになるため，評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目のため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
分析に際してPCのソフトを使用する場合があります。タブレットなどでは分析が困難だと思いますので，ノートPCを持参できるよう準備をお願いします。

【その他の重要事項】
本授業は，「エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A」の単位を取得していることを前提としています。
ただし，第1回目の授業において，履修希望者が定員（20名）を下回っている場合には，担当者との面談を経て履修を認める場合があります。

また，履修者数によって，シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Construct physical activity content using appropriate methods according to its purpose.
2. Summarize previous evidence on physical activity using appropriate analytical methods.
3. Write evidence-based reports and papers on physical activity using appropriate academic writing methods.
【Learning activities outside of the classroom】Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In sessions 11 to 13, we will search for literature according to the theme of each student's inquiry and discuss the results of these searches. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.
【Grading Criteria/Policy】The evaluation uses the following formula to evaluate in each session learning subjects, with a maximum of 100 points.
Evaluation score = [Sum of all scores for all subjects] /[Highest score possible for all subjects (number of tasks x 100)] x 100

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】
1.人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2.スポーツウォーキングについて説明できる。
3.スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4.スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5.ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6.ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7.呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9.スポーツ傷害について説明できる。
10.ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は対面授業を基本として実施する。
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 （講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。 スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、惰性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 （講義および実習））	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。 また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガとMeditation（瞑想） （講義および実習）	Meditationについて概説し、ヨーガを実践することでMeditationの状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 （講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。 また、基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ （講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，１９８６
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，１９８６

【成績評価の方法と基準】
以下の内容で総合的に評価する。

１）毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％
２）期末レポート 20％
３）授業への参画状況 20％

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.
【Learning Objectives】
1. To be able to understand the significance of " walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.
【Learning activities outside of classroom】
Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
2) Final report: 20%.
3) Participation in class activities (not attendance): 20%.
If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.
If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be “D” or “E“.
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】
1.人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2.スポーツウォーキングについて説明できる。
3.スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4.スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5.ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6.ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7.呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9.スポーツ傷害について説明できる。
10.ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は対面授業を基本として実施する。
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 （講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。 スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、惰性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 （講義および実習））	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。 また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガとMeditation（瞑想） （講義および実習）	Meditationについて概説し、ヨーガを実践することでMeditationの状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 （講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。 また、基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ （講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，１９８６
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，１９８６

【成績評価の方法と基準】
以下の内容で総合的に評価する。

１）毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％
２）期末レポート 20％
３）授業への参画状況 20％

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.
【Learning Objectives】
1. To be able to understand the significance of " walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.
【Learning activities outside of classroom】
Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
2) Final report: 20%.
3) Participation in class activities (not attendance): 20%.
If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.
If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be “D” or “E“.
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動は病気の予防に効果的であるが、安全かつ効果的に実践するためには「セルフメディケーション」と「コンディショニング」が不可欠である。セルフメディケーションとは、自ら健康管理を行い、病気を予防するとともに、軽度の不調を改善することである。一方、コンディショニングとは、運動の効果を最大限に引き出し、怪我を予防するために身体の状態を整えることを指す。
本授業では、セルフメディケーションによって自身の健康状態を適切に管理し、コンディショニングを通じて運動と休養のバランスを取ることで、運動の効果を最大限に高めることを目的とする。

【到達目標】
・運動が病気の予防に効果的である理由を説明できる。
・スポーツ外傷・障害とその対策について説明できる。
・スポーツ外傷・障害とその応急処置について実践できる。
・コンディションとコンディショニングについて説明できる。
・コンディショニングの種類やその特徴を述べることができる。
・コンディショニングを実践でき、その評価をすることができる。
・セルフメディケーションについて説明できホメオスタシスとの関係を説明できる。
・セルフメディケーションが病気の予防に効果的な理由を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は実技を伴った演習形式を基本として実施する。
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する。 コンディションとコンディショニングについて解説し、コンディショニングの必要性について詳しく説明する。 また、体格・体組成計の測定を実施し結果を考察する。
2	コンディショニングとセルフメディテーション	コンディショニングの要素である身体的因子、環境的因子、心理的因子について説明する。 また、セルフメディケーションの種類とその具体的な内容について解説する。
3	ホメオスタシス（恒常性）	人間に備わっているホメオスタシスの意義とその定義について説明する。 また、自己治癒力と自然治癒力の違いについて説明する。
4	外傷・傷害とその対策	スポーツにおける怪我（外傷と障害）について説明し、その原因と対策について解説する。
5	スポーツ傷害の治癒過程	炎症の役割について説明し、さらに損傷細胞の修復メカニズムや免疫系が治癒過程において果たす役割について解説する。
6	スポーツ外傷の応急処置	現場における応急処置としてのRICE処置について説明する。 特に、冷却療法（アイシング）の効果を理解し、実際にその効果を体験する。
7	ストレッチングとコンディショニング	スレッチングの種類や方法について説明し、実践する。
8	スポーツマッサージとセルフメディケーション（1）	マッサージの歴史や生理的効果について理解し、セルフマッサージの手法を実践する。
9	スポーツマッサージとセルフメディケーション（2）	セルフメディケーションの一環としてスポーツマッサージを習得し、学生同士でペアを組み、実践する。
10	鍼・灸療法とコンディショニング	スポーツ選手が比較的多く利用する鍼灸について、治効理論を説明し、実際の施術を実演する。 また、セルフメディケーションの一環として、お灸を実際に試す。
11	ヨガとコンディショニング	ヨガの歴史や哲学について説明し、アスリートのコンディショニングにおける役割や効果について解説する。
12	食事とセルフメディケーション	食品や食材に含まれる栄養素のうち、脂質の役割や体内での利用メカニズムについて説明する。 また、脂質異常による疾患を挙げ、それに対する運動の効果について解説する。
13	休養とリラクゼーション	心身の休養やリラクゼーションがコンディション調整に果たす役割について説明する。 また、セルフメディケーションの一環としての休養方法について解説する。
14	総括	これまでの内容を振り返るとともに、全授業に関する質問を受け付ける。 また、自身が理想とする健康観について、学生同士でディスカッションを行い、意見をまとめて総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
1. 日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6（予防とコンディショニング）

2. 人体の不思議, 日経サイエンス社
3. 佐保田鶴治, ヨーガ根本経典, 平河出版社
4. リチャード・ミラー, iRest Yoga Nidra

【成績評価の方法と基準】
以下の内容で総合的に評価する。
　1）毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％
　2）期末レポート 20％
　3）授業への参画状況 20％

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 3/4 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Exercise is effective for preventing illness, but in order to practice it safely and effectively, ‘self-medication’ and ‘conditioning’ are essential. Self-medication means looking after your own health and preventing illness, as well as improving minor ailments. On the other hand, conditioning is about getting the most out of exercise and preparing your body to prevent injury.
The aim of this class is to maximise the benefits of exercise by managing your own health through self-medication and balancing exercise and rest through conditioning.
【Learning Objectives】
・ Explain why exercise is effective in preventing illness.
・ Understand the types of sports injuries and disorders, and explain how to deal with them.
・Be able to provide appropriate first aid in the event of a sports injury or disorder.
・ Understand the concepts of condition and conditioning, and explain the differences and importance of each.
・ Describe the types of conditioning and their characteristics.
・Be able to practice conditioning and evaluate its effectiveness appropriately.
・ Explain the concept of self-medication and discuss its relationship to homeostasis (the body’s ability to maintain a constant internal environment).
・ Explain logically why self-medication is effective in preventing illness.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
　1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
　2) Final report: 20%.
　3) Participation in class activities (not attendance): 20%.
If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.
If attendance is less than 3/4 of the class, the grade will be “D” or “E“.
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語Ａ　2017年度以降入学者

廣松　勲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】
実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。
コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞avoir ・否定のde ・疑問文 ・数字11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進度の調整
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年.
（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】
教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。
宮原信他著，『ディコ仏和辞典』，白水社，2003年.
西村牧夫他編訳，『ロベール・クレ　仏和辞典』，駿河台出版社，2011年.
また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。
①平常点（ミニ課題など）：30％
②期末テスト：70％

【学生の意見等からの気づき】
学生がフランス語で表現する機会（特に発音と筆記）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語Ｂ　2017年度以降入学者

廣松　勲

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】
実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。
コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6つづき Leçon 7	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR動詞（つづき） ・形容詞 ・動詞savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞＋à＋不定詞 ・動詞mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・数字21～69 ・動詞faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞
9	中間まとめ	・これまでの学習事項を総復習 ・進度の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・数字70～100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞en
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直接法大過去 ・中性代名詞yとle ・様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年.
（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】
教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。
宮原信他著，『ディコ仏和辞典』，白水社，2003年
西村牧夫他編訳，『ロベール・クレ　仏和辞典』，駿河台出版社，2011年
また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。
①平常点（ミニ課題など）：30％
②期末テスト：70％

【学生の意見等からの気づき】
学生がフランス語で表現する機会（特に発音・筆記）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：**サマーセッション/Summer Session**　｜　曜日・時限：**集中・その他/intensive・other courses**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【履修登録にかかわる特記事項】
●あなたが所属している学部の履修登録期間の最終日までに、この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）の履修登録を済ませるとともに、学習支援システムにて仮登録をおこなってください。
●この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）は、他の教養ゼミと異なり、定員がないため、選抜や抽せん、およびそれらの結果通知はありません。履修登録の流れは、一般的な春学期科目と同じとお考え下さい。
●興味・関心のある方は、教養ゼミⅡ：「ポピュリズム」入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）【授業コード ：Q6606】もぜひ履修しましょう。社会人として知っておいたほうが良い、現代の政治・経済・文化のあり方について、初学者が学ぶコースになっています。
==========
【科目のかんたんな説明】
●この教養ゼミⅠは、2025年8月4日（月）・8月5日（火）・8月6日（水）・8月7日（木）の４日間で開催される集中講座です（２単位）。
●短い日数で効率よく学べる利点があります。
●いわゆるグローバル・サウスから、より政治的に安定し、社会福祉の制度が整った、いわゆる先進国に旅する移民や難民の動きがテーマです。
●移民や難民といったテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」が軸となる内容ですので理解がしやすく、視野が広がります。
●映像作品に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけになるでしょう。

【到達目標】
コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになります：
1）人口1700万人強のオランダが、なぜ、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
2）欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方（政教分離）や、就労を促進するための雇用の流動化（福祉国家の変容）といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅠの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）2025年8月4日（月）・8月5日（火）・8月6日（水）・8月7日（木）の４日間に開催されます。
（ウ）希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画 /Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）４日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのため「まとめコメント」の早期提出を認める予定です。
（カ）とはいえ、４日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/QA5Gp にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅠ『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～（８月上旬）」URL https://x.gd/3wVq9 にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月4日（月）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月4日（月）3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【8月4日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月4日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月4日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【8月5日（火）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の１人として溶け込むのに何が必要か【8月5日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【8月5日（火）4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【8月5日（火）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
9	他の人の意見を知る【8月6日（水）2限、Zoom併用なし】	２日めのまとめコメントへの学生投票／映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【8月6日（水）3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【8月6日（水）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月6日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【8月7日（木）2限、Zoom併用なし】	３日めのまとめコメントへの学生投票／《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【8月7日（木）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
14	考える・まとめる【8月7日（木）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月7日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
８月のサマー・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、４月から資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
水島治郎『反転する福祉国家　オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　= 15%
２．まとめコメント = 52%
３．まとめコメントの早期提出
４．４．教室内活動への参加 = 33%
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/w913l にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。
※サマー・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。ただし、サマー・セッションは春セメスター（前期）科目であるため、８月上旬には法政大学に学生の成績を提出する必要があります。そのため出席停止になった学生側は、仮に感染症から健康状態が快復したとして、代替の課題を８月９日ぐらいまでに提出する手はずになります。感染症で出席停止となった学生のための配慮については、オータム・セッション科目である教養ゼミⅡ（Q6606）のほうが、配慮に使える時間的な余地が大きいことを、あらかじめご承知おきください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この教養ゼミⅠは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください URL https://x.gd/WTP7m

【Outline (in English)】
What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders?　Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception ? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country ? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.
［Learning Objectives］
The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：**オータムセッション**/Autumn Session　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2単位**
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【履修登録にかかわる特記事項】
●この科目「教養ゼミⅡ　『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～」（Q6606）は、ひとりひとりの学生ではなく、市ヶ谷リベラルアーツセンター（ＩＬＡＣ）が一括して履修登録を行います。
●学生で履修を希望する人は、2025 年 4 月 11 日（金）午前 11:59:59 までに、2025 年度オータム・セッション「教養ゼミⅡ」（Q6606）科目履修仮登録用Googleフォーム URL https://forms.gle/gCxjCzgY6HzxYkvc9 に、必要事項を入力したうえで「送信」ボタンをクリックして（押して）ください。
●必要事項が全て入力され、Googleフォームの送信ボタンをあなたがクリックした時点で、仮登録が済んだことになります。
●送信ボタンの押し忘れがなく、Googleフォームが正常に作動していれば、入力した内容のコピーが、あなたがログイン時に用いたメール・アカウントに自動送信されます。
●仮登録された学生は全員、この「教養ゼミⅡ」に履修登録されますが、念のため、あなたが所属している学部の履修登録期間になったら、この科目「教養ゼミⅡ」の履修登録がきちんとなされているか、確認を行ってください。
==========
【科目のかんたんな説明】
●教養ゼミⅡ「『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～」は2025年9月12日（金）・9月13日（土）・9月15日（月）・9月16日（火）の４日間で開催される集中講座です（２単位）。
●トランプ氏を２度、アメリカ大統領の座に押し上げ、世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている、ポピュリズムがテーマです。
●こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。
●短い日数で効率よく学べる利点があります。
●映像作品に興味のある方にとっては、作品を知る機会になるでしょう。

【到達目標】
（１）さまざまな国と地域、歴史時代に存在した、ポピュリズムの構成要素とされる事象に幅広く触れることで、現代の政治・社会現象としてのポピュリズムにかんし、批判的な距離を保ちながら、意見を述べることができる。
（２）ポピュリストと反ポピュリスト、無関心層のような、ポピュリズムをめぐり異なる態度を産みだす感情的なバネについて、ひとつひとつの映像作品や人物の性格、ならびに制度的な背景（例　メリトクラシー）を掘り下げながら、研究上の問い（リサーチ・クエスチョン）を練ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）2025年9月12日（金）・9月13日（土）・9月15日（月）・9月16日（火）の４日間に開催されます。
（ウ）希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画 /Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）４日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのため、セッション授業終了後の話題提供を認める予定です。
（カ）とはいえ、４日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくは「進行予定表」URL https://x.gd/ReYc0 にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）」URL https://x.gd/5yw1I　にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月12日（月）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月12日（月）3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【9月12日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月12日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月2日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【9月13日（火）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票／人びとはどのようにして立ち上がるのか（政治的動員）
6	対立の構図を理解する【9月13日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【9月13日（火）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月13日（火）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
8	他の人の意見を知る【9月15日（月）2限、Zoom併用なし】	２日めのまとめコメントへの学生投票／女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す。
9	ポピュリズムと女性【9月15日（月）3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【9月15日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【9月15日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月15日（月）分の「まとめコメント」を作成・提出する。遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【9月16日（火）2限、Zoom併用なし】	３日めのまとめコメントへの学生投票／ポピュリズムに私（たち）はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【9月16日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える

14	考える・まとめる【9月16日（火）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月16日（火）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。※ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
９月のオータム・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
カス・ミュデ＆クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム　デモクラシーの友と敵』永井大輔＆髙山裕二訳、白水社、2018年。Cf. https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　= 15%
２．まとめコメント = 52%
３．教室内活動（授業時間内の個別の発言やグループディスカッション、各種の投票）への参加 = 33%
４．セッション授業終了後の話題提供
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/z2Z0I にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」を求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。
※オータム・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）」URL https://x.gd/07gVQ　をご覧ください。

【Outline (in English)】
Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue : "What kind of culture do we want in our society of the 21st century ?"
［Learning Objectives］
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the followings :
1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の主な目的は，「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って，グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し，考察することです。
もう一つの目的は，日本語（と英語や他の言語）で歴史文書を読み，分析する方法について学び，活用することです。

【到達目標】
この授業では，学生達はグローバリゼーションの歴史という背景における日本の歴史，とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり，論じたりします。授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
1. 主要な概念や考え方を理解し，説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で，「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3.「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために，適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な歴史的文章を読解し，語彙を調べたり，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し，質問に答えることで，グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。
履修者は史料を見つけ出し，それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって，日本語や英語の他に，様々な言語の史料の紹介も期待できます。
この授業では，　学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と，歴史や史料，特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレーカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における，日本に関する最初の史料
3	第1次グローバル化における日本（1）	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本（2）	日本の「発見」
5	十字架、マスケット銃と「カステラ」(1)	マスケット伝来
6	十字架、マスケット銃と「カステラ」(2)	日本におけるキリスト教
7	十字架、マスケット銃と「カステラ」(3)	ラテン語，ポルトガル語，日本語
8	学生による発表①	史料の紹介と分析
9	学生による発表②	史料の紹介と分析
10	学生による発表③	史料の紹介と分析
11	学生による発表④	史料の紹介と分析
12	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑥	史料の紹介と分析
14	まとめ	前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習，復習，課題や発表の準備が毎回求められます。
大学設置基準によれば，2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・グループワーク，小テスト等(授業内):25%
・宿題，「予習シート」(自宅):20%
・発表（史料の紹介と説明）：40%
・出席点:15%
※ 欠席1回につき，「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり，単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は，直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。 正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなす。遅刻2回につき，欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google ClassroomやLMS を使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European /American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.
One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European /American relations" in the context of the history of globalisation.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではヨーロッパの近現代史をただ単に通史的に勉強するのではなく，「〇〇人とは何（誰）か？」，「国民はどう創られたのか？」というような問いについて考えながら，近現代ヨーロッパにおけるアイデンティティの問題を探っていきます。特に，近現代ヨーロッパにおける国民国家と言語（「国語」）との関係性に重点を置きたいと考えます。

【到達目標】
この授業では，学生達は近現代ヨーロッパにおける国民の創造に関する多様な側面を探求したり，論じたりします。 授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
①ヨーロッパについて基本的知識を獲得し，それらを説明できる。
②国民国家の概念を概ね理解できる。
③世の中の動きを歴史的に考えるための視点を獲得する。
（④ヨーロッパへの留学に備える。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な資料（歴史的文章，論文，新聞記事，図…）を読解・分析し，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて学生同士で協力して資料を理解し，質問に答えることで，近現代ヨーロッパにおける国民（アイデンティティ）の創造というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。
この授業では，学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲や，歴史や資料，特に近現代ヨーロッパにおける国民（アイデンティティ）の創造に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 ヨーロッパとは何か？ どこか？ （受講生に対するアンケート）
2	ヨーロッパとは何か？	ヨーロッパに対するイメージとステレオタイプ
3	ケーススタディ①	カタルーニャ「問題」について
4	ケーススタディ①	カタルーニャの形成過程
5	ケーススタディ①	カタルーニャとスペインにおける言語
6	ケーススタディ①	カタルーニャと「国民国家」／「国民国家」と「想像の共同体」
7	ケーススタディ②	18世紀「ドイツ」の状況／ヘルダーと「国民語」
8	「国民語」を求めて	ヨーロッパにおける言語状況
9	「国民一つに、言語一つ？」①	フランス語の成立過程①
10	「国民一つに、言語一つ？」②	フランス語の成立過程②
11	国語の普及①	フランス
12	国語の普及②	イギリス
13	国語の普及③	ドイツ
14	共通の祖先を求めて	「我々の祖先はガリア人なり」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習，復習，課題や発表の準備が毎回求められます。
大学設置基準によれば，2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
ティエス，アンヌ＝マリ著『国民アイデンティティの創造：十八〜十九世紀のヨーロッパ』（勁草書房，2013）／配架場所＝市:1F，請求記号＝230/TH，資料番号＝21032000079280
それ以外の参考書については必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・発表やリフレクションシート，小テスト等の授業内作業：約80％
・出席点：約20％
※ 欠席1回につき，「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり，単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は，直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。 正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなす。遅刻2回につき，欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google ClassroomやLMSを使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How national identities were forged in Europe".
One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse diverse categories of documents, written in different languages.
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various documents, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.
The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "creation of the national identities in Europe".
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.
The grading criteria shall be as follows:

・Presentations, reflection papers, short tests, etc (in class assignments): app.80 %
・Attendance:app. 20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語コミュニケーション(中・上級) A

2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**1/Wed.1
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はA1レベルに達している学生（つまり2，3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は，日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に，自然な発音及び独特な表現を勉強し，フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も，勿論多く設けてあります。
尚，この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の段階から，特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は，最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】
この授業では，日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり，正確なフランス語の発音を身に付けたり，日常会話で使える言葉を覚えたりして，積極的に会話ができるようになることを目指します。
この授業を通じて，A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし，履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり，世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Une rencontre inattendue
2	Faire connaissance: le speed-dating	招待を受け入れる・拒否する
3	La fête nationale belge et le parc Astérix	現在進行形
4	Le festival Gnaoua et le raï	コンサートへの招待
5	Le 14 juillet Un festival d’été	フェスティバルに関する情報 フェスティバルへの招待
6	Se déplacer en ville	交通手段①と道案内
7	Les transports en Afrique de l’Ouest	交通手段②
8	D’autres quotidiens	頻度と時間割
9	Modes de vie au Niger et à Djibouti	お茶 カート (植物)
10	La Défense, Marrakech, Montréal	交通手段③
11	Présenter son quartier préféré	好きな地域の紹介
12	L’habitat（ミニ口頭発表）	フランス語圏の様々な伝統住居
13	Brèves francophones Amélie Poulain	半過去と複合過去の用法①
14	Hercule Poirot: "Que faisiez-vous à l’heure du crime?"	半過去と複合過去の用法②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身に付くものなので，毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。
また，予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝2単位科目なので，法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています)。「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので，定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】
教材はその都度授業で配布するか，LMSにアップロードします。

【参考書】
仏和・和仏辞書（本でも，電子辞書でも，アプリでも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG ：クラスではその使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，（小）テスト，ミニ発表等: 約20 %
・「Furago, フランス語の練習帳」：約20 %
・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
・作文: 約20 %
・平常点（授業への参加状況）:約 20%。 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明 は 2 回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン，タブレット，パソコンからアクセスできます。有料ですが，学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし，定額制ですので，安心して利用できます。
登録費が6 ヶ月につき990 円になります。

【その他の重要事項】
授業中，頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので，そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】
履修の条件として，フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students’ general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line):20%／Reading marathon (Extensive reading):20%／Short essays:20 %／Class participation:20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語コミュニケーション(中・上級) B

2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**1/Wed.1
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はA1レベルに達している学生（つまり2，3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は，日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に，自然な発音及び独特な表現を勉強し，フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も，勿論多く設けてあります。
尚，この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の段階から，特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は，最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】
この授業では，日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり，正確なフランス語の発音を身に付けたり，日常会話で使える言葉を覚えたりして，積極的に会話ができるようになることを目指します。
この授業を通じて，A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし，履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり，世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Voitures du passé et du présent
2	Visite en Normandie	過去の出来事を描写するメールを書く
3	Les Acadiens/ Cajuns	歴史について考えよう
4	Histoires de personnalités	直接目的補語の代名詞
5	Quelques écrivains francophones	フランス語圏の文学に触れる
6	Catastrophe naturelle Chez le médecin	健康と身体の部位
7	Fêtes traditionnelles	お祭りについて知ろう
8	Faisons un quiz historique	クイズを作ろう
9	Le caractère	人の性格を描写する
10	Les noms en Afrique	アフリカの名前について知ろう
11	Qui est-ce? (jeu)	La description physique
12	Entretien d’embauche	成功と失敗①
13	Le commerce en Afrique	成功と失敗②
14	Qu’est-ce qu’on a fait au bon Dieu?	人の描写（作文）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身に付くものなので，毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。
また，予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4 時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝２単位科目なので，法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています）。
「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので，定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】
教材はその都度授業で配布するか，LMSにアップロードします。

【参考書】
仏和・和仏辞書（本でも，電子辞書でも，アプリでも）を持参することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，（小）テスト，ミニ発表等: 約20 %
・「Furago, フランス語の練習帳」：約20 %
・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
・作文: 約20 %
・平常点（授業への参加状況）:約20%。尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。10 分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン，タブレット，パソコンからアクセスできます。有料ですが，学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし，定額制ですので，安心して利用できます。
登録費が6ヶ月につき990円になります。

【その他の重要事項】
授業中，頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので，そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】
履修の条件として，フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students’ general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line):20%／Reading marathon (Extensive reading):20%／Short essays:20 %／Class participation:20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語Ａ　2017年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。
ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】
簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1）文字と発音、2）単語と熟語、３）基礎文法、３）文法習熟度確認のための練習問題、４）本文テキスト（朗読と和訳）、５）会話練習、６）シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。その他、学習支援システム上に教材を掲載し、授業時間内で課題を解いて頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音１	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音２	単語の発音
第3回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第4回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第6回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第7回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第8回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第9回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第10回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第11回	「（何々）で・によって」、「～（何々）に取り組む」	名詞の造格、ｃｙ動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第12回	「している／しおえる」	動詞の体（不完了体／完了体）
第13回	形容詞、関係代名詞	形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化
第14回	期末試験、まとめと解説	文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】
中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】
佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年
土岐康子・三神エレーナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年
小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60％、評価テストが40％の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。一歩一歩確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
３か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
Elementary Russian Course for students who are starting to learn Russian as a third foreign language for the first time.
The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.
At the end of this course, students should be able to do the followings:　1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.
Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.
Final grade will be decided based on the following: short tests 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語Ｂ　2017年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】
簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1）文字と発音、2）単語と熟語、3）基礎文法、3）文法習熟度確認のための練習問題、4）本文テキスト（朗読と和訳）、5）会話練習、6）シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。その他、学習支援システム上に教材を掲載し、授業時間内で課題を解いて頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音１	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音２、名詞、形容詞	単語の発音、名詞の性、形容詞の性変化
第3回	所有代名詞	名詞の複数形、所有代名詞の性・数変化、形容詞の性・数変化
第4回	「～する」	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「（何々）を」	名詞の対格
第6回	「～しろ」	動詞の命令形
第7回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第8回	「（何々、誰々）の」、「（何々）を持っている」	名詞の生格、所有の表現
第9回	「～するだろう」	動詞の未来形（人称変化）
第10回	「（どこどこ）で」	名詞の前置格
第11回	「～した」、「（誰々）を」	動詞の過去形（性・数変化）、活動体を表す名詞の対格
第12回	「（何々、誰々）へ」、「（何々、誰々）と」	名詞の与格、名詞の造格
第13回	「～する／～しおえる」	動詞の体（不完了体／完了体）
第14回	期末試験、まとめと解説	文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】
中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】
朝妻恵理子・クセーニャ・ゴロウィナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021年、2000円+税
佐藤純一『NHK新ロシア語入門』NHK出版、2001年
土岐康子・三神エレーナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年
小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60％、評価テストが40％の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。一歩一歩確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
３か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。
※春学期Ａ／秋学期Ｂは単独でも履修可能な科目のため初修者歓迎ですが、Ａから継続して履修する学生が多い場合、授業内容は履修者の皆さまとご相談させて頂きます。

【Outline (in English)】
Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.
At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.
Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.
Final grade will be decided based on the following: short tests 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語中級A

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。 ロシアの社会・文化に関するテクストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。会話練習を行なって聞き取り能力及び会話能力を楽しく伸ばしましょう。
ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(ＴＰＫИ)の 基本レベル (CERF A2) のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】
社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ロシアの日常生活や文化についてのテクストや現代文学のテクストの解読し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の学習	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
2	学校と大学	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
3	大学と大学生	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
4	留学生たち	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
5	寮の住まい	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
6	部屋	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
7	一日の流れ	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
8	週のスケジュール	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
9	休暇の過ごし方	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
10	好きなこと	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
11	移動の表現	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
12	図書館に行く	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
13	総合復習	聴解、文法練習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
期末テストの範囲及び成績評価の基準を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】
履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills.This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語中級B

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続きロシア語の解読と文法中心の授業です。 ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力と共に会話能力も楽しく伸ばしましょう。
ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(ＴＰＫИ)の 基本レベル (CERF A2) のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】
授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解読し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	お食事	テキストの読解、会話練習
2	カフェやレストランにて	テキストの読解、会話練習
3	手紙を書く	テキストの読解、会話練習
4	郵便局にて	テキストの読解、会話練習
5	プレゼントの文化	テキストの読解、会話練習
6	お買い物	テキストの読解、会話練習
7	招待する	テキストの読解、会話練習
8	病気と健康	テキストの読解、会話練習
9	病院にて	テキストの読解、会話練習
10	街の見学に行く	テキストの読解、会話練習
11	旅行に行く	テキストの読解、会話練習
12	空港にて	テキストの読解、会話練習
13	復習	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語の学習はオンラインでできるサイトを紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
学期末試験の範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】
履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills.This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

実用ロシア語 A

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。
現地留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験　の 基本レベル (CERF A2) 、ＴＰＫＩ-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】
授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語能力試験 ＴＰＫＩ A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。 動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援支システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介、名前、挨拶	関係代名詞の用法。　会話練習、リスニング
2	初回場面のトーク	意見を述べる。会話練習・リスニング
3	友好について	性格、家族メンバー、比較表現。会話練習、リスニング
4	人の外見	比較表現、形容詞の与格、慣用句。会話練習、リスニング
5	何を着る	衣類、最上級、形容詞の格変化復習。会話練習、リスニング
6	人の体	年齢や外見の話、比較、чем-чем構文。会話練習、リスニング
7	結婚パーティ	単語復習、関節発話、慣用句。会話練習、リスニング
8	薬局にて	症状の話、診察の表現、薬の購入。会話練習、リスニング
9	健康の維持	再帰動詞、慣用句。会話練習、リスニング
10	スポーツ	会話練習、リスニング
11	身近な人々について	人のことについて言える表現の復習、会話練習、リスニング
12	友人へのメール	メールの書き方、構成。会話練習、作文
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
数回音声データを使った宿題があります。授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時及び学習支援システムにて授業プリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。
期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムにアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】
学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.
This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or ＴＰＫＩ B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test ＴＰＫＩ A2-B1.
（Learning activities outside of classroom）
As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for some lessons to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policy）
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

実用ロシア語Ｂ

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、動画鑑賞やリスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。
現地留学またはロシア語能力検定試験３級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験　の 基本レベル (CERF A2) 、ＴＰＫＩ-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】
授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語検定試験 ＴＰＫＩ A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。 動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援支システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	旅行先のホテル	ホテルの種類や特徴について話す。リスニング練習、会話練習
2	ホテルの受付	予約する、ホテルスタフと話す。リスニング練習、会話練習
3	有名なホテル	接頭辞の移動動詞。リスニング練習、会話練習
4	住まいについて	住まいの種類や特徴。リスニング練習、会話練習
5	部屋について	場所の前置詞、与格の復習。リスニング練習、会話練習
6	引越しパーティ	慣用句。リスニング練習、会話練習
7	食べ物	料理、食べ物。リスニング練習、会話練習
8	食生活	生格、造格の復習。リスニング練習、会話練習
9	スーパーの買い物	数字と複数生格。リスニング練習、会話練習
10	ファストフード店	不定代名詞。リスニング練習、会話練習
11	料理を作る	レシピ、程度表現。リスニング練習、会話練習
12	レストラン	お食事エチケット、慣用句。リスニング練習、会話練習
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
数回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。
期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】
学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.
This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or ＴＰＫＩ B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test ＴＰＫＩ A2-B1.
（Learning activities outside of classroom）
As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policy）
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語講読 A

2017年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。
基本的にはロシア語から日本語への訳出を行いますが、複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】
辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その1）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習（その2）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習(その3)副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読（その1）回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読（その2）ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴァ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読（その3）ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する19世紀科学」
7	テキスト講読（その4）おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読（その5）文学、芸術	短文「美（『カラマーゾフの兄弟』より」)、「映画芸術」
9	テキスト講読（その6）文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読（その7）歴史	短文「アレクサンドル1世」、「ニコライ2世」
11	テキスト講読（その8）文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読（その9）文学	短文「トルストイ」
13	テキスト講読（その10）文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。
授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。
本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（訳文提出など）40％、期末試験60％。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】
Russian reading A.
This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.
At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語講読 B

2017年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、「ロシア語講読A」よりもさらに高度な読解力を培うことを目的とします。
基本的にはロシア語から日本語への訳出を行いますが、複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】
辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読（その1）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第1節）」
2	テキスト講読（その2）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第2節」）
3	テキスト講読（その3）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第3節）」
4	テキスト講読（その4）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第1節）」
5	テキスト講読（その5）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第2節）」
6	テキスト講読（その6）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第3節）」
7	テキスト講読（その7）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第4節）」
8	テキスト講読（その8）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第1節）」
9	テキスト講読（その9）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第2節）」
10	テキスト講読（その10）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第3節）」
11	テキスト講読（その11）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第1節）」
12	テキスト講読（その12）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第2節）」
13	テキスト講読（その13）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第3節）」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（訳文提出など）40％、期末試験60％。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】
Russian reading B. Continuation of Russian reading A.
This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.
At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

時事ロシア語 A

2017年度以降入学者

油本　真理

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための練習をする。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。ロシア語の講読が初めての受講者も歓迎する。

【到達目標】
(1)ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
(2)現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的に対面形式で実施するが、受講者の希望により、7回分を上限にオンラインで実施する可能性もある。毎回の授業でロシア語の文章を配布し、その場で辞書を用いながら読む練習をする。また、文章の内容についてのディスカッションも実施する。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	ロシア語の文章講読
3	内政②	ロシア語の文章講読
4	外交①	ロシア語の文章講読
5	外交②	ロシア語の文章講読
6	宗教①	ロシア語の文章講読
7	宗教②	ロシア語の文章講読
8	文化①	ロシア語の文章講読
9	文化②	ロシア語の文章講読
10	ビジネス①	ロシア語の文章講読
11	ビジネス②	ロシア語の文章講読
12	テクノロジー①	ロシア語の文章講読
13	テクノロジー②	ロシア語の文章講読
14	まとめ	半期の総括・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内での訳読が中心となるが、終わらなかった部分は宿題とすることがある。授業で訳読した部分についても、授業後に文法や単語を確認し、わからなかった場合には次回授業で質問すること。期末試験では授業で講読した文章の文法・語彙の理解度を確認する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。講読する文章は配布する。講読する文章のテーマは受講者の関心に合わせて選定する。

【参考書】
特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：50％、授業への参加：50％

【学生の意見等からの気づき】
関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】
各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.
【Learning Objectives】
The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.
【Learning activities outside of classroom】
The main focus will be on reading the translation in class, but homework may be assigned for parts that are not completed. Students are expected to review grammar and vocabulary after class and ask questions in the next class if they do not understand. A final exam will be given to test your understanding of the grammar and vocabulary of the passages read in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

時事ロシア語Ｂ

2017年度以降入学者

油本　真理

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。ロシア語の講読が初めての受講者も歓迎する。

【到達目標】
(1)ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
(2)現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的に対面形式で実施するが、受講者の希望により、7回分を上限にオンラインで実施する可能性もある。毎回の授業でロシア語の文章を配布し、その場で辞書を用いながら読む練習をする。また、文章の内容についてのディスカッションも実施する。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	社会①	ロシア語の文章講読
3	社会②	ロシア語の文章講読
4	司法①	ロシア語の文章講読
5	司法②	ロシア語の文章講読
6	経済①	ロシア語の文章講読
7	経済②	ロシア語の文章講読
8	環境①	ロシア語の文章講読
9	環境②	ロシア語の文章講読
10	スポーツ①	ロシア語の文章講読
11	スポーツ②	ロシア語の文章講読
12	ナショナリズム①	ロシア語の文章講読
13	ナショナリズム②	ロシア語の文章講読
14	まとめ	半期の総括・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内での訳読が中心となるが、終わらなかった部分は宿題とすることがある。授業で訳読した部分についても、授業後に文法や単語を確認し、わからなかった場合には次回授業で質問すること。期末試験では授業で講読した文章の文法・語彙の理解度を確認する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。講読する文章は配布する。講読する文章のテーマは受講者の関心に合わせて選定する。

【参考書】
特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：50％、授業への参加：50％

【学生の意見等からの気づき】
関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】
各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.
【Learning Objectives】
The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.
【Learning activities outside of classroom】
The main focus will be on reading the translation in class, but homework may be assigned for parts that are not completed. Students are expected to review grammar and vocabulary after class and ask questions in the next class if they do not understand. A final exam will be given to test your understanding of the grammar and vocabulary of the passages read in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語Ａ　2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**2/Fri.2
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、１年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のイーラーニング教材（e宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」「発音３」	「発音の基本」ピンインの「発音３」
3	「発音３」「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第７課」「第８課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第９課」「第１０課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」「第１２課」	「補語」「動詞述語文１」
9	「第１３課」「第１４課」	「動詞述語文２」「動詞述語文３」
10	「第１５課」「第１６課」	「動詞述語文４」「動詞述語文５」
11	「第１７課」「第１８課」	「動詞述語文６」「動詞述語文７」
12	「第１９課」「第２０課」	「完了態」「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	まとめ	「第１課から第２０課」までのまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。ｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）：50％
②期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンライン試験で実施するので、各自PCができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 60%，Term-end examination: 40%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語Ｂ　2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**2/Fri.2
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、１年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のｅラーニング教材（e宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」「第２２課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第２３課」「第２４課」	「形容詞述語文」
4	「第２５課」「第２６課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」１
5	「第２７課」「第２８課」	「名詞述語文」２
6	「第２９課」「第３０課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第３１課」「第３２課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第３３課」「第３４課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第３５課」「第３６課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第３７課」「第３８課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第３９課」「第４０課」	「把構文」「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	まとめ	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。ｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）：50％
②期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンラインで実施するので、PCができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語中級Ａ　2017年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】
１．中国語の中級レベルの語彙、文法を学修し、運用することができる。
２．ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。課題等へのフィードバックは授業中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第１課（助動詞、主述述語文の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第１課　（トレーニング１）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第２課（”的”の用法、「原因・理由」の表現、文末助詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第２課（トレーニング２）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第３課（連動文、”是～的”の文、疑問詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第３課（トレーニング３）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第１課～第３課の復習	日文中訳・中文日訳の練習。
第8回	第４課（”了”の３つの用法、副詞”就”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第４課（トレーニング４）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第５課（様態補語、推量の表現、「仮定」の表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第５課（トレーニング５）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第１課～第３課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第４課、第５課）	期末試験に向けた復習と練習。
第14回	試験・まとめと解説	朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】
『中国語つぎへの一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【参考書】
『中国語さらなる一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】
期末試験40％、授業への参加度60％を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化し到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
４群中国語履修者も履修可能ですが、中国語３Ⅰ・Ⅱ（法文営環）/中国語４Ⅰ・Ⅱ（法文営）と同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。
関連科目
300番台総合科目、配当年次2年 4年
中国語コミュニケーション中級A・B
中国語視聴覚中級A・B
中国語作文中級A・B
中国語講読中級A・B
中国語翻訳・通訳A・B
資格中国語上級A・B
200番台 LA科目　配当年次1年 4年
中国語の世界LA・LB
200番台 LA科目　配当年次2年 4年
中国の文化と社会LA・LB
中国の文化と社会LC・LD
300番台　総合科目　配当年次2年 4年
教養ゼミⅠ・Ⅱ

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
・To review important point of Chinese grammar.
・Improve reading,speaking,writing,and translating skills.
・Learning Chinese clutures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
・Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語中級Ｂ　2017年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、引き続き、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】
１．中国語の中級レベルの語彙、その用法を学修し、運用することができる。
２．ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。
課題等へのフィードバックは授業中またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第６課（結果補語（１）、副詞”有点”の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第６課（トレーニング６）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第７課（存現文、主述句の主語、二つの”了”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第７課（トレーニング７）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第８課（状態の持続を表す“着”、副詞”再”、疑問詞の不定用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第８課（トレーニング８）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第６課～第８課の復習	日文中訳、中文日訳を中心とした練習
第8回	第９課（方向補語、使役表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第９課（トレーニング９）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第10課（可能補語、強調表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第10課（トレーニング１０）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第６課～第８課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第９課、第１０課）	期末試験に向けた復習と練習。
第14回	試験・まとめと解説	朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】
『中国語つぎへの一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【参考書】
『中国語さらなる一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度60％、期末試験40％を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
４群中国語履修者も履修可能ですが、中国語３Ⅰ・Ⅱ（法文営環）/中国語４Ⅰ・Ⅱ（法文営）と同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。
関連科目
300番台総合科目、配当年次2年 4年
中国語コミュニケーション中級A・B
中国語視聴覚中級A・B
中国語作文中級A・B
中国語講読中級A・B
中国語翻訳・通訳A・B
資格中国語上級A・B
200番台 LA科目　配当年次1年 4年
中国語の世界LA・LB
200番台 LA科目　配当年次2年 4年
中国の文化と社会LA・LB
中国の文化と社会LC・LD
300番台　総合科目　配当年次2年 4年
教養ゼミⅠ・Ⅱ

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
This corse is continued from Spring semester.
・To review important point of Chinese grammar.
・Improve reading,speaking,writing,and translating skills.
・Learning Chinese clutures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
・Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語視聴覚中級Ａ

2017年度以降入学者

劉　渴氷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（25）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。この授業は木曜日2限の中国語視聴覚初級1・Ⅱと同じ教科書を使います。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】
初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検３級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
単語を習得し、文法を理解する。
DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。
簡単な中国語作文・会話練習を行う。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。
本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第７課	文法理解と応用
3	第７課	会話と応用
4	第７課	読解文の理解と応用
5	第７課	課外練習と作文
6	第８課	文法理解と応用
7	第８課	会話と応用
8	第８課	読解文の理解と応用
9	第８課	課外練習と作文
10	第９課	文法理解と応用
11	第９課	会話と応用
12	第９課	読解文の理解と応用
13	第９課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
This class uses the same textbook as Chinese Audiovisual Beginner Ⅰ and Ⅱ on Thursday 2nd period. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.
Final grade will be calculated according to the following
Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語視聴覚中級Ｂ

2017年度以降入学者

劉　渴氷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（25）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】
初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検３級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
単語を習得し、文法を理解する。
DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。
簡単な中国語作文・会話練習を行う。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第10課	文法理解と応用
3	第10課	会話と応用
4	第10課	読解文の理解と応用
5	第10課	課外練習と作文
6	第11課	文法理解と応用
7	第11課	会話と応用
8	第11課	読解文の理解と応用
9	第11課	課外練習と作文
10	第12課	文法理解と応用
11	第12課	会話と応用
12	第12課	読解文の理解と応用
13	第12課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.
Final grade will be calculated according to the following
Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語作文中級Ａ

2017年度以降入学者

楊　心苗

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、SNS文字メッセージやメールなどの書き方、フィードバックの与え方などを習得する。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。
This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing Chinese compositions. While reviewing basic grammar, students will start by practicing sentence construction and learning the steps required for effective composition. Additionally, students will analyze sample Chinese texts and engage in imitation and rewriting exercises to master clear and concise sentence writing. The course will also cover how to compose short messages for SNS, emails, and other forms of written communication, as well as how to provide constructive feedback. Please make sure to review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

【到達目標】
1. 興味関心のある話題について、正確かつ自然な中国語の表現で自分の考えをまとめて文章にすることができる。
2. 受講生同士のフィードバックができる。
3. 教員が添削した作文をリライティングし、より良い文章を作成する能力を身につける。
4. 春学期の学習を完了した段階で、HSK 4級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。
1.Be able to express thoughts on topics of interest accurately and naturally in Chinese and compose written essays.
2.Be capable of providing feedback to fellow students.
3.Develop the ability to rewrite essays corrected by the instructor and create improved versions.
4.Achieve a level of writing ability that can pass the HSK Level 4 exam upon completing the spring semester.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行う。
・指定テキストを用いて、練習問題や作文に取り組んでもらい、受講生同士でフィードバックし、発表する機会も設ける。
・教員は作文の添削や質問への解答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。
なお以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	第一課 第二課	形容詞述語文／“是”を用いる文 文章記号、記述の基礎を学ぶ。
3	第三課 第四課	疑問文／“是”を用いる文 SNS文字メッセージを書く練習・フィートバック
4	第五課 第六課	助動詞 メールを書く練習・フィートバック
5	第七課 第八課	完了態／変化態 会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
6	第九課 第十課	進行態／持続態／経験態／数量の表現 会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
7	第十一課 第十二課	介詞 会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
8	第十三課 第十四課	離合詞／動詞の重ね型／結果補語 会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
9	第十五課 第十六課	方向補語／可能補語 モデル文章を模倣し、40文字以上の日記を書く・フィートバック
10	第十七課 第十八課	程度補語／否定の表現 モデル文章を模倣し、50文字以上の日記を書く・フィートバック
11	第十九課 第二十課	“⊠”と“再”と“又”／“就”“才”／比較文 モデル文章を模倣し、60文字以上の日記を書く・フィートバック
12	第二十一課 第二十二課	使役文／“把”構文／受け身文 モデル文章を模倣し、70文字以上の日記を書く・フィートバック
13	第二十三課 第二十四課	語気助詞／複文 モデル文章を模倣し、80文字以上の日記を書く・フィートバック
14	総括	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進めることがあるため、宿題は必ずあらかじめ取り組んでください（宿題をこなしていない場合は授業参加が難しくなる）。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
・ Since classes may involve homework exercises and essay writing, please make sure to complete your homework in advance (it will be difficult to participate in class without doing the homework).
・ The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
井田みずほ・小薗瑞恵『初中級中国語作文トレーニング』（白帝社）2023年

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・期末課題を50%、平常点（授業への積極的参加度、作文、フィートバックなど）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業は期末試験は実施しない。
・ The final assignment will account for 50%and class participation (active participation in discussions, essays, feedback, etc.) will account for 50%, making a total of 100 points. Students who achieve 60%or more of the course objectives based on this grading system will pass.
・ There will be no final exam for this course.

【学生の意見等からの気づき】
本年度より新規開校のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】
・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing Chinese compositions. While reviewing basic grammar, students will start by practicing sentence construction and learning the steps required for effective composition. Additionally, students will analyze sample Chinese texts and engage in imitation and rewriting exercises to master clear and concise sentence writing. The course will also cover how to compose short messages for SNS, emails, and other forms of written communication, as well as how to provide constructive feedback. Please make sure to review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語作文中級Ｂ

2017年度以降入学者

楊　心苗

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、中国語作文のスキルを向上させるための授業である。リーディングとライティングは相互作用するスキルであるため、秋学期には、中国語のリーディングとライティングを関連させ、中国語で書かれた短いストーリやエッセイなどを読み、既習のライティングスキルを活用し、要約や感想文、自由作文のトレーニングを行う。また、日中対照研究的視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法的特徴を考える視点も養う。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。
This course is designed to improve Chinese composition skills. Since reading and writing are interrelated skills, the autumn semester will focus on connecting Chinese reading and writing. Students will read short stories and essays written in Chinese and engage in training such as summaries, reflection essays, and free writing by applying previously learned writing skills. Additionally, by examining Chinese from a contrastive perspective between Japanese and Chinese, students will develop an awareness of the grammatical features of Japanese, which they often use unconsciously. Please ensure that you review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

【到達目標】
1. 句読点や段落構成に留意し、正しい中国語の文法や読みやすい言葉で論理的に文章を書くスキルを身につける。
2. 秋学期の学習を完了した段階で、HSK 5級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。
3. 中国語圏の言語や文化に関心を持ち、グローバルな視点で自分の考えを中国語で効果的に文章にまとめられる。
1.Acquire the skill to write logically with attention to punctuation and paragraph structure, using correct Chinese grammar and clear, readable language.
2.Achieve a level of writing ability that can pass the HSK Level 5 exam upon completing the fall semester.
3.Cultivate interest in the language and culture of Chinese-speaking regions and be able to effectively express personal thoughts in written Chinese from a global perspective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行う。
・秋学期は配布資料を用いて授業を進める。具体的進め方は以下の通りである。
＊授業前の事前学習
授業前に配布されたリーディング資料を読み、感想や意見を考える。
＊授業の進め方と方法
1. 事前学習したリーディン資料について要約や感想文を書く。
2. 受講生同士でフィードバックを行う。
3. HSK5級作文トレーニング。
4. 教員が宿題の作文を添削し、中から数点を選んでプリントにまとめて、受講生全体で共有してフィードバックを行う。
なお以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習	春学期に学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。
2	HSK5級自由作文	HSK5級作文問題説明、自由作文の練習、フィードバック
3	リーディング＆ライティング	リーディング資料（故事）について要約、感想文を書く、フィードバック
4	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、よく使う語句をまとめる、フィードバック
5	リーディング＆ライティング	リーディング資料（エッセイ）について要約、感想文を書く、フィードバック
6	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、テンプレートを作る、フィードバック
7	リーディング＆ライティング	リーディング資料（論説文）について要約、感想文を書く、フィードバック
8	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、フィードバック
9	リーディング＆ライティング	リーディング資料（ショートショート）について要約、感想文を書く、フィードバック
10	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、フィードバック
11	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文説明、作文の練習、よく使う語句をまとめる、フィードバック
12	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、テンプレートを作る、フィードバック
13	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、フィードバック
14	総括	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業前に配付資料や宿題の作文を用いて授業を進めることがあるため、配付資料を必ず熟読すること、宿題はあらかじめ取り組んでください（こなしていない場合は授業参加が難しくなる）。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
・Since classes may involve homework exercises and essay writing, please make sure to complete your homework in advance (it will be difficult to participate in class without doing the homework).
・The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・期末課題を50%、平常点（授業への積極的参加度、作文、フィートバックなど）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業は期末試験は実施しない。
・The final assignment will account for 50%and class participation (active participation in discussions, essays, feedback, etc.) will account for 50%, making a total of 100 points. Students who achieve 60%or more of the course objectives based on this grading system will pass.
・There will be no final exam for this course.

【学生の意見等からの気づき】
本年度より新規開講のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】
・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
This course is designed to improve Chinese composition skills. Since reading and writing are interrelated skills, the autumn semester will focus on connecting Chinese reading and writing. Students will read short stories and essays written in Chinese and engage in training such as summaries, reflection essays, and free writing by applying previously learned writing skills. Additionally, by examining Chinese from a contrastive perspective between Japanese and Chinese, students will develop an awareness of the grammatical features of Japanese, which they often use unconsciously. Please ensure that you review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語コミュニケーション中級Ａ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
１、文法をきちんと把握する。
２、発音を綺麗にする。
３、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。
また毎回発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	述語 会話（1）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（1） 授業内発表（2）	副詞と時間詞につい勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第11回	連用修飾語（2）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（3）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（3）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ及び期末テスト	文法のまとめ、と会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績（60％）と発表（40％）で評価される。
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSKや中国語検定の受験も推奨される。
留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.
We should talk by accurate pronunciation.
We should talk daily conversation well.
We should prepare and review about two hours a week.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語コミュニケーション中級Ｂ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
１、文法をきちんと把握する。
２、作文能力を高める。
３、日常会話をできるようにする。
４、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。
また発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話（1）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表（1）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的用法 会話（2）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表（2）	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話（3）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表（3）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング（1）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング（2）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第13回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答
第14回	まとめ	口頭テストと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績（60％）と発表（40％）で評価される。
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSKや中国語検定の受験も推奨される。
留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.
We should prepare and review about two hours a week.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語翻訳･通訳 A

2017年度以降入学者

王　安

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、HSK3級～5級（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期はHSK3級～4級レベル（中国語検定試験3級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】
１、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
２、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
３、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業では、毎回３、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験の受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。
課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。HSKに関する説明
第2回	中国語重要文型の復習（その１）	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第3回	中国語重要文型の復習(その２）	各種の疑問文、主述述語文
第4回	動作の状態の表し方（その１）	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第5回	動作の状態の表し方（その２）	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”（その１）
第6回	動作の状態の表し方（その３）	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”（その２）
第7回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第8回	これまでの復習	総合復習（１）、中間テスト
第9回	翻訳・通訳練習	様々な翻訳パターン
第10回	重要な前置詞（介詞、その１）	“在”“从"“到”“離”
第11回	重要な前置詞（介詞、その２）	“往”“朝”“向”“对于”“对”“通過”“按照”“关于”など）
第12回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方
第13回	連体修飾と連用修飾	連体修飾の作り方、連用修飾の作り方
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各３時間を標準とします。
・当日授業で説明した重要ポイントを必ず整理し、復習してください。

【テキスト（教科書）】
授業で資料を配布する。

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題）４０％＋中間テスト（３０％）＋期末テスト（３０％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の雰囲気が明るく、文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後もたくさんの用例を提示しながら丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
１日中中日辞書を用意してください。
２授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は中間・期末試験の復習資料となります。
３、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】
Outline:
This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK levels 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire difficult grammar points for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.
Objectives
1.　To develop advanced Chinese writing, reading, and understanding ability.
2.　to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3.　to improve Chinese translation and comprehensive ability through much writing practice.
Grading method:
assignment（40%）　+ mid-term test (30%) + final test (30%)
Work to be done outside of class (preparation:
The standard time for preparation and review is ３ hours each.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語翻訳･通訳Ｂ

2017年度以降入学者

王　安

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初級を修了した学習者を対象に、HSK3級～5級（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期ではＨＳＫ4級～５級レベル（中国語検定試験3～２級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】
１、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
２、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
３、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業では、毎回３、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。
課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第2回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第3回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第4回	特殊構文（その１）	使役文
第5回	特殊構文（その２）	受け身文
第6回	特殊構文（その３）	“是…的”構文
第7回	翻訳・通訳練習	様々な翻訳パターン
第8回	これまでの復習	総合復習（１）、中間テスト
第9回	特殊構文（その４）	”把”構文
第10回	中国語の補語（その１）	結果補語と方向補語
第11回	中国語の補語（その２）	可能補語、数量補語
第12回	中国語の補語（その３））	数量補語、様態補語
第13回	翻訳通訳練習	日中通訳の現場でよく使われる表現
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各３時間を標準とします。
・当日の授業で紹介した重要ポイントを必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】
授業で資料を配布する。

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題）４０％＋中間テスト（３０％）＋期末テスト（３０％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の雰囲気が明るく、文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後もたくさんの用例を提示しながら丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
１日中中日辞書を用意してください。
２授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
３、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【その他の重要事項】
連絡先：　annwang@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Outline:
This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK levels 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.
Objectives
1. To develop advanced Chinese writing, reading, and understanding ability.
2. to master the important grammar items of intermediate advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through much writing practice.
Grading method:
assignment（40%） + mid-term test (30%) + final test (30%)
Work to be done outside of class (preparation:
The standard time for preparation and review is 3 hours each.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語講読中級Ａ

2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。春学期はHSK３、４級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】
中国語文の精読を通して、HSK３，４級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、受講者と話し合いながら授業を進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK３，４級閲読対策：練習問題①	HSK３，４級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK３，４級閲読対策：練習問題②	HSK３，４級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK３，４級閲読対策：練習問題③	HSK３，４級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK３，４級閲読対策：練習問題④	HSK３，４級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑤	HSK３，４級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑥	HSK３，４級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑦	HSK３，４級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑧	HSK３，４級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑨	HSK３，４級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑩	HSK３，４級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑪	HSK３，４級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK３，４級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布します。

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』（三省堂）
そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）50%
②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50%

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンラインで実施しますので、PCで受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語講読中級Ｂ

2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。秋学期はHSK４、５級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】
中国語文の精読を通して、HSK４，５級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、受講者と話し合いながら授業を進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK４，５級閲読対策：練習問題①	HSK４，５級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK４，５級閲読対策：練習問題②	HSK４，５級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK４，５級閲読対策：練習問題③	HSK４，５級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK４，５級閲読対策：練習問題④	HSK４，５級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑤	HSK４，５級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑥	HSK４，５級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑦	HSK４，５級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑧	HSK４，５級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK４，５級級閲読対策：練習問題⑨	HSK４，５級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK４，５級級閲読対策：練習問題⑩	HSK４，５級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK４，５級級閲読対策：練習問題⑪	HSK４，５級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK４，５級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜配布します。

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）50%
②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンラインで実施しますので、PCで受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語上級Ａ

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の5級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】
過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル5に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK5級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK5級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK5級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK5級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK5級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK5級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK5級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK5級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK5級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
11	HSK5級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
12	HSK5級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
13	HSK5級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
14	総まとめ	期末試験 まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の宿題・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40%
宿題と課題 40%
期末試験 20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 5.
【Learning Objectives】
By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 5.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance and learning attitude 40%
Homework completion 40%
Final exam 20%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語上級Ｂ

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の6級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】
過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル6に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK6級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK6級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK6級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK6級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK6級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK6級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK6級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK6級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK6級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
11	HSK6級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
12	HSK6級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
13	HSK6級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
14	総まとめ	期末試験 まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の宿題・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40%
宿題と課題 40%
期末試験 20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 6.
【Learning Objectives】
By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 6.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance and learning attitude 40%
Homework completion 40%
Final exam 20%

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**2/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「担仔麺に小籠包、臭豆腐、茶葉蛋、豆花…。台湾を代表する現代詩人が民間に根づいた食べものを題目に冠し、その味わいを綴る六十篇」（みすず書房HPより抜粋）を収める焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021年。原書『味道福爾摩莎』）をテキストとし、日本語訳された内容を味わいながら台湾の食文化への理解を深めます。適宜、原文も確認しながら中国語の世界にも慣れ親しむ予定です。
※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】
・映像資料の鑑賞・中国語文献の確認作業を通して、中国語の世界に慣れ親しむ。
・地理、地域の特色、食材、調理、生活、習慣等に対する調査を通して、中国語圏の食文化への理解を深める。
・各自でレストランを訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。
・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021年）をテキストとします。各自担当したい項目を選んで、それに関する内容の整理、調査結果をまとめてパワーポイントを作成し、プレゼンします。プレゼンをもとに参加者はリアクションペーパーに感想・質問等をまとめ、ディスカッションを行います。
・シラバス記載の項目は一例です。
・調査結果や質問等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
2	プレゼンテーション例と担当決め	各自エッセイのなかから一篇を選ぶ。「台湾珈琲」を例にプレゼン。
3	『味の台湾』から読み解く食文化②	「肉臊飯（豚角切り肉の煮込みぶっかけ飯）」篇に関する調査と発表
4	『味の台湾』から読み解く食文化③	「米粉湯（米めん入りスープ）」篇に関する調査と発表
5	『味の台湾』から読み解く食文化④	「芒果牛奶氷（マンゴーミルクかき氷）」篇に関する調査と発表
6	『味の台湾』から読み解く食文化⑤	「蚵仔煎（カキのオムレツ）」篇に関する調査と発表
7	『味の台湾』から読み解く食文化⑥	「小籠包（スープ入り小肉饅頭）」篇に関する調査と発表
8	『味の台湾』から読み解く食文化⑦	「川味紅焼牛肉麺（四川風牛肉煮込み汁麺）」篇に関する調査と発表
9	『味の台湾』から読み解く食文化⑧	「永和豆漿（永和豆乳）」篇に関する調査と発表
10	『味の台湾』から読み解く食文化⑨	「仏跳牆（さまざまな乾物と肉類の蒸しスープ）」篇に関する調査と発表
11	『味の台湾』から読み解く食文化⑩	「刈包（豚肉の醤油煮こみをはさんだ蒸しパン）」篇に関する調査と発表
12	『味の台湾』から読み解く食文化⑪	「豆花（おぼろ豆腐）」篇に関する調査と発表
13	春学期のまとめ①	授業のふりかえりと各自での実地調査
14	春学期のまとめ②	授業のふりかえりと各自での実地調査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021年）

【参考書】
焦桐『味道福爾摩莎』（二魚文化事業有限公司、2015年）など

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への参加度、リアクションペーパー）：50%
・プレゼンテーション：50%

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to develop students'understanding of Chinese society and culture.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 50%, Presentation 50%.

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**2/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「吃貨（くいしんぼう）」のための食エッセイを収める崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』（川浩二訳、2019年、みすず書房。原書『吃貨辞典』2014年、商務印書館）をテキストのひとつとして使用します。日本語訳された内容を味わいながら中国語圏の食文化への理解を深めます。適宜、原文も確認しながら外国語にも慣れ親しむ予定です。
※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】
・映像資料の鑑賞・文献の確認作業を通して、外国語の世界に慣れ親しむ。
・地理、地域の特色、食材、調理、生活、習慣等に対する調査を通して、中国語圏の食文化への理解を深める。
・各自でレストランを訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。
・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』（川浩二訳、みすず書房、2019年）をテキストとします。各自担当したい項目を選んで、それに関する内容の整理、調査結果をまとめてパワーポイントを作成し、プレゼンします。プレゼンをもとに参加者はリアクションペーパーに感想・質問等をまとめ、ディスカッションを行います。
・シラバス記載の項目は一例です。
・調査結果や質問等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
2	プレゼンテーション例と担当決め	各自エッセイのなかから一篇を選ぶ。「燙干絲（湯通しした細切り押し豆腐）」篇を例にプレゼンテーション
3	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化①	「紅焼肉（豚の角煮）」篇に関する調査と発表
4	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化②	「炸醤麺（煎りみそ和え麺）」篇に関する調査と発表
5	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化③	「包子（まんじゅう）」篇に関する調査と発表
6	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化④	「涮羊肉（羊のしゃぶしゃぶ）」篇に関する調査と発表
7	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑤	「粽子（ちまき）」篇に関する調査と発表
8	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑥	「生煎（焼き小籠包）」篇に関する調査と発表
9	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑦	「牛大碗（手延べ牛肉麺）」篇に関する調査と発表
10	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑧	「過橋米麺（各種の付け合わせを添えた汁米麺）」篇に関する調査と発表
11	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑨	「夫妻肺片（薄切りにした牛肉と牛モツの辛み和え）」篇に関する調査と発表
12	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑩	「雲呑麺（ワンタンメン）」篇に関する調査と発表
13	秋学期のまとめ①	授業のふりかえりと各自での実地調査
14	秋学期のまとめ②	授業のふりかえりと各自での実地調査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』（川浩二訳、2019年、みすず書房）

【参考書】
崔岱遠『吃貨辞典』（2014年、商務印書館など）

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への参加度・リアクションペーパー）：50%
・プレゼンテーション：50%

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to develop students'understanding of Chinese society and culture.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 50%, Presentation 50%.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

第三外国語としてのスペイン語Ａ　2017年度以降入学者

杉下　由紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】
スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
すべて対面で行う。対面が不可になった場合はZoomによるリアルタイム双方向式で行う。
教員が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループアクティビティを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。
アクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 第０課　イントロダクション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	第１課　スペイン語で友だちになろう	アルファベット、発音、アクセント、数詞0～10、スペイン語圏の名前
3	第２課　慣用句を便利に使おう	名詞の性数、職業、冠詞、指示詞
4	第３課　感動を伝えよう	主格人称代名詞、動詞ser、国籍、数詞11～20
5	第３課　感動を伝えよう	疑問文と否定文、形容詞、感嘆文
6	小テスト 第４課　いろいろな動詞を使おう	規則動詞、疑問詞１、数詞21～30
7	第４課　いろいろな動詞を使おう	所有詞、親族名称、アメリカ合衆国とメキシコ
8	第５課　お願いしたり、指示を理解しよう	動詞estar、直接目的語と間接目的語、数詞31～100、
9	第５課　お願いしたり、指示を理解しよう	tú と usted への肯定命令、グアテマラ
10	第６課　どこにいるか、何があるか確認しよう	動詞estar, hay、位置関係を表す語句
11	第６課　どこにいるか、何があるか確認しよう	疑問詞２、コスタリカ
12	第７課　しなければいけない、するつもり	１人称単数不規則動詞、天候表現
13	第７課　しなければいけない、するつもり	動詞tener, ir、キューバ
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書や付属の語彙集で調べておく。舞台となっている地域の位置を地図で確認し、その特徴なども調べる。
復習：新たに学んだことをノートにまとめて復習し、音声を聴いて発音練習を繰り返す。
宿題：練習問題
標準学習時間：計４時間

【テキスト（教科書）】
柳田玲奈／吉野達也『ラテアメ！ スペイン語―ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

【参考書】
岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
高橋覚二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんドリル！ スペイン語文法項目別』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）、小テスト（10％）、期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているので、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
テキストの音声を聴くための機器（パソコン、スマートフォンなど）とインターネット環境。

【その他の重要事項】
長期的にスペイン語を勉強するのなら、紙媒体の辞書を使うことお薦めします。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のもの。自動翻訳機や生成AIの使用厳禁。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic of Spanish to beginners.
The goals are to pronounce Spanish correctly, express your daily life in Spanish and apprehend Spanish-speaking world.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process;
in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

第三外国語としてのスペイン語Ｂ　2017年度以降入学者

杉下　由紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】
現在と過去の動詞の時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
すべて対面で行う。対面が不可になった場合はZoomによるリアルタイム双方向式で行う。
教員が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループアクティビティを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。
アクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第８課　許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	語幹母音変化動詞
2	第８課　許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	不規則動詞、頻度の表現
3	第９課　好きなものを伝えよう	目的格人称代名詞
4	第９課　好きなものを伝えよう	前置詞格人尿代名詞、動詞 gustar
5	第１０課　日常生活について話そう	再帰動詞
6	第１０課　日常生活について話そう	時刻、曜日、コロンビア
7	小テスト 第１１課　今していることや、これまでの経験を話そう	現在分詞、過去分詞
8	第１１課　今していることや、これまでの経験を話そう	現在完了、不定語・否定語
9	第１２課　過去の出来事を伝えよう	点過去規則動詞
10	第１２課　過去の出来事を伝えよう	比較、ペルー
11	第１３課　過去の出来事を伝えよう	点過去不規則動詞
12	第１３課　主語のない文を使おう	無人称表現、muyとmucho
13	第１４課　昔のことを語等	線過去、アルゼンチン
14	期末試験、ふりかえり	秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書や付属の語彙集で調べておく。舞台となっている地域の位置を地図で確認し、その特徴なども調べる。
復習：新たに学んだことをノートにまとめて復習し、音声を聴いて発音練習を繰り返す。
宿題：練習問題
標準学習時間：計４時間

【テキスト（教科書）】
柳田玲奈／吉野達也『ラテアメ！ スペイン語―ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

【参考書】
岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
高橋覚二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんドリル！ スペイン語文法項目別』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）、小テスト（10％）、期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているので、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
テキストの音声を聴くための機器（パソコン、スマートフォンなど）とインターネット環境。

【その他の重要事項】
長期的にスペイン語を勉強するのなら、紙媒体の辞書を使うことお薦めします。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のもの。自動翻訳機や生成AIの使用厳禁。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic of Spanish to beginners.
The goals are to master basic daily Spanish conversation, reading and composition and apprehend Spanish-speaking world.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process;
in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語上級Ａ

2017年度以降入学者

佐々木　直美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際文化学部SAスペインを修了した学生、または同程度のスペイン語力を持つ学生を対象の授業です。スペイン語によるコミュニケーション力のさらなる向上を目指します。スペイン語の基礎文法を再確認しながら、身近な事柄や個人的なテーマについて簡潔に文章を作成したり、わかりやすい口頭発表ができるようになることを目指します。

【到達目標】
*仮説のことがらを表現できるようになる。
*計画を提案したり、進言することができるようになる。
*フォーマルな状況で、適切な対応ができるようになる。
*他者の言ったことを伝えることができるようになる。
*身近なテーマについて、議論を交わすことができる様になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語と日本語を交えて、演習中心のテキストに沿って進めます。受講生がスペイン語によるプレゼンテーションを行ったり、スペイン語で議論をする機会を積極的に作ります。リアクション・ペーパーや課題に対するフィードバックは、授業内もしくは授業支援システムを活用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業についての説明
2	挨拶 個人の情報	個人の情報を伝えたり、求めたりする表現
3	授業内でのコミュニケーション	*義務、禁止、許可の表現 *授業中に質問ができる
4	文化と様々なイベント1	*過去の行動について話すことができる
5	文化と様々なイベント2	＊出来事の描写ができる
6	祝祭1	*願望や感情の表現ができる
7	祝祭2	*社交辞令の表現
8	都市と環境1	*助言を求めたり、対策を相談したり、解決策を提案したりする
9	都市と環境2	*意見を述べたり、賛否を表現する
10	移住と旅行1	*今後の予定と課題について話す *エピソードを伝える
11	移住と旅行2	*相手の話に興味を示したり、話を促す *人から聞いたことを伝える
12	動物、楽器、スポーツ	*比較表現ができる
13	日常生活の道具	原因、目的、結果について表現する
14	期末試験・まとめと解説	学習内容の理解度を確かめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習：その日授業で扱う範囲についてはあらかじめテキストに目を通し、知らない単語/表現やことがらについては調べておくこと。
・復習：授業内で新しく学んだことについて振り返り、1年次に購入した『段階別ドリル』を使って、知識の定着をはかること。
・そのほか：適宜指示される課題に取り組むこと。
この授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『エレラボＢ１』ガルシア、濱本他、朝日出版、定価（税込）3,135円

【参考書】
『段階別　ドリル』、朝日出版

【成績評価の方法と基準】
期末試験50％、授業内での貢献度・課題50％を目安として総合的に評価する。
この授業は演習中心の授業であるため、出席は必須とする。
3回以上欠席した場合や5回以上遅刻した場合は、「不可」と評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This class is for the students who have finished SA Spain Program or have a similar level of Spanish proficiency. We aim to further improve our communication skills in Spanish. While reconfirming basic Spanish grammar, you will aim to be able to write concise sentences on familiar and personal topics and make easy to understand oral presentations.
The principal goal of this class is to achieve B1level in DELE.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語上級Ｂ

2017年度以降入学者

佐々木　直美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際文化学部SAスペインを修了した学生、または同程度のスペイン語力を持つ学生を対象の授業です。スペイン語によるコミュニケーション力のさらなる向上を目指します。スペイン語の基礎文法を再確認しながら、身近な事柄や個人的なテーマについて簡潔に文章を作成したり、わかりやすい口頭発表ができるようになることを目指します。

【到達目標】
*仮説のことがらを表現できるようになる。
*計画を提案したり、進言することができるようになる。
*フォーマルな状況で、適切な対応ができるようになる。
*他者の言ったことを伝えることができるようになる。
*身近なテーマについて、議論を交わすことができる様になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語と日本語を交えて、演習中心のテキストに沿って進めます。受講生がスペイン語によるプレゼンテーションを行ったり、スペイン語で議論をする機会を積極的に作ります。リアクション・ペーパーや課題に対するフィードバックは、授業内もしくは授業支援システムを活用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業についての説明
2	迷信と日常生活1	*直説法未来完了 *直説法未来と可能性を表す直説法過去未来
3	迷信と日常生活2	*接続法過去 *条件文
4	観光、旅、休暇1	*方法・様態と場所を示す関係副詞 *結果を表す文
5	観光、旅、休暇2	*計画の提案・招待を受け入れる/断る *前置詞を伴う疑問文
6	仕事1	*時を表す副詞節Ⅱ *形容詞の語尾消失
7	仕事2	*就職の面接と履歴書作成に役立つ表現
8	食文化1	*直接話法と間接話法
9	食文化2	*食品や味に関する表現
10	人間関係1	*譲歩節 *逆説の接続詞
11	人間関係2	*不定代名詞と不定形容詞 *付き合いや人間関係を表す動詞
12	映画1	映画の世界について外観する
13	映画2	映画製作のプロセスを学ぶ
14	映画3	短編映画の撮影にチャレンジする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習：その日授業で扱う範囲についてはあらかじめテキストに目を通し、知らない単語/表現やことがらについては調べておくこと。
・復習：授業内で新しく学んだことについて振り返り、1年次に購入した『段階別ドリル』を使って、知識の定着をはかること。
・そのほか：適宜指示される課題に取り組むこと。
この授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『エレラボＢ１』ガルシア、濱本他、朝日出版、定価（税込）3,135円

【参考書】
『段階別　ドリル』、朝日出版

【成績評価の方法と基準】
期末試験50％、授業内での貢献度・課題50％を目安として総合的に評価する。
この授業は演習中心の授業であるため、出席は必須とする。
3回以上欠席した場合や5回以上遅刻した場合は、「不可」と評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This class is for the students who have finished SA Spain Program or have a similar level of Spanish proficiency. We aim to further improve our communication skills in Spanish. While reconfirming basic Spanish grammar, you will aim to be able to write concise sentences on familiar and personal topics and make easy to understand oral presentations.
The principal goal of this class is to achieve B1level in DELE.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語コミュニケーション中級A

2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。
すべての授業は対面形式で行われます。

【到達目標】
スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う１０個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の紹介 花見	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペイン語のよくある疑問	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペイン語ジェスチャー	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペイン語を話す国々	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	アンデスの言語	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	ケチュア語の紹介	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	アンデスのペルーの食べ物　（I）：クイ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	アンデスのペルーの食べ物　（II）：チューニュ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	ペルー料理	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	ペルーを代表するセビッチェのレシピ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	ペルーでよく食べらるデザートのレシピ：Arroz con leche y mazamorra morada	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	ペルーにおける子供の誕生日祝い	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	女性の15歳の誕生日のお祝い	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う１０個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
辞書 (電子辞書可)/Shogakukan DICCIONARIO ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】
1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又, 授業での態度や積極的な参加度など→ 60％
2. 期末のレポートと口頭試験に基づく点数　→　40％

【学生の意見等からの気づき】
対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】
In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.
Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.
Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.
Grading Criteria:
Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude, and active participation → 60%
Reports and oral exam at the end of the term → 40%
To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.
As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.
毎回、最初にクラスメート同士で10個のスペイン語の質問を練習することから始まります。その後、前回の復習を行い、新しいモデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習などを行います。

本授業には課題があり、期末試験として「日本の成人式」について
スペイン語でレポートを提出してもらいます。

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語コミュニケーション中級B

2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。

【到達目標】
スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化し、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回最初に仲間同士で１０個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習などを行う。
本授業には課題や小テストがあり。期末試験として「日本のクリスマスとお正月」についてスペイン語でレポートを提出してもらう。さらにその内容に関してのスペイン語での口頭試験もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スペイン語圏のの伝統的なダンス(I)	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペイン語圏の伝統的なダンス(II)	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペイン語圏の伝統的な音楽(I)楽器	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペイン語圏の伝統的な音楽(II)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペイン語圏の物語(I)マテ茶の起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペイン語圏の物語(II)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペイン語圏の映画の上映(I)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペイン語圏の映画の上映(II)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習 小テスト
9	スペイン語圏の伝統的なお祭り	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	ペルーアンデスのハサミ踊り。	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	ペルーアンデスのクリスマス踊り。	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	ペルーのクリスマス料理	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	ペルーのクリスマスとお正月	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う１０個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
辞書 (電子辞書可)/Shogakukan DICCIONARIO ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】
1.授業内で指された時の返事に基づく点数。小テスト、又, 授業での態度や積極的な参加度など → 60％

2.期末のレポートと口頭試験に基づく点数　→　40％

【学生の意見等からの気づき】
対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】
In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.
Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.
Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.
Grading Criteria:
Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude,midterm exam,and active participation → 60%
Reports and oral exam at the end of the term → 40%
To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.
As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.

すべての授業は対面形式で行われます。毎回、最初にクラスメート同士で10個のスペイン語の質問を練習することから始まります。その後、前回の復習を行い、新しいモデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習などを行います。
本授業には課題があり、期末試験として「日本のクリスマスとお正月」についてスペイン語でレポートを提出してもらいます。

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。春学期は詩を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】
(1) スペイン語圏の詩に関する基本的な理解を得る。
(2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
(3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スペイン語テクストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	ルベン・ダリーオとモデルニスモ	ルベン・ダリーオとその詩およびモデルニスモについて学ぶ。
3	「98年世代」の詩人たち	「98年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
4	「14年世代」から「27年世代」へ	「14年世代」と「27年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
5	スペイン内戦、抵抗、亡命	スペイン内戦期の詩について学ぶ。
6	フェデリーコ・ガルシア・ロルカ	フェデリーコ・ガルシア・ロルカとその詩について学ぶ。
7	フランコ体制下の詩	フランコ体制下の詩について学ぶ。
8	ポスト・フランコ期の詩	ポスト・フランコ期の詩について学ぶ。
9	パブロ・ネルーダ	パブロ・ネルーダとその詩について学ぶ。
10	ニカノール・パラ	ニカノール・パラとその詩について学ぶ。
11	レイナルド・アレーナスとキューバ革命	レイナルド・アレーナスとその詩およびキューバ革命について学ぶ。
12	ロケ・ダルトンと中米の動乱	ロケ・ダルトンとその詩および中米の動乱について学ぶ。
13	ホルヘ・ルイス・ボルヘスの詩論	ホルヘ・ルイス・ボルヘスとその詩論について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、各回で扱う予定のテクストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：100％。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
- この授業ではスペイン語テクストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（１年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前に担当教員へ相談を寄せていただきたい。
- 履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】
《Course outline》
This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.
《Learning Objectives》
Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
《Grading Criteria /Policy》
Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。秋学期は歌（歌詞）を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】
(1) スペイン語圏の歌に関する基本的な理解を得る。
(2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
(3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スペイン語テクストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	国歌と「国民的」歌謡曲	スペイン語圏の国歌と「国民的」とされる歌謡曲について学ぶ。
3	カンテ・フラメンコとその系譜	カンテ・フラメンコとその系譜について学ぶ。
4	「ラテン」音楽の諸相	ラテン音楽と総称される音楽ジャンルの多様性について学ぶ。
5	タンゴとタンゴ・オペリータ	タンゴとタンゴ・オペリータについて学ぶ。
6	ビオレータ・パラ	ビオレータ・パラとその歌について学ぶ。
7	ビクトル・ハラ	ビクトル・ハラとその歌について学ぶ。
8	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国の関係について楽曲とその歌詞から学ぶ。
9	ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ	映画『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』とその楽曲について学ぶ。
10	ヒスパニック社会とサルサ	米国のヒスパニック社会とサルサについて学ぶ。
11	ウィリー・コロン	ウィリー・コロンとその歌について学ぶ。
12	ルベン・ブラーデス	ルベン・ブラーデスとその歌について学ぶ。
13	カバー曲における翻訳と翻案	カバー曲における翻訳と翻案について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、各回で扱う予定のテクストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：100％。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
- この授業ではスペイン語テクストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（１年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前に担当教員へ相談を寄せていただきたい。
- 履修予定者は、秋学期の初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】
《Course outline》
This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.
《Learning Objectives》
Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
《Grading Criteria /Policy》
Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語講読 A

2017年度以降入学者

若林　大我

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**1/Fri.1
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】
初級・中級文法（学期終了までに、およそ接続法現在まで）の理解を深めながら、辞書を引きつつ短い読み物を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれた短い読み物を、語彙、文法、表現等に注目しながら読み解いていく。
課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	1課　文法復習	教科書第1課の文法復習（直説法現在形、serとestar、estarとhay、現在分詞など）
3	2課　文法復習	教科書第2課の文法復習（再帰動詞など）
4	2課　読解	教科書第2課の本文読解
5	3課　文法復習	教科書第3課の文法復習（直説法現在完了、直説法点過去など）
6	4課　文法復習	教科書第4課の文法復習（直説法線過去など）
7	4課　読解	教科書第4課の本文読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	5課　文法復習	教科書第5課の文法復習（直説法過去完了、受身表現など）
10	6課　文法復習	教科書第6課の文法復習（直説法未来、直説法過去未来など）
11	6課　読解	教科書第6課の本文読解
12	7課　文法復習	教科書第7課の文法復習（関係詞など）
13	8課　文法復習 8課　読解	教科書第8課の文法復習（接続法現在など） 教科書第8課の本文読解
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
二宮哲『一歩進んだスペイン語-中級スペイン語-』同学社、2016年、ISBN: 978-4-8102-0430-8

【参考書】
必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、中間テスト30％、期末テスト40％として総合的に評価する。
なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】
履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。
文法をしっかりと復習しながら読解を進めるので、既習文法の理解に自信が無い場合も心配しないでほしい。

【Outline (in English)】
In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Read short stories in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures and history
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process:
- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語講読 B

2017年度以降入学者

若林　大我

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**1/Fri.1
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】
初級・中級文法の理解を深めながら、スペイン語で書かれたある程度の長さの映画脚本を読解できるようになる。またこれを通じ、スペイン語圏の文化に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員による補足説明を踏まえながら、現代スペイン映画の巨匠ペドロ・アルモドバル（Pedro Almodóvar）監督の代表作の一つである『オール・アバウト・マイ・マザー』（原題: Todo sobre mi madre、1999年）のスペイン語脚本を、一学期間をかけて丁寧に読み解いていく。
問題の箇所が日本語の字幕ではどのように表現されているかを適宜確認しながら、翻訳という営みの奥深さにも触れていく。
現代劇なので崩れた言い回しや俗語等が多用されているが、それらを通じて生きた現代スペイン語に親しむ。
課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	シーン0～11	シーン0から11までの読解
3	シーン12～23	シーン12から23までの読解
4	シーン24～35	シーン24から35までの読解
5	シーン36～47	シーン36から47までの読解
6	シーン48～59	シーン48から59までの読解
7	シーン60～71	シーン60から71までの読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	シーン72～83	シーン72から83までの読解
10	シーン84～95	シーン84から95までの読解
11	シーン96～107	シーン96から107までの読解
12	シーン108～119	シーン108から109までの読解
13	シーン120～122	シーン120から最後までの読解
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回読解する箇所の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、中間テスト30％、期末テスト40％として総合的に評価する。
なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】
1学期間でテキスト全体を読み通すことを無理に目指さず、履修生の理解度を確認しつつ進める。

【その他の重要事項】
春学期開講の「スペイン語講読A」において学習した内容を踏まえて授業を進めることも多いため、同科目と合わせての履修を推奨する。

【Outline (in English)】
In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading a movie script written in Spanish.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Read long conversation texts in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process:
- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANd200LA（ドイツ語 / German language education 200）

ドイツ語コミュニケーションⅠ　2017年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**1単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】
ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。
課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 自己紹介 (簡単な表現・会話)	Einführung Zur Person (einfache Redemittel, Übungen)
②	自己紹介 (ほかの表現・練習)	Zur Person (weitere Redemittel, Übungen)
③	趣味 (簡単な表現・会話)	Hobbys (einfache Redemittel, Übungen)
④	趣味 (ほかの表現・練習)	Hobbys (weitere Redemittel, Übungen)
⑤	家族	Familie
⑥	食べ物・飲み物 (簡単な表現・会話)	Essen &Trinken (einfache Redemittel, Übungen)
⑦	食べ物・飲み物 (ほかの表現・練習)	Essen &Trinken (weitere Redemittel, Übungen)
⑧	総復習	Wiederholung (Wortschatz, Grammatik, Redemittel)
⑨	住居	Wohnung
⑩	時刻と日付 (簡単な表現・会話)	Uhrzeit und Datum (einfache Redemittel, Übungen)
⑪	時刻と日付 (ほかの表現・練習)	Uhrzeit und Datum (weitere Redemittel, Übungen)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	練習	Übungen zur Wiederholung
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文法・語彙などの復習　&　課題（ワークブック・プリント・インタネット上の練習問題）
本授業の準備・復習時間は、計１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】
テスト/レポート　５０％
平常点　５０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業に転換になる場合にはZoomで接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】
Course outline:
German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)
Learning Objectives:
The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.
Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA（ドイツ語 / German language education 200）

ドイツ語コミュニケーションⅡ　2017年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**1単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。
単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】
ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。
課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
②	春学期の復習	Wiederholung
③	旅行のためのドイツ語１ 道を尋ねる (簡単な表現)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - einfache Redemittel)
④	旅行のためのドイツ語２ 道を尋ねる (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - weitere Redemittel, Übungen)
⑤	旅行のためのドイツ語３ ホテルで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Hotel - einfache Redemittel)
⑥	旅行のためのドイツ語４ ホテルで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Hotel - weitere Redemittel, Übungen)
⑦	旅行のためのドイツ語５ レストランで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Restaurant - einfache Redemittel)
⑧	旅行のためのドイツ語６ レストランで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Restaurant - weitere Redemittel, Übungen)
⑨	旅行のためのドイツ語７ 駅にて (簡単な表現)	Reisedeutsch (Verkehr - einfache Redemittel)
⑩	旅行のためのドイツ語８ 駅にて (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Verkehr - weitere Redemittel, Übungen)
⑪	旅行のためのドイツ語９	Reisedeutsch (Reiseziele)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	復習	Übungen zur Wiederholung
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文法・語彙などの復習　&　課題（ワークブック・プリント・インタネット上の練習問題）
本授業の準備・復習時間は、計１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】
テスト/レポート　５０％
平常点　５０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業に転換になる場合にはZoomで接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】
Course outline:
German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)
Learning Objectives:
The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.
Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA（ドイツ語 / German language education 200）

ドイツ語表現法Ⅰ

2017年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**1単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで。
基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】
受講者は以下のことができるようになります。
１）発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
２）基本的な文法事項を習得する。
３）辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
４）自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べることができる。
５）自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
６）想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
７）想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともありますが、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。
作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Erste Schritte: Persönliche Angaben machen Sich selbst vorstellen	自己紹介を書くⅠ 辞書の使い方Ⅰ
2.	Länder, Städte, Zahlen	自分の出身を紹介する 人を紹介する
3.	Meine Stadt beschreiben	方位と場所
4.	Mein Alltag	日常 時間を表す
5.	Tagesablauf	助動詞
6.	Hobby und Freizeit	分離動詞
7.	Freizeitangebote in der Stadt	場所と時間を表す
8.	Lieblingsdinge beschreiben	好きな「もの」を紹介する 冠詞と代名詞
9.	作文作成　2	発表
10.	Essen und Trinken	食生活についてと好み
11.	Im Restaurant	レストランのメニューと注文
12.	Süßigkeiten in Deutschland und Japan	日本のお菓子について書く
13.	Vor den Ferien I	不規則動詞 話法の助動詞
14.	Vor den Ferien　II	休暇中の予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。予習はテキストを事前に読む、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】
初回授業で案内します。

【参考書】
『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明
白水社
ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】
授業中の課題に取り組む態度（５０％）
提出してもらうドイツ語の作文（５０％）
を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
和独辞典が必要です。電子辞書可。

【その他の重要事項】
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
In this course students will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They will also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.
Grading will be decided based on class participation (50%) and written homework (50%).

LANd200LA（ドイツ語 / German language education 200）

ドイツ語表現法Ⅱ

2017年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**1単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】
受講者は以下のことができるようになります。
1）発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
2）基本的な文法事項を習得する。
3）辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
4）自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べることができる。
5）自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
6）想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
7）想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともありますが、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。
作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業内または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Nach den Ferien	現在完了形
2.	Postkarte	Postkarte schreiben 手紙を書く
3.	Wohnen	前置詞
4.	Mein Traumhaus	住まいについて書く
5.	Wohnen in der Stadt oder auf dem Land？	理由を表す
6.	Jahreskalender Datum und Monate Feiertage	年間行事 招待状を書く
7.	Feste feiern	複文
8.	An der Universität	大学について書く
9.	Meine Universität 1	グループワーク： 大学紹介を書く
10.	Meine Universität 2	グループワーク発表
11.	Eine Reise planen	旅行計画
12.	Sehenswürdigkeiten vorstellen	観光名所の紹介文を書く
13.	Erlebnisse und Erfahrungen 1	過去形 私の人生
14.	Erlebnisse und Erfahrungen 2	プレゼンテーション発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。
予習は事前にテキストを読む、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】
初回授業で案内します。

【参考書】
『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明
白水社
ISBN ： 9784560064177

【成績評価の方法と基準】
授業中の課題に取り組む態度（50%）
提出してもらうドイツ語の作文（50%）
を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
和独辞典が必要。電子辞書可。

【その他の重要事項】
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
In this class we will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.
Grading will be decided based on class participation（50 %）and written homework（50 %）

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ドイツ語の世界ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**映画を通じてドイツ語圏の国々を知る**

Schmidt Ute

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**5/Tue.5
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】
◦ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
◦各時代の思想的・文化的背景を理解する。
◦ 映画の解釈方法を身につける。
◦ 異文化理解能力を高める。
◦テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
◦プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション	授業の概説 ドイツ語圏クイズ
2.	ドイツ語圏の世界１	地理,言語,文化～政治、経済まで
3.	ドイツ語圏の世界２	ドイツ語圏の映画史入門
4.	文学	ドイツ文学と言えばゲーテ？ 映画：ゲーテの恋 ～君に捧ぐ 「若きウェルテルの悩み」 Goethe!　(2010) ディスカッション
5.	音楽	クラシック音楽の世界 Amadeusからクララ・シューマンまで
6.	オーストリア	Sissiとミュージカル「エリザベート」 サウンド・オブ・ミュージック
7.	スイスと日本	映画：ハイジ　アルプスの物語 Heidi (2015) ハイジ in Japan
8.	映画鑑賞	作品未定
9.	戦争映画Ⅰ 第一次世界大戦	西部戦線異状なし(1930) 戦場のアリア (2005) ディスカッション
10.	ドイツと日本	ベートーヴェンの「第九」 プレゼンテーション 映画：バルトの楽園　(2006)
11.	映画の中のヒトラーⅠ	ヒトラーと女性 ドキュメンタリー映画　レニ Die Macht der Bilder: Leni Riefenstahl　1993
12.	映画の中のヒトラーⅡ	ヒトラー ～最期の12日間～ (2004)
13.	映画鑑賞	作品未定
14.	まとめ	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・文献を事前に読む。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）
・映画鑑賞
・自分担当のプレゼンテーションの準備とレジュメ作成
本授業の準備学習・復習時間は、計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストを配布

【参考書】
・森井 裕一 (著, 編)『ドイツの歴史を知るための50章』(エリア・スタディーズ151)
・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』
・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国　ドイツ』
・スイス文学研究会（編）『スイスを知るための60章』 (エリア・スタディーズ128)
・広瀬 佳一編著, 今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための57章【第2版】 (エリア・スタディーズ 19)

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーションとレジュメー： 50%
授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。
質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先にお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society.
The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read reference material etc.). Your study time will be about four hours for a class.
The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ドイツ語の世界ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**映画を通じてドイツ語圏の国々を知る**

Schmidt Ute

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**5/Tue.5
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】
◦ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
◦各時代の思想的・文化的背景を理解する。
◦ 映画の解釈方法を身につける。
◦ 異文化理解能力を高める。
◦テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
◦プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	戦後の東西ドイツ	サッカーを通してみる戦後ドイツ： 『ベルンの奇跡』(2003) 『僕たちは希望という名の列車に乗った』(2018)
2.	60年代の東西ドイツ	ベルリンの壁ができるまで 『トンネル』 Der Tunnel (2001)
3.	70年代の西ドイツ	極左のテロリズム 『バーダー・マインホフ/理想の果てに』 Der Baader Meinhof Komplex (2008)
4.	東ドイツ	東ドイツの秘密警察 (Stasi) 『善き人のためのソナタ』　Das Leben der Anderen (2006) 『グンダーマン　優しき裏切り者の歌』　Gundermann (2018) 『東ベルリンから来た女』(2012)
5.	ドイツ統一	ベルリンの壁崩壊 『グッバイ、レーニン!』 Good Bye Lenin (2003)プレゼンテーション ディスカッション
6.	芸術	『Pina/ピナ・バウシュ』 踊り続けるいのち
7.	青春	児童文学の映画化 映画： 『飛ぶ教室』『2003 『50年後のボクたちは』 Tschick (2016) プレゼンテーション ディスカッション
8.	ヒトラーについて笑っていいのか？	ヒトラーについて笑っていいのか？ 『帰ってきたヒトラー』 Er ist wieder da! (2015)プレゼンテーション ディスカッション
9.	ドイツ極右組織	ドイツ極右組織NSU 『女は二度決断する』 Aus dem Nichts (2017)
10.	ドイツ極右組織	プレゼンテーション ディスカッション 映画鑑賞
11.	ドイツ以外のドイツ語圏の映画	スイス映画・オーストリア映画と映画祭
12.	移民国ドイツ	難民問題
13.	移民国ドイツ	映画：初めてのおもてなし Willkommen bei Hartmanns (2016) プレゼンテーション ディスカッション
14.	まとめ	プレゼンテーション ディスカッション 映画鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・文献を事前に読む（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）
・映画鑑賞
本授業の準備学習・復習時間は、計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストを配布

【参考書】
・森井裕一(著,編集)『ドイツの歴史を知るための 50 章』(エリア・スタディーズ 151)
・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化 55 のキーワード』
・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国　ドイツ』
・スイス文学研究会（編）『スイスを知るための 60 章』 (エリア・スタディーズ 128)
・広瀬 佳一編著, 今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための 57 章【第 2 版】 (エリア・スタディーズ 19)

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーションとレジュメー： 50%
授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー： 50%

【学生の意見等からの気づき】
特にありません

【その他の重要事項】
ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません。
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。
質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先にお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society.

The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read material etc.). Your study time will be about four hours for a class.
The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ドイツの文化と社会ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川　敦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ドイツ」や「ドイツ語圏」と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか？
本授業ではドイツやドイツ語圏についてトピックをとりあげ、少し深く考えてみたいと思います。
ドイツ語の学習は前提としません。

【到達目標】
ドイツ語圏に関する様々なテーマを見ることで、社会や歴史について理解し、今後探求していく糸口を見つけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合っていただくこともあることもあるかと思います。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ドイツとドイツ語圏について。
第2回	ドイツ語の歴史と多様性	ドイツ語が成立した歴史や地域的な違いを見ます。英語の知識が役に立つかもしれません。
第3回	ビール	ビールの歴史と現状について。
第4回	ドイツの環境政策	ドイツの環境政策について。
第5回	ドイツの交通政策	トラムや電気自動車、アウトバーンなど交通政策について。
第6回	ドイツの鉄道	ドイツの鉄道の歴史と現在について。
第7回	自動車産業から見るドイツ経済	ドイツ経済について、自動車産業から。
第8回	ドイツの教育制度	マイスター制度など、日本とは異なる教育制度について。
第9回	東ドイツ	かつて存在した東ドイツ（ドイツ民主共和国）やベルリンの壁について。
第10回	ドイツの歴史教育	過去をどう扱うのかについて。
第11回	多様化するドイツ	移民の歴史と現在、統合政策について。
第12回	オーストリアとウィーン	カフェ文化など独自の文化を形成するオーストリアの首都ウィーンについて。
第13回	日本の中のドイツ、ドイツの中の日本	ハリボー、バウムクーヘン、アニメ文化等、日本にあるドイツ語やドイツ語圏の文化、ドイツ（語圏）にある日本の文化について。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
予習：次回のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしておいてください。
復習：ハンドアウトを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探してみてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】
授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加40％、期末レポート60％

【学生の意見等からの気づき】
受講生が意見を述べやすいようにつとめます。

【学生が準備すべき機器他】
授業資料（ハンドアウト）はLMSなどを通じて配布します。スマートフォン以外にPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期は独立して履修できます。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course introduces and explores topics about Germany and the German-speaking world.
Students do not need to learn German to take this course.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students will develop an understanding of the society, culture and history of the German-speaking world.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 40%
Final report 60%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ドイツの文化と社会ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川　敦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ドイツ語が／ドイツ語も使われる／使われた地域の歴史や文化について扱います。言語の話も出ますが、ドイツ語の知識は不要です。

【到達目標】
ドイツ語圏の文化や社会、人々の多様性について理解を深めます。日本社会への気づきにもつなげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合っていただくこともあることもあるかと思います。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業で扱うテーマについて概観します。
第2回	オーストリアの歴史	オーストリアの現代史を中心に扱います。ハプスブルク帝国に遡ることもあります。
第3回	オーストリアの現代史と現在	オーストリアの現代史と現在のオーストリアの社会や文化を扱います。
第4回	スイスの歴史	多言語国家であり永世中立国であるスイスがどのように成立したのかを見ます。
第5回	スイスの現代史と現在	スイスの現代史と現在のスイス社会を考えます。
第6回	ベルギーの歴史	ベルギーの歴史を扱います（ベルギーには小さなドイツ語共同体があります）。
第7回	ベルギーの現代史と現在	ベルギーの現代史を扱いながら、EUの中心地でありながら今日でも言語問題でゆれるベルギーの今を考えます。
第8回	ルクセンブルクの歴史	GDPが世界トップクラスである小国ルクセンブルクの歴史を扱います。
第9回	多様化するルクセンブルク	多言語社会・移民社会となった今日のルクセンブルクについて考えます。
第10回	アルザス・ロレーヌの歴史	ドイツなのかフランスなのか、帰属をめぐってゆれたフランス東部のアルザス地方・ロレーヌ地方の歴史について扱います。
第11回	アルザス・ロレーヌ（言語）	アルザス・ロレーヌについて、特に言語問題に焦点を当てます。
第12回	ドイツ騎士団と東プロイセン	かつて東に移住したドイツ系住民の歴史を扱います。
第13回	アメリカ合衆国のドイツ系住民	かつて、ドイツ語圏からは多くの人々がアメリカに移住しました。今日にも残る移民の歴史を扱います。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
予習：次回のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしたり、インターネット等で検索してください。
復習：ハンドアウトを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探してみてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】
授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加40％、期末レポート60％

【学生の意見等からの気づき】
講生が意見を述べやすいようにつとめます。

【学生が準備すべき機器他】
授業資料（ハンドアウト）はLMSなどを通じて配布します。スマートフォン以外にPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期は独立して履修できます。春学期に履修した人も履修しなかった人も積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course focuses on the history and culture of the regions where German is also used or where it was used.
【到達目標（Learning Objectives）】
In this course, students deepen their understanding of the diversity of cultures, societies and people in German-speaking areas.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 40%
Final report 60%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス語の世界ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

廣松　勲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**4/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏（フランコフォニー）」を知ることを主たる目的とします。そのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化（言語、芸術、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なるもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土にある「地域圏」を中心として、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

1）フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
2）フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
3）「フランス的なるもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

授業ではコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

提出されたコメントシートについて、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： 国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	①Île-de-France	・イル＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	②Bretagne	・ブルターニュ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	③Normandie	・ノルマンディー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	④Hauts-de-France	・オー＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	⑤Grand-Est	・グラン・テスト地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	⑥Pays de la Loire	・ペイ・ド・ラ・ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	⑦Centre-Val de Loire	・サントル＝ヴァル・ド・ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	⑧Bourgogne-Franche Conté	・ブルゴーニュ＝フランシュ・コンテ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	⑨Nouvelle-Aquitaine	・ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	⑩Auvergne-Rhône-Alpes	・オーヴェルニュ＝ローヌ・アルプ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	⑪Occitanie	・オクシタニー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	⑫Provence-Alpes-Côte d'Azur (PACA)	・プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール地域圏（PACA）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	⑬Corse まとめ	・コルス地方公共団体に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1）各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
2）映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができるわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
3）期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
4）期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。
・本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書は、特になし
・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

Ⅰ．以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
1）剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房，2018年．本体2600円＋税
2）ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房，2018年．本体2800円＋税
3）ジャン＝ブノワ・ナドー，ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店，2008年．本体2400円＋税
4）鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会，2012年．本体3400円＋税
Ⅱ．以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみて欲しい。
5）Fabienne Guillemin著『Tour de France（フランス，地方を巡る旅）』駿河台出版社，2017年．本体1900円＋税

６）小松祐子，Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社，2019年．本体2300円＋税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
　①平常点（コメントシートなど）：30％
　②期末レポート：70％

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%, term-end report: 70%.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス語の世界ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

廣松　勲

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**4/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏（フランコフォニー）」を知ることを主たる目的とします。そのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化（言語、芸術、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なるもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

１）フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
２）フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
３）「フランス的なるもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：フランス共和国外にある地域圏、フランコフォニーの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある県・地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	カリブ海域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ海域の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域研に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	北米大陸のフランス語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国におけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	北アフリカのフランス語圏① Algérie	・マグレブ中央部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	北アフリカのフランス語圏② Maroc et Tunisie	・マグレブ西部および東部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフランス語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	サハラ以南のフランス語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領およびベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	サハラ以南のフランス語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧ベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	ヨーロッパのフランス語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフランス語圏② Suisse まとめ	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１）各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
２）映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができるわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
３）期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
４）期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書は、特になし
・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

Ｉ．以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
１）剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房，2018年．本体2600円＋税
２）ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房，2018年．本体2800円＋税
３）ジャン＝ブノワ・ナドー，ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店，2008年．本体2400円＋税
４）鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会，2012年．本体3400円＋税

Ⅱ．以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみて欲しい。
５）Fabienne Guillemin著『Tour de France（フランス，地方を巡る旅）』駿河台出版社，2017年．本体1900円＋税
６）小松祐子，Gilles Delmaire著『Destination francophoneie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社，2019年．本体2300円＋税

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
　①平常点（コメントシート等）：30％
　②期末レポート：70％

【学生の意見等からの気づき】
・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】
・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%, term-end report: 70%.

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語コミュニケーション(初級) I

2017年度以降入学者

ニコラ　ガイヤール

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**1単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】
この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアーになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Se présenter	自己紹介
2	Présenter quelqu’un	第三者の紹介
3	Parler des choses que l’on possède ; parler des animaux domestiques	持っている物について話す。ペットについて話す。
4	「J’adore ça ! 」; les petits plaisirs de la vie	aimer動詞を使い、好き嫌いについて話す。
5	「Je pense que les Français sont ... 」 Les stéréotypes sur les Français	フランス人のステレオタイプ
6	「Vous avez des frères et sœurs ? 」	兄弟がいますか。家族について話す
7	Que faites-vous le week-end ? Verbes aller et faire.	週末の過ごし方(ビデオ）
8	À la boulangerie	パン屋で（ビデオ）
9	「Je me lève à 7 heures.」	日常生活を話す
10	Décrire quelqu’un : apparence physique et vêtements	人を描写する。外見、服装
11	Un café français	フランスのカフェ（ビデオ）
12	Présentation de la France	フランスの簡単な紹介（ビデオ）
13	「Où voudriez-vous partir en vacances ?」	「バカンスでどこに行きたいですか。」夏休みしたいことを言う。
14	révisions	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不要です。

【参考書】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％(授業中の発言50%及び宿題の提出50％)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
フランス人の生活の話をもっとします。

【Outline (in English)】
This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- In-class contribution and participation: 50%
- Homework: 50%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語コミュニケーション(初級) Ⅱ

2017年度以降入学者

ニコラ　ガイヤール

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**1単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】
この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアーになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Qu’est-ce que vous avez fait pendant les vacances ?	ヴァカンスの時したことを言う。（ビデオ）
2	Chez le boucher	肉屋で（ビデオ）
3	Parler de son petit boulot	バイトについて話す（ビデオ）
4	Protester	クレームを言う（音声）
5	Parler de sa chambre	自分の部屋について話す。（ビデオ）
6	Acheter des vêtements	服を買う会話（ビデオ）
7	C’est comment chez vous ?	自分の住んでいる家について話す（ビデオ）
8	Parler de son quartier	自分の住んでいる町を話す。（ビデオ）
9	「J’ai déjà fait de la plongée.」	スキューバーダイビングをやったことある」経験・したことを話す
10	Présentation de Paris	パリの紹介のビデオ
11	Parler de sa ville	自分の住んでいる市町村について話す。（ビデオ）
12	Noël en France	フランス人のクリスマスの過ごし方
13	Parler de ses bonnes résolutions	新年の抱負を言う
14	Révision	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不要です。

【参考書】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業中の発言50%や宿題の提出50％)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
フランス人の生活をもっと話します。

【Outline (in English)】
This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- In class contribution and participation: 50%
- Homework: 50%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

時事フランス語Ⅰ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**1単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「時事フランス語Ⅰ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（TV5Monde や Radio France Internationale）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、１年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください　https://youtube.com/shorts/0NmZ4iyyvSQ?feature=shared

【到達目標】
リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のＡ～Ｄのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。
・カテゴリーＡ（大学で初めてフランス語を学び始めた１年生や、第３外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＢ（大学入学後フランス語を学び始め、１年以上が経過した２年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１、「実用フランス語技能検定試験」４級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べることができる
・カテゴリーＣ（フランス語を２年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ２～Ｂ１、「実用フランス語技能検定試験」３級～準２級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＤ（日本語が第１言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した２つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを１つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。この授業は基本的に対面ですが、体調不良等を理由とするリアルタイム・オンラインでの参加に積極的に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	世界を知るためのもう１つの視点	パリ18区に住む小学３年（CE2）生たちのなぞなぞから見える世界
Séance 2	現代フランスの生活風景	結婚のプロポーズ（同性婚）やスクワット（空き住居の不法占拠）など
Séance 3	フランス移住の第一歩は共和主義の理解から	国歌ラ・マルセイエーズが歌えるのは、フランスではポイント高いです。
Séance 4	グローバル化（mondialisation）に対するフランス的見方 = ものづくりの衰退	フランスの伝統的な産品を知っているアジアからの留学生がいたら、フランスの人は喜ぶでしょう。
Séance 5	グアドループ：中南米のカリブ海に浮かぶフランスの海外県	クレオール語に代表される文化の混淆で有名。1980年代には「ワールド・ミュージック」としてグアドループ発信のズークが流行
Séance 6	デモやストライキ	ストライキになると色々不便だと怒る人もいる一方、ストライキは労働者の重要な権利とみなされてもいます。
Séance 7	フランス語で炎暑は canicule といいます	毎夏、山火事や40度を超える高温が南ヨーロッパを中心に伝えられるようになりました。
Séance 8	カンヌ映画祭	この季節に毎年開かれる有名文化イベント。娯楽作よりも芸術性の高い作品が受賞する傾向があり、日本人の活躍が目立ちます。
Séance 9	ラップとユーチューバー	さまざまな国や地域の出身者が、フランス語ラップのYouTube動画を制作
Séance 10	男女平等の理想と現実	女性の就業率が比較的高いフランスだが、男女の賃金格差など課題も残る。女性の権利への関心は高い。
Séance 11	ツール・ド・フランス	この季節に毎年開かれる有名スポーツイベント。７月の３週間、フランスや隣接国の路上を自転車レースが駆け抜ける。
Séance 12	格差社会アメリカの批判	大企業の経営者たちとその従業員の給与格差が大きすぎるというのも、フランス語圏のメディアではありがちな話題
Séance 13	環境問題の語彙（ごい）・表現①	絶滅危惧種を守ることをめぐる外交。「フカヒレ」や「象牙」が登場します。

Séance 14	環境問題の語彙（ごい）・表現②	コンゴ民主共和国（RDC）はフランス語圏ニュースではよく登場する国です。内戦などの要因で安全を脅かされる国立公園職員たちの話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「時事フランス語Ⅰ」のような科目では、１回の授業につき、１時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。
・「毎回授業内容表 Tableau de bord /Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。
・（ア）音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、１単語→１文→複数の文、のように広げていくことや、（イ）番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。
・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください　https://x.gd/IQfRj

【テキスト（教科書）】
1. Radio France Internationale - RFI Savoirs https://savoirs.rfi.fr/fr
2. TV5Monde - Apprendre le français https://apprendre.tv5monde.com/fr
※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】
仏和辞典が必要です。持っていない人は、法政大学図書館オンラインデータベース上で『ポケプロ仏和』『ロベール仏和』が利用できます（自宅など学外からもアクセス可）。

【成績評価の方法と基準】
１．授業への毎週の参加（50%）※この科目「時事フランス語Ⅰ」は対面に分類される授業であるため、原則として教室での出席が求められますが、学期14回の授業のうち１人あたり合計７回まで、Zoomでのリアルタイム・オンライン授業の形式による参加を認めています（オンライン参加を希望する授業回ごとに、事前にメールで申し出ること）。
２．授業への貢献の量と質、到達目標の達成に向けた努力（50%）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーA、B、C、Dの３つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓に示しています。
３．実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFやTCFを受検したか、また合格したか（100%の枠外で5～20%程度の加点をします）
※期末試験、期末レポートはありません。
—-
・カテゴリAの方にお願いしたい方向性：フランス語が初歩の段階なのは問題ありません。語学面で授業内容に喰らいつこうという努力の跡をお示しください。
・カテゴリBの方にお願いしたい方向性：ニュースの内容理解の面を中心とした、質問や意見の表明など、授業への参加の姿勢をお示しください。
・カテゴリCの方にお願いしたい方向性：聞きやすい発音や構文の理解、ある程度多くの語彙をもっていることを何らかの形でお示しください。
・カテゴリDの方にお願いしたい方向性：ご自身の第１言語（日本語ではない）と、日本語、フランス語の３つの言語や、それらの言語から得られる時事問題に関する知識や情報をお示し下さい。
—-
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI)を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅰ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。
・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです　https://x.gd/ZvduG

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやタブレット、ノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイスメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。« Commencer » と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.
[Goal]
The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.
* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyû.
** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.
[Method(s)]
In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.
The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
[References]
1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)

2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)
Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL https://netsys.hosei.ac.jp/
[Grading criteria]
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" = 50%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 50%
[Equipment student needs to prepare]
A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.
[Others]
1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1 Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**1単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「時事フランス語Ⅱ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（TV5Monde や Radio France Internationale）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、１年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください　https://youtube.com/shorts/RQtay4cmhW8?feature=shared

【到達目標】
リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のＡ～Ｄのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。
・カテゴリーＡ（大学で初めてフランス語を学び始めた１年生や、第３外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＢ（大学入学後フランス語を学び始め、１年以上が経過した２年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１、「実用フランス語技能検定試験」４級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べることができる
・カテゴリーＣ（フランス語を２年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ２～Ｂ１、「実用フランス語技能検定試験」３級～準２級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＤ（日本語が第１言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した２つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを１つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。この授業は基本的に対面ですが、体調不良等を理由とするリアルタイム・オンラインでの参加に積極的に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	多様性と出会うためのもう１つの入り口	フレキシタリアン・ダイエットとフランスの駄菓子（食文化から近づいてみる）
Séance 2	気が早いですがクリスマスの話題	宗教を信じる・信じない、家族のあり方、消費社会について考えます。
Séance 3	移民の気持ちを（教員の補助付きで）疑似体験してみる。	移民を念頭においたフランス語検定試験の例題に取り組む。
Séance 4	職業と平等	職業名の女性形を認めさせるというフェミニズムのかたち
Séance 5	デパートの歴史	19世紀のパリの文化的影響力は大きく、鉄筋とガラスで作られたデパートは最先端の建築やファッションの舞台だった
Séance 6	フランスの「サラメシ」	フランスの会社員たちは昼食に何をどんな風に食べているのか？
Séance 7	モナ・リザを一言でたとえるなら？	ポルトレ・シノワについて学びます。
Séance 8	ある日のニュースのヘッドライン	年金問題やローマ教皇が登場
Séance 9	少子化問題	2010年を越えたあたりから出生率が低下傾向のフランス。その原因は？
Séance 10	コートジボワールから見た世界	起業家の女性が訪れたいと夢見る国は？
Séance 11	ブルキナファソから見た世界	外からの支援ではなく、地元に根差した住宅の改善とは？
Séance 12	アフリカやアジアからヨーロッパを目指す多くの避難民を渡航させる業者たち	どんな国にでも行けるパスポートは、あなたを含めた世界の一握りの人しかもっていない。
Séance 13	ボーヴォワール	« On ne naît pas femme, on le devient. » という文を知っておきましょう。
Séance 14	エメ・セゼール	ネグリチュードとは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「時事フランス語Ⅱ」のような科目では、１回の授業につき、１時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。
・「毎回授業内容表 Tableau de bord /Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。
・（ア）音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、１単語→１文→複数の文、のように広げていくことや、（イ）番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。
・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください　https://x.gd/VHfLE

【テキスト（教科書）】
1. Radio France Internationale - RFI Savoirs https://savoirs.rfi.fr/fr
2. TV5Monde - Apprendre le français https://apprendre.tv5monde.com/fr
※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】
仏和辞典が必要です。持っていない人は、法政大学図書館オンラインデータベース上で『ポケプロ仏和』『ロベール仏和』が利用できます（自宅など学外からもアクセス可）。

【成績評価の方法と基準】
１．授業への毎週の参加（50%）※この科目「時事フランス語Ⅰ」は対面に分類される授業であるため、原則として教室での出席が求められますが、学期14回の授業のうち１人あたり合計７回まで、Zoomでのリアルタイム・オンライン授業の形式による参加を認めています（オンライン参加を希望する授業回ごとに、事前にメールで申し出ること）。
２．授業への貢献の量と質、到達目標の達成に向けた努力（50%）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーA、B、C、Dの３つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓に示しています。
３．実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFやTCFを受検したか、また合格したか（100%の枠外で5～20%程度の加点をします）
※期末試験、期末レポートはありません。
—-
・カテゴリAの方にお願いしたい方向性：フランス語が初歩の段階なのは問題ありません。語学面で授業内容に喰らいつこうという努力の跡をお示しください。
・カテゴリBの方にお願いしたい方向性：ニュースの内容理解の面を中心とした、質問や意見の表明など、授業への参加の姿勢をお示しください。
・カテゴリCの方にお願いしたい方向性：聞きやすい発音や構文の理解、ある程度多くの語彙をもっていることを何らかの形でお示しください。
・カテゴリDの方にお願いしたい方向性：ご自身の第１言語（日本語ではない）と、日本語、フランス語の３つの言語や、それらの言語から得られる時事問題に関する知識や情報をお示し下さい。
—-
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI)を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅱ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。
・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです　https://x.gd/0NtiE

【学生が準備すべき機器他】
音声ファイルやストリーミング動画をWifiのある環境で視聴したり、学習支援システム-HoppiiやGoogle Classroomを閲覧するために、タブレットやノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイスメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。« Commencer » と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.
[Goal]
The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.
* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyû.
** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.
[Method(s)]
In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.
The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
[References]
1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)
Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL https://netsys.hosei.ac.jp/
[Grading criteria]
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" = 50%

2. In-class activity participation and various contributions to the class = 50%
[Equipment student needs to prepare]
A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.
[Others]
1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1 Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
2) The above schedule is still subject to change.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランスの文化と社会ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**フランスの映画**

鈴木　正道

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これらフランス社会の様々な面について考えます。
フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】
フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。
「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」、「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活で必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
誰でもが知っている大ヒット作、今では古典となったフランス映画の代表的作品、映画の歴史を創った作品、知る人ぞ知る映画などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。
皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『アメリ』1 2001年の大ヒット作 パリという空間： モンマルトルからあちこちへ	空想に駆られる主人公： 他人の幸せのために
2	『アメリ』2 なぜヒットしたか	空想から現実へ モンマルトルは理想郷？
3	『アメリ』3 オードリー・トトゥとマティュー・カソヴィッツ	刑事とシャネル／監督と俳優
4	『太陽がいっぱい』1 名優アラン・ドロン主演のフランス・イタリア合作映画	このタイトルはどういう意味か。誤訳かわざとか。外国映画の邦題について。
5	『太陽がいっぱい』2 格差と犯罪	金持ちの傲慢青年と貧しき悪の天才青年。
6	『太陽がいっぱい』3 犯罪は「太陽のせい」？ 映画音楽	地中海の熱い太陽と哀愁の音楽。映画を知らずとも音楽は聴いたことがある。
7	映画の始まり	世界初の映画上映：リュミエール兄弟。 初期の映画：『月世界探検旅行』『ファントマス』
8	ヌーヴェル・ヴァーグ 『勝手にしやがれ』1 ゴダールの代表作： 原題は「息切れ」	映画の「新しい波」 「外国映画の邦題について」その２
9	『勝手にしやがれ』2 おかしなカップル： ジャン＝ポール・ベルモンドとジーン・セバーグ	これは犯罪映画か？
10	『勝手にしやがれ』3 モンパルナス	右岸のモンマルトルと左岸のモンパルナス シャンソンとジャズ
11	ヌーヴェル・ヴァーグその２： トリュフォー	アントワーヌ・ドゥワネルのシリーズ：成長する主人公を成長する同じ俳優が演じる
12	『女優マルキーズ』1 旅役者	ソフィー・マルソー演じる17世紀の実在の女優はアクロバットもこなす旅役者
13	『女優マルキーズ』2 ルイ14世の時代	太陽王の古典主義時代： モリエールとジャン・ラシーヌ；宮廷の豪華絢爛と場末の猥雑さ
14	『女優マルキーズ』3 舞台に死す	謎多き女優の生涯 ソフィー・マルソーとベルナール・ジロドー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。
1：モンマルトルについて調べる。
2：アメリの行く様々な地域について調べる。
3：出演者の他の作品について調べる。
4：フランス人にとっての地中海はどのようなものかを考える。
5：「完全犯罪」は可能かを考える。
6：フランス人および他の国の人々にとってアラン・ドロンとはどのような俳優かを考える。
7：創世期の映画について調べる。
8：外国映画の邦題について考える。
9：『勝手にしやがれ』のどこが新しいのか考える。
10：モンパルナスとモンマルトルの共通点と違いについて調べる。
11：トリュフォーやその他のヌーヴェル・ヴァーグの監督について調べる。
12：17世紀の俳優について調べる。
13：17世紀の古典主義作家について調べる。
14：出演者たちの他の作品について調べる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】
『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書0179
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書1603.
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164
『悪文の構造』千早耿一郎　ちくま学芸文庫　C0180
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】
This course deals with various aspects of lives in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films.
The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in the French society.
The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to make some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.
The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).
All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランスの文化と社会ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**フランスの映画**

鈴木　正道

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に続いて、この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら社会の様々な面について考えます。
フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】
フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。
「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活で必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
21世紀に入って大ヒットしたいかにもフランスらしい？ 映画、アメリカのミュージカルのアンチテーゼのようなミュージカル映画、そして戦時中に創られた不朽の名作、さらに演劇の人気ナンバーワンのヒーローの映画化作品などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。
皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、『最強のふたり』１：2011年のヒット作	「ふたり」とはどんな人たちか？
2	『最強のふたり』２：格差社会と移民	パリの郊外とは？富裕層の多い区域は？
3	『最強のふたり』３：北の海岸での出会い	「介護者」と「パートナー」：助ける人とお膳立てする人
4	『シェルブールの雨傘』1 フランスのミュージカル；原題そのままの邦題は何を意味しているのか	誰もが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽；1960年代のフランスの地方都市：やはり北の港町
5	『シェルブールの雨傘』2 フランスにとっての1960年代はじめ	アルジェリア戦争：様々な分断
6	『シェルブールの雨傘』3 *Westside Story*の向こうを張った？	「曖昧な」結末：雪のクリスマスでの再会と別れ
7	『天井桟敷の人々』1 1945年の大作 19世紀のパリの下町という空間	伝説的名優勢ぞろい「犯罪大通り」
8	『天井桟敷の人々』2 庶民にとっての劇場	「言葉」の俳優とパントマイム役者
9	『天井桟敷の人々』3 カーニバルという空間	またしても「曖昧な」結末：追いかけても追いつけない悪夢
10	『おかしなおかしな訪問者』1 中世からのタイムスリップ。ジャン・レノとクリスチャン・クラヴィエ共演	フランスのお笑い映画：フランス北部の中世と現代。名優たちの一人二役が見所
11	『おかしなおかしな訪問者』2 めでたしめでたしの結末？	お笑い映画の定番的な演出と筋書。続編を予想させる、終わったようで終わらない結末？
12	『シラノ・ド・ベルジュラック』１：17世紀の実在の人物をモデルにした19世紀末の芝居	フランスのヒーロー人気ナンバーワン：剣にすぐれて弁もたつが、コンプレックスが恋を妨げる
13	『シラノ・ド・ベルジュラック』2：17世紀の宮廷と社会状況	過剰な繊細華麗（préciosité）と過酷な戦争（30年戦争とアラスの包囲）
14	『シラノ・ド・ベルジュラック』3：普遍的な価値	「型破り」と自己犠牲、「身を引く」美学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。
1：フランス映画に関する一般的なイメージについてまとめる。
2：フランスの社会階層について調べる。
3：なぜ『最強のふたり』がヒットしたのか考える。
4：「ミュージカル」とは何であるかまとめる。
5：アルジェリア戦争について調べる。
6：『シェルブールの雨傘』の結末を他の作品の結末と比べて、その意味合いについて考える。
7：『天井桟敷の人々』が公開された1945年ごろのフランスの状況について調べる。
8-9：19世紀前半のパリについて調べる。
10：『おかしな訪問者』で紹介されるフランスの中世と現代の生活について調べる。
11：主人公を演じた俳優たちの経歴について調べる。
12：『シラノ・ド・ベルジュラック』の主人公のモデルとなった17世紀の人物について調べる。
13：17世紀当時のフランスの宮廷や社会の状況について調べる。
14：なぜシラノという人物が時代と国を超えて人々を惹き付けるのかを考える。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】
『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164
『悪文の構造』千早耿一郎　ちくま学芸文庫　C0180
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A
その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】
This course deals with various aspects of lives in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films.
The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in the French society.
The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to make some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.
The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).
All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス生活文化論ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**「美食の国　フランス」のルーツをたどる(近代フランスの食文化とその社会的要因)**

梶谷　彩子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**4/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、19世紀～20世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】
フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述や発表を通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。映像資料も見る予定です。
原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。
毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。質問をきっかけに時に食文化の話を超えて、フランスの他の文化や歴史に触れることもあります。
また、受講する皆さんのフランスの食や文化に関する興味関心を共有していただく発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していなければ広く様々なテーマを歓迎します。
最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第2回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？ ／宮廷料理について
第3回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ／18世紀までの価値観と、19世紀からの価値観
第4回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場／給仕の変化
第5回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第6回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基準の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー(前編)
第7回	「美食」は誰のものか：情報が生み出す「美食」	「おいしい」の評価の変遷：ガストロノミー(後編)
第8回	資料で見るフランスの美食	フランスの美食についての映像資料を視聴します。コメントカードを通して、感想や考察をまとめてください。
第9回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第10回	文化としての「郷土料理」	フランスにおける郷土料理の位置／郷土料理＝文化的遺産という視点の原点
第11回	報告会①	フランスの食や文化にまつわる興味関心を発表しあいましょう。授業とは異なる視点に触れることが目的です。
第12回	報告会②	報告会は、履修者の人数により２回から３回に渡る可能性があります。
第13回	報告会③(予備日) 郷土料理でめぐるフランス 映像資料視聴	フランスの代表的な地方の位置の確認・その土地に根差した郷土料理を網羅的に見ていきます。ほか、一部となりますが第8回とは異なる映像資料を視聴します。
第14回	まとめ・レポート作成の手引き	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性／レポートの書き方案内 (映像資料視聴予備日)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。下記参考書のうち、①を読み切ること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料配布を行ないます。資料はすべて学習支援システムを通じての配信となります。授業中に使いますので、各自手元に用意の上出席してください。

【参考書】
①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。
②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。
③北山晴一『世界の食文化⑯　フランス』、農村漁村文化協会、2008年。

【成績評価の方法と基準】
平常点(コメントカードの提出・発表を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価。
特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】
テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していきたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】
資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット端末等を持参すること。原則として教室内での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】
履修申請者が41人を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.
Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process:
in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス生活文化論ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**フランスの食文化史(古代から現代まで)**

梶谷　彩子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**4/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】
フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。
原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。
毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。
最終回の前には、簡単な発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していなければ広く様々なテーマを歓迎します。
最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第2回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第3回	中世とルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第4回	17世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第5回	18世紀	宮廷料理の最盛期／「豪勢な料理」とは？
第6回	フランス革命～19世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現
第7回	19世紀後半～19世紀末	19世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第8回	20世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」
第9回	20世紀半ば	全国の美食を求めて―ガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第10回	20世紀半ば～20世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌ―健康と美食
第11回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第12回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第13回	発表会①	レポートの構想、授業を通しての自分なりのまとめなど、いくつかのトピックの中から1つ選び、発表しましょう。
第14回	発表会② まとめ・レポート作成の手引き	発表会の予備日です。 主に「美食の国　フランス」のイメージはいかにして形成されたか、授業全体のまとめを行ないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考書のうち②を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に学習支援システムを通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してきてください。

【参考書】
①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。
②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。
③北山晴一『世界の食文化⑯　フランス』、農村漁村文化協会、2008年。

【成績評価の方法と基準】
平常点(コメントカード提出・発表参加を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価
特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】
テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していきたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】
資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット等を持参すること。原則として教室での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】
履修申請者が41名を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.
Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process:
in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語４Ⅰ

2017年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**1単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既習の初級文法を全面的に復習し、加えて未習の文法事項を学習する。格変化をただ頭で分かっているだけでは、それを実際に（読み書き・会話の際に）運用するには不十分である。そのため、名詞・形容詞・所有代名詞の単数形および複数形の（まずは）前置格・対格・生格を自由に作り出し、即座に見分けることができるよう反復練習を行う（例えば、новый журнал, моя машина, русское словоの単数形および複数形の前置格・対格・生格を反射的に言えるようにする）。また、この練習を踏まえて、特に読む力、すなわち生きた現実で出会われる標準的なロシア語の文章（書籍・新聞・雑誌・ネット上のテキスト等）を読解する能力を養う。

【到達目標】
学習した文法事項を的確に運用することによって、やや複雑な構造のロシア語の文章を理解し、正しい日本語に訳せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】
文法事項を解説し練習問題で理解を定着させ、またテキストを読解し翻訳する、実習型の授業となります
学習支援システムで課題を提示したり、授業時間内に小テストを実施したりします。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	動詞の現在形、名詞の複数形、形容詞の性・数変化	動詞の現在形（第1変化）、男性名詞・女性名詞・中性名詞の規則的な複数形と不規則的な複数形、形容詞の性・数変化の６パターン（硬変化A・硬変化B・軟変化／混合変化A・混合変化B・混合変化C）
2	名詞の前置格	名詞の前置格のパターン（単数形・複数形）、名詞の前置格の用法
3	形容詞・所有代名詞の前置格	形容詞・所有代名詞の前置格のパターン（単数形・複数形）
4	名詞・形容詞・所有代名詞の前置格	様々な形容詞・所有代名詞の前置格と様々な名詞の前置格の結合
5	動詞の現在形、名詞の対格	動詞の現在形（第2変化）、名詞の対格のパターン（単数形・複数形）、名詞の対格の用法
6	形容詞・所有代名詞の対格	形容詞・所有代名詞の対格のパターン（単数形・複数形）
7	名詞・形容詞・所有代名詞の対格	様々な形容詞・所有代名詞の対格と様々な名詞の対格の結合
8	名詞の生格	名詞の生格のパターン（単数形・複数形）、名詞の生格の用法
9	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格のパターン（単数形・複数形）
10	名詞・形容詞・所有代名詞の生格	様々な形容詞・所有代名詞の生格と様々な名詞の生格の結合
11	ｃя動詞、動詞の過去形、形容詞の短語尾形	ｃя動詞の現在形、動詞（ｃя動詞も含む）の過去形、形容詞の短語尾形の作り方と用法
12	形容詞と名詞の格変化	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
13	所有代名詞と名詞の格変化	所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
14	期末試験	文法問題、ロシア語テキストの日本語訳、それらの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、1回につき2時間を標準とする。
練習問題については、授業前に解答を用意し、授業中に答えなければならない、また、授業後に復習し、小テストに備えなければならない。
テキスト読解に関しては、自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に理解し、日本語訳（翻訳）を各自で提出しなければならない。

【テキスト（教科書）】
『ロシア語初級』法政大学ロシア語教員編（2020/2021年度版、2018/2019年度版、両者の内容は同じなので、どちらでも可）。
また、格変化の反復練習用等、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、文法の知識と読解力を問う期末テスト80％。
平常点は課題の提出、小テストの評価。

【学生の意見等からの気づき】
音声教材をより一層利用するよう努める。
日本語訳（翻訳）の作成を課する。
授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】
Elementary Russian 4 (Extra lesson) (Part1).
The aim of this course is to review, in a short term, the elementary grammar totally, and to learn the unlearned grammar (especially, repetitive practice to be able to freely produce the prepositional, accusative, and genitive cases of singular and plural nouns, adjectives, and possessive pronouns) and also to develop further ability to read standard Russian texts.
At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese slightly complicated Russian texts.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.
Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語４Ⅱ

2017年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**1単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既習の初級文法の復習を継続し、加えて未習の文法事項を学習する。「ロシア語４Ⅰ」の続きとして、名詞・形容詞・所有代名詞の単数形および複数形の与格・造格を作り出し、見分けることができるよう反復練習を行う（例えば、новый журнал, моя машина, русское словоの単数形および複数形の与格・造格を反射的に言えるようにする）
この練習を踏まえ、生きた現実の、標準的なレヴェルのロシア語の文章を読解する能力をさらに養う。

【到達目標】
学習した文法事項を的確に運用することによって、複雑な構造のロシア語の文章を理解し、正しい日本語に訳せる。
書籍、新聞や雑誌、ネット上の文章から、最低限の情報を得ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】
文法事項を解説し練習問題で定着させ、またテキストを読解し翻訳する、実習型の授業になります。
学習支援システムで課題を提示したり、授業時間内に小テストを実施したりします。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	形容詞と名詞の格変化（復習）	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
2	所有代名詞と名詞の格変化（復習）	所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
3	名詞の与格	名詞の与格のパターン（単数形・複数形）、名詞の与格の用法
4	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格のパターン（単数形・複数形）
5	名詞・形容詞・所有代名詞の与格	様々な形容詞・所有代名詞の与格と様々な名詞の与格の結合
6	動詞の未来形、無人称文	動詞の合成未来形の作り方、無人称文の特徴、無人称文の現在形・過去形・未来形
7	動詞の命令形、否定の表現	動詞の命令形の3パターン、否定生格、「何も～ない」
8	名詞の造格	名詞の造格のパターン（単数形・複数形）、名詞の造格の用法
9	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格のパターン（単数形・複数形）
10	名詞・形容詞・所有代名詞の造格	様々な形容詞・所有代名詞の造格と様々な名詞の造格の結合
11	形容詞と名詞の格変化	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）与格・造格への変化
12	所有代名詞と名詞の変化	所有代名詞と名詞（単数形・複数形）の（単数形・複数形）与格・造格への変化
13	形容詞・所有代名詞と名詞の格変化	形容詞・所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格・与格・造格への変化
14	期末試験	文法問題、ロシア語テキストの日本語訳、それらの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は2時間を標準とする。
練習問題については、授業前に解答を用意し、授業中に答えなければならない、また、授業後に復習し、小テストに備えなければならない。
テキスト読解に関しては、自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に理解し、日本語訳（翻訳）を各自で提出しなければならない。

【テキスト（教科書）】
『ロシア語初級』法政大学ロシア語教員編（2020/2021年度版、2018/2019年度版、両者の内容は同じなので、どちらでも可）。
また、格変化の反復練習用等、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』白水社 。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、文法の知識と読解力を問う期末テスト80％。
平常点は課題の提出、小テストの評価。

【学生の意見等からの気づき】
音声教材をより一層利用するよう努める。
日本語訳（翻訳）の作成を課する。
授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】
Elementary Russian 4 (Extra lesson) (Part2).
The aim of this course is to review the elementary grammar totally, and to learn the unlearned grammar (especially, repetitive practice to be able to freely produce the dative and instrumental cases of singular and plural nouns, adjectives, and possessive pronouns) and also to develop further ability to read standard Russian texts.
At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese slightly complicated Russian texts.
Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.
Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語４Ⅰ

2017年度以降入学者

上野　理恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**1単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１年次のロシア語学習を終えた学生を対象とする授業です。既習の文法事項を復習してから、教科書やプリント教材を用いて、未習の文法事項を学びます。基礎文法をひととおり学習し、その定着をはかりながら、ロシア語の文章の読解に必要な力を養います。要望があれば、ロシア語能力検定試験に対応する勉強も行います。

【到達目標】
学んだ文法事項を正確に理解し、運用できるようになること。比較的平易なロシア語の文章を読解し、日本語に訳せるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教科書やプリント教材を用いて、文法事項の解説、練習問題の答え合せと解説、テキストや対話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また、知識の定着や習熟度の確認のために、適宜、課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	既習文法の復習 (1)	格変化の復習（主格、生格）
2	既習文法の復習 (2)	格変化の復習（与格、対格）
3	既習文法の復習 (3)	格変化の復習（造格、前置格）
4	既習文法の復習 (4)	格変化の復習（人称代名詞）
5	動詞 (1)	動詞関連の文法事項の復習
6	動詞 (2)	動詞の完了体、不完了体の用法の説明と練習
7	動詞 (3)	動詞の完了体、不完了体の用法の説明と練習
8	複文 (1)	関係代名詞の説明と練習
9	複文 (2)	関係代名詞を含む複文の読解
10	複文 (3)	接続詞を含む複文の読解
11	数詞 (1)	数詞と名詞の結合の説明と練習
12	数詞 (2)	数詞と名詞の結合の説明と練習
13	数詞 (3)	時間表現の説明と練習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。格変化形や動詞の活用は意識して覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『初級　ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員　編）［2020/2021年度版、2018/2019年度版　いずれでも可］
その他、適宜プリント教材を配布します。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50％、期末試験50％の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
個々の学生の習熟度を念頭においた授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is a course for students who finished learning Russian for the first grade. The aim of this course is to finish basic grammar. And also strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to acquire basic grammar and strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50％、in class contribution: 50％

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語４Ⅱ

2017年度以降入学者

上野　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**1単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎文法の学習を終えた学生を対象とした授業です。さまざまなテーマのテキストの読解を通して、既習の文法事項を復習しながら、未習の文法事項を学びます。ロシア語の文章に慣れ親しみ、基礎文法の応用レベルでの定着を目指します。また、視聴覚教材を用いて、生のロシア語に触れる機会を作ります。要望があれば、ロシア語能力検定試験に対応する勉強も行います。

【到達目標】
辞書を用いて文章を読解し、日本語に翻訳する作業を通して、ロシア語の文章に慣れ親しむこと。また、語彙を増やし、構文を正確に把握できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】
プリント教材を用いて、文章読解、文法解説、というかたちで授業を進めますが、未習の文法事項についてはあらかじめ説明と練習を行います。各自の日本語訳をチェックするので、事前準備が必要となります。視聴覚教材を用いる場合は、音読、書き取り、リスニングなどを行います。また、知識の定着や習熟度の確認のために、適宜、課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数詞 (4)	数詞と名詞の結合、時間表現の復習
2	数詞 (5)	年月日の表現
3	数詞 (6)	年齢の表現、値段の表現
4	数詞 (7)	テクストの音読と読解
5	数詞 (8)	リスニング
6	比較級、最上級、仮定法 (1)	文法解説と練習
7	比較級、最上級、仮定法 (2)	テクストの音読と読解
8	運動の動詞と接頭辞 (1)	文法解説と練習
9	運動の動詞と接頭辞 (2)	テクストの音読と読解
10	運動の動詞と接頭辞 (3)	スキットのセリフを聞き取る
11	文章読解 (1)	ロシアの文化に関するテクストを読む
12	文章読解 (2)	ロシアの歴史に関するテクストを読む
13	文章読解 (3)	ロシアの時事問題に関するテクストを読む
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で示される課題（日本語訳等）は必ずやってくること。格変化や動詞の活用は意識して覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を授業で配布します。
『初級　ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員　編）［2020/2021年度版、2018/2019年度版　いずれでも可］を持参すること。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50％、期末試験50％の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is a course for students who have completed learning basic grammar of Russian. We read Russian texts carefully, understanding the syntax. Through reading comprehension, we review what we have learned so far and learn grammar that we haven't learned yet.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to get used to Russian texts with various themes and master Russian basic grammar.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50％、in class contribution: 50％

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語５Ⅰ

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**1単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常的に使われるロシア語を場面ごとに学び、ロシア語のコミュニケーション能力を高める授業です。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとおして実践的な能力として定着させます。

【到達目標】
日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとれることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】
一年に通じて日常的なコミュニケーションに使う文型・語彙・表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えます。
宿題提出や単語学習などのために学習支援システムと各オンライン学習アプリケーションを使います。課題などに対する教員のフィードバックは、授業時や学習支援システム経由で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	紹介：名前、出身、職業	リスニング、会話練習
2	家族の話	リスニング、会話練習
3	趣味	リスニング、会話練習
4	一日の流れ	リスニング、会話練習
5	一日の流れ（続き）	リスニング、会話練習
6	時間、スケジュール	リスニング、会話練習
7	国、言語、国籍	リスニング、会話練習
8	天気、季節	リスニング、会話練習
9	行ったことがある所	リスニング、会話練習
10	休暇の過し方	リスニング、会話練習
11	週の予定	リスニング、会話練習
12	好きな事、好きなもの	リスニング、会話練習
13	春学期の復習	リスニング、会話練習
14	春学期末テスト	聴解・筆記と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題があります。単語の暗記も必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにてプリント教材を配布します。プリント教材はロシア語のみですが、その和訳文も別紙で配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
ロシア語のみの教材に和文解説をつけるようになりました。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる端末（PCやタブレットなど）、Zoom授業になる場合には、Wi-Fi通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】
実際の授業状況や履修者の能力に応じて授業のペースやスケジュールは変更することがあります。ご質問などはelena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to be able to carry out simple conversations in Russian in everyday situations or when traveling in Russia.
（Learning activities outside of classroom）
There is homework for every lesson. Memorization of vocabulary is also required. The standard preparation and revision time for this class is one hour.
（Grading Criteria /Policy）
Term-end examination 50%、Word tests 30%, Homework 20%

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語５Ⅱ

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**1単位**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常的に使われるロシア語を場面ごとに学び、ロシア語のコミュニケーション能力を高める授業です。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとおして実践的な能力として定着させます。

【到達目標】
日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとれることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】
一年に通じて日常的なコミュニケーションに使う文型・語彙・表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えます。
宿題提出や単語学習などのために学習支援システムと各オンライン学習アプリケーションを使います。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	モスクワを歩く	リスニング、会話練習
2	私の街	リスニング、会話練習
3	お買い物	リスニング、会話練習
4	食べ物、お食事	リスニング、会話練習
5	家と部屋	リスニング、会話練習
6	映画	リスニング、会話練習
7	いつも通うところ	リスニング、会話練習
8	乗り物で行く	リスニング、会話練習
9	空港で	リスニング、会話練習
10	ロシアの年行事	リスニング、会話練習
11	ToDoリスト	リスニング、会話練習
12	電話、メール	リスニング、会話練習
13	秋学期の復習	リスニング、会話練習
14	秋学期末テスト	聴解・筆記と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題があります。単語の暗記も必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時および学習支援システムにてプリントを配布します。プリント教材はロシア語のみですが、その和訳文も別紙で配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
ロシア語のみの教材に和文解説をつけるようになりました。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる端末（PCやタブレットなど）、Zoom授業になる場合には、Wi-Fi通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】
実際の授業状況や履修者の能力に応じて授業のペースやスケジュールは変更することがあります。ご質問などはelena.mikami.66@hosei.ac.jpまでお問い合わせください。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to be able to carry out simple conversations in Russian in everyday situations or when traveling in Russia.
（Learning activities outside of classroom）
There is homework for every lesson. Memorization of vocabulary is also required. The standard preparation and revision time for this class is one hour.
（Grading Criteria /Policy）
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ロシア語の世界ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**ロシアの歴史**

木部　敬

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシアの歴史および文化（言語、民族、宗教、文学、思想など）を概観し、ロシアという国がどのような国なのか、その特質を理解する。それによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」の基本を獲得する。
ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】
一般の日本人にとっては理解しにくいロシアという国について、明確なイメージを持つことができる。
また、そうしたロシアの歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義型の授業となる。
毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。
学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	9世紀半ばから13世紀の歴史	建国伝説、「キエフ・ルーシ」
第2回	13世紀から16世紀の歴史	「タタールの軛」、モスクワ大公国から「ロシア」へ（イヴァン3世とイヴァン4世）
第3回	17世紀の歴史	「動乱」、ロマノフ朝の成立
第4回	18世紀前半の歴史	ピョートル1世、「ロシア帝国」
第5回	18世紀後半の歴史	エカチェリーナ2世、ポーランド分割、「新ロシア」とクリミア半島、ウクライナ
第6回	19世紀初めの歴史	アレクサンドル1世、ナポレオン戦争、デカブリストの乱
第7回	19世紀半ばの歴史	ニコライ1世、クリミア戦争、アレクサンドル2世、農奴解放
第8回	19世紀終わりの歴史	アレクサンドル3世、産業革命
第9回	20世紀初めの歴史（0年代～20年代）	ニコライ2世、第1革命、第1次世界大戦、ロシア革命、「ソ連」、レーニン
第10回	20世紀半ばの歴史（30年代～40年代）	スターリン、第2次世界大戦
第11回	20世紀半ばの歴史（50年代～60年代）	冷戦、フルシチョフ
第12回	20世紀終わりの歴史（70年代～80年代）	停滞からペレストロイカへ、ゴルバチョフ
第13回	20世紀末の歴史（90年代）	ソ連崩壊、「ロシア連邦」、エリツィン
第14回	21世紀初めの歴史	プーチン、ウクライナ戦争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。
学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
『新版世界各国史22ロシア史』山川出版社、2002年。
『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004年。
『ロシア文化事典』丸善出版、2019年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（感想や質問の提出）40％、期末レポート60％。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発言や発表の機会をより増やす。
毎授業の途中や最後に、授業内容に関する復習問題に取り組む。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to survey history and culture (languages, nations religions, literature, thought etc.) of Russia, as the background of Russian language. We will understand what kind of country Russia is and its special characteristics.
Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.
Your final grade will be decided based on the following. Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ロシア語の世界ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**ロシアの周辺国の歴史**

木部　敬

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中・東欧、ロシア、およびそれらの周辺国（旧ソ連圏の国々など）の歴史および文化（言語、民族、宗教など）を概観することによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」を獲得する。より広い視野においてロシアという国を理解する。
ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】
一般の日本人にとってなじみのない中・東欧、ロシア、およびそれらの周辺地域について明確なイメージを持ち、これらの国や地域の持つ世界史的な意義を理解できる。
また、そうした国や地域の歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義型の授業となる。
毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。
学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ロシアの周辺国（現在の国境）、スラヴ諸族と現在の国家
第2回	ロシアの周辺国の歴史（その1）	北欧の歴史―デンマーク・スウェーデン・ノルウェー・フィンランド（前半：16世紀まで；ヴァイキングの遠征、デンマークによるカルマル同盟、同盟からのスウェーデンの独立）
第3回	ロシアの周辺国の歴史（その2）	北欧の歴史―デンマーク・スウェーデン・ノルウェー・フィンランド（後半：16世紀以降；デンマークの興隆と衰退と復興、スウェーデンの興隆と衰退と復興、ノルウェーの独立、フィンランドとアイスランドの独立）
第4回	ロシアの周辺国の歴史（その3）	バルト三国の歴史―エストニア・ラトヴィア・リトアニア（リヴォニアとドイツ騎士団、リトアニアの発展、ポーランドによるリトアニアの吸収、ロシア帝国によるリヴォニア・ポーランド・リトアニアの全面的支配、バルト三国の独立）
第5回	ロシアの周辺国の歴史（その4）	ポーランドの歴史（前半：17世紀半ばまで；成長期、最盛期、衰退期）
第6回	ロシアの周辺国の歴史（その5）	ポーランドの歴史（後半：17世紀半ば以降；独立喪失期、独立の回復）
第7回	ロシアの周辺国の歴史（その6）	ウクライナの歴史（前半：13世紀まで；キエフ・ルーシ、タタールの軛）
第8回	ロシアの周辺国の歴史（その7）	ウクライナの歴史（後半：13世紀以降；ポーランド・リトアニア時代、ロシア帝国時代、ソ連時代)
第9回	ロシアの周辺国の歴史（その8）	中央アジア五国の歴史―カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメニスタン・キルギスタン・タジキスタン（前半：9世紀まで；イラン系の興隆、トルコ系の侵入）
第10回	ロシアの周辺国の歴史（その9）	中央アジア五国の歴史―カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメニスタン・キルギスタン・タジキスタン（後半：9世紀以降；イスラムの興隆、モンゴルの侵攻、トルコ化とイスラム化、ロシア帝国・ソ連と清・中国の支配）
第11回	ロシアの周辺国の歴史（その10）	コーカサス三国の歴史―ジョージア・アルメニア・アゼルバイジャン（東西南北の諸勢力の交差点としての北コーカサスと南コーカサス、前6世紀以来のジョージア、前6世紀以来のアルメニア、3世紀以来のアゼルバイジャン）
第12回	ロシアの周辺国の歴史（その11）	トルコの歴史（前半：16世紀まで；封建的帝国期、集権的帝国期）
第13回	ロシアの周辺国の歴史（その12）	トルコの歴史（後半：16世紀以降；分権的帝国期、近代的帝国期）
第14回	スラヴ民族と周辺諸民族	ゲルマン民族、ボヘミア、ハンガリー、ルーマニア、スロヴェニア、クロアチア、セルヴィア、アルバニア、マケドニア、ブルガリア、ユダヤ、ジプシーなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。
学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
『民族の世界史10　スラヴ民族と東欧ロシア』山川出版社。
森安達也『ビザンツとロシア・東欧』講談社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（感想や質問の提出）40％、期末レポート60％。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発言や発表の機会をより増やす。
毎授業の途中や最後に、授業内容に関する復習問題に取り組む。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to survey history and culture (languages, nations, religions) of Central and Eastern Europe, Russia and their surrounding areas (countries of the former Soviet Union area etc.), as the background of Russian language. We will understand the specifics of Russia from a broader perspective.

Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.
Your final grade will be decided based on the following. Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ロシアの文化と社会ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤　千登勢

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくとも履修できます。なお、SAエストニア（SAロシア代替）の事前学習も兼ねるので、SAエストニアの１年生もしくは２年生は必ず履修してください。ロシアは、峻厳で美しい自然、深くて豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりです。

【到達目標】
この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導くこと、そして教員が提起した問題に対して自身の意見を適切な文章でまとめる力を養うことも目的としています（コメントシートを通して）。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワード、ソ連・ロシアの国歌を通してロシアの概略を示す。
第2回	モスクワ観光スポット（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、地下鉄、美術館、建築、観光スポットを紹介。
第3回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第２の都市サンクト・ペテルブルグ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。
第4回	民俗文化とロシア正教、国民の祝日	ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は政治と結びついて大きなものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育んできた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなど常に信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。
第5回	ロシア・バレエの世界１	バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。
第6回	ロシア・バレエの世界２	前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。
第7回	ロシアの音楽１：グリンカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー	ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリンカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルギエフ、現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。
第8回	ロシアの音楽２：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）	19世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフらを通して音楽と政治の問題を考える。
第9回	ロシアの音楽３：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）	反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。
第10回	ロシア文学１：イーゴリ軍記から19世紀前半	『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキンのロマン主義とリアリズムの融合について。《余計者》の確立。
第11回	ロシア文学２：19世紀半ば～（ゴーゴリ、ドストエフスキー）	ゴーゴリのグロテスクな手法、《小さな人間》について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。
第12回	ロシア文学３：19世紀後半～20世紀（トルストイ、チェーホフ、アヴァンギャルド、フォルマリズム）	トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖愚者の賞揚。チェーホフの創作方法について。《異化》の概念について。政治と文学について。
第13回	ロシア文学４：亡命作家から現代（ソルジェニーツィン、ブロツキー、ペレーヴィン）／日本文学との影響関係	亡命作家を通してみる政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。
第14回	民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題	ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアのナショナリズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AVライブラリーコーナーの活用を勧めます。期末レポートの作成には１週間程度の時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。教場で教員が作成する資料を配付します。

【参考書】
参考文献については教場もしくは学習支援システムで、随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生は合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんとロシアの多様な側面を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline (in English)】
●Course outline
In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Tourist spots Moscow and Saint Peter's burg, Russian ballet, music and literature.
●Learning Objectives
While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.
●Learning activities outside of classroom
Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet /Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.
●Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ロシアの文化と社会ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤　千登勢

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシアの歴史、映画、アニメ、美術の領域からロシアの文化の多様性を見ていきます。本講義では映像資料を多用して概説を行いますが、多くの情報を統合してロシアの像をまとめていく作業は学生のみなさん一人ひとりが行うことになります。この授業は、SAエストニア（SAロシア代替）の事前学習に位置付けられているので、SAエストニア１年の学生は必ず履修してください。

【到達目標】
この授業は、受動的に講義を受けたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張をまとめる力を養うことを目標としています(コメントシートを通して)。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ロシアの歴史１：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝	ロシアの歴史：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝の治世について。
第2回	ロシアの歴史２	ピョートル大帝、エカテリーナ女帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第3回	ロシアの歴史３	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第4回	ロシアの歴史４	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第5回	ロシアの歴史５	雪解けから停滞へ、ペレストロイカ、チェルノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第6回	ソ連映画１	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。
第7回	ソ連映画２	雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見ていく。
第8回	ソ連映画３	反体制の烙印を押された監督の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF映画を概観するとともに、ペレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。
第9回	ロシア映画４	検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクーロフの作品、また、大国ロシアを再び謳い上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。
第10回	ロシア映画５	前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。
第11回	ロシア・アニメ１	黎明期からプロパガンダ・アニメ、児童アニメ（タレーヴィチ、アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ）の概説と作品の鑑賞。
第12回	ロシア・アニメ２	アート・アニメ（ノルシュテイン、ペトロフらの作品）の概説と作品鑑賞。
第13回	ロシア美術１	イコン（聖像画）の機能について、移動派の活動、パトロンの役割について。
第14回	ロシア美術２	マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。ロシア・アヴァンギャルド期の建築について紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の視聴には、AVライブラリーコーナーの利用を勧めます。期末レポートの作成には１週間程度の時間を要することになります。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。教員が作成した資料を教場で配付するか、もしくは学習支援システムにアップします。

【参考書】
教場や学習支援システムで適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として、総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
今学期はロシアの歴史、映画が中心となりますが、時事的な話題もとりこみながら講義をおこないます。

【Outline (in English)】
●Course outline
In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Russian history, and films, pictures and animations.
●Learning Objectives
While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.
●Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet /Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

●Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

検定のロシア語 A

2017年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**1単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級ロシア語を履修し終え中級以上を目指す学生のためのクラスです。資格として履歴書に書けるロシア語能力検定試験３級の合格を目指します。(3級はCEFR A2レベルの「文法・読解・聴解・会話・作文」力に相当します。)

【到達目標】
毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験に合格するために、以下の目標を達成する。１）基礎文法を習得し確実に自身のものとする。２）テキストの内容を的確に把握し検定試験問題が解ける。３）様々なテキストを和訳できる。４）ロシア語のリスニング問題が解ける、５）テキストを早く美しく音読できる。６）ロシア語の実践会話の習得、７）語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語能力検定試験３級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させ、対策問題や過去問などを解いていく。視聴覚教材で生きたロシア語に触れ、リスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。単語や熟語のミニテストを適時行い、語彙力を強化していく。課題等に対するフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、基礎文法の復習	オリエンテーション、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	名詞と人称代名詞	名詞の性別と複数形、人称代名詞、名詞の格変化
第3回	形容詞、所有代名詞と指示代名詞	形容詞、所有代名詞と指示代名詞、その格変化
第4回	動詞（時制の表現）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	副詞、無人称文、テキスト読解	副詞、無人称文、テキスト読解
第6回	時制を表す表現、疑問詞	時制を表す表現、疑問詞とその返答
第7回	運動の動詞	１）運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）２）「(歩いて・乗り物で）運ぶ」「連れて行く」
第8回	動詞の命令形	３パターンの命令形（完了体・不完了体含む）
第9回	比較級	主に単一比較級
第10回	関係代名詞	関係代名詞、関係副詞、接続詞
第11回	数詞（主格・対格）	数詞（数詞と名詞の変化）
第12回	リーディング	リーディング練習（アクセント記号の付いていないテキスト）
第13回	リスニング	リスニング（過去問を時間内で解く練習）
第14回	和文露訳	和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシア語学習の成果としてロシア語能力検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。
本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。また、NHKロシア語講座（ラジオ）やインターネットなどでロシア映画や歌、ロシア関連のニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れてみましょう。

【テキスト（教科書）】
テキストは，適時プリントを配布します。
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、￥6291）が望ましい）

【参考書】
佐藤純一『NHK新ロシア語入門』NHK出版、2001年
『大学のロシア語１』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、￥3520

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み、単語ミニテストなど）70％、提出物の評価（課題や宿題等の提出）30％で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
新規授業のため、次年度以降に記載されます。皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】
ロシア語既習者が対象です。
「検定」は、東京ロシア語学院主催のロシア語能力検定試験（毎年5月10月実施）を想定しておりますが、ロシア連邦教育科学省認定 ロシア語検定試験 (ТРКИ - テ・エル・カ・イ)受験の希望者が多い場合は、そちらに標準を合わせる予定です。
また、ロシア語能力検定試験４級受験希望者が多数の場合も４級対策を多めに行う予定です。
いずれかの検定試験を受験し、合格を目指してください。
なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
This course is for students who have completed Beginner Russian and are aiming for intermediate level or higher. Aiming to pass Level 3 of the Russian Language Proficiency Test, which can be written on your resume as a qualification. (Level 3 is equivalent to the CEFR A2 level of "grammar, reading comprehension, listening comprehension, conversation, and writing" ability.)Work to be done outside of class ； students review basic grammar and work on past exam questions and preparation questions. Students prepare the textbooks and practice questions assigned in class in advance before attending class. Grading criteria ； The evaluation will be based on 50%of the normal score (participation in class, study efforts such as preparation and review, vocabulary mini-test) and 50%of the evaluation of submitted materials (submission of assignments, homework, etc.).

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

検定のロシア語Ｂ

2017年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**1単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級ロシア語を履修し終え中級以上を目指す学生のためのクラスです。資格として履歴書に書けるロシア語能力検定試験３級の合格を目指す。(3級はCEFR A2レベルの「文法・読解・聴解・会話・作文」力に相当します。)
春学期「検定のロシア語A」からの継続受講も可能です。

【到達目標】
毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験に合格するために、以下の目標を達成する。１）基礎文法を習得し確実に自身のものとする。２）テキストの内容を的確に把握し検定試験問題が解ける。３）様々なテキストを和訳できる。４）ロシア語のリスニング問題が解ける、５）テキストを早く美しく音読できる。６）ロシア語の実践会話の習得、７）語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語能力検定試験３級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させ、対策問題や過去問などを解いていく。視聴覚教材で生きたロシア語に触れ、リスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。単語や熟語のミニテストを適時行い、語彙力を強化していく。課題等に対するフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、基礎文法の復習	オリエンテーション、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	名詞と人称代名詞	名詞の性別と複数形、人称代名詞、名詞の格変化
第3回	形容詞、所有代名詞と指示代名詞	形容詞、所有代名詞と指示代名詞、その格変化
第4回	動詞（時制の表現）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	副詞、無人称文、テキスト読解	副詞、無人称文、テキスト読解
第6回	時制を表す表現、疑問詞	時制を表す表現、疑問詞とその返答
第7回	運動の動詞	１）運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）２）「(歩いて・乗り物で）運ぶ」「連れて行く」
第8回	動詞の命令形	３パターンの命令形（完了体・不完了体含む）
第9回	比較級	主に単一比較級
第10回	関係代名詞	関係代名詞、関係副詞、接続詞
第11回	数詞（主格・対格）	数詞（数詞と名詞の変化）
第12回	リーディング	リーディング練習（アクセント記号の付いていないテキスト）
第13回	リスニング	リスニング（過去問を時間内で解く練習）
第14回	和文露訳	和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシア語学習の成果としてロシア語能力検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。
本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。また、NHKロシア語講座（ラジオ）やインターネットなどでロシア映画や歌、ロシア関連のニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れてみましょう。

【テキスト（教科書）】
テキストは，適時プリントを配布します。
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、￥6291）が望ましい）

【参考書】
佐藤純一『NHK新ロシア語入門』NHK出版、2001年
『大学のロシア語１』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、￥3520

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）が70％、課題への回答やミニテストの評価30％の割合です。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
新規授業のため、次年度以降に記載されます。皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】
ロシア語既習者が対象です。
「検定」は、東京ロシア語学院主催のロシア語能力検定試験（毎年5月10月実施）を想定しておりますが、ロシア連邦教育科学省認定 ロシア語検定試験 (ＴＰＫИ - テ・エル・カ・イ)受験の希望者が多い場合は、そちらに標準を合わせる予定です。
また、ロシア語能力検定試験４級受験希望者が多数の場合も４級対策を多めに行う予定です。
いずれかの検定試験を受験し、合格を目指してください。
なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
This course is for students who have completed Beginner Russian and are aiming for intermediate level or higher. Aiming to pass Level 3 of the Russian Language Proficiency Test, which can be written on your resume as a qualification. (Level 3 is equivalent to the CEFR A2 level of "grammar, reading comprehension, listening comprehension, conversation, and writing" ability.)Work to be done outside of class ； students review basic grammar and work on past exam questions and preparation questions. Students prepare the textbooks and practice questions assigned in class in advance before attending class. Grading criteria ； The evaluation will be based on 50%of the normal score (participation in class, study efforts such as preparation and review, vocabulary mini-test) and 50%of the evaluation of submitted materials (submission of assignments, homework, etc.).

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

中国語コミュニケーション初級Ⅰ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**1単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】
構文をしっかり覚える。
発音を正確にする。
日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教材を使って文法の勉強をする。また履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。
課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布と説明
第2回	発音	ピンインの復習
第3回	あいさつ	あいさつなどの日常用語の練習をする
第4回	人称代名詞と指示代名詞 会話（1）	文法を確認したのち、自己紹介の練習をする
第5回	述語 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を発表する
第6回	受け答え	「是」その他
第7回	場所と方位	在と有
第8回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語を学ぶ
第9回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方 レストランでの会話を作成する
第10回	連用修飾語 授業内発表（2）	副詞と時間詞を学ぶ 講師と一対一またはグループでレストランでの会話をする
第11回	完了と変化 会話（3）	「了」の様々を知る 買い物する時の会話パターンを作成する
第12回	助動詞と前置詞構造 授業内発表（3）	文法を確認したのち、講師と一対一またはグループで買い物のシミュレーションをする
第13回	三量補語	三量補語と離合詞
第14回	まとめ及び期末テスト	文法をまとめ、会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や発表の準備など、毎回1時間ほどの予習・復習をする。
また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】
教員による教材配布

【参考書】
日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト：60％
発表：40％
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
受講者それぞれのレベルの差に配慮をする。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.
We should talk the Chinese language by accurate pronunciation,
and talk the Chinese daily conversation well.
We should prepare and review about one hour a week.
It is better to take the test of HSK.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

中国語コミュニケーション初級Ⅱ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**1単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】
「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。
日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。
課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	持続態と進行形を確認したのち、「私の夏休み」を作成する
第2回	程度補語 作文の添削	程度補語を確認したのち、作文の添削をする
第3回	比較と連動	比較文と連動文
第4回	構文分析	構文分析と助動詞の補説
第5回	強調と重複 会話（1）	強調文と重複表現 待ち合わせの会話を作る
第6回	方向補語 授業内発表（1）	方向補語の用法 待ち合わせの会話の発表
第7回	複合方向補語の用法	複合方向補語の派生的用法
第8回	結果補語	結果補語の説明
第9回	可能補語 会話（2）	可能補語の説明 道を尋ねる・教える会話の作成
第10回	使役と受身 授業内発表（2）	使役と受身の確認と比較 道を尋ねる・教える会話の発表
第11回	処置と倒置	処置文と倒置文
第12回	複文一	複文の様々を知る
第13回	複文二	複文の後半
第14回	まとめ	口頭による試験を行う　まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週1時間を目途に予習・復習する。
単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。
また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】
教員による教材配布

【参考書】
日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト：60％
発表：40％
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
受講者それぞれのレベルの差に配慮する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.
We should do the exercise of reading,writing,listening and talking.
We should talk the chinese daily conversation well.
We should prepare and review about one hour a week.
It is better to take the test of HSK.
Term-end test:60%
presentation:40%

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

資格中国語初級Ⅰ

2017年度以降入学者

青木　正子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**1単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
HSK（⊠⊠水平考⊠）１級～３級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的ですが、例年レベルが高い学生が多いため、春学期中に２－３級、秋学期中に３－４級に合格できるよう指導します。HSKのリスニングは難しいので、中国検定準4級程度からトレーニングを始めていきます。向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。中国語を１年以上履修した学生に限ります。中国語が好きな人が集まりますので、気軽に情報交換できる楽しいクラスを目指します。毎年全員が高得点で合格しています。

【到達目標】
春学期はHSK２－３級に合格できるリスニング力と読解力を身につけてもらいます。秋学期はHSK3－4級合格を目指します。昨年の３級合格者の平均点は２４７点で、内訳は、聴力７８点、閲読８６点、写作８３点でした。日本人が苦手な聴力の得点も良好で、閲読では４人が１００点（満点）でした。また４級には３人合格しました。履修者は２年生が多いですが、就活を終えた４年生もいます。１年生のとき使用した教科書ポイント学習を復習しながら、初級中国語の基礎文法のしくみを解説します。必ずレベルアップを感じていただけると思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
HSKの過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。単語帳のテキストを使って、単語テストを行い、語彙力を高めます。ポイント学習の教科書を使って初級中国語の文法の構造を把握し理解します。フィードバックは授業内とメールで行います。メールは、qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK１級過去問①	HSK１過去問①を解き解説します。
3	HSK１過去問②	HSK１過去問②を解いて解説します。
4	HSK２過去問①	HSK２過去問①を解いて解説します。
5	HSK２過去問②	HSK２過去問②を解いて解説します。
6	HSK２級過去問③	HSK２級過去問③を解いて解説します。
7	HSK２級過去問④	HSK２級過去問④を解いて解説します。
8	HSK３級過去問①	HSK３級過去問①を解いて解説します。
9	HSK３級過去問②	HSK３級過去問②を解いて解説します。
10	HSK３級過去問③	HSK３級過去問③を解いて解説します。
11	HSK３級過去問④	HSK３級過去問④を解いて解説します。
12	HSK３級過去問⑤	HSK３級過去問⑤を解いて解説します。
13	HSK３級過去問⑥	HSK３級過去問⑥を解いて解説します。
14	春学期復習と学習のまとめ	復習テストと学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
過去問はプリントを配布します。法政大学のHSK合格講座のサイトも活用します。次のテキストを使用します。履修を決めてから購入してください。HSK/中検対応『中国語基本単語帳』　早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。ポイント学習中国語を毎回持参してください。

【参考書】
HSK過去問、HSK公式アプリ単語、法政大学HSK合格講座

【成績評価の方法と基準】
出席状況80％と期末テスト20％で評価します。HSK合格者は、S評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
単語帳テキストを使って、単語テストを実施し、語彙力を高めます。同時にリスニングのトレーニングを多く行います。文法がもっとわかるようになりたいという要望が多いので、ポイント学習中国語を使って解説します。文法の基礎や構造を理解していただけるように工夫します。プリント教材の質を向上させて、復習しやすいように心がけます。また欠席者が困らないように、授業内容は、hoppiにアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマホ

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.
The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

資格中国語初級Ⅱ

2017年度以降入学者

青木　正子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**1単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
HSK３－４級合格レベルの中国語を身につけることが目的です.この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加も歓迎しますが、春学期のシラバスを読んで、初回の授業に出てから履修を決めてください。中国語が好きで意欲的な学生の参加を歓迎します。

【到達目標】
HSK３－４級合格以上を目指します。昨年は４級は３人合格しました。詳細は春学期のシラバスをご覧ください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
プリント教材を使って、HSK３－４級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。そのほか単語帳とポイント学習中国語の教科書で初級文法の構造を解説します。フィードバックは授業内とメールで行います。qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HSK３級昨年度の過去問を使ったレベルチェックテスト	HSK３級昨年度の過去問を使って皆さんのレベルをチェックします。
2	HSK３級過去問①	HSK３級過去問①を解いて解説します。
3	HSK４級単語解説	HSK４級に出る単語を解説します。
4	HSK４級過去問リスニングチェックテスト①	HSK４級過去問リスニングを解いてリスニング力をチェックします。
5	HSK４級過去問リスニング②	HSK４級過去問リスニング②を解いて解説します。
6	HSK４級過去問リスニング③	HSK４級過去問リスニング③を解いて解説します。
7	HSK４級過去問リスニング④	HS４級過去問④を解いて解説します。
8	HS４級過去問閲読①	HSK４級過去問閲読①を解いて解説します。
9	HSK４級過去問閲読②	HSK４級過去問閲読②を解いて解説します。
10	HSK４級過去問閲読③	HSK４級過去問③を解いて閲読の解説します。
11	HSK４級過去問閲読④	HSK４級過去問閲読④を解いて、閲読の解説をします。
12	HSK４級過去問作文①	HSK４級過去問の２作文練習をします。
13	HSK４級過去問	HSK４級過去問の作文②を学習します。
14	授業の総まとめ期末テスト実施	期末テスト実施、解説をしながら学習の総まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布します。プリント以外に、次の単語帳テキストを使用します。
『中国語基本単語帳』　早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。またポイント学習中国語を持参することが望ましいです。

【参考書】
HSK－４３級過去問、単語集。法政大学HSK合格講座

【成績評価の方法と基準】
出席状況80％、期末テスト20％で評価します。HSK３級以上合格者はSランクで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
欠席者が困らないように、授業内容はhoppiにアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、PC。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.
The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200）

中国語の世界ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

髙柳　浩平

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 4/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ことばは一般的に「コミュニケーションのための手段」と見なされることが多いですが、ことばが使われる時、その背後には整然としたしくみが存在しています。本授業は、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった分野に分けて学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解することこそが本授業の目的です。

【到達目標】
中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得することと、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	中国語の文字（1）	漢字の起源と変遷
③	中国語の文字（2）	漢字の簡略化及び文字改革と簡体字
④	中国語の音韻（1）	古代の音とその表記法
⑤	中国語の音韻（2）	古代の音から現代の音へ
⑥	中国語の音韻（3）	ピンインの成立とその表記法
⑦	中国語の語彙（1）	古代の語彙とその分類
⑧	中国語の語彙（2）	古代の語彙から現代の語彙へ
⑨	中国語の語彙（3）	日中語彙交流と外来語・新語・流行語
⑩	中国語の文法（1）	中国語の文構造と品詞分類
⑪	中国語の文法（2）	中国語文法研究の変遷
⑫	共通語と方言（1）	共通語の成立と広がり
⑬	共通語と方言（2）	共通語と諸方言の比較
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】
参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）、期末試験（60％）とします。
※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、数回実施する小レポート等が含まれます。
※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。

【学生の意見等からの気づき】
新任のため無し。

【学生が準備すべき機器他】
中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。
なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .
【Learning activities outside of classroom】
4 hours for preparation and review for each class.
【Grading Criteria /Policy)】
Term-end examination: 60%、Short reports and in class contribution: 40%

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国語の世界ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

髙柳　浩平

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**4/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（60）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期に引き続き本授業では、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解することこそが本授業の目的です。

【到達目標】
中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得することと、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	類型論からみる中国語（１）	形態的類型論における中国語
③	類型論からみる中国語（２）	語順類型論における中国語
④	中国語文法の分析（１）	中国語と西洋文法の受容
⑤	中国語文法の分析（２）	中国語とアスペクト
⑥	中国語文法の分析（３）	中国語と補語
⑦	中国語文法の分析（４）	中国語と類像性
⑧	中国語史（０）	中国語史における時代区分
⑨	中国語史（１）	上古中国語の特徴
⑩	中国語史（２）	中古早期中国語の特徴
⑪	中国語史（３）	中古中国語の特徴
⑫	中国語史（４）	近代中国語の特徴
⑬	応用演習	中国語と能格性
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】
参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）、期末試験（60％）とします。
※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、数回実施する小レポート等が含まれます。
※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。

【学生の意見等からの気づき】
新任のため無し。

【学生が準備すべき機器他】
中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。
なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .
【Learning activities outside of classroom】
4 hours for preparation and review for each class.
【Grading Criteria /Policy)】
Term-end examination: 60%、Short reports and in class contribution: 40%

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**台湾の文化と社会**

山本　律

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（60）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。
日本と台湾は長い歴史の中で深いかかわりを持っています。
本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】
日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。
毎回コメントペーパーを出してもらいます。
その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィードバックします。
最終回には教場レポートを提出してもらいます。
出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第1回） 教員による解説・講義
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第2回） 教員による解説・講義
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』(第3回) 教員による解説・講義
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第1回） 教員による解説・講義
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめとレポート	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。
映画は各自で観てください。

【テキスト（教科書）】
使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60％、レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn about Chinese culture and society by using various materials such as movies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following
Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**香港の文化と社会**

山本　律

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（60）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。
映画は、その国の文化と社会を映し出します。
今期では、2008年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として香港の社会と文化についてみていきます。

【到達目標】
中国香港の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で授業を行います。
毎回コメントペーパーを出してもらいます。
その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィードバックします。
最終回には教場レポートを提出してもらいます。
出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　序章』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　序章』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　序章』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　葉問』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	レポート映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　葉問』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　葉問』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン　継承』（第1回） 教員による解説・講義
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン　継承』（第2回） 教員による解説・講義
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン　継承』（第3回） 教員による解説・講義
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン　外伝』（第1回） 教員による解説・講義
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン　外伝』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン　外伝』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。
映画は各自で観てきてください。

【テキスト（教科書）】
使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席、毎回のコメントペーパー）60％、レポート40％。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＣ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳　瀟瀟

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（60）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中国の文化と社会に関する基礎知識を学ぶ。中国の食文化、民俗行事、芸術工芸及び文化遺産について概観し、現代中国社会における学校教育、ジェンダー構造、消費者意識、流行物などを紹介・解説する。中国文化の多様性及び現代中国社会の実態への理解を深め、異文化理解と異文化交流の力を養うことを目的とする。

【到達目標】
・中国の文化と社会に関する基礎知識を習得する。
・中国社会に関する知識や事柄を理解する。
・中国のマナー・文化風習・商習慣への理解を深める。
・現代中国社会の事柄と流行物を客観的・多角的に捉える。
・異文化理解と異文化交流の力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションがある。課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムにて行う。
※対面授業。授業形態に変更がある場合は大学の方針が確定された後、学習支援システムでその都度知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバス、授業内容の説明 ・授業計画と進め方、成績評価の方法と基準を説明
第2回	行政区画・地理	・中国の東西南北と地理概念 ・地域の差
第3回	漢民族と少数民族	・漢民族 ・少数民族
第4回	中国語という言語	・漢字の歴史 ・普通話と方言
第5回	食文化	・中華料理とは ・「南」と「北」の食文化 ・円卓文化 ・デリバリーの流行
第6回	コミュニケーション文化1	・茶文化 ・酒文化
第7回	コミュニケーション文化2	・ビジネスマナー ・「メンツ」について
第8回	祝祭日と民俗行事	・二十四節気と祝祭日 ・民俗行事
第9回	芸術：音楽、絵画と戯曲	・音楽：燕楽、琴楽、民謡 ・絵画：花鳥画、山水画 ・戯曲：昆劇、京劇、川劇
第10回	学校教育	・「科挙」と「高考」 ・現代社会の教育制度 ・都市と農村での教育格差
第11回	「卷」と「躺平」	・「卷」とは何か ・「躺平」とは何か ・若者世代の現状
第12回	「二次元文化」と「国潮」	・急成長の二次元文化 ・新しいカルチャー：国潮
第13回	異文化コミュニケーション	・異文化コミュニケーション・ギャップ ・異文化コミュニケーション・スキル ・ディスカッション
第14回	授業内容のまとめ レポートの提出	・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に学習支援システムにアップロードされた講義資料を読んでおくこと。
・授業後は関連知識の振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で示される課題・ディスカッションの内容を対応すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。
講義資料は事前に学習支援システムにアップロードする。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
楼宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60％、期末レポートを40％として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の理解度を高めるために、音声・映像などのコンテンツを活用する。
私語などを注意し、授業に集中しやすい環境づくりに心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
学習支援システム上の本授業の連絡事項を確認すること。
不明な点がある場合、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】
This course provides fundamental knowledge of Chinese culture and society.It offers an overview of Chinese food culture, folk traditions, arts and crafts, and cultural heritage. Additionally, the course introduces and explains aspects of contemporary Chinese society, including education, gender structures, consumer awareness, and popular trends.
【Learning Objectives】
・Acquire basic knowledge of Chinese culture and society.
・Understand key aspects and characteristics of Chinese society.
・Gain a deeper understanding of Chinese etiquette, cultural customs, and business practices.

・Be able to analyze contemporary Chinese society and trends from an objective and multifaceted perspective.
・Develop intercultural understanding and communication skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend approximately two hours each on preparation and review, totaling four hours per session.
【Grading Criteria /Policies】
Grading will be based on in-class contribution(60%) and term-end report(40%).Students who achieve 60%or more of the course objectives will pass.

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＤ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳　瀟瀟

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（60）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中国の文化と社会に関する基礎知識を学ぶ。中国の宗教、文学、美術工芸、世界遺産、冠婚葬祭について概観し、歴史的・文化的背景を理解する。次に、現代中国社会に焦点を当て、情報化とグローバル化に伴う価値観の変化、消費行動の変化、ジェンダー構造の変容について考察する。本授業を通じて中国の文化と社会の特徴を理解し、その変遷を多角的に捉える力を養うことを目指す。また、異文化理解と異文化交流の視点を深めるとともに、自らの考えを発展させることを目的とする。

【到達目標】
・中国の文化と社会に関する基礎知識を習得する。
・中国社会に関する知識や事柄を理解する。
・中国の冠婚葬祭のマナー・文化風習への理解を深める。
・現代中国社会の事柄と流行物を客観的・多角的に捉え、自分なりの考えを深める。
・異文化理解と異文化交流の力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションがある。課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムにて行う。
※対面授業。授業形態に変更がある場合は大学の方針が確定された後、学習支援システムでその都度知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教	・民間信仰と祖先崇拝 ・道教と仏教
第2回	文学	・古代文学 ・唐詩と宋詞 ・近現代文学
第3回	美術工芸	・ガラス工芸 ・陶器、磁器、景泰藍 ・刺繍
第4回	中国の世界遺産１	・故宮 ・万里の長城 ・始皇帝陵と兵馬俑
第5回	中国の世界遺産２	・パンダ保護区群 ・莫高窟、龍門石窟、雲崗石窟、大足石刻 ・九寨溝、黄龍、黄山、桂林
第6回	冠婚葬祭	・結婚式 ・葬儀
第7回	SNSとショート動画	・SNSと「自媒体」 ・ショート動画の急成長 ・娯楽性と実用性
第8回	消費行動の変化	・店頭購入とネットショッピング ・爆買いから理性消費へ ・モノ消費からコト消費へ
第9回	ジェンダー構造の変容とフェミニズム	・男尊女卑と男女平等 ・フェミニズム ・ジェンダー構造の変容
第10回	異文化コミュニケーション１	・カルチャーショック ・異文化受容と異文化適応 ・自文化の変容
第11回	プレゼンテーション・ディスカッション１	・カルチャーショック ・異文化理解・自文化理解 ・グループディスカッション
第12回	異文化コミュニケーション２	・多文化社会とは ・多文化共生へ ・マイノリティへの理解
第13回	プレゼンテーション・ディスカッション２	・プレゼンテーション ・グループディスカッション
第14回	授業内容のまとめ レポートの提出	・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に学習支援システムにアップロードされた講義資料を読んでおくこと。
・授業後は関連知識の振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で示される課題・ディスカッションの内容を対応すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。
講義資料は事前に学習支援システムにアップロードする。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
楼宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60％、期末レポートを40％として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の理解度を高めるために、音声・映像などのコンテンツを活用する。
私語などを注意し、授業に集中しやすい環境づくりに心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
学習支援システム上の本授業の連絡事項を確認すること。
不明な点がある場合、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】
This course provides fundamental knowledge of Chinese culture and society. It offers an overview of China's religion, literature, arts and crafts, world heritage, and traditional ceremonies. This course also explores contemporary Chinese society, analyzing shifts in values, consumer behavior, and gender dynamics.
【Learning Obejectives】
· Acquire basic knowledge of Chinese culture and society.
· Understand key aspects and characteristics of Chinese society.
· Gain a deeper understanding of Chinese customs and traditions.
· Develop the ability to analyze contemporary Chinese society and trends from an objective, multifaceted perspective, while forming independent insights.
· Develop intercultural understanding and communication skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend approximately two hours each on preparation and review, totaling four hours per session.
【Grading Criteria /Policies】
Grading will be based on in-class contribution (60%) and term-end report (40%). Students who achieve 60%or more of the course objectives will pass.

LANs200LA（スペイン語 / Spanish language education 200）

スペイン語コミュニケーションⅠ　2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**1単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】
身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、仲間と練習する。次に暗記した表現をベースにしてモデル文章を書き換えて発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación personal	自己紹介の方法を学ぶ。
2	Nombres de personas e hipocorísticos del mundo hispano	スペイン語圏の人の名前。
3	Mi familia 1	自分の家族を説明する方法を学ぶ（1）
4	Mi familia 2	自分の家族を説明する方法を学ぶ（2）
5	Un día normal 1	自分の平均的な1日を説明する方法を学ぶ（1）
6	Un día normal 2	自分の平均的な1日を説明する方法を学ぶ（2）
7	Descripciones	人物の一般的な描写方法を学ぶ
8	Mi ciudad 1	自分の街を説明する方法を学ぶ（1）
9	Mi ciudad 2	自分の街を説明する方法を学ぶ（2）
10	Mi universidad 1	自分の大学を説明する方法を学ぶ（1）
11	Mi universidad 2	自分の大学を説明する方法を学ぶ（2）
12	La cultura de la ropa usada y la moda (1)	古着とファッション(1)
13	La cultura de la ropa usada y la moda(2)	古着とファッション(2)
14	試験・まとめと解説	期末試験を実施し、今学期のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の週の復習から始まる。履修者はペアで練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した8個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回60分程度である。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
辞書(電子辞書可)

【成績評価の方法と基準】
-Exams (50%)
-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】
教師が用意した教材を改善し、生徒間でより良いコミュニケーションを実現するために生徒間で信頼できる環境を作ります。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
In this course students will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.
Grading criteria
Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examination.
Regular point evaluation: 50%.
A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.
Midterm exam: 20%.
Final oral exam: 30%.
In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs . Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture.
Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pair, so they are expected to prepare well and actively participate in class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA（スペイン語 / Spanish language education 200）

スペイン語コミュニケーションⅡ　2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**1単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】
身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、仲間と練習する。次に暗記した表現をベースにしてモデル文章を書き換えて発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación del curso.	授業の説明。
2	Las dudas más frecuentes del español	スペイン語の正しい使い方を学ぶ
3	Gestos hispánicos(I)	スペイン語ジェスチャーを学ぶ。(I)
4	Gestos hispánicos(II)	スペイン語ジェスチャーを学ぶ。(II)
5	Mi mejor viaje 1	自分の平均的な1日を説明する方法を学ぶ（1）
6	Mi mejor viaje (2)	自分の平均的な1日を説明する方法を学ぶ（2）
7	Mis gustos (1)	自分の趣味を説明する方法を学ぶ（1）
8	Mis gustos (2)	自分の街を説明する方法を学ぶ（2）
9	Mi mejor regalo (1)	お気に入りのプレゼントを説明する方法を学ぶ（1）
10	Mi mejor regalo 2	お気に入りのプレゼントを説明する方法を学ぶ（2）
11	Mi personaje preferido	尊敬している有名人について説明する方法を学ぶ。
12	La Navidad Intercambio de regalo	日本のクリスマスを説明する方法を学ぶ。プレゼント交換。
13	Año Nuevo	新年
14	試験・まとめと解説	期末試験を実施し、今学期のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の週の復習から始まる。履修者はペアで練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した8個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回60分程度である。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
辞書(電子辞書可)

【成績評価の方法と基準】
-Exams (50%)
-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】
教師が用意した教材を改善し、生徒間でより良いコミュニケーションを実現するために生徒間で信頼できる環境を作ります。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
In this course students will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.
Grading criteria
Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examination.
Regular point evaluation: 50%.
A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.
Midterm exam: 20%.
Final oral exam: 30%.
In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs . Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture.
Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pair, so they are expected to prepare well and actively participate in class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA（スペイン語 / Spanish language education 200）

現代のスペイン語Ⅰ

2017年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**1単位**
定員制（30）
2021年度までに「時事スペイン語Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の初級クラスを履修済みの学生を対象として、すでに身につけている文法知識を活かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を養う。同時に、現代のスペイン語圏の文化や社会といった諸相について、その歴史も踏まえながら学んでいく。

【到達目標】
スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員が各回のテーマに関する概説と文法事項に関する解説を行いながら、順番に指名された受講生が訳読を行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	初級文法の復習	過年度までにスペイン語初級の各クラスで学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法現在	直説法現在を使った文章を読解する。
4	gustar型動詞	gustar型動詞を使った文章を読解する。
5	現在分詞と直説法現在進行形	現在分詞と直説法現在進行形を使った文章を読解する。
6	現在分詞と直説法現在進行形	現在分詞と直説法現在進行形を使った文章を読解する。
7	過去分詞と直説法現在完了形	過去分詞と直説法現在完了形を使った文章を読解する。
8	直説法点過去	直説法点過去を使った文章を読解する。
9	直説法線過去	直説法線過去を使った文章を読解する。
10	直説法過去完了	直説法過去完了を使った文章を読解する。
11	再帰動詞	再帰動詞を使った文章を読解する。
12	受動表現	受動表現を使った文章を読解する。
13	無人称表現	無人称表現を使った文章を読解する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
高松朋子ほか『行ってきます！』朝日出版社、2007 年、ISBN9784255550220、本体価格2,100円。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：50％、学期末試験：50％。

【学生の意見等からの気づき】
学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
- 履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。
- この授業は秋学期の「現代のスペイン語Ⅱ」（授業コード：R8304、担当教員：久木正雄）との連続性を持つため、ⅠとⅡの両方を履修することが望ましい。
- 辞書の活用を怠らないこと。

【Outline (in English)】
《Course outline》
This course will focus on various current topics in Spanish-speaking countries, by enjoying rather long Spanish texts through the use of your grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.
《Learning Objectives》
Students will improve the reading ability in Spanish.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
《Grading Criteria /Policy》
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (50%), and term-end examination (50%).

LANs200LA（スペイン語 / Spanish language education 200）

現代のスペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**1単位**
定員制（30）
2021年度までに「時事スペイン語Ⅱ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の初級クラスを履修済みの学生を対象として、すでに身につけている文法知識を活かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を養う。同時に、現代のスペイン語圏の文化や社会といった諸相について、その歴史も踏まえながら学んでいく。

【到達目標】
スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員が各回のテーマに関する概説と文法事項に関する解説を行いながら、順番に指名された受講生が訳読を行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	春学期の文法の復習	春学期で学んだ文法事項の復習を行う。
3	比較表現	比較表現を使った文章を読解する。
4	知覚・使役の表現	知覚・使役の表現を使った文章を読解する。
5	直説法未来と直説法過去未来	直説法未来と直説法過去未来を使った文章を読解する。
6	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了を使った文章を読解する。
7	接続法現在（名詞節）	接続法現在（名詞節）を使った文章を読解する。
8	接続法現在（形容詞節・副詞節）	接続法現在（形容詞節・副詞節）を使った文章を読解する。
9	命令法	命令法を使った文章を読解する。
10	接続法過去と接続法過去完了	接続法過去と接続法過去完了を使った文章を読解する。
11	間接話法	間接話法を使った文章を読解する。
12	時制の復習	さまざまな時制を網羅的に使った文章を読解する。
13	法の復習	直説法と接続法を対比的に使った文章を読解する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
高松朋子ほか『行ってきます！』朝日出版社、2007 年、ISBN9784255550220、本体価格2,100円。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：50％、学期末試験：50％。

【学生の意見等からの気づき】
学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
- 履修予定者は、秋学期の初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。
- この授業は春学期の「現代のスペイン語Ⅰ」（授業コード：R8303、担当教員：久木正雄）からの連続性を持つため、ⅠとⅡの両方を履修することが望ましい。
- 辞書の活用を怠らないこと。

【Outline (in English)】
《Course outline》
This course will focus on various current topics in Spanish-speaking countries, by enjoying rather long Spanish texts through the use of your grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.
《Learning Objectives》
Students will improve the reading ability in Spanish.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
《Grading Criteria /Policy》
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (50%), and term-end examination (50%).

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

スペイン語の世界ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐々木　直美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**2/Fri.2
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語圏で製作された映画を通じて、スペイン語圏の文化や社会、歴史について学びます。映画の中にでてくるスペイン語の台詞解説によって、スペイン語学習者にとっては、スペイン語による表現のさらなる理解につながります。また、スペイン語を学んでいない方にとっては、スペイン語の発音や文法に触れる絶好の機会となり、いずれにしても本授業は異文化理解の糸口となります。

【到達目標】
*日本で公開されたスペイン語圏の代表的な映画について、それぞれの内容と社会・文化・歴史的背景を踏まえて理解できるようになる。
*映画の内容について、自国とスペイン語圏の比較も交えた意見交換や議論ができるようになる。
*スペイン語圏の映画について、その魅力を他者に伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキスト『映画に学ぶスペイン語』をテキストを使用し、取りあげる映画についての講義授業の回と学生が演習・発表する授業の回を交互に行います。
各回で取りあげる映画はすべて、大学の視聴覚ライブラリーに所蔵しているため、受講生全員はあらかじめ各自で視聴する必要があります。映画を観たら、コメントシートに記入し、授業開始までに学習支援システムに提出します。
演習・発表の回では、フォーカスするシーンだけを見直し、提出されたコメントシートへのフィードバックを行いながら、受講生による発表やグループ（ペア）ワークを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説とオリエンテーション
2	ビクトル・エリセ監督作品（講義）	『ミツバチのささやき』『エル・スール』の中のスペイン語
3	ビクトル・エリセ監督作品（演習）	『ミツバチのささやき』とビクトル・エリセ監督について学生による発表
4	フェルナンド・トルエバ監督（講義）	『ベルエポック』のスペイン語
5	フェルナンド・トルエバ監督（演習）	『ベルエポック』とフェルナンド・トルエバ監督について学生による発表
6	カルロス・サウラ監督１（講義）	『カラスの飼育』『ゴヤ』のスペイン語
7	カルロス・サウラ監督２（演習）	『ゴヤ』とカルロス・サウラ監督について学生による発表
8	ペドロ・アルモドバル監督１（講義）	『マタドール』『神経衰弱ぎりぎりの女たち』のスペイン語
9	ペドロ・アルモドバル監督２（演習）	『神経衰弱ぎりぎりの女たち』とペドロ・アルモドバル監督について学生による発表
10	ギジェルモ・デル・トロ監督（講義）	『パンズ・ラビリンス』のスペイン語
11	ギジェルモ・デル・トロ監督（演習）	『パンズ・ラビリンス』とギジェルモ・デル・トロ監督について学生の発表
12	トマス・グティエレス監督（講義）	『低開発の記憶』『苺とチョコレート』のスペイン語
13	トマス・グティエレス監督（演習）	『苺とチョコレート』とトマス・グティエレス監督についての学生の発表
14	今学期の総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。授業参加前に必ず課題となっている映画を鑑賞し、コメントシートをあらかじめ提出することが毎回必要です。

【テキスト（教科書）】
柳原孝敦『映画に学ぶスペイン語』教育評論社、2021年、2,200円（税込）.

【参考書】
授業内で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
コメントシート・課題による平常点（60％）と発表は積極的な発言による授業貢献度（40％）をめやすに、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Learn about the culture, society, and history of Spanish-speaking countries through movies produced in them.
It also explains the Spanish lines that appear in the movies, which will help those who are learning Spanish to better understand Spanish expressions, and for those who have not learned Spanish, it will be a great opportunity to learn it.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Final grade will be calculated according to the following process reports (60%), and in-class contribution (40%).

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

スペイン語の世界ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐々木　直美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**2/Fri.2
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語圏で製作された映画を通じて、スペイン語圏の文化や社会、歴史について学びます。映画の中にでてくるスペイン語の台詞解説によって、スペイン語学習者にとっては、スペイン語による表現のさらなる理解につながります。また、スペイン語を学んでいない方にとっては、スペイン語の発音や文法に触れる絶好の機会となり、いずれにしても本授業は異文化理解の糸口となります。

【到達目標】
*日本で公開されたスペイン語圏の代表的な映画について、それぞれの内容と社会・文化・歴史的背景を踏まえて理解できるようになる。
*映画の内容について、自国とスペイン語圏の比較も交えた意見交換や議論ができるようになる。
*スペイン語圏の映画について、その魅力を他者に伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキスト『映画に学ぶスペイン語』をテキストを使用し、取りあげる映画についての講義授業の回と学生が演習・発表する授業の回を交互に行います。
各回で取りあげる映画はすべて、大学の視聴覚ライブラリーに所蔵しているため、受講生全員はあらかじめ各自で視聴する必要があります。映画を観たら、コメントシートに記入し、授業開始までに学習支援システムに提出します。
演習・発表の回では、フォーカスするシーンだけを見直し、提出されたコメントシートへのフィードバックを行いながら、受講生による発表やグループ（ペア）ワークを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説とオリエンテーション
2	スペイン内戦１（講義）	『蝶の舌』の中のスペイン語
3	スペイン内戦２（演習）	『ペーパーバード』の中のスペイン語
4	スペイン内戦３（演習）	『キャロルの初恋』のスペイン語と学生の発表
5	チェ・ゲバラ１（講義）	『モーターサイクル・ダイアリーズ』の中のスペイン語
6	チェ・ゲバラ２（講義）	『チェ　28歳の革命』のスペイン語
7	チェ・ゲバラ３（演習）	『チェ　39歳別れの手紙』の中のスペイン語と学生による発表
8	ペドロ・アルモドバル監督１（講義）	『オール・アバウト・マイ・マザー』『トーク・トゥー・ハー』のスペイン語
9	ペドロ・アルモドバル監督２（演習）	ペドロ・アルモドバル監督作品について学生による発表
10	ペネロペ・クルス（講義）	『ボルベール』のスペイン語
11	ペネロペ・クルス（演習）	ペネロペ・クルスについて学生の発表
12	アレハンドロ・アメナーバル監督（講義）	『オープン・ユア・アイズ』『海を飛ぶ夢』のスペイン語
13	アレハンドロ・アメナーバル監督（演習）	アレハンドロ・アメナーバル監督についての学生の発表
14	今学期の総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。授業参加前に必ず課題となっている映画を鑑賞し、コメントシートをあらかじめ提出することが毎回必要です。

【テキスト（教科書）】
柳原孝敦『映画に学ぶスペイン語』教育評論社、2021年、2,200円（税込）.

【参考書】
授業内で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
コメントシート・課題による平常点（60％）と発表は積極的な発言による授業貢献度（40％）をめやすに、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Learn about the culture, society, and history of Spanish-speaking countries through movies produced in them.
It also explains the Spanish lines that appear in the movies, which will help those who are learning Spanish to better understand Spanish expressions, and for those who have not learned Spanish, it will be a great opportunity to learn it.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Final grade will be calculated according to the following process reports (60%), and in-class contribution (40%).

LANk200LA（朝鮮語 / Korean language education 200）

朝鮮語４ＢＩ（視聴覚）　2017年度以降入学者

新谷　あゆり

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**1単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】
1韓国の小説・ドラマ・歌・アナウンスなどの聞き取りを通し、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
2スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
3発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
1小説・ドラマの一場面を聞き、日本語訳する。
2スクリプトを読み、日本語訳する。
3語彙、文型を学び、発音練習をする。
4翻訳・暗唱等の課題をする。
5単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会話 サランバンのお客さんとオモニ　①② シークレットガーデン１	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	サランバンのお客さんとオモニ　③④ シークレットガーデン１	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	サランバンのお客さんとオモニ　⑤⑥ 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	サランバンのお客さんとオモニ　⑦⑧ シークレットガーデン２	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	サランバンのお客さんとオモニ　⑨⑩ アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	サランバンのお客さんとオモニ　⑪⑫ シークレットガーデン３	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	サランバンのお客さんとオモニ　⑬⑭ シークレットガーデン４	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	サランバンのお客さんとオモニ　⑮⑯	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	中間試験 シークレットガーデン５	単語 暗誦 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	サランバンのお客さんとオモニ　⑰⑱ 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	サランバンのお客さんとオモニ　⑲⑳ シークレットガーデン６	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	サランバンのお客さんとオモニ　最終回 シークレットガーデン７	スクリプト聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、聞き取り・翻訳・暗記等の課題を行うこと。
本授業の準備・復習時間は各2時間を要する。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
川口義一監修『耳から入る韓国語１』学研
シークレットガーデン　ＤＶＤ

【成績評価の方法と基準】
平常点（参加度、積極性、課題）40％、テスト60％
単語テストが50点以下の場合は単位が出ない。
4回以上の欠席で単位は出ない。

【学生の意見等からの気づき】
韓国人留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため、留学生の協力が得られればネイティブとの会話の時間を設けます。

【その他の重要事項】
課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
2年生～4年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語3より受講生のレベルが高くなる傾向があります。聞き取りとスクリプト翻訳がメインになるため朝鮮語の一定のレベルが要求されます。
定員制のため履修希望者が多い場合は抽選をします。
この科目は「法（法律学科・政治学科）文営」でパターンＢ（朝鮮語週２コマ）を選択した学生の「選択必修」科目なので，定員を超えた場合は，該当する学生に優先的に履修してもらい，定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定します。
初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】
[Course outline and learning objectives]
This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.
[Learning activities outside of classroom]
Students are expected to study 2hours at home for assignments and quizzes.
[Grading criteria /policy]
Participation20%, Assignments20%, Exam60%
※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

LANk200LA（朝鮮語 / Korean language education 200）

朝鮮語４ＢⅡ（視聴覚）　2017年度以降入学者

新谷　あゆり

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**1単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】
1韓国のドラマ・歌・アナウンス・スピーチなどの聞き取りを通し、音から理解することに慣れる。
2スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
3発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
1ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。
2スクリプトを読み、日本語訳する。
3文型・表現を学び、発音練習をする。
4翻訳・暗唱等の課題をする。
5単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会話　自己紹介	聞き取り
	華麗なる遺産１	スクリプト読解
		文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産２	聞き取り
	歌	スクリプト読解
		文型・表現・発音練習
3	アナウンスなど	聞き取り
		スクリプト読解
		文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産３	聞き取り
		スクリプト読解
		文型・表現・発音練習
5	スピーチなど	聞き取り
		スクリプト読解
		文型・表現・発音練習
6	華麗なる遺産４	聞き取り
		スクリプト読解
		文型・表現・発音練習
7	アナウンスなど	小テスト
		聞き取り
		スクリプト読解
		文型・表現・発音練習
8	華麗なる遺産５	聞き取り
		スクリプト読解
		文型・表現・発音練習
9	中間試験	単語
		暗唱小テスト
10	華麗なる遺産６	聞き取り
		スクリプト読解
		文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	華麗なる遺産７	聞き取り
		スクリプト読解
		文型・表現・発音練習
13	華麗なる遺産８	聞き取り
		スクリプト読解
		文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スクリプト翻訳・単語暗記・音読・暗唱等の課題を行うこと。
本授業の準備・復習時間は合計4時間を要する。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点（参加度、積極性、課題）40％、テスト60％
単語テストが50点以下の場合は、単位が出ない。
４回欠席の場合、単位が出ない。

【学生の意見等からの気づき】
留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も会話の時間を設ける予定です。

【その他の重要事項】
課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
2年生～4年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語3より受講生のレベルが高くなる傾向があります。聞き取りとスクリプト翻訳がメインになるため朝鮮語の一定のレベルが要求されます。
定員制のため履修希望者が多い場合は抽選をします。
この科目は「法（法律学科・政治学科）文営」でパターンＢ（朝鮮語週２コマ）を選択した学生の「選択必修」科目なので，定員を超えた場合は，該当する学生に優先的に履修してもらい，定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定します。
初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】
[Course outline and learning objectives]
This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.
[Learning activities outside of classroom]
Students are expected to study 2 hours at home for assignments and quizzes.
[Grading criteria /policy]
Participation,Assignments40%, Exam60%
※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

法政大学
HOSEI University